

淨土大經科註參考資料

上冊

淨土時年八十七





# 參考資料總目錄

凡例	六
《科註》頁面索引	一三
筆畫索引通檢	一
筆畫索引	一三
正文	
◎ 前言	一
◎ 概要	五四
(一) 教起因緣	五八
(二) 本經體性	九一
(三) 一經宗趣	一〇七
(四) 方便力用	一五二
(五) 所被根機	一六二
(六) 藏教所攝	一九三

---

(七) 部類差別	二四五
(八) 譯會校釋	二五六
(九) 總釋名題	二七八
(十) 正釋經文	二九六
◎法會聖眾第一	三〇〇
◎德遵普賢第二	三六七
◎大教緣起第三	四九二
◎法藏因地第四	五一〇
◎至心精進第五	五四六
◎發大誓願第六	五六七
◎必成正覺第七	六九〇
◎積功累德第八	七〇七
◎圓滿成就第九	七五二
◎皆願作佛第十	七七七
◎國界嚴淨第十一	七七九

---

◎ 光明遍照第十二	.....	八一七
◎ 壽眾無量第十三	.....	八二三
◎ 寶樹遍國第十四	.....	八二四
◎ 菩提道場第十五	.....	八二五
◎ 堂舍樓觀第十六	.....	八三三
◎ 泉池功德第十七	.....	八三八
◎ 超世希有第十八	.....	八五〇
◎ 受用具足第十九	.....	八五〇
◎ 德風華雨第二十	.....	八五二
◎ 寶蓮佛光第二十一	.....	八六二
◎ 決證極果第二十二	.....	八六三
◎ 十方佛讚第二十三	.....	八六五
◎ 三輩往生第二十四	.....	八七二
◎ 往生正因第二十五	.....	九四六
◎ 禮供聽法第二十六	.....	九五四

---

◎歌嘆佛德第二十七	.....	九六四
◎大士神光第二十八	.....	九六八
◎願力宏深第二十九	.....	九七一
◎菩薩修持第三十	.....	九七一
◎眞實功德第三十一	.....	九九六
◎壽樂無極第三十二	.....	一〇一三
◎勸諭策進第三十三	.....	一〇二一
◎心得開明第三十四	.....	一〇二九
◎濁世惡苦第三十五	.....	一〇三八
◎重重誨勉第三十六	.....	一〇五五
◎如貧得寶第三十七	.....	一〇五八
◎禮佛現光第三十八	.....	一〇六二
◎慈氏述見第三十九	.....	一〇六九
◎邊地疑城第四十	.....	一〇七一
◎惑盡見佛第四十一	.....	一〇七七

---

◎菩薩往生第四十二	.....	一〇八一
◎非是小乘第四十三	.....	一〇八九
◎受菩提記第四十四	.....	一〇九三
◎獨留此經第四十五	.....	一〇九五
◎勤修堅持第四十六	.....	一一〇七
◎福慧始聞第四十七	.....	一一〇八
◎聞經獲益第四十八	.....	一一一〇
◎詞條拾遺	.....	一一一三
夏蓮居老居士簡介	.....	一
黃念祖老居士簡介	.....	二
附錄一（念公大經解常引經論目錄之索引）	.....	三
附錄二（本書所引典籍目錄）	.....	一二
附錄三（收註詞目順序列表）	.....	二一
附錄四（圖表目錄）	.....	五三
依原典校正記錄——再校參看	.....	五五
化法四教階位對比圖	.....	五五

## 凡例

用語略辨：

詞條：辭書學用語。指收列的詞語（詞目）及其釋文。

詞目：詞語的名目。

### 一、收註詞目

(一) 本書主要是就《佛說大乘無量壽莊嚴清淨平等覺經科註》（以下簡稱《科註》）中的佛學名詞術語，援引多種辭書典籍，作逐條註釋之彙編。旨在方便廣大初心學者參考查閱，作為其進一步深入學習的輔助工具。

(二) 本書主要以每詞在《科註》中出現的先後為序。對於《科註》中多次出現的名詞，如「一乘」、「三根」等，原則上是以其首次出現的位置收錄。部分多次出現的名詞，考慮到其在《科註》中與上下文的聯繫，則有選擇性的在恰當位置予以收錄。如「實相」一詞，雖首次出現於《科註》第一四五頁倒數第三行，但後《科註》「概要」之第三「本經體性」部分，多言「實相」之理，故選擇於《科註》第一六三頁第七行註釋該詞。

(三) 每個收註詞目前，會標有該詞在本書中的序號，下方則標有該詞在《科註》中的收註位置，以便於讀者結合《科註》進行查閱。

## 二、釋文內容

(一) 辭書援引：本書援引多種現廣泛通行的古今佛教辭書、漢語言辭典及相關著述資料。在釋文之前，會冠以所引資料的名稱。有時《科註》所述名詞與辭書相關詞條，在詞目上略有差別而義理相同，就以「\*」條之形式表示。如《科註》中「常樂我淨」一詞，對應《三藏法數》之詞目，為「佛四德」，故本書在註釋「常樂我淨」時，以「《三藏法數》「佛四德」條」之形式加以援引。為方便讀者檢索，此種差別詞目亦會出現在「筆畫索引」中，格式為：「佛四德」(983) 五一〇。983 為所在詞條之序號，五一〇為所在之頁碼。

(二) 釋文選擇：主要針對該詞在《科註》此處之含義進行選擇。該詞在辭書中其他方面的含義（如多義詞之其他解釋）及與《科註》此處文意關聯較小而篇幅較長的部分，在不影響此釋文整體義理的情況下，則予以適當刪節。此種情況，會於所引辭書名稱下方加標「(節錄)」二字，文中的刪節部分，以「(中略)」作為標示，而於

文末刪減者就不再標示。（凡本書援引時加入的「中略」，皆以比正文較小的楷體字表示；而辭書原文中本有的「中略」，則與正文的字體、大小相同。）

- (三) 釋文格式：對所引用的辭書原文，原則上保持其編排體例，但由於各類辭書形式不一，為方便閱讀，故在編輯過程中，謹將阿拉伯數字改為漢文數字，並且有時對引用內容予以適當分段。為尊重所引原文，在用字方面（如異體字、生僻字等），本書未勉強加以統一。例如：「毗」與「毘」，「台」與「臺」，皆為同義，在錄入過程中，一遵原書所用之字，故會出現此處用「毗」，彼處用「毘」；此處用「台」，彼處用「臺」等情況。此外，為尊重原著起見，若遇釋文用字懷疑有誤時，未敢擅自更改，特加以括弧說明。如，（某字疑作某字）。但釋文中引述經論的內容，若對照原典，確定其為錯字時，則直接依據經論之正確用字加以更正，文中不另作說明。詳見書後之「依原典校正記錄」。
- (四) 多部引用：因不同辭書對同一名詞的註釋，在內容上多有互補之處，為使義理更趨周詳，故部分詞條下，會引用兩種或多種辭書的註釋。
- (五) 指引詞條：對於釋文相同而詞目不同之名詞，則標以「見」。如《破空論》一

詞，則註以：見「《金剛破空論》」1485。即「《破空論》」的註釋，當見於序號為1485的「《金剛破空論》」。

(六) 參互詞條：對於內容上有緊密聯繫，互相參閱可助於理解詞義的詞條，釋文之末則以「參見」標示。如「蓮華藏世界」一詞，文末則標以（參見「華藏世界」461）。

（461為「華藏世界」之序號，即序號為461之名詞，即是「華藏世界」）。另，若《科註》中某段內文，可為此詞條提供參考，亦於釋文之末以「參見」標示。如「四土」一詞，文末則加標（參見《科註》第一八三頁至一八九頁）。

(七) 附屬詞條：為輔助讀者理解名詞含義，有時會在註釋名詞之後，附加與該詞內容緊密聯繫的詞條。如792「福田」之後，附加有「二福田」、「四福田」、「八福田」之內容。凡此附加之詞條均冠以「○」，若附加詞條與前釋文內容出於同一辭書，則不再於附加詞條處重列辭書名稱。為方便讀者檢索，此種附屬詞目亦會出現在「筆畫索引」中，格式為：○二福田（792附）四一三。（792為所附屬詞條之序號，四一三為該詞目所在之頁碼。）

(八) 難字注音：對於詞目及釋文中的生僻字，進行有選擇性的注音。為照顧不同地區讀

者的閱讀習慣，在注音形式上，則以漢語拼音、注音符號及同音字（部分無適當同音字的未加）共同進行標註，以期能減少讀者閱讀上的障礙。

(九) 釋文小註：因釋文中尚有一些佛學名詞及難字，不易理解，故在編輯過程中，適當在這部分字詞之後增加了小註，以較小之楷體字錄入，以區分原釋文。小註內容皆節錄自辭書。同時有注音釋義時，原則上注音在前，釋義在後，例如五五四頁：隅（音余，角也）。但對二字以上詞語釋義，且詞中僅一字需注音時，則釋義在前，該字注音在後，例如五三八頁：翕然（一致貌。翕，音希）。

### 三、目錄索引

(一) 本書對於在《科註》中多次出現的名詞，僅在一處收錄，若欲在《科註》中其他位置查閱該詞，則較為困難。為此，我們對應《科註》，逐頁列出《科註》每一頁面上，所可能需要查閱的詞目，編成「《科註》頁面索引」。又，參照《佛學大辭典》（丁福保編）之通檢目次，編排了「筆畫索引」和「筆畫索引通檢」。

(二) 筆畫索引：「筆畫索引」是將本書收錄的全部詞目（包括收註詞目、差別詞目、附屬詞目），按首字筆畫多少一一羅列。格式為：每一詞目末，標有該詞的

序號（或所附屬之詞條序號），及該詞目在本書中的頁碼。如「筆畫索引」第五〇頁：自然智（1817）九四四，可知該詞為本書第1817條，在第九四四頁；「色界十八天」（1567）八一〇，可知「色界十八天」在第八一〇頁，為第1567條之差別詞目；○自性三寶（1424附）七二七，可知○自性三寶在第七二七頁，為第1424條之附屬詞目。

(三) 筆畫索引通檢：「筆畫索引通檢」是將「筆畫索引」中詞目的首字，按筆畫多少分類，并標明此首字在「筆畫索引」中的對應頁碼。其作用相當於「筆畫索引」的目錄，專為「筆畫索引」而設。

#### (四) 檢索方式：

一、閱讀到《科註》某頁，頁面上出現需要查閱的某詞時，翻開「《科註》頁面索引」找到該頁部分，一般即可看到此詞。例如在《科註》第一八九頁，看到「涅槃三德」一詞，欲查閱解釋，翻開本書「《科註》頁面索引」第二一頁，便可看到此「涅槃三德」為第268條，在本書第一四〇頁。

二、依「筆畫索引通檢」，查出詞語首字在「筆畫索引」中的頁碼，依「筆畫索

引」即可找到該詞在本書中第幾頁。例如欲查閱「大千世界」一詞，首字「大」，筆畫為三畫，依「筆畫索引通檢」查出「大」字在「筆畫索引」的第 二五頁，翻至「筆畫索引」二五頁，可看到「大千世界」為第 158 條，在本書第六一八頁。

《科註》頁面索引

(前言)

《科註》第一三八頁：

- 一乘 (1) 1
- 了義 (2) 1
- 三根 (3) 1
- 橫出 (4) 3
- 四土 (5) 4
- 究竟 (6) 5
- 一超直入 (7) 5
- 圓頓 (8) 5
- 彌陀 (9) 6

六字洪名 (10) 6

《科註》第一三九頁：

- 彭紹升 (11) 6
- 如來 (12) 8
- 稱性 (13) 9
- 圓教 (14) 9
- 化儀 (15) 10
- 釋道隱 (16) 11
- 梅光義 (17) 11
- 一大藏教 (18) 11
- 彌陀要解 (19) 11
- 釋迦 (20) 11
- 本師 (21) 11
- 五濁 (22) 11

阿耨多羅三藐三菩提 (23) 15

濁惡 (24) 15

九界 (25) 16

法界 (11) (821) 四三二

本覺 (26) 16

理性 (27) 17

《科註》第一四〇頁：

秘藏 (28) 17

觀經 (29) 17

是心是佛 (30) 18

方便 (285) 一五二

究竟 (6) 5

介爾 (31) 19

《科註》第一四一頁：

三輩 (32) 一九	《阿彌陀經》 (44) 二四	舛誤 (57) 二二二
歸元 (33) 一〇	王日休 (45) 二五	《無量壽如來會》 (58) 二二二
發菩提心 (212) 一〇	魏承貫 (46) 二五	《大寶積經》 (59) 二二二
闡揚 (34) 一〇	《龍舒淨土文》 (47) 二六	菩提流志 (60) 二二四
宗說俱通 (35) 一〇	《大阿彌陀經》 (48) 二七	《科註》第一四四頁：
顯密 (36) 一一	叢林 (49) 二七	王耕心 (61) 二二五
饒益 (37) 一一	龍藏 (50) 二七	宗教 (62) 二二五
結界 (38) 一一	大正藏 (51) 二八	律宗 (63) 二二六
冥心孤詣 (39) 一一	蓮池大師 (52) 二九	尊宿 (64) 二二六
慧明 (40) 一一	《科註》第一四三頁：	《科註》第一四五頁：
慈舟 (41) 一一	《彌陀疏鈔》 (53) 三一	具縛 (65) 二二六
科判 (42) 一一	幽溪大師 (54) 三一	玄義 (66) 二二六
冗蔓 (43) 一一	《彌陀圓中鈔》 (55) 三一	契理 (67) 二二七
《科註》第一四二頁：	印光大師 (56) 三一	契機 (68) 二二七

實際 (69) 二七  
理體 (70) 三八  
真如 (71) 三八  
華嚴經 (72) 三九  
事理無礙 (73) 四二  
事事無礙 (74) 四二  
一真法界 (75) 四二  
**《科註》第一四六頁：**  
本際 (76) 四二  
五逆 (77) 四二  
十惡 (78) 四四  
十善因果 (2159) 一一三〇  
十惡因果 (2160) 一一三三  
十惡十善之增上果

(2161) 一一三九  
四土 (5) 四  
觀音 (79) 四五  
勢至 (80) 四六  
文殊 (81) 四七  
普賢 (82) 四八  
法身大士 (83) 五〇  
**《科註》第一四七頁：**  
太虛 (84) 五〇  
真俗二諦 (85) 五〇  
宴坐 (86) 五一  
**《科註》第一四八頁：**  
法要 (87) 五二  
本尊 (88) 五二

金剛 (89) 五三  
聖心 (90) 五四  
概要 (十門開啟)  
**《科註》第一四九頁：**  
華嚴宗 (91) 五四  
天臺宗 (92) 五五  
五重玄義 (93) 五六  
綱舉目張 (94) 五八  
(一) 教起因緣  
大教 (95) 五八  
**《科註》第一五〇頁：**  
一大事因緣 (96) 五八

世尊 (97) 五八

《法華經》 (98) 五九

示悟 (99) 六〇

《華嚴經性起品》 (100) 六〇

應供 (101) 六一

等正覺 (102) 六一

十號 (545) 一七九

性起 (103) 六一

阿僧祇 (104) 六一

佛知見 (105) 六一

《科註》第一五一頁：

開示悟入 (106) 六三

《稱讚淨土佛攝受經》

(107) 六四

三乘 (108) 六五

菩提 (109) 六六

《科註》第一五二頁：

絕待 (110) 六六

心要 (111) 六六

萬行 (112) 六七

蕩益大師 (113) 六七

《科註》第一五三頁：

十大願王 (114) 六八

《無量壽經甄解》 (115) 六八

聖道 (417) 一一三三

一大藏教 (18) 一一一

楞嚴 (116) 六八

《科註》第一五四頁：

聖教 (117) 六九

旃檀 (118) 六九

易行道 (119) 六九

《大勢至圓通章》 (120) 七〇

根器 (121) 七〇

悟入無生 (122) 七一

含靈 (123) 七一

《科註》第一五五頁：

八萬四千法門 (124) 七一

舍利弗 (125) 七一

目犍連 (126) 七二

聲聞 (127) 七四

小始諸教 (128) 七四

阿伽陀藥 (129) 七四

《科註》第一五六頁：

儕 (130) 七四

火聚 (131) 七五

清涼池 (132) 七五

無念 (133) 七五

《科註》第一五七頁：

元曉師 (134) 七六

凡夫 (135) 七六

末世 (136) 七七

陰魔 (137) 七七

泥犁 (138) 七七

禪觀 (139) 七七

五十種陰魔 (140) 七八

難行道 (141) 七九

《科註》第一五八頁：

十往生經 (142) 七九

二十五菩薩 (143) 八〇

他力 (144) 八一

果教 (145) 八一

《淨修捷要》 (146) 八一

大勢至 (147) 八二

《科註》第一五九頁：

八地 (148) 八二

心意識 (149) 八二

無生法忍 (150) 八二

立相住心 (151) 八三

善導大師 (152) 八三

《四帖疏》 (153) 八五

《科註》第一六〇頁：

指方立相 (154) 八五

無住生心 (155) 八六

無緣之慈 (156) 八六

《金剛般若經》 (157) 八六

別教 (158) 八八

地上 (159) 八八

《科註》第一六一頁：

地前 (160) 八八

三祇 (161) 八九

四種念佛 (162) 八九

《黑谷大經釋》 (163) 九〇

《科註》第一六二頁：

妙高 (164) 九〇

---

法滅盡經 (165) 九一	法身 (175) 九五	離四句，絕百非 (186) 1011
慈航 (166) 九一	大乘 (176) 九七	歷歷 (187) 1011
<b>《科註》第一六三頁：</b>	釧 (177) 九八	<b>《科註》第一六七頁：</b>
沈疴 (167) 九一	<b>《科註》第一六五頁：</b>	一法句 (188) 1011
甘露 (168) 九一	南嶽懷讓 (178) 九八	無為法身 (189) 1014
(11) 本經體性	《圓覺經》 (179) 九九	即事而真 (190) 1014
大乘經典 (169) 九一	覺心 (180) 九九	當相即道 (191) 1014
實相 (170) 九一	<b>《科註》第一六六頁：</b>	依正 (192) 1014
<b>《科註》第一六四頁：</b>	心性 (181) 九九	世親 (193) 1015
頑空 (171) 九三	百界千如 (182) 1000	《往生論》 (194) 1015
斷滅 (172) 九三	十如是 (2162) 1141	蘧庵 (195) 1015
龜毛兔角 (173) 九四	二祖 (183) 101	瓊林 (196) 1015
法身如來 (174) 九四	覓心不可得 (184) 101	心源 (197) 1015
	六祖 (185) 101	<b>《科註》第一六八頁：</b>

---

三際 (198) 一〇六  
十方 (199) 一〇六  
實相正印 (200) 一〇六  
圓圖 (201) 一〇七

(三) 一經宗趣

《科註》第一七〇頁：  
《香象心經疏》(202) 一〇七  
圭峰大師(宗密)(203) 一〇七  
《圓覺略疏》(204) 一〇八  
四土(5) 四  
《嘉祥疏》(205) 一〇八  
宗致 (206) 一〇八  
《宗要》(207) 一〇九

宗體 (208) 一〇九  
曇鸞 (209) 一〇九  
念佛三昧 (210) 一一〇  
《合贊》(211) 一一〇

《科註》第一七一頁：

發菩提心 (212) 一一〇

《科註》第一七三頁：

《往生論註》(213) 一一一  
《安樂集》(214) 一一一  
天親 (215) 一一一  
《科註》第一七五頁：  
四弘願 (216) 一一三  
二種菩提心 (1180) 六二八  
華報 (217) 一一四

《科註》第一七六頁：

無願三昧 (218) 一一五  
空無相 (219) 一一五  
靈芝 (220) 一一五  
徹悟 (221) 一一五

《科註》第一七七頁：

至誠心 (222) 一一六  
深心 (223) 一一六  
迴向發願心 (224) 一一七  
《科註》第一七八頁：  
三福 (225) 一一七  
菩提心義 (226) 一一七  
菩提心論 (227) 一一八  
修證 (228) 一一八

導師 (229) 一一八	三身 (240) 一一五	天目 (252) 一三〇
密嚴土 (230) 一一八	果德 (241) 一一六	雁蕩 (253) 一三五
佛事 (231) 一一九	《科註》第一八三頁：	穢土 (254) 一三五
《科註》第一八〇頁：	二乘 (242) 一一六	有漏業 (255) 一三五
盡形壽 (232) 一一九	《科註》第一八四頁：	《科註》第一八五頁：
未暇 (233) 一一九	大權 (243) 一一七	步趨 (256) 一三五
十念法 (234) 一一九	六道 (244) 一一七	見思二惑 (257) 一三五
《科註》第一八一頁：	無明 (245) 一一八	漏盡通 (258) 一三七
始覺 (235) 一一〇	妙覺 (246) 一一九	《科註》第一八六頁：
《科註》第一八一頁：	冥加 (247) 一一〇	豎出 (259) 一三七
興教大師 (236) 一一一	淨土 (248) 一一〇	橫出 (4) 一
阿 (237) 一一一	娑婆世界 (249) 一一〇	《科註》第一八七頁：
陀羅尼 (238) 一一一	五臺 (250) 一一一	一心 (260) 一三七
毘盧舍那 (239) 一一一	阿羅漢 (251) 一一一	《科註》第一八八頁：

分證 (261) 一三八  
初地 (262) 一三八  
初住 (263) 一三八  
寶王 (264) 一三九  
等覺菩薩 (265) 一三九  
四十一位 (266) 一四〇  
塵勞 (267) 一四〇  
涅槃二德 (268) 一四〇  
生相無明 (269) 一四一  
**《科註》第一八九頁：**  
涅槃二德 (268) 一四〇  
惑業苦 (671) 三三五  
行業 (1399) 七十七  
三業 (1947) 一〇一四

四土 (5) 四  
不退轉 (1307) 六八六  
**《科註》第一九〇頁：**  
佛性 (270) 一四四  
覺海 (271) 一四四  
阿惟越致 (272) 一四四  
伏斷 (273) 一四四  
塵沙 (274) 一四五  
小乘 (275) 一四五  
果海 (276) 一四六  
三種不退 (277) 一四七  
藏教 (278) 一四八  
初果 (279) 一四八  
通教 (280) 一四九

見地 (281) 一五〇  
**《科註》第一九一頁：**  
別教十向 (282) 一五〇  
一佛乘 (283) 一五一  
因位 (284) 一五二  
**(四) 方便力用**  
**《科註》第一九三頁：**  
方便 (285) 一五二  
《大毘盧遮那經》(286) 一五二  
大悲 (一) (287) 一五二  
**《科註》第一九四頁：**  
《觀佛三昧經》(288) 一五三  
十一部經 (289) 一五三

- 
- 總相別相 (290) 一五五  
四重 (291) 一五五  
第一義空 (292) 一五六
- 《科註》第一九六頁：  
徑路 (293) 一五七
- 《科註》第一九七頁：  
能所 (294) 一五七  
心緣 (295) 一五七  
天真之佛 (296) 一五七  
圓覺 (297) 一五七  
輪迴 (298) 一五六  
太末蟲 (299) 一五八
- 《科註》第一九八頁：  
《彌陀疏鈔》(53) 三十一
- 
- 四明 (300) 一五八  
《大經》(301) 一五九  
世諦 (302) 一五九  
第一義諦 (303) 一六〇  
慧日 (一) (304) 一六〇  
罪瑕 (305) 一六〇  
塵劫 (306) 一六〇
- 《科註》第一一〇〇頁：  
任運 (307) 一六一  
《大經合贊》(308) 一六一
- (五) 所被根機
- 《科註》第一一〇一頁：  
根機 (309) 一六一
- 
- 當機 (310) 一六一
- 《科註》第一一〇二頁：  
五時說法 (311) 一六一  
四地至七地 (312) 一六四  
初地至四地 (313) 一六五  
九品 (314) 一六五  
六種性 (1324) 六九一
- 《科註》第一一〇三頁：  
小乘三果 (315) 一六五  
中品上生是小乘二果  
(2157) 一六一八  
十六觀 (316) 一六五  
定善 (317) 一七三  
霑 (318) 一七四
-

《科註》第110四頁：

《合贊》(211) 一10  
禮懺(319) 一七四  
止觀(320) 一七四  
戲論(321) 一七五  
馬鳴(322) 一七五  
龍樹(323) 一七六  
智者(324) 一七七  
永明(325) 一七九  
驀直(326) 一八0  
計度分別(327) 一八0

《科註》第110五頁：

《起信因緣分疏》  
(328) 一八0

東天竺(329) 一八一

《大乘起信論》(330) 一八一

南天竺(331) 一八一

鐵塔(332) 一八一

金剛薩埵(333) 一八一

密教(334) 一八四

《楞伽經》(335) 一八四

歡喜地(336) 一八四

南山(一)(337) 一八五

法相(338) 一八六

三論(339) 一八七

法華三昧(340) 一八八

天臺山(341) 一八九

天臺韶國師(342) 一八九

法眼宗(343) 一九0

《科註》第110六頁：

《宗鏡錄》(344) 一九0

《心賦注》(345) 一九一

《萬善同歸集》(346) 一九一

法炬(347) 一九一

《科註》第110七頁：

初心(348) 一九一

《如來不思議境界經》

(349) 一九一

心量(350) 一九二

妙喜世界(351) 一九二

《科註》第110九頁：

《毘盧遮那經》(352) 一九二

《科註》第110頁：

- 闍 (353) 一九二  
臻 (354) 一九二  
螢光 (355) 一九二  
結使 (881) 四六四  
《科註》第111頁：  
冶 (356) 一九二

(六) 藏教所攝

- 藏教所攝 (357) 一九三  
《科註》第111頁：  
三藏 (358) 一九三  
《大乘義章》 (359) 一九四  
經藏 (360) 一九五

修多羅 (361) 一九五

契經 (362) 一九五

律藏 (363) 一九五

毘奈耶 (364) 一九六

論藏 (365) 一九六

阿毘達磨 (366) 一九七

一藏 (367) 一九八

聲聞藏 (368) 一九八

菩薩藏 (369) 一九九

《智度論》 (370) 一九九

《淨影疏》 (371) 一九九

迦葉 (372) 一九九

阿難 (373) 二〇〇

結集 (374) 二〇一

鐵圍山 (375) 二〇二

摩訶衍 (376) 二〇二

《科註》第111頁：

《地持》 (377) 二〇二

天臺大師 (378) 二〇二

《涅槃經》 (379) 二〇三

華嚴時 (380) 二〇四

阿含時 (381) 二〇五

鹿野苑 (382) 二〇五

《四阿含經》 (383) 二〇七

《科註》第111四頁：

方等時 (384) 二〇七

《維摩》 (385) 二〇八

《大集》 (386) 二〇八

彈偏斥小，歎大褒圓

(387) 一一〇八

般若時 (388) 一一〇九

《大般若》 (389) 一一〇九

法華涅槃時 (390) 一一〇九

授記 (391) 一一〇九

判教 (392) 一一一〇

《科註》第二一五頁：

四教 (393) 一一一一

五教 (394) 一一一一

教相 (395) 一一一一

賢首宗 (396) 一一一一

人空 (397) 一一一三

法空 (398) 一一一四

闡提 (399) 一一一四

極則 (400) 一一一五

《科註》第二一六頁：

中道 (401) 一一一五

妙有 (402) 一一一六

真性 (403) 一一一六

《思益經》 (404) 一一一六

性海 (405) 一一一六

緣起 (406) 一一一六

帝網 (407) 一一一七

主伴無盡 (408) 一一一七

頓漸二教 (409) 一一一七

《五教章》 (410) 一一一八

《科註》第二一七頁：

慧遠 (411) 一一一八

大佑 (412) 一一一九

彭二林 (413) 一一二〇

《起信論》 (414) 一一二〇

《大經釋》 (415) 一一二〇

《黑谷大經釋》 (163) 九〇

真言 (一) (416) 一一二〇

《科註》第二一八頁：

聖道 (417) 一一二二

圓解 (418) 一一二三

圓行 (419) 一一二四

三惑 (420) 一一二四

圓果 (421) 一一二五

醍醐 (422) 一一二六

《科註》第二一九頁：

《禿鈔》(423) 一一一六

實教(424) 一一一七

佛心(425) 一一一七

《大無量壽經》(426) 一一一七

二超(427) 一一一七

六事成就(2148) 一一一四

六事明經意(2147) 一一一三

《科註》第二二〇頁：

普賢行願品(428) 一一一八

安養(429) 一一一八

華藏(430) 一一一八

剖心(431) 一一一八

瀝血(432) 一一一八

含識(433) 一一一八

純圓獨妙(434) 一一一九

別教一乘(435) 一一一九

《科註》第二二二頁：

四法界(436) 一一二一

狂禪(437) 一一二一

沈善登(438) 一一二一

大權(243) 一一一七

《科註》第二二三頁：

十玄門(439) 一一二二

《探玄記》(440) 一一二五

《華嚴妙嚴品》(441) 一一三五

《大疏》(一)(442) 一一三五

《科註》第二二三頁：

徑尺(443) 一一三六

《科註》第二二四頁：

《華嚴盧舍那佛品》

(444) 一一三六

《華嚴十住品》(445) 一一三六

《科註》第二二五頁：

《文選·郭璞賦》(446) 一一三六

汗汗(447) 一一三六

芥子(448) 一一三七

《科註》第二二六頁：

因陀羅網(449) 一一三七

《科註》第二二七頁：

三種忍(1610) 八二〇

無生法忍(150) 八一

延促 (450) 一一三八

隔歷 (451) 一一三八

《華嚴初發心功德品》

(452) 一一三八

《科註》第二二八頁：

北辰 (453) 一一三八

東密 (454) 一一三九

《科註》第二二九頁：

《華嚴玄談》 (455) 一一三九

事理無礙 (73) 四一一

事事無礙 (74) 四一一

唯心所現 (456) 一一三九

如來藏心緣起 (457) 二四〇

《華嚴金獅子章》

(458) 二四〇

唯心迴轉善成門 (459) 二四〇

十玄門 (439) 一一三一一

玄門無礙十因

(2149) 一一一五

緣起十義 (2150) 一一一七

《科註》第二三三〇頁：

三種莊嚴 (460) 二四一

《科註》第二三三一頁：

華藏世界 (461) 二四一

毘盧遮那 (462) 二四一一

(七) 部類差別

《科註》第二三三二頁：

姚秦 (463) 二四四五

三藏法師 (464) 二四四五

鳩摩羅什 (465) 二四五六

玄奘 (466) 二四五六

襄陽石經 (467) 二四九九

六朝 (2208) 一一七五

元照 (468) 二五〇

《靈芝疏》 (469) 二五〇

蘧庵 (195) 一〇五

大佑 (412) 一一一九

《科註》第二三三三頁：

幽溪大師 (54) 二一一

《科註》第二三三四頁：

「十六觀門」 (316) 一六五

《阿彌陀鼓音聲王陀羅尼經》

(470) 一一一

《後出阿彌陀佛偈經》

(471) 一一一

《般舟三昧經》(472)一一一

月支 (473) 一一一

支婁迦讖 (474) 一一一

《大方等大集賢護經》

(475) 一一一

《科註》第一三三五頁：

佛立三昧 (476) 一一一

常行三昧 (477) 一一一

五念門 (1833) 九五

《遊心安樂集》(478)一一一

道綽 (479) 一一一

《悲華經》(480) 一一一

《隨願往生經》(481)一一一

《文殊說般若經》

(482) 一一一

《目連所問經》(483)一一一

《文殊發願經》(484)一一一

《入楞伽經》(485) 一一一

《毘婆沙論》(486) 一一一

《大智度論》(487) 一一一

(八) 譯會校釋

《科註》第一三三六頁：

無量清淨平等覺經

(488) 一一一

[月氏] (473) 一一一

《科註》第一三七頁：

佛說阿彌陀三耶三佛薩樓佛

檀過度人道經 (489) 一一一

優婆塞 (490) 一一一

支婁迦讖 (474) 一一一

支謙 (491) 一一一

無量壽經 (492) 一一一

康僧鎧 (493) 一一一

白馬寺 (494) 一一一

永嘉四年 (495) 一一一

佛說大乘無量壽莊嚴經

(496) 一一一

法賢 (497) 一五九

《科註》第133八頁：

菩提流志 (60) 二四

開元釋教錄 (498) 一六〇

安世高 (499) 一六一

桓靈 (500) 一六一

帛延 (501) 一六一

甘露二年 (502) 一六一

竺曇摩羅察 (503) 一六一

永嘉二年 (504) 一六一

竺法力 (505) 一六一

恭帝元熙元年 (506) 一六一

佛陀跋陀羅 (507) 一六一

道場寺 (508) 一六四

劉宋永初二年 (509) 一六五

寶雲 (510) 一六五

闕賓 (511) 一六六

曇摩羅密多 (512) 一六六

元嘉 (513) 一六七

《科註》第133九頁：

安息 (514) 一六七

迦毗羅衛 (515) 一六七

《科註》第134〇頁：

《會疏》 (516) 一六八

梵筴 (517) 一六八

《科註》第134一頁：

《報恩論》 (518) 一六八

依義不依語 (519) 一六八

《四十二章》 (520) 一六九

《法苑珠林》 (521) 一六九

《一切經音義》 (522) 一七〇

《科註》第134二頁：

本懷 (523) 一七〇

《科註》第134三頁：

《大阿彌陀經》 (48) 一七七

《科註》第134五頁：

王耕心 (王蔭福) (61) 一三五

《科註》第134六頁：

《無量壽經起信論》

(524) 一七一

雲棲 (525) 一七一

丁福保 (526) 一七一

《無量壽經箋註》(527) 一一七一一

憬興 (538) 一一七五

十號 (545) 一一七九

《科註》第一四七頁：

《無量壽經義述文贊》

薄伽梵 (546) 一一八一

校讎 (528) 一一七一

(539) 一一七六

《佛地經》 (547) 一一八四

犛犛 (529) 一一七一

「元曉」 (134) 七六

法界 (一) (548) 一一八四

《科註》第一四八頁：

《遊心安樂道》(540) 一一七六

《成實論》 (549) 一一八六

未冠 (530) 一一七一

《科註》第一五二頁：

《科註》第一五六頁：

程朱 (531) 一一七一

李炳南(541) 一一七七

《十二門論》 (550) 一一八七

陸王 (532) 一一七二

(九) 總釋名題

得大勢(551) 一一八八

《科註》第一五〇頁：

《科註》第一五四頁：

《科註》第一五七頁：

淨影 (533) 一一七二

體相用 (542) 一一七八

傅大士 (552) 一一八八

嘉祥 (534) 一一七二

鱗爪 (543) 一一七八

寂寥 (553) 一一八九

淨影寺 (535) 一一七三

《科註》第一五五頁：

《科註》第一五八頁：

嘉祥寺 (536) 一一七四

三覺 (一) (544) 一一七八

如如智 (554) 一一八九

古藏 (537) 一一七四

《科註》第一六一頁：

《科註》第一六一頁：

三無差別 (555) 二八九

《入佛境界經》(556) 二九〇

不二法門 (557) 二九一

《科註》第二六二頁：

貫攝常法 (558) 二九一

《科註》第二六三頁：

實際 (69) 二二七

理體 (70) 二二八

《科註》第二六四頁：

七種立題 (559) 二九二

果人 (560) 二九二

寶所 (561) 二九二

大白牛車 (562) 二九三

《科註》第二六五頁：

教行理 (563) 二九三

三際 (198) 一〇六

一如 (1377) 七〇八

方便 (2163) 一一四六

《科註》第二六六頁：

無生法忍 (150) 八二

三覺 (11) (564) 二九四

三大 (565) 二九四

《科註》第二六七頁：

《金光明》(566) 二九五

(十) 正釋經文

《科註》第二六八頁：

序分，正宗分，流通分

(567) 二九六

偏圓 (568) 二九七

《科註》第二六九頁：

證信序 (569) 二九八

《法華論》(570) 二九八

六成就 (571) 二九九

發起序 (572) 三〇〇

(法會聖眾第一)

《科註》第一七〇頁：

般涅槃 (573) 三〇〇

阿泥樓陀 (574) 三〇〇

四事 (575) 三〇一

《科註》第二七一頁：

《報恩經》 (576) 11011	四天王天 (587) 11016	耆闍崛 (599) 11111
三願 (577) 11011	《科註》第117四頁：	《西域記》 (600) 11114
《科註》第117二頁：	一切種智 (588) 11016	耆山 (601) 11115
《觀經疏》 (578) 11011	釋迦牟尼佛 (589) 11017	《科註》第117六頁：
化道 (579) 11011	上茅城 (590) 11018	精舍 (602) 11115
信順 (580) 11014	寒林城 (591) 11018	乞食 (603) 11115
師承 (581) 11014	《科註》第117五頁：	八部大力眾神 (604) 11116
臆造 (582) 11014	阿闍世王 (592) 11019	《科註》第117七頁：
《科註》第117三頁：	《慈恩傳》 (593) 11110	天龍八部 (605) 11116
陀羅尼 (2164) 11146	摩揭陀國 (594) 11111	四眾 (606) 11118
一刹那 (583) 11014	香茅 (595) 11111	羯磨 (607) 11118
師資 (584) 11015	望西師 (596) 11111	夜叉 (608) 11110
機感 (585) 11015	五天竺 (597) 11111	《科註》第117八頁：
《佛地論》 (586) 11015	《大寶積經論》 (598) 11111	內典 (609) 11111

九十六種外道 (610) 三二一

波羅密多種性

(2165) 一四七

無學 (611) 三二四

迴小向大 (612) 三二四

《科註》第二七九頁：

身通 (613) 三二五

六通 (614) 三二五

三明 (615) 三二六

《科註》第二八〇頁：

阿若憍陳如 (616) 三二八

初轉法輪 (617) 三二八

五比丘 (618) 三二八

《法華文句》(619) 三二九

《增一阿含經弟子品》

(620) 三三〇

《科註》第二八一頁：

俱絺羅 (621) 三三〇

《科註》第二八二頁：

舉一城釋種，上升梵天

(622) 三三一

外道移山，制之不動

(623) 三三一

降服毒龍 (624) 三三四

十力迦葉 (625) 三三四

童子迦葉 (626) 三三四

童女迦葉 (627) 三三五

《科註》第二八三頁：

毘婆尸佛 (628) 三三五

十一行 (629) 三三六

阿蘭若 (630) 三三八

糞掃衣 (631) 三三九

三衣 (632) 三四〇

塵累 (633) 三四〇

佛心印 (634) 三四一

《大梵天王問佛決疑經》

(635) 三四一

梵王 (636) 三四一

金色鉢羅華 (637) 三四一

金色頭陀 (638) 三四一

正法眼藏 (639) 三四一

《科註》第二八四頁：

- 
- 白飯王 (640) 三三三  
佛成道日 (641) 三三三  
淨飯王 (642) 三三三  
苾芻 (643) 三四四  
**《科註》第二八五頁：**  
阿泥律陀 (644) 三四五  
《密迹金剛力士經》  
(645) 三四五  
垂迹 (646) 三四六  
影響眾 (647) 三四六  
本地 (648) 三四七  
本際 (76) 四一一  
身子 (649) 三四七  
大飲光 (650) 三四八
- 
- 慶喜 (651) 三四八  
本來面目 (652) 三四八  
**《科註》第二八六頁：**  
唐捐 (653) 三四八  
**《科註》第二八七頁：**  
《清涼疏》 (654) 三四八  
二利 (655) 三四八  
位後普賢 (656) 三四九  
翼讚 (657) 三四九  
《大日經疏》 (658) 三四九  
脇士 (659) 三三〇  
四十華嚴經 (660) 三三〇  
**《科註》第二八八頁：**  
襄贊 (684) 三三三
- 
- 金剛手菩薩 (661) 三三〇  
金剛智 (一) (662) 三三一  
紅教 (663) 三三一  
蓮花生 (664) 三三一  
《放鉢經》 (665) 三三二  
無央 (666) 三三四  
**《科註》第二八九頁：**  
《心地觀經》 (667) 三三四  
三世覺母 (668) 三三四  
《法華嘉祥疏》 (669) 三三五  
三德秘藏 (670) 三三五  
惑業苦 (671) 三三五  
龍種尊王如來 (672) 三三五  
彌勒 (673) 三五六
-

《科註》第二九〇頁：

慈心三昧 (674) 三五七

弗沙 (675) 三五八

刀兵劫 (676) 三五九

兜率內院 (677) 三五九

三會龍華 (678) 三六〇

逝多林 (679) 三六一

伏藏 (680) 三六一

眾生界 (681) 三六一

《科註》第二九一頁：

《大寶積經發勝志樂會》

(682) 三六一

十種心 (683) 三六一

襄贊 (684) 三六一

賢劫 (685) 三六三

住劫 (686) 三六四

《科註》第二九二頁：

娑婆世界 (249) 一一〇

《佛祖統記》 (687) 三六五

拘留孫佛 (688) 三六五

拘那含牟尼佛 (689) 三六五

迦葉佛 (690) 三六六

(德遵普賢第二)

《科註》第二九三頁：

《度世經》 (691) 三六七

開士 (692) 三六七

大士 (693) 三六七

正士 (694) 三六八

《文殊師利嚴淨經》

(695) 三六八

葆光 (696) 三六八

《科註》第二九四頁：

《出生義》 (697) 三六八

賢護 (698) 三六九

《勝思惟梵天經》

(699) 三七〇

三菩提 (700) 三七〇

《大寶積經賢護長者會》

(701) 三七〇

帝釋天王 (702) 三七〇

《名義集》 (703) 三七一

《四童子經現生品》

(704) 一一七 一

俱胝 (705) 三二七 一

《科註》第二九五頁：

波羅奈 (706) 三二七 一

毘耶離 (707) 三二七 一

娑羅雙樹 (708) 三二七 一

《佛名經》 (709) 三二七 三

《月燈三昧經》 (710) 三二七 四

香象菩薩 (711) 三二七 四

阿閼佛 (712) 三二七 五

那由多 (713) 三二七 五

《科註》第二九六頁：

空無相無願 (848) 四四八

寶幢 (714) 三二七 六

境智 (715) 三二七 六

諸波羅蜜 (2166) 一 一四七

六波羅蜜 (1046) 五四四

十波羅蜜 (1925) 一〇〇 一

三摩地 (866) 四五八

《科註》第二九七頁：

同聞眾 (716) 三二七 六

中道 (401) 一一五

一邊 (2167) 一 一四九

結縛 (717) 三二七 六

《科註》第二九九頁：

伏藏 (680) 三六 一

那由他 (718) 三二七 七

拔濟 (719) 三二七 七

位後普賢 (656) 三四九

《科註》第三〇〇頁：

《攝大乘論釋》 (720) 三二七 七

六度 (1187) 七二 一

六度 (2168) 一 一四九

「六度行——廣六度行」

(2168) 一 一五〇

四攝法 (1423) 七二 六

四弘願 (216) 一 一三 一

《仁王經疏》 (721) 三二七 七

《科註》第三〇一頁：

《唯識論》 (722) 三二七 八

軌持 (723) 三二七 八

《科註》第三〇二頁：

《大集經》(724) 二七八

《法華玄贊》(725) 三七九

逗機(726) 三八〇

機宜(727) 三八〇

宗源(728) 三八〇

佛法藏(729) 三八一

《科註》第三〇三頁：

性德(730) 三八一

《大般若經》(731) 三八一

《科註》第三〇四頁：

般若波羅蜜多(732) 三八二

《首楞嚴經》(733) 三八三

遷流(734) 三八三

《科註》第三〇五頁：

示現(735) 三八三

八相成道(736) 三八三

《華嚴賢首品》(737) 三八七

《占察經》(738) 三八八

四種作佛(739) 三八八

灌頂住(740) 三八九

《仁王經菩薩教化品》

(741) 三九〇

《入如來智德不思議經》

(742) 三九〇

《科註》第三〇六頁：

《華嚴不思議品》

(743) 三九〇

後得智(744) 三九〇

《四教儀》(745) 三九一

《科註》第三〇七頁：

兜率天(746) 三九一

《普曜經說法門品》

(747) 三九二

後身菩薩(748) 三九二

《科註》第三〇八頁：

《因果經》(749) 三九二

摩耶夫人(750) 三九三

六牙白象(751) 三九三

《釋迦譜》(752) 三九四

《科註》第三〇九頁：

法服(753) 三九五

《普曜經》 (754) 二九五	《長阿含經》 (765) 四〇一	(1022) 五二〇
結跏趺坐 (755) 二九五	最正覺 (766) 四〇一	轂 (777) 四〇八
《法華壽量品》 (756) 二九六	釋迦文佛 (767) 四〇一	輻 (778) 四〇九
阿修羅 (757) 二九六	<b>《科註》第三二二頁：</b>	輞 (779) 四〇九
伽耶城 (758) 二九七	釋提桓因 (768) 四〇二	<b>《科註》第三二三頁：</b>
<b>《科註》第三二〇頁：</b>	鹿林 (769) 四〇三	塵說 (780) 四〇九
魔羅 (759) 二九八	轉法輪 (770) 四〇三	刹說 (781) 四〇九
天魔 (760) 二九八	護世四天王 (771) 四〇四	身見、邊見、邪見、見取、
《婆沙論》 (761) 二九八	大自在天 (772) 四〇五	戒取 (782) 四〇九
初夜 (762) 二九九	法輪 (773) 四〇六	十煩惱 (783) 四一〇
中夜 (763) 四〇〇	轉輪聖王 (774) 四〇七	<b>《科註》第三二四頁：</b>
大慈定 (2169) 一一五二	輪寶 (775) 四〇八	三惑 (420) 一一四
<b>《科註》第三二一頁：</b>	四天下 (776) 四〇八	愛欲 (784) 四一〇
《維摩經》 (764) 四〇〇	教理行果四法	《字苑》 (785) 四一一

見愛 (786) 四一一  
空慧 (787) 四一一  
法城 (788) 四一一  
清白 (789) 四一一  
智斷 (790) 四一一  
無漏 (1597) 八二四  
垢汙 (791) 四一三  
**《科註》第三一五頁：**  
佛知見 (105) 六一  
**《科註》第三一六頁：**  
福田 (792) 四一三  
《菩薩本行經》(793) 四一四  
《俱舍論》(794) 四一四  
三苦 (795) 四一五

**《科註》第三一七頁：**  
三有 (796) 四一六  
灌頂 (797) 四一七  
結緣灌頂 (798) 四一九  
灌頂壇 (799) 四一九  
真言 (一) (800) 四二〇  
受職灌頂 (801) 四二一  
秘法 (802) 四二二  
瓶灌 (803) 四二二  
生起次第 (804) 四二三  
**《科註》第三一八頁：**  
氣脈 (805) 四二四  
明點 (806) 四二四  
大手印 (807) 四二五

經軌 (808) 四二五  
刹利 (809) 四二五  
《秘藏記》(810) 四二六  
**《科註》第三一九頁：**  
阿闍黎 (811) 四二六  
真言阿闍黎 (812) 四二七  
傳法灌頂 (813) 四二七  
**《科註》第三二〇頁：**  
三密相應 (814) 四二七  
如來三密 (815) 四二七  
即身成佛 (816) 四二八  
**《科註》第三二一頁：**  
一際 (817) 四二八  
普門示現 (818) 四二八

《科註》第三二二頁：

權實二德 (819) 四二九

《科註》第三二三頁：

法性 (820) 四三〇

法界 (一一) (821) 四三一

《起信論義記》(822) 四三一

《唯識述記》(823) 四三一

有情數 (824) 四三一

無情數 (825) 四三一

《嘉祥法華疏》(826) 四三一

《止觀》(827) 四三一

《科註》第三二四頁：

如理智 (828) 四二四

如量智 (829) 四二四

根本智 (830) 四三四

差別智 (831) 四三五

供養雲 (832) 四三五

《科註》第三二五頁：

朕迹 (833) 四三五

《科註》第三二六頁：

介爾 (31) 一九

「斷常二見」(1921) 九九六

纏縛 (834) 四三五

八纏 (835) 四三六

三縛 (836) 四三六

十纏 (837) 四三六

四縛 (838) 四三七

《科註》第三二七頁：

四諦 (839) 四三八

見思二惑 (257) 一三五

分段生死 (840) 四四〇

辟支佛 (841) 四四〇

十二因緣 (842) 四四二

《科註》第三二八頁：

緣覺 (843) 四四五

獨覺 (844) 四四七

三空門 (845) 四四八

偏空 (846) 四四八

《大寶積經·善德天子會》

(847) 四四八

空無相無願 (848) 四四八

《科註》第三二九頁：

戲論 (321) 一七五

《科註》第二三三〇頁·

《法華義疏》(849) 四五〇

善巧 (850) 四五〇

智度 (851) 四五二

《四教儀集註》(852) 四五二

三車 (853) 四五二

《法華譬喻品》(854) 四五二

四智 (2079) 一〇七二

十力 (1633) 八四二

無所畏 (1634) 八四二

方便力 (855) 四五二

《科註》第二三三一頁·

積砂藏 (856) 四五二

高麗藏 (857) 四五四

涅槃 (858) 四五五

滅度 (859) 四五六

《賢首心經略疏》

(860) 四五七

灰身滅智 (1153) 六一五

五欲 (一) (861) 四五七

妄見 (862) 四五八

憍恣 (863) 四五八

《科註》第二三三二頁·

《法華藥王品》(864) 四五八

靈山一會 (865) 四五八

三摩地 (866) 四五八

三昧 (867) 四五九

正受 (868) 四六〇

調直定 (869) 四六〇

正心行處 (870) 四六一

等持 (871) 四六一

《科註》第二三三三頁·

陀羅尼 (238) 一一一一

明 (880) 四六四

華嚴三昧 (872) 四六一

一真法界 (75) 四一一

無盡緣起 (873) 四六一

《科註》第二三三四頁·

《八十華嚴》(874) 四六一

《六十華嚴》(875) 四六一

《法界記》(876) 四六二

- 
- 法界唯心 (877) 四六三  
總持 (878) 四六三  
陀羅尼有四種 (879) 四六三  
**《科註》第三三五頁：**  
明 (880) 四六四  
結使 (881) 四六四  
首楞嚴三昧 (882) 四六七  
師子頻呻 (883) 四六八  
太上老君說百病崇百藥  
(2151) 一一一九  
**《科註》第三三六頁：**  
一切種智 (588) 三〇六  
普等三昧 (884) 四六八  
**《科註》第三三七頁：**
- 
- 《般若經》** (885) 四六九  
寶王三昧 (886) 四六九  
**《仁王般若經》** (887) 四六九  
**《科註》第三三八頁：**  
海印三昧 (888) 四七〇  
海印三昧有十義  
(2153) 一一一三  
**《科註》第三三九頁：**  
四無礙智 (889) 四七一  
根本教 (2170) 一一五二  
一字 (2171) 一一五二  
**《科註》第三四〇頁：**  
**《密迹經》** (890) 四七三  
垓 (891) 四七三
- 
- 《稱讚大乘功德經》**  
(892) 四七三  
傍生 (893) 四七三  
如 (894) 四七三  
**《科註》第三四一頁：**  
十界 (895) 四七四  
偏真 (896) 四七四  
頓漸二教 (409) 一一七  
真實際 (897) 四七五  
實教 (424) 一一一七  
權方便 (898) 四七五  
一實 (899) 四七五  
布袋和尚 (900) 四七五  
**《科註》第三四二頁：**
-

二死 (901) 四七六

二空 (902) 四七七

智斷二德 (903) 四七八

世間 (一) (904) 四七八

臧否 (905) 四七九

有為 (906) 四七九

《科註》第三四三頁：

無為 (907) 四八〇

無住處涅槃 (908) 四八一

棲神 (909) 四八一

《法華經序品》(910)四八一

宗門 (911) 四八一

隨逐 (912) 四八二

《科註》第三四四頁：

肇公 (913) 四八二

法藏 (一) (914) 四八二

如來藏性 (915) 四八三

《科註》第三四五頁：

如來藏 (916) 四八三

《華手經》 (917) 四八四

《寶雲經》 (918) 四八五

《大論》 (919) 四八五

《科註》第三四六頁：

同體大悲 (920) 四八五

無緣大慈 (921) 四八六

愛見之悲 (922) 四八六

《大日經》 (923) 四八六

五眼 (924) 四八七

《科註》第三四七頁：

《大法炬陀羅尼經》

(925) 四八八

無餘涅槃 (926) 四八八

《科註》第三四八頁：

福智二嚴 (927) 四八九

果位 (928) 四八九

權智 (929) 四八九

實智 (930) 四九〇

小劫 (931) 四九〇

《科註》第三四九頁：

食頃 (932) 四九一

比丘尼 (933) 四九一

《科註》第三五〇頁：

- 
- 清信士 (934) 四九一  
清信女 (935) 四九一  
優婆夷 (936) 四九二  
諸天 (937) 四九二  
    (大教緣起第三)  
《科註》第二五二頁：  
稽首 (938) 四九二  
至真 (939) 四九三  
《勝鬘寶窟》 (940) 四九三  
《科註》第二五四頁：  
空王佛 (941) 四九四  
《蓮華生大士應化因緣經》  
    (942) 四九四
- 
- 《科註》第二五五頁：  
行德 (943) 四九五  
寶刹 (944) 四九五  
《法華文句記》 (945) 四九五  
刹 (946) 四九六  
佛土 (947) 四九六  
佛國 (948) 四九七  
《科註》第二五六頁：  
袈裟 (949) 四九七  
偏袒右肩 (950) 四九八  
長跪 (951) 四九九  
《科註》第二五七頁：  
大寂定 (952) 四九九  
普等三昧 (884) 四六八
- 
- 寶王三昧 (886) 四六九  
《法華提婆品》 (953) 五〇〇  
龍女成佛 (954) 五〇〇  
《科註》第二五九頁：  
隨他教 (2172) 一一五三  
隨自 (2173) 一一五三  
《十住斷結經》 (955) 五〇一  
《華首經》 (956) 五〇一  
《佛報恩經》 (957) 五〇一  
《科註》第二七〇頁：  
五乘 (1065) 五五一  
倫匹 (958) 五〇一  
《科註》第二六一頁：  
光瑞 (959) 五〇一
-

《科註》第三六二頁：

善哉 (960) 五〇三

《科註》第三六三頁：

四大洲 (961) 五〇三

蝸飛蠕動 (962) 五〇四

劫 (963) 五〇四

《科註》第三六五頁：

矜哀 (964) 五〇四

三界 (965) 五〇五

《科註》第三六六頁：

正道 (966) 五〇五

實教 (424) 一一一七

《六要》 (967) 五〇六

真實五願 (968) 五〇六

《科註》第三六七頁：

教行信證 (969) 五〇六

權大乘 (970) 五〇六

實大乘 (971) 五〇七

《科註》第三六九頁：

優曇花 (972) 五〇七

《般涅槃經》 (973) 五〇七

《文殊現寶藏經》

(974) 五〇八

《出曜經》 (975) 五〇八

《科註》第三七〇頁：

本地身 (976) 五〇八

《科註》第三七一頁：

《最勝王經壽量品》

(977) 五〇八

十玄門 (439) 一一三一一

《科註》第三七二頁：

三無漏學 (978) 五〇九

遊戲神通 (979) 五〇九

嚴飾 (980) 五一〇

《科註》第三七六頁：

淨土三經 (981) 五一〇

(法藏因地第四)

《科註》第三七七頁：

無為法身 (189) 一〇四

《科註》第三七八頁：

無央數劫 (982) 五一〇

《科註》第二七九頁：

常樂我淨 (983) 五一〇

《瓔珞經》 (984) 五一一

真如 (71) 二八

後有 (2089) 一〇七九

《涅槃梵行品》 (985) 五一一

十一部經 (289) 一五三

報身 (986) 五一一

應身 (987) 五一一

《轉法輪論》 (988) 五一一

《科註》第二八〇頁：

第一義諦 (303) 一六〇

《天臺壽量品疏》

(989) 五一一

如如境 (990) 五一一

結使 (881) 四六四

證滅相應 (2174) 一一五四

因行 (991) 五一一

《維摩經肇註》 (992) 五一一

《科註》第二八一頁：

明行足 (993) 五一一

三明 (615) 三二六

信解行證 (994) 五一一

善逝 (995) 五一一

三摩提 (996) 五一一

一切智 (1241) 六六四

八正道 (1883) 九七九

大般涅槃 (997) 五一一

《科註》第二八二頁：

劫盡火 (998) 五一一

世間解 (999) 五一一

世間(一) (2200) 一一七〇

世間者，名為五陰

(2175) 一一五四

無上士 (1000) 五一一

《科註》第二八三頁：

調御丈夫 (1001) 五一一

丈夫 (1002) 五一一

天人師 (1003) 五一一

佛 (1004) 五一一

《科註》第二八四頁：

有常 (2176) 一一五五

無常 (2177) 一一五五  
盡不盡 (2178) 一一五六  
動不動 (2179) 一一五六  
《成實論十號品》  
(1005) 五一一一  
涅槃城 (1006) 五一一一  
《華嚴大疏》 (1007) 五二二三  
《科註》第三八五頁：  
《讚阿彌陀佛偈》  
(1008) 五二一四  
義寂 (1009) 五二一四  
《科註》第三八六頁：  
聖智 (1010) 五二一四  
沙門 (1011) 五二一五

外道 (1012) 五二一六  
《科註》第三八七頁：  
逸群 (1013) 五二一六  
《科註》第三八八頁：  
登地 (1014) 五二一六  
大通智勝 (1015) 五二一七  
《科註》第三八九頁：  
從果向因 (2180) 一一五七  
《科註》第三九〇頁：  
五力 (1016) 五二一七  
五根 (1017) 五二一九  
沮壞 (1018) 五二一九  
靈峰大師 (1019) 五二一九  
通惑 (1020) 五二一九

別惑 (1021) 五三〇〇  
《科註》第三九一頁：  
教理行果四法 (1022) 五三〇〇  
《慈恩上生經疏》  
(1023) 五三一一  
《科註》第三九二頁：  
伽他 (1024) 五三一一  
偈頌 (1025) 五三一一  
《科註》第三九三頁：  
報土 (1026) 五三一一  
摩尼 (1027) 五三一一  
如意寶珠 (1028) 五三二三  
《科註》第三九四頁：  
六趣 (1029) 五三二四

- 
- 四生 (1030) 五二五  
語密 (1031) 五三六  
身密 (1032) 五三六  
自性身 (1033) 五三六  
**《科註》第三九五頁：**  
密教所立四身(1034)五三七  
三資糧 (1035) 五三七  
省庵 (1036) 五三七  
**《科註》第三九七頁：**  
檀施 (1037) 五二九  
**《科註》第三九八頁：**  
五度 (1038) 五二九  
《心經》 (1039) 五二九  
般若波羅蜜多 (732) 三八二
- 
- 五蘊 (1040) 五四〇  
究竟覺 (1041) 五四二  
《三藏法數》 (1042) 五四三  
三毒 (1043) 五四三  
**《科註》第三九九頁：**  
佛知見 (105) 六一  
**《科註》第四〇〇頁：**  
火宅 (1044) 五四三  
沙磧 (1045) 五四三  
六波羅蜜 (1046) 五四四  
**《科註》第四〇一頁：**  
恆河沙 (1047) 五四四  
俱胝 (705) 二七  
那由他 (718) 三二七
- 
- 迦羅分 (1048) 五四五  
優婆尼沙陀分(1049)五四五  
**《科註》第四〇三頁：**  
寂照 (1050) 五四六  
**《科註》第四〇四頁：**  
《稱讚淨土經》(1051)五四六  
**《科註》第四〇五頁：**  
五眼 (924) 四八七  
(至心精進第五)  
**《科註》第四〇七頁：**  
長行 (1052) 五四六  
**《科註》第四〇八頁：**  
拳拳服膺 (1053) 五四七
-

《科註》第四一〇頁：

善知識 (1054) 五四七

教授善知識 (1055) 五四八

《科註》第四一二頁：

聖果 (1056) 五四八

《科註》第四一三頁：

老婆 (1057) 五四九

法華三止說 (1058) 五四九

止止不須說 (1059) 五四九

密在汝邊 (1060) 五四九

《科註》第四一四頁：

宿殖 (1061) 五五〇

「三佛土」 (1083) 五六一

法報 (1062) 五五〇

《科註》第四一五頁：

攀緣 (1063) 五五〇

常途 (1064) 五五〇

《科註》第四一六頁：

五乘 (1065) 五五一

因源 (1066) 五五一

《科註》第四一七頁：

果教 (145) 八一

事持/理持 (2181) 一一五七

《科註》第四一八頁：

攝取 (1067) 五五一

《科註》第四一九頁：

《華嚴經華藏世界品》

(1068) 五五一一

佛刹無量，總有二十重

(1069) 五五一一

《科註》第四二〇頁：

玄一 (1070) 五五七

《悲華經》 (480) 二五四

《科註》第四二二頁：

唯識 (1071) 五五七

見分 (1072) 五五七

《法集經》 (1073) 五五八

菩薩摩訶薩 (1074) 五五八

「如來十力」 (1633) 八四一

如來天眼 (2182) 一一五七

《科註》第四二二頁：

撮要 (1075) 五五九

《菩薩瓔珞經》(1076)五五九

真諦 (1077) 五五九

聖諦 (1078) 五五九

勝義諦 (1079) 五六〇

《科註》第四二三頁：

無漏 (1597) 八二四

不善 (1080) 五六〇

空性 (1081) 五六〇

緣修 (1082) 五六一

《科註》第四二四頁：

小乘菩薩：未斷一毫之煩惱

(2183) 一一五八

隔歷之中道(2184)一一五八

「愛見大悲」(922)四八六

自受用或他受用之實報土

(1083) 五六一

《科註》第四二五頁：

一心具十法界

(2185) 一一五八

十法界 (1084) 五六二

《教行信證文類》

(1085) 五六五

《科註》第四二七頁：

《略箋》(1086)五六五

《科註》第四二九頁：

遶佛 (1087) 五六五

《科註》第四三〇頁：

會三歸一 (1088) 五六六

佛知見 (105) 六一

(發大誓願第六)

《科註》第四三二頁：

《行卷》(1089)五六七

三有 (796) 四一六

方便藏 (1090) 五六七

頂戴 (1091) 五六八

《科註》第四三三頁：

闕如 (1092) 五六八

諷誦 (1093) 五六八

《科註》第四三四頁：

應法妙服 (1250) 六六七

《科註》第四三五頁：

丹誠 (1094) 五六八

《科註》第四三六頁：

毘盧遮那 (462) 二四二

華藏世界 (461) 二四一

事事無礙 (74) 四二

《科註》第四三七頁：

《攝大乘論音義》

(1095) 五六八

由旬 (1096) 五六八

《科註》第四三八頁：

八熱地獄 (1097) 五七〇

八寒冰獄 (1098) 五七一

炮 (1099) 五七二

《科註》第四三九頁：

十六遊增地獄

(1100) 五七二

糖煨 (1101) 五七六

孤獨地獄 (1102) 五七六

《輔宏記》 (1103) 五七七

餓鬼 (1104) 五七七

《科註》第四四〇頁：

《新婆沙論》 (1105) 五七七

平等王 (1106) 五七八

五趣 (1107) 五七八

《三啟經》 (1108) 五七八

《科註》第四四一頁：

《長阿含經地獄品》

(1109) 五七九

閻浮提 (1110) 五七九

《法華經方便品》

(1111) 五八〇

《科註》第四四二頁：

《淨土論註》 (1112) 五八〇

《科註》第四四三頁：

紫磨真金 (1113) 五八〇

《科註》第四四四頁：

三十二相 (1114) 五八〇

《法界次第》 (1115) 五八九

瞞 (1116) 五八九

《科註》第四四五頁：

常光一丈 (1117) 五八九

偈 (1118) 五九〇

- 
- 頰車 (1119) 五九〇  
紺青 (1120) 五九〇  
白毫 (1121) 五九〇  
無見頂相 (1122) 五九一  
**《科註》第四四七頁：**  
四根本定 (1123) 五九二  
未至 (1124) 五九二  
中間 (1125) 五九二  
八定 (1126) 五九三  
四禪 (1127) 五九六  
四無色定 (1128) 五九八  
增上緣 (1129) 五九九  
**《事贊》** (1130) 六〇〇  
三明 (615) 1111K
- 
- 有漏禪 (1131) 六〇一  
**《要集》** (1132) 六〇一  
四靜慮 (1133) 六〇一  
**《科註》第四四八頁：**  
如意通 (1134) 六〇一  
六根互用 (1135) 六〇一  
**《科註》第四四九頁：**  
福增 (1136) 六〇一  
本緣 (1137) 六〇五  
**《科註》第四五〇頁：**  
作意 (1138) 六〇五  
**《科註》第四五一頁：**  
大聲聞 (2186) 115九  
報謝 (1139) 六〇五
- 
- 《諦記》** (1140) 六〇六  
**《科註》第四五二頁：**  
五眼 (924) 四八七  
**《願成就文》** (1141) 六〇六  
**《科註》第四五三頁：**  
乾闥緊那 (1142) 六〇七  
琉璃之琴 (1143) 六〇八  
**《科註》第四五六頁：**  
六塵 (1144) 六〇九  
**《翻譯名義集》** (1145) 六一〇  
**《科註》第四五七頁：**  
**《玄應音義》** (1146) 六一〇  
**《科註》第四五八頁：**  
無分別智 (1147) 六一一
-

心、心所法 (1148) 六一一

《科註》第四五九頁：

《資持記》 (1149) 六一四

《往生要集》 (1150) 六一四

《仁王經合疏》 (1151) 六一五

《理趣釋》 (1152) 六一五

「三德」 (11) (268) 一四〇

《科註》第四六〇頁：

灰身滅智 (1153) 六一五

方便法身 (2187) 一六一〇

大悲 (一) (287) 一五二

《科註》第四六一頁：

法身 (175) 九五

《科註》第四六二頁：

《禮讚》 (1154) 六一五

《科註》第四六三頁：

山海慧如來 (1155) 六一六

化道 (579) 一三〇一一

《科註》第四六四頁：

死魔 (1156) 六一七

《群疑論》 (1157) 六一七

二死 (901) 四七六

《科註》第四六五頁：

三惑 (420) 一三二四

《科註》第四六六頁：

三千大千世界 (1158) 六一八

小千世界 (1159) 六一八

中千世界 (1160) 六一九

黑洞 (1161) 六一九

《科註》第四六八頁：

咨嗟 (1162) 六一九

念佛三昧 (210) 一三〇

《科註》第四六九頁：

《金光明經文句》

(1163) 七二一〇

《華嚴大疏鈔》 (1164) 六二〇

《科註》第四七〇頁：

鵠的 (1165) 六二一一

《箋註》 (1166) 六二一一

《科註》第四七一頁：

《彌勒發問經》 (1167) 六二二

《科註》第四七三頁：

- 
- 隱密 (1168) 六一一  
無間地獄 (1169) 六一二  
《阿闍世王問五逆經》  
(1170) 六一二  
《華嚴孔目章》(1171)六一三  
五逆 (2188) 一一六〇  
五逆 (77) 四二二  
破和合僧 (1172) 六一三  
一大劫 (1173) 六一四  
《科註》第四七四頁：  
謗法闡提 (1174) 六一五  
阿鼻 (1175) 六一六  
善導大師《觀經疏》  
(1176) 六一六
- 
- 抑止門 (1177) 六一六  
幢 (1178) 六一七  
《科註》第四七五頁：  
《字匯》(1179) 六一七  
增上緣 (1129) 五九九  
《科註》第四七六頁：  
聲字皆實相(2189)一一六一  
《科註》第四七七頁：  
二種菩提心 (1180) 六一八  
行願菩提心 (1181) 六一八  
勝義菩提心 (1182) 六一九  
三德 (一) (1183) 六一九  
《科註》第四七八頁：  
空無相無願 (848) 四四八
- 
- 不定性 (1184) 六三〇  
菩薩性 (1185) 六三一  
《勸發菩提心文》  
(1186) 六三一  
《科註》第四七九頁：  
六度 (1187) 六三一  
論主 (1188) 六三三  
《科註》第四八〇頁：  
須臾 (1189) 六三三  
具縛 (65) 二六  
識神 (1190) 六三四  
四大 (1191) 六三四  
《科註》第四八一頁：  
阿鞞跋致 (1192) 六三五
-

《科註》第四八二頁：

薩婆若 (1193) 六三五

發心住 (1194) 六三五

《科註》第四八四頁：

決定業 (1195) 六三五

《科註》第四八五頁：

道宣 (1196) 六三六

《科註》第四八六頁：

《觀念法門》 (1197) 六三七

因地 (1198) 六三八

《科註》第四八七頁：

中陰 (1199) 六三八

慧命 (1200) 六三九

《科註》第四八八頁：

大悲胎藏 (1201) 六三九

加持 (1202) 六三九

大日如來 (1203) 六四〇

《科註》第四八九頁：

四姓 (1452) 七四一

婆羅門 (1204) 六四一

《科註》第四九〇頁：

《小品》 (1205) 六四二

《科註》第四九一頁：

《尊勝陀羅尼經》

(1206) 六四二

《科註》第四九二頁：

諸趣 (1207) 六四三

惡知識 (1208) 六四三

二種譏嫌 (1209) 六四四

舍利 (一) (1210) 六四四

迦陵頻伽 (1211) 六四四

共命之鳥 (1212) 六四五

《科註》第四九四頁：

三聚 (1213) 六四五

十信 (1214) 六四六

十住 (1215) 六四八

實教 (424) 一一一七

起心立德 (1216) 六五〇

《科註》第四九五頁：

《法華經信解品》

(1217) 六五〇

漏 (1218) 六五〇

《科註》第四九六頁：

身見、邊見、邪見、見取、

戒取 (782) 四〇九

我執 (1219) 六五一

《科註》第四九七頁：

《大藏法數》 (1220) 六五一

金剛杵 (1221) 六五二

《仁王經念誦儀軌》

(1222) 六五三

佉陀羅 (1223) 六五三

《科註》第四九八頁：

執金剛 (1224) 六五三

《行宗記》 (1225) 六五四

毘紐天 (1226) 六五四

迦樓羅鳥 (1227) 六五五

《涅槃經疏》 (1228) 六五六

十九執金剛 (1229) 六五七

五智 (一) (1502) 七六五

《科註》第四九九頁：

那羅延 (1230) 六五七

《新譯仁王經》 (1231) 六五八

《良賁疏》 (1232) 六五八

《科註》第五〇〇頁：

《超日明三昧經》

(1233) 六五九

大慧 (1234) 六五九

常光一丈 (1117) 五八九

《科註》第五〇一頁：

《法華經法師品》

(1235) 六五九

鍵椎 (1236) 六六〇

《增一阿含》 (1237) 六六〇

《科註》第五〇二頁：

《佛祖統紀》 (1238) 六六〇

種子字 (1239) 六六一

一生補處 (1240) 六六三

一切智 (1241) 六六四

生相無明 (269) 一四一

金剛智 (一) (1242) 六六五

密宗初地 (1243) 六六六

淨菩提心 (1244) 六六六

一實 (899) 四七五

《科註》第五〇三頁：

總持門 (1245) 六六六

密十地 (1246) 六六六

第十一地 (1247) 六六七

《大疏》(一) (1248) 六六七

《科註》第五〇四頁：

矢石 (1249) 六六七

《科註》第五〇六頁：

應法妙服 (1250) 六六七

擣 (1251) 六六七

浣濯 (1252) 六六八

鑊 (1253) 六六八

幢幡 (1254) 六六八

寶蓋 (1255) 六六八

瓔珞 (1256) 六六八

臥具 (1257) 六六九

《科註》第五〇八頁：

正 (1258) 六六九

《顯密圓通》(1259) 六六九

《科註》第五一〇頁：

前正覺山 (1260) 六六九

畢鉢羅樹 (1261) 六七〇

《維摩經菩薩行品肇註》

(1262) 六七〇

三種忍 (1610) 八二〇

秘密莊嚴心 (1263) 六七〇

第十住心 (1264) 六七〇

《科註》第五一一頁：

寶樹觀 (1265) 六七三

《科註》第五一一頁：

天冠 (1266) 六七三

《科註》第五一二頁：

沈麝 (1267) 六七三

芬馥 (1268) 六七四

鬻香長者 (1269) 六七四

阿那婆達多池 (1270) 六七四

沈水香 (1271) 六七四

戒品 (1272) 六七四

四軍 (1273) 六七五

善法堂 (1274) 六七五

須夜摩 (1275) 六七五

一生所繫菩薩 (1276) 六七六

妙變化天 (1277) 六七六

《科註》第五一四頁：

《維摩經香積佛品》

(1278) 六七七

維摩詰 (1279) 六七七

香積如來 (1280) 六七七

律行 (1281) 六七八

《科註》第五一五頁：

《易繫辭》 (1282) 六七八

繫縛 (1283) 六七八

《芬陀利經》 (1284) 六七八

選擇本願 (1285) 六七九

《菩薩念佛三昧經》

(1286) 六七九

《科註》第五一六頁：

須彌 (1549) 八〇〇

《文殊般若經》 (1287) 六七九

《科註》第五一七頁：

無功用 (1288) 六七九

一行三昧 (1289) 六八〇

《科註》第五一八頁：

見道 (1290) 六八〇

正性離生 (1291) 六八〇

《科註》第五一九頁：

三無差別 (555) 二八九

如來家 (1292) 六八一

《科註》第五二〇頁：

果號 (1293) 六八一

五忍 (1294) 六八一

《仁王經私記》 (1295) 六八一

《科註》第五二二頁：

《論註》 (1296) 六八三

平等法身 (1297) 六八三

法性生身 (1298) 六八三

《科註》第五二三頁：

《楞嚴經長水疏》

(1299) 六八四

加行 (1300) 六八四

阿耨菩提 (1301) 六八四

《十住論》 (1302) 六八五

海德 (1303) 六八五

《涅槃疏》 (1304) 六八五

常住二字 (1305) 六八五

《無量壽經鈔》(1306)六八五

《科註》第五二三頁·

不退轉 (1307) 六八六

信位菩薩 (1308) 六八六

輕毛 (1309) 六八六

南本《涅槃》(1310)六八七

違緣 (1311) 六八七

庵羅 (1312) 六八七

《十住菩薩斷結經》

(1313) 六八八

《科註》第五二四頁·

《寶雨經》(1314) 六八八

五百大願 (1315) 六八八

一路 (1316) 六八八

涅槃門 (1317) 六八九

《十住毘婆沙論》

(1318) 六八九

名義不離 (1319) 六八九

(必成正覺第七)

《科註》第五二五頁·

雨花 (1320) 六九〇

《科註》第五二六頁·

蜀錦 (1321) 六九〇

《法事贊》(1322) 六九一

性修二德 (1323) 六九一

《科註》第五二七頁·

六種性 (1324) 六九一

《後出偈經》(1325) 六九二

《科註》第五二八頁·

《法華勸持品》(1326)六九二

《科註》第五二九頁·

法施 (1327) 六九三

財施 (1328) 六九三

生死長夜 (1329) 六九三

究竟樂 (1330) 六九四

《科註》第五三〇頁·

寶筏 (1331) 六九四

《科註》第五三一頁·

大悲 (一) (287) 一五二

同體大悲 (920) 四八五

- 
- 八聖道 (1332) 六九四  
實性 (1333) 六九四  
**《科註》第五三二頁：**  
五行 (1334) 六九四  
十六空 (1923) 九九八  
《定善義》 (1335) 六九五  
**《科註》第五三三頁：**  
實義 (1336) 六九五  
**《科註》第五三四頁：**  
盲冥 (1337) 六九五  
集諦 (1338) 六九五  
**《科註》第五三五頁：**  
《華嚴離世間品》  
(1339) 六九五
- 
- 十眼 (1340) 六九六  
五眼 (924) 四八七  
慧眼 (1341) 六九六  
佛眼 (1342) 六九六  
幻翳 (1343) 六九七  
三種光明 (1344) 六九七  
**《科註》第五三六頁：**  
《千手陀羅尼經》  
(1345) 六九七  
光明藏 (1346) 六九七  
修羅 (1347) 六九七  
**《科註》第五三七頁：**  
《四教義》 (1348) 六九七  
正四句法 (1349) 六九八
- 
- 四句門 (2199) 一一七〇  
**《科註》第五三八頁：**  
《法華經寶塔品》  
(1350) 六九八  
八萬四千法藏 (1351) 六九八  
八萬煩惱 (1352) 六九九  
八萬法蘊 (1353) 七〇〇  
**《科註》第五三九頁：**  
印契 (1354) 七〇〇  
摩尼珠 (1355) 七〇〇  
《觀佛三昧經觀佛密行品》  
(1356) 七〇〇  
寶印 (1357) 七〇〇  
**《科註》第五四〇頁：**
-

嚙 (1358) 七〇〇

翫鬱 (1359) 七〇一

《宗鏡錄》九十五卷中有註釋

(1360) 七〇一

《科註》第五四二頁：

師子吼 (1361) 七〇一一

《維摩經佛國品》

(1362) 七〇一一

《科註》第五四三頁：

器世間清淨 (1363) 七〇一一

眾生世間清淨 (1364) 七〇一一

《科註》第五四四頁：

一千七百公案 (1365) 七〇三

大圓勝慧 (1366) 七〇三

大圓滿 (1367) 七〇三

末後句 (1368) 七〇四

《科註》第五四五頁：

情世間 (1369) 七〇五

《小品般若經》(1370) 七〇五

師子座 (1371) 七〇五

師子遊戲三昧 (1372) 七〇六

《科註》第五四六頁：

六動 (1373) 七〇六

《科註》第五四七頁：

「六神通」 (614) 三二五

(積功累德第八)

《科註》第五四九頁：

第一義空 (292) 一五六

觀達 (1374) 七〇七

自性清淨心 (1375) 七〇七

《大乘止觀》(1376) 七〇八

一如 (1377) 七〇八

如如 (1378) 七〇八

涅槃三德 (268) 一四〇

伊字三點 (1379) 七〇九

《科註》第五五一頁：

《法華遊意》(1380) 七一〇

《科註》第五五二頁：

三身 (240) 一一五

「三佛土」 (1083) 五六一

根缺 (1381) 七一〇

《科註》第五五三頁：

- 浸 (1382) 七一〇  
壞劫 (1383) 七一〇  
三災 (1384) 七一〇  
《科註》第五五四頁：  
《華嚴演義鈔》(1385)七一一  
凝然常 (1386) 七一一  
《釋大衍論》(1387) 七一一  
本有 (1388) 七一一  
《大乘密嚴經》(1389)七一二  
密嚴淨土 (1390) 七一二  
《密嚴經疏》(1391) 七一四  
他受用土 (1392) 七一四  
法性土 (1393) 七一五

《科註》第五五五頁：

- 如來藏心 (1394) 七一五  
微塵 (1395) 七一五  
一合相 (1396) 七一五  
電子 (1397) 七一六  
微中子 (1398) 七一七  
《科註》第五五六頁：  
行業 (1399) 七一七  
《郁迦羅越問經》  
(1400) 七一七  
《科註》第五五九頁：  
《二諦義》(1401) 七一七  
《科註》第五六〇頁：  
四相 (1402) 七一八

《科註》第五六一頁：

- 一苦 (1403) 七一八  
二苦 (795) 四一五  
四苦 (1404) 七一九  
八苦 (1405) 七一九  
《遺教經》(1406) 七二〇  
《科註》第五六二頁：  
《法華經勸發品》  
(1407) 七二一一  
《般若經》(1408) 七二一一  
現量 (1409) 七二一一  
體露 (1410) 七二一一  
真常 (1411) 七二一一  
寂滅為樂 (1412) 七二一一

眾生界盡 (1413) 七二二

《科註》第五六三頁：

法住 (1414) 七二三

和尚 (1415) 七二三

毀訾 (1416) 七二四

《科註》第五六四頁：

旃陀羅 (1417) 七二四

愧赧 (1418) 七二五

蹴踏 (1419) 七二五

《科註》第五六五頁：

獅子吼 (1420) 七二五

《勝天王般若經》

(1421) 七二五

嚙蹙 (1422) 七二六

四攝法 (1423) 七二六

《科註》第五六六頁：

佛知見 (105) 六一

三寶 (1424) 七二七

住持三寶 (1425) 七二八

文句 (1426) 七二九

染衣 (1427) 七二九

《寶性論》 (1428) 七二九

《科註》第五六七頁：

上師 (1429) 七三〇

諂曲 (1430) 七三〇

質直 (1431) 七三一

《科註》第五六八頁：

福智二嚴 (927) 四八九

《科註》第五六九頁：

《游心法界記》 (1432) 七三一

三諦 (1433) 七三二

三觀 (1434) 七三三

三種三諦 (2152) 一一三三

《科註》第五七一頁：

《行事鈔資持記》

(1435) 七三五

律儀戒 (1436) 七三五

三聚淨戒 (1437) 七三五

三聚戒 (1438) 七三五

五戒 (1439) 七三六

八戒 (1440) 七三七

十戒 (1441) 七三七

- 
- 具足戒 (1442) 七三八  
《瓔珞本業經》 (1443) 七三九  
《五燈會元》 (1444) 七三九  
戒德 (1445) 七三九  
《普超三昧經》 (1446) 七三九  
《科註》第五七二頁：  
火宅 (1044) 五四三  
三毒 (1043) 五四三  
侈談 (1447) 七三九  
《科註》第五七三頁：  
六度 (1187) 六三一  
六波羅蜜 (1046) 五四四  
《科註》第五七四頁：  
正法眼藏 (639) 三四一
- 
- 《涅槃無名論》 (1448) 七四〇  
《科註》第五七五頁：  
敦 (一) (1449) 七四一  
《科註》第五七六頁：  
恬 (1450) 七四一  
年耆 (1451) 七四一  
四姓 (1452) 七四一  
金輪王 (1453) 七四一  
欲界六天 (1454) 七四一  
化樂 (1455) 七四三  
大梵天王 (1456) 七四三  
《科註》第五七七頁：  
《慧苑音義》 (1457) 七四四  
白檀 (1458) 七四四
- 
- 熱病 (1459) 七四四  
風腫 (1460) 七四五  
優鉢羅 (1461) 七四五  
《觀佛經》 (1462) 七四六  
戒香 (1463) 七四六  
《戒香經》 (1464) 七四六  
沈檀 (1465) 七四六  
龍麝 (1466) 七四六  
《科註》第五七八頁：  
丈六 (1467) 七四六  
八十隨形好 (1468) 七四七  
隨形好 (1469) 七四九  
《科註》第五七九頁：  
寶手 (1470) 七五〇
-

妙臂 (1471) 七五〇

五河 (1472) 七五〇

繒蓋 (1473) 七五一

伏藏 (680) 三六一

(圓滿成就第九)

《科註》第五八二頁：

法界 (一一) (821) 四三一

法界 (一) (548) 二八四

《科註》第五八三頁：

金剛王寶劍 (1474) 七五二

一大事因緣 (96) 五八

佛知見 (105) 六一

開示悟入 (106) 六一

《科註》第五八四頁：

南泉 (1475) 七五二

如如 (1378) 七〇八

如如智 (554) 二八九

《法華論疏》 (1476) 七五三

《法華經普賢勸發品》

(1477) 七五三

正定聚 (1536) 七八五

三聚 (1213) 六四五

《科註》第五八五頁：

一法句 (188) 一〇一一

器世間清淨 (1363) 七〇一一

眾生世間清淨

(1364) 七〇一一

《科註》第五八六頁：

毘首羯磨 (1478) 七五三

折伏為威，攝受為德

(1479) 七五四

廣大會 (1480) 七五四

密嚴世界 (1481) 七五五

《密嚴法藏疏》 (1482) 七五五

《科註》第五八七頁：

如來藏心 (1394) 七一五

蓮華藏世界 (1483) 七五五

《金剛頂經》 (1484) 七五五

《科註》第五八八頁：

《金剛破空論》 (1485) 七五六

法身 (175) 九五

《首楞嚴觀音圓通章》

(1486) 七五六

《科註》第五八九頁：

《信心銘》(1487) 七五六

垂迹(646) 二四六

法報化三身(1488) 七五七

《科註》第五九〇頁：

《法華壽量品》(756) 三九六

瀑(1489) 七五七

《科註》第五九一頁：

心量(350) 一九二

太清(1490) 七五七

《彌陀疏鈔》(53) 二二一

《科註》第五九二頁：

淨妙(1491) 七五七

五塵(1492) 七五八

四住惑(1493) 七五八

四聖六凡(1494) 七五八

應迹(1495) 七五九

八功德水(1627) 八三八

《像法決疑經》(1496) 七五九

《科註》第五九三頁：

勝應(1497) 七六一

劣應(1498) 七六三

《科註》第五九四頁：

智覺(1499) 七六三

總持教(1500) 七六三

三十七佛(1501) 七六三

五智(一)(1502) 七六五

法界清淨智(1503) 七六七

妙觀察智(1504) 七六七

《阿彌陀秘釋》(1505) 七六七

法界宮(1506) 七六八

甘露王(1507) 七六八

《科註》第五九五頁：

「阿字本不生」(1511) 七六九

空諦(1508) 七六八

假諦(1509) 七六九

中諦(1510) 七六九

本初不生(1511) 七六九

佛部(1512) 七七〇

法界(一)(821) 四三三

蓮華部 (1513) 七七〇  
金剛部 (1514) 七七二  
人法二我 (1515) 七七二  
生法 (1516) 七七二  
如如智 (554) 二八九  
《科註》第五九六頁：  
陀羅尼 (238) 一一一一  
《法華經化城喻品》  
(1517) 七七二  
《科註》第五九七頁：  
靈芝 《彌陀經義疏》  
(1518) 七七三  
一期 (1990) 一〇三七  
胎藏界 (1519) 七七三

金剛界 (1520) 七七五  
(皆願作佛第十)  
《科註》第六〇〇頁：  
阿闍王子 (1521) 七七七  
《科註》第六〇一頁：  
發菩提心 (212) 一一〇  
二種菩提心 (1180) 六二八  
《科註》第六〇二頁：  
法界身 (1522) 七七八  
迦葉佛 (690) 三六六  
《科註》第六〇四頁：  
發菩提心 (212) 一一〇  
二種菩提心 (1180) 六二八

《科註》第六〇五頁：  
弘法大師 (1523) 七七八  
法界 (一) (548) 二八四  
事事無礙 (74) 四二一  
《科註》第六〇六頁：  
一法句 (188) 一〇三  
法性身 (1524) 七七八  
善財童子採藥 (1525) 七七八  
(國界嚴淨第十一)  
《科註》第六〇七頁：  
碎身舍利 (1526) 七七九  
《科註》第六〇八頁：  
佛事 (231) 一一九

《科註》第六〇九頁：

十七種莊嚴 (1527) 七七九

尺蠖 (1528) 七八一

《科註》第六一〇頁：

胎獄 (1529) 七八二

四大 (1191) 六三四

五陰 (1530) 七八二

《科註》第六一一頁：

八難 (1531) 七八二

無想天 (1532) 七八四

北鬱單越 (1533) 七八四

中國 (1789) 九三二

暗啞 (1534) 七八四

《科註》第六一二頁：

點慧 (1535) 七八四

正定聚 (1536) 七八五

普光功德山王佛

(1537) 七八五

《義林章》 (1538) 七八五

《慧琳音義》 (1539) 七八五

他化自在天 (1540) 七八六

波旬 (1541) 七八七

留難 (1542) 七八八

《科註》第六一三頁：

四魔 (1543) 七八八

無生法忍 (150) 八一

《淨土修證儀》 (1544) 七八九

十乘之理觀 (1545) 七八九

九境之魔事 (1546) 七九六

《科註》第六一四頁：

法本 (1547) 八〇〇

法海 (1548) 八〇〇

《科註》第六一五頁：

須彌 (1549) 八〇〇

四寶 (1550) 八〇一

九山八海 (1551) 八〇一

南瞻部洲 (1552) 八〇四

《科註》第六一六頁：

七寶 (1553) 八〇四

琉璃 (1554) 八〇六

琥珀 (1555) 八〇六

瑪瑙 (1556) 八〇六

---

玻璃 (1557) 八〇七  
碑礫 (1558) 八〇七  
赤珠 (1559) 八〇七  
頗黎 (1560) 八〇八  
珊瑚 (1561) 八〇八  
**《科註》第六一八頁：**  
耦 (1562) 八〇八  
**《科註》第六一九頁：**  
忉利天 (1563) 八〇八  
四天王天 (587) 二一〇六  
夜摩 (1564) 八〇九  
地居天 (1565) 八一〇  
空居天 (1566) 八一〇  
**《科註》第六二〇頁：**

---

三界 (965) 五〇五  
色界諸天 (1567) 八一〇  
無色界諸天 (1568) 八一〇  
**《俱舍光記》(1569)八一〇**  
**《有部毘奈耶》(1570)八一〇**  
**《科註》第六二二頁：**  
果報 (1571) 八一三  
**《科註》第六二三頁：**  
遮抑 (1572) 八一四  
臨濟 (1573) 八一四  
六道神光 (1574) 八一六  
**《科註》第六二四頁：**  
五種力 (1575) 八一六

---

發菩提心 (212) 一一〇  
二種菩提心 (1180) 六一八  
定散二善 (317附) 一七三  
(光明遍照第十一)  
**《科註》第六二七頁：**  
內證 (1576) 八一七  
**《科註》第六三〇頁：**  
念佛三昧 (210) 一一〇  
《九品往生阿彌陀三摩地集陀  
羅尼經》(1577) 八一八  
大曼陀羅 (2190) 一一六三  
三明 (615) 三三六  
有量諸相 (1578) 八一八

---

真實明 (1579) 八一八	道光 (1582) 八一九	三寶 (2191) 一一六三
大慧 (1234) 六五九	三種莊嚴 (460) 一一四一	道品 (1588) 八一〇
<b>《科註》第六三二頁：</b>	二十九種莊嚴(1858)九六〇	<b>《科註》第六三七頁：</b>
如來家 (1292) 六八一	一法句 (188) 一〇三	三善根 (2192) 一一六四
光輪 (1580) 八一九	密號 (1583) 八一九	<b>《科註》第六三八頁：</b>
涅槃三德 (268) 一四〇	三善根 (2192) 一一六四	慚愧 (1589) 八一〇
中道 (401) 一一一五	感 (1584) 八一九	信伏 (1590) 八一一
第一義諦 (303) 一六〇	遐 (1585) 八一一〇	三途 (1591) 八一一
光雲 (1581) 八一九	<b>《科註》第六二四頁：</b>	<b>《科註》第六二九頁：</b>
<b>《科註》第六三二頁：</b>	一曜 (1586) 八一一〇	《般若讚》 (1592) 八一一
絕待 (110) 六六	鐵圍山 (375) 一一〇一一	追善 (1593) 八一一
三善根 (2192) 一一六四	<b>《科註》第六三五頁：</b>	唐捐 (653) 三四八
無明 (245) 一一八	《鼓音聲王陀羅尼經》	
<b>《科註》第六三三頁：</b>	(1587) 八一一〇	

(壽眾無量第十三)

《科註》第六四二頁：

不動 (2193) 一一六五

廣狹自在之玄門

(1603) 八二六

事事無礙 (74) 四二一

陶家輪 (1594) 八二二

《科註》第六四四頁：

微塵 (1395) 七一五

《科註》第六四六頁：

淨華眾 (1595) 八二三

正覺華 (1596) 八二三

(寶樹徧國第十四)

《科註》第六四八頁：

一切妙寶皆彌陀性德所本具

(2194) 一一六五

圓明具德 (2195) 一一六五

《科註》第六四九頁：

無漏 (1597) 八二四

無生 (2196) 一一六五

圓圖 (201) 一〇七

《科註》第六五〇頁：

五音聲 (1598) 八二四

變宮 (1599) 八二五

變徵 (1600) 八二五

(菩提道場第十五)

《科註》第六五一頁：

道場 (1601) 八二五

《科註》第六五二頁：

宴坐 (86) 五二一

菩提樹 (1602) 八二六

廣狹自在之玄門

(1603) 八二六

《科註》第六五五頁：

鸞 (1604) 八二六

《科註》第六五六頁：

小煩惱地法 (1605) 八二七

大煩惱地法 (1606) 八二七

根本煩惱 (1608) 八二九

《科註》第六五七頁：

二十隨煩惱 (1607) 八二七

根本煩惱 (1608) 八二九

隨煩惱 (1609) 八三〇

《科註》第六五八頁：

大覺 (1683) 八六四

三種忍 (1610) 八三〇

《科註》第六五九頁：

言詮 (1611) 八三一

無功用 (1288) 六七九

淳 (1612) 八三一

《賢劫經》 (1613) 八三一

《華嚴十忍品》 (1614) 八三一

《如來興顯經》 (1615) 八三一

十忍 (1616) 八三一

《科註》第六六一頁：

大寶海 (1617) 八三三

(堂舍樓觀第十六)

《科註》第六六三頁：

《新譯華嚴經音義》

(1618) 八三三

明月珠 (1619) 八三四

《科註》第六六四頁：

經行 (1620) 八三四

《科註》第六六五頁：

經 (1621) 八三五

綃 (1622) 八三五

依正二報四種莊嚴

(2197) 一一六六

禪那 (1623) 八三五

《科註》第六六六頁：

瀑流 (1624) 八三六

斷三界之見惑

(2198) 一一六七

欲界九品思惑(1625)八三七

無餘涅槃 (926) 四八八

《科註》第六六七頁：

發菩提心 (212) 一一〇

二種菩提心 (1180) 六一八

小本《慈恩疏》

(1626) 八三七

(泉池功德第十七)

《科註》第六七〇頁：

八功德水 (1627) 八三八

瓜蔓 (1628) 八三九

《科註》第六七二頁：

阿耨達池 (1629) 八三九

《科註》第六七四頁：

法華三止說 (1058) 五四九

止止不須說 (1059) 五四九

《科註》第六七六頁：

大行 (1630) 八三九

《止觀輔行》(1631) 八四〇

法界 (一一) (821) 四三一

止觀 (320) 一七四

清涼 (1632) 八四一

《科註》第六七七頁：

十力 (1633) 八四一

無所畏 (1634) 八四三

三種無性 (1635) 八四四

遍計所執性 (1636) 八四五

依他起性 (1637) 八四六

《科註》第六七八頁：

圓成實性 (1638) 八四六

《原人論》(1639) 八四六

《科註》第六七九頁：

《十地經論》(1640) 八四七

無我智 (1641) 八四七

四無量心 (1642) 八四八

《光明文句》(1643) 八四九

《秘藏記》(810) 四二六

《科註》第六八一頁：

《法華科註》(1644) 八四九

《華嚴論》(1645) 八四九

《科註》第六八二頁：

佛事 (231) 一一九

《科註》第六八三頁：

增上緣 (1129) 五九九

(超世希有第十八)

《科註》第六八五頁：

天人不動眾 (1646) 八五〇

《科註》第六八七頁：

轉輪聖王 (774) 四〇七

帝釋天王 (702) 三七〇

《科註》第六八八頁：

他化自在天 (1540) 七八六

《科註》第六八九頁：

「六神通」 (614) 三二五

(受用具足第十九)

《科註》第六九一頁：

《稱讚淨土佛攝受經》

(107) 六四

方便智 (1911) 九九二

《科註》第六九二頁：

根本智 (830) 四二四

《科註》第六九三頁：

鉢多羅 (1647) 八五〇

歡喜丸 (1648) 八五一

《科註》第六九四頁：

日月燈明佛 (1649) 八五一

《科註》第六九八頁：

十玄門 (439) 一一三一一

事事無礙 (74) 四一一

五濁 (22) 一一三

(德風華雨第二十)

《科註》第六九九頁：

八種清風 (1650) 八五二

《科註》第七〇〇頁：

《莊子齊物論》(1651) 八五二

人籟 (1652) 八五二

比竹 (1653) 八五二

地籟 (1654) 八五二

眾竅 (1655) 八五二

天籟 (1656) 八五三

非常、苦、空、非我

(1657) 八五三

四諦十六行相

(2158) 一一二九

我所見 (1658) 八五三

我見 (1659) 八五三

《科註》第七〇一頁：

三有 (796) 四一六

二邊 (2167) 一一四九  
四句 (1660) 八五四  
五法 (1661) 八五四  
名句 (1662) 八五五  
愛染 (1663) 八五五  
《科註》第七〇二頁：  
滅盡定 (1664) 八五六  
六識 (1665) 八五七  
不還果 (1666) 八五八  
《科註》第七〇三頁：  
五音聲 (1598) 八二四  
兜羅縣 (1667) 八五八  
白疊 (1668) 八五九  
《科註》第七〇四頁：

曼陀羅華 (1669) 八五九  
六時 (1670) 八六〇  
後夜 (1671) 八六〇  
《沙彌十戒儀則經》  
(1672) 八六〇  
《科註》第七〇五頁：  
慈恩 (1673) 八六〇  
《彌陀通贊》 (1674) 八六一  
曙 (1675) 八六一  
(寶蓮佛光第二十一)  
《科註》第七〇六頁：  
安立 (1676) 八六一  
《科註》第七一〇頁：

事事無礙 (74) 四二一  
《科註》第七一一頁：  
無為法身 (189) 一〇四  
(決證極果第二十二)  
《科註》第七一二頁：  
如如 (1378) 七〇八  
極果 (1677) 八六三  
《科註》第七一三頁：  
精光 (1678) 八六三  
《科註》第七一四頁：  
境智 (715) 三七六  
《科註》第七一五頁：  
鵠的 (1165) 六一一

五無間業 (1679) 八六三

《釋摩訶衍論》(1680)八六三

三賢 (1681) 八六三

十聖 (1682) 八六四

大覺 (1683) 八六四

《科註》第七一六頁：

滅度 (859) 四五六

涅槃界 (1684) 八六五

一法句 (188) 一〇三

無為法身 (189) 一〇四

《科註》第七一七頁：

發菩提心 (212) 一一〇

二種菩提心 (1180) 六一八

具縛(65) 三六

(十方佛讚第二十三)

《科註》第七一九頁：

廣長舌相 (1685) 八六五

《阿彌陀經略解》

(1686) 八六六

大佑 (412) 一一九

四過 (1687) 八六六

《科註》第七二〇頁：

梵世 (1688) 八六六

敦 (11) (1689) 八六六

獅子吼 (1420) 七二五

無所畏 (1634) 八四三

《科註》第七二二頁：

佛願生起本末(1690)八六六

《科註》第七二三頁：

高齊 (1691) 八六七

教詔 (1692) 八六七

八難 (1531) 七八二

現生十種益 (1693) 八六七

《成唯識論》(1694) 八六九

樂欲 (1695) 八六九

染法 (1696) 八七〇

《科註》第七二四頁：

禪宗三祖 (1697) 八七〇

《科註》第七二五頁：

迴向 (1698) 八七〇

深心 (223) 一一六

他力迴向 (1699) 八七一

不迴向 (1700) 八七一

想顛倒、見顛倒、心顛倒

(1701) 八七二

《科註》第七二六頁：

歸元 (33) 110

(三輩往生第二十四)

《科註》第七二八頁：

宿根 (1702) 八七二

發菩提心 (212) 110

二種菩提心 (1180) 六二八

明鑒 (1703) 八七二

《略論》 (1704) 八七二

《無量壽觀經》 (1705) 八七二

《科註》第七二九頁：

嘉祥《觀經疏》(1706) 八七三

天臺《觀經疏》(1707) 八七三

靈芝 (220) 115

元照 (468) 1150

孤山 (1708) 八七四

會通 (1709) 八七五

草庵 (1710) 八七五

《輔正解》 (1711) 八七六

《科註》第七三〇頁：

《報恩論》 (518) 1168

《科註》第七三一頁：

戲論 (321) 1175

《四帖疏》 (153) 八五

定善 (317) 1173

《科註》第七三三頁：

《觀經》十則 (2201) 1170

《無量壽經鈔》 (1306) 六八五

《遊心安樂道》 (540) 1176

玄暉師 (1712) 八七六

《科註》第七三四頁：

愛渴 (1713) 八七七

沙彌戒 (1714) 八七七

《科註》第七三五頁：

韋提希夫人 (1715) 八七八

大權 (243) 1117

諸佛現前三昧

(2070) 1068

《科註》第七三六頁：

劉遺民 (1716) 八八〇

緇素 (1717) 八八一

廬山遠公 (1718) 八八一

佛陀耶舍 (1719) 八八二

慧持 (1720) 八八三

慧永 (1721) 八八四

善財參五十二善知識

(1722) 八八五

噶居派 (1723) 八八九

金粟如來 (1724) 八九九

《科註》第七三八頁：

《安樂集》 (214) 一一二

道綽 (479) 一一五二

《科註》第七三九頁：

諸有 (1725) 九〇〇

菩提有三種 (1726) 九〇〇

天真 (1727) 九〇一

《科註》第七四〇頁：

五祖 (1728) 九〇一

迴 (1729) 九〇二

發菩提心 (212) 一一〇

二種菩提心 (1180) 六二八

運度 (1730) 九〇二

《科註》第七四一頁：

析 (1731) 九〇三

傅大士 (552) 一一八八

《心王銘》 (1732) 九〇三

膠清 (1733) 九〇四

心王 (1734) 九〇四

《科註》第七四二頁：

《心燈錄》 (1735) 九〇四

《科註》第七四三頁：

《諸法無行經》 (1736) 九〇四

法執 (1737) 九〇四

四句門 (2199) 一一七〇

真俗二諦 (85) 五〇

《科註》第七四五頁：

參究 (1738) 九〇五

念佛三昧 (210) 一一〇

伊蘭 (1739) 九〇五

牛頭梅檀 (1740) 九〇五

《科註》第七四六頁：

三障 (1741) 九〇六

《大悲經》 (1742) 九〇六

《稱揚諸佛功德經》

(1743) 九〇七

《科註》第七四八頁：

禮拜、作願、迴向等念門

(1744) 九〇七

往生 (1745) 九〇七

大悲 (11) (1746) 九〇八

準提 (1747) 九一〇

百為 (1748) 九一一

《梵室偶談》 (1749) 九一一

《彌陀圓中鈔》 (55) 三一一

《科註》第七四九頁：

《法華》、《大悲》、《光

明》、《彌陀》、《楞嚴》

等懺 (1750) 九一一

《科註》第七五一頁：

發菩提心 (212) 一一〇

二種菩提心 (1180) 六二八

無為 (907) 四八〇

六度 (1187) 六三一一

六念 (1751) 九一五

《科註》第七五三頁：

《胎經》 (1752) 九一七

庵羅樹女 (1753) 九一七

智慧箭 (1754) 九一八

智慧劍 (1755) 九一八

《科註》第七五四頁：

嘉祥《義疏》 (1756) 九一八

百法明門 (1757) 九一九

《科註》第七五五頁：

授手 (1758) 九一九

第一義 (1759) 九二〇

合掌叉手 (1760) 九二〇

法子 (1761) 九二一一

《科註》第七五七頁：

心宗 (1762) 九二一一

悉檀 (1763) 九二一一

世智辯聰 (1764) 九二一一

通儒 (1765) 九二一一

禪客 (1766) 九二二	(1774) 九二七	審訥 (1785) 九三二
《科註》第七五八頁：	窞堵波 (1775) 九二八	《百緣經》 (1786) 九三二
菹 (1767) 九二二	安塔有其三義 (1776) 九二八	《施燈功德經》 (1787) 九三二
穉 (1768) 九二二	舍利 (一) (1777) 九二九	《科註》第七六一頁：
頑空 (171) 九二	沉水 (1778) 九二九	《陀羅尼集經》 (1788) 九三二
《科註》第七五九頁：	木檜 (1779) 九二九	四眾 (606) 三二八
齋戒 (1769) 九二二	優填王 (1780) 九三〇	中國 (1789) 九三二
《四分律音義》 (1770) 九二二	《科註》第七六一頁：	邊地 (1790) 九三二
《科註》第七六〇頁：	《造像功德經》 (1781) 九三〇	天樹王 (1791) 九三二
《南山業疏》 (1771) 九二二	麤 (1782) 九三〇	《科註》第七六二頁：
八齋戒 (1772) 九二四	《六波羅蜜多經》	慈照宗主 (1792) 九二四
抱渴而死，弗飲水蟲	(1783) 九三〇	《科註》第七六七頁：
(1773) 九二六	以食施者，當施五事	《覺經》 (1793) 九三五
被繫而終，無傷草葉	(1784) 九三一	《科註》第七六九頁：

《鼓音王經》(1794) 九三五

如來有十種佛事

(1795) 九三五

《科註》第七七〇頁：

掃蕩 (1796) 九三六

大圓鏡智 (1797) 九三六

海印三昧 (888) 四七〇

海印三昧有十義

(2153) 一一一三三

光明藏 (1346) 六九七

《科註》第七七三頁：

發菩提心 (212) 一一〇

二種菩提心 (1180) 六二八

不定性 (1184) 六三〇

菩薩性 (1185) 六三一

破參 (1798) 九三七

中峰 (1799) 九三八

《科註》第七七五頁：

鞞 (1800) 九三八

《那先經》(1801) 九三八

念佛三昧 (210) 一一〇

達摩 (1802) 九三八

幸西 (1803) 九三九

《科註》第七七六頁：

繇 (1804) 九四〇

憊摩 (1805) 九四〇

《科註》第七七七頁：

《無量壽經宗要》

(1806) 九四〇

《念佛三昧寶王論》

(1807) 九四〇

《科註》第七七八頁：

一形 (1808) 九四一

《遺日摩尼寶經》

(1809) 九四一

滅除藥鼓 (1810) 九四二

《科註》第七七九頁：

有間 (1811) 九四二

刀風 (1812) 九四二

臘印 (1813) 九四三

印壞文成 (1814) 九四三

《科註》第七八〇頁：

誑語 (1815) 九四三

《科註》第七八一頁：

一切智 (1241) 六六四

佛智 (1816) 九四四

自然智 (1817) 九四四

無師智 (1818) 九四五

如來知見 (1819) 九四五

《中阿含經》 (1820) 九四五

三明 (615) 三二六

《科註》第七八二頁：

結使 (881) 四六四

慈雲懺主 (1821) 九四五

《科註》第七八五頁：

四重 (291) 一五五

謗法闡提 (1174) 六一五

《科註》第七八六頁：

《法鼓經》 (1822) 九四六

(往生正因第二十五)

《科註》第七八七頁：

十善業 (1823) 九四六

三歸 (1824) 九四六

威儀 (1825) 九四七

大乘方等經典 (1826) 九四八

六念 (1751) 九一五

《科註》第七八八頁：

《觀經約論》 (1827) 九四八

津濟 (1828) 九四八

《科註》第七九二頁：

十善 (1829) 九四九

十善因果 (2159) 一一三〇

十惡因果 (2160) 一一三三

十惡十善之增上果

(2161) 一一三九

搆 (1830) 九五〇

不淨觀 (1831) 九五〇

《科註》第七九三頁：

《十善戒經》 (1832) 九五二

五念門 (1833) 九五二

《科註》第七九四頁：

志心 (1834) 九五二

歸命 (1835) 九五二

《科註》第七九六頁：

《輔行》(1836) 九五三

《科註》第七九七頁：

貪饗(1837) 九五三

(禮供聽法第二十六)

《科註》第八〇五頁：

通力(1838) 九五四

極微(2202) 一一七二

取著(1839) 九五四

勝義空(1840) 九五五

《科註》第八〇六頁：

二種供養(1841) 九五五

《科註》第八〇七頁：

清辯(1842) 九五六

一法句(188) 一〇三

無為法身(189) 一〇四

《科註》第八〇八頁：

赤銅(1843) 九五六

《科註》第八〇九頁：

《望西疏》(1844) 九五六

《科註》第八一〇頁：

駭動(1845) 九五六

法雷(1846) 九五六

法無礙智(1847) 九五六

八音(1848) 九五六

《梵摩喻經》(1849) 九五八

入律(1850) 九五八

九十五種外道(1851) 九五八

《科註》第八一二頁：

三者不可說法

(2203) 一一七二

絕澗(1852) 九五八

《科註》第八一三頁：

園觀(1853) 九五八

《科註》第八一四頁：

裴休(1854) 九五八

《法華玄義》(1855) 九五九

《科註》第八一六頁：

世諦(302) 一五九

二智(1856) 九五九

四句(1660) 八五四

三空 (1857) 九六〇

二十九種莊嚴 (1858) 九六〇

《科註》第八一七頁：

妙心 (1859) 九六一

《科註》第八一八頁：

顯加 (1860) 九六三

冥應 (1861) 九六三

(歌嘆佛德第二十七)

《科註》第八二四頁：

如來三種圓德 (1862) 九六四

《科註》第八二五頁：

須臾 (1189) 六三三

《科註》第八二六頁：

四果 (1863) 九六五

有餘涅槃 (1864) 九六六

(大士神光第二十八)

《科註》第八三〇頁：

簡 (1865) 九六八

《科註》第八三一頁：

法藏 (一) (1866) 九六八

如幻聞熏聞修金剛三昧

(1867) 九六九

聞思修 (1868) 九六九

《科註》第八三二頁：

脇士 (659) 三三〇

《科註》第八三三頁：

《法華經普門品》

(1869) 九七〇

(願力宏深第二十九)

《科註》第八三四頁：

一生補處 (1240) 六六三

《科註》第八三七頁：

一法 (1870) 九七一

《科註》第八三八頁：

十玄門 (439) 一三三

事事無礙 (74) 四二

《科註》第八四〇頁：

導師 (229) 一一八

(菩薩修持第三十)

《科註》第八四二頁：

《二教論》(1871) 九七一

《僧史略》(1872) 九七一

陀羅尼(2164) 一一四六

《科註》第八四四頁：

舍利弗瞋恚餘習

(1873) 九七二

難陀淫欲餘習(1874) 九七三

畢陵伽婆蹉慢餘習

(1875) 九七五

七覺分(1876) 九七六

簡擇(1877) 九七七

粗重(1878) 九七七

《科註》第八四五頁：

法喜(1879) 九七八

諸見(1880) 九七八

念著(1881) 九七九

兩楹(1882) 九七九

八正道(1883) 九七九

《雜集》(1884) 九八〇

《科註》第八四六頁：

無漏智(1885) 九八〇

五種邪命(1886) 九八一

八正道(1883) 九七九

不思議解脫門

(1887) 九八一

文證(1888) 九八二

卅七道品(1889) 九八二

《淨名》(1890) 九八五

觀智(1891) 九八五

《科註》第八四七頁：

真空(1892) 九八五

三諦(1433) 七三二

天住(1893) 九八五

《科註》第八四八頁：

欲性(1894) 九八五

《科註》第八四九頁：

一異(1895) 九八六

了了見(1896) 九八六

了因佛性(1897) 九八六

《科註》第八五一頁：

導源 (1898) 九八八

《科註》第八五五頁：

《金剛三昧經》(1899)九八八

理人、行人 (1900) 九八八

行人則有四者

(1901) 九八八

無所求行 (1902) 九九〇

違怨 (1903) 九九〇

《科註》第八五七頁：

無礙智 (1904) 九九〇

五法 (1661) 八五四

《科註》第八五八頁：

四無礙智 (889) 四七二

《維摩經弟子品》

(1905) 九九〇

《科註》第八五九頁：

斷滅 (172) 九三

第一義空 (292) 一五六

正使 (1906) 九九〇

果縛 (1907) 九九一

《科註》第八六一頁：

無分別智 (1147) 六一一

生死輪 (1908) 九九一

《科註》第八六二頁：

《仁王良賁疏》(1909)九九一

《維摩慧遠疏》(1910)九九一

方便智 (1911) 九九二

權化 (1912) 九九二

胎藏鬘荼羅 (1913) 九九二

八葉 (1914) 九九五

開敷 (1915) 九九五

心蓮 (1916) 九九五

《科註》第八六四頁：

無師智 (1818) 九四五

從門入者，不是家珍

(1917) 九九五

(真實功德第三十一)

《科註》第八六六頁：

三無差別 (555) 二八九

《科註》第八六八頁：

《罪福報應經》(1918)九九六

《阿惟越致遮經》

(1919) 九九六

金剛智(一) (1242) 六六五

《諸部要目》 (1920) 九九六

斷常 (1921) 九九六

十六菩薩 (1922) 九九七

十六空 (1923) 九九八

五佛 (1924) 一〇〇〇

五智 (一) (1502) 七六五

十波羅蜜 (1925) 一〇〇一

十種煩惱 (1926) 一〇〇六

十種真如 (1927) 一〇〇六

十地 (1928) 一〇〇七

金剛般若 (1929) 一〇〇九

《科註》第八六九頁：

《天臺淨名疏》

(1930) 一〇〇九

《圓覺經集註》

(1931) 一〇一〇

《大莊嚴法門經》

(1932) 一〇一〇

九十五種外道(1851)九五八

《百論》 (1933) 一〇一〇

《科註》第八七一頁：

《梵網經》 (1934) 一〇一〇

《科註》第八七二頁：

勝幢 (1935) 一〇一一

杲 (1936) 一〇一一

三慧 (1937) 一〇一一

《科註》第八七五頁：

懼怖 (1938) 一〇一一

四弘願 (216) 一一一一

親因 (1939) 一〇一一

《科註》第八七六頁：

《優婆塞戒經》

(1940) 一〇一一

三福田 (1941) 一〇一一

《科註》第八七七頁：

《法華經授記品》

(1942) 一〇一一

《科註》第八七九頁：

有餘涅槃 (1864) 九六六

道場 (1601) 八二五

(壽樂無極第三十一)

《科註》第八八五頁：

後漢《左雄傳》

(1943) 10111

《科註》第八八六頁：

客塵 (1944) 10114

《科註》第八八七頁：

聖言量 (1945) 10114

《科註》第八八八頁：

靈光 (1946) 10114

斷常 (1921) 九九六

《科註》第八九〇頁：

三業 (1947) 10114

《科註》第八九一頁：

百丈 (1948) 10115

《寶鏡三昧》 (1949) 10115

主中主 (1950) 10116

毘盧舍那 (239) 11111

無心三昧 (1951) 10116

高峰 (1952) 10116

關捩子 (1953) 10117

狂人迷失本頭

(1954) 10117

《科註》第八九二頁：

膠清 (1733) 九〇四

曹山 (1955) 10118

《科註》第八九三頁：

湛愚老人 (1956) 10118

櫛柄 (1957) 10119

《科註》第八九四頁：

一法句 (188) 10111

無為法身 (189) 10114

《起世因本經》

(1958) 10119

《科註》第八九六頁：

如如 (1378) 七〇八

如如智 (554) 11819

《科註》第八九九頁：

見思二惑 (257) 11115

修惑 (1959) 10119

《科註》第九〇〇頁：

眇 (1960) 10119

《科註》第九〇一頁：

蓋纏 (1961) 10119

(勸諭策進第三十三)

《科註》第九〇四頁：

安下 (1962) 10111

抵 (1963) 10111

炎炎 (1964) 10111

饒足 (1965) 10111

《科註》第九〇五頁：

陽炎 (1966) 10111

翳 (1967) 10114

《科註》第九〇九頁：

和敬 (1968) 10114

顰蹙 (1969) 10116

《科註》第九一〇頁：

琉璃王為報宿怨，欲盡

殺釋種 (1970) 10117

《科註》第九一二頁：

滓 (1971) 10118

出家味 (2204) 11733

《科註》第九一四頁：

矇 (1972) 10118

《科註》第九一六頁：

迭相 (1973) 10118

《科註》第九一七頁：

純情 (2205) 11733

《科註》第九一八頁：

窈冥 (1974) 10119

《科註》第九二〇頁：

心師 (1975) 10119

師心自用 (1976) 10119

(心得開明第三十四)

《科註》第九二二頁：

《韻會》 (1977) 10119

《俱舍界品頌疏》

(1978) 10119

誠勗 (1979) 10110

要津 (1980) 10110

《科註》第九二四頁：

佛知見 (105) 六一

從文字般若而起觀照，入於

實相 (1981) 1〇二〇

三門 (1982) 1〇二二

善見藥 (1983) 1〇二二

《科註》第九二五頁：

驀直 (326) 一八〇

念佛三昧 (210) 11〇

《科註》第九二八頁：

《觀佛三昧海經》

(1984) 1〇二二

三十六物 (1985) 1〇二二

惡露 (1986) 1〇二二

五種不淨 (1987) 1〇三四

《十疑論》 (1988) 1〇三五

七種不淨 (1989) 1〇三六

《科註》第九三一頁：

一期 (1990) 1〇三七

藥 (1991) 1〇三七

三明 (615) 二二六

《科註》第九三二頁：

懈怠國 (1992) 1〇三七

惡作 (1993) 1〇三八

《大阿彌陀經》 (48) 二七

(濁世惡苦第三十五)

《科註》第九三七頁：

太賢 (1994) 1〇三八

《科註》第九三八頁：

《經音義》 (1995) 1〇三八

《科註》第九四〇頁：

易 (1996) 1〇三八

杻械 (1997) 1〇三八

《科註》第九四一頁：

阿賴耶 (1998) 1〇三九

八大地獄 (1999) 1〇四〇

蜉蝣 (2000) 1〇四〇

《科註》第九四二頁：

《等不等觀雜錄》

(2001) 1〇四〇

《科註》第九四四頁：

- 賄 (2002) 1040  
 巧佞 (2003) 1040  
 巧言令色 (2004) 1040  
**《科註》第九四五頁：**  
 明哲 (2005) 1041  
**《科註》第九四六頁：**  
 命根 (2006) 1041  
**《科註》第九四七頁：**  
**《晉譯華嚴經》**  
 (2007) 1041  
**《科註》第九四八頁：**  
 俱生神 (2008) 1041  
**《藥師經》** (2009) 1041  
**《五戒經》** (2010) 1041  
 三覆八校 (2011) 1042  
 八日 (2012) 1044  
 六齋日 (2013) 1045  
 種子識 (2014) 1046  
**《科註》第九四九頁：**  
 共業 (2015) 1047  
 別業 (2016) 1047  
**《科註》第九五〇頁：**  
 劫 (2017) 1048  
 娣 (2018) 1048  
**《沙彌律》** (2019) 1048  
**《瑜伽論》** (2020) 1048  
**《訶欲經》** (2021) 1049  
**《科註》第九五二頁：**  
 應法 (2022) 1049  
**《四分律》** (2023) 1049  
 遺扇 (2024) 1050  
**《科註》第九五四頁：**  
 南山 (11) (2025) 1050  
 行基 (2026) 1050  
 非人 (2027) 1050  
**《科註》第九五五頁：**  
 大妄語 (2028) 1051  
**《科註》第九五七頁：**  
 簡牘 (2029) 1051  
**《科註》第九六〇頁：**  
**《顯揚大戒論》**  
 (2030) 1051

《科註》第九六二頁：

闡提 (399) 1114

《法華疏記》(2031) 10511

「六和敬」(1968) 10114

《科註》第九六四頁：

器界 (2032) 10511

《科註》第九六七頁：

三德 (11) (2033) 10511

廣額屠兒 (2034) 10511

《科註》第九六八頁：

鳥窠禪師 (2035) 10511

吹毛示弟子(2206) 1175

何啻 (2036) 10514

妙宗鈔 (2037) 10514

法界 (821) 4111

(重重誨勉第三十六)

《科註》第九七〇頁：

業病 (2038) 10515

《科註》第九七三頁：

《遺教經》(1406) 7110

《科註》第九七四頁：

斷割 (2039) 10516

心憐 (2040) 10516

《科註》第九七五頁：

二慧 (從聞而思，從思起修)

(1937) 10111

《科註》第九七六頁：

耳根圓通 (2041) 10516

聞思修 (1868) 969

《科註》第九七七頁：

五欲 (11) (2042) 10517

五箭 (2043) 10518

《科註》第九七八頁：

四攝法 (1423) 7116

(如貧得寶第三十七)

《科註》第九七九頁：

「攝折」(1479) 7514

八齋戒 (1772) 9114

《科註》第九八〇頁：

文殊師利授記會

(2044) 1058

《善生經》 (2045) 1058

五滓 (2046) 1058

《科註》第九八二頁：

五時說法 (311) 162

半字教、滿字教

(2047) 1059

《科註》第九八六頁：

丘 (2048) 1060

風雹 (2049) 1060

厲 (2050) 1060

陸沉 (2051) 1060

偃武修文 (2052) 1060

《科註》第九八七頁：

厚往薄來 (2053) 1060

五善 (2054) 1061

塵勞 (267) 140

《科註》第九八八頁：

正法五百年，像法千歲，末

法萬歲 (2055) 1061

《科註》第九八九頁：

塗毒鼓 (2056) 1061

(禮佛見光第三十八)

《科註》第九九一頁：

烏托邦 (2057) 1061

《科註》第九九二頁：

足指按地 (2058) 1061

如我按指，海印發光

(2207) 1175

《科註》第九九三頁：

海印三昧 (888) 470

閻浮檀金 (2059) 1063

海印三昧有十義

(2153) 1113

《科註》第九九五頁：

五念門 (1833) 951

六朝 (2208) 1175

襄陽石經 (467) 149

《科註》第九九七頁：

《七佛神咒經》

(2060) 1064

《科註》第九九八頁：

壞劫 (1383) 七一〇  
三災 (1384) 七一〇  
水輪 (2061) 一〇六四  
第二禪天 (2062) 一〇六四  
「文選」 (446) 一一三六  
潘岳 (2063) 一〇六五  
昆明池 (2209) 一一七六  
湯湯 (2064) 一〇六五  
《科註》第一〇〇〇頁：  
藥叉 (2065) 一〇六五  
苾芻 (643) 二二四四  
天龍八部 (605) 二二一六  
人非人 (2066) 一〇六五

《科註》第一〇〇一頁：

十山王 (2067) 一〇六五  
《科註》第一〇〇一頁：  
四寶 (1550) 八〇一  
《科註》第一〇〇二頁：  
箜篌 (2068) 一〇六七  
《科註》第一〇〇四頁：  
帝網 (407) 一一一七  
《科註》第一〇〇五頁：  
四悉檀 (2069) 一〇六七  
《科註》第一〇〇六頁：  
諸佛現前三昧  
(2070) 一〇六八  
《佛說如幻三摩地無量印法門

經》(2071) 一〇六八

十往生經 (142) 七九  
山海慧如來 (1155) 六一六  
四悉檀 (2069) 一〇六七  
《科註》第一〇〇七頁：  
目眚 (2072) 一〇六八  
(慈氏述見第三十九)  
《科註》第一〇〇九頁：  
「八十一品思惑」  
(1625) 八二二七  
淨居有五天(2073) 一〇六九  
《俱舍頌》(2074) 一〇七〇  
異生 (2075) 一〇七〇

《科註》第一〇一三頁：

五智 (二) (2076) 一〇七一

(邊地疑城第四十)

《科註》第一〇一五頁：

《守護國界主經》

(2077) 一〇七一

《菩薩處胎經》

(2078) 一〇七一

《科註》第一〇一六頁：

四智 (2079) 一〇七二

《科註》第一〇一七頁：

本識 (2080) 一〇七二

《科註》第一〇一九頁：

離四句，絕百非(186) 一〇二

四句 (1660) 八五四

比量 (2081) 一〇七三

《科註》第一〇一二頁：

六信 (2082) 一〇七四

《科註》第一〇一二頁：

無我我所 (2083) 一〇七五

心量 (350) 一九二

《科註》第一〇一三頁：

妙喜世界 (351) 一九二

《科註》第一〇一六頁：

袁中郎宏道居士

(2084) 一〇七五

《西方合論》(2085) 一〇七七

(惑盡見佛第四十一)

《科註》第一〇三二頁：

粗苦 (2086) 一〇七七

《科註》第一〇三五頁：

婆伽梵 (2087) 一〇七八

《千手經》(2088) 一〇七九

二十五菩薩 (143) 八〇

《科註》第一〇三七頁：

後有 (2089) 一〇七九

《科註》第一〇三九頁：

八難 (1531) 七八二

《科註》第一〇四〇頁：

須菩提 (2090) 一〇七九

《破空論》(2091) 一〇八〇

《科註》第一〇四二頁：

十相 (2092) 一〇八〇

《演密鈔》(2093) 一〇八〇

《科註》第一〇四三頁：

法界 (一一) (821) 四三一

介爾 (31) 一九

(菩薩往生第四十二)

《科註》第一〇四五頁：

輕毛 (1309) 六八六

《科註》第一〇四八頁：

龍樹 (323) 一七六

婆藪槃頭 (2094) 一〇八一

此難 (2095) 一〇八一

《科註》第一〇四九頁：

火車 (2096) 一〇八一

法照 (2097) 一〇八一

正遍知海 (2098) 一〇八四

慧日 (一一) (2099) 一〇八五

健馱羅國 (2100) 一〇八六

《無量壽論》(2101) 一〇八六

天如 (2102) 一〇八七

楚石 (2103) 一〇八七

《科註》第一〇五一頁：

初善，中善，後善

(2104) 一〇八九

《黑谷大經釋》(163) 九〇

(非是小乘第四十三)

《科註》第一〇五三頁：

《選擇集》(2105) 一〇八九

《科註》第一〇五四頁：

三無差別 (555) 二八九

六朝 (2208) 一一七五

襄陽石經 (467) 二四九

親因緣 (2106) 一〇九〇

等無間緣 (2107) 一〇九一

所緣緣 (2108) 一〇九二

大白牛車 (562) 二九三

(受菩提記第四十四)

《科註》第一〇五九頁：

青龍《仁王經疏》

(2109) 10931

《科註》第1060頁：

一切智智 (2110) 10931

一法句 (188) 1031

《科註》第1061頁：

一切智智 (2110) 10931

《科註》第1063頁：

阿伽陀藥 (129) 74

《科註》第1064頁：

念佛三昧 (210) 110

真俗二諦 (85) 50

《科註》第1067頁：

劫火 (211) 1094

成劫 (2112) 1094

三災 (1384) 710

梵宮 (2113) 1095

(獨留此經第四十五)

《科註》第1070頁：

《法住記》 (2114) 1095

增劫 (2115) 1096

十六大阿羅漢

(2116) 1096

《科註》第1071頁：

賓頭盧 (2117) 1098

《科註》第1072頁：

《圓覺經大疏》

(2118) 1100

《法句經》 (2119) 1101

空無相無願 (848) 448

《科註》第1074頁：

頌 (2120) 1101

《法華經妙莊嚴王品》

(2121) 1101

梵行 (2122) 1101

覺性 (2123) 1101

第一義 (1759) 910

當情 (2210) 1176

無住生心 (155) 86

《稱讚大乘經》

(2124) 1101

《科註》第一〇七五頁：

壞見/壞行 (2155) 一一二五

道眼 (2125) 一一〇三

破見 (2126) 一一〇三

疑結 (2127) 一一〇四

德雲比丘 (2128) 一一〇四

二十一喻 (2129) 一一〇四

曠劫 (2130) 一一〇五

《科註》第一〇七七頁：

後五百歲 (2131) 一一〇六

(勤修堅持第四十六)

《科註》第一〇八〇頁：

無所畏 (1634) 八四三

不二法門 (557) 二九一

《科註》第一〇八一頁：

四法界 (436) 一一一一

法界 (一) (548) 二八四

《大明法數》(2132) 一一〇七

悉檀 (1763) 九一一

四悉檀 (2069) 一〇六七

《科註》第一〇八三頁：

囑累 (2133) 一一〇七

師心自用 (1976) 一〇二九

《科註》第一〇八六頁：

佛心印 (634) 三三一

《科註》第一〇八九頁：

一大藏教 (18) 一一一

機樞 (2134) 一一〇七

教觀 (2135) 一一〇八

(福慧始聞第四十七)

《科註》第一〇九四頁：

實相 (170) 九一一

無漏最後身(2136) 一一〇八

三千實相 (2154) 一一二四

《科註》第一〇九五頁：

伽耶城 (758) 三九七

無漏智 (1885) 九八〇

佛知見 (105) 六一一

《科註》第一〇九六頁：

信慧 (2137) 一一〇八

《科註》第一〇九八頁：

一行三昧 (1289) 六八〇

根本智 (830) 四三四

後得智 (744) 三九〇

《科註》第一〇九九頁：

無生法忍 (150) 八二

喜忍、悟忍與信忍

(2138) 一一〇九

(聞經獲益第四十八)

《科註》第一一〇一頁：

法眼淨 (2139) 一一一〇

《維摩經嘉祥疏》

(2140) 一一一〇

根本煩惱 (1608) 八二九

垢汙 (791) 四一三

塵勞 (267) 一四〇

塵累 (633) 三四〇

《科註》第一一〇二頁：

四真諦 (2141) 一一一一

九十八結漏 (2142) 一一一一

《科註》第一一〇四頁：

《觀經妙宗鈔》

(2143) 一一一一

中道 (401) 一一一五

《科註》第一一〇五頁：

發菩提心 (212) 一一一〇

二種菩提心 (1180) 六二八

四種 (授記)

(2144) 一一一一

《科註》第一一〇九頁：

愜 (2145) 一一一一

《伽耶山頂經論》

(2146) 一一一一



筆畫索引通檢

一畫

一……………一三

二畫

丁……………一四

二……………一四

七……………一六

九……………一六

了……………一七

人……………一七

入……………一七

八……………一七

刀……………一八

十……………一八

三畫

丈……………二一

三……………二一

上……………二五

下……………二五

乞……………二五

凡……………二五

千……………二五

又……………二五

口……………二五

大……………二五

子……………二九

小……………二九

山……………三〇

四畫

不……………三〇

中……………三〇

丹……………三一

互……………三一

五……………三一

仁……………三三

介……………三三

元……………三三

內……………三三

公……………三三

六……………三三

冗……………三五

分……………三五

化……………三五

卅……………三五

天……………三五

太……………三六

孔……………三六

尺……………三六

幻……………三六

心……………三六

支……………三七

文……………三七

方……………三八

日……………三八

月……………三八

木……………三八

止……………三八

比……………三九

水……………三九

火……………三九

牛……………三九

王……………三九

五畫

世……………三九

丘……………三九

主……………三九

他……………三九

以……………四〇

出……………四〇

末……………四四  
 未……………四三  
 忉……………四三  
 弘……………四三  
 弗……………四三  
 平……………四三  
 布……………四三  
 巧……………四三  
 外……………四三  
 四……………四〇  
 占……………四〇  
 半……………四〇  
 北……………四〇  
 加……………四〇

立……………四六  
 示……………四六  
 石……………四六  
 矢……………四六  
 目……………四六  
 白……………四五  
 由……………四五  
 生……………四五  
 甘……………四五  
 瓜……………四五  
 玄……………四五  
 永……………四五  
 正……………四四  
 本……………四四

因……………四七  
 回……………四七  
 名……………四七  
 同……………四七  
 吉……………四七  
 合……………四七  
 印……………四七  
 劣……………四七  
 共……………四六  
 光……………四六  
 伏……………四六  
 伊……………四六  
 任……………四六

六畫

圭……………四七  
 地……………四七  
 如……………四八  
 妄……………四九  
 字……………四九  
 守……………四九  
 安……………四九  
 年……………四九  
 延……………四九  
 有……………四九  
 此……………五〇  
 死……………五〇  
 汗……………五〇  
 灰……………五〇

百……………五〇  
 老……………五〇  
 耳……………五〇  
 自……………五〇  
 至……………五〇  
 舛……………五〇  
 色……………五〇  
 行……………五一  
 西……………五一  
 吹……………五一  
 那……………五一  
 伽……………五一  
 佉……………五一

七畫

囟	含	吠	劬	劫	別	判	初	冶	作	佛	何	住	位
……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
五四	五三	五三	五三	五二	五二	五一	五一						
沈	決	步	李	折	抑	把	戒	我	志	成	弟	序	妙
……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
五五	五四												
阿	昆	八畫	身	足	赤	言	見	良	究	禿	狂	沙	沉
……	……		……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
五七	五七		五七	五七	五六								
和	命	取	具	兩	兔	依	供	侈	拈	芬	芥	事	陀
……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
六〇	六〇	五九											
抱	所	性	念	往	底	幸	帛	定	宗	孤	始	夜	垂
……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
六一	六一	六一	六一	六一	六一	六〇							

波……………六五  
 法……………六二  
 沮……………六二  
 果……………六二  
 析……………六二  
 扭……………六二  
 杲……………六二  
 東……………六二  
 易……………六二  
 明……………六一  
 放……………六一  
 拘……………六一  
 拔……………六一  
 抵……………六一

青……………六八  
 雨……………六八  
 長……………六八  
 金……………六六  
 舍……………六六  
 受……………六六  
 臥……………六六  
 竺……………六六  
 空……………六六  
 知……………六六  
 盲……………六六  
 炎……………六六  
 注……………六六  
 泥……………六六

迴……………六九  
 迴……………六九  
 苦……………六九  
 苾……………六九  
 厚……………六九  
 南……………六九  
 即……………六九  
 刹……………六九  
 前……………六九  
 信……………六八  
 降……………六八  
 九畫  
 非……………六八  
 毒……………六八

律……………七一  
 度……………七一  
 幽……………七一  
 帝……………七〇  
 客……………七〇  
 威……………七〇  
 姚……………七〇  
 契……………七〇  
 垢……………七〇  
 垓……………七〇  
 咨……………七〇  
 郁……………七〇  
 迭……………七〇  
 迦……………七〇

珊……………七二  
 玻……………七二  
 津……………七二  
 毘……………七二  
 毗……………七一  
 染……………七一  
 是……………七一  
 春……………七一  
 施……………七一  
 指……………七一  
 恬……………七一  
 恆……………七一  
 思……………七一  
 後……………七一

食……………七三  
 風……………七三  
 韋……………七三  
 重……………七三  
 軌……………七三  
 計……………七三  
 要……………七三  
 胎……………七二  
 紅……………七二  
 科……………七二  
 矜……………七二  
 省……………七二  
 相……………七二  
 界……………七二

師……………七四  
 宴……………七四  
 娑……………七四  
 唐……………七四  
 差……………七四  
 原……………七四  
 剖……………七四  
 冥……………七四  
 修……………七四  
 倫……………七四  
 俱……………七三  
 十畫  
 香……………七三  
 首……………七三

浣……………七六  
 流……………七六  
 氣……………七六  
 桓……………七六  
 根……………七五  
 校……………七五  
 朕……………七五  
 晉……………七五  
 草……………七五  
 旃……………七五  
 拳……………七五  
 悟……………七五  
 恭……………七五  
 徑……………七五

能……………七七  
 耆……………七七  
 純……………七七  
 窈……………七七  
 秘……………七七  
 破……………七七  
 真……………七六  
 匏……………七六  
 病……………七六  
 留……………七六  
 烏……………七六  
 涅……………七六  
 浸……………七六  
 海……………七六

陶……………七九  
 陰……………七九  
 十一畫  
 高……………七八  
 馬……………七八  
 追……………七八  
 起……………七八  
 財……………七八  
 被……………七八  
 祕……………七八  
 袁……………七八  
 般……………七八  
 脇……………七七  
 脅……………七七

基……八〇  
 執……八〇  
 唯……八〇  
 參……八〇  
 兜……七九  
 健……七九  
 偏……七九  
 偈……七九  
 假……七九  
 偃……七九  
 動……七九  
 乾……七九  
 畢……七九  
 陸……七九

授……八二  
 掃……八一  
 情……八一  
 悉……八一  
 從……八一  
 得……八一  
 康……八一  
 庵……八一  
 常……八一  
 密……八〇  
 寂……八〇  
 宿……八〇  
 婆……八〇  
 郭……八〇

琉……八四  
 理……八四  
 現……八四  
 率……八四  
 清……八三  
 深……八三  
 淨……八三  
 欲……八三  
 梵……八二  
 梅……八二  
 望……八二  
 曼……八二  
 教……八二  
 探……八二

貫……八五  
 貪……八五  
 覓……八五  
 袈……八五  
 莊……八五  
 曹……八五  
 鉢……八五  
 紺……八五  
 粗……八五  
 第……八四  
 眾……八四  
 眼……八四  
 異……八四  
 略……八四

勝……八六  
 傍……八六  
 傅……八六  
 陽……八六  
 鹿……八五  
 瓶……八五  
 鳥……八五  
 頂……八五  
 釧……八五  
 通……八五  
 逗……八五  
 逝……八五  
 造……八五

十二畫

菩……八九  
 華……八八  
 惡……八七  
 惑……八七  
 悲……八七  
 彭……八七  
 尊……八七  
 寒……八七  
 娼……八七  
 報……八七  
 喜……八七  
 暗……八七  
 喇……八七  
 善……八六

湛……九一  
 游……九一  
 滌……九一  
 渟……九一  
 極……九〇  
 棲……九〇  
 最……九〇  
 智……九〇  
 普……九〇  
 敦……九〇  
 提……八九  
 愧……八九  
 愜……八九  
 菴……八九

虛……九四  
 緝……九四  
 絕……九四  
 結……九四  
 紫……九三  
 等……九三  
 童……九三  
 程……九三  
 碑……九三  
 發……九三  
 登……九三  
 琥……九三  
 無……九一  
 湯……九一

偃……九五  
 傳……九五  
 隔……九五  
 十三畫  
 黑……九五  
 須……九四  
 雲……九四  
 集……九四  
 雁……九四  
 開……九四  
 逸……九四  
 超……九四  
 訶……九四  
 補……九四

慈……九六  
 感……九六  
 愛……九六  
 愚……九六  
 想……九六  
 微……九六  
 尠……九六  
 塗……九五  
 圓……九五  
 園……九五  
 勤……九五  
 勢……九五  
 蜀……九五  
 犍……九五

瑜·····九七  
 獅·····九七  
 滓·····九七  
 滅·····九七  
 準·····九七  
 源·····九七  
 過·····九七  
 毀·····九七  
 業·····九七  
 楞·····九七  
 楚·····九七  
 會·····九六  
 新·····九六  
 搆·····九六

蜉·····九九  
 葆·····九九  
 萬·····九八  
 喘·····九八  
 聖·····九八  
 義·····九八  
 群·····九八  
 罪·····九八  
 經·····九八  
 綃·····九八  
 宰·····九八  
 福·····九七  
 碎·····九七  
 當·····九七

電·····一〇〇  
 鉢·····九九  
 鄔·····九九  
 違·····九九  
 達·····九九  
 道·····九九  
 遐·····九九  
 遍·····九九  
 運·····九九  
 遊·····九九  
 辟·····九九  
 資·····九九  
 賄·····九九  
 蝟·····九九

境·····一〇一  
 塵·····一〇〇  
 豎·····一〇〇  
 嘉·····一〇〇  
 翁·····一〇〇  
 蓋·····一〇〇  
 像·····一〇〇  
 僧·····一〇〇  
 十四畫  
 鼓·····一〇〇  
 鳩·····一〇〇  
 頓·····一〇〇  
 頑·····一〇〇  
 頌·····一〇〇

稱·····一〇一  
 種·····一〇〇  
 盡·····一〇〇  
 疑·····一〇〇  
 瑪·····一〇〇  
 犖·····一〇〇  
 糖·····一〇〇  
 漸·····一〇〇  
 演·····一〇〇  
 漏·····一〇〇  
 邁·····一〇〇  
 惛·····一〇〇  
 悵·····一〇〇  
 慚·····一〇〇

語	誑	裴	蜜	臧	肇	聞	緊	緇	綱	維	精	筓	箋	
一〇三	一〇三	一〇三	一〇二											
徹	德	影	彈	廢	幢	增	劉	十五畫		頗	輕	輔	賓	誠
一〇四	一〇四	一〇四	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三			一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三
潘	密	樂	撰	撮	摩	憬	僑	感	廣	實	慶	慧	蓮	
一〇六	一〇六	一〇五	一〇四	一〇四	一〇四	一〇四								
輪	輞	質	賢	論	諂	調	蓓	厲	膠	耦	羯	緣	熱	
一〇七	一〇六													
機	曇	懈	噶	器	凝	導	稽	儕	餓	隨	十六畫		闕	遮
一〇八	一〇七			一〇七	一〇七									

諸  
諷  
親  
螢  
蕩  
興  
臻  
窺  
磧  
穉  
獨  
濁  
歷  
橫

隱  
龍  
駭  
頰  
霑  
閤  
醜  
辨  
輻  
遺  
選  
遷  
遶

絲  
總  
糞  
齋  
魏  
禪  
檀  
曙  
擣  
戲  
應  
彌  
鍵  
優

舉  
龜  
轂  
謗  
謗  
襄  
薄  
臨  
臆  
聲  
翼  
翳  
罽

藏  
薩  
翻  
繒  
簡  
穢  
瀑  
禮  
鵠  
歸  
斷  
黠  
啣  
叢

識 …… 一一三	廬 …… 一一三	瓊 …… 一一三	壞 …… 一一三	關 …… 一一三	蹴 …… 一一三	矇 …… 一一三	曠 …… 一一三	嘖 …… 一一三	十九畫		雜 …… 一一三	闕 …… 一一三	轉 …… 一一三	鞫 …… 一一三	
願 …… 一一五	臘 …… 一一五	難 …… 一一四	繫 …… 一一四	瀝 …… 一一四	藥 …… 一一四	攀 …… 一一四	譏 …… 一一四	證 …… 一一四	邊 …… 一一四	韻 …… 一一四	離 …… 一一四	懷 …… 一一四	寶 …… 一一三		
纏 …… 一一六	饒 …… 一一六	蠟 …… 一一六	二十一畫		闡 …… 一一六	釋 …… 一一五	覺 …… 一一五	懺 …… 一一五	蘧 …… 一一五	藁 …… 一一五	藜 …… 一一五	嚴 …… 一一五	勸 …… 一一五	二十畫	
鑊 …… 一一七	歡 …… 一一七	權 …… 一一七	鬻 …… 一一七	二十二畫		瓔 …… 一一六	攝 …… 一一六	灌 …… 一一六	護 …… 一一六	麝 …… 一一六	魔 …… 一一六	鐵 …… 一一六	屨 …… 一一六	驀 …… 一一六	
二十六畫		櫺 …… 一一九	觀 …… 一一八	二十五畫		靈 …… 一一八	顰 …… 一一八	囑 …… 一一八	二十四畫		鱗 …… 一一七	顯 …… 一一七	變 …… 一一七	體 …… 一一七	二十三畫

---

讚……………一一九

癩……………一一九

三十畫

鸞……………一一九

---

---

---

---

---

---

---

---

# 筆畫索引

## 一畫

- 一千七百公案 (1365) ..... 七〇三  
「一千七百則公案」 (1365) ..... 七〇三  
一大劫 (1173) ..... 六二四  
一大事因緣 (96) ..... 五八  
一大藏教 (18) ..... 一二  
一切妙寶皆彌陀性德所本具  
(2194) ..... 一六五  
一切智 (1241) ..... 六六四  
一切智智 (2110) ..... 一〇九三  
《一切經音義》 (522) ..... 一七〇

- 一切種智 (588) ..... 三〇六  
一心 (260) ..... 一三七  
一心具十法界 (2185) ..... 一五八  
「一生」 (1240) ..... 六六三  
一生所繫菩薩 (1276) ..... 六七六  
一生補處 (1240) ..... 六六三  
一合相 (1396) ..... 七一五  
一如 (1377) ..... 七〇八  
一行三昧 (1289) ..... 六八〇  
一字 (2171) ..... 一五二  
一佛乘 (283) ..... 一五一  
一形 (1808) ..... 九四一  
一法 (1870) ..... 九七一  
一法句 (188) ..... 一〇三

一刹那 (583) .....	三〇四
一乘 (1) .....	一
一乘 (2156) .....	一一二五
一真法界 (75) .....	四二
一異 (1895) .....	九八六
一期 (1990) .....	一〇三七
一超直入 (7) .....	五
「一道神光」 (1574) .....	八一六
「一會」 (865) .....	四五八
一路 (1316) .....	六八八
一際 (817) .....	四二八
一實 (899) .....	四七五
「一實相印」 (200) .....	一〇六
「一闡提」 (399) .....	一一四

## 二畫

丁福保 (526) .....	一七一
「一一一參」 (1269) .....	六七四
二十一喻 (2129) .....	一一〇四
二十九種莊嚴 (1858) .....	九六〇
二十五菩薩 (143) .....	八〇
「一一十空」 (1923) .....	九九八
「二十重華藏莊嚴世界海」 (1069) .....	五五二
「十種隨煩惱」 (1607) .....	八二七
二十隨煩惱 (1607) .....	八二七
「一世間」 (904) .....	四七九
「一出」 (4) .....	三

一一死 (901) ..... 四七六  
 一一利 (655) ..... 三四八  
     「一一我」 (1515) ..... 七七一  
     ○一一我見 (1515 附) ..... 七七一  
     「一一我執」 (1219) ..... 六五一  
 一一空 (902) ..... 四七七  
 一一苦 (1403) ..... 七七八  
     ○一一門 (1479 附) ..... 七五四  
     「一一門」 (417) ..... 一一三  
     「一一修」 (1082) ..... 五六一  
 一一祖 (183) ..... 一〇一  
 一一乘 (242) ..... 一二六  
     「一一教」 (36) ..... 一一一  
 《一一教論》 (1871) ..... 九七一

○一一智 (權實二智) (929 附) ..... 四九〇  
 一一智 (真俗二智) (1856) ..... 九五九  
     ○一一無我 (1641 附) ..... 八四七  
     「一一無我智」 (1641) ..... 八四七  
 一一超 (427) ..... 二二七  
     ○一一福田 (792 附) ..... 四一三  
     ○一一種一闡提 (1174 附) ..... 六二五  
     「一一種入」 (1900) ..... 九八八  
     「一一種生死」 (901) ..... 四七六  
 一一種供養 (1841) ..... 九五五  
     「一一種涅槃」 (926) ..... 四八八  
     「一一種病」 (2038) ..... 一〇五五  
     「一一種莊嚴」 (927) ..... 四八九  
 一一種菩提心 (1180) ..... 六二八

「一一種菩薩身」 (1298) .....	六八三	○七義——婆伽婆七義 (546附)...	二八三
「一種譏嫌」 (1209) .....	六四四	七種不淨 (1989) .....	一〇三六
「一德」 (智斷一德) (903) .....	四七八	七種立題 (559) .....	一九一
「一德」 (性修一德) (1323) ...	六九一	七寶 (1553) .....	八〇四
「一邊」 (2167) .....	一四九	七覺分 (1876) .....	九七六
「一禪天」 (2062) .....	一〇六四	九十八結漏 (2142) .....	一一一
「一諦」 (85) .....	五〇	「九十八隨眠」 (2142) .....	一一一
《一諦義》 (1401) .....	七一七	九十五種外道 (1851) .....	九五八
「一藏」 (367) .....	一九八	○九十五種外道與九十六種外道	
「一曜」 (1586) .....	八二〇	(610附) .....	三三三
「一雙四重」 (427) .....	二二七	九十六種外道 (610) .....	三三三
「七地沈空難」 (2095) .....	一〇八一	九山八海 (1551) .....	八〇一
「七佛所說神咒經」 (2060) ...	一〇六四	九品 (314) .....	一六五
《七佛神咒經》 (2060) .....	一〇六四	《九品往生阿彌陀三摩地集陀羅尼經》	

(1577).....	八一八	「入道四行」 (1901) .....	九八八
九界 (25) .....	一六	《入楞伽經》 (485) .....	二五五
「九結」 (881) .....	四六五	「八十一品思惑」 (1625) .....	八三七
九境之魔事 (1546) .....	七九六	《八十華嚴》 (874) .....	四六二
了了見 (1896) .....	九八六	八十隨形好 (1468) .....	七四七
了因佛性 (1897) .....	九八六	八大地獄 (1999) .....	一〇四〇
了義 (2) .....	一	八日 (2012) .....	一〇四四
人法二我 (1515) .....	七七一	八功德水 (1627) .....	八三八
人空 (397) .....	一一三	八正道 (1883) .....	九七九
人非人 (2066) .....	一〇六五	八地 (148) .....	八二
人籟 (1652) .....	八五二	八戒 (1440) .....	七三七
《人如來智德不思議經》 (742) .....	三九〇	八定 (1126) .....	五九三
《入佛境界經》 (556) .....	二九〇	八苦 (1405) .....	七一九
入律 (1850) .....	九五八	八相成道 (736) .....	三八三

八音 (1848) .....	九五六	○八福田 (792 附) .....	四一三
「八音」 (1850) .....	九五八	八聖道 (1332) .....	六九九
「八部」 (605) .....	三一六	八種清風 (1650) .....	八五二
八部大力眾神 (604) .....	三一六	八熱地獄 (1097) .....	五七〇
八寒冰獄 (1098) .....	五七一	八齋戒 (1772) .....	九二四
「八寒地獄」 (1098) .....	五七一	「八關齋戒」 (1772) .....	九二四
八萬四千法門 (124) .....	七一	八難 (1531) .....	七八二
八萬四千法藏 (1351) .....	六九八	八纏 (835) .....	四三六
「八萬四千煩惱」 (1352) .....	六九九	刀兵劫 (676) .....	三五九
「八萬四千塵勞」 (1352) .....	六九九	刀風 (1812) .....	九四二
八萬法蘊 (1353) .....	七〇〇	十七種莊嚴 (1527) .....	七七九
八萬煩惱 (1352) .....	六九九	十九執金剛 (1229) .....	六五七
八葉 (1914) .....	九九五	「十一分經」 (289) .....	一五三
「八葉蓮華」 (1914) .....	九九五	十一因緣 (842) .....	四四二

十一行 (629) .....	三三六	十方 (199) .....	一〇六
《十一門論》 (550) .....	一八七	十玄門 (439) .....	一一三
十一部經 (289) .....	一五三	「十因——玄門無礙十因」 (2149) .....	一一五
「十一頭陀行」 (629) .....	三三六	十地 (1928) .....	一〇〇七
十力 (1633) .....	八四一	《十地經論》 (1640) .....	八四七
十力迦葉 (625) .....	三三四	十如是 (2162) .....	一四一
十大願王 (114) .....	六八	十住 (1215) .....	六四八
十山王 (2067) .....	一〇六五	「十住心」 (1264) .....	六七一
十大阿羅漢 (2116) .....	一〇九六	《十住毘婆沙論》 (1318) .....	六八九
十六空 (1923) .....	九九八	《十住菩薩斷結經》 (1313) .....	六八八
十六菩薩 (1922) .....	九九七	《十住論》 (1302) .....	六八五
十六遊增地獄 (1100) .....	五七二	《十住斷結經》 (955) .....	五〇一
十六觀 (316) .....	一六五	十忍 (1616) .....	八三二
「十六觀門」 (316) .....	一六五		

十戒 (1441) .....	七三七	十善 (1829) .....	九四九
「十使」 (881) .....	四六七	十善因果 (2159) .....	一一三〇
十往生經 (142) .....	七九	《十善戒經》 (1832) .....	九五—
十念法 (234) .....	一一九	十善業 (1823) .....	九四六
十法界 (1084) .....	五六二	十惡 (78) .....	四四
十波羅蜜 (1925) .....	一〇〇—	十惡十善之增上果 (2161) .....	一一三九
十信 (1214) .....	六四六	十惡因果 (2160) .....	一一三三
「十度各三行」 (1925) .....	一〇〇三	十煩惱 (783) .....	四一〇
十界 (895) .....	四七四	「十義——海印三昧有十義」	
十相 (2092) .....	一〇八〇	(2153) .....	一一三三
「十迴向」 (282) .....	一五〇	「十義——緣起十義」 (2150) .....	一一一七
「十乘」 (1545) .....	七八九	十聖 (1682) .....	八六四
十乘之理觀 (1545) .....	七八九	十號 (545) .....	二七九
十眼 (1340) .....	六九六	「十境」 (1546) .....	七九六

《十疑論》 (1988) ..... 1035  
 十種心 (683) ..... 361  
 十種真如 (1927) ..... 1006  
 十種煩惱 (1926) ..... 1006  
 十纏 (837) ..... 436  
 「十纏」 (1961) ..... 1010

### 三畫

丈六 (1467) ..... 746  
 丈夫 (1002) ..... 519  
 三十七佛 (1501) ..... 763  
 「三十七道品」 (1889) ..... 982  
 三十二相 (1114) ..... 580  
 三十六物 (1985) ..... 1033

「三昧」 (848) ..... 449  
 三千大千世界 (1158) ..... 618  
 ○三千威儀 (1825 附) ..... 948  
 ○三千塵點劫 (306 附) ..... 161  
 三千實相 (2154) ..... 1124  
 三大 (565) ..... 194  
 「三不退」 (277) ..... 147  
 「三分科經」 (567) ..... 296  
 「三止三請」 (1058) ..... 549  
 三世覺母 (668) ..... 354  
 ○三世間 (904) ..... 479  
 「三世間」 (2200) ..... 1170  
 「三因佛性」 (1897) ..... 986  
 三有 (796) ..... 416

三衣 (632) .....	三四〇	三祇 (161) .....	八九
「三衣名義」 (632) .....	三四〇	三空 (1857) .....	九六〇
「三佛土」 (1083) .....	五六一	三空門 (845) .....	四四八
「三佛菩提」 (1726) .....	九〇〇	三苦 (795) .....	四一五
「三忍」 (音響忍、柔順忍、無生法忍)		三門 (1982) .....	一〇三二
(1610) .....	八三〇	三昧 (867) .....	四五九
「三忍」 (喜忍、悟忍、信忍)		三毒 (1043) .....	五四三
(2138) .....	一一〇九	三界 (965) .....	五〇五
三災 (1384) .....	七一〇	三乘 (108) .....	六五
三身 (240) .....	一二五	○三乘共十地 (281附) .....	一五〇
三車 (853) .....	四五一	「三乘通相五逆」 (77) .....	四三
○三阿僧祇劫 (161附) .....	八九	「三時」 (2055) .....	一〇六一
三明 (615) .....	三二六	三根 (3) .....	一一
三者不可說法 (2203) .....	一七二	「三脈七輪」 (805) .....	四二四

「三般若」 (1981) .....	一〇三〇	三無漏學 (978) .....	五〇九
三途 (1591) .....	八一	三會龍華 (678) .....	三六〇
「三途對三毒」 (1591) .....	八一	三業 (1947) .....	一〇一四
「三通力」 (1838) .....	九五	三福 (225) .....	一七
《三啟經》 (1108) .....	五七八	三福田 (1941) .....	一〇一三
「三密」 (815) .....	四二七	「三解脫門」 (848) .....	四四八
三密相應 (814) .....	四二七	三資糧 (1035) .....	五三七
三菩提 (700) .....	三七〇	三際 (198) .....	一〇六
「三善」 (2104) .....	一〇八九	三障 (1741) .....	九〇六
三善根 (2192) .....	一六四	三種三諦 (2152) .....	一一三
三惑 (420) .....	一二四	三種不退 (277) .....	一四七
○三智 (588 附) .....	三〇六	「三種世間」 (2175) .....	一一五四
「三無性」 (1635) .....	八四四	○三種外道 (1012 附) .....	五二六
三無差別 (555) .....	二八九	三種光明 (1344) .....	六九七

三忍 (1610) .....	八三〇	三慧 (1937) .....	一〇一二
「三種般若」 (1981) .....	一〇三〇	三摩地 (866) .....	四五八
三種莊嚴 (460) .....	二四一	三摩提 (996) .....	五一七
「三種菩提心」 (1181) .....	六二八	三論 (339) .....	一八七
「三種菩提心」 (1182) .....	六二九	「三論宗」 (339) .....	一八七
三種無性 (1635) .....	八四四	三賢 (1681) .....	八六三
「三種慈悲」 (156) .....	八六	三輩 (32) .....	一九
三聚 (1213) .....	六四五	三縛 (836) .....	四三六
三聚戒 (1438) .....	七三五	三諦 (1433) .....	七三二
三聚淨戒 (1437) .....	七三五	三藏 (358) .....	一九三
三德 (一) (1183) .....	六二九	三藏法師 (464) .....	二四五
三德 (二) (2033) .....	一〇五二	《三藏法數》 (1042) .....	五四三
「三德」 (二) (268) .....	一四〇	〇三藏教 (278 附) .....	一四八
三德秘藏 (670) .....	三五五	三歸 (1824) .....	九四六

「三歸依」 (1824) .....	九四六	乞食 (603) .....	三一五
三覆八校 (2011) .....	一〇四三	凡夫 (135) .....	七六
○三轉讀文 (2162 附) .....	一四三	「千手千眼大悲心咒行法」	
三願 (577) .....	三〇三	(1750) .....	九一一
「三顛倒」 (1701) .....	八七二	《千手陀羅尼經》 (1345) .....	六九七
三寶 (1424) .....	七二七	《千手經》 (2088) .....	一〇七九
「三寶有六義」 (1424) .....	七二七	「叉手」 (1760) .....	九一一
三覺 (一) (544) .....	二七八	「口四」 (1687) .....	八六六
三覺 (二) (564) .....	二九四	「大三災」 (1384) .....	七一〇
三觀 (1434) .....	七三三	「大千世界」 (1158) .....	六一八
上茅城 (590) .....	三〇八	大士 (693) .....	三六七
上師 (1429) .....	七三〇	大手印 (807) .....	四一五
○上師喇嘛 (1429 附) .....	七三〇	○大方便佛報恩經 (576 附) .....	三〇三
「下地麤苦障」 (2086) .....	一〇七七	「大方等大集賢護分」 (475) .....	一一五

《大方等大集賢護經》 (475) ……………	11511	大白牛車 (562) ……………	1193
「大方廣人如來智德不思議經」		「大地獄有十六增」 (1100) ……	5711
(742) ……………	1390	大妄語 (2028) ……………	1051
○大方廣如來不思議境界經		大自在天 (772) ……………	405
(349 附) ……………	191	大行 (1630) ……………	839
「大方廣佛華嚴經疏」 (1007) ……	5113	大佑 (412) ……………	119
「大方廣圓覺經大疏」 (2118) ……	101	「大佛頂如來密因修證了義諸菩薩萬行	
大日如來 (1203) ……………	640	首楞嚴經」 (116) ……………	68
《大日經》 (923) ……………	486	○大劫 (1173 附) ……………	614
《大日經疏》 (658) ……………	349	「大宋僧史略」 (1872) ……………	9711
「大日經義釋演密鈔」 (2093) ……	1080	《大阿彌陀經》 (48) ……………	17
「大火災」 (2111) ……………	1094	《大明法數》 (2132) ……………	1107
「大正新修大藏經」 (51) ……………	18	《大法炬陀羅尼經》 (925) ……………	488
大正藏 (51) ……………	18	「大法鼓經」 (1822) ……………	946

《小品》 (1205) .....	六四二	《大乘密嚴經》 (1389) .....	七二三
《小品般若經》 (1370) .....	七〇五	「大乘理趣六波羅蜜多經」	
《大毘盧遮那經》 (286) .....	一五二	(1783) .....	九三〇
大乘 (176) .....	九七	「大乘經」 (169) .....	九一
「大乘十喻」 (1966) .....	一〇一一	大乘經典 (169) .....	九一
「大乘大悲芬陀利經」 (1284) .....	六七八	《大乘義章》 (359) .....	一九四
大乘方等經典 (1826) .....	九四八	「大唐西域記」 (600) .....	三二四
《大乘止觀》 (1376) .....	七〇八	《大般若》 (389) .....	一〇九
「大乘本生心地觀經」 (667) .....	三五四	「大般若波羅蜜多經」 (731) .....	三八一
○大乘別途五逆 (2188) .....	一六〇	《大般若經》 (731) .....	三八一
「大乘阿毘達磨雜集論」		大般涅槃 (997) .....	五二七
(1884) .....	九八〇	「大般涅槃經疏」 (1228) .....	六五六
「大乘法苑義林章」 (1538) .....	七八五	大曼陀羅 (2190) .....	一六三
《大乘起信論》 (330) .....	一一一	《大莊嚴法門經》 (1932) .....	一〇一〇

大通智勝 (1015) .....	五二七	《大疏》 (1) (442) .....	一一三五
大寂定 (952) .....	四九九	《大疏》 (11) (1248) .....	六六七
大教 (95) .....	五八	《大集》 (386) .....	一一〇八
大梵天王 (1456) .....	七四三	《大集經》 (724) .....	三七八
《大梵天王問佛決疑經》 (635) .....	三四一	大飲光 (650) .....	三四八
大悲 (1) (287) .....	一五二	大勢至 (147) .....	八二
大悲 (11) (1746) .....	九〇八	「大勢至菩薩念佛圓通章」	
大悲胎藏 (1201) .....	六三九	(120) .....	七〇
《大悲經》 (1742) .....	九〇六	《大勢至圓通章》 (120) .....	七〇
「大悲懺」 (1750) .....	九一一	大圓勝慧 (1366) .....	七〇三
○大悲闡提 (1174 附) .....	六二六	大圓滿 (1367) .....	七〇三
《大智度論》 (487) .....	二五六	大圓鏡智 (1797) .....	九三六
「大智灌頂地」 (1247) .....	六六七	大慈定 (2169) .....	一五一一
《大無量壽經》 (426) .....	一一七	「大慈恩寺三藏法師傳」 (593) .....	一一一〇

大煩惱地法 (1606) .....	八二七	《大寶積經論》 (598) .....	三一一
《大經》 (301) .....	一五九	《大寶積經賢護長者會》 (701) .....	三七〇
《大經合贊》 (308) .....	一六一	大覺 (1683) .....	八六四
《大經釋》 (415) .....	一一〇	大權 (243) .....	一一七
大慧 (1234) .....	六五九	「子元」 (1792) .....	九三四
「大慧宗杲」 (1234) .....	六五九	小千世界 (1159) .....	六一八
《大論》 (919) .....	四八五	「小化身丈六」 (1467) .....	七四六
「大樹緊那羅琉璃琴」 (1143) .....	六〇九	小本《慈恩疏》 (1626) .....	八三七
大聲聞 (2186) .....	一五九	小劫 (931) .....	四九〇
《大藏法數》 (1220) .....	六五一	小始諸教 (128) .....	七四
大寶海 (1617) .....	八三三	小乘 (275) .....	一四五
《大寶積經》 (59) .....	三三	小乘三果 (315) .....	一六五
《大寶積經·善德天子會》 (847) .....	四四八	小乘菩薩…未斷一毫之煩惱 (2183) .....	一一五八
《大寶積經發勝志樂會》 (682) .....	三六一		

小煩惱地法 (1605) ..... 八二七  
 山海慧如來 (1155) ..... 六一六  
 「山海慧自在通王如來」 (1155) ..... 六一六

四畫

不二法門 (557) ..... 二九一  
 「不可思議解脫法門」 (1887) ..... 九八一  
 「不共業」 (2016) ..... 一〇四七  
 不定性 (1184) ..... 六三〇  
 不思議解脫門 (1887) ..... 九八一  
 不迴向 (1700) ..... 八七一  
 不退轉 (1307) ..... 六八六  
 不淨觀 (1831) ..... 九五〇  
 不動 (2193) ..... 一六五

「不動義」 (2193) ..... 一六五  
 不善 (1080) ..... 五六〇  
 不還果 (1666) ..... 八五八  
 中千世界 (1160) ..... 六一九  
 「中文大藏經」 (856) ..... 四五一  
 「中文大藏經」 (857) ..... 四五四  
 《中阿含經》 (1820) ..... 九四五  
 中夜 (763) ..... 四〇〇  
 中品上生是小乘三果 (2157) ..... 一一一八  
 中峰 (1799) ..... 九三八  
 中陰 (1199) ..... 六三八  
 中國 (1789) ..... 九三二  
 中道 (401) ..... 一一五  
 中間 (1125) ..... 五九二

「中間定」 (1125) .....	五九三	五忍 (1294) .....	六八一
中諦 (1510) .....	七六九	五戒 (1439) .....	七三六
丹誠 (1094) .....	五六八	《五戒經》 (2010) .....	一〇四二
○互跪 (951 附) .....	四九九	「五見」 (782) .....	四〇九
五力 (1016) .....	五二七	五念門 (1833) .....	九五一
「五力難判」 (1575) .....	八一六	五河 (1472) .....	七五〇
五十種陰魔 (140) .....	七八	五法 (1661) .....	八五四
「五五百年」 (2131) .....	一一〇六	五度 (1038) .....	五三九
五天竺 (597) .....	三二二	五祖 (1728) .....	九〇一
五比丘 (618) .....	三二八	五逆 (77) .....	四三三
五百大願 (1315) .....	六八八	○五逆輕重 (2188) .....	一一六一
○五百塵點劫 (306 附) .....	一六一	五重玄義 (93) .....	五六
五行 (1334) .....	六九四	「五重玄義——法華五重玄義」	
五佛 (1924) .....	一〇〇〇	(93) .....	五六

「五音」 (1598) .....	八二四	五智 (一) (1502) .....	七六五
五音聲 (1598) .....	八二四	五智 (一) (2076) .....	一〇七一
五乘 (1065) .....	五五一	「五智如來」 (1924) .....	一〇〇〇
五時說法 (311) .....	一六二	五無間業 (1679) .....	八六三
五根 (1017) .....	五二九	五滓 (2046) .....	一〇五八
五陰 (1530) .....	七八二	「五蓋」 (1961) .....	一〇一九
「五陰用心十種禪那」 (140) .....	七八	五塵 (1492) .....	七五八
五教 (394) .....	一一一	五種力 (1575) .....	八一六
《五教章》 (410) .....	二一八	五種不淨 (1987) .....	一〇三四
五欲 (一) (861) .....	四五七	五種邪命 (1886) .....	九八一
五欲 (一) (2042) .....	一〇五七	「五種般若」 (1981) .....	一〇三一
五眼 (924) .....	四八七	五臺 (250) .....	一三三一
五善 (2054) .....	一〇六一	「五臺曰」 (250) .....	一三三一
「五喻——大劫五喻」 (1173) .....	六二四	「五德——苾芻草五德」 (643) .....	三四四

五箭 (2043) .....	一〇五八	「仁王護國般若波羅蜜多經道場念 誦儀軌 (1222) .....	六五三
五趣 (1107) .....	五七八	「仁王護國般若經疏」 (721) .....	三七七
五濁 (22) .....	一三	介爾 (31) .....	一九
《五燈會元》 (1444) .....	七三九	元照 (468) .....	二五〇
五蘊 (1040) .....	五四〇	元嘉 (513) .....	一六七
「五魔」 (140) .....	七八	「元曉」 (134) .....	七六
《仁王良賁疏》 (1909) .....	九九一	元曉師 (134) .....	七六
「仁王般若波羅蜜經」 (1231) .....	六五八	內典 (609) .....	三一一
《仁王般若經》 (887) .....	四六九	內證 (1576) .....	八一七
《仁王經合疏》 (1151) .....	六一五	「公案」 (1365) .....	七〇三
《仁王經私記》 (1295) .....	六八二	「六十一見」 (1880) .....	九七八
《仁王經念誦儀軌》 (1222) .....	六五三	《六十華嚴》 (875) .....	四六一
《仁王經菩薩教化品》 (741) .....	三九〇	六牙白象 (751) .....	三九三
《仁王經疏》 (721) .....	三七七		

「六字名號」 (10) .....	六	「六度行——廣六度行」 (2168) .....	一一五〇
六字洪名 (10) .....	六	六祖 (185) .....	一〇一
六成就 (571) .....	一九九	「六神通」 (614) .....	三二五
「六行觀」 (2086) .....	一〇七七	《六要》 (967) .....	五〇六
六事成就 (2148) .....	一一一四	六時 (1670) .....	八六〇
六事明經意 (2147) .....	一一一三	六根互用 (1135) .....	六〇二
「六和敬」 (1968) .....	一〇二四	六通 (614) .....	三二五
六念 (1751) .....	九一五	六動 (1373) .....	七〇六
「六念法」 (1751) .....	九一五	六朝 (2208) .....	一一七五
「六法五願」 (968) .....	五〇六	六道 (244) .....	一二七
六波羅蜜 (1046) .....	五四四	六道神光 (1574) .....	八一六
《六波羅蜜多經》 (1783) .....	九三〇	「六義——薄伽梵六義」 (546) .....	一一八一
六信 (2082) .....	一〇七四	六塵 (1144) .....	六〇九
六度 (1187) .....	六三一		

「六種三寶」 (2191) .....	一一六四	○化儀四教 (15 附) .....	一〇
六種性 (1324) .....	六九一	化樂 (1455) .....	七四三
「六種震動」 (1373) .....	七〇六	「化樂天」 (1455) .....	七四三
六趣 (1029) .....	五三四	卅七道品 (1889) .....	九八一
六齋日 (2013) .....	一〇四五	天人不動眾 (1646) .....	八五〇
六識 (1665) .....	八五七	天人師 (1003) .....	五二〇
冗蔓 (43) .....	一一三	「天台三觀」 (1434) .....	七三三
「分別智」 (831) .....	四三五	「天台五時」 (311) .....	一六一
分段生死 (840) .....	四四〇	「天台四教儀集註」 (852) .....	四五一
分證 (261) .....	一三八	「天台宗」 (92) .....	五五
「化法四教」 (393) .....	一一一	天目 (252) .....	一三四
「化城喻品」 (1517) .....	七七二	「天目山」 (252) .....	一三四
化道 (579) .....	二〇三	天如 (2102) .....	一〇八七
化儀 (15) .....	一〇	天住 (1893) .....	九八五

天冠 (1266) .....	六七三	天魔 (760) .....	三九八
天真 (1727) .....	九〇一	天籟 (1656) .....	八五三
天真之佛 (296) .....	一五七	太上老君說百病崇百藥 (2151) ...	一一一九
「天真佛」 (296) .....	一五七	太末蟲 (299) .....	一五八
天臺大師 (378) .....	一〇三	太清 (1490) .....	七五七
天臺山 (341) .....	一八九	太虛 (84) .....	五〇
天臺宗 (92) .....	五五	「太虛空」 (171) .....	九三
《天臺淨名疏》 (1930) .....	一〇〇九	太賢 (1994) .....	一〇三八
《天臺壽量品疏》 (989) .....	五二三	「孔目章」 (1171) .....	六二二
天臺韶國師 (342) .....	一八九	尺蠖 (1528) .....	七八一
天臺《觀經疏》 (1707) .....	八七三	幻翳 (1343) .....	六九七
天樹王 (1791) .....	九三三	心、心所法 (1148) .....	六一一
天親 (215) .....	一一一	「心心數」 (1148) .....	六一一
天龍八部 (605) .....	三二六	心王 (心性) (1734) .....	九〇四

「心王」 (1148) .....	六一一	心緣 (295) .....	一五七
《心王銘》 (1732) .....	九〇三	《心賦注》 (345) .....	一九一
《心地觀經》 (667) .....	三五四	《心燈錄》 (1735) .....	九〇四
心宗 (1762) .....	九一一	支婁迦讖 (474) .....	二五二
心性 (181) .....	九九	支謙 (491) .....	二五七
「心所有法五十」 (1148) .....	六一二	文句 (1426) .....	七二九
心要 (111) .....	六六	文殊 (81) .....	四七
心師 (1975) .....	一〇二九	「文殊師利」 (81) .....	四八
心悸 (2040) .....	一〇五六	「文殊師利佛土嚴淨經」 (695) .....	三六八
心量 (350) .....	一九二	「文殊師利所說般若波羅蜜經」	
心意識 (149) .....	八二	(482) .....	二五四
心源 (197) .....	一〇五	文殊師利授記會 (2044) .....	一〇五八
《心經》 (1039) .....	五三九	「文殊師利現寶藏經」 (974) .....	五〇八
心蓮 (1916) .....	九九五	「文殊師利菩薩問菩提經論」	

(2146) .....	一一一三	方便藏 (1090) .....	五六七
○文殊師利發願經 (484 附) .....	二五五	方等時 (384) .....	一〇七
《文殊師利嚴淨經》 (695) .....	三六八	○方廣大莊嚴經 (754 附) .....	三九五
《文殊般若經》 (1287) .....	六七九	日月燈明佛 (1649) .....	八五一
《文殊現寶藏經》 (974) .....	五〇八	月支 (473) .....	一五一
《文殊發願經》 (484) .....	二五五	「月氏」 (473) .....	一五一
《文殊說般若經》 (482) .....	二五四	○月燈三昧 (710 附) .....	三七四
「文選」 (446) .....	一三六	《月燈三昧經》 (710) .....	三七四
《文選·郭璞賦》 (446) .....	一三六	木檣 (1779) .....	九二九
文證 (1888) .....	九八二	止止不須說 (1059) .....	五四九
方便 (285) .....	一五二	止觀 (320) .....	一七四
方便力 (855) .....	四五一	《止觀》 (827) .....	四三三
方便法身 (2187) .....	一六〇	《止觀輔行》 (1631) .....	八四〇
方便智 (1911) .....	九九二	○止觀輔行傳弘決 (1631 附) .....	八四〇

比丘尼 (933) .....	四九一
比竹 (1653) .....	八五二
比量 (2081) .....	一〇七三
水輪 (2061) .....	一〇六四
火宅 (1044) .....	五四三
「火宅喻」 (1044) .....	五四三
火車 (2096) .....	一〇八一
火聚 (131) .....	七五
牛頭梅檀 (1740) .....	九〇五
王日休 (45) .....	二五
王耕心 (61) .....	三五
<b>五畫</b>	
世尊 (97) .....	五八

「世智聰辯」 (1764) .....	九二二
世智辯聰 (1764) .....	九二二
世間 (一) (904) .....	四七八
世間 (二) (2200) .....	一七〇
「世間七丈夫」 (1002) .....	五二〇
世間者，名為五陰 (2175) .....	一五四
世間解 (999) .....	五一八
世親 (193) .....	一〇五
世諦 (302) .....	一五九
丘 (2048) .....	一〇六〇
主中主 (1950) .....	一〇一六
○主伴具足 (408 附) .....	一一七
主伴無盡 (408) .....	一一七
他力 (144) .....	八一

他力迴向 (1699) .....	八七一	「半滿教」 (2047) .....	一〇五九
他化自在天 (1540) .....	七八六	「占察善惡業報經」 (738) .....	三八八
他受用土 (1392) .....	七一四	《占察經》 (738) .....	三八八
以食施者，當施五事 (1784) .....	九三一	四十一位 (266) .....	一四〇
「出世本懷」 (523) .....	一七〇	《四十一章》 (520) .....	一六九
《出生義》 (697) .....	三六八	「四十一章經」 (520) .....	一六九
出家味 (2204) .....	一七三	四十華嚴經 (660) .....	三五〇
《出曜經》 (975) .....	五〇八	四土 (5) .....	四
加行 (1300) .....	六八四	四大 (1191) .....	六三四
加持 (1202) .....	六三九	四大洲 (961) .....	五〇三
北辰 (453) .....	二三八	《四分律》 (2023) .....	一〇四九
「北齊」 (1691) .....	八六七	「四分律刪補隨機羯磨疏」	
北鬱單越 (1533) .....	七八四	(1771) .....	九一三
半字教、滿字教 (2047) .....	一〇五九	《四分律音義》 (1770) .....	九一三

四天下 (776) .....	四〇八	「四陀羅尼」 (879) .....	四六三
「四天王」 (771) .....	四〇四	四事 (575) .....	三〇一
四天王天 (587) .....	三〇六	「四依」 (519) .....	二六八
四句 (1660) .....	八五四	四姓 (1452) .....	七四一
四句門 (2199) .....	一七〇	《四帖疏》 (153) .....	八五
「四句——有無四句」 (1660) .....	八五四	四明 (300) .....	一五八
「四弘誓」 (216) .....	一一三	「四明尊者」 (300) .....	一五八
四弘願 (216) .....	一一三	四果 (1863) .....	九六五
四生 (1030) .....	五三五	「四法」 (1022) .....	五三〇
四地至七地 (312) .....	一六四	四法界 (436) .....	一一三一
「四住地」 (1493) .....	七五八	○四波羅夷 (291 附) .....	一五六
四住惑 (1493) .....	七五八	「四空定」 (1128) .....	五九八
「四兵」 (1273) .....	六七五	四苦 (1404) .....	七一九
《四阿含經》 (383) .....	一〇七	「四威儀具足」 (1825) .....	九四八

「四洲」 (961) .....	五〇三	四過 (1687) .....	八六六
四相 (1402) .....	七一八	四智 (2079) .....	一〇七二
「四級灌頂」 (803) .....	四二三	四無色定 (1128) .....	五九八
四軍 (1273) .....	六七五	「四無所畏」 (1634) .....	八四三
四重 (291) .....	一五五	四無量心 (1642) .....	八四八
四根本定 (1123) .....	五九二	四無礙智 (889) .....	四七二
四真諦 (2141) .....	一一一	「四無礙解」 (889) .....	四七二
「四部眾」 (606) .....	三一八	「四童子三昧經」 (704) .....	三七一
四悉檀 (2069) .....	一〇六七	《四童子經現生品》 (704) .....	三七一
四教 (393) .....	一一一	○四福田 (792 附) .....	四一三
《四教義》 (1348) .....	六九七	「四聖」 (1494) .....	七五八
《四教儀》 (745) .....	三九一	四聖六凡 (1494) .....	七五八
《四教儀集註》 (852) .....	四五一	「四滿成佛」 (739) .....	三八九
四眾 (606) .....	三一八	四種 (授記) (2144) .....	一一二

四種作佛 (739) .....	三八八	四魔 (1543) .....	七八八
四種念佛 (162) .....	八九	四攝法 (1423) .....	七二六
「四種授記」 (2144) .....	一一二	外道 (1012) .....	五二六
「四種緣起」 (457) .....	一四〇	○外道六師 (610 附) .....	三一一
「四寶主」 (1950) .....	一〇一六	外道移山，制之不動 (623) .....	三三二
「四德」 (983) .....	五一	巧佞 (2003) .....	一〇四〇
「四緣」 (2106) .....	一〇九〇	巧言令色 (2004) .....	一〇四〇
四禪 (1127) .....	五九六	布袋和尚 (900) .....	四七五
「四禪定」 (1127) .....	五九六	平等王 (1106) .....	五七八
四縛 (838) .....	四三七	平等法身 (1297) .....	六八三
四諦 (839) .....	四三八	弗沙 (675) .....	三五八
四諦十六行相 (2158) .....	一一二九	弘法大師 (1523) .....	七七八
四靜慮 (1133) .....	六〇一	忉利天 (1563) .....	八〇八
四寶 (1550) .....	八〇一	未至 (1124) .....	五九二

末冠 (530) .....	171	本識 (2080) .....	1073
未暇 (233) .....	119	本覺 (26) .....	16
末世 (136) .....	77	正 (1258) .....	669
末後句 (1368) .....	704	正士 (694) .....	368
本地 (648) .....	347	正心行處 (870) .....	461
本地身 (976) .....	508	正四句法 (1349) .....	698
本有 (1388) .....	713	「正色」 (1258) .....	669
本初不生 (1511) .....	769	正使 (1906) .....	990
本來面目 (652) .....	348	正定聚 (1536) .....	785
本師 (21) .....	13	正性離生 (1291) .....	680
本尊 (88) .....	53	正法五百年，像法千歲，末法萬歲	
本際 (76) .....	43	(2055) .....	1061
本緣 (1137) .....	605	正法眼藏 (639) .....	341
本懷 (523) .....	170	正受 (868) .....	460

正遍知海 (2098) .....	一〇八四	甘露 (168) .....	九一
正道 (966) .....	五〇五	甘露二年 (502) .....	二六一
正覺華 (1596) .....	八二三	甘露王 (1507) .....	七六八
永明 (325) .....	一七九	生死長夜 (1329) .....	六九三
「永明心賦註」 (345) .....	一九一	「生死園」 (1853) .....	九五八
永嘉二年 (504) .....	一六三	生死輪 (1908) .....	九九一
永嘉四年 (495) .....	一五九	生法 (1516) .....	七七一
玄一 (1070) .....	五五七	「生空智」 (1187) .....	六三一
玄門無礙十因 (2149) .....	一一一五	生相無明 (269) .....	一四一
玄奘 (466) .....	二四六	生起次第 (804) .....	四一三
玄暉師 (1712) .....	八七六	由旬 (1096) .....	五六八
玄義 (66) .....	三六	白馬寺 (494) .....	二五八
《玄應音義》 (1146) .....	六一〇	白毫 (1121) .....	五九〇
瓜蔓 (1628) .....	八三九	「白象」 (751) .....	三九四

白飯王 (640) .....	三四三	伊字三點 (1379) .....	七〇九
白檀 (1458) .....	七四四	伊蘭 (1739) .....	九〇五
白疊 (1668) .....	八五九	「伏惑行因」 (2183) .....	一一五八
目眚 (2072) .....	一〇六八	伏藏 (680) .....	三六一
《目連所問經》 (483) .....	二五四	伏斷 (273) .....	一四四
目犍連 (126) .....	七三	《光明文句》 (1643) .....	八四九
矢石 (1249) .....	六六七	光明藏 (1346) .....	六九七
「石刻阿彌陀經」 (467) .....	二四九	「光記」 (1569) .....	八一二
示悟 (99) .....	六〇	光雲 (1581) .....	八一九
示現 (735) .....	三八三	光瑞 (959) .....	五〇二
立相住心 (151) .....	八三	光輪 (1580) .....	八一九
<b>六畫</b>		共命之鳥 (1212) .....	六四五
任運 (307) .....	一六一	「共命鳥」 (1212) .....	六四五
		共業 (2015) .....	一〇四七

劣應 (1498) .....	七六三	名義不離 (1319) .....	六八九
「劣應身」 (1498) .....	七六三	《名義集》 (703) .....	三七一
印光大師 (56) .....	三二一	「回心向大」 (612) .....	三二四
印契 (1354) .....	七〇〇	「回向」 (1698) .....	八七〇
印壞文成 (1814) .....	九四三	因地 (1198) .....	六三八
合掌叉手 (1760) .....	九二〇	因行 (991) .....	五一三
《合贊》 (211) .....	一一〇	因位 (284) .....	一五二
吉藏 (537) .....	二七四	因陀羅網 (449) .....	二三七
「同別」教」 (435) .....	一三〇	《因果經》 (749) .....	三九二
同聞眾 (716) .....	三七六	因源 (1066) .....	五五二
○同類五逆 (2188) .....	一六一	「因緣」 (2106) .....	一〇九〇
同體大悲 (920) .....	四八五	圭峰大師 (203) .....	一〇七
「同體慈悲」 (920) .....	四八六	地上 (159) .....	八八
名句 (1662) .....	八五五	地居天 (1565) .....	八一〇

地前 (160) .....	八八	《如來不思議境界經》 (349) .....	一九一
《地持》 (377) .....	二〇三	如來天眼 (2182) .....	一一五七
地籟 (1654) .....	八五二	「如來天眼遍行一切有情義境」	
如 (894) .....	四七三	(2182) .....	一一五七
如幻聞熏聞修金剛三昧 (1867) .....	九六九	如來有十種佛事 (1795) .....	九三五
如如 (1378) .....	七〇八	如來知見 (1819) .....	九四五
如如智 (554) .....	二八九	如來家 (1292) .....	六八一
如如境 (990) .....	五二三	「如來莊嚴智慧光明入一切佛境界經」	
如我按指・海印發光 (2207) .....	一七五	(556) .....	一九〇
如來 (12) .....	八	《如來興顯經》 (1615) .....	八三二
「如來八相」 (736) .....	三八三	如來藏 (916) .....	四八三
「如來十力」 (1633) .....	八四一	如來藏心 (1394) .....	七一五
如來三密 (815) .....	四二七	如來藏心緣起 (457) .....	一四〇
如來三種圓德 (1862) .....	九六四	如來藏性 (915) .....	四八三

如理智 (828) .....	四三四	安立 (1676) .....	八六二
如量智 (829) .....	四三四	安息 (514) .....	二六七
「如意珠」 (1028) .....	五三三	安塔有其二義 (1776) .....	九二八
如意通 (1134) .....	六〇一	《安樂集》 (214) .....	一一二
「如意通有三種」 (1134) .....	六〇一	安養 (429) .....	二二八
如意寶珠 (1028) .....	五三三	年耆 (1451) .....	七四一
妄見 (862) .....	四五八	延促 (450) .....	二三八
《字苑》 (785) .....	四一一	「延壽」 (325) .....	一七九
《字匯》 (1179) .....	六二七	有為 (906) .....	四七九
「守護國界主陀羅尼經」		《有部毘奈耶》 (1570) .....	八一二
(2077) .....	一〇七一	有情數 (824) .....	四三二
《守護國界主經》 (2077) .....	一〇七一	有常 (2176) .....	一一五五
安下 (1962) .....	一〇一一	有量諸相 (1578) .....	八一八
安世高 (499) .....	一六一	有間 (1811) .....	九四二

「有漏無漏」 (1597) .....	八二四	《百論》 (1933) .....	一〇一〇
有漏業 (255) .....	一三五	老婆 (1057) .....	五四九
有漏禪 (1131) .....	六〇一	「耳根」 (2041) .....	一〇五六
有餘涅槃 (1864) .....	九六六	耳根圓通 (2041) .....	一〇五六
此難 (2095) .....	一〇八一	○自性三寶 (1424 附) .....	七二七
死魔 (1156) .....	六一七	自性身 (1033) .....	五三六
汗汗 (447) .....	二二六	自性清淨心 (1375) .....	七〇七
「汗汗油油」 (447) .....	二二六	自受用或他受用之實報土 (1083) .....	五六一
灰身滅智 (1153) .....	六一五	自然智 (1817) .....	九四四
百丈 (1948) .....	一〇一五	至真 (939) .....	四九三
百法明門 (1757) .....	九一九	至誠心 (222) .....	一一六
百為 (1748) .....	九一一	舛誤 (57) .....	三三三
百界千如 (182) .....	一〇〇	「色界十八天」 (1567) .....	八一〇
《百緣經》 (1786) .....	九三二	色界諸天 (1567) .....	八一〇

行人則有四者 (1901) .....	九八八	吹毛示弟子 (2206) .....	一一七五
○行事鈔資持記 (1149 附) .....	六一四	那由他 (718) .....	三七七
《行事鈔資持記》 (1435) .....	七三五	那由多 (713) .....	三七五
《行卷》 (1089) .....	五六七	「那先比丘經」 (1801) .....	九三八
《行宗記》 (1225) .....	六五四	《那先經》 (1801) .....	九三八
行基 (2026) .....	一〇五〇	那羅延 (1230) .....	六五七
行業 (1399) .....	七一七	「那羅延力執金剛」 (1230) .....	六五七
行德 (943) .....	四九五	伽他 (1024) .....	五三一
行願菩提心 (1181) .....	六二八	「伽陀」 (1024) .....	五三一
《西方合論》 (2085) .....	一〇七七	《伽耶山頂經論》 (2146) .....	一一一三
「西域四姓」 (1452) .....	七四一	伽耶城 (758) .....	三九七
《西域記》 (600) .....	三一四	佉陀羅 (1223) .....	六五三
<b>七畫</b>		位後普賢 (656) .....	三四九
		住劫 (686) .....	三六四

住持三寶 (1425) .....	七二八	《佛地論》 (586) .....	三〇五
「住慈定者刀毒水火皆不能害」		佛成道日 (641) .....	三四三
(2169) .....	一一五二	佛陀耶舍 (1719) .....	八八二
何啻 (2036) .....	一〇五四	佛陀跋陀羅 (507) .....	二六三
佛 (1004) .....	五二一	佛事 (231) .....	一一九
佛土 (947) .....	四九六	「佛典音義」 (1539) .....	七八六
佛心 (425) .....	二二七	「佛垂般涅槃略說教誡經」	
佛心印 (634) .....	三四一	(1406) .....	七二一
「佛心宗」 (425) .....	一一七	佛性 (270) .....	一四四
「佛四德」 (983) .....	五一〇	佛法藏 (729) .....	三八一
佛立三昧 (476) .....	二五三	佛知見 (105) .....	六一
《佛名經》 (709) .....	三七三	佛刹無量，總有二十重 (1069) .....	五五二
《佛地經》 (547) .....	二八四	「佛後普賢」 (656) .....	三四九
「佛地經論」 (586) .....	三〇五	《佛祖統紀》 (1238) .....	六六〇

《佛祖統記》 (687) .....	三六五	「佛說觀無量壽佛經疏妙宗鈔」	
「佛般泥洹經」 (973) .....	五〇七	(2037) .....	一〇五四
佛部 (1512) .....	七七〇	「佛遺日摩尼寶經」 (1809) .....	九四一
佛國 (948) .....	四九七	「佛遺教經」 (1406) .....	七二〇
佛眼 (1342) .....	六九六	佛願生起本末 (1690) .....	八六六
《佛報恩經》 (957) .....	五〇二	作意 (1138) .....	六〇五
佛智 (1816) .....	九四四	冶 (356) .....	一九三
「佛跋陀羅」 (507) .....	一六四	初心 (348) .....	一九一
佛說大乘無量壽莊嚴經 (496) .....	二五九	初地 (262) .....	一三八
《佛說如幻三摩地無量印法門經》		初地至四地 (313) .....	一六五
(2071) .....	一〇六八	初住 (263) .....	一三八
佛說阿彌陀三耶三佛薩樓佛檀		初夜 (762) .....	三九九
過度人道經 (489) .....	二五六	初果 (279) .....	一四八
「佛說受十善戒經」 (1832) .....	九五一	初善，中善，後善 (2104) .....	一〇八九

初轉法輪 (617) .....	三二八	圓圖 (201) .....	一〇七
判教 (392) .....	一一〇	妙心 (1859) .....	九六二
別教 (158) .....	八八	妙有 (402) .....	一一六
別教一乘 (435) .....	一一九	妙宗鈔 (2037) .....	一〇五四
別教十向 (282) .....	一五〇	「妙法蓮華經」 (98) .....	五九
別惑 (1021) .....	五三〇	「妙法蓮華經玄義」 (1855) .....	九五九
別業 (2016) .....	一〇四七	「妙法蓮華經優波提舍」 (570) .....	一九八
劫 (963) .....	五〇四	妙高 (164) .....	九〇
劫火 (2111) .....	一〇九四	「妙高山」 (164) .....	九〇
劫盡火 (998) .....	五一八	妙喜世界 (351) .....	一九二
劫 (2017) .....	一〇四八	妙臂 (1471) .....	七五〇
「吠琉璃」 (1550) .....	八〇一	「妙臂菩薩」 (1471) .....	七五〇
含識 (433) .....	一一八	妙覺 (246) .....	一一九
含靈 (123) .....	七一	妙變化天 (1277) .....	六七六

妙觀察智 (1504) .....	七六七	戒品 (1272) .....	六七四
序分，正宗分，流通分 (567) .....	二九六	戒香 (1463) .....	七四六
「序品」 (910) .....	四八一	《戒香經》 (1464) .....	七四六
「弟子品」 (1905) .....	九九〇	戒德 (1445) .....	七三九
成劫 (2112) .....	一〇九四	「把柄」 (1957) .....	一〇一九
《成唯識論》 (1694) .....	八六九	抑止門 (1177) .....	六二六
《成實論》 (549) .....	二八六	○抑止攝取 (1177 附) .....	六二七
《成實論十號品》 (1005) .....	五二二	折伏為威，攝受為德 (1479) .....	七五四
志心 (1834) .....	九五二	李炳南 (541) .....	二七七
「我」 (2083) .....	一〇七五	步趨 (256) .....	一三五
「我我所」 (2083) .....	一〇七五	決定業 (1195) .....	六三五
我見 (1659) .....	八五三	沈水香 (1271) .....	六七四
我所見 (1658) .....	八五三	沈疴 (167) .....	九一
我執 (1219) .....	六五一	沈善登 (438) .....	一三三

沈檀 (1465) .....	七四六	「究竟一乘寶性論」 (1428) .....	七二九
沈麝 (1267) .....	六七三	究竟樂 (1330) .....	六九四
沉水 (1778) .....	九二九	究竟覺 (1041) .....	五四二
沙門 (1011) .....	五二五	《良賁疏》 (1232) .....	六五八
沙磧 (1045) .....	五四三	見分 (1072) .....	五五七
「沙彌十戒」 (1441) .....	七三七	見地 (281) .....	一五〇
《沙彌十戒儀則經》 (1672) .....	八六〇	「見思」 (257) .....	一三六
沙彌戒 (1714) .....	八七七	見思二惑 (257) .....	一三五
《沙彌律》 (2019) .....	一〇四八	「見思惑」 (257) .....	一三五
「沙羅雙樹」 (708) .....	三七二	「見惑品數」 (2198) .....	一六七
狂人迷失本頭 (1954) .....	一〇一七	見道 (1290) .....	六八〇
狂禪 (437) .....	一三三一	見愛 (786) .....	四一一
《禿鈔》 (423) .....	一一二六	言詮 (1611) .....	八三一
究竟 (6) .....	五	赤珠 (1559) .....	八〇七

赤銅 (1843) .....	九五六
足指按地 (2058) .....	一〇六二
身子 (649) .....	三四七
身見、邊見、邪見、見取、戒取 (782) .....	四〇九
身通 (613) .....	三二五
身密 (1032) .....	五三六
<b>八畫</b>	
昆明池 (2209) .....	一一七六
阿 (237) .....	一一二一
「阿字本不生」 (1511) .....	七六九
「阿那律」 (574) .....	三〇〇
「阿那律陀，無日而見」 (574) .....	三〇一

阿那婆達多池 (1270) .....	六七四
「阿伽陀」 (129) .....	七四
阿伽陀藥 (129) .....	七四
阿含時 (381) .....	一〇五
阿泥律陀 (644) .....	三四五
阿泥樓陀 (574) .....	三〇〇
阿若憍陳如 (616) .....	三二八
阿修羅 (757) .....	三九六
「阿毗達磨大毗婆沙論」 (761) .....	三九八
阿毘達磨 (366) .....	一九七
阿惟越致 (272) .....	一四四
《阿惟越致遮經》 (1919) .....	九九六
阿僧祇 (104) .....	六一
「阿閼」 (712) .....	三七五

- 阿閼佛 (712) .....三七五
- 阿鼻 (1175) .....六二六
- 阿鼻地獄 (1175 附) .....六二六
- 阿耨多羅三藐三菩提 (23) .....一五
- 阿耨菩提 (1301) .....六八四
- 阿耨達池 (1629) .....八三九
- 阿賴耶 (1998) .....一〇三九
- 阿賴耶三義 (1998 附) .....一〇三九
- 「阿賴耶識」 (1998) .....一〇三九
- 阿闍王子 (1521) .....七七七
- 「阿闍世」 (592) .....三〇九
- 阿闍世王 (592) .....三〇九
- 《阿闍世王問五逆經》 (1170) .....六二二
- 「阿闍梨」 (811) .....四二六
- 
- 阿闍黎 (811) .....四二六
- 「阿彌陀三耶三佛薩樓佛檀過度人  
道經」 (489) .....二五六
- 《阿彌陀秘釋》 (1505) .....七六七
- 《阿彌陀經》 (44) .....二四
- 《阿彌陀經略解》 (1686) .....八六六
- 「阿彌陀經疏」 (1626) .....八三七
- 「阿彌陀經義疏」 (469) .....二五〇
- 《阿彌陀鼓音聲王陀羅尼經》 (470) .....二五一
- 「阿彌陀懺法」 (1750) .....九一三
- 阿鞞跋致 (1192) .....六三五
- 阿羅漢 (251) .....一三三
- 「阿羅漢三義」 (251) .....一三三
- 阿難 (373) .....一〇〇

「阿難四問」 (575) .....	1101	芬馥 (1268) .....	六七四
阿蘭若 (630) .....	1118	「拈花微笑」 (635) .....	三四一
陀羅尼 (238) .....	1111	侈談 (1447) .....	七三九
陀羅尼有四種 (879) .....	四六三	供養雲 (832) .....	四三五
「陀羅尼門諸部要目」 (1920) .....	九九六	依他起性 (1637) .....	八四六
《陀羅尼集經》 (1788) .....	九三二	依正 (192) .....	104
事事無礙 (74) .....	四二	依正二報四種莊嚴 (2197) .....	1166
「事事無礙法界」 (74) .....	四二	依義不依語 (519) .....	二六八
事理無礙 (73) .....	四二	「兔角」 (173) .....	九四
事持/理持 (2181) .....	1157	兩楹 (1882) .....	九七九
《事贊》 (1130) .....	600	「兩曜」 (1586) .....	八二〇
芥子 (448) .....	1137	具足戒 (1442) .....	七三八
「芥子喻」 (448) .....	1137	具縛 (65) .....	三六
《芬陀利經》 (1284) .....	六七八	取著 (1839) .....	九五四

命根 (2006) .....	一〇四一	○宗密 (203 附) .....	一〇七
和尚 (1415) .....	七二三	宗教 (62) .....	三五
○和南 (938 附) .....	四九二	宗源 (728) .....	三八〇
和敬 (1968) .....	一〇二四	宗說俱通 (35) .....	一一〇
垂迹 (646) .....	三四六	《宗鏡錄》 (344) .....	一九〇
夜叉 (608) .....	三二〇	《宗鏡錄》九十五卷中有註釋 (1360) .....	七〇一
夜摩 (1564) .....	八〇九	宗體 (208) .....	一〇九
始覺 (235) .....	一一〇	定善 (317) .....	一七三
孤山 (1708) .....	八七四	《定善義》 (1335) .....	六九五
孤獨地獄 (1102) .....	五七六	○定散二善 (317 附) .....	一七三
宗門 (911) .....	四八一	○定業 (1195 附) .....	六三五
「宗門教下」 (62) .....	三五	帛延 (501) .....	一六一
《宗要》 (207) .....	一〇九	幸西 (1803) .....	九三九
宗致 (206) .....	一〇八		

○底沙 (675 附) .....	三五八	性起 (103) .....	六一
「底沙佛」 (675) .....	三五八	性德 (730) .....	三八一
往生 (1745) .....	九〇七	所緣緣 (2108) .....	一〇九二
「往生呪」 (1745) .....	九〇七	抱渴而死，弗飲水蟲 (1773) .....	九二六
《往生要集》 (1150) .....	六一四	抵 (1963) .....	一〇一一
《往生論》 (194) .....	一〇五	拔濟 (719) .....	三七七
《往生論註》 (213) .....	一一一	拘那含牟尼佛 (689) .....	三六五
「往生禮讚偈」 (1154) .....	六一五	拘留孫佛 (688) .....	三六五
「念佛十種心」 (683) .....	三六一	「拘瑟耽羅」 (621) .....	三三二
念佛三昧 (210) .....	一一〇	《放鉢經》 (665) .....	三五三
《念佛三昧寶王論》 (1807) .....	九四〇	明 (880) .....	四六四
念著 (1881) .....	九七九	明月珠 (1619) .....	八三四
性修二德 (1323) .....	六九一	○明月摩尼 (1619 附) .....	八三四
性海 (405) .....	二一六	明行足 (993) .....	五一四

明哲 (2005) .....	一〇四一	「果門」 (145) .....	八一
明點 (806) .....	四二四	果海 (276) .....	一四六
明鑒 (1703) .....	八七二	果教 (145) .....	八一
易 (1996) .....	一〇三八	「果教·密乘教」 (145) .....	八一
易行道 (119) .....	六九	果報 (1571) .....	八一三
「易繫」 (1282) .....	六七八	果號 (1293) .....	六八一
《易繫辭》 (1282) .....	六七八	果德 (241) .....	一二六
東天竺 (329) .....	一八一	果縛 (1907) .....	九九一
東密 (454) .....	一三九	沮壞 (1018) .....	五二九
杲 (1936) .....	一〇一二	法子 (1761) .....	九二一
柎械 (1997) .....	一〇三八	《法句經》 (2119) .....	一一〇一
析 (1731) .....	九〇三	法本 (1547) .....	八〇〇
果人 (560) .....	二九二	法住 (1414) .....	七二三
果位 (928) .....	四八九	《法住記》 (2114) .....	一〇九五

法身 (175) .....	九五	《法苑珠林》 (521) .....	二六九
法身大士 (83) .....	五〇	法城 (788) .....	四一二
法身如來 (174) .....	九四	法施 (1327) .....	六九三
「法身菩薩」 (83) .....	五〇	法界 (1) (548) .....	二八四
《法事贊》 (1322) .....	六九一	法界 (11) (821) .....	四三一
「法事讚」 (1130) .....	六〇〇	《法界次第》 (1115) .....	五八九
法性 (820) .....	四三〇	「法界次第初門」 (1115) .....	五八九
法性土 (1393) .....	七一五	法界身 (1522) .....	七七八
法性生身 (1298) .....	六八三	法界宮 (1506) .....	七六八
法性身 (1524) .....	七七八	《法界記》 (876) .....	四六三
法服 (753) .....	三九五	法界唯心 (877) .....	四六三
法炬 (347) .....	一九一	法界清淨智 (1503) .....	七六七
法空 (398) .....	一一四	「法界體性智」 (1503) .....	七六七
「法空智」 (1187) .....	六三二	法相 (338) .....	一八六

「法相宗」 (338) .....	一八六	《法華疏記》 (2031) .....	一〇五二
法要 (87) .....	五三	《法華遊意》 (1380) .....	七一〇
法海 (1548) .....	八〇〇	《法華經》 (98) .....	五九
《法華》、《大悲》、《光明》、 《彌陀》、《楞嚴》等懺 (1750) .....	九一一	《法華經化城喻品》 (1517) .....	七七二
法華三止說 (1058) .....	五四九	《法華經方便品》 (1111) .....	五八〇
法華三昧 (340) .....	一八八	《法華經妙莊嚴王品》 (2121) .....	一一〇一
《法華文句》 (619) .....	三二九	《法華經序品》 (910) .....	四八一
《法華文句記》 (945) .....	四九五	《法華經法師品》 (1235) .....	六五九
《法華玄義》 (1855) .....	九五九	《法華經信解品》 (1217) .....	六五〇
《法華玄贊》 (725) .....	三七九	《法華經授記品》 (1942) .....	一〇一三
《法華科註》 (1644) .....	八四九	《法華經普門品》 (1869) .....	九七〇
法華涅槃時 (390) .....	一〇九	《法華經普賢勸發品》 (1477) .....	七五三
《法華提婆品》 (953) .....	五〇〇	《法華經勸發品》 (1407) .....	七一二
		《法華經寶塔品》 (1350) .....	六九八

《法華義疏》 (849) .....	四五〇	法報化三身 (1488) .....	七五七
《法華嘉祥疏》 (669) .....	三五五	法無礙智 (1847) .....	九五六
《法華壽量品》 (756) .....	三九六	《法集經》 (1073) .....	五五八
《法華論》 (570) .....	二九八	法滅盡經 (165) .....	九一
《法華論疏》 (1476) .....	七五三	法照 (2097) .....	一〇八二
《法華藥王品》 (864) .....	四五八	法雷 (1846) .....	九五六
《法華勸持品》 (1326) .....	六九二	《法鼓經》 (1822) .....	九四六
「法華懺法」 (1750) .....	九一一	法賢 (497) .....	二五九
《法華譬喻品》 (854) .....	四五一	法輪 (773) .....	四〇六
法執 (1737) .....	九〇四	法藏 (一) (914) .....	四八二
法眼宗 (343) .....	一九〇	法藏 (二) (1866) .....	九六八
法眼淨 (2139) .....	一一一〇	波旬 (1541) .....	七八七
法喜 (1879) .....	九七八	○波利質多羅 (1791 附) .....	九三四
法報 (1062) .....	五五〇	波羅奈 (706) .....	三七一

「波羅蜜多唯有六數」 (2166) .....	1147	空無相無願 (848) .....	448
「波羅蜜多」 (2166) .....	1148	空慧 (787) .....	411
波羅蜜多種性 (2165) .....	1147	空諦 (1508) .....	768
泥犁 (138) .....	77	竺法力 (505) .....	163
「注維摩詰經」 (992) .....	513	竺曇摩羅察 (503) .....	161
炎炎 (1964) .....	1011	臥具 (1257) .....	669
盲冥 (1337) .....	695	「受十善戒經」 (1832) .....	951
○知禮 (300 附) .....	159	受職灌頂 (801) .....	411
空王佛 (941) .....	494	舍利 (1) (1210) .....	644
空居天 (1566) .....	810	舍利 (11) (1777) .....	929
空性 (1081) .....	560	舍利弗 (125) .....	711
「空海」 (1523) .....	778	「舍利弗瞋恚氣分」 (1873) .....	971
空無相 (219) .....	115	舍利弗瞋恚餘習 (1873) .....	971
		《金光明》 (566) .....	195

「金光明最勝王經」 (977) ……………	五〇九	金剛手菩薩 (661) ……………	三五〇
「金光明經」 (566) ……………	二九五	金剛王寶劍 (1474) ……………	七五一
《金光明經文句》 (1163) ……………	六一〇	金剛杵 (1221) ……………	六五一
「金光明懺法」 (1750) ……………	九一一	金剛界 (1520) ……………	七七五
「金光明懺法補助儀」 (1750) ……………	九一三	「金剛界三十七尊」 (1501) ……	七六三
「金色鉢羅華」 (637) ……………	三四一	○金剛界五部 (1520 附) ……	七七五
「金色尊者」 (638) ……………	三四一	「金剛神」 (89) ……………	五三
「金色頭陀」 (638) ……………	三四一	《金剛破空論》 (1485) ……	七五六
「金波羅華」 (637) ……………	三四一	金剛般若 (1929) ……………	一〇〇九
○金胎 (1512 附) ……………	七七〇	《金剛般若經》 (157) ……	八六
金剛 (89) ……………	五三	金剛部 (1514) ……………	七七一
「金剛力士」 (1224) ……………	六五三	○金剛頂瑜伽三十七尊出生義 (697 附) ……	三六九
《金剛三昧經》 (1899) ……	九八八	○金剛頂瑜伽中發阿耨多羅	

三藐三菩提心論(227 附) …… 一一八

《金剛頂經》(1484) …… 七五五

金剛智(一)(662) …… 三五一

金剛智(二)(1242) …… 六六五

「金剛智三藏」(662) …… 三五—

○金剛經(157 附) …… 八六

金剛薩埵(333) …… 一八一

金粟如來(1724) …… 八九九

金輪王(1453) …… 七四二

長行(1052) …… 五四六

《長阿含經》(765) …… 四〇—

《長阿含經地獄品》(1109) …… 五七九

長跪(951) …… 四九九

雨花(1320) …… 六九〇

青龍《仁王經疏》(2109) …… 一〇九三

「青龍疏」(2109) …… 一〇九三

○毒鼓(2056 附) …… 一〇六一

非人(2027) …… 一〇五〇

「非有情數」(825) …… 四三—

非常、苦、空、非我(1657) …… 八五三

九畫

降服毒龍(624) …… 三三四

《信心銘》(1487) …… 七五六

信伏(1590) …… 八二—

信位菩薩(1308) …… 六八六

○信忍(2138 附) …… 一一一〇

信順(580) …… 三〇四

信解行證 (994) .....	五一四	南天竺 (331) .....	一八一
信慧 (2137) .....	一一〇八	「南天鐵塔」 (332) .....	一八一
前正覺山 (1260) .....	六六九	南本《涅槃》 (1310) .....	六八七
刹 (946) .....	四九六	「南本涅槃經」 (1310) .....	六八七
刹利 (809) .....	四二五	南泉 (1475) .....	七五二
「刹帝利」 (809) .....	四二五	南嶽懷讓 (178) .....	九八
刹說 (781) .....	四〇九	南瞻部洲 (1552) .....	八〇四
即身成佛 (816) .....	四二八	厚往薄來 (2053) .....	一〇六〇
即事而真 (190) .....	一〇四	苾芻 (643) .....	三四四
「即悟無生」 (122) .....	七一	「苦心孤詣」 (39) .....	一一一
南山 (一) (337) .....	一八五	迴 (1729) .....	九〇一
南山 (一) (2025) .....	一〇五〇	迴小向大 (以「迴」字計算筆畫)	
「南山宗」 (337) .....	一八五	(612) .....	三二四
《南山業疏》 (1771) .....	九二三	迴向 (1698) .....	八七〇

迴向發願心 (224) .....	一一七	(1400) .....	七一七
「迦比羅」 (515) .....	二六七	《郁迦羅越問經》 (1400) .....	七一七
「迦那伽牟尼」 (689) .....	二六五	咨嗟 (1162) .....	六一九
迦毗羅衛 (515) .....	二六七	垓 (891) .....	四七三
迦陵頻伽 (1211) .....	六四四	垢汙 (791) .....	四一三
迦葉 (372) .....	一九九	契理 (67) .....	三七
迦葉佛 (690) .....	三六六	契經 (362) .....	一九五
「迦葉尊者」 (372) .....	一九九	「契經二義」 (362) .....	一九五
「迦樓羅」 (1227) .....	六五五	契機 (68) .....	三七
迦樓羅鳥 (1227) .....	六五五	姚秦 (463) .....	二四五
○迦羅 (1048 附) .....	五四五	威儀 (1825) .....	九四七
迦羅分 (1048) .....	五四五	客塵 (1944) .....	一〇一四
迭相 (1973) .....	一〇二八	帝網 (407) .....	一一七
「郁迦羅越問菩薩行經」		帝釋天王 (702) .....	三七〇

「帝釋天主」 (702) .....	三七〇	後得智 (744) .....	三九〇
幽溪大師 (54) .....	三一	後漢《左雄傳》 (1943) .....	一〇一三
「度世品經」 (691) .....	三六七	○思益梵天所問經 (404 附) .....	一一六
《度世經》 (691) .....	三六七	《思益經》 (404) .....	一一六
律行 (1281) .....	六七八	恆河沙 (1047) .....	五四四
律宗 (63) .....	三六	恬 (1450) .....	七四一
律儀戒 (1436) .....	七三五	指方立相 (154) .....	八五
律藏 (363) .....	一九五	「施食獲五福報」 (1784) .....	九三一
後五百歲 (2131) .....	一一〇六	《施燈功德經》 (1787) .....	九三二
《後出阿彌陀佛偈經》 (471) .....	一一五	「春秋八王日」 (2012) .....	一〇四四
《後出偈經》 (1325) .....	六九二	是心是佛 (30) .....	一八
後有 (2089) .....	一〇七九	染衣 (1427) .....	七二九
後身菩薩 (748) .....	三九二	染法 (1696) .....	八七〇
後夜 (1671) .....	八六〇	「毗婆尸佛」 (628) .....	三三五

「毗盧遮那佛」 (462) .....	二四二	珊瑚 (1561) .....	八〇八
毘奈耶 (364) .....	一九六	○界品 (1978 附) .....	一〇二九
毘耶離 (707) .....	三七二	「相國裴休」 (1854) .....	九五九
「毘舍離」 (707) .....	三七二	省庵 (1036) .....	五三七
毘首羯磨 (1478) .....	七五三	矜哀 (964) .....	五〇四
毘紐天 (1226) .....	六五四	「科文」 (42) .....	一三三
毘婆尸佛 (628) .....	三三五	科判 (42) .....	一三三
《毘婆沙論》 (486) .....	一五五	紅教 (663) .....	三五一
「毘琉璃」 (1970) .....	一〇二七	《胎經》 (1752) .....	九一七
毘盧舍那 (239) .....	一一三	胎獄 (1529) .....	七八二
毘盧遮那 (462) .....	二四二	胎藏界 (1519) .....	七七三
《毘盧遮那經》 (352) .....	一九二	「胎藏界三部」 (1519) .....	七七四
津濟 (1828) .....	九四八	「胎藏界曼荼羅」 (1913) .....	九九二
玻璃 (1557) .....	八〇七	胎藏鬘荼羅 (1913) .....	九九二

要津 (1980) .....	1030
《要集》 (1132) .....	701
計度分別 (327) .....	180
軌持 (723) .....	378
○重重帝網 (407 附) .....	117
「韋紐天」 (1226) .....	654
韋提希夫人 (1715) .....	878
風腫 (1460) .....	745
風雹 (2049) .....	1060
食頃 (932) .....	491
「首楞嚴」 (882) .....	467
首楞嚴三昧 (882) .....	467
《首楞嚴經》 (733) .....	383
「首楞嚴義疏注經」 (1299) .....	684

《首楞嚴觀音圓通章》 (1486) .....	756
香茅 (595) .....	311
○香象 (711 附) .....	374
「香象大師」 (202) .....	107
《香象心經疏》 (202) .....	107
香象菩薩 (711) .....	374
「香積」 (1280) .....	677
香積如來 (1280) .....	677
<b>十畫</b>	
俱生神 (2008) .....	1041
《俱舍界品頌疏》 (1978) .....	1029
《俱舍頌》 (2074) .....	1070
《俱舍論》 (794) .....	414

《俱舍光記》 (1569) ..... 八一二

俱胝 (705) ..... 三七一

「俱致」 (705) ..... 三七一

俱絺羅 (621) ..... 三三〇

倫匹 (958) ..... 五〇二

修多羅 (361) ..... 一九五

修惑 (1959) ..... 一〇一九

修羅 (1347) ..... 六九七

修證 (228) ..... 一一八

「冥心」 (39) ..... 一一二

冥心孤詣 (39) ..... 一一二

冥加 (247) ..... 一三〇

冥應 (1861) ..... 九六三

剖心 (431) ..... 二二八

《原人論》 (1639) ..... 八四六

差別智 (831) ..... 四三五

唐捐 (653) ..... 三四八

「唐慧日」 (2099) ..... 一〇八五

「娑婆」 (249) ..... 一三〇

娑婆世界 (249) ..... 一三〇

○娑羅林 (708 附) ..... 三七三

娑羅雙樹 (708) ..... 三七二

宴坐 (86) ..... 五二

師子吼 (1361) ..... 七〇二

師子座 (1371) ..... 七〇五

師子遊戲三昧 (1372) ..... 七〇六

○師子奪迅三昧 (883 附) ..... 四六八

「師子頻申三昧」 (883) ..... 四六八

師子頻呻 (883) ..... 四六八  
 師心自用 (1976) ..... 一〇二九  
 師承 (581) ..... 三〇四  
 師資 (584) ..... 三〇五  
 徑尺 (443) ..... 一三六  
 徑路 (293) ..... 一五七  
 恭帝元熙元年 (506) ..... 一六三  
 悟入無生 (122) ..... 七一  
 ○悟忍 (2138 附) ..... 一〇九  
 拳拳服膺 (1053) ..... 五四七  
 旃陀羅 (1417) ..... 七二四  
 旃檀 (118) ..... 六九  
 草庵 (1710) ..... 八七五  
 「草繫比丘」 (1774) ..... 九二七

「晉慧遠」 (1718) ..... 八八一  
 《晉譯華嚴經》 (2007) ..... 一〇四一  
 朕迹 (833) ..... 四三五  
 「朕蹟」 (833) ..... 四三五  
 校讎 (528) ..... 二七一  
 「根本四禪」 (1123) ..... 五九二  
 ○根本枝末二無明 (245 附) ..... 一二九  
 根本教 (2170) ..... 一五二  
 根本智 (830) ..... 四三四  
 根本煩惱 (1608) ..... 八二九  
 「根本說一切有部毘奈耶」  
 (1570) ..... 八二二  
 根缺 (1381) ..... 七一〇  
 根器 (121) ..... 七〇

根機 (309) .....	一六二	涅槃城 (1006) .....	五二二
桓靈 (500) .....	二六一	涅槃界 (1684) .....	八六五
氣脈 (805) .....	四二四	《涅槃梵行品》 (985) .....	五一二
「流離王殺釋種」 (1970) .....	一〇二七	《涅槃無名論》 (1448) .....	七四〇
浣濯 (1252) .....	六六八	《涅槃疏》 (1304) .....	六八五
「海印」 (888) .....	四七〇	《涅槃經》 (379) .....	一〇三
海印三昧 (888) .....	四七〇	《涅槃經疏》 (1228) .....	六五六
海印三昧有十義 (2153) .....	一一三	烏托邦 (2057) .....	一〇六一
「海印炳現體」 (888) .....	四七一	留難 (1542) .....	七八八
海德 (1303) .....	六八五	「病起六緣」 (2038) .....	一〇五五
浸 (1382) .....	七一〇	炮 (1099) .....	五七一
涅槃 (858) .....	四五五	真如 (71) .....	三八
涅槃三德 (268) .....	一四〇	真言 (一) (416) .....	一一一〇
涅槃門 (1317) .....	六八九	真言 (二) (800) .....	四二〇

「真言十地」 (1246) .....	六六六	《破空論》 (2091) .....	一〇八〇
「真言阿闍梨」 (812) .....	四二七	破參 (1798) .....	九三七
真言阿闍黎 (812) .....	四二七	秘法 (802) .....	四二二
「真言宗」 (416) .....	二二一	秘密莊嚴心 (1263) .....	六七〇
真性 (403) .....	二一六	秘藏 (28) .....	一七
真空 (1892) .....	九八五	《秘藏記》 (810) .....	四二六
真俗二諦 (85) .....	五〇	窈冥 (1974) .....	一〇二九
真常 (1411) .....	七二二	純情 (2205) .....	一七三
真實五願 (968) .....	五〇六	純圓獨妙 (434) .....	二二九
真實明 (1579) .....	八一八	耆山 (601) .....	三一五
真實際 (897) .....	四七五	耆闍崛 (599) .....	三一三
真諦 (1077) .....	五五九	能所 (294) .....	一五七
破見 (2126) .....	一〇三	「脅士」 (659) .....	三五〇
破和合僧 (1172) .....	六二三	脇士 (659) .....	三五〇

《般若三昧經》 (472) .....	二五一	「祕藏記」 (810) .....	四二六
「般若三昧讚」 (1592) .....	八二二	被繫而終，無傷草葉 (1774) .....	九二七
《般若經》 (885) .....	四六九	財施 (1328) .....	六九三
《般若讚》 (1592) .....	八二一	起心立德 (1216) .....	六五〇
「般若波羅密多心經略疏」 (202) .....	一〇七	《起世因本經》 (1958) .....	一〇一九
「般若波羅蜜」 (732) .....	三八二	《起信因緣分疏》 (328) .....	一八〇
般若波羅蜜多 (732) .....	三八二	《起信論》 (414) .....	二二〇
「般若波羅蜜多心經」 (1039) .....	五三九	《起信論義記》 (822) .....	四三一
般若時 (388) .....	二〇九	「起塔有六意」 (1776) .....	九二八
《般若經》 (1408) .....	七二一	追善 (1593) .....	八二二
般涅槃 (573) .....	三〇〇	「追薦」 (1593) .....	八二二
《般涅槃經》 (973) .....	五〇七	馬鳴 (322) .....	一七五
袁中郎宏道居士 (2084) .....	一〇七五	高峰 (1952) .....	一〇一六
		高齊 (1691) .....	八六七

高麗藏 (857) .....四五四

### 十一畫

陰魔 (137) .....七七

陶家輪 (1594) .....八二三

陸王 (532) .....一七三

陸沉 (2051) .....一〇六〇

畢陵伽婆蹉慢餘習 (1875) .....九七五

「畢鉢羅」 (1261) .....六七〇

畢鉢羅樹 (1261) .....六七〇

「乾闥婆」 (1142) .....六〇七

乾闥緊那 (1142) .....六〇七

動不動 (2179) .....一五六

「動不動法」 (2179) .....一五六

優武修文 (2052) .....一〇六〇

○假名世間 (1369 附) .....七〇五

假諦 (1509) .....七六九

偈頌 (1025) .....五三二

偏空 (846) .....四四八

偏真 (896) .....四七四

偏袒右肩 (950) .....四九八

偏圓 (568) .....二九七

健馱羅國 (2100) .....一〇八六

○兜率 (746 附) .....三九一

兜率內院 (677) .....三五九

兜率天 (746) .....三九一

「兜羅」 (1667) .....八五八

兜羅縣 (1667) .....	八五八	婆藪槃頭 (2094) .....	一〇八一
參究 (1738) .....	九〇五	婆羅門 (1204) .....	六四一
唯心所現 (456) .....	一三九	宿根 (1702) .....	八七二
唯心迴轉善成門 (459) .....	一四〇	「宿植」 (1061) .....	五五〇
唯識 (1071) .....	五五七	宿殖 (1061) .....	五五〇
「唯識宗」 (1071) .....	五五七	寂滅為樂 (1412) .....	七一一
《唯識述記》 (823) .....	四三二	寂照 (1050) .....	五四六
《唯識論》 (722) .....	三七八	寂寥 (553) .....	二八九
執金剛 (1224) .....	六五三	密十地 (1246) .....	六六六
「基本粒子」 (1397) .....	七一六	密在汝邊 (1060) .....	五四九
○郭璞 (446 附) .....	一三六	密宗初地 (1243) .....	六六六
「婆伽婆」 (546) .....	一八一	「密迹金剛力士會」 (645) .....	三四六
婆伽梵 (2087) .....	一〇七八	《密迹金剛力士經》 (645) .....	三四五
《婆沙論》 (761) .....	三九八	《密迹經》 (890) .....	四七三

密教 (334) .....	一八四	常住二字 (1305) .....	六八五
「密教十六菩薩」 (1922) .....	九九七	常途 (1064) .....	五五〇
密教所立四身 (1034) .....	五三七	常樂我淨 (983) .....	五一〇
密號 (1583) .....	八一九	庵羅 (1312) .....	六八七
密嚴土 (230) .....	一一八	庵羅樹女 (1753) .....	九一七
密嚴世界 (1481) .....	七五五	康僧鎧 (493) .....	二五八
《密嚴法藏疏》 (1482) .....	七五五	得大勢 (551) .....	二八八
○密嚴國 (1390 附) .....	七一三	從文字般若而起觀照，入於實相 (1981) .....	一〇三〇
密嚴淨土 (1390) .....	七一三	從門入者，不是家珍 (1917) .....	九九五
「密嚴經」 (1389) .....	七一三	從果向因 (2180) .....	一一五七
《密嚴經疏》 (1391) .....	七一四	悉檀 (1763) .....	九二一
常光一丈 (1117) .....	五八九	情世間 (1369) .....	七〇五
常行三昧 (477) .....	二五三	掃蕩 (1796) .....	九三六
「常住」 (1305) .....	六八五		

「掃蕩門」 (1796) .....	九三六	曼陀羅華 (1669) .....	八五九
授手 (1758) .....	九一九	望西師 (596) .....	三一二
授記 (391) .....	二〇九	《望西疏》 (1844) .....	九五六
《探玄記》 (440) .....	二三五	梅光羲 (17) .....	一一
○教行信證 (1085 附) .....	五六五	梵王 (636) .....	三四一
教行信證 (969) .....	五〇六	梵世 (1688) .....	八六六
《教行信證文類》 (1085) .....	五六五	「梵世界」 (1688) .....	八六六
教行理 (563) .....	一九三	梵行 (2122) .....	一一〇一一
教相 (395) .....	一一三	《梵室偶談》 (1749) .....	九一一
教授善知識 (1055) .....	五四八	梵宮 (2113) .....	一〇九五
教理行果四法 (1022) .....	五三〇	「梵琦」 (2103) .....	一〇八七
教詔 (1692) .....	八六七	梵策 (517) .....	二六八
教觀 (2135) .....	一一〇八	《梵網經》 (1934) .....	一〇一〇
「曼陀羅」 (1669) .....	八五九	《梵摩喻經》 (1849) .....	九五八

「梵摩渝經」 (1849) .....	九五八	淨菩提心 (1244) .....	六六六
「梵篋」 (517) .....	二六八	「淨菩提心地」 (1243) .....	六六六
欲性 (1894) .....	九八五	淨飯王 (642) .....	三四三
欲界九品思惑 (1625) .....	八三七	淨影 (533) .....	一七三
欲界六天 (1454) .....	七四二	淨影寺 (535) .....	一七三
淨土 (248) .....	一三〇	《淨影疏》 (371) .....	一九九
淨十二經 (981) .....	五一〇	深心 (223) .....	一一六
《淨土修證儀》 (1544) .....	七八九	清白 (789) .....	四一一
《淨土論註》 (1112) .....	五八〇	清信士 (934) .....	四九一
《淨名》 (1890) .....	九八五	清信女 (935) .....	四九一
淨妙 (1491) .....	七五七	清涼 (1632) .....	八四一
淨居有五天 (2073) .....	一〇六九	清涼池 (132) .....	七五
《淨修捷要》 (146) .....	八一	「清涼國師」 (1632) .....	八四一
淨華嚴 (1595) .....	八二三	《清涼疏》 (654) .....	三四八

- 清辯 (1842) ..... 九五六
- 「率都婆」 (1775) ..... 九二八
- 現生十種益 (1693) ..... 八六七
- 現量 (1409) ..... 七二一
- 理人、行人 (1900) ..... 九八八
- 「理事無礙法界」 (73) ..... 四二
- 理性 (27) ..... 一七
- 理持/事持 (2181) ..... 一五七
- 《理趣釋》 (1152) ..... 六一五
- 理體 (70) ..... 三八
- 琉璃 (1554) ..... 八〇六
- 琉璃之琴 (1143) ..... 六〇八
- 琉璃王為報宿怨，欲盡殺釋種  
(1970) ..... 一〇二七
- 
- 《略箋》 (1086) ..... 五六五
- 《略論》 (1704) ..... 八七二
- 「略論安樂淨土義」 (1704) ..... 八七二
- 異生 (2075) ..... 一〇七〇
- 「眼色紺青相」 (1120) ..... 五九〇
- 眾生世間 (1364 附) ..... 七〇三
- 眾生世間清淨 (1364) ..... 七〇二
- 「眾生忍」 (1187) ..... 六三二
- 眾生界 (681) ..... 三六一
- 眾生界盡 (1413) ..... 七二二
- 眾竅 (1655) ..... 八五一
- 第一義 (1759) ..... 九二〇
- 第一義空 (292) ..... 一五六
- 第一義諦 (303) ..... 一六〇

第二禪天 (2062) .....	一〇六四	逝多林 (679) .....	三六一
第十一地 (1247) .....	六六七	逗機 (726) .....	三八〇
第十住心 (1264) .....	六七〇	通力 (1838) .....	九五四
粗苦 (2086) .....	一〇七七	通教 (280) .....	一四九
粗重 (1878) .....	九七七	通惑 (1020) .....	五二九
紺青 (1120) .....	五九〇	「通解十如是」 (2162) .....	一一四一
「鉢多羅」 (1647) .....	八五一	通儒 (1765) .....	九二二
曹山 (1955) .....	一〇一八	釧 (177) .....	九八
《莊子齊物論》 (1651) .....	八五二	頂戴 (1091) .....	五六八
袈裟 (949) .....	四九七	鳥窠禪師 (2035) .....	一〇五三
覓心不可得 (184) .....	一〇一	瓶灌 (803) .....	四二二
貪饕 (1837) .....	九五三	鹿林 (769) .....	四〇三
貫攝常法 (558) .....	二九一	鹿野苑 (382) .....	一〇五
《造像功德經》 (1781) .....	九三〇	「鹿野園」 (382) .....	一〇五

十一畫

陽炎 (1966) .....	1011	勝義菩提心 (1182) .....	629
「陽燄」 (1966) .....	1011	勝義諦 (1079) .....	560
傅大士 (552) .....	288	○勝幡 (1935 附) .....	1011
傍生 (893) .....	473	勝幢 (1935) .....	1011
「勝天王般若」 (1421) .....	726	勝應 (1497) .....	761
「勝天王般若波羅蜜多經」 (1421) .....	726	「勝應身」 (1497) .....	761
《勝天王般若經》 (1421) .....	725	《勝鬘寶窟》 (940) .....	493
「勝思惟梵天所問經」 (699) .....	370	善巧 (850) .....	450
《勝思惟梵天經》 (699) .....	370	《善生經》 (2045) .....	1058
勝義空 (1840) .....	955	善見藥 (1983) .....	1031
		善法堂 (1274) .....	675
		善知識 (1054) .....	547
		善哉 (960) .....	503
		「善財五十三參」 (1722) .....	885

善財參五十三善知識 (1722) .....	八八五	報身 (986) .....	五一二
「善財採藥」 (1525) .....	七七九	《報恩經》 (576) .....	一一〇三
善財童子採藥 (1525) .....	七七八	《報恩論》 (518) .....	一一六八
善逝 (995) .....	五一六	報謝 (1139) .....	六〇五
○善現藥王 (1983 附) .....	一〇三三	娒 (2018) .....	一〇四八
「善導」 (152) .....	八五	寒林城 (591) .....	二〇八
善導大師 (152) .....	八三	尊宿 (64) .....	三六
善導大師《觀經疏》 (1176) .....	六二六	《尊勝陀羅尼經》 (1206) .....	六四二
「善慧」 (552) .....	二八八	彭二林 (413) .....	一一一〇
○喇嘛上師 (1429 附) .....	七三〇	彭紹升 (11) .....	六
暗啞 (1534) .....	七八四	《悲華經》 (480) .....	一五四
○喜忍 (2138 附) .....	一一〇九	惑業苦 (671) .....	二五五
喜忍、悟忍與信忍 (2138) .....	一一〇九	惡作 (1993) .....	一〇三八
報土 (1026) .....	五三二	惡知識 (1208) .....	六四三

惡露 (1986) .....	1033	《華嚴玄談》 (455) .....	1339
《華手經》 (917) .....	484	《華嚴初發心功德品》 (452) .....	138
《華首經》 (956) .....	501	《華嚴妙嚴品》 (441) .....	135
華報 (217) .....	114	華嚴宗 (91) .....	54
華藏 (430) .....	118	《華嚴金獅子章》 (458) .....	140
華藏世界 (461) .....	141	華嚴時 (380) .....	104
《華嚴十住品》 (445) .....	136	「華嚴遊心法界記」 (1432) .....	711
《華嚴十忍品》 (1614) .....	831	華嚴經 (72) .....	39
華嚴三昧 (872) .....	461	「華嚴經三譯」 (660) .....	150
《華嚴大疏》 (1007) .....	513	《華嚴經性起品》 (100) .....	60
《華嚴大疏鈔》 (1164) .....	610	《華嚴經華藏世界品》 (1068) .....	551
《華嚴不思議品》 (743) .....	390	○華嚴經探玄記 (440附) .....	135
《華嚴孔目章》 (1171) .....	611	「華嚴經隨疏演義鈔」 (1164) .....	610
「華嚴四分」 (994) .....	515	《華嚴演義鈔》 (1385) .....	711

《華嚴論》 (1645) .....	八四九	菩薩性 (1185) .....	六三一
《華嚴賢首品》 (737) .....	三八七	《菩薩處胎經》 (2078) .....	一〇七一
《華嚴盧舍那佛品》 (444) .....	一三六	「菩薩訶色欲法經」 (2021) ...	一〇四九
《華嚴離世間品》 (1339) .....	六九五	菩薩摩訶薩 (1074) .....	五五八
菩提 (109) .....	六六	菩薩藏 (369) .....	一九九
菩提心義 (226) .....	一一七	「菩薩瓔珞本業經」 (984) .....	五一一
菩提心論 (227) .....	一一八	《菩薩瓔珞經》 (1076) .....	五五九
菩提有二種 (1726) .....	九〇〇	「菴羅」 (1312) .....	六八七
「菩提伽耶」 (758) .....	三九七	「菴羅女」 (1753) .....	九一八
菩提流志 (60) .....	三四	愜 (2145) .....	一一一三
菩提樹 (1602) .....	八二六	愧赧 (1418) .....	七二五
《菩薩本行經》 (793) .....	四一四	○提婆五逆 (2188) .....	一一六一
「菩薩地持經」 (377) .....	一〇三	「提婆達多品」 (953) .....	五〇〇
《菩薩念佛三昧經》 (1286) .....	六七九	「提謂波利經」 (2010) .....	一〇四一

敦 (1) (1449) .....	七四一	智度 (851) .....	四五—
敦 (11) (1689) .....	八六六	《智度論》 (370) .....	一九九
普光功德山王佛 (1537) .....	七八五	「智圓」 (1708) .....	八七四
普門示現 (818) .....	四二八	智慧劍 (1755) .....	九一八
「普門品」 (1869) .....	九七〇	智慧箭 (1754) .....	九一八
普等三昧 (884) .....	四六八	智斷 (790) .....	四一二
《普超三昧經》 (1446) .....	七三九	智斷二德 (903) .....	四七八
普賢 (82) .....	四八	「智顛」 (324) .....	一七七
「普賢十願」 (114) .....	六八	智覺 (1499) .....	七六三
普賢行願品 (428) .....	二二八	最正覺 (766) .....	四〇一
《普曜經》 (754) .....	三九五	「最後身菩薩」 (748) .....	三九二
《普曜經說法門品》 (747) .....	三九二	《最勝王經壽量品》 (977) .....	五〇八
「智旭」 (113) .....	六七	棲神 (909) .....	四八一
智者 (324) .....	一七七	極果 (1677) .....	八六三

極則 (400) .....	115	無生法忍 (150) .....	81
極微 (2202) .....	171	「無生法忍」 (1187) .....	631
淳 (1612) .....	831	無色界諸天 (1568) .....	811
《滄記》 (1140) .....	606	無住生心 (155) .....	86
《游心法界記》 (1432) .....	731	無住處涅槃 (908) .....	481
湛愚老人 (1956) .....	1018	無我我所 (2083) .....	1075
湯湯 (2064) .....	1065	無我智 (1641) .....	847
無上士 (1000) .....	518	無見頂相 (1122) .....	591
無分別智 (1147) .....	611	「無始無明」 (269) .....	141
無心三昧 (1951) .....	1016	無念 (133) .....	75
無功用 (1288) .....	679	「無所住而生其心」 (155) .....	86
無央 (666) .....	354	無所求行 (1902) .....	990
無央數劫 (982) .....	510	無所畏 (1634) .....	843
無生 (2196) .....	165	無明 (245) .....	128

無為 (907) .....	四八〇	「無量壽經義疏」 (嘉祥疏)	
無為法身 (189) .....	一〇四	(205) .....	一〇八
無師智 (1818) .....	九四五	「無量壽經義疏」 (淨影疏)	
無情數 (825) .....	四三二	(371) .....	一九九
無常 (2177) .....	一一五五	《無量壽經箋註》 (527) .....	一七二
無量清淨平等覺經 (488) .....	二五六	「無量壽經論」 (2101) .....	一〇八六
《無量壽如來會》 (58) .....	三三三	○無量壽經優婆提舍願生偈	
無量壽經 (492) .....	二五八	(194 附) .....	一〇五
《無量壽經宗要》 (1806) .....	九四〇	《無量壽論》 (2101) .....	一〇八六
《無量壽經起信論》 (524) .....	一七一	《無量壽觀經》 (1705) .....	八七三
「無量壽經連義述文贊」 (539) .....	二七六	無間地獄 (1169) .....	六一二
《無量壽經鈔》 (1306) .....	六八五	無想天 (1532) .....	七八四
《無量壽經甄解》 (115) .....	六八	無漏 (1597) .....	八二四
《無量壽經義述文贊》 (539) .....	一七六	「無漏後身」 (2136) .....	一〇八

無漏智 (1885) .....	九八〇	發起序 (572) .....	一一〇〇
無漏最後身 (2136) .....	一一〇八	發菩提心 (212) .....	一一〇
「無盡」 (2178) .....	一一五六	「發願心」 (224) .....	一一七
無盡緣起 (873) .....	四六二	碑磔 (1558) .....	八〇七
無緣大慈 (921) .....	四八六	程朱 (531) .....	一七二
無緣之慈 (156) .....	八六	童女迦葉 (627) .....	三三五
無餘涅槃 (926) .....	四八八	童子迦葉 (626) .....	三三四
無學 (611) .....	三二四	《等不等觀雜錄》 (2001) .....	一〇四〇
「無學位」 (611) .....	三二四	等正覺 (102) .....	六一
無礙智 (1904) .....	九九〇	等持 (871) .....	四六一
無願三昧 (218) .....	一一五	等無間緣 (2107) .....	一〇九一
琥珀 (1555) .....	八〇六	「等覺」 (265) .....	一三九
登地 (1014) .....	五二六	等覺菩薩 (265) .....	一三九
發心住 (1194) .....	六三五	「紫磨金」 (1113) .....	五八〇

紫磨真金 (1113) .....	五八〇	《超日明三昧經》 (1233) .....	六五九
結使 (881) .....	四六四	逸群 (1013) .....	五二六
結界 (38) .....	一一一	開士 (692) .....	三六七
結跏趺坐 (755) .....	三九五	開元釋教錄 (498) .....	一六〇
結集 (374) .....	一〇一	開示悟入 (106) .....	六三
「結漏」 (2142) .....	一一一一	開敷 (1915) .....	九九五
結緣灌頂 (798) .....	四一九	雁蕩 (253) .....	一三五
結縛 (717) .....	三七六	集諦 (1338) .....	六九五
絕待 (110) .....	六六	雲棲 (525) .....	一七一
絕澗 (1852) .....	九五八	「雲棲」 (52) .....	二九
頌 (2120) .....	一一〇一	須夜摩 (1275) .....	六七五
「虛誑語」 (1815) .....	九四三	須臾 (1189) .....	六三三
「補處」 (1240) .....	六六三	須菩提 (2090) .....	一〇七九
《訶欲經》 (2021) .....	一〇四九	須彌 (1549) .....	八〇〇

《黑谷大經釋》 (163) ..... 九〇  
黑洞 (1161) ..... 六一九

### 十三畫

隔歷 (451) ..... 一三八  
隔歷之中道 (2184) ..... 一五八  
「隔歷三諦」 (2184) ..... 一五八  
傳法灌頂 (813) ..... 四二七  
偈 (1118) ..... 五九〇  
「榷椎」 (1236) ..... 六六〇  
蜀錦 (1321) ..... 六九〇  
勢至 (80) ..... 四六  
○勤策律儀 (1714 附) ..... 八七七  
園觀 (1853) ..... 九五八

圓成實性 (1638) ..... 八四六  
圓行 (419) ..... 二二四  
圓明具德 (2195) ..... 一六五  
圓果 (421) ..... 二二五  
圓教 (14) ..... 九  
圓解 (418) ..... 一一三  
圓頓 (8) ..... 五  
圓覺 (297) ..... 一五七  
《圓覺略疏》 (204) ..... 一〇八  
《圓覺經》 (179) ..... 九九  
《圓覺經大疏》 (2118) ..... 一一〇〇  
「圓覺經略疏」 (204) ..... 一〇八  
《圓覺經集註》 (1931) ..... 一〇一〇  
塗毒鼓 (2056) ..... 一〇六一

渺 (1960) .....	一〇一九	《慈恩上生經疏》 (1023) .....	五三一
微中子 (1398) .....	七一七	《慈恩傳》 (593) .....	三一〇
微塵 (1395) .....	七一五	慈航 (166) .....	九一
想顛倒、見顛倒、心顛倒 (1701) .....	八七二	○慈雲 (1821 附) .....	九四五
「愚禿鈔」 (423) .....	二二六	慈雲懺主 (1821) .....	九四五
「愛見大悲」 (922) .....	四八六	慈照宗主 (1792) .....	九三四
愛見之悲 (922) .....	四八六	搆 (1830) .....	九五〇
愛染 (1663) .....	八五五	「新華嚴經論」 (1645) .....	八四九
愛欲 (784) .....	四一〇	《新婆沙論》 (1105) .....	五七七
愛渴 (1713) .....	八七七	「新譯大方廣佛華嚴經音義」	
「感應妙」 (1861) .....	九六三	(1618) .....	八三三
慈心三昧 (674) .....	三五七	《新譯仁王經》 (1231) .....	六五八
慈舟 (41) .....	一一一	《新譯華嚴經音義》 (1618) .....	八三三
慈恩 (1673) .....	八六〇	會二歸一 (1088) .....	五六六

會通 (1709) .....	八七五	滅除藥鼓 (1810) .....	九四二
《會疏》 (516) .....	二六八	滅盡定 (1664) .....	八五六
楚石 (2103) .....	一〇八七	「滅盡定與無想定四義不同」 (1664) .....	八五六
《楞伽經》 (335) .....	一八四	滓 (1971) .....	一〇二八
楞嚴 (116) .....	六八	獅子吼 (1420) .....	七二五
「楞嚴經」 (116) .....	六九	○瑜伽師地論 (2020 附) .....	一〇四八
《楞嚴經長水疏》 (1299) .....	六八四	《瑜伽論》 (2020) .....	一〇四八
「楞嚴懺」 (1750) .....	九一三	當相即道 (191) .....	一〇四
業病 (2038) .....	一〇五五	當情 (2210) .....	一七六
毀訾 (1416) .....	七二四	「當情現相」 (2210) .....	一七六
「過去現在因果經」 (749) .....	三九二	○源空 (163 附) .....	九〇
○源空 (163 附) .....	九〇	準提 (1747) .....	九一〇
滅度 (859) .....	四五六	福田 (792) .....	四一三
		碎身舍利 (1526) .....	七七九

福智二嚴 (927) .....	四八九	《義林章》 (1538) .....	七八五
福增 (1136) .....	六〇二	義寂 (1009) .....	五二四
宰堵波 (1775) .....	九二八	聖心 (90) .....	五四
綃 (1622) .....	八三五	聖言量 (1945) .....	一〇一四
經 (1621) .....	八三五	「聖性離生」 (1291) .....	六八一
經行 (1620) .....	八三四	聖果 (1056) .....	五四八
「經含四義」 (558) .....	二九一	聖教 (117) .....	六九
經軌 (808) .....	四二五	「聖教量」 (1945) .....	一〇一四
《經音義》 (1995) .....	一〇三八	聖智 (1010) .....	五二四
經藏 (360) .....	一九五	聖道 (417) .....	一一三
罪瑕 (305) .....	一六〇	聖諦 (1078) .....	五五九
《罪福報應經》 (1918) .....	九九六	喘 (1116) .....	五八九
《群疑論》 (1157) .....	六一七	萬行 (112) .....	六七
「義女」 (1573) .....	八一四	《萬善同歸集》 (346) .....	一九一

葆光 (696) .....	三六八	遐 (1585) .....	八二〇
蜉蝣 (2000) .....	一〇四〇	道光 (1582) .....	八一九
蝟飛蠕動 (962) .....	五〇四	道品 (1588) .....	八二〇
賄 (2002) .....	一〇四〇	道宣 (1196) .....	六三六
《資持記》 (1149) .....	六一四	道眼 (2125) .....	一一〇三
○資糧 (1035 附) .....	五三七	道場 (1601) .....	八二五
辟支佛 (841) .....	四四〇	道場寺 (508) .....	二六四
「辟支迦佛陀」 (841) .....	四四〇	道綽 (479) .....	二五三
《遊心安樂道》 (540) .....	二七六	達摩 (1802) .....	九三八
《遊心安樂集》 (478) .....	二五三	「達磨」 (1802) .....	九三八
遊戲神通 (979) .....	五〇九	違怨 (1903) .....	九九〇
運度 (1730) .....	九〇二	違緣 (1311) .....	六八七
「遍依圓三性」 (1636) .....	八四五	「鄔波尼殺曇」 (1049) .....	五四五
遍計所執性 (1636) .....	八四五	鉢多羅 (1647) .....	八五〇

電子 (1397) .....	七二六	○蓋 (1473 附) .....	七五一
「頌疏」 (1978) .....	一〇二九	蓋纏 (1961) .....	一〇一九
頑空 (171) .....	九三	翁鬱 (1359) .....	七〇一
「頓漸」 (409) .....	一一七	嘉祥 (534) .....	一七三
頓漸二教 (409) .....	一一七	嘉祥寺 (536) .....	二七四
鳩摩羅什 (465) .....	二四六	《嘉祥法華疏》 (826) .....	四三三
《鼓音王經》 (1794) .....	九三五	《嘉祥疏》 (205) .....	一〇八
《鼓音聲王陀羅尼經》 (1587) .....	八二〇	嘉祥《義疏》 (1756) .....	九一八
<b>十四畫</b>			
《僧史略》 (1872) .....	九七一	嘉祥《觀經疏》 (1706) .....	八七三
「僧肇」 (913) .....	四八二	豎出 (259) .....	一三七
「僧璨」 (1697) .....	八七〇	塵劫 (306) .....	一六〇
《像法決疑經》 (1496) .....	七五九	塵沙 (274) .....	一四五
		「塵沙惑」 (274) .....	一四五
		塵累 (633) .....	三四〇

塵勞 (267) .....	一四〇	犖犖 (529) .....	一七二
塵說 (780) .....	四〇九	瑪瑙 (1556) .....	八〇六
○塵點劫 (306 附) .....	一六一	疑結 (2127) .....	一〇四
境智 (715) .....	三七六	盡不盡 (2178) .....	一五六
慚愧 (1589) .....	八二〇	盡形壽 (232) .....	一一九
惛 (1178) .....	六二七	「盡法」 (2178) .....	一五六
懼怖 (1938) .....	一〇一二	種子字 (1239) .....	六六二
邁扇 (2024) .....	一〇五〇	種子識 (2014) .....	一〇四六
漏 (1218) .....	六五〇	「種子識六義」 (2014) .....	一〇四六
漏盡通 (258) .....	一三七	稱性 (13) .....	九
「演若多之頭」 (1954) .....	一〇一七	「稱法界」 (13) .....	九
《演密鈔》 (2093) .....	一〇八〇	《稱揚諸佛功德經》 (1743) .....	九〇七
○漸頓教 (409 附) .....	一一七	《稱讚大乘功德經》 (892) .....	四七三
煇煇 (1101) .....	五七六	《稱讚大乘經》 (2124) .....	一〇三

《稱讚淨土佛攝受經》 (107) ……………	六四	「維摩經疏」 (1930) ……………	一〇〇九
《稱讚淨土經》 (1051) ……………	五四六	「維摩經義記」 (1910) ……………	九九一
《箋註》 (1166) ……………	六一一	《維摩經嘉祥疏》 (2140) ……………	一一一〇
筥篋 (2068) ……………	一〇六七	《維摩經肇註》 (992) ……………	五一三
精光 (1678) ……………	八六三	維摩詰 (1279) ……………	六七七
精舍 (602) ……………	三一五	《維摩慧遠疏》 (1910) ……………	九九一
《維摩》 (385) ……………	二〇八	綱舉目張 (94) ……………	五八
「維摩」 (1279) ……………	六七七	緇素 (1717) ……………	八八一
《維摩經》 (764) ……………	四〇〇	「緊那羅」 (1142) ……………	六〇八
《維摩經佛國品》 (1362) ……………	七〇二	聞思修 (1868) ……………	九六九
《維摩經弟子品》 (1905) ……………	九九〇	肇公 (913) ……………	四八二
《維摩經香積佛品》 (1278) ……………	六七七	「肇論」 (1448) ……………	七四〇
「維摩經略疏」 (2140) ……………	一一一	臧否 (905) ……………	四七九
《維摩經菩薩行品肇註》 (1262) ……………	六七〇	○蜜利車 (1790 附) ……………	九三三

裴休 (1854) .....	九五八
誑語 (1815) .....	九四三
語密 (1031) .....	五三六
誠勗 (1979) .....	一〇三〇
賓頭盧 (2117) .....	一〇九八
○賓頭盧住世因緣 (2117 附) ...	一〇九九
「賓頭盧頗羅墮」 (2117) .....	一〇九九
《輔正解》 (1711) .....	八七六
《輔行》 (1836) .....	九五三
《輔宏記》 (1103) .....	五七七
輕毛 (1309) .....	六八六
「頗胝迦」 (1550) .....	八〇一
頗黎 (1560) .....	八〇八

### 十五畫

劉宋永初二年 (509) .....	二六五
劉遺民 (1716) .....	八八〇
《增一阿含》 (1237) .....	六六〇
「增一阿含經」 (1237) .....	六六〇
《增一阿含經弟子品》 (620) .....	三三〇
增上緣 (1129) .....	五九九
增劫 (2115) .....	一〇九六
○幢 (714 附) .....	三七六
幢幡 (1254) .....	六六八
「廢詮談旨」 (1611) .....	八三一
彈偏斥小，歎大褒圓 (387) .....	一〇八
「彈偏析小」 (387) .....	一〇八

影響眾 (647) .....	三四六	慧明 (40) .....	一一一
德雲比丘 (2128) .....	一〇四	《慧苑音義》 (1457) .....	七四四
徹悟 (221) .....	一五	慧持 (1720) .....	八八三
蓮池大師 (52) .....	一九	「慧能」 (185) .....	一〇一
蓮花生 (664) .....	二五二	慧眼 (1341) .....	六九六
「蓮華生」 (664) .....	二五二	《慧琳音義》 (1539) .....	七八五
《蓮華生大士應化因緣經》 (942) ..	四九四	慧遠 (411) .....	一一八
蓮華部 (1513) .....	七七〇	慶喜 (651) .....	三四八
蓮華藏世界 (1483) .....	七五五	實大乘 (971) .....	五〇七
慧日 (1) (304) .....	一六〇	「實大乘教」 (971) .....	五〇七
慧日 (11) (2099) .....	一〇八五	實性 (1333) .....	六九四
○慧日 (183 附) .....	一〇一	實相 (170) .....	九二
慧永 (1721) .....	八八四	實相正印 (200) .....	一〇六
慧命 (1200) .....	六三九	實教 (424) .....	一一七

實智 (930) .....	四九〇	憬興 (538) .....	一七五
實義 (1336) .....	六九五	摩尼 (1027) .....	五三二
實際 (69) .....	三七	摩尼珠 (1355) .....	七〇〇
「實賢」 (1036) .....	五三八	摩耶夫人 (750) .....	三九三
廣大會 (1480) .....	七五四	摩揭陀國 (594) .....	三一一
「廣長舌」 (1685) .....	八六五	「摩訶止觀」 (827) .....	四三三
廣長舌相 (1685) .....	八六五	「摩訶止觀輔行傳弘決」 (1631) .....	八四〇
廣狹自在之玄門 (1603) .....	八二六	「摩訶目犍連」 (126) .....	七三
「廣狹自在無礙門」 (1603) .....	八二六	○摩訶迦葉 (372 附) .....	一九九
「廣額」 (2034) .....	一〇五二	摩訶衍 (376) .....	一〇一一
廣額屠兒 (2034) .....	一〇五二	「摩訶摩耶」 (750) .....	三九三
感 (1584) .....	八一九	撮要 (1075) .....	五五九
慆恣 (863) .....	四五八	「撰集百緣經」 (1786) .....	九三二
「慆陳那」 (616) .....	三二八	樂欲 (1695) .....	八六九

「樂變化天」 (1277) .....	六七六	調直定 (869) .....	四六〇
「榕」 (1779) .....	九二九	調御丈夫 (1001) .....	五一九
潘岳 (2063) .....	一〇六五	諂曲 (1430) .....	七三〇
熱病 (1459) .....	七四四	論主 (1188) .....	六三三
緣修 (1082) .....	五六一	《論註》 (1296) .....	六八三
緣起 (406) .....	二一六	論藏 (365) .....	一九六
緣起十義 (2150) .....	一一一七	賢劫 (685) .....	三六三
「緣緣」 (2108) .....	一〇九二	《賢劫經》 (1613) .....	八三一
緣覺 (843) .....	四四五	「賢首五教」 (394) .....	二一一
羯磨 (607) .....	三一八	《賢首心經略疏》 (860) .....	四五七
耦 (1562) .....	八〇八	賢首宗 (396) .....	二一三
膠清 (1733) .....	九〇四	賢護 (698) .....	三六九
厲 (2050) .....	一〇六〇	質直 (1431) .....	七三一
蔀 (1767) .....	九二三	輞 (779) .....	四〇九

輪迴 (298) ..... 一五八  
 輪寶 (775) ..... 四〇八  
 遮抑 (1572) ..... 八一四  
 闔 (353) ..... 一九二

十六畫

隨他教 (2172) ..... 一五三  
 隨自 (2173) ..... 一五三  
 「隨自意語」 (2173) ..... 一五三  
 「隨自意隨他意」 (2173) ..... 一五三  
 隨形好 (1469) ..... 七四九  
 隨逐 (912) ..... 四八二  
 隨煩惱 (1609) ..... 八三〇  
 《隨願往生經》 (481) ..... 二五四

餓鬼 (1104) ..... 五七七  
 儕 (130) ..... 七四  
 稽首 (938) ..... 四九二  
 導師 (229) ..... 一一八  
 導源 (1898) ..... 九八八  
 凝然常 (1386) ..... 七一二  
 ○器世間 (1363 附) ..... 七〇二  
 器世間清淨 (1363) ..... 七〇二  
 器界 (2032) ..... 一〇五二  
 噶居派 (1723) ..... 八九八  
 「噶舉派」 (1723) ..... 八九八  
 懈怠國 (1992) ..... 一〇三七  
 曇摩羅密多 (512) ..... 二六六  
 「曇讖二教」 (2047) ..... 一〇五九

曇鸞 (209) .....	109	螢光 (355) .....	192
機宜 (727) .....	三八〇	「螢光喻聲聞智」 (355) .....	192
機感 (585) .....	三〇五	親因 (1939) .....	1011
機樞 (2134) .....	1107	親因緣 (2106) .....	1090
橫出 (4) .....	三	諷誦 (1093) .....	五六八
歷歷 (187) .....	103	諸天 (937) .....	四九二
濁惡 (24) .....	一五	諸有 (1725) .....	九〇〇
獨覺 (844) .....	四四七	諸佛現前三昧 (2070) .....	1068
釋 (1768) .....	九二三	諸見 (1880) .....	九七八
磧砂藏 (856) .....	四五一	諸波羅蜜 (2166) .....	1147
「窺基」 (1673) .....	八六〇	《諸法無行經》 (1736) .....	九〇四
臻 (354) .....	192	《諸部要目》 (1920) .....	九九六
興教大師 (236) .....	111	諸趣 (1207) .....	六四三
滿益大師 (113) .....	六七	遶佛 (1087) .....	五六五

遷流 (734) .....	三三三
選擇本願 (1285) .....	六七九
「選擇本願念佛集」 (2105) .....	一〇八九
《選擇集》 (2105) .....	一〇八九
《遺日摩尼寶經》 (1809) .....	九四一
《遺教經》 (1406) .....	七二〇
輻 (778) .....	四〇九
「辨顯密二教論」 (1871) .....	九七一
醍醐 (422) .....	二二六
○醍醐喻 (422 附) .....	二二六
閻浮提 (1110) .....	五七九
閻浮檀金 (2059) .....	一〇六三
霑 (318) .....	一七四
頰車 (1119) .....	五九〇

駭動 (1845) .....	九五六
「龍女」 (954) .....	五〇一
龍女成佛 (954) .....	五〇〇
「龍華三會」 (678) .....	三六〇
《龍舒淨土文》 (47) .....	二六
「龍種上尊王佛」 (672) .....	三五六
龍種尊王如來 (672) .....	三五五
龍樹 (323) .....	一七六
龍藏 (50) .....	二七
龍麝 (1466) .....	七四六
<b>十七畫</b>	
隱密 (1168) .....	六一一
優婆尼沙陀分 (1049) .....	五四五

優婆夷 (936) .....	四九二	彌勒 (673) .....	三五六
優婆塞 (490) .....	二五七	「彌勒上生經疏」 (1023) .....	五三一
《優婆塞戒經》 (1940) .....	一〇一三	《彌勒發問經》 (1167) .....	六一一
優鉢羅 (1461) .....	七四五	應身 (987) .....	五一二
優填王 (1780) .....	九三〇	應供 (101) .....	六一
○優填王造佛像 (1780 附) .....	九三〇	應法 (2022) .....	一〇四九
優曇花 (972) .....	五〇七	應法妙服 (1250) .....	六六七
「優曇華」 (972) .....	五〇七	應迹 (1495) .....	七五九
鍵椎 (1236) .....	六六〇	「應跡」 (1495) .....	七五九
彌陀 (9) .....	六	戲論 (321) .....	一七五
彌陀要解 (19) .....	一一	擣 (1251) .....	六六七
《彌陀通贊》 (1674) .....	八六一	○擣衣 (1251 附) .....	六六七
《彌陀疏鈔》 (53) .....	三二	曙 (1675) .....	八六二
《彌陀圓中鈔》 (55) .....	三二	檀施 (1037) .....	五三九

禪那 (1623) .....	八三五	翳 (1967) .....	一〇二四
禪宗三祖 (1697) .....	八七〇	翼讚 (657) .....	三四九
禪客 (1766) .....	九二二	聲字皆實相 (2189) .....	一一六二
禪觀 (139) .....	七七	聲聞 (127) .....	七四
魏承貫 (46) .....	二五	「聲聞四果」 (1863) .....	九六六
「魏源」 (46) .....	二五	聲聞藏 (368) .....	一九八
齋戒 (1769) .....	九二三	臆造 (582) .....	三〇四
糞掃衣 (631) .....	三三九	臨濟 (1573) .....	八一四
總持 (878) .....	四六三	薄伽梵 (546) .....	二八一
總持門 (1245) .....	六六六	襄陽石經 (467) .....	二四九
總持教 (1500) .....	七六三	襄贊 (684) .....	三六三
總相別相 (290) .....	一五五	睿訥 (1785) .....	九三二
繇 (1804) .....	九四〇	謗法闡提 (1174) .....	六二五
尉賓 (511) .....	二六六	穀 (777) .....	四〇八

十八畫

「龜毛」 (173) ..... 九四

龜毛兔角 (173) ..... 九四

舉一城釋種，上升梵天 (622) ..... 三三一

叢林 (49) ..... 二七

噬 (1358) ..... 七〇〇

點慧 (1535) ..... 七八四

斷三界之見惑 (2198) ..... 一六七

斷常 (1921) ..... 九九六

「斷常二見」 (1921) ..... 九九六

斷割 (2039) ..... 一〇五六

○斷善闡提 (1174 附) ..... 六二五

斷滅 (172) ..... 九三

歸元 (33) ..... 二〇

歸命 (1835) ..... 九五三

鵠的 (1165) ..... 六一一

禮拜、作願、迴向等念門 (1744) ..... 九〇七

禮懺 (319) ..... 一七四

《禮讚》 (1154) ..... 六一五

瀑 (1489) ..... 七五七

瀑流 (1624) ..... 八三六

穢土 (254) ..... 一三五

簡 (1865) ..... 九六八

簡擇 (1877) ..... 九七七

簡牘 (2029) ..... 一〇五一

繒蓋 (1473) ..... 七五一

《翻譯名義集》 (1145) ..... 六一〇

薩婆若 (1193) .....	六三五
藏教 (278) .....	一四八
藏教所攝 (357) .....	一九三
鞞 (1800) .....	九三八
轉法輪 (770) .....	四〇三
「轉法輪經優婆提舍」 (988) .....	五一三
《轉法輪論》 (988) .....	五一三
「轉輪王」 (774) .....	四〇七
轉輪聖王 (774) .....	四〇七
闕如 (1092) .....	五六八
《雜集》 (1884) .....	九八〇

十九畫

曠劫 (2130) .....	一一〇五
矇 (1972) .....	一〇二八
蹴踏 (1419) .....	七二五
關捩子 (1953) .....	一〇一七
壞劫 (1383) .....	七一〇
壞見/壞行 (2155) .....	一一二五
瓊林 (196) .....	一〇五
廬山遠公 (1718) .....	八八一
識神 (1190) .....	六三四
「識境四相」 (1402) .....	七一八
寶手 (1470) .....	七五〇
「寶手菩薩」 (1470) .....	七五〇
寶王 (264) .....	一三九
寶王三昧 (886) .....	四六九
嘽蹇 (1422) .....	七二六

寶印 (1357) .....	七〇〇	離四句，絕百非 (186) .....	一〇二
《寶性論》 (1428) .....	七二九	「離譏嫌名願」 (1209) .....	六四四
寶所 (561) .....	二九二	《韻會》 (1977) .....	一〇二九
《寶雨經》 (1314) .....	六八八	邊地 (1790) .....	九三三
寶刹 (944) .....	四九五	證信序 (569) .....	二九八
「寶瓶灌頂」 (803) .....	四二二	證滅相應 (2174) .....	一一五四
寶筏 (1331) .....	六九四	○譏嫌 (1209 附) .....	六四四
寶雲 (510) .....	二六五	攀緣 (1063) .....	五五〇
《寶雲經》 (918) .....	四八五	藥叉 (2065) .....	一〇六五
寶蓋 (1255) .....	六六八	《藥師經》 (2009) .....	一〇四一
寶幢 (714) .....	三七六	瀝血 (432) .....	二二八
寶樹觀 (1265) .....	六七三	繫縛 (1283) .....	六七八
《寶鏡三昧》 (1949) .....	一〇一五	難行道 (141) .....	七九
「懷讓」 (178) .....	九八	「難陀」 (1874) .....	九七五

難陀淫欲餘習 (1874) ..... 九七三  
臘印 (1813) ..... 九四三  
「願力迴向」 (1699) ..... 八七一  
願成就文 (1141) ..... 六〇六

二十畫

《勸發菩提心文》 (1186) ..... 六三一  
嚴飾 (980) ..... 五一〇  
○藥 (1991 附) ..... 一〇三七  
藥 (1991) ..... 一〇三七  
蘧庵 (195) ..... 一〇五  
「懺法」 (1750) ..... 九一三  
「懺悔」 (1805) ..... 九四〇  
懺摩 (1805) ..... 九四〇

覺心 (180) ..... 九九  
覺性 (2123) ..... 一一〇三  
覺海 (271) ..... 一四四  
《覺經》 (1793) ..... 九三五  
「覺鏤」 (236) ..... 一一一  
《釋大衍論》 (1387) ..... 七一一  
釋迦 (20) ..... 一三  
「釋迦文」 (767) ..... 四〇一  
釋迦文佛 (767) ..... 四〇一  
「釋迦牟尼」 (589) ..... 三〇七  
釋迦牟尼佛 (589) ..... 三〇七  
《釋迦譜》 (752) ..... 三九四  
釋提桓因 (768) ..... 四〇一  
釋道隱 (16) ..... 一一

《釋摩訶衍論》 (1680) .....	八六三
闡提 (399) .....	一一四
闡揚 (34) .....	一〇
<b>二十一畫</b>	
「蠟印」 (1813) .....	九四三
饒足 (1965) .....	一〇一一
饒益 (37) .....	一一一
纏縛 (834) .....	四三五
葛直 (326) .....	一八〇
「躡提」 (1187) .....	六三三
鐵圍山 (375) .....	一〇一一
鐵塔 (332) .....	一八一
魔羅 (759) .....	三九八

○麝 (1267 附) .....	六七三
護世四天王 (771) .....	四〇四
灌頂 (797) .....	四一七
灌頂住 (740) .....	三八九
灌頂壇 (799) .....	四一九
○灌頂壇授弟子道具 (799 附) ..	四二〇
《攝大乘論音義》 (1095) .....	五六八
《攝大乘論釋》 (720) .....	三七七
「攝折」 (1479) .....	七五四
攝取 (1067) .....	五五二
瓔珞 (1256) .....	六六八
《瓔珞本業經》 (1443) .....	七三九
《瓔珞經》 (984) .....	五一二

一一二畫

鬻香長者 (1269) ..... 六七四

權大乘 (970) ..... 五〇六

權化 (1912) ..... 九九二

權方便 (898) ..... 四七五

權智 (929) ..... 四八九

「權實」 (819) ..... 四二九

「權實一教」 (424) ..... 二二七

「權實一智」 (819) ..... 四二九

權實一德 (819) ..... 四二九

歡喜丸 (1648) ..... 八五一

歡喜地 (336) ..... 一八四

鑊 (1253) ..... 六六八

一一三畫

體相用 (542) ..... 二七八

體露 (1410) ..... 七二一

變宮 (1599) ..... 八二五

變徵 (1600) ..... 八二五

顯加 (1860) ..... 九六三

顯密 (36) ..... 一一一

《顯密圓通》 (1259) ..... 六六九

「顯淨土真實教行證文類」  
(1085) ..... 五六五

《顯揚大戒論》 (2030) ..... 一〇五二

鱗爪 (543) ..... 二七八

二十四畫

囑累 (2133) ..... 一一〇七

顰蹙 (1969) ..... 一〇二六

靈山一會 (865) ..... 四五八

靈光 (1946) ..... 一〇一四

靈芝 (220) ..... 一一五

《靈芝疏》 (469) ..... 二五〇

靈芝《彌陀經義疏》 (1518) ..... 七七三

靈峰大師 (1019) ..... 五二九

二十五畫

《觀佛三昧海經》 (1984) ..... 一〇三三

《觀佛三昧經》 (288) ..... 一五三

《觀佛三昧經觀佛密行品》

(1356) ..... 七〇〇

《觀佛經》 (1462) ..... 七四六

《觀念法門》 (1197) ..... 六三七

觀音 (79) ..... 四五

觀智 (1891) ..... 九八五

「觀無量壽佛經疏」 (1707) ..... 八七三

「觀無量壽經」 (29) ..... 一七

觀達 (1374) ..... 七〇七

觀經 (29) ..... 一七

《觀經》十則 (2201) ..... 一一七〇

《觀經妙宗鈔》 (2143) ..... 一一二一

《觀經約論》 (1827) ..... 九四八

《觀經疏》 (578) ..... 三〇三

---

櫛柄 (1957) ..... 一〇一九

二十六畫

《讚阿彌陀佛偈》 (1008) ..... 五二四

癩 (1782) ..... 九三〇

三十畫

鸞 (1604) ..... 八二六

---



# 正文

## ◎ 前 言

### 1. 【一乘】（科註第一三八頁第二行）

《三藏法數》：〔出法華經〕

一乘者，佛乘也。乘即運載之義。佛說一乘之法，為令眾生依此修行，出離生死苦海，運至涅槃彼岸。故喻以七寶大車，而導之以大白牛也。

佛之出世，意欲直說法華。蓋由眾生機器（機宜根器）不等，於是先說三乘之法而調熟之。故經云：於一乘道，分別說三。後至法

華，會三乘之小行，歸廣大之一乘。又云：十方佛土中，惟有一乘法。是也。（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。七寶者，金、銀、琉璃、玻璃、砗磲、碼瑙、赤真珠也。三乘者，聲聞乘、緣覺乘、菩薩乘也。）（參見「一乘」2156、「別教一乘」435）

### 2. 【了義】（科註第一三八頁第二行）

《三藏法數》：謂諸大乘經宣說勝義，如煩惱即菩提，生死即涅槃之類，皆究竟顯了，名為了義。

《佛學大辭典》：（術語）對於不了義而言。顯了分明說示究竟之實義，謂之了義。未了未盡之說，謂之不了義。了義不了義者，方便（不了義）、真實（了義）之異名

也。

圓覺經曰：「得聞如是修多羅教了義法門，永斷疑悔。」又「是諸菩薩最上教誨了義大乘。」同略疏一曰：「了義者，決擇究竟顯了之說非覆相密意含隱之譚。」

寶積經五十二曰：「若諸經中，有所宣說：厭背生死，欣樂涅槃，是不了義。若有宣說生死涅槃二無差別，是名了義。」

大集經二十九曰：「了義經者，生死涅槃一相無二。」

涅槃經曰：「依了義經，不依不了義經。」

### 3. 【三根】（科註第一三八頁第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：上中下之三根。

就眾生善根之強弱而言。

《法華經卷三藥草喻品》：譬如三千大千世界。山川谿谷土地所生卉木叢林。及諸藥草種類若干名色各異。密雲彌布遍覆三千大千世界。一時等<sup>すべし</sup>澍（音樹。降雨）其澤普洽卉木叢林及諸藥草。小根小莖小枝小葉。中根中莖中枝中葉。大根大莖大枝大葉。諸樹大小。隨上中下各有所受。一雲所雨。稱其種性而得生長。華果敷實。雖一地所生一雨所潤。而諸草木各有差別。

《大智度論釋七譬喻品第八十五》：諸佛賢聖憐愍眾生故。以種種語言名字譬喻為說。利根者解聖人意。鈍根者處處生著。著於語言名字。若聞說空則著空。聞說空亦空亦復生著。若聞一切法寂滅相語言道斷而亦

復著。

《宗鏡錄卷第二十三》：上根者。聞言下便會。更不作諸惡。喚作一受不退常寂然。中根者。親近善知識。近於智者。數數聞說。不久還會。若是下根。千遍萬遍與說。元來不會。雖然記得少許。如破布裏明珠。出門還漏却。汝知麼。佛道不遠。迴心即是。

《摩訶止觀卷六下》：佛為三根分別。下根斷惑盡。方能出假。佛於法華中破其取涅槃心，勸發無上道，起方便慧。（中略）中根者斷見惑已。生死少寬。思任運斷。（中略）上根者。初心聞慧即能體達見思即空。

#### 4. 【橫出】（科註第一三八頁第二行）

《佛學大辭典》「二出」條：（名數）

一、豎出，聖道門（此土由凡至聖修道之教門也）自力之教，歷劫修行而出生死者。二、橫出，淨土門他力之教，不歷修行地位，但念彌陀而生淨土者。

樂邦文類四，擇映辨橫豎二出曰：「豎出者，聲聞修四諦，緣覺修十二因緣，菩薩修六度萬行，此涉地位，譬如及第，須自有才學，又如歷任轉官，須有功效。橫出者，念佛求生淨土，譬如蔭敘（按先輩功業大小，給予不同等級的蔭封），功由祖父他力，不同學業有無，又如覃恩（帝王對臣民的封賞、赦免。覃，音談）普轉，功由國王，不論歷任淺

深。」

5. 【四土】（科註第一三八頁第二行）

《三藏法數》：〔出觀無量壽佛經妙宗鈔〕

一、同居土：同居土者，有穢有淨。謂如此土娑婆世界，沙礫充滿，即同居穢土也。西方安養世界，金寶莊嚴，無四惡趣，即同居淨土也。雖淨穢有異，皆是凡聖共住，故名同居也。（梵語娑婆，華言能忍。四惡趣者，修羅趣、餓鬼趣、畜生趣、地獄趣也。）

二、有餘土：有餘土者，謂二乘等已斷三界見、思惑盡，出生彼土，尚餘無明之惑未盡，故名有餘也。（二乘者，聲聞乘、緣覺乘也。三界者，欲界、色界、無色界也。）

三、果報土：果報土者，亦名實報土。即

別教十地，圓教十住、十行、十回向，乃至等覺諸菩薩所居之土也。觀無量壽佛經疏云：行真實法，感得勝報。是也。（十地者，歡喜地、離垢地、發光地、燄慧地、難勝地、現前地、遠行地、不動地、善慧地、法雲地也。十住者，發心住、治地住、修行住、生貴住、方便具足住、正心住、不退住、童真住、法王子住、灌頂住也。十行者，歡喜行、饒益行、無瞋恨行、無盡行、離癡亂行、善現行、無著行、尊重行、善法行、真實行也。十回向者，救一切眾生離眾生相回向、不壞回向、等一切佛回向、至一切處回向、無盡功德藏回向、隨順平等善根回向、隨順等觀一切眾生回向、真如相回

向、無縛解脫回向、法界無量回向也。)

四、常寂光土：常寂光土者，即理性土也。常即法身，寂即解脫，光即般若。此以不遷不變名常，離有離無名寂，照俗照真名光。即妙覺究竟果佛所居之土也。淨名疏云：修於圓教願行之因，因極果滿，道成妙覺，居常寂光。是也。

《佛學常見辭彙》：又名四佛土，即凡聖同居土、方便有餘土、實報莊嚴土、常寂光土。凡聖同居土是凡夫與為了化度眾生而現身說法的聖人共同居住的國土；方便有餘土是二乘與沒有證得法身的菩薩所住的國土；實報莊嚴土是佛的報身與地上菩薩所住的國土；常寂光土是從佛的清淨法身所示寂的國

土。(參見《科註》第一八三至一八九頁)

6. 【究竟】(科註第一三八頁倒數第二行)

《佛學大辭典》：(術語)梵字 Uḥāra 之譯，事理之至極也。

三藏法數六曰：「究竟猶至極之義。」

7. 【一超直入】(科註第一三八頁倒數第二行)

《佛學大辭典》(節錄)：(術語)頓速驀直超入於本覺地也。

8. 【圓頓】(科註第一三八頁倒數第二行)

《佛學常見辭彙》：圓融諸法頓速成佛的意思。諸法本圓融，一法圓滿一切法，若一念開悟，便能頓入佛位，頓足佛法，這是天台宗的宗旨。

《止觀輔行傳弘決卷一之二》：圓頓者。

圓名圓融圓滿。頓名頓極頓足。又圓者全也。李奇云。圓錢也。即圓全無缺也。體非漸成故名為頓。

9. 【彌陀】（科註第一三八頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（佛名）如來名，即阿彌陀佛之省稱。南史庚說傳曰：「舉室咸聞空中唱：上行先生已生彌陀淨域矣。」

10. 【六字洪名】（科註第一三八頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「六字名號」條：（術語）南無阿彌陀佛六字之名號也。佛號正為阿彌陀佛之四字，南無譯為歸命，是雖為能歸之相，然就行者之所稱，故開舉能歸之言而為名號。彌陀之名號，特由之而成就機法一體願行具足之深義也。

觀無量壽經曰：「令聲不絕，具足十念，稱南無阿彌陀佛。稱佛名故，於念念中，除八十億劫生死之罪。」

觀佛三昧經三曰：「名南無光照如來。」

11. 【彭紹升】（科註第一三九頁第二行）

《淨土聖賢錄續編卷二》：彭紹升（一七四〇—一七九六）。法名際清。字允初。一字尺木。蘇州長洲人。幼聰穎。年十六。為諸生。明年舉於鄉。又明年。捷南宮。以名進士終於家。初不信佛。好世間文字。志存利濟。忽自省曰。吾未明吾心柰何。或告以道家修鍊法習之三年不效。後讀佛書。爽然曰。道之所歸在是矣。始信向佛乘。慕梁谿高忠憲。廬山劉遺民之為人。故又號曰二

林。以兩公修學地。同名東林也。

性純孝。居母喪。宿殯側者三年。父歿。建念佛道場。又願以平日所誦華嚴經十部。彌陀經一千部。金剛經一千部。佛號一千萬聲。代父回向西方。已而盡棄所習。專心竺教（指佛教）。好方山永明之書。尤推蓮池憨山。為淨土之前導。年二十九。斷肉食。又五年。從聞學定公。受菩薩戒。自是不復近婦人。以知歸子自稱。嘗言志在西方。行在梵網。（中略）

後閉關文星閣。修一行三昧。（中略）又令畫工繪極樂世界圖。悉本淨土三經。依正莊嚴。凡四易gāo藁gǎo（音稿。同「稿」）。閱半載乃成。（中略）又憫末法眾生。不具正眼。

互相抵觸。著一乘決疑論。以通儒釋之闕。著華嚴念佛三昧論。以釋禪淨之爭。著淨土三經新論。以暢從上蓮宗未竟之旨。其居士傳。善女人傳。淨土聖賢錄。隨機接引。世多傳而誦之。（中略）

於蘇杭僧舍。屏居十餘年。日有課程。預為終制。俾無立後。乾隆六十年秋。下痢。仍居文星閣。入冬。精神漸耗。將諸善會贊（同資）。一一屬付其姪祝華。令以後永久勿替。有僧真清。問曾見瑞應否。紹升曰。有何瑞應。我大事在來年開印日（指舊時官府於年底封印，次年正月開封用印，照常辦事。開印之期，大約於十九、二十、二十一三日之內，由欽天監選擇吉日吉時）耳。至嘉慶元年正月二十日

清晨。作辭世偈云。出沒閻浮塵點身。流離瑣尾竟何因。而今驀直西方去。瞥眼收回萬劫春。遂西向趺坐。念佛而脫。時果為署（辦理公務的機關）中開印日。年五十七。

12. 【如來】（科註第一三九頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語曰多陀阿伽陀 Tathāgata，譯言如來，佛十號之一。如者真如也，乘真如之道從因來果而成正覺之故，名為如來。是真身如來也。又乘真如之道來三界垂化之故，謂之如來。是應身如來也。又，如諸佛而來，故名如來。此釋通於二身。

成實論一曰：「如來者，乘如實道來成正覺，故曰如來。」

轉法輪論曰：「如實而來，故名如來。〔中略〕涅槃名如，知解名來，正覺涅槃故名如來。」

智度論二十四曰：「如實道來，故名為如來。」

勝鬘（音瞞）寶窟上末曰：「如來者體如而來，故名如來。又如諸佛來，故名如來。問：體如而來，故名如來。此是應身，何有來義？真如法身。云何有來？答：如本隱今顯，亦得稱來。」

大日經疏一曰：「如諸佛乘如實道來成正覺，今佛亦是來，故名如來。」

行宗記上一之二曰：「真如平等，體離虛妄，故曰如實。乘履此法出現利生，故得此

號。」

秘藏記本曰：「如來謂成佛以後悲願力故垂化也，乘如而來故曰如來。」

教行信證四曰：「真如即是一如，然者彌陀如來從如來生示現報應化種種身也。」

又梵云修伽陀 (Sugata)，譯言如去，又譯好去，是如實去生死之義也，故如來如去相對，則如去者向上自利，而如來者向下利他也，以此二名顯佛之無住涅槃。

13. 【稱性】(科註第一三九頁第三行)

《佛學大辭典》「稱法界」條：(術語)又曰稱性。華嚴經之所說。稱於法界之真性也。

華嚴傳記一曰：「此乃圓滿法輪稱法界之

談耳。」

14. 【圓教】(科註第一三九頁第三行)

《佛學大辭典》：(術語)以名大乘窮極之實教。後魏光統律師立三教，第三為圓教。圓教之名，自此始。

其後由晉華嚴經五十五：「爾時如來，知眾生應受化者，而為演說圓滿因緣修多羅。」又「顯現自在力，演說圓滿經。」之經文而立名。

天台宗判四教，第四為圓教，華嚴宗復立五教，第五為圓教。今依台宗之說釋之，先就圓體言之，則為圓融圓滿之二義。十界三千之諸法，一如一體，謂為圓融，十界三千之諸法，條然具足，謂為圓滿，亦曰圓足。

圓融為空諦，圓滿為俗諦，此二相即不二為中諦。觀此三諦於一時，謂為圓。

輔行一之二曰：「圓名圓融圓滿義。〔中略〕又圓者全也。李奇云：圓錢也，即圓全無缺也。」四教儀一曰：「圓以不偏為義，此教明不思議因緣二諦中道事理具足不別，但化最上利根之人，故名圓教也。」

次就行位言之，則謂為圓頓。華嚴經說初發心時便成正覺，涅槃經說發心究竟二無別是也。頓者頓極頓足，諸法本圓融，故一法圓滿一切法，以一念之開悟，頓疾極足佛果，謂為圓頓。是天台所判四教中，第四圓教之所詮也。是為宗之極致。故教名圓頓宗。戒名圓頓戒。觀名圓頓觀。輔行一之二

曰：「圓頓者。〔中略〕頓名頓極頓足。〔中略〕體非漸成，故名為頓。」

次稱三諦相即之實相，不可思議。謂為圓妙。釋籤一之一曰：「圓，覺妙之別名。〔四教儀集解下曰：「三諦圓融，不可思議，名為圓妙。」

15. 【化儀】（科註第一三九頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）化導之儀式。謂釋尊一代間教化眾生之儀式方法。天台判一代教，分化儀與化法二門，各立四教。

○化儀四教：（術語）天台宗於形式上分釋尊一代之教說為四種。即頓教，漸教，秘密教，不定教是也。

○化法四教：（術語）謂天台之教判藏通

別圓也。自教化之內容而分，故有化法之名。

16. 【釋道隱】（科註第一三九頁第三行）

日本德川幕府時期真宗僧人，空華轍（日本真宗分派之一。轍，流派之意）之祖。住淨心院（或作淨信院）。生於寬保元年（一七四一），卒於文華十年（一八一三），享年七十三歲。主要著作有《大無量壽經zhēn 甄》（音真）解》、《教行信證略贊》、《選擇集要津錄》等。

17. 【梅光xī 羲】（音西）（科註第一三九頁第五行）

《唯識名詞白話辭典》：近代著名唯識學家，為楊仁山居士的入室弟子。字擷芸，以字行。江西南昌人，清光緒六年（一八八〇）

出生，光緒二十四年戊戌科舉人，以道員在湖北候補，受到總督張之洞的賞識，派遣到日本陸軍振武學堂學軍事，畢業後又入早稻田大學學習政治經濟，回國後任湖北提法司使，人民國後在司法界任職。

擷芸早年從楊仁山研究唯識，卓然成家，民國二十年，以《相宗新舊兩譯不同論》論文，在海潮音雜誌發表，深為佛教學者所重視，太虛大師曾作《相宗新舊兩譯不同論書後》，守培法師亦發表了評論的文章。擷芸晚年，在重慶的國民政府司法院任職，戰時生活艱苦，擷芸居陋室、食粗糲（音立。糲米，泛指粗劣的食物），而手不釋卷，忙於佛學寫作。民國三十六年（一九四七）病逝，

世壽六十八歲。遺留有唯識學著作多種，主要者為《相宗綱要》、《相宗綱要續篇》、《相宗史傳略錄》、《大乘相宗十勝論》等多種。

18. 【一大藏教】（科註第一三九頁第六行）

《佛光大辭典》（節錄）：指以釋迦佛所說之經、律、論三藏教法，為全佛教之教說，故稱一大藏教。

19. 【彌陀要解】（科註第一三九頁倒數第四行）

《佛說阿彌陀經要解》之略稱。全一卷，明智旭解。為注釋鳩摩羅什大師譯《佛說阿彌陀經》之重要著作。

《中國佛教》「智旭」條（節錄）：此書

先依天台宗五重玄義方式，說明此經以能說

所說人為名，實相為體，信願持名為宗，往生不退為用，大乘菩薩藏無問自說為教相。又以《阿彌陀經》總攝一切佛教，以信願行總攝《阿彌陀經》一經宗旨。（中略）《要解》將信的內容分為：信自（一念回心決定得生，自心本具極樂），信他（彌陀決無虛願，釋迦及十方佛決無誑語），信因（散亂稱名猶為佛種，一心不亂寧不往生），信果（淨土諸上善人皆由念佛得生，如影隨形決無虛棄），信事（實有極樂國土，不同莊生寓言），信理（西方依正，不出現前一念心外）。願的內容是「厭離娑婆，欣求極樂」。行的內容是「執持名號，一心不亂。六字持名，念念欣厭具足，信決願切，由此

就能歷九品生，淨四種土」。

20. 【釋迦】（科註第一三九頁倒數第四行）

見「釋迦牟尼佛」589。

21. 【本師】（科註第一三九頁倒數第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）佛教

以釋迦如來為根本之教師，故稱本師。其餘

曰受業之師。

22. 【五濁】（科註第一三九頁倒數第四行）

《三藏法數》：〔出法苑珠林〕

一、眾生濁：謂眾生多諸弊惡，不孝敬父

母尊長，不畏惡業果報，不作功德，不修齋

法，是名眾生濁。

二、見濁：謂正法已滅，像法漸起，邪法

轉生，邪見增盛，不修善道，是名見濁。

三、煩惱濁：謂眾生多諸愛欲、慳貪、鬥

諍、諂曲、虛誑，攝受邪法，惱亂心神，是

名煩惱濁。

四、命濁：謂往古世時，人壽八萬四千

歲，今時人壽轉減，百歲者稀。以惡業增

故，壽數短促，是名命濁。

五、劫濁：劫，梵語具云劫波，華言分別

時節。謂減劫中，人壽減至三十歲時，饑

饉じん（音緊）災起。減至二十歲時，疾疫災

起。減至一十歲時，刀兵災起。世界眾生，

無不被害，是名劫濁。

《佛學大辭典》：（名數）又名五じ滓じ（音

子），五渾等。住劫中人壽二萬劫（「劫」疑

作「歲」）已後，而有渾濁不淨之法五種：

一、劫濁，謂至二萬歲已後見等之四濁起時也。

二、見濁，身見邊見等之見惑也，劫濁時之眾生盛起之。

三、煩惱濁，貪瞋癡等一切修惑之煩惱，劫濁時之眾生盛起之。

四、眾生濁，劫濁時之眾生為見濁煩惱濁之結果，人間之果報漸衰，心鈍體弱，苦多福少也。

五、命濁，此亦為前二濁之結果，壽命漸縮少，乃至十歲也，其中以劫濁為總，以他四濁為別。劫濁中有四濁，以四濁之故為劫濁也，又四濁中以見濁，煩惱濁，二者為濁之自體，此二者成眾生濁與命濁之二者也。

文句四下曰：「劫濁無別體，劫是長時，剎那是短時，但約四濁立此假名。眾生濁亦無別體，攬見慢果報上立此假名。煩惱濁指五鈍使為體，見濁指五利使為體，命濁指連持色心為體。」同文句記曰：「准悲華經，八萬至三萬亦不有濁，至一萬歲為五濁始。」

行事鈔資持記上一之三曰：「言五濁者：一劫濁，劫濁無別體，但四濁聚於此時。悲華云：從減劫人壽二萬歲時為劫濁。二見濁，五利使。三煩惱濁，五鈍使。四眾生濁，亦無別體，攬前利鈍果報立此假名。五命濁，連持色心，摧年促壽。」

法華經方便品曰：「諸佛出於五濁惡世，所謂劫濁、煩惱濁、眾生濁、見濁、命濁。」

阿彌陀經曰：「能於娑婆國土，五濁惡世劫濁見濁煩惱濁眾生濁命濁中，得阿耨多羅三藐三菩提。」

23. 【阿耨多羅三藐三菩提】（科註第一三九頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）Anutara-samyak-sambodhi，佛智名。舊譯曰無上正遍知，無上正徧道。真正徧知。一切真理之無上智慧也。

維摩經佛國品肇註曰：「阿耨多羅，秦言無上。三藐三菩提，秦言正徧知。道莫之大，無上也。其道真正，無法不知，正徧知也。」

淨土論註曰：「佛所得法，名為阿耨多羅

三藐三菩提。阿名無，耨多羅名上，三藐名正，三名徧。菩提名道，統而譯之，名為無上正徧道。」

新譯曰無上正等正覺。真正平等覺知一切真理之無上智慧也。

法華玄贊二曰：「阿云無，耨多羅云上，三云正，藐云等。又，三云正，菩提云覺，即是無上正等正覺。」

智度論八十五曰：「唯佛一人智慧為阿耨多羅三藐三菩提。」

24. 【濁惡】（科註第一三九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）五濁與十惡也。

觀無量壽經曰：「佛滅後諸眾生等，濁惡不善，五苦所逼。」

天台觀經疏曰：「濁惡者，濁五濁也：一見，二煩惱，三眾生，四命，五劫。惡者十惡也：殺，盜，婬，妄語，惡口，兩舌，綺語，貪，瞋，邪見也。」

25. 【九界】（科註第一三九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（名數）十界中，除佛界自菩薩界至地獄界之九界也。（即：地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人道、天道、聲聞、緣覺、菩薩。）此九界，由佛界言之，悉為迷之境界也。

玄義二上曰：「己身他身，微妙寂絕，皆非權非實，而能應於九界之權一界之實。」

26. 【本覺】（科註第一三九頁倒數第一行）

《三藏法數》：謂眾生心體靈明虛廓，本

來離念，等虛空界，無處不遍，即是如來平等法身，是名本覺。

《佛學大辭典》：（術語）眾生之心體，自性清淨，離一切之妄相，照照靈靈，有覺知之德。是非修成而然，乃本有自爾之性德，故曰本覺。即如來之法身也。然此本心體，無始以來，覆於無明煩惱，隱藏至於今日，一旦依修治之功，始顯其性德，是曰始覺，然覺而觀之，則始覺非別，原為本覺之體，故始覺本覺，咸同一致。本覺之外無始覺。始覺即與本覺同一也。

仁王經中曰：「自性清淨名本覺性，即是諸佛一切智智。」

起信論曰：「心體離念，離念相者等虛空

界，無所不遍。法界一相，即是如來平等法身，依此法身，說名本覺。」

27. 【理性】（科註第一三九頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）性者，以不改為義，本具之理體，終始不改，謂之理性。

28. 【秘藏】（科註第一四〇頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）隱而不傳於人曰秘。蘊蓄於內曰藏。秘藏者稱諸佛之妙法，以諸佛守護之不妄宣說故也。以非器而妄傳，便為破法故也。

法華經信解品曰：「一切諸佛秘藏之法，但為菩薩演其實事。」同嘉祥疏九曰：「昔來隱而不傳，目之為秘，如人妙寶蘊在於內，故名為藏。」

維摩經問疾品曰：「諸佛秘藏無不得入。」注「肇曰：秘藏，諸佛身口意秘密之藏。」

涅槃經曰：「愚人不解，謂之秘藏。智者了達，則不名藏。」

又真言總稱為秘藏。大日經疏三曰：「聲聞經中以<sup>ㄆㄧ</sup>毗（音皮）尼為秘藏，要擇人簡眾方乃授之。若未發律儀不令聽聞修習，摩訶衍中亦以持明為秘藏，未入漫<sup>ㄇㄢ</sup>荼（音徒）羅（壇場）者，不令讀誦受持。」同七曰：「所謂甚深秘藏者，眾生自秘之耳，非佛有隱也。」

29. 【觀經】（科註第一四〇頁第七行）

《佛學大辭典》「觀無量壽經」條：（經名）佛說觀無量壽佛經之略名，一卷，宋

jiāng<sup>十一</sup> 薑 (音江) 良耶舍譯。說佛應韋提希夫人之請，而臨頻婆娑羅王之宮中，分十六觀而說觀想阿彌陀佛之身相及淨土之相者。各家疏註如下：觀無量壽佛經疏一卷，隋智者大師說。觀無量壽經義疏二卷，隋慧遠撰。觀無量壽經義疏一卷，隋吉藏撰。觀無量壽佛經疏四卷，唐善導集記。釋觀無量壽佛經記一卷，唐法聰撰。觀無量壽佛經疏妙宗鈔六卷，宋知禮述。觀無量壽佛經融心解一卷，宋知禮撰。觀無量壽佛經義疏三卷，宋元照述。觀經扶新論一卷，宋戒度述。靈芝觀經義疏正觀記三卷，宋戒度述。觀無量壽經疏妙宗鈔科一卷，宋知禮排定，明真覺重排。觀無量壽佛經疏妙宗鈔會本五卷，明真覺分

會，日本實觀改修。觀無量壽佛經圖頌一卷，明傳燈述。觀無量壽經直指疏二卷，續法集。觀無量壽佛經約論一卷，彭際清述。觀無量佛經箋註，丁福保註。

30. 【是心是佛】 (科註第一四〇頁第七行)

《佛學大辭典》：(術語) 觀經所說於觀法中想佛故，是觀想之心即為佛也。

觀無量壽經曰：「諸佛如來是法界身，入一切眾生心想中。是故汝等心想佛時，是心即是三十二相，八十隨形好。是心作佛，是心是佛。」天台疏曰：「是心作佛者，佛本是無，心淨故有。亦因三昧心終成作佛也。是心是佛者，向聞佛本是無，心淨故有，便謂條然有異。故言即是，心外無佛，亦無佛

因也。」善導疏曰：「言是心是佛者，心能想佛，依想佛身而現，即是心佛也。離此心外更無異佛者也。」住於此心而念佛，謂之即心念佛。如淨土門以外之念佛皆是也。

31. 【介爾】

（科註第一四〇頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）形容極微弱之心也。止觀五上曰：「此三千在一念心，若無心而已，介爾有心即具三千。」輔行五之三曰：「言介爾者，謂剎那心，無間相續，未曾斷絕。纔一剎那，三千具足。又介爾者，介者弱也，謂細念也。」

32. 【三輩】

（科註第一四二頁第二行）

《佛學大辭典》：（名數）無量壽經說：往生彌陀淨土之人其業行之淺深有上中下之

三類：

一、上輩，捨家棄欲而為沙門，發菩提心，一向念無量壽佛者。

二、中輩，身不能為沙門修大功德。而能發菩提心，一向念無量壽佛，起立塔像，飯食沙門等，多少修善者。

三、下輩，但發菩提心，一向念無量壽佛，乃至十念者。

此三輩與觀經所說之九品有同異之諸釋。為曇鸞，淨影，嘉祥，法位，龍興，憬興，源清之七師，以此為同。天台，義寂，孤山，靈芝之四家以此為別。淨土一家從鸞師之說，但視為開合之異耳。

無量壽經下曰：「十方世界諸天人民，其

有至心願生彼國者，凡有三輩。其上輩者，捨家棄欲而作沙門，發菩提心，一向專念無量壽佛，修諸功德願生彼國。〔中略〕其中輩者，雖不能行作沙門大修功德，當發無上菩提之心一向專念無量壽佛。多少修善，奉持齋戒，起立塔像，飯食沙門，懸繒燃燈，散華燒香，以此迴向願生彼國。〔中略〕其下輩者，假令不能作諸功德，當發無上菩提之心，一向專意乃至十念念無量壽佛，願生彼國。」

曇鸞之略論曰：「無量壽經中唯有三輩上中下，無量壽觀經中一品分為上中下，三三而九，合為九品。」

33. 【歸元】（科註第一四一頁第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）又曰歸真，歸寂，歸化，歸本。出生滅界，還歸於真寂本元之意。

34. 【chǎn闡14（音產）揚】（科註第一四一頁第七行）

《漢語大詞典》：闡明發揚；宣揚。

35. 【宗說俱通】（科註第一四一頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）宗通，說通也。禪門自悟徹底云宗通。說法自在曰說通。宗說俱通為大宗師。

祖庭事苑七曰：「清涼云：宗通自修行，說通示未悟。」

楞伽經三曰：「佛告大慧：一切聲聞緣覺菩薩有二種通相，謂宗通說通。」同註曰：

「宗者道之本，說者教之跡。」

證道歌曰：「宗亦通，說亦通，定慧圓明不滯空。」

36. 【顯密】（科註第一四一頁第八行）

《佛學大辭典》「二教」條：（名數）一顯教，二密教。顯教之判，有天台真言之別。天台就釋迦佛之說法作法而立顯密二教。蓋以對一會大眾顯露說法，使彼此相知者為顯露教，此時更密對餘眾說法，使一會之人不能知之者為秘密教。如鹿園之會，八萬諸天得聞深法，故在我為顯露教者，於彼為秘密教。在彼為秘密教者，在我則顯露教也。

法華玄義一曰：「如來於法得最自在，若智若機若時若處，三密四門無妨無礙。此座說頓，十方說漸、說不定；頓座不聞十方，

十方不聞頓座。或十方說頓、說不定；此座說漸，各各不相知聞。於此是顯，於彼是密；或為一人說顯，或為多人說漸、說不定；或為一人說漸，為多人說顯，各各不相知，互為顯密。或一座嘿（「嘿」音末，同「默」），十方說；十方嘿，一座說；或俱嘿，或俱說，各各不相知，互為顯密。」

又真言所立之顯密二教，以釋迦佛所說之大小乘一切為顯教，大日如來所說之兩部大法為密教。釋迦佛為化身，化身之說法，各應所化之機而說之，其法顯露而淺略，故名顯教。大日為法身，法身為法樂，集自己眷屬說內證之境，其法秘奧而不可思議，故曰密教。

顯密二教論上曰：「應化開說名曰顯教，言顯略逗機，法佛談話謂之密藏，言秘奧實說。」

37. 【饒益】（科註第一四二頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）豐足利人也。法華經譬喻品曰：「饒益諸子等與大車。」

38. 【結界】（科註第一四二頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）建伽藍，或作戒壇，行一種之作法，而定其區域境界也。即其作法所限定之地，謂之結界地。

39. 【冥心孤詣】（科註第一四二頁倒數第五行）

《漢語大詞典》「冥心」條：一、泯滅俗念，使心境寧靜。二、潛心苦思；專心致志。

《辭海》「苦心孤詣」條：孤詣，獨到。謂費盡苦心鑽研，達到別人達不到的境地。

40. 【慧明】（科註第一四二頁倒數第四行）

安慶地藏庵慧明老法師。民國初年高僧。夏蓮居居士約於一九二一年前後，與學佛好友梅光羲（音西）（時任山東高等檢察廳檢察長）、龔龔（音宮）伯衡（時任山東財政廳廳長）等居士，同受皈依於慧明法師。法師唯教人念佛，叩以宗門事，唯無語。

41. 【慈舟】（科註第一四二頁倒數第四行）

《名僧錄》：（一八七七—一九五八）湖北隨縣人。俗姓梁，法名普海。幼從父母學佛，長而常懷出家之志。宣統二年（一九一

○)，與妻同時出家於隨縣佛垣寺，禮照元為剃度師；復於漢陽歸元寺受具足戒。民國

三年（一九一四），就學於上海哈同花園華嚴大學。七年，於河南信陽賢首山，開講《大乘起信論》。八年，與了塵、戒塵，於漢口九華寺開辦華嚴大學。十二年，應杭州靈隱寺之請，開辦明教學院；復佐惠宗籌辦法界大學。十八年，任靈巖山住持。二十年，應虛雲之邀，前往福建鼓山籌辦法界學院。四十七年一月六日，於北京安養精舍示寂，世壽八十二，僧臘四十八。師畢生持戒精嚴，除弘宣律部外，亦致力於華嚴、淨土的弘揚。著有《毗尼作持要錄》、《菩薩戒本疏》、《大勢至菩薩圓通章講義》、《金剛

經中道了義疏》等，今有《慈舟大師法彙》行於世。

42. 【科判】（科註第一四一頁倒數第四行）

《中華佛教百科全書》「科文」條（節錄）：指註釋經論時對全經文句所作的段落分判。為我國古代註經者常用的詮釋方式。也稱分科、科段、科節、科判，略稱為「科」。此中，分判為大段落稱為大科，分判為小段落稱為細科。依據分科可以獲知該書之簡明內容及義旨脈絡，並能定出註釋者對於該書之大體見解。

43. 【rǒng冗蔓<sup>ㄩㄢˋ</sup>】（科註第一四一頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：繁瑣 wú 蕪<sup>x</sup>（音吳。雜亂）雜。

44. 【《阿彌陀經》】（科註第一四二頁第六行）

《中華佛教百科全書》（節錄）：一卷。

姚秦·鳩摩羅什譯。是敘說阿彌陀佛淨土功德莊嚴而勸念佛往生的經典，是佛無問自說的經，淨土三經之一。此經在中國弘傳極盛，曾經三次漢文譯出。第一譯是姚秦·弘始四年（四〇二）二月八日鳩摩羅什在長安（逍遙園）譯出。第二譯是劉宋·孝建年中（四五四—四五六）求那跋陀羅在荊州辛寺譯出，名《小無量壽經》，今已失傳。第三譯是唐·永徽元年（六五〇）正月一日玄奘在長安大慈恩寺譯出，名《稱讚淨土佛攝受經》。

據唐·開元十八年（七三〇）撰出的《開元釋教錄》〈入藏錄〉所載，求那跋陀羅譯

本則未收入藏。從那時起第二譯《小無量壽經》似已佚失。但從元代以來各藏中，又都收有《拔一切業障根本得生淨土神呪》十五句五十九字和以下長行四十七字，並標明是求那跋陀羅譯，出自《小無量壽經》，這當是第二譯中僅存的佚文。第三玄奘譯本和羅什譯本的異點，即為羅什譯本中六方諸佛證成，而在玄奘譯本中則為十方諸佛證成；至對勘藏譯本和現存的梵本，則和羅什所譯的一致。又，羅什譯的另一異本即古傳襄陽龍興寺石刻《阿彌陀經》，和現行本也有差別，如王日休《龍舒淨土文》卷一所說：「襄陽石刻阿彌陀經，乃隋·陳仁稜所書，字畫清婉，人多慕玩，自一心不亂而下云：專

持名號，以稱名故，諸罪消滅，即是多善根福德因緣。今世傳本脫此二十一字。」

45. 【王日休】（科註第一四二頁第七行）

《佛學大辭典》：（人名）南宋龍舒人。字虛中，又稱龍舒居士。為國學進士，著六經訓傳數十萬言。一旦棄之，專修西方之業，布衣蔬食，日課千拜。紹興三十年。請觀音加佑，校輯大阿彌陀經，三年終其功。有五十六分。又著龍舒淨土文十卷。乾道九年正月厲聲念佛，感佛來迎，立化。見樂邦文類三，佛祖統紀二十八等。

46. 【魏承貫】（科註第一四二頁第七行）

《實用淨土宗辭典》「魏源」條：（一七九四—一八五七），清代佛教居士。法名承

貫，字默深，湖南邵陽人。道光進士。近代著名愛國學者、思想家。主張學習西方先進科技，進行社會改革。歷任東台知縣，興化知縣，高郵<sup>文</sup>（音由）知州。熟於掌故，尤精輿地（地理。輿，音魚）之學，著有《海國圖志》一〇〇卷，與龔自珍同屬「通經致用」的今文學派。晚從長洲彭紹升遊，得窺佛乘之奧，受菩薩戒，寄居僧舍，專修淨業。曾會集《無量壽經》，雖居士有見於王日休居士之經有杜撰經文之失，提出「無一字不有來歷」，所有會集的文句皆注明來歷，以補蓮池大師所指王本之缺憾，期成《無量壽經》之善本。會集完畢，確有比王本完善處，後有王耕心居士易名為《摩訶阿彌陀經》，在

魏承貫逝世後流通。居士雖有完美此經之心，但仍有隨心增刪之失，印光大師斥其為「膽大心粗，不足為訓。」另有《興化佛教通志》等著作。

47. 【龍舒淨土文】（科註第一四二頁倒數第五行）

《實用淨土宗辭典》：書名。宋代淨土宗典籍。王日休編撰，以其郡號龍舒，遂以龍舒名其文。是書集錄有關往生西方淨土之經論、傳記等，原著僅十卷，即《淨土起信》、《淨土總要》、《普勸修持》、《修持法門》、《感應事蹟》、《特為勸喻》、《指迷歸要》、《現世感應》、《助修上品》、《淨濁一如》等十章（一章為一卷），後人增廣為十二卷，稱《增廣龍舒淨土文》。其要

義見於第一卷《淨土起信》九篇、第二卷《淨土總要》七篇、第三卷《普勸修持》九篇及第四卷《修持法門》十五篇中。

其主要思想是，應深信身外淨土之存在。佛無妄語，此語正佛所自說。雖為不可顯現而存在無疑。一般參禪者只認唯心自性於其內，除唯心淨土外，不再有淨土，除自性彌陀外，不必更見彌陀，其說法為似是而非。因西方淨土有理有跡。論其理，能淨其心，一切皆淨，為唯心淨土。論其跡，則實有極樂世界。淨土為萬人通修之教，不論官吏、醫師、禪者、富者、僕妾、漁者、屠者、罪人，也不論僧俗，只要修持，都可往生淨土。書中廣為勸說，使生正信，自能發願力

行。又重視見於日用間的淨土利益，詳舉現實感應事例，以證只要按淨土修持法門念佛，人人可往生西方淨土。

48. 【《大阿彌陀經》】（科註第一四二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：宋進士王日休，（於紹興三十年（一一六〇）至三十二年）取前譯諸經（支謙譯《無量清淨平等覺經》、康僧鎧譯《無量壽經》、支謙譯《阿彌陀經》、法賢譯《無量壽莊嚴經》）刪補訂正者，二卷。

49. 【叢林】（科註第一四二頁倒數第二行）

《祖庭事苑》：梵語「貧婆那」，此云叢林，《大論》云「僧伽」。秦言「眾多比丘一處和合，是名僧伽。譬如大樹叢聚，是名

為林。一一樹不名為林，如一一比丘不名為僧。諸比丘和合，故名僧，僧聚處得名叢林。」

又《大莊嚴論》云「如是眾僧者，乃是勝智之叢林，一切諸善行運集在其中。」

又《雜阿含·二十五》「佛告阿難：『汝遙見彼青色叢林否？』『唯然已見。』『是處名曰優留曼茶山，如來滅後百歲，有商人子名優波掘多，當作佛事，教授師中最為第一。』即四祖優波毘多，梵音楚夏爾。以祖師居之，今禪庭稱叢林也。

50. 【龍藏】（科註第一四二頁倒數第二行）

《中國大百科全書》：清代官版藏經（又稱《乾隆大藏經》）。又名《清藏》。清雍正十

一年（一七三三），於北京賢良寺設立藏經館，由和碩莊親王允祿、和碩和親王弘晝及賢良寺住持超聖等主持；雍正十三年開雕，乾隆三年（一七三八）竣工，雕成經版七九〇三六塊。全藏七二四函，千字文編次天字至機字，一六六九部，七一六八卷。版式和《永樂北藏》一致。全藏也分正續兩部分，正藏四八五函，千字文編次天字至漆字，內容完全和《永樂北藏》相同；續藏二三九函，千字文編次由書字至機字，內容較《永樂北藏》有所增減。刷印一〇〇部，頒賜京內外各寺人藏。一九三五年又印過二十二部。經版原存宮內武英殿，後移藏於柏林寺，至今尚存。

51. 【大正藏】（科註第一四二頁倒數第二行）

《佛教大辭典》「大正新修大藏經」條：簡稱《大正藏》。日本編印的漢文大藏經。日本大正十三年（一九二四）到昭和九年（一九三四），由佛教學者高楠順次郎、渡邊海旭、小野玄妙等人在東京組織的大正一切經刊行會編輯出版。在弘教書院所印《縮刷藏經》及「四本」（宋、元、明三本與《高麗藏》）對校的基礎上，參照正倉院藏經、敦煌古本、巴利文和梵文經典，對以往藏經所收佛典重加校勘、編排。體例改變古來按大小乘佛教的分類方法，而以佛典的基本內容分類。全藏分三部分：

一、《正篇》五十五卷，收佛典二千一百八十四部，內分印度撰述（經部：阿含、本

緣、般若、法華、華嚴、寶積、涅槃、大集、經集、密教；律部：上座、化地、大眾、法護、有部、菩薩戒；論部：釋經論、毗曇、中觀、瑜伽、論集），中國撰述（也有少部分是日本撰述，內分經疏、律疏、論疏、諸宗、史傳）。

二、《續篇》三十卷，收佛典七百三十六部，全是日本撰述（續經疏、續律疏、續論疏、續諸宗、悉曇），附古逸（敦煌古遺文等）、疑似（疑偽書）。

三、《別卷》十五卷（圖像十二卷，收三百六十三部，《昭和法寶總目錄》三卷，收七十七部）。全藏共一百冊，收佛典三千三百六十部，一萬三千五百二十卷。為國際佛

學界常用的漢文大藏經版本之一。

52. 【蓮池大師】（科註第一四二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「雲棲」條：（人名）雲

棲大師，名祿宏，字佛慧，號蓮池。初為儒生，三十後，出家，行腳多年，住於杭之雲棲，建創禪林，勵念佛，嚴戒律，壽八十

一、明神宗，萬曆四十三年示寂。著書三十二種。見續稽古略三。（與紫柏、憨山、蕩益並稱為明代四大高僧。清雍正中賜號淨妙真修禪師）

《淨土聖賢錄》：明祿宏。蓮宗八祖。字

佛慧，號蓮池，杭州仁和沈氏子也。年十七，補諸生，以學行稱。鄰有老嫗，日課佛名數千。問其故。嫗曰，先夫持佛名，臨終無病，與人一拱而別。故知念佛功德，不可

思議。宏自此棲心淨土，書生死事大四字於案頭，以自策。年三十二，出家。謁遍融、笑岩諸大老，參念佛者是誰，有省。隆慶五年，乞食雲棲，見山水幽絕，居焉。山故多虎，為放瑜伽焰口，虎不為患。歲亢旱，居民乞禱雨。曰，吾但知念佛，無他術也。眾固請。乃持木魚出，循田chéng塍zhēng（音成。田埂）行，唱佛名。時雨隨注，如足所及。眾悅，相與pī陀tuō（音匹。備辦）材造屋。衲子日歸附，遂成叢林。

宏主張淨土，痛斥狂禪。著阿彌陀經疏鈔，融會事理，統攝三根，至為淵奧。（中略）居常廣修眾善，以資淨業。時戒壇久禁不行，宏令求戒者，具三衣，於佛前受之，

為作證明。又定水陸儀文，及瑜伽焰口，以拯幽冥之苦。開放生池，著戒殺文，從而化者甚眾。萬曆四十年六月miǎo杪niǎo（音杪。指月末），忽入城，別諸弟子及故舊，曰，吾將他往。還山，設茶別眾，眾莫測。至七月朔晚，入堂，曰，明日吾行矣。次夕，入丈室，示微疾，瞑目坐。城中諸弟子畢至，復開目云，大眾老實念佛，莫捏怪（編造鬼怪故事塑造怪相，指談玄說妙），莫壞我規矩。向西稱佛名而逝，年八十一。（著述有《菩薩戒疏發隱》五卷、《彌陀疏鈔》四卷、《具戒便蒙》一卷、《禪關策進》一卷、《緇門崇行錄》一卷、《水陸法會儀軌》六卷、《楞嚴摸象記》十卷、《竹窗隨筆》三卷、《山房雜錄》二卷、《雲棲遺稿》

三卷等三十餘種。於雲棲寂後由他的僧俗弟子大賢、鄒匡明等搜集編次，分為釋經、輯古和手著三類，總稱之為《雲棲法匯》。

53. 【《彌陀疏鈔》】（科註第一四三頁第一行）

《實用淨土宗辭典》：書名。凡四卷，明代株宏大師撰，收於《卍續藏》第三三冊。本書係就鳩摩羅什大師所譯《佛說阿彌陀經》作疏，並自製鈔以訓釋之。大師以華嚴之主旨，推演文理，判定此經為頓教所攝，兼通終圓二教。又一以稱理釋發揮其深義，且說應具足信、願、行。在敘述上本疏鈔分：一、通序大意；二、開章釋文，分教起所因，藏教等攝，義理深廣，所被階品，能詮體性，宗趣旨歸，部類差別，譯釋誦持，總釋名

題，別釋文義等十個部分；三、結釋咒意，最後列舉劉宋求那跋陀羅譯之得生淨土神咒，勸人受持。

54. 【幽溪大師】（科註第一四三頁第二行）

《佛學大辭典》「傳燈」條：（人名）明釋傳燈，字無盡，號有門。居高明寺。博通內典。傳南教宗。釋楞嚴維摩諸經。著天台方外志。

《淨土聖賢錄》：傳燈，姓葉，衢州人。少從進賢映庵禪師剃髮。隨謁百松法師，聞講法華，恍有神會。次問楞嚴大定之旨，百松瞪目周視，燈即契入。百松以金雲紫袈裟授之。一生修法華、大悲、光明、彌陀、楞嚴等懺，無虛日。卜居幽溪高明寺。（中略）立天台祖庭，學侶輻湊。（中略）嘗著生無

生論，融會三觀，闡揚淨土法門。（中略）

燈每歲修四三昧（一常坐，二常行，三半行半坐，四非行非坐），身先率眾，精進勇猛。注楞嚴，維摩等經，凡染翰（指寫字。以筆蘸墨。翰，筆），必被戒衲。前後應講席七十餘期。年七十五，預知時至。手書妙法蓮華經五字，復高唱經題者再，泊然而寂。

55. 【《彌陀圓中鈔》】（科註第一四三頁第二行）

具名《佛說阿彌陀經略解圓中鈔》。二卷。姚秦三藏法師鳩摩羅什譯，明永樂吳郡沙門大佑解，明天啟天台沙門傳燈（幽溪大師）鈔。

56. 【印光大師】（科註第一四三頁第三行）

（參考《印光大師永思集》、《印光大師

文鈔三編卷一·大師自述》原文會集。）師諱聖量，字印光（一八六一—一九四〇），別號常慚愧僧。清末民初之高僧，生平以文字三昧宏揚淨土，被譽為民國以來淨土第一尊宿。淨土宗第十三代祖。

陝西<sup>陝</sup>郃陽（郃，音何。今陝西省中部，今稱合陽）縣趙陳村人，俗姓趙氏。少治儒學，登茂才異等之選，讀程朱書，曾闢佛，遭目失明，既而猛省，惟至誠所感，目疾獲痊，遂披閱西來釋典，研討有得。光緒七年，年二十一，發出世心，在終南山出家，八年受具戒，徧參南北諸方叢林，十二年往北京紅螺山資福寺任苦役五年。十七年移住北京圓廣寺。十九年至浙江普陀山法雨寺，垂藏經

樓三十餘年，日閱大藏，禮誦尤勤。徐蔚如、高鶴年二居士先後踵至，索其文刊行示世，名乃大噪，待化緣熟。民十七年，離普陀，暫住上海太平寺。十八年春擬去，以印書事未果。十九年至蘇州報國寺閉關。初猶不見客，既而四方縑素，欽德仰風，歸依者眾，乃始在關房延客。廿六年十月（一九三七年），避戰禍移居靈巖山寺。

自住報國，至遷靈巖，凡十餘年，雖德行日著，聞望日隆，而破衲粗糲，不改常分；灑掃澆濯，垂老躬行。對一切人，皆以信願念佛，求生西方為勸。一九四〇年，示寂於靈岩山寺，世壽七十九。荼毗後，得五色舍利花及舍利珠無數。有印光大師文鈔及印光

大師全集行世。

57. 【chuǎn 喘舛（音喘）誤】（科註第一四三頁第四行）

《漢語大詞典》：差錯；謬誤。

58. 【《無量壽如來會》】（科註第一四三頁第七行）

《佛學大辭典》：（經名）寶積經第五會之名。無量壽經為此會之別譯。

59. 【《大寶積經》】（科註第一四三頁第七行）

《佛學大辭典》：（經名）有四十九會七十七品，前後諸師譯一會或譯數會而別行之。唐菩提流志新譯三十六會三十九卷，取舊來諸師所譯二十三會八十一卷合之，以四十九會一百二十卷為全本。

寶積者法寶之集積也，為大乘深妙之

法，故目之為寶，無量法門攝在此中故謂之積。

寶積經論一曰：「大乘法寶中，一切諸法差別義攝取故。所有大乘法中諸法差別者，彼盡攝取義故名曰寶積。」

60. 【菩提流志】（科註第一四三頁第七行）

《宋高僧傳卷第三》：釋菩提流志。（五六二—七二七）南天竺國人也。淨行婆羅門種。姓迦葉氏。年十二就外道出家。事波羅奢羅學聲明僧<sup>毘佉</sup>（音區）等論。曆數咒術陰陽讖緯靡不該通。年逾耳順（六十歲）方乃迴心。知外法之乖違。悟釋門之淵默。隱居山谷積習頭陀。初依耶舍瞿沙三藏學諸經論。其後遊歷五天遍親講肆。

高宗大帝。聞其遠譽挹彼高風。永淳二年遣使迎接。天后（武則天）復加鄭重。令住東洛福先寺。譯佛境界寶雨華嚴等經凡十一部。中宗神龍二年。又住京兆崇福寺譯大寶積經。<sup>zhū</sup>屬（音主。遇到）孝和（唐中宗李顯）厭代（指帝王逝世）睿宗登極（帝王即位）。敕於北苑白蓮池甘露亭續其譯事。翻度云畢。御序冠諸。其經舊新凡四十九會。總一百二十卷。先天二年四月八日進內。（中略）寶積用賢既廣。流志運功最多。（中略）

開元十二年隨駕居洛京長壽寺。十五年十一月四日。囑誡弟子五日齋時。令侍人散去。右脅安臥奄然而卒。春秋（世壽）一百五十六。帝聞<sup>zhèn</sup>軫（音枕。隱痛）悼。敕試鴻

臚卿。諡曰開元一切遍知三藏。遣內侍杜懷信監護喪事。出內庫物務令優贍。用鹵簿羽儀幡幢花蓋闐塞衢路。十二月一日遷biàn窆之（音扁。葬）於洛南龍門西北原起塔。勒石（立碑）誌之。

61. 【王耕心】（科註第一四四頁第三行）

《實用淨土宗辭典》：清代佛教居士。

生卒年不詳。河北正定人。居士之父梅叔公，曾親近揚州省一大師，深熟紅螺宗旨，嘗校定魏承貫會集之《摩訶阿彌陀經》。居士少承家學，儒佛皆通，長於文字，於佛法「沈潛研索，幾三十年」，潛心研究，精於修持。於光緒年間作《摩訶阿彌陀經衷論》。是論凡分六篇，遍考

《無量壽經》諸譯而成，於論中詳釋是會集本經文之來處，可謂用心良苦；在論中更詳及閉關修念佛三昧之儀規，如對閉關念佛之「五要」、「五戒」一一詳述。並示專念之無上綱要為：「不過口惟誦佛，誦不得住；心惟憶佛，憶不得住；耳惟聽佛，聽不得住；飲食便溺時，口雖不得誦，心中未嘗不可憶，既臥亦然，及寐乃已。已醒復續，此專念之定法也。」是為欲專修念佛之重要資料。

62. 【宗教】（科註第一四四頁倒數第六行）

此指宗門與教下。

《佛學常見辭彙》「宗門教下」條：宗門專指以心傳心之禪宗；教下則是指釋迦佛言

教之下的一切理論和方法。八宗中，除了禪宗，其他都是教下。又宗門講究明心見性，而教下則講究大開圓解。

63. 【律宗】（科註第一四四頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（流派）戒律為三藏三學之一，通於諸宗，而唐南山道宣特依五部律中之四分律弘通戒律，故稱之曰律宗。即四分律宗也。四分律者，佛滅後百年依曇無德羅漢而成別部，支那傳譯之，至唐之南山而大成。

64. 【尊宿】（科註第一四四頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（雜語）德尊年長者。觀經序分義曰：「德高曰尊，耆<sub>レ</sub>耆年（指高年。耆，音奇）曰宿。」

傳燈錄（睦州章）曰：「人稱曰陳尊宿。」

65. 【具縛】（科註第一四五頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）煩惱縛人而繫於生死之牢獄，故名之為縛。具有煩惱者曰具縛。即一切之凡夫也。

yīng 嬰<sub>二</sub>（音英） luò 珞<sub>一</sub>（音落）經下曰：「具縛凡夫，未識三寶。」

俱舍論四曰：「又具縛者，下中上品煩惱現起。」

止觀五上曰：「凡夫具縛，稱病導師。」

注十疑曰：「縛謂煩惱能纏縛人，凡夫具有，故名具縛凡夫。」

66. 【玄義】（科註第一四五頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）幽玄之義理。

深妙之義理。天台釋諸經，先於文前緒論五重之深義，題為玄義。法華經玄義，金光明經玄義等是也。

法華玄義十下曰：「我以五章略譚玄義，非能申文外之妙，特是麤述所懷。」

金光明玄義拾遺記上曰：「玄謂幽微難見也，義謂理趣深有所由也，其幽微義而有五重。〔中略〕大師搜抉如是五義解釋一題，欲令學者豫知經旨然後尋文，使於文文成智行故。斯是道場，特因靜發。稱會佛旨，演茲奧旨。故不可以暗證者及尋文者同日而語也。幽微所以，豈虛名哉？」

67. 【契理】（科註第一四五頁倒數第四行）

《佛學常見辭彙》：契合真理。

68. 【契機】（科註第一四五頁倒數第四行）

《佛學常見辭彙》：契合眾生的根機。

69. 【實際】（科註第一四五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）真如法性為諸際極，故曰實際。又極真如之實理，至於其窮極，謂之實際。

最勝王經一曰：「實際之性，無有戲論。」智度論三十二曰：「實際者以法性為實證，故為際。〔中略〕善入法性，是為實際。」

大乘義章一曰：「實際者，理體不虛，目之為實。實之畔齊，故稱為際。」

唯識述記九末曰：「無倒究竟，無倒所緣，名為實際。」

70. 【理體】（科註第一四五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）萬有之本體，謂理性也。

71. 【真如】（科註第一四五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）梵音部多多他多 Bhūtatahata（此梵語出於金剛經之梵本，譯曰真如性），真者真實之義，如者如常之義，諸法之體性離虛妄而真實，故云真，常住而不變不改，故云如。

唯識論二曰：「真謂真實，顯非虛妄。如謂如常，表無變易。謂此真實於一切法，常如其性，故曰真如。」

或云自性清淨心，佛性，法身，如來藏，實相，法界，法性，圓成實性，皆同體異名

也。唯識述記二本曰：「真以簡妄，如以別倒。初簡所執，後簡依他。或真以簡有漏非虛妄故，如以簡無漏非有為故。真是實義，如是常義，故名真如。」

探玄記八曰：「不壞曰真，無異曰如。前則非四相所遷，後則體無差別，此約始教。又不變曰真，順緣稱如。由前義故，與有為法非一。由後義故，與有為法非異。二義同為一法，名曰真如。」

大乘止觀曰：「此心即自性清淨心，又名真如，亦名佛性，亦名法身，亦名如來藏，亦名法界，亦名法性。」

往生論註下曰：「真如是諸法正體。」  
教行信證證卷曰：「無為法身即是實相，

實相即是法性，法性即是真如，真如即是一如。然則彌陀如來從如來生，示現報應化種種身也。」

雜阿含經二十一日：「以一乘道，淨眾生，離憂悲，得真如法。」

72. 【華嚴經】（科註第一四五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（經名）大方廣佛華嚴經之略名。大方廣為所證之法，佛為能證之人，證得大方廣理之佛也，華嚴二字為喻此佛者。因位之萬行如華，以此華莊嚴果地，故曰華嚴。又佛果地之萬德如華，以此華莊嚴法身，故曰華嚴。

華嚴略策曰：「大方廣者，所證法也。佛華嚴者，能證人也。大以體性包含，方廣乃

業用周遍，佛謂果圓覺滿。華喻萬行披反敷反（音夫），嚴乃飾法成人，經乃貫穿常法。」

四教儀集註上曰：「因行如華，莊嚴果德。」此華譬因行也。

探玄記一曰：「佛非下乘，法超因位，果德難彰，寄喻方顯。謂萬德究竟，環麗猶華，互相交飾，顯性為嚴。」此華譬果德也。

大日經疏曰：「華有二種：一者萬行華。二者萬德行。」

（參考《出三藏記集》、《華嚴經探玄記》、《貞元釋教錄》、《華嚴經略策》、《華嚴經疏》）此經漢譯本有三種：一、東晉佛跋陀羅的譯本，題名《大方廣佛華嚴經》，又稱

晉經、舊華嚴、六十華嚴。梵文原本三萬六千偈，由慧遠弟子支法領從于闐（今新疆和田一帶）得來，於晉義熙十四年（公元四一八年）三月十日在揚州（今南京）道場寺請天竺

三藏佛馱跋陀羅譯出，三藏手執梵本，譯為漢語，法業筆受，慧嚴、慧觀等潤文，吳郡內史孟顛、右衛將軍褚叔度為檀越，於元熙二年（公元四二〇年）六月十日譯竟。劉宋永初二年（四二一）複校完畢（見《三藏記集》卷九經後記等）。初譯時分五十卷，後改為六十卷，內分三十四品，總七處八會。嗣後唐永隆元年（六八〇）三月，天竺三藏地婆訶羅和法藏校勘此經，見所譯《入法界品》內有缺文，因更就梵本譯出從摩耶夫人

到彌勒菩薩文一段約八九紙補入（見《華嚴經探玄記》卷一），乃成現行六十卷本。

此經之註疏甚多，有華嚴經疏七卷（慧遠）、華嚴經搜玄分齊通智方軌五卷（智儼）、華嚴經孔目章四卷（智儼）、華嚴經探玄記二十卷（法藏）等。

二、唐武周時實叉難陀的譯本，題名《大方廣佛華嚴經》，又稱唐經、新華嚴、八十華嚴。梵文原本四萬五千頌，係唐則天武后遣使從于闐求得。三藏法師實叉難陀，於證聖元年（六九五）三月十四日，在洛陽大遍空寺始譯，武后親臨譯場首題品名。菩提留志、義淨同宣梵本。復禮、法藏等並參與筆受潤文。聖曆二年（六九九）十月十八日

於佛授記寺譯畢（見《開元釋教錄》卷九）。凡八十卷，內分三十九品，總七處九會（增「普光法堂」會）。後法藏發見此經《入法界品》中尚有脫文，仍與地婆訶羅校勘梵文。於第八十卷初「彌勒菩薩」至「三千大千世界微塵數善知識」之間，補人文殊伸手摩善財頂五行（《華嚴經疏》卷三、《華嚴經略策》），成現行之八十卷本。新譯較之舊譯，文辭流暢，義理更周，故流通更盛。華嚴宗之主經即此八十華嚴。

註疏有，略疏刊定記十五卷（慧苑）、華嚴經疏三十卷（神秀）、華嚴經疏六十卷（澄觀）、華嚴經綸貫一卷（復庵）、華嚴經綱要八十卷（德清）等。

三、唐貞元中般若的譯本，亦題名《大方廣佛華嚴經》，全名《大方廣佛華嚴經入不思議解脫境界普賢行願品》，略稱普賢行願品、四十華嚴。梵文原本一萬六千七百偈（見《貞元釋教錄》卷十七），係貞元十一（七九五）年十一月，南天竺烏荼國師子王派使者進貢其所親寫華嚴經之梵本。翌年六月，唐德宗囑罽賓三藏般若在長安崇福寺譯。廣濟譯語，圓照筆受，智柔、智通回綴，道弘、鑒靈潤文，道章、大通證義，澄觀、靈邃等詳定，至十四（七九八）年二月譯畢，成四十卷。

內容係與舊新兩譯之《入法界品》大同小異，然增文較廣。卷四十中之「普賢十種大

願」與「普賢廣大願王清淨偈」，為前兩譯之未有。所記善財童子遊行南方歷訪善知識之說，與道行般若經等所述薩陀波倫菩薩東行參求般若之說類同；其諸大聲聞不能聞知佛之自在神變，以寓「斥小歎大」之意，與維摩經等旨趣一致。

註疏有，華嚴經行願品疏十卷（澄觀）、華嚴經別行疏二卷（仲希）、華嚴經普賢行願修證儀一卷（淨源）等。另讚詠善財童子歷參五十五善知識者，有大方廣華嚴入法界品讚（楊傑）、文殊指南圖讚（惟白）等。

此經別譯有，西秦聖堅所譯之羅摩伽經三卷、唐代地婆訶羅所譯之大方廣佛華嚴經入法界品一卷、唐代不空所譯之大方廣佛華嚴

經入法界品四十二字觀門一卷。又本經卷四十普賢廣大願王清淨偈之異譯有二種。

73. 【事理無礙】（科註第一四五頁倒數第一行）

《三藏法數》「理事無礙法界」條：謂理由事顯，事攬理成，理事互融，故名理事無礙法界。（參見「四法界」436）

74. 【事事無礙】（科註第一四五頁倒數第一行）

《三藏法數》「事事無礙法界」條：謂一切分齊事法，稱性融通，一多相即，大小互容，重重無盡，故名事事無礙法界。（參見「四法界」436）

75. 【一真法界】（科註第一四五頁倒數第一行）

《三藏法數》：「出華嚴經隨疏演義鈔」無二曰一，不妄曰真；交徹融攝，故曰法

界。即是諸佛平等法身，從本以來，不生不滅，非空非有，離名離相，無內無外，惟一真實，不可思議；是名一真法界。

76. 【本際】（科註第一四六頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）謂窮極之始修也。

圓覺經曰：「平等本際圓滿十方。」

勝鬘經曰：「生死者依如來藏，以如來藏故說本際不可知。」

77. 【五逆】（科註第一四六頁第七行）

《佛學大辭典》「三乘通相五逆」條：

（名數）通於三乘所立之五逆。又曰小乘之五逆。常言之五逆是也：一、殺父，二、殺母，三、殺阿羅漢，四、由佛身出血，五、破和合僧（由罪之輕重次第）。破和合僧

者，多數僧眾，和合而行法事、修佛道，以手段離間之，使之鬥亂，使之廢法事。五逆之中，此罪最重。

阿闍世王問五逆經曰：「有五逆罪，若族姓子族姓女，為此五不救罪者，必入地獄不疑。云何為五？謂殺父、殺母、害阿羅漢、鬥亂眾僧、起惡意於如來所。」

俱舍論十七曰：「言無間業者，謂五無間業。其五者何？一者害母，二者害父，三者害阿羅漢，四者破和合僧，五者惡心出佛身血。」

華嚴孔目章三曰：「五逆：謂害父、害母、害阿羅漢、破僧、出佛身血。初二背恩養，次三壞福田，故名為逆。」

最勝王經溜州疏曰：「五逆：一者故思殺父，二者故思殺母，三者故思殺羅漢，四者倒見（顛倒之妄見也）破和合僧，五者惡心出佛身血。以背恩田違福田故，故名之為逆。執此逆者，身壞命終，必定墮無間地獄。一大劫中受無間苦，名無間業。」（參見「五逆」2188）

78. 【十惡】（科註第一四六頁第七行）

《三藏法數》：「〔出法界次第〕惡即乖理之行。謂眾生觸境顛倒，縱此惑情，於身口意，動與理乖，成此十惡也。」

一、殺生：殺生者，謂自殺，亦教人殺，斷害一切眾生之物命也。

二、偷盜：偷盜者，謂竊取他人一切財物

也。

三、邪淫：邪淫者，謂非己妻妾，而行欲事也。

四、妄語：妄語者，謂好造虛言誑惑他人也。

五、兩舌：兩舌者，謂向此說是，向彼說非；或向彼說此，向此說彼，而使彼此乖諍也。

六、惡口：惡口者，謂言語粗麤（同粗）guǎng獷（音廣。粗野），毀辱他人，令其受惱也。

七、綺語：綺語者，謂乖背真實，巧飾言辭，令人好樂也。

八、貪欲：貪欲者，謂於順情之境，貪著樂欲，心無厭厭（音驗。厭，同厭）足也。

九、瞋恚：瞋恚者，謂於違情之境，不順己意，心生忿怒也。

十、邪見：邪見者，謂撥無因果，行邪見道，心無正信也。（撥者，絕也。）（參見

「十惡因果」2160、「十惡十善之增上果」2161）

79. 【觀音】（科註第一四六頁第八行）

《佛學大辭典》：（菩薩）舊云光世音，

觀世音，略稱觀音，新云觀世自在，觀自在。梵音 Avalokiteśvara，觀世音者，觀世人稱彼菩薩名之音而垂救，故云觀世音，觀世自在者，觀世界而自在拔苦與樂。觀音有六觀音，七觀音乃至三十三觀音，但常稱之觀音，指六觀音中之聖觀音。如法華普門品之觀音，觀無量壽經之觀音是也。此為觀音之

總體。是與西方彌陀四菩薩之最初法菩薩同體。顯教以為阿彌陀之弟子，密教以為阿彌陀之化身，與大勢至菩薩皆在阿彌陀佛之左右（觀音左勢至右），而贊其教化。故稱彌陀之二脅士。梵號禮懺，則阿彌陀佛之本名為觀自在王，觀依其本師之名而自稱觀自在王，猶如今之釋迦牟尼依久遠本師釋迦牟尼（疑漏一「尼」字）。而得其稱也。

日本安然之菩提心義十曰：「尼（「尼」疑為贅字）此佛亦名無量壽佛。〔中略〕彼佛壽命無量、光明無量、眷屬無量、一切皆無量，故以立謚（疑作「是」）號。而本名曰觀自在王如來，眼如四大海，遍觀法界眾生，隨其機緣，拔苦與樂，故為名也。」

依密教三輪身則阿彌陀為自性輪身，觀音為正法輪身，馬頭明王為教令輪身（仁王經儀軌意），依二輪身則阿彌陀觀音皆為自性輪身，馬頭明王為教令輪身（秘藏記）。

大日經一曰：「北方大精進，觀世自在者。光色如皜（同皓）月，商佉軍那華，微笑坐白蓮，髻現無量壽。」

案觀音本作觀世音，唐人諱世字，故但稱觀音，後世遂沿用之。唐龍朔二年，洛陽龍門佛弟子彌偈造尊像一龕，即世尊像。避世字，與此例同。見陶齋藏石記。

又莊岳委談曰：「今塑畫觀音者，無不作婦人相。攷（考的古字）宣和畫譜。唐宋名手寫觀音像甚多。俱不飾婦人冠服。太平廣記

載一仕宦妻為神所攝，因作觀音像奉焉，其妻尋夢一僧救之，得甦。則唐以前塑像亦不作婦人也。」元僧jiàn謝shè（音簡。淺薄）陋無識，以為妙莊王女，可一笑也。（參見《科註》第八三〇至八三一頁）

80. 【勢至】（科註第一四六頁第八行）

《佛學大辭典》：（菩薩）具名大勢至菩薩，得大勢。梵語摩訶那鉢 *Mahā-shāma-prāpta*，阿彌陀三尊之一。侍於阿彌陀之右脅。主佛之智門者。菩薩之大智至一切處，故名大勢至。真言以為胎藏界觀音院之一尊。觀無量壽經曰：「以智慧光普照一切，令離三塗，得無上力，是故號此菩薩名大勢至。」

觀世音菩薩授記經曰：「得大勢。」

大日經一曰：「次近毘俱胝，畫得大勢尊，彼服商佉色，大悲蓮華手，滋榮而未敷。」

同疏五曰：「如世國王大臣，威勢自在，名為大勢。言此聖者，以至得如是大悲自在之位，故以為名。」（參見《科註》第八三一至八三二頁）

81.【文殊】（科註第一四六頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（菩薩）Mañjuśrī，文殊師利之略，舊稱文殊師利，滿殊尸利，新稱曼殊室利。新舊有六譯：無量壽經、涅槃經曰妙德，無行經曰妙首，觀察三昧經，大淨法門經曰普首，阿目佉佉くく（音區）經、普超

經曰濡首，無量門微密經、金剛ying瓔z（音英）  
珞かそ（音洛）經曰敬首（已上舊譯）；大日  
經曰妙吉祥、文殊或曼殊，是妙之義；師利  
或室利，是頭之義，德之義，吉祥之義也。  
此菩薩與普賢為一對，常侍釋迦如來之左，  
而司智慧（普賢在右司理，但當以右智左  
理，今違之，一依勝劣之次第，二示理智融  
通之義也）。

心地觀經八曰：「三世覺母妙吉祥。」

放鉢經曰：「今我得佛，皆是文殊師利之  
恩也。過去無央數諸佛，皆是文殊師利弟  
子。當來者亦是其威神力所致。譬如世間小  
兒有父母，文殊者佛道中父母也。」

此菩薩頂結五じ髻し（音記），以表大日之五

智，手持劍，以表智慧之利劍，駕師子以表智慧之威猛。此文殊有種種之差別，如一字文殊，五字文殊，六字文殊，八字文殊，一髻文殊，五髻文殊，八髻文殊，兒文殊等。此中以五字五髻文殊為本體。

法華文句二曰：「文殊師利，此云妙德。大經云：了了見佛性，猶如妙德。」

法華嘉祥疏二曰：「文殊，此云妙德。以了了見佛性，故德無不圓，累無不盡，稱妙德也。」

西域記四曰：「曼殊室利，唐言妙吉祥，舊曰濡首，又曰文殊師利，或言曼殊尸利，譯曰妙德，訛也。」

探玄記四曰：「梵語喚頭為室利、吉

祥、德等，亦為室利，故致翻譯不同也。」  
慧苑音義上曰：「文殊師利，正云曼殊室利，言曼殊者此云妙也，室利者德也。」

《翻譯名義集》「文殊師利」條（節錄）：  
此云妙德。（中略）首楞嚴經說：是過去無量阿僧祇劫，有佛號龍種上尊王佛。央掘經說：是現在北方常喜世界，歡喜藏摩尼寶積佛。慈恩上生經疏引經云：未來成佛，名曰普現。（參見《科註》第二八八至二八九頁）

82. 【普賢】（科註第一四六頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（菩薩）梵名bi鄰びにん（音

必）輪跋陀 Viśvabhādra，又作三曼多跋陀羅 Samantabhadra，或譯曰普賢，或作遍吉。主一切諸佛之理德，定德，行德，與文殊之智

德，證德相對。即理智一雙，行證一雙，三昧般若一雙也。故以為釋迦如來之二脅士。文殊駕師子侍佛之左方，普賢乘白象，侍佛之右方（今反智右理左之說者，示理智融通之義，又胎藏界之次第右蓮左金也），此理智相即，行證相應，三昧與般若全者，即毘盧舍那法身佛也。華嚴一經之所明，歸於此一佛二菩薩之法門，故稱為華嚴三聖。為一切行德之本體，故於華嚴之席說十大願，又為諸法實相之理體，故於法華之席，誓於法華三昧之道場自現其身。

嘉祥法華義疏十二曰：「普賢者，外國名三曼多跋陀羅。三曼多者，此云普也。跋陀羅，此云賢也。此土亦名遍吉。遍猶是普，

吉亦是賢也。〔中略〕註經解云：化無不周曰普，鄰極亞聖稱賢。」

探玄記二曰：「德周法界曰普，至順調善曰賢。」

大日經疏一曰：「普賢菩薩者，普是遍一切處，賢是最妙善義。謂菩提心所起願行，及身口意，悉皆平等遍一切處，純一妙善，備具眾德，故以為名。」

楞嚴經曰：「普賢菩薩言：我已曾與恒沙如來為法王子，十方如來教其弟子菩薩根者修普賢行，從義立名。」

法華經普賢勸發品曰：「是人若行若立，讀誦此經。我爾時乘六牙白象王，與大菩薩，俱詣其所而自現身，供養守護，安慰其

心。」

晉華嚴經入法界品曰：「爾時佛在舍衛國祇樹給孤獨園大莊嚴重閣堂，與五百菩薩摩訶薩俱。普賢菩薩文殊師利菩薩而為上首。」

探玄記十八曰：「名中先標上首二人，以其是助化主故。釋有三義：一普賢當法界門是所人也，文殊當般若門是能人也。二普賢三昧自在，文殊般若自在。三普賢明廣大之義，文殊甚深之義，深廣一對故。」（參見

《科註》第二八六至二八八頁）

83. 【法身大士】（科註第一四六頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「法身菩薩」條：（術語）

二種菩薩之一。又云法身大士。斷一分無明而顯現一分法性之菩薩也。初地以上之菩薩

是也。若依台家四教之位次，則初住以上方名法身菩薩。

智度論三十八曰：「法身菩薩斷結使得六神通，生身菩薩不斷結使，或離欲得五神通。」

84. 【太虛】（科註第一四七頁第七行）

《佛學常見辭彙》：（一八八九—一九四七）浙江崇德人，俗姓張，為民國以來佛教革新運動之倡導者，設佛學院，辦佛教報紙、雜誌，以弘揚佛法。師一生倡導佛教革命，致力佛教事業，雖未能竟願，然其影響極為深遠。

85. 【真俗二諦】（科註第一四七頁第八行）

《三藏法數》「二諦」條：〔出翻譯名義〕

一、真諦：真諦者，彰一性本實之理也。所謂實際理地，不受一塵，是非雙泯，能所俱亡，指萬象為真如，會三乘歸實際也。

（三乘者，聲聞乘、緣覺乘、菩薩乘也。）

二、俗諦：俗諦者，顯一性緣起之事也。所謂佛事門中，不捨一法，勸臣以忠，勸子以孝，勸國以治，勸家以和，弘善示天堂之樂，懲惡顯地獄之苦也。

《佛學大辭典》「二諦」條：（術語）

一、俗諦，迷情所見世間之事相也。是順凡俗迷情之法，故云俗。其為凡俗法之道理，決定而不動，故云諦。又此事相，於俗為實，故云諦。

二、真諦，聖智所見真實之理性也，是離

虛妄，故云真。其理決定而不動，故云諦。又此理性，於聖為實，故云諦。

經論所說，其名稱不一，涅槃經、仁王般若經謂之世諦，第一義諦。

金剛不壞假名論謂之真諦，俗諦。

瑜伽論、唯識論謂之世俗諦，勝義諦。

南海寄歸傳謂之覆俗諦，勝義諦。或謂之覆諦，真諦。

其中以真俗之名最為通行。出二諦之法，諸家各異。

法華玄義二曰：「夫二諦者，名出眾經，而其理難曉，世間紛紜，由來碩諍。」

南山之廣弘明集二十四，明二諦，列古來之異說二十三家，而淨影於大乘義章一，舉

四宗而辨相宗之二諦，天台於法華玄義二就藏通別圓四教，辨七種之二諦，嘉祥於二諦章，辨三種之二諦，慈恩則在義林章二末，於真俗辨四重。蓋真俗之名，如言長短輕重，隨於所對而重重不同也。

大乘義章一曰：「俗謂世俗，世俗所知，故名俗諦，真者是其絕妄之稱。」

義林章二末曰：「體相顯現，目之為俗。」

二諦章中曰：「俗，是浮虛義；真，真實義。」

中論觀四諦品曰：「諸佛依二諦為眾生說法，一以世俗諦，二第一義諦。」

百論下曰：「諸佛說法常依俗諦第一義

諦。」

智度論三十八曰：「佛法中有二諦：一者世諦，二者第一義諦。為世諦故說有眾生，為第一義諦故說眾生無所有。」

已上真俗二諦，於涉一切諸法，而分別事理淺深之義門也。梵，真（諦）Paramārtha-satya 俗（諦）Samvṛti-satya。

86. 【宴坐】（科註第一四七頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）坐禪也。

維摩經弟子品曰：「宴坐樹下。」

淨影之義記二本曰：「宴猶嘿（嘿，音末。

同「默」）也，嘿坐樹下，名為宴坐。宴宴相濫，晏是安義，宴是嘿義，全別，今影宴矣。」

天台之疏四曰：「宴坐者，有云：縮止義，如龜藏六野干不能害。縮止六識，六塵魔不能惱，故言縮止。今明宴之言安，安住根本淨禪乃至滅定。息外勞塵，似涅槃法，安置心中，身證想受滅，故言宴坐。」

87. 【法要】（科註第一四八頁第一行）

《佛學常見辭彙》：佛法的精華要義。

88. 【本尊】（科註第一四八頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語曰娑也地提嚩多。此譯本尊。本有而於出世間為最勝最尊，故名本尊。又於諸尊中以其尊為本而尊崇之，故名本尊。大日經本尊三昧品於本尊說字印形之三種。字者，**力**等之種子也，印者，金剛杵（音眷。纏繞）索等之

三昧耶形也，形者，相好具足之尊形也。

大日經疏二十曰：「本尊者，梵音娑也地提嚩多，若但云提嚩多者直所尊之義也。尊亦云自尊，自所持之尊也。」

演密鈔十曰：「諸聖隨行者本所宗主，故名為本尊。」

89. 【金剛】（科註第一四八頁第七行）

《佛學大辭典》「金剛神」條：（神名）具名執金剛神。又名金剛手，金剛力士等。為執金剛杵護佛法之神祇。

法華經普門品曰：「應以執金剛神得度者，即現執金剛神而為說法。」

行宗記二上曰：「金剛者即侍從力士，手持金剛杵，因以為名。」

90. 【聖心】（科註第一四八頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）佛心也。

無量壽經下曰：「聲聞或菩薩，莫能究聖心。」

◎ 概要（十門開啟—玄義）

91. 【華嚴宗】（科註第一四九頁第二行）

《佛學大辭典》：（流派）此宗以華嚴經為所依，故稱曰華嚴宗。我國以唐之帝心杜順和尚為始祖，雲華智嚴（儼）法師為二祖，賢首法藏法師為三祖，清涼澄觀法師為四祖，圭峰宗密禪師為五祖。至宋朝加入馬鳴、龍樹而為七祖，大唐道璿xuán（音玄）律師於日本天平八年じ齋し（音基。攜帶）華嚴宗章疏入日本，新羅之審祥往大唐，從賢首學華嚴，後至日本，住於大安寺。日本始有華嚴宗。

十宗略說華嚴為經中之王，秘於龍宮，龍

樹菩薩乘神通力誦出略本，流傳人間。有唐杜順和尚者，文殊師利化身也。依經立觀，是為初祖。繼其道者，雲華智嚴（疑作「儼」）、賢首法藏以至清涼澄觀，而綱目備舉，於是四法界、十玄門、六相、五教，經緯於疏鈔之海，而華嚴奧義如日麗中天，有目共睹矣。後之學者，欲入此不思議法界，於諸祖撰述，宜盡心焉。

92. 【天臺宗】（科註第一四九頁第五行）

《佛學大辭典》「天台宗」條：（流派）隋智者大師入寂於天台山，故曰天台大師。天台大師所立，名天台宗。此宗以法華經為本經，以智度論為指南，以涅槃經為扶疏，以大品經為觀法，因而明一心三觀之妙理也。

先是本宗第一祖北齊慧文，依中觀論始發明此妙理，以授第二祖南岳之慧思，慧思傳之第三祖天台之智者。智者曰：傳道在行亦在說。於是講說三部：一、玄義，是說一家之教相者；二、文句，是解法華之經文者；三、止觀，是示一心之觀行者；一宗之教觀備於此。因此師顯宗名。次有第四祖章安之灌頂，筆受天台之講說，三部之書成於此，一宗之典型永存。自章安歷第五祖法華之天宮，第六祖左溪之三師，至第七祖荊溪之湛然。荊溪崛起中唐，作釋qiān籤ㄑㄧㄢ ㄑㄧㄢˊ（音千），疏記，輔行，次第釋彼三部，又著金pī錫ㄆㄧ ㄒㄧˊ（音披）義例諸書，排他邪解。由荊溪八傳至宋之四明，是時台宗萎微不振。四明解行兼

至，再興一宗。而天台始分為山家山外二流，山家為四明之正傳，以忘心（疑作「妄心」）為觀境，及說事造之三千。山外以慈光之悟恩為祖，以真心為觀境，且不許事造之三千。四明既顯揚山家之正宗，而受之者為廣智、神照、南屏等，源源不絕，且傳至日本，流布甚廣。而山外之流，不久 yān<sub>二</sub>湮<sub>一</sub>（音煙）滅。

93. 【五重玄義】（科註第一四九頁第五行）

《佛學大辭典》：（名數）第一釋名，無名，則不能顯法。故應先釋經題。第二辨體，名者呼體故，名之次宜辨體，體者一部之旨歸，眾義之中樞也。第三明宗，宗者修行之宗旨也。會體必由修行。故體之次宜明

宗。第四論用，會體而自行已圓，則應自體起用，利益眾生。故就宗而論一經之作用。第五判教，利益已多，則所說之教義無盡，故用之次宜判教義之大小權實。已上五重。就法華經釋之。則與咸之法華<sub>チマセ</sub>撮要曰：「此經乃以法譬為名，實相為體，一乘因果為宗，斷疑生信為用，無上醍醐為教相。」

《三藏法數》「五重玄義——法華五重玄義」條：

〔出法華玄義〕

天台智者大師，凡釋諸經，皆立五重玄義。所謂一釋名、二辯體、三明宗、四論用、五判教相。故此法華一經，亦有五重玄妙之義也。

一、法喻為名，法即妙法，喻即蓮華。妙

法者，妙名不可思議，法即十界十如權實之法。良以妙法難解，假喻易彰。妙法則權、實一體，蓮華則華、果同時。故以法喻為名也。（十界者，佛界、菩薩界、緣覺界、聲聞界、天界、人界、阿脩羅界、餓鬼界、畜生界、地獄界也。十如者，如是相、如是性、如是體、如是力、如是作、如是因、如是緣、如是果、如是報、如是本末究竟等也。權即三乘法，實即一乘法也。）

二、實相為體，謂中道實相，為此經所詮妙體，故名實相為體也。

三、一乘因果為宗，一乘即一實相也，宗即要也。謂修此實相之行為因，證此實相之

理為果，故名一乘因果為宗也。

四、斷疑生信為用，用即力用，謂以大乘妙法，開示圓機。在跡門，令斷權疑而生實信；在本門，令斷近疑而生遠信，故名斷疑生信為用也。（跡門者，此經二十八品，前十四品所談是也。跡猶足跡，如人住處，則有行往之跡。謂如來從久遠之本，以垂近成之跡也。本門者，後十四品所談是也。本猶根本，謂如來開近成之跡，以顯久遠之本也。）

五、無上醍醐為教相，聖人垂訓之謂教，分別同異之謂相。此經純圓極妙，異乎偏小諸教，喻如醍醐上味，不同乳酪生熟二酥，故名無上醍醐為教相也。

94. 【綱舉目張】（科註第一四九頁第六行）

《漢語大詞典》：謂撒網時，舉起網上的大繩，所有網眼都張開。比喻抓住主要環節，以帶動其餘；或抓住要領，條理分明。

（綱，提網的總繩。目，孔眼。）

（一）教起因緣

95. 【大教】（科註第一四九頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）如來之教法也。

96. 【一大事因緣】（科註第一五〇頁第三行）

《三藏法數》：「出法華經」一即一實相也。其性廣博，故名為大。如來出世度生之儀式，故名為事。眾生具此實相而能成機感佛，故名為因。如來證此實相而能起應度

生，故名為緣。一切如來出現於世，皆為開示一切眾生本有實相，令其咸得悟入佛之知見。捨此則非如來出世本懷。經云：如來惟以一大事因緣故出現於世。是也。

97. 【世尊】（科註第一五〇頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語曰路迦那他 Lokanātha，譯為世尊，或婆迦婆 Bhagavat 譯為世尊。佛之尊號。以佛具萬德世所尊重故也。又，於世獨尊也。阿含經及成實論以之為佛號中之第十，以具上之九號，故曰世尊。涅槃經及智度論置之於十號之外。

智度論二曰：「路迦那他，秦言世尊。」

淨影大經疏曰：「佛具眾德為世欽仰，故號世尊，若論胡音樓伽qié qié（音茄）陀伽，此

云世尊也。」

探玄記九曰：「以佛具三德六義，於世獨尊，故名世尊，即梵名婆伽婆。」

佛說十號經曰：「天人凡聖世出世間咸皆尊重，故曰世尊。」

成實論一曰：「如是九種功德具足，於三世十方世界中尊，故名世尊。」（參見「薄伽梵」546）

98. 【《法華經》】（科註第一五〇頁第八行）

《中國佛教》「妙法蓮華經」條（節錄）：

《妙法蓮華經》，簡稱《法華經》，七卷，二十八品。姚秦弘始八年（四〇六）鳩摩羅什譯。是說明三乘方便，一乘真實的經典，為天台宗立說的主要依據。

在什譯前一百二十年，即西晉太康七年

（二一八六），就有竺法護譯出《正法華經》十卷，二十七品。什譯後一百九十五年，即隋仁壽元年（六〇一），又有闍那崛多、達摩笈<sup>41</sup>笈（音及）多重勘梵本，補訂什譯，名為《添品妙法蓮華經》，七卷，二十七品。以上三譯，今皆並存。（中略）歷代以來世所廣泛流傳、講解註疏，唯據什譯。什譯本原是七卷二十七品，且其普門品中無重誦偈。後人將南齊法獻共達摩提譯的《妙法蓮華經·提婆達多品》第十二和北周闍那崛多譯的《普門品偈》收入什譯，構成七卷二十八品。其後又將玄奘譯的《藥王菩薩咒》編入，而成了現行流通本的內容。（中略）其主要思想

是空無相的空性說和《般若》相攝，究竟處的歸宿目標與《涅槃》溝通，指歸淨土、宣揚濟世以及陀羅尼咒密護等，可謂集大乘思想之大成。其突出重點在於會三乘方便，入一乘真實。(中略)

此經注疏很多，現存主要的有：劉宋道生《略疏》一卷；梁法雲《義記》八卷；隋智顛《玄義》二十卷、《文句》二十卷，吉藏《玄論》十卷、《義疏》十二卷；唐窺基《玄贊》十卷，湛然《玄義釋qian籤音謙》二十卷、《文句記》三十卷；宋法照《三大部讀教記》二十卷，慧洪、張商英《合論》七卷；元徐行善《科注》八卷；明一如《科注》七卷，傳燈《玄義輯略》一卷，德清《通義》

七卷，智旭《綸貫》一卷、《會義》十六卷；清通理《指掌疏》七卷。新羅元曉《宗要》一卷。日本聖德《義疏》四卷，最澄《大意》一卷，日蓮《注》十卷等。

99. 【示悟】(科註第一五〇頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(雜語) 開示教法使之覺悟也。法華經序品曰：「唯以佛智見，開悟眾生。」

100. 【華嚴經性起品】(科註第一五〇頁倒數第四行)

即《寶王如來性起品》。六十華嚴之第三十二品(卷三十三至三十六)，對應於八十華嚴第三十七品(如來出現品，卷五十至五十二)。

101. 【應供】（科註第一五〇頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）如來十號之一。梵語，阿羅訶 Arhat，譯曰應供。斷一切之惡，應受人天之供養者。

智度論二十四曰：「應受一切世間供養，故名為應供人。」

大乘義章二十末曰：「外國名為阿羅訶也，此云應供。如來諸過悉已斷盡，福田清淨，應受物供，故名應供。」

102. 【等正覺】（科註第一五〇頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語三藐三菩提，譯曰等正覺，又三藐三佛陀，譯曰等正覺者，徧知者。如來十號之第三，覺即知也。覺知遍於一切，是遍也。覺知 qi 契（音

氣）於理，是正也。謂遍正覺知一切法也。又三世諸佛之覺知平等，故曰等，離邪妄故曰等。

大經淨影疏曰：「等正覺者，餘經中亦名正徧知也。正是理，於理究照，故名徧知。今言等者，是徧也。稱理名等。正者，還是餘經正也。言其覺者，是徧知也。」

資持記下三之二曰：「等正覺者，謂三世道同。正印簡異邪妄。」

103. 【性起】（科註第一五〇頁倒數第四行）

《中國佛教》（節錄）：性起的意義是體性生起。具體地說，即是不等待其他因緣，但依自體本具的性德生起。如《修華嚴奧旨妄盡還源觀》說：「依體起用，名為性起。」

《佛學大辭典》：（術語）對緣起之稱。

緣起者真妄和合而起之諸法，故有染淨之差別，是乃因位之如來藏。性起者唯真如法性自起而為諸法，故唯有淨法，是乃果海之法身。

性起與性具云何分別？答：性起為華嚴之極談，性具為天台之圓談。華嚴宗不言性具，雖談真如法性之理，性起萬法，然不言彼理性之內具諸法也。

指要鈔下曰：「他宗極圓，祇云性起，不云性具，深可思量。又不談性具百界，但論變造諸法，何名無作耶？」

104. 【阿僧祇】（音奇）（科註第一五〇頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（雜語）Asamkhyā，舊

稱阿僧祇。譯曰無數。或作無央數。印度數目名。

智度論曰：「僧祇秦言數，阿秦言無。」

新稱阿僧企耶。譯曰無央數。

玄應音義二十四曰：「阿僧企耶，此云無央數。舊言阿僧祇，訛略也。」

按阿僧祇為數之極。以萬萬為億，萬億為兆計之。一阿僧祇凡一千萬萬萬萬萬萬萬兆。梵，又，Asamkhyeya。

105. 【佛知見】（科註第一五〇頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）了知照見諸法實相理之佛智慧也，是為二智中一切種智之用，故就智體而云知。又為五眼中佛眼之

用，故就眼而云見。得此佛知見，有開示悟入之次第，初於十住位斷一分之無明，得少分之知見，謂之開佛知見，乃至於十地終斷盡無明，知見圓明，謂之入佛知見。釋迦佛出世之一大事因緣，為開示悟入此佛知見也。

法華經方便品曰：「諸佛世尊，欲令眾生開佛知見，使得清淨，故出現於世。欲示眾生佛之知見，故出現於世。欲令眾生悟佛知見，故出現於世。欲令眾生入佛知見道，故出現於世。」

法華文句四曰：「佛以一切種智知，佛以佛眼見，開此智眼乃名佛知見。」

法華玄義九曰：「靈智寂照名佛知見。」

106. 【開示悟入】（科註第一五一頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）開佛知見，示佛知見，使悟佛知見，入佛知見也。是顯佛出世本懷之語。法華經方便品曰：「舍利弗！云何名諸佛世尊，唯以一大事因緣故，出現於世？諸佛世尊欲令眾生開佛知見，使得清淨故，出現於世。欲示眾生佛之知見故，出現於世。欲令眾生悟佛知見故，出現於世。欲令眾生入佛知見道故，出現於世。舍利弗！是為諸佛唯以一大事因緣故，出現於世。」

開者如始開藏戶也。示者如現藏內之寶也。悟者如一一記得藏內寶物也。入者如入藏取寶物也。此開悟之淺深，次第配之於大

乘之階位四十位。

文句四上曰：「知見者，智知於理，見諦法。諦法無為則無分別。以無為故而有差別。約此知見，論開示悟入，以略擬廣則有四十位。〔中略〕開者，即是十位。初破無明，開如來藏，見實相理。示者，惑障既除，知見體顯，體備萬德，顯示分明，故名為示。悟者，障除體顯，法界行明，事理融通，更無二趣。入者，事理既融，自在無礙，自在流注，任運從阿到茶（「茶」為般若經所說四十二字門之最後梵字。天台宗以四十二字表大乘之四十二位，以「阿」字表初住，以「茶」字表妙覺），入薩婆若海（「薩婆若」，此云一切種智，即諸佛究竟圓滿果位之智）。」

107. 【《稱讚淨土佛攝受經》】（科註第一五一頁第五行）

（參考《佛說阿彌陀經義疏（并序）》、《開元釋教錄卷八》）經名，一卷。唐永徽元年（六五〇）正月三藏法師玄奘譯於大慈恩寺翻經院，沙門大乘光筆受，略稱《稱讚淨土經》（見內典錄第三）。內容闡說阿彌陀佛西方極樂世界之依正莊嚴，並勸執持名號，一日至七日繫念不亂，臨終心不顛倒，即得往生彼佛國土。

為秦鳩摩羅什所譯《阿彌陀經》之異譯本。兩種譯本之文段章句等大略一致，然於諸佛之稱讚部分，《阿彌陀經》列為六方三十八佛，本經則列十方四十二佛。

註疏有《稱讚淨土佛攝受經疏》（靖邁），《稱讚淨土佛攝受經述讚》（窺基）等。

現代夏蓮居居士，會集秦唐兩譯成《佛說阿彌陀經秦唐兩譯會集本》，有趙普玉居士之《淺解》通行。

108. 【三乘】（科註第一五一頁倒數第四行）

《三藏法數》：「〔出法華經〕乘，即運載之義。謂聲聞、緣覺、菩薩各以其法為乘，運出三界生死，同到真空涅槃，故名三乘。（三界者，欲界、色界、無色界也。梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）」

一、聲聞乘：聞佛聲教而得悟道，故曰聲聞。謂其知苦、斷集、慕滅、修道，故以此

四諦為乘也。（四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。）

二、緣覺乘：因觀十二因緣覺真諦理，故名緣覺。謂始觀無明緣乃至老死，此是觀十二因緣生；次觀無明滅乃至老死滅，此是觀十二因緣滅。觀此因緣生滅，即悟非生非滅，故以此十二因緣為乘也。（十二因緣者，一無明、二行、三識、四名色、五六入、六觸、七受、八愛、九取、十有、十一生、十二老死也。）

三、菩薩乘：菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。謂覺悟一切有情眾生也。菩薩行六度行，廣化眾生出離生死，故以此六度為乘也。（六度者，一布施、二持戒、三忍

辱、四精進、五禪定、六智慧也。」

109. 【菩提】（科註第一五二頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）Bodhi，舊譯為道，新譯為覺。道者通義，覺者覺悟之義。然所通所覺之境，有事理之二法，理者涅槃，斷煩惱障而證涅槃之一切智，是通三乘之菩提也，事者一切有為之諸法，斷所知障而知諸法之一切種智，是唯佛之菩提也，佛之菩提，通於此二者，故謂之大菩提。

智度論四曰：「菩提名諸佛道。」同十四曰：「菩提，秦言無上智慧。」

注維摩經曰：「肇曰：道之極者，稱曰菩提，秦無言以譯之。菩提者，蓋是正覺無相之真智乎。」

止觀一曰：「菩提者，天竺音也，此方稱道。」

大乘義章十八曰：「菩提胡語，此翻名道。果德圓通，名之為道。」

安樂集上曰：「菩提者，乃是無上佛道之名也。」

唯識述記一本曰：「梵云菩提，此翻為覺。覺法性故，古云菩提道者非也。」

110. 【絕待】（科註第一五二頁第七行）

《佛學常見辭彙》：絕諸對待。對待是兩方並峙的意思，如黑白、大小、善惡等是。絕待是真如平等，無法可得，故絕諸對待，簡稱絕待。

111. 【心要】（科註第一五二頁第七行）

《佛學大辭典》(節錄)：(術語)心為心髓，要為精要。謂法門之至極也。又心性上精要之法義也。

112. 【萬行】(科註第二五二頁第八行)

《佛學大辭典》：(術語)一切之行法也。

菩提心論曰：「復經三僧平祇音奇劫，

修六度萬行，皆悉具足，然證佛果。」

113. 【蕩益大師】(科註第一五二頁倒數第三行)

我國淨土宗第九代祖師。

《佛學大辭典》「智旭」條：(人名)名

智旭，字蕩益，自號八不道人。從所居而曰靈峰。父岐仲，持白衣觀音咒祈子，母金氏，夢大士抱子授之而生，時明萬曆二十七年(一五九九)五月三日也。

初學儒，以聖學自任，作闢佛論數十篇。十七歲閱蓮池大師自知錄及竹窗隨筆，取論焚之。二十歲喪父，讀地藏本願經發出世之心，日誦佛名。居三年，聞一法師講首楞嚴經，至空生大覺，忽生疑不能得，遂於像前發四十八願，決心出家。天啟二年三夢憨山，時憨山在曹溪，不能往從，從憨山之徒雪嶺剃度。

尋往雲棲聽古德講唯識論，疑與首楞嚴之宗旨不合，請問。古德云：性相二宗不許和會。心怪之曰：佛法豈有二耶？遂入徑山參禪，性相二宗，一時透徹。旭見律學退廢，以興律為任，既述毘尼集要，尋欲註梵網經，於佛前拈鬪(音糾)以決所宗，得天台

宗，於是究心台部，而不肯為台宗子孫，以近世之台宗禪宗賢首慈恩各執門庭不能和合也。

晚住靈峰，生平著述合有四十餘種，順治十一年（一六五五）正月二十一日寂，壽五十七。嘗曰：生平行履，百無一長，獨有大菩提心，忘身為人，捨己從人，為堪質之於三世慈尊者。見靈峰宗論。

114. 【十大願王】（科註第一五三頁第三行）

《佛學大辭典》「普賢十願」條：（名數）四十華嚴經，普賢行願品曰：「應修十種廣大行願。何等為十？一者禮敬諸佛。二者稱讚如來。三者廣修供養。四者懺悔業障。五者隨喜功德。六者請轉法輪。七者請佛住

世。八者常隨佛學。九者恒順眾生。十者普皆迴向。」

115. 【《無量壽經》zhēn 甄（音真）解】（科註第一五三頁第五行）

十八卷。日本道隱法師作。

116. 【楞嚴】（科註第一五三頁倒數第二行）

《閱藏知津》「大佛頂如來密因修證了義諸菩薩萬行首楞嚴經」條：十卷。唐中天竺沙門般刺密帝譯。阿難示墮摩登伽難，佛放頂光說咒。敕文殊將咒往護，提獎來歸，啟請大法。佛為先開圓解，次示圓行，次明圓位，乃至精研七趣，詳辨陰魔，此宗教司南，性相總要，一代法門之精髓，成佛作祖之正印也。

《佛學大辭典》「楞嚴經」條(節錄)：(經名)一名大佛頂如來密因修證了義諸菩薩萬行首楞嚴經，唐般刺密帝譯，十卷。闡明心性本體。文義皆妙。屬大乘秘密部。無法不備。無機不攝。學佛之要門也。

117. 【聖教】(科註第一五四頁第一行)

《佛學大辭典》：(術語)聖者正也。與正理合名為聖。聖人之所說，謂為聖教。

圓覺經曰：「聞此聖教，隨順開悟。」

解深密經一曰：「已善奉行如來聖教。」

宗輪論述記曰：「聖者正也，與正理合。目之為聖，又契理通神，名之為正。此所說教，名為聖教。」

118. 【旃檀】(科註第一五四頁第一行)

《佛學大辭典》：(植物)具名旃檀娜 Canāna，香木名。譯曰與樂。出自南印度摩羅耶山，其山形似牛頭，故名牛頭旃檀。

慧苑音義上曰：「旃檀，此云與樂，謂白檀能治熱病，赤檀能去風腫，皆是除疾身安之樂，故名與樂。」

玄應音義二十三曰：「旃彈那，或作旃檀那，此外國香木也，有赤白紫等諸種。」

案漢明帝時，天竺國竺法師將畫釋迦像，是優填國旃檀師第四作也。又按本草謂檀香有白檀黃檀紫檀之別，故古今注稱紫檀為旃檀，此紫檀乃檀香之別種，非今通用之紫檀木也。

119. 【易行道】(科註第一五四頁第二行)

《三藏法數》：謂憑信佛語，修行念佛三昧，求生淨土。復乘阿彌陀佛願力攝持，決定往生，故名易行道。（梵語阿彌陀，華言無量壽。）

120. 【《大勢至圓通章》】（科註第一五四頁第二行）  
《實用淨土宗詞典》「大勢至菩薩念佛圓通章」條：經名。《楞嚴經》中的《大勢至菩薩念佛圓通章》，是淨土宗重要依據典籍之一，依《圓通章》修，一生必得解脫。印光大師謂：「《大勢至菩薩念佛圓通章》，乃淨宗最上開示，只此一章，便可與淨土四經參而為五。」《圓通章》文簡意賅，事理雙彰。

該章雖全文只二百一十七字，但念佛之理

融攝無餘。該章的指念佛法門為佛金口親宣，大勢至菩薩親身所證的法門；修念佛三昧應以子憶母之深情憶佛，方能相應；說明憶佛、念佛必定見佛，以念佛為第一勝異方便，必能圓滿諸佛果德；大勢至菩薩以自親證，令念佛人圓成菩提大願；最後再次說明念佛能都攝六根，是得正定的最佳方法。故淨土宗十三祖印光大師將此章編入《淨土四經》中，成《淨土五經》。

121. 【根器】（科註第一五四頁第三行）  
《佛學大辭典》：（譬喻）人之性譬諸木而曰根。根能堪物曰器。

大日經疏九曰：「略說法有四種，謂三乘及秘密乘，雖不應吝惜，然應觀眾生，量其

根器，而後與之。」

122. 【悟入無生】（科註第一五四頁第四行）

《佛學大辭典》「即悟無生」條：（術語）

謂往生極樂者，即時得無生法忍之悟也。安住於無生（涅槃之真理，無生滅，故云無生）之理而不起諸惑，是曰無生法忍。

觀無量壽經曰：「如彈指頃，往生彼國。

生彼國已，見佛色身眾相具足，見諸菩薩色相具足。光明寶林演說妙法，聞已，即悟無生法忍。」

123. 【含靈】（科註第一五四頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）含靈魂者，同於

含識，含生，有情等。

大寶積經三十八曰：「假令三界諸含靈，

一切變為聲聞眾。」

124. 【八萬四千法門】（科註第一五五頁第四行）

《三藏法數》（節錄）：「出賢劫經」八萬

四千法門者，昔佛告喜王菩薩，修習行法，自第一光耀，乃至分舍利，凡三百五十度無極法門；一一法門各有布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧之六度，共成二千一百度無極（梵語波羅蜜多）；於諸貪婬、瞋恚、愚癡、等分，四種眾生，各以此二千一百度無極，教化而開覺之，合成八千四百度無極；一變為十，總成八萬四百度無極法門。此之法門，為三界無上良藥，為百千種人除八萬四千塵勞也。（度無極者，謂事理行滿，度生死流，登涅槃岸，無有窮極也。）

《中華佛教百科全書》：佛陀之一代教法的總稱。又稱八萬四千法蘊、八萬四千法聚、八萬四千法藏、八萬四千度門，或八萬法蘊、八萬法藏。為對治眾生八萬四千煩惱所施設的法門。八萬四千法是表示法門之多，並非實數。《維摩經》卷下〈菩薩行〉品：「阿難，有此四魔八萬四千諸煩惱門，而諸眾生為之疲勞。」《大毗婆沙論》卷七十四云：「受化有情有八萬行，為對治彼八萬行故，世尊為說八萬法蘊，彼諸有情依佛所說八萬法蘊，入佛法中，作所應作各得究竟。」

此外，慧遠《維摩義記》卷七記載，佛答喜王菩薩，有三昧名「了法本」，菩薩行之便速遂致八萬四千諸度門。佛德具有三百五十

種門，一一門中皆修六度為因，便有二千一百諸度，以此諸度對治四大六衰之患，便為二萬一千諸度。再以二萬一千諸度對治四種心病，便有八萬四千諸度。其中，治多貪病二萬一千，治多瞋病二萬一千，治多癡病二萬一千，三毒等分二萬一千，合計即為八萬四千。

125. 【舍利弗】（科註第一五五頁第五行）

《佛學大辭典》（節錄）：（人名）Śaripūṭra，又作舍利弗多，舍利弗羅，舍利子，新作舍利弗多羅，舍利富多羅，舍利補怛羅。

舍利者母之名，弗或弗多者，弗多羅之略，子之義也。為舍利女之子，故曰舍利弗，舍利子。又父名云優婆提舍，故從父而

稱之曰優婆提舍。然母名之為舍利，古來有二釋，一為鳥名。譯曰秋露，鷺鷥，qū hǔ yù 鶻hǔ

(音渠玉。俗稱八哥)，鸚(古同鴿) 鴿，鷺，

百舌鳥。或言母之眼似彼鳥，或言母之才辯猶如鷺鷥，故以為名。(中略)

舍利弗者，與目連皆為佛弟子中最重用之一人。其出家之因緣，本為外道。逢師死，茫茫求道，於途上見馬勝比丘安序而走，比丘說「因緣所生法」之偈，遂出家。

126. 【目犍連】(科註第一五五頁第五行)

《佛學大辭典》「摩訶目犍連」條(節錄)：

(人名) Mahāmaudgalyāna，比丘名。法華

經作大目犍連。阿彌陀經作摩訶目犍連，略曰目犍連，又曰目連。新稱曰摩訶沒特伽

羅，沒特伽羅子。姓也。譯曰大讚誦，大萊茯根，大胡豆，大採菽等。

佛十大弟子之一人。稱為神通第一者。初與舍利弗同為六師外道之一人，頗精通教學。雖領一百徒弟，然中心有不安之念。因而與舍利弗互約，先得解脫者，必以告，故共競修行精進。一日舍利弗至王舍城，見五比丘中之馬勝，儀容端正，問其理由，始知佛陀出現，由一偈之法門，忽開悟得脫。次於竹園精舍，聞佛陀親說，得法眼淨之悟，因告之目連，共為諸佛子。二人弟子，合二百人，亦入佛門。

法華文句一曰：「大目犍連姓也，翻讚誦。文殊問經翻萊茯根。真諦云：勿伽羅，

此翻胡豆。二物古仙所嗜，因以命族。〔中略〕同名者多，故舉大也。〕

127. 【聲聞】（科註第一五五頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語，舍羅婆迦 Śīvaṅka，為佛之小乘法中弟子，聞佛之聲教，悟四諦（苦諦、集諦、滅諦、道諦）之理，斷見思之惑，而入於涅槃者也。是為佛道中之最下根。

勝鬘寶窟上末曰：「聲聞者，下根從教立名，聲者教也。」

128. 【小始諸教】（科註第一五五頁第六行）

見「五教」394。

129. 【阿伽陀】（音茄）【陀藥】（科註第一五五頁倒

數第二行）

《佛學大辭典》「阿伽陀」條：（飲食）一作阿揭陀 Agada，藥名。譯曰普去，無價，無病，或作不死藥，丸藥。

玄應音義二十四曰：「阿竭陀藥，又言竭陀，或云阿伽陀。梵言訛轉也，此云丸藥也。」

慧琳音義二十五曰：「阿揭陀藥，阿云普，竭陀云去。言投此藥，普去眾疾。又阿言無，竭陀云價，謂此藥功高，價直無量。」  
慧苑音義上曰：「阿無也，揭陀病也，服此藥已，更無有病，故為名耳。」

止觀一之五曰：「阿伽陀藥，功兼諸藥。」

130. 【伽儕】（音柴）【】（科註第一五六頁第五行）

《漢語大詞典》：輩，類。

131. 【火聚】（科註第一五六頁第八行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）猛火之聚積。依罪業而在地獄所感者。

正法念經十一曰：「彼不善業，作而復集，勢力堅鞫（音映。堅硬），所得果報，有大火聚。〔中略〕彼人所作惡業勢力，急擲其身，墮彼火聚。」

132. 【清涼池】（科註第一五六頁第八行）

《佛學大辭典》：（譬喻）以喻涅槃之無惱熱也。

智度論二十二曰：「人大熱悶，得人清涼池中，冷然清了，無復熱惱。」

法華玄義二曰：「三法為乘，乘於是乘人清涼池。」同四曰：「智目行足，到清涼

池。」

133. 【無念】（科註第一五六頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）無妄念也，即正念之異名。（中略）

宗鏡錄八曰：「正念者，無念而知，若總無知，何成正念。」

傳心法要曰：「一念不起，即十八界空，即身便是菩提華果，即心便是靈智，亦云靈臺。又曰：且如瞥起一念便是境，若無一念，便是境忘心自滅，無復可追尋。」

頓悟人道要門論上曰：「問：既言無念為宗，未審無念者無何念？」

答：無念者，無邪念。非無正念。  
云何為邪念？云何名正念？

答：念有念無，即名邪念。不念有無，即名正念。念善念惡，名為邪念。不念善惡，名為正念。乃至苦樂生滅取捨怨親憎愛並名邪念。不念苦樂等，即名正念。

問：云何是正念？答：正念者，唯念菩提。

問：菩提可得否？答：菩提不可得。

問：既不可得，云何唯念菩提？

答：只如菩提，假立名字，實不可得，亦無前後得者。為不可得故，即無有念。只箇無念，是名真念。」

134. 【元曉師】（科註第一五七頁第一行）

《佛學大辭典》「元曉」條：（人名）新

羅國黃龍寺元曉。從湘法師入唐遊往處處，

華嚴唯識，最其所達。後還，化振海東（黃海以東，今韓國）。所著起信論疏，彌陀經疏等盛行於世。世稱其人為海東師，疏曰海東疏。見宋僧傳四。

135. 【凡夫】（科註第一五七頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語波羅，舊曰凡夫，新曰異生。對聖者之稱。謂無些少之斷惑證理者。凡者常也。又，非一也，凡常而遮類多，故云凡夫。

梵網經上曰：「我已百阿僧祇劫，修行心地，以之為因，初捨凡夫，成等正覺，號為盧舍那。」

法華經曰：「凡夫淺識，深著五欲。」

大威德陀羅尼經曰：「於生死迷惑流轉，

住不正道，故名凡夫。」

佛性論曰：「凡夫以身見為性。」

止觀一曰：「凡者常也，亦非一也，席品多故。」

大日經疏一曰：「凡夫者，正譯應云異生。」

136. 【末世】（科註第一五七頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）澆（輕浮、淺薄）

末之世代也。釋迦入滅後五百年為正法時，次一千年為像法時，後萬年為末法時。末世者，即末法時也。

137. 【陰魔】（科註第一五七頁第六行）

《佛學大辭典》：（譬喻）五陰能害眾生佛性，故譬之魔。四魔之一。

138. 【泥犁】（科註第一五七頁第八行）

《佛學大辭典》：（界名）梵語，地獄也。

其義為無有，謂喜樂之類一切皆無。為十界中最劣境界，亦作泥黎，或作泥梨迦。mén 捫

（音門）shì 虱（音失）新話曰：黃魯直初好作

yàn 豔（音宴）歌小詞，道人法秀謂其以筆墨誨

淫，於我法中，當墜泥犁之獄。魯直自是不作。

佛書泥犁耶，無喜樂也。泥梨迦，無去處也。二者皆地獄名。或省耶迦字，只作泥梨，一作犁。又阿鼻，無間也，亦地獄名。法華經：無間地獄，有頂天堂。

139. 【禪觀】（科註第一五七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）坐禪而觀

念真理也。

140. 【五十種陰魔】（科註第一五七頁倒數第三行）

《佛學次第統編》「五魔」條（節錄）：

楞（楞）嚴則言五陰魔，但於五陰中，各開十種，共有五十：

一、色陰有十：(一)出礙，(二)內徹，(三)離合，(四)化佛，(五)現土，(六)暗見，(七)無覺，(八)遍觀，(九)遙聞，(十)變形；

二、受陰有十：(一)悲愍，(二)狂妄，(三)沈憶，(四)下劣，(五)憂愁，(六)喜樂，(七)我慢，(八)輕清，(九)斷空，(十)愛欲；

三、想陰有十：(一)怪鬼，(二)魘魅ㄓㄨㄛˋ（音拔）鬼，(三)魑魅ㄔㄨㄟˋ（音吃）魅ㄇㄟˋ（音妹），(四)魔ㄇㄛˊ（音古）蟲ㄘㄨㄥˊ（音力），(五)疫ㄩˋ癘ㄌㄧˊ（音力），(六)大力，(七)神

祇，(八)妖精，(九)靈物，(十)天眷；

四、行陰有十：(一)無因，(二)圓常，(三)二分，(四)四邊，(五)矯亂，(六)有相，(七)無相，(八)俱非，(九)斷滅，(十)涅槃；

五、識陰有十：(一)冥諦，(二)慢天，(三)自在，(四)倒知，(五)事火，(六)無想，(七)長壽，(八)魔天，(九)趣寂，(十)獨倫。

《佛教大辭典》「五陰用心十種禪那」

條：教義名數。亦稱「五十陰魔」。《首楞嚴經》卷九至卷一〇所說。由色、受、想、行、識「五陰」為「主人」，隱覆「圓明」「真心」而行的五類各有十種的禪定境界和觀念。或者說，在修禪過程中，非以佛教正法為指導，而是受五陰支配運心行禪產生的五

類各有十種的心理、精神境界和理論觀念。

此中「陰魔」，即由感受「五陰」而產生的魔。此魔包括障道的煩惱，亦包括諸種引生身心畸形的病變。是用「五陰」引發禪病的一種理論解釋。其中，「色」、「受」、「想」三陰用心產生的精神境界，多為「鬼神及諸天、魍魎wǎng liǎng（音往）魍魎liǎng liǎng（音兩）、妖精」等「魔」所乘，屬「妄想」的結果；「行」、「識」二陰用心產生的理論觀念，分別屬於種種外道以及緣覺、聲聞二乘等「邪見」、「妄執」，乃由思維「計度」所致，稱作「狂解」、「中途成狂」。亦總稱此「五陰用心十種禪那」為「陰魔」，以其共有五十種，亦稱「五十魔事」，是佛教中記述「禪

病」和「妄想」、「邪見」比較系統的部  
分。

141. 【難行道】（科註第一五七頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）龍樹菩薩所判二道之一。對於易行道而言。於此土積修行之功，入聖得果之教道，謂為難行道。念佛往生淨土，於彼土成佛得道，謂為易行道。

142. 【十往生經】（科註第一五八頁第二行）

《實用淨土宗辭典》：佛經名。全一卷，譯者佚名。又稱《觀阿彌陀佛色身正念解脫三昧經》、《度諸有流生死八難有緣眾生經》，收於《卅續藏》第八七冊。是經說明往生阿彌陀佛淨土的十種正念法。此十種正念是：一觀身正念，常懷歡喜，以飲食、衣

服施佛及僧；二正念以甘妙良藥施一病比丘及一切；三正念不害一生命，慈悲於一切；

四正念從師所受戒淨慧，修梵行，常懷歡喜；五正念孝順於父母，敬奉於師長，不起驕慢心；六正念往詣於僧坊，恭敬於塔寺，聞法解一義；七正念一日一夜中受持八齋戒，而不破一；八正念若能齋月、齋日中遠離於房舍，常詣於善師；九正念常能持淨戒，勤修於禪定，護法不惡口；十正念若於無上道不起誹謗心，精進持淨戒，復教無智者，流布是經法，教化無量眾生。信奉此經者，常受二十五位菩薩護持。但《大周刊定眾經目錄》及《開元釋教錄》視此經為偽經。

143. 【二十五菩薩】（科註第一五八頁第二行）

《佛學大辭典》：（名數）影護念佛行者之菩薩也。

十往生經曰：「若有眾生，念阿彌陀佛，願往生者，彼極樂世界阿彌陀佛，即遣觀世音菩薩、大勢至菩薩、藥王菩薩、藥上菩薩、普賢菩薩、法自在菩薩、師子吼菩薩、陀羅尼菩薩、虛空藏菩薩、德藏菩薩、寶藏菩薩、金藏菩薩、金剛藏菩薩、山海慧菩薩、光明王菩薩、華嚴王菩薩、眾寶王菩薩、月光王菩薩、日照王菩薩、三昧王菩薩、自在王菩薩、大自在王菩薩、白象王菩薩、大威德王菩薩、無邊身菩薩，是二十五菩薩。擁護行者。」

觀念法門曰：「又如十往生經說，佛告山

海慧菩薩以及阿難：若有人專念西方阿彌陀，願往生者，我從今已去常使二十五菩薩影護行者，不令惡鬼惡神惱亂行者，日夜常得安穩。」

144. 【他力】（科註第一五八頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）佛道有二力，自己所修之善根為自力，佛之本願力加被力為他力，此中一切諸佛為眾生雖有他力。而特以他力之一法，使眾生成佛道者。為彌陀如來一佛。以是為彼佛之本願故也，彌陀之本願曰：唯願信我者往生我土，使成佛道，故捨自力而信彌陀者。與此本願相應，自生成佛之願果也。而此信心亦為依佛之本願而發者，即他力也，以他力之信心為他力

所攝取也。

淨土論中下曰：「他力為增上緣。」又曰：「如劣夫跨驢不上，從轉輪王行，便乘虛空遊四天下，無所障礙，如是等名為他力。」

教行信證二曰：「言他力者，如來本願力也。」

145. 【果教】（科註第一五八頁第四行）

《佛學大辭典》「果門」條：（術語）如來果上之法門也。

《藏傳佛教辭典》「果教，密乘教」條：提前獲得果位佛身的甚深教法。

146. 【淨修捷要】（科註第一五八頁倒數第二行）一名《五念簡課》，又名《淨修簡課》，

夏蓮居居士著。

147. 【大勢至】（科註第一五八頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（菩薩）觀無量

壽經曰：「以智慧光，普照一切，令離三塗，得無上力，是故號此菩薩名大勢至。」亦略稱大勢。（中略）又作勢至。（參見「勢至」80）

148. 【八地】（科註第一五九頁倒數第五行）

菩薩十地之「不動地」。（參見「十地」1928）

149. 【心意識】（科註第一五九頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）心為集起之義。

意為思量之義。識為了別之義。唯識論於其名雖許互通，然其實體各別，如其次第配之於第八識與第七識及餘六識。

俱舍論以之為一體之異名，六波羅蜜經十曰：「集起說為心，思量性名意，了別義為識，是故說唯心。」

唯識論五曰：「薄伽梵處處經中說心意識三種別義：集起名心，思量名意，了別名識，是三別義。如是三義雖通八識而隨勝顯第八名心，集諸種法起諸法故，第七名意，緣藏識等恆審思量為我等故，餘六名識，於六別境<sup>心麤</sup>（音粗）動間斷了別轉故。」

俱舍論四曰：「集起故名心，思量故名意，了別故名識。〔中略〕心意識三名，所詮義雖有異而體是一如。」

150. 【無生法忍】（科註第一五九頁倒數第四行）

《三藏法數》：理本不生不滅，今但言不

生，故名無生。謂菩薩於無生之法，忍可忍樂，不動不退，是名無生法忍。

《佛學大辭典》：（術語）略云無生忍。無生法者，遠離生滅之真如實相理體也，真智安住於此理而不動，謂之無生法忍。於初地或七八九地所得之悟也。

寶積經二十六曰：「無生法忍者，一切諸法無生無滅忍故。」

註維摩經一曰：「肇曰：無生忍，同上不起法忍，法忍即慧性耳。見法無生，心智寂滅，堪受不退，故名無生法忍也。」

智度論七十三曰：「無生忍者，乃至微細法不可得，何況大。是名無生。得此無生法，不作不起諸業行，是名得無生法忍。得

無生法忍菩薩，是名阿<sup>pi</sup>鞞<sup>多</sup>（音皮）跋<sup>多</sup>（音拔）致（不退轉）。

151.【立相住心】（科註第一五九頁倒數第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）淨土門之極致也。指西方而立報土報身之相，安住於有心有念而取彼之境也。

152.【善導大師】（科註第一五九頁倒數第一行）

《中國佛教》（節錄）：唐代大弘淨土教的一位高僧，後世尊他為蓮社第二祖。他俗姓朱，臨<sup>yi</sup>淄<sup>pu</sup>（音資）（今山東臨淄縣）人（一作泗州人）。幼年從密州（今山東境）明勝出家，常誦《法華》、《維摩》諸經；偶入經藏取讀《觀無量壽經》，大為欣賞。受戒以後與妙開共研《觀經》，覺得只此觀念法

門，最易超脫，其他行業迂僻（不合時宜也）難行。

他常依《觀經》修十六觀，並慕東晉慧遠結社念佛的高風，曾親往廬山叩尋遺範。後更周遊各地，訪問高德。聞道chuò 彳各綽（音輟）在西河（今山西境），盛弘淨業，即於貞觀十五年（六四一）赴并州（今太原）石壁山玄中寺相訪。其時正值嚴冬，旅途艱苦，道綽憫他遠來，即授以《觀經》奧義。

貞觀十九年，道綽入寂，善導即赴長安，盛弘念佛法門。他於唐永隆二年（六八一）三月十四日，忽患微疾，怡然長逝，年六十九。他的弟子懷yuán 彳各暉（音運）等，葬其遺骸於長安終南山麓神禾原，建寺立塔紀念，即今

香積寺與崇靈塔。一九八〇年五月十四日，中國佛教協會與日本淨土宗，雲集兩國佛徒，於此舉行了盛大的法會，紀念善導大師圓寂一千三百年遠忌。

善導在長安廣行教化時，曾將所得的淨財，書寫《阿彌陀經》數萬卷，又畫「淨土變相」三百餘壁。（中略）

善導日常持戒極嚴，常事乞食。澡浴以外，不脫三衣。每合掌胡跪，一心念佛，非力竭不休。後來宋代宗曉取異代同修淨土功高德盛的七人立為蓮社七祖，置善導於慧遠之次，列為蓮宗第二祖（見《佛祖統紀》卷二十六〈淨土立教志〉）。（中略）

善導的著述，現存五部九卷。即《觀無量

壽佛經疏》四卷、《往生禮讚偈》一卷、《淨土法事讚》二卷、《般舟讚》一卷和《觀念法門》一卷。(中略)《觀經四帖疏》於八世紀時傳入日本，流傳甚廣，後來日本高僧法然(即源空)即依它創立日本淨土宗，並尊善導為高祖。

《佛學常見辭彙》「善導」條：(六一—三—六八一)唐代高僧，為淨土宗第二代祖師，修持淨土甚力，疏淨土三經，寫阿彌陀經十餘萬卷，每念一聲佛，即有一光自口而出，所著有觀經四帖疏、往生禮讚、法事贊、觀念法門、般舟贊等，相傳為阿彌陀佛之化身。

153. 【《四帖疏》】(科註第一五九頁倒數第一行)

《佛學大辭典》：(雜名)唐善導大師觀無量壽經之疏，有四卷，故謂為光明四帖之疏。又曰證定疏。謂證得定之人之疏也。以善導發得三昧，蒙聖者冥加，而造經之科文故也。

選擇集下曰：「條錄觀經之文之刻，頗感靈瑞，屢預聖化。既蒙聖冥加，然作經科文，舉世而稱證定疏，人貴之如佛經法。」

154. 【指方立相】(科註第一六〇頁第三行)

《佛學大辭典》：(術語)指方者指定西方也，立相者建立彌陀之相好也。是為觀經一部之說相。聖道門之諸家以之為對於一往劣機之方便說，其究竟說謂心外無法，故心外無淨土，實相無相，故佛身無相。然淨土

門為本為凡夫之宗，故以此指方立相為宗之極致，不取己心之淨土，無相之理佛也。

觀經定善義曰：「今此觀門等，唯指方立相住心而取境，總不明無相離念也。如來懸知末代罪濁凡夫立相住心尚不能得，何況離相而求事者，如似無術通人居空立舍也。」

155. 【無住生心】（科註第一六〇頁第四行）

《佛學常見辭彙》「無所住而生其心」

條：無所住是不滯住於善惡、是非、空有、斷常、迷悟等等對待的兩邊，連中道亦不住。而生其心者，即是生其空寂、靈知、妙明、真如、清淨之心。

156. 【無緣之慈】（科註第一六〇頁第六行）

《佛學大辭典》「三種慈悲」條（節錄）：

無緣慈悲，此慈悲惟在諸佛，蓋諸佛之心，不住於有為無為性之中，不住於過去現在未來世之中，知諸緣不實，顛倒虛妄，故心無所緣，但佛以眾生不知諸法實相，往來五道，心著諸法，取捨分別，故心無眾生緣，使一切眾生自然獲拔苦與樂之益，名無緣慈悲心。

157. 【《金剛般若經》】（科註第一六〇頁第八行）

《佛學大辭典》：（經名）具名金剛般若

波羅蜜經。略名金剛經，金剛般若經。

○金剛經（節錄）：（經名）梵名 Vajra-

Prajñāpāramitā-Sūtra，一卷，般若部，姚秦鳩

摩羅什譯。又稱金剛般若經，或曰金剛般若波

羅蜜經。佛在舍衛國，為須菩提等，初說境

空，次示慧空，後明菩薩空者，蓋此經以空慧為體，說一切法無我之理為詮也。此經不如大般若經之浩瀚，又不如般若心經之太簡，而能說般若之空慧，無有餘蘊，故古來傳持，弘通甚盛。然自如是我聞至果報亦不可思議之前半，與爾時須菩提白佛言至卷末之後半，語句文意，殆似相同，以此僧肇解之，謂前半說眾生空，後半說法空。吉藏駁其說，而以此為重言。謂前半為前會眾，後半為後會眾，又前半為利根，後半為鈍根，又前半盡緣，後半盡觀也。

凡有六譯，今皆存。第一譯為姚秦鳩摩羅什所出，即今經是也。第二譯為元魏菩提流支所出。第三譯為陳真諦所出。第四譯名金

剛能斷般若波羅蜜經，為隋達摩笈多所出。第五譯收載於大般若波羅蜜多經第五百七十七卷，名能斷金剛分，為唐玄奘所出。第六譯名能斷金剛般若波羅蜜經，為唐義淨所出。

西紀一八三七年，修彌篤氏自西藏文譯為德語，而收於海達斯勃ゲル（音格）大學紀要第四卷。同一八六四年，皮露氏自漢譯翻為英語，揭於亞細亞協會雜誌。一八八一年，馬克斯摩拉氏更由日本牛津紀要亞利安編第一（日本高貴寺所藏之梵本出版），譯為英語，收於東方聖書第四十九卷。一八九一年，達爾篤氏由馬克斯摩拉氏出版之梵本，並對照支那滿洲之譯本，譯之為法語。近時

燉煌地方發掘之寫經中，亦有此經，跋語有景龍四年六月二十日寫了之附記云。

其釋論，則彌勒菩薩所造八十偈釋本經之外，又有四：一金剛般若論，二卷，無著菩薩造。二金剛般若波羅蜜經論，三卷，天親菩薩造。此二論皆為釋彌勒之頌者。三金剛仙論，天親弟子金剛仙造。釋天親之論者。四金剛般若波羅蜜經破取著不壞假名論，二卷，功德施菩薩造。直釋經文者。玄義私記五曰：此中金剛仙論不入藏經。又前二論皆為義淨新譯，據是書言：則八十偈之本頌為無著菩薩所作（下各家之註釋羅列略）。

158. 【別教】（科註第一六〇頁倒數第二行）

《三藏法數》：別即隔別不同之義。謂別

前藏、通，別後圓教，故名別教。（別前藏、通者，謂此教獨被菩薩，不涉二乘所修也。別後圓教者，謂此教所談法門，行相隔歷次第，而不圓融也。）（參見「四教」303）

159. 【地上】（科註第一六〇頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）菩薩終一大阿僧祇（音奇）劫之修行，則初斷一分之惑（無明惑），證一分之理（法身理）。是名歡喜地。為初地。已有十地而滿二大阿僧祇劫之行以至佛果。依之而初地以上為地上，初地已前為地前。地前者凡夫之菩薩，地上者法身之菩薩也。

160. 【地前】（科註第一六一頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）菩薩之行位十

地以前也。(參見「地上」159)

161. 【三劫さんげつ】(音奇) (科註第一六一頁第三行)

《佛學大辭典》：(雜語) 三阿僧祇劫之略。菩薩修行之年時。

○三阿僧祇劫：(術語) 菩薩成佛之年時也。阿僧祇劫 *Asamkhyeyakalpa* 者，譯言無數長時，菩薩之階位有五十位。以之區別為三期之無數長時。十信十住十行十迴向之四十位，為第一阿僧祇劫，十地之中，自初地至第七地，為第二阿僧祇劫，自八地至十地為第三阿僧祇劫。第十地卒。即佛果也。

起信論曰：「而實菩薩種性根等，發心則等，所證亦等。此有超過之法，以一切菩薩皆經三阿僧祇劫故。」

劫有大中小三者，此劫為大劫，故曰三大阿僧祇劫。此三大(阿僧祇)劫中釋迦佛值遇於數萬之佛。

162. 【四種念佛】(科註第一六一頁第五行)

《三藏法數》：〔出普賢行願記〕

一、稱名念佛：謂稱念阿彌陀佛名號，於晝夜間，一心專注，或一萬聲，乃至十萬聲；如是歲月既久，則念念不斷，純一無雜，臨命終時，定見彼佛現身迎接，決得往生極樂世界矣。(梵語阿彌陀，華言無量壽。)

二、觀像念佛：謂觀阿彌陀佛形像相好，口稱佛名，則心不散亂。心不散亂，則本性佛從而顯現。如是則念念不斷，純一無雜，

臨命終時，定見彼佛現身迎接，決得往生極樂世界矣。

三、觀想念佛：謂端坐正念，面向西方，心作妙觀，或想阿彌陀佛眉間白玉毫相光，乃至足下千輻輪相，如是從上至下，從下至上，展轉觀之，觀想純熟，三昧現前，臨命終時，決得往生極樂世界矣。（梵語三昧，華言正定。）

四、實相念佛：謂念阿彌陀佛法性之身，即得實相之理，無形無相，猶如虛空；心及眾生，本來平等，如是之念，即是真念。念念相續，三昧現前，決得往生極樂世界矣。

（參見《科註》第一九五至一九八頁）

163. 【《黑谷大經釋》】（科註第一六一頁倒數第一行）

《無量壽經釋》，一卷，日本黑谷（法然上人）著。

### ○源空

《佛學大辭典》：（人名）日本淨土宗之開祖（一一三三—一二二二）。又稱法然上人、黑谷上人，岡山縣人。九歲出家，十五歲登比叡山，師事皇圓、叡空）。初受台學，又受密教及圓頓大戒，後見善導觀經疏，遂捨所習，專事念佛。撰選擇本願念佛集。

164. 【妙高】（科註第一六二頁第二行）

《佛學常見辭彙》「妙高山」條：須彌山的譯名，此山由金、銀、琉璃、水晶四寶所成，而且是諸山中之最高者，故名「妙高山」。參見「須彌山」1549）

165. 【法滅盡經】（科註第一六二頁第七行）

《佛學大辭典》：（經名）一卷，失譯，佛臨涅槃，說末世眾魔比丘為不如法事，乃至袈裟變白，為法滅之相者。

166. 【慈航】（科註第一六二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）大慈弘誓之船也。萬善同歸集六曰：「駕大般若之慈航，越三有之苦津。」

167. 【沈痾<sup>ヲケ</sup>】（音科）（科註第一六三頁第二行）

《辭海》：重病；久治不愈的病。

168. 【甘露】（科註第一六三頁第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（飲食）梵語 Amrita

阿密哩多。譯言甘露。異名天酒。美露。味甘如蜜。天人所食。

光明文句五曰：「甘露是諸天不死之藥，食者命長身安，力大體光。」

註維摩經七：「什曰：諸天以種種名藥，著海中，以寶山摩之，令成甘露。食之得仙，名不死藥。生曰：天食為甘露味也，食之長壽，遂號為不死藥也。」

玄應音義二十二曰：「蘇陀味，舊經中作須陀飲，此云天甘露食也。」

### （二）本經體性

169. 【大乘經典】（科註第一六三頁第七行）

《佛學大辭典》「大乘經」條：（術語）

明作佛道法之一切經典也。佛計大小之根機，而說大小之二教。對於小機，說聲聞緣

覺之法，謂為小乘。對於大機，說六度之法，謂為大乘。滅後，弟子結集之，別大小二經，各為一藏。智度論謂為聲聞藏、菩薩藏，或謂為三藏、摩訶衍藏者是也。就現流之經典言之，則四部之阿含經等為小乘經，華嚴般若等為大乘經。

問：阿含中有說菩薩之行法者，而般若等諸經亦非無小乘之道法？

答曰：於阿含說大法，欲使弟子之小機，仰信師之勝因勝果也。於諸大乘經列小法，欲使知法之勝劣也。非為欲各得其法，故互有無妨。

170. 【實相】（科註第一六三頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）實者，非虛妄

之義，相者無相也。是指稱萬有本體之語。曰法性，曰真如，曰實相，其體同一也。就其為萬法體性之義言之，則為法性；就其體真實常住之義言之，則為真如；就此真實常住為萬法實相之義言之，則為實相。其他所謂一實、一如、一相、無相、法身、法證、法位、涅槃、無為、真諦、真性、真空、實性、實諦、實際，皆是實相之異名。

又依名隨德用之三諦言之，則空諦為真如，假諦為實相，中諦為法界。法華說實相，華嚴說法界，解深密說真如或無為，般若說般若佛母，楞伽說如來藏，涅槃說佛性，阿含說涅槃。

在華嚴之始教、天台之通教已下者，不變

之空真如為實相，在華嚴之終教已上，天台之別教已上者，不變隨緣之二相為實相。華嚴以隨緣之萬法為實相，天台真言以性具之諸法為實相，小乘以我空之涅槃，大乘以我法二空之涅槃為實相。

維摩經弟子品曰：「迦旃旃zhān 旃旃（音沾）延無以生滅心行說實相法。」同觀眾生品曰：「佛為實相法人。」

涅槃經四十曰：「無相之相，名為實相。」妙玄二上曰：「實相之境，非佛天人所作，本自有之，非適今也。」

法華文句記四中曰：「言實相者，非虛故實。非相為相，故名實相。」

頓悟入道要門論上曰：「法性空者，即一

切處無心是。若得一切處無心時，即無有一相可得。何以故？為自性空故無一相可得，無一相可得者，即是實相，實相者，即是如來妙色身相也。」

171. 【頑空】（科註第一六四頁第三行）

《佛學大辭典》「太虛空」條：（術語）浩浩宇宙之虛空也，畢竟無為無物，故云頑空，偏空，太虛空。以譬小乘之涅槃，而別於大乘涅槃之妙空第一義空。

菩提心論曰：「當觀二乘人，雖破人執，猶有法執。但淨意識，不知其他。久久成果位，以灰身滅智趣其涅槃，如太虛空湛然常寂。」

172. 【斷滅】（科註第一六四頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）諸法因果各別，故非為常，因果相續，故非為斷，撥無此因果相續之理，謂之斷滅之見。即斷見也。屬於邪見中之極惡者。

173. 【龜クニ（音規）毛兔角】（科註第一六四頁第四行）《佛學大辭典》「龜毛」條：（譬喻）譬有名無實之物也。

智度論十二曰：「如兔角龜毛，亦但有名而無實。」

成實論二曰：「世間事中，兔角龜毛，蛇足監香風色等，是為無。」

止觀十上曰：「人我如龜毛兔角不可得。」  
宗鏡錄四十六曰：「如辯兔角之大小，了龜毛之短長。」

楞伽經二曰：「無性而作言說，謂兔角龜毛等世間現言說。」

楞嚴經一曰：「無則同於龜毛兔角。」

《佛學大辭典》「兔角」條：（譬喻）愚人誤以兔耳為角，實則無角也，以譬物之必無。

楞嚴經曰：「無則同於龜毛兔角。」

智度論一曰：「有佛法中方廣道人言：一切法不生不滅，空無所有，譬如兔角龜毛常無。」同十二曰：「又如兔角龜毛，亦但有名而無實。」

174. 【法身如來】（科註第一六四頁第六行）  
《佛學大辭典》：（術語）法身雖無去來，而依隱沒之如來藏顯現為法身，名曰如

來。

175. 【法身】（科註第一六四頁第七行）

《三藏法數》：謂如來法性真常，湛然清淨，周遍法界。經云：佛以法為身，清淨如虛空，是名法身。

《佛學大辭典》：（術語）佛之真身也。其釋名性相二宗各異其義。相宗據唯識論謂法身有總相法身與別相法身二種。

總相法身者，兼理智二法，與金光明之如及如如智，謂為法身之義同，是以所證之真如與能照之真覺為法身也。以三身言之，則自性身與自受用報身之二身合見。依此義釋之，則法身為理智顯現，有為（智）無為（理）一切功德法體性之所依，故名法身。又

成就莊嚴一切之功德法，故言法身。

唯識論十曰：「此牟尼尊所得二果永離二障，亦名法身，無量無邊力無畏等大功德法所莊嚴故。」〔中略〕此法身五法為性，非淨法界獨為法身，二轉依果皆攝此故。」

別相法身者，即三身中之自性身，唯為清淨法界之真如也。此真如為佛之自性，故名自性身，又此真如具真常之功德（是無為也），為一切有為無為功德法之所依，故名法身。惟不得言成就莊嚴功德法，故名為法身，何則？以此法唯為理之法身，不含攝有為之功德（即智法身）也。

唯識論十曰：「即此自性亦名法身，大功德法所依止故。」佛地論七曰：「力無畏等

諸功德法所依止，故亦名法身。」述記十末

曰：「離所知障，具無邊德，名為法身，

〔中略〕功德法依名法身。」唯識樞要上本

曰：「出纏位功德法本，名曰法身。」義林

章七本曰：「成唯識說，清淨法界為自性

身。莊嚴論等說，自性身本性常故。讚佛論

說，佛自性身無生滅故。」

若依性宗之義，則真如之理性，有真實覺

知之相，理智不二，與真如之無為同，真智

亦無為也。又性相不二故，真如即法性，則

真智亦法性也。此理智不二法性之隱，謂之

如來藏，積始覺之功，顯其法性，謂之法

身。即言以法性成身，故名法身。或言以法

性顯現之有為無為一切功德法成就莊嚴之

身，故名法身。

勝鬘經曰：「世尊！過於恆沙，不離不脫

不思議佛法成就。說如來法身，如是如來法

身不離煩惱藏，名如來藏。」同寶窟下末

曰：「法身者，即是實相真如法也。此實相

正法隱，名如來藏。此實相法顯，故名身。

唯一實相法，約隱顯不同，故有藏之與

身。又法者，謂諸功德法，法之所依名身。

故攝論云：與功德法相應，名法身。」

嘉祥法華疏四曰：「以正法為身，故曰法

身。」起信論曰：「從本已來，自性滿足一

切功德，所謂自體有大智慧光明義故，遍照

法界義故，真實識知義故，自性清淨心義

故，常樂我淨義故，清涼不變自在義故，具

足如是過於恒沙不離不斷不異不思議佛法。  
〔中略〕滿足無有所少義故，名為如來藏，亦名如來法身。〕同義記下本曰：「隱時能出生如來，名如來藏。顯時為萬德依止，名為法身。」

維摩經慧遠疏曰：「佛以一切功德法成，故名法身。」

法華玄義七曰：「本有四德隱名如來藏，修成四德顯名為法身。」

大乘義章十八曰：「言法身者，解有兩義：一顯本法性，以成其身，名為法身。二以一切諸功德法而成身，故名為法身。」梵 Dharmakāya。

176. 【大乘】（科註第一六四頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）Mahā-Yāna，梵語摩訶衍，譯言大乘。大者對小之稱，乘以運載為義，以名教法，即大教也。使求灰身滅智空寂之涅槃之教，謂之小乘，此中有聲聞緣覺之別；使開一切智之教，為大乘，此中有一乘三乘之別。

法華經譬喻品曰：「若有眾生從佛世尊聞法信受，勤修精進，求一切智、佛智、自然智、無師智、如來知見、力、無所畏，愍念安樂無量眾生利益天人度脫一切，是名大乘，菩薩求此乘故名為摩訶薩。」

十二門論曰：「摩訶衍者，於二乘為上，故名大乘。諸佛最大，是乘能至，故名為大，諸佛大人乘是乘，故名為大。又能滅除

眾生大苦與大利益事，故名為大。又觀世音、得大勢、文殊師利、彌勒菩薩等是諸大士之所乘，故名為大。又以此乘能盡一切諸法邊底，故名為大。又如般若經中佛自說摩訶衍義無量無邊。以是因緣，故名為大。」

寶積經二十八曰：「諸佛如來正真正覺所行之道，彼乘名為大乘、名為上乘、名為妙乘、名為勝乘、無上乘、無上上乘、無等乘、不惡乘、無等等乘。」

177. 【chuàn 釧イ合】（音串）（科註第一六四頁倒數第二行）  
《漢語大詞典》：臂zhuó 鐲イ合（音酌）的古稱。

（俗稱鐲、鐲子。）

178. 【南 yuè 嶽イ合】（音月）懷讓（科註第一六五頁第七行）

《佛學大辭典》「懷讓」條：（人名）唐南岳觀音院懷讓，六祖能大師之傳法也。天寶三年寂於南岳，壽六十四。得馬祖道一，而師之禪道，大興於江西。謚號大慧禪師。見宋高僧傳九，傳燈錄五。

《釋氏稽古略》：南岳懷讓禪師。金州杜氏子。年十五辭親往荊州玉泉寺。依弘景律師出家。受具戒習毘尼。詣曹溪參六祖。逾八年乃領法要。祖謂師曰。西天二十七祖般若多羅讖汝足下出一馬駒踏殺天下人。師侍祖一十五年。睿宗先天元年往衡岳居般若寺。至是開元中接馬祖道一。付偈曰。心地含諸種。遇澤悉皆萌。三昧華無相。何壞復何成。天寶三載八月十一日圓寂於衡岳。壽

六十八。敕諡大慧禪師。塔曰最勝輪之塔。師嗣六祖。天寶三年改年曰載。至肅宗乾元元年復稱年。

179. 【圓覺經】（科註第一六五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：（經名）具名大方廣圓覺修多羅了義經，一卷，唐佛陀多羅譯。佛入神通大光明藏三昧，現諸淨土，文殊普賢等十二大士次第請問因地修證之法門，佛一一答之。因而一經有十二章。

180. 【覺心】（科註第一六五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）本覺之妙心。一心之靈性，本來離迷妄，故云覺。全之即稱佛。

圓覺經曰：「一切眾生種種幻化，皆生如

來圓覺妙心，猶如空華從空而有，幻化雖滅空性不壞。眾生幻心還依幻滅，諸幻盡滅，覺心不動。」

181. 【心性】（科註第一六六頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）謂不變之心體，即如來藏心自性清淨心也。台宗所立四教中別教以下，以心性立為真空，圓教立為心性具十界三千之法。

圓覺經曰：「以淨覺心知覺心性。」起信論義記中本曰：「所謂心性不生不滅。」

法華玄義四之三曰：「心性即是即空即假即中。」

唯識論二曰：「眾生心性二分合成。」

止觀大意曰：「不變隨緣故為心，隨緣不變故為性。」

又，心性二字，空宗與性宗等解說不同。惟禪宗則毫無區別。

黃檗傳心法要曰：「心性不異，即性即心。心不異性，名之為祖。」又云：「諸佛菩薩與一切蠢動含靈，同此大涅槃性。性即是心，心即是佛。」

南陽慧忠國師語錄曰：「未審心之與性為別不別，師曰：迷則別，悟則不別。曰：經云佛性是常，心是無常。今云不別，何也？師曰：汝但依語而不依義，譬如寒月，水結為冰。及至煖時，冰釋為水。眾生迷時，結性成心。眾生悟時，釋心成性。」

182. 【百界千如】（科註第一六六頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）差別一切迷悟之境而為十界。此十界互相具，則為百界。其一之一界所具之事理有十種，謂為十如，蓋一界為十如則十界為百如，百界為千如也，乘之以三世間，則為三千，台家所謂三千之諸法是也。觀此三千之法為一念具足，即一念三千之觀法也。故舉所觀之境，或曰百界千如。或曰三千之性相。惟具略異耳。

法華玄義二曰：「廣明佛法者，佛豈有別法？祇百界千如，如是佛境界，唯佛與佛究竟斯理。」又曰：「此一法界具十如是，十法界具百如是，又一法界具十法界則有百法界千如是。」（參見「十法界十如是表」一一四

四頁)

183. 【二祖】(科註第一六六頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(人名) 禪宗東土之第二祖慧可禪師也。

○慧可：(人名) 初名神光。北魏洛陽人。達摩大師居嵩山少林寺時，神光請道甚摯。至雪夜，斷其左臂，達摩感而許之，改其名曰慧可。後受達摩衣鉢，繼禪宗之法統，為第二祖。

184. 【覓心不可得】(科註第一六六頁倒數第四行)

《五燈會元卷一》(節錄)：(慧) 可曰：「我心未寧，乞師與安。」祖(達摩)曰：「將心來，與汝安。」可良久曰：「覓心了不可得。」祖曰：「我與汝安心竟。」

185. 【六祖】(科註第一六六頁倒數第三行)

《佛學大辭典》「慧能」條：(人名) 禪宗東土第六祖也。「姓盧氏，三歲喪父。及長，家益貧。採薪販賣養母。一日入市，聞人讀金剛經。問其所得，謁或蘄(音琦)州黃梅山五祖弘忍禪師。五祖問曰：汝從何處來？答曰：嶺南。師曰：嶺南人無佛性。能曰：人即有南北，佛性豈然？師知其為異人，使人碓房舂米，因稱為盧行者。

經八月，五祖知付授時至，使眾徒各書得法之偈。時上座神秀書偈曰：『身是菩提樹，心如明鏡臺，時時勤拂拭，莫使惹塵埃。』能聞之曰：如吾所得，則不然。竊雇童子夜於壁間書一偈曰：『菩提本非樹，明

鏡亦非臺，本來無一物，何處惹塵埃？」五祖知之，潛入碓房，問曰：米白否？答曰：白未經篩。五祖以杖三打碓而去，能即以三更入室。祖乃授衣法。

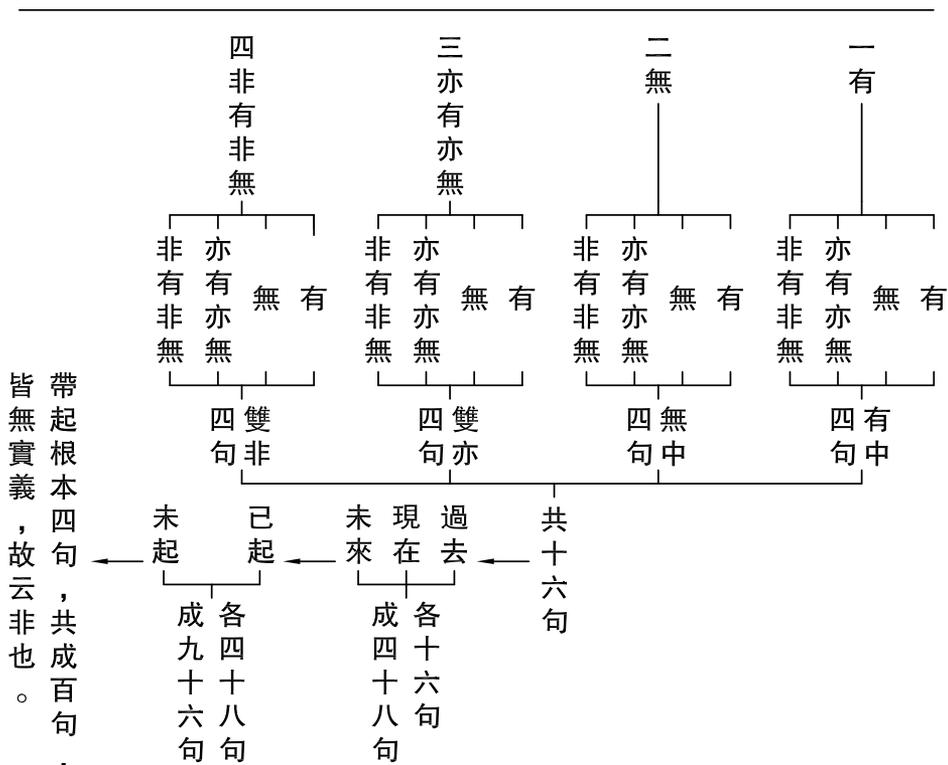
去隱南方漁村者數年，儀鳳元年正月至南海，遇印宗法師於法性寺。印宗聞禪要，取弟子禮。其月十五日，會諸名德為之剃髮。二月八日，就法性寺智光律師，受具足戒。後居曹溪，大注甘雨。神龍元年，帝召之不起。唐玄宗開元元年八月三日，俄然示寂，壽七十六。元和十年謚敕大鑑禪師。」見六祖壇經，宋高僧傳八，傳燈錄五。

186. 【離四句，絕百非】（科註第一六六頁倒數第二行）

《教乘法數》：問：「經言離四句，絕百

非，其意何居？」答：「但舉一對，便成四句，如有無、一異、斷常等。且有無四句者，若云有，是增益謗；若云無，是損減謗；若云亦有亦無，是相違謗；若云非有非無，是戲論謗。既俱有過，故須離之。根本四句既爾，枝末四句乃至百句皆非，故須絕之。有無既爾，斷常一異等四句例知。然此中根本四句，是外道見；枝末四句等，三乘亦未全離，唯佛究盡，故云離云絕也。」

（詳見下表）



187. 【歷歷】（科註第一六六頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：清晰貌。

188. 【一法句】（科註第一六七頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）謂一法也。句

為章句之義。即謂絕待無為清淨之法身也。天親之淨土論，分極樂國土之莊嚴功德為十七句，如來之莊嚴功德為八句，菩薩之莊嚴功德為四句，總為三種功德二十九句。此二十九句之莊嚴，略說之，則說人一法句，且自解之曰：一法句者，清淨句也。清淨句者，真實智慧無為法身也。

蓋彼論立shē奢摩他（止），毗婆舍那（觀）之二觀中，觀二十九句現象之差別，即為毗婆舍那，觀一法理體之平等，即為奢摩他。

初雖別觀奢摩他，毗婆舍那，而其機純熟，則止觀俱行，成柔軟心，二十九句即為一法句，一法句即為二十九句，廣略相入，得如實知見，差別即平等，平等即差別之妙理。

189. 【無為法身】（科註第一六七頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）佛所證之法身湛然寂靜，離因緣之造作，故云無為。

淨土論註下曰：「無為法身者法性身也。

法性寂滅故法身無相也。無相故能無不相。」

190. 【即事而真】（科註第一六七頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）謂事理本來無二，於淺近之事相上自具深妙之真理也。

止觀一曰：「離說無理，離理無說；即說

無說，無說即說。無二無別即事而真。」

光明玄義曰：「若取即事而真，為真身。」  
法華玄義四曰：「雖服甘露，不能即事而真，傷命早夭。」

大日經疏一曰：「譬如幻師以咒術力加持藥草，能現種種未曾有事。五情所對，悅可眾心。若捨加持，然後隱沒。如來金剛之幻，亦復如是。緣謝則滅，機興則生。即事而真，無有終盡。」

191. 【當相即道】（科註第一六七頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）謂世間淺近之事相，皆有深妙之道理也。猶言即事而真。密家之事相門（密教中以三密之行法謂之事相部），盛談此旨。

192. 【依正】（科註第一六七頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）正由過去之業，而受之我心身，謂之正報；為其心身依止之一切世間事物，謂之依報。

三藏法數二十七曰：「依謂依報，即世間國土也。為身所依，故名依報。正謂正報，即五陰身也。正由業力，感報此身，故名正報。既有能依之身，即有所依之土，故國土亦名報也。」

行願品疏鈔二曰：「依者凡聖所依之國土，若淨若穢。正者凡聖能依之身，謂人天男女，在家出家，外道諸神，菩薩及佛。」

193. 【世親】（科註第一六七頁第六行）見「天親」215。

194. 【《往生論》】（科註第一六七頁第七行）

《佛學大辭典》：（書名）無量壽經優婆提舍願生偈之異名。又名淨土論。

○無量壽經優婆提舍願生偈：（書名）一卷，婆藪槃豆菩薩造，元魏菩提流支譯。論經義者為優婆提舍，是論無量壽經經義而造之願生偈也。願生偈者，願生於安樂國之偈文也。又無量壽經論亦名往生論，淨土論。

195. 【qu 瓊ling】（音渠）庵】（科註第一六七頁倒數第四行）見「大佑」412。

196. 【qiong 瓊ling】（音窮）林】（科註第一六七頁倒數第三行）《漢語大詞典》：瓊樹之林。古人常以形容佛國、仙境的瑰麗景象。

197. 【心源】（科註第一六七頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）心為萬法之根源，故曰心源。

菩提心論曰：「妄心若起，知而勿隨。妄若息時，心源空寂。萬德斯具，妙用無窮。」

止觀五曰：「結跏束手，緘唇結舌，思想實相，心源一止，法界同寂。」又曰：「若欲照知，須知心源，心源不二，則一切諸法皆同虛空。」

198. 【三際<sup>ト</sup>】（音計）（科註第一六八頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）猶言三世也。

頌疏九曰：「一前際即是過去，二後際即是未來，三中際謂現在世。」

青龍仁王疏三曰：「所言際者是際畔義，謂有為法墮三世故。無為實相無前後中，故

云無際。」

199. 【十方】（科註第一六八頁第一行）

《佛學大辭典》：（雜語）佛經稱東西南北，東南西南，東北西北，上下，為十方。

200. 【實相正印】（科註第一六八頁倒數第四行）

《三藏法數》「一實相印」條：〔出法華玄義〕一實相者，謂真實之理，無二無別，離諸虛妄之相也。印者，信也。如世之公文，得印可信。蓋如來所說諸大乘經，皆以實相之理，印定其說。外道不能雜，天魔不能破。若有實相印，即是佛說。若無實相印，即是魔說。經云：世尊說實道，波旬無此事。是也。（梵語波旬，華言惡。釋迦如來出世時，魔王名也。）

201. 【**胡**】<sup>フ</sup>（音胡）**輪** <sup>カ</sup>（音輪）（科註第一六八頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：完整；整個兒。

（三）一經宗趣

202. 【**香象心經疏**】（科註第一七〇頁第四行）

《般若波羅蜜多心經略疏》，一卷。「香象」指香象大師。

《佛學大辭典》「**香象大師**」條：（人名）

華嚴宗第三祖，名法藏，字賢首，日本多稱為香象大師。宋高僧傳五曰：「釋法藏，字賢首，姓康，康居人也。〔中略〕復號康藏國師是歟。」

《閱藏知津》「**般若波羅蜜多心經略疏**」條：沙門法藏述。五門分別：一教興，二藏攝，三宗趣，四釋題，五解文。

203. 【**圭峰大師**】（科註第一七〇頁第四行）

《佛學大辭典》「**圭峰**」條：（人名）終南山之別峰，唐華嚴宗第五祖宗密禪師，住於此，故喚師為圭峰。

○**宗密**：（人名）華嚴五祖圭峰宗密禪師姓何氏。果州人。唐元和二年赴貢舉，值遂州道圓禪師，因求披剃。一日，於任灌家赴齋，得圓覺經，誦未終，即感悟。圓曰：此經佛授汝耳，速參方去。後謁荆南忠，洛陽照，皆契印可。繼覽華嚴疏，欣然曰：吾逢圓覺，心地開通。今遇此疏，何其幸哉！乃

以書達清涼，敘門人之禮。觀國師答書印可曰：毘盧性海，與吾同遊者，舍汝其誰歟。文宗詔賜紫衣。著有論疏九十餘卷。會昌元年正月六日坐滅。其月二十二日奉全身於圭峰。荼毘得舍利，如玉。塔曰青蓮。宣宗追謚定慧。

204. 【圓覺略疏】（科註第一七〇頁第五行）

《佛光大辭典》「圓覺經略疏」條：凡四卷（或二卷）。唐代宗密（七八〇—八四一）撰。又作大方廣圓覺修多羅了義經略疏註、圓覺經略疏註、圓覺略疏、大方廣圓覺經略疏註。收於大正藏第三十九冊。宗密曾作圓覺經大疏及圓覺經大疏鈔，然因二書博引旁證，過於廣泛，令人不易受持，乃節略其精

要而作「略疏」。又宗密另著有圓覺經略疏科，以科判本書；並作圓覺經略疏鈔，以注釋本書。「新編諸宗教藏總錄卷一」

205. 【嘉祥疏】（科註第一七〇頁第八行）

即《無量壽經義疏》，隋嘉祥寺吉藏撰。

《佛光大辭典》「無量壽經義疏」條（節錄）：全一卷。隋代吉藏撰。又稱大經義、大經義疏、無量壽義疏。收於大正藏第三十七冊。本書依據三論宗來解釋無量壽經。初為序文讚歎西方淨土，次說無量壽經之宗致，復論述如來之說法，最後分科節以釋正文。謂經之說相，先示妙果，後勸往生，係為使五濁之眾生捨離穢土而取淨土。

206. 【宗致】（科註第一七〇頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）如言宗趣，謂主義至極之所云致。

法華文句記四曰：「此是法華之宗致，實教之源由。」

業疏二之上曰：「標舉宗致。」

207. 【宗要】（科註第一七〇頁倒數第三行）

見「《無量壽經宗要》」1806。

208. 【宗體】（科註第一七〇頁倒數第三行）

《佛光大辭典》（節錄）：即宗與體。宗，即顯示經論等道理之宗旨；體，指以經論等為主體之教。二者合稱為宗體。一般注釋家在解釋經、律、論等玄義時，常將經等之宗與體分別論述。

209. 【曇曇】（音談）たんとん【鸞鸞】らんらん（科註第一七〇頁倒數

第二行）

《佛學大辭典》：（人名）續高僧傳六曰：

「曇鸞或作巒，雁門人。初研究四諦之佛性，注解大集經，半而罹疾，欲以長生之道究佛教之蘊，學仙法。大通年中，至梁接陶隱居，得仙經十卷，欲往名山依法修治。行至洛下，途遇天竺三藏菩提留支，問曰：佛經中長生不死法有勝此仙經者否？留支唾地曰：是何言也？此方何處有長生法？縱得長生，終輪迴於三有而已。即以觀無量壽經授之曰：是大仙方也。鸞頂受，燒仙經，一心修淨業。魏主重之，號曰神鸞。下敕使住并州大寺，晚移住北山石壁玄中寺。魏興和四年寂於平州遙山寺，壽六十七。所著有往生

論註，贊阿彌陀佛偈。自號為有魏玄鑒大士。」曇者，梵語，譯曰法。鸞為漢言，是淨土真宗七祖之第三祖也。

210. 【念佛三昧】（科註第一七〇頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）有二種：

一、一心觀佛之相好，或一心觀法身之實相（此二者即觀想念佛），或一心稱佛名（稱名念佛），修行法，謂之念佛三昧。是因行之念佛三昧也。

二、為此三種之因行所成，如心入禪定，或佛身現前，或法身實相。謂之念佛三昧。是果成之念佛三昧也。

因行之念佛三昧謂之「修」，果成之念佛

三昧謂之「發得」。

觀無量壽經曰：「於現身中得念佛三昧。」又曰：「見此事者，即見十方一切諸佛。以見諸佛，故名念佛三昧。」

念佛三昧經七曰：「念佛三昧，則為總攝一切諸法，是故非聲聞緣覺二乘境界。」

智度論七曰：「念佛三昧能除種種煩惱及先世罪。」

211. 【合贊】（科註第一七〇頁倒數第一行）

《無量壽經合贊》，四卷，日本觀徹法師著。

212. 【發菩提心】（科註第一七二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）菩提者無上正真道也，發求無上正真道之心，曰發菩提心。

觀無量壽經曰：「三者發菩提心，深信因果。」

無量壽經下曰：「捨家棄欲而作沙門，發菩提心，一向專念無量壽佛。」

觀經玄義分曰：「同發菩提心，往生安樂國。」

大乘義章九曰：「發菩提心者，菩提胡語，此翻名道。果德圓通故曰菩提。於大菩提起意趣求，名發菩提心。」（參見《科註》第四七六至四七九頁、七三八至七四四頁）

213. 【《往生論註》】（科註第一七三頁第一行）

《實用淨土宗辭典》：書名。凡二卷，北魏曇鸞撰，收於《大正藏》第四十冊中。

《往生論》全名《無量壽經優婆提舍願生偈》

為婆藪盤頭菩薩造。注解又稱《淨土論注》、《無量壽經論注》等。

上卷首揭龍樹菩薩之《十住毗婆沙論·易行品》說明難、易二道。本論屬易行道，明示他力之法門，謂往生淨土之要因，全仗彌陀本願力。次為總說分，乃就願生偈一文逐次解釋，並設八項問答，說明願生淨土之機與一切善惡凡夫相。

下卷則以長行釋義分，立有：一願偈大意，二起觀生信，三觀行體相，四淨入願心，五善巧攝化，六離菩提障，七順菩提門，八名義攝對，九願事成就，十利行滿足等十科，以注釋文義，並於利行滿足科之末，開顯自利利他之要義，引《無量壽經》

阿彌陀佛四十八願中之第十一、十八、二十二等願，作他力增上緣之證。

214. 【安樂集】（科註第一七三頁第四行）

《佛教大辭典》：佛教著述。唐道綽（音輟）

撰。二卷。是論述彌陀淨土法門的著作。書首云：「此安樂集一部之內，總有二大門，皆引經論證明，勸信求往。」書中所引經論著作共五十六部，計經四十四部、律一部、論八部、釋三部。

書共分十二門，每一門中又分若干科，稱「料簡」。所述內容包括歷代高僧與大德歎歸淨土，念佛三昧種種功德利益，正法、像法、末法的內容，彌勒、釋迦二佛及安樂、娑婆二種世界的比較等等。指出末法之時，

只有淨土一門才是方便之路，只要十念相續稱佛名字，即可往生安樂淨土等。此書問世後，於唐代中葉傳入日本，有多種傳本，而國內諸藏不載。今見載於卍字續藏及大正藏。

215. 【天親】（科註第一七三頁第五行）

《佛學大辭典》：（人名）Vasubandhu，

梵名婆藪（音叟）槃豆，又曰婆修槃陀，譯曰天親，新作伐蘇畔度，譯曰世親。波藪譯曰世天，毗（音皮）紐天之異名也。以父母求世天親愛而名。或言為天帝之弟，故名天親，婆藪槃豆傳曰：「婆藪槃豆者，北天竺富婁沙富羅國（譯曰丈安國）人，佛滅後九百年而出，兄弟三人，皆名婆藪槃豆，長兄

別稱阿僧伽（譯曰無著），小弟別稱比鄰持跋<sup>ば</sup>（音拔）婆（比鄰持母名，跋婆譯曰兒），中子獨以通名稱。初於阿踰闍國薩婆多部出家，研學小乘既通大毗婆沙論之義，為眾講之，一日作一偈，共作六百偈，稱為俱舍論。後用無著之示誨，懺悔小執之非，欲斷舌謝其罪。無著云：汝既以舌誹謗大乘，更以此舌讚大乘可也。於是造唯識論等諸大乘論，弘宣大教，壽八十，寂於阿踰闍國。」

付法藏傳六曰：「尊者闍夜多臨滅度時，告比丘婆修槃陀：無上妙法，今付屬汝，汝當至心護持。婆修槃陀受教，解一切之修多羅，廣化眾生。」

百論序疏曰：「婆藪云天親，天親者天帝之弟也。生於闍浮提而伏修羅，是割那捨闍人，云丈夫國。原為小乘學，通五百部之小乘。兄阿僧伽是大乘人，見弟盛弘小乘而覆大道，特現病曰：汝罪過深重，我為之病。弟曰若爾則是舌之過，當斷舌。曰：不如更造大乘論而宣流大道。於是作五百部之大乘論，時人呼為千部論主。」

西域記五曰：「伐蘇畔度菩薩，唐言世親，舊曰婆藪槃豆。譯曰天親，誤也。」

216. 【四弘願】（科註第一七五頁第五行）

《三藏法數》「四弘誓」條：「〔出止觀大意〕弘，廣也；誓，制也。謂菩薩廣發誓願，要制其心，志求滿足也。（菩薩，梵語

具云菩提薩埵，華言覺有情。）

一、眾生無邊誓願度：此依苦諦境而發誓也。謂菩薩遍觀六道眾生等類，無量無邊，皆被生死諸苦所逼，一一不虛，故發誓願欲度脫之，令出三界。故云眾生無邊誓願度。（六道者，天道、人道、修羅道、餓鬼道、畜生道、地獄道也。三界者，欲界、色界、無色界也。）

二、煩惱無數誓願斷：此依集諦境而發誓也。謂菩薩諦審煩惱惑業無量無邊，能招集生死苦果，流轉三界無有窮盡。故發誓願，欲斷除之，而使六道眾生，悉亦斷除，令出三界。故云煩惱無數誓願斷。

三、法門無盡誓願知：此依道諦境而發誓

也。謂菩薩諦審一切道法，無窮無盡，能通至涅槃。自既知已，亦令一切眾生證知。故云法門無盡誓願知。（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

四、佛道無上誓願成：此依滅諦境而發誓也。謂菩薩諦審菩提之果，最勝無有過上，自成就已，普願一切眾生咸皆成就。故云佛道無上誓願成。（梵語菩提，華言道。）

217. 【華報】（科註第一七五頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（譬喻）華者喻也。又假之義也。如人為獲果實而植樹，正得其果實，兼可得華（「華」者，「花」也），華即華報也。如此眾生植善惡之業因，正報其業因之結果曰果報。又稱實報正報。附隨其實報

正報而得之假果名華報。例如不殺之因，遠感涅槃之果，謂之實報，因之而得長壽，是即華報也。

智度論十一曰：「如人求蔭故種樹，求華或求果故種樹，布施求報亦復如是。今世後世樂如求蔭，聲聞辟支佛道如華，成佛如果。」

往生要集上末曰：「應知念佛修善為業因，往生極樂為華報，證大菩提為果報，利益眾生為本懷。」

218. 【無願三昧】（科註第一七六頁第一行）  
見「空無相無願」848。

219. 【空無相】（科註第一七六頁第一行）  
空三昧與無相三昧。（參見「空無相無願」

848)

220. 【ling<sup>カ</sup>カ<sup>シ</sup>靈】（音陵）芝】（科註第一七六頁第四行）

《佛學大辭典》：（人名）宋律師元照，晚主杭州靈芝寺三十年，因稱靈芝。（參見「元

照」468）

221. 【chè<sup>チ</sup>徹】（音澈）悟】（科註第一七六頁第七行）

我國淨土宗第十二代祖師。

《佛學大辭典》：（人名）清代乾嘉時人。

名際醒，字徹悟。一字<sup>チ</sup>訥堂。京東豐潤縣人。俗姓馬氏。投三聖<sup>チ</sup>菴（音安）榮池老宿

<sup>チ</sup>薙（音替）髮。於性相二宗三觀十乘之旨，

靡不通達。乾隆三十三年冬參廣通粹如純翁，乃印心焉。是為臨濟三十六世，<sup>チ</sup>磬山七世也。嘗慕永明延壽禪師之為人，遂棲心

淨土，主張蓮宗。日限尺香晤客，過此惟禮拜持念而已。師每當說法，如瓶<sup>ㄩ</sup>瀉<sup>ㄩ</sup>（音謝）雲興，辯才無礙，蓮宗之風大扇。當時為法門第一人。嘉慶十五年十二月十七日，西向合掌，端坐念佛，見佛垂引而化。年七十歲。所著有示禪教律，念佛伽陀行於世。見徹悟語錄下。

222. 【至誠心】（科註第一七七頁倒數第一行）

《三藏法數》：至，專也；誠，實也。謂此土眾生，欲生彼國，當發專至誠實之心，正念真如，求願往生，故名至誠心。

《佛學大辭典》：（術語）觀經所說之一。真實願往生之心也。

223. 【深心】（科註第一七七頁倒數第一行）

《三藏法數》：深心者，謂於正法，心生深信，而復樂修一切善行，即是菩提之心也。

《佛學大辭典》：（術語）三心之一。求法之心深重，云深心，又求深高佛果之心云深心，又於深因種德難拔云深心。

觀無量壽經曰：「二者深心。」

淨影疏曰：「求心<sup>ㄩ</sup>懇<sup>ㄩ</sup>（音因）重，故曰深心。」

天台疏曰：「深者佛果深高，以心往求，故曰深心。」

維摩經佛國品曰：「深心即是淨土。」註曰：「肇曰：樹心眾德深固，故難拔，深心也。」同菩薩品曰：「深心即是道場，增長功德故。」

224. 【迴向發願心】（科註第一七七頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）觀經所說三心之一。願以所修之善根功德迴向極樂淨土而生於彼土之心也。

《三藏法數》「發願心」條：謂以真如實心、趣果善心，二心功德，善巧回向，發願求生淨土，速證法忍，廣拔一切眾生苦惱，故名發願心。（法忍者，謂於無生之法，忍可、忍證也。）

225. 【三福】（科註第一七八頁第二行）

《佛學大辭典》：（名數）三種之福業。一世福，孝養父母，奉事師長，持十善戒。二戒福，持三歸五戒乃至具足戒。三行福，發菩提心，而行佛道。觀無量壽經曰：「欲

生彼國者，當修三福。一者孝養父母，奉事師長，慈心不殺，修十善業。二者受持三歸，具足眾戒，不犯威儀。三者發菩提心，深信因果，讀誦大乘，勸進行者。」

《觀經疏·散善義》：三福以為正因。第一福，即是世俗善根。曾來未聞佛法，但自行孝養仁義禮智信，故名世俗善也。第二福者，此名戒善。就此戒中即有人天聲聞菩薩等戒，其中或有具受不具受，或有具持不具持，但能迴向盡得往生。第三福者，名為行善。此是發大乘心凡夫自能行行兼勸有緣，捨惡持心迴生淨土。

226. 【菩提心義】（科註第一七八頁第六行）

《佛學大辭典》：（書名）一卷，著者不詳。以五門分別明菩提心之要義。

227. 【菩提心論】（科註第一七八頁第七行）

《佛學大辭典》：（書名）金剛頂瑜伽中發

阿耨多羅三藐三菩提心論之略名。

○金剛頂瑜伽中發阿耨多羅三藐三菩提心

論：（書名）一卷，龍樹菩薩作。唐不空

譯。常略曰菩提心論。乃真言宗（密宗）十

卷書之一。

228. 【修證】（科註第一七八頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）修行證理也。

像法決疑經曰：「一切眾生本是佛，今亦

修證還成佛。」

傳燈錄（南岳章）曰：「修證即不無，染

污亦不得。」

禪源都序上曰：「聞談因果修證，便推屬

經論之家。」

229. 【導師】（科註第一七八頁第七行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）導人入

佛道者。佛菩薩之通稱。

釋氏要覽上曰：「十住斷結經云：號導師

者，令眾生類示其正道故。華首經云：能為

人說無生死道，故名導師。佛報恩經云：大

導師者，以正路示涅槃徑，使得無為常樂

故。」

法華經序品曰：「文殊師利！導師何故眉

間白毫大光普照？」

法華經涌出品曰：「是四菩薩於其眾中最

為上首唱導之師。」

230. 【密嚴土】（科註第一七八頁第八行）

見「密嚴淨土」1390。

231. 【佛事】（科註第一七八頁第八行）

《佛學大辭典》（節錄）：（雜語）指凡諸佛之教化，謂之佛事。

觀無量壽經曰：「於肉髻上有一寶瓶，盛諸光明，普現佛事。」

維摩經入不二法門品曰：「於娑婆世界，施作佛事。」同註「什曰：佛事謂化眾生。」同菩薩品曰：「諸佛威儀進止，諸所施為，無非佛事。」同註「肇曰：佛事者以有益為事耳。」

232. 【盡形壽】（科註第一八〇頁第一行）

《佛學常見辭彙》：盡我們這一世的身形和壽命。

233. 【未<sup>ㄊㄨㄟˋ</sup>暇<sup>ㄒㄧㄚˊ</sup>】（音霞）（科註第一八〇頁第三行）

《漢語大詞典》：謂沒有時間顧及。

234. 【十念法】（科註第一八〇頁第三行）

一、《慈雲懺主晨朝十念法》：「十念門者，每日清晨，服飾已後，面西正立，合掌連聲稱阿彌陀佛，盡一氣為一念。如是十氣，名為十念。但隨氣長短，不限佛數，惟長惟久，氣極為度。其佛聲不高不低，不緩不急，調停得中，如此十氣，連屬不斷，意在令心不散，專精為功。故名為此十念者，顯是藉氣束心也。」（節自《龍舒增廣淨土文第十二卷》）

二、印光大師開示十念法：所謂十念記數者，當念佛時，從一句至十句，須念得分

明，仍須記得分明。至十句已，又須從一句至十句念，不可二十三。隨念隨記，不可掐珠，唯憑心記。若十句直記為難，或分為兩氣，則從一至五，從六至十。若又費力，當從一至三，從四至六，從七至十，作三氣念。念得清楚，記得清楚，聽得清楚，妄念無處著腳，一心不亂，久當自得耳。（節自

《增廣印光法師文鈔卷一·復高邵麟居士書四》）

三、淨空老法師開示十念法：自修者，即是日中九次之念十聲佛號法。是晨起與睡前各一次，日中三餐各一次，午前開工及收工各一次，午後開工及收工各一次，共計九次。每次稱念十聲四字或六字彌陀名號，原有日常定課可照常行之。共修者，凡講經、

開會、聚餐等無特定儀軌之集會，在共同行事之始，而行此十念法。亦即是約同大眾合掌同聲稱念十聲「南無阿彌陀佛」，而後始進行講經、開會、用餐等活動事宜。（節自《精要十念法》）

235. 【始覺】（科註第一八一頁第七行）

《三藏法數》：始覺者，謂本覺心源之體，從真起妄，而成不覺；若能返妄歸真，本覺體顯，說名始覺。

《佛學大辭典》：（術語）為一切眾生本性之自性清淨心，本來具照明之德，是本本覺，由此本覺之內薰與師教之外緣，始起厭求之心，順本覺而漸漸生覺悟之智，謂之始覺。即本成之四德（常樂我淨）云本覺，始

成之四德云始覺也。

起信論曰：「始覺義者：依本覺故，而有不覺；依不覺故，說有始覺。」

236. 【興教大師】（科註第一八二頁第三行）

《中華佛教百科全書》「覺鏝（音宗）」

條：（一〇九五—一一四三）日本新義真言宗開祖。肥前（佐賀縣）人，號正覺房。通稱鏝上人、密嚴尊者。相傳為平將門的族胤，父祖皆以武功聞名鄉里。天永元年（一

一一〇），從仁和寺成就院寬助出家。其後，至東大寺戒壇院受具足戒，又遊學南都、高野山，從三井寺覺猷<sup>（音由）</sup>、醍醐寺賢覺等人學習密教。大治元年（一一二六），獲准於紀州石手邑神宮寺建立傳法

院。長承元年（一一三二），奏請於高野山創建大傳法院，作為鳥羽上皇的祈願寺。長承三年，奉白河法皇之命，任大傳法院座主，兼攝金剛峰寺。後遭金剛峰寺徒眾嫉妬，遂於翌年引退，隱居於密嚴院。保延六年（一一四〇），金剛峰寺徒眾襲擊密嚴院，並破壞大傳法院。師乃至根來山避難，並於當地建立圓明寺。康治二年圓寂，世壽四十九。勅諡「興教大師」。

師不為門戶之見所拘<sup>（音又）</sup>（音又。通圍，局限），先後歷訪仁和、醍醐寺及高野山諸高僧，從諸家受密教事相，而後自創一派，稱為「傳法院流」（廣澤六流之一）。嗣法弟子頗多，高足兼海、真譽等繼承其業。著有

《五輪九字明祕密釋》、《密嚴諸祕釋》、《父母孝養集》等，均收於《興教大師全集》。

237. 【阿】（科註第一八二頁第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）**ア**，*a*，悉曇十二母韻最初之韻。五十字門之一。又作<sup>え</sup>遏（音餓）、哀、曷、安、菴、<sup>え</sup>頰（音餓）、<sup>え</sup>噫。此音為本生一切之梵語，此字為元，生一切之梵字也。

大日經疏七曰：「阿字是一切法教之本，凡最初開口之音，皆有阿聲。若離阿聲，則無一切言說，故為眾聲之母。」同十二曰：「阿字為一切字之種子。」

理趣釋曰：「阿字菩提心義，為一切字之

先。」

譯曰無、非、不。日本弘法金剛頂經開題曰：「阿名無、不、非。」

238. 【陀羅尼】（科註第一八二頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）*Dhāraṇī*，又曰陀羅那，陀鄰尼。譯作持，總持，能持能遮。以名持善法不使散，持惡法不使起之力用。

分之為四種：一法陀羅尼，於佛之教法聞持而不忘也，又名聞陀羅尼。二義陀羅尼，於諸法之義總持而不忘也。三咒陀羅尼，依禪定發祕密語，有不測之神驗，謂之咒，咒陀羅尼者，於咒總持而不失也。四忍陀羅尼，於法之實相安住，謂之忍，持忍名為忍陀羅尼。聞義咒忍之四者為所持之法也。由

能持之體言之，法義之二者以念與慧為體，咒以定為體，忍以無分別智為體。

大乘義章十一末曰：「陀羅尼者，是外國語，此翻為持。念法不失，故名為持。」

佛地論五曰：「陀羅尼者，增上念慧，能總任持無量佛法，令不忘失。」

智度論五曰：「陀羅尼者，秦言能持，或言能遮。能持集種種善法，能持令不散不失。譬如完器盛水，水不漏散。能遮者，惡不善心生，能遮不令生。若欲作惡罪，持令不作，是名陀羅尼。」

法界次第下之下曰：「陀羅尼，是西土之音，此土翻云能持，或言能遮。〔中略〕又翻為總持。隨有若名若義，若行地功德，皆悉

能持，故名總持。」

瑜伽略纂十二曰：「論云：陀羅尼有四種：一法二義三咒四能得忍。〔中略〕法陀羅尼以法為境，即能詮名言，以念慧為體。義陀羅尼其體同法，唯境界異。其異者何？所詮義為境，謂無量義意趣等，即唯在意地。咒陀羅尼以定為體，依定持咒令不忘故，以咒為境也。能得忍陀羅尼者，以無分別智為忍體，即證真如。」

可洪音義一下曰：「陀鄰尼，此云總持。」

今日常指咒陀羅尼曰陀羅尼。（參見「陀羅尼」2164）

239. 【<sup>多</sup>毗毘（音皮）盧舍那】（科註第一八二頁第四行）

《佛學大辭典》：（佛名）Vairocana，又作

毗盧遮那，pi 多鞞多（音皮）lu 多嚧多（音盧）杜那，毗盧折那，fei 多吠多（音費）嚧遮那。佛真身之尊稱也。解此者諸家不一。

準天台以毗盧舍那與盧舍那及釋迦，如其次第配於法報應三身。毗盧舍那，譯曰遍一切處。盧舍那，翻曰淨滿。法華文句會本二十五曰：「法身如來名毗盧，此翻遍一切處。報身如來名盧遮那，此翻淨滿。應身如來名釋迦。」法華玄義六曰：「境妙究竟顯，名毗盧遮那。智妙究竟滿，名盧舍那。行妙究竟滿，名釋迦牟尼。」已上天台之釋義，以毗盧舍那與盧舍那分配於法報之二身，即理智之二者也。

華嚴則以此二者為梵名之具略，而為報身

佛之稱號，譯曰光明遍照，或單譯遍照。因舊經（晉譯）說盧舍那，新經（唐譯）說毗盧遮那故也。華嚴探玄記三曰：「盧舍那者，古來譯或云三業滿，或云淨滿，或云廣博嚴淨。今更勘梵本，具言毗盧舍那。盧舍那者，此翻名光明照。毗者，此云遍。是謂光明遍照也。」慧苑音義上曰：「按梵本：毗字應音云無廢反，此云種種也。盧遮那，云光明照也。言佛於身智以種種光明照眾生也。或曰：毗遍也。盧遮那，光明也。謂佛以身智無礙光明遍照理事無礙法界也。」

法相家亦如天台，主張三身配屬之說。義林章七末曰：「瓔珞經云：毗盧舍那佛是受用身，釋迦牟尼佛是化身也。」

密家以毗盧舍那為理智不二之法身佛稱號，或翻大日，或翻遍照，或翻最高顯廣眼藏。大日經疏一曰：「梵音毗盧遮那者，是日之別名，即除闇遍明之義也。」同十六曰：「所謂毗盧遮那者，日也。如世間之日，能除一切暗冥，而生長一切萬物，成一切眾生事業。今法身如來亦復如是，故以為喻也。」即身成佛義冠註下曰：「金剛頂義訣上云：毗盧遮那，此翻最高顯廣眼藏。毗者，最高顯也。盧遮那者，廣眼也。先有翻為遍照王如來（指玄奘十一面經），又有翻為大日如來。」

然密教中亦有分不兩說。千臂千鉢大教王經一曰：「說教之根宗，本有三：一者毗盧

遮那法身，本性清淨出一切法，金剛三摩地為宗。二者盧遮那法身，出聖性普賢願行力為宗。三者千釋迦化現千百億釋迦，顯現聖慧身，流出曼殊室利身，作般若母為宗。」此二身分屬之義也。般若理趣釋上曰：「毗盧遮那如來名遍照報身佛，於色界頂第四禪色究竟天成等正覺。」此是一身不分之義也。（參見「毘盧遮那」462）

240. 【三身】（科註第一八二頁第五行）

《佛學常見辭彙》：法身、報身、應身。法身又名自性身，或法性身，即常住不滅，人人本具的真性，不過我們眾生迷而不顯，佛是覺而證得了；報身是由佛的智慧功德所成的，有自受用報身和他受用報身的分別，

自受用報身是佛自己受用內證法樂之身，他受用報身是佛為十地菩薩說法而變現的身；應身又名應化身，或變化身，即應眾生之機緣而變現出來的佛身。

《三藏法數》：「〔出金光明經玄義〕身即聚集之義，謂聚集諸法而成身也。所謂理法聚名法身，智法聚名報身，功德法聚名應身。（理法聚名法身者，謂聚集法性之法而成此身也。智法聚名報身者，智即能契法性之智，智與法性相合而成此身也。功德法聚名應身者，由智契理，聚集一切功德之法，起用化他，隨機應現，而成此身也。）

一、法身：謂始從初住，顯出法性之理，乃至妙覺極果，理聚方圓，是名法身。（初住

者，即十住位中初之一住也。妙覺者，自覺覺他，覺行圓滿，不可思議，故名妙覺。理聚方圓者，妙覺所證，法性之理方始圓滿也。）

二、報身：謂始從初住，終至妙覺極果，智聚方圓；由智契理，報得此身，故云報身。

三、應身：謂始從初住，終至妙覺極果，功德法聚方圓，故能隨機應現，說種種法，度諸眾生，故名應身。

241. 【果德】（科註第一八二頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）果上之功德。涅槃有常樂我淨之四德，謂為果德。

242. 【二乘】（科註第一八三頁倒數第一行）

《三藏法數》：「出天台四教儀集註」乘即運載之義。謂二乘之人，乘四諦、十二因緣之法，運出三界生死，至於涅槃，故名為乘。

（四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。十二因緣者，一無明、二行、三識、四名色、五入、六觸、七受、八愛、九取、十有、十一生、十二老死也。梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

一、聲聞乘：聞佛聲教，故曰聲聞，謂此人以四諦為乘，知苦、斷集、慕滅、修道，由觀四諦，出離生死，至於涅槃，故名聲聞乘。

二、緣覺乘：因觀十二因緣，覺悟真空之理，名曰緣覺。謂此人以十二因緣為乘，由

觀因緣生滅，即悟非生非滅，出離生死，至於涅槃，故名緣覺乘。

243. 【大權】（科註第一八四頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）言佛菩薩之大聖權。化現異形也。法華玄義六曰：「摩耶是千佛之母，淨飯是千佛之父，羅睺羅千佛之子。諸聲聞等悉內秘外現，示眾有三毒實自淨佛土，諸親族等皆是大權法身上地，豈有凡夫能懷那羅延菩薩耶？」

244. 【六道】（科註第一八四頁第四行）

《三藏法數》：「出法華文句」道，即能通之義，謂六道生死，展轉相通，故名六道。

一、天道：天，即天然，自然樂勝身勝，

是名天道。

二、人道：人者，忍也。於世苦樂之境，而能安忍，是名人道。

三、阿修羅道：梵語阿修羅，華言無酒，又言無端正，又言無天。此道或居海岸，海底，或居半須彌山巖窟，宮殿嚴飾，懷猜忌心，常好鬥戰，是名阿修羅道。（無酒者，法華疏云：修羅於四天下，採華醞yun（音運）海為酒，魚龍業力，其味不變，於是嗔妒，誓願斷酒，故云無酒。無端正者，修羅種類，男醜女端，故云無端正。無天者，淨名疏云：此神果報最勝，鄰次諸天，而非天，又無天德，故云無天。）

四、餓鬼道：謂此道或居海底，或在人間

山林中，或似人形，或似獸形，不得飲食。業重者，飢火炎炎，不聞漿水之名；次者，伺求人間蕩滌dan（音淡）膿血糞穢；輕者，時薄一飽，是名餓鬼道。

五、畜生道：畜生，亦云旁生。謂此道遍在諸處，披毛戴角，鱗甲羽毛，其類非一，互相吞噉dan（音淡），受苦無窮，是名畜生道。（旁生者，婆沙論云：形旁行旁。形旁者，謂身形橫生，不正也；行旁者，謂其宿世所行之行，偏邪不正也。）

六、地獄道：謂此獄在地之下，而有huo（音或）湯劍樹等苦，是名地獄道。

245. 【無明】（科註第一八四頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語阿尾ni爾er

(音你)也 Avidyā，謂闇鈍之心無照了諸法事理之明。即痴之異名也。

本業經上曰：「無明者，名不了一切法。」大乘義章二曰：「於法不了為無明。」同四曰：「言無明者，痴闇之心。體無慧明，故曰無明。」

俱舍論十曰：「明所治無明。」〔中略〕其相云何？謂不了知諦寶業果（四諦三寶業因果報）。」

唯識論六曰：「云何為痴？於諸事理迷闇為性，能障無痴一切雜染所依為業。」

○根本枝末二無明：（名數）起信論分無明為根本枝末之二。迷於法界理之原始一念，為根本無明，因根本無明而起三細六麤

之惑業，為枝末無明。

依此判，則小乘之無明局於枝末無明，不問根本無明也，以彼不會真如不斷法執故也。根本無明一名無始無明，真言稱之為無始間隔，台家號之為微細無明與障中無明，勝鬘所說五住地中之無明住地，即謂此也。而此障中微細無明之品數雖為無量，姑分為四十二品，於初住已上至佛果之四十二位斷之，其中第四十二之無明為始覺之智最後所斷者，謂之最後品無明，迷於真如之原始無明，謂之元品無明，是台家圓教之判也。

（參見「生相無明」269）

246. 【妙覺】（科註第一八四頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）自覺覺他，覺行

圓滿，而不可思議，曰妙覺。即佛果之無上正覺也。二乘止於自覺，無覺他之功。菩薩雖自覺覺他並行，而未圓滿，獨佛二覺圓滿，覺體不可思議也。

四教儀四曰：「金剛後心（菩薩於最後位，斷最極微細煩惱之定，智用堅利，譬如金剛，叫做「金剛定」。有入住出三心，入時尚居眾生位，出時則成佛，當住位完滿，快要出定時，名「金剛後心」），朗然大覺，妙智窮源，無明習盡，名真解脫。儵然（超脫。儵，音消）無累，寂而常照，名妙覺地。」

三藏法數二十六曰：「自覺覺他，覺行圓滿，不可思議，故名妙覺性。」

247. 【冥加】（科註第一八四頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）人不知而由神佛加被之利益也。自他皆不知，謂之冥。佛菩薩之感應，多為冥加。希有顯加。

法華玄義七曰：「被冥加汝不知恩。」

觀經玄義分曰：「冥加願攝受。」

248. 【淨土】（科註第一八四頁第八行）

《三藏法數》：謂其地純以金剛所成，眾寶間錯，種種莊嚴，皆悉殊勝，即華藏世界，西方安養等世界也；以其無有四趣五濁等穢惡，是名淨土。（四趣者，修羅趣、餓鬼趣、畜生趣、地獄趣也。五濁者，劫濁、見濁、煩惱濁、眾生濁、命濁也。）

249. 【娑婆世界】（科註第一八四頁第八行）

《佛學大辭典》「娑婆」條：（界名）

Salva，又作沙訶，娑訶樓陀。新云索訶。堪忍之義，因而譯曰忍土。此界眾生安忍於十界而不肯出離，故名為忍。又諸菩薩行利樂時，堪受諸苦惱之義。又此界眾生有貪瞋痴等煩惱之過，眾生忍之，故名。又作雜惡。雜會。以是為三惡五趣雜會故也。此為三千大千世界之總名。一佛攝化之境土也。

法華文句二曰：「娑婆，此翻忍，其土眾生安於十惡，不肯出離，從人名土，故稱為忍。悲華經云：云何名娑婆？是諸眾生忍受三毒及諸煩惱故名忍土，亦名雜會，九道共居故。」

法華玄贊二曰：「梵云索訶，此云堪忍。諸菩薩等行利樂時，多諸怨嫉眾苦逼惱，堪

耐勞倦而忍受故，因以為名。娑婆者訛也。

〔中略〕是三千大千世界，號為娑婆世界。」

探玄記四曰：「娑婆者此云堪忍，悲華經云：此中眾生貪瞋痴等過，梵王忍之，故為名也。」

西域記一曰：「索訶世界三千大千國土，為一佛化攝也，舊曰娑婆，又曰沙訶，皆訛。」

玄應音義三曰：「沙訶，又云娑訶樓陀，或云娑婆，皆訛也。正言索訶，此云能忍，或云堪忍，一言雜會世界。」

250. 【五臺】（科註第一八四頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「五臺山」條：（地名）四大名山之一。清一統志一百十四曰：「五

臺山在五臺縣東北一百八十里西北距繁<sup>shì</sup>峙<sup>尸</sup>（音是）縣一百二十里。水經注，山五巒巍然，故謂之五臺。其中南臺去中臺八十里，臺高三十里，頂周二里。金蓮日菊佛鉢華<sup>càn</sup>燦發如錦，亦名錦繡峰，世傳文殊菩薩示現之處。」

華嚴經疏曰：「清涼山者，即代州雁門五臺山也。」

賢首華嚴傳一曰：「案此經（華嚴經）菩薩住處品云：東北有菩薩住處，名清涼山。現有菩薩，名文殊師利，與二萬菩薩常住說法，故今此山下有清涼府，山南面小峰有清涼寺，一名五臺山。五山最高，其上並不生森林，以與積土同，故謂之臺。山周迴四百

餘里，東連恒岳，中臺上有大華池，湛然清徹，間有微感。又有精屋石塔，北臺上有鐵浮圖二，並舍利及文殊形像。〔中略〕昔北齊日大敞玄門於此山中置伽藍二百餘所。又割恒定等八州稅，以供山眾衣藥之資。〔中略〕山去京一千六百里，代州界也。地居邊境，寒烈特甚，故四月已前，七月已後，堅冰積雪，<sup>hào</sup>皞<sup>尸</sup>（音浩）皓彌布。非盛夏之日登踐無由。」

蔣維喬中國名勝第十三種五臺山<sup>biàn</sup>弁<sup>之</sup>弁言（序文也。弁，音變）曰：「五臺山在山西五臺縣東北一百二十里，亦名清涼山，相傳為文殊菩薩道場。五峰環抱，頂無林木，有如<sup>lei</sup>壘<sup>之</sup>土之臺，故名。夏時飛雪，曾無炎暑，

故曰清涼。山左鄰恒嶽，右瞰<sup>ㄏㄨㄥ</sup>溥<sup>ㄊㄨㄥ</sup>（音呼）  
陀<sup>ㄊㄨㄛ</sup>（音陀），週五百餘里，狀如蓮華。東南  
西北四台，皆自中台發脈，群峰聯屬，勢若  
游龍。叢林大剎，皆在中台之下。僧侶分為  
青衣僧黃衣僧，青衣僧即尋常之僧人，皆著  
青衣，黃衣僧則喇嘛也。各有著名十大寺，  
如顯通、塔院、圓照、廣宗、殊像、碧山、  
南山、鳳林、金閣、靈境等寺，青衣所住持  
也。菩薩頂、玉花池、金剛窟、鎮海、羅  
睺<sup>ㄏㄡ</sup>（音猴）、普安、三泉、七佛、壽寧、台  
麓<sup>ㄌㄨ</sup>（音路）等寺，喇嘛所住寺也。喇嘛中有  
扎薩克，居菩薩頂真容院，由西藏達賴喇嘛  
派來，六年一任，約束眾喇嘛，職位頗尊。  
青衣僧則由各寺公舉會長，處理公共之事。

蒙古王公每歲朝山，布施甚多。聞紀元後以  
關外道途不靜，來者較少。然香火猶盛。內  
地僧俗二眾，夏時朝山者，亦繹絡於途。」

251. 【阿羅漢】（科註第一八四頁倒數第五行）

《三藏法數》「阿羅漢三義」條：「出翻  
譯名義」梵語阿羅漢，華言無生，亦云無  
學。謂三界生死已盡，是為無生；無法可  
學，是為無學。或言不翻者，名含三義故  
也。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

一、殺賊：賊即見、思惑也。以其劫人功  
德之財，奪人智慧之命，故名為賊。阿羅漢  
能斷三界見、思之惑，故名殺賊。

二、不生：不生，即無生也。謂阿羅漢既  
斷見、思惑盡，更不受三界生，故名不生。

三、應供：謂阿羅漢智斷功德既已具足，應受人天供養，故名應供。（智，謂得漏盡智；斷，謂斷三界見、思惑盡也。）

《佛學大辭典》：（術語）Arhan，小乘極悟之位名。一譯殺賊。殺煩惱賊之意。二譯應供。當受人天供養之意。三譯不生。永入涅槃不再受生死果報之意。

智度論三曰：「阿羅名賊，漢名破。一切煩惱破，是名阿羅漢。復次，阿羅漢一切漏盡，故應得一切世間諸天人供養。復次，阿名不，羅漢名生，後世中更不生，是名阿羅漢。」

又譯曰應真，真人。法華文句一上曰：「阿颺（音拔或福）經云應真，瑞應云真人。」

四果之一。

252. 【天目】（科註第一八四頁倒數第五行）

《佛光大辭典》「天目山」條：位於浙江臨安縣西北，與安徽省境銜接。古稱浮玉山。山有兩目，東天目位於臨安縣西北約二十九公里處，高一五二〇公尺，有大山、將軍、寶珠等諸峰，洗眼、浮玉、白龍、煉丹等諸池，瀑布、玉劍等諸泉。西天目位於潛縣北約二十六公里處，高一五四七公尺，有十二龍潭、三十六洞，其餘峻峰、巖洞、石室、冷泉無數。東西兩目延袤（音冒。袤，長。延袤，綿延伸展）約三一七公里，處處峰巒池泉，崖嶺竦疊（聳立疊起），千年古木，飛瀑泉石，景緻（音至）之勝，堪稱

東南之冠。本山自古為著名佛、道勝地，歷來所置寺觀甚多，較著名者有東天目山之昭明禪寺，西天目山之禪源寺、獅子正宗禪寺、大覺正等禪寺等。

253. 【雁蕩】（科註第一八四頁倒數第五行）

《漢語大詞典》：山名。在浙江省東南部。分南、北兩個山群：南雁蕩山在平陽縣西，北雁蕩山在樂清縣東北。山多懸崖、奇峰、瀑布。

254. 【穢土】（科註第一八四頁倒數第四行）

《三藏法數》：謂其地坑坎堆阜阜阜（音付。指山、土山），穢惡充滿，即娑婆世界也；以其有四趣五濁等穢惡，是名穢土。（梵語娑婆，華言能忍。謂其土之人，堪能忍受眾苦

也。）

255. 【有漏業】（科註第一八四頁倒數第三行）

《唯識名詞白話辭典》：為「無漏業」的對稱。指不離煩惱過非的諸善惡業。在黑白等四業中，以招欲界惡果的黑黑業、招色界善果的白白業，及招欲界善果的黑白業等三業為有漏業；非黑非白業斷盡前三業，是為無漏業。見《俱舍論》卷十六。

256. 【步趨】（科註第一八五頁第一行）

《漢語大詞典》：追隨。效法。

257. 【見思二惑】（科註第一八五頁倒數第一行）

《三藏法數》「見思惑」條：見即分別也，謂意根對法塵起諸邪見，故名見惑；思即思惟，又貪染也，謂眼耳鼻舌身五根貪愛

色聲香味觸五塵，而起想著，故名思惑。此見、思惑，亦名通惑者，通聲聞、緣覺、菩薩三乘共斷故也。

《佛學大辭典》「見思」條：（術語）見惑思惑也。又云見愛、見修、四住、染污無智、枝末無明、通惑、界內惑，皆概括三界煩惱之通稱。見惑者諸種之妄見，邪分別計度道理而起之我見邊見等妄惑也。思惑者貪瞋痴等之迷情，思慮世間事物而起之妄惑也。依之而從所迷上稱見惑為理惑，稱思惑為事惑。何則？以見惑為迷於無常無我等真諦道理而起之常見我見等邪想，思惑為迷於色聲等世間事物而起之貪欲瞋恚等妄情故也。但以迷理迷事，而分見思二惑者，依於

小乘俱舍之法相。

若依於大乘唯識之法相，則以分別俱生之二起而分之。分別起之煩惱所知二障為見惑，俱生起之煩惱所知二障為修惑。然稱為見者，有二義：一、為照見真理時所斷之惑，故云見惑。二、見為推度之義，此惑以推度為性，故云見惑。又，思有二義：一於一旦見真理斷見惑上，更思惟修習真理，以斷此惑，故云思惑。二為思惟世間誣妄事物而起之惑，故云思惑。

然此二惑為正受三界生死之因，斷此二惑，始免三界之生死也。斷之有次第，先斷見惑，次斷思惑。見惑者其性猛利，故有見斷如破石之說。見諦理之時，一時盡斷之。

思惑者，其性鈍昧，故有思斷如藕絲之說。數數思惟諦理而漸漸斷之也。斷見惑之位，謂之見道；斷思惑之位，謂之修道；斷了二惑之位，謂之無學道。

天台結歸一切之妄惑為三種：一見思，二塵沙，三無明。見思為涅槃之障，塵沙為菩提之障，無明為中道實相之障。

四教儀曰：「集諦者即見思惑，又云見修，又云四住，又云染污無知，又云取相惑，又云枝末無明，又云通惑，又云界內惑。雖名不同，但見思耳。」同集註上曰：「見思煩惱，分別曰見，貪愛曰思。」

258. 【漏盡通】（科註第一八五頁倒數第一行）

《三藏法數》：漏盡通者，漏即三界見、

思惑也。謂羅漢斷見、思惑盡，不受三界生死，而得神通，是名漏盡通。（三界者，欲界、色界、無色界也。見、思惑者，謂意根對法塵起諸分別，曰見惑。眼耳鼻舌身五根對色聲香味觸五塵，起諸貪愛，曰思惑。梵語阿羅漢，華言無學。）

《佛學大辭典》：（術語）六通之一。具曰漏盡智證通。

259. 【豎出】（科註第一八六頁第一行）

為「橫出」之對稱。（參見「橫出」）

260. 【一心】（科註第一八七頁第三行）

《三藏法數》：〔出華嚴經〕一心者，一念之心也。心性周遍，虛徹靈通，散之則應萬事，斂之而成一念。是故若善若惡，若聖

若凡，無不皆由此心。以心本具萬法，而成立眾事。經云：三界無別法，惟是一心作。是也。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

《佛學大辭典》：（術語）謂萬有之實體真如也。

止觀五上曰：「一心具十法界。」

又唯一之信心不為他心所奪，謂之一心。

止觀四下曰：「一心者，修此法時，一心專志，更不餘緣。」

探玄記三曰：「一心者，心無異念故。」

教行信證文類三末曰：「言一念者，信心無二心，故曰一念。是名一心，一心則清淨報土真因也。」

又，一心有事理之二種：無餘念為事之一心。入實相為理之一心。

觀音義疏上曰：「一心歸憑，更無二意，故名事一心也，（乃至）理一心者，達此心自他共無，因不可得。」

261. 【分證】（科註第一八八頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）菩薩初地以上少分斷惑證理也。起信論謂之隨分覺，台家謂之分證即。

262. 【初地】（科註第一八八頁第四行）

菩薩五十二位中十地之第一，名歡喜地。

（參見「十地」1928）

263. 【初住】（科註第一八八頁第四行）

菩薩五十二位中十住之第一，名發心住。

(參見「十住」1215)

264. 【寶王】(科註第一八八頁第五行)

《佛學大辭典》：(術語) 佛陀之尊稱也。佛以諸功德為莊嚴，故云寶王。

楞嚴經三曰：「願今得果成寶王，還度如是恒沙眾。」

往生論註上曰：「華嚴經寶王如來。」

265. 【等覺菩薩】(科註第一八八頁第六行)

《佛學大辭典》「等覺」條(節錄)：大乘階位五十二位中第五十一位之菩薩曰等覺。是菩薩之極位也。即滿足三<sub>qi</sub>祇(音奇)百劫之修行，(中略)圓教之菩薩，斷四十一品之無明，將得妙覺之佛果，其智慧功德，等似妙覺，故謂之等覺，又名一生補處

(無明之惑未盡，尚有一番變易生死，即登妙覺之位)、金剛心、有上士、無垢地等。

四教儀四曰：「若望法雲(十地位)，名之為佛。望妙覺，名金剛心菩薩。亦名無垢地菩薩。」

止觀一曰：「究竟即菩提者。等覺一轉入於妙覺。」

瓔珞經上曰：「所謂等覺性中有一人，其名金剛慧幢菩薩。住頂寂定，以大願力住壽百劫修千三昧，已入金剛三昧。〔中略〕坐佛道場超度三魔(煩惱魔、陰魔、天魔)，復住壽萬劫，化現成佛，入大寂定。等覺諸佛二諦境界外非有非無無色無心因果，二習無有遺餘。」

266. 【四十一位】（科註第一八八頁第六行）

《佛光大辭典》（節錄）：即華嚴經所說之大乘菩薩修行階次。菩薩之修行，漸次臻於佛果之階位有：十住、十行、十迴向、十地，及等覺等四十一位。

267. 【塵勞】（科註第一八八頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）煩惱之異名。

貪瞋等之煩惱，bēn 盆（音笨。指塵土飛揚著落在物體上）穢真性，勞亂身心，謂為塵勞。

維摩慧遠疏曰：「煩惱盆汚，名之為塵。

彼能勞亂，說以為勞。」

長水楞嚴疏一上曰：「染污故名塵，擾惱

故名勞。」

止觀一曰：「塵勞即是菩提。」

268. 【niè 淨涅槃】（音聶）pán 盤三德（科註第

一八八頁倒數第二行）

《三藏法數》「三德」條：〔出金光明經玄義〕法身、般若、解脫是為三，常樂我淨是為德。（常即不遷不變，樂即安隱寂滅，我即自在無礙，淨即離垢無染。佛以此四者為德也。）

一、法身德：法即軌法，謂諸佛由軌法而得成佛，故名法身。此之法身，在諸佛不增，在眾生不減。眾生迷之而成顛倒，諸佛悟之而得自在。迷悟雖殊，體性恒一，具足常樂我淨，是名法身德。

二、般若德：梵語般若，華言智慧。謂佛究竟始覺之智，而能覺了諸法不生不滅，清

淨無相，平等無二，不增不減，具足常樂我淨，是名般若德。

三、解脫德：不繫名解，自在名脫。謂佛永離一切業累之縛，得大自在，具足常樂我淨，是名解脫德。

《佛學大辭典》「三德」條：（名數）涅槃經所說大涅槃所具之三德：一、法身德，為佛之本體，以常住不滅之法性為身者。二、般若德，般若譯曰智慧，法相如實覺了者。三、解脫德，遠離一切之繫縛，而得大自在者。此三者各有常樂我淨之四德，故名三德。而此三德，不一不異，不縱不橫，如伊字之三點（參見「伊字三點」1379），首羅之三目，稱為大涅槃之秘密藏。

涅槃經二曰：「我今當令一切眾生及以吾子四部之眾悉皆安住秘密藏中，我亦復當安住是中入於涅槃，何等名為秘密之藏？猶如伊字三點，若並則不成伊，縱亦不成。如魔<sup>1</sup>醯<sup>2</sup>（音西）首羅（華言大自在，又翻威靈，或云三目，為三界尊極之主）面上三目乃得成伊三點，若別亦不得成。我亦如是，解脫之法亦非涅槃，如來之身亦非涅槃，摩訶般若非涅槃，三法各異亦非涅槃。我今安住如是三法為眾生故名人涅槃，如世伊字。」

269. 【生相無明】（科註第一八八頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「無始無明」條：（術語）勝鬘，本業，起信諸經論謂之無始無明，菩提心論謂之無始間隔，生死流轉之根本惑體

也。平等法界之理不達，妄隔平等之理性，謂之無明，又曰間隔。是闇惑之心，體無慧明，故曰無明，闇惑之心，隔離理性，故名間隔。依此無明之間隔而生種種之煩惱，作種種之業，受種種之果也。

而名之為無始者，有三釋：一就因緣生之理而釋，二就惑體相依之義而釋，三就真實同體之理而釋。

一就因緣生之理而釋者，謂凡一切有為法，乃因緣生，現世之果，由前世之因而生，前世之果，更由前世之因而生，如是推究，更無初始，若有初始，則是無因生之外計，而非佛法，得涅槃經之四柱偈（本有今無。本無今有。三世有法。無有是處）及攝論之

文等說而明也。是為大乘論之通說。

二就惑體相依之義而釋者，謂枝末無明依根本無明，根本無明依真如，是緣起法之自然也。此時無明為惑之根本，無明之先更無為始之惑法，故謂之無始。依此釋，則無始之言，即根本之異名，成無明有始之義。依此義，起信論謂為忽然念起名為無明，天台謂之元品無明，起信論之疏家謂之根本無明。曰忽然，曰元品，曰根本，皆為有始之異名也。

圓覺經曰：「云何無明？善男子！一切眾生從無始來，種種轉倒，猶如迷人，四方易處。由有無始本起無明，為己主宰。一切眾生，生無慧目，身心等性皆是無明。」

本業經下曰：「其四住地前更無法起故，故名無始無明住地。」

勝鬘經寶窟中末曰：「無始有二釋：一云，無明無有始，故眾生無頭，波若無底。二云，無明最在初實錄有始，但無有一法在此前者，故云無始也。」

起信論曰：「一切眾生不名為覺，以從本來念念相續，未曾離念故，說無始無明。」

起信論義記下末曰：「唯此無明為染法之源，最極微細，更無染法能為此本，故云忽然念起也。如瓔珞本業經云：四住地前無法起，故名無始無明住地。是則明其無明前無別有法為始起之本，故云無始，即是論忽然義也。此約麤細相依之門，說為無前，亦言

忽然。不約時節以說忽然，以起無初故也。」大乘經論所說，多依此義。是為使去妄歸真之一種教道，權大乘之義也。

三就真妄同體之義而釋者，謂真如與無明，乃一法之異名，如水與冰，冰之自性即為水，無明之自性即為真如也，吾等本來為冰，非先為水而後為冰也，如前為水之說，僅為教道之方便耳。

起信論曰：「如來藏無前際故，無明之相亦無有始。」

文句私記五曰：「若言心性本淨，為惑所覆，猶教道，且順權說。〔中略〕若依實理，心性未淨，猶如無始唯冰無水。雖今是冰，則不得云冰不是水。心性亦爾，雖本是

無明不得云非三德，是故圓人唯觀無始，三道（惑道、業道、苦道）即三德，不同權人卻覆方見。」

270. 【佛性】（科註第一九〇頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）佛者覺悟也，一切眾生皆有覺悟之性，名為佛性。性者不改之義也，通因果而不改自體是云性，如麥之因，麥之果，麥之性不改。

華嚴經三十九曰：「佛性甚深真法性，寂滅無相同虛空。」

涅槃經二十七曰：「一切眾生悉有佛性，如來常住無有變易。」

271. 【覺海】（科註第一九〇頁第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（譬喻）覺性甚深

湛然，譬如海也。

楞嚴經六曰：「覺海性澄圓，圓澄覺元妙。」長水疏曰：「覺性周遍，甚深湛然，故如海也。」

續入藏經明神宗序曰：「假筏迷津，施航覺海。」

272. 【阿惟越致】（科註第一九〇頁第五行）

見「阿鞞跋致」1192。

273. 【伏斷】（科註第一九〇頁第七行）

《佛學大辭典》：（雜語）伏者制伏，斷者斷絕也，制伏所起之惑而使一時不起，謂之伏惑，斷絕惑種，而使畢竟不生，謂之斷惑。有漏道之對治，止於伏惑，依無漏道乃得斷惑也。

274. 【塵沙】（科註第一九〇頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）天台所立三惑之一，謂為塵沙。塵沙之惑，稱為化道障之惑，菩薩教化物之障也。菩薩教化物，必通達如塵沙無數之法門，然心性間昧。不能通達此塵沙之法門，自在教化，謂為塵沙之惑。即就不知不達之法門多而與以此名，其惡體為唯一之劣慧。俱舍論所謂不染污無知，唯識論所謂所知障，與之同。

四教儀半字談五曰：「所治之病，能治之法門，緣生之事法，其類無數，無一一了知者，無知之種類無數，故名為塵沙。然種類雖多，而其體唯為劣慧，非一一為別。」

輔行一曰：「塵沙者譬無知數多。」

文句記一曰：「不污染無知，劣慧為體。」

輔行五曰：「塵沙障俗理，俗顯能垂化。」

《三藏法數》「塵沙惑」條：塵沙惑者，謂眾生見、思數多，如塵若沙，乃他人分上之惑，菩薩之行，專為化他，若令眾生能斷見、思之惑，於菩薩即是斷塵沙惑；而亦名別惑者，別在菩薩所斷故也。

275. 【小乘】（科註第一九〇頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）梵名希那衍 Hinayana，對於大乘之稱。求佛果為大乘，求阿羅漢果辟支佛果為小乘。佛果者謂開一切種智，為盡未來際眾生化益之悟。阿羅漢果與辟支佛果，雖有淺深之別，然皆為灰身滅智歸於空寂涅槃之悟。乘者，運載之義，

指使人乘之至其悟岸之教，以四諦為至阿羅漢果之教體，以十二因緣為至辟支佛果之教體。如此小乘有二道，故亦謂之二乘。

又此二乘，為佛成道後十二年間，經律論三藏之所詮，故天台稱之為三藏教。佛滅後印度之小乘分總別二十之流派，來我國後，遂立宗名俱舍，成實，及律三者，即小乘也。是皆為佛隨他意之說法，姑以調熟下劣根性者也。

法華經方便品曰：「佛自住大乘，如其所得法，定慧力莊嚴，以此度眾生，自證無上道，大乘平等法，若以小乘乃至化一人，我則墮慳貪。」

法華經遊意下曰：「今以二義往收則事無

不盡，一者赴小機說名曰小乘，二者赴大機說稱曰大乘。」

《佛學常見辭彙》：聲聞緣覺的法門，以修身自利為宗旨，其最高果位為阿羅漢果及辟支佛果。聲聞乘修四諦法，自凡夫至阿羅漢，論時間，速者三生，遲者六十劫，其修行的方便有七，得果有四。緣覺乘修十二因緣，自凡夫至辟支佛，論時間，速者四生，遲者一百劫，其修行重在悟證，悟所到處，便是證所到處，故無明顯的位階可言。

276. 【果海】（科註第一九〇頁第七行）

《佛學大辭典》：（譬喻）佛果之功德廣大譬如海。

華嚴疏四曰：「因該果海，果徹因源。」

277. 【三種不退】（科註第一九〇頁倒數第五行）

《三藏法數》「三不退」條：〔出觀經妙宗鈔〕

一、位不退：謂別教菩薩從初住位中斷見惑，二住至七住位中斷思惑，則永不退失超凡之位，故名位不退。（初住即（至也）十住，發心住、治地住、修行住、生貴住、方便具足住、正心住、不退住、童真住、法王子住、灌頂住也。）

二、行不退：謂別教菩薩從八住已去，至十行位中，伏斷塵沙之惑，則永不退失菩薩之行，故名行不退。（十行者，歡喜行、饒益行、無瞋恨行、無盡行、離癡亂行、善現行、無著行、尊重行、善法行、真實行也。）

三、念不退：謂別教菩薩從初地已去，破無明惑，則永不退失中道正念，故名念不退。

《佛學大辭典》：「三不退」條：一位不退，既修得之位次不退失也。二行不退，於所修之行法不退失也。三念不退，於正念不退轉也。此三不退配於菩薩之行位，依諸宗而異。

據法相大乘，則依萬劫修因，入十住之位，唯識觀成就，無復退墮惡業流轉生死之位，謂之位不退。既入初地成就真唯識觀於利他之行不退失，謂之行不退。八地已去，得無功用智念念入真如海，謂之念不退（西方要決之十住毘婆沙論）。

又天台一家，自別教之初住至第七住為位

不退，此間斷見思之惑，而永超三界之生死也。自第八住至十迴向之終為行不退，此間破塵沙之惑，而不退失利他也。初地以上為念不退，斷無明之惑，而不失中道之正念也。如配之於圓教，則自初信至第七信為位不退，自第八信至第十信之終為行不退，初住已上為念不退。

觀經妙宗鈔下曰：「若破見思名位不退，則永不失超凡之位。伏斷塵沙名行不退，則永不失菩薩之行。若破無明名念不退，則不失中道正念。」（參見「化法四教階位對比圖」書後折頁）

278. 【藏教】（科註第一九〇頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）三藏教之略。

天台四教之一。

○三藏教：（術語）天台所立四教之一。

指一切之小乘教。佛入滅之年，大迦葉等結集經律論之三藏，而為該收小乘一切之教理者，故呼小乘謂之三藏教。大乘亦有三藏之別，然非如小乘之三藏，部帙（音至，書的卷冊或封套）整然而分之者，因以之為一摩訶衍藏，與彼小乘之三藏二者對峙。此智度論之意也。（參見「化法四教階位對比圖」書後折頁）

279. 【初果】（科註第一九〇頁倒數第一行）

《三藏法數》：初果者，謂此人斷三界見惑盡，預入聖道法流，即證此果也。（三界者，欲界、色界、無色界也。見惑者，謂意根對法塵而起分別也。）

《佛學大辭典》「四果」（節錄）：一須陀洹果，舊作入流，逆流。人流預流，同一之義。謂去凡夫初入聖道之法流也，逆流者，謂入聖位逆生死之暴流也。申言之，即三界見惑斷盡之位也。

280. 【通教】（科註第一九〇頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）天台所立化法四教之第二。說萬法當體即空無生無滅（當體即空無實生實滅）之理，為使二乘及鈍根之菩薩得但空之證，使利根之菩薩得不但空即中道之證而施設之三乘教也。不要斷滅萬法，說萬法當體為因緣生，而當體即為空無生，故空之中自有不空之義而含中道之理，此名不但空，亦名當通含中。利根之菩薩，

證此含中之中道而為別教圓教之人也。佛之通教，正為此入。故以通教為大乘之初門。

然而通者共通之義，有二義：

一者三乘共學之義。藏教之三藏四諦，十二因緣，六度，所學各異，而此教之三乘，三乘共學諦緣度，皆見當體即空之理。但以斷見思之正使（正現起之煩惱正體），兼侵害習氣，自行化他共行，而分三乘之別，故名通。

二者單就菩薩有通前通後之義。通教之菩薩有利鈍二種，鈍根之菩薩與前之藏教同證但空之涅槃，利根之菩薩，聞之而會不但空之義，遂聞後當體即空之說，而通於別圓二教所詮中道實相之理，為別教圓教之人。如此就菩薩有通前通後之義故名通教也。

此二義中，佛之通教本意為使利根之菩薩，得通後之益也。

四教儀曰：「通前藏教，通後圓教，故名通教。又從當教得名。謂三人同以無言說道，體色入空，故名通教。」

281. 【見地】（科註第一九〇頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）三乘共十地之第四位，當於聲聞乘之預流果。見四諦之理，斷三界之見惑，初得聖果者，即第十六心之道類智也。見大乘義章十四，四教儀集註下。

○三乘共十地（節錄）：（名數）是智度論七十八所說，聲緣善（聲聞、緣覺、菩薩）三乘共通之十地也。台宗以為四教中通教之地

位也。一、乾慧地，二、性地，三、八人地，四、見地，五、薄地，六、離欲地，七、已辨地，八、支佛地，九、菩薩地，十、佛地。（參見「化法四教階位圖」書後折頁）

282. 【別教十向】（科註第一九一頁第一行）

《佛光大辭典》「十迴向」條：菩薩修行五十二階位中，指從第三十一位至第四十位。迴向，乃以大悲心救護一切眾生之意。又作十迴向心，略稱十向。即：

一、救護一切眾生離眾生相迴向，即行六度四攝，救護一切眾生，怨親平等。

二、不壞迴向，於三寶所得不壞之信，迴向此善根，令眾生獲得善利。

三、等一切佛迴向，等同三世佛所作之迴

向，不著生死，不離菩提而修之。

四、至一切處迴向，以由迴向力所修之善根，遍至一切三寶乃至眾生之處，以作供養利益。

五、無盡功德藏迴向，隨喜一切無盡善根，迴向而作佛事，以得無盡功德善根。

六、隨順平等善根迴向，即迴向所修之善根，為佛所守護，能成一切堅固善根。

七、隨順等觀一切眾生迴向，即增長一切善根，迴向利益一切眾生。

八、真如相迴向，順真如相而將所成之善根迴向。

九、無縛無著解脫迴向，即於一切法無取執縛著，得解脫心，以善法迴向，行普賢之

行，具一切種德。

十、法界無量迴向，即修習一切無盡善根，以此迴向，願求法界差別無量之功德。

十迴向攝於十三住中之解行住，五位中之資糧位，正當於地前三賢中之後十位，六種性中之道種性。〔舊華嚴經卷十五至卷二十二、菩薩瓔珞本業經卷上聖賢名字品、法華經玄義卷五上〕

283. 【一佛乘】（科註第一九一頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）唯一成佛之教法。是法華經所說。

法華經方便品曰：「十方佛土中，唯有一佛乘。」同品曰：「但以一佛乘故，為眾生說法。」同品曰：「於一佛乘，分別說三。」

金剛頂一字頂輪王儀軌經曰：「十方刹土中，唯有一佛乘如來之頂法，等指諸佛體，是故名智拳。」

284. 【因位】（科註第一九二頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）修行佛因之位。自發心至成佛之間也。

玄義六上曰：「果地圓極，非復因位。」

（四）方便力用

285. 【方便】（科註第一九三頁第三行）

《三藏法數》：方即方法，便即便宜，猶

善巧也。

謂如來說布施得大富，說持戒得生天，說忍辱得離諸瞋恚，說精進得具諸功德，說禪定得息諸散亂，說智慧得捨諸煩惱，如是種種方便，開化眾生，莫不為令超脫苦輪，得諸法樂也。（參見「方便」2163）

286. 【大毘盧遮那經】（科註第一九三頁第六行）

《佛學大辭典》：（經名）大毘盧遮那成佛神變加持經之略名。七卷。唐輸波迦羅譯。按輸波迦羅即善無畏（唐代自中印度來華之密教高僧，開元三大士之一）。

287. 【大悲】（一）（科註第一九三頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）救他人苦之心謂之悲。佛菩薩之悲心廣大，故曰大悲。

涅槃經十一曰：「三世諸世尊，大悲為根本。〔中略〕若無大悲者是則不名佛。」

大日經一曰：「菩提心為因，大悲為根本，方便為究竟。」

288. 【《觀佛三昧經》】（科註第一九四頁第一行）

《佛學大詞典》：（經名）佛說觀佛三昧海經之略名。（參見《觀佛三昧海經》1984）

289. 【十二部經】（科註第一九四頁第一行）

《三藏法數》「十二分經」條：「亦名十二部經，出大智度論」

一、修多羅：梵語修多羅，華言契經。契者，上契諸佛之理，下契眾生之機。經者，法也，常也。十界同遵曰法，三世不易曰常，此聖教之總名也。又修多羅即是長行háng行元

（音杭）直說法相，隨其義理長短，不以字數為拘也。（十界者，佛界、菩薩界、緣覺界、聲聞界、天界、人界、修羅界、餓鬼界、畜生界、地獄界也。）

二、qí祇夜（音奇）夜：梵語祇夜，華言應頌，又云重頌。謂應前長行之文，重宣其義，或六句、四句、三句、二句，皆名頌也。

三、伽陀：梵語qié伽陀（音茄）陀，華言諷頌。謂不頌長行，直說偈句。如金光明經中空品等是也。

四、尼陀羅：梵語尼陀羅，華言因緣。如經中有人問，故為說是事；如律中有人犯是事，故制是戒。如來所說一切根本緣起之

事，皆名因緣。如法華經中，化城喻品，說宿世因緣等是也。

五、伊帝目多：梵語伊帝目多，華言本事。謂說諸菩薩弟子因地所行之事。如法華經中本事品云：藥王菩薩，於日月淨明德佛所，得法歡喜，即然（燃也）身臂，以為供養；修諸苦行，求菩提道。等是也。（梵語菩提，華言道。）

六、闍多伽：梵語shé闍<sup>アゼ</sup>（音舌）多伽，華言本生。謂說佛菩薩本地受生之事。如涅槃經云：比丘當知，我於過去，作鹿<sup>皮</sup>（音皮）獐兔龍及作金翅鳥、粟散王（小王之多如散粟也。自輪王以下領一國一州者，皆云粟散王）、轉輪聖王之類。是也。（梵語比丘，華言乞

士。）

七、阿浮達磨：梵語阿浮達磨，華言未曾有，亦云希有。謂如佛初生時，即行七步，足跡之處，皆有蓮華，放大光明，遍照十方世界，而發是言：我是度一切眾生老病死者。地大震動，天雨眾華，樹出音聲，作天妓樂，如是等無量希有之事是也。

八、婆陀：梵語婆陀，具云阿波<sup>友</sup>陀<sup>友</sup>（音陀）那，華言譬喻。謂如來說法，為鈍根者，假譬喻以曉示之，令其開解。如法華經中，火宅、藥草等喻是也。

九、優婆提舍：梵語優婆提舍，華言論議。謂諸經中問答辯論諸法之事。如法華經提婆達多品中，智積菩薩與文殊師利論說妙

法等是也。（梵語提婆達多，華言天熱。梵語文殊師利，華言妙德。）

十、優陀那：梵語優陀那，華言自說。謂無有人問，如來以他心智，觀眾生機，而自宣說。如楞嚴會上，說五十種魔事，不待阿難請問。又如彌陀經，無有緣起，自告舍利弗等是也。（五十種魔者，謂色受想行識五陰，各有十種也。梵語阿難，華言慶喜。梵語舍利弗，華言鶩子。）

十一、毗佛略：梵語毗佛略，華言方廣。方者法也，廣者大也。又正理曰方，包富曰廣。謂大乘方等經典，其義廣大，猶如虛空也。

十二、和伽羅：梵語和伽羅，華言授記。

謂如來為諸菩薩、辟支、聲聞授作佛記。如法華經云：汝阿逸多，於當來世，而成佛道，號曰彌勒。等是也。（辟支，梵語具云辟支迦羅，華言緣覺。梵語彌勒，華言慈氏，阿逸多，即彌勒字也。）

290. 【總相別相】（科註第一九四頁第五行）

《唯識名詞白話辭典》：一切有為法，有總別相。總括全體狀態的，稱為總相；僅指個別狀態的稱為別相。如無常、無我，通於一切有為法，稱為總相；而地之堅相、水之濕相則為別相。如房舍為總相，磚、瓦、木、石各為別相。

291. 【四重】（科註第一九四頁第六行）

《佛學大辭典》：（名數）四重禁也，又

云四重罪。

○四波羅夷：（名數）又曰四重，四棄，四極重感墮罪，比丘犯四戒之罪也：

一、姪戒，梵云非梵行（梵者，清淨也；非梵行者，不淨之行，即指姪事）*Abrahmacarya*。向人，畜生，鬼神等而行姪事也，男者大便處及口之二道，女者大小便處及口之三道是姪處。

二、盜戒，梵云不與取 *Adattādāna*。盜取人，畜生及三寶等之五錢及直五錢之雜物（限於五錢者，因彼王法滿五則至死，故佛制之）也。

三、殺人戒 *Vadhā* (*Ahinsā*)，殺害人命也（重罪）。殺畜生者，名殺畜生戒（輕

罪），是九十單提中之第六十一。

四、大妄語戒，梵云妄說上人法 *Utāra-manuṣyadharmā*。貪利養自言得聖法我是聖人也（重罪）。他妄語名之為小妄語戒（輕罪），是九十單提中之第一。已上四重罪，為五篇中之第一，故云初篇。見行事鈔中之一。

292. 【第一義空】（科註第一九四頁倒數第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）對於小乘之涅槃而云大乘至極之涅槃為第一義空。小乘之涅槃者偏真但空也，大乘之涅槃者空亦空，為中道實相之空，故名第一義。

三藏法數四十六曰：「諸法中最第一法，名為涅槃，涅槃之法，空無有相，是為第一義空。」

涅槃經二十七曰：「佛性名第一義空，第一義空名為智慧，所言空者不見空與不空。」智度論三十一曰：「能使諸法實相空，名為第一義空。」

觀佛三昧經曰：「佛地果德，真如實相，第一義空。」

293. 【徑路】（科註第一九六頁第一行）

《漢語大詞典》：捷徑；近路。

294. 【能所】（科註第一九七頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）二法對待之時，自<sup>dòng</sup>働（古同動）之法，謂為能。不働之法，謂為所。如能緣所緣能見所見等。世言原告，即為能告。被告即為所告也。金剛經新註一曰：「般若妙理亡能所，絕待對。」

295. 【心緣】（科註第一九七頁第四行）

《佛學大辭典》（術語）言起心而攀緣外境也。為慮知心事外事物之義。起信論中本曰：「離名字相離心緣相。」

296. 【天真之佛】（科註第一九七頁第四行）

《佛學大辭典》「天真佛」條（節錄）：（術語）法身佛之異名。謂眾生本具之理性，天真獨朗者。

證道歌曰：「法身覺了無一物，本源自性天真佛。」

宗鏡錄十六曰：「祖佛同指此心而成於佛，亦名天真佛、法身佛、性佛、如如佛。」

297. 【圓覺】（科註第一九七頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）一切有情皆有

本覺，有真心。自無始已來，常住清淨，昭昭不昧，了了常知，約於體而謂為一心。約於因而謂為如來藏。約於果而謂為圓覺。圓覺者，圓滿之靈覺也。

圓覺經曰：「善男子！無上法王有大陀羅尼門，名為圓覺。流出一切清淨，真如，菩提，涅槃及波羅蜜，教授菩薩。」又曰：「善男子！圓覺淨性，現於身心，隨類各應。」

圭峰圓覺略疏序曰：「萬法虛偽，緣會而生。生法本無，一切唯識。識如幻夢，但是一心。心寂而知，目之為圓覺。」

佛使證此圓覺，為說大方廣圓覺修多羅了義經。

298. 【輪迴】（科註第一九七頁倒數第五行）

《佛學次第統編》：觀種種眾生，居種種生滅海中，生此死彼，遷流不息，無非一輪迴之相而已。蓋眾生自無始以來，展轉生死於六道之中，如車輪之旋轉，無有已時，故曰輪迴，或曰輪轉，或曰流轉。流，相續義；轉，生起意。有為法之因果，相續而生起。即一切凡夫作善惡之業，依苦樂之果，輪迴於六趣者是也。

299. 【太末蟲】（科註第一九七頁倒數第三行）

「末」是微末，「太末」是極微末，極細微的蟲稱為太末蟲。

300. 【四明】（科註第一九八頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「四明尊者」條：（人名）

宋知禮法師居四明山，弘天台之正義，號四明尊者。

○知禮：（人名）宋四明山法智尊者知禮，字約言，後人依其所居，號為四明大師。七歲出家，十五具戒，專學律部。太平興國四年從寶雲受天台之教觀，淳化二年始受請，主乾符。咸平六年，日本國遣寂照持源信法師問目二十七條請答釋。天禧元年結同志修法華chan懺多，三載期滿，將焚身以供妙經，秘書監楊億等致書止之。四年真宗聞高行。賜法智大師號，使住世宣教。六年正月寂，壽六十九。

唐末之亂，天台教籍多散逸，至螺溪義寂，雖遺文稍集，而學者猶晦於正宗。師於

此時崛起，深達性具之旨，揭一家之正燈。稱其法為山家正義，後學台教者多宗之。見佛祖統紀八。

301. 【《大經》】（科註第一九八頁倒數第四行）

此指《大方廣佛華嚴經》。

302. 【世諦】（科註第一九八頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）對真諦之稱。

世者世間、世俗。諦者事實，又道理。世間之事實，又世俗人所知之道理，謂之世諦。又曰俗諦，世俗諦，覆俗諦（覆者覆真之義，覆真理之世俗事相也）等。

涅槃經曰：「如出世人所知者，第一義諦。世間人所知，名為世諦。」

仁王經上曰：「世諦幻化起，譬如虛空

花。」

303. 【第一義諦】（科註第一九八頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）二諦之一。對於世俗諦之稱，又云真諦、聖諦、勝義諦、涅槃、真如、實相、中道、法界、真空等，總以名深妙之真理，諦者真實之道理也。此道理為諸法中第一，故云第一義，真實故云真，為聖者所見，故云聖，為殊勝之妙義，故云勝義。

大乘義章一曰：「第一義者，亦名真諦。第一是其顯勝之目，所以名義。真者，是其絕妄之稱。世與第一審實不謬，故通名諦。〔中略〕彼世諦若對第一，應名第二。若對真諦，應名妄諦。第一義諦若對世諦，應名出

世。若對俗諦，應名非俗。若對等諦，應名非等。立名一一不可反對。是故事法，且名世諦俗諦等諦。理法，且名第一義諦乃至真諦。」

304. 【慧日】（科註第一九八頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（譬喻）佛智能照世之盲冥，故比之於日。

無量壽經下曰：「慧日照世間，清除生死雲。」

法華經方便品曰：「慧日大聖尊。」同普門品曰：「慧日破諸闇，能伏災風火。」

305. 【罪<sup>ㄉㄧㄢˋ</sup>瑕<sup>ㄒㄩㄚ</sup>】（音霞）（科註第一九八頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：罪<sup>ㄉㄧㄢˋ</sup>愆<sup>ㄑㄩㄢ</sup>（音千。過失）。

306. 【塵劫】（科註第一九八頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）即塵點劫也。

楞嚴經一曰：「縱經塵劫，終不能得。」

○塵點劫：（術語）有二種：一，三千塵點劫。一，五百塵點劫。

○三千塵點劫：（術語）磨一三千大千世界所有之物而為墨，每經一三千大千世界，下一點，竟盡其墨，而其所經過之世界，悉碎為微塵，謂其一塵為一劫。是顯大通智勝佛出世久遠之比喻也。見法華經化城喻品。

○五百塵點劫：（術語）抹五百千萬億那由他阿僧祇之三千世界而為微塵，每經五百千萬億那由他阿僧祇之國下一塵，竟盡其塵，而其所經之世界，悉碎為微塵，以其一塵為一劫。是顯釋迦如來成佛久遠之比喻

也。見法華經壽量品。

307. 【任運】（科註第二〇〇頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）猶言自然，任法之自運動，而不加人之造作之義也。

行事鈔上二之一曰：「人所至處任運界起，故曰自然也。」同資持記曰：「不假造作故曰任運。」

止觀五曰：「一念具十法界，為作念具，為任運具。」

308. 【《大經合贊》】（科註第二〇〇頁第六行）

夏蓮居居士著（見《科註》（下冊）之附錄三）。此之「大經」，即指《佛說大乘無量壽莊嚴清淨平等覺經》。

(五) 所被根機

309. 【根機】(科註第二〇二頁第一行)

《佛學大辭典》：(術語)人之性譬諸木而曰根。根之發動處曰機。修行之興廢，教法之進止，一由此根機之如何。

最勝王經七曰：「隨彼根機令習定。」

寄歸傳二曰：「巧應根機，善誘人天。」

310. 【當機】(科註第二〇二頁第七行)

《佛學大辭典》：(術語)佛之說法，契當眾生之根機而使之得益也。

有部毗奈耶十九曰：「為說當機微妙之法。」

311. 【五時說法】(科註第二〇二頁第五行)

《三藏法數》「天台五時」條：〔出天台四教儀〕天台五時者，乃天台智者大師以如來所說一代聖教，判為五時也。謂如來成道，最初為大菩薩說華嚴經。次於鹿苑，為接引二乘，說四阿含等經。次於方等，說楞伽等諸大乘經，令諸二乘恥小乘，而慕大法。次說般若經，遣除二乘執情。後說法華、涅槃二經，開示眾生，咸得作佛。故為五時也。(天台，山名。智者大師，乃隋<sup>yáng</sup>煬(音陽)帝所賜之號，諱智顛<sup>y</sup>(音乙)。以棲身人寂於天台山，遂以此處命名也。二乘者，聲聞乘、緣覺乘也。四阿含者，增一阿含、中阿含、長阿含、雜阿含也。)

一、華嚴時：華嚴，經名也。時者，謂初說此經，如日照高山之時也。蓋如來初為大乘根熟者，首談此經。唯是無盡法界，性海圓融，空有齊彰，色心俱入；湛森羅於海印，現刹土於毫端。但化大乘菩薩，是名華嚴時也。（海印者，即三昧之名。喻佛智也。謂如來之智，jiàn<sup>見</sup>鑑（音見）照諸法，如海能現萬像也。刹，梵語具云刹摩，華言土田，此云刹土者，華梵兼舉也。）

二、鹿苑時：鹿苑即鹿野苑，是如來說阿含經之處也。時者，謂次說此經，如日照幽谷之時也。蓋如來為小乘，於前大法，不見不聞，猶如聾<sup>聾</sup>瞽<sup>瞽</sup>（音古。盲人），於是寢大化而施小化。故於鹿苑之中，說四諦法，演

四阿含等經，是名鹿苑時也。（四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。）

三、方等時：眾機普被曰方，四教並談曰等。時者，謂次說方等諸經，如日照平地之時也。蓋由前鹿苑中說小乘法，二乘之人，得少為足，便謂究竟，故假維摩居士以呵斥之，使其恥小慕大。故說維摩、楞伽等經，是名方等時也。（四教者，藏教、通教、別教、圓教也。）

四、般若時：梵語般若，華言智慧，經名也。時者，謂次說此經，如日照<sup>禺</sup>禺（音魚）中之時也。蓋由小乘既被彈呵，回心向大，然其執情未能頓泯，由是廣談般若空慧之法而淘汰之，是名般若時也。（禺中時，已時

（上午九時至十一時。已，音四）也。）

五、法華涅槃時：法華、涅槃，二經名也。時者，謂正說此經，如日輪當午之時也。蓋如來於前四時，調機純熟，故於靈山會上，稱性而談，令其會權歸實，了妄即真，演長遠之壽量，顯至道之幽微，上中下根，咸蒙授記。此法華一經所以說也。猶有餘機未盡，故說涅槃一經，而<sup>拈</sup>拈（音俊）拾之，是名法華、涅槃時也。（拈拾者，即收拾遺餘之意也。）

《佛學常見辭彙》：佛成道後，於最初三七日，說華嚴經，度大菩薩，是為華嚴時。繼在鹿野苑等處，於十二年中，說小乘阿含經，度聲聞緣覺乘人，是為阿含時。繼阿含

時後，於八年中，說維摩勝<sup>mán</sup>鬘<sup>nǚ</sup>（音瞞）金光明等諸大乘經，廣談四教（藏教、通教、別教、圓教），均被眾機，是為方等時。爾後，二十二年間，說諸部般若經，強調諸法皆空之義，是為般若時。最後八年，說妙法蓮華經，會三乘於一佛乘。法華之後，佛將入滅，乃在拘尸那拉城娑羅雙樹間，於一日一夜，說大般涅槃經，顯常樂我淨義，昭示一切眾生，皆有佛性，乃至一闍提（起大邪見，斷一切善根者）人，亦當成佛，是為法華涅槃時。

312. 【四地至七地】（科註第二〇二頁倒數第五行）

菩薩十地之第四焰慧地、第五難勝地、第六現前地、第七遠行地。（參見「十地」1928）

313. 【初地至四地】（科註第二〇二頁倒數第四行）

菩薩十地之第一歡喜地、第二離垢地、第三發光地、第四焰慧地。（參見「十地」1928）

314. 【九品】（科註第二〇二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（名數）九種品類之意。即上上，上中，上下，中上，中中，中下，下上，下中，下下也。（中略）觀無量壽經所說上品上生乃至下品下生，為九品，又名九輩。

315. 【小乘三果】（科註第二〇三頁第一行）

即：須陀洹果、斯陀含果和阿那含果。

（參見本書第一一二八頁2157條）

316. 【十六觀】（科註第二〇三頁第三行）

《三藏法數》「十六觀門」條：〔出觀無

量壽佛經〕韋提希夫人願生西方極樂世界，兼為未來世眾生欲往生者，請佛世尊說其修行之法。故佛令其觀彼依正之境，托境顯性，了境唯心，即得往生。此十六觀門所以說也。（梵語韋提希，華言思惟。依正者，依即阿彌陀佛所依之土，正即阿彌陀佛相好之身也。）

一、日觀，謂正坐西向，諦觀落日，令心堅住，專想不移；見日欲沒，狀如懸鼓，既見日已，閉目開目，皆令明了，是名日觀。

二、水觀，謂作水想，想水成已，當作冰想，既見冰已，作琉璃想，此想成已，見琉璃地內外映徹，是名水觀。（梵語琉璃，華言青色寶。）

三、地觀，謂前想成時，開目閉目，不令散失，如此想者，即名麤見極樂國地。見已分明，是名地觀。

四、寶樹觀，謂作七重行樹想，一一樹，高八千由旬，七寶映飾，珠網覆上。行行相當，葉葉相次，生諸妙華，成七寶果。其葉千色，有大光明，照映三千世界，十方國土，悉於中現，是名樹觀。（梵語由旬，華言限量。有八十、六十、四十里三等之不同。七寶者，金、銀、琉璃、玻璃、砮磲、碼瑙、赤真珠也。三千者，大千、中千、小千也。十方者，四方四維上下也。）

五、八功德水觀，八功德水者，一澄淨、二清冷、三甘美、四輕軟、五潤澤、六安

和、七除患、八增益也。謂想極樂國土有八池水，一一池水，從如意珠王生，分為十四支，一一支作七寶妙色，黃金為渠，雜色金剛以為底沙。一一水中，有六十億七寶蓮華，一一華，團圓正等十二由旬。其摩尼水，流注華間，演說苦空無常無我諸波羅蜜微妙法音。其八池水，皆具八種功德，是名八功德水觀。（梵語摩尼，華言如意。苦者，謂由五陰之身，而受生死逼迫等苦也。空者，謂此身由四大假合而成，畢竟不有也。無常者，謂此身等終歸壞滅也。無我者，謂四大各離，何者是我也？梵語波羅蜜，華言到彼岸。）

六、總觀，謂眾寶國土，一一各有五百億

寶樓，樓中有無量諸天，作眾妓樂；又有樂器懸處虛空，如天寶幢，不鼓自鳴。此眾音中，皆悉念佛、念法、念僧。此想成已，名見極樂世界寶樹、寶地、寶池，是為總觀。

七、華座觀，謂當作七寶蓮華想，一一華葉，作百寶色，縱廣二百五十由旬；一一華葉，有百億摩尼珠王，以為映飾，放千光明。毗楞伽寶以為其臺，臺上有四寶幢，幢上寶幔，如夜摩天宮，是名華座觀。（毗楞伽，梵語具云釋迦毘楞伽，華言能勝。梵語夜摩，華言善時分。）

八、像觀，像即佛像，謂欲想彼佛，先當想像，如閻浮檀金色，坐彼華上，見像坐已，心眼得開，明見極樂國土，七寶莊嚴寶

地寶池，寶樹行列，復想一大蓮華，在佛左邊；一大蓮華，在佛右邊。觀世音、大勢至二菩薩坐左右華上，皆放光明，一一樹下，亦有三蓮華，各有一佛、二菩薩像，遍滿彼國，此想成已，是名像觀。（梵語閻浮，華言勝金，樹名。其樹林中有河，河底有金沙，名曰閻浮檀金也。）

九、佛真身觀，謂觀無量壽佛身相光明，身如百千萬億夜摩天閻浮檀金色。佛身高六十萬億那由他恒河沙由旬。眉間白毫，右旋宛轉，如五須彌山。佛眼如四大海水，青白分明。身諸毛孔，流出光明，如須彌山。彼佛圓光，如百億三千大千世界。於圓光中，有百萬億那由他恒河沙化佛，有眾多化菩

薩，以為侍者。無量壽佛，有八萬四千相，一一相有八萬四千隨形好；一一好，復有八萬四千光明；一一光明，遍照十方世界。欲觀無量壽佛者，從一相好人，但觀眉間白毫，極令明了。見眉間白毫者，八萬四千相好，自然當現。見無量壽佛者，即見十方無量諸佛，是名佛真身觀。（梵語那由他，亦云阿度多，華言萬億。梵語須彌，華言妙高。）

十、觀世音觀，謂想觀世音菩薩，身長八十萬億那由他由旬，身紫金色，頂有肉髻，頂有圓光，其圓光中，有五百化佛，一一化佛，有五百化菩薩，無量諸天以為侍者。舉身光中，五道眾生一切色相，皆於中現。毗

楞伽寶以為天冠，冠中有一立化佛，高二十五由旬。菩薩面如閻浮檀金色，眉間毫相，流出八萬四千種光，光有無量化佛，一一化佛，有無數化菩薩以為侍者。臂如紅蓮華色。手掌作五百億雜蓮華色。一一指端，有八萬四千畫，猶如印文。以此寶手，接引眾生。足下有千輻輪相，其餘身相，眾好具足，如佛無異。唯頂上肉髻，及無見頂相，不及世尊，是名觀世音觀。（五道者，天道、人道、餓鬼道、畜生道、地獄道也。）

十一、大勢至觀，謂想大勢至菩薩，身量大小，亦如觀世音菩薩。圓光面各百二十五由旬，舉身光明，照十方國，作紫金色。有緣眾生，皆悉得見。但見此菩薩一毫孔光，

即見十方無量諸佛淨妙光明，是故號為無邊光。以智慧光，普照一切，令離三塗，得無上力，是故號為大勢至菩薩。天冠有五百寶華，一一寶華，有五百寶臺，十方佛國廣長之相，皆於中現。於肉髻上，有一寶瓶，盛諸光明，普現佛事。餘諸身相，如觀世音，等無有異，是名大勢至觀。（三途者，刀途、血途、火途也。）

十二、普想觀，謂前想成已，當起自心生於西方極樂世界，於蓮華中結跏趺坐，作蓮華合想。作蓮華開想，蓮華開時，有五百色光來照身想，作眼目開想，見佛、菩薩滿虛空中，水鳥樹林及與諸佛所出音聲，皆演妙法。見此事已，名見無量壽佛極樂世界，是

為普想觀。

十三、雜想觀，謂若欲至心生西方者，先觀丈六佛像，在池水上。阿彌陀佛神通如意，於十方國變現自在。或現大身，滿虛空中。或現小身，丈六八尺。所現之形，皆真金色，圓光化佛，及寶蓮華，如上所說。觀世音及大勢至，於一切處，身同眾生，但觀首相，知是觀世音，知是大勢至，是名雜想觀。（梵語阿彌陀，華言無量壽。）

十四、上輩生觀（此觀於上品中，又分上中下三品）上輩上品上生者，謂欲生彼國，當發三心：一者至誠心，二者深心，三者迴向發願心。具三心者，必生彼國。復有三種眾生，當得往生，一者，慈心不殺，具諸戒

行；二者，讀誦大乘方等經典；三者，修行六念，迴向發願，願生彼國。此人精進勇猛，故阿彌陀佛與觀世音、大勢至無數化佛，百千比丘，執金剛臺，至行者前。阿彌陀佛放大光明照行者身，與諸菩薩授手迎接。行者自見其身，乘金剛臺，隨從佛後，如彈指頃，往生彼國。生彼國已，見佛聞法，即得悟無生法忍也。上輩上品中生者，謂能於第一義，心不驚動，深信因果，不謗大乘，以此功德，求生極樂國土。命欲終時，阿彌陀佛與觀世音、大勢至，無量大眾，持紫金臺，至行者前，授手迎接，行者自見坐紫金臺，合掌讚佛，如一念頃，即生彼國七寶池中，佛及菩薩俱時放光，照行者

身；經於七日，得無生忍也。上輩上品下生者，謂亦信因果，不謗大乘，但發無上道心，以此功德，求生樂國，命欲終時，阿彌陀佛及觀世音、大勢至，與諸菩薩，持金蓮華，來迎行者。坐已，華合，即生七寶池中，七日乃得見佛。三七日後，於諸佛前，聞甚深法，經三小劫，住歡喜地也。（六念者，謂念佛、念法、念僧、念天、念施、念戒也。無生法忍者，謂一切法本來不生，於此法中，而能忍可印證也。小劫者，謂人壽八萬四千歲時，百年減一歲，如是減至十歲，又增至八萬四千歲，此一增一減，為一小劫也。約一千六百八十萬年。二十小劫為一中劫。四中劫為一大劫。）

十五、中輩生觀（此觀於中品中，亦分上中下三品）中輩中品上生者，謂受持五戒及八戒齋，不造五逆，無眾過患，以此善根，求生極樂世界，命欲終時，佛與比丘放金色光，至其所，演說苦空無常無我，讚歎出家，得離眾苦。行者歡喜，自見己身坐蓮華臺，合掌為佛作禮，即得往生極樂世界。蓮華尋開，聞眾音聲，讚歎四諦，即得阿羅漢道也。中輩中品中生者，謂若一日一夜，持八戒齋，或持沙彌戒，或持具足戒，威儀無缺，以此功德，求生極樂世界，命欲終時，見阿彌陀佛放金色光，持七寶蓮華，至行者前，授手迎接，行者自見坐蓮華上，蓮華即合，生寶池中。七日華敷，合掌歎佛，聞法

歡喜，得須陀洹，經半劫已，成阿羅漢也。中輩中品下生者，謂或有眾生，孝養父母，行世仁慈。此人命欲終時，遇善知識，為其廣說佛國樂事，亦說四十八願。聞已命終，即生西方極樂世界。經七日已，遇觀世音、大勢至，聞法歡喜，得須陀洹。過一小劫，成阿羅漢也。（五戒者，不殺、不盜、不邪淫、不妄語、不飲酒也。八戒齋者，不殺、不盜、不淫、不妄語、不飲酒、不坐臥高廣大床、不著華鬘衣、不觀聽歌舞戲樂、並過中不食也。五逆者，弑父、弑母、弑阿羅漢、出佛身血、破和合僧也。四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。梵語阿羅漢，華言無學。沙彌戒即十戒也。具足戒即二百五

十戒也。梵語須陀洹，華言預流。）

十六、下輩生觀（此觀於下品中，亦分上中下三品）下輩下品上生者，謂或有眾生，作諸惡業，雖不謗經，多造惡法，無有慚愧。命欲終時，遇善知識，為說大乘十二部經首題名字，除卻千劫極重惡業；復教合掌稱南無阿彌陀佛。稱佛名故，除五十億劫生死之罪。爾時彼佛，即遣化佛及化菩薩，至行者前，授手迎接。行者即見化佛光明，遍照其室，即便命終，乘寶蓮華，生寶池中。經七七日，蓮華乃敷，二大菩薩放大光明，為說甚深十二部經。聞已信解，發無上道心，經十小劫，得人初地也。下輩下品中生者，謂或有眾生，毀犯五戒八戒及具足戒，

不淨說法，無有慚愧；以惡業故，應墮地獄。命欲終時，地獄眾火，一時俱至。遇善知識，以大慈悲，即為讚說阿彌陀佛十力威德，廣讚彼佛光明神力。此人聞已，除八十億劫生死之罪，地獄猛火化為清涼之風，吹諸天華，華上皆有化佛、菩薩，迎接此人。如一念頃，即得往生七寶池中蓮華之內。經於六劫，蓮華乃敷，二大菩薩以梵音聲為說大乘甚深經典，應時即發無上道心也。下輩下品下生者，謂或有眾生，作不善業，五逆十惡，具諸不善，應墮惡道，受苦無窮。臨命終時，遇善知識，為說妙法，教令念佛。彼人苦逼，不遑念佛。善友告言：汝若不能念彼佛者，應稱無量壽佛。如是至心，令聲

不絕，具足十念，於念念中，除八十億劫生死之罪，見金蓮華，猶如日輪，住其人前。如一念頃，即生極樂世界。滿十二大劫，蓮華乃開，二大菩薩以大悲音聲，為其廣說諸法實相，除滅罪法，即發菩提之心也。（十部經者，一契經、二重頌、三諷頌、四因緣、五本事、六本生、七希有、八譬喻、九論議、十無問自說、十一方廣、十二授記也。梵語南無，華言皈命。初地者，謂十地中初歡喜地也。十力者，知是處非處智力、知過現未來業報智力、知諸禪解脫三昧智力、知諸根勝劣智力、知種種解智力、知種種界智力、知一切至處道智力、知天眼無礙智力、知宿命無礙智力、知永斷習氣智力

也。十惡者，一殺生、二偷盜、三邪淫、四妄語、五兩舌、六惡口、七綺語、八貪欲、九瞋恚、十邪見也。十念者，以十稱佛號為一念，十念即百稱佛號也。大劫，總成住壞空四中劫，為一大劫也。）

317. 【定善】（科註第二〇三頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）定散二善之一。

○定散二善：（術語）唐善導以觀經一部所明十六想觀之行，攝於定散之二善，前三觀以禪定之心，觀淨土之依正二報，故名之為定善。後三觀以散心修三福九品之行，故名之為散善。

散善義曰：「前明十三觀，以為定善。即

是韋提致請，如來已答：後明三福九品，名為散善。是佛自說，雖有定散兩門有異總明正宗分竟。」

觀經玄義分曰：「其要門者，即此觀經定散二門是也。定即息慮以凝心，散即廢惡以修善。迴斯二行，求願往生也。」

318. 【shan 霑世丹】（音瞻）（科註第二〇三頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：受益；沾光。

319. 【禮懺】（科註第二〇四頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）禮拜三寶，懺悔所造之罪也。有唐智昇撰集之諸經禮懺儀二卷。

320. 【止觀】（科註第二〇四頁第七行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）梵名

奢摩他，*Samatha* 毘鉢舍那 *Vipaśyana* 譯言止觀，定慧，寂照，明靜。止者停止之義，停止於諦理不動也。此就能止而得名。又止息之義，止息妄念也。此就所觀而得名。觀者觀達之義，觀智通達，契會真如也。此就能觀而得名。又貫穿之義，智慧之利用，穿鑿煩惱而lian 殄世殄（音舔。滅絕）滅之也。

若就所修之方便而言。則止屬於空門，真如門，緣無為之真如而遠離諸相也。觀者屬於有門，生滅門，緣有為之事相而發達智解也。

若就所修之次第而言，則止在前，先伏煩惱，觀在後，斷煩惱，正證真如。蓋止伏妄念，譬如磨鏡。磨已，則鏡體離諸垢（是斷

惑），能現萬像（是證理），是即觀也。

若真止真觀必為不二，以法性寂然是止，法性常照是觀也。然則真觀必寂然，故觀即止，真止必明淨，故止即觀也。

321. 【戲論】（科註第二〇四頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）非理之言論。

無義之言論。又不問理非理，總斥一切之言論。與俗所謂滑稽，冗談等同。

大日經疏十九曰：「戲論者，如世戲人以散亂心動作種種身口，但悅前人而無實義。今妄見者所作者亦同於此，故名戲論也。」

大乘玄論二曰：「戲論是借譬之名。〔中略〕於道無所<sup>ヲ</sup>剋<sup>ズ</sup>（音客）獲，如小兒戲論為耳。」

嘉祥法華義疏二曰：「無記心中往復言論名為戲論。中論云：戲論有二種：一者愛論，二者見論。」

最勝王經一曰：「實際之性，無有戲論，惟獨如來證實實際法。戲論永斷，名為涅槃。」

法華經信解品曰：「今日世尊令我等思惟<sup>juān</sup>蠲<sup>hū</sup>（音捐。除去）除諸法戲論之糞。」

322. 【馬鳴】（科註第二〇四頁第八行）

《三藏法數》：馬鳴乃西土十一祖（一說為十二祖）也。東天竺國人。說法時，能感群馬，得解悲鳴，故曰馬鳴。依百本大乘經，造起信論，是為（華嚴宗）初祖。

《淨土聖賢錄》：馬鳴，梵語阿濕矩沙，東天竺桑岐多國婆羅門也。得法於夜<sup>shē</sup>奢尊<sup>アセ</sup>

者。嘗制大乘起信論，末後勸人求生淨土。曰，眾生以住此娑婆世界，自畏不能常值諸佛，親承供養，懼謂信心難可成就，意欲退者。當知如來有勝方便，攝護信心。謂以專意念佛因緣，隨願得生他方佛土，常見於佛，永離惡道。如修多羅說，若人專念西方極樂世界阿彌陀佛，所修善根，迴向願求生彼世界，即得往生。常見佛故，終無有退。若觀彼佛真如法身，常勤修習，畢竟得生，住正定故。後付法於迦毗摩羅尊者已，即入龍奮迅三昧，挺身虛空，如日輪相，還復本位，而取涅槃。（傳燈錄，大乘起信論。）

323. 【龍樹】（科註第二〇四頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（人名）菩薩名。舊

稱，那伽曷樹那，那伽阿周陀那 Nagārijuna，生於阿周陀那下，故名阿周陀那。以龍成道，故字曰龍。新稱，那伽闕（音餓）<sup>た</sup>刺（音辣）樹那。譯為龍猛。佛滅後七百年出世於南天竺（摩訶摩耶經下），馬鳴弟子迦毗摩羅尊者之弟子，提婆菩薩之師也（付法藏傳五）。入龍宮<sup>じ</sup>齋（音機）華嚴經，開鐵塔傳密藏，顯密八宗之祖師也。

龍樹傳曰：「龍樹菩薩者，出南天竺梵志種也。〔中略〕其母樹下生之，因字阿周陀那。阿周陀那樹名也，以龍成其道，故以龍配字，號曰龍樹也。」

西域記八曰：「那伽闕刺樹那菩薩，唐言龍猛，舊譯曰龍樹，非也。」

324. 【智者】（科註第二〇四頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（人名）天台大師智顛yī（音乙）之德號，由晉王（楊廣，即後來之隋煬帝）所賜。

輔行一曰：「幼名光道，亦名王道。此從初生端相立名，法名智顛，顛，靜也。即出家後師為立號，從德為名，故用靜義。後授晉王菩薩戒品，因即為王立以法號云：大王yī紆尊聖禁，名曰總持。王曰：大師傳佛法燈，稱為智者。」

《佛光大辭典》「智顛」條：（五三八—五九七）為我國天台宗開宗祖師（一說三祖，即以慧文、慧思為初祖、二祖）。隋代荊州華容（湖南潛江西南）人，俗姓陳。字

德安。世稱智者大師、天台大師。七歲即好往伽藍，諸僧口授普門品一遍，即誦持之。年十八，投果願寺法緒出家。未久，隨慧曠學律藏，兼通方等，後入太賢山，誦法華、無量義、普賢觀諸經，二旬通達其義。陳天嘉元年（五六〇），入光州大蘇山，參謁慧思，慧思為示普賢道場，講說四安樂行，師遂居止之。一日，誦法華經藥王品，豁然開悟。既而代慧思開講筵，更受其付囑入金陵弘傳禪法。於瓦官寺開法華經題，從而樹立新宗義，判釋經教，奠定了天台宗教觀之基礎。陳太建七年（五七五），入浙江天台山，於佛隴之北建寺居之。九年，帝敕賜「修禪寺」之號。至德二年（五八四），陳後

主率后妃從師受菩薩戒，三年奉敕出山，寓金陵靈yào曜一寺，未久，於太極殿宣講大智度論、仁王般若經，又於光宅寺講法華經等。及隋軍攻破金陵，師西遊荆土。隋開皇十一年（五九一），晉王楊廣（煬帝）累請東返，師jiàn鑑一其誠，乃至揚州為授菩薩戒，王敕賜「智者」之號。其後西行，至當陽玉泉山建寺，開皇十三年於寺講說法華玄義，文帝乃敕賜「玉泉寺」之額。

翌年（明年。翌，音易）又宣講摩訶止觀，十五年復應晉王之請，東返金陵，撰淨名義疏。開皇十七年，坐化於山中大石像前，世壽六十，戒臘四十。生前造大寺三十六所

（一說三十五所），度僧無數，傳業弟子三十二，其中著名者有灌頂、智越、智zào瓌一等。師入寂後，楊廣派人依其所遺圖畫於天台山建寺，大業元年（六〇五），即位後並親賜「國清寺」之額。後周世宗時追諡「法空寶覺尊者」。南宋寧宗慶元三年（一一九七），又加諡「靈慧大師」。

師之思想，係將法華經精神與龍樹教學，以中國獨特之形式加以體系化而成。又將佛教經典分類為五種，將佛陀之教化方法與思想內容分為四種，此綜合性之佛教體系的組織，被視為具有代表性之教判。依禪觀而修之止觀法門，為師之最具獨創性者。生平撰

述宏富，少部分為親自撰寫，大部分由弟子灌頂隨聽隨錄整理成書。有法華疏、淨名疏、摩訶止觀、維摩經疏、四教義、金剛般若經疏、禪門要略、觀心論等數十種。師之著述，建立了天台一宗之解行規範，其中法華經玄義、法華經文句、摩訶止觀，世稱為天台三大部；又觀音玄義、觀音義疏、金光明經玄義、金光明經文句、觀無量壽佛經疏，稱為天台五小部。其特點在於教觀雙運、解行並重。其學說影響中國佛教頗鉅。〔續高僧傳卷十七、大唐內典錄卷十、止觀輔行傳弘決卷一、天台九祖傳、佛祖統紀卷六、卷二十五、卷三十七、卷三十九、卷四十九、智者大師別傳註〕

325. 【永明】（科註第二〇四頁倒數第五行）

《佛光大辭典》：（人名）宋智覺禪師延壽，住杭州慧日山永明寺，故稱為永明。

《佛光大辭典》「延壽」條：延壽（九〇四—九七五），唐末五代僧。淨土宗六祖，法眼宗三祖。臨安府餘杭（浙江杭縣）人，俗姓王。字仲玄。號抱一子。初為吏，三十歲依龍冊寺翠巖令參禪師出家。後往天台山參謁德韶國師，初習禪定，得其玄旨。後於國清寺行法華懺，頗有感悟，於是朝放諸生類，夕施食鬼神，讀誦法華經，又精修淨業。後住明州雪竇山傳法，法席甚盛，並復興杭州靈隱寺。建隆二年（九六一）應吳越王錢俶（音觸）之請，遷永明大道場，接化

大眾，故世稱永明大師。

師倡禪淨雙修之道，指心為宗，四眾欽服，住永明十五年，時人號慈氏下生。師曾召集慈恩、賢首、天台三宗僧人，輯錄印度、中國聖賢二百人之著書，廣蒐<sup>ㄅㄨˋ</sup>蒐<sup>ㄨㄟ</sup>（音搜）博覽，互相質疑，而成宗鏡錄一百卷。對當時各宗派間之宗旨分歧，持調和之態度。高麗王見此書，乃遣使敘弟子之禮，並派國僧三十六人前來學法，法眼之禪風遂盛行於海東。開寶八年示寂，世壽七十二。賜號「智覺禪師」。另著有萬善同歸集六卷、神棲安養賦一卷、唯心訣一卷等六十餘部。「宋高僧傳卷二十八、景德傳燈錄卷二十六、傳法正宗記卷八、宗門統要續集卷二十、佛祖統

紀卷二十六」

326. 【**𦉳**（音末）直】（科註第二〇四頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：一徑；筆直。

327. 【**計度分別**】（科註第二〇四頁倒數第三行）

《三藏法數》：謂意識於不現見事，計較量度，而起分別，故名計度分別。

《唯識名詞白話辭典》意為分別計量推度。為三分別之一，又作推度分別、分別思惟。謂於所緣之境計量推度，係與意識相應的散慧的分別作用。《阿毘達磨俱舍論》卷二載：「散，謂非定。意識相應散慧，名為計度分別。」

328. 【**起信因緣分疏**】（科註第二〇五頁第二行）

《大乘起信論義記》之「因緣分」部分。

(參見「《起信論義記》」822)

329. 【東天竺】(科註第二〇五頁第八行)

見「五天竺」597。

330. 【《大乘起信論》】(科註第二〇五頁倒數第六行)

《佛學大辭典》(節錄)：(書名)馬鳴菩薩造。有二譯。舊譯者為梁之真諦，一卷；新譯者為唐之實叉難陀，二卷。說如來藏緣起之理。本論可分為三分觀之。起首三頌為序分。從論下為正宗分。末後一頌，即是隨行所起大願，為流通分。

331. 【南天竺】(科註第二〇五頁倒數第六行)

見「五天竺」597。

332. 【鐵塔】(科註第二〇五頁倒數第五行)

《佛學大辭典》「南天鐵塔」條：(雜名)

古時南印度之鐵塔也。相傳大日如來所說之法門，其上首金剛薩埵タケ輯錄為經文藏於塔中，龍樹菩薩開之，由金剛薩埵授其經典。關於此傳說，古來有法爾隨緣之二說。依法爾說，則鐵塔為指龍樹之內心者，不外乎吾人各自之心性。依隨緣說，則鐵塔為實際存於歷史的者。

333. 【金剛薩タケ埵タケ】(音躲)(科註第二〇五頁倒數第五行)

《佛學大辭典》：(菩薩) Vajrasattva，又云金剛手，秘密主。又云普賢。是真言宗八祖中之第二祖。大日如來為第一，此薩埵為第二。梵名縛曰囉薩タケ怛タケ(音答)縛摩訶薩怛縛。譯名執金剛，持金剛，金剛手，金剛手

秘密王，金剛薩埵，金剛手菩薩摩訶薩，金剛手薩埵摩訶薩埵等。薩埵者有情之義，勇猛之義，總言勇猛之大士。

此薩埵與普賢菩薩同體異名。普賢從大日如來受灌頂，於二手與以五智之金剛杵，故云金剛手。但金剛薩埵有通別之二名。通名者，以名一切之執金剛神。以此皆為開東方金剛薩埵之一德者也。又無論何人，五相成就，從一切如來受授職灌頂時稱為金剛薩埵。如金剛頂經一切義成就菩薩（即悉多太子），之受授職灌頂時，稱為普賢大菩薩（即金剛薩埵）是也。

又在顯教，普賢菩薩為一切諸佛長子之總名，如華嚴經所說。即無論何人，成就十大

願者，為諸佛之長子，稱為普賢也。四十華嚴經四十頌曰：「一切如來有長子，彼名號曰普賢。」其別名即今所言之金剛薩埵，金剛界東方月輪中之金剛薩埵是也。大日經謂為金剛千手秘密主。即大日內眷屬之薩埵，為本宗第二祖。是總即別名也。是既得金剛之實智而稱為金剛薩埵，尚依本名而稱為普賢菩薩也。

求之於金胎兩界，則金剛界十六菩薩之金剛薩埵與胎藏界中臺八葉院中之普賢，第一重金剛手院之中尊金剛薩埵，皆同體異名，皆為內眷屬。而此外大日之大眷屬中，亦有普賢菩薩。金剛界賢劫十六尊中之第十六尊，胎藏界第二重文殊院中之普賢，是與顯

教所說之普賢同體同名，與得金剛之稱之內眷屬金剛薩埵，異體異名。再就同體異名言之，金剛薩埵之名，約於胎藏界，標本有之菩提心，普賢菩薩之名，約於金剛界標始成之大圓鏡智，又標菩提心所生之萬行也。

理趣釋上曰：「金剛手菩薩摩訶薩者，此菩薩者，此菩薩本是普賢。從毘盧遮那佛，二手掌親受五智金剛杵，即與灌頂，名之為金剛手。」

仁王經念誦儀軌上曰：「此金剛手即普賢菩薩也。手持金剛杵者，表起正智猶如金剛，能斷我法微細障故。」

聖無動尊大威怒王秘密陀羅尼經曰：「此金剛手是法身大士，是故名普賢。即從如來

得持金剛杵，其金剛杵五智所成，故名金剛手。」

金剛智之五秘藏訣曰：「金剛薩埵者，即是普賢大菩薩異名也。亦名一切如來長子，亦名大阿闍梨。」

又，此薩埵為一切眾生菩提心之本體，其性堅固如金剛，故名金剛，一切眾生由此薩埵之加持力而發心也。理趣釋上曰：「金剛手菩薩者，在毘盧遮那前月輪中，表一切如來菩提心，初發菩提心由金剛薩埵加持。」

又，金剛藏王為此薩埵之別號，其曼陀羅所在，在金剛界為根本成身會中十六菩薩之上首，即阿闍如來四親近菩薩之第一，於理趣會為中臺之本尊，在胎藏界為金剛手院三

十三尊之中尊。於兩部大日如來為兩會，而金剛薩埵則為一人，一人傳受兩部，是表兩部不二也。

334. 【密教】（科註第二〇五頁倒數第五行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）對顯教而言，謂大日如來所說之金胎兩部教法也。是為法身佛內證之境界。深秘密奧，故云密教，又為對未灌頂人不許顯示之教法，故云密教。

335. 【楞伽】くせ（音茄）經（科註第二〇五頁倒數第四行）

《佛教大辭典》：梵文 *Lankāvatārasūtra*。全稱楞伽阿跋ぼ（音拔）多羅寶經。佛教經典。南朝宋求那跋陀羅譯。四卷。「楞

伽」，山名；「阿跋多羅」，「入」的意思。意謂佛入此山說的寶經。法相宗所依「六經」之一。經文主旨在以名、相、妄想（分別）、正智、如如等五法和遍計、依他、圓成等三性，說明宇宙萬有皆是虛假不實，惟是自心所現。並對如來藏和阿賴耶識問題有重點論述。菩提達摩曾以此經為禪宗「印心」的根據。又是楞伽師研習的主要譯本。異譯本有：北魏菩提流支譯入楞伽經十卷，唐實叉難陀譯大乘入楞伽經七卷。三種譯本均為歷代大藏經所收，敦煌遺書亦有收藏。本經另有藏文譯本。

336. 【歡喜地】（科註第二〇五頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）十地之第一

地。菩薩經一大阿僧祇（音奇）劫之修行，初成斷惑證理之一分，大歡喜之位也。自此十地之間，經二大阿僧祇劫而成佛。

新譯仁王經下曰：「初證平等性，而生諸佛家，由初得覺悟，名為歡喜地。」

觀經天台疏曰：「歡喜地者，初證聖處，多生歡喜也。」

337. 【南山（一）】（科註第二〇五頁倒數第三行）

《佛光大辭典》「南山宗」條：唐朝四分律宗三派之一。又稱南山律、四分宗、南山教，或行事防非止惡宗。乃住終南山之道宣律師所開創。至後世相部、東塔二派皆衰頹，唯此南山宗盛行於世。道宣曾從北魏慧光三傳弟子智首受四分律義，自唐高祖武德

九年（六二六）至太宗貞觀十九年（六四五）間，先後撰著四分律刪繁補闕行事鈔、四分律拾毗尼義鈔、四分律刪補隨機（音結）磨疏、四分律注戒本疏、比丘尼鈔等五書，是為本宗之五大部疏鈔，並於終南山創設戒壇，制訂佛教授戒儀式。將佛教分為化教與制教，以定、慧二學為化教，戒學為制教。化教又分性空教（小乘）、相空教（說般若經等之大乘淺教）、唯識圓教（說唯識教義之大乘深教）。制教由對戒體之看法分為三宗，即：實法宗（有部以戒體為色法）、假名宗（成實論以戒體為非色非心）、圓教宗（據唯識宗教義以戒體為心法）。道宣稱該宗為圓教宗，以心法（阿賴耶識所藏種子）為

戒體，將戒分為止持、作持二門：止持，即諸惡莫作之意，規定比丘二百五十戒、比丘尼三百八十四戒，又依犯戒內容分為若干類（聚）；作持，即諸善奉行之意。包括關於受戒、說戒、安居及衣食坐臥之種種規定。主張四分律形式雖屬小乘，而內容則應屬大乘。

道宣於高宗乾封二年（六六七）入寂，其門下較著名者有智仁、大慈、周、秀、文綱、融濟，而以周律師（或謂秀律師）為南山宗第二祖。其後之相繼者為道恆、省躬、惠正、法寶、元表、守言、元解、法榮、處恆、擇悟、允堪、擇其、元照、智交、准一、法政、法久、如蓮、行居。歷代諸祖皆

致力造立章疏，其中，第十三祖允堪曾注解道宣之十部律書，世稱十本記主。第十五祖元照曾注解道宣之三大部律，即四分律行事鈔資持記、四分律含注戒本疏行宗記、四分律羯磨疏濟緣記等三部律學名著。

338. 【法相】（科註第二〇五頁倒數第三行）

《三藏法數》「法相宗」條：謂此宗說一切有漏妄法及無漏淨法，無始時來，各有種子，在阿賴耶識中，遇緣熏習，即各從自性而起，都不關涉真如。故於色心諸法，而建立種種名相，是名法相宗。（梵語阿賴耶，華言藏識，即第八識也。）

《佛學大辭典》「法相宗」條（節錄）：（流派）八宗之一。為窮明萬法性相之宗，故

名法相宗。此目取解深密經一切法相品之名而立。又依唯識論明萬法唯識之理，故名唯識宗，此目取解深密經分別瑜伽品之意。此二者為通稱。更名應理圓實宗，以所詮之理離空有二邊能應理，而為圓滿真實故也。此目取解深密經勝義諦相品之意。又名普為乘教宗。以本宗是佛第三時之教，普被五乘之機故也。此目取解深密經無自性相品之意。其中前二名，為約於法相門之稱，次名為約於觀心門之稱，次為約於教相門之稱。我國慈恩寺窺基，大成此宗，故有慈恩宗之名。經以解深密經，論以瑜伽論唯識論等為所依。

原在印度，佛滅後一千年中，無著菩薩由

阿逾陀國講堂夜夜昇兜率天，就彌勒菩薩聽受瑜伽論，晝日宣說之於大眾，瑜伽論百卷是也。其後無著之弟世親，造唯識論，助成其義，彼土名為瑜伽宗。玄奘入西域受之於那蘭陀寺之戒賢，傳於支那弟子慈恩大成之，始有法相宗，慈恩宗之名。

339. 【三論】（科註第二〇五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「三論宗」條：（流派）

依中論等三論而立宗，故名三論。言祖師之血脈則以文殊菩薩為高祖，馬鳴為次祖，龍樹為三祖。龍樹有二弟子，分二流，一者龍樹、龍智、清辨、智光、師子光；一者龍樹、提婆、羅<sup>hōu</sup>睺<sup>ㄊㄨㄛˊ</sup>（音猴）羅多、沙車王子、羅什。羅什來中國，盡譯三論，為此土之高

祖。弟子事之者稱三千人。以道融、僧叡（音瑞）、僧肇、道生，為尤著。稱關中四傑。道生後有曇濟、僧瑾、道猷（音猷）。曇濟後有道朗。道朗後有僧詮。時當北齊之初。法統將絕。詮再興之。詮後有法朗、辨公、慧勇、慧布。以法朗為尤著。嘉祥大師吉藏出其門。三論宗於以大成。

嘉祥已前稱古三論，又稱北地之三論。嘉祥已後謂之新三論，又云南地之三論。諸祖中特定嘉祥為太祖。而北方又加龍樹之智度論稱四論宗。惟不盛。寄歸傳一曰：「所云大乘無過二種：一則中觀，二乃瑜伽。中觀則俗有真空體虛如幻，瑜伽則外無內有事皆唯識。」是三論法相之二宗也。

《佛學常見辭彙》：依中論、十二門論、百論等而立的宗，叫做三論宗，又名法性宗、空宗、般若宗等。此宗破外道的邪見和迷執，說宇宙萬事萬物都無固定的自性，是隨因緣的關係而變動，所謂緣生的，因之說自性本空，主張理解佛理，使內心解脫流轉，從而證人真空本性。在印度以文殊、馬鳴、龍樹等菩薩為祖，在中國則以東晉時鳩摩羅什為始祖。

340. 【法華三昧】（科註第二〇五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）三諦圓融之妙理，分明現前，障中道之無明止息，謂之法華三昧。此法華三昧之名為法華經妙音菩薩品所說十六三昧之異名。法華三昧

者，天台之意，三諦圓融為一實，譬之權實不二之花（花實為實，花瓣為權法），攝一切法使歸一實相也。嘉祥云於三一（三乘和一乘）自在，長短無礙，謂之法華三昧。慈恩云：達於一乘之理也。（中略）又欲證得法華三昧別設道場讀誦法華之行法，謂之行法華三昧。又曰修法華懺法。智者大師之法華三昧懺儀，荊溪之法華三昧行事運想補助儀各有一卷。

341. 【天臺山】（科註第二〇五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（地名）在浙江省台州天台縣之西，仙霞嶺脈之東支也。形勢高大，西南接括蒼、雁蕩，西北接四明、金華，蜿蜒東海濱，如衣之有緣。隋智者大師

依此山而開闢一宗，因之有天台宗之名。

觀音玄義記一曰：「天台山者即大師棲身入寂之所。」

輔行一曰：「台者星名，其地分野應天三台，故以名焉。」

大明一統志四十七曰：「天台山在天台縣西一百一十里，道書是山上應台星，超然秀出。有八重視之如一帆，高一萬八千丈，周迴八百里。」

342. 【天臺韶sháo韶sháo】（音勺）國師（科註第二〇五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（人名）吳越王之為師也。三十二祖傳曰：「德韶，處州龍泉人，族陳氏，法眼之法嗣也。入天台山建寺院，

大興玄妙之宗，吳越王錢元guàn貫（音貫）尊為國師。時天台智者教典散落，惟新羅國有全本，往彼國繕寫備足，入藏。傳法弟子百餘人，永明壽為上首。嘗以涅槃四種聞示學者，曰聞、不聞、不聞聞、不聞不聞，諸方目為四料揀，清雍正十二年封妙慈圓徹禪師。」

343. 【法眼宗】（科註第二〇五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（流派）禪宗五家之一。源出六祖弟子行思。五傳而至雪峰。雪峰傳玄沙。玄沙傳羅漢。羅漢傳文益禪師。住金陵清涼院。嘗舉華嚴初地中六相義。並說三界唯心，萬法唯識。世謂之法眼宗。

344. 【宗鏡錄】（科註第二〇六頁第二行）

《佛光大辭典》：凡一〇〇卷。又作宗jiàn鑑（音見）錄、心鏡錄。永明延壽（九〇四—九七五）著，成書於宋太祖建隆二年（九六一）。收於大正藏第四十八冊。本書廣收大乘經論六十部，及印度、中國聖賢三百人之著作等彙編而成。其內容詳述諸佛之大意與經論之正宗。全書立論重在頓悟、圓修，所謂「禪尊達摩，教尊賢首」為其中心思想，為昭示禪教一致之修禪要文集。

全書分為標宗章、問答章、引證章等三部分。第一部分標宗章，為總論概說，占第一卷之大半。第二部分問答章，自卷一後半至卷九十三，討論關於心與教禪諸宗之異同問題。第三部分引證章，自卷九十四至卷末，

引證三百餘處經文以強調第二部分之論述。

書成之後並未流通，至宋神宗元豐（一〇七八—一〇八五）年間始有木刻本流行。以後有改訂版出現，明末刻印嘉興藏時，智旭重新刪定改訂本。至清代，續有節本出現。

345. 【《心賦注》】（科註第二〇六頁第二行）

《佛學大辭典》「永明心賦註」條：（書名）永明著，四卷。

346. 【《萬善同歸集》】（科註第二〇六頁第二行）

《佛學大辭典》：（書名）六卷，宋延壽著。明眾善盡歸於實相者。

347. 【《法炬》】（科註第二〇六頁第二行）

《佛學大辭典》：（譬喻）法能照物，故譬之以火炬。

大集經五十六曰：「法炬當散滅。」

348. 【《初心》】（科註第二〇七頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）初發心而未經深行者。

首楞嚴經一曰：「復有無量闕支無學並其初心，同來佛所。」

止觀一曰：「初心尚爾，況中後心。」往生要集中本曰：「初心觀行不堪深奧。」

349. 【《如來不思議境界經》】（科註第二〇七頁第五行）

《佛學大辭典》：（經名）大方廣如來不思議境界經之略名。

○大方廣如來不思議境界經：（經名）一卷，唐實叉難陀譯。佛於菩提樹下成正覺

時，十方之諸佛，現菩薩之形，為觀音普賢等，無量之菩薩，現聲聞之形，為舍利弗等。佛入三昧，名如來不思議境界。於諸相中現十方之佛刹，於諸好中現往昔之行門，於是德藏菩薩問普賢菩薩此三昧之名，普賢說其名義及證得此三昧之福德因緣。

350. 【心量】（科註第二〇七頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）心起妄想，種種度量外境謂之心量，是凡夫之心量也。如來真證之心量，離一切之所緣能緣而住於無心是也。楞伽經三曰：「觀諸有為法，離攀緣所緣，無心之心量，我說為心量。」

351. 【妙喜世界】（科註第二〇七頁第六行）

《佛學大辭典》：（界名）維摩居士之國土也。

維摩經見阿<sup>チ</sup>闍<sup>ク</sup>（音觸）佛國品曰：「佛告舍利弗：有國名妙喜，佛號無動，是維摩詰於彼國沒而來生此。」

352. 【毘盧遮那經】（科註第二〇九頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（經名）大毗盧遮那神變加持經之略稱。即大日經也。

353. 【閻<sup>マニ</sup>闍<sup>ク</sup>】（科註第二一〇頁倒數第三行）

《漢語大詞典》：門檻。

354. 【臻<sup>ゼン</sup>】（音真）（科註第二一〇頁倒數第三行）

《漢語大詞典》：到；達到。

355. 【螢光】（科註第二一〇頁倒數第一行）

《三藏法數》「螢光喻聲聞智」條：謂螢火之光，只能自照，不能照物。以喻聲聞之人，雖觀四諦悟真空理，只能自度，不能度

人。故云螢光喻聲聞智。（四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。）

356. 【yě治一七（音也）】（科註第二二頁第一行）

《漢語大詞典》：指熔爐。

（六）藏教所攝

357. 【藏教所攝】（科註第二二頁第六行）

《三藏法數》：藏即含藏之義。謂經律論之三藏，各能包含無量義理也。教即契經、重頌、授記、諷頌、自說、因緣、譬喻、本事、本生、方廣、希有、論議，十二分教也。所攝者，謂此經與彼三藏十二分教，互相攝也。若彼攝此，於三藏中，屬經藏攝；十二分中，屬契經、方廣二分所攝。若此攝

彼，則三藏十二分教皆屬此經攝也。蓋此經一法，能含無盡法門，而況法法圓融，重重無盡。經云：一切法門無盡海，同會一法道場中。是也。（契經者，謂長行散說之文也。重頌者，謂再頌長行之文也。授記者，謂佛授菩薩作佛之記也。諷頌者，謂不頌長行而直說偈也。自說者，謂佛不待他問而自說也。因緣者，謂有人問故為說是事也。譬喻者，謂假譬而說也。本事者，謂說弟子前世之事也。本生者，謂說菩薩所修行之事也。方廣者，謂說正理之廣大也。希有者，謂佛現神力種種等事也。論議者，謂決擇辯論一切法義也。）

358. 【三藏】（科註第二二頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）Tripiṭaka，經律論也。此三者，各包藏文義，故名三藏。經說定學，律說戒學，論說慧學。因之而通三藏達三學者，稱為三藏。特為真諦玄奘等翻譯師之稱號。其梵名一一列之於下。

一、素<sup>そ</sup>咄<sup>とつ</sup>（音答）<sup>そつ</sup>纜<sup>らん</sup>（音懶）藏<sup>じゆ</sup> Sūtrapiṭaka，舊曰修多羅藏，譯曰<sup>じゆん</sup>經<sup>ぎん</sup>（音現。通「線」），聖人之言說，能貫穿諸法，如經之貫花<sup>まん</sup>鬘<sup>りやう</sup>（音瞞），故喻之以經。然經者訓常訓法，以聖人之言而名之。且經之持緯恰具經之義，故譯家易經以經。

二、毗<sup>び</sup>（音皮）奈耶藏 Vinayapiṭaka，舊作毗尼藏，譯曰滅。滅三業過非之義。別名優婆羅叉，譯曰律，毗奈耶之教能詮律，故

別名謂之律。

三、阿毗達磨藏 Abhidhamapiṭaka，舊作阿毗曇藏，新譯曰對法，以對觀真理之勝智而名。舊譯無比法，亦稱勝智而謂為無比。此藏生對觀涅槃之無比勝智，故名阿毗達磨。別名優婆提舍，譯曰論，論諸法之義。此藏所詮論諸法之性相，而生勝智，故別名為論。此三藏有三種：一、小乘之三藏，二、大乘之三藏，三、大小之三藏。

359. 【大乘義章】（科註第二二二頁第四行）

《佛學大辭典》：（書名）二十卷，隋淨影寺之慧遠撰。分義為五聚：一教聚，有三門。二義聚，有六門。三染聚，有六十門。四淨聚。有一百三十一門。五雜聚，欠缺。

解釋大小乘法相之古今第一書也。

360. 【經藏】（科註第二一二頁第五行）

《三藏法數》：經藏者，即如來所說一大藏，大小乘諸經也。經，法也、常也，十界同遵，謂之法。三世不易，謂之常。又云契經，謂上契諸佛之理，下契眾生之機也。（十界者，佛界、菩薩界、緣覺界、聲聞界、天界、人界、修羅界、餓鬼界、畜生界、地獄界也。三世者，過去、現在、未來也。）

361. 【修多羅】（科註第二一二頁第五行）

《三藏法數》：梵語修多羅，華言契經。契者，上契諸佛之理，下契眾生之機也。經，法也、常也，乃聖教之總名。今言修多羅，即經中長行之文也。謂直說法相，隨其

義理長短，不以字數為拘，是為長行也。

（法者，十界同遵也；常者，三世不易也。）

362. 【契經】（科註第二一二頁第五行）

《三藏法數》「契經二義」條：〔出阿毗達磨大毗婆沙論〕契者，上契諸佛之理，下契眾生之機。經者法也，常也。如來所說契經，有此結集、刊定之二義也。

一、結集義：謂如來契經，攝持眾義，冠有精心，令無忘失，猶結華鬘冠眾生首，久無遺散也。

二、刊定義：謂如來契經，裁斷眾義，了別是非，去惡留善，猶匠繩墨，治彼眾材，zhuó 出之斲（音酌。砍，削也）邪歸正，去曲留直也。

363. 【律藏】（科註第二一二頁第五行）

《三藏法數》：律藏者，即如來所制大小乘戒律也。律，法也。謂能治眾生貪瞋癡種種之惡。如治世法律，則能斷決重輕之罪也。

364. 【毘奈耶】（科註第二二二頁第五行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）Vinaya，一作鼻那夜，毗那耶，又云毗尼，多pi 鞞（音皮）尼迦。三藏之一，謂佛所說之戒律。譯曰滅，或律，新譯曰調伏。戒律滅諸過非，故云滅，如世間之律法，斷決輕重之罪者，故云律，調和身語意之作業，制伏諸要行，故云調伏。

毗尼母論一曰：「毗尼，名滅。滅諸惡法，故名毗尼。」

大乘義章一曰：「言毗尼者是外國語，此翻為滅。」

行事鈔中一曰：「毗尼，或云毗奈耶，或云毗那耶，此翻為律。或以滅翻從功能為號。終非正譯，故以律翻之，乃當正義。」

義林章二本曰：「毗奈耶者，此云調伏。」探玄記一曰：「毗奈耶，此云調伏。調者和御，伏者制滅，調和控御身語等業，制伏除滅諸惡行故。」

玄應音義十四曰：「毗尼，或言鞞泥迦，或言毗那耶，或云鼻那夜，或云毗奈耶，皆由梵音輕重聲之訛轉也。此譯云離行，行並道也。謂此行能離惡道，因以名焉。」

365. 【論藏】（科註第二二二頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）三藏之一。十部經中有曰優婆提舍者，譯曰論議經。是佛自問答決擇法相者。佛弟子及滅後諸菩薩等准之而聚集解釋經義，論辦法相者，名為阿毘達磨藏，三藏之第三。蓋阿毘達磨藏者，弟子之優婆提舍也，因為論藏。阿毘達磨有四名。優婆提舍，其一名也。

366. 【阿毘達磨】（科註第二一二頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）Abhidharma，又作阿鼻達磨。論部之總名。舊稱阿毘曇。譯曰大法，無比法。大法，無比法，乃真智之尊稱，凡論部為發生其真智者，故附以大法，無比法之名。新稱阿毘達磨。譯曰對法。對法者智慧之別名。以智慧對觀諸法真

之理義。蓋論部問答決擇諸法事理使人之智慧發達。智慧為對觀真理者，故轉指論部對觀真理者，即謂之阿毘達磨。

出三藏記十曰：「阿毘曇者，秦言大法也。」

大乘義章一曰：「阿毘曇者，此方正翻，名無比法。阿，謂無也。毘，謂比也。曇，謂法也。」

西域記三曰：「阿毘達磨藏，或曰阿毘曇藏，略也。」

玄應音義十七曰：「阿毘曇，或言阿毘達磨，或云阿鼻達磨，皆梵音轉也。此譯云勝法，或言無比法，以詮慧故。或云向法，以因向果故。或名對法，以智對境故。」

起信論疏曰：「今譯為對法，謂阿毘是能對智，達磨是所對境法，謂以正智。妙盡法源，簡擇法相，分明指掌，如對面見，故云對法。」

367. 【二藏】（科註第二二二頁第七行）

《佛學大辭典》：（名數）一、聲聞藏，說聲聞緣覺二乘之教理行果者，即小乘之三藏也。二、菩薩藏，說菩薩大士之教理行果者，大乘之三藏也。淨影嘉祥以此二藏判一代教。

大乘義章一曰：「就出世間中復有二種：一聲聞藏，二菩薩藏。為聲聞說，名聲聞藏；為菩薩說，為菩薩藏。故地持云：十二部經唯方廣部是菩薩藏，餘十一部是聲聞

藏。〔中略〕龍樹亦云：迦葉阿難於王舍城結集三藏為聲聞藏，文殊阿難於鐵圍山集摩訶衍（大乘）為菩薩藏，聖教明證顯然矣。此二亦名大乘小乘，半滿教也。聲聞藏法狹劣名小，未窮名半。菩薩藏法寬廣名大，圓極名滿。」

三論玄義曰：「但應立大小二習，不應制於五時，略引三經三論證之。〔中略〕以經論驗之，唯有二藏，無五時矣。」

368. 【聲聞藏】（科註第二二二頁第七行）

《三藏法數》：聞佛聲教，故曰聲聞。謂佛說阿含等經，含藏小乘聲聞等修因證果之法，是名聲聞藏。（梵語阿含，華言無比法。）

369. 【菩薩藏】(科註第二一二頁第七行)

《佛學大辭典》：(術語)二藏之一。大乘經之都名。法華華嚴等諸大乘經，含藏大乘菩薩修因證果之法，故名菩薩藏。

370. 【智度論】(科註第二一二頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(書名)大智度論之略名。(參見「《大智度論》」487)

371. 【淨影疏】(科註第二一二頁倒數第二行)

《佛光大辭典》「無量壽經義疏」條(節錄)：凡二卷，或一卷。隋代慧遠撰。又稱無量壽經疏、大無量壽經疏、大經義疏、淨影大經疏。收於大正藏第三十七冊。係康僧鎧所譯無量壽經之注釋書。於文前舉出二藏二教之教判，以無量壽經為菩薩藏頓教所

攝；次釋經名，分科經文，一一解釋文義。本書為無量壽經現存最古之注疏，其分科及三願分類等方法，為古來之淨土諸家所引用。

372. 【迦<sup>ra</sup>葉<sup>ya</sup>】(音攝)(科註第二一二頁倒數第二行)

《佛學大辭典》「迦葉尊者」條：(人名)佛弟子中有摩訶迦葉 Mahākāśyapa，優樓頻螺迦葉 Urūvilvākāśyapa，伽耶迦葉 Gayakāśyapa，那提迦葉 Nadikāśyapa，十力迦葉 Daśabalakāśyapa 五人。單云迦葉者，指摩訶迦葉，頭陀第一。付法藏之第一祖也。

○摩訶迦葉(節錄)。(人名) Mahākāśyapa，具曰摩訶迦葉波。摩訶譯曰大。迦葉波譯曰龜或飲光。婆羅門種之一姓。名畢波羅

Pippala，彼父母禱於畢波羅樹神而生，故名畢波羅。為大富長者之子，能捨大財與大姓，修頭陀之大行，為大人所識，故標大之名。以別於十力，優樓頻羅等之迦葉姓。（中略）

法華文句一曰：「摩訶迦葉，此翻大龜氏。其先代學道，靈龜負仙圖而應，從德命族，故言龜氏。真諦三藏翻光波，古仙人，身光炎湧，能映餘光使不現，故言光波，亦云飲光，迦葉身光亦能映物。名畢波羅，〔中略〕畢波羅樹也，父母禱樹神求得此子，以樹名之。」（中略）

十八部論疏云：「具足應云迦葉波，迦葉此云光，波此云飲，合而言之故云飲

光。飲光是其姓。上古有仙人名為飲光，以此仙人身有光明，能飲諸光令不復現。今此迦葉是飲光仙人種，即以飲光為姓，從姓立名，稱飲光也。又此羅漢亦自有飲光事。」

373. 【阿難】（科註第二二二頁倒數第一行）

《三藏法數》：梵語阿難，華言慶喜。斛飯王之子，佛成道日生，生時舉國欣慶，故云慶喜。隨佛出家，得阿羅漢果。多聞第一，能持法藏。如來滅後，與文殊師利集諸大眾於鐵圍山等處，結集脩多羅藏。（梵語脩多羅，華言契經。）

《佛學大辭典》：（人名）Ananda，阿難陀之略。譯曰歡喜，慶喜。斛飯王之子，提

婆達多之弟，佛之從弟，十大弟子之一。生於佛成道之夜。佛壽五十五，阿難二十五歲時出家，從侍佛二十五年，受持一切佛法。見中阿含第八侍者經，智度論三，文句二之上，阿彌陀經慈恩疏上。

374. 【結集】（科註第二二二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）Sanghi，佛滅後，諸弟子相會，為防止異見邪說，誦佛陀之說法，舉各自所聞確實者，結集成之，為大小乘經典。但經論所傳不同，以下順次大別而記之。

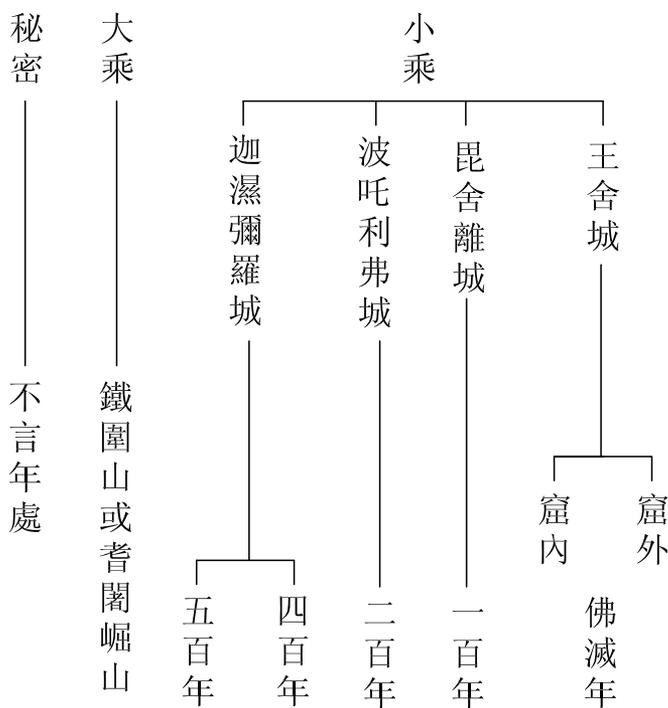
第一為小乘經之結集。第二為大乘經之結集。第三為秘密經之結集。

第一小乘經之結集有四期。第一王舍城之

結集，第二毘舍離城之結集，第三波吒利弗城之結集，第四迦濕彌羅城之結集是也。

又，太炎文錄初編別錄三曰：「佛未涅槃以前經典已有結集，如阿毘達磨法蘊足論為目乾連所造，而引大因緣經及教誨頗勒じ窣す（音具）那經（卷十一），即小乘初次結集，亦非止阿難集經，優波離集律，迦葉集論而已。西域記九云：諸學無學數百千人不預大迦棄結集之眾更相謂曰：如來在世，同一師學。法王寂滅，簡異我曹。欲報佛恩，當集法藏。於是凡聖咸會，賢智畢萃，復集素咀纜藏（舊曰修多羅藏，即經藏），毘奈耶藏，阿毘達磨藏，雜集藏，禁咒藏（係指於經、律、論三藏之外，另立咒藏，為專門收集佛所說之

秘密真言、陀羅尼等之經典），別為五藏。凡聖同會，因而謂之大眾部。是則阿含以外大眾部又有所集可知（此大眾部乃佛弟子，非佛滅百年大天破教以後之大眾部也）。



375. 【鐵圍山】（科註第二一二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（界名）圍繞鹹海而區劃一小世界之鐵山也，由鐵而成。須彌山為中心，外有七山八海，第八海即鹹海，瞻部等四大洲在此，圍繞此鹹海者，即鐵圍山，此為一小世界。俱舍論十一曰：「於金輪上有九大山，妙高山王處中而住，餘八周匝遶妙高山。於八山中前七名內，第七山外有大洲等。此外復有鐵輪圍山，周匝如輪，圍一世界。」梵 Cakravāḍa。

376. 【摩訶衍<sup>14</sup>（音演）】（科註第二一二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）具曰摩訶衍那 Mahāyāna，譯曰大乘。聲聞緣覺二乘之教法為小乘，菩薩之教法為大乘。

慧苑音義上曰：「摩訶衍，具云摩訶衍那，言摩訶者此云大也，衍那者云乘也。」

勝鬘mán ㄇㄢˊ（音瞞）經曰：「摩訶衍者，出世一切聲聞緣覺世間出世間善法。」

起信論曰：「摩訶衍者，總說有二種：一者法，二者義。」

智度論百曰：「摩訶衍是大乘法。」

377. 【《地持》】（科註第二二三頁第一行）

《佛光大辭典》「菩薩地持經」條（節錄）：

梵名 Bodhisattva-bhūmi。凡十卷（或八卷）。

又稱菩薩地經、地持經、菩薩戒經、菩薩地持論、地持論。北涼曇無讖chèn ㄔㄣˋ（音趁）譯。收

於大正藏第三十冊。（中略）本經與瑜伽師地論本地分中之菩薩地為同本，然其中缺發正

等菩提心品。異譯本另有求那跋bá ㄅㄚˊ（音拔）摩所譯九卷本之「菩薩善戒經」。本經詳說大乘菩薩修行之方便，內容分初方便處、次法方便處、畢竟方便處三部分，凡二十七品。

378. 【天臺大師】（科註第二二三頁第六行）

見「智者」324。

379. 【《涅槃經》】（科註第二二三頁第六行）

《佛學大辭典》（節錄）：（經名）有小乘

大乘之二部。小乘之涅槃經：西晉白法祖譯，佛般泥洹經二卷；東晉法顯譯，大般涅槃經三卷，失譯，般泥洹經三卷，是為同本異譯，說八相成道化身之釋迦，於拘尸那城入涅槃前法之狀者。是化身佛之實錄也。其他中阿含中有涅槃經。說可得涅槃之觀行。

大乘之涅槃經，西晉竺法護譯佛說方等般泥洹經二卷，東晉法顯譯大般泥洹經六卷，隋闍那崛多譯四童子三昧經三卷，此三本廣略不同，然皆為大乘涅槃經之初一分也。其全經為北涼曇無讖chén 讖譯大般涅槃經四十卷，稱為北本涅槃。後劉宋慧觀等再治前經為大般涅槃經三十六卷，稱為南本涅槃。說佛之涅槃，非灰身滅智，佛今雖現入滅之相，然佛身常住不滅。此外唐若那跋陀羅譯大般涅槃經後分二卷，說佛之附屬及入涅槃，丘茶毗去文，分骨等事。是為前經後分之補足，故稱為後分經。

已上數本中，常稱為涅槃經者，乃南北二本之大般涅槃經。南本不拘有台家章安之

疏，諸宗一般通用者，北本涅槃也。

380. 【華嚴時】（科註第二二三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）天台判教五時之一。謂佛成道最初在三七日中說華嚴經之間也。（中略）天台一家定為成道日已後三七日間之說，是取法華經方便品所謂「我始坐道場，觀樹亦經行，於三七日中，思惟如是事」，以此思惟時，正為華嚴之說時故也。言心者，如來成道，不立其座，直對大乘菩薩於三七日間說華嚴之大法，感見彼小機為觀樹經行而作思惟者也。

玄義十下以為華嚴頓說之證文，引方便品三七思惟文了，乃曰：「我始坐道場，即是明頓也。〔中略〕寂滅道場，始成正覺，為

諸菩薩，頓說大乘。如日初出，前照高山，

此明最初釋迦頓說也。」同釋 qiān kǎn 籤（音千）

曰：「約大機即寂場之時，約小機即成已思惟未說之時。」（寂場之時者，謂於寂滅道場（化身佛證有餘涅槃之道場）說華嚴之時）。

文句記曰：「小見三七停留，大都終始無改。」（參見「五時說法」311）

381. 【阿含時】（科註第二二三頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）教相判釋五時之一。世尊說阿含經之時。又名鹿苑時。以於鹿野苑說此故也。佛成道後十二年間之名。大藏經中四阿含之外，或冠阿含之名，或立別題之小乘經甚多，皆為阿含之別出及其部類，故一切小乘部之經典，總名阿含

經。（參見「五時說法」311）

382. 【鹿野苑】（科註第二二三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「鹿野園」條：（地名）

Migadava，又名鹿野苑、仙人論處、仙人住處、仙人墮處、仙人鹿園、仙人園、仙園、鹿園、施鹿園、鹿林等，在中天竺波羅奈國，佛成道後，始來此說四諦之法，度 jiāo 憍（音交）陳如等五比丘。

為古來仙人始說法處，故名仙人論處。為仙人之住處，故名仙人住處。昔有五百仙人見王之 cǎi 嫫（音彩）女發欲心失神通墜墮於此，故名仙人墮處。為諸鹿之住處，故名鹿林。梵達多王以此林施鹿，故名施鹿林。

大毗婆沙論一百八十二曰：「問何故名仙

人論處？答若作是說諸佛定於此處轉法輪者，彼說佛是最勝仙人，皆是於此處初轉法輪，故名仙人論處。若作是說諸佛非定於此轉法輪者，彼說應言仙人住處，謂佛出世時有佛大仙及聖弟子仙眾所住，佛不出世時有獨覺仙所住。若無獨覺時有世俗五通仙住，以此處恒有諸仙住已今住當住，故名仙人住處。有說：應言仙人墮處。昔有五百仙人飛行空中，至此遇退因緣一時墮落，問何故名施鹿林？答恒有諸鹿遊止此林，故名鹿林。昔有國王名梵達多，以此林施與群鹿，故名施鹿林。」

西域記七曰：「波羅尼斯國大林中有<sup>su</sup>窣<sup>窣</sup>（音酥）堵波，是如來昔與提婆達多俱為鹿王

斷事之處。昔於此處大林之中有兩群鹿各五百餘。時此國王<sup>tián</sup>田<sup>たに</sup>畋<sup>ぎ</sup>（音田。打獵）遊原澤，菩薩鹿王前請王曰：大王校獵中原，縱燎飛天，凡我徒屬命盡茲晨。不日腐臭無所充饑，願欲次差日輪一鹿。王有割鮮之饑，我延旦夕之命。王善其言迴駕而返，兩群之鹿更次輪命，提婆群中有懷孕鹿次當就死，白其王曰：身雖應死，子未收也。鹿王怒曰：誰不寶命。雌鹿嘆曰：吾王不仁，死無日矣。乃告急菩薩鹿王。鹿王曰：悲哉！慈母之心，恩及未形。吾今代汝，遂至王門。道路之人傳聲唱曰：彼大鹿王今來入邑，都人士庶莫不馳觀。王聞之以為不誠，門者白至，王乃信然。曰鹿王何遽來耶？鹿曰：有

雌鹿當死，胎子未產，心不能忍，敢以身代。王聞嘆曰：我人身鹿也，爾鹿身人也。於此悉放諸鹿不復輪命，即以其林為諸鹿<sup>sōu</sup>藪<sup>ㄅㄨˋ</sup>（音叟。聚集處），因而謂之施鹿林焉。鹿野之號自此而興。」智度論十六所記與此同。

383. 【《四阿含經》】（科註第二二三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（經名）一切之小乘經分類為四部：一、增一阿含經，五十一卷，搜集法門之數者。

二、長阿含經，二十二卷，集長經文者。

三、中阿含經，六十卷，集不短不長之經文者。

四、雜阿含經，五十卷，混集前三者。四

部之名，因經文之體裁而名。

384. 【方等時】（科註第二一四頁第一行）

《三藏法數》：眾機普被曰方，四教並談曰等。時者，謂次說方等諸經，如日照平地之時也。蓋由前鹿苑中說小乘法，二乘之人，得少為足，便謂究竟，故假維摩居士以呵斥之，使其恥小慕大。故說維摩、楞伽等經，是名方等時也。（四教者，藏教、通教、別教、圓教也。）

《佛學大辭典》：（術語）台家所判五時之第三。自成道已後十二年，於八年之間，說維摩經金光明經等之諸方等時期也。此諸經名為方等者，由於方等三義中事方等之義。見方等及五時各條。（參見「五時說法」

311)

385. 【《維摩》】（科註第二一四頁第二行）

即《維摩詰所說經》。（參見《維摩經》764）

386. 【《大集》】（科註第二一四頁第二行）

即《大方等大集經》。（參見《大集經》724）

387. 【彈偏斥小，歎大褒圓】（科註第二一四頁第

二行）

《天台教學辭典》「彈偏析小」條（節

錄）：「五時」中，用以表示第三「方等時」特質之用語。全稱彈偏析小歎大褒圓。出自諦觀大師『天台四教儀』，該書中有「析小彈偏，歎大褒圓」之語。

「彈」，彈斥；「偏」指化法四教中前三教（藏、通、別），台宗認為此三教法，猶

為應機之權教，而非圓融究竟教法，故謂之偏；「析」析挫之意；「小」指小乘教（藏教）或執於淺窄狹隘之思想教說；「歎」，稱歎；「大」指大乘教，或持正不偏、深廣圓融之思想教說；「褒」褒美；「圓」指圓教，即化法四教中之第四教。（中略）

五時教中，台宗認為方等時之教法特點即在於「彈偏析小，歎大褒圓」，即彈斥藏、通、別等三教偏淺、不究竟，而褒美圓教深廣圓融之妙義；或析挫小乘教（藏教）之偏執，而稱歎通、別、圓等大乘教。此即所謂「方等之彈訶」。

蓋針對所化機，此法「彈偏析小」旨在導其恥小慕大，趨向上乘！又於諸本方等部之

經典中，台宗認為《維摩經》最能顯現「彈偏析小，歎大褒圓」之特質，如湛然大師所著《法華玄義釋籤》卷十九謂：「維摩經」之菩薩品即屬「彈偏」之具現，弟子品即為「析小」之表現，觀眾生品即為「歎大」之顯現！又經中對文殊菩薩及維摩居士之稱歎，即是「褒圓」之殊勝！〔四教儀集註卷上〕

388. 【般若時】（科註第二一四頁第四行）

《三藏法數》：梵語般若，華言智慧，經名也。時者，謂次說此經，如日照<sub>yu</sub>禺<sub>u</sub>（音于）中之時也。蓋由小乘既被彈呵，回心向大，然其執情未能頓泯，由是廣談般若空慧之法而淘汰之，是名般若時也。（禺中時，已時也。）（參見「五時說法」311）

389. 【《大般若》】（科註第二一四頁第五行）

《佛學大辭典》：（經名）大般若波羅蜜多經之略名。（參見「《大般若經》」731）

390. 【法華涅槃時】（科註第二一四頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）台家五時之一。法華涅槃二經同為醍醐味，故合為一時也。（參見「五時說法」311）

391. 【授記】（科註第二一四頁倒數第四行）

《佛光大辭典》：梵語 Vyākaraṇa，巴利語 Veyyākaraṇa。音譯毗耶佉梨那、弊迦蘭陀、和伽羅那、和羅那。又作授決、受決、受記、受<sub>bié</sub>蒞<sub>之ニセ</sub>（音別）、記別、記蒞、記說、記。十二部經之一，九部經之一。區別、分析、發展之意。本指分析教說，或以問答方

式解說教理；轉指弟子所證或死後之生處；後專指未來世證果及成佛名號之預言（又作預記）。（中略）

授記之條件，大乘莊嚴經論卷十二載有國土名、佛名、時節、劫名、眷屬、正法存續期間等六項，然諸經所記，廣略不同。授記之形式，一般皆以佛先現微笑由面門放光照十方，其次上座弟子請問微笑因緣，以為發端。又關於為何授記，金光明最勝王經疏卷六舉出三種原由，即：

- 一、菩薩多修功德，證得法性，故授記。
- 二、修證階位較淺之小菩薩，其成佛之種性尚未決定，時或生疑，為去除其疑，堅固其道心，乃為之授記。

三、令欣求佛果者見此授記，欣已當來亦可得此成佛之授記。

另於五佛頂三昧陀羅尼經卷三載有如來授記之印咒。「南本大般涅槃經卷十四、佛本行集經卷四受決定記品、菩薩地持經卷八菩薩功德品、成實論卷一「十二部經品」、大毗婆沙論卷一二六」

392. 【判教】（科註第二二四頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）判釋釋迦一代之教相也。如天台之五時八教（八教，化儀四教與化法四教），華嚴之五教是也。大乘之諸宗，各有教相之判釋。

法華玄義十曰：「聖人布教各有歸從，然諸家判教非一。」

393. 【四教】（科註第二二五頁第二行）

《三藏法數》「化法四教」條：〔出天台四教儀〕化法者，佛化眾生之方法也。

一、藏教：藏即含藏之義。謂經律論各含一切文理，故名藏教。

二、通教：謂通前藏教，通後別、圓，故名通教。（通前藏教者，謂此教鈍根菩薩，雖觀無生四諦，但證真空之理，與前藏教是同也。通後別、圓者，謂此教利根菩薩，證真空之理時，能於真空，了達不空，即入後之別教。若知空不空，具一切法，即入後之圓教也。）

三、別教：別即隔別不同之義。謂別前藏、通，別後圓教，故名別教。（別前藏、

通者，謂此教獨被菩薩，不涉二乘所修也。別後圓教者，謂此教所談法門，行相隔歷次第，而不圓融也。）

四、圓教：圓即不偏之義。謂此教所詮中道之理，性相圓融，事理無礙，法法具足，故名圓教。（參見「化法四教階位對比圖」書後折頁）

394. 【五教】（科註第二二五頁第二行）

《三藏法數》「賢首五教」條：〔出華嚴經疏〕賢首國師，唐則天時，於王宮講華嚴經，感五雲凝空，四華垂地，因賜以賢首之號。師以如來所說之法，而有淺深不同，乃約義立此五種之教。以華嚴一經，是佛稱性宣揚圓融法界之性，判為一乘圓教。餘經律論，判屬小、始、終、頓四教，故名賢首五

教。（五雲者，五色之雲也。四華者，四色之華也。）

一、小教：此教以隨機故，但說人空，不明法空。縱少說法空，亦不明顯。但依六識、三毒建立染淨根本，未盡法源，唯論小乘，名為小教。（六識者，眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識也。三毒者，貪毒、瞋毒、癡毒也。）

二、始教（亦名分教）：此教未盡大乘法理，名之為始。不言定性聲聞，無性闡提作佛，故亦名分。於中廣說法相，少說法性，決擇分明，是大乘之初，名為始教。（定性聲聞者，其性決定不樂大乘也。闡提，梵語具云一闡提，華言信不具。）

三、終教（亦名實教）：此教言定性聲聞，無性闡提，悉當成佛，方盡大乘至極之說，名之為終，以稱實理，亦名為實。於中少說法相，多說法性，雖說法相，亦會歸性，是大乘之終極，名為終教。

四、頓教：此教明一念不生，即名為佛。不依地位漸次而說，名之為頓。於中不說法相，唯明真性，一切所有，唯是妄想；一切法界，唯是絕言，名為頓教。

五、圓教：此教所說，唯是無盡法界，性海圓融，緣起無礙，相即相入，如帝網珠，重重無盡，於中明一位即一切位，一切位即一位，故十信滿心，即成正覺，名為圓教。（帝網珠者，謂帝釋殿前千珠寶網，光相交

映，互攝無礙也。十信者，信心、念心、精進心、慧心、定心、不退心、護法心、迴向心、戒心、願心也。」

395. 【教相】（科註第二二五頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）教觀二門之一。謂分別教義也。如天台之五時八教，法相之三時教乃至真言之顯密二教十住心是也。玄義一上曰：「教者聖人被下之言也。相者分別同異也。」

《天台教學辭典》：佛陀一代教法之相狀差別，即種種教義特徵及其差異，稱為教相。若以教相加之探討、闡釋、分別，即稱教相判釋，略稱判教、教判。一般以探討教相法門，係屬學術研究之範疇；各宗派乃針

對此點而另設實踐法門，以期學解與實踐二門並重。如法相宗有教相與觀道二門，天台宗有教相與觀心二門，日本淨土真宗有教相與安心二門。〔法華玄義卷一〕

396. 【賢首宗】（科註第二二五頁第三行）

《佛學大辭典》：（流派）華嚴宗也。至賢首而此宗大成，故名。（參見「華嚴宗」○二）

397. 【人空】（科註第二二五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）又名生空、我空，二空之一。觀人為五蘊之假和合，又為因緣所生，知中無常一之我體，故云人空。證此人空之理因而斷一切煩惱，終得涅槃果，是乃小乘之至極也。又大乘立一切法有真如性，空人我之執者，言人空之顯真如

也。

孔目章三曰：「我執無處所顯真如名人空。」

唯識述記一本曰：「智緣空起為所由門，顯二真如名二空理。〔中略〕如是空性，即是二空所顯實性。」

398. 【法空】（科註第二二五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）二空或三空之一。色心之諸法為因緣生之俗法而無實體，謂之法空。

法華經曰：「如來座者一切法空是。」同安樂行品曰：「菩薩觀一切法空。」

十地論一曰：「無我智者有二種：我空法空。」

法藏之心經鈔曰：「般若妙行有其二種：一淺，即人空般若。二深，即法空般若。」

（參見「二空」902）

399. 【<sup>多</sup>chǎn 闡（音產）提】（科註第二二五頁倒數第一行）

《三藏法數》「一闡提」條：梵語一闡提，華言信不具。謂此人撥無因果，顛倒邪見，不信現在未來業報，不親善友知識，不聽諸佛所說教誡，當墮地獄，無有出期。如世重病，終難治也。

《佛學大辭典》「一闡提」條：（術語）Ichānika，為無成佛之性者。舊稱，一闡提。譯言不信。是不信佛法之義。

涅槃經五曰：「無信之人，名一闡提。一

闡提者，名不可治。」

同五曰：「一闡提者，斷滅一切諸善根本，心不攀緣一切善法。」

同十九曰：「一闡提者，不信因果，無有慚愧，不信業報，不見現及未來世，不親善友，不隨諸佛所說教戒。如是之人，名一闡提，諸佛世尊，所不能治。」

同二十六曰：「一闡名信，提名不具，不具信故，名一闡提。」

涅槃經疏十曰：「古來云：闡提具含眾惡，不知的翻，唯河西翻為極欲，言極愛欲之邊，此即於總惡之內，取一事為翻。例如涅槃名含眾德，亦無的翻，而翻為滅度者，亦是總中取此一事為翻。」

新稱，一闡底迦，譯曰樂欲，樂生死之義。又作一顛迦。

楞嚴經六曰：「是一顛迦銷滅佛種，如人以刀斷多羅木。」長水之義疏曰：「一顛迦，即斷善根者。」

400. 【極則】（科註第二二五頁倒數第一行）

《漢語大詞典》：猶言最高準則。

401. 【中道】（科註第二一六頁第一行）

《佛學常見詞彙》：不偏於空，也不偏於有，非空非有，亦空亦有，不落二邊，圓融無礙，謂之中道。法相以唯識為中道，三論以八不為中道，天台以實相為中道，華嚴以法界為中道。（八不：不生不滅，不斷不常，不一不異，不去不來。）

402. 【妙有】（科註第二一六頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）非有之有曰妙有。以對於非空之空而曰真空也。

業疏濟緣記一上曰：「是知妙有則一毫不立，真空則因果歷然。」

403. 【真性】（科註第二一六頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）不妄云真，不變云性。是吾人本具之心體也。楞嚴經一曰：「前塵虛妄相想，惑汝真性。」

404. 【思益經】（科註第二一六頁第三行）

《佛學大辭典》：（經名）思益梵天所問經之略名。

○思益梵天所問經：（經名）四卷，秦羅什譯。思益者梵天之名，說大乘之實義而破

小乘之偏小。

405. 【性海】（科註第二一六頁第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（譬喻）真如之理性，深廣如海，故云性海。如來法身之境也。

406. 【緣起】（科註第二一六頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）事物之待緣而起也。一切之有為法，皆自緣而起者。

中論疏十末曰：「緣起者體性可起，待緣而起，故名緣起。」

法華經方便品曰：「佛種從緣起。」

俱舍論九曰：「諸支因分，說名緣起，由此為緣能起果故。諸支果分，說緣已生，由此皆從緣所生故。」

維摩經佛國品曰：「深入緣起，斷諸邪見。」

大日經三曰：「緣起甚深難可見。」

407. 【帝網】（科註第二一六頁第五行）

《佛學大辭典》：（物名）帝釋天宮之網也。同因陀羅網。（參見「因陀羅網」449）

○重重帝網：（術語）帝釋天之珠網，重重交絡者，稱為因陀羅網（因陀羅，譯曰帝），以譬華嚴經所說如來依正之功德重重無盡也。

探玄記一曰：「由異體相入，帶同體相入故，有重重無盡帝網門也。」

408. 【主伴無盡】（科註第二一六頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）謂萬有各為主為伴，相即相入，重重無盡也。與主伴具足

項同。

○主伴具足：（術語）華嚴宗所談法界緣起之法，以此為主，則以彼為伴，以彼為主，則以此為伴，如此主伴具足而攝德無盡也。十玄門中之第十主伴圓明具德門是也。

409. 【頓漸二教】（科註第二一六頁第七行）

《佛學大辭典》「頓漸」條：（術語）頓教與漸教也。以判諸大乘教。又曰漸頓。

○漸頓教：（術語）有二種：一以漸教頓教判一代教也。

一華嚴之清涼以華嚴經為頓教法華經為漸頓教是也。前之漸頓教者，陳真諦三藏等以漸頓二教，判一代教。漸悟菩薩，先習小乘，後迴心向大，而學大乘，佛對此機所說

之諸經為漸教。鹿園以下之大小乘經是也。此中之小乘為漸教小乘，而大乘為漸教大乘。直入頓悟之菩薩，直樂佛果，發心修行，佛對此機直說大乘，此為頓教。華嚴經是也。依此義，則如法華涅槃，固為漸教之所攝也。法相宗用漸頓之名。又天台宗以化儀之四教，判法華以前之經，有頓教漸教之名，即據此義。

然天台智者以五雙判止觀，其中漸頓之一雙，就法門之體而論之。圓教為頓足頓極成佛之法，故謂之頓教，藏通別三教為次第漸入成佛之法，故謂之漸教。故自天台言之，華嚴經自化儀之上雖為頓教，而自化法之上則兼說別圓二教，因而可謂於頓教兼漸教。

法華為純圓之法，故唯可謂為頓教。

華嚴宗之清涼，則以為華嚴經所化之機為頓，所說之法亦為頓，故可謂為頓頓。法華經所說之法為頓，而所化之機為漸，故可謂為漸頓。

止觀三曰：「四明漸頓者，漸名次第，藉淺由深，頓名頓足頓極。」

410. 【《五教章》】（科註第二一六頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（節錄）（書名）三卷，唐法藏著。述自宗所立五教之教義。

411. 【慧遠】（科註第二一七頁第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：隋淨影寺慧遠，姓李氏，燉煌人。十三歲出家，二十歲就光統和上（即和尚）進具（進一步受具足戒

也)。承光二年，周武勝齊，行廢教，遠以死抗議之。及大隋受禪，再興佛教。於楊都創淨影寺。敕遠居之講說。英俊投學。遠身長八尺五寸，腰九圍。開皇十二年寂，壽七十。著諸經之疏，皆以四字為句。又撰大乘義章，佛法之綱要於此盡，誠釋疏家之泰斗也。別於晉慧遠而謂為小遠。見續高僧傳十。

412. 【大佑】（科註第二二七頁第三行）

《續佛祖統紀》：法師大佑（一三三四—一四〇七），字啟宗。別號蘧菴。出於姑蘇吳縣之吳氏。父母俱持齋素。鄉里稱為善人。其母夢一僧自稱闍那。覺而遂孕。始能言。聞其兄誦楞嚴呪。即隨口誦之。年十二

出家投髮嗣貴落鬚為僧。授滿分戒（具足戒的別名）。凡內外經書一覽即通其義。初與古庭為友習賢首教。次從gāo皋gāo（同皋。音高或豪）聲公習天台止觀。後於弘教天泉澤公會中充懺首職。一日閱玉岡四教儀集註。至初五品位一隨喜品註文云。一空一切空。三觀悉彰破相之用。一假一切假。二觀悉彰立法之功。一中一切中。三觀悉是絕待之體。忽有省。自後天台一宗綱格諸書若素習而貫通焉。出世甫里之白蓮。遂遙稟玉岡。洪武四年以高僧召至京。明年預廣薦法會於蔣山。洪武十年shēng陞shēng（音生。同升）住郡之北禪。講心經、金剛、楞伽三經。提挈奧義。多士悅隨。施者bèn盆zū（音笨。聚集）集。乃建大佛寶

殿。既成將靜退還山。適嘉定耆緇現無隱。請師開山邑之圓通。今為講刹之首。未幾歸西山築室。扁曰真如。修習念佛三昧未嘗暫輟。洪武二十六年僧錄司缺官。召至京。陛見喜嘆。留長於逾月。授僧錄司右善世。二十九年陞左善世。居官應制諸作存焉。是年考試天下僧徒。師扶樹（扶持培植）之勸（音基。功業）居多。欽賜袈裟衣衾（音親。被子）鞋履鈔貫有差（不一）。三十二年告老還姑蘇舊業。永樂三年（一四〇五）夏復召至京。有詔纂修釋書。師總括般若要義。稿成忽稱微疾。至五年春正月二日跌坐而逝。世壽七十四。僧臘六十二。是月十八日闍維（梵語。指火化）時。祥雲五色天華散空。雲

鶴盤旋於上。火後得舍利無筭（同算）。所著有淨土指歸注解、彌陀金剛二經校勘、天台授受祖圖。撰法華撮要圖、淨土解行二圖、淨土真如禮文、華嚴燈科、淨土九蓮燈科各一卷。得法弟子慧澈、德完。

413. 【彭二林】（科註第二一七頁倒數第三行）

即彭際清，名紹升，號二林居士。（參見

「彭紹升」二）

414. 【《起信論》】（科註第二一七頁倒數第三行）

此指《無量壽經起信論》，一卷，清·彭際清著。

415. 【《大經釋》】（科註第二一七頁倒數第一行）

見「《黑谷大經釋》」163。

416. 【真言（一）】（科註第二一七頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「真言宗」條：（流派）

聖位經曰：「真言陀羅尼宗者，一切如來秘奧之教，自覺聖智修證法門。」依之而稱為真言宗。故本宗之得名，正為佛說之號也。四家大乘中，法相宗依深密經之法相品，三論宗依所依之論數，天台依所依之住所，華嚴宗依所依之本經，皆是末學人為之立名。真言之名，為約於三密中語密之名，約於語密者，以三密中普利益人之語密最為廣大故也。

就本宗之傳來而論。大日如來越三世之一時，於色究竟天之法界心殿，對金剛薩埵くわんご（音躲）等從心流出自內證之內眷屬，為自受法樂說大日經，又於真言宮殿說金剛頂經，

金剛薩埵結集之（日本台密謂阿難亦預之）。

其後釋迦佛滅後約八百年頃，龍猛（龍樹）菩薩咒七個白芥子投之，開十六丈（表示金剛界之十六菩薩）南天之鐵塔，親從金剛薩埵傳受兩部之大經（台宗云大日經於塔外由文殊菩薩傳受），而龍猛傳之於龍智，龍智保壽至七百歲，授大經於善無畏，善無畏老齡七十九，攜大日經及蘇悉地經於唐玄宗開元四年丙辰來長安，開元十二年譯蘇悉地經三卷，十三年譯大日經七卷，沙門寶月譯說之，沙門一行筆授之，且作其疏。而金剛頂者，龍智授之金剛智，金剛智授之不空。金剛智くわんご（音機，帶著）十萬頌之金剛經，伴年少十四之不空，開元八年來長安，不幸於

海上逢暴風，投其經本於海中。開元二十九年，金剛智入滅，天寶元年，不空還南天竺，逢龍智，復受十萬頌之大本，於天寶五年歸唐，同十二年，譯出教王經十卷。吾國真言宗於是大盛。

不空門下有含光、慧朗、慧果。含光、慧朗法統不盛。慧果門下有義明、義圓、惠日、惠應、義操及日本之弘法。義操門下有義真、海雲、法全。惠應門下有文瑤。義真門下可kō攷さく（音考）者，惟日本之圓仁等。法全門下有造玄，而日本之圓仁等亦就學焉。法全以後，真言遂衰。宋代雖有法賢，施護，法天等，譯出密部經論，而無足見者。（中略）而日本自弘法學成回國，密教大盛。

至於今不衰。

三國佛教略史曰：「真言宗者，依秘密真言為宗，故名。此宗弘傳由來，以大日如來為秘密教主。大日如來於法界心殿開示兩部之秘密，金剛薩埵親受灌頂職位，是為真言秘密第二祖。薩埵承持秘法，待人傳弘。及龍樹菩薩開南天鐵塔，親禮薩埵，受傳法儀軌，是為第三祖。龍樹傳之龍智菩薩，為第四祖。龍智壽七百歲，授之金剛智三藏，為第五祖。三藏該通大小，總持顯密。來於長安，傳弘密教。亦為支那傳密宗之第一祖也（善無畏雖先來，未開宗立教，無有承者，故不入列祖之數）。時不空三藏年甫十四，從金剛智來，能通漢語，與智共譯經。三十七

歲，還天竺，更遇龍智菩薩受瑜伽秘密法，是為第六祖。亦支那之第二祖。天寶五年，再來京師，大譯經論，總出七十七部一百一卷。漢地密教之盛者，三藏之力也。三藏門下惠果等八人為上首，並弘傳三密之妙法。〔中略〕三密相應，即身成佛之義。三密者，手結印契，口誦陀羅尼，心觀阿字本不生之理是。」

417. 【聖道】（科註第二二八頁第二行）

即聖道門，相對於「淨土門」之稱。

《佛學大辭典》「二門」條（節錄）：（名數）唐道綽<sup>chuo<sub>1</sub>ts<sub>1</sub>et</sup>（音輟）所判。

一、聖道門，此土由凡至聖修道之教門也。除淨土三經，其餘之諸經是。

二、淨土門，往生彌陀淨土而證聖果之教門也。三部經之所說是。

安樂集上曰：「一謂聖道，二謂往生淨土。」

選擇集本曰：「道綽禪師，立聖道淨土二門，而捨聖道正歸淨土。」

教行信證六本曰：「凡就一代教於此界中人聖得果名聖道門，云難行道；於安養淨刹人聖證果名淨土門，云易行道。」

418. 【圓解】（科註第二二八頁第七行）

《佛學常見辭彙》：圓通的見解。見解圓通的人，知見超脫，稱性而談，於理無所執著。宗門行人，重在明心見性，而教下行人，即重在大開圓解。

419. 【圓行】（科註第二二八頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）圓教之行法。

謂一行即一切行也。

四教儀集註下曰：「圓行一行一切行。」

《佛學常見辭彙》：圓融的行持，也就是稱性而修，於事毫無執著，如念一佛，即是念一切佛，修一法，即是修無量諸法，生極樂淨土，即是生諸佛淨土是。

420. 【三惑】（科註第二二八頁第七行）

《三藏法數》：「出天台四教儀集註」惑者，昏迷不了之義也。

一、見思惑，見即分別也，謂意根對法塵起諸邪見，故名見惑；思即思惟，又貪染也，謂眼耳鼻舌身五根貪愛色聲香味觸五

塵，而起想著，故名思惑。此見、思惑，亦名通惑者，通聲聞、緣覺、菩薩三乘共斷故也。

二、塵沙惑，塵沙惑者，謂眾生見、思數多，如塵若沙，乃他人分上之惑，菩薩之行，專為化他，若令眾生能斷見、思之惑，於菩薩即是斷塵沙惑；而亦名別惑者，別在菩薩所斷故也。

三、無明惑，無明惑者，謂於一切法無所明了，故曰無明。此惑乃業識之種子，煩惱之根本。聲聞、緣覺不知其名；別在大乘菩薩，定慧雙修，萬行具足，方斷此惑。故亦名別惑也。

《佛學大辭典》：（名數）或云惑，或云

煩惱，或云漏，或云垢，或云結。皆為同體異名。天台一家統收一切之妄惑為三類：

一、見思惑，如身見邊見等，邪分別道理而起，謂之見惑，如貪欲瞋恚等，倒想世間事物而起，謂之思惑，離此見思二惑即離三界，聲聞緣覺以之為涅槃，菩薩更進而斷後之二惑。如此見思，三乘之人通斷，故名為通惑，後之二惑，名為別惑。

二、塵沙惑，為化道障。菩薩教化人之障也。菩薩教化人，必通如塵如沙無量無數之法門，然心性闇昧，不能達此塵沙無數之法門，自在教化，謂為塵沙之惑。蓋非謂惑體有塵沙之數，惑體唯為劣慧之一，而不知之法門多故名塵沙也。菩薩欲斷此劣慧，得所

謂道種智，必於長劫之間學習無量之法門。

三、無明惑，又稱障中道之惑，為障蔽中道實相理之惑，與前思惑中之痴惑異。彼為障蔽空理之惑，枝末無明也。此為迷於根本理體之惑，根本無明也。此無明十二品斷，即為別教之佛，四十二品斷，即為圓教之佛，藏通二教之佛，亦不知其名。

421. 【圓果】（科註第二一八頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）涅槃也。是以圓滿行因證得之圓滿果德，故名圓果。

大日經三曰：「願一切無障，安樂諸群生，樂欲成如來所稱讚圓果。」

法華玄義四曰：「大乘是圓因，涅槃是圓果。」

422. 【醍醐チゴ】（音提）チ醐ゴ（音胡）（科註第二一八頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（飲食）五味之一。製自牛乳。味中第一，藥中第一。

涅槃經三曰：「醍醐者名世間第一上味。」又曰：「諸藥中醍醐第一，善治眾生熱惱亂心。」同八曰：「雲山有草名曰肥膩，牛若食者，純得醍醐。」

○醍醐喻（節錄）：（譬喻）天台依涅槃經喻之於第五時之法華涅槃。真言依六波羅蜜經譬之於陀羅尼藏。其他諸宗各喻其自宗。

涅槃經十四曰：「譬如從牛出乳，從乳出酪，從酪出生蘇，從生蘇出熟蘇，從熟蘇出

醍醐。醍醐最上，若有服者，眾病皆除。所有諸藥，悉入其中。善男子！佛亦如是。從佛出生十二部經，從十二部經出修多羅，從修多羅出方等經，從方等經出般若波羅蜜，從般若波羅蜜出大涅槃，猶如醍醐，言醍醐者喻於佛性。」

423. 【秃鈔トウセウ】（科註第二一九頁第四行）

《佛光大辭典》「愚秃鈔」條：凡二卷。

又作二卷鈔。日僧親チン鸞ルン（音蠻）八十三歲時之著作。收於大正藏第八十三冊。本書堪稱為日本真宗之教相判釋，書中主張二雙四重之說，而將佛教分為大乘、小乘。大乘又分頓、漸兩教，頓教再分難易二行、橫豎二超；漸教則分難易二行、橫豎二出。

424. 【實教】（科註第二一九頁第四行）

《佛學大辭典》「權實二教」條（節錄）：

（名數）如來以權智初開三乘之教為權教，後示一乘之理為實教。如此開會之妙用，悉為權智所使然。就四教而判之，則藏通別之三教為權教，圓教之一為實教。

425. 【佛心】（科註第二一九頁第四行）

《佛學大辭典》「佛心宗」條：（流派）

禪宗之別名。以覺悟佛心為禪之體也。佛心何物？心之自性是也。故謂之直指人心見性成佛，人心之性即佛性也，發見佛性謂之成佛。

宗鏡錄三曰：「達磨大師云：明佛心宗了無差誤，名之曰祖。」

中峰錄五下曰：「禪何物？乃吾心之名也。心何物？即我禪之體也。〔中略〕惟禪與心異名同體。」

426. 【《大無量壽經》】（科註第二一九頁第五行）

《佛學大辭典》：（經名）無量壽經二卷（康僧鎧譯），在淨土三部經中為最大本，故名。又略曰大經。

427. 【二超】（科註第二一九頁第五行）

《佛光大辭典》「二雙四重」條（節錄）：

乃日本真宗開祖親鸞所立之教判。即就如來一代之聖道、淨土二教，判為豎出、橫出、豎超、橫超之二雙四重。豎出、橫出謂二出，豎超、橫超謂二超。

據愚禿鈔卷上所載，佛一代所說之聖道、

淨土二教，有大乘、小乘之別，大乘中分頓、漸二教，頓、漸亦各立難易二道。漸教中，難行道聖道權教稱為豎出，配於法相等歷劫修行之教；易行道淨土要門稱為橫出，配於觀經所說之定散、三福、邊地往生之教。頓教中，難行道聖道實教稱為豎超，配於禪、真言、天台、華嚴等即身成佛之教；易行道淨土本願真實稱為橫超，配於無量壽經所說之選擇本願真實報土即得往生之教。此中，漸教為出，頓教為超，自力聖道為豎，他力淨土為橫之意。

428. 【普賢行願品】（科註第二二〇頁第一行）

《佛學大辭典》：（經名）大方廣佛華嚴經人不思議解脫境界普賢行願品之略名。即

四十華嚴經之第四十卷也。

429. 【安養】（科註第二二〇頁第一行）

《佛學大辭典》：（界名）西方極樂國之異名，無量壽經下曰：「諸佛告菩薩，令觀安養佛。」

義寂疏曰：「安心養身，故曰安養。」

430. 【華藏】（科註第二二〇頁第一行）

見「華藏世界」461。

431. 【剖心】（科註第二二〇頁第三行）

《漢語大詞典》：謂<sup>ㄉㄨ</sup>掬（音拘。用兩手捧）

誠相示。

432. 【瀝<sup>ㄌㄧˋ</sup>血】（科註第二二〇頁第三行）

《漢語大詞典》：滴血以示竭誠。

433. 【含識】（科註第二二〇頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）含有心識者，即有情也。

行事鈔資持記上四之一曰：「心依色中，名為含識，總攝六道有情之眾。」

434. 【純圓獨妙】（科註第三二〇頁第七行）

《天台教學辭典》：台宗以法華妙異相對於「爾前」帶粗之妙，乃為純一無雜醍醐妙味，故稱純圓獨妙。所謂爾前，乃五時八教之判教中，將前四時總稱為爾前，指佛陀宣說『法華經』以前之四時。

台宗認為，爾前四時教中，「華嚴時」圓中兼別，於「鹿苑時」僅說小乘，「方等時」則廣為對說四教，「般若時」別、圓二教通帶而說，所謂「兼、但、對、帶」說，判其

粗妙，則華嚴一粗一妙，鹿苑但粗無妙，方等三粗一妙，般若二粗一妙，故爾前所說圓教乃帶粗之妙，非純一無雜之妙；唯第五「法華時」所說圓教，開顯圓旨故為純妙。故謂『法華經』開前四味「兼、但、對、帶」之粗，而顯一佛乘為純圓妙，以成就純圓獨妙為旨趣。〔法華玄義釋籤卷一、教觀綱宗卷上（智旭）、天台四教儀（諦觀）〕

435. 【別教一乘】（科註第三二〇頁第七行）

《三藏法數》：別者，即別異小、始、終、頓之四教也。然此別教，唯辨圓融具德，事事無礙，隨舉一法，即攝一切；無盡法門，一一法門，jiōng hūz迴（音窘。遠也）異餘教，故名別教一乘也。

《佛學大辭典》「同別二教」條：（術語）華嚴一家之教判，分第五同（疑作「圓」）教為別教一乘，同教一乘。

別教一乘者，永別異於二乘三乘等諸乘，一多無盡之一乘法也。五教章上明其十別。同教一乘者，為使二乘三乘等機入於一多無盡之法界，以一乘無盡之法寄顯於始教之三乘法，或終頓之一乘法而說也。然則同教一乘約於所寄之法則為終頓二教之一乘教與始教之三乘教，此中就華嚴本經之說相論之，則彼經所說之同教一乘為終頓二教。經中說一多無盡之法者，是別教一乘也，此名直顯門。又寄於終頓二教之一乘法顯一多無盡之一乘法者，彼經之同教一乘也，此名寄顯門。

法華經中亦有同別二教，然彼之同教一乘為開會二乘之機於一乘，故寄於始教之三乘法，而說無盡一乘法，此為本經同教一乘與末經同教一乘之相違。且華嚴法華二經，雖共說同別二教，而華嚴多說別教，少說同教，法華多說同教一乘，少說別教一乘，故又大判二經，華嚴為別教一乘，法華為同教一乘也。見五教章上。

其別異之義門有十種：一時異，所說之時異也。二處異，所說之處異也。三主異，所說之佛異也。四眾異，所聞之眾異也。五所依異，所依之三昧異也。六說異，一方說一切方說也。七位異，一位一切位也。八行位，一行一切行也。九法門異，法門之建立

廣狹異也。十事異，舍林地山等一一事相盡為甚深之法門也。見五教章上施設異相門。

436. 【四法界】（科註第二二一頁第五行）

《三藏法數》：「〔出華嚴法界觀〕法界者，一切眾生身心之本體也。法，軌則也，界有性、分二義。若約事說，界即是分義，謂隨事分別故也；若約理說，界即是性義，謂諸法性不能變易故也。以此性、分互相交絡，則成理事無礙法界。以理融事，一一融通，則成事事無礙法界也。」

一、事法界：謂諸眾生色心等法，一一差別，各有分齊，故名事法界。（分齊者，限量也。）

二、理法界：謂諸眾生色心等法，雖有差

別，而同一體性，故名理法界。

三、理事無礙法界：謂理由事顯，事攬理成，理事互融，故名理事無礙法界。

四、事事無礙法界：謂一切分齊事法，稱性融通，一多相即，大小互容，重重無盡，故名事事無礙法界。

437. 【狂禪】（科註第二二一頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：佛教謂學禪不當而流於狂妄。

438. 【沈善登】（科註第二二一頁倒數第一行）

清朝浙江桐鄉人，（一八三〇至一九〇二），字穀穀<sup>ㄍㄨˋ ㄍㄨˋ</sup>（音古）成（有《沈穀成易學》，室名豫善堂（刊上書見署）。專治易學，著有《需時眇<sup>ㄇㄧㄠˋ ㄇㄧㄠˋ</sup>（音秒）言》、《論餘適

濟編》、《經正民興說》、《報恩論》，合刊為《沈毅成易學》。另有《沈氏改正<sup>shé</sup>撰<sup>ruò</sup>》（音舌<sup>shī</sup>著<sup>shī</sup>（音失）法）。

439. 【十玄門】（科註第二二三頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）又曰十玄緣起。華嚴宗所立。示四種法界中事事無礙法界之相者。通此義，則可以入華嚴大經之玄海，故曰玄門。又此十門互為緣而起他，故曰緣起。至相大師（華嚴宗二祖智儼大師），承杜順之意，創說於十玄章，賢首於五教章中卷敷演之。但次第不同。然賢首更於探玄記一說十玄，稍異於此，清涼全依之。

一、同時具足相應門。十方三世之一切諸法，緣起之所使然，同一時具足圓滿彼此照

應而顯現也。緣起為諸法之自性，無一法漏於緣起者。故一切諸法於同一時同一處為一大緣起而存在，是曰具足相應，唐經妙嚴品曰：「一切法門無盡海，同會一法道場中。」是為事事無礙法界之總相，其餘九門乃此門之別義也。

二、廣狹自在無礙門。以一法緣起一切法，一法之力用無際限，名為廣，守一法之分限，不壞本位，名為狹。以是觀之。則分即無分，無分即分也。凡緣起之法，於如此一法，具分與無分二義而不相妨，謂之廣狹自在無礙門。

三、一多相容不同門。依上廣狹無礙之義，一勢分，入於他一切法，他一切法之勢

分，入於自一。如此一多互相容，曾不失一多之本位，謂之一多相容不同門。是就法之勢用，說彼此之相入也。而一多之二相存，故曰不同。唐經盧舍那佛品曰：「以一國土滿十方，十方人一亦無餘。世界本相亦不壞，無比功德故能爾。」

四、諸法相即自在門。依上一多相容門，而一法之勢力入於一切法時，一法即為一切法中之一法。彼既為一切法中之物，故廢己而同他，一法之體，全為彼之一切法，即一切法之外更無一法為虛體，所同之一切法，為有體。與之同時一切法入於一法，則彼亦廢己而同我，全收彼之一切法而為一法之體。即一法體之外無一切法，能同之一切

法，為虛體。惟所同之一法為有體也。以如此一虛一實之故，一法即於一切法，一切法即於一法，故曰相即。是就體而論者。上之相容門，不廢一多，但明力用之交徹，故譬之二鏡相照，此明彼此之二體虛實和融而為一如，故譬之水波相收，晉經十住品曰：「一即是多，多即是一。」

五、隱密顯了俱成門（五教章及清涼玄談作秘密顯顯俱成門），既依上之義門，一法即於一切法，則一切法顯而一法隱，一切法即於一法，則一法顯而一切法隱。此顯隱之二相俱時成就謂之隱密顯了俱成門。晉經賢首品曰：「或東方見入正受，或西方見三昧起。於眼根中人正受，於色法中三昧起。」

六、微細相容安立門。以上來第二門以下之義，無論如何微細之中亦含容一切諸法，一齊揃（音尖。用筷子夾）頭顯現，猶如鏡中映現萬像。微細者，示於一毛一塵之中，有其事也。晉經毘盧舍那品曰：「一毛孔中，無量佛刹。莊嚴清淨，曠然安立。」

七、因陀羅網法界門（五教章及清涼玄談作因陀羅網境界門），因陀羅網者，帝釋天宮殿所懸之珠網也，珠珠各各現一切珠影，是一重之各各影現也。而一珠中所現一切珠影，亦現諸珠之影像形體。是二重之各各影現也。如此重重映現而無盡無窮。諸法一之即入亦如斯。上之細微相容，惟一重之即入，未明即入重重無盡。故今假喻以明此

義。此有名之因陀羅網譬喻也。

八、託事顯法生解門。上來所明，既於第七門，知一切法緣起重重無盡，塵塵法法，盡為事事無礙法界。然則得就一事一塵，顯無礙法界之法門矣。是曰託事顯法生解門。如經說十種之寶玉雲等皆是深妙之法門。如示金獅子之無礙，明帝網之重重亦然。凡一切之寄顯表示之法門皆攝於此。

九、十世隔法異成門。上八門為就橫示圓融無礙之相者。而此無礙不獨於橫為然，於豎亦然。故有此門。十世者，過現未三世各又有過現未三世，而為九世，九世互相入，故為一總世。總別合為十世也。此十世隔歷之法，同時具足顯現。謂之隔法異成。異成

者，別異之法俱時成就之義也。晉經初發心功德品曰：「知無量劫是一念，知一念即是無量劫。」

十、主伴圓明具德門。橫豎之萬法既成一大緣起，由於法法皆交徹，而舉一法，他法伴之而速帶緣生。申言之，即舉一法為主，則餘悉為伴，而赴於此一法。更以他法為主，則餘法為伴而盡集於其法也。譬如一佛為主而說法，則他之一切佛為之伴，更以他佛說法亦然。如斯緣起之法，互為主伴。互為約束，故無論何法為主，他一切隨伴於是。一法圓滿一切之功德。故曰圓明具德。見探玄記一，華嚴玄談六。

440. 【《探玄記》】（科註第二二三頁第六行）

《佛學大辭典》：（書名）具名華嚴經探玄記，二十卷，唐法藏撰，釋晉經六十卷。

○華嚴經探玄記：（書名）二十卷，賢首撰。華嚴經之註釋，第一卷開教起之所由，藏部之所攝，立教差別，教所被之機，能詮之教體，所詮之宗趣，具釋題目、部類、傳譯、文義之分齊，隨文解釋之十門，以說玄義，二卷以下逐本經之文而解釋。

441. 【《華嚴妙嚴品》】（科註第二二三頁倒數第五行）八十華嚴之《世主妙嚴品》，為全經第一品。

442. 【《大疏》（一）】（科註第二二三頁倒數第四行）即《大方廣佛華嚴經疏》。（參見「《華嚴大

疏》】1007）

443. 【徑尺】（科註第二二三頁倒數第五行）

《漢語大詞典》：直徑一尺。

444. 【華嚴盧舍那佛品】（科註第二三四頁第三行）

六十華嚴之第二品，卷二至四。

445. 【華嚴十住品】（科註第二三四頁倒數第五行）

即《菩薩十住品》。六十華嚴之第十一

品，卷八。

446. 【文選·郭璞多文賦】（科註第二二

五頁第八行）

《中國大百科全書》「文選」條：中國現

存最早的詩文總集。南朝梁蕭統編著。蕭統

（五〇一—五三二），字德施。梁武帝蕭衍多文

（音演）長子。天監元年（五〇二）立為皇太

子，未及即位而卒。謚號昭明。故後人也習

稱《文選》為《昭明文選》。

○郭璞：（二七六—三二四），晉代學

者、文學家。字景純。河東聞喜（今屬山西）

人。（中略）郭璞在古文字學和訓詁多文（音

古）學方面有頗深的造詣，曾註釋《周易》、

《山海經》、《爾雅》、《方言》及《楚辭》等古

籍。他又精於曆算及術數之書，以善於卜

筮多文（音是）聞名。（中略）《江賦》是郭璞

辭賦的代表作，《文選》收錄。此賦文采宏

麗，鋪張誇飾，極寫大江之浩瀚，地勢之險

峻，物產之豐富，氣象壯闊，筆力雄健。

447. 【汗汗】（科註第二二五頁第八行）

《漢語大詞典》「汗汗多文田」（音田）田

條：廣大無際貌。《文選·郭璞〈江賦〉》：

「溟漭渺miǎn灑niǎo」（音免），汗汗涸涸。察之無象，尋之無邊。」李善注：「皆廣大無際之貌。」

448. 【芥jiè（音戒）子】（科註第二二五頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：芥菜的種子。

《佛學大辭典》：（譬喻）以芥子投針鋒難中，譬佛出世之難也。涅槃經二曰：「芥子投針鋒，佛出難於此。」

又，喻極小也。白居易僧問曰：「維摩經不可思議品中云：芥子納須彌。須彌至大至高，芥子至微至小，豈可芥子之內人得須彌山乎？」

又，（物名）芥子為性堅辛者，密教以之

為降伏之相應物，於此加持真言，投於爐，以供降伏之用。真言修行鈔五曰：「實賢僧正護摩師傳抄云：取芥子投爐中，十方十度也。護摩略觀抄云：（道範）芥子堅辛性，有降伏用。依添真言加持，作降魔結界也。投十方，破十方魔軍也。又龍猛菩薩咒，白芥子打開鐵塔扇。入法界塔中，受金剛薩埵灌頂。今行者芥子加持，又打開十方法界塔婆，請諸佛聖中證明聽許之觀可作之。」

又，（譬喻）以譬劫量。

《三藏法數》「芥子喻」條：謂有城四方而各百里，其中滿堆芥子；人間百年，但取一粒；取盡此芥，乃為一劫，是名芥子喻。

449. 【因陀羅網】（科註第二二六頁第六行）

《佛學大辭典》：（譬喻）是梵漢雙舉之名。單用漢語，則云帝網。即帝釋天之寶網。其網之線，珠玉交絡，以譬物之交絡涉人重重無盡者。

通路記曰：「忉利天王帝釋宮殿，張網覆上，懸網飾殿。彼網皆以寶珠作之，每目懸珠，光明赫赫，照燭明朗。珠玉無量，出算數表。網珠玲瓏，各現珠影。一珠之中，現諸珠影。珠珠皆爾，互相影現。無所隱覆，了了分明。相貌朗然，此是一重。各各影現珠中，所現一切珠影，亦現諸珠影像形體，此是二重。各各影現，二重所現珠影之中，亦現一切。所懸珠影，乃至如是。天帝所感，宮殿網珠，如是交映，重重影現，隱映

互彰，重重無盡。」

450. 【延促】（科註第二二七頁倒數第五行）

《漢語大詞典》：長短（多指時間）。

451. 【隔歷】（科註第二二七頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）彼此相隔，次第不和會融會也。常對於圓融之文字而言。

玄義一下曰：「五陰實法，隔歷是世界。」

四念處四曰：「別則隔歷，圓則一念。」

452. 【華嚴初發心功德品】（科註第二二七頁倒數第二行）

即《初發心菩薩功德品》。六十華嚴之第十三品，卷九。

453. 【北辰】（科註第二二八頁第八行）

《漢語大詞典》：指北極星。

454. 【東密】（科註第二二八頁倒數第一行）

《中華佛教百科全書》（節錄）：「台密」的對稱。指由空海傳至日本，以東寺為根本道場的日本真言宗。「東密」之名，初見於《元亨釋書》。宗祖空海（七七四—八三五），延曆二十三年（八〇四）入唐，從長安青龍寺惠果受正統密教之法。大同元年（八〇六）歸日。弘仁十四年（八二三），受賜東寺，東寺遂成為日本真言密教之根本道場。

455. 【華嚴玄談】（科註第二二九頁倒數第四行）

《佛光大辭典》：凡九卷。唐代澄觀撰。又稱華嚴經疏鈔玄談，華嚴懸談、清涼玄談。收於《續藏》第八冊。本書記述八十華經

之綱要，係將清涼大師澄觀所撰述之華嚴經疏、華嚴經隨疏演義鈔中有關玄談之部分摘出，成為會本刊行。本書針對慧苑之華嚴經判定記所出之異說，加以矯正，顯揚教祖以來之正義，共分教起因緣、藏教所攝、義理分齊、教所被機、教體淺深、宗趣通別、部類品會、傳譯感通、總釋教題、別解文義十門。其擴充列祖之說，特立新義處不少。注疏有華嚴談玄抉擇六卷（鮮演）、懸談會玄記（普瑞）。

456. 【唯心所現】（科註第二二九頁倒數第四行）

《三藏法數》：謂世間、出世間一切諸法，唯是真心所現。然法唯心現，全法是心，心既圓融，法亦無礙。經云：知一切

法，即心自性。是也。

457. 【如來藏心緣起】（科註第二二九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「四種緣起」條（節錄）：

如來藏緣起，又曰真如緣起。有一味平等之真如，而為無始無終不增不減之實體者，為染淨之緣所驅，生種種之法也。其實體有真如門，生滅門之二義，以真如門故，為一味平等之體，以生滅門故，由染緣而現六道，由淨緣而出四聖。

於此有三法：一真如之體。二生滅之相。三因緣之用。真如之體為因，因緣之用為緣，因生生滅之相。而其生滅之果，即現行之賴耶識也。於是知賴耶識由如來藏而生。而如來藏更不可詰問從何而生，何則？以如

來藏體為真如，更有所生，即非真如也。

458. 《華嚴金獅子章》（科註第二二九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（書名）一卷，賢首著。

為答唐則天武后之問：借庭前之金獅子為喻，以顯華嚴之教觀者。初明法界緣起，次論五教，最後說涅槃。

459. 【唯心迴轉善成門】（科註第二二九頁倒數第

二行）

《佛光大辭典》：華嚴宗古十玄門之一。

係就心而闡明緣起之根本，亦即一切諸法皆依如來藏自性清淨心建立，若善若惡，隨心所轉，故稱為唯心迴轉。如以金獅子為例，金為本體，獅子喻現象，則金與獅子，或隱或顯，或一或多，各無自性，由心迴轉，說

事說理，有成有立，此即唯心迴轉善成門。又法藏以唯心迴轉善成門一詞，僅表示諸法無礙之理由，而未能表示無礙之相，故於華嚴經探玄記卷一中，將之改為主伴圓明具德門。〔華嚴五教章卷四、華嚴經隨疏演義鈔卷十〕

460. 【三種莊嚴】（科註第二三〇頁第四行）

《佛學大辭典》：（名數）天親淨土論說極樂三種之莊嚴。如佛莊嚴，菩薩莊嚴，國土莊嚴是也。（參見「二十九種莊嚴」1898）

461. 【華藏世界】（科註第二三二頁第一行）

《佛學大辭典》：（界名）釋迦如來真身毗盧舍那佛淨土之名。最下為風輪，風輪之上有香水海，香水海中生大蓮華，此蓮華中

包藏微塵數之世界，故稱蓮華藏世界，略名華藏世界。凡報身佛之淨土，具十八圓滿，其中之依持圓滿，即蓮華藏世界也。

唐華嚴經八曰：「爾時普賢菩薩告大眾言：諸佛子！此華藏莊嚴世界海是毗盧遮那如來。往昔於世界海微塵數劫修菩薩行時。

一一劫中親近世界海微塵數佛，一一佛所修淨世界海微塵數大願之所嚴淨。」已下八、九、十、三卷明之，謂之華藏世界品。

此蓮華藏世界建立之大略，由上下二十重，周圍十一周而成，以中心為毗盧舍那佛之所居。

佛祖統紀三十一曰：「上極寶焰，下徹風輪，此華嚴所明一世界種，豎高則且約二十

重，周圍則略得十一數，復由此數隨方各十，則總之為百十一，如天帝珠網分布而住。」

梁譯世親攝論十五曰：「世間世界，地輪依水輪，水輪依風輪，淨土為依何法？論曰：無量功德聚所莊嚴大蓮花王，為依止。釋曰以大蓮花王。譬大乘所顯法界真如，蓮華雖在泥水之中，不為泥水所汙。譬法界真如雖在世間不為世間法所<sup>wū</sup>汙（音屋）。〔中略〕復次，如來願力所感寶蓮華，於諸華中最大最勝，故名王。無量色相等功德聚所莊嚴，能為淨土作依止。」

探玄記三引此文已，曰：「華藏之名，因此立也。〔中略〕藏是含攝義、出生義、具

德義。此中通論有二義：一由此土內含攝一切人法等諸法門故。二含攝一切諸餘刹故。」

清涼疏八曰：「蓮華含子之處，目之曰藏。今刹種及刹，為大蓮華之所含藏，故云蓮華藏。」

但蓮華藏世界為諸佛報土之通名，即華嚴經所說者，釋迦佛之華藏也。觀經所說之極樂，阿彌陀佛華藏也。大日經所說之胎藏界，密嚴經所說之密嚴國，大日如來之華藏也。

462. 【毘盧遮那】（科註第二三二頁第二行）

《三藏法數》「毗盧遮那佛」條：梵語毗盧遮那，華言遍一切處。謂煩惱體淨，眾德悉備，身土相稱，遍一切處。能為色相所作

依止，具無邊際真實功德，是一切法平等實性，即此自性，亦名法身。佛，梵語具云佛陀，華言覺，謂理性之體，本來覺了也。

《佛光大辭典》（節錄）：梵名 Vairocana。為佛之報身或法身。又作毘樓遮那、毘盧折那、吠嚧遮那。略稱盧舍那、盧遮那、遮那。

意譯遍一切處、遍照、光明遍照、大日遍照、淨滿、廣博嚴淨。

據一切經音義卷二十一載（大五四—四三四下）：「毘盧遮那，案梵本毘字，〔中略〕此云種種也。毘盧遮那，云光明遍照也；言佛於身智，以種種光明，照眾生也。或曰毘，遍也；盧遮那，光照也；謂佛以身智無

礙光明，遍照理事無礙法界也。」

原為太陽之意，象徵佛智之廣大無邊，乃歷經無量劫海之修習功德而得到之正覺。

有關毘盧遮那佛，諸經之記載與各宗之解釋各異。

舊譯華嚴經卷二盧舍那佛品謂，毘盧遮那佛修習無量劫海之功德，乃成正覺，住蓮華藏世界（佛報身之淨土），放大光明，照遍十方，毛孔現出化身之雲，演出無邊之契經海。

梵網經卷上謂，毘盧遮那佛於百阿僧祇劫修行心地法門，成等正覺，住蓮花臺藏世界海，其臺周遍有千葉（即千世界），毘盧遮那佛化千身釋迦佛住千世界。於每一葉世界

復有百億之須彌山、百億之日月、百億之四天下，及百億之菩薩釋迦坐百億之菩提樹下，宣說菩薩之心地法門。

觀普賢菩薩行法經謂，釋迦牟尼名毘盧遮那遍一切處，成就常樂我淨之四波羅蜜，住於常寂光土。

其中，舊華嚴經卷二、梵網經卷上所說之毘盧遮那佛為報身佛，觀普賢菩薩行法經所說為法身佛。

法相宗立毘盧舍那、盧舍那、釋迦等三尊，稱毘盧舍那為自性身，盧舍那為受用身，釋迦為變化身。十佛名之中，有「清淨法身毘盧遮那佛，圓滿報身盧舍那佛，千百亿化身釋迦牟尼佛」之稱。

天台宗亦立毘盧遮那、盧舍那、釋迦等三尊，然以之次第配為法身佛、報身佛、應身佛。

華嚴宗立十身具足融三世間之法界身雲，而謂此三尊乃同一佛身。在密教，毘盧遮那佛與大日如來同體，或為大日如來之別名，乃理法身、智法身不二之體，有除暗遍明之義。「舊華嚴經卷四如來名號品、華嚴經探玄記卷三、法華經文句卷九下、大日經疏卷一、卷十六、金剛頂經義訣卷上」

(七) 部類差別

463. 【姚秦】(科註第二三二頁第七行)

十六國時期羌qiāng<sub>ㄑㄧㄤ</sub> (音槍) 族貴族姚cháng<sub>ㄔㄨㄥˊ</sub> 萇 (音常) 建立的政權。前秦苻苻fú<sub>ㄈㄨˊ</sub> (音符) 堅淝水兵敗後，關中空虛，原降於前秦的羌族貴族姚萇在渭北叛秦，晉太元九年(三八四年)自稱「萬年秦王」，都北地(今陝西耀縣東南)。次年(三八五年)擒殺苻堅。太元十一年(三八六年)，姚萇稱帝於長安(今陝西西安西北)，國號秦，史稱後秦。其國號以所統治地區為戰國時秦國故地為名。《十六國春秋》始稱「後秦」，以別於前秦和西秦，後世襲用之。又以王室姓姚而別稱姚

秦。統治地區包括今陝西、甘肅東部和河南部分地區。後秦建初七年(三九三年)姚萇卒，子姚興繼位，攻殺前秦苻登，掃除前秦殘部；又乘後燕滅西燕，盡占原西燕河東之地；弘始元年(三九九年)乘東晉內亂，陷洛陽，淮漢以北諸城多請降，國勢遂與後燕相當。

弘始十八年(四一六年)姚興卒，子姚泓hóng<sub>ㄏㄨㄥ</sub> (音紅) 繼位。東晉乘喪發兵，陷洛陽，後秦宗室內hòng<sub>ㄏㄨㄥˋ</sub> 訶hà<sub>ㄏㄚˋ</sub>，互相攻殺。永和二年(四一七年)東晉破長安，姚泓降，後秦亡。後秦共存在三十二年(三八四—四一七)。

464. 【三藏法師】(科註第二三二頁第七行)

《佛學常見辭彙》：稱呼精通經律論三

藏的比丘。

465. 【鳩<sub>ㄐㄩ</sub>鳩<sub>ㄊㄩ</sub>】摩羅什】（科註第二三三頁第七行）

《佛學大辭典》：（人名）具名鳩摩羅什

婆、鳩摩羅時婆、鳩摩羅耆耆（音奇）婆。譯

曰童壽。羅什父，天竺人，出家至龜（音

秋）茲（音詞）國，婚於國王之妹，生什。

頃之，其母出家，得道果。什年七歲，隨母

出家，遍遊西域，總貫群籍，最善於大乘。

時在龜茲，秦主苻苻（音符）堅建元十九年

使呂光伐龜茲。獲什而還。至涼州，聞苻堅

敗，因自立。其後，後秦姚興伐涼降之。什

始入長安。興以國師之禮禮之。仍使人西明

閣及逍遙園，譯出眾經。宣譯凡三百八十餘

卷，秦弘始十一年寂於長安，時晉熙寧五年

也。臨終曰：吾所傳無謬，則梵身之後，舌

不焦爛。在逍遙園依外國之法，火化之。薪

滅形碎，唯舌不灰，見出三藏記十四，梁高

僧傳二。

466. 【玄<sub>ㄒㄩㄢˋ</sub>奘<sub>ㄉㄨㄤˋ</sub>】（科註第二三三頁第八行）

《佛學大辭典》：（人名）唐大慈恩寺玄

奘三藏（六〇〇—六六四），姓陳，偃師人，

俗名<sub>ㄩˊ</sub>禪（音衣）。兄長捷，先出家，在洛陽

淨土寺。師十三歲，亦入淨土寺出家，就慧

景聽涅槃經，於嚴法師受攝大乘論，令名夙

著。武德元年，與兄共入長安，尋赴成都，

就道基寶遷二師，學攝論，毘曇，就震法師

聽講發智論，五年受具足戒，又習律部。既

而往荊州講攝論毘曇，往相州謁慧休，往趙

州受成實於道深。尋入長安，就道岳學俱舍論。時有法常僧辯二大德，名冠上京，偏講攝大乘論。師又就聽之。

然以諸師各異宗途，聖典亦有隱晦。不知適從。乃欲西遊以明之。表請不許，師不為屈。貞觀三年八月（一說貞觀元年或貞觀三年四月），上萬里孤遊之途。具嘗艱苦，經西蕃諸國，貞觀七年至印度。中途，於屈支國，會木叉ju毬ti（音居）多，於縛喝國納縛伽藍，禮佛齒、佛澡盆等。從磔迦國僧般若羯羅，讀毘婆沙論。於梵衍那國拜巨石像。至迦畢試國，安居沙落迦寺。與大乘僧mò秣lè（音末）奴若瞿沙，薩婆多部僧阿黎耶，伐摩等，共會法集。入印度境，至那揭羅曷國，

拜燃燈授記之聖迹。又於佛頂骨城，禮佛頂骨及佛僧伽胝並瞿波羅龍王窟之佛影。入健馱邏國布路沙布邏城，見卑鉢羅樹下過去四佛坐處，並迦膩色迦王伽藍等。赴烏仗那國，巡禮行菩薩千生施眼處，割截身體處，刺身飼五樂叉處等靈地，又於da咄du（音答）又始羅等國，參拜菩薩捨千頭處投身wèi餒é（音未。亦作餒）處等遺迹。至迦濕彌羅國，就僧稱法師，學俱舍論，順正理論，因明聲明論等，兼與大乘學僧毗成陀僧訶等攻竅諸經論。至zhé磔zé（音哲）迦國，於長年婆羅門受百論，廣百論等。於至那僕底國，就毘膩多鉢臘婆學對法論，顯宗論，理門論等。至闍爛達羅國，從旃達羅伐摩受眾事分毘婆沙。至

宰祿勤那國，就闍耶毬多聽經部毘婆沙。入秣底補羅國，就德光弟子蜜多斯那學辯真論，隨發智論。至劫比他國，禮佛從天降下三道寶階塔。至羯若鞠闍國，與毘離耶犀那讀佛使毘婆沙。又經歷鉢邏耶伽等國，巡拜佛生處，佛涅槃處，佛轉法輪處等諸聖迹。於吠多補羅城，得菩薩藏經。遂至摩揭陀國。於是詣菩提樹下金剛座處，又禮耆闍崛山，竹林精舍等靈地，入那爛陀寺，以戒賢為師，學瑜伽論等。又聽講順正理顯揚對法等諸論，研鑽梵書。後赴伊爛拏鉢伐多國，與怛他揭多毬多等共讀毘婆沙等諸論。至憍薩羅國，就婆羅門受集量論。赴馱那羯磔迦國，從大眾部僧蘇部底等，學大眾部根本阿

毘達磨及大乘諸經論。至鉢伐多國，從大德，學正量部根本阿毘達磨，攝正法論等。還摩揭陀國，至杖林山勝軍論師所，學唯識決擇論，意義理論，莊嚴經論等。師子光講中百二論，破瑜伽之義。師乃和會中觀瑜伽兩宗，述會宗論三千頌。光慚なむ報まう（因羞愧而臉紅）退去。又遇順世外道，師與之論難，亦伏之。且得烏荼國小乘論師所製之破大乘論七百頌，指摘其謬說，作破惡見論一千六百頌。戒日王敬師甚厚，為設大會，敕使諸國義解之徒，集於曲女城。師受請登床，專稱揚大乘之論意，無一人能致言難者。尋與戒日王同赴鉢羅耶伽國，列於五年大會。遂歸國。

貞觀十九年至京師。以所獲梵本六百五十七部獻於朝。太宗使於弘福寺傳譯之。高宗永徽三年請於朝。於慈恩寺以西域之法建大塔。顯慶四年，高宗以玉華宮為寺，薦先帝，使師居之。次年在此譯大般若經。麟德元年二月，命弟子普光抄錄所譯之經論，凡七十五部一千三百三十五卷。其月五日寂，壽六十五。事蹟詳見大唐西域記，廣弘明集，續高僧傳卷四，大慈恩寺三藏法師傳，佛祖通載十二等。

467. 【襄陽石經】（科註第二三三頁倒數第三行）

《佛光大辭典》「石刻阿彌陀經」條：指於碑面雕刻阿彌陀經。最著名者為湖北襄陽龍興寺之石刻彌陀經，世稱襄陽石經。

據龍舒增廣淨土文卷一阿彌陀經脫文條（卅續一〇七，三七一下）：「襄陽石刻阿彌陀經，乃隋陳仁稜léng所書，字畫清婉，人多慕玩。自一心不亂而下云：『專持名號，以稱名故，諸罪消滅，即是多善根福德因緣。』今世傳本脫此二十一字。」

又阿彌陀經義疏聞持記卷下（卅續三三·一三五下）：「朝散郎陳仁稜書碑在襄州龍興寺，本朝殿撰李公諱友聞，字季益，嘗守官於彼，持此經皈錢唐。疏主（元照）得之，喜不自勝，遂復刊石立於靈芝大殿之後，續因兵火焚毀，悲夫！逆推梁陳，去晉未遠，可驗得真。」依此可知，隋代有陳仁稜在碑面刻阿彌陀經，安置於湖北襄陽龍興

寺；宋代元照復加以模刻，後立於靈芝崇福寺佛殿後。現今日本<sup>出筑</sup>筑（音竹）前國宗像神社境內，亦存有與此相同之經碑。「阿彌陀經義疏卷下」

468. 【元照】（科註第二三三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（人名）杭州靈芝寺元照，字湛然，初依東藏慧鑑<sup>見</sup>（音見）律師專學毗尼。後從神悟禪師講天台之教觀。復從廣慈之才法佛受菩薩戒，博究南山之律宗。而意篤淨業。每日生弘律範，死歸安養，平生所得，唯二法門而已。住靈芝三十年，宋徽宗政和六年九月一日寂。壽六十九。謚大智。唐太宗貞觀中，終南山澄照大律師道宣作戒疏<sup>見</sup>羯（音結）磨疏事鈔，弘

四分律。流通逾四百載，釋義近六十家。中大寺之昭慶律師允堪，作會正記，獨為盡理。最後靈芝元照以法華開顯圓意，作資持記，與會正記殊途，四分一宗由是分為兩派。見往生傳，佛祖統紀二十九，稽古略四。

469. 【靈芝疏】（科註第二三三頁倒數第一行）

《實用淨土宗辭典》「阿彌陀經義疏」條：書名。全一卷，宋元照大師述，收於《大正藏》第三十七冊。本書為註釋鳩摩羅什大師譯之《佛說阿彌陀經》。此疏以持佛名號功德最勝，認為一聞彌陀名號，誦之於口，無邊聖德即攬入眾生識心，永成佛種，頓除億劫重罪，乘佛願力，往生彼國，能證

無上菩提。正文之前立教、理、行、果四門：一教敘如來出興於世，為令眾生厭娑婆

之苦，欣慕極樂淨土，執持名號而得往生，明佛說淨土教門為大乘圓頓成佛之法；二本經以大乘為理體，就別而言，則以彌陀修因感果之依正莊嚴不可思議功德為所詮之理；三本經專示持名之法為淨業之行；四果即教之用，近果為獲法性身，住於同居淨土，遠果乃得不退菩提，證清淨法身，究竟成佛。

470. 【《阿彌陀鼓音聲王陀羅尼經》】（科註第二三四頁第七行）

《閱藏知津》：（一卷，失譯）佛在瞻波大城，為諸比丘說阿彌陀佛父（月上）、母（名殊勝妙顏）、子（月明）、侍者（無垢

稱）、上首，及魔等名。次說神咒，十日修行。必生彼國。

471. 【《後出阿彌陀佛偈經》】（科註第二三四頁倒數第五行）

一卷，後漢，失譯師名。收於《乾隆大藏經》第一九八部，屬「大乘五大部外重譯經」。

472. 【《般舟三昧經》】（科註第二三四頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（經名）三卷或一卷，後漢支婁迦chèn識し（音趁）譯。大方等大集賢護經之舊譯也。由賢護菩薩之請而說佛立三昧之法。

473. 【月支】（科註第二三四頁倒數第一行）

《漢語大詞典》「月氏」條：古族名，曾於西域建月氏（音肉支）國。其族先游牧於敦

煌、qí祁（音奇）連間。漢文帝前元三至四年時，遭匈奴攻擊，西遷塞種故地（今新疆西部伊犁河流域及其yī迤西一帶）。西遷的月氏人稱大月氏，少數沒有西遷的人入南山（今祁連山），與羌人雜居，稱小月氏。

474. 【支婁迦chèn識shí】（音趁）（科註第二三四頁倒數第一行）

《佛光大辭典》（節錄）：（一四七—？）梵 Lokasena。漢代譯經僧。又稱支識。大月氏（中亞古國）人。後漢桓帝末年至洛陽，從事譯經。至靈帝光和、中平年間（一七八—一八九），共譯出道行般若經、般舟三昧經、阿闍世王經、雜譬喻經、首楞嚴經、無量清淨平等覺經、寶積經等二十餘部，然

現存者僅十二部，為第一位在我國翻譯及傳布大乘佛教般若學理論之僧人。（中略）師操行淳深，性度開敏，稟持法戒，以精勤著稱。諷誦群經，致力宣法，於譯出諸經後不知所終。（梁高僧傳卷一、開元釋教錄卷一、出三藏記集卷二、卷十三）

475. 【《大方等大集賢護經》】（科註第二三四頁倒數第一行）

《佛光大辭典》「大方等大集賢護分」條（節錄）：亦稱大方等大集賢護經、大集賢護分、大集賢護菩薩經、賢護菩薩所問經、賢護菩薩經、大集賢護經、賢護經等。佛教經典。隋闍那jué崛jué（音決）多譯。五卷。廣說念佛三昧功德，稱此三昧是菩薩眼、菩薩

父母，亦即是佛性、法性；釋迦牟尼（佛）因往昔在燃燈佛處聞此三昧而得授記為佛，今人受持隨喜，可得無量無邊功德，速成無上菩提。

476. 【佛立三昧】（科註第二三五頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）般舟三昧，此翻佛立三昧。此三昧成就，則見十方諸佛立於其前也。

般舟三昧經曰：「有三昧名十方諸佛，悉在前立。」

止觀二曰：「此法出般舟三昧經，翻為佛立。」（參見「常行三昧」ㄏㄣˊ）

477. 【常行三昧】（科註第二三五頁第一行）

《三藏法數》：常行三昧者，亦名般舟三

昧。梵語般舟，華言佛立。佛立有三義：

一、佛威力，二、三昧力，三、行者本功德力。能於定中，見十方佛在其前立，故名佛立。以九十日為期，終竟三月，身常旋行，不得休息，口常唱阿彌陀佛，心常想阿彌陀佛，或先想後唱，或先唱後想，想唱相繼，無令休息。此之三昧，極能斷除宿障，於諸功德最為第一。（梵語阿彌陀，華言無量壽。）

478. 【遊心安樂集】（科註第二三五頁第六行）

見「《安樂集》」214。

479. 【道綽】（音輟）（科註第二三五頁第六行）

《佛學大辭典》：（人名）真宗（日本淨土

宗派之一）七祖之第四祖。唐并州玄中寺道綽，并州汶水人。稱為西河。十四出家，講

丘敷<sup>5</sup>（音夫）涅槃經，後詣石壁玄中寺，讀曇鸞碑，大有所感。自此捨涅槃之講說，專事念佛。講觀經二百餘遍，示誨道俗。撰安樂集兩卷。貞觀十九年四月二十四日寂，年壽不記。唐高僧傳（道綽傳）曰：「綽今年八十有四，而神氣爽明。宗紹存焉。」

480. 【《悲華經》】（科註第二三五頁倒數第四行）

《佛光大辭典》（節錄）：凡十卷。北涼曇無讖譯。本經說明阿彌陀佛及釋迦等之本生。共分六品。第四品敘述無諍念王由於大臣寶海之勸告，而起淨土成佛之誓願，並由寶藏如來授記，將來必成無量壽佛；其後千名王子順次受記，名為觀世音、得大勢、文殊師利、普賢、阿閼佛等。本經現有二種譯

本，除本經外，另有大乘悲分陀利經，秦代譯者失佚。又本經與增一阿含經、無量壽經、阿閼佛國經、法華經等，或亦有密切關係。

481. 【《隨願往生經》】（科註第二三五頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（經名）具名佛說灌頂隨願往生十方淨土經，別名普廣菩薩經，東晉帛尸梨蜜多羅譯。佛說灌頂經之第十一卷是也。

482. 【《文殊說般若經》】（科註第二三五頁倒數第四行）

即《文殊師利所說般若波羅蜜經》。

《佛學大辭典》「文殊師利所說般若波羅蜜經」條：（經名）一卷，蕭梁僧伽婆羅譯。大般若第七會之別譯。略云文殊般若。

483. 【《目連所問經》】（科註第二三五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（經名）一卷，宋法天譯。為目連問經之新譯，問答犯戒之罪報者，犯戒罪輕重經之異譯。然安樂集上，樂邦文類一，往生要集上末等，舉此經名引無眼人無耳人之語，檢經無此文，按大周刊定疑經目錄有摩訶目連經一卷。即此本歟。但當世之藏，皆削疑經，故無由檢之。引用疑經，諸師之例甚多。

484. 【《文殊發願經》】（科註第二三五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（經名）文殊師利發願經之略名。

○文殊師利發願經：（經名）一卷，東晉佛陀跋<sup>z</sup>（音拔）陀羅譯，與普賢行願品中之

偈文大略相同，是五言頌也。

485. 【《入楞伽經》】（科註第二三五頁倒數第二行）

《閱藏知津》：十卷。元魏北天竺沙門菩提留支譯。有十八品，同《四卷楞伽》，但多初品，及後二品耳。

《佛學大辭典》：（經名）十卷，元魏菩提留支譯。復有舊譯四卷，題為楞伽阿跋多羅寶經；新譯有七卷。楞伽為師子國之山名，佛入彼山所說之經故名楞伽經。（參

見「楞伽經」335）

486. 【《毘<sup>文</sup>毘<sup>文</sup>婆沙論》】（科註第二三五頁倒數第一行）

此指《十住毘婆沙論》。

《佛學大辭典》「毘婆沙論」條：（書名）

Vibhāṣā-sāstra，廣解廣說經論之義者，總名

毗婆沙論，是通名也，然別題毗婆沙論者，

藏中有四部：一、阿毗達磨大毗婆沙論。

二、多pi<sup>多</sup>鞞（音皮）婆沙論。三、五事毗婆沙論

（已上小乘）。四、十住毗沙論（是大乘）

也。其他律部有善見律毗婆沙。

487. 【《大智度論》】（科註第二三五頁倒數第一行）

《閱藏知津》：一百卷，有僧睿序，龍樹

菩薩造，姚秦北天竺沙門鳩摩羅什譯。緣起

論（半卷），釋初品（盡三十四卷）。釋摩

訶般若波羅密經九十品，惟初品具譯全釋，

故有三十四卷，餘皆什師十倍略之，取其足

以開釋文意而已。

（八）譯會校釋

488. 【無量清淨平等覺經】（科註第二三六頁倒數

第一行）

《佛學大辭典》：（經名）四卷，後漢支

婁迦chen識し（音趁）譯。無量壽經之異譯。

489. 【佛說阿彌陀三耶三佛薩樓佛檀過度人道經】

（科註第二三七頁第一行）

《佛學大辭典》「阿彌陀三耶三佛薩樓佛

檀過度人道經」條：（經名）佛說諸佛阿彌

陀三耶三佛薩樓佛檀過度人道經，二卷，吳

支謙譯。與佛說無量壽經同本異譯。外題略

名佛說阿彌陀經，坊本表題曰：大阿彌陀

經，三耶三佛薩樓佛檀為如來之尊號，過度是濟度之義，此經說阿彌陀如來濟度人道者。

490. 【優婆塞】（科註第二三七頁第二行）

《三藏法數》：梵語優婆塞，華言清淨士。謂雖在家，能持五戒，清淨自守；又云近事男，謂能持戒，可親近承事諸佛法，故名優婆塞。（五戒者，不殺、不盜、不邪淫、不妄語、不飲酒也。）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）

Upāsaka，舊稱優婆塞，伊蒲塞。新稱鄔波索迦，優波娑迦，優婆娑柯，鄔波塞迦，鄔波素迦等。譯曰清信士，近事男，善宿男等。親近奉事三寶之義。總稱受五戒之男子。四

眾之一。七眾之一。（中略）

華嚴疏鈔六十二曰：「親近比丘而承事故。」

業疏二下曰：「正音云鄔波塞迦，唐翻善宿也。故成論云：此人善能離破戒宿，古錄以為清信士者。清是離過之名，信為入道之本，士即男子通稱，取意得矣。在言少異。」涅槃經八曰：「歸依於佛者，真名優婆塞。」

491. 【支謙】（科註第二三七頁第二行）

《釋氏通鑑》：自至吳。至是譯經八十八部。合一百一十八卷。謙博覽經籍。時語曰。支郎眼中黃。形雖細是智囊。吳主高其才。拜為博士。固辭不受（一云輔導東宮甚

有裨益)。謙初受業於支亮。亮受業於支讖。世稱天下博知。不出三支(釋教錄)

492. 【無量壽經】(科註第二三七頁第三行)

《佛學大辭典》：(經名) 梵語 *Sukhāvativy*

*ñha-sūtra*，一卷，曹魏康僧铠かい譯。(音楷) 譯。

淨土三部經之一。此經說無量壽佛之因地修行，果滿成佛，國土莊嚴，攝受十方念佛眾生往生彼國等事，該括無遺。無(疑作「所」)攝之機，通於聖凡。凡位具攝三輩。唯除五逆十惡，誹謗正法。此經前後有十二譯，中存五譯欠七譯。

各家註述如下：無量壽經義疏二卷，隋慧遠撰。無量壽經義疏一卷，隋吉藏撰。無量壽經記二卷，上卷殘，下卷逸，唐玄一集。

無量壽經連義述文贊三卷，唐璟興撰。無量壽經宗要一卷，新羅元曉撰。無量壽經起信論三卷，彭際清述。無量壽經會譯一卷，魏源會譯。

493. 【康僧铠かい】(音楷) (科註第二三七頁第三行)

《佛學大辭典》：(人名) 梵名僧伽跋ば *Sa*

*ṅghapāla*，印度人，廣學群經，曹魏嘉平五年來支那，於洛陽白馬寺譯無量壽經。見梁高僧傳一(曇曇たんたん音談)柯迦羅傳附)。

494. 【白馬寺】(科註第二三七頁第三行)

《佛學大辭典》：(寺名) 在河南洛陽縣東故洛陽城西。漢明帝時。摩騰、竺法蘭初自西域以白馬馱經而來。舍於鴻臚かむ(音盧)

寺。遂取寺為名。創置白馬寺。此僧寺之始也。唐垂拱、宋淳化、元至順、明洪武間，俱重修。

洛陽伽藍記曰：「白馬寺，漢明帝所立也，佛入中國之始。寺在西陽門外三里，御道南。帝夢金人，長丈六，項皆日月光明。胡神，號曰佛。遣使向西域求之，乃得經像焉。時白馬負經而來，因以為名。明帝崩，起<sup>レ</sup>祇<sup>レ</sup>（音奇）<sup>レ</sup>洹<sup>レ</sup>（音環）於陵上。自此以後，百姓冢上，或作浮圖焉。寺上經函，至今猶存。常燒香供養之，經函時放光明，耀於堂宇。是以道俗禮敬之，如仰真容。」

495. 【永嘉四年】（科註第二三七頁第三行）  
「永嘉四年」疑作「嘉平四年」。按：

《翻譯名義集》曰：「（康僧鎧）嘉平四年，於洛陽白馬寺，譯無量壽經。」「嘉平」為曹魏齊王曹芳的第二個年號，「嘉平四年」，即公元二五二年。

496. 【佛說大乘無量壽莊嚴經】（科註第二三七頁第五行）

《閱藏知津》：（三卷）宋中印土沙門法賢譯，《大寶積經》第五無量壽如來會同本異譯。法賢本中，有慈氏問答，尤妙。但止三十六願。

497. 【法賢】（科註第二三七頁第五行）

《佛光大辭典》：（？——一〇〇一）北宋時代中印度那爛陀寺僧。據佛祖統紀卷三十載，師初名法天。開寶六年（九七三）來

中國。曾奉進其與河中府開元寺之梵僧法進所譯聖無量壽經七佛讚，帝召賜紫袍。太平興國五年（九八〇），師應法進之請，入河中府譯經。次年，移<sub>丘</sub>鄜<sub>音夫</sub>州龍興寺譯無量壽決定光明王經。又次年，受賜「傳教大師」之號。復奉進其所攜來之吉祥持世經之譯本。帝嘗賜三藏聖教序，冠於其所譯之經前。咸平四年示寂，年壽不詳。shì諡<sub>尸</sub>（音是）號玄覺大師。師所譯經典凡一二〇部。或謂師與法天為不同之二人。

498. 【開元釋教錄】（科註第二三八頁第四行）

《佛學大辭典》：（書名）二十卷，唐智昇<sub>尸</sub>（音生）撰。以三藏經論編為目錄。不分門目，但以譯人時代為先後。起漢明帝永平

十年丁卯，迄開元十八年庚午，凡六百六十四載，中間傳經<sub>五</sub>緇<sub>尸</sub>（音資）素總一百七十六人，所出大小二乘，三藏聖教，及聖賢集傳，併及失譯總二千二百七十八部，合七千四十六卷，分為二錄：一曰總括群經錄。皆先列譯人名氏，次列所譯經名卷數，及或存或佚，末為小傳，凡九卷。其第十卷，則歷代佛經目錄四十一家。一曰別分乘藏錄。分為七目。各以經論類從，辨別存亡真偽，及刪併重修之類，凡八卷。其十九、二十卷，則大小乘經論入藏目錄也。見四庫提要。縮刷藏經緣起曰：「唐太（當作「玄」）宗開元十年，沙門智昇，著開元釋目錄二十卷，詮次經律論及諸師撰述，五千四十八卷。以千

宇文定函號，是大藏定數之始也。爾來歷朝，大藏詮次，以開元錄為模範。」

499. 【安世高】（科註第二三八頁第五行）

《釋氏稽古略》：安息國沙門安清。字世高。本世子當嗣位。讓之叔父出家。（東漢）桓帝建和二年至洛陽。譯佛經二十九部凡一百七十六卷。

至是建寧四年。因附舟浮遊至廬山邨（音恭）亭廟。神靈其能分風送往來之舟會yí（音以。使船靠岸）舟奉性請福。神降語曰。舟有沙門可與來。高至。神曰。吾昔與子俱出家學道。吾好施然而多瞋報形極醜。家此湖千里皆所轄。旦夕且死必入地獄。我有jiān（音堅。雙絲織的淺黃色細絹）段絹雜寶物。可

為立法營塔。使我生善處。因泣下。高許之。高徐曰。能出形相勞苦乎。神曰。形惡奈何。高曰。第出之。於是出其首帳中。蓋巨蟒也。悲淚如雨。高取絹物至豫章為建太安寺。乃江淮寺塔之始也。神報之曰。生善處已。

後人於山西澤中。見死蟒頭尾數里。今潯陽縣（長江流經江西省九江市北的一段）有大蛇村是也（自鏡錄）。

500. 【huán（音環）靈】（科註第二三八頁第五行）

《漢語大詞典》：東漢末世桓帝與靈帝的並稱。

501. 【bó（音伯）延】（科註第二三八頁第六行）  
《佛教大辭典》：亦作「白延」。三國時

期僧人。據《高僧傳》、《開元錄》等載，本為西域人。於魏甘露三年（二五八），譯出《無量清淨平等覺經》等六部（一說五部）佛經。

502. 【甘露三年】（科註第二三八頁第六行）

公元二五八年。甘露，曹魏高貴鄉公曹髦<sup>máo</sup>（音毛）的第二個年號。公元二五六至二六〇年。

503. 【竺曇摩羅剎】（科註第二三八頁第七行）

《高僧傳卷一》（節錄）：竺曇摩羅剎。此云法護。其先月支人。本姓支氏。世居燉煌郡。年八歲出家。事外國沙門竺高座為師。誦經日萬言。過目則能。天性純懿操行精苦。篤志好學。萬里尋師。是以博覽六經

遊心（潛心）七籍。雖世務毀譽。未嘗介（放在心裡）抱（胸懷）。是時晉武之世。寺廟圖像雖崇京邑。而方等深經蘊在葱外。護乃慨然發憤。志弘大道。遂隨師至西域。遊歷諸國。外國異言三十六種。書亦如之。護皆遍學。貫綜詰訓。音義字體。無不備識。遂大齋梵經。還歸中夏。自燉煌至長安。沿路傳譯寫為晉文。所獲覽即正法華光讚等一百六十五部。孜孜所務。唯以弘通為業。終身寫譯勞不告倦。經法所以廣流中華者。護之力也。護以晉武之末。隱居深山。山有清澗。恒取澡漱。後有採薪者。穢其水側俄頃而燥。護乃徘徊歎曰。人之無德。遂使清泉輟流。水若永竭。真無以自給。正當移去

耳。言訖而泉涌滿澗。其幽誠所感如此。故支遁為之像贊云。護公澄寂。道德淵美。微吟窮谷。枯泉漱水。miǎo邈ㄇ一ㄠˋ（音秒）矣。護公。天挺弘懿。濯足流沙。領拔玄致。後立寺於長安青門外。精勤行道。於是德化遐布。聲蓋四遠。僧徒數千咸所宗事。及晉惠西奔關中擾亂百姓流移。護與門徒避地。東下至miǎn澗池ㄇ一ㄢˋ（水名，在今河南省。澗，音免）。gòu邁ㄍㄡˋ（音夠。邁也）疾而卒。春秋七十有八。（中略）護世居燉煌。而化道周給。時人咸謂燉煌菩薩也。

504. 【永嘉二年】（科註第二三八頁第七行）

公元三〇八年。永嘉，西晉懷帝之年號。

公元三〇七至三二三年。

505. 【竺法力】（科註第二三八頁倒數第四行）

《實用淨土宗辭典》：東晉譯經僧。又叫釋法力，西域人。道行清高，善通方言。恭帝元熙元年（四一九）二月，譯出無量壽至真等正覺經一卷，又稱極樂佛土經，即無量壽經之異譯本，今已不傳；關於師翻譯該經之說，見於歷代三寶紀卷七。

506. 【恭帝元熙元年】（科註第二三八頁倒數第四行）

公元四一九年。恭帝：晉恭帝司馬德文，東晉之末代皇帝。元熙，恭帝之年號。公元四一九至四二〇年。

507. 【佛陀跋ㄅㄚˊ陀羅】（科註第二三八頁倒數第三行）

《佛光大辭典》「佛馱跋陀羅」條：（三五九—四二九）梵名 Buddhahadra。又作佛陀跋陀羅、佛度跋陀羅、佛大跋陀、佛陀跋陀。意譯作覺賢、佛賢。五世紀之譯經僧。北印度那呵利城人，姓釋，為迦維羅衛城甘露飯王之後裔。十七歲出家，修業精勤，博學群經，特精禪、律，後與同參僧伽達多遊罽賓，依從佛大先受禪法。後應智嚴之請，於後秦弘始十年（四〇八）頃入長安，弘傳禪術之學，以不習長安世俗，又與羅什門下不合，故與弟子慧觀等四十餘人離長安，滯留廬山慧遠處數年，譯出達摩多羅禪經；義熙十一年（四一五）至建康（今南京），止住道場寺，從事翻譯，與法顯合譯摩訶僧祇

律、大般泥洹經，又獨譯出大方廣佛華嚴經六十卷等，凡十三部，一二五卷。劉宋元嘉六年示寂，世壽七十一。世稱天竺禪師，為廬山十八高賢之一。〔出三藏記集卷二、卷三、梁高僧傳卷二、卷三、歷代三寶紀卷七、華嚴經傳記卷一、佛祖統紀卷二十六、卷三十六、隋書經籍志第四〕

508. 【道場寺】（科註第二三八頁倒數第三行）

《中華佛教百科全書》：東晉與南朝時代，南京（江寧）之名刹。東晉·太寧（三二三—三二五）年間，司空謝石所創，故又稱謝司空寺、謝寺。在東晉末年，此寺與廬山同為南方佛教之中心。晉代譯經僧佛馱跋陀羅自印度抵達中土後，即以本寺為譯經中

心，與法顯共譯《摩訶僧祇律》、《大般泥洹經》等書，此外，又自譯《華嚴經》、《大方等如來藏經》、《僧祇比丘戒本》、《文殊師利發願經》等。其中，《華嚴經》之翻譯，以吳郡內史孟顛、右衛將軍褚叔度為檀越，有沙門法業、慧嚴等百餘人參與。又，寺中設有華嚴堂，以祈譯經順利，相傳經典譯成之後，因龍王現奇瑞，故改寺名為興嚴寺。至劉宋·元嘉（四二四—四五二）年中，僧複、慧詢、法莊等亦率眾在本寺講經。南朝陳·曇遷亦住本寺。〔《高僧傳》卷二、卷三；《出三藏記集》卷二、卷三、卷十五。〕

509. 【劉宋永初二年】（科註第二三八頁倒數第三

行）

公元四二二年。劉宋，南朝宋（四二〇年—四七九年）。南北朝時，南朝的第一個朝代，因皇族姓劉，故稱「劉宋」。公元四二〇年，劉<sub>yù</sub>裕（音欲）取代東晉政權而稱帝，改國號為「宋」，定都建康。永初，宋武帝劉裕之年號。公元四二〇至四二二年。

510. 【寶雲】（科註第二三八頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（人名）西涼州人，以晉隆安初，遠遊西域，與法顯智嚴前後相隨，備睹天竺諸國所有之靈異，諸國之音字話訓，無不瞭解。還長安，隨禪師佛馱跋陀羅策進禪道，後止江左之道場寺，譯出諸經。初關中之竺佛念於苻秦二代出眾經，江

左之譯梵無過於雲者。元嘉二十六年寂，壽七十四。其遊履外國，別有紀傳。見梁僧傳三。

511. 【じん罽ウレ】（音記）びん賓ウレ（音斌）【科註第二三八頁倒數第一行】

頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（地名）漢西域國名。

在北印度。新稱迦濕彌羅。即今克什米爾一帶之地。

512. 【いん曇ウレ】（音談）ま摩羅密多【科註第二三八頁倒數第一行】

《高僧傳卷三》（節錄）：曇摩密多。此

云法秀。罽賓人也。年至七歲神明澄正。每見法事輒自然欣躍。其親愛而異之。遂令出家。罽賓多出聖達。屢值明師。博貫群經。

特深禪法。所得門戶極甚微奧。為人沈邃有慧解。儀軌詳正。生而連眉故世號連眉禪師。少好遊方誓志宣化。周歷諸國遂適龜茲。未至一日。王夢神告王曰。有大福德人明當入國。汝應供養。明日即敕外司。若有異人人境必馳奏聞。俄而蜜多果至。王自出郊迎延請入宮。遂從稟戒盡四事之禮。蜜多安而能遷不拘利養。居數載密有去心。神又降夢曰。福德人捨王去矣。王惕然驚覺。既而君臣固留莫之能止。遂度流沙進到燉煌。於閑曠之地建立精舍。植奈千株開園百畝。房閣池沼極為嚴淨。頃之復適涼州。以宋元嘉元年展轉至蜀。俄而出峽止荊州。於長沙寺造立禪閣。翹誠懇惻祈請舍利。旬有餘日

遂感一枚。衝器出聲放光滿室。門徒道俗莫不更增勇猛人百其心。頃之沿流東下至於京師。初止中興寺。晚憩祇洹。密多道聲素著化洽連邦。至京甫爾傾都禮訊。元嘉十年還都止鍾山定林下寺。以元嘉十二年斬石刊木營建上寺。

爰yuán 47（音圓。於是）自西域至於南土。凡所遊履靡不興造檀會敷陳教法。初密多之發ì 41（音記）賓也。有迦毘羅神王衛送。遂至龜茲。於中路欲反。乃現形告辭密多曰。汝神力通變自在遊處。將不相隨共往南方。語畢即收影不現。遂遠從至都。即於上寺圖像著壁。迄至於今猶有聲影之驗。潔誠祈福莫不享願。以元嘉十九年七月六日卒於上

寺。春秋八十有七。道俗四眾行哭相趨。仍葬於鍾山宋熙寺前。

513. 【元嘉】（科註第二三八頁倒數第一行）

南朝宋文帝劉義隆之年號。公元四二四至四五三年。

514. 【安息】（科註第二三九頁第二行）

《佛學大辭典》：（地名）波斯地方之古王國名。案史記大宛列傳，後漢書西域傳，此國古時強盛。而安世高，安玄，lán 47（音談）無諦，安法欽，先後來自彼國，尤可見彼國傳播佛教甚盛也。

515. 【迦毗羅衛】（科註第二三九頁第七行）

《佛學大辭典》「迦比羅」條：（地名）古代中印度之地名。梵語亦作迦毘羅。又曰迦

比羅伐窣堵。即釋迦父王所主國也。釋迦在世之年。其國即已滅亡。地在今尼泊爾西南境。拉普的 Rapti 河以東。晉法顯旅行時。已云城址荒蕪。民家僅數十。唐玄奘西遊。尚見伽藍窣堵波及阿育王所建大石柱。今遺迹已不可見。惟大石柱陷入土中。於西元一八九七年。始行掘出。其地在今哥拉克普爾 Corakhpur 以北。為釋迦降生之處。

516. 【《會疏》】(科註第二四〇頁第四行)

即《無量壽經會疏》。十卷，(日)峻諦作。

517. 【梵箴<sup>ふせ</sup>】(音策) (科註第二四〇頁第七行)

《佛學大辭典》「梵箴」條：(雜名)多羅葉之經卷，貝葉重疊，以板木挾其兩端以

繩結之，其狀恰如入於箱，故云梵箴。

518. 【《報恩論》】(科註第二四一頁第三行)

二卷。清·沈善登述。收於《卍新纂續藏經》第六十二冊。

519. 【依義不依語】(科註第二四一頁第五行)

《法界次第初門》「四依」條(節錄)：依義者，義是中道第一義諦。若依中道第一義諦，而修諸波羅蜜、萬行功德，則言語道斷，心行處滅，破諸顛倒，心心寂滅，自然流入無量禪定，故云依義。不依語者，語是世間語。文字章句，虛誑無實，乃至二乘所見真諦涅槃，亦有文字。故法華經，以化城喻。若依如是文字言語，而修諸波羅蜜、萬行功德，則增長諍訟，妄想煩惱，或墮二乘

之地，不到大乘大般涅槃，故云不依語也。

520. 【《四十二章經》】（科註第二四一頁倒數第六行）

《佛學大辭典》「四十二章經」條：（經名）後漢摩騰竺法蘭共譯。就小大乘攝集四十二章者。佛教流入中國之第一部經也。朱熹謂四十二章經其說卻是平實。茲將本經各家之註述列之如下：四十二章經御註一卷，宋真宗皇帝註。四十二章經註一卷，明守遂註，了童補註。四十二章經解一卷，明智旭著。四十二章經指南一卷，明道霽述。四十二章經疏鈔五卷，續法述。四十二章經箋註，丁福保註。

521. 【《法苑珠林》】（科註第二四一頁倒數第五行）

《佛學大辭典》（書名）一百二十卷（或

作百卷）唐釋道世撰。以佛經故實分類編排。凡一百篇。每篇或有述意，或無述意，為例不一。大旨推明罪福之由，用生敬信之念。蓋引經據典之作也。見四庫提要。

《中國佛教》（節錄）：《法苑珠林》一百卷，唐釋道世撰。釋道世字玄暉，當時因為避免和唐太宗同名（世字），所以通用玄暉這個名字。他俗姓韓，京兆長安人。年十二，出家於青龍寺。精通律學，很有名。顯慶年中他曾參加玄奘法師譯場的工作，後來又奉召與道宣律師同住西明寺。顯慶四年（六五九）編成《諸經要集》二十卷，後擴充為《法苑珠林》一百卷，花了十年的工夫，至總章元年（六六八）才完成。（中略）

《法苑珠林》是類書體。在它以前，梁武

帝蕭衍令沙門僧旻、寶唱等採擇經律裡重要稀有異相，以類相從，編成《經律異相》五十卷，開了佛教類書的先河。道世繼起作《諸經要集》，鈔出佛經中有關的材料一千條，分三十部一百八十餘目，每部開始有「述意緣」，總序一部的大意。其次有「引證緣」，廣引故事為證。到了擴充成《法苑珠林》分一百篇，篇下有部，也是以「述意」、「引證」居前，用《要集》原文，共分六百餘部，末尾更有「感應緣」，廣引實事為證，而且註出引用的典據。

本書從《劫量篇》起到《傳記篇》止，共一百篇。獨萬曆十九年嘉興藏刻本析為一百

二十卷，今兩種版本並行。

522. 【《一切經音義》】（科註第二四一頁倒數第

五行）

多指《玄應音義》和《慧琳音義》。（參

見「《玄應音義》」1146、「《慧琳音義》」1539）

523. 【本懷】（科註第二四二頁第三行）

《佛學大辭典》「出世本懷」條（節錄）：

（術語）釋迦如來出興於娑婆世界之本意也。

聖道門諸家以法華之開權顯實、開迹顯本為出世之本懷。因法華經方便品：「諸佛世尊，唯以一大事因緣故出現於世」故也。

又淨土門諸師以無量壽經念佛往生為出世之本懷。因無量壽經：「如來以無盡大悲矜哀三界。所以出興於世，光闡道教。欲拯群

萌，惠以真實之利。無量億劫難值難見。猶靈瑞華時時乃出」故也。

524. 【《無量壽經起信論》】（科註第二四六頁第三行）

《佛教大辭典》（節錄）：佛典注疏。清乾隆四十年（一七七五）彭際清撰。三卷。是康僧鎧譯無量壽經的註釋書。註釋旁引契經，略舉綱宗，破空有之執，明圓頓之宗。全書分五章：明教體、明教相、明歸趣、別釋經文、迴向極樂。見載於日本《續藏經》。

525. 【雲棲】（科註第二四六頁第八行）

即蓮池大師。（參見「蓮池大師」52）

526. 【丁福保】（科註第二四六頁倒數第五行）

《中國大百科全書》：（一八七四—一九五

二）中國佛教學者、居士。字仲<sub>フク</sub>祐<sub>ホ</sub>（音戶。

福也），別號疇隱。江蘇無錫人。少年時入江陰南菁書院治算學，並致力《說文》及詩賦研究。二十五歲起任無錫蒞實學堂算學教習。光緒二十八年（一九〇二）考入上海東文學堂，學日文、算學及醫學。越年任京師大學堂算學及生理學教習，旋（不久）改任譯學館教習。三十一年始讀釋氏語錄，其間結識佛教學者楊文會，聞佛教要義。後回上海參加譯書公會，從事翻譯。三十四年，在上海行醫並創辦醫學書局，刊印醫書。宣統元年（一九〇九）被兩江總督端方特派為考察日本醫學專員。回國後，除刊書行醫外，

常讀佛學書籍，收藏佛經，並開始信奉佛教，一生治學精博，先後編纂譯著有算學書

十種、健康長壽法書二十六種、文字學九種、文學詩詞八種、古泉學八種、雜著九種、佛學三十四種、醫學七十五種。佛學著作多屬入門書和佛經箋註，重要的有《一切經音義提要》、《佛教精華錄箋註》、《六祖壇經箋註》、《心經箋註》、《六道輪迴錄》、《佛學指南》、《佛學起信論》及《佛學大辭典》。自訂《疇隱居士年譜》，詳述其生平事蹟，附載於《佛學大辭典》。

527. 【無量壽經箋jiàn<sup>ㄐ一ㄢˋ</sup>】（音肩）註】（科註第二四

六頁倒數第五行）

《實用淨土宗辭典》：民國丁福保所作，

為依彭際清無量壽經節略本作的註解，以旁徵博引方式箋註本經。

528. 【校jiào<sup>ㄐ一ㄠˋ</sup>】（音叫）【讎chóu<sup>ㄔㄡˊ</sup>】（音酬）】（科註第二四七頁第二行）

《漢語大詞典》：謂考訂書籍，糾正訛誤。（讎，校勘；校對。）

529. 【犖luò<sup>ㄌㄨㄛˋ</sup>】（音洛）犖】（科註第二四七頁第七行）

《漢語大詞典》：分明貌；顯著貌。

530. 【未冠】（科註第二四八頁第七行）

《漢語大詞典》：古禮男子年二十而加冠。故未滿二十歲為「未冠」。

531. 【程朱】（科註第二四八頁第七行）

《漢語大詞典》：宋代理學家程顥hào<sup>ㄏㄠˋ</sup>（音浩）、程頤兄弟和朱熹的合稱。因他們三人

提倡性理之學，成一學派，故後人以「程朱」代指這一學派。

532. 【陸王】（科註第二四八頁第七行）

《漢語大詞典》：古代理學家宋陸九淵、明王守仁的並稱。

533. 【淨影】（科註第二五〇頁第二行）

《佛學大辭典》：（人名）隋淨影寺慧遠，世取其寺號稱為淨影。（參見「慧遠」トニ）

534. 【嘉祥】（科註第二五〇頁第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（人名）隋クダイ會

（音快）ジキ稽（音機）嘉祥寺吉藏。以寺號稱

為嘉祥。三論宗之祖也。唐高僧傳十三，佛祖統紀十，有傳。（參見「嘉祥寺」536、「吉

藏」537）

535. 【淨影寺】（科註第二五〇頁第三行）

《實用淨土宗辭典》：位於陝西西安市，隋文帝創建。時有慧遠（五二三—五九二）大師率學僧二百餘眾，先於長安大興善寺弘法，後因來學者興盛，即於五八七年另建本寺，法化甚盛，並於此圓寂。後人為別於廬山慧遠大師，乃稱此師為淨影慧遠。因淨影慧遠大師講說以涅槃教學為主，但其對淨土一門亦甚為關注，曾作《無量壽經》及《觀無量壽佛經》疏，解釋其文義，且在《大乘義章》中設《淨土義》一章，精細論述淨土之理，並述及淨土之分類，對後世淨土法門之影響甚巨，故此寺與本宗關係亦深。此寺今已不存。

536. 【嘉祥寺】（科註第二五〇頁第四行）

《中國大百科全書》：位於浙江會稽。東晉·太和（三六六—三七一）年間，郡守瑯琊王薈欽慕竺道壹之風德，乃建一字，請師居之，此即本寺之濫觴（起源、發端。觴，音商）。道壹博通內外，律行清嚴，故四方僧尼咸來依附。時人號曰「九州都維那」。

義熙（四〇五—四一九）初年，慧虔入住此寺，克己苦身以導眾，復書寫講說新經，五年後，寂於寺中。

梁武帝天監（五〇二—五一九）年中，慧皎來住，春夏弘法，秋冬著述。

隋·開皇（五八一—六〇〇）年中，吉藏入住本寺，此後七、八年間恆張講筵，聽者

絡繹不絕，寺名遂遠播四方，因此世稱吉藏為嘉祥大師。其後，吉藏弟子智凱亦住此寺，講述三論，四方義學八百餘人、上下僚庶咸皆幅集。相傳王羲之第七代孫智永亦曾於此讀書。由此可知，此寺自古即為著名之伽藍。〔《高僧傳》卷五、卷十四；《續高僧傳》卷六、卷十一、卷十四；《佛祖統紀》卷十。〕

537. 【吉藏】（科註第二五〇頁第四行）

《佛學大辭典》：（人名）唐延興寺吉藏，原為安息國人，其祖避仇移於南海，家於交廣之間。後，移金陵而生藏，年七歲，從道朗法師出家，有穎悟譽，具戒之後，聲聞轉高，陳桂陽王深欽奉之，及隋定南地，

東遊而止於嘉祥寺，開皇末歲，煬帝置四道場於晉藩，引藏人慧日道場，優賞殊渥（音臥。優厚），藩王又置日嚴寺於京師，別延藏居彼，使振道於中原。及大唐興，高祖聞藏之聲望，優禮之，置於十大德之一，使之綱維法務。齊王元吉欽其風猷（風采品格。音由）。以之為師範，使屈居延興寺，俱交獻。武德六年五月，壽七十五寂。

師顯揚龍樹、提婆之旨，為三論宗之祖，以其先自安息國出，故曰胡吉藏。以居於嘉祥寺故稱為嘉祥大師。所著經論疏凡數十種。見唐僧傳十一等。

538. 【憬興】（科註第二五〇頁第五行）

《三國遺事卷五》（節錄）：神文王（？）

六九二。新羅第三十一代君主）代。大德憬興（生卒年不詳）。姓水氏。熊川州人也。年十八出家。遊刃三藏。望重一時。開耀元年。文武王將昇遐（帝王死去的婉辭）。顧命於神文曰。憬興法師可為國師。不忘朕命。神文即位。曲為國老。住三郎寺。忽寢疾彌月。有一尼來謁候之。以華嚴經中善友原病之說為言曰。今師之疾。憂勞所致。喜笑可治。乃作十一樣面貌。（中略）皆可脫頤（指使開口笑）。師之病不覺洒然。尼遂出門。乃入南巷寺（寺在三郎寺南）而隱。所將杖子在幀畫十一面圓通像前。

一日將入王宮。從者先備於東門之外。鞍騎甚都。靴笠斯陳。行路為之辟易。一云沙

門形儀疎率。手杖背筐來。憩於下馬臺上。視筐中乾魚也。從者呵之曰。爾著<sub>子</sub>緇<sub>尸</sub>（音資。黑色。此指僧，僧徒衣緇，故稱）。奚負觸物（指乾魚）耶。僧曰。與其挾生肉於兩股間。背真三市（指大市、朝市、夕市。此指市集）之枯魚。有何所嫌。言訖起去。興方出門。聞其言。使人追之。至南山文殊寺之門外。拋筐而隱。杖在文殊像前。枯魚乃松皮也。使來告。興聞之嘆曰。大聖來戒我騎畜爾。終身不復騎。興之德馨遺味。備載釋玄本所撰三郎寺碑。嘗見普賢章經彌勒菩薩言。我當來世生閻浮提。先度釋迦末法弟子。唯除騎馬比丘不得見佛。可不警哉。（師之著作有：大涅槃經疏十四卷（或七卷）、金光

明經述贊七卷、藥師經疏一卷、四分律羯磨記一卷、大乘起信論問答一卷等三十多種。）

539. 【《無量壽經義述文贊》】（科註第二五〇頁第六行）

《佛教大辭典》「無量壽經連義述文贊」條：佛典注疏。唐新羅僧<sub>景</sub>憬興撰。三卷。是西晉竺法護譯無量壽經的註釋書。內容分三方面：一來意、二釋名、三解本文。解釋時依次先述經文，次立釋文。經文分「說經因起分」、「問答廣說分」、「問說喜行分」三品。此書不見於國內諸藏，今見載於日本卍字續藏及大正藏。

540. 【《遊心安樂道》】（科註第二五〇頁倒數第六行）

《實用淨土宗辭典》（節錄）：書名。全

一卷，唐代新羅僧人元曉大師撰。是書共分七章：一述教興宗致；二定彼土所在；三明疑惑患難；四顯往生因緣；五出往生品數；六往生難易，先述兜率、西方之優劣，後明往生難易；七解妨、除疑。

541. 【李炳南】（科註第二五二頁第一行）

《實用淨土宗辭典》：（一八八九—一九八六）現代佛教居士。號雪廬，山東濟南人。早年業儒，淹貫諸經，旁及子史法醫學，尤精於詩。居士嘗仕於莒莒<sup>hdy</sup>（音舉。山東莒縣），德加於民，功昭於世，惟居士志不在仕途，乃與莊心如同纂《莒志》，志成，入衍聖公（孔子嫡派後裔的世襲封號）幕，孔德

成尊其賢，待之以殊禮。

居士自幼受家庭薰習與佛有緣，但一直到三十歲以後才有信仰，曾學唯識於南昌梅擷芸居士，皈依印光大師之後，大師賜法名德明，專致弘揚淨土法門。個人修持真誠，學佛造詣精深。一九四九年赴台灣弘化，寓居台中，達數十年，身似孤僧，全心弘道。以釋典、儒經、詩文、醫術接引群機，同修淨業。次第興建台中佛教蓮社、《菩提樹》雜誌社、慈光圖書館、慈光育幼院、菩提仁愛之家，設立國學班、念佛班、男女青年弘法團、明倫社、大專佛學講座、內典研究班、論語講習班、社教科、國學啟蒙班、明倫雜誌社、明倫廣播節目供應社、青蓮出版社，

暨各種文化慈善事業基金會，弘化規模日大，影響深遠。居士披演內典，必依祖註，契理契機，指歸念佛，助以深信因果，務求當生成就。身教先於言教，感人至深，度化無數。遠公遺業，印公道風，由是大弘。

一九八六年農曆三月初五日寅時，居士應一年前預示，法緣已了，無疾西歸，世壽九十七歲。臨去之際，猶囑助念諸弟子，念佛當一心不亂。七七後茶毗，得諸色舍利千餘顆。居士一生，經註、講表、詩文、著述甚多，門人輯《李炳南老居士全集》行世，居士之《雪廬闡佛匯稿》列於台版《中華大典》內，其它重要佛學著作亦不勝敘其名，有關淨土者有《淨土問答》、《當生成佛之

道》，其主持編集之《淨土叢書》，收書二百八十餘種，是為震旦之第一創舉。

(九) 總釋名題

542. 【體相用】(科註第二五四頁倒數第二行)

《佛學大辭典》：(術語)起信論所說之三大也。真如為體，真如體內智慧慈悲等無量之功德為相，此體相不固定，應於緣而活動為用。(參見「三大」565)

543. 【鱗爪】(科註第二五四頁倒數第一行)

《漢語大詞典》：比喻事物的片斷或點滴。

544. 【三覺(一)】(科註第二五五頁第四行)

《三藏法數》：「出翻譯名義」覺有三

義：謂自覺、覺他、覺行圓滿也。唯妙覺果佛，具足三覺。故華嚴經云：奇哉大導師，自覺能覺他。是也。

一、自覺：謂覺知過去未來現在三世一切諸法常無常等，悟性真空，了惑虛妄，功成妙智，道證圓覺，故名自覺。

二、覺他：謂運無緣慈度諸眾生，皆令離生死苦，得涅槃樂，故名覺他。（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

三、覺行圓滿：謂三惑淨盡，眾德悉備，位登妙覺，行滿果圓，故名覺行圓滿。（三惑者，見思惑、塵沙惑、無明惑也。）

545. 【十號】（科註第二五五頁第六行）

《三藏法數》：〔出佛說十號經〕此十號

義，若總略釋之，則：無虛妄名如來，良福田名應供，知法界名正遍知，具三明明行足，不還來名善逝，知眾生國土名世間解，無與等名無上士，調他心名調御丈夫，為眾生眼名天人師，知三聚名佛。具茲十德，名世間尊。祖師所述經教，皆依此義而釋。今此經中，合世間解、無上士以為一號，雖開合不同，其義則一，故兩存之。（三明者，天眼明、宿命明、漏盡明也。三聚者，正定聚、邪定聚、不定聚也。）

一、如來：如來之義有三。謂法身、報身、應身也。金剛經云：無所從來，亦無所去。此法身如來也。轉法輪論云：第一義諦名如，正覺名來。此報身如來也。成實論

云：乘如實道，來成正覺。此應身如來也。

二、應供：謂萬行圓成，福慧具足，應受天上人間供養，饒益有情，故號應供。

三、正遍知（亦名正等覺）：謂具一切智，於一切法，無不了知，故號正遍知。以一切法平等開覺一切眾生，成無上覺，故號正等覺。

四、明行足：明即三明也。行足者，謂身口意業正真清淨，於自願力，一切之行，善修滿足，故號明行足。

五、善逝：善逝者，即妙往之義也。謂以無量智慧，能斷諸惑，妙出世間，能趣佛果，故號善逝。

六、世間解無上士：世間解者，謂世間、

出世間因果諸法，無不解了也。無上士者，謂業惑淨盡，更無所斷。於三界天人凡聖之中，第一最上無等，故號世間解無上士。

七、調御丈夫：謂具大丈夫力用，而說種種諸法，調伏制御一切眾生，令離垢染，得大涅槃，故號調御丈夫。（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

八、天人師：謂非獨與四眾為師，所有天上人間、魔王外道、釋梵天龍，悉皆歸命，依教奉行，俱作弟子，故號天人師。（四眾者，比丘、比丘尼、優婆塞、優婆夷也。）

九、佛：佛，梵語具云佛陀，華言覺。謂智慧具足，三覺圓滿，故號為佛。（三覺者，自覺、覺他、覺行圓滿也。）

十、世尊：謂以智慧等法，破彼貪瞋癡等不善之法，滅生死苦，得無上覺，天人凡聖，世間、出世間，咸皆尊重，故號世尊。

（參見《科註》第三七九頁至三八四頁）

546. 【薄伽梵】（音茄）梵（科註第二五五頁第八行）

《佛學大辭典》「婆伽婆」（節錄）：

（術語） Bhagavat，一作婆伽伴、婆誡鏝、婆伽梵、薄伽梵、薄阿梵梵 Bhagavān。佛地論舉自在、熾盛、端嚴、名稱、吉祥、尊貴之六義。智度論出有德、巧分別、有名聲、能破之四義。又密教有稱女人之秘釋。經中多單譯曰世尊。（中略）

慧琳音義十曰：「薄伽伴，或云薄伽梵，

或云婆伽婆，或云薄伽跋帝。皆佛第十號也。」（中略）

大日經疏一曰：「薄伽梵者，論師所解，具有六義。今此宗中，薄伽梵是能破義。如人執持利器，多所摧伏。（中略）經中多釋為世尊，是嘆德之總稱，西法語法，言及尊者不敢直斥其名，必先歎其功德。如云大智舍利弗、神通目犍連、頭陀大迦葉、持律優婆離等。故此經中例云薄伽梵毘盧遮那，今順此方文勢或以世尊居下也。」

《三藏法數》「六義——薄伽梵六義」條：「出華嚴經隨疏演義鈔」梵語薄伽梵，亦云婆伽婆，名具六義。佛地論云：自在、熾盛與端嚴、名稱、吉祥及尊貴，如是六德

義圓滿，是故彰名薄伽梵。唐玄奘法師，明五種不翻中，第二多含不翻，即薄伽梵是也。（五種不翻者，秘密不翻、多含不翻、此方無不翻、順古不翻、尊重不翻也。）

一、自在義：謂如來永不屬諸煩惱之所繫縛，故曰自在。

二、熾盛義：謂如來猛焰智火，洞達無際，故曰熾盛。

三、端嚴義：謂如來三十二相莊嚴妙好，故曰端嚴。（三十二相者，足安平相，千輻輪相，手指纖長相，手足柔軟相，手足縵網相，足跟滿足相，足<sub>丘</sub>趺（音夫。腳背也））高好相，<sub>shuàn</sub> 蹠（音澗。小腿肚子）如鹿王相，手過膝相，馬陰藏相，身縱廣相，毛孔生青色

相，身毛上靡相，身金色相，身光面各一丈相，皮膚細滑相，七處平滿相，兩腋滿相，身如師子相，身端直相，肩圓滿相，四十齒相，齒白齊密相，四牙白淨相，頰車如師子相，咽中津液得上味相，廣長舌相，梵音深遠相，眼色金精相，眼睫如牛王相，眉間白毫相，頂肉髻成相也。）

四、名稱義：謂如來圓滿一切殊勝功德，十方世界，無不聞知，故曰名稱。

五、吉祥義：謂如來既具勝妙之德，故一切世間讚歎供養者，亦獲吉祥，故曰吉祥。

六、尊貴義：謂如來始從兜率天中降生王宮及出家已，而登極果之位，方便利益一切眾生，故曰尊貴。（梵語兜率，華言知足。）

○七義——婆伽婆七義：〔出涅槃經〕婆

伽婆者，總萬德至極之名也。經云：婆伽婆具此七義。不翻華言者，多含義故。即五種不翻之一也。（五種不翻者，秘密不翻、多含義不翻、此方無不翻、順古不翻、生善不翻。）

一、能破煩惱，破者，裂斷也。煩惱者，昏煩之法惱亂心神也。謂如來斷諸煩惱，乃至無明之惑，淨盡無餘。故云能破煩惱。

二、能成就諸善法，謂如來於往昔無量劫中，恭敬父母和尚諸師上座，乃至修行六度，四無量等一切善法。故云能成就諸善法。

三、善解諸法義，謂如來於無量劫中，修習信、進、念、定、慧善根，常為法利，不為食利，若讀若誦，而於諸法義理，無不通達曉了。故云善解諸法義。

四、有大功德無能勝，謂如來於無量劫，常修出世間心，及出家心，無為之心，無諍訟心，而能成就無上大菩提心。故云有大功德無能勝。（梵語菩提，華言道。）

五、有大名聞遍十方，謂如來能具十力，四無所畏，常樂我淨之德，大千世界無不聞知。故云有大名聞遍十方也。

六、能種種大惠施，謂如來於無量劫中，常為眾生而行布施，乃至衣服珍寶，頭目髓腦，無所吝惜，故云能種種大惠施。

七、無量阿僧祇劫吐女根，梵語阿僧祇劫，華言無數時。吐者，不受之義，即出離也。謂如來於初阿僧祇劫，尸棄佛時，已離女身，永不復受。故云吐女根也。（梵語尸棄，華言火，又云持髻。）

547. 【《佛地經》】（科註第二五五頁第八行）

《佛學大辭典》：（經名）一卷，唐玄奘譯。佛為妙生菩薩說佛地之五相，謂清淨法界及四智也。一一細釋。

548. 【法界（一）】（科註第二五五頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：界者，邊際之義，法者極法之邊際之言，言廣大深遠無過於此之語。如言法界萬靈，周遍法界等也。

止觀三曰：「出法界外何處更有法？」

同五曰：「當知法界外，更無復有法而為次第也。」

四教儀集註半字談五曰：「窮事邊際云法界。」

往生要集上曰：「周遍法界，拔苦眾生。」

又曰：「佛光明照法界念佛眾生，攝取不捨。」

約理而言，法相華嚴之釋意，指真如之理性而謂之法界。或謂之真如法性，實相，實際。其體一也。界者因之義，依之而生諸聖道，故名法界。又界者性之義，是為諸法所依之性故。又諸法同一性故名法界。

唯識述記九末曰：「三乘妙法，所依相故，名為法界。」

勝鬘經寶窟下末曰：「法界者，界即境界。即是因義，聖人四念處等，皆取此性作境故。」

探玄記十八曰：「界有三義：一是因義，依生聖道故。攝論云：法界者一切淨法因故。又中邊論云：聖法因為義故，是故說法界。二是性義，謂是諸法所依性故，此經上文云法界法性，並亦然故也。三是分齊義，謂諸緣起相不雜故。」

是四種法界中理法界之義也。嚴家台家更指一一之法，法爾圓融，具足一切諸法，謂之法界。

大乘止觀曰：「法者法爾故，界者性別故，以此心體法爾具足一切法，故言法界。」

四教儀集註半字談五曰：「性惡融通曰法界。」

止觀五曰：「又此十法，一一當體皆是法界，故言十法界。」

是四種法界中之事事無礙法界也。又支配於因果之理之法相範圍名為法界。佛為超脫此範圍者，故佛獨屹立于法界之外。

菩薩瓔珞本業經上曰：「於一法界有三界報。一切有為法，若凡若聖，若見著，若因若果，不出法界，唯佛一人在法界外。」

又十八界之一。意識所緣之境云法界，即六塵中之法塵也。此中總該有為無為之一切法以悉為意識之所緣也。

行宗記二下曰：「法塵一界，兼通色心。」

《佛學次第統編》：法界即名達磨馱都，此云法界，又曰法性，亦曰實相。法界之義有多種，以二義釋之，一就事，二約理。

就事而言，法者諸法也，界者分界也。諸法各有自體，而分界不同，故名法界。然則法界者，法之一一名為法界，總該萬有，亦謂之一法界，即事法界也。

約理而言，指真如之理性，而謂之法界。或謂之真如、法性、實相，實際，其體一也。界者因之義，依之而生諸聖道，故名法界。又界者性之義，是為諸法所依之性故。又諸法同一性故，名為法界，是即理法界也。

549. 【《成實論》】（科註第二五五頁倒數第五行）

《佛光大辭典》（節錄）：梵名 *Satyasiddhi-sūtra*。凡十六卷，或二十卷。又作誠實論。訶梨跋<sup>ḍ</sup>跋〔音拔〕摩（梵 *Harivarmaṇ*）著，鳩摩羅什於姚秦弘始十三年至十四年（四一四—四二二）間譯出。收於大正藏第三十二冊。為成實宗之根本經典。「成實」即「成四諦之實」之意。論中說明宇宙各種現象之存在皆為無實體之假象，最後終歸於空，修如是觀可體解四諦之理，以八聖道滅除所有煩惱，最後到達涅槃。內容分發聚（序論）、苦諦聚、集諦聚、滅諦聚、道諦聚（以上為本論）等五聚，計二〇二品。

發聚共三十五品，先論述佛、法、僧三

寶，後說造論之理由及四諦之法義，並列舉佛教有關有相、無相等十種重要異說，以示明本論之立場。苦諦聚共五十九品，說明五受陰（五取蘊）之苦，並詳敘色、識、想、

受、行。集諦聚共四十六品，說明苦因與業、煩惱。滅諦聚共十四品，披<sub>レ</sub>瀝<sub>之</sub>（音力）

本書獨特之見解，即謂滅盡假名心、法心、空心等三心，可達於涅槃之境界。道諦聚共四十八品，說明滅苦而實現涅槃之方法，為禪定與智慧。其中，智乃空無我之真智，係滅煩惱後所得者；此外，復言及空與無我之實踐。（中略）在佛教史上，被認為是由小乘空宗走向大乘空宗過渡時期之重要著作。（中略）南北朝時一度出現專講此論之成實學

派。本論之卷數有各種異說，高麗藏本為十六卷，宋、元、明藏本為二十卷，諸經錄中則有十四卷、十六卷、二十一卷、二十四卷等說。

注疏頗多，有南朝宋代僧導之成實論義疏若干卷、北魏曇度之成實論大義疏八卷、隋代靈祐之成實論抄五卷等，今多已散軼<sub>一</sub>（音意。散失也），僅於隋代慧遠所著大乘義章內尚保存部分。「梁高僧傳卷七、卷八、歷代三寶紀卷十一、續高僧傳卷五、卷七至卷九」

550. 【十二門論】（科註第二五六頁第八行）

《三藏法數》：十二門論，亦龍樹菩薩所造也。而言十二者，總眾枝之大數也。門

者，開通無滯之稱也。論者，欲以窮其源，盡其理也。故始自觀因緣門，終至觀門，總有十二。其中所明，則有無兼暢，事無不盡，理無不備，故名十二門論。（十二門：因緣門、有無果門、緣門、相門、有無相門、異門、有無門、性門、因果門、作門、三時門、生門也。）

《佛學大辭典》：（書名）三論之一。一卷，龍樹造，秦羅什譯。說以觀因緣門乃至觀生門之十二門而入於空義者。有吉藏疏二卷，及略疏一卷，元康疏二卷，法藏疏一卷。（三論：中論、十二門論、百論。）

551. 【得大勢】（科註第二五六頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（菩薩）菩薩之名。經

中又云大勢至。（參見「勢至」80）

552. 【傅大士】（科註第二五七頁第三行）

《佛學大辭典》「善慧」條：（人名）東陽烏傷居士，傅xī翁ㄩㄥ（音西），字玄風，年十六、娶劉氏，生二子，云普建普成。年二十四、遇梵僧sōng嵩ㄨㄥ（音松）頭陀知往因，結ān菴ㄤ（音安）松山之雙chóu檣ㄨㄥ（音酬。木材堅碩的樹）樹間，自稱當來解脫善慧大士。苦行七年，宴坐之間，見釋迦金粟定光三佛。翁有神異，梁武帝敬重之。嘗創輪藏，令轉之者得大利。後世作輪藏者安父子三人之像。陳大建元年四月二十四日示寂。大士之心要，全為天台之一心三觀。荊溪之止觀義例曰：「東陽大士，位居等覺，尚以三觀四運而為心

要，故獨自詩曰：獨自精，其實離聲名。三觀一心融萬品，荊棘叢林何處生？獨自作，問吾心中何所著？推檢四運并無生，千端萬累何能縛？〔中略〕故知一家教門遠稟佛經。復與大士宛如符契。」見佛祖統紀二十三，常云傳大士。

553. 【寂寥<sup>力一</sup>寥】（音聊）（科註第二五七頁第四行）

《漢語大詞典》：空虛無形；空無人物。

《老子》：「有物混成，先天地生，寂兮寥兮，獨立而不改。」王弼注：「寂寥，無形體也。」

554. 【如如智】（科註第二五八頁倒數第四行）

《三藏法數》：謂真如妙智，本來清淨，無明不能覆，煩惱不能染。照了諸法，平等

不二，以其智如如境，故名如如智。

《佛學大辭典》：（術語）契於如如理體之智，謂之如如智。

佛性論二曰：「言如者有二義：一如如智，

二如如境。〔中略〕以如如智稱如如境故。」

555. 【三無差別】（科註第二六一頁倒數第三行）

《三藏法數》：〔出華嚴經疏〕謂心、

佛、眾生，雖在因在果，迷悟不同，然其理性所具，本來平等，初無有異。故經云：心、佛及眾生，是三無差別。

一、心無差別：謂一念心體，凡聖不二，具足十界、十如是等法，而與諸佛、眾生性元平等，初無有異。故經云：遊心法界如虛空，則知諸佛之境界，是名心無差別。（十

界者，佛界、菩薩界、緣覺界、聲聞界、天界、人界、阿修羅界、餓鬼界、畜生界、地

獄界也。十如是者，如是相、如是性、如是體、如是力、如是作、如是因、如是緣、如是果、如是報、如是本末究竟等也。」（參見「十法界十如是表」一一四四頁）

二、佛無差別：謂十方諸佛，了悟十界、十如是等法而成正覺，即是悟本心之所具，亦是悟眾生之所迷。迷悟雖殊，其體不二。故法華經云：唯佛與佛，乃能究盡諸法實相，是名佛無差別。

三、眾生無差別：謂九界眾生，各具十界、十如是等法，而與佛之所悟本心所具之法，其體不二。故涅槃經云：一切眾生即是

佛，是名眾生無差別。（九界者，十界中但除佛界也。）

556. 【《入佛境界經》】（科註第二六一頁倒數第三行）

《佛光大辭典》「如來莊嚴智慧光明入一切佛境界經」條：凡二卷。北魏曇摩流支譯於景明二年（五〇一）。又作如來入一切佛境界經、智慧莊嚴經、如來莊嚴佛境界經。收於大正藏第十二冊。本經敘述佛陀對妙吉祥童真（文殊師利）宣說不生不滅之法，開示如來法身之本義、方便示現之道理及隨機攝化之大用，並闡明菩提及菩薩行之義。

本經另有三異譯本：宋代法護等所譯之大乘入諸佛境界智光明莊嚴經、度一切諸佛境界智嚴經及西藏譯本。其中，法護譯本內容

最為增廣，而度一切諸佛境界智嚴經為最簡略、最接近原型者。〔Ancient Khotan, Plate CIX〕

557. 【不二法門】（科註第二六一頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）不二之法門也。不二之理，佛道之軌範，故云法。聖由之趣人，故云門。佛教有八萬四千法門。不二法門，在諸法門之上，能直見聖道者也。

維摩經載文殊師利問維摩<sup>詰</sup>詰（音結）：

何等是不二法門？維摩默然不應。殊曰：善哉善哉！無有文字言語，是真不二法門也。肇曰：言為世則謂之法，眾聖所由謂之門。

十二門論疏上曰：「淨名以理為門，一道清淨，故稱不二。真極可軌，所以云法。至妙虛通，故云門。」

558. 【貫攝常法】（科註第二六二頁倒數第五行）

《三藏法數》「經含四義」條：〔出翻譯名義〕

一、法義：法即可軌可則之義。謂如來所說之經，十界同遵，無不軌則故也。（遵，依也。十界者，佛界、菩薩界、緣覺界、聲聞界、天界、人界、修羅界、餓鬼界、畜生界、地獄界也。）

二、常義：常即不遷不變之義。謂如來所說之經，三世而不改易故也。（三世者，過去、現在、未來也。）

三、貫義：謂如來所說之經，貫穿一切深妙義理故也。

四、攝義：謂如來所說之經，攝持所化一

切眾生故也。

559. 【七種立題】（科註第二六四頁第五行）

《佛學大辭典》：（名數）天台之說。一大藏經之題，不出人法譬之三，此中由單複具足之不同，而生七種之別：

一、單人立題：如佛說阿彌陀經，佛為能說之人，阿彌陀為所說之人，是以兩土之果人立名也。

二、單法立題：如大般涅槃經，大般涅槃為經中所說之法也。

三、單譬立題：如梵網經，梵網為梵天之羅網，以譬戒律之節目絞絡無盡也。

四、人法立題：如文殊問般若經，文殊為人，般若為法也。

五、法譬立題：如妙法蓮華經，妙法為法，蓮華為譬也。

六、人譬立題：如如來師子吼經，如來為人，師子吼為譬也。

七、具足立題：三者具足也。如大方廣佛華嚴經，大方廣為法，佛為人，華嚴為譬也。已上單三複三具足一，謂之七種三（疑作「立」）題。

560. 【果人】（科註第二六四頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）果上之人。有三種：一佛，二闍支佛，三阿羅漢。

二教論上曰：「如是絕離，並約因位談，非謂果人也。」

561. 【寶所】（科註第二六四頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（譬喻）珍寶之所也。

法華經化城喻品以譬究竟之涅槃。

經曰：「欲過此道至珍寶所，〔中略〕前至寶所。」又曰：「寶所在近，此城非寶。」

止觀一曰：「如是道品，直通寶所。」

戒本一上曰：「利者以慧資成，便至寶所。」（參見「《法華經化城喻品》」1517）

562. 【大白牛車】（科註第二六四頁倒數第一行）

《三藏法數》：謂大乘菩薩，以圓融三觀，觀於諸法實相之理，頓破無明煩惱，而成一切種智；如乘大白牛車，至於寶所。故經云：有大白牛，肥壯多力，行步平正，其疾如風。是也。（三觀者，空觀、假觀、中觀也。一切種智者，佛智也。寶所者，喻實

相之理也。）

《天台教學辭典》：法華經譬喻品，所說四車之一。天台、賢首諸師以羊車比喻聲聞乘，以鹿車喻緣覺乘，以牛車喻菩薩乘，而以大白牛車比喻一佛乘。對界內三乘方便權教，以門外露地所授之大白牛車喻界外一乘真實法門，此即所謂「會三歸一」之妙旨。嘉祥、慈恩諸師則主張宅內牛車與宅外牛車同體無殊，故二乘會歸菩薩乘。

563. 【教行理】（科註第二六五頁第一行）

《佛光大辭典》：教、行、理三者之併稱。教，隨應機緣之教說；行，即可證果之因行；理，指名言所詮顯之實理。

法華玄義卷一下（大三三·六九一上）：

「立此二名，凡約三意，謂教、行、理。從緣故教別，從說故教通。從能契故行別，從所契故行通。理從名故別，名從理故通。」此謂眾生之機緣雖各自有別，然凡有教說皆同屬佛之說法；眾生之入門雖各自相別，然一切修行之理不二；而所謂理者，雖具種種之名，然其根本之理亦不異。〔觀無量壽佛經疏、請觀音經疏〕

564. 【三覺（二）】（科註第二六六頁第三行）

《三藏法數》：〔出圓覺經疏并起信論〕

一、本覺：謂一切眾生，自性清淨，心體本來覺了，離諸妄念，故名本覺。

二、始覺：謂本覺之體，忽起妄念，而成不覺，今始覺了一切諸法即是真如，平等不

二，故名始覺。

三、究竟覺：究竟即決定終窮之義也。謂能覺了染心之源，究竟終窮，同於本覺，故名究竟覺。

《佛學大辭典》：

一、本覺，一切眾生本來固有之自性清淨心也。

二、始覺，依本覺內薰與教法外薰而妄心漸起契於本覺之知覺者。

三、究竟覺，始覺極與本覺一致者。見起信論。

565. 【三大】（科註第二六六頁第五行）

《佛學大辭典》：（名數）起信論以眾生心為大乘之法體，名之為大乘之義理，分為

三種之大義與二種之乘義：

一、體大，眾生心之體性，真如平等，無生無滅，無增無減，畢竟常恒也。

二、相大，眾生心之自性，具足大智大悲常樂我淨等一切功德也。

三、用大，眾生心之體性，具足一切功德，內潛源底而薰妄心，外現報化二身教化眾生，依此內外之二用，使人初修世間之善而得世間之善果，後修出世之善因而生出世之妙果也。

即第一為真如之體性，第二為真如之德相，第三為真如之作用也。大者周遍法界之義。

起信論曰：「一者體大，謂一切法真如平

等不增減故。二者相大，謂如來藏具足無量性功德故。三者用大，能生一切出世間世間善因果故。」

密教以地等六大（地、水、火、風、空、識）為體，大等四種曼荼羅（音徒）（大曼荼羅、三昧耶曼荼羅、法曼荼羅、羯磨曼荼羅）為相，身等三密（身密、口密、意密）為用。

566. 【《金光明》】（科註第二六七頁第三行）

《佛學大辭典》「金光明經」條（節錄）：

（經名）有三譯，一北涼曇無讖（音趁）

譯，四卷，題曰金光明經。一隋寶貴等取前譯補譯，合入其缺品八卷，題曰合部金光明經。一唐義淨譯，十卷，題曰金光明最勝王經，三譯中此經在最後，而文義周足。但金

光明經由天台智者，說玄義及文句，故舉世流通。

(十) 正釋經文 分三

(此為十門分別中第十門)

567. 【序分，正宗分，流通分】(科註第二六八頁第四行)

《三藏法數》「三分科經」條：「出法華經文句」三分者，分即分限。謂諸經中皆有序分、正宗分、流通分也。始自晉道安法師判節諸經，皆具三分。爾後親光論自西天傳至此土，果有三分之說。是故諸經皆以三分而科節也。(親光論者，謂親光菩薩所造之論也。)

一、序分：序即序述，亦次序也。有通序、別序。通序者，謂如是我聞。一時，佛

在某處，與某大眾俱。此是通序。以一切經初同有此序，故名通也。別序者，蓋佛說經，必有由致。如楞嚴經由阿難遭摩登伽幻術之緣，佛因提獎阿難及摩登伽歸來佛所，故說是經，是名別序。而言別者，以諸經所說，各有緣起不同，故名別也。雖分通別，總名序分。

二、正宗分：宗即主也，亦要也。蓋佛說經，必以正說為主；又正明一經要義故也。如楞嚴經第一卷，從阿難見佛，頂禮悲泣，下徵心辨見，分別真妄，會萬法歸如來藏，乃至說咒立壇，遠離魔事，令阿難大眾除惑證道，至第十卷，重研五陰，知有涅槃，不戀三界等。此是一經正說，故名正宗分。

（五陰者，色陰、受陰、想陰、行陰、識陰也。三界者，欲界、色界、無色界也。）

三、流通分：流則不滯，通則不壅（音庸）。謂正說既陳，務傳後世，利益眾生，用使正法之源流通而不壅也。如楞嚴經，自阿難，若復有人，遍滿十方所有虛空，盈滿七寶，持以奉上微塵諸佛，至作禮而去。此乃較量持經福勝，勸讚讀誦，流傳無盡，故名流通分。（七寶者，金、銀、琉璃、玻璃、硨磲、碼瑙、赤真珠也。）

568. 【偏圓】（科註第二六八頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）判教理勝劣之稱。偏者偏僻所說之理偏於空乃至中也。圓者圓滿一切具足也。一往配之，則小乘為

偏，大乘為圓。然再往論之，則大乘中亦有偏圓，華（華嚴）天（天台）所謂圓教獨圓，如他之通別二教（台家），終頓二教（嚴家），偏教也。

止觀三曰：「偏名偏僻，圓名圓滿。」

569. 【證信序】（科註第二六九頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）又曰發起序。

為經首說：「如是我聞，一時佛在〔中略〕與（云云）之序，使眾生知所聞的確，又顯無誤而起信者，故名。

《佛學常見辭彙》：每部經的通序，都用

「如是我聞」等六種成就來證明此經是佛所親說，並非偽品。（參見「序分、正宗分、流通分」567）

570. 【法華論】（科註第二六九頁第四行）

《佛光大辭典》「妙法蓮華經優波提舍」

條（節錄）：梵名 Saddharma - puṇḍarīka - s

ūtra - Saddharma - puṇḍarīka - upadeśa，凡二

卷。印度大乘佛教論師世親著，後魏菩提流支、曇林等合譯。本書為法華經之注釋書。

又作妙法蓮華經論、法華經論、法華論。收於大正藏第二十六冊。（中略）別譯有元魏勒那摩提、僧朗等之妙法蓮華經論優波提舍一卷，其譯語雖與本論相同，然缺歸敬頌，並有字句之差異及詳略等不同。現今發現之敦煌出土本中，有類似高麗藏本勒那摩提譯之論本。注疏有隋代吉藏之疏三卷、唐代義寂、義一合著之述記二卷等。〔大智度論疏

卷二十四、歷代三寶紀卷九、開元釋教錄卷六、卷十二、彥琮錄卷一、至元法寶勘同總錄卷八」

571.【六成就】（科註第二六九頁第五行）

《三藏法數》：「〔出華嚴經疏〕六成就者，即如是我聞等六事，乃諸經之通序也。佛將入滅，阿難問云：世尊滅後，諸經之首，當安何語？佛答言：當安如是我聞，一時佛在某處，為某眾等。蓋言佛所說法，以此六事和合，方能成就，故名六成就。（梵語阿難，華言慶喜。）

一、信成就：信即如是也。言如是者，乃諸經之法體也。大智度論云：佛法大海，唯信能入。信者言是事如是，不信者言是事不

如是。謂如是之法，是佛所說，信受不疑，故名信成就。

二、聞成就：聞即我聞也。言我聞者，謂如是之法，阿難自言我曾親從佛聞，故名聞成就。

三、時成就：時即一時也。言一時者，法王啟運嘉會之時也。謂眾生有緣，能感佛即現身垂應，感應道交，不失其時，故名時成就。

四、主成就：主即佛也。佛，梵語具云佛陀，華言覺。即自覺覺他，覺行圓滿也。謂佛為世間、出世間說法化導之主，故名主成就。

五、處成就：處即佛說法之處也。謂或在

天上，或在人間，或摩竭提國，或舍衛國等，即是其處，故名處成就。（梵語摩竭提，華言不害。以其國法無刑戮故。梵語舍衛，華言聞物，以其名聞，勝於諸國，又寶物多出此故。）

六、眾成就：眾即菩薩、二乘、天仙等諸大眾也。謂佛說法，必有菩薩等大眾雲集同聽，故名眾成就。（菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。二乘者，聲聞乘、緣覺乘也。）

572. 【發起序】（科註第二六九頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）二序之一。對於證信序而立。（參見「序分、正宗分、流通分」567）

### ◎ 法會聖眾第一

573. 【般涅槃】（科註第二七〇頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）譯為人滅。常略曰涅槃。

俱舍光記二十三曰：「梵云般涅槃。槃（疑作「般」），此云圓。涅槃，此云寂。」（參見「涅槃」858）

574. 【阿泥樓陀】（科註第二七〇頁第五行）

《佛學大辭典》「阿那律」條：（人名）Anuruddha，舊稱阿那律，阿那律陀，阿泥盧豆，阿nòu窳nòu樓tuó馱tuó（同馱），阿樓馱，阿窳馱，阿泥nòu窳nòu豆，阿泥嚕多。譯曰如意無貪。新稱

阿泥律陀。譯曰無滅如意。佛十大弟子之一（天眼第一）。為佛之從弟，迦毘羅城之釋氏也。

玄應音義二十六曰：「阿那律陀，舊言阿那律，亦云阿菴樓駄，亦言阿泥盧豆，皆一也。此云無滅，亦云如意，甘露飯王之子，佛堂弟也。」

其傳見法華文句三，阿彌陀經慈恩疏上，名義集一。

《三藏法數》「阿那律陀，無目而見」條：梵語阿那律陀，華言如意。謂其於過去世，以一食施辟支佛，感九十一劫受如意樂。增一阿含經云：佛在給孤獨園為眾說法，那律於中眠睡，佛以偈呵曰：咄咄何為

睡，螺獅蚌蛤類，一睡一千年，不聞佛名字。那律聞已，達曉不眠，遂失眼根。獲天眼通，觀三千世界，猶如掌果。故云：無目而見。（辟支，梵語具云辟支迦羅，華言緣覺。掌果者，掌中之果也。）

575. 【四事】（科註第二七〇頁第五行）

《三藏法數》「阿難四問」條：「出涅槃後分」佛將入滅，語阿難大眾言：我滅度後，汝當精勤教誡我諸眷屬，早求出離，此生空過，後悔無追。時阿難聞佛語已，悲哽嗚咽，舉體迷悶。時阿泥盧豆安慰阿難曰：如來滅度時至，今日則有，明旦則無，汝依我語，諮啟四問。阿難問已。佛言：汝致四問，為最後問，大能利益一切世間，汝等諦

聽，吾當為說。（梵語阿難，華言慶喜。梵語阿泥樓豆，又名阿nòu窣樓駄，即阿那律，華言如意。謂於過去九十一劫，天人之中，受如意樂，故名如意。）

一、佛滅度後，惡性車匿，云何共住？佛答言：車匿比丘，其性鄙惡。我滅度後，汝當依我教法，調伏其心，捨本惡性，不久自當得證道果。（車匿無翻。西域記云：正音闡釋迦，亦釋種。太子出家，令車匿牽jiàn捷hí（音見）zhī陟shì（音至）。捷陟馬名，譯云納。）

二、佛滅度後，我等以何為師？佛答言：汝問以何為師者，當知尸波羅戒是汝大師，依之修行，能得出世甚深定慧。（梵語尸波羅，華言戒。）

三、佛滅度後，我等依何法住？佛答言：汝問依何法住者，當知依四念處，嚴心而住。一、觀身性相，同於虛空，名身念處；二、觀受不在內外，不住中間，名受念處；三、觀心但有名字，名字性離，名心念處；四、觀法不得善法，不得不善法，名法念處。一切比丘，應當依此四念處住。（觀受者，受即領納之義，謂眼耳鼻舌身意六根，領納色聲香味觸法六塵之境也。不在內外者，心不在六根名內；不在六塵名外；根塵之中，名為中間。）

四、一切經初，當安何語？佛答言：汝問一切經初當安何語者，當知如來滅後，結集法藏，一切經初，當安如是我聞，一時，佛

住某方某處，與某等大眾，而說是經。

576. 【《報恩經》】（科註第二七一頁第一行）

《佛學大辭典》：（經名）大方便佛報恩經之略名。

○大方便佛報恩經（節錄）：（經名）七

卷，失譯。佛在羅<sub>じゅ</sub>鷲<sub>じゅ</sub>（音就）山，阿難，聞外道譏佛非孝，以白佛，佛乃放光，集十方之菩薩，說嘗為須闍提太子，以身肉濟父母之難，或<sub>shēng</sub>昇<sub>アズ</sub>（音生）切利天為母說法等。有九品。

577. 【三願】（科註第二七一頁第二行）

《大方便佛報恩經卷六·優波離品第八》：阿難從佛請願：願佛莫與我故衣；莫令人請我食。我為求法恭敬佛故，侍佛所須

不為衣食。諸比丘晨暮二時，得見世尊，莫令我爾，欲見便見。又佛二十年中所說法盡為我說。

問曰：二十年中所說法句，何由可說？答曰：佛善巧方便，於一句法中演無量法，能以無量法為一句義。佛粗示其端緒，阿難盡已得知，速利強持力故。

578. 【《觀經疏》】（科註第二七二頁第七行）

此指天臺智者大師所作之《觀無量壽佛經疏》。（參見「《四帖疏》」153）

579. 【化道】（科註第二七二頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）教化人之道也。與教道同。

淨土論注曰：「言十地階次者，是釋迦如

來與閻浮提一應化道耳。」

止觀五下曰：「聖師有慧眼力明法藥，有法眼力識於病障，有化道力愈病授藥，令得服行。」

580. 【信順】（科註第二七二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）信受所聞之法而隨順之也。

無量壽經下曰：「應當信順如法修行。」

教行信證信卷序曰：「信順諸佛如來真說。」

法華玄義六下曰：「人心由法成親，親故則信，信故則順。」

581. 【師承】（科註第二七二頁倒數第三行）

《漢語大詞典》：指學術、技藝上的一脈

相承。

582. 【<sup>ㄩ</sup>臆（音易）造】（科註第二七二頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：憑主觀意想編造。

583. 【一刹那】（科註第二七三頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）Kṣāṇa，謂時之極少，曰一刹那。

俱舍論十二曰：「極微字刹那，色名時極少。」

仁王經上曰：「九十刹那為一念，一念中一刹那，經九百生滅。」

俱舍論十二曰：「何等名為一刹那量，眾緣和合，法得自體頃，或有動法，行度一極微，對法諸師說，如壯士一疾彈指頃，六十五刹那，如是名為一刹那量。」

無性攝論六曰：「處夢謂經年，寤乃須臾頃，故時雖無量，攝在一刹那。」

584. 【師資】（科註第二七三頁第六行）

《漢語大詞典》：猶師生；師徒。

585. 【機感】（科註第二七三頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）眾生有善根之機，而感佛也。又眾生有善根之機，故佛感應之也。

探玄記一曰：「機感相應，有形言現。」

釋籤一之一曰：「機感相應得益。」

文句一上曰：「機成致感，逮得己利。」

586. 【佛地論】（科註第二七三頁第七行）

《佛光大辭典》「佛地經論」條：梵名

Buddhabhūmi-sūtra-sāstra。凡七卷。親光等

菩薩造。唐代玄奘譯。略稱佛地論。收於大正藏第二十六冊。為佛地經之論釋。作者將佛地經科判為教起因緣分、聖教所說分、依教奉行分等三分以釋之，並敘述佛地經所說之清淨法界、大圓鏡智、平等性智、妙觀察智、成所作智等五種法，攝大覺地。親光論師本身為中印度摩揭陀國那爛陀寺之學者，又為護法（梵 Dharmapala，五二〇—五六一）之門人，因此佛地經論之思想，多以護法系統之唯識思想釋之。其中對四智心品之說，以五性各別等說作釋特別有名。注疏有唐代靖邁<sup>（音賣）</sup>之佛地經論疏六卷、新羅智仁之佛地論疏四卷等。〔大唐內典錄卷五、開元釋教錄卷八、至元法寶勘同總錄卷八〕

587. 【四天王天】（科註第二七三頁倒數第四行）

《佛學次第統編》「六欲天」條（節錄）：

四王天，四王即護世四大天王也。並其眷屬，總名四王天。此皆上品十善所感，或是不殺戒增上功德所感，或是一日一夜齋戒之力所感。身長五十七丈（約周尺算），以人間五十年，為一晝夜，壽五百歲，計人間數，即是九百萬年。然亦有中天者，死時五衰相現，甚大苦惱，陰陽如人世。一、東方持國天王，主乾闥闥（音踏）婆眾；二、南方增長天王，主鳩摩（音糾）槃茶（疑作「荼」）眾；三、西方廣目天王，主龍眾；四、北方多聞天王，主夜叉眾。

588. 【一切種智】（科註第二七四頁第六行）

《三藏法數》：謂能以一種智，知一切道，知一切種，是名一切種智，即佛之智也。（一切道者，一切諸佛之道法也；一切種者，一切眾生之因種也。）

○三智：〔出觀音玄義〕

一、一切智，謂於一切內法、內名，能知能解；一切外法、外名，亦能知能解，是名一切智，即聲聞、緣覺之智也。（內法、內名者，謂理內所詮法相，及能詮名字，蓋佛教依理而說，故名理內也。外法、外名者，即理外所詮法相，及能詮名字，蓋外道等違理橫計，故名理外也。）

二、道種智，謂能用諸佛一切道法，發起眾生一切善種，是名道種智，即菩薩之智

也。

三、一切種智，謂能以一種智，知一切道，知一切種，是名一切種智，即佛之智也。（一切道者，一切諸佛之道法也；一切種者，一切眾生之因種也。）

589. 【釋迦牟尼佛】（科註第二七四頁第七行）

《佛學大辭典》「釋迦牟尼」條：（佛名）

Sākyaṃuni，印度迦毘羅城 Kapilavastu 主，淨飯王 Suddhodana 之子，母曰摩耶 Māyā，名呼悉多太子。誕生於城東嵐毘尼園 Lumbini。生後七日，母歿，姨母波闍波提養育之，跋陀羅尼 Bharani 教養之。幼對於人生諸現象，既有思惟之處。或於閻浮樹下思耕農之苦，或見諸獸相食而厭人生之鬥爭。又於四

門出遊之途上，觀生老病死之相，有遁世之志。遂乘月夜令侍者車匿為伴。跨白馬健陟<sup>卅</sup>（音至）出家。尋跋伽婆 Bhārgava（巴 Bhagavā）而聞苦行出離之道，更訪阿藍迦藍於摩揭陀國王舍城北彌樓山 Menu，聞僧佉派（數論派也。印度外道之一。佉，音屈）之法，轉而歷問<sup>卅</sup>鬱<sup>卅</sup>（音玉）陀羅仙 Udraka，皆不得所求之大法。去而入優婁頻羅村苦行林，嚴苦六年，形容削瘦，極酷烈之苦，繼以為苦行非解脫涅槃之道，斷然改前日之行，浴於尼連禪河，以去身垢，受村女所捧之乳糜（以乳而造之粥也。糜，音迷），坐正覺山菩提樹下思惟曰：不得等正覺，不起此坐，思惟七七日，觀四諦十二因緣之法，於是成覺者

Buddha，世尊 Lokajyestha，為人天之師。時年三十五。自是以後四十餘年遊歷四方，化導群類，西歷紀元前四百八十七年於拘尸城外娑羅雙樹，包於白花之香，而遂大般涅槃。

590. 【上茅城】(科註第二七四頁倒數第二行)

《佛學大辭典》：(地名) 摩竭陀國之古都。

西域記九曰：「矩奢揭羅補羅城 *Kusāgūṭrapura*，唐言上茅城。上茅宮城摩竭陀國之正中，古先國王之所都，多出勝上吉祥香茅，以故謂之上茅城也。崇山四周以為外郭，西通峽徑，北 *chān* 闡 (音產) 山門，東西長，南北狹，周一百五十餘里。內城餘趾周

三十四里，羯尼迦 (印度之樹名) 編諸徑蹊，花含珠 *hu* 馥 (音付)，色爛黃金，暮春之月，林皆金色。」

591. 【寒林城】(科註第二七四頁倒數第一行)

《大唐西域記》：曷羅闍 *ji* 姑 (音及) 利 *xi* 晒 (音細) 城 (唐言王舍)，(中略) 初頻毘娑羅王都在上茅宮城也。編戶之家頻遭火害，一家縱逸，四鄰罹災。防火不暇，資產廢業，眾庶嗟怨 (嗟嘆怨恨。嗟，音接)，不安其居。王曰：我以不德，下民罹患。修何德可以 *rang* 禳 (祈禱除去災異) 之？群臣曰：大王德化邕穆 (和睦敬肅。邕，音庸)，政教明察。今此細民不謹，致此火災。宜制嚴科以清後犯，若有火起，窮究先發，罰其首惡，

遷之寒林。寒林者，棄屍之所，俗謂不祥之地，人絕遊往之迹。今遷於彼，同夫棄屍。既恥陋居，當自謹護。王曰善。宜遍宣告居人。頃之，王宮中先自失火。謂諸臣曰：我其遷矣。乃命太子監攝留事，欲清國憲（國家的法制。憲，音現），故遷居焉。時吠舍<sup>ウ</sup>釐<sup>ル</sup>（音離）王聞頻毘娑羅王野處寒林，整修戎旅，欲襲不虞（音魚。預料）。邊候（邊境的偵察人員）以聞，乃建城邑。以王先舍於此，故稱王舍城也。官屬士庶咸徙家焉。或云至未生怨王（阿闍世王也）乃築此城。未生怨太子既嗣王位。因遂都之。

592. 【阿<sup>ア</sup>闍<sup>カ</sup>世<sup>セ</sup>王】（科註第二七五頁第一行）

《佛學大辭典》「阿闍世」條：（人名）又作阿闍<sup>ア</sup>世<sup>セ</sup>貴<sup>キ</sup>（音市。赦免）。王名。舊稱阿闍世。新稱阿闍多設咄路<sup>ajitasattu</sup>，譯曰未生怨。佛在世之頃，摩竭陀國王舍城之治者。父名頻婆娑羅，母曰韋提希。韋提希懷胎時，相師占之，謂此兒生必害父，因之名曰未生怨。未生以前結怨之意也。

西域記九曰：「阿闍多設咄路王，唐云未生怨，舊云阿闍世，訛也。」又名婆羅留支。譯曰折指。父王聞相師之言，與夫人共謀於生日從樓上落於地，而阿闍世僅損指未死，故名折指。」

法華文句五曰：「阿闍世者，未生怨，或呼為婆羅留支，此云無指。」同記曰：「言

未生怨者，母懷之日，已常有惡心於瓶沙王。未生已惡，故因為名。無指者，初生相者言凶，王令昇樓撲之，不死，但損一指，故為名也。」

又名善見。涅槃經曰：「提婆達多語善見太子，言國人罵汝為未生怨。善見言：何故名我為未生怨？誰作此名？達多言：汝未生時，一切相師，占言是兒生已，必殺其父，是故外人悉號汝為未生怨。一切內人護汝心，故謂善見。」

阿闍世既長，近惡友提波達多，幽囚父母。見觀無量壽經。即位後併吞諸小國，威震四鄰，建一統印度之基。後因害父頻婆娑羅王之罪遍體生瘡，至佛所懺悔，即平愈

（見涅槃經十九），遂歸依釋迦。佛滅後，五百羅漢，結集佛說。王為之護法。佛教之興。與有力焉。

普超經曰：「阿闍世從文殊懺悔，得柔順忍。命終，入賓吒羅地獄，即入即出，生上方佛土，得無生忍。彌勒出時，復來此界，名不動菩薩，後當作佛，號淨界如來。」

593. 【慈恩傳】（科註第二七五頁第三行）

《佛學大辭典》：（書名）大慈恩寺三藏法師傳之略名。

《佛光大辭典》「大慈恩寺三藏法師傳」條（節錄）：凡十卷。唐代慧立撰，彥cong宗たふ

（音從）增補。收於大正藏第五十冊。全稱大唐大慈恩寺三藏法師傳。略稱慈恩寺三藏法

師傳、三藏法師傳、慈恩傳。本書為唐代玄奘大師之傳記，初係慧立撰述，原為五卷，其後彥棕增補為十卷。前五卷記載玄奘出生、西域求法之事蹟；後五卷則載玄奘歸國後之譯經事業。其中有關西域之國名、遊歷之行程、西域各國及印度之風土等，均詳實記載，乃研究玄奘生平行蹟及唐代長安文化之珍貴文獻。

594. 【摩揭陀國】（科註第二七五頁第四行）

《佛光大辭典》：摩揭陀，梵名 Magadha，巴利名同。中印度之古國。又作摩<sub>五</sub>羯<sub>七</sub>（音結）陀國、摩伽陀國、摩竭陀國、摩竭提國、默竭陀國、默竭提國、摩訶陀國。意譯無害國、不惡處國、致甘露處國、善勝國。

為佛陀住世時印度十六大國之一。位於今南比哈爾（Bihar）地方，以巴特那（Patna，即華氏城）、佛陀伽耶為其中心。此國與佛教之關係甚深。據大唐西域記卷八記載，摩揭陀國周廣五千餘里，土地肥沃，風俗淳樸，崇尚佛法，有伽藍五十餘所，僧徒萬餘人，多宗習大乘教法；復有天祠數十，異道亦多；華氏城附近有阿育王塔、佛足石、雞園寺舊址、佛苦行處、三迦葉歸佛處等著名佛教遺蹟。此國之頻婆娑羅王（一說為阿闍世王），於舊都之北建立新王舍城（即今拉查基爾，Rajgir），並歸依佛陀；此後，該地成為佛陀最常說法之處。至孔雀王朝三世阿育王時，統一全印度，國勢大振，更派遣布教

師至全國及海外各地宣揚佛教，建佛塔，立石柱，佛教極一時之盛。四世紀<sup>正笈</sup>笈（音及）多王朝時代，佛教亦極興盛。五世紀初帝日王創那爛陀寺，成為印度佛教之中心。至七世紀，王朝衰亡，佛教亦隨之衰微。「法華經文句卷一上、玄應音義卷一、卷二十一、慧苑音義卷一」

595. 【香茅】（科註第二七五頁第四行）

《漢語大詞典》：多年生草本植物。葉子扁平，長而寬。圓<sup>zhuī</sup>錐（音追）花序。生長在熱帶地區。莖和葉子可以提取香茅油，用做香水的原料。

596. 【望西師】（科註第二七五頁第五行）

日本僧人了惠道光。

597. 【五天竺】（科註第二七五頁第七行）

《佛學大辭典》：（地名）略稱五天。東西南北中五方之天竺。即東天西天南天北天中天。西域記二曰：「五印度之境，周九萬四里，三垂大海，北背雪山，北廣南狹，形如半月。」五方之分配與今異。

598. 【大寶積經論】（科註第二七五頁第八行）

《佛光大辭典》：梵名 Mahā-ratnakūṭa-dharmaparyāya-sāśasāhasrikā-parivarta-kāśyapa-parivarta-īkā。凡四卷。安慧著（據西藏譯本），北魏菩提流（留）支譯。此論雖名為大寶積經論，然並非唐代菩提流志所編譯之大寶積經全經一二〇卷之釋論，而僅是第四十三會普明菩薩會（即「古寶積經」）之注

疏。本論內容初揭出歸敬偈二頌，其次論釋「寶積」之名義，蓋寶積一經攝盡一切大乘法中，如來為諸菩薩所說各種邪行、正行等十六種相差別之說法，故稱「寶積」。其後就原經文，以問答體詳釋原經之文義。本論所論釋之普明菩薩會另有三種異譯本，於四種譯本中，本論博採四本，而以大寶積經第四十三會之普明菩薩會為主。本論另有西藏譯本，收於丹珠爾經疏部。「歷代三寶紀卷九、大唐內典錄卷四、古今譯經圖紀卷四、開元釋教錄卷六、貞元新定釋教目錄卷九」

599 【**耆耄**】(音奇) **耄** (音督) **耄** (音覺) (科註第二七五頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(地名) 梵音 Gṛdhrakū

ja。耆闍崛者，巴利音 Gijjakūja。又曰伊沙 **耄** (音覺)，揭梨 **耄** (音陀) 羅 **耄** (音糾) 胝，**耄** (音吉) 栗陀羅矩 **耄** (音扎) 山名。譯曰 **耄** (音就) 頭，**耄** 峰，靈鷲。山頂似鷲，又山中鷲多，故名。在中印度摩揭陀國王舍城之東北，釋尊說法之地。

智度論三曰：「是山頂似鷲，王舍城人，見其似鷲故，共傳言鷲頭山，因名之為鷲頭山。復次王舍城南，尸陀林中，多諸死人，諸鷲常來 **耄** (音但) 之，還在山頂，時人便名鷲頭山。此山五山中最高大，多好林水，聖人住處。」

法華文句一上曰：「耆闍崛山，此翻靈

鷲，亦曰鷲頭，云狼迹。」

玄應音義六曰：「耆闍崛山，或言伊沙堀山，或言揭梨馱羅鳩<sub>zh</sub>胝<sub>u</sub>（音知）山，若訛也。正言姑栗陀羅矩吒山，此翻云鷲台，又云鷲峰。言此山既栖鷲鳥，又類高台也。舊譯云鷲頭，或云鷲峰者，一義也。」

西域記九曰：「如來御世，垂五十年，多居此山，廣說妙法。」

翻梵語曰：「耆闍崛，應云耆闍崛多。譯曰：耆闍，鷲。崛多，頭。」

600. 【《西域記》】（科註第二七五頁倒數第二行）

《中國大百科全書》「大唐西域記」條（節錄）：佛教史籍。又稱《西域記》。十二卷。玄奘述，辯機撰文。本書係玄奘奉唐太

宗敕命而著。貞觀二十年（六四六）成書。書中綜敘了貞觀元年（一說貞觀三年）至貞觀十九年玄奘西行之見聞。記述了玄奘所親歷的一百一十個及（以及）得之傳聞的二十個城邦、地區、國家之概況（共一三八個），有疆域、氣候、山川、風土、人情、語言、宗教、佛寺以及大量的歷史傳說、神話故事等。書中各國的排列，基本上以行程先後為序。為研究中古時期中亞、南亞諸國的歷史、地理、宗教、文化和中西交通的珍貴資料。所述佛教史上幾次著名的結集，大、小乘部派的分布，一些著名佛教學者的活動等，更是研究佛教史學、佛教遺蹟的重要文獻。晚近以來，印度那爛陀寺的廢墟、

王舍城的舊址、鹿野苑古剎、阿旃陀石窟，得以展露和再現其光輝，《大唐西域記》的記載在這方面有著不可磨滅的功勳。敦煌《大唐西域記》唐代寫本有法文、英文、日文等譯本。清丁謙著有《大唐西域記考證》。一九七七年，上海人民出版社出版由章巽校點的《大唐西域記》，並附新編總目錄。一九八一年，中華書局影印向達輯《大唐西域記古本三種》（敦煌本、福州藏本和金藏本）。一九八五年中華書局又出版了由季羨林等校註的《大唐西域記校註》本。

601. 【ㄑㄩ耆（音奇）山】（科註第二七五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（地名）耆闍崛山之略。

602. 【精舍】（科註第二七六頁第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）寺院之異名。為精行者所居，故曰精舍。非精妙之謂。此名自ㄑㄩ祇（音其）園精舍而來。（中略）

釋迦譜八曰：「息心所棲故曰精舍。」

慧苑音義上曰：「藝文類曰：精舍者，非以舍之精妙名為精舍，由其精練行者之所居，故謂之精舍也。」

名義集七曰：「靈祐寺誥曰：非麤暴者所居故云精舍。」

603. 【ㄍㄧ食】（科註第二七六頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）十二頭陀行之一。比丘為資自己之色身，乞食於人也。是

為清淨之正命。若自作種種生業而自活，稱為邪命。梵云分衛。

大乘義章十五曰：「專行乞食。所為有二：一者為自，省事修道。二者為他，福利世人。」

行事鈔下三曰：「善見云：三乘聖人悉皆乞食。」又「善見云：分衛者乞食也。」

法集經曰：「行乞食者，破一切憍慢。」

十二頭陀經曰：「食有三種：一受請食，二眾僧食，三常乞食。若前二食，起諸漏因緣。所以者何？受請食者。若得請，便言我有福德好人。若不請，則嫌恨彼，或自鄙薄。是貪憂法，則能遮道。若僧食者，當隨眾法斷事擯人料理僧事，心則散亂，妨廢行

道。有於是惱亂因緣，應受乞食法。」

604. 【八部大力眾神】（科註第二七六頁第四行）

見「天龍八部」605。

605. 【天龍八部】（科註第二七七頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）天龍為八部眾中之二眾，八部之中以此為上首，故標舉曰天龍八部。八部者：一天、二龍、三夜叉、四乾闥婆、五阿修羅、六迦樓羅、七緊那羅、八摩睺羅迦也。

法華經提婆品曰：「天龍八部人與非人，皆遙見彼龍女成佛。」

《三藏法數》「八部」條：〔出翻譯名義〕夫佛之垂化也，道濟百靈；法之傳世也，慈育萬有。三乘賢聖，既肅爾以歸依；八部鬼

神，亦森然而立立翊翊（音易。護衛也）衛。故諸經中，多列八部之眾也。（三乘者，聲聞乘、緣覺乘、菩薩乘也。）

一、天：天者，天然自然，樂勝身勝，清淨光明，尊勝無比，故名為天。列位雖多，必以大梵帝釋為首。蓋大梵是大千世界之主，帝釋是三十三天之主故也。（大梵，即色界天也。帝釋，梵語釋提桓因，華言能天主。三十三天主者，謂帝釋與三十二人同修戒善，生忉利天，而帝釋為天主也。）

二、龍：龍者神靈之物，孔雀經及大雲等經，各列諸龍并龍王名字不一，皆言其能護持佛法也。

三、夜叉：梵語夜叉，華言勇健，亦名暴

惡。有三種：一者在地，二者在虛空，三者在天。地夜叉不能飛騰，虛空與天二夜叉，皆能飛行也。

四、乾闥婆：梵語乾闥闥（音踏）婆，華言香陰。陰，即身也。不噉酒肉，惟香資陰，故名香陰。是帝釋天主樂神，在須彌山南，金剛窟住。天主欲作樂時，即上天也。（梵語須彌，華言妙高。）

五、阿脩羅：梵語阿脩羅，華言無端正，以男多醜而女端正故，又云非天。謂此神果報最勝，鄰次諸天，而行非天也。其所居宮殿城郭器用，降于地居天一等；亦有婚姻男女，法式略如人間。（地居天者，即三十三天及四天王天也。）

六、迦樓羅：梵語迦樓羅，華言金翅、即金翅鳥神，其<sup>ㄉㄞˋ</sup>翮（音合。鳥之翅也）金色故也。兩翅相去三百三十六萬里。頸有如意珠，以龍為食。

七、緊那羅：梵語緊那羅，華言疑神。似人而頭有角，亦帝釋天主樂神也。

八、摩睺羅伽：梵語摩<sup>ㄏㄡˊ</sup>睺<sup>ㄉㄨˊ</sup>（音猴）羅伽，華言大腹行。羅什法師云是地龍而腹行，又云是大蟒神而腹行也。

606. 【四眾】（科註第二七七頁第二行）

《佛學大辭典》「四部眾」條：（名數）又曰四眾，又曰四部弟子。比丘，比丘尼，優婆塞，優婆夷是。

法華經序品曰：「時四部眾咸皆歡喜。」

仁王經下曰：「一切國王四部弟子。」

梁書曰：「帝幸同泰寺，升法座，為四部眾說摩訶般若波羅蜜經義。」

607. 【羯<sup>ㄐㄧㄝˊ</sup>磨】（音結）磨（科註第二七七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）Karma，譯曰作業。作授戒懺悔等業事之一種宣告式也。由此宣告文而其事成就故也。

行事鈔上一曰：「明了論疏翻為業也，所作是業，亦翻為所作。百論云事也。若約義求，翻為辦事。」（中略）慧苑音義上曰：「羯磨此云辦事，謂諸法事由茲成辦也。」

此羯磨必具四法：一法，正舉行之作法也。名之為秉法。二事，或犯罪之事，或懺悔之事等，羯磨所行之事實也。三人，就行

羯磨而定之人數也。四界，行羯磨處之境界也。見行事鈔上一。

又其秉法有三種：一、心念法。二、對首法。三、眾僧法。

心念法者，事至微小之時，或界中無人，雖無眾僧及對首，亦獨發心念境，而明了口言之，則其事成辦，謂之獨秉。此心念法又有三：

一但心念法。唯得自說，界中假令有人，亦不要對之，如懺輕微之突吉羅罪。

二對首心念法。原是對首之法，由界內無人而佛開心念，說淨受藥等之事也。三眾心念法（疑作眾法心念）。原是眾僧法。但界內無人，故開獨秉之心念。

二、對首法。對首者對一人已上三人之比丘而說之也。此有二：一但對首法，為當分之對首法，故界中有多僧，不要用之，對首於一人乃至三人即事足也。受三衣等事是也。二眾法對首，可為眾僧法者，由界中無人而開對，與前心念同。

三、眾僧法，必四人以上秉羯磨，是為僧所秉，故曰眾僧法，亦云僧秉（慈恩以三人以上為眾，南山以四人以上為眾）。此有三：

一單白，巴（巴利文）*Natti*（此為唱言，最輕微之事及常式之事，僅一度白告於眾，得使其事成立者。），或事，或常所行，或嚴制，一說告僧，事便成也。

二白二 Jñapi-dvitiyaṃ Karmavācā, 巴 Nātidutiya Kamma-vācā, 由參涉而宜通和。故先為表白，舉事告知，後舉一羯磨，量處可不也。通於白及羯磨謂之白二。

三白四 Jñapi-caturkaṇ Karma-vācā, 巴 Nāti-caluthā Kamma-vācā, 於受戒懺重等事，先以一白告事使知。後舉三回羯磨，量處可不也。一白三羯磨合為白四。

見行事鈔上一。

據上行事鈔之說觀之，則惟心念，似亦成羯磨。但律文所教之羯磨。非如此簡單自由者。事事必規定一定之形式。前述中惟眾僧法之一，為真羯磨。

羯磨有一定之形式。亦須一定之人眾。此

人眾不可以比丘尼，式叉摩那，沙彌，沙彌尼，或得罪者，俗人等，加於人數。必取清淨同見之和合僧。比丘尼之羯磨，必須比丘之同數者列坐。故為上數之倍。

羯磨最重大之要件，在無非法（不具一定之形式者）及無不和合（同一結界內僧之意見缺一致者）。

608. 【夜叉】（科註第二七七頁倒數第四行）

《翻譯名義集》：此云勇健，亦云暴惡。舊云閱叉。

西域記云：藥叉，舊訛曰夜叉，能飛騰空中。

什曰：秦言貴人，亦言輕健。有三種：一在地，二在虛空，三天夜叉。地夜叉，但以

財施，故不能飛空。天夜叉，以車馬施，故能飛行。

肇曰：天夜叉居下二天，守天城池門閣。

609. 【內典】（科註第二七八頁第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）佛之教典為內典，世之教典為外典，佛者之自稱也。

二教論曰：「救形之教稱為外，濟神之典號為內。智度有內外兩經，仁王辯內外二論，方等明內外兩律，百論言內外二道。」

南山道宣作大唐內典錄。冊府元龜引唐會要曰：「開成二年二月，王彥進准宣索內典目錄十二卷。」

610. 【九十六種外道】（科註第二七八頁第二行）

《佛學大辭典》：（名數）六師外道各有十五弟子。合成九十。再加六師謂之九十六種外道。

○外道六師：（名數）一富蘭那迦葉 *Pūraṅkasyapa*，富蘭那其字，迦葉其姓。立一切之法，斷滅性空，無君臣父子忠孝之道者。

二末伽梨拘賒梨子 *Māgāḍīkośaliputra*，末伽梨，其字，拘賒梨，其母名。計眾生之苦樂，非由因緣，惟為自然者。

三刪闍夜毘羅胝子 *Sañjayaṅvairāṭiputra*，刪闍夜其字，毘羅胝其母名。計不求道，但經生死劫數間，自盡苦際，如縷丸轉於高山，縷盡自止者。

四阿耆多翅舍欽婆羅 *Ajītakēśakambala*，阿

耆多翅舍其字，欽婆羅者麤衣也。身著弊衣，五熱灸身，以苦行為道者。

五迦羅鳩馱迦旃延 Kakudakātyāyand，迦羅鳩馱其字，迦旃延其姓。計諸法亦有相亦無相。應物而起見者。若人問為有耶，則答為無。為無耶，則答為有。

六尼犍陀若提子 Nirgrāntajñātiputra，尼犍陀為出家總名，若提為母名。計苦樂罪福，盡由前世，必當償之，非今行道所能斷者。

已上六師與佛同世，自稱為一切智者。見維摩經弟子品，涅槃經十九，止觀十上。

有部毘奈耶雜事三十八曰：「喬答摩！我曾遍觀諸外道類，各別立宗。所謂毘瞞刺拏迦攝波子，末塞羯利瞿黎子，珊逝移毘刺知

子，阿市多雞舍甘跋羅子，腳俱陀迦多演那子，昵揭爛陀慎若底子。此等諸師各述異宗，未知誰是。」

(又)立三種之六師外道：一、一切智六師外道，見邪真理，發邪智而辯才無礙者。二、神通六師外道，得世間之禪定而發五神通者。三、韋陀六師外道，又曰文字外道。博學多聞，通四韋陀十八大經，世間之吉凶天文地理醫方卜相等無所不知者。見四教儀二。

○九十五種外道與九十六種外道(節錄)：  
(名數) 經論中舉西域外道之總數有九十五種與九十六種之二說。

九十六種者，六十華嚴經十七曰：「令一

切眾生得如來幢，摧滅一切九十六種諸邪見幢。」（中略）薩婆多論五解其數曰：「六師者，一師十五種教，以授弟子。為教各異，弟子受行各成異見。如是一師出十五種異見。師則有法與弟子不同，師與弟子通為十六種。如是六師有九十六種。」

九十五種者，南本涅槃經十曰：「世尊常說：一切外學九十五種皆趣惡道，聲聞弟子皆向正路。」大集經五十五曰：「剃除鬚髮，身著袈裟，名字比丘為無上寶。比餘九十五種異道最尊第一。」（中略）

解九十六種有二說。

一依薩婆多論之釋，九十六種悉為邪道。依此說，則九十六種與九十五種之相違，不

可和會。但可視為異說。是南山宗之義也。

資持記上一之一先舉薩婆多論之說，次言「僧祇總有九十六種出家人。則佛道為一。邪道九十五。未詳合數。兩出不同。」（已上一說）。

二依九十六道經，九十六道此為邪合說，邪道定為九十五，九十六之邪道者，加犢子部附佛法之外道，或加定性二乘而會通之也。是天台之釋也。

文句記五之一曰：「九十六道經云：唯有一道是正，餘者悉邪。有人引多論云：六師各有十五弟子，並本師六即九十六也。准九十六道經無此說也。彼論自是一途，豈可六師必定各只十五弟子？九十六中有邪有

正。」

輔行三之三曰：「九十五種者通舉諸道，意且出邪。〔中略〕故大論二十五云：九十六道中實者是佛。」（二十五為廿三之誤，實字論文作寶）。

然九十六道經真偽未決，今不傳。

又見智度論二十三（輔行曰大論二十五）之文曰：「人中寶者是佛，九十六種道法中寶者是佛法，一切眾中寶是僧。」是佛如為人中之外，佛法亦視為九十六種之外，乃為穩當（智度論前後之文有九十六種外道。既於前舉之）。

611. 【無學】（科註第二七八頁第三行）

《三藏法數》「無學位」條：無學位者，

即聲聞第四果阿羅漢也。此位斷三界見、思惑盡，真理究竟，無法可學，故名無學也。

（梵語阿羅漢，華言無學，又云無生。）

《佛學大辭典》：（術語）聲聞乘四果中，前三果為有學，第四阿羅漢果為無學。學道圓滿，不更修學也。

法華玄贊一曰：「戒定慧三，正為學體，進趣修習名為有學，進趣圓滿止息修習，名為無學。」

法華嘉祥疏九曰：「若緣真之心更有增進義，是名為學。緣真之心已滿，不復進求，是名無學。」

612. 【迴小向大】（科註第二七八頁第四行）

《佛學大辭典》「回心向大」條：（術語）

又云回小向大。謂不定性之人，回轉聲聞緣覺之小乘根性而趣向大乘之佛道。如舍利弗，目蓮，本二乘人，皆於法華經會坐回心向大而人於菩薩位也。

菩提心論曰：「若不定性者，無論劫限，遇緣便回心向大，從化城立以為超三界，謂信佛故。乃蒙諸佛菩薩加持力，而以方便遂發大心，乃從初十信下遍歷諸位，經三無數劫難行苦行，然得成佛。」

613. 【身通】（科註第二七九頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）謂飛行自在之通力也。

往生要集上本曰：「其國諸眾生，神變及身通。」

614. 【六通】（科註第二七九頁第八行）

《三藏法數》「六神通」條：〔出法界次第〕瓔珞經云：神名天心，通名慧性，天然之慧，徹照無礙，故名神通。

一、天眼通：謂能見六道眾生，死此生彼，苦樂之相，及見一切世間種種形色，無有障礙，是名天眼通。（六道者，天道、人道、阿修羅道、餓鬼道、畜生道、地獄道也。）

二、天耳通：謂能聞六道眾生，苦、樂、憂、喜、語言，及世間種種音聲，是名天耳通。

三、知他心通：謂能知六道眾生心中所念之事，是名知他心通。

四、宿命通：謂能知自身一世、二世、三世乃至百千萬世宿命，及所作之事；亦能知六道眾生，各各宿命，及所作之事，是名宿命通。

五、身如意通：謂身能飛行，山海無礙，於此界沒，從彼界出；於彼界沒，從此界出；大能作小，小能作大，隨意變現，是名身如意通。

六、漏盡通：漏盡通者，漏即三界見、思惑也。謂羅漢斷見、思惑盡，不受三界生死，而得神通，是名漏盡通。（三界者，欲界、色界、無色界也。見、思惑者，謂意根對法塵起諸分別，曰見惑。眼耳鼻舌身五根對色聲香味觸五塵，起諸貪愛，曰思惑。梵

語阿羅漢，華言無學。）

615. 【三明】（科註第二七九頁第八行）

《三藏法數》：〔出雜阿含經〕

一、宿命明：謂但知過去宿世受生之事，名宿命通。復知宿世，從一生至百千萬生，如是姓，如是名，如是受苦受樂等事，皆悉能知，是名宿命明。

二、天眼明：謂但見死此生彼，名天眼通。復見我及眾生死時生時，及身口意所作善惡之行，或生善道、惡道，皆悉能見，是名天眼明。

三、漏盡明：謂眾生因三界見、思之惑，墮落生死，故名為漏；惟羅漢斷三界見、思惑盡，而得神通，名漏盡通。復知漏盡已

後，更不受於生死，是名漏盡明。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

《佛學大辭典》（節錄）：（名數）在佛曰三達。在羅漢曰三明。智之知法顯了，故名為明，又曰智明，又曰智證明，證智之境而顯了分明也：一、宿命明，知自身他身宿世之生死相，二、天眼明，知自身他身未來世之生死相，三、漏盡明，知現在之苦相，斷一切煩惱之智也（漏者煩惱）。又如次第，名為宿住智證明，死生智證明，漏盡智證明。然則三明者，六通中之宿命天眼漏盡三通也。

智度論二曰：「宿命天眼漏盡，名為三明。問曰：神通明有何等異？答曰：直知過

去宿命事，是名通。知過因緣行業，是名明。直知死此生彼，是名通。知行因緣際會不失，是名明。直盡結使（煩惱），不知更不生是名通。若知漏盡更不復生是名明。」

俱舍論二十七曰：「言三明者：一宿住智證明，二死生智證明，三漏盡智證明。〔中略〕名明者，如次對三際愚故。謂宿住智通治前際愚，死生智通治後際愚，漏盡智通治中際愚。」

婆沙論七十七謂：「六通中，餘三何不謂明？答曰：身如意（言神境通），但工巧，天耳通但聞聲，他心但知他人心，故此三不立為明。餘三所以為明者，天眼知未來苦，宿命知過去苦，俱能厭離生死。又漏盡能為

正觀而斷煩惱故。」

616. 【阿若 jiāo<sup>ㄐㄧㄠ</sup><sub>ㄨㄛˋ</sub> 憍 (音交) 陳如】 (科註第二八〇頁

第四行)

《三藏法數》：梵語阿若，華言已知，此其名也；梵語憍陳如，華言火器，此其姓也。以其是婆羅門種，由先世事火，故云火器，乃佛之舅氏也。(梵語婆羅門，華言淨行。事火者，法華文句云：火有二義，照也，燒也。照則暗不生，燒則物不生，所以事之因為姓也。)

《佛學大辭典》「憍陳那」條：(人名)

Kaundinya, 卽 Kondaṇṇa, 舊稱憍陳如。亦曰拘鄰。尊者之姓。譯曰火器，了本際。

玄應音義二十四曰：「憍陳那，舊云憍陳

如，訛也。此云火器，是姓也。阿若是名，亦云初智，以最初悟無生而得智由本願也。」  
五比丘之筆頭人。初釋尊出家求道，淨飯王命供奉共為苦行。後釋尊破戒墮落，與他無效而棄之，彼以此為釋尊破戒墮落，與他四比丘共去，後於波羅捺國鹿野園受釋尊教化，為弟子。即佛最初之弟子也。

617. 【初轉法輪】 (科註第二八〇頁第七行)

《佛光大辭典》：佛陀出家成道後之首度說法。彼時，佛陀於鹿野苑為 jiāo<sup>ㄐㄧㄠ</sup><sub>ㄨㄛˋ</sub> 憍 (音交) 陳如等五比丘說四聖諦、八正道，示離愛欲及苦行之二邊，而行中道。〔雜阿含經卷十五、轉法輪經〕

618. 【五比丘】 (科註第二八〇頁第八行)

《佛學大辭典》：（雜名）佛最初所度之五個比丘。皆為佛之姻戚。一、jiāo憍（音交）陳如，二、額鞞，三、bá跋（音拔）提，四、十力迦葉，五、摩男俱利。是為文句四之三之說，而諸經論諸家之義皆同。然列為一、陳如（又拘鄰），二、è額（音惡）鞞（又濕鞞、阿說示、馬勝），三、拔提（又摩訶男），四、十力迦葉，五、俱利太子。

又玄義釋qiān籤（音千）六之二列為：一、額鞞，二、跋提，三、俱利，四、釋摩男，五、十力迦葉。是摩男於俱利為別人，一摩男為跋提之異名（文句），一摩男為陳如之異名。除陳如之名而以釋摩男之名加於第四，皆誤也。摩男為摩訶那摩之略，大名之

義，拘利太子之尊稱也。是為釋氏，故亦云釋摩男。非別人。

619. 【《法華文句》】（科註第二八〇頁第八行）

《天台教學辭典》：十卷（或二十卷）。智者大師在陳禎明元年（五八七）於金陵光宅寺講說，由灌頂大師筆記。全稱「妙法蓮華經文句」，略稱「法華文句」、「文句」、「妙句」。為法華三大部之一。收在大正藏第三十四冊。北宋天聖二年（一〇二四），遵式大師奏請入藏。

本書係對於「法華經」經文，作逐句之註釋。書中多運用台宗獨創釋經方法以解釋經文，稱為天台四釋：一因緣釋；以佛與眾生之說、聽因緣，以解釋經文，同為古來解釋

法。二約教釋：以五味八教解釋偏圓大小之教學。三本跡釋：分法華經為本門與跡門，而解釋其義旨不同。四觀心釋：將經上所說之每一件事，攝於自心而以觀實相理為旨趣。

於本書中多有論破他師之說，如序品中，就經之分科，論破道憑大師等七師之說；就「說無量義」論破道生大師等五師之說。於方便品中，就「十如實相」針對光宅大師等四師之說。在法師品中就「示真實相」破斥道生大師等十一師之說。尤其對光宅大師所論隨處加以難詰。

又明代真覺大師彙合湛然大師「法華文句記」，編成「法華文句會本」三十卷，由聖

行師刻印刊行，資助研究者方便不少！且傳入日本盛行。

註疏有唐湛然大師所撰「法華文句記」三十卷。此外，宋代守倫法師「法華經科註」十卷，元代徐行善大德「科註」八卷，明代蕩益大師「法華會義」十六卷，一如大師「科註」七卷等，皆依「法華文句」為主幹而註解「法華經」。「續高僧傳卷十七、宋高僧傳卷六、佛祖統紀卷七、卷十、卷二五、卷四五、卷四七」

620. 【增一阿含經弟子品】（科註第二八〇頁第八行）  
《增一阿含經》之第四品，說弟子中阿若拘鄰（即憍陳如）等百比丘各人專長一法。

621. 【俱絺羅】（音吃）羅（科註第二八一頁第六行）

《佛學大辭典》「拘瑟恥羅」條：（人名）  
Kausihila，又作俱瑟祉羅。羅漢名。譯曰  
膝。

玄應音義二十三曰：「俱瑟祉羅，舊言俱  
絺羅，譯云膝也，言膝骨大也，此即舍利弗  
舅，長爪梵志是也。」

慧琳音義五十六曰：「拘瑟祉羅，梵語，  
羅漢名也。古曰俱絺羅，經作祉非也。」

622. 【舉一城釋種，上升梵天】（科註第二八二頁  
第五行）

《阿彌陀經疏鈔事義》：琉璃大王滅釋  
種。目連欲救，佛以定業難逃，不允其請。  
目連以神力，將鉢盛五百釋種，托至梵天。  
琉璃王滅釋之後，舉鉢視之，唯血水而已。

故知業力，佛亦不能救也。

《法句譬喻經·惡行品第十七》：佛有第  
二弟子名摩訶目犍連，見琉璃王引率兵士伐  
舍夷國（即迦毗羅衛國）以報宿怨。今當伐殺  
四輩弟子，念其可憐便往到佛所，白佛言：  
「今琉璃王攻舍夷國，我念中人當遭辛苦，我  
欲以四方便救舍夷國人：一者舉舍夷國人著  
虛空中，二者舉舍夷國人著大海中，三者舉  
舍夷國人著兩鐵圍山間，四者舉舍夷國人著  
他方大國中央。令琉璃王不知其處。」佛告  
目連：「雖知卿有是智德能，安處舍夷國  
人，萬物眾生有七不可避，何謂為七？一者  
生，二者老，三者病，四者死，五者罪，六  
者福，七者因緣。此七事，意雖欲避不能得

自在。如卿威神可得作此，宿對罪負不可得離。」於是目連禮已便去，自以私意取舍夷國人知識檀越四五百人，盛著鉢中，舉著虛空星宿之際。

琉璃王伐舍夷國，殺三億人已，引軍還國。於是目連往到佛所，為佛作禮，自貢高曰：「琉璃王伐舍夷國，弟子承佛威神，救舍夷國人四五百人，今在虛空皆盡得脫。」佛告目連：「卿為往看鉢中人不也？」曰：「未往視之。」佛言：「卿先往視鉢中眾人。」目連以道力下鉢，見中人皆死盡。於是目連悵然悲泣，潛其辛苦，還白佛言：「鉢中人者，今皆死盡。道德神力，不能免彼宿對之罪。」佛告目連：「有此七事，佛及

眾聖，神仙道士，隱形散體，皆不能免此七事。」（《法句譬喻經》，四卷，西晉法炬譯。）

623. 【外道移山，制之不動】（科註第二八二頁第五行）

《阿彌陀經疏鈔事義》：外道師徒五百，用咒移山，經一月日，簸峨（傾側也）已動。目連念言：「此山若移，多所損害。」即於山頂結跏，山還不動。外道相謂：「我法山動，計日必移。云何安固，還若于初？必是沙門使爾。」自知力弱，歸心佛法。

《佛說忠心經》：佛告目連：「彼有大國，去斯八千，處在邊境，不睹三尊之至靈，希聞如來無所著正真等正覺神妙清化，習於顛倒眾邪之行，以為真諦；王及臣民，

奉事梵志等五百人，各有五通力，能移山住流，分身變化，國有大山，塞民徑路，舉國患之，王以山為民艱難，具向梵志說之，梵志答曰：「吾等自為民除害，王無戚焉。」即繞山坐，各一其心，以道定力，山起欲移。」

佛告目連：「汝往彼國，現道神化，長度梵志，濟其君民，令遠三塗，永處福堂。」

目連受教，承佛威神，尋路放光，遏絕日明，懸處虛空，當其山巔，山為不動。梵志驚曰：「此山已起，誰回之乎？」日又無光，此將有以，中有明者。以定意觀眾弟子心，誰穢濁者，令山不移？睹見諸心，普有道淨，國榮寶色，不穢其心。仰頭觀見，睹一沙門，當其山上，梵志僉曰：「正是瞿曇

弟子所為。」梵志呼曰：「王令吾等為民除患，汝抑之為？」目連答曰：「吾自懸虛，誰抑汝等山。」梵志三盡道力，欲令山移，山人三下，遂成平地。梵志顧相謂曰：「夫有明達，道德深者，即吾等師。」咸興整服，稽首敬白：「願為弟子，示吾極聖。」目連答曰：「汝等欲去暝就明者善，吾有尊師，號「無上正真天中之天」，為一切智。汝等尋吾往至佛所。」諸梵志曰：「佛之導化，甯殊于師乎？」目連曰：「佛以須彌為芥子，吾以芥子為須彌。」歎佛德畢，曰：「汝等尋吾後」目連接諸梵志，猶若壯士屈伸臂頃，即在佛前，具陳其情。（《佛說忠心經》，一卷，東晉天竺三藏竺曇無蘭譯。）

624. 【降服毒龍】（科註第二八二頁第五行）

《阿彌陀經疏鈔事義》難陀、跋難陀（二龍王）兄弟居須彌邊海。佛嘗飛空上忉利宮。是龍瞋恨：「云何禿人從我上過！」後時佛欲上天，是龍吐黑雲闇霧，隱翳三光。諸比丘咸欲降之，佛不聽。目連云：「我能降是龍。」佛即許之。

其龍以身繞須彌七匝，尾拖海水，頭枕山頂。目連倍現其身，繞山十四匝，尾拖海外，頭枕梵宮。是龍瞋盛，雨金剛砂。目連變砂為寶華，輕軟可愛。猶瞋不已。目連化為細身，入龍身內，從眼入耳出，從耳入鼻出。龍受苦痛，其心乃服。

625. 【十力迦<sup>ㄉㄜ</sup>葉<sup>ㄩㄝˋ</sup>】（音社）（科註第二八二頁倒數

第三行）

《三藏法數》：梵語迦葉，又云婆敷（無翻），亦佛之舅氏。非大迦葉，亦非三迦葉也。（大迦葉，即摩訶迦葉。三迦葉，即優樓頻羅迦葉、那提迦葉、伽耶迦葉也。）

《佛學大辭典》：（人名）Dasabalakāsyaṃpa，又名婆敷迦葉，五比丘之一也。（佛弟子中有摩訶迦葉，優樓頻螺迦葉，伽耶迦葉，那提迦葉，十力迦葉（婆敷迦葉），童子迦葉，童女迦葉。單云迦葉者，指摩訶迦葉，頭陀第一。付法藏之第一祖也。）

626. 【童子迦<sup>ㄉㄜ</sup>葉<sup>ㄩㄝˋ</sup>】（音社）（科註第二八二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（人名）其母於妊娠中

出家為比丘尼，後生男子，字童子迦葉。年至八歲出家，成阿羅漢果。嘗浴於恒河，現神通於波斯匿王前，使王起敬信僧寶之念。見經律異相十六。

627. 【童女迦<sub>フセ</sub>葉<sub>フセ</sub>】（音社）（科註第二八二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（人名）與斷見外道之弊宿梵志論議遂使彼屈服而為優婆塞。

《長阿含經卷七》：此童女迦葉有大名聞，已得羅漢，耆舊長宿，多聞廣博，聰明叡智，辯才應機，善於談論。

628. 【毘<sub>ヒ</sub>毘<sub>ヒ</sub>（音皮）婆尸佛】（科註第二八三頁第一行）

《三藏法數》「毗婆尸佛」條：梵語毗婆

尸，華言有四。以其如月圓智滿，則云遍見。魄盡惑亡，則云淨觀。既圓且淨，則云勝觀、勝見，是為七佛之首也。

《佛學大辭典》：（佛名）Vipaśyin，又作毘鉢尸，微鉢尸，鞞婆尸，毘婆沙，維衛，過去七佛之第一佛。譯曰勝觀，種種觀，種種見等。又名弗沙，或底沙。釋迦菩薩第三阿僧祇劫滿時，遭此佛初修百大劫種相之福，以為七佛之首。又由讚其佛之精進力，超九劫而成佛，可知此佛出世，在九十一大劫之前也。

智度論九曰：「賢劫之前九十一劫初有佛名鞞婆尸，秦言種種見。」

慧琳音義十八曰：「毘鉢尸，或云微鉢

尸，前劫中佛名也，唐云勝觀。」

慧苑音義上曰：「毘婆尸，此云淨觀，或云勝觀，亦云勝見，或曰種種觀也。」

梵網經述記下曰：「毘婆尸，亦名毘婆沙，亦名維衛。即是梵音有輕有重故有不同，其義一也。此云勝見，亦云種種見，亦云廣見。」

慧沼最勝王經疏曰：「第三祇滿修相好，初逢勝觀，亦云弗沙，翅足讚佛超於九劫。」

629. 【十二行】（科註第二八三頁第五行）

《三藏法數》「十二頭陀行」條：「出十

二頭陀經」梵語頭<sub>たう</sub>陀<sub>た</sub>（音陀），華言抖擻。

謂能抖擻煩惱之塵垢也。蓋比丘當離<sub>ろく</sub>憤<sub>ふん</sub>（音愧）鬧，不樂飾好，心絕貪求，無諸僞

慢，清淨自活，以求無上正真之道，故有十二種之行焉。（梵語比丘，華言乞士。）

一、住阿蘭若處：梵語阿蘭若，華言寂靜處。謂比丘當住於空閑寂靜之處，身離憤鬧，心離欲塵，永絕攀緣，求無上道，是為頭陀行也。

二、常行乞食：謂比丘離諸貪求，不受他請，常行乞食，以資色身，助成道業。若得食時，或好或惡，不起分別增減之念；若不得食，亦無嫌恨，得與不得，心常平等，是為頭陀行也。

三、次第乞食：謂比丘乞食之時，不著於味，不輕眾生，不擇貧富，常平等一心次第而乞，是為頭陀行也。

四、一食：謂比丘修道，應作是念：我求一食尚多有所妨，何況小食、後食，若不自損，則失半日之功，不能一心行道。是故斷數數食，受一食法，是為頭陀行也。（小食者，晨時食也；後食者，過中食也。）

五、節量食：謂比丘所乞之食，當作三分。若見渴乏者，以一分施之。又減一搏食，至空靜處，置淨石上，施諸禽獸。若不見困乏者，但食三分之二，亦留一分，不得盡食。如此，則身輕安隱，易消無患，不廢行道。若貪心極<sup>dan</sup>噉<sup>怒</sup>（音淡。吃也），則腹脹氣塞，妨損道業。是故節食為頭陀行也。

六、過中不飲漿：漿即果漿、蜜漿之類，謂比丘修道，於種種漿，日若過中，悉不得

飲。若飲者，則心樂著，貪求無<sup>yan</sup>厭<sup>分</sup>（音驗。厭，同厭），不能一心修習善法，是故過中不飲漿，為頭陀行也。

七、著弊衲衣：謂比丘不貪服飾，不求好衣，但於聚落中拾陳舊廢棄之物，浣濯令淨，作為衲衣，覆除寒露而已。若貪新好，則多追求，以損道行；又能招致賊盜，是故著弊衲衣為頭陀行也。

八、但三衣：三衣者，九條、七條、五條袈裟之衣也。謂比丘少欲知足，衣取蓋形，不多不少。如白衣之人（在家人），畜種種衣，及外道苦行，裸形無恥，皆不合中道。是故佛弟子捨此二邊，但受三衣為頭陀行

也。（梵語袈裟，華言不正色，言九條、七條、五條者，此袈裟上中下之等第也。）

九、塚間坐：謂無常苦空之觀，是佛法之初門，能令厭離三界。比丘住於塚間，常見死屍，臭爛狼籍，火燒鳥啄，則無常不淨之想，易得成就，是故塚間坐為頭陀行也。

（無常者，謂五陰之身，終歸壞滅也。苦者，謂由此身而受生死逼迫等苦也。空者，謂此身由四大假合而成，畢竟不有也。）

十、樹下坐：謂比丘於塚間不得道者，當至樹下，思惟求道。如佛生時，成道、轉法輪、般涅槃，皆在樹下。有如是因緣，是故比丘如佛所行，當樹下坐，為頭陀行也。

（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

十一、露地坐：謂比丘在樹下坐，如住半舍，蔭覆涼樂，故生愛著；又慮雨漏濕冷，鳥屎汗身，毒蟲所擾，於是思惟露地而坐，隨意快樂，月光遍照，令心明利，易入空定。是故露地坐為頭陀行也。

十二、但坐不臥：謂比丘四威儀中，坐為第一，食易消化，氣息調和，可以入道。若懈怠睡眠，諸煩惱賊常伺其便。若行若立，心動難攝。是故比丘常當安坐，脅不至席，為頭陀行也。（四威儀，即行住坐臥之威儀也。）

630. 【阿蘭若】（音藍）若（科註第二八三頁第五行）

《翻譯名義集》：或名阿練若，大論（大智度論）翻遠離處，薩婆多論翻閑靜處。

天台云：不作眾事，名之為閑；無憤鬧故，名之為靜。或翻無諍，謂所居不與世諍，即離聚落五里處也。

肇（僧肇。音照）云：忿競生乎眾聚，無諍出乎空閑。故佛讚住於阿蘭若。應師翻空寂。

苑師分三類：一達磨阿蘭若，即華嚴之初，謂說諸法本來湛寂，無起作義；二名摩登伽阿蘭若，謂塚間處，要去村落一俱盧舍，大牛吼聲所不及處；三名檀陀迦阿蘭若，謂沙磧（沙漠。磧，音氣）之處也。

631. 【糞掃衣】（科註第二八三頁第六行）

《佛學大辭典》：（衣服）又曰衲衣。火燒、牛嚼、鼠嚙（フウセ）（音聶）、死人衣、月水

衣等，天竺之人，棄之於巷野，與拭糞之穢物同，故名糞掃衣。浣（ハル）（音幻）洗縫治之而著於外也。又補納糞掃之衣片而著用之。故亦名納衣。比丘著此糞掃衣，不更用檀越之施衣，為十二頭陀行之一。糞掃衣之功德，在於離貪著。

行事鈔下一曰：「糞掃衣，制著意，此乃世人所棄，無復任用，義同糞掃。」

大乘義章十五曰：「糞掃衣者，所謂火燒牛嚼鼠（フウセ）嚙（音聶，咬也）死人衣等。外國之人，此等之衣，棄之巷野，事同糞掃，名糞掃衣。行者取之，浣洗縫治，用以供身。」

行事鈔下三曰：「納衣者，四分云：捨檀越（施主）施衣，著糞掃衣。」梵 *Pamsuk*

ulika。

632. 【三衣】（科註第二八三頁第六行）

《三藏法數》「三衣名義」條：〔出翻譯名義〕

一、僧伽梨：梵語僧伽梨，華言合，又云重；謂割之而合成也。義淨法師云：梵語僧伽胝，華言重複衣。宣律師云：此三衣名，皆無正翻。今以義譯之：大衣名雜碎衣，以條數多故也。若從用為名，則曰入王宮衣，又曰入聚落衣；謂於王宮說法時著，及聚落乞食時著也。薩婆多論云：大衣分三品，九條、十一條、十三條名下品；十五條、十七條、十九條名中品；二十一條、二十三條、二十五條名上品。

二、鬱多羅僧：梵語<sup>yu</sup>鬱<sup>du</sup>（音玉）多羅僧，華言上著衣。即七條也。宣律師云：七條名中等衣；若從用為名，則曰入眾時衣，禮誦齋講時著也。

三、安陀會：梵語安陀會，華言中宿衣。謂宿睡時常近身衣也。宣律師云：五條，名下衣；若從用為名，則曰院內行道雜作衣也。

633. 【塵累】（科註第二八三頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）煩惱惡業之污我縛我者。

楞嚴經一曰：「拔濟未來越諸塵累。」長水疏一上曰：「煩惱與業，染污繫縛，喻之塵累。」

634. 【佛心印】（科註第二八三頁倒數第六行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）眾生本具之一心，大覺之妙體也，是云佛心。此心決定不改，故云印。猶如世間之印契，以此心印為禪之體而窮明之，為達磨之禪宗，所謂直指人心見性成佛是也。故有佛心宗之名。

六祖壇經曰：「師曰：吾傳佛心印，安敢違於佛經。」

635. 【大梵天王問佛決疑經】（科註第二八三頁倒數第六行）

《佛學大辭典》「拈<sup>ニアン</sup>花微笑」條（節錄）：宗門雜錄曰：「王荊公（王安石）問佛

慧泉禪師云：禪宗所謂世尊拈花，出在何

典？泉云：藏經亦不載。公云：余頃在翰

苑，偶見大梵天王問佛決疑經三卷，因閱之，所載甚詳。梵王至靈山以金色波羅花獻佛，捨身為床座，請佛為眾生說法。世尊登座，拈花示眾。人天百萬，悉皆罔措。獨有金色頭陀，破顏微笑。世尊云：吾有正法眼藏，涅槃妙心，實相無相，分付摩訶大迦葉。此經多談帝王事佛請問，所以秘藏，世無聞者。」佛祖統紀五，亦引此說。

636. 【梵王】（科註第二八三頁倒數第五行）

《佛學大辭典》（節錄）：（天名）大梵天王之異稱也。（參見「大梵天王」條）

637. 【金色鉢羅華】（科註第二八三頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「金波羅華」條：（植物）

金色之波羅華也。波羅華，梵語 Utpala，優鉢羅華之略，是蓮華之一種。

638. 【金色頭陀】（科註第二八三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（人名）摩訶迦葉之別稱。彼身相有金色，為頭陀行第一，故名。

《祖庭事苑》「金色尊者」條：即大迦葉

也。先是毗婆尸佛滅後，眾以其舍利建塔，塔之像其面金色缺壞，是時迦葉方為鍛金師，會有貧女持一金錢求治為薄，欲往補之，迦葉聞且樂為補已，因相與願為無姻夫妻。以是報九十一劫體皆金色，最後生摩竭國，出家為佛弟子，頭陀第一。

639. 【正法眼藏】（科註第二八三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）又曰清

淨法眼。禪家以之為教外別傳之心印。釋氏稽古略一曰：「佛在靈鷲<sup>山</sup>鷲<sup>山</sup>（音就）山中，大梵天王以金色波羅華持以獻佛。世尊拈華示眾，人天百萬悉皆罔措，獨有迦葉，破顏微笑。世尊曰：吾有正法眼藏涅槃妙心，分付迦葉。」

今以禪門之意解之，則是正為佛心之德名，此心徹見正法，故曰正法眼。深廣而萬德含藏，故曰藏。法華經所謂佛知見也。涅槃妙心，為佛心之本體。體寂滅，故曰涅槃。不可思量分別，故曰妙。法華所謂妙法也。但法華就客觀而謂為妙法。今就主觀而謂為妙心。對一類頓悟之機，使離言句之假名，直爾會得此佛心，謂之以心傳心。

640. 【白飯王】（科註第二八四頁第四行）

《佛學大辭典》：（人名）梵音 *Sukulodana* rāja 師子<sup>ヒヤ</sup>頰（音夾）王之第二子，淨飯王之弟，釋尊之叔父也。

弟，釋尊之叔父也。

641. 【佛成道日】（科註第二八四頁第四行）

《佛學大辭典》：（行事）佛之成道日，經論之說不同。長阿含經四及因果經作二月八日，灌佛經及方等泥洹經作四月八日，西域記則三月八日，又云三月十五日。

俱舍寶疏，正宗記，佛祖統紀等皆取二月八日之說。

支那用十二月八日者，以僧史略上會合之謂「臘月乃周之二月也。」周曆建子之二月，即夏曆建寅之十二月也。

642. 【淨飯王】（科註第二八四頁第四行）

《佛學大辭典》：（人名）迦毗羅衛國之王，釋尊之父王也。

名義集三曰：「首圖<sup>チウ</sup>馱<sup>ト</sup>（音陀）那 *Suddhodana*，此云淨飯或云白淨。」

《佛光大辭典》：淨飯，梵名 *Suddhodana*，

巴利名 *Suddhodana*，音譯首圖馱那、輪頭檀那、閱頭檀、悅頭檀。又作白淨王、真淨王。中印度迦毘羅（梵 *Kapilavastu*）之城

主。佛陀之生父。其子難陀、孫羅睺羅皆為佛陀之弟子。據起世經卷十載，淨飯王為師

子<sup>ヒヤ</sup>頰（音夾）王（梵 *Sinhahannu*）之長子。

巴利文大史（*Mahāvamsa*, ii）及梵文大事（*Mahāvastu*, ii）以摩耶（巴 *Māyā*）及摩訶波

闍波提 (巴 Mahapajapati) 為王之妃。佛陀即摩耶所生。王晚年孤寂，後亦虔誠歸依佛陀，成為佛陀及其弟子之外護者。七十六歲（一說九十七歲）逝世。淨飯王般涅槃經載，佛於王臨終之際，歸迦毘羅城，厚表孝意。又雜寶藏經卷一王子以肉濟父母緣、大方便佛報恩經卷一孝養品等均載有王之過去本生。「佛本行集經卷五賢劫王種品、眾許摩訶帝經卷二、太子瑞應本起經卷上」

643. 【苾芻<sup>びしゆ</sup>】 (音必) chú芻<sup>ちゆ</sup> (音除) (科註第二八四頁倒數第一行)

《三藏法數》「五德——苾芻草五德」條：「出翻譯名義」苾芻，雪山香草，謂其有五種德，以喻比丘亦具此德，故稱為苾芻

也。(梵語比丘，華言乞士。)

一、體性柔軟：體性柔軟者，以喻比丘能折伏身語意業之麤<sup>そ</sup>麤<sup>そ</sup> (音粗) 獷也。

二、引蔓旁布：引蔓旁布者，以喻比丘傳法度人延綿不絕也。

三、馨香遠聞：馨香遠聞者，以喻比丘戒德芬馥<sup>ふく</sup> (音付)，為眾所聞也。

四、能療疼痛：能療疼痛者，以喻比丘能斷煩惱毒害之痛苦也。

五、不背日光：不背日光者，以喻比丘正見、思惟，常向佛日而不背也。

《佛學大辭典》(節錄)：(術語) Bhiḥ<sup>びい</sup>，又云苾芻<sup>びしゆ</sup> (音碧) 芻。同於舊譯之比丘。譯曰乞士，除士，除饑男，熏士，道士等。

出家為佛弟子，受具足戒者之都名也。以此方無正翻之語，故經論中多存比丘。苾芻之梵名，或以乞士，破煩惱之二義解之，或以淨乞食，破煩惱，淨持戒，能怖魔之四義釋之。

乞士者，以彼自無所營，乞人之信施而清淨活命故也。

破煩惱者，以修聖道而破煩惱故也。

淨持戒者，以受持盡形淨戒故也。

能怖魔者，以必入涅槃使魔畏怖故也。

(中略)

探玄記十八曰：「比丘者，梵有三名：或云比丘，或云苾芻，或云比丘。此無正譯，義翻有三：謂怖魔，破惡，及乞士。」

然有以苾芻為草名者，亦一說也。

妙吉祥平等秘密最上觀門大教王經一曰：「吾吉祥草，矩舍（此言草），摩賀矩舍，室哩矩舍。世尊因地修行時，常臥此三草也。苾芻矩舍，悉黨矩舍（此言白），世尊因地修行時，常枕此二草也。」

慧琳音義二曰：「苾芻草名也，僧肇法師義苾芻有四勝德。」

俱舍慧暉鈔，翻譯名義集，釋氏要覽等皆以為草名。

644. 【阿泥律陀】（科註第二八五頁第一行）

《佛學大辭典》：（羅漢）Aniruddha，阿那律之新稱。（參見「阿泥樓陀」574）

645. 【密迹金剛力士經】（科註第二八五頁第三行）

即《大寶積經》之第三會《密迹金剛力士會》，卷八至十四。

《佛光大辭典》「密迹金剛力士會」條：凡七卷。西晉竺法護譯。又作密迹金剛力士經、密迹經。收於大正藏第十一冊。即指大寶積經卷八至卷十四部分。內容首先闡明菩薩、如來之身密、語密、意密，最終有祕密主之請求於佛陀入滅後五百年中護持本經。又本經之別譯為如來不思議祕密大乘經。

646. 【垂迹】（科註第二八五頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）佛菩薩之本體，曰本地，由其本體示現種種之身濟度眾生，曰垂迹。佛三身中法身報身為本地，化身為垂迹。此本地垂迹之義，為法華經壽量

品所說，又為大日經胎藏界四重曼陀羅所說，大乘攝化門之樞紐也。於胎藏界第四重，外金剛院攝印度古來諸天神，皆是大日之垂迹也。

維摩經序曰：「幽關難啟，聖應不同。非本無以垂迹，非迹無以顯本。本迹雖殊而不思議一也。」

647. 【影響眾】（科註第二八五頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）或作影向眾。四眾（發起眾、當機眾、影響眾、結緣眾）之一。諸佛及法身之菩薩，為贊助釋迦如來之教化，應現如影如響之身也。釋迦之法主如形聲，諸菩薩如影響，文殊普賢等諸菩薩是也。

法華文句三曰：「影響者往古諸佛，法身菩薩，隱其圓極，匡補法王，如眾星遶月，雖無為作而有巨益，此名影響眾。」同記曰：「次釋影響眾者，然化主形聲必資伴以影響，方令發起擊動事遂，如響之應聲影之隨形。」

648. 【本地】（科註第二八五頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）對於所現之化身，而稱能現之本身為本地。能現所現，相望重重，故本地亦重重而不一，唯佛之實相法身，即窮極之本地，越之更無能現之實身。故曰（本）地法身。本地即法身也。

道安之舍利禮文曰：「本地法身，法界塔婆。」

演密鈔二曰：「本地法身者，即實相法身也。一真實相為萬化之本，猶如於地為萬物之依，故曰本地。言法身者，謂此實相能軌持萬化。即此軌持，假名為身。法即身故，本地即法身。」

法華文句九曰：「詮量本地三佛功德。」  
649. 【身子】（科註第二八五頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（人名）舍利弗之譯名也。又云鷲くわ鷲くわ（音秋）子。梵語舍利，譯曰身。弗多羅，譯曰子。舍利者鳥名，即鷲鷲鳥也，其母之眼似之，因名舍利；此是其子，故曰舍利子，或鷲鷲子。是佛弟子中第一之智者也（舍利弗譯為身子者，似由譯言鷲鷲之梵語舍利 *Sari*，與譯言骨身之梵語舍

利羅 *Sarira* 為同一語而出者)。(參見「舍利弗」125)

650. 【大飲光】(科註第二八五頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(人名)摩訶迦葉之譯名。迦葉或譯為 *guī* 龜ㄍㄨㄟ(音規)。或譯為飲光。(參見「迦葉」372)

651. 【慶喜】(科註第二八五頁倒數第三行)

阿難也。(參見「阿難」373)

652. 【本來面目】(科註第二八五頁倒數第一行)

《佛學大辭典》：(公案)又曰本地風光，自己本分等。示禪門法道極度之語也。顯教之本覺，密教之本初，亦不外乎是。然則何物為本來之面目，請參之。

六祖壇經曰：「能云：不思善，不思惡，

正與麼時，那個是明上座本來面目。」

653. 【唐捐】(科註第二八六頁第二行)

《佛學大辭典》：(雜語)虛棄也。

玄應音義曰：「唐，徒也。徒，空也。說文，捐，棄也。」

莊子曰：「是求馬於唐肆也。(謂到空無所有的市集去買馬。比喻求非其所，必無所獲。唐肆，空蕩的集市。)」

法華經普門品曰：「福不唐捐。」

654. 【清涼疏】(科註第二八七頁第一行)

唐清涼澄觀國師所撰之《大方廣佛華嚴經疏》。(參見《華嚴大疏》1007)

655. 【三利】(科註第二八七頁第二行)

《三藏法數》：「出金剛般若經取著不壞

假名論

一、自利：謂於如來所說經典，自能受持讀誦，聽聞思惟，如理修習，成就勝果，是名自利。

二、利他：謂能以己所受之法，展轉為人演說，令其修習，斷惑證果，是名利他。

656. 【位後普賢】（科註第二八七頁第六行）

《佛學大辭典》「佛後普賢」條：（術語）

已成佛後，更修利他教化之菩薩行也。又證得佛果後，遵普賢菩薩之德而修化益眾生之行也。

657. 【翼讚】（科註第二八七頁倒數第六行）

《漢語大詞典》：輔佐。

658. 【大日經疏】（科註第二八七頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（書名）善無畏三藏為

玄宗皇帝講說本經。一行阿闍梨記之，異本有多種，據日本僧家言，現今存者唯二本，一為日本弘法攜回本國者，有二十卷，稱為大日經疏。一為日本慈覺攜回本國者，有四卷，稱為大日經義釋。此二部大同小異也。

大日經疏日本東密之學者，稱為本疏，或謂之大疏，無畏疏等計二十卷，其中至第三卷半，釋本經住心品之一品，謂之口疏（一至三卷半），由是已下（三卷半至二十卷）謂之奧疏。

古來釋疏者，有口奧二疏之異，此以教相事相之二門異故也。

其解釋吾國不多見，日本則甚多，如遍明

鈔，指心鈔，口筆鈔，大疏鈔（又名yòu宥快鈔），已上皆解口疏。妙印鈔，演奧鈔，皆解奧疏。

659. 【xié脇ㄒㄧㄝˊ】（音協）【士】（科註第二八七頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「脅士」條：（術語）又作脅侍，挾侍，立於佛兩脅之菩薩也。士為大士，菩薩之譯名，常侍佛贊佛化眾生之大士也。觀音勢至為阿彌陀佛之脅士（觀經），日光月光為藥師佛之脅士（藥師經），文殊普賢為釋迦佛之脅士（華嚴經）；若在小乘，則以大迦葉阿難為脅士。

660. 【四十華嚴經】（科註第二八七頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「華嚴經三譯」條：（雜

語）華嚴經有三譯。

一、六十卷，東晉佛跋陀羅譯，一名六十華嚴，或名晉經，或名舊經。智儼造五卷之疏，名曰搜玄記，賢首造探玄記二十卷。

二、八十卷，唐實叉難陀譯，一名八十華嚴，或曰唐經，或名新經。慧苑造刊定記十六卷，清涼作疏二十卷。演義鈔四十卷。

三、四十卷，唐般若譯，一名四十華嚴。清涼造十卷之疏。

此中前二經，具略相違，而終始略同，後一經但詳說前二經入法界品之一品。（參見「華嚴經」72）

661. 【金剛手菩薩】（科註第二八八頁第二行）

《佛學大辭典》：（菩薩）Vajrapāṇi，金

剛薩埵也。又名普賢。

大日經疏九曰：「以見如是金剛界故名為金剛手，以見如是法界宮故名為普賢。」

新譯仁王經下曰：「東方金剛手菩薩摩訶薩，手持金剛杵，放青色光，與四俱胝<sub>卍</sub>（音知。俱胝，此云百億）菩薩往護其國。」同念誦儀軌上曰：「手持金剛杵者，表起正智猶如金剛，能斷我法微細障故。」

662. 【金剛智（一）】（科註第二八八頁第三行）

《佛學大辭典》「金剛智三藏」條：（人名）

金剛智，名。梵名跋曰羅菩提 Vajrabodhi，三藏者尊稱。南印度摩賴耶國人。婆羅門姓。年甫十歲，於那爛陀寺依寂靜智出家，三十一歲往南天竺，時龍智（龍樹菩薩之弟

子），年七百歲猶在，就之，七年承事供養，受學一切密教。尋遊師子國登楞伽山。

聞支那佛法盛，唐玄宗開元七年達廣州，翌年至東都。敕迎於慈恩寺，尋徙薦福寺。於所住立大曼荼羅壇以度四眾。一行禪師，不空三藏，皆其弟子也。同二十年八月十五日於洛陽廣福寺入寂，壽七十一，諡曰灌頂國師。師為真言宗八祖之第五，於東夏則謂之始祖。見貞元釋教錄，宋高僧傳一。

663. 【紅教】（科註第二八八頁第六行）

《佛學大辭典》：（流派）Shanāir，喇嘛舊教之僧，用紅色之衣冠，故有此名。教主蓄妻，血脈相承，行於西藏之南部。（即寧瑪派。因與新教「黃教」對立，又稱為舊教）

西藏新志中曰：「喇嘛教始名紅教，西曆七百四十七年巴特瑪繖巴<sup>Padmasambhava</sup>（即蓮華生上師），被聘至西藏。此人住克什米爾之境，為印度之有名學者。於是巴師以其卓越天稟之能力，熱心布教，親自周行全國。其奇蹟甚多。巴師之周行全國也，名為征服幽鬼。一日有鬼頑相抵，欲壓氏於山峽，師飛騰得免。又有鬼自雪中擲兵器如雨，自稱降魔杵。氏融解積雪為水，鬼遂投水中。師因令水沸騰，鬼骨肉糜爛。又投降魔杵刺幽鬼之目，鬼始出水，僅存生命。又一日，有妖物大為師苦，化白色<sup>máo</sup>犛<sup>ㄇㄨㄛˊ</sup>（音毛）牛來觸。師飄然登天，犛牛忽結其鼻頸與腳而不動，頓變纏白絹之美少年。再三申告，

始留其生命。巴師遍巡國中，顯大自在力，其周圍驟集無數弟子請訓。巴師以排斥幽鬼派，專事剿滅，未免過激。故用術令其感化，使彼<sup>xián</sup>啣<sup>ㄒㄩㄢˊ</sup>（音閑。懷）恩於我，皈依佛教。其在西藏僅二年，整理喇嘛僧之秩序。有弟子二十五人。創設多數寺院。至此功名遂，更向他國而去。其送別時，忽虹霓光起，遍照十方。自極樂空中飛車來迎，師徐乘而去。群眾放聲而泣。由是喇嘛教基礎強固，學生負笈而遊學西藏者日眾。至印度書悉為翻譯梵語及西藏語。出版字典，亦復不少。」

664. 【蓮花生】（科註第二八八頁第六行）

《佛光大辭典》「蓮華生」條：梵名

Padma-saṃ bhava (音譯巴特瑪薩木巴瓦)，  
Guru-padma-Urgyan-padma，西藏名 Padma-  
hbyun-gnas，Rin-po-che。為西藏紅教之開  
祖。八世紀頃北印度烏仗那國（今巴基斯坦  
境內）人。初住那爛陀寺，博通大小乘，  
稟性機警，善巧方便。玄宗天寶六年（七四  
七），應西藏王吃ト唼カ（音力）雙提贊王（藏  
Khri-sronlde-btsan，七四二—七九七）之請，  
與寂護（梵Śanta-rakṣita）、蓮華戒（梵  
Kamalaśīla）二人一同入西藏，王為之於拉薩  
東南方創建桑耶寺（藏Sam-yas），經十數  
年乃成。師遂宣傳瑜伽祕密法門，翻譯經  
咒，又現種種神變奇蹟，ráng襪旦尤（祈禱除去災異）  
除鬼神妖怪等，為藏人所歸向。師始傳密教

於西藏，相對於宗カ喀巴之黃教（新派），  
而稱為紅教（祕密古派），即無上祕密乘，  
係以大喜樂禪定之瑜伽觀法為最上法，弘宣  
佛教。西藏特有之喇嘛教因之大成。師之高  
徒二十五人從事梵漢（疑作「梵藏」）佛典之  
譯述，編成西藏大藏經甘珠爾。又有關師之  
著作，收在西藏大藏經丹珠爾中，如五種三  
摩耶、聖金剛手青衣成就法優波提舍廣釋  
註、金剛摧破陀羅尼釋金剛燈、吉祥世間尊  
空行成就法、祕密書狀等諸書。〔彰所知論  
卷上、聖武記卷五國朝撫安綏西藏記上、J.  
a. Waddell: The Buddhism of Tibet〕

665. 【《放鉢經》】（科註第二八八頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（經名）一卷，失譯，

即普超三昧經奉鉢品之別譯也。二百天子欲退大心，佛化作一人持百味飯食使獻佛，佛即置鉢於地下入地中，至賴毗羅耶佛刹懸空中，使諸弟子索之，不得，最後，文殊師利索之，還獻佛所，賴毗羅耶佛因為諸弟子說諸菩薩在娑婆世界行苦道，二百天子聞之，遂發大心。

666. 【無央】（科註第二八八頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：猶無數。

667. 【《心地觀經》】（科註第二八九頁第二行）

《佛光大辭典》「大乘本生心地觀經」條：

凡八卷。唐代般若譯。略稱本生心地觀經、心地觀經。今收於大正藏第三冊。乃釋迦如來於耆耆（音奇）闍崛山，為文殊師利、彌勒

等諸大菩薩敘述出家住阿蘭若者，如何觀心地、滅妄想，而成佛道。計分序品、報恩品、厭捨品、無垢性品、阿蘭若品、離世間品、厭身品、波羅蜜多品、功德莊嚴品、觀心品、發菩提心品、成佛品、zhǔ囑（音主）累品等十三品。關於本經之傳譯，據卷首御製序載，此經梵本係唐高宗時代之師子國王所獻，逮元和年間，始由般若三藏等八人奉詔譯之，復由諫議大夫孟蘭等四人修飾而成。〔宋高僧傳卷三、至元法寶勘同總錄卷四、閱藏知津卷五、新編諸宗教藏總錄卷一〕

668. 【三世覺母】（科註第二八九頁第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（菩薩）文殊菩薩之異名。由出生智慧之意。故云覺母。蓋

文殊菩薩，司毘盧舍那之大智，為三世諸佛成道之母故也。

669. 【《法華嘉祥疏》】（科註第二八九頁第二行）

見「《法華義疏》」849。

670. 【三德秘藏】（科註第二八九頁第四行）

指法身德、般若德、解脫德。（參見「涅槃

三德」268）

671. 【惑業苦】（科註第二八九頁第五行）

《佛學大辭典》（術語）貪瞋等者惑也，

依此惑有善惡之所作者業也，以此業為因而招三界之生死者苦也。是云三道，唯識論二十八曰：「生死相續由惑業苦，發業潤生之惑能感後有。諸業名業，業所引生眾苦名苦。」

《佛學次第統編》：生死相續，由惑業苦。

一、惑，發業潤生煩惱名惑。

二、業，能感後有諸業名業。

三、苦，業所引生眾苦名苦。

惑業苦種，皆名習氣。前二習氣，與生死苦，為增上緣，助生苦故。第三習氣，望生死苦，能作因緣，親生苦故。此惑業苦，應知總攝十二有支，謂從無明乃至老死。無明愛取是惑所攝，行有一分是業所攝，七有一分是苦所攝也。前十是因，後二是果。如斯因果，定不同世。因中前七與愛取有，或異或同，若二三七各定同世也。

672. 【龍種尊王如來】（科註第二八九頁第六行）

《佛學大辭典》「龍種上尊王佛」條：  
（佛名）文殊菩薩之本地。

首楞嚴三昧經下曰：「龍種上如來。」

心地觀經三曰：「龍種淨智尊王佛。」

智度論二十九曰：「龍種尊。」

法華文句記二曰：「龍種上尊王。」異名同體也。

673. 【彌勒】（科註第二八九頁倒數第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：（佛名）Maitreya，

新稱彌帝隸，梅低梨，迷諦隸，梅怛麗，每怛哩，梅怛麗藥，昧怛囉曳。菩薩之姓也。譯曰慈氏。名阿逸多，譯曰無能勝。或言阿逸多為姓，彌勒為名。生於南天竺婆羅門家。紹釋迦如來之佛位，為補處之菩薩。光

佛入滅，生於兜率天內院。彼經四千歲（即人中五十六億七千萬歲，依現代數學計算，兜率天四千歲為人中「五億七千六百萬歲」；然，古代有四種億，若以千萬為億，則為「五十七億六百萬歲」，參見「兜率內院」677），下生人間，於華林園龍華樹下成正覺，初過去之彌勒，值佛而修得慈心三昧，故稱為慈氏。乃至成佛，猶立是名也。

註維摩經一曰：「什曰：彌勒，菩薩姓也。阿逸多，字也。南天竺婆羅門子。」

法華嘉祥疏二曰：「彌勒，此云慈氏也。過去值彌勒佛發願名彌勒也。出一切智光仙人經，彌勒昔作一切智光仙人。值慈氏佛說慈心三昧經，故曰慈也。華嚴經云：初得慈

心三昧，故名慈也。」

天台淨名疏五曰：「言彌勒者，有云從姓立名，今謂非姓，恐是名也。何者？彌勒，此翻慈氏。過去為王名曇摩流支，慈育國人，國人稱為慈氏。自爾至今常名慈氏，姓阿逸多，此云無勝。有言阿逸多是名。既不親見正文，未可定執。」

俱舍光記十八曰：「梅怛，此云慈。儷藥，此云氏。菩薩於慈姓中生，從姓立名，故名慈氏。舊云彌勒，訛也。」

玄應音義二十五曰：「梅怛麗藥，此云慈，即舊云慈氏者也。慈有二因緣：一值慈佛發心，二初得慈心三昧。因以名焉。言彌勒或云梅低黎，並訛也。」（中略）

在密教，胎藏界之彌勒，坐於中台八葉院東北方之蓮上，金剛界之彌勒在賢劫十六尊中，坐於東方，羯磨會三十七尊中之西方金剛因菩薩，即為此尊之本誓，大輪金剛者，此尊之教令輪身也。密號曰迅疾金剛。

674. 【慈心三昧】（科註第二九〇頁第二行）

《中華佛教百科全書》（節錄）：又稱慈三昧、白光明慈三昧、大慈三昧，或稱慈心觀。是大乘菩薩修慈悲行的根本。即去除妄念雜慮、遠離瞋恚怨憎之念，專致於慈悲心，觀一切眾生普遍受樂的三昧。這是行者憐念眾生、關懷眾生的心理境界。

《賢愚經》卷十二云（大正4.436b）：「是時如來，大眾圍遶，各悉默然端坐入定。」

有一比丘人慈三昧，放金光明，如大火聚。

曇摩留支遙見世尊光明顯赫，明曜踰日，大眾圍遶，如星中月，為佛作禮，問訊如法，見此比丘光明特顯，即白世尊：此一比丘人何等定，光曜乃爾？佛告大王：此比丘者，入慈等定。王聞是語，倍增欽仰，言此慈定巍巍乃爾，我會當習此慈三昧。作是願已，志慕慈定，意甚柔濡，更無害心。〔中略〕爾時大王曇摩留支者，今彌勒是，始於彼世發此慈心，自此以來常字彌勒。〕

675. 【トク弗<sup>トク</sup>】(音服) 沙】(科註第二九〇頁第三行)

《佛學大辭典》「底沙佛」條 (佛名) ㄉ

ṭṭya，又作弗沙 Puṣya，佛名。原為星。以星為佛名。釋尊百劫之修相中，逢此佛，翹足

讚偈，因超九劫。

○底沙 (節錄)：(佛名) ṭṭya，佛名。

釋迦牟尼佛嘗在此佛所與彌勒共修佛道，七日七夜翹一腳，以一偈讚佛，依其功德於百劫中超越九劫而成佛云。(中略)

婆沙論一百七十七曰：「如契經說，過去有佛，號曰底沙，或曰補沙。彼佛有二菩薩弟子勤修梵行，一名釋迦牟尼 (譯言能寂)，

二名梅<sup>メ</sup>怛<sup>ト</sup>儷<sup>ト</sup>藥 (譯言慈氏)。爾時彼佛觀

二弟子誰先根熟，即如實知慈氏先熟，能寂後熟。復觀二士所化有情，誰根先熟。又如實知釋迦所化應先根熟，知己即念。我今云何令彼機感相會遇耶？然令一人速熟則易，非令多人。作是念已，便告釋迦：吾欲遊

山，汝可隨去。爾時彼佛取尼師檀，隨路先往，既至山上，入<sup>fei</sup>吠（音費）琉璃<sup>kān</sup>龕（音刊）。<sup>fu</sup>敷（音夫）尼師檀，結跏趺坐，入火界定。經七晝夜，受妙喜樂，威光熾然。釋迦須臾亦往山上，處處尋佛，如<sup>du</sup>犢（音毒。小牛）求母。展轉遇至彼龕室前，<sup>xu</sup>歛（音須。快速）然見佛，威儀端肅，光明照耀。專誠懇發，喜歎不堪。於行無間，忘下一足。瞻仰尊顏，目不暫捨。經七晝夜，以一伽他讚彼佛曰：天地此界多聞室，逝宮天處十方無。丈夫牛王大沙門，尋地山林遍無等。如是讚已，便超九劫。於慈氏前，得無上覺。」

676. 【刀兵劫】（科註第二九〇頁第四行）

《法相辭典》：大毗婆沙論一百三十四卷三頁云：初刀兵劫，將欲起時，瞻部洲人，極壽十歲。為非法貪，染污相續；不平等愛，映蔽其心。邪法<sup>ying</sup>縈（音迎。繚繞）纏，瞋毒增上。相見便起猛利害心。如今獵師，見野禽獸。隨手所執，皆成刀杖。各逞凶狂，互相殘害。七日七夜，死亡略盡。瞻部洲內，<sup>cái</sup>纒（音材。僅僅）餘萬人。各起慈心，漸增壽量。爾時名為度刀兵劫。

677. 【兜兜率內院】（科註第二九〇頁第五行）

《佛學大辭典》：（雜名）菩薩最後身之住處也。釋迦如來為菩薩時最後之住處，住於此終此生，下生人間而成佛也。今為彌勒菩薩之淨土也。此亦菩薩身之最後，彼天四

千歲間住於此，已生人間，成佛於龍華樹下也。而彼天之四千歲當人中之五十七億六百萬歲（可見此處以「千萬」為「億」）。

普yào曜一公（音要）經一曰：「其兜術天有大天宮，名曰高幢，廣長二千五百六十里，菩薩常坐為諸天人敷演經典。」

彌勒上生經曰：「爾時此宮有一大神名牢度bá跋多（音拔）提，即從座起，遍禮十方佛，發弘誓願：若我福德應為彌勒菩薩造善法堂，令我額上自然出珠。既發願已，額上自然出五百億寶珠。〔中略〕化為四十九重微妙寶宮。」

678. 【三會龍華】（科註第二九〇頁第七行）

《佛學大辭典》「龍華三會」條：（術語）

彌勒佛於華林園中龍華樹下成道，開三番法會，度盡上中下三根之眾生，故曰龍華三會。

羅什譯之彌勒下生經曰：「坐龍華菩提樹下，得阿耨多羅三藐三菩提。在華林園，其園縱廣一百由旬，大眾滿中。初會說法，九十六億人得阿羅漢。第二大會說法，九十四億人得阿羅漢。第三大會說法，九十二億人得阿羅漢。彌勒佛既轉法輪，度天人已，將諸弟子入城乞食。」

增一阿含經四十四曰：「爾時去zhì雉止（音至）頭城不遠，有道樹名曰龍華。高一由旬，廣五百步。時彌勒菩薩坐彼樹下成無上道果。〔中略〕爾時彌勒初會八萬四千阿羅

漢，第二會有九十四億人，第三之會九十二億人民，皆是阿羅漢，亦復是我遺法弟子。」

心地觀經二曰：「若有得聞此心地觀報四恩品，〔中略〕若命終時即得往生彌勒內宮，睹白毫相，超越生死。龍華三會，當得解脫。」

679. 【逝多林】（科註第二九〇頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（地名）Jetavana，舊稱<sup>qi</sup>祇（音奇）陀林，祇<sup>huán</sup>洹（音環）林。本為

逝多太子所有之林，故云逝多林。須達長者買之而建精舍，以獻於佛。即祇洹精舍是也。

西域記六曰：「逝多林。唐言勝林。舊曰祇陀，訛也。」

680. 【伏藏】（科註第二九〇頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（譬喻）埋伏於土中之寶藏也。貧女家中有伏藏，貧女不知之，智者教之發掘，以譬一切眾生具有佛性而流浪於三界，佛為說法開示之也。

涅槃經七曰：「善男子！如貧女人舍內多有真金之藏，家人大小無有知者。」

無量壽如來會曰：「最勝丈夫修行已，於彼貧窮為伏藏。」

681. 【眾生界】（科註第二九〇頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（界名）對佛界之稱。十界中除佛界，總稱他九界曰眾生界。（即地獄界、餓鬼界、畜生界、阿修羅界、人界、天界、聲聞界、緣覺界、菩薩界。又指眾生生存之世

界。)

682. 【《大寶積經發勝志樂會》】(科註第二九一頁

第四行)

《大寶積經》之第二十五會，卷九一至九

二，唐菩提流志譯。

683. 【十種心】(科註第二九一頁第四行)

《三藏法數》「念佛十種心」條：〔出大

寶積經〕彌勒菩薩白佛言：如佛所說，阿彌陀佛極樂世界功德利益，若有眾生，發十種心，隨一一心，專念彼佛，是人命終，當得往生也。(梵語彌勒，華言慈氏。梵語阿彌陀，華言無量壽。)

一、無損害心：念佛之人，於諸眾生，常起大慈之心，不加損害，令得快樂，是名無

損害心。

二、無逼惱心：念佛之人，身心安靜，於諸眾生，常起大悲之心，深加愍傷，令得脫苦，是名無逼惱心。

三、樂守護心：念佛之人，於佛所說正法，當須不惜身命，守護愛惜，是名樂守護心。

四、無執著心：念佛之人，常以智慧觀察於一切法，不生執著，是名無執著心。

五、起淨意心：念佛之人，能離世間雜染之法，復於利養等事，常生知足之心，是名起淨意心。

六、無忘失心：念佛之人，求生淨土，成佛種智，於一切時，念念不捨，是名無忘失

心。

七、無下劣心：念佛之人，常行平等之心，於諸眾生，尊重恭敬，不生輕慢，是名無下劣心。

八、生決定心：念佛之人，不著世間言論，於無上菩提之道，深生正信，畢竟不惑，是名生決定心。（梵語菩提，華言道。）

九、無雜染心：念佛之人，修習功行，種諸善根，心常遠離一切雜染煩惱，是名無雜染心。

十、起隨念心：念佛之人，雖觀如來相好，而不生愛著之心；於無念中，常念彼佛，是名起隨念心。

684. 【襄贊】（科註第二九一頁第六行）

《漢語大詞典》：輔佐幫助。

685. 【賢劫】（科註第二九一頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）過去之住劫，名為莊嚴劫，未來之住劫，名為星宿劫，現在之住劫，名為賢劫，現在之住劫二十增減中，有千佛出世，故稱讚之為賢劫。亦名善劫。

大悲經三曰：「阿難！何故名為賢劫？阿難！此三千大千世界，劫欲成時，盡為一水。時淨居天，以天眼觀見此世界唯一大水，見有千枝諸妙蓮華，一一蓮華各有千葉，金色金光大明普照，香氣芬熏，甚可愛樂。彼淨居天因見此已，心生歡喜，踴躍無量，而讚歎言：奇哉奇哉！希有希有！如此

劫中當有千佛出興於世，以是因緣，遂名此劫號之為賢。」

悲華經五曰：「此佛世界當名娑婆，〔中略〕時有大劫名曰善賢，何因緣故劫名善賢？是大劫中有千世尊，成就大悲出現於世。」

行宗記四下曰：「慈恩劫章云：即此住劫稱賢劫，此界成後有千佛出世，既多賢聖，故名賢劫。」梵 Bhadrakalpa。

686. 【住劫】（科註第二九二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）四中劫之一，謂自成劫至壞劫間，此界有情住之一期也。其間有二十增減，人壽自八萬四千歲百歲減一歲，而至十歲，為一減。自十歲更每百年

增一歲，而至八萬四千歲，為一增。

《三藏法數》：住劫者，謂世界安住也。

有二十小劫。第九小劫，人壽減至五萬（或作六萬）歲時，第一拘留孫佛出世；減至四萬歲時，第二拘那含牟尼佛出世；減至二萬歲時，第三迦葉佛出世；減至一百歲時，第四釋迦牟尼佛出世。第十小劫，人壽減至八萬歲時，第五彌勒佛出世；第十五小劫，於減劫中，第六師子佛乃至欲樂佛，凡九百九十四佛相繼出興，說法度人。第二十小劫，於增劫中，樓至佛出世，滿足一千也。已上二十小劫，皆悉一增一減，名為住劫。（梵語拘留孫，華言所應斷。梵語拘那含牟尼，華言金色仙。梵語迦葉，華言飲光。梵語釋

迦牟尼，華言能仁寂默。梵語彌勒，華言慈氏。梵語樓至，華言愛樂。

687. 【佛祖統記】（科註第二九二頁第二行）

見「佛祖統紀」1238。

688. 【拘留孫佛】（科註第二九二頁第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（佛名）Kṛakucchanda，又作俱留孫佛，jū鳩（音糾）樓孫佛，拘留秦，迦羅鳩餐陀，迦羅鳩村<sub>女文</sub>馱（音陀），jiē羯（音結）洛迦孫馱，羯羅迦寸地，羯句<sub>女文</sub>cūn忖那等。譯曰所應斷已斷，滅累，成就美妙等。當於過去七佛之第四佛，現在賢劫一千佛之最首者也。於賢劫中第九滅劫人壽六萬歲時出世。

慧苑音義上曰：「迦羅鳩村馱，此云所應

斷已斷。」同下曰：「拘留孫，具云羯羅迦寸地，此云所應斷已斷，謂惑障已斷也。」

689. 【拘那含<sub>女文</sub>牟<sub>口文</sub>】（音謀）尼佛】（科註第二九二頁第三行）

《佛學大辭典》「迦那伽牟尼」條：（佛名）Kanakamuni，又作jiē羯（音結）諾迦牟尼。佛名。舊稱拘那含牟尼。譯曰金寂，金仙人。賢劫中之第二佛。過去七佛中之第五。人壽三萬（或作四萬）歲時生於清淨城。智度論九曰：「迦那伽牟尼，秦言金仙人。」

玄應音義二十一曰：「羯諾迦牟尼，舊言拘那含牟尼，此云金寂也。」

慧琳音義十八曰：「羯諾迦牟尼，唐言金

寂靜，是賢劫中第二佛。」

梵網經述記下曰：「拘那含牟尼者，或言迦那伽牟尼。拘那含，此云無節樹。牟尼者，此云忍。亦云滿，亦云寂。」

690. 【迦<sup>76</sup>葉<sup>76</sup>（音社）佛】（科註第二九二頁第三行）

《佛光大辭典》：梵名 Kāśyapa Buddha。

又作迦葉波佛、迦攝波佛、迦攝佛。意譯作飲光佛。乃釋尊以前之佛，為過去七佛中之第六佛，又為現在賢劫千佛中之第三佛。傳說為釋迦牟尼前世之師，曾預言釋迦將來必定成佛。

依長阿含卷一大本經載，迦葉佛出世於賢劫中，其時人壽二萬歲。姓迦葉，於尼拘律樹（巴 Nigrodha）下成佛，有弟子二萬人，

而以提舍（巴 Tissa）及婆羅婆（巴 Bhāradvāja）二人為高足，執事之弟子名善友（巴 Sabhāmita）。父名梵德（巴 Brahmādatta），婆羅門種；母名財主（巴 Dhanavatī）。有子名集軍。其時之王名汲毘（巴 Kiki），其所治之城名波羅（梵 Bārāṇasī，巴同）。

又四分律比丘戒本所載（大二·一〇二下）：「一切惡莫作，當奉行諸善；自淨其志意，是則諸佛教。」即迦葉佛所說之戒經。「增一阿含經卷四十五、北本大般涅槃經卷三、佛名經卷八」

◎ 德遵普賢第二

691. 【《度世經》】（科註第二九三頁第八行）

即《度世品經》。

《佛學大辭典》「度世品經」條：（經名）

六卷，西晉竺法護譯。即華嚴經離世間品之異譯。度即離之義也。（《度世品經卷四》：菩薩有十事號為正士。何謂為十？菩薩解了佛慧，為一法身，故曰開士；堅住大乘，號曰大士；奉行豪法，故曰尊人；覺成妙法，故曰聖士；入殊勝慧，故曰超士；勸人精進，故曰上人；宣豪勝法，故曰無上；具足解了十種力慧，故曰力士；除諸一切闇冥覆蔽，故曰無雙；無儔匹（可與相比者。儔，音愁）士。心得由已輒成佛道，號無思議。是為菩薩號十正士也。）

692. 【開士】（科註第二九三頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）開悟之士。又以法開導之士。菩薩之德名。

玄應音義四曰：「開士，謂以法開導之士也。梵云扶薩，又作扶薛，或言菩薩是也。」

釋氏要覽上曰：「經中多呼菩薩為開士，前秦苻苻（音符）堅，賜沙門有德解者，號開士。」因而亦為和尚之尊稱，又曰闡士。

693. 【大士】（科註第二九三頁第八行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）菩薩之通稱也，或以名聲聞及佛。士者凡夫之通稱，簡別於凡夫而稱為大。又，士者事也，為自利利他之大事者，謂之大士。

韓詩外傳曰：「孔子與子路子貢顏淵言

志，謂子路曰：「勇士哉！謂子貢曰：辨士哉！謂顏淵曰：大士哉！」

管子法法篇曰：「務物之人，無大士焉。」大士文本出儒傳。

法華文句記二曰：「大士者，大論稱菩薩為大士，亦曰開士。士謂士夫，凡人之通稱。以大開簡別故曰大等。」

四教儀集解上曰：「大士者，大非小也。士事也，運心廣大能建佛事故云大士，亦名上士。瑜伽論云：無自利利他行者名下士，有自利無利他名中士，具自他行名上士。大論以菩薩名大士亦開士，普賢觀以聲聞菩薩為大士，金光明以佛為大士，諸文不同。」

694. 【正士】（科註第二九三頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語曰菩薩。一譯正士。求正道之大士也。無量壽經上曰：「十六正士。」同下曰：「十方來正士。」

695. 【《文殊師利嚴淨經》】（科註第二九三頁倒數第三行）

《閱藏知津》「文殊師利佛土嚴淨經」條：二卷，西晉月支國沙門竺法護譯。即大寶積經第十五文殊師利授記會異譯。

696. 【葆ほ（音保）光】（科註第二九三頁倒數第一行）

《漢語大詞典》：隱蔽其光輝。比喻才智不外露。（葆，藏，隱蔽）

697. 【《出生義》】（科註第二九四頁第一行）

《佛學大辭典》：（經名）金剛頂瑜伽三

十七尊出生義之略名。

○金剛頂瑜伽三十七尊出生義：（經名）

一卷，唐不空譯。說金剛界根本成身會二十七尊，由大日如來出生之次第。單名出生義。

698. 【賢護】（科註第二九四頁第三行）

《佛學大辭典》：（人名）Bhadrapāla，

梵名曰跋<sup>ば</sup>颯<sup>さ</sup>（音拔）陀，跋<sup>ば</sup>跋<sup>ば</sup>（音拔）陀和，

跋陀婆羅，跋陀羅波梨。或曰賢護長者，賢護菩薩，賢護大士。在家之菩薩也。

玄應音義五曰：「案移識經云：颯陀羅波梨，此譯云賢護，亦云賢守。鄰聖曰賢，固道稱守。幻士經云：颯陀，此言仁賢。是王舍城在家菩薩也。」

大寶積經百九卷賢護長者會第三十九曰：

「有一最大巨富商主長者之子，名颯陀羅波梨

（隋言賢護）。〔中略〕爾時世尊告阿難言：

長老阿難！汝欲聞此颯陀羅波梨長者家中所

有眾樂事乎？乃至具足說其受於快樂果報，

雖復忉利帝釋天王猶不能及，況復人間。

〔中略〕是長者子，凡有六萬最大商主恒隨彼

後。〔中略〕其颯陀羅波梨家內恒常鋪設六

萬上妙六合床榻，雜色被褥以覆其上，〔中

略〕復有六萬婁女，端正殊絕，身體柔軟細

滑，〔中略〕又其長者欲食之時，則有六萬

雜種羹臠（菜羹和肉羹。臠，音或）飯，食微

妙香美，猶如天廚無有異也。」

佛說大乘菩薩藏正法經有「賢護長者品。」

又大方等大集賢護經一曰：「王舍大城有優婆塞。名曰賢護。為眾上首。」

699. 【勝思惟梵天經】（科註第二九四頁第三行）

《閱藏知津》「勝思惟梵天所問經」條：

六卷，元魏北天竺沙門菩提留支譯。同《思益梵天所問經》，而不列品。

700. 【三菩提】（科註第二九四頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）Sambodhi，又

作 sān 糝（音散）帽地。譯作正等覺。

希 lín 麟（音林）音義四曰：「糝帽地，舊

云三菩提，此云正等覺也。」

《佛學常見辭彙》（節錄）：阿耨多羅三藐

三菩提的簡稱，華譯為正等覺，即無上正等正覺的意思。

701. 【大寶積經賢護長者會】（科註第二九四頁第六行）

《大寶積經》第三十九會，卷一〇九至一

一〇。隋闍那 jué 崛（音覺）多譯。

702. 【帝釋天王】（科註第二九四頁第七行）

《三藏法數》「帝釋天主」條：帝即天

帝。釋，梵語具云釋提桓因，華言能天主。

言帝釋者，華梵兼稱也。此天居須彌山頂，

即忉利天主也。謂此天，往昔因中，迦葉佛

滅時，有一女人，發心修塔，復有三十二人

助修，由是功德，女為忉利天主，其助修

者，皆作輔臣；合稱為三十三天也。（梵語

須彌，華言妙高。梵語忉利，華言三十三。

梵語迦葉，華言飲光。）

703. 【《名義集》】（科註第二九四頁第八行）

《佛學大辭典》：（書名）翻譯名義集之略稱。（參見「《翻譯名義集》」1145）

704. 【《四童子經現生品》】（科註第二九四頁倒數第三行）

《四童子三昧經》之第二品。

《佛光大辭典》「四童子三昧經」條：凡三卷。隋代闍那崛多譯。又作四童子經。收於大正藏第十二冊。係方等般泥洹huán ㄏㄨㄢˊ（音環）

經前六品之別譯。內容敘述佛在俱尸那國力士居地娑羅雙樹間將涅槃之際，阿難、阿尼婁陀與四童子等四方一切有情皆齊集佛所，佛即為諸有情說涅槃道，成就有情之善根。

705. 【俱胝zhī（音知）】（科註第二九四頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「俱致」條（節錄）：（雜

語）Kōi，又作俱胝，拘致。數名。譯曰億。

玄應音義五曰：「俱致，或言俱胝，此言千萬，或言億。而甚不同，故存本耳。」

（中略）

華嚴疏鈔十三上曰：「唐三藏譯為百億俱胝。測公深密記第六云：俱胝相傳釋有三種：一者十萬，二者百萬，三者千萬。用此三者，以俱胝數或至百數或至千數或至百千。唐三藏譯定千萬也，故至百數。」

706. 【波羅奈】（科註第二九五頁第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（地名）Vārāṇ

asī，又作波羅捺nà ㄋㄚˋ（音那），波羅奈斯，婆

羅niè ㄋㄧㄝˋㄗㄟ（音聶）斯，婆羅捺寫。國名。譯作

江繞，因在恒河之流域故也。鹿野園在此中。今為 Benares。

707. 【毘<sup>ㄅㄧˊ</sup>耶離】(科註第二九五頁第五行)

《佛學大辭典》「毘舍離」條：(地名)

vaisali，又作毗耶離，<sup>ㄅㄧˊ</sup>毘<sup>ㄅㄧˊ</sup> (音皮) 舍離，維耶，維耶離，鞞舍<sup>ㄋㄧˋ</sup>隸<sup>ㄌㄧˋ</sup> (音力) 夜。新云吠<sup>ㄈㄟˋ</sup>吠<sup>ㄈㄟˋ</sup> (音費) 舍<sup>ㄕㄧˋ</sup>釐<sup>ㄌㄧˋ</sup> (音離)。國名。譯曰廣嚴。中印度也。維摩大士住此國。又，佛滅一百年，七百賢聖為第二結集之處。此國內之種族曰離車，亦曰跋<sup>ㄅㄚˊ</sup>跋<sup>ㄅㄚˊ</sup> (音拔) 闍<sup>ㄎㄜˊ</sup>子 (此國城之鼻祖名離車，當時有二城郭，開擴莊嚴，名毗舍離，詳說於善見律中，載離車之部)，後為阿闍世王所併。

吉藏維摩經疏一曰：「毗耶離城，亦云毗

耶離國。此是六大城中一大城，十六大國中一大國也。毗耶離，或云毗舍離，或云鞞舍離。此云廣博嚴淨，亦云好稻，復云好成。」西域記七曰：「吠舍釐國，舊曰毗舍離國，訛也，中印度境。」

四分戒疏二上曰：「毗舍離者，多論云廣嚴城也。」

玄應音義四曰：「毗耶離，或作毗舍離，或云維耶離，亦云鞞<sup>ㄋㄧˋ</sup>奢<sup>ㄕㄜˊ</sup>隸<sup>ㄌㄧˋ</sup>夜，皆梵言訛轉也。正言吠舍釐，在恒河南，中印度境，七百賢聖於中結集處所也。」即今印度恒河北岸，干達克河東岸。今譯毗薩爾。

708. 【娑<sup>ㄕㄨㄛˊ</sup>羅雙樹】(科註第二九五頁第五行)

《佛學大辭典》「沙羅雙樹」條：(地名)

佛入滅處之林也。為沙羅樹之並木，故謂之雙樹。

涅槃經一曰：「佛在拘尸那國力士生池阿利羅跋<sup>ば</sup>（音拔）提河邊娑羅雙樹間。」

○娑羅林（節錄）：（地名）Sālavana，娑

羅者堅固之義，因而謂之堅固林。慧苑師云高遠之義也。佛在拘尸那城阿利羅跋提河邊，娑羅樹四方各二株雙生中間入滅，故佛之人滅處謂之娑羅林，而曰娑羅樹間。

又云牛角娑羅林。牛角者表雙樹。或言角者拘尸那城之別名。又佛涅槃時，雙樹悉變白如白鶴，故謂之鶴樹。（中略）

西域記六曰：「尸賴拏伐底河西岸不遠至娑羅林，其樹類<sup>じせ</sup>檨<sup>しせ</sup>（音姐。木名）而皮青

白，葉甚光潤，四樹殊高，如來寂滅之所也。」（中略）

涅槃經疏二曰：「娑羅，此云堅固，四方八株，悉高五丈，四榮四枯，下根相連，上枝相合。」（中略）

如來涅槃後四樹枯，四樹榮，以表大乘涅槃之常樂我淨萬代繁榮也。（東南西北方之雙樹，各分別代表常與無常，樂與無樂，我與無我，淨與不淨。）

709. 【佛名經】（科註第二九五頁第六行）

《佛學大辭典》：（經名）藏中有數部：

一、元魏菩提流支譯之《佛名經》十二卷，舉一萬一千九十三尊。

二、失譯人名之《佛名經》，三十卷。

三、隋闍那崛多譯之《五千五百佛名神咒除障滅罪經》，八卷。

四、失譯人名之《三劫三千諸佛名經》三卷。

五、隋那連提耶舍譯之《百佛名經》，一卷。

此中第四之三劫三千諸佛名經，略稱為三千佛名經。

710. 【《月燈三昧經》】（科註第二九五頁第八行）

《佛學大辭典》：（經名）有二譯：一高齊那連提耶舍（烏菴國沙門）譯，十卷。一佛說月燈三昧經。一卷，劉宋先公譯。前經之一分。

○月燈三昧：（術語）佛，對月光童子說

一切諸法體性平等無戲論三昧之法門。因童子之名，稱為月燈三昧。即月燈三昧經之所說。

711. 【香象菩薩】（科註第二九五頁第八行）

《佛學大辭典》：（菩薩）維摩經之同聞眾（謂列於諸經首之比丘菩薩等諸眾。即同聞法之眾也）。

○香象：（菩薩）或稱香惠，赤色，不可息。賢劫十六尊之一。居金剛界外院方壇。南方四尊中之第一位。密號大力金剛或護戒金剛。

（又）（異類）青色帶香氣之象。

羅什之維摩經注釋香象菩薩之名曰：「青香象也，身出香風。菩薩身香風，亦如此

也。」

此菩薩在北方之香聚山說法。華嚴經菩薩住處品曰：「北方有菩薩住處，名香聚山。過去諸菩薩，常於中住。彼現有菩薩名香象，有三千菩薩眷屬常為說法。」梵 Gandhalasti。

712. 【阿闍<sup>多</sup>闍<sup>文</sup>】(音觸)佛】(科註第二九五頁第八行)

《佛學大辭典》「阿闍」條：(佛名) Arśobhya，如來名。具名阿闍鞞、阿闍婆。譯曰無動，不動。無瞋恚。往昔於去此東方千佛刹，出現於阿比羅提國之大目如來所發願，修行後，成佛於東方，其國土名善快，今現於其土說法。

又依密教謂阿闍為金剛界五智如來中住於

東方之如來。左手作拳，右手持梵函。金色。

阿彌陀經曰：「東方亦有阿闍鞞佛。」

慈恩疏曰：「阿闍鞞佛，名無瞋恚，在東方阿比羅提國。」

維摩經見阿闍佛品曰：「有國名妙喜，佛號無動。」

同慧遠義記曰：「阿闍胡語，此云無動。」

玄應音義九曰：「阿闍鞞，亦云阿闍婆，此譯云無動。」

713. 【那由多】(科註第二九五頁第八行)

《中華佛教百科全書》(節錄)：印度之數量單位。音譯又作那庾多、那由他、那由佗、尼由多、那述、那術。音譯作兆、溝。

《俱舍論》卷十二：「如彼經言，有一無餘數始為一，十一為十，十十為百，十百為千，十千為萬，十萬為洛叉，十洛叉為度洛叉，十度洛叉為俱胝，十俱胝為末陀，十末陀為阿庾多，十阿庾多為大阿庾多，十大阿庾多為那庾多。」

714. 【寶幢】（科註第二九六頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（物名）以寶珠莊嚴之幢竿也。

大日經疏五曰：「上置如意珠，故曰寶幢。」

○幢（節錄）：（物名）梵名馱縛若 Dhvaja，又曰計都 Ketu，譯曰幢。為竿柱高出，以種種之絲帛莊嚴者。藉表麾群生，制

魔眾，而於佛前建之。

715. 【境智】（科註第二九六頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）所觀之理謂之境。能觀之心謂之智。釋籤一曰：「理惑一體，境智如如。」

716. 【同聞眾】（科註第二九七頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）謂列於諸經首之比丘菩薩等諸眾。即同聞法之眾也。

法華文句一曰：「釋同聞眾為三：初聲聞，次菩薩，後雜眾。諸經多爾。」

717. 【結縛】（科註第二九七頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）煩惱之異名。繫縛心身不使解脫出離之義。

維摩經佛國品曰：「稽首能斷眾結縛。」

無量壽經下曰：「煩惱結縛，無有解已。」

718. 【那由他】（科註第二九九頁第五行）

《佛學大辭典》：（雜語）Nayuta，又作那庾多，那由多，那術，那述。數目名，當於此方之億。億有十萬，百萬，千萬三等。故諸師定那由多之數不同。

本行經十二曰：「那由他，隋言數千萬。」玄應音義三曰：「那術，經文作述，同食事反，或言那由他，正言那庾多。當中國十萬也。光讚經云：億，那述劫是也。」（參見「那由多」713）

719. 【拔濟】（科註第二九九頁第六行）

《佛學大辭典》：（雜語）拔苦濟難也。法華經譬喻品曰：「但以智慧方便，於三

界火宅，拔濟眾生。」

720. 【攝大乘論釋】（科註第三〇〇頁第七行）

《佛學大辭典》：（書名）釋無著之攝大乘論者。有二本：一為世親菩薩作，一為無性菩薩作。前之一本有三譯，一為陳真諦譯，十五卷，二為隋<sub>正</sub>笈<sub>下</sub>（音及）多譯，十卷，三為唐玄奘譯，十卷。後之一本，唯玄奘譯，十卷。

721. 【《仁王經疏》】（科註第三〇〇頁倒數第一行）

係鳩摩羅什所譯《仁王般若波羅蜜經》之註釋。

《閱藏知津》「仁王護國般若經疏」條：五卷。天台智者大師說，門人灌頂記。

人法為名，實相為體，自行因果為宗，權

實二智為用，大乘熟酥為教相。序品為序分，觀空下六品為正說分。囑累品為流通分。若望經文，受持品末，佛告月光下，即是流通。

722. 【《唯識論》】（科註第三〇二頁第四行）

指《成唯識論》。十卷。護法等菩薩造，唐玄奘譯。（參見「《成唯識論》」1694）

723. 【軌持】（科註第三〇二頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）解法之字義者。法有二義，一軌之義，謂以其體為軌範使人起領解心也。二持之義，謂維持其體不混亂他體也。

唯識論一曰：「法謂軌持。」同述記一本曰：「軌謂軌範，可生物解。持謂任持，不

捨自相。」

724. 【《大集經》】（科註第三〇二頁第四行）

《佛學大辭典》：（經名）具名大方等大集經。大方等為大乘經之通名。佛在欲色二界中間廣集十方之佛菩薩，說大乘之法，謂之大集經。前後諸師，各譯一部分，無全本。高麗藏本收諸師譯本為一部，有六十卷。

其中前二十六卷及三十一卷至三十三卷之日密分三卷，北涼曇無讖chèn（音趁）譯，為諸譯中之大本。他藏本稱之為大方等大集經而別行之。

其第二十七卷至三十卷之無盡意菩薩品四卷，為智嚴寶雲譯，別行本題曰：無盡意菩

薩經。

其三十四卷至四十五之曰藏分十二卷，隨那連耶舍譯，別行本十卷稱為大乘大方等日藏經。

其四十六卷至五十六卷之月藏分為十一卷，高齊那連提耶舍譯，別行本十卷，稱為大方等大集月藏經。

其五十七、五十八兩卷之須彌分二卷，同譯，別行本題曰大乘大集經。

其五十九、六十兩卷之十方菩薩品，後漢安世高譯，別行本題曰：佛說明度五十校計經。

止觀輔行五曰：「彼經廣集十方諸佛諸大菩薩於欲色二界大空亭中，故云大集。」

但大集之經名有二種：一以名於欲色二界

中間集大眾而說之經，上所舉之諸經是也。

一以名於隨處集大眾而說之經，大集經賢護分，大集經念佛三昧分等是也。梵 Mahāsam  
ghāta。

725. 【《法華玄贊》】（科註第三〇二頁第五行）

《天台教學辭典》：十卷。慈恩大師窺基（六三二—六八二）撰。又稱「妙法蓮華經玄贊」、「法華經玄贊」、「玄贊」。收于大正藏第三十四冊。本書依法相唯識學之立場解釋「法華經」，根據「攝大乘論」等說，自一乘方便，三乘真實立場，批判天台、華嚴宗之說，文中甚多引用世親大士之「法華論」、劉虬（くわ 音求）之「注法華經」、慧

表大德之「注無量義經」等出處，頗忠于原

典。內容首先敘述「法華經」興起之因，其

次闡明經之宗旨，解釋經品之得名，以彰顯

經品之廢立、經品次第、其次再解釋經之本

文。本書有藏文譯本，題為「妙法蓮華註」

收錄于西藏「大藏經」中。本書之注釋書有

「法華玄贊義決」一卷、「法華玄贊攝釋」四

卷、「法華玄贊決擇記」八卷等。「新編諸

宗教藏總錄卷一、法相宗章疏」

726. 【逗機】（科註第三〇二頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）逗者止也投

也，小大頓漸之教法各止住於其機類而不通

融於他也。

又各投合其機而與以應分之益也。總就方

便教上而言。

說文曰：「逗，止也。又通作投。」

正韻「物相投合也。」

727. 【機宜】（科註第三〇二頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）眾生有善根之

機，而宜於布教者。

玄義六上曰：「機是宜義，如欲拔無明之

苦，正宜於悲。欲與法性之樂，正宜於慈。

故機是宜義。」同一下曰：「夫教本應機，

機宜不同，故部別異。」

唯識述記一本曰：「如來設教，隨機所

宜。」

728. 【宗源】（科註第三〇二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）宗旨之本源

也。

三論玄義曰：「夫欲立理，先須序宗源。」

729. 【佛法藏】（科註第三〇二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）如來藏也，如來藏中藏恒沙之佛法，故名佛法藏，即真如之理體也。

維摩經法供養品曰：「能令眾生入佛法藏。」

無量壽經上曰：「入佛法藏，究竟彼岸。」

同淨影疏曰：「如來藏中，過恒沙法，名佛法藏。」

730. 【性德】（科註第三〇三頁第一行）

對「修德」之稱。（參見「性修二德」1323）

731. 【《大般若經》】（科註第三〇三頁倒數第一行）

《佛光大辭典》「大般若波羅蜜多經」條

（節錄）：梵名 Mahā-prajñāpāramitā-sūtra。

凡六百卷。略稱大般若經。唐代玄奘譯。收於大正藏第五至七冊。「般若波羅蜜」，意即「通過智慧到達彼岸」。全經旨在說明世俗認識及其面對之一切對象，均屬因緣和合，假而不實，唯有通過「般若」對世俗真相之認識，方能把握絕對真理，達於覺悟解脫之境。為大乘佛教之基礎理論，亦為諸部般若經之集大成者。

般若部乃大藏經中最大部之經典，約占全部「經藏」三分之一；而大般若經即占般若部四分之三，其餘四分之一則為小品般若、小品般若、金剛般若等般若諸經。於經典成

立之發展過程中，般若部諸經之先後次第，以道行般若、小品般若為最早，其次為大品般若、金剛般若等，其後乃為大般若經及其餘諸部般若之續出，其時約於大乘經典成立之中期。

玄奘之前，已有若干般若經之漢譯，然因未能周備，故玄奘乃集眾重譯，校合三種梵文原本，以嘉尚、大乘欽、大乘光、慧朗、窺基等人任「筆受」之職，玄則、神昉等人任「綴文」之職，慧貴、神泰、慧景等人任「證義」之職，於玉華宮寺，自高宗顯慶五年（六六〇）正月至龍朔三年（六六三）十月譯成。翌年二月，玄奘即示寂於玉華宮寺。

全經共有四處十六會六百卷。四處，係指

佛陀宣說本經之四個處所，即：王舍城鷲峰山、給孤獨園、他化自在天王宮、王舍城竹林精舍。十六會中，第一、三、五、十一、十二、十三、十四、十五、十六等九會為玄奘新譯，共計四八一卷，其餘七會為重譯。

732. 【般若波羅蜜多】（科註第三〇四頁第一行）

《佛學大辭典》「般若波羅蜜」條：（術語） Prajñāpāramitā，新譯家謂為般若波羅蜜多。於六波羅蜜及十波羅蜜中，皆為第六波羅蜜。般若波羅蜜經中，雖說六波羅蜜，然以般若為諸波羅蜜中之最第一、故特標般若波羅蜜之名。般若譯為智慧，波羅蜜譯為度或到彼岸。照了實相之智慧，為度生死此岸而至涅槃彼岸之船筏，故謂之波羅蜜。

智度論十八曰：「問曰：云何名般若波羅蜜？答曰：諸菩薩從初發心求一切種智，於其中間知諸法實相慧，是般若波羅蜜。」

733. 【《首楞嚴經》】（科註第三〇四頁第八行）

《佛學大辭典》（節錄）：（經名）大佛頂如來密因修證了義諸菩薩萬行首楞嚴經之略名。首楞嚴者，三昧之名，萬行之總稱也。有十卷。（參見「楞嚴」116）

734. 【遷<sub>ク</sub>流<sub>リ</sub>】（音千）（科註第三〇四頁第八行）

《漢語大詞典》：謂時間遷移流動。

735. 【示現】（科註第三〇五頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）佛菩薩應機緣而現種種之身也。如觀音之三十三身是。

736. 【八相成道】（科註第三〇五頁第七行）

《三藏法數》「如來八相」條：〔出釋迦

譜〕如來八相者，法華經中明釋迦如來無量劫前，已成正覺，因大悲願力，利益眾生，數數於十方國土，示生示滅，處處不同，豈但於此南閻浮提一方出現而已。今論出現本末，則具有八相，皆所以示同人法也。（梵語釋迦，華言能仁。劫，梵語具云劫波，華言分別時節。梵語閻浮提，華言勝金洲。）

一、降兜率相：梵語兜率，華言知足。以此天於五欲境知足故。謂菩薩從兜率天將降神時，觀此閻浮提內，迦毗羅國，最為處中，往古諸佛，出興皆生於此。爾時菩薩即現五瑞，一者放大光明，二者大地震動，三者諸魔宮殿隱蔽不現，四者日月星辰無復光

明，五者天龍等眾悉皆驚怖。現此瑞已，於是下生，是名降兜率相。（五欲者，色欲、聲欲、香欲、味欲、觸欲也。菩薩即釋迦如來。梵語迦毗羅，華言黃色。）

二、託胎相：謂菩薩將託胎時，觀淨飯王性行仁賢，摩耶夫人前五百世曾為菩薩母，應往彼託胎。大機之人，見乘zhān 栴耆（音沾）檀樓閣；小機之人，見乘六牙白象，與無量諸天，作諸伎樂，從右脅入，身映於外，如處琉璃，是名託胎相。（梵語摩耶，具云摩訶摩耶，華言大術。）

三、降生相：謂四月八日，日初出時，摩耶夫人在毗lín 嵐力（音藍）園，手攀無憂樹枝，菩薩漸漸從右脅出。于時樹下生七莖蓮華，大如車輪。菩薩處於華上，周行七步，舉右

手而言曰：我於一切天、人之中，最尊最勝。爾時難陀龍王、跋難陀龍王於空中雨溫涼二水，灌太子身，身黃金色。三十二相，放大光明，普照三千大千世界，是名降生相。（毗嵐，梵語具云嵐毗尼，華言解脫處。梵語難陀，華言歡喜。梵語跋難陀，華言善歡喜。此二龍王，即兄弟也。三十二相者，足下安平相、千輻輪相、手指纖長相、手足柔軟相、手足縵網相、足跟滿足相、足趺高好相、shuàn 臄力（音澗。小腿肚子）如鹿王相、手過膝相、馬陰藏相、身縱廣相、毛孔生青色相、身毛上mǐ 靡力（音米）相、身金色相、身光面各一丈相、皮膚細滑相、七處平滿相、兩腋滿相、身如師子相、身端直相、肩圓滿相、四十齒相、齒白齊密相、四牙白

淨相、頰車如師子相、咽中津液得上味相、廣長舌相、梵音深遠相、眼色如金精相、眼睫如牛王相、眉間白毫相、頂肉髻成相也。三千者，小千、中千、大千也。言三千大千者，總別兼稱也。）

四、出家相：謂太子年至十九時，出遊四門，見老病死之相，厭世無常，心思出家。往白父王，願聽出家。父王不許，於二月七日，身放光明，照四天王宮，乃至淨居天宮。諸天見已，到太子所，頭面禮足，白言無量劫來，所修行願，今正成熟之時。太子遂於後夜，乘馬逾城至跋伽仙人苦行林中，剃除鬚髮，是名出家相。（四天王者，東方持國天王、南方增長天王、西方廣目天王、北方多聞天王。淨居天，即色界（最高五層）

天也。）

五、降魔相：魔，梵語具云魔羅，華言能奪命。謂菩薩於菩提樹下，將成道時，大地震動，放大光明，隱蔽魔宮。時魔波旬，即令三女亂其淨行，菩薩以神力故，變其魔女，皆成老母。魔王大怒，遍敕部從，上震天雷，雨熱鐵丸，刀輪器仗交橫空中，挽弓放箭，箭停空中，變成蓮華，不能加害。群魔憂戚，悉皆迸散，是名降魔相。（梵語波旬，華言惡，即魔王名也。）

六、成道相：謂菩薩降伏魔已，放大光明，即便入定，悉知過去所造善惡，死此生彼之事。於臘月八日，明星出時，豁然大悟，得無上道，成最正覺，是名成道相。

七、說法相：謂菩薩既成道已，便欲說

法，度諸眾生。即自思惟，無能信受者，若我住世，於事無益，不如入於涅槃。爾時梵天前白佛言：世尊今日法海已滿，法幢已立，潤濟開導，今正是時。云何欲捨一切眾生，入於涅槃而不說法。是時如來受梵王請已，即往鹿野苑中，先為憍陳如等五人，轉四諦法輪，及說大小乘種種教法，是名說法相。（五人者，憍陳如、馬勝、跋提、十力迦葉、拘利太子也。四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。）

八、涅槃相：梵語涅槃，華言滅度。謂如來度人已竟，將入涅槃。二月十五日，於拘尸那城，娑羅雙樹間，臥七寶床。其林忽然變白，猶如白鶴。爾時佛受純陀長者最後供已，與文殊師利等言：諸善男子，但當自修

其心，慎莫放逸。遂於中夜而入涅槃。諸天人等，以千端<sup>九二</sup>毼<sup>九二</sup>（音碟。細棉布）纏裹其身，七寶為棺，盛滿香油，積諸香木，以火焚之。收取舍利，以為八分，起塔供養，是名涅槃相。（梵語拘尸那，華言角城，其城三角故也。梵語娑羅，華言堅固，謂冬夏不改色也。梵語文殊師利，華言妙德。八分者，拘尸城一分、波肩羅婆國一分、師伽那婆國一分、阿勒遮國一分、毗耨國一分、毗離國一分、遮羅迦羅國一分、摩伽陀國一分也。）

《佛學大辭典》（節錄）：（名數）佛陀以成道為中心，示現由始至終一期之相狀，謂之八相成道。成道雖為八相中之一，然為八相中之主腦，故別揭成道之名。八相經論所說存沒不同，而大要有二說。

大乘起信論所說者，一、降兜率，先住於兜率天，在彼天四千歲。見時機熟，遂乘白象由彼天降下之相也。二、入胎，乘白象由摩耶夫人左脅入胎之相也。三、住胎，在母胎行住坐臥一日六時為諸天說法之相也。四、出胎，四月八日於藍毗尼園由摩耶右脅出生之相也。五、出家，十九歲（或二十五歲）觀世之無常，出王宮入山學道之相也。六、成道，經六年苦行，在菩提樹下成佛得道之相也。七、轉法輪，成道以後五十年間說法普度人天之相也。八、入滅，八十歲在娑羅雙樹下入於涅槃之相也。

起信論曰：「隨其願力能現八種，利益眾生。所謂從兜率天退、入胎、住胎、出胎、出家、成道、轉法輪、入於涅槃。」

天台大師之四教儀，除第三之住胎，加入第五降魔之相為八相。

四教儀四曰：「釋菩薩位略為七位：一發菩提心、二行菩薩道、三種三十二相業、四六度成滿、五一生補處、六生兜率天、七八相成道。〔中略〕所言八相成道者：一、從兜率天下，二、託胎，三、出生，四、出家，五、降魔，六、成道，七、轉法輪，八、入涅槃。古來以此二說為大小乘之別，初為大乘之八相，後為小乘之八相，然此二種八相，僅開合不同耳，非區別二乘也。」

737. 【華嚴賢首品】（科註第三〇五頁倒數第四行）

八十華嚴之第十二品，文殊師利問，賢首以偈答說菩薩修行的無量殊勝功德，信願不虛，定慧圓滿成就等事。二卷，第十四至第

十五卷。

738. 【《占察經》】（科註第三〇五頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（經名）占察善惡業報經之略名，二卷，隋菩提燈譯。地藏菩薩說投木牌占吉凶善惡之法，兼示懺悔之法，次示一實境界二道之觀道事理具備。明智旭，著有占察經疏三卷，占察行法一卷。

《閱藏知津》「占察善惡業報經」條：隋外國沙門菩提燈譯。婆伽婆住耆闍崛山，示廣博嚴淨無礙道場，說甚深根聚法門。堅淨信菩薩，為末世眾生請問方便，佛令轉問地藏菩薩。地藏為示三種輪相，占察三世善惡業報，兼示懺悔之法，次示一實境界。二種觀道，及示善巧說法，安慰怯弱，離相

違過，此誠末世救病神丹，不可不急流通。  
jiàn 僭以今（音健。謙詞）述玄疏。及行法，以公同志。

739. 【四種作佛】（科註第三〇五頁倒數第三行）

《占察善惡業報經》：善男子。當知如上勤心修學無相禪者。不久能獲深大利益。漸次作佛。深大利益者。所謂得人堅信之位，成就信忍故。入堅法位，成就順忍故。入正真位，成就無生忍故。又成就信忍者，能作如來種性故。成就順忍者，能解如來行故。成就無生忍者，得如來業故。漸次作佛者。略說有四種。何等為四。

一者信滿法故作佛。所謂依種性地，決定信諸法不生不滅，清淨平等，無可願求故。二者解滿法故作佛。所謂依解行地，深解

法性，知如來業無造無作，於生死涅槃不起二想，心無所怖故。

三者證滿法故作佛。所謂依淨心地，以得無分別寂靜法智及不思議自然之業，無求想故。（淨心地：十地之初地。與「歡喜地」同。相對於地前解行住之未證淨心；已斷離煩惱上纏，證得清淨解脫之初地，稱為淨心地。出《佛光大辭典》）

四者一切功德行滿足故作佛。所謂依究竟菩薩地，能除一切諸障，無明夢盡故。（究竟菩薩，即等覺菩薩也。）

《佛光大辭典》「四滿成佛」條：又作四種成佛。成佛之過程及修證之長短，於大小乘各宗有現身成佛、見性成佛、三生成佛、即身成佛、往生成佛等各種異說，可總別為

頓、漸成佛兩類。四滿成佛乃占察善惡業報經卷下所說，即於漸次成佛中，可別為信、解、證、行四種。即：（一）信滿成佛，謂於「種性地」中，漸次信受諸法之不生不滅、清淨平等、無可願求而成佛。（二）解滿成佛，謂於「解行地」中，漸次悟解法性，了知如來之業無造無作，不起生死、涅槃二想，心無畏怖而成佛。（三）證滿成佛，謂於「淨心地」中，漸次得無分別心之寂靜法智與不可思議勝妙之功德，無所求想而成佛。（四）行滿成佛，謂於「究竟菩薩地」中，漸次除一切無明惑障，一切菩提之願行功德滿足而成佛。

740. 【灌頂住】（科註第三〇五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）十住之一。為十住位之最頂，故名。（參見「十住」1215）

741. 【《仁王經菩薩教化品》】（科註第三〇五頁倒數第二行）

鳩摩羅什大師所譯《仁王護國般若波羅蜜經》之第三品。

742. 【《入如來智德不思議經》】（科註第三〇五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「大方廣入如來智德不思議經」條：（經名）一卷，唐實叉難陀譯。與大方廣佛華嚴經修慈分同本先出。

《閱藏知津》「大方廣入如來智德不思議經」條：唐于闐國沙門實叉難陀譯。佛法林菩提光明宮殿，與比丘及剎塵數菩薩、不

可說八部俱。文殊菩薩興問，伏一切諸蓋菩薩演說如來不思議法。信者當得種種三昧，及陀羅尼。

743. 【《華嚴不思議品》】（科註第三〇六頁第一行）具名《佛不思議法品》。八十華嚴之第三十三品，卷四六至四七。

744. 【後得智】（科註第三〇六頁第二行）《三藏法數》：謂依止於心，緣於外境，種種分別，境智有異，如人開目，眾色顯現，以其於根本智後而得此智，是名後得智。

《佛學大辭典》：（術語）正冥符真如之智，離無分別之念故謂之無分別智，又曰根本智；後分別一切差別相之智，謂之分別

智，又云後得智。以是為根本智後所得之智也。又俗智，如量智等。佛陀起大悲救眾生者，此後得智也。

真諦譯攝大乘論釋十二曰：「根本智依非心非非心，後得智則依止心故。二智於境有異：根本智不取境以境智無異故，後得智取境以境智有異故；根本智不緣境如閉目，後得智緣境如開目。」同四曰：「如來本識永離一切解脫障及智障，此識或名無分別智，或名無分別後智。若於眾生起利益事一分名俗智，若緣一切無性起一分名真如智，此二合名應身。」

745. 【《四教儀》】（科註第三〇六頁倒數第四行）

此應為《四教義》。六卷，隋智顛<sup>ぎん</sup>（音

乙）著。（參見「《四教義》」1348）

746. 【<sup>ふ</sup>兜率天】（科註第三〇七頁第六行）

《佛學大辭典》：（界名）兜率，此翻知足，謂於五欲境知止足故。此天依空而居。人間四百年，為此天一晝夜。則人間十四萬四千年，方為此天一年。若此天壽四千歲，則該人間五十七億六百萬年矣。（按：可知此處以「千萬」為「億」。）

○兜率（節錄）：（界名）天名。舊作兜率、兜率陀、兜率<sup>たうそ</sup>哆（音多）、兜術等，新作都史多、睹史多、鬥瑟<sup>たうそ</sup>（音色）哆、珊睹史多等。譯曰上足、妙足、知足、喜足等。欲界之天處，在夜摩天與樂變化天之間，下當第四重，分天處內處之二，其內院

為彌勒菩薩之淨土，外院則天眾之欲樂處也。（中略）

佛地論五曰：「睹史多天。後身菩薩，於中教化，多修喜足，故名喜足。」

俱舍寶疏八曰：「睹史多，此云喜足。於五欲樂生喜足心故。舊云知足。」

瑜伽略纂二曰：「都史多，名知足，受樂知足故。」

法華經勸發品曰：「若有人受持讀誦，解其義趣。是人命終。〔中略〕即往兜率天上，彌勒菩薩所。」梵 Tūṣṭita。

747. 【普よ曜ら】（音藥）經說法門品】（科註第三〇七頁第八行）

《普曜經》之第二品。

748. 【後身菩薩】（科註第三〇七頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「最後身菩薩」條：（術語）又名最後生，最後有，或後身菩薩。即住於生死身最後之生之菩薩也。

俱舍論十八曰：「住最後有，名最後生。」又瑜伽論略纂十一曰：「最後身，謂已生欲界，即於此身成道。此身為生死身最後有，故名最後身。」是也。

749. 【因果經】（科註第三〇八頁第三行）

《閱藏知津》「過去現在因果經」條：四卷。劉宋中天竺沙門求那跋陀羅譯。說佛於過去普光佛所，得授記已，生生行菩薩道，乃至生兜率，示入胎，出胎，出家，降魔，

成道，轉法輪，度五比丘，三迦葉，舍利弗，目犍連，大迦葉等事，一一結示往因。中有與仙人論破冥諦非想事。

750. 【摩耶夫人】（科註第三〇八頁第三行）

《佛學大辭典》「摩訶摩耶」條（節錄）：

（人名）*Māyā-māyā*，譯曰大術，大幻。天臂城釋種善覺長者之長女，淨飯王之夫人，生悉多太子。七日而沒，生於忉利天。（中略）

眾許摩訶帝經二曰：「爾時酥鉢羅沒tuó 駝（音陀）王，忽於後時妃乃有娠懷。九月誕生

一女，顏貌端正，諸相具足，福德智慧，於其世間最為殊勝。如是眾人睹福相，俱言希有。應是毗首竭摩天（諸天中之巧匠）所作，或是幻化之所作。女生之後一日二日至

三七日，王為此女集諸戚里及群臣等慶賀為樂，即為立名名摩耶。其女身相而有八乳，相師占：此女後時當生貴子，紹灌頂王位。」

佛本行集經五曰：「迦毗羅相去不遠，復有一城，名曰天臂。彼天臂城有一釋種豪貴長者，名為善覺。大富多財，積諸珍寶。

〔中略〕彼釋長者生於八女：一名為意，二名無比意，三名大意，四名無邊意，五名ji 髻（音計）意，六名黑牛，七名瘦牛，八名摩訶

波闍bā 跋（音拔）提。〔中略〕即納二女為妃，其二女者第一名為意，及以第八名大慧者，自餘六女分與三弟。」為意即摩耶夫人也。

751. 【六牙白象】（科註第三〇八頁第三行）

《佛學大辭典》「白象」條（節錄）：象有大威力，而其性柔順，故菩薩自兜率天降下，或乘六牙之白象，或自化白象而入摩耶夫人之胎。

瑞應本起經上曰：「菩薩初下，化乘白象，貫日之精，因母晝寢，而示夢焉，從右脅入。」（中略）

宗輪論曰：「一切菩薩，入母胎時，作白象形。」同述記曰：「以象調順，性無傷暴有大威力如善住龍，故現此儀。意表菩薩性善柔和有大勢，師子王等雖有威力然多殺傷，故聖不現師子形。」

又象為普賢菩薩所乘。是表菩薩之大慈力也。

法華經普賢勸發品曰：「是人若行若立讀誦此經，我爾時乘六牙白象王，與大菩薩眾俱詣其所而自現身。」

普賢觀經曰：「六牙表六度，四足表四如意。」

止觀二曰：「言六牙白象者，是菩薩無漏六神通。牙有利用如通之捷疾，象有大力，表法身荷負，無漏無染，稱之為白。頭上有三人，一持金剛杵，一持金剛輪，一持如意珠，表三智居無漏頂。」

752. 【《釋迦譜》】（科註第三〇八頁第六行）

《佛學大辭典》：（書名）五卷，梁僧祐撰。從三藏中選集釋迦一代教化之履歷（分三十四目。兼引大小乘經律，以明化跡。）。

753. 【法服】（科註第三〇九頁第一行）

《佛學大辭典》：（雜名）又云法衣。三衣之總名也。三衣有法制，如法製者，名法服。

法華經序品曰：「剃除鬚髮而被法服。」世以袍裳袍服作法服者，非。

754. 【普曜經】（科註第三〇九頁第二行）

《佛學大辭典》：（經名）八卷，西晉竺法護譯。與方廣大莊嚴經同本。而品有開合。

○方廣大莊嚴經：（經名）十二卷，唐地婆訶羅譯。佛在祇洹，中夜入佛莊嚴三昧，放頂髻之光，照淨居天，淨居天子來問法，佛受其請，晨朝為眾宣說，有二十七品，說

佛住兜率天宮乃至降生成道轉法輪之八相。與普曜經同本，但品有開合。

755. 【結跏<sup>h-y</sup>跏<sup>h-y</sup>】（音加）<sub>h-y</sub>跏<sup>h-y</sup>跏<sup>h-y</sup>（音夫）坐】（科註第三〇九頁第二行）

《佛光大辭典》：梵語 *Nyaśīdat-paryāṇ* *kam abhujya*。坐法之一。又作結加跏坐、結跏跏坐、跏跏正坐、跏跏坐、加跏坐、跏坐、結坐。即交互二足，結跏安坐。白傘蓋大佛頂念誦法要之「勇健坐」，即同於此。諸坐法中，結跏跏坐最安穩而不易疲倦。又稱交一足為半跏跏坐、半跏坐、半跏、賢坐；稱交二足為全跏坐、本跏坐、全跏、大坐、蓮華坐。此為圓滿安坐之相，諸佛皆依此法而坐，故又稱如來坐、佛坐。

其坐法即雙膝彎曲，兩足掌向上之形式，可分為降魔、吉祥二種：一、先以右足壓左股，後以左足壓右股，二足掌仰於二股之上，手亦左手居上，稱為降魔坐。天台、禪宗等顯教諸宗多傳此坐。二、先以左足壓右股，後以右足壓左股，手亦右手壓左手，稱為吉祥坐。密宗亦稱之為蓮花坐。如來於菩提樹下成正覺時，身安吉祥之坐，手作降魔印。此多於密教中行之，蓋以右足表示佛界，左足表示眾生界。以右足壓左足，乃佛界攝取眾生界，眾生界歸佛界之意，即表示生佛不二之義。多用於修法中之增益法或息災法。〔金剛頂瑜伽中略出念誦經卷一、不空羅索經卷九、金剛頂瑜伽護摩儀軌、無量

壽如來修觀行供養儀軌、大智度論卷七、大乘起信論疏記卷六、敕修百丈清規卷五坐禪儀條、慧琳音義卷八、禪林象器箋禮則門〕

756. 【《法華壽量品》】（科註第三〇九頁第三行）

《妙法蓮華經》第十六品，具名《如來壽量品》。說釋迦如來既於久遠之昔成佛，其壽量無數無量不可思議，此稱為開跡顯本，（法華）一經中於此始開八相成道垂跡之化身，而顯久遠實成之本身也。

757. 【阿修羅】（科註第三〇九頁第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（異類）Asura，又作阿須羅。舊稱阿修羅，阿須倫，阿蘇羅，阿素羅。譯曰無端，容貌醜陋之義。又曰無酒，其果報無酒之義。新稱阿素洛。譯

曰非天。其果報勝似天而非天之義。為常與帝釋戰鬥之神。六道之一。八部眾之一。

名義集二曰：「阿修羅，舊翻無端正。男醜女端正，新翻非天。」（中略）

法華文句五曰：「阿修羅，此云無酒。四天下採華，醞於大海。魚龍業力，其味不變。瞋妒誓斷，故言無酒神。」

大乘義章八末曰：「阿修羅者，是外國語，此名劣天。又人相傳名不酒神。」

758. 【伽耶城】（科註第三〇九頁第四行）

《佛學大辭典》：（地名）西域記八曰：「渡尼連禪河至伽耶城，甚險固，少居人，唯婆羅門有千餘家，大仙人祚胤也。」

出城東南行，三里，大道坦坦，直至菩提

道場。

法華經涌出品曰：「如來為太子時，出於釋宮，去伽耶城不遠，坐於道場，得成阿耨多羅三藐三菩提。」

成菩提之地，通常稱為佛陀伽那 Buddha-gaya 之地也。城名與正覺道場皆呼伽耶。

《中國大百科全書》「菩提伽耶」條（節錄）：Buddha-gaya 古印度佛教遺址。傳為釋迦牟尼得道成佛處。又稱菩提道場、佛陀伽耶。在今印度比哈爾邦伽耶城南約十公里處。主要的建築物有高約五十米的大菩提寺，形如金字塔，底層為邊長各十五米的四方形，上部逐漸收縮，頂部為圓柱狀，上立一銅製螺旋形圓頂。寺塔第一層四角有四個

與主塔形制相仿，但規模較小的金字形塔及圓頂。寺東大門前有一石碑坊，大門兩旁則為佛龕，龕內及寺內大殿供有貼金佛像。寺的其餘三面有六十餘根高二米的石製圍欄柱，分別建於公元前五世紀與公元前二世紀。現在的石圍欄大多為複製品，真品已移至各博物館陳列。

759. 【魔羅】（科註第三一〇頁第二行）

《翻譯名義集》：大論云：秦言能奪命。死魔實能奪命，餘者能作奪命因緣，亦能奪智慧命，是故名殺者。又翻為障，能為修道作障礙故。或言惡者，多愛欲故。

垂裕云：能殺害出世善根。第六天上，別有魔羅所居天，他化天攝。

輔行云：古譯經論，魔字從石。自梁武來，謂魔能惱人，字宜從鬼。

760. 【天魔】（科註第三一〇頁第五行）

《佛學大辭典》：（天名）天子魔之略稱，四魔之一。第六天之魔王也。其名云波旬，有無量之眷屬，常障礙佛道者。

玄應音義二十三曰：「梵云魔羅，此譯云障，能為修道作障礙也。亦名殺者，常行放逸而自害身故，即第六天主也。名曰波旬，此云惡愛，即釋迦佛出世魔王名也。諸佛出世，魔各不同。如迦葉佛時魔名頭師，此云惡瞋等也。」

761. 【婆沙論】（科註第三一〇頁第五行）

《佛光大辭典》「阿毗達磨大毗婆沙論」

條（節錄）：梵名 *Abhidharmamahāvibhāṣā-sūtra*。凡二百卷。略稱大毗婆沙論、婆沙論、婆沙。唐玄奘譯。收於大正藏第二十七冊。本論乃注釋印度迦多衍尼子之阿毗達磨發智論，廣明法義，備列諸種異說。自公元一〇〇年至一五〇年間於北印度迦濕彌羅（梵 *Kaśmīra*，今克什米爾）編輯而作，為部派佛教教理之集大成者。相傳係貴霜王朝迦膩賦（音逆）色迦王與脅尊者（梵 *Pārśva*）招集五百阿羅漢，經十二年而成，即第四次之經典結集。本論之內容係收集諸論師對說一切有部佛教根本聖典發智論之注釋，與發智論同樣分雜、結、智、業、大種、根、定、見等八蘊（八章）。（中略）

異譯本為阿毗曇毗婆沙論，凡六十卷，相當於玄奘譯本卷一一以前之部分，為北涼浮陀跋跋（音拔）摩、道泰等合譯，世稱為舊婆沙，收於大正藏第二十八冊。二論皆為研究部派佛教之珍貴資料。「大智度論卷二、俱舍論光記卷二、大唐西域記卷二、卷三、出三藏記集卷十、大唐內典錄卷五」

762. 【初夜】（科註第三一〇頁第五行）

《佛光大辭典》：梵語 *Prathamā-yāma*，巴利語 *Paṭhama-yāma*。又作初更。指夜分之初，即今午後八時頃。係晝夜六時之一。

經典中常有此語，如過去現在因果經卷三（大三·六四一中）：「爾時，菩薩以慈悲力，〔中略〕即便入定思惟真諦，〔中略〕

而自念言：『一切眾生，無救濟者，輪迴五道，不知出津，皆悉虛偽，無有真實，而於其中，橫生苦樂。』作是思惟，至初夜盡。」

十住毗婆沙論卷十五大乘品（大二六・一〇四中）：「初夜、後夜隨時覺悟，觀緣取相，樂住空舍，貴於持戒。」皆為其例。

又藥石（晚飯）後之坐禪，稱為初夜坐禪，又作黃昏坐禪、夜坐。「太子瑞應本起經卷下、大乘阿毗達磨雜集論卷八、往生禮讚偈」

763. 【中夜】（科註第三一〇頁第六行）

《佛光大辭典》：梵語 *Madhyama-yāma*，巴利語 *Majjhima-yāma*。為六時之一。又作

夜半。即今午後十時至翌日（明天。翌，音易）午前二時之間。

764. 【維摩經】（科註第三一一頁第一行）

《佛光大辭典》（節錄）：梵名 *Vimalakīrti-nirdesa*。凡三卷，計十四品。姚秦鳩摩羅什譯。收於大正藏第十四冊。又稱維摩詰所說經、維摩詰經。本經旨在闡說維摩所證之不可思議解脫法門，故又稱不可思議解脫經。

本經之中心人物維摩居士為佛陀住世時印度毘舍離城長者；昔時佛陀在毘舍離城，五百長者之子往詣佛所，請佛為之說法。維摩稱病，欲令佛遣諸比丘菩薩問其病，藉此機會與佛派來問病之文殊師利等，反覆論說佛法，因成此經。（中略）

據歷代之經錄記載，維摩經之漢譯有七本，現存有三。除鳩摩羅什之譯本外，另

有：一、維摩詰經。凡二卷或三卷。三國時代，吳之支謙譯。又稱維摩詰所說不思議法門經、普人道門經、佛法普人道門經、佛法普人道門三昧經、維摩經。收於大正藏第十四冊。為現存最古之漢譯本。二、無垢稱經。凡六卷。唐代玄奘譯。又稱說無垢稱經。收於大正藏第十四冊。

765. 【長阿含經】（科註第三一一頁第五行）

《佛學大辭典》：（經名）四阿含經之一。二十二卷，姚秦佛陀耶舍與竺佛念共譯。

766. 【最正覺】（科註第三一一頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）最上至極之正覺。謂佛也。正覺者指契於真理之智慧。

無量壽經上曰：「得微妙法，成最正覺。」探玄記二曰：「正覺者，能覺之妙智，以菩薩亦有隨分正覺，然位未極不得稱最。今就至極名最正覺。」

華嚴大疏一曰：「開悟稱覺，離倒為正，至極為最。」

767. 【釋迦文佛】（科註第三一一頁倒數第一行）

即本師釋迦牟尼佛。

《翻譯名義集》「釋迦文」條：淨名疏云：天竺語，釋迦為能，文為儒，義名能儒。

大論云：釋迦文佛，先世作瓦師，名大光明。爾時有佛，名釋迦文，弟子名舍利弗、目伽連、阿難。佛與弟子，俱到瓦師舍一

宿。爾時瓦師，布施草座、燈明、石蜜漿，便發願言：我於當來作佛，如今佛名，弟子名字，亦如今佛。

優婆塞戒經云：我於釋迦最初發心，於迦葉佛滿三僧祇。須知三祇正滿，在於勝觀。今言迦葉，兼百劫故。大論云：初阿僧祇中，心不自知我當作佛、不作佛；二阿僧祇中，心雖能知我必作佛，而口不稱我當作佛；三阿僧祇中，了知得佛，口自發言，無所畏難，我於來世當得作佛。從過去釋迦文佛，到<sup>多</sup>剌（音辣）那尸棄佛，為初阿僧祇，是中菩薩，永離女人身。從剌那尸棄佛，至燃燈佛，為二阿僧祇，是時菩薩，七枝青蓮華，供養燃燈佛，敷鹿皮衣，布髮掩泥，便

授其記，汝當作佛，名釋迦牟尼。從燃燈佛，至毗婆尸，為三僧祇。過三僧祇，種三十二相業。

768. 【釋提桓<sup>huan ㄏㄨㄢˊ</sup>因<sup>yin ㄩㄣˊ</sup>】（科註第三二二頁第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（天名）又云釋迦提婆因提，釋迦因陀羅，釋迦羅因陀羅，迦<sup>shē ㄕㄛ</sup>賒（音奢）<sup>jié ㄐㄧㄝˊ</sup>羯（音結）羅因陀羅，釋迦提桓因陀羅，新云釋迦提婆因陀羅，釋迦提婆因達羅。梵音 *Sakra devānām Indra*，釋羅（「釋羅」疑作「釋迦」）為名，譯曰能，提婆譯曰天，因陀羅譯曰主，又曰帝，即能天主。住於須彌山頂上，忉利天（即三十三天）之主也。略稱釋帝與帝釋。舊音之釋提桓因者，釋之一字寫釋羅（「釋羅」疑作「釋迦」），

提桓之二字，寫提婆，因之一字寫因陀羅。

(中略)

觀音經義疏下曰：「帝釋是地居天主也，具云釋迦提桓因陀羅。釋迦言能，提桓只是提婆，提婆即是天，因陀羅名主，能作天主。」

法華玄贊二曰：「梵云釋迦提婆因達羅，釋迦姓也，此翻為能，提婆天也，因達羅帝也，正云能天帝。釋提桓因云天帝釋俱訛例也，此在妙高山頂住，三十三天之帝王，過去字 jiāo<sup>h1</sup> 嬌<sup>h1</sup> (音交) 尸迦，此云 xī<sup>lv</sup> 璽<sup>lv</sup> (音洗) 兒，名阿摩揭陀，此云無害毒。即摩揭陀國過去帝釋修因之處，用為國名，彼國古名致甘露處。」

769. 【鹿林】(科註第三一二頁第三行)

見「鹿野苑」382。

770. 【轉法輪】(科註第三一二頁第三行)

《佛學大辭典》：(術語)佛之教法，謂之法輪。說教法，謂之轉法輪。輪者，轉輪聖王之輪寶，有迴轉與碾摧之二義，迴轉四天下，碾摧諸怨敵。佛之教法，亦迴轉一切眾生界，摧破諸煩惱，故譬之曰法輪。輪者，譬說教法。轉自心之法，而移他之心，恰如轉車輪也。

止觀輔行一曰：「輪具二義：一者轉義，二摧破義。以四諦輪轉度與他摧破結惑，如王輪寶能壞能安。」

嘉祥法華義疏曰：「流圓演通，不繫於一

人，故稱為輪。無累不摧，亦是輪之義。」

法華經方便品曰：「恭敬合掌禮，請我轉法輪。」

法華文句五曰：「轉佛心中化他之法，度人他心，名轉法輪。」

771. 【護世四天王】（科註第三二二頁第三行）

《佛學大辭典》「四天王」條：（天名）

為帝釋之外將。須彌山之半腹有一山，名由犍陀羅。山有四頭，四王各居之，各護一天下，因之稱為護世四天王。其所居云四王天。是六欲天之第一，天處之最初也。稱為四天王天 Caturmahārājikāyikas，東持國天 Dhīrārāsira，南增長天 Virūdhaka，西廣目天 Virūpākṣa，北多聞天 Dhanada，又 Vāi

sramāṇa。

長阿含經曰：「東方天王，名多羅吒，領乾闥婆（音踏）婆及毘舍闍（音舌）神將，護弗婆提人。南方天王名毘琉璃，領鳩槃荼及毘薜（音必）荔神，護閻浮提人。西方天王名毘留（同「留」）博叉，領一切諸龍及富單那，護瞿（音具）耶尼人。北方天王名毗沙門，領夜叉羅刹將，護鬱（音玉）單越人。」

婆沙論謂四天王身長一拘盧舍（牛聲或鼓聲得聞之最大距離）四分之一。

止持會集音義四王天曰：「東方持國天王，謂能護持國土，故居須彌山黃金埵（音朵）。南方增長天王，謂能令他善根增

長，故居須彌山琉璃埵。西方廣目天王，謂以淨天眼常觀擁護此閻浮提，故居須彌山白銀埵。北方多聞天王，謂福德之名聞四方，故居須彌山水晶埵。」

772.【大自在天】（科註第三一二頁第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（天名）自在天外道之主神也。梵語摩醯醯<sup>Ṛṣi</sup>（音西）首羅訛略，正為摩醯濕伐涅 Mahesvara，譯言大自在。在色界之頂，為三千界之主。

此大自在天有二種：一曰毗舍闍摩醯首羅，一曰淨居摩醯首羅。毗舍闍為鬼類之名，摩醯首羅論師（二十種外道之一）之所祀，有二（疑作「三」）目八臂，乘白牛，住於色界。密教以之為大日如來之應現。彼又

言此自在天現種種之形，有種種之名。韋紐天，那羅延天等是也。（中略）

其次淨居摩醯首羅者，第十地之菩薩，將成佛時在色界之頂，淨居天之上，現大自在天子之勝報，以勝妙之天形，紹佛位，行灌頂。

入大乘論下曰：「淨治第十地，得無量無邊禁咒方術能令一切無礙自在作摩醯首羅天子，亦為一切世間依止。問曰：所言摩醯首羅者為同世間摩醯首羅，更有異耶？答曰：是淨居自在非世間自在。汝言摩醯首羅者，名字雖同而人非一，有淨居摩醯首羅，有毗舍闍摩醯首羅。其淨居者，如是菩薩鄰於佛地猶如羅穀（「穀」疑作「穀」。羅穀，疏細之絲

織品，喻菩薩之見佛性，如隔羅縠而見物。縠，音胡。障。「中略」如皇太子初受職時，以己業力故大寶蓮華自然化出，受一切種智位。

〔中略〕坐蓮華已，十方世界諸佛放大光明照。此菩薩受灌頂位如轉輪聖王長子受王位時。「中略」

（又）（界名）謂欲界六欲天中之第六他化自在天也。

法華經序品曰：「自在天子，大自在天子。」同文句二曰：「自在即第五，大自在即第六。」

773. 【法輪】（科註第三二二頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）佛之說法，能摧破眾生之惡，猶如輪王之輪寶，能輾摧山

岳巖石。故謂之法輪。又佛之說法，不停滯於一人一處。展轉傳人，如車輪然。故譬為法輪。

行宗記一上曰：「法輪者，摧業惑故。」

維摩經佛國品曰：「三轉法輪於大千，其輪本來常清淨。」

智度論八曰：「佛轉法輪，或名法輪，或名梵輪。」同二十五曰：「佛轉法輪，如轉輪聖王轉寶輪。〔中略〕轉輪聖王手轉寶輪，空中無礙。佛轉法輪，一切世間天及人中無礙無遮，其見寶輪者諸災惡害皆滅。遇佛法輪，一切邪見疑悔災害皆悉消滅。王以是輪治四天下，佛以法輪治一切世間天及人。」

嘉祥法華疏二曰：「無生正觀，體可楷模，故名為法。流演圓通不繫於一人，故稱為輪。又無生正觀無累不摧，亦是輪義。」

維摩經慧遠疏曰：「名四諦（苦諦、集諦、滅諦、道諦）以為法輪，從喻名之。如轉輪王所有輪寶能摧剛強，轉下眾生上昇虛空。四諦如是，能摧眾生惡不善法，轉下眾生上入聖道，故以為輪。」

774. 【轉輪聖王】（科註第三二二頁第五行）

《佛學大辭典》「轉輪王」條（節錄）：

（雜名）梵曰 zhuó 斫世文（音酌）迦羅代世文棘世文（音吉）

底曷羅闍 Cakravartī-raja，又作遮迦越羅，轉輪聖王，轉輪聖帝，轉輪王，輪王。此王身具三十二相，即位時，由天感得輪寶，轉其

輪寶，而降伏四方，故曰轉輪王。又飛行空中，故曰飛行皇帝。在增劫，人壽至二萬歲以上，則出世，在減劫，人壽自無量歲至八萬歲時乃出世。其輪寶有金銀銅鐵四種。如其次第領四三二一之大洲，即金輪王為四洲，銀輪王為東西南之三洲，銅輪王為東南之二洲，鐵輪王為南閩浮提之一洲也。

俱舍論十二曰：「從此洲人壽無量歲乃至八萬歲，有轉輪王生。減八萬時有情富樂壽量損減眾惡漸盛，非大人器，故無輪王。此王由輪旋轉應導，威伏一切，名轉輪王。施設足中說有四種，金銀銅鐵輪應別故，如其次第。勝上中下。逆次能王領一二三四洲。〔中略〕契經云：若王生在刹帝利種紹灑頂

位，於十五日受齋戒時，沐浴首身，受勝齋戒，升高台殿，臣僚輔佐。東方忽有金輪寶現，其輪千輻，具足gǔ轂ㄍㄨˇ（音古）wǎng輞ㄨㄤˇ（音往），眾相圓淨如巧匠成，舒妙光明來應王所，此王定是金轉輪王。餘轉輪王應知亦爾。」

智度論四曰：「問曰：轉輪聖王有三十二相，菩薩亦有三十二相，有何差別？答曰：菩薩相者有七事勝轉輪聖王。菩薩相者：一淨好，二分明，三不失處，四具足，五深入，六隨智慧行不隨世間，七隨遠離。轉輪聖王相不爾。」

775. 【輪寶】（科註第三二二頁第五行）

《佛學大辭典》：（物名）轉輪王感得之

寶器，王遊行之處，必自前進，而制伏四方者也。有金銀銅鐵四種，故分金輪王乃至鐵輪王之四等。

俱舍論十二曰：「此王由輪旋轉應導威伏一切，名轉輪王。〔中略〕若王生在刹帝利種紹灑頂位，於十五日受齋戒時，沐浴首身，受勝齋戒。升高台殿，臣僚輔翼。東方忽有金輪寶現，其輪千驅，具足gǔ轂ㄍㄨˇ（音古）wǎng輞ㄨㄤˇ（音往）眾相，圓淨如巧匠，舒妙光明，來應王所，此王定是金轉輪王。餘轉輪王應知亦爾。」

776. 【四天下】（科註第三二二頁第五行）

見「四大洲」961。

777. 【gǔ轂ㄍㄨˇ（音古）】（科註第三二二頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：車輪的中心部位，周圍與車輻的一端相接，中有圓孔，用以插軸。

778. 【車輻車】（音福）（科註第三二二頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：車輪中湊集於中心轂上的直木。（參見附錄第五四頁「舊式輪子圖」）

779. 【輻輞輻】（音往）（科註第三二二頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：車輪的外框。

780. 【塵說】（科註第三二三頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）以普賢之耳聞之，則至草木國土一微塵，悉常恒說無上之妙法。即十方虛空界一一塵中有刹有佛，常說華嚴經，謂之塵說刹說。

華嚴旨歸曰：「四遍塵道者：謂於十方虛空界中，一一塵處皆有佛刹，悉於其中演說

此經。」

781. 【刹說】（科註第三二三頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）謂草木國土說之說法也。華嚴經普賢行願品曰：「佛說眾生說，及以國土說，三世如是說。」

782. 【身見、邊見、邪見、見取、戒取】（科註第三二三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「五見」條：（名數）一、身見，即我見我所見也，不知吾身為五蘊和合之假者。而計度實有我身（我見），又不知我身邊之諸物，無一定之所有主，而計度實為我所有物（我所見），合此我見與我所見二者，則為身見。常略我所見而單曰我見。

二、邊見，一旦有我身起我見之後，其或計度為死後斷絕者，或計度為死後亦常住不滅者。是有二義：起於身見後邊之妄見，故名邊見（唯識）；偏於斷或常之一邊，故名邊見（俱舍）。

三、邪見，撥無因果之道理者。以為世無可招結果之原因，亦無由原因而生之結果，故惡不足恐，善亦不足好，如此謬見，乃邪之最邪者，故付以邪之名。

四、見取見，以劣知見為始，取其他種種之劣事，思為此最勝殊妙者。上之見字，雖指身見邊見等之見，然尚含其他種種之事物。

五、戒禁取見，由上之見取見，遂以非理

非過之戒禁為始，取其他種種之行法，以之為生天之因或涅槃之道者。此中有二種：持牛戒或雞戒等，以為生天之因，是曰非因計因之戒禁取見；修塗灰斷食等種種之苦行，以為涅槃之道，是曰非道計道之戒禁取見。

已上五見，為惡慧之一分，於見道一時不（「不」字疑當略去）斷之者。舊譯家稱之為五利使。見唯識論六，俱舍論十九。

783. 【十煩惱】（科註第三三三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：開六煩惱中惡見之一，而為身見、邊見、邪見、取見、戒禁取見之五見，則為十煩惱，與六煩惱開合之不同耳。（六煩惱，貪、瞋、癡、慢、疑、惡見。）

784. 【愛欲】（科註第三三四頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）愛者貪愛、親愛。欲者貪欲、樂欲。深愛妻子等之情也。

無量壽經下曰：「愛欲榮華，不可常保。」

785. 【**字苑**】（科註第三一四頁第五行）

《舊唐書·經籍志》：「《要用字苑》一卷，葛洪撰。」

786. 【**見愛**】（科註第三一四頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）我見邪見等一切迷理之惑，謂之見，貪欲瞋恚等一切迷事之惑謂之愛。見者一切之見惑，愛者一切之修惑見（「見」疑為贅字）（又云思惑）也。迷事之惑中，以愛著為苦之本，故標愛而該餘也。

法界次第上之上曰：「若論煩惱根本，不

出見愛。邪心觀理，名之為見。若於假實之理，情迷而倒想邪求。隨見偏理，妄執為實，通名為見。見煩惱者，謂五利使（身見等五見）。貪染之心，名之為愛。若於假實之事情迷隨心，所對一切事境，染著纏綿，通名為愛。愛煩惱者，謂五鈍使（貪瞋癡慢疑）。」

歸敬儀通真記上本曰：「見謂見惑八十八使，見所斷故，愛謂修惑，八十一品，修所斷故。」

787. 【**空慧**】（科註第三一四頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）觀空理之智慧。

嘉祥法華經疏二曰：「經論之中多說，慧

門鑒空，智門照有。」

安樂集上曰：「若依維摩經，不可思議解脫為宗。若依般若經，空慧為宗。」

瓔珞本業經下曰：「為過去未來現在一切眾生，開空慧道，入法明門。」

788. 【法城】（科註第三一四頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）正法能遮防非法，故名曰城，又涅槃之妙果，是安身之處，故名曰城，又名一切之經法以能守護正法故也。

無量壽經上曰：「嚴護法城。」同慧遠疏曰：「法能遮防，說之為城。」同嘉祥疏曰：「法城者，涅槃妙果，是安身處，故稱為城。說法令眾生修戒定慧以莊嚴之也。」

維摩經佛國品曰：「為護法城，受持正法。」同註：「什曰：法城者，即實相法也。復次，一切經法皆名法城。」

789. 【清白】（科註第三一四頁第八行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）佛所顯之法。又總名無漏之善法，皆離煩惱之垢染，故云清白。

無量壽經上曰：「清白之法，具足圓滿。」同慧遠疏曰：「所顯之法，出離邪謗，名為清白。」同嘉祥疏曰：「是無漏明，故云清白。」

790. 【智斷】（科註第三一四頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（術語）智德與斷德也。照了真理曰智德，斷盡煩惱曰斷德。即

菩提與涅槃也。

往生論註上曰：「論智則義無不達，語斷則習氣無餘，智斷具足，能利世間。」（參見「智斷」一德」903）

791. 【垢汙】（科註第三二四頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（譬喻）以身之垢譬心性之妄惑也。

無量壽經上曰：「洗濯垢汙<sup>x</sup>（音屋），顯明清白。」同經嘉祥疏曰：「垢汙者執相之惑，皆沾汙慧身。」

792. 【福田】（科註第三二六頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）田以生長為義，於應供養者供養之，則能受諸福報，猶如農夫播種於田畝，有秋收之利。故名福田。

田。

探玄記六曰：「生我福故名福田。」

無量壽經淨影疏曰：「生世福善如田生物，故名福田。」

○二福田（節錄）：一悲田，貧窮困苦之人也，是為可施與慈哀心之良田。二敬田，三寶也，是為可以恭敬心供養之良田。

○四福田：（名數）一趣田，畜生。二苦田，貧窮困苦之人也。三恩田，父母等也。四德田，三乘之賢聖也。見俱舍論十八。

○八福田：（名數）梵網經有八福田之目，諸師解釋不同。天台戒疏下曰：「八福田者：一佛、二聖人、三和尚（受戒本師）、四闍梨（受戒時教授威儀之阿闍梨）、五

僧、六父、七母、八病人。」（諸家多用之），此中佛與聖人及僧為敬田，和尚、闍梨、父母為恩田，病人為悲田，若人向此八種能恭敬供養，慈悲惠施，則皆能生無量之福果，故曰福田。

賢首之梵網經戒本疏三更舉三種之異說：

「八福田者，有人云：一造曠路美井、二水路橋梁、三平治險路、四孝事父母、五供養沙門、六供養病人、七救濟苦厄、八設無遮大會，未見出何聖教。有云：供養三寶為三、四父母、五師僧、六貧窮、七病人、八畜生，亦未見教。賢愚經云：施五人得福無量，一知法人、二遠行人、三遠去人、四饑餓人、五病人，是以三寶亦為八種。」

793. 【《菩薩本行經》】（科註第三一六頁第四行）

《閱藏知津》：三卷。附東晉錄。一說往昔精進之行以策懈怠，一為波斯匿王說檀度事，一授婆羅門辟支佛記，一授牧羊人辟支佛記，一舍利弗度師質大臣出家，被弟遣賊斷臂證果śū夙ふ（音速）世因緣。一婆多竭梨尊者自說夙因，一佛說往昔剎（音斃。挖削）身求法事，一為貧士須達說施田差別。一說如來降毒龍除國疫事，并說三千寶蓋夙因。一說讚佛有大功德，一度輔相婆羅門夫婦證果，并說其往因。共十一節。

794. 【《俱舍論》】（科註第三一六頁第五行）

《佛學大辭典》（節錄）：（書名）阿毗達磨俱舍論之略稱。世親作。唐玄奘譯。三十

卷。阿毗為對。達磨為法，俱舍為藏。六足、發智、婆沙等薩婆多部之諸論，名為對法論藏。

有攝持與所依之二義，第一義為此論攝持包含彼對法論中之勝義，故名此論曰對法藏。即對法之二字，屬於彼本論，藏之一字，屬於此論。第二義為彼本論乃此論之所依，故名為藏。即三字共為彼本論之名也。然則此論乃全以彼論為所依而造者。故亦全取彼之名為此論之名。在六釋中，全取他名之有財釋也。（有財釋，謂從他所有以得其名。梵語俱舍，華言藏，藏有含藏之義。以其含藏文義，猶如世之庫藏，能積聚財物，故名藏。將他名以顯己，是為有財釋。）

俱舍論一曰：「攝彼勝義依彼故，此立對法俱舍名。」

正理論一曰：「藏或所依，猶如刀藏。」

書中舉說有漏無漏之諸法。最末之一卷說無我。俱舍宗所依之論也。

795. 【三苦】（科註第三一六頁倒數第二行）

《三藏法數》：〔出析玄記〕

一、苦苦：謂有漏五陰之身，性常逼迫，名苦。又與苦受相應，即苦上加苦，故名苦苦。（五陰者，色陰、受陰、想陰、行陰、識陰也。）

二、壞苦：謂樂相壞時，苦相即至，名為壞苦。即樂極悲生是也。

三、行苦：行苦者，即有漏之法，四相遷

流，常不安隱故也。（四相者，生相、住相、異相、滅相也。）

《佛學大辭典》：（名數）一、苦苦，由苦事之成而生苦惱者。二、壞苦，由樂事之去而生苦惱者。三、行苦，行者遷流之義，由一切法之遷流無常而生苦惱者。欲界有三苦。色界有壞苦行苦。無色界有行苦。

無量壽經上曰：「以諸法藥救療三苦。」  
法華經信解品曰：「以三苦故，於生死中，受諸熱惱。」

796. 【三有】（科註第三二七頁第二行）

《三藏法數》：「出菩薩善戒經并大智度論」三有者，謂欲界、色界、無色界六道眾生，各隨所作善惡之業，即感善惡之報。因

果不亡，故名有。六道者，天道、人道、脩羅道、餓鬼道、畜生道、地獄道也。）  
一、欲有：謂欲界天、人、修羅、畜生、餓鬼、地獄，各各隨其業因而受果報，故名欲有。

二、色有：謂色界四禪諸天，由昔脩習有漏禪定，報生此天，雖離欲界（音粗）染（音粗）之身，而有清淨之色，故名色有。（四禪諸天者，初禪天、二禪天、三禪天、四禪天也。）

三、無色有：謂無色界四空諸天，由昔修習有漏禪定，報生此天，雖無色質為礙，而亦隨其所作之因，受其果報，故名無色有。（四空諸天者，空處天、識處天、無所有處

天、非非想處天也。」

《佛學大辭典》（節錄）：（名數）三界之異名也。生死之境界，有因有果謂之有。三有者，三界之生死也。一欲有，欲界之生死也；二色有，色界之生死也；三無色有，無色界之生死也。（中略）

遁麟記一曰：「言三有者，即三界之異名。」

797. 【灌頂】（科註第三二七頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語 Abhiṣecanī，天竺國王即位時，以四大海之水，灌於頂而表祝意。密教倣此世法，於其人加行成就，嗣阿舍闍（アセ音舌）梨位時，設壇而行灌頂之式。顯教雖說等覺菩薩於色界之魔（マ音醜）

西）首羅天由十方諸佛受灌頂而成佛之事，而無說於學人實行之之法則者。

大日經疏八曰：「如西方世人，受灌頂法時，取四大海水及境內一切河水，具置寶藥（マ音古）等，作境內地圖，令此童子踞師子座，以種種珍寶莊嚴，所統眷屬，隨其大小，列次陪奉。韋陀梵志師，坐於象寶，以臨其後，持此寶水，以注象牙，令墮其頂上。而後唱令，以告眾人。又歎說古先哲王治人濟代之法，如是隨順行者，當得壽命長遠，本枝繁盛，克紹轉輪之業。若不作如是事者，則當自退其位，（マ音允）身絕嗣。如是一一而教誨之。今此法王子灌頂，則不如是。陳列密嚴佛土法界大圖，坐於妙法蓮

華自在神通師子之座，以本性清淨智慧慈悲水具含萬德，而灌其心。爾時諸菩薩眾，下至八部眾生，莫不歡喜贊喜而生敬仰。時阿闍梨，以法王遺訓而教訓之：從此以後，當得生如來家，定紹佛位。若不如是對明，則不知正法尊法也。」同十五曰：「譬如世間刹利之種，謂欲紹其繼嗣，令王種不斷故，為其<sup>山</sup>嫡<sup>之</sup>（音笛）子，而作灌頂。取四大海水，以四寶瓶盛之。種種嚴飾，又嚴飾子身。眾物咸備，又飾大象，於象背上持瓶。令太子坐於壇中，所統畢集，於象牙上，水令流注太子之頂。灌此水已，本聲三唱：汝等當知，太子已受位竟。自今以後，所有教敕，皆當奉行。今如來法王，亦復如是。為

令佛種不斷故，以甘露法水，而灌佛子之頂，令佛種永不斷故，為順世法故。有此方便印持之法，從此以後，一切聖眾，咸所敬仰。亦知此人畢竟不退於無上菩提，定紹法王之位。諸有所作，真言身印，瑜伽等業，皆不敢違越也。」此就行人之初位而釋之。

秘藏記末曰：「灌頂義，灌者諸佛大悲，灌頂者上之義。菩薩初地乃至等覺，究竟遷佛果時，諸佛以大悲水灌頂，即自行圓滿，得證佛果，是頂義也。」此就後位而釋之。

表制集一曰：「灌謂灌持，明諸佛護念，頂謂頭頂，表大行尊高。」

秘藏記鈔七曰：「以水灌頂，是五種中甘露灌頂也。自餘四種無<sup>灑</sup>灑水義，雖無灑水

名灌頂，其故灌者大悲護念義。頂者佛果最頂義，諸佛護念，令至佛頂住。皆名灌頂也。」

798. 【結緣灌頂】（科註第三一七頁倒數第四行）

《佛光大辭典》：指為廣結佛緣而舉行之密教灌頂。又作投華三昧耶。乃三灌頂之一，五種三昧耶之第二。即不分是器非器、持戒破戒或無戒等，僅為結緣而引受者入灌頂壇，授一印一明（明，即真言），稱為結緣灌頂。其儀式頗簡單，即阿闍梨先以覆面（遮目之淨帛）覆蓋受者之面，授印明，執印之端引入壇中，越過香象而趣大壇，於印端插一花，投於壇上所鋪之「ヒテ敷」（音夫）曼ヒテ茶（音徒）羅」上，依其花所著之尊，而得

不同之佛。於是阿闍梨除去受者之覆面，受者視其得佛之所在，次唱得佛之尊號，三度以瓶水灌受者之頂，後授予其所得佛之一印一明。受者依佛之加持力，不墮三惡趣，滅除一切罪障，得無量功德。

唐玄宗天寶五年（七四六），不空三藏由師子國返還，未久，受詔入內，建壇為帝灌頂，為我國行此法之濫觴（濫觴，起源。觴，音商）。〔金剛頂經卷二、諸佛境界攝真實經卷一、不空ヒテ絹ヒテ（音眷）索神變真言經卷十五、金剛頂瑜伽中略出念誦經卷一、大日經疏卷四、宋高僧傳卷一〕

799. 【灌頂壇】（科註第三一七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（物名）又名密壇。行

灌頂聖式之壇場，梵謂之曼陀羅。壇者非唯築土之謂，且謂隨於其法布列諸尊以作圓滿之都會也。因此曼陀羅亦譯為輪圓具足。此法由金剛智始。

宋高僧傳一（金剛智傳）曰：「開元己未歲，達於廣府，敕迎就慈恩寺，尋移薦福寺，所住之刹，必建大曼拏羅灌頂道場，度於四眾。」

○灌頂壇授弟子道具：（雜名）灌頂前有楊枝，金剛線之二種，灌頂後有金<sub>文</sub>毘<sub>鉢</sub>（金毘，古印度治療眼疾之工具，用以象徵開啟被障蔽之智眼。毘，音批），明鏡，寶輪，法螺之四種。見大疏八，演奧鈔三十。

800. 【真言（二）】（科註第三二七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）梵語曼怛羅 Mantra。是如來三密之隨一語密也，總謂法身佛之說法。

假令經中有顯言，而其聲名句文以大日如來之秘密加持為體性，故總為真言秘密藏也。演密鈔一曰：「釋曰：密宗一一文言無非字門，秘密加持而為體性。雖有顯言，從宗體俱屬秘藏。」

別云陀羅尼。譯云總持。又云秘密號，密言，密語。又云咒明。（中略）

大日經疏一曰：「真言者，梵曰漫怛羅，即是真語如語不妄不異之音，龍樹釋論謂之秘密號。舊譯曰咒，非正翻也。」同義釋一曰：「真如語言，故名真言。」（中略）

顯教諸宗依印度古來相傳以為梵語係大梵天創造者。然密教就之立三重之秘密釋以解之。第一秘密釋大日如來說之，大日如來於色究竟天成道，始於此說阿字之言，後梵天降世說之，世人不知其本以為梵天創造也。第二秘密中之秘密阿字自說之。第三秘密中之秘密，真如理智自說之。

大日經供養疏下曰：「問：誰說阿字？

答：秘密釋毘盧遮那佛說本不生故，二秘中秘密釋阿字自說本不生故。秘中秘釋，本不生理自有理智自覺本不生故。」大日經一曰：「此真言相非一切諸佛所作，不令他作，亦不隨喜。何以故？是諸法法爾如是故。若諸如來出現，若諸如來不出現，諸法

法爾如是住，謂諸真言真言法爾故。」

801. 【受職灌頂】（科註第三一七頁倒數第三行）

《佛光大辭典》（節錄）：於密教，對學德俱佳之弟子，令其人（疑作「入」）傳法灌頂壇，以得阿闍黎位之灌頂。又作傳法灌頂、得阿闍黎位灌頂、傳教灌頂、授職灌頂。略稱受職。所授之法為普門大日之儀軌明法，及真言之最極奧祕。其作法為受者先修加行，再入灌頂道場，執花投於曼荼茶<sub>女</sub>（音徒）羅，若投中大日、彌陀等，即為其傳該法；阿闍黎以五智之瓶水灌其頂，予以相承之法具。是後，禮曼荼羅諸尊，禮畢，受者自坐阿闍黎之座，並結大日如來之印，自行覺悟已成大日如來。此乃密教最大修行之極位，

意為父母所生之身，得速證大覺位。

此外，稟受灌頂，稱人壇；人壇之人，稱灌頂受者；引導受者人道場，教授灌頂法則，並指揮威儀進退者，稱灌頂教授師；負責授與灌頂者，稱灌頂大阿闍黎。阿闍黎對受者之加持，稱受者加持；加持時所授之印契（俗稱手印。契，音氣），稱受者加持印；對受者供養雜花、塗香等六種供物，稱受者供養。「大日經疏卷十五」

802. 【秘法】（科註第三二七頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）有通別之二稱。通稱行於密教。護摩念誦之總名也，不顯露示人。故曰秘法。別稱分大法、准大法、秘法、通途法之四段，而第三段之別目

也。蘇悉地法，五秘密法等之傳法，許於灌頂已後者，總曰秘法。（護摩，指焚燒供物以供養聖尊。有內、外二種。出世間之護摩為內，世間外道之護摩為外。在出世間護摩中，觀心為內，事相為外。「內護摩」者，謂行者以觀想之智火燒除諸業煩惱。因僅於心中觀想，不行事作法，故名內護摩。又因僅觀理法，故又稱「理護摩」。所謂「外護摩」，則指擇地造壇，焚燒乳木、五穀等物，以淨滌行者三業，成就息災、增益等事業。因在行外行事作法，故又名「外護摩」、「事護摩」。）

803. 【瓶灌】（科註第三二七頁倒數第一行）

《藏傳佛教辭典》「寶瓶灌頂」條：內外續部共同傳授的成熟灌頂。在彩粉、繪畫的壇場之中，加授水和冠冕等事物於弟子身

上，使身門諸垢清淨，有權修習生起次第之道，於身心中留植證得果位身金剛化身緣分的一種無上密乘灌頂。

《中華佛教百科全書》「四級灌頂」條（節錄）：瓶灌頂：略稱瓶灌，又稱初灌。這是為破除弟子的凡夫庸凡下劣心，令他生起「我即是佛」的佛慢而行的灌頂。其行法是持瓶、冠、杵、鈴等物為弟子灌頂，並授予法名。分別稱為寶瓶灌頂、寶冠灌頂、金剛杵灌頂、鈴灌頂、名灌頂。這五種灌頂皆初灌所攝，分別代表五方五佛。灌頂後，認可弟子為五方五佛所護念，並能在修道現起我即五方五佛的佛慢。

804. 【生起次第】（科註第三二七頁倒數第一行）

藏傳佛教無上瑜伽部禪定修持法之一。

《佛教大辭典》：「生起次第」是為求淨治四生（胎、卵、濕、化）習氣，解脫凡庸所見、所聞、所知三者之縛，現見本尊、真言、智慧（身、語、意）之本性而修習的瑜伽。即用觀想的方法，轉變凡夫執著，進入智慧壇場之中，把自身觀想為本尊，自己與本尊身、語、意、功德、事業無二無別（*Bdag-yind*，自入），生起種子字，行者對面虛空中圓滿生起壇場，引智尊入於一切，並行供贊（*Mdun-bskyed*，對生）；所處環境現為本尊所住之壇城，成為淨土；生起「佛慢」（*Nga-rgyal*，自豪，假名「傲慢」），打破耽著，斷生死輪迴根本，成就報、化身之

因，亦即把蘊、界、處和合的粗身，逐漸轉為細身的一種方便。總之，是修本尊三身。

805. 【氣脈】（科註第三一八頁第一行）

《中華佛教百科全書》「三脈七輪」條（節錄）：印度瑜伽術與西藏密教用語。指人體內的三條氣脈通道與七個氣脈中心點。印度軍荼利瑜伽術認為人體中，氣所流行的通道稱為脈，而諸脈中最重要的是中脈和左脈、右脈，合稱三脈。在中脈裡又有七個重要的中心點，稱為輪，分別為海底輪、生殖輪、臍輪、心輪、喉輪、眉間輪、頂輪。西藏密教擷取軍荼利瑜伽術的修練法，並加入佛教內涵，而以之為重要法門之一，稱為拙火定（Kundalini，軍荼利，意譯即拙火），

故藏密亦有三脈七輪之說。

806. 【明點】（科註第三一八頁第一行）

《佛教大辭典》：梵文 *Bidhu*，藏文 *Tri-gi*。印度瑜伽及藏密無上瑜伽所說，體內脈道中生命能量的凝聚點及水液。依大幻化網導引法，可分為三類：離戲明點、錯亂明點、物明點。

離戲明點：謂無法以概念表述、以意識分別認識的明點。

錯亂明點：又分為不壞明點、咒明點、風明點三種。不壞明點為人生命及心識之本，終身不壞，稟自父精母血，為意識底層的心識之本「阿賴耶識」與命根氣的結合，住於中脈中，亦稱真水，真水隨人心理活動的變

化，在中脈內上下移動；咒明點指修金剛誦時，於身中脈內觀想的明點；風明點指修寶瓶氣等時，觀想氣上騰下降，凝結為明點。

物明點分清濁二分，淨分稟自父母，住於心間，濁分則為物質性的精、血、月經、尿、汗等。（金剛誦、寶瓶氣，均為藏密無上瑜伽修煉氣、脈、明點的重要方法。）

807. 【大手印】（科註第三一八頁第一行）

《藏傳佛教辭典》：為藏傳佛教噶舉派的最高修法。主要是把修中觀而證得的空性見和依密教的方便道而引生的大樂二者結合而修，即得現證三身的一種法門。

舊密所說究竟果位或殊勝成就，極無變異之樂，與第一剎那所得印證此樂之一切種

色，無虧無盈，體性如初，乃至虛空未盡，常往常靜，斯之謂印；斷、證、心德三大具備，斯之謂大，故大手印。

808. 【經軌】（科註第三一八頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）密部之經典與儀軌。

809. 【刹利】（科註第三一八頁第四行）

《三藏法數》「刹帝利」條：梵語刹帝利，華言田主。為世間大地之主，即王種也。

《佛學大辭典》「刹帝利」條：（術語）Kṣatriya，又曰刹利。印度四姓之第二。譯言田主。王種也。

西域記二曰：「二曰刹帝利，王種也。舊曰刹利，略也。」

註維摩經二：「肇曰：刹利，王種也，秦言田主。」

智度論三十二曰：「刹利者，王及大臣也。」（參見「四姓」條）

810. 【《秘藏記》】（科註第三一八頁第八行）

《佛光大辭典》「秘藏記」條：略本一卷，廣本二卷。收於大正藏第八十六冊。相傳係日僧空海由其師惠果阿闍梨之口說而筆記者，其著作年代不詳。內容為有關密教口訣（口傳書），約有一百條目，係解說密教事相（行法）、教相（教理）之雜錄。

811. 【阿闍梨<sup>アチヤ</sup>（音舌黎）】（科註第三一九頁第六行）

《佛學大辭典》「阿闍梨」條：（術語）*Ācārya*，舊稱阿闍梨，阿祇利。譯曰教授。

新稱阿遮利夜，阿遮梨耶。譯曰軌範正行。可矯正弟子行為，為其軌則師範高僧之敬稱。

玄應音義十五曰：「阿闍梨，經中或作阿祇利，皆訛也。應言阿遮利夜，此云正行，又言阿遮梨耶，此云軌範。舊云：於善法中，教授令知，名阿闍梨也。」

南海寄歸傳三曰：「阿遮利耶，譯為軌範師，是能教弟子法式之義，先云阿闍梨，訛也。」

案阿闍梨又譯悅眾。

《佛學常見辭彙》「阿闍梨」條：華譯為教授、軌範師、悅眾等，即矯正弟子們行為的比丘。四分律說有五種的阿闍梨，即出

家、受戒、教授、受經、依止等。

812. 【真言阿闍梨】（科註第三一九頁第八行）

《佛學大辭典》「真言阿闍梨」條：（術語）阿闍梨之名，本通於一般之教師，後乃局於真言傳授秘法之職位稱號。

大日經疏三曰：「若於此曼荼茶<sup>マニヂヤ</sup>（音徒）羅種種支分，乃至一切諸尊，真言手印，觀行悉地（悉地，成就之意），皆悉進達，得傳法灌頂，是名阿闍梨。」

813. 【傳法灌頂】（科註第三一九頁第八行）

《佛學大辭典》：（修法）二種灌頂之第二、五種灌頂之第四。又曰受職灌頂。受大阿闍<sup>アケリ</sup>（音舌）梨職，上傳授密法於人之位之灌頂也。依此灌頂受大日如來之職，自身為

傳法之阿闍梨也。故具曰傳法阿闍梨位灌頂。（參見「受職灌頂」801）

814. 【三密相應】（科註第三二〇頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）眾生身語意之三密與法身佛之三密相應，融和而無隔歷，父母所生之肉身，即為佛身也。

815. 【如來三密】（科註第三二〇頁第二行）

《佛學大辭典》「三密」條（節錄）：如來三密者，身語意之三業，本來平等，身等於語，語等於意，皆徧法界，謂為法佛平等之三密。然則一切之形色為身密，一切之音聲為語密，一切之理為意密也。而謂之為密者，非秘隱於人之謂，乃以此等之義為法佛自證之境，無凡人之分，故謂之密，又吾等

於一切平等，雖本來具之，然以惑染隱秘之，故謂之密也。

816. 【即身成佛】（科註第三二〇頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）真言宗所談。

謂此肉身可成佛也。

菩提心論曰：「惟真言法中，即身成佛故，是故三摩地，於諸教中闕而不書。」又曰：「若人求佛慧，通達菩提心。父母所生身，速證大覺位。」

《天台教學辭典》（節錄）：又云現身成

佛、現生成佛。即發菩提心起，不須經過三大阿僧祇劫等，長時修行即可成佛，亦即以現在身即可成佛之意。大乘佛教認為心、佛、眾生三無差別，其本性悉為真如，故說

其自體並無迷與悟、凡夫與聖者之別。體悟理具體以現實之身顯現，稱為即身成佛。據「法華經」卷四提婆達多品龍女八歲以現身成佛，聞此之眾生，必至不退轉位，佛亦為彼等授記別。

817. 【一際】（科註第三二一頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）彼此二邊無分別也。

智度論十九曰：「涅槃際，世間際，一際無有異故。」

宗鏡錄二十二曰：「法報雖分，真化一際。」

818. 【普門示現】（科註第三二一頁倒數第二行）

《天台教學辭典》：佛菩薩神通自在，示

現種種身，開無量法門，使眾生得證圓通。

「法華經」普門品詳說觀世音菩薩之化導，觀音大士以三十三相為其普門示現之妙用。

「摩訶止觀」卷一之五：若人應以佛身得度者，即示以八相成道；應以九法界身得度者，則以普門示現而顯示感應十界，以現身攝化為旨趣。此普門示現相當於十普門中「入法門普」。「往生論註卷下、大日經疏卷六」

819. 【權實二德】（科註第三三二頁倒數第四行）

《三藏法數》「權實」條：權即權巧，權智也；實即真實，實智也。

今觀世音隨自意，以實智照之眾生，即得冥益。

普門隨他意，以權智照之眾生，即得顯益。

如是冥顯獲益不同者，蓋由二智之力，權巧無方，赴機允當，不失其宜。故以權實次冥顯而明之也。（權、實二智者，權即一切智、道種智；實即一切種智也。）

《佛學大辭典》「權實二智」條：（名數）諸法既有權實之二法，達於其權法之差別，為如來之權智，達於其實相之一理，為如來之實智。開三顯一之如來善巧者，權智之妙用，故本經（法華經）方便品讚嘆二智中，獨置重權智也。

玄義三上曰：「前來二十種智，不出權實二智。如經如來方便知見，波羅蜜皆悉具

足，即總束前來諸權智也。如來知見廣大深遠，即是總束前來實智也。」同三下曰：「對二諦境明智者，權實二智也。」同二上曰：「佛法不出權實，是法甚深妙，難見難可了。」

一切眾生類，無能知佛者，即實智妙也。及佛諸餘法亦無能測者，即佛權智妙也。」

820. 【法性】（科註第三三三頁第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）又名實

相真如，法界，涅槃等，異名同體也。性之為言體也，不改也，真如為萬法之體，在染在淨在有情數在非情數，其性不改不變，故曰法性。此法性小乘多不言之，大乘諸家則盛論之。其論有四家之不同。

第一法相慈恩家，言法性為三性中之圓成

實性，是依地起性，一切有為萬法之所依也，為法所依之本體，故名法性，此萬法與法性，有為無為，畢竟隔別，以不許法性隨緣之義也。

第二三論嘉祥家，不許彼圓成實性之實有，以真空為法性，法性即真空之異名也。諸法之性為真空，真空即妙有，妙有之性即真空，是即法性也。

第三華嚴賢首家，謂真如有不變隨緣之二義，以隨緣之義，變造一切諸法，雖變造，而猶保真如不變，例如水變為波，猶不變水之性也。如是真如隨緣變造萬法，故稱真如曰法性。然此法性之真如，淳善無垢，更無染分之性，但所變之法有染淨之別者，由緣

有染淨也。

第四天台智者家，謂法性固具染淨，謂之性善性惡，因性具善惡，而生染淨之諸法也。

《佛學常見辭彙》：諸法的本體、本性。這種諸法的本性，在有情方面，叫做「佛性」，在無情方面，叫做「法性」。法性也就是實相、真如、法界、涅槃的別名。

821. 【法界（二）】（科註第三三三頁第四行）

《佛學次第統編》：法界即名達磨馱都，此云法界，又曰法性，亦曰實相。法界之義有多種，以二義釋之，一就事，二約理。

就事而言，法者諸法也，界者分界也。諸法各有自體，而分界不同，故名法界。然則法界者，法之一一名為法界，總該萬有，亦

謂之一法界，即事法界也。

約理而言，指真如之理性，而謂之法界。或謂之真如、法性、實相，實際，其體一也。界者因之義，依之而生諸聖道，故名法界。又界者性之義，是為諸法所依之性故。又諸法同一性故，名為法界，是即理法界也。

822. 【起信論義記】（科註第三三三頁第五行）

《佛學大辭典》：（書名）（又稱大乘起信論疏、起信論義記、藏疏、賢首疏）七卷，附別記一卷，唐釋法藏撰。據清楊文會言：藏內賢首疏五卷，圭峰刪削頗多，人皆病其割裂。近年求得古逸內典於日本，內有起信論義記，仍不免為日本僧徒割裂之病。求之數年復獲藏公原文，讎校再三，重加排定，併

刊別記，以成完璧。日本南條文雄與余友善，此記賴以得之。云云。（本書之注疏本甚多，較重要者有宗密之起信論疏四卷、湛睿之教理鈔十九卷、慧澄之講義三卷、鳳潭之起信論幻虎錄五卷、普戒之要決三卷等。）

823. 【唯識述記】（科註第三三三頁第六行）

《佛學大辭典》：（書名）具名成唯識論述記。二十卷，唐慈恩（窺基）大師著。解成唯識論。

824. 【有情數】（科註第三三三頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）非有情數之對。謂攝於有情之類者。毘婆沙論十三於有執受之有情數（有感覺之有情數），無執受之有情數（無感覺之有情如化人），外舉有情數

大種因，非有情數大種因，婆沙論百三十八，由品類足，識身足之二者，解有執受，以有情數與有根及異熟生之三語為同義。

825. 【無情數】（科註第三三三頁第八行）

《佛光大辭典》「非有情數」條：梵語 *asattvādkhyā*，或 *Asattva-sankhyā*。指有情及化人之外山川草木等一切非有情之數。又作無情數。為「有情數」之對稱。大毗婆沙論卷一七二載有關於地獄之獄卒，一說屬於有情數，一說屬於非有情數。屬於非有情數，乃由於諸罪者之業增上力，令非有情似有情而顯現，以諸苦具來殘害罪者之身。故獄卒雖似有情，而實可攝於非有情數。〔大毗婆沙論卷十三、俱舍論卷五〕

826. 【嘉祥法華疏】（科註第三三三頁倒數第四行）

即《法華義疏》。（參見「《法華義疏》」849）

827. 【止觀】（科註第三三三頁倒數第四行）

《中華佛教百科全書》「摩訶止觀」條（節錄）：十卷（或二十卷）。隋·智顗說，灌頂記。又稱《天台摩訶止觀》。收在《大正藏》第四十六冊。是天台宗詳述圓頓止觀法門的主要著述，為天台三大部之一。即天台宗開祖智顗大師，於隋文帝開皇十四年（五九四）四月二十六日起，在荊州玉泉寺，一夏九旬間朝暮二時講出，弟子章安灌頂筆錄成書。原來題名《圓頓止觀》，後來改稱《摩訶止觀》，前後有三本，現行本是第二本（通稱廣本）的再治本。

《摩訶止觀》全書分作序分、正說分兩部份：序分是記錄者灌頂略說本書的緣起，正說分是智顗講說圓頓止觀法門的記錄。略說緣起中，先敘述本書的說主、說時、說處及其概況，次敘述關於圓頓止觀法門的師資傳承，其中又分作金口、今師兩種。金口相承指遠從佛世尊經過迦葉、阿難、商那和修乃至馬鳴、龍樹、提婆等脈脈相傳，到第二十世師子遇害而法統絕。今師相承是指北齊時代（五五〇—五七七）的慧文禪師，依龍樹《大智度論》及《中論》的偈文，悟入空、假、中三諦圓融之理，由此構成一心三觀的禪法。後來把這個法門傳授南岳慧思，慧思把它和《法華經》相結合而構成他的實

相論，雙弘定慧二門。智顛師事慧思，傳受漸次、不定、圓頓三種止觀，其中《摩訶止觀》便是發揮他自己的觀行體系，顯示圓頓止觀法門的深旨，行解雙運，最為精要。

828. 【如理智】（科註第三三四頁第二行）

《三藏法數》：謂諸佛菩薩以如實之智，徹見實際之理，妙極寂靜，無增無減，是名如理智。

《佛學大辭典》：（術語）契（音氣）於諸法真理之真智也。（參見「根本智」830）

829. 【如量智】（科註第三三四頁第三行）

《三藏法數》：謂諸佛菩薩究竟通達一切境界，若見眾生乖於理智，則成生死；若見眾生稱於理智，則得涅槃；是名如量智。

《佛學大辭典》：（術語）通於諸法事相之俗智也。

830. 【根本智】（科註第三三四頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）又作如理智，無分別智、正智、真智等。根本智之名，對於後得智而言。正冥符於真理，而無能緣所緣之差別，一念之真智也。此智為生一切法樂，出一切功德大悲之根本，故曰根本智。

唯識論十曰：「根本無分別智，親證二空所顯真理，無境相故，能斷隨眠（煩惱的種子，隨逐眾生，眠伏於阿賴耶識中，故曰隨眠）。」

三藏法數五曰：「根本智亦名無分別智，謂此智不依於心，不緣外境，了一切境，皆即真如，境智無異。如人閉目外無分別，由

此無分別智能生種種分別，是名根本智。」

831. 【差別智】（科註第三三四頁第四行）

《佛學大辭典》「分別智」條：（術語）

分別有為事相之智也，在佛為後得之權智，在凡夫為虛妄之計度。離此虛妄之計度與真理冥符，是曰無分別智，即佛之根本實智也。（參見「後得智」）

832. 【供養雲】（科註第三三四頁倒數第三行）

《佛光大辭典》：又作供養雲海。有三

義：

一、比喻加持一供養物，即為加持無量之供養物。

二、比喻供物之數量無限，多如雲海。大日經疏卷一（大三九·五九〇中）：「現種

種身語意，興種種供養雲；以無盡大願，廣修諸度。」

三、謂諸菩薩興起種種雲，如一切摩尼寶花雲、一切蓮花妙香雲等，以供養如來，稱為供養雲。「八十華嚴經卷五世主妙嚴品、大日經供養法疏卷下」

833. 【朕<sup>zhèn</sup>朕<sup>zhèn</sup>迹】（科註第三三五頁第八行）

《漢語大詞典》「朕蹟」條：徵兆；痕

跡。

834. 【纏縛】（科註第三三六頁倒數第三行）

《佛學常見辭彙》：是指一切的煩惱，因煩惱能纏縛眾生於三界六道之中。

《佛學大辭典》：（術語）十纏四縛也，又一切之煩惱，纏縛有情而繫於三界之獄

者。無量壽經上曰：「解諸纏縛。」同淨願疏曰：「纏謂十纏，縛謂四縛，亦可一切諸煩惱結通名纏縛。」

835. 【八纏】（科註第三二六頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（名數）八種之根本煩惱也。纏，為纏縛之義，指煩惱而言。八種者，無慚、無愧、嫉、慳、悔、眠、掉舉、昏沈是也。（參見「十纏」837）

836. 【三縛】（科註第三二六頁倒數第二行）

《三藏法數》：〔出華嚴孔目〕

一、貪縛：引取之心，名為貪。謂眾生於五塵可意之境，貪染生著，起諸惑業，因被纏繫，不得解脫，故名貪縛。（五塵者，色塵、聲塵、香塵、味塵、觸塵也。）

二、瞋縛：忿怒之心，名為瞋。謂眾生於五塵違意之境，忿怒生瞋，起諸惑業，因被纏縛，不得解脫，故名瞋縛。

三、癡縛：迷惑之心，名為癡。謂眾生於一切事理之法，無所明了，妄生邪見，起諸邪行，纏綿不息，故名癡縛。

837. 【十纏】（科註第三二六頁倒數第二行）

《三藏法數》：〔出翻譯名義〕纏者，縛

也。謂一切眾生，被此十法纏縛，不能出離生死之苦，證得涅槃之樂也。（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

一、無慚：慚即慚天。謂人於屏處作諸過惡，不自慚恥也。

二、無愧：愧即愧人。謂於人所見處為諸

過非，不知羞愧也。

三、嫉：嫉者，妒也。謂見他人榮富，心生妒忌也。

四、慳：qiān<sup>ㄑㄩㄢ</sup>慳（音謙）者，吝也。謂人於世間貲財及出世間法財，不肯惠施也。

五、悔：悔者，恨也。謂所作之過，蒂（音帝）芥胸臆（胸臆，即內心），不能自安也。（蒂芥者，謂刺鞭（即梗塞）也。）

六、睡眠：睡眠者，謂人昏懵不惺，常樂睡眠，無所省察也。

七、掉舉：掉舉者，搖動也。謂心念動搖，不能攝伏，於諸禪觀無由成就也。

八、昏沉：昏沉者，昏鈍沉墜也。謂神識昏鈍，懵然無知，不加精進之功，遂致沉墜

苦海也。

九、瞋忿：瞋忿者，恚怒也。謂人於違情之境，不順己意，便發恚怒，而忘失正念也。

十、覆：覆者，藏也。謂隱藏所作過惡，惟恐人知，不能悔過而遷善也。

838. 【四縛】（科註第三二六頁倒數第二行）

《三藏法數》：〔亦名四結，出鞞婆沙論〕縛者，束縛也，又連續也。謂眾生由欲愛等業束縛，流轉生死，連續不斷，故名四縛。

一、欲愛身縛：謂欲界眾生，於五欲順情等境，心生貪愛，起諸惑業，束縛於身，不得解脫，故名欲愛身縛。（五欲者，色欲、聲欲、香欲、味欲、觸欲也。）

二、瞋恚身縛：謂欲界眾生，於五欲違情等境，心生瞋恚，起諸惑業，束縛於身，不得解脫，故名瞋恚身縛。

三、戒盜身縛：戒盜亦名戒取。本非是戒，強以為戒，名為戒盜。又取以進行，復名戒取。如外道諸戒是也。由此邪戒，增長惑業，束縛於身，不得解脫，故名戒盜身縛。

四、我見身縛：我見，即見取也。謂於非涅槃法中，妄自分別，以為涅槃，生心取著，名為見取。由此我見，增長惑業，束縛於身，不得解脫，故名我見身縛。（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

《佛學大辭典》（節錄）：一欲縛，欲界諸

惑中除無明與見惑者。二有縛，二界（色界與無色界）一切惑中除無明與見惑者。三無明縛，三界之無明也。四見縛，三界之惡見也。見大經淨影疏。

839. 【四諦】（科註第三二七頁第八行）

《佛學大辭典》（節錄）：（名數）又云四聖諦，四真諦。聖者所見之真理也。梵語 *Cattvāri - āryasatyāni*，[利語 *Cattvāri - ariyasa* *ccāni*。

一苦諦 *Duḥkha - āryasatyā*，三界六趣之苦報也。是為迷之果。

二集諦 *Samudya - āryasatyā*，貪瞋等煩惱，及善惡之諸業也。此二者能集起三界六趣之苦報，故名集諦。

三滅諦 Nirodha-āryasatya，涅槃也。涅槃滅惑業而離生死之苦，真空寂滅，故名滅。是為悟之果。

四道諦 Mārga-āryasatya，八正道也，此能通於涅槃故名道。是為悟之因。其中前二者流轉之因果也，故又曰世間因果。後二者還滅之因果也，又曰出世間因果。此四者皆云諦者，言其真理實為至極也。而二者皆先果後因者，果易見，因難知，故先示苦果令其厭，然後使斷其因，又舉涅槃之妙果使樂之，然後使修其道，是乃誘引最劣小機之善巧也。佛起菩提樹下至鹿野苑，為五比丘始說此法。是為佛轉法輪之初。依之而修道證滅者，稱為聲聞人。（中略）

止持會集音義曰：「苦諦者，苦以痛惱為義。一切有為心、行，常為無常患累之所逼惱，故名為苦。大論云：無量眾生有三種身苦：老病死。三種心苦：貪瞋癡。三種後世苦：地獄餓鬼畜生。總而言之有三苦八苦等，皆三界生死之患。諦審生死實是苦者，故名苦諦也。三苦，謂苦苦壞苦行苦，八苦可知。」

集諦者，集以招聚為義。若心與結業相應，未來定能招聚生死之苦，故名為集。審一切煩惱惑業於未來，實能招集三界生死苦果，故名集諦也。

盡諦者，亦名滅諦。滅即寂滅，滅以滅無為義。結業既盡，則無生死之患累，故名為

滅。以諸煩惱結使滅故，三界業亦滅。若三界業煩惱滅者，即是滅諦有餘涅槃。因滅故果滅，捨此報身時，後世苦果，永不相續，名人無餘涅槃。諦審涅槃實為寂滅，故名滅諦也。

道諦者，道以能通為義。正道及助道，是二相扶，能至涅槃，故名為道諦。審此二道相扶，實能通至涅槃不虛，故名道諦也。正道者，實觀三十七品三解脫門緣理慧行名為正道。助道者，得解觀中種種諸對治法及諸禪定，是名助道。」（參見「四諦十六行相」<sup>[2158]</sup>）

840. 【分段生死】（科註第三二七頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）二種生死之一，為輪迴六道凡身之生死也。輪迴六道之

身，各隨其業因而壽命有分限，形體有段別，故曰分段。

大乘義章八本曰：「言分段者，六道果報，三世分異，名為分段。分段之法，始起為生，終謝為死。」

勝鬘<sup>mán</sup>鬘<sup>mán</sup>（音瞞）寶窟中末曰：「分段生死者，謂色形區別，壽期長短也。」

唯識了義燈六末曰：「言分段者：分謂齊限，即謂命根。段謂差別，即五蘊<sup>yùn</sup>（音運）體。捨此受餘有差別故，〔中略〕皆隨因緣有定齊限，故名分段。」

841. 【辟支佛】（科註第三二七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「辟支迦佛陀」條：（術語）Pratyekabuddha，略曰辟支，辟支迦佛，

辟支佛。又作鉢羅翳迦佛陀。舊譯緣覺。新譯獨覺。智度論二名俱存。蓋辟支佛具此二義也。

初發心時值佛，而思惟世間之法，後得道，身出無佛世，性好寂靜，加行滿而無師友之教，自然獨悟，故名獨覺。又觀待內外之緣（內（疑作外）為飛花落葉外（疑作內）為十二因緣）而悟聖果。故名緣覺。

但天台一家之義，以之為別種，無佛世之悟道為獨覺，於佛世觀十二因緣而得道為緣覺。

智度論十八曰：「辟支佛有二種：一名獨覺，二名因緣覺。」同七十五曰：「辟支佛地者，先世種辟支佛道因緣，今世得少因緣

出家，亦觀深因緣法成道，名辟支佛。辟支迦秦言因緣。」

大乘義章十四曰：「辟支胡語，此方翻譯名因緣覺。藉現事緣而得覺悟，不假他教，名因緣覺。又於十二因緣法中而得覺悟，亦名緣覺。」

法華玄贊二曰：「辟支迦佛陀者，此云獨覺，略云辟支佛。」

瑜伽倫記八曰：「獨覺地，若依梵語名鉢羅翳迦佛陀，舊云辟支訛也。此云獨覺，初發心時亦值佛。〔中略〕修加行滿，無師友教，自然獨悟。」

有辟支佛因緣論二卷。說八辟支佛出家悟道之相。

842. 【十二因緣】（科註第三二七頁倒數第二行）

《三藏法數》：「[出天台四教儀] 謂無明等展轉感果名因，互相由藉為緣，三世相續，無間斷也。（三世相續無間斷者，謂由過去世無明、行為因，感現在世識乃至受，五者為果；由現在果，起愛、取、有三者，為現在因；由現在因，感未來世生、老死之果，如是循環，無間斷也。）

一、無明：謂過去世煩惱之惑，覆於本性，無所明了，故曰無明。

二、行：謂過去世，身口造作一切善不善業，是名為行。

三、識：謂由過去惑業相牽，致令此識，投托母胎，一剎那間，染愛為種，納想成

胎，是名為識。（梵語剎那，華言一念。）

四、名色：名即是心，謂心但有名而無形質也；色即色質，即是身也。謂從託胎已後，至第五箇七日，名形位，生諸根形，四支差別，是名為色。（四支者，即兩手兩足也。）

五、六人：謂從名色已後，至第六箇七日，名髮毛爪齒位，第七七日，名具根位，六根開張，有人六塵之用，是名六人。（六根者，眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根也。六塵者，色塵、聲塵、香塵、味塵、觸塵、法塵也。）

六、觸：謂出胎已後，至三四歲時，六根雖觸對六塵，未能了知生苦樂想，是名為

觸。

七、受：謂從五六歲至十二三歲時，因六塵觸對，六根即能納受前境好惡等事，雖能了別，然未能起淫貪之心，是名為受。

八、愛：謂從十四五歲至十八九歲時，貪於種種勝妙資具及姪欲等境，然猶未能廣遍追求，是名為愛。

九、取：謂從二十歲後，貪欲轉盛，於五塵境，四方馳求，是名為取。（五塵者，色塵、聲塵、香塵、味塵、觸塵也。）

十、有：謂因馳求諸境，起善惡業，積集牽引，當生三有之果，是名為有。（因果不亡為有，三有者，欲有、色有、無色有，即三界也。）

十一、生：謂從現世善惡之業，後世還於六道四生中受生，是名為生。（六道者，天道、人道、修羅道、餓鬼道、畜生道、地獄道也。四生者，胎生、卵生、濕生、化生也。）

十二、老死：謂從來世受生已後，五陰之身，熟已還壞，是名老死。（五陰者，色陰、受陰、想陰、行陰、識陰也。）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語） *Dvādaś* *aiḡapratīyasamutpāda*，新作十二緣起，舊作十二因緣，又單名因緣觀，支佛觀。是為辟支佛之觀門。說眾生涉三世而輪迴六道之次第緣起也。一、無明 *Avidyā*，二、行 *Sam* *skāra*，三、識 *Vijñāna*，四、名色 *Nāmarūpa*，

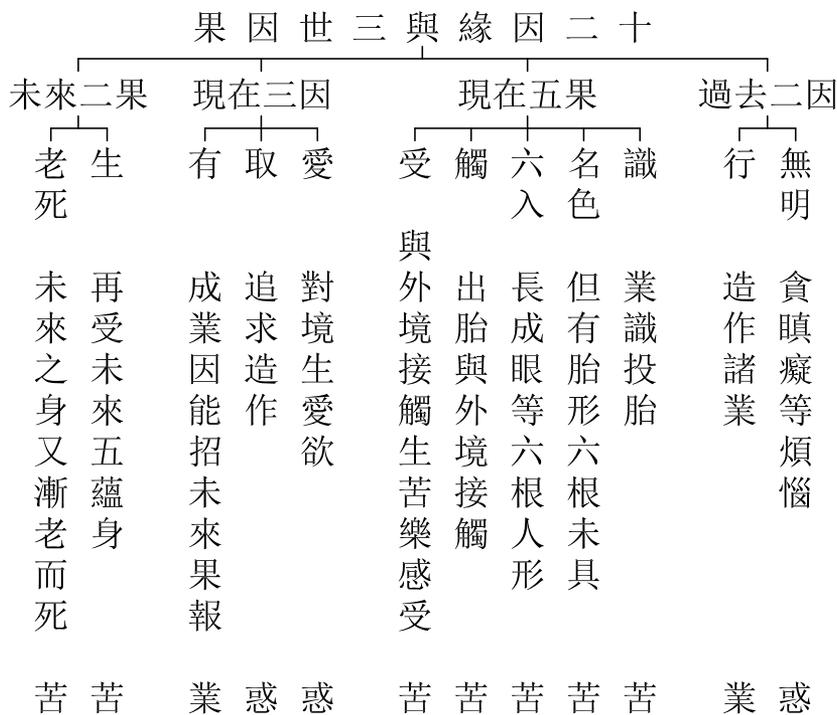
五、六處(即六入)Sadāyatana，六、觸Sparsa，七、受Vedanā，八、愛Tisṇā，九、取Upādāna，十、有Bhava，十一、生Jai，十二、老死Jarāmaraṇa。

其中無明與行二者，即惑業之二，屬過去世之因，識、名色、六處、觸、受五者屬緣於過去惑業之因而受之現在果，是過現一重之因果也。

又愛取二者為現在之惑，有則為現在之業也，緣於此惑業現在之因而感未來之生與老死之果，是現未一重之因果也。此為三世兩重之因果。依此兩重之因果，而知輪迴之無極。

蓋既見現在之惑(愛取)、業(有)，由現

在之苦果(識乃至受)而生，則知過去之惑(無明)、業行亦從過去之苦果而生，既見現在之苦果(識乃至受)生現在之業(有)，則亦知未來之苦果(生老死)，生未來之業。上溯之，則過去之惑業，更從過去之苦果而來，下趁之則未來之苦果更生未來之惑業，過去無始，未來無終，此為無始無終之生死輪迴。



辟支佛觀之，一以厭生死，一以知無常實之我體，遂斷惑業而證涅槃也。其中分別因與緣，則行與有之二支是因，無明與愛取之三支是緣。餘七支總是果，但果為還起惑業因緣之緣。故攝之於緣中，不別存果名，是曰因緣觀。

843. 【緣覺】（科註第三一八頁第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）梵語 Pratyekabuddha，舊稱辟支佛。又曰辟支迦羅。新稱鉢刺翳伽佛陀。舊譯曰緣覺。新譯曰獨覺。緣覺者：一，觀十二因緣之理而斷惑證理，一，因飛花落葉之外緣而自覺悟無常，斷惑證理。獨覺者，彼於無佛之世，宿因所萌，或觀十二因緣，或觀飛花落葉，而

獨自覺悟也。

大乘義章十七末曰：「言緣覺者，外國正音，名辟支佛，此翻辟支。名曰因緣，佛名為覺。緣覺名義，解有兩種：一約所觀法門以釋。緣者是其十二緣法，始從無明，乃至老死。觀斯悟解，從緣得覺，故號緣覺。二就得道因緣以釋。如辟支佛得道因緣經中廣說，如拂迦沙見風動樹，而得悟道。如是等皆藉現事緣，而得覺悟，曰緣覺。」

瑜伽倫記八上曰：「獨覺地，若依梵語，名鉢刺<sub>ṛ</sub>翳<sub>ṣ</sub>（音易）迦陀。舊云辟支，訛也。此云獨覺。初發心時，亦值佛世，聞法思惟。後得道身出無佛世，性樂寂靜，不欲雜居，修加行滿，無師友教，自然獨悟，永出

世間，中行中果，故名獨覺。或觀待緣，而悟聖果，亦名緣覺。」

玄贊五曰：「樂獨善寂者，是獨覺義。出無佛世，得能證道，獨自善證寂滅理故。又以此慧，深知諸法因緣者，是緣覺義。故瑜伽云：或觀待緣而證聖果，故名緣覺。觀十二緣起而證果故。」

然天台一家區分此二者，出於佛世，觀十二因緣而得悟者，為緣覺。出於無佛世，觀飛花落葉之外緣而成道者，為獨覺。

四教儀三曰：「辟支迦羅，是天竺之言，此土翻為緣覺。此人宿世福德，神根勝利，學十二因緣以悟道也。大智度論云：緣覺有二種：一獨覺，二因緣覺。一明獨覺辟支迦

羅者。若佛不出世，佛法已滅。是人先世因緣，能獨出智慧，不從他聞，自以智慧得道故，名獨覺。〔中略〕二明因緣覺者。因聞十二因緣覺悟，成辟支佛也。」

輔行九之三曰：「大論二十一云：迦羅此翻因緣覺，亦云獨覺。出值佛世，聞因緣法，名為緣覺。出無佛世，自然得悟，名為獨覺。」

844. 【獨覺】（科註第三一八頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）又曰緣覺。即辟支。常樂寂靜，獨自修行，修行功成，於無佛之世，自己覺悟而離生死者，謂之獨覺。此有麟角喻、部行二種：獨身無伴侶，如麟一角，為前者；有伴侶而同一獨悟，為

部行。出於無佛世，不藉佛之教法，則一也。是不依佛之聲教，故勝於聲聞，自脫生死而止，不能兼濟他，故不及佛。即大中小三乘之中乘也。

俱舍論十二曰：「言獨覺者，謂現身中離稟至教，唯自悟道，以能自調不調他故。」又曰：「諸獨覺有二種殊：一者部行，二者麟角喻。部行獨覺先是聲聞，得勝果時轉為獨勝。〔中略〕由本事中說，一山處總有五百苦行外仙，有一彌（音迷）猴曾與獨覺相近而住，見彼威儀，展轉遊行至外仙，現先所見獨覺威儀，諸仙睹之咸生敬慕，須臾皆證獨覺菩提。〔中略〕麟角喻者，謂必獨居。」

845. 【三空門】（科註第三二八頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）三解脫門之異

名。安樂集下曰：「yàn晏一（音驗。安定）安暫

時則坐三空門，遊則入八正之路。」（參見

「空無相無願」848）

846. 【偏空】（科註第三二八頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）謂小乘所談之

空理。以其偏於空之一邊也。

847. 【《大寶積經·善德天子會》】（科註第三二

八頁第四行）

《大寶積經》之第三十五會，卷一〇一。

848. 【空無相無願】（科註第三二八頁倒數第二行）

《三藏法數》「三解脫門」條：「出法界

次第」解脫，即自在之義也。門，即能通之

義。謂由此三解脫門，則能通至涅槃，故名三解脫門。（梵語涅槃，華言滅度。）

一、空解脫門：謂觀一切法，皆從因緣和合而生，自性本空，無我、我所，若能如是通達，則於諸法而得自在，故名空解脫門。

（我者，眾生於五陰身中，強立主宰，名之為我。我所者，眾生妄執五陰之身及男女、資生等物，皆名我所。五陰者，色陰、受陰、想陰、行陰、識陰也。）

二、無相解脫門：謂既知一切法空，故觀男女、一異等相，實不可得；若能如是通達諸法無相，即得自在，故名無相解脫門。

三、無作解脫門：無作，又云無願。謂若知一切法無相，則於三界無所願求；若無願

求，則不造作生死之業；若無生死之業，即無果報之苦而得自在，故名無作解脫門。

（三界者，欲界、色界、無色界也。）

《佛學大辭典》「三三昧」條（節錄）：

（術語）是為舊稱，新稱云三三摩地，譯曰三定，三等持，就能修之行而名之。仁王經謂之三空，此就所觀之理而名之。十地論謂之三治，此就所斷之障而名之。此三昧有有漏、無漏二種：有漏定謂之三三昧，無漏定謂之三解脫門。解脫即涅槃，無漏為能入涅槃之門也。猶如有漏曰八背捨，無漏曰八解脫也。三三昧之義：

一、空三昧，與苦諦之空、無我二行相相應之三昧也。觀諸法為因緣生，無我無我所

有。空此我我所二者，故名為空三昧。

二、無相三昧，是與滅諦之滅、靜、妙、離四行相相應之三昧也。涅槃離色聲香味觸五法，男女二相，及三有為相（除住相。即生、異、滅三相）之十相，故名為無相。以無相為緣，故名為無相三昧。

三、無願三昧，舊云無作三昧，又云無起三昧。是與苦諦之苦、無常二行相，集諦之因、集、生、緣四行相相應之三昧也。苦諦之苦、無常及集諦可厭惡，又道諦之道、如、行、出四行相如船筏之必捨，故總不願樂之，故以之為緣，謂之無願三昧。又於諸法無所願樂，則無所造作，故謂為無，名為無起。但苦諦之空、無我二行相與涅槃之相

相似，非可厭捨，故無願三昧中，不取之也。（參見「四諦十六行相」2158）

849. 【法華義疏】（科註第三三〇頁第三行）

《天台教學辭典》：十二卷。隋代吉藏大師著。又稱「法華經義疏」、「法華經疏」、「妙法蓮華經義疏」。收在大正藏第三十四冊。本書係以三論宗之立場注釋「法華經」。吉藏大師為三論宗之集大成者，亦常講「大智度論」、「法華經」等，且引用多數經律論疏加以注釋。

全書立部類不同、品次差別、科經分齊等三義，概說「法華經」大要，次解釋序品以下二十八品之文義。其中，部類不同者：明示諸經部類凡七例，而以此二十八品本為具

足本。品次差別者：其下更開立生起次第、明具義多少、論品前后、明品有無、別釋序品等五義。科經分齊者：列舉各種有關分科之異說及己見。

其次解釋二十八品，卷一至卷六乃解釋序品以下三品，第七卷釋信解品，第八卷釋藥草喻品以下三品，第九卷釋五百弟子授記品以下六品，第十卷釋安樂行品以下六品，第十一卷釋隨喜功德品以下六品，第十二卷釋所餘五品。而其中獨缺普門品重說偈？

本疏義解懇切，援引頗多。雖基三論，但仍給「法華經」甚高評價，為研究法華不可或缺之文獻。〔新編諸宗教藏總錄卷一〕

850. 【善巧】（科註第三三〇頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）善良巧妙之方便也。

佛地論七曰：「稱順機宜，故名善巧。」

文句二曰：「顯善權曲折，明觀行精微。」

文句私記三末曰：「舊譯以方便並為善權，若唐三藏翻為善巧。」

851. 【智度】（科註第三三〇頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）六度之一。般

若波羅蜜 Prajñāpāramitā 也。般若譯曰智，

波羅蜜譯曰度，習修實智之行法也。

維摩經佛國品曰：「善於智度，通達方便。」

852. 【四教儀集註】（科註第三三〇頁第八行）

《天台教學辭典》「天台四教儀集註」

條：三卷，元代蒙潤大師撰。略稱「四教儀集註」。本書依據山家派正義，詳釋天台四教儀，釋義精密，繁簡得當，為初學之捷徑！註疏頗多，還有「天台四教儀集註科文」一卷。清代性權大師之註「彙補輔宏記」二十卷等。「大明三藏聖教北藏目錄卷四、佛典疏鈔目錄卷下·卅續藏第五七冊」

853. 【三車】（科註第三三〇頁倒數第四行）

《三藏法數》：「出法華經」三車者，車

即運載之義。喻三乘之人，各以所乘之法，

運出三界，而至涅槃也。（三乘者，菩薩

乘、緣覺乘、聲聞乘也。三界者，欲界、色

界、無色界也。梵語涅槃，華言滅度。）

一、羊車：羊車者，以羊挽車，故名羊

車。喻聲聞之人，修四諦行，求出三界，但欲自度，不顧他人。如羊之奔逸，竟不回顧後群，故以羊車喻之。經云：如彼諸子，為求羊車，出於火宅。是也。（四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。）

二、鹿車：鹿車者，以鹿挽車，故名鹿車。喻緣覺之人，修十二因緣行，求出三界，而略有為他之心，如鹿之馳走，即能回顧後群，故以鹿車喻之。經云：如彼諸子，為求鹿車，出於火宅。是也。（十二因緣者，一無明、二行、三識、四名色、五六入、六觸、七受、八愛、九取、十有、十一生、十二老死。）

三、牛車：牛車者，以牛挽車，故名牛

車。喻三藏教菩薩之人，修六度行，但欲度人出於三界，而不求自出，如牛之荷負，安耐一切普運，故以牛車喻之。經云：如彼諸子，為求牛車，出於火宅。是也。（三藏者，經藏、律藏、論藏也。六度者，一布施、二持戒、三忍辱、四精進、五禪定、六智慧也。）

854. 【《法華譬喻品》】（科註第三三〇頁倒數第三行）  
《妙法蓮華經》之第三品，出第二卷。說火宅之喻。

855. 【方便力】（科註第三三〇頁倒數第二行）  
《佛學大辭典》：（術語）方便之力用也。

856. 【ツ磧（音氣）砂藏】（科註第三三一頁第五行）  
《佛光大辭典》「中文大藏經」條（節

錄）：磧砂藏：又稱延聖院版、延聖寺版。磧砂，又作磧沙。即南宋理宗時，由趙安國、法音等發起，於平江府（江蘇吳縣）磧砂延聖院開雕之私版大藏經。本藏刊刻年月有記題可考者，乃自南宋理宗紹定四年（一二三一，一說端平元年頃）迄元英宗至治二年（一三二二）止。一說在寶慶初年創刊，由蘇州磧砂延聖院大藏經局主辦。

全藏計五九一函，六三六二卷，一五三二部，一面六行，一行十七字，為梵夾本。磧砂藏之內容遠比前思溪藏和預定目錄（端平元年雕造有「平江府磧砂延聖禪院新雕大藏經律論等目錄」二卷）為多，其完成乃在元藏之後，故其後刊部分有依據元藏處。其版

式全部沿用思溪藏之系統，宋刻部分係依前思溪版，元代追雕者乃做普寧寺版。

民國二十年（一九三一）於陝西西安之開元、臥龍兩寺發現本藏，尚存十分之八，影印五百部。其後，山西太原之崇善寺大殿亦發現此全藏。其間，為影印磧砂藏而於全國各地廣求缺本時，曾在山西廣勝寺發現久已失傳之「金藏」，成為當時佛教界盛傳之大事。臺灣印行之中華大藏經第一輯，即以磧砂藏為主。「平江府磧砂延聖院新雕大藏經律論等目錄卷上端平元年之識語、磧砂藏大宗地玄文本論卷三管主八之刊記、中國大藏經翻譯刻印史（道安）、中國大藏經雕刻史話（道安）」

857. 【高麗藏】（科註第三三一頁第五行）

《佛光大辭典》「中文大藏經」條（節錄）：高麗藏：朝鮮高麗王朝所開版之大藏經。又稱高麗本、麗本、鮮本、麗藏。分為：

一、初雕版，相傳係高麗顯宗二年（一〇一一）為抵禦契丹來襲，因而發願開版者。以宋代蜀版藏經為底本，另加入貞元錄所收各本，完成於文宗末年（一〇八二），經版藏於符仁寺，然未久燬於蒙古兵火。全藏共五七〇函，五一二四卷，每行十四字，卷子本（將佛經以卷軸裝訂，捲成一束，如手卷之狀），稱為國前本；至後世另有國後本之開版。今藏於日本京都南禪寺之大藏經中即見

其一部分。

二、宣宗七年（一〇九〇），義天自宋請來章疏典籍三千餘卷，另收集契丹、日本等經典，編纂編諸宗教藏總錄，於興王寺開版，刊行四千餘卷，每行二十字（或二十一字），卷子本，稱為高麗續藏本。後燬於高宗十九年（一二三二）之蒙古兵火，僅餘大涅槃經疏卷十之殘本，藏於松廣寺。

三、再雕版，即八萬大藏經，又稱海印寺版。高麗高宗二十三年至三十八年為防禦蒙古入侵，乃再度開版。以蜀版、契丹版及高麗藏初刻本對校勘正。依大藏目錄三卷，計雕印六二八函，一五二四部，六五五八卷，另附有目錄。若依緣山三大藏目錄，雕印六

三九函，一五二一部，六五八九卷（內二卷缺）。其後又經補續，共計六八〇五卷。其版式為一行十四字，一面十二行之方冊，以校正嚴密著稱。版木共計八一二四〇片，藏於韓國慶尚南道伽倻山海印寺，至今仍常取出付印，為麗藏中最精之版本，亦即今所傳之麗本藏經。日本增上寺藏此本，為縮刷藏經、大正藏經之底本。

四、高麗契（音氣）丹藏仿刻本，文宗十三年（一〇六三）開雕，係仿宋契丹本刊刻者，完成年代已不可考，凡五七九帙，餘不詳。「佛祖歷代通載卷十九、高麗史卷十、卷二十三、卷四十六、朝鮮佛教通史卷上、中國大藏經翻譯刻印史（道安）」

858. 【涅槃】（科註第三三一頁第六行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）Nirvāṇa，又作泥曰，泥洹，泥畔，涅槃那等。舊譯諸師，譯為滅，滅度，寂滅，不生，無為，安樂，解脫等。新譯曰波利ni曠ṅ（音逆）縛喃 Parnivāṇa。譯為圓寂。滅者，滅生死因果之義也。滅度者，滅生死之因果，渡生死之瀑流也。是滅即度也。寂滅者，寂有無為空寂安穩之義，滅者生死之大患滅也。不生者，生死之苦果不再生也。無為者，無惑業因緣之造作也。安樂者，安穩快樂也。解脫者，離眾果也。此中單譯滅為正翻。他皆為義翻。（中略）

大乘義章十八曰：「外國涅槃，此翻為

滅。滅煩惱故，滅生死故，名之為滅。離眾相故，大寂靜故，名之為滅。」

涅槃經四曰：「滅諸煩惱，名為涅槃。離諸有者，乃為涅槃。」

圓覺經曰：「以因緣俱滅，故心相皆盡，名得涅槃。」

賢首心經略疏曰：「涅槃，此云圓寂。謂德無不備稱圓，障無不盡名寂。」

俱舍論二十四曰：「通達言唯自見道，是證圓寂初加行故。」

唯識述記一本曰：「西域梵音云波利暹縛喃。波利者，圓也。暹縛喃，言寂。即是圓滿體寂滅義。舊云涅槃，音訛略也。今或順古亦云涅槃。」

華嚴大疏五十二曰：「譯名涅槃，正名為滅。取其義類，乃有多方。總以義翻稱為圓寂。以義充法界，德備塵沙曰圓。體窮真性，妙絕相累為寂。」

859. 【滅度】（科註第三三一頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語 Nirvāna，巴 Nibbana 之譯，有有餘無餘之二，故皆指命終證果。

無量壽經上曰：「國中天人不住定聚，必至滅度者，不取正覺。」

法華經序品曰：「佛此夜滅度如薪火滅。」  
遺教經曰：「世尊滅度，一何疾哉。」

涅槃經二十九曰：「滅生死故，名為滅度。」

肇論曰：「滅度者，言其大患永滅，超度四流。」

行願品鈔四曰：「言涅槃者，具云般涅槃那，古譯為人滅息。息即是滅故，但云人滅，或云滅度，即滅障度苦也。」

《佛學常見辭彙》：即涅槃。滅是滅盡見思、塵沙、無明三種惑，度是度脫分段、變易兩種生死。

860. 【賢首心經略疏】（科註第三三一頁第七行）  
賢首（法藏）大師所著之《般若波羅蜜多心經略疏》。（參見「《香象心經疏》」202）

861. 【五欲（一）】（科註第三三一頁倒數第二行）  
《三藏法數》：「出華嚴經隨疏演義鈔」  
一、財欲：財即世間一切貨財（財物也）。

貨，通「資」也。謂人以財物為養己之資，故至貪求，戀著不捨，是為財欲。

二、色欲：色即世間青黃赤白及男女等色也。謂人以色悅情適意，故至貪求戀著，不能出離三界，是為色欲。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

三、飲食欲：飲食即世間肴膳眾味也。謂人必假飲食資身活命，故至貪求樂著無厭，是為飲食欲。

四、名欲：名即世間之聲名也。謂人因聲名能顯親榮己，故至貪求樂著，而不知止，是為名欲。

五、睡眠欲：睡眠即情識昏昧而睡眠也。謂人之睡眠，亦有時節，若怠惰放縱，樂著

無厭，是為睡眠欲。

862. 【妄見】（科註第三三一頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）虛妄不實之分別也。我見邊見等是也。

南本涅槃經八曰：「為除世間諸妄見故。」  
俱舍論九曰：「一切妄見皆轉倒攝。」

大乘義章三曰：「唯心妄見，故說為妄。」

863. 【jiāo 憍hú】（音交）恣】（科註第三三一頁倒數第一行）

《漢語大詞典》：驕傲放縱。

864. 【《法華藥王品》】（科註第三三二頁第三行）

《妙法蓮華經》第二十三品，具名《藥王菩薩本事品》。說藥王菩薩往昔為供養法華燒身燃臂之本事因緣。

865. 【靈山一會】（科註第三三二頁第三行）

《三藏法數》「一會」條：「《出法華要義》一會者，謂如來於靈山會上，與諸大眾說法華經之時也。隋天台智者大師，於光州大蘇山修法華三昧，誦法華經，至藥王菩薩品中，是真精進是名真法供養如來之句，身心豁然，寂而入定。徹見靈山一會，儼然未散是也。（梵語三昧，華言正定。）」

866. 【三摩地】（科註第三三二頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）Samādhi，舊稱三昧、三摩提、三摩帝、三摩底；新稱三摩地、三昧地；譯曰定、等持、正定、一境性。心念定止故云定，離掉舉故云等，心不散亂故云持。

867. 【三昧】（科註第三三二頁第七行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）梵音

Samādhi，舊稱三昧，三摩提，三摩帝。譯言

定，正受，調直定，正心行處，息慮凝心。

心定於一處而不動，故曰定。正受所觀之法，故曰受。調心之暴，直心之曲，定心之散，故曰調直定。正心之行動，使合於法之依處，故曰正心行處。息止緣慮，凝結心念，故曰息慮凝心。

智度論五曰：「善心一處住不動，是名三昧。」同二十八曰：「一切禪定，亦名定，亦名三昧。」同二十曰：「諸行和合，皆名為三昧。」同二十三曰：「一切禪定攝心，皆名為三摩提，秦言正心行處。是心從無始

世界來常曲不端，得此正心行處，心則端直，譬如蛇行常曲，入竹筒中則直。」（中略）

新稱三摩地，譯為定或正受，等持等念。又曰現法樂住。定與正受。其義同前。平等保持心，故曰等持。諸佛諸菩薩入有情界平等護念彼等，故曰等念。是就利他業而釋之也。又現定中法樂，故曰現法樂住。正受之異名也。

唯識論五曰：「於所觀境令心專注不散為性，智依為業。」

探玄記三曰：「三昧此云等持，離沈浮，故定慧等，故名等也。心不散，故住一境，故名持也。」

法華玄贊二曰：「梵云三摩地，此云等持。平等持心而至於境，即是定也，云三昧者訛也。」

玄應音義三曰：「三昧，或言三摩提，或云三摩帝皆訛也。正言三摩地，此譯云等持。等者正也，正持心也，持謂持諸功德也。或云正定，謂住緣一境，離諸邪亂也。」  
菩提心義一曰：「梵云三摩地，唐云等念。人有情界，平等攝受而護念之者。」

868. 【正受】（科註第三三二頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語三昧 Samādhi，一譯正受。三為正，昧為受也。是禪定之異名。定心，離邪亂，謂之正，無念無想，納法在心，謂之受。如明鏡之無心現

物也。

大乘義章十三曰：「離於邪亂故說為正，納法稱受。」

探玄記三曰：「納法在心名為正受。」

觀經玄義分曰：「言正受者，想心都息，緣慮並亡，三昧相應，名為正受。」同序分義曰：「因前思想漸微，微細覺想俱亡，唯有定心與前境合，名為正受。」

869. 【調直定】（科註第三三二頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）天台譯三昧為調直定，調心之暴，直心之曲，定心之散也。

止觀二曰：「通稱三昧者，調直定也。大論云：善心一處住不動是名三昧。」

870. 【正心行處】（科註第三三二頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）三昧之一譯也。三昧者，正心行邪曲之處也。

871. 【等持】（科註第三三二頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）定之別名。梵語舊稱三昧，譯曰定，新稱三摩地，譯曰等持。謂心住於一境平等維持也。是通於定散二心也。假使在於散心而心專注於一境即三摩地。故譯為定者不可也。

唯識述記七上曰：「等持者平等持心等，但於境轉，故名為等持。故通定散。〔中略〕三摩地，此云等持。」

俱舍論二十八曰：「等持者為定，名異體同。故契經說心定等定，名正等持。此亦名

為心一境性。」

872. 【華嚴三昧】（科註第三三三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）佛華嚴三昧之略。以一真法界無盡緣起為理趣。達此理趣而修萬行，莊嚴佛果，謂之華嚴，一心修之謂之三昧。是華嚴大經及梵網經所說。

無量壽經上曰：「得佛華嚴三昧，宣暢一切經典。」

六十華嚴經三十七曰：「普賢菩薩，正受三昧，其三昧名佛華嚴。」

瓔珞經曰：「我先於第三禪中，集八禪眾，說一生補處菩薩入佛華嚴三昧定百千億偈。」

探玄記十七曰：「一釋名者，以因行華嚴

成果相，令顯著故。二體性者，法界行門心海為體，以等持廣大無限量故。三明業用者有二：一依此顯說華嚴法，故無量壽經歎菩薩德中，言得佛華嚴三昧宣說諸佛經典。二依此顯示華嚴行，故上云：施戒忍辱精進禪，方便智慧諸功德，一切自在難思議，華嚴三昧勢力故。」

淨影無量壽經疏曰：「如華嚴說，彼三三昧統攝法界，一切佛法悉入其中。」

嘉祥無量壽經疏曰：「此三昧皆飾法身，故云華嚴。」

873. 【無盡緣起】（科註第三三三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）四種緣起之

一。又云法界緣起。華嚴經所說緣起之法門

也。一切之法，互相為緣互相起法也。緣一法而起萬法，緣萬法而起一法，重重緣起，而緣起之義無窮，故曰無盡緣起。故云萬法相即相入，無礙自在。見五教章十。

874. 【八十華嚴】（科註第三三四頁第二行）

唐實叉難陀譯，一名八十華嚴，或曰唐經，或名新經。慧苑造刊定記十六卷，清涼作疏二十卷。演義鈔四十卷。（參見「華嚴經」72）

875. 【六十華嚴】（科註第三三四頁第三行）

東晉佛馱跋陀羅譯，一名六十華嚴，或名晉經，或名舊經。智儼造五卷之疏，名曰搜玄記，賢首造探玄記二十卷。（參見「華嚴經」72）

876. 【《法界記》】（科註第三三四頁第四行）

見「《游心法界記》」1432。

877. 【法界唯心】（科註第三三四頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）總該萬有而名法界，此法界悉為自己一心之變造，謂之法界唯心。華嚴一經之所明是也。

華嚴經十九曰：「若人欲了知，三世一切佛，應觀法界性，一切唯心造。」

878. 【總持】（科註第三三四頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語陀羅尼 Dhāraṇī，譯言總持。持善不失，持惡不使起之義，以念與定慧為體。菩薩所修之念定慧具此功德也。

註維摩經一曰：「肇曰：總持，謂持善不

失，持惡不生。無所漏忌謂之持。」

嘉祥法華疏二曰：「問：以何為持體？答：智度論云：或說念，或說定，或說慧。今明一正觀隨義異名。」

879. 【陀羅尼有四種】（科註第三三四頁倒數第一行）

《三藏法數》「四陀羅尼」條：〔出瑜伽師地論〕梵語陀羅尼，華言總持。謂持善不失，持惡不生也；又翻遮持，謂遮空、有二邊之惡，持中道之善也。

一、法陀羅尼：謂諸菩薩得念慧力，持所聞法，經無量時，永不忘失，是名法陀羅尼。

二、義陀羅尼：謂諸菩薩持所聞無量義

趣，經無量時，永不忘失，是名義陀羅尼。

三、咒陀羅尼：咒，願也。謂諸菩薩獲得如是總持，令其咒願悉皆神驗，能除一切眾生種種災患，是名咒陀羅尼。

四、忍陀羅尼：忍，即安忍。謂諸菩薩成就堅固之行，於所聞法，得精進忍，是名忍陀羅尼。（參見《科註》第五一八頁）

880. 【明】（科註第三三五頁第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：真言之別名。真言能破煩惱之闇，故云明。又由口說云真言，由身現云明。又佛放光明於光中說故云明。

演密鈔一曰：「明者明咒，真言之別稱，梵語尾<sub>ni</sub>爾<sub>3v</sub>（音你）也，此譯云明。破闇為

義，梵語漫<sub>da</sub>怛<sub>3v</sub>（音答）羅，此云真言，或名神咒。謂此真言能破眾生煩惱闇障，義翻為明，咒即明故。」

大日經疏十二曰：「破除一切無明煩惱之闇故，名之為明。然明及真言義有差別，若心口出者名真言，從一切身分任運生者，名之為明也。」

秘藏記本曰：「陀羅尼者，佛放光光之中所說也，是故陀羅尼與明其義不異。」

881. 【結使】（科註第三三五頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）結與使，皆煩惱之異名。繫縛心身，結成苦果，故云結。隨逐眾生又驅使眾生，故云使。結有九種，使有十使。

淨心誠觀發真鈔上本曰：「結使。成論云：猶如乳母常隨小兒，能繫縛生死故名為結，常隨生死故名為使，即九結十使。」

大乘義章五本曰：「隨逐繫縛，稱之為使。結集生死，目之為結。結縛眾生，亦名為結。」

《三藏法數》「九結」條：「出阿毗達磨集論」結即繫縛之義。謂一切眾生因此妄惑，造作諸業，而為眾苦繫縛，流轉三界，不能出離，故云結也。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

一、愛結：謂諸眾生為貪愛故，廣行不善，由此遂招未來生死之苦，流轉三界，不能出離，是名愛結。（廣行不善者，謂廣作

殺盜婬妄等惡業也。）

二、恚結：謂諸眾生為瞋恚故，廣行不善，由此遂招未來生死之苦，流轉三界，不能出離，是名恚結。

三、慢結：謂諸眾生為慢、過慢、慢過慢、我慢、增上慢、下劣慢、邪慢故，廣行不善，由此遂招未來生死之苦，流轉三界，不能出離，是名慢結。（慢者，同類相傲也。過慢者，相似法中，執己為勝也。慢過慢者，他本勝己，強謂勝他也。我慢者，恃己凌他也。增上慢者，未得之法，自謂己得也。下劣慢者，己本無能，反自矜誇也。邪慢者，執著邪見，凌慢他人也。）

四、無明結：謂諸眾生為無明所覆，於苦

法、集法，不能解了，廣行不善，由此遂招未來生死之苦，流轉三界，不能出離，是名無明結。（苦法者，三界生死眾苦之法也。集法者，積集三界有為之法，即惑業也。）

五、見結：謂諸眾生於身見、邊見、邪見，妄興執著，廣行不善，由此遂招未來生死之苦，流轉三界，不能出離，是名見結。（身見者，謂於五陰身中，強作主宰，計著有我也。邊見者，謂於身見中，計斷計常，各執一邊也。邪見者，謂執有執無，及撥無因果也。）

六、取結：取即取著。謂諸眾生於見取、戒取，妄計執著，廣行不善，由此遂招未來生死之苦，流轉三界，不能出離，是名取

結。（見取者，即身見、邊見、邪見也；外道取著此等邪見，以為正見也。戒取者，謂外道妄計自身前世從牛狗中來，即便食草噉穢，取以進行，以為戒也。）

七、疑結：謂諸眾生於佛法僧寶，妄生疑惑，不修正行，廣行不善，由此遂招未來生死之苦，流轉三界，不能出離，是名疑結。

八、嫉結：謂諸眾生，耽著利養，見他榮富，起心嫉妒，廣行不善，由此遂招未來生死之苦，流轉三界，不能出離，是名嫉結。

九、慳結：謂諸眾生耽著利養，於資生具，其心吝惜，不能捨施，廣行不善，由此能招未來生死之苦，流轉三界，不能出離，是名慳結。  
qiān 慳（音謙）結。

《佛學次第統編》「十使」條：十使者，即十煩惱也。謂貪、瞋、癡、慢、疑、身、邊、邪、取、戒之十也。

台家分為五鈍使、五利使。一、五鈍使，謂貪、瞋、癡、慢、疑也。二、五利使，謂身、邊、邪、取、戒也。鈍謂遲鈍，謂此五種妄惑，由推身見等五種利使而生，對利而言，故名為鈍。利即快利，謂此五種妄惑，動念即生，造次恆有也。

882. 【首楞嚴三昧】（科註第三三五頁倒數第五行）

《三藏法數》：梵語首楞嚴，華言健相分別；梵語三昧，華言正受，亦云正定。謂菩薩住是三昧，則於諸三昧行相、多少、淺深，悉能分別了知；而一切魔惱，不能破

壞，是名首楞嚴三昧。

《佛學大辭典》「首楞嚴」條：（術語）

Surāṅgama，新云首楞伽摩。譯曰健相，健行，一切事竟。佛所得三昧之名也。健相者，譬幢旗之堅固也。以佛德堅固，諸魔不能壞。一切事竟者，佛德之究竟也。

智度論四十七曰：「首楞嚴三昧者，秦言健相。分別知諸三昧行相多少淺深，如大將知諸兵力多少。復次，菩薩得此三昧，諸煩惱魔及魔人無能壞者，譬如轉輪聖王，主兵寶將所住至處，無能壞伏。」

涅槃經二十七曰：「首楞嚴者名一切事竟。嚴者名堅，一切畢竟而得堅固，名首楞嚴。以是故言首楞嚴定，名為佛性。」

玄應音義二十三曰：「首楞伽摩，此云健行定，亦言健相，舊云首楞嚴也。」

首楞嚴三昧經中曰：「菩薩得首楞嚴三昧，能以三千大千世界人芥子中，令諸山河日月星宿悉現如故，而不迫<sup>ぜ</sup>迫<sup>ぜ</sup>（密聚、緊靠貌。迫，音則），示諸眾生。首楞嚴三昧不可思議勢力如是。」

883. 【師子頻呻】（科註第三三五頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「師子頻申三昧」條：

（術語）與師子奮迅三昧同。華嚴經六十曰：「入師子頻申三昧。」

舊經作師子奮迅三昧。華嚴疏鈔六十曰：「頻申奮迅，俱是展舒四體通暢之狀。」

○師子奮迅三昧：（術語）師子奮迅時，

開張諸根，身毛皆豎，現威怒哮吼之相。佛入此三昧。則奮大悲法界之身，開大悲之根門，現應機之威，使外道二乘之小獸懾伏，故名為師子奮迅三昧。

探玄記十八曰：「從喻為名。謂如師子奮迅之時。諸根開張。身毛皆豎。現其威怒哮吼之相。令餘獸類失威竄伏<sup>せんぷく</sup>。令師子兒增其雄猛。身得長大。今佛亦爾。一奮大悲法界之身。二開大悲之根門。三豎悲毛之先導。四現應機之威。吼法界之法門。令二乘諸獸藏竄聾盲。菩薩佛子增長百千諸三昧海及陀羅尼海。如是相似。故以為喻。」梵

*Simhaviṅḍita-samādhi*。

884. 【普等三昧】（科註第三三六頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）普者普遍，等者齊等也，住此三昧則普見一切諸佛，故名普等三昧。

無量壽經上曰：「逮得普等三昧，住是三昧，至於成佛常見無量不可思議一切諸佛。」

悲華經謂之遍至三昧，分陀利經謂之普至三昧，莊嚴經謂之普遍三摩地。（參見《科註》第五一五頁）

885. 【《般舟經》】（科註第三三七頁第一行）

見「《般舟三昧經》」472。

886. 【寶王三昧】（科註第三三七頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）念佛三昧之美稱也。念佛者即三昧中之至寶，故名寶王三昧。

大集經菩薩念佛三昧分九曰：「善男子善女人！雖能以上一切世界盛滿七寶眾具，供施一切眾生，功德雖廣，然故不及前善男子善女人等聞此三昧寶王名字。」

寶王論下曰：「法華三昧者，念佛三昧也。是以如來名此勝定為三昧寶王，為光明藏。為除罪珠，為邪見燈。」

887. 【《仁王般若經》】（科註第三三七頁倒數第四行）

《科註》此處所引為羅什大師所譯之《佛說仁王般若波羅蜜經》。

《佛學大辭典》：（經名）有二本。舊本為羅什譯，題曰佛說仁王般若波羅蜜經，二卷。新本為不空譯，題曰仁王護國般若波羅

蜜多經，亦二卷。

仁王指當時十六大國之國王也。佛，對諸王各護其國使之安穩，故為說般若波羅蜜多深法之經文也。謂受持講說此經則七難不起，災害不生，萬民豐樂。故古來以之為護國三部經之一，公私皆為禳災祈福讀誦之。

茲將本經各家之註述及關於本經之著作列之如下：仁王經疏六卷（舊），隋吉藏撰。仁王護國般若經疏（舊），五卷，隋智顛說，門人灌頂記。仁王經合疏三卷，隋智顛說，灌頂記，明道霈合。仁王經疏三卷，隋智顛說，灌頂記，成蓮合。仁王經疏七卷（新），唐良賁述。仁王經疏六卷（舊），唐圓測撰。仁王經疏法衡鈔六卷，唐遇榮集。

仁王護國般若波羅蜜經疏神寶記，四卷，宋善月述。注仁王經疏科一卷（新），宋淨源錄。仁王經疏四卷，宋淨源撰集。仁王經科疏科文一卷，明真貴述。仁王經科疏懸談一卷，明真貴述。仁王經科疏五卷，明真貴述。（參見《新譯仁王經》1231）

888. 【海印三昧】（科註第三三八頁第三行）

《佛學大辭典》「海印」條：（術語）佛所得之三昧名。如於大海中印象一切之事物，湛然於佛之智海印現一切之法也。

大集經十五曰：「譬如閻浮提一切眾生身及餘外色，如是等色，海中皆有印像。以是故，為大海印。」

寶積經二十五曰：「如大海，一切眾流悉

入其中，一切諸法人法印中，亦復如是，故名海印。」

探玄記四曰：「海印者，從喻為名，如修羅四兵列在空中，於大海中印現其像。菩薩定心猶如大海，應機現異，如彼兵像故。」

還源觀曰：「言海印者，真如本覺也。妄盡心澄，萬像齊現，猶如大海由風起浪。若風止息，海水澄清，無像不現。」

八十華嚴經十四曰：「眾生形相各不同，行業音聲亦無量，如是一切皆能現，海印三昧威神力。」

楞嚴經四曰：「如我按指，海印發光，汝暫舉心，塵勞先起。」

三藏法數三十九依宗鏡錄於海印三昧列十

義。華嚴宗以此海印三昧為華嚴經所依之定。

華嚴經鈔二曰：「如說法華依無量義處三昧，說般若經依等持王三昧，說涅槃經依不動三昧，故說諸經，多依三昧，今說此經，依何三昧？即海印三昧。」

《三藏法數》「海印炳現體」條：謂海印三昧為教體也。然海印是喻，三昧是定。如來說華嚴經時，人是三昧。一切諸法，炳然齊現大寂定中，猶如香海澄渟，湛然不動，四天下中一切眾生色身形像，皆於其中歷歷頓現，如印印文，其差別無盡，教法及所化機，雖大小不同，亦同緣起，炳現定中。

經云：或現童男童女形，天龍及以阿修

羅，乃至摩睺羅伽等，隨其所樂悉令見。眾生形相各不同，行業音聲亦無量，如是一切皆能現，海印三昧威神力。是也。（四天下者，即東弗於逮、南閻浮提、西瞿耶尼、北鬱單越之四洲也。梵語阿修羅，華言無端正。梵語摩睺羅伽，華言大腹行，地龍也。）

889. 【四無礙智】（科註第三三九頁第六行）

《佛學大辭典》「四無礙解」條（節錄）：

（術語）又云四無礙智，四無礙辯。是為諸菩薩說法之智辯，故約於意業而謂為解，謂為智，約於口業而謂為辯。

一法無礙，名句文能詮之教法名為法，於教法無滯，名為法無礙。

二義無礙，知教法所詮之義理而無滯，名

為義無礙。

三辭無礙，又云詞無礙。於諸方言辭通達自在，名為辭無礙。

四樂說無礙，又云辯說無礙。以前三種之智為眾生樂說自在，名為樂說無礙。又契於正理起無滯之言說，名為辯無礙。無滯之言說即辯也。

智度論二十五曰：「四無礙智者：義無礙智，法無礙智，辭無礙智，樂說無礙智。」（中略）

俱舍論二十七曰：「無礙解總說有四：一法無礙解，二義無礙解，三詞無礙解，四辯無礙解。」

法華玄贊二曰：「四辯者，即四無礙解。」

890. 【密迹經】（科註第三四〇頁第四行）

《大寶積經》第三會，名《密迹金剛力士會》，卷八至十。

891. 【垓<sup>ㄍㄞ</sup>】（音該）（科註第三四〇頁第五行）

《漢語大詞典》：古數名。萬萬為垓。

《太平御覽》卷七五〇引漢應劭《風俗通》：

「十萬謂之億，十億謂之兆，十兆謂之經，十經謂之垓。」

892. 【稱讚大乘功德經】（科註第三四〇頁第七行）

《佛學大辭典》：（經名）一卷，唐玄奘

譯。佛在寶華殿，德嚴華菩薩問：何等是新學菩薩惡友宜遠離者？佛言無如樂二乘之人，寧墮地獄，不可起二乘之作意。次明謗大乘之罪，及釋大乘之名義。

893. 【傍生】（科註第三四〇頁第七行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）舊云畜生，新云傍生，一作旁生，傍行之生類也。

婆沙論曰：「其形旁，故其行亦旁。」又曰：「因行不正，受果報旁。負天而行，故云旁行。」（中略）

俱舍頌疏世間品一曰：「言傍生者，以傍行故。」梵 Tiryagroni

894. 【如】（科註第三四〇頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）如者如法之各各之相也，如法之實相也。如地之堅相，如水之濕相，謂之各各之相是事相之如也。然此各各之事相，非實有，其實皆空，以彼此之諸法以空為實，空者，是諸佛之實相也，

此實相之如，稱為如。故實相即如也。

又此如為諸法之性，故名法性，此法性為真實之際極，故曰實際。故如與法性與實際，皆諸法實相之異名也。

又，諸法之理性相同，謂之如，以諸法雖各各差別而理體則一味平等故也。故如者理之異名也。此理真實，故云真如，其理為一，故云一如，但就其理體言之，般若經之如，立為空，法華經之如，立為中，是教門之不同也。

智度論三十二曰：「諸法如有二種：一者各各相，二者實相。」又曰：「佛弟子如法本相觀。」又曰：「如法性實際，此三皆是諸法實相異名。」

維摩經菩薩品曰：「如者不二不異。」

大乘義章一曰：「如，法性，實際，義出大品經，此三乃是理之別目。〔中略〕如者是其同義，法相雖殊，理實同等，故名為如。」

大日經疏一曰：「怛他是如義。」

止觀二曰：「如空之異名耳。」

維摩經淨影疏曰：「真法體同，名之為如。」

895. 【十界】（科註第三四一頁第三行）

見「十法界」1084。

896. 【偏真】（科註第三四一頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）小乘所說之真理為偏於空之一邊者，故曰偏真。一云單

空。

897. 【真實際】（科註第三四一頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）又曰真際，實際。真實者，真如也，窮極真如之源底曰真實際。

無量壽經上曰：「分別顯示真實之際。」

898. 【權方便】（科註第三四一頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）佛菩薩一時濟度眾生之權謀為權，其方法，能適於便宜，為方便。

無量壽經上曰：「遊步十方，行權方便。」

最勝王經一曰：「或時見有般涅槃者，是權方便。」

淨影大經疏曰：「隨物所宜，種種異現，

名權方便。」

899. 【一實】（科註第三四一頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）真如也。一，平等之義，名平等之實相曰一實。

三藏法數四曰：「一實諦，謂一實相中道之理也，無有虛妄，無有顛倒，名一實諦也。」

四教義一曰：「諸佛菩薩之所證見，審實不虛，謂之為諦。」

900. 【布袋和尚】（科註第三四一頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（人名）五代梁時明州奉化布袋和尚，自稱契此。又號長汀（音聽）子。形裁臞（néi）臞（zōu）。cù 蹙（音促）額（pó）皤（音婆。大也）腹。出語無定。時號長汀子。

常荷一布袋入chán 鄼多（音纏。古代城市平民的房地），見物則乞。一日，有僧在前行。師負拊多（音府。撫摩）其背。僧回首。師曰：乞我一文錢。曰：道得即與。師放下布袋，又手而立。保福和尚問：如何是佛法大意？師放下布袋。福曰：為祇如此，為更有向上事。師負之而去。梁貞元三年，端坐岳林寺盤石，說偈曰：彌勒真彌勒，分身千百億。時時示時人，時人自不識。遂入滅。後現於他州，亦負布袋而行。明如xīng 惺工（音星）龍華chàn 懺多法後附有布袋和尚傳。

901. 【二死】（科註第三四二頁第四行）

《三藏法數》「二種生死」條：〔出唯識

論〕

一、分段生死：分即分限，段即形段。謂六道眾生，隨其業力所感果報身，則有長有短；命則有壽有夭，而皆流轉生死，故名分段生死。（六道者，天道、人道、修羅道、餓鬼道、畜生道、地獄道也。）

二、變易生死：因移果易，名為變易。謂聲聞、緣覺、菩薩雖離三界內分段生死，而有方便等土變易生死。如初位為因，後位為果；又後位為因，後後位為果。以其因移果易，故名變易生死。（方便土者，修戒定慧方便之道，得生其中，在方便土。）

《佛學大辭典》「二種生死」條（節錄）：  
（名數）一分斷（疑作「段」）生死，諸有漏

善不善之業，由煩惱障助緣所感之三界六道果報也。其身果報有分分段段之差異，故曰分段。具見思惑之一切凡夫是也。

二不思議變易生死，諸無漏之善業，依所知障助緣所感之界外淨土果報也。為斷見思惑之阿羅漢以上聖者之生死。不思議者。以業用之神妙不測而名，變易者，無色形之勝劣，壽期之短長，但迷想漸滅，證悟漸增，此迷悟之遷移謂之變易（已上台家之義）。

又聖者改易分段之身而得不可思議殊妙之好身，故曰變易（已上法相之義）。

又心神念念相傳，而前後變易，故名變易。又諸聖所得之法身，神化自在，能變能易，故名變易（已上三論之義）。

唯識論就變易生死舉三名：一不思議變易生死，二意成身，三變化身。此變易生死，據法相之義，智增之菩薩於初地以上受之，悲增之菩薩於八地以上受之云。

台家以四土中之方便土，為變易身之所居，藏通二教之無學果及別教之第七住已上初地已下菩薩，並圓教之第七信（已上）初住已下菩薩受此生死云。

勝mán鬘ṃ（音瞞）經於此二者，又名有為生死，無為生死。凡夫起有漏之諸業，感有為之果，故名有為，聖人起有漏（疑作「無漏」）之諸業不受有為分段之報，故名無為。

902. 【二空】（科註第三四二頁第四行）

《三藏法數》：〔出法藏般若心經略疏〕

一、人空：人空即我空也，亦曰生空。謂凡夫妄計五蘊是我，強立主宰，引生煩惱，造種種業。佛為破此計，故說五蘊無我。二乘悟之，人無我理，是名人空。（五蘊者，色蘊、受蘊、想蘊、行蘊、識蘊也。二乘者，聲聞乘、緣覺乘也。）

二、法空：謂二乘之人，未達法空之理，猶計五蘊之法實有。佛為破此執，故說般若深慧，徹見五蘊自性皆空。菩薩悟之，入法空理，是名法空。

903. 【智斷二德】（科註第三四二頁第四行）

《三藏法數》「二德」條：〔出觀音玄義〕

二德者，在眾生因心所具，則名緣了二因，在諸佛果上所顯，則成智斷二德。蓋了因顯

則成智德，緣因顯則成斷德故也。（了因，了即照了。謂以智慧照了法性之理，如燈照物，了了可見，是名了因。緣因，緣者緣助，謂一切之功德善根，資助了因，開發正因之性，故曰緣因。）

一、智德：智即智慧，謂照了一切諸法，通達無礙，隨眾生機器大小，各各為其演說，無有差謬，是名智德。

二、斷德：斷即斷除，謂斷惑業淨盡，隨所調伏眾生之處，惡不能染，縱任自在，無有累縛，是名斷德。

904. 【世間（一）】（科註第三四二頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）世為遷流之

義，破壞之義，覆真之義。間為中之義。墮於世中之事物，謂之世間。

又間隔之義，世之事物，個個間隔而為界畔，謂之世間，即與所謂世界相同。

大要有二種：一有情世間，謂有生者。二器世間，國土也。

楞嚴經四曰：「世為遷流。」

唯識述記一本曰：「言世間者可毀壞故，有對治故，隱真理故，名之為世，墮世中故名為世間。」

註維摩經不二品：「什曰：世間三界也。」

《佛學次第統編》「二世間」條：對於一切世間，有以有情無情二種，分為二世間者。謂有為法之過現未遷流，而其事物物間隔之世間，大別有二：一有情世間，由五蘊假和合，有情識以差別鬼畜人天等者。二器世間，由四大積聚，為山河大地國土家屋

等之別，以容受有情者。即有情世間，為有情之正報，器世間為有情之依報是也。

○三世間：或有分為三世間者，謂一切有為法，有三種分類：一五陰世間，又名五眾世間，五陰者，色受想行識之五法，十界之五陰，各各差別也。二眾生世間，又名假名世間，假五陰和合之上名眾生，上至佛界，下至地獄，各各差別也。三國土世間，又名器世間，眾生所依之境界，十界各各差別也。

905. [āng pǐ 九] 臧否 [pǐ 九] (音匹) (科註第三四二頁第五行)  
《漢語大詞典》：善惡。

906. **【有為】** (科註第三四二頁第七行)

《佛學大辭典》：(術語) 為者造作之義，有造作，謂之有為。即因緣所生之事

物，盡有為也。能生之因緣，是造作所生之事物者，所生之事物，必有此因緣之造作，故云有為法。本來自爾而非因緣所生者，謂之無為法。故有為者如言有因緣。

大乘義章二曰：「為是集起造作之義，法有為作故，名有為。」

俱舍論光記五曰：「因緣造作名為，色心等法，從因緣生，有彼為故，名曰有為。」

俱舍論頌疏界品一曰：「為者作也，此有為法，眾緣造作故名為，有彼為故，名為有為。」梵 Asanskrita (疑作 Sasanskrita)。

907. 【無為】(科註第三四三頁第二行)

《佛學大辭典》：(術語) 梵語 Asanskrita。

為者造作之義，無因緣造作，曰無為，又無

生住異滅四相之造作曰無為，即真理之異名也。此無為法有三種六種之別，三無為中之擇滅無為，六無為中之真如無為，是正為聖智所證之真理。曰涅槃，曰法性，曰實相，曰法界，皆無為之異名也。

無量壽經上曰：「無為泥洹〔音環〕之道。」

清信士度人經曰：「棄恩人無為，真實報恩者。」

肇論曰：「無為者，取乎虛無寂寞，妙絕於有為。」

探玄記四曰：「緣所起法名曰有為，無性真理名曰無為。」

華嚴大疏十六曰：「以有所作為，故名有

為。有為是無常，無所作為，故名無為。無為即是常也。」

大乘義章二曰：「釋有二：一對法外四相以釋，色心等法為彼法外四相所為，虛空等三不同彼故，名曰無為。二對法體四相以釋，色心等法一切皆有初生次住終異後滅前後集起，評之曰為，虛空等三無彼為故，名曰無為。」

908. 【無住處涅槃】（科註第三四三頁第三行）

《三藏法數》：謂不住生死，不住涅槃，窮未來際，利樂有情，故名無住處涅槃。

909. 【レ棲（音七）神】（科註第三四三頁第四行）

《佛學大辭典》：（雜語）棲息精神而不移於他也。

維摩經序曰：「尋翫（音萬。鑽研）茲典，以為棲神之宅。」

910. 【《法華經序品》】（科註第三四三頁第五行）

《佛學大辭典》「序品」條（節錄）：法華經二十八品中之第一品，先現六瑞，而起眾疑，因眾之疑而使彌勒向文殊問其緣由，文殊說過去所見證言其當說法華。以為一經發起之由序，故名序品。

911. 【宗門】（科註第三四三頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）本為諸宗之通稱，後為禪宗自讚之稱，因之稱餘宗曰教門。

楞伽經一曰：「佛語心為宗，無門為法門。」

祖庭事苑八曰：「宗門謂三學者莫不宗此門，故謂之宗門。正宗記云：所謂吾宗門，乃釋迦門一佛教之大宗正趣。〔中略〕乃知古者命吾禪門謂之宗門，而尊教迹之外殊，是也。」

912. 【隨逐】（科註第三四三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）親近而不離也。

唐華嚴經一曰：「親近如來，隨逐不捨。」

觀念法門曰：「隨逐影護，愛樂相見。」

913. 【肇世宏（音照）公】（科註第三四四頁第二行）

《佛學大辭典》「僧肇」條：（人名）羅什

門下四哲之一。初以老莊為心要，嘗讀老子嘆曰：美則美矣，未盡善也。後讀舊譯之維摩經，歡喜頂受，始知所歸，自此出家。聞

羅什至姑臧，自遠從之。乃什至長安，姚興命僧肇，僧睿等人逍遙園，評定經論。著般若無知論，涅槃無名論等以盡玄微，見者莫不稱嘆。晉義熙十年沒於長安，壽三十一。見高僧傳六。

914. 【法藏（一）】（科註第三四四頁第七行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）又曰佛

法藏，一名如來藏。法性之理也。法性含藏無量之性德，故曰法藏。

無量壽經上曰：「行權方便。入佛法藏。

究竟彼岸。」又曰：「受持如來甚深法藏，護佛種性。」又曰：「為眾開法藏，廣施功德寶。」同嘉祥疏曰：「名理為藏，解契宗源，故云入佛法藏。」同慧遠疏曰：「如來

藏性，是如來甚深法藏，闇障既除，明現己心，故曰受持。」

(又)(術語)佛所說之教法也，教法含藏多義，故名法藏。多法集積，故又曰法蘊，其數有八萬四千，釋之者有多義。

法華經序品曰：「此妙光法師奉持佛法藏。」同寶塔品曰：「持八萬四千法藏，為人演說。」

915. 【如來藏性】(科註第三四四頁第七行)

《佛學大辭典》：(術語)一切眾生之性隱藏如來之功德，謂之如來藏性。

916. 【如來藏】(科註第三四五頁第四行)

《三藏法數》：藏即含藏也。謂真如法性之體，不離一切眾生色心，具足圓滿染淨諸

法，是名如來藏。

《佛學大辭典》(節錄)：(術語)真如在煩惱中，謂之如來藏，真如出煩惱。謂之法身。依佛性論如來藏品，藏有三義：

一、所攝之義。真如立於眾生之位，則含和合不和合之二門，為和合門者，生一切之染法；為不和合門者，生一切之淨法。一切染淨之法，皆攝於如來之性，即真如，故云如來藏。易言之則真如攝一切法。如來藏一切法也。楞伽經四曰：「如來之藏，是善不善因，能遍興造一切眾生。」勝鬘鬘ṣaṣṭhi(音瞞)寶窟下本曰：「一切眾生無有出如如境者，並為如如所攝故名藏也。則眾生為如來所攝也，是如來藏眾生。」起信論義記上曰：

「如來藏心，含和合不和合二門，以其在於眾生位故，若在佛地則無和合義。」

二、隱覆之義。真如在煩惱中時，為煩惱隱覆如來之性德，而不使顯現，故名如來藏，是眾生之煩惱藏如來也。勝鬘經曰：「無量煩惱藏所纏如來藏。」又曰：「如是如來，法身不離煩惱藏，名如來藏。」理趣般若經曰：「一切有情皆如來藏。」同述贊下曰：「此真性正實如來藏在纏中名如來藏，一切眾生皆有真理故。」勝鬘寶窟下本曰：「如來性住在道前為煩惱隱覆，眾生不見，故名為藏，是眾生藏如來也。」

三、能攝之義。真如在煩惱中。含攝如來一切果地之功德，故名如來藏。占察經下

曰：「復次彼心名如來藏，所謂具足無量無邊不可思議無漏清淨之業。」起信論曰：「如來藏，具足無量性功德故。」述讚下曰：「藏謂庫藏，諸佛所有一切功德皆在其中名如來藏，現行功德未能起，故不名法身。」起信論義記下本曰：「隱時能出生如來，名如來藏（能攝故出生也），顯時為萬德依止，名為法身。」梵 *Tathāgaragarbha*。

917. 【華手經】（科註第三四五頁第四行）

《佛光大辭典》：梵名 *Kuśāla-mūla-saṃgraha*。凡十卷。姚秦鳩摩羅什譯。又稱華首經、攝諸善根經、攝諸福德經、攝善根經、攝福德經。收於大正藏第十六冊。本經記述佛陀在王舍城迦蘭陀竹園，現神力，攝四

眾，十方菩薩皆來聚集，手持蓮花供養佛陀，佛陀為斷除彼等之疑惑而宣說大乘菩薩得道經過、毀謗大乘行者之苦報及護持佛法、造像功德等。經名華手，即緣於諸菩薩手持花供養佛陀之故。〔歷代三寶紀卷八、開元釋教錄卷四〕

918. 【《寶雲經》】（科註第三四五頁第六行）

《佛學大辭典》：（經名）七卷，蕭梁沙門曼陀羅仙譯。寶雨經之舊譯，缺月光天子作女王之事。

《佛光大辭典》：梵名 Ratna-megha-

sūtra。凡七卷。梁代曼陀羅仙譯。收於大正藏第十六冊。梵本不傳，然梵本集菩薩學論中，有引用本經之部分。其內容細說菩薩所

具備之德行。有除蓋障菩薩來娑婆世界，以一〇二問請教世尊，佛每問以十法回答，事皆具體教示菩薩之正法。異譯本有曼陀羅仙與僧伽婆羅共譯之大乘寶雲經七卷、達磨流支譯之寶雨經十卷、法護譯之除蓋障菩薩所問經二十卷等。〔華嚴經隨疏演義鈔卷十六、大唐內典錄卷四、閱藏知津卷八〕

919. 【《大論》】（科註第三四五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（書名）大智度論之略名。

920. 【同體大悲】（科註第三四六頁第四行）

《天台教學辭典》：又云同體慈悲。指觀一切眾生與己身同體，而生起拔苦與樂、平等絕對悲心。亦即初地以上菩薩，攝眾生於

自體，以眾生苦為己苦，生起大悲心。

北本『大般涅槃經卷十六』：譬如父母見子遇患，心生苦惱愍之愁毒，初無捨離；菩薩摩訶薩住是地中亦復如是！見諸眾生為煩惱病所纏切，心生愁惱，憂念如子，身諸毛孔血皆流出，是故此地名為一子。〔摩訶止觀卷六上、止觀輔行傳弘決卷六之二、法華經玄義卷四下〕

《佛學大辭典》「同體慈悲」條：（術語）觀一切眾生之身與己身同體一身，而起拔苦與樂之心，謂之同體之慈悲。

起信論曰：「一切諸佛菩薩，皆願度脫一切眾生，自然熏習常恆不捨，以同體智力故，隨應見聞而現作業。」又曰：「以取一

切眾生如己身故，而亦不取眾生相，此以何義故？謂如實知一切眾生及與己身真如平等無別異故。」

921. 【無緣大慈】（科註第三四六頁第五行）見「無緣之慈」156。

922. 【愛見之悲】（科註第三四六頁第六行）《佛學大辭典》「愛見大悲」條：（術語）不斷煩惱而運大悲以救眾生也。愛者思惑，見者見惑。小乘之菩薩，於三大阿僧祇劫間，發四弘誓願，修六度萬行，濟度眾生。然未斷見思之煩惱，為伏惑行因，故認能愛所愛二相，其大悲亦虛妄不淨，故令人為疲厭之想，當捨離之也。

923. 【《大日經》】（科註第三四六頁第七行）

《佛學大辭典》：（經名）本名，大毗盧遮那成佛神變加持經。以毗盧遮那為日之別名，故稱為大日經。唐善無畏譯，共七卷。前六卷為正經文，第七卷為其供養法。秘密部三經之一，而胎藏界真言之本經也。所說之法對於金剛頂經之所說，而謂之胎藏界，亦曰大日宗、瑜伽宗。

大日經疏二曰：「所以稱大日經王者非為此乎？」

924. 【五眼】（科註第三四六頁倒數第四行）

《三藏法數》：〔出大智度論〕眼，即照燭之義。瑜伽師地論云：能觀眾色，故名為眼。眼是總名，從用分別，則有五種。

一、肉眼：肉眼者，假父母氣血所成也。

即人中能見之眼，見近不見遠，見前不見後，見內不見外，見晝不見夜，見上不見下，因有色質障礙故也。

二、天眼：天眼者，謂諸天因修禪定而得也。此眼遠近前後內外晝夜上下皆悉能見，以無色質障礙故也。

三、慧眼：慧眼者，謂二乘之人，以所得慧眼，觀一切法皆空，不見有眾生相，及滅一切異相，捨離諸著，不受一切法也。（二乘者，聲聞乘、緣覺乘也。）

四、法眼：法眼者，菩薩為度眾生，以清淨法眼遍觀一切諸法，能知能行，謂因行是法，得證是道，亦知一切眾生種種方便門，令修令證也。

五、佛眼：佛眼者，謂具前四眼之用，無不見知。如人見極遠處，佛見則為至近。人見幽暗處，佛見則為顯明。乃至無事不見，無事不知，無事不聞，聞見互用，無所思惟，一切皆見也。（參見《科註》八四七至八五〇頁）

925. 【《大法炬陀羅尼經》】（科註第三四七頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（經名）二十卷，隋闍那崛<sup>ハシキ</sup>（音覺）多譯。善威光天子請問陀羅尼門，佛入大力莊嚴三昧，說過去之放光如來說此經事。一經五十二品，皆述昔時放光如來所說之法。

926. 【無餘涅槃】（科註第三四七頁倒數第二行）

此指大乘之涅槃。

《佛學大辭典》「二種涅槃」條（節錄）：（名數）一有餘涅槃，二無餘涅槃。新譯曰有餘依，無餘依。依者，有漏之依身。對於惑業而曰餘。有餘涅槃者，為生死之因之惑業已盡，猶餘有漏依身之苦果也。無餘涅槃者，更滅依身之苦果無所餘也。此二種之涅槃，同為一體。三乘之行人，於初成道時，雖證得之，而無餘涅槃之現，則在於命終之時。（中略）此二種就大小乘分別之，有三門：

一、單就小乘分別。斷生死之因，猶餘生死之苦果，謂之有餘涅槃。斷生死之因，同時使其當果畢竟不生，謂之無餘涅槃。現無

餘涅槃之相，在命終之時。蓋無餘涅槃者，灰身滅智，一有情都滅也。

二、單就大乘分別。變易生死之因盡，為有餘，變易生死之果盡，為無餘。

三、大小相對而分別。小乘之涅槃為有餘，以猶有變易生死故也。大乘之涅槃為無餘，以更無餘之生死故也。此一義出於勝鬘經。見勝鬘經寶窟下本。

927. 【福智二嚴】（科註第三四八頁第四行）

《三藏法數》「二種莊嚴」條：〔出涅槃經〕莊即端莊，嚴即嚴飾，謂智慧福德二種，皆能莊嚴法身也。

一、智慧莊嚴：謂諸菩薩從初發心，乃至究竟，無明淨盡，佛性現前，所有智慧，能

顯法身，是名智慧莊嚴。

二、福德莊嚴：謂諸菩薩修行六度，萬行具足，所有福德，能顯法身，是名福德莊嚴。（六度者，一布施、二持戒、三忍辱、四精進、五禪定、六智慧也。）

928. 【果位】（科註第三四八頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）對於因位而云。佛果之位也。

929. 【權智】（科註第三四八頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）達於諸法之實相，為如來之實智，達於諸種之差別，為如來之權智，實智者體也，權智者用也。如來成佛之本體，在於實智，一代教化之妙用，存於權智。

密教以胎藏曼荼羅之心蓮華臺為實智，八葉之開敷為權智。

大日經二曰：「諸佛甚希有，權智不思議。」同疏六曰：「權智不思議者，具存梵本者，應云智方便不思議。〔中略〕智謂心蓮華臺具足，權謂華葉開敷，二種具（古同「俱」）不思議，故云希有也。」

○二智：一、實智，達於佛菩薩實理之智也。

二、權智，又名方便智，通於佛菩薩權方便之智也。

維摩經佛道品曰：「智度菩薩母，方便以為父。」

天台維摩經會疏九曰：「智度是實智，實

智有能顯出法身之力。方便是權智，權智外用，能有成辨（「辦」的古字）。」

往生論註下曰：「般若者達如之慧名，方便者通權之智稱。」

大乘義章十九曰：「知於一乘真實之法名為實智，了知三乘權化之法名方便智。」

930. 【實智】（科註第三四八頁倒數第四行）

見前一詞「權智」929。

931. 【小劫】（科註第三四八頁倒數第一行）

《佛學次第統編》：小劫者，一增一減，為一小劫。

一、增劫：人壽自十歲起，每過百年增一歲，至八萬四千歲，為增劫之極。

二、減劫：人壽自八萬四千起，每過百年

減一歲，至十歲為減劫之極。

一增一減，共計一千六百八十萬年，名一小劫。

932. 【食頃】（科註第三四九頁第一行）

《佛學大辭典》：（雜語）一食之頃，謂暫時也。

法華經序品曰：「時會聽者，亦坐一處。

六十小劫，身心不動。聽佛所說，謂如食頃。」

933. 【比丘尼】（科註第三四九頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）Bhikṣuṇī，女

子出家受具足戒者之通稱。新云bī苾<sup>ス</sup>（音必）芻<sup>多</sup>（音除）尼。梵語尼者，顯女性之聲也。

因之比丘為男僧，比丘尼為女僧。

俱舍光記十四曰：「苾芻，唐言乞士，舊云比丘，訛也。苾芻尼苾芻如前解，尼是女聲。」

慧琳音義二曰：「苾芻尼義說同上，出家女之總名，尼例聲明即女聲也。」

以阿難懇請初度佛之姨母大愛道為僧，是為比丘尼之始。

934. 【清信士】（科註第三五〇頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語優婆塞 Uṣāsaka，譯曰信士，又曰清信士。受三歸五

戒得清淨信心之男子也。

935. 【清信女】（科註第三五〇頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語優婆夷 Uṣāsikā，譯曰信女，又曰清信女。受三歸五

戒具清淨信心之女子也。

936. 【優婆夷】（科註第三五〇頁第五行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）Upāsikā，舊稱優波夷，優婆斯。新稱<sup>wū</sup>鄔<sup>x</sup>（音屋）婆斯迦，鄔波斯迦，優波賜迦，優婆私柯。譯曰清淨女，清信女，近善女，近事女。近事三寶之義。總稱受五戒之女子。四眾之一。七眾之一。

937. 【諸天】（科註第三五〇頁第七行）

《佛學大辭典》：（界名）欲界有六天，謂之六欲天。色界之四禪有十八天。無色界之四處有四天。其他有日天月天韋馱天等諸種天神。即諸天部也。

### ◎ 大教緣起第三

938. 【<sup>h</sup>稽<sup>y</sup>（音起）首】（科註第三五二頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）和南，一譯稽首。僧家禮拜也。

○和南：（術語）Vandana，又云婆南。新稱伴談，伴題，煩淡，槃淡，盤茶味，槃那寐，畔睇，畔彈南等。譯曰稽首及敬禮、度我。（中略）

行事鈔下三曰：「四分至上座前，脫革屣，偏袒右肩。合掌執兩足云我和尚南（義云度我）而作禮也。出要儀云：和南者，為恭敬也。聲論云：槃那寐，此翻為禮也。」

僧史略上曰：「若西域相見則合掌曰和

南，或曰盤茶味。」

玄應音義曰：「言和南者訛也，梵言煩淡，或言槃淡。此云禮也，或言歸命，譯人義安命字。」

《釋氏要覽》：稽首謂屈頭至地。故又稽謂首至地。稽留少時也。此即周禮九拜之初拜也。

939. 【至真】（科註第三五二頁第四行）

《佛學大辭典》：（雜語）如來離一切之虛偽，故曰至真。

行事鈔下之二曰：「南無如來無所著至真等正覺。」

940. 【勝鬘】<sup>〔音〕</sup>（音瞞）寶窟（科註第三五二頁

倒數第四行）

《佛光大辭典》：凡六卷。又作勝鬘經寶窟。隋代吉藏（五四九—六二三）撰，約成書於開皇十八年（五九八）前後。收於大正藏第三十七冊。係勝鬘經注疏中最詳盡之作。首先明示五玄義，即解釋經題、敘述緣起、辨別宗旨、闡明教之不同、論釋經之分齊等。其次以歎如來真實義功德、受十大受、無邊聖諦、自性清淨、勝鬘師子吼等十五章，闡論勝鬘經之要旨。

文中引載法華經、維摩經、大智度論等四十餘部經論，及藏外經典如像法決疑經，闡王懺悔經等；又引載各家之勝鬘經注疏要義，如梁武別釋、古注、古疏、注維摩，及曇林、僧肇、竺道生、曇影、菩提留支、江

南諸成實論師之教說。嘉祥大師吉藏乃我國三論宗之集大成者，其於本書卷末依經文中之「如來藏」所作之注，係闡明「真如緣起說」，古來即為三論宗所主張之緣起說。又魏晉南北朝時代所著有關勝鬘經之注疏多已散佚，現今唯有由本書略窺一二。「三論宗章疏」

941. 【空王佛】（科註第三五四頁第七行）

《佛學大辭典》：（佛名）過去世之一佛。空王為佛之總名，而今為一佛之名也。法華經說，釋尊與阿難共於空王佛所發心。

法華經人記品曰：「諸善男子，我與阿難等，於空王佛所，同時發阿耨多羅三藐三菩提心。阿難常樂多聞，我常勤精進。」

又，阿彌陀如來於因位為比丘時，與他三比丘共拜此佛之白毫相而成佛。見觀佛三昧經九。

往生要集中本曰：「五體投地，遍身流汗，歸命彌陀佛。念眉間白毫相，發露涕泣，應作此念：過去空王佛，眉間白毫相，彌陀尊禮敬，滅罪今得佛。我今禮彌陀佛，亦當復如是。」

942. 【蓮華生大士應化因緣經】（科註第三五四頁倒數第三行）

金剛上師諾那呼圖克圖不空海口授，三昧耶戒金剛阿闍黎蓮華正覺筆受。

（《序》：余僑渝三年，有求法者，輒舉蓮花生大士之法相授。多有以大士之族姓事迹為問者，恐

無以徵信而傳久遠，乃出大十聖迹功德記，口授其義，命人譯成漢文，仍附藏文於後，以存其真。

此記為西藏成佛喇嘛登裏勇眾冷把所造，述大士聖迹功德最為簡要。學者既得師傅，又能遵十日之教，精勤修持，則其感應成就無限量也。中華民國十八年夏曆五月既望，諾那呼圖克圖序於重慶。

943. 【行德】

(科註第三五五頁第八行)

《佛學大辭典》：(術語) 修行之功德。

944. 【寶刹】

(科註第三五五頁倒數第二行)

《佛學大辭典》：(雜名) 佛土之尊稱也。又為佛寺之美稱。刹者梵語 Kṣetra 之略，譯曰土田。莊嚴經下曰：「遍覆如來寶刹中。」

945. 【法華文句記】

(科註第三五五頁倒數第二

行)

《天台教學辭典》(節錄)：三十卷(或二十卷)。唐代湛然大師(七一—七八二)述。又稱「法華經文句記」、「妙法蓮華經文句記」、「文句記」、「法華文句疏」、「妙法蓮華經文句疏記」、「妙法蓮華經文句疏」、「天台法華疏記」、「妙樂記」。收在大正藏第三十四冊。

本書乃天台三大部中「法華文句」之注釋書，與「玄義釋籤」、「止觀輔行傳弘決」共為台宗之基本聖典。

「法華文句」原本僅將「法華經」略為分科，湛然大師詳加細分科段，並將智者大師釋意不明之處逐一解釋，如書中所論之今圓

昔圓之同異、修性之三因佛性等，可謂徹底之發揮台宗祖意。（中略）

又據本書作者寄語開元寺之大藏師，考其原本似為十卷。明萬曆（一五七三—一六一九）年中，真覺大師為檢尋方便，遂將「法華經」、「法華文句」、「法華文句記」三部會合。現行「法華文句會本」三十卷即是再刻本。

946. 【刹】（科註第三五五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：梵名，Kṣetra，掣多羅，差多羅，訖差怛羅，刹摩等。譯曰土田，國，處。

大乘義章十九曰：「刹者，是其天竺人語，此方無翻，蓋乃處處之別名也。」

玄應音義一曰：「刹又作擦，音察，梵云差多羅，此譯云土田。經中或言國，或言土者，同其義也。或作刹土者，存二音也。即刹帝利名守田主，亦是也。」

慧苑音義上曰：「刹，具正云訖差咀羅，此曰土田也。」

法華文句記二曰：「刹者應云刹摩，此云田，即一佛所王土也。」

947. 【佛土】（科註第三五五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）佛所住之國土，佛所化之領土也。有淨土、穢土、報土、法性土等之別。

法華經方便品曰：「十方佛土中，唯有一乘法。」

大乘義章十九曰：「安身之處號之為土，約佛辨土名為佛土。」

948. 【佛國】（科註第三五五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）佛所住之國土，又佛所化之國土也。淨土固為佛國，穢土就佛之所化，亦可云佛國，如娑婆世界為釋迦如來之佛國。

維摩經嘉祥疏一曰：「淨穢等土無非佛國，若言淨土但得淨不兼穢。」

大乘義章十九曰：「言佛國者，攝人之所，目之為國，約佛辨國，故名佛國。」

949. 【袈裟】（科註第三五六頁第六行）

《翻譯名義集》（節錄）：具云迦羅沙<sub>yè</sub>曳<sub>ㄨㄟ</sub>（音頁），此云不正色，從色得名。章服儀

云：袈裟之目，因於衣色，如經中壞色衣也。會正云：準此，本是草名，可染衣，故將彼草，目此衣號。

十誦以為<sub>ㄉㄨ</sub>敷<sub>ㄉㄨ</sub>（音夫）具，謂同<sub>zhān</sub>氈<sub>ㄓㄢ</sub>（音沾。加工羊毛或其他動物毛而成的塊片狀材料）席之形。四分以為臥具，謂同衾（音欽，被子）被之類。薩婆多（即十誦律）云：臥具者，三衣之名。大淨法門經云：袈裟者，晉名去穢。大集經名離染服，賢愚經名出世服。

真諦雜記云：袈裟是外國三衣之名，名含多義。或名離塵服，由斷六塵故；或名消瘦服，由割煩惱故；或名蓮華服，服者離著故；或名間色服，以三如法色所成故。言三

色者，律有三種壞色：青、黑、木蘭。青謂銅青，黑謂雜泥，木蘭即樹皮也。業疏云：聽以刀截，成沙門衣，不為怨賊所剝故。

《佛學大辭典》（節錄）：（衣服）具名迦沙曳 *Kaśāṭya*，譯曰不正、壞、濁、染等。又與加沙野之語同。譯曰赤色。比丘之法衣有大中小三件，避青黃赤白黑之五正色，而用他之雜色，故從色而云袈裟。其形為長方形，故從形而云敷具，臥具等。其相割截小片，zhuì 壯去綴（音墜。縫合也）合如田pàn 旁畔（音盼。田界也），故從相而云割截衣，又云田相衣。其他有道服，法衣，忍辱鎧，解脫幢相等種種之德名。大中小三枚之別名，其小者曰安陀會，又云五條，其中者曰yù 鬱鬱（音玉）多羅

僧，又云七條，其大者云僧伽梨，又云九條大衣等。天竺於此三枚袈裟外無所謂衣者。支那（指中國）日本氣候寒故於裹著衣，而掛於表也。天竺於五條上重著七條或大衣，或於五條七條上重著大衣，此方則不必重著，裹有衣也。其色有三如法色，其中通常天竺用乾陀（褐色），支那用木蘭色（赤黑色），日本用香染（黃中帶赤，或稱茶褐色）。即赤而帶黑者。（參見「三衣」632）

950. 【偏袒右肩】（科註第三五六頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）掛袈裟而偏袒tǎn 坦袒（音坦。露出身體的一部分）右肩，是表比丘恭敬尊者之相也。

釋氏要覽曰：「律云：一切供養，皆偏

袒，示有便於執作也。」

法華經曰：「偏袒右肩，右膝著地。」

951. 【長跪】（科註第三五六頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）兩膝據地，兩脛上空，兩足指頭柱地，挺身而立，經文或曰胡跪（單膝著地）。佛使丈夫互跪，使尼眾長跪，以女子體弱，長跪較互跪為易也。

釋門歸敬儀下曰：「僧是丈夫，剛幹事立，故制互跪。尼是女弱，翹苦易勞，故令長跪。兩膝據地，兩脛翹空，兩足指柱地，挺身而立者也。」

寄歸傳一曰：「言長跪者，謂是雙膝踞地，豎兩足以支身，舊云胡跪者非也。五天皆爾，何獨道胡？」

釋氏要覽中曰：「長跪即兩膝著地，亦先下右膝為禮。」

○互跪：（雜語）左右兩膝，互著地而跪於地也。是乃梵土通俗之敬相，故因之又稱胡跪。此中佛法為左跪，即以右膝著地為通相，行事久時則交互而跪。歸敬儀曰：「言互跪者，左右兩膝交互跪地，此誦有所啟請悔過授受之儀也，佛法順右。」又曰：「經中以行事經久，苦弊集身。左右兩膝，交互而跪。」

952. 【大寂定】（科註第三五七頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）或曰大寂室三昧。或曰大寂靜妙三摩地。如來所入之禪定也。離一切散動，究竟寂靜。謂之大寂。梵

語曰三昧或三摩地，譯為定。

如來會曰：「世尊今日入大寂定，行如來行。」

舊譯仁王經上曰：「初年月八日，方坐十地入大寂室三昧。」

新譯仁王經上曰：「爾時世尊，初年月八日，入大寂靜妙三摩地。」

涅槃經三十曰：「我於此間娑羅雙樹入大寂定，大寂定者名大涅槃。」

953. 【《法華提婆品》】（科註第三五七頁倒數第二行）

《妙法蓮華經》之第十二品，具名《提婆達多品》。

《佛學大辭典》「提婆達多品」條：（經名）法華經卷五最初之品名。記釋迦如來往

昔為聞法華經，奉事今提婆達多前身阿私仙人之事。又記提婆達多今雖為三逆罪，在無間地獄，然後來成佛，號天王如來，及八歲龍女依文殊菩薩之化導，於南方無垢世界現身成佛。於一經中為功德最勝之經文。

954. 【龍女成佛】（科註第三五七頁倒數第二行）

《天台教學辭典》：八歲龍女，由于受持「法華經」功德而即身成佛。據「法華經」卷四提婆達多品：龍女即娑婆竭羅龍王之女，年甫八歲，智慧猛利，諸佛所說甚深祕藏悉能受持，更于剎那頃，發菩提心，得不退轉！復以一寶珠獻佛，以此功德願力，忽轉女成男，具足菩薩行。剎那頃住于南方無垢世界，坐寶蓮華中，成正等覺，具足三十二

相、八十種好，廣為人天說法，娑婆世界之菩薩、聲聞、天龍八部、人、非人等，皆遙見而歡喜敬禮！

蓋古印度之女人地位甚低，小乘佛教認為女身垢穢，不能成佛，此與大乘佛教所論：眾生皆可成佛之思想衝突，故佛典中乃有女人可轉變男身成佛說。「龍女成佛」明示大乘佛教，在修理論方面之發展。「須摩提菩薩經、海龍王經卷三女寶錦受決品、菩薩處胎經卷七、法華經玄義卷五上、法華經文句卷八」

《佛學大辭典》「龍女」條：（異類）娑

竭羅龍王 Sāgara-nāgarāja 之女，八歲，詣靈鷲鷲（音就）山，現成佛之相。法華經提婆

品曰：「爾時文殊師利坐千葉蓮華，大如車輪。俱來菩薩亦坐寶蓮華，從大海娑竭羅龍宮，自然涌出，住虛空中。詣靈鷲山，從蓮華下，至佛前，頭面敬禮二世尊（釋迦與多寶）足。「中略」智積菩薩問文殊師利言：此經甚深微妙，諸經中寶，世所希有，眾生勤加精進，修行此經，有速得佛者否？文殊師利言有。娑竭羅龍王女，年始八歲，智慧利根，善知眾生諸根行業，得陀羅尼。諸佛所說甚深秘藏，悉能受持，深入禪定，了達諸法，於剎那頃，發菩提心，得不退轉。

〔中略〕智積菩薩言：我見釋迦如來於無量劫難行苦行，積功累德，求菩提道，未曾止息。「中略」然後乃得成菩提道。不信此女

於須臾頃，便成正覺。言論未訖時，龍王女忽於現前，頭面禮敬。〔中略〕爾時舍利弗語龍女言：謂汝不久得無上道，是事難信，所以者何？女身垢穢，非是法器。云何能得無上菩提？佛道懸曠，經無量劫，勤苦積行，具修諸度，然後乃成。又女人身猶有五障。〔中略〕云何女身速得成佛？爾時龍女有一寶珠，價直三千大千世界，持以上佛。佛即受之。龍女謂智積菩薩尊者舍利弗言：我獻寶珠，世尊納受，此事疾不？答言甚疾。女言以汝神力，觀我成佛，復速於此。當時眾會皆見龍女忽然間變為男子，具菩薩行，即往南方無垢世界，坐寶蓮華，成等正覺，三十二相，八十種好，普為十方一切眾

生演說妙法。」

955. 【《十住斷結經》】（科註第三五九頁倒數第二行）

《最勝問菩薩十住除垢斷結經》之略名。

姚秦涼州沙門竺佛念譯。十二卷（或十四卷），凡三十三品。

956. 【《華首經》】（科註第三五九頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（經名）華手經之異名。

957. 【《佛報恩經》】（科註第三五九頁倒數第一行）

即《大方便佛報恩經》。（參見「《報恩經》」

576）

958. 【《倫匹》】（科註第三六〇頁第五行）

《漢語大詞典》：類比、比並。

959. 【《光瑞》】（科註第三六一頁第六行）

《佛學大辭典》：（雜名）佛將說妙法，現種種之祥瑞其中多放光而照眾機之瑞，是云光瑞。

法華經序品曰：「我見燈明佛本光瑞如此。」

無量壽如來會曰：「世尊！我見如來光瑞希有。」

960. 【善哉】（科註第三六二頁第六行）

《佛學大辭典》：（雜語）梵語娑度 Sadhu，義譯曰善哉。稱讚之辭也。

法華經方便品曰：「梵音慰喻我，善哉釋迦文！」同譬喻品曰：「善哉善哉！如汝所言。」

智度論曰：「歡喜讚言，善哉善哉！再言

之者，喜之至也。」

勝 mán 鬘 ṛṣ（音瞞）寶窟中本曰：「善是好別稱，哉是助語之辭。」

法華玄贊四曰：「法爾隨喜，皆云善哉。」寄歸傳三曰：「娑度，義曰善哉。」

961. 【四大洲】（科註第三六三頁第六行）

《佛學大辭典》「四洲」：（名數）住須彌山四方鹹海之四大洲也。

一南瞻部洲 Jambudvīpa，舊云南閻浮提。或從林立號，或以果立名。

二東勝神洲，梵云東毘提訶 Pūrvavidaha，舊云東弗婆提。為身形勝故，名為勝身。

三西牛貨洲，梵云西瞿陀尼，舊云西瞿耶尼 Aparagodāniya，為貿易牛故，名為牛貨。

四北瞿盧洲 Uṭarakuru，舊云北鬱單越，譯曰勝處。於四洲中國土最勝，故名勝處。見西域記一，俱舍光記八。

962. 【yuān 娟ㄩㄢ ㄌㄩㄢˊ】飛ㄉㄨ蠕ㄨ（音淵）動】（科註第三六三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（雜名）娟飛者飛蟲也。蠕動者qū蛆ㄑㄩ ㄑㄩ（音屈）蟲也。

過度人道經曰：「諸天人民娟飛蠕動之類。」

龍舒淨土文二曰：「娟飛謂微細飛蟲也，蠕動謂微細蛆蟲也，若此者佛尚化度，況於人乎？」

963. 【劫】（科註第三六三頁倒數第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）梵語劫

bō簸ㄅㄛˋ劫ㄑㄧㄝˊ之略。譯言分別時節。通常年月日時不能算之遠大時節也。故又譯大時。（中略）

劫有二種：一名器世間，就世界成壞而立之數量也。如成劫壞劫增劫減劫等名。

祖庭事苑曰：「日月歲數謂之時，成住壞空謂之劫。」

二名歲數劫，算晝夜日月之數量者。

法華論曰：「示現五種劫：一者夜，二者晝，三者月，四者時，五者年。」

智度論三十八曰：「有人言：時節歲數名為小劫，如法華經中，舍利弗作佛時，正法住二十小劫，像法住二十小劫。」

964. 【矜哀】（科註第三六五頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）jin 矜（音今）者憐也。憐愍眾生之意。

965. 【三界】（科註第三六五頁第六行）

《三藏法數》：「出華嚴孔目」界，限也、別也。謂三界分限各別不同，故名界也。

一、欲界：欲有四種：一者情欲，二者色欲，三者食欲，四者姪欲。下極阿鼻地獄，上至第六他化天，男女相參，多諸染欲，故名欲界。（梵語阿鼻，華言無間。第六他化天者，假他所化而自娛樂也。）

二、色界：色即色質（物質），謂雖離欲界穢惡之色，而有清淨之色，始從初禪梵天，終至阿迦膩吒（音逆）zhā 吒（音扎）天，

凡有一十八天，並無女形，亦無欲染，皆是化生，尚有色質，故名色界。（梵語阿迦膩吒，華言質礙究竟。一十八天者，梵眾天、梵輔天、大梵天、少光天、無量光天、光音天、少淨天、無量淨天、遍淨天、無雲天、福生天、廣果天、無想天、無煩天、無熱天、善見天、善現天、色究竟天也。）

三、無色界：謂但有心識而無色質也。始從空處，終至非非想處，凡有四天。但有受想行識四心，而無形質，故名無色界。（四天者，空無邊處天、識無邊處天、無所有處天、非非想處天也。）

966. 【正道】（科註第三六六頁第一行）

《三藏法數》：謂佛所說之經，旨意深

奧，無作無為，無行無得，自然合道，是為正道。

967. 【《六要》】（科註第三六六頁倒數第二行）

即《教行信證六要鈔會本》。日本存覺上人著，為親鸞大師《教行信證》之權威注解。

968. 【真實五願】（科註第三六六頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「六法五願」條：（名數）真宗（日親鸞為其宗祖。日本二十宗之一）於教行信證真佛真土之六法，配彌陀四十八願中之五願而呼之。

教為能詮之法，故不別配一願。行為第十七願之名號。信為第十八願之三信。證為第十一願必至滅度之證果。真佛真土由第十二

光明無量與第十三壽命無量之願而成就。故為六法五願。（此五願名稱，出魏譯之《無量壽經》，對應於會集本，則依次為第十二定成正覺願、第十三光明無量願、第十五壽命無量願、第十七諸佛稱歎願及第十八十念必生願。）

969. 【教行信證】（科註第三六七頁第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：日本真宗所立四法之名。於教行證三法之外，復立信之一法，示真宗之法門，獨以信心為最要者。教指無量壽經，行指南無阿彌陀佛，信為信南無阿彌陀佛之信心，證者往生極樂，得涅槃之證果也。

970. 【權大乘】（科註第三六七頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）大乘之中，分權

實之二，立一切皆成佛之宗，為實大乘，不然者為權大乘。蓋華嚴天台等為實大乘，法相三論為權大乘也。但此判為華嚴天台自己所說，而法相三論無首肯者。

《天台教學辭典》（節錄）：大乘教中權巧方便教法，為「實大乘」之對稱。又云權教大乘、大乘權教。即順機應情而方便宣說、未真實之大乘。

971. 【實大乘】（科註第三六七頁第四行）

《佛學大辭典》「實大乘教」條：（術語）不帶權方便之大乘教也。言天台，華嚴，真言，禪等。（參見「權大乘」970）

972. 【優曇曇トウ花】（音談）（科註第三六九頁第三行）

《佛學大辭典》「優曇華」條（節錄）：

（植物）即優曇。亦名優曇鉢華。按此花為無花果類。產於喜馬拉耶山麓トウ（音路。山脚下）及德干高原，錫蘭等處。幹高丈餘。葉有二種：一平滑，一トウ麤トウ（音粗）糙。皆長四五寸，端尖，雌雄異花，甚細，隱於壺狀凹陷之花托中。常誤以為隱花植物。花托大如拳，或如拇指，十餘聚生。可食而味劣，世稱三千年開化一度。值佛出世始開。

南史曰：「優曇華乃佛瑞應，三千年一現，現則金輪出世。」故今稱不出世之物曰曇花一現，本此。

973. 【《般涅槃經》】（科註第三六九頁第四行）

此指《佛般泥洹經》。

《佛學大辭典》「佛般泥洹經」條：（經

名)二卷，西晉白法祖譯。記佛入涅槃事，與長阿含遊行經同本。(《科註》中所引內容，出自《佛般泥洹經》卷下。)

974.【《文殊現寶藏經》】(科註第三六九頁第五行)

《佛學大辭典》「文殊師利現寶藏經」條：(經名)一卷，西晉竺法護譯。大方廣

寶篋くわ(音切)經之異譯。

975.【《出曜やく(音要)經》】(科註第三六九頁第五行)

《佛光大辭典》：凡三十卷(或二十卷)。尊者法救(梵 Dharmarāja)造，姚秦竺佛念譯。書成於東晉永和六年至義熙十三年(三五〇—四一七)之際。又稱出曜論。收於大正藏第四冊。係由佛教教訓式偈頌及其注釋之故事合輯而成，凡三十四品。出

曜，舊名譬喻(梵 Avadāna，音譯阿波陀那)，即十二部經之第六，指為助於理解教理，以譬喻或寓言說明之部分。全經透過譬喻來解說人生無常，以修行戒、定、慧積集善根而達到解脫之道理，內容與法句經相近。

出曜經卷六(大四·六四三下)：「所謂出曜者，從無常(本經之第一品)至梵志(本經之最後品)，採眾經之要藏，演說布現，以訓將來，故名出曜。」〔出三藏記集卷二、開元釋教錄卷四〕

976.【本地身】(科註第三七〇頁第五行)

見「本地」648。

977.【《最勝王經壽量品》】(科註第三七一頁第一行)

《金光明最勝王經》之第二品，具名《如來壽量品》。

《佛學大辭典》「金光明最勝王經」條：

（經名）十卷，唐義淨譯。為金光明三譯中最後出而最完備者。常略名最勝王經。唐慧沼有疏十卷。

978. 【三無漏學】（科註第三七二頁第一行）

《佛學大辭典》：（名數）戒定慧之三學，在凡夫之身為有漏，在聖者之身為無漏。

楞嚴經六曰：「攝心為戒，因戒生定，因定發慧，是則名為三無漏學。」

《佛學次第統編》：戒定慧三學，總稱三無漏學。此三無漏學，為如來立教之大要。然非戒無以生定，非定無以生慧，三法相

資，一不可缺，而皆稱為無漏學者。若依此而修學，必斷見思煩惱，而證無漏聖果也。

979. 【遊戲神通】（科註第三七二頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）佛菩薩游於神通，化人（度化眾生）以自娛樂，曰遊戲。又戲者自在之義，無礙之義。

智度論七曰：「戲名自在，如師子在鹿中自在無畏，故名為戲。」

註維摩經五曰：「什曰：神通雖大，能者易之。於我無難，猶如戲也。肇（音照）

曰：遊通化人，以之自娛。」同慧遠疏曰：「於神通中歷涉為遊，出入無礙，如戲相似，故亦名戲。」同嘉祥疏曰：「外道二乘，神通即有礙，不名遊戲。今菩薩無礙，云戲

也。」

980. 【嚴飾】（科註第三七二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（雜語）同於莊嚴。法華經序品曰：「嚴飾國界。」

981. 【淨土三經】（科註第三七六頁第四行）

《佛學大辭典》：淨土宗所依據的三部經典，即無量壽經、觀無量壽經、阿彌陀經。

### ◎ 法藏因地第四

982. 【無央數劫】（科註第三七八頁第五行）

《佛學大辭典》：（雜語）央者盡也，無盡數之劫也，劫者極長時之名，記世界成壞之時節數目也。

無量壽經上曰：「無央數劫，積功累德。」

法華經見寶塔品曰：「此佛滅度無央數劫。」

983. 【常樂我淨】（科註第三七九頁第三行）

《三藏法數》「佛四德」條：〔出涅槃經〕四德者，如來所證常樂我淨之德也。謂如來心體本空，應用無染，離凡夫、二乘、菩薩偏邪之顛倒，故稱為德。（二乘者，聲聞乘、緣覺乘也。）

一、常德：常者，不遷不變之謂也。性體虛融，湛然常住，歷三世而不遷，混萬法而不變，故名常德。（三世者，過去、現在、未來也。）

二、樂德：樂者，安隱寂滅之謂也。離生死逼迫之苦，證涅槃寂滅之樂，故名樂德。

（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

三、我德：我者，自在無礙之謂也。然有妄我、真我。若外道、凡夫於五陰身強立主宰，執之為我，乃是妄我。若佛所具八自在，稱為我者，即是真我，故名我德。（五陰者，色陰、受陰、想陰、行陰、識陰也。八自在我者，一能示一身以為多身，二示一塵身滿大千界，三大身輕舉遠到，四現無量類常居一土，五諸根互用，六得一切法如無法想，七說一偈義經無量劫，八身遍諸處猶如虛空也。）

四、淨德：淨者，離垢無染之謂也。無諸惑染，湛然清淨，如大圓鏡，了無xiān<sup>T</sup><sub>z</sub>纖（音先，微細也）yì<sup>翳</sup>（音易，障蔽也），故名淨

德。

《佛學大辭典》「四德」條（節錄）：（名數）大乘大般涅槃所具之德也。

一常德，涅槃之體，恆不變而無生滅，名之為常，又隨緣化用常不絕，名之為常。

二樂德，涅槃之體，寂滅永安，名之為樂，又運用自在，所為適心，名之為樂。

三我德，解我有二種：一就體自實名為我，如涅槃經哀嘆品中所謂：「若法是實是真是主是依，性不變易是名為我。」二就自在名為我，如涅槃經高貴德王品所謂：「有大我故名大涅槃，大自在故名為大我。云何名為大自在耶？有八自在則名為我。」

四淨德，涅槃之體解脫一切之垢染，名之

為淨，又隨化處緣而不污，名之為淨（大乘義章十八）。

984. 【《yīng瓔z（音英）luò珞（音洛）經》】（科註第三七九頁第七行）

即《菩薩瓔珞本業經》之略名。攝於大乘律部。

《佛學大辭典》「菩薩瓔珞本業經」條：（經名）二卷，姚秦竺佛念譯。說四十二位之名義行業及菩薩戒等。

985. 【《涅槃梵行品》】（科註第三七九頁倒數第三行）  
《大般涅槃經》之第八品。

986. 【報身】（科註第三七九頁倒數第二行）  
如來三身之一。

《佛學大辭典》「法報應三身」條（節

錄）：報身，報因行功德而顯佛之實智也。二分之，自受內證法樂之身，名為自受用報身。對於初地已上菩薩應現之報身。名為他受用報身。此與應中之勝應身，同體異名。

（參見「三身」240）

987. 【應身】（科註第三七九頁倒數第一行）

如來三身之一。

《佛學大辭典》「法報應三身」條（節錄）：應身，又曰應化身。自理智不二之妙體，為化度眾生應現種種之身也。亦二分。對於初地菩薩應現者。名為勝應身。即上之他受用報身也。應現於地前凡夫及二乘者。名為劣應身。釋迦如來之丈六身是也。

（參見「三身」240）

普為出資及讀誦受持  
輾轉流通者迴向偈曰

願以此功德

消除宿現業

增長諸福慧

圓成勝善根

所有刀兵劫

及與饑饉等

悉皆盡滅除

人各習禮讓

讀誦受持人

展轉流通者

現眷咸安樂

先亡獲超昇

風雨常調順

人民悉康寧

法界諸含識

同證無上道

*This book is for free distribution. It is not for sale.*

# 淨土大經科註參考資料

若發現本書有錯、漏、不足處，

敬請反映至：[amb@amb.tw](mailto:amb@amb.tw)

出版者：香港佛陀教育協會

地址：香港九龍尖沙咀漢口道39-41號

麥仕維中心7樓、9樓。

電話：(852) 2314-7099

傳真：(852) 2314-1929

E-mail：[ambhk1@budaedu.org.hk](mailto:ambhk1@budaedu.org.hk)

[www.amb.tw](http://www.amb.tw)

[www.amb.cn](http://www.amb.cn)

淨空法師 [www.hwadzan.tw](http://www.hwadzan.tw)

影音網址 [www.chinkung.org](http://www.chinkung.org)



淨土大經科註參考資料

下冊

淨土時年八十七





988. 【轉法輪論】（科註第三七九頁倒數第一行）

即《轉法輪經論》，又名《轉法輪經優婆提舍》。

《佛學大辭典》「轉法輪經優婆提舍」

條：（書名）一卷，天親菩薩造，元魏毘目智仙譯。是為解大乘之轉法輪經者。

989. 【天臺壽量品疏】（科註第三八〇頁第二行）

即《妙法蓮華經文句》卷九之《釋壽量品》。（《科註》所引內容，出自《法華文句》卷九。）

990. 【如如境】（科註第三八〇頁第二行）

《三藏法數》：謂真如妙境，常住一相，量等虛空，不遷不變，無滅無生，以其境如如智，故名如如境。

《佛學大辭典》：（術語）如如之理體為

如如智所契之境者。

991. 【因行】（科註第三八〇頁倒數第三行）

因位之修行。

992. 【維摩經zhào 音肇音照註】（科註第三八〇頁倒數第二行）

《佛光大辭典》「注維摩詰經」條（節

錄）：凡十卷。後秦僧肇撰。全稱維摩詰所說經注。又作注維摩、註維摩、注維摩經、淨名集解。收於大正藏第三十八冊。鳩摩羅什譯出維摩經之後，僧肇遂根據其師之說與道生、道融之說而發抒己見，闡釋維摩經之旨意，完成此書，成為我國佛教思想界極具影響力之書。

本書卷首所附僧肇之序文敘述「本」、「迹」之觀點，以洞察維摩經之本義，並將法華經等之深奧教理相通互會。本文內容係依經文先後加以解釋，而為我國注解維摩經之始。其後，智顛<sup>一</sup>（音乙）之維摩經玄疏六卷、文疏二十八卷，與隋代慧遠之維摩經義記八卷、吉藏之維摩經義疏八卷、略疏五卷等，均為根據維摩經所作之研究書，亦皆以本書為藍本而成。

993. 【明行足】（科註第三八一頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）佛十號之一。

梵名<sup>二</sup>婢<sup>三</sup>（音必）<sup>四</sup>侈<sup>五</sup>（音尺）遮羅那三般那  
Vidyā-carāṇa-saṃpanna。依涅槃經之說，明  
者，阿耨多羅三藐三菩提也，行足者，腳足

之義，指戒定慧言。佛依戒定慧之腳足而得阿耨多羅三藐三菩提，故名明行足。又依智度論之說，明者宿命，天眼，漏盡之三明也，行者身口意之三業也，足者滿足之義。三明者，滿足身口意之三業，故名明行足。涅槃經十八曰：「明者，名得無量善果，行名腳足。善果者，名阿耨多羅三藐三菩提。腳足者，名為戒慧。乘戒慧足得阿耨多羅三藐三菩提，是故名明行足也。」

智度論二曰：「婢侈遮羅那三般那，秦言明行足。云何名明行足？宿命，天眼，漏盡，名為三明。〔中略〕行名身口意業，唯佛身口意具足。餘皆有失，是故名明行足。」  
994. 【信解行證】（科註第三八一頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）是佛道之一期也，先信樂其法，次了解其法，依其法而修習其行，終證得其果也。

《三藏法數》「華嚴四分」條：〔出法寶標目〕

一、信分：謂第一會菩提場中，說世主妙嚴品至毘盧遮那品，名舉果勸樂生信分，蓋舉揚如來依正二報難思之果，勸勵當機聞而樂欲生其淨信，故名信分。（梵語菩提，華言道。梵語毘盧遮那，華言徧一切處。依正二報者，身為正報，國土是依報也。）

二、解分：謂第二會普光明殿，說十信法；第三會忉利天宮，說十住法；第四會夜摩天宮，說十行法；第五會兜率陀天宮，說

十回向法；第六會他化自在天宮，說十地法；第七重會普光明殿，說十定等法，名修因契果生解分。蓋進修六位之圓因，契證十身之妙果，令生勝解，故名解分。（十信者，信心、念心、精進心、慧心、定心、不退心、護法心、回向心、戒心、願心也。十住者，發心住、治地住、修行住、生貴住、方便具足住、正心住、不退住、童真住、法王子住、灌頂住也。十行者，歡喜行、饒益行、無瞋恨行、無盡行、離癡亂行、善現行、無著行、尊重行、善法行、真實行也。十回向者，救一切眾生離眾生相回向、不壞回向、等一切佛回向、至一切處回向、無盡功德藏回向、隨順平等善根回向、隨順等觀

一切眾生回向、真如相回向、無縛解脫回向、法界無量回向也。十地者，歡喜地、離垢地、發光地、焰慧地、難勝地、現前地、遠行地、不動地、善慧地、法雲地也。十定者，普光大三昧、妙光大三昧、次第徧往諸佛國土大三昧、清淨深行人大三昧、知過去莊嚴藏大三昧、智光明藏大三昧、了知一切世界佛莊嚴大三昧、眾生差別身大三昧、法界自在大三昧、無礙輪大三昧也。六位者，十住、十行、十回向、十地、等覺、妙覺也。十身者，菩提身、願身、化身、力持身、相好莊嚴身、威勢身、意生身、福德身、法身、智身也。）

三、行分：謂第八會普光明殿普賢說離世

間一品，具二千行法，名託法進修成行分。蓋於差別因果之法既生解已，今乃寄託前法，攝解成行；隨舉一行，六位頓修，故名行分。（二千行法者，即普慧菩薩二百問，普賢菩薩二千答是也。）

四、證分：謂第九會逝多林說入法界品，名依人證入成德分。蓋由前大行既具，隨事顯理，而善財童子歷事善知識，隨所見聞，無不證入，故名證分。（梵語逝多，華言勝林。）

995. 【善逝】（科註第三八一頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）梵名須伽陀 Sūgata，譯曰善逝，又曰好去。諸佛十號之

一。十號之第一曰如來，第五曰善逝。如來

者，乘如實之道而善來娑婆界之義；善逝者，如實去彼岸不再退沒生死海之義，以此二名顯來往自在之德。

智度論二曰：「佛一切智為大車，八正道行人涅槃，是名好去。」

大乘義章二十末曰：「言善逝者，此從德義以立其名。善者名好，逝者名去，如來好去，故名善逝。」

菩薩持地經一曰：「第一上昇，永不復還，故名善逝。」（第一為涅槃）。

996. 【三摩提】（科註第三八一頁倒數第二行）見「三摩地」866。

997. 【大般涅槃】（科註第三八一頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語摩訶般涅

槃那 Mahāparinirvāṇa，譯言大人滅息，或大滅度，大圓寂入等。大者美滅德之稱，滅者，滅煩惱滅身心之義，息者安息之義，度者，超度生死之義，圓寂者圓滿功德寂滅相累之義，入者歸於滅也。

大乘義章十八曰：「摩訶般涅槃那，磨訶為大，大義有六。〔中略〕槃，此翻為人，人義有三。〔中略〕涅槃，此翻為滅，滅煩惱故滅生死故名之為滅，離眾相故大寂靜故亦名為滅。那者名息，究竟解脫永蘇息故。息何等事？息煩惱故，息生死故，又息一切諸行事故。」

涅槃玄義上曰：「摩訶此翻為大，般涅此翻為滅，槃那此翻為度，是為大滅度也。」

四教儀集註上曰：「大即法身，滅即解脫，度即般若，即三德秘藏也。」

華嚴經疏鈔五十二曰：「疏涅槃正名為滅，取其義類乃有多方，總以義翻稱為圓寂，以義滿法界德備塵沙曰圓，體窮真性妙絕相累為寂。鈔梵云摩訶般涅槃那，具翻為大圓寂人，謂那即入義，應迴在人。〔中略〕總以義翻者即唐三藏等，在義周圍。」

998. 【劫盡火】（科註第三八二頁第四行）

《佛學大辭典》：（雜名）劫末燒盡世界之火。

六十華嚴經二十三曰：「若人堪任聞，雖在於大海及劫盡火中，必得聞此經。」

999. 【世間解】（科註第三八二頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）佛十號之一。梵語曰路迦憊 Lokavid，或譯知世間。又譯世間解。知世間有情非情之事也。

智度論二曰：「路迦憊，路迦秦言世，憊<sup>bei</sup>（音倍）名知，是名知世間。知二種世間：一眾生，二非眾生。」

淨影大經疏曰：「世間解者，是化他智。善解世間，名世間解。」

1000. 【無上士】（科註第三八二頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）Anuttara，佛十號之一。無上之士夫也，人中最勝無有過之者，故云無上士。

涅槃經曰：「有所斷者名有上士。無所斷者名無上士。」

涅槃經八曰：「如來者，名無上士。譬如人身頭最無上，非餘肢手足等也。佛亦如是，最為尊上，非法僧也。」

智度論二曰：「涅槃法無上，佛自知之。

〔中略〕如諸法中涅槃無上，眾生中亦無上。」

大乘義章二十末曰：「士者，人之別稱，人中最勝。餘不能加，名無上士。」

1001. **【調御丈夫】**（科註第三八三頁第三行）

《三藏法數》：謂具大丈夫力用，而說種種諸法，調伏制御一切眾生，令離垢染，得大涅槃，故號調御丈夫。（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

《佛學大辭典》：（術語）佛十號之一。

梵語，富樓沙曇藐婆羅提 Puruṣa-dāmya-srāhi，佛能調御一切可度之丈夫，使人修道也，佛雖亦化女人，今從尊而唯謂為丈夫。

智度論二曰：「復名富樓沙曇藐婆羅提，富樓沙秦言丈夫，曇藐秦言可化，婆羅提秦言調御師，是名可化丈夫調御師。佛以大慈大悲大智故，有時軟美語，有時苦切語，有時雜語，以此調御令不失道。〔中略〕問曰：女人佛亦化令得道，何以獨言丈夫？答曰：男尊女卑故，女從男故，男為事業主故。」

1002. **【丈夫】**（科註第三八三頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）勇健之人。勇

進正道修行不退者。

《三藏法數》「世間七丈夫」條：〔出華嚴經疏〕謂能制心離欲，身無過惡，心懷道德，修諸梵行，具此七法，名為世間丈夫也。（梵行，即淨行也。）

一、長壽：長壽者，謂壽命延長，久住世間，能修梵行，故名丈夫。

二、妙色：妙色者，謂形儀英偉，色相端嚴，能修梵行，故名丈夫。

三、無病：無病者，謂宿福深厚，無病少惱，能修梵行，故名丈夫。

四、非半擇迦：梵語半擇迦，華言變。謂有能變男女之形，即五種不男之一也。今言非者，非是不男，非僕非女，能修梵行，故

名丈夫。

五、智慧：智慧者，謂有智慧，信受正法，身心猛利，能修梵行，故名丈夫。

六、威肅：威肅者，謂威容整肅，發言人所信服，能修梵行，故名丈夫。

七、大宗葉：大宗葉者，謂其家世貴盛，宗支奕葉（奕葉，累世，代代。奕，音易），流芳永久，能修梵行，故名丈夫。

1003. 【天人師】（科註第三八三頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（傳說）如來十號之一。梵語曰舍多提婆摩菟菟交（音兔）舍喃 śāstā devamanuṣyaśāstri，為天與人之教師，故名天人師。

智度論二曰：「復名舍多提婆摩菟舍喃。

舍多秦言教師，提婆言天，摩菟舍喃言人，是名天人教師。云何名天人教師？佛示導是應作是不應作，是善是不善，是人依教行，不捨道法，得煩惱解脫報，是名天人師。問曰：佛能度龍神等墮餘道中生者，何獨言天人師？答曰：度餘道中生者少，度天人中生者多。」

1004. 【佛】（科註第三八三頁倒數第二行）

《三藏法數》：佛，梵語具云佛陀，華言覺。覺具三義：一者自覺，謂悟性真常，了惑虛妄；二者覺他，謂運無緣慈，度有情眾；三者覺行圓滿，謂歷劫修因，行滿果圓，是名為佛。（無緣慈者，謂無心攀緣一切眾生而能自然現益也。）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）Buddha，佛陀之略，又作休屠、佛陀、浮陀、浮圖、浮頭、勃陀、勃<sup>ト</sup>駄（音陀）、部陀、母陀、沒駄。譯言覺者，或智者。覺有覺察覺悟之二義，覺察煩惱，使不為害，如世人之覺知為賊者，故云覺察，是名一切智。覺知諸法之事理，而了了分明，如睡夢之寤，謂之覺悟，是名一切種智。自覺復能覺他，自他之覺行窮滿，名為佛。自覺者，簡於凡夫，覺他者簡於二乘，覺行窮滿，簡異於菩薩。何則？以凡夫不能自覺，二乘雖自覺而無覺他之行，菩薩自覺覺他而覺行未為圓滿故也。又以知者既具足二智而覺知一切諸法，了了分明故也。（中略）

佛地論一曰：「於一切法，一切種相，能自開覺，亦開覺一切有情。如睡夢覺醒，如蓮華開，故名佛。」

智度論二曰：「佛陀秦言知者，有常無常等一切諸法，菩提樹下了了覺知，故名佛陀。」同七十曰：「佛名為覺，於一切無明睡眠中最初覺故，名為覺。」

法華文句一曰：「西竺言佛陀，此言覺者、知者，對迷名知，對愚名覺。」

大乘義章二十末曰：「佛者就德以立其名，佛是覺知，就斯立稱。覺有兩義：一覺察，名覺，如人覺賊。二覺悟，名覺，如人睡寤。覺察之覺對煩惱障，煩惱侵害事等如賊，唯聖覺知不為其害，故名為覺。涅槃

云：如人覺賊，賊無能為，佛亦如是。覺悟之覺對其知障，無明昏寢事等如睡，聖慧一起，朗然大悟，如睡得寤，故名為覺。既能自覺，復能覺他。覺行窮滿，故名為佛。言其自覺簡異凡夫，云覺他者明異二乘，覺行窮滿彰異菩薩。」

1005. 【《成實論十號品》】（科註第三八四頁第五行）  
《成實論》之第四品。

1006. 【涅槃城】（科註第三八四頁倒數第一行）  
《佛學大辭典》：（譬喻）涅槃為聖者之所居，故譬之宮城。

長阿含經四曰：「沸星得最上道，沸星人涅槃城。」

楞嚴經十曰：「背涅槃城，生天魔種。」

楞伽經三曰：「緣自覺了向涅槃城。」

智度論二十曰：「諸法實相是涅槃城，城有三門：空、無相、無作。」

1007. 【華嚴大疏】（科註第三八四頁倒數第一行）

《佛光大辭典》「大方廣佛華嚴經疏」條：凡六十卷。唐代澄觀撰。又稱華嚴經疏、新華嚴經疏、清涼疏、華嚴大疏、大疏。收於大正藏第三十五冊。本疏敘述新譯華嚴經（八十卷華嚴經）之綱要，並解釋其文義。係針對當時華嚴宗僧多違背祖師法藏之教說，故作此書復興祖師本旨。

全書分十門，即：一教起因緣，二藏教所攝，三義理分齊，四教所被機，五教體淺深，六宗趣通局，七部類品會，八傳譯感

通，九總釋經題，十別解文義。其中「藏教所攝門」，載述菩提流支、鳩摩羅什、曇摩讖（chèn，音趁）、慧遠、印法師、劉虬（qiū，音求）、jié（音及）法師、真諦、慧觀、惠光、吉藏、法雲、智顛（yīn，音乙）、元曉、慧苑等之判教理論，並闡釋華嚴宗之小、始、終、頓、圓等五教判教學說，主張華嚴經屬於圓教。其「義理分齊門」，則廣立門目，論理事無礙等教理。

有關本書之撰著年代，依宋高僧傳卷五澄觀傳載，始於唐德宗興元元年（七八四），成於貞元三年（七八七）。另據隆興佛教編年通論卷十八載，則謂建中四年（七八三）起稿，歷時四年乃成。

本書之注疏有澄觀自著之隨疏演義鈔九十卷、疏演義鈔三十卷，及淨源之疏注一二

○卷、賢昱<sup>ㄩ</sup>（音玉）之略注經百卷等。〔新

編諸宗教藏總錄卷一、華嚴宗章疏并因明錄、佛典疏鈔目錄卷上〕

1008. 【讚阿彌陀佛偈】（科註第三八五頁第二行）

《佛光大辭典》：全一卷。北魏曇鸞撰。

又作大經奉讚、無量壽經奉讚、讚阿彌陀偈。收於大正藏第四十七冊。係依無量壽經，而以偈頌方式讚歎阿彌陀佛之功德莊嚴。七言一句，共一九五行，三九〇句。其中初二十八行讚歎十二光佛，後一六七行讚歎淨土聖眾與國土依報之莊嚴，並述一己歸依阿彌陀佛之意。又偈之各節，均附「南無

至心歸命禮西方阿彌陀佛」、「願共諸眾生，往生安樂國」之禮文。

1009. 【義寂】（科註第三八五頁第七行）

《佛學大辭典》（節錄）：（人名）新羅國人。年代事蹟未詳。或云玄奘門人，與元曉等同時出。所著頗多。有無量壽經疏三卷，觀經綱要，涅槃經總目二卷，大乘義林章十卷等二十餘種。見義天教藏總錄，東域傳燈目錄等。

1010. 【聖智】（科註第三八六頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）聖者正也，如理智正照真諦，離虛妄之分別，名為聖智。

維摩經肇序曰：「聖智無知而萬品俱照，法身無象而殊形並應。」

往生論註下曰：「法性無相，故聖智無知。」

1011. 【沙門】（科註第三八六頁第六行）

《翻譯名義集》：或云桑門，或名沙迦懣（門字上聲。今讀悶）nǎng 囊，皆訛。正言室摩那ná 拿（音拿），或舍羅磨拏。此言功勞，言修道有多勞也。

什師（羅什大師）云：佛法及外道，凡出家者，皆名沙門。

肇（僧肇）云：出家之都名也。秦言義訓勤行，勤行取涅槃。

阿含經云：捨離恩愛，出家修道，攝御諸根，不染外欲；慈心一切，無所傷害；遇樂不欣，逢苦不戚，能忍如地，故號沙門。

後漢書郊祀志云：沙門，漢言息心，削髮去家，絕情洗欲，而歸於無為也。

瑞應云：息心達本源，故號為沙門。或云具名沙門那，此云乏道。以為良福田故，能斷眾生饑乏；以修八正道故，能斷一切邪道。故迦葉品云：沙門那者，即八正道；沙門果者，從道畢竟永斷一切貪瞋癡等（云云）。世言沙門名乏，那者名道。如是道者，斷一切乏，斷一切邪道，以是義故，名八正道，為沙門那。從是道中獲得果故，名沙門果。或以沙門翻勤息。垂裕記云：謂勤行眾善，止息諸惡。息界內惡者，藏通沙門；次第息界內外惡者，別教沙門；一心遍息內外諸惡者，圓融沙門。

瑜伽論云：有四沙門：一勝道沙門，即佛等；二說道沙門，謂說正法者；三活道沙門，謂修諸善品者；四汙道沙門，謂諸邪行者。

1012. 【外道】（科註第三八六頁第六行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）於佛教外立道者。為邪法而在真理之外者。

資持記上之一曰：「言外道者，不受佛化，別行邪法。」

天台淨名疏一之本曰：「法外妄解，斯稱外道。」

三論玄義上曰：「至妙虛通，目之為道。心遊道外，故名外道。」

圓覺經集註中曰：「心行理外，故名外

道。」

○三種外道：（名數）天台智者，於外道立三種。

一佛法外外道，如九十六種之外道，佛法外之外道也。

二附佛法外道，如小乘之犢子部及大乘之方廣道人，附託佛法而立邪計者。

三學佛法成外道，謬解佛之教門，而陷於邪計者。見止觀十上。

1013. 【逸群】（科註第三八七頁第七行）

《漢語大詞典》：超群；出眾。

1014. 【登地】（科註第三八八頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）菩薩之階位有十信、十住、十行、十迴向、十地、等覺、

妙覺五十二位，登其中十地之位謂之登地，經一大阿僧祇劫之修行後也。而十地之間自初地至第十地之終，要一大阿僧祇劫之修行。其初地稱歡喜地，始斷一分煩惱而悟一分法性，歡喜之位也，以後登地之菩薩又名法身之菩薩。（若就圓教菩薩而言，則因其「十

住位」即相當於別教之「十地位」，故圓教菩薩一旦證入「初住」之位，即相當於別教初地之菩薩。）

1015. 【大通智勝】（科註第三八八頁倒數第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：（佛名）三千塵點劫昔出世之如來名。此佛在世。有十六王子，出家為沙彌，從佛聞法華經，佛入定後，十六沙彌，各shēng昇gōng（音生）法座，為大眾覆講法華經。其第九沙彌，今已成佛，為

阿彌陀。第十六沙彌成佛為今之釋迦如來。而其聞第十六沙彌之說法者，為今之一座大眾云。蓋今之大眾在大通智勝佛時，於第十六沙彌結緣，故在今日釋迦如來之下，聞法華而人證得果也。

法華經化城喻品曰：「乃往過去，無量無邊不可思議阿僧祇qǐ（音奇）劫，爾時有佛名大通智勝如來。〔中略〕爾時所化，無量恒河沙等眾生者汝等諸比丘是。」

1016. 【五力】（科註第三九〇頁第七行）

《三藏法數》：〔出法界次第〕止觀輔行問云：名同於根，何須更立？答：善根雖生，惡猶未破，更須修習，令根增長。根成惡破，復名為力。

一、信力：謂信正道及助道法，若信根增長，則能遮諸煩惱，不為偏小諸疑所動，故名信力。（正道者，四念處觀也，謂觀身不淨、觀受是苦、觀心無常、觀法無我。助道者，五停心之觀也，謂不淨觀、慈悲觀、數息觀、因緣觀、念佛觀。）

二、精進力：謂行此正道及助道法時，若精進根增長，則能除身心懈怠，成辦出世之法，是為精進力。

三、念力：謂念正道及助道法，若念根增長，則能破諸邪想，成就一切出世正念功德，是為念力。

四、定力：謂攝心正道及助道法，若定根增長，則能破諸亂想，發諸事理禪定，是為

定力。（事理禪定者，事即色界、無色界、禪定也。理即聲聞等依理修習所發禪定是也。）

五、慧力：謂四念處之慧，照了一切諸法，若慧根增長，則能除一切邪妄之執，破一切偏小之慧，故名慧力。

《佛學大辭典》（節錄）：（名數）三十七道品之一。信、精進、勤念、定、慧之五根增長，有治五障之勢力者：

一、信力，信根增長，破諸邪信者。

二、精進力，精進根增長，能破身之懈怠者。

三、念力，念根增長，能破諸邪念者。

四、定力，定根增長，能破諸亂想者。

五、慧力，慧根增長，能破三界諸惑者。見法界次第中之下。

智度論十九曰：「五根增長，不為煩惱所壞，是名為力。」又曰：「天魔外道不能阻壞，是名為力。」梵語出名義大集四一。

1017. 【五根】（科註第三九〇頁第七行）

《三藏法數》：「〔出法界次第〕謂修行之人修四念處觀，雖善萌微發，根猶未生，根未生故，善萌易壞。今修五法，使善根生，故以根為名也。（四念處者，一觀身不淨、二觀受是苦、三觀心無常、四觀法無我也。）

一、信根：謂信於正道及助道法，則能出生一切無漏禪定解脫，是名信根。（正道者，即四念處觀也。助道者，即五停心之觀

也。無漏者，因修禪定不落生死也。）

二、精進根：謂既信四念處正觀及諸助道善法，倍策精進，勤求不息，是名精進根。

三、念根：謂但念正道及諸助道，一心觀想，不令邪妄得人，是名念根。

四、定根：謂攝心正道及諸助道，一心寂定，相應不散，是名定根。

五、慧根：謂四念處之慧，為定法所攝，內性自照，不從他知，是名慧根。

1018. 【沮<sup>h</sup>壞】（音舉）壞】（科註第三九〇頁第八行）

《漢語大詞典》：毀壞；敗壞；破壞。

1019. 【靈峰大師】（科註第三九〇頁倒數第六行）

即蕩益大師。

1020. 【通惑】（科註第三九〇頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）天台所立五惑中，見思之惑名為通惑，塵沙無明之二名為別惑。以見思為通於三乘而斷之惑故也。

四教儀曰：「集諦者即見思惑，〔中略〕又云通惑。」

1021. 【別惑】（科註第三九〇頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）又曰別見。性為分隔之妄見也。別教之菩薩入地以後漸斷之。（參見「通惑」1020）

1022. 【教理行果四法】（科註第三九一頁第六行）

《佛學次第統編》：

法寶中有四種：

一、教法，三世諸佛所說破無明煩惱之聲名句文也。

二、理法，教法所詮之義理也。

三、行法，依理而行之戒定慧也。

四、果法，行滿所得有為無為之證果也。

心地觀經曰：「於法寶中，有其四種：一者教法，一者理法，三者行法，四者果法。」

《三藏法數》「四法」條：〔出大乘本生心地觀經〕經云：於法寶中，有其四種，引導眾生，出生死海，到於彼岸。三世諸佛，依此修行，斷一切障，得成菩提。

一、教法：謂一切無漏善法，教化眾生，能破無明煩惱業障也。（無漏者，不漏落生死也。）

二、理法：謂一切教法所詮之義理也。

三、行法：謂戒定慧等諸行之法也。

四、果法：謂至果所證，無為涅槃等法也。（梵語涅槃，華言滅度。）

1023. 【《慈恩上生經疏》】（科註第三九一頁第七行）

慈恩大師窺基所著之《觀彌勒上生兜率天經贊》。

《佛光大辭典》「彌勒上生經疏」條：凡二卷。唐代窺基（六三二—六八二）撰。又作觀彌勒上生經疏、彌勒上生經瑞應疏、觀彌勒上生兜率天經贊。收於大正藏第三十八冊。本書為沮渠京聲所譯觀彌勒菩薩上生兜率天經之注釋書。而原經為彌勒淨土信仰所依據之主要經典。

本書以五門分別解釋經文。一、佛成權

實，係一種佛身論，分別闡論佛陀之法、報、應三身。二、慈氏所因，解釋彌勒又稱慈氏之因由，及其成就果位之因緣。三、時分有殊，敘述過去、現在所出現千佛之劫名、壽量等，依時分而有所不同。四、往生難易，比較往生阿彌陀佛之西方及彌勒之兜率二者之難易。五、問答料簡，以問答之方式闡釋彌勒俗姓等諸問題。

1024. 【伽他】（科註第三九二頁第三行）

《佛學大辭典》「伽陀」條（節錄）：（術語）Gāthā，又作伽他。譯曰句頌、孤起頌、不重頌。凡伽陀有二種：一通，不論頌文與散文（長行），凡經文之文字數至三十二字者，謂之為首盧伽陀（Slokā）。二別，必以四句

而文義具備者，不問三言乃至八言等必要四句，是謂之結句伽陀。伽陀有此通別二種，因而通之伽陀，單譯為句，別之伽陀，譯為頌。

次，結句伽陀之中又有二種：一單獨結句以演法義，又讚嘆佛德者，於十二部經中稱之為伽陀，譯為孤起頌，或不重頌。二前說之散文經義重結於伽陀者，於十二部經中稱之為祇夜 Geya，謂為應頌，或重頌。故伽陀之言，有二重之通別。

1025. 【偈頌】（科註第三九二頁第四行）

《佛學大辭典》：（雜名）梵語偈陀，此譯為頌。梵漢雙舉云偈頌，吳音也。梵之偈陀如此方之詩頌，字數句數有規定，以三字

乃至八字為一句，以四句為一偈。

1026. 【報土】（科註第三九三頁第一行）

即實報土。

《佛學大辭典》：（術語）四土之一。酬

萬行之因而得之萬德莊嚴淨土也。（參見「四土」5）

1027. 【摩尼】（科註第三九三頁第七行）

《三藏法數》：梵語摩尼，又云末尼，華言離垢，即珠寶也。此寶光淨，不為垢穢所染故。圓覺鈔又云如意，謂意中所須財寶衣服飲食種種之物，此珠悉能出生，令人皆得如意，故名為寶。

《佛學大辭典》：（物名）Mani，又作末尼。譯曰珠，寶，離垢，如意。珠之總名。

玄應音義一曰：「摩尼，珠之總名也。」

同二十三曰：「末尼，亦云摩尼，此云寶珠，謂珠之總名也。」

慧苑音義上曰：「摩尼，正云末尼。末謂末羅，此云垢也，尼謂離也，謂此寶光淨不為垢穢所染也。又云：末尼此曰增長，謂有此寶處，必增其威德，舊翻為如意隨意等。逐義譯也。」

仁王經良賁疏下三曰：「梵云摩尼，此翻為寶，順舊譯也，新云末尼，具足當云震duo踰々々（音舵）摩尼，此云思惟寶。會意翻云如意寶珠，隨意所求皆滿足故。」

圓覺大鈔一下曰：「摩尼，此云如意。」

涅槃經九曰：「摩尼珠，投之濁水，水即

為清。」

1028. 【如意寶珠】（科註第三九三頁第八行）

《佛學大辭典》「如意珠」條：（物名）

Cintamani，從寶珠出種種所求如意，故名如意。出自龍王或摩竭魚之腦中。或為佛舍利所變成。

智度論十曰：「如意珠，生自佛舍利，若法沒盡時，諸舍利皆變為如意珠，譬如過千歲冰化為頗梨珠。」同三十五曰：「如菩薩先為國王太子，見閻浮提人貧窮，欲求如意珠，至龍王宮。〔中略〕龍即與珠，是如意珠能雨一由旬。」同五十九曰：「有人言：此寶珠從龍王腦中出，人得此珠毒不能害，入火不能燒，有如是等功德。有人言：是帝

釋所執金剛，用與阿修羅戰時碎落閻浮提。有人言：諸過去久遠佛舍利，法既滅盡，舍利變成此珠，以益眾生。有人言：眾生福德因緣故，自然有此珠。譬如罪因緣故，地獄中自然有治罪之器。此寶名如意，無有定色，清徹輕妙，四天下物皆悉照現。是寶常能出一切寶物，衣服飲食隨意所欲盡能與之。」

雜寶藏經六曰：「佛言：此珠摩竭大魚腦中出，魚身長二十八萬里，此珠名曰金剛堅也。」

觀佛三昧經一曰：「金翅鳥肉心為如意珠。」

往生論註下曰：「諸佛入涅槃時，以方便力留碎身舍利，以福眾生，眾生福盡，此舍

利變為摩尼如意寶珠。此珠多在大海中，大龍王以為首飾。若轉輪聖王出世，以慈悲方便能得此珠，於閻浮提作大饒益。」

1029. 【六趣】（科註第三九四頁第二行）

《佛學大辭典》：（名數）眾生由業因之差別而趣向之處，有六所，謂之六趣，亦曰六道。

一 地獄趣 *Naraka-gati*，八寒八熱等之苦處也，此在地下，故曰地獄。

二 餓鬼趣 *Preta-gati*，常求飯食之鬼類生處也。與人趣雜處而不可見。

三 畜生趣 *Tiryagyonigati*，新譯曰旁生趣，即禽獸之生所也，多以人界為依所而眼可見。

四阿修羅趣 *Asura-gati*，常懷瞋心而好戰鬥，大力神之生所也。以深山幽谷為依所而與人隔離。

五人趣 *Manuṣya-gati*，人類之生所也，分閻浮提等四大洲，但四大洲隔離，不得通力者不能到。

六天趣 *Deva-gati*，身有光明，自然受快樂之眾生，名為天，有欲界六所，謂之六欲天，色界無色界，皆為彼之生所。

大乘義章八末曰：「此六種，經名為趣，亦名為道。所言趣者，蓋乃對因以名果也。因能向果，果為因趣，故名為趣。所言道者，從因名也。善惡兩業通人至果，名之為道。地獄等報為道所詣，故名為道。」

法華經序品曰：「盡見彼土六趣眾生。」涅槃經二十五曰：「以心因緣故，輪迴六趣具受生死。」

1030. 【四生】（科註第二九四頁第二行）

《佛學大辭典》：（名數）梵語 *Caturyonī*。

一胎生 *Jarāyujā*（十二因緣經作腹生），如人類在母胎成體而後出生者。

二卵生 *Anṇajā*，如鳥在卵殼成體而後出生者。

三濕生 *Samsvedajā*（十二因緣經作寒熱和合生），如蟲依濕而受形者。

四化生 *Upapāduka*，無所依託唯依業力而忽起者，如諸天與地獄及劫初眾生皆是也。

此有五道分別，人趣與畜生趣各具四

種。人之胎生如今世人，人之卵生由世羅與 wū 鄔<sup>x</sup>（音污）波世羅及鶴卵而生，如鹿母

所生之三十二子與般遮羅王之五百子等是也。人之濕生如 tǎn 曇<sup>+</sup>（音談）馱多與遮盧及鄔

波遮盧，鵠 mán 鬘<sup>+</sup>（音瞞），ān 菴<sup>+</sup>（音安）羅衛

等是也。人之化生，唯為劫初之人。畜生之

胎卵濕，皆得現見，其化生如龍與揭路<sup>女</sup>茶

（音徒）Caruḍa 鳥。次鬼趣有胎化二種。胎生

者言餓鬼母日夜食所生之五子。其次一切之地獄與天人及中有皆唯化生。見俱舍論八。

1031. 【語密】（科註第三九四頁倒數第三行）

《三藏法數》：語密即口密也。謂佛說法之時，或一里外聞佛音聲，或十里、或百千萬里外聞佛音聲。又一會中，或聞說布施，

或聞說持戒等，各各隨心所聞，皆不可思議，故名語密。

1032. 【身密】（科註第三九四頁倒數第二行）

《三藏法數》：謂如來處大會中，眾見佛身，或黃金色，或白銀色，或雜寶色，或長丈六，或長一里十里，乃至現大神變，皆不可思議，故名身密。

1033. 【自性身】（科註第三九四頁倒數第一行）

《法相辭典》（節錄）：成唯識論十卷十五頁云：一、自性身。謂諸如來真淨法界。受用變化（受用身與變化身）平等所依。離相寂然，絕諸戲論。具無邊際真常功德。是一切法平等實性。即此自性，亦名法身。大功德法所依止故。

1034. 【密教所立四身】（科註第三九五頁第四行）

《佛學次第統編》：四身者，自性身、受用身、變化身、等流身也。

一、自性身：十法界萬有諸法自然體性之身，云自性身，即理法身也。

二、受用身：有自受用，他受用之二：（一）自受用身。自受用身，雖不離大悲，而本大悲，而自受用，過恆沙之萬德，自受法樂之身也。（二）他受用身。他受用身，雖不離大智，而本大悲，為初地之菩薩以上，俯同色究竟天，現最高大身，而說法之身也，以為他之機類受用，故云他受用身。

三、變化身：為地前菩薩二乘等，或於淨土，或於分段同居土，變現丈六等之小身，

而攝取之，曰變化身。

四、等流身：現同菩薩二乘天龍八部等九界等同流類之身，應機攝物而無障礙，曰等流身。

1035. 【三資糧】（科註第三九五頁倒數第四行）

《佛學常見辭彙》：修淨土法門的人所應具備的三種資糧，即信、願、行。信是相信西方確有極樂世界；願是願離這個苦世界；行是念佛名號，心不離佛，佛不離心，毋令忘失。

○資糧：資是資助，糧是糧食，修道亦如遠行，要有善根福德正法等糧食資助其身，才能到達。

1036. 【省庵】（科註第三九五頁倒數第三行）

《實用淨土宗辭典》「實賢」條（節錄）：

（一六八六一—一七三四）清代僧人。

淨土宗十一祖。字思齊，號省庵，俗姓時，江蘇常熟人。世代習儒。自少不苟葷，夙有出塵之志。父早喪，母張氏知其善根深厚，遂命出家。年七歲，禮清涼庵容選為師。二十四歲圓具於昭慶。嚴習毗尼，而脅不帖席者率以為常。尋入講筵，明性相之學。後叩靈鷲和尚於崇福，參念佛者是誰，有省。

曰：「吾夢覺矣。」因是機鋒迅利，作辯縱橫。和尚欲付以衣拂，師弗受。遂掩關於真寂寺，三年盡覽藏經，晚持佛號。後詣阿育王山瞻禮舍利，嘗以佛涅槃日，大合緇白，廣修供養。燃指佛前，發四十八大願，卒感

舍利放光。作《勸發菩提心文》，以激勵四眾，誦者多為淚下。又作《警世偈》「勸君早回頭，直走西方路。萬緣都放下，勤修淨業課。」師又嘗應永福、普慶、海業、仙林諸席。三根普攝，法化洋溢。緇白傾心，xi翕然一（一致貌。翕，音希）歸仰。雍正七年（一七二九）結蓮社，為文誓眾，以畢命為期。判日課為二十分，十分持名，九分作觀，一分禮懺。

晚年居梵天寺。（中略）十一年臘月八日，告弟子曰：「明年四月，吾其去矣。」遂掩關一室，日課佛名十萬聲。明年四月十二日，告眾曰：「月朔以來，再見西方三聖，其將往生乎？」即書偈云：「身在華中

佛現前，佛光來照紫金蓮。心隨諸佛往生去，無去來中事宛然。」明日，斷食飲，斂目危坐。五更，具浴更衣。十四日將午，面西寂然。送者<sup>qún</sup>麋<sup>lǐ</sup>至（群集而來。麋，音群。），忽張目曰：「我去即來。生死事大，各自淨心念佛可矣！」合掌連稱佛名，遂逝。

1037. 【檀施】（科註第三九七頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）檀為梵語，譯曰施。是梵漢雙舉之熟語。

1038. 【五度】（科註第三九八頁第一行）

《佛學大辭典》：（名數）福行之五波羅蜜也：一、布施，慈心施物也。二、持戒，持佛戒而慎身口意之惡也。三、忍辱，忍耐

一切之苦痛陵辱而心不動也。四、精進，勇猛勵一切之善，伏一切之惡也。五、禪定，心止一處而拂去妄念也。

1039. 【《心經》】（科註第三九八頁第四行）

《中國大百科全書》「般若波羅蜜多心經」條（節錄）：佛教經典。簡稱《般若心經》或《心經》。唐玄奘譯，知仁筆受。一卷。為般若經類的精要之作。在玄奘譯出前有失譯本《摩訶般若波羅蜜神咒》（舊題《摩訶般若波羅蜜大明咒經》）一卷，舊傳鳩摩羅什譯。現存異譯本六種：（一）唐法月譯《普遍智藏般若波羅蜜多心經》；（二）唐般若、利言等譯《般若波羅蜜多心經》；（三）唐智慧輪譯《般若波羅蜜多心經》；（四）唐法成譯《般若波羅蜜多

心經》；(五)敦煌發現譯本《唐梵翻對字音般若波羅蜜多心經》；(六)宋施護譯《聖佛母般若波羅蜜多經》。其中玄奘譯本、失譯本和敦煌本為「小本」，只有正文；其餘為「廣本」，有序、正、流通三分。玄奘所譯為通常流行本。全經二百六十字，闡述五蘊、三科（五蘊、十二入、十八界）、四諦、十二因緣等皆空的佛教義理，而歸於「無所得」（不可得），認為般若能度一切苦，得究竟涅槃，證得菩提果。由於經文短小精粹，便於持誦，在中國內地和西藏均甚流行。近代又被譯為多種文字在世界各地流傳。（中略）相傳有註疏二百餘種。據記載，僅中國撰述即有四十餘種。最著名的有印度提婆《心經

註》一卷；中國有唐新羅僧人圓測《心經讚》一卷，明曠《心經略疏》一卷，慧淨《心經疏》一卷（敦煌發現），窺基《心經幽讚》二卷，法藏《心經略疏》一卷，宋智圓《心經疏》一卷等；日本有空海《心經秘鍵》二卷，最澄《心經釋》一卷，真興《心經略釋》一卷，宗純《心經註》一卷等。

1040. 【五蘊音運】（科註第三九八頁第五行）

《三藏法數》：「出大乘廣五蘊論」蘊者，積聚之義。謂眾生由此五法積聚成身，復因此身積聚有為煩惱等法，能受無量生死也。亦名五陰者，陰即蓋覆之義，謂能蓋覆真性也。翻譯名義云：積集有為，蓋覆真性。是也。

一、色蘊：色即質礙之義。謂眼、耳、鼻、舌、身諸根和合積聚，故名色蘊。

二、受蘊：受即領納之義。謂六識與六塵相應，而有六受，和合積聚，故名受蘊。（六識、六塵、六受者，眼識受色塵，耳識受聲塵，鼻識受香塵，舌識受味塵，身識受觸塵，意識受法塵也。）

三、想蘊：想即思想之義。謂意識與六塵相應，而成六想，和合積聚，故名想蘊。（六想者，謂意識著色想色、著聲想聲、著香想香、著味想味、著觸想觸、著法想法也。）

四、行蘊：行即遷流造作之義。謂因意識思想諸塵，造作善惡諸行，和合積聚，故名行蘊。

五、識蘊：識即了別之義。謂以眼、耳、鼻、舌、身、意六種之識，於諸塵境上，照了分別，和合積聚，故名識蘊。

《佛學大辭典》：（術語）梵語之塞犍陀 Skandha，舊譯為陰，又譯為眾，新譯為蘊。陰者積集之義。眾者眾多和聚之義，亦蘊之義也。是顯數多積集之有為法自性。作有為法之用，無純一之法，或同類，或異類，必多數之小分相集而作其用故，則概謂之陰，或蘊（陰者蔭覆之義，舊譯之一義也），大別之五法：

一、色蘊，總該五根五境等有形之物質。  
二、受蘊，對境而承受事物之心之作用也。

三、想蘊，對境而想像事物之心之作用也。

四、行蘊，其他對境關於瞋貪等善惡一切之心之作用也。

五、識蘊，對境而了別識知事物之心之本體也。

以一有情徵之，則色蘊之一即身，他四蘊即心也。心之中，受想行之三者心性上各為一種特別之作用，故名之為心所有法，即心王所有之法（略云心所），識之一者為心之自性，故名之為心王。蓋五蘊為身心之二法，如色界欲界有身之有情，從五蘊而成，如無色界無身之有情，自四蘊（除色蘊）而成也。

毘婆尸佛經上曰：「五蘊幻身，四相遷變。」

增一阿含經二十七曰：「色如聚沫，受如浮泡，想如野馬，行如芭蕉，識為幻法。」

1041. 【究竟覺】（科註第三九八頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）起信論四覺

（本覺、相似覺、隨分覺、究竟覺）之一。謂菩薩大行圓滿究竟至極之覺，即成佛之位也。

起信論曰：「如菩薩地盡，滿足方便，一念相應，覺心初起（謂覺知第八識心初起無明之妄惑也）。心無初相（至此究竟位中，達法性之底，窮無明之源，離念寂靜，則心無初動之相也），以遠離微細念故，得見心性。心即常住，名究竟覺。」

三藏法數九曰：「究竟即決定終極之義也。謂能覺了染心之源，究竟終窮，同於本覺故名究竟覺。」

1042. 【三藏法數】（科註第三九八頁第八行）

《佛學大辭典》：（書名）具名大明三藏法數，五十卷，明一如等撰。

1043. 【三毒】（科註第三九八頁倒數第一行）

《三藏法數》：「出法界次第」毒者毒害也。謂貪瞋癡皆能破壞出世善心，故名毒也。

一、貪毒：引取之心，名之為貪。若以迷心對一切順情之境，引取無厭，是名貪毒。

二、瞋毒：忿怒之心，名之為瞋。若以迷心對一切違情之境，便起忿怒，是名瞋毒。

三、癡毒：迷惑之心，名之為癡。若於一切事理之法無所明了，顛倒妄取，起諸邪行，是名癡毒。

1044. 【火宅】（科註第四〇〇頁第一行）

《三藏法數》「火宅喻」條：火譬眾生五濁等苦，宅譬三界。謂三界眾生，為五濁八苦之所煎逼，而不得安隱。猶大宅被火所燒，而不能安居。故以火宅為喻也。（五濁者，劫濁、見濁、煩惱濁、眾生濁、命濁也。三界者，欲界、色界、無色界也。八苦者，生苦、老苦、病苦、死苦、愛別離苦、怨憎會苦、求不得苦、五陰盛苦也。）

1045. 【沙磧】（音氣）（科註第四〇〇頁第八行）

《漢語大詞典》：沙漠。

1046. 【六波羅蜜】（科註第四〇〇頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（名數）一、檀波羅蜜。檀者檀那之略，譯曰佈施，財施，無畏施，法施之大行也。

二、尸羅波羅蜜。尸羅，譯曰戒，在家出家小乘大乘等之一切戒行也。

三、chàn念提波羅蜜。羸提，譯曰忍辱，忍受一切有情罵辱擊打等，及非情寒熱飢渴等之大行也。

四、pī毘皮梨耶波羅蜜。毗梨耶，譯曰精進，精勵身心進修前後之五波羅蜜也。

五、禪波羅蜜。禪者禪那之略，譯曰惟修，新曰靜慮。又名三昧，譯作定。思惟真理定止散亂之心之要法也。有四禪八定乃至

百八三昧等之別。

六、般若波羅蜜。般若，譯曰智慧，通達諸法之智及斷惑證理之慧也。

菩薩修此六法，究竟自利利他之大行，到涅槃之彼岸，故稱六波羅蜜。見法界次第下之上。（參見「六度」1187）

1047. 【恆河沙】（科註第四〇一頁第七行）

《佛學常見辭彙》：恆河是印度大河，兩岸多細沙，佛說法時，每以恆河之細沙喻最多之數。

《佛學大辭典》…（譬喻）Gangā-nadī-vāṅka，略稱恆沙。恆河沙之數，譬物之多也。

智度論七曰：「問曰：如閻浮提中，種種

大河亦有過恒河者，何故常言恒河沙等？答曰：恒河沙多，餘河不爾。復次是恒河是佛生處，遊行處，弟子現見，故以為喻。復次諸人經書皆以恒河為福德吉河，若人中洗者，諸罪垢惡皆悉除盡。以人敬事此河，皆共識知，故以恒河沙為喻。復次餘河名字屢轉，此恒河世世不轉，以是故以恒河沙為喻，不取餘河。」

1048. 【迦羅分】（科註第四〇一頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（雜名）又云歌羅分，哥羅分。迦羅為分數之名，故云迦羅分。

○迦羅：（雜名）Kala，又作哥羅，歌羅。分量名。

慧苑音義上曰：「哥羅分，正云迦羅，此

云豎，折人身上—毛為百分中之一分也。或曰：十六分之一分。謂西域風俗，以十六升為斗，如此土以十六兩為一斤。義譯為校量分。」

玄應音義四曰：「折—毛以為百分，—分為歌羅分，論以義翻名為力勝。以無漏善法—歌羅分，勝有漏千分故也。」

1049. 【優婆尼沙陀分】（科註第四〇一頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「wū 鄔<sup>x</sup>（音屋）波尼殺曇」條（節錄）：（雜語）Uparisad，又作塢波尼殺曇，優波尼沙陀。譯曰近少，微細，因等。

慧苑音義上曰：「優波尼沙陀分，正云塢波尼殺曇。言塢波者近也，尼殺曇者少也。」

慧琳音義一曰：「優波尼沙陀分，梵語算法。數之極也，大論釋為微細分析至極之言也。」同十曰：「義譯為微細，極至鄰虛，名塢波尼殺曇。」

玄應音義二十一曰：「鄔波尼殺曇分，又言優婆沙陀分，此數之極也。」

1050. 【寂照】（科註第四〇三頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）真理之體云寂，真智之用云照。

楞嚴經六曰：「淨極光通達，寂照含虛空。」

正陳論曰：「真如照而常寂為法性，寂而常照是法身，義雖有二名，寂照亦非二。」

1051. 【稱讚淨土經】（科註第四〇四頁第五行）

《佛學大辭典》：（經名）稱讚淨土佛攝受經之略名。

### ◎ 至心精進第五

1052. 【長行】（科註第四〇七頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）謂經文中，直宣說法相，而不限定字句之文句。以文句之行數長故也。是對於偈頌之稱，十二分教之中第一修多羅是也。故諸經自能詮之文體分之，則惟長行與偈頌之二者而已。

百論疏上曰：「總談設教，凡有三門：一但有長行，無有偈頌，如小品之類。二但有偈頌，無有長行，如法句之流。三具存二說，如法華經等。」

法華義疏三曰：「龍樹十住毗婆沙云：一者隨國法不同，如震旦有序銘之文，天竺有散華貫華之說也。」

《佛光大辭典》：梵語 *gadya*。佛經體裁之一。係不限制字數而連續綴輯之文章，即今日所謂之散文。為韻文（偈頌）之對稱。大乘入楞伽經卷七、瑜伽師地論卷八十一等所使用者即為長行。於十二部經中，伽他、祇夜等均屬偈頌，其字句皆受到限制；對此，契經乃屬連續綴輯之長行。「大乘阿毗達磨雜集論卷十一、百論疏卷上」

1053. 【quán拳ㄑㄨㄢˊ（音全）拳服yīng膺ㄩㄥ（音英）】（科註第四〇八頁第二行）

《漢語大詞典》：誠懇信奉；衷心信服。

《禮記·中庸》：「回之為人也，擇乎中庸，得一善則拳拳服膺，而弗失之矣。」鄭玄注：「拳拳，奉持之貌。」

1054. 【善知識】（科註第四一〇頁倒數第三行）  
《釋氏要覽》：摩訶般若經云：能說空、無相、無作，無生無滅法，及一切種智，令人心入歡喜信樂，是名善知識。

華首經云：有四法是善知識。一能令人入善法中，二能障礙諸不善法，三能令人住於正法，四常能隨順教化。

瑜伽論云：善知識具十功德。一調伏，二寂靜，三惑除，四德增，五有勇，六經富，七覺真，八善說，九悲深，十離退。且初調伏者，謂與戒相應由根調故；寂靜者，定相

應由內攝故；惑除者，信念以慧相應煩惱斷故；德增者，戒定慧具不缺減故；有勇者，利益他時不疲倦故；經富者，多聞故；覺真者，了實義故；善說者，不顛倒故；悲深者，絕希望故；離退者，於一切時恭敬故。

《佛學大辭典》：（術語）知識者，知其心、識其形之義。知人乃朋友之義，非博知博識之謂，善者於我為益，導我於善道者。

法華文句四曰：「聞名為知，見形為識。是人益我菩提之道，名善知識。」

法華經妙莊嚴王品曰：「善知識者是大因緣，所謂化導令得見佛，發阿耨多羅三藐三菩提心。」

有部毘奈耶雜事曰：「阿難陀言：諸修行

者，由善友力，方能成辦。得善友故，遠離惡友，以是義故，方知善友是半梵行。佛言：阿難陀勿作是言，善知識者是半梵行。何以故？善知識者是全梵行，由此便能離惡知識，不造諸惡。常修眾善，純一清白，具足圓滿梵行之相。由是因緣若得善伴與其同住乃至涅槃事無不辦，故名全梵行。」

1055. 【教授善知識】（科註第四一〇頁倒數第三行）

《三藏法數》：宣傳聖言曰教，訓誨於我曰授；即教授之師也。謂其人內外方便，通塞障礙皆能決了，是名教授善知識。

1056. 【聖果】（科註第四一二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）菩提涅槃也，是依聖道所得，故曰聖果，此果為真正，故

曰聖果。

楞嚴經一曰：「雖得多聞，不成聖果。」

淨住子曰：「三乘聖果。十地功德。」

1057. 【老婆】（科註第四一三頁第四行）

《佛學大辭典》：（雜語）老婆者，稱慈

悲之語，取親切叮嚀之義。

楊無為頌曰：「正法眼藏，瞎驢邊滅。黃

bò 壁老婆，大愚饒舌。」

1058. 【法華三止說】（科註第四一三頁第七行）

《佛學大辭典》「三止三請」條：（故事）

法華經方便品之初，先讚嘆如來之二智（實智與權智），以諸法實相為甚深微妙欲說而止，次舍利弗代眾請說之。如此佛與舍利弗交互各三止三請，佛遂容第三請，廣說妙

法。謂之三止三請。

1059. 【止止不須說】（科註第四一三頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（雜語）佛於迹門法華

（法華經之前十四品，名為迹門）止舍利弗請之

語。

法華經方便品曰：「止止不須說，我法妙

難思，諸增上慢者，聞必不敬信。」

1060. 【密在汝邊】（科註第四一三頁倒數第三行）

《六祖大師法寶壇經》：惠能遂出坐盤石

上。惠明作禮云：「望行者為我說法。」惠能云：「汝既為法而來，可屏息諸緣，勿生一念，吾為汝說。」明良久。惠能云：「不思善，不思惡，正與麼時，那箇是明上座本來面目。」惠明言下大悟，復問云：「上來

密語密意外，還更有密意否？」惠能云：「與汝說者，即非密也。汝若返照，密在汝邊。」

1061. 【宿殖】（科註第四一四頁第二行）

《佛學大辭典》「宿植」條：（術語）宿世所植之善根也。

法華經普門品曰：「宿植德本，眾人愛敬。」

法華玄義曰：「宿植淳厚者。」

1062. 【法報】（科註第四一四頁第六行）

指法性土（法身如來所依之土，乃理土也）與受用土（報身如來受用之土也）。（參見「三佛土」1083附）

1063. 【攀緣】（科註第四一五頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）心不獨起，必

有所對之境，攀緣於彼而起。恰如老人之攀杖而起，謂之攀緣。

又心忽彼忽此，馳回外界之事物，如猿攀木枝，忽在彼處，忽在此處，謂之攀緣。常略之以緣之一字而說之。心為能緣，境為所緣，心涉於境，謂之緣。

楞伽經一曰：「法佛者離攀緣，攀緣離一切所作根量相滅。」

楞嚴經一曰：「諸眾生以攀緣為自性。」

維摩經問疾品曰：「何謂病本，謂有攀緣？」〔中略〕云何斷攀緣？以無所得，若無所得則無攀緣。」

1064. 【常途】（科註第四一五頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）通常之規則

也。

大日經疏三曰：「不同常途習定之功力。」

寄歸傳二曰：「持衣說淨，常途軌式。」

1065. 【五乘】（科註第四一六頁第一行）

《三藏法數》：「〔出孟蘭盆經疏〕乘即運載之義。謂人天等各以所修之法為乘，運載至其所至之處，故有五乘也。」

一、人乘：人者忍也。於世間違順情境，悉能安忍故也。謂人以三歸五戒為乘，運出四趣，生於人道，故名人乘。（三歸依，歸依佛、歸依法、歸依僧也。五戒者，不殺、不盜、不邪淫、不妄語、不飲酒也。四趣者，修羅趣、餓鬼趣、畜生趣、地獄趣也。）

二、天乘：天者謂天然、自然、樂勝、身

勝也。天以十善為乘，運出五道，得生欲天。於修十善時，更能修習禪定，即生色界，無色界天，故名天乘。（十善者，不殺生、不偷盜、不邪淫、不妄語、不兩舌、不惡口、不綺語、不貪欲、不瞋恚、不邪見也。五道者，人道、修羅道、餓鬼道、畜生道、地獄道也。）

三、聲聞乘：聲聞者，聞如來聲教而得悟道也。謂聲聞以四諦為乘，運出三界，到於涅槃，故名聲聞乘。（四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。三界者，欲界、色界、無色界也。梵語涅槃，華言滅度。）

四、緣覺乘：緣覺者，謂觀十二因緣覺悟真空之理也。以十二因緣為乘，運出三界，

到於涅槃，故名緣覺乘。（十二因緣者，一無明、二行、三識、四名色、五六入、六觸、七受、八愛、九取、十有、十一生、十二老死也。）

五、菩薩乘：菩薩，梵語具云菩提薩埵，今稱菩薩者，從略也。華言覺有情，謂覺悟一切有情眾生也。以六度為乘，運諸眾生，同出三界，而到涅槃彼岸，故名菩薩乘。（六度者，一布施、二持戒、三忍辱、四精進、五禪定、六智慧也。）

1066. 【因源】（科註第四一六頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）對果而謂為因，對末而謂為源也。

華嚴經疏四曰：「因該果海，果徹因源。」

1067. 【攝取】（科註第四一八頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）攝物而取之也。又佛以慈悲之光明攝救苦眾生也。

無量壽經上曰：「我當修行攝取佛國清淨莊嚴無量妙土。」

觀無量壽經曰：「一一光明徧照十方世界，念佛眾生攝取不捨。」

1068. 【華嚴經華藏世界品】（科註第四一九頁倒數第一行）

八十華嚴之第五品，卷八至十。

1069. 【佛刹無量，總有二十重】（科註第四一九頁倒數第一行）

《三藏法數》「二十重華藏莊嚴世界海」條：「出華嚴經」謂此世界，住在香水海

中，蓮華之上，種種妙寶莊嚴，含藏一切世界，深廣無窮也。此世界海，有須彌山，微塵數風輪所持；此微塵數風輪，最在上者，名殊勝威光藏，能持普光摩尼莊嚴香水海，此香水海出大蓮華，名種種光明藥（同「蕊」）

香幢，此世界海，住在其中，四方均平，清淨堅固，金剛輪山，周匝圍繞，地海眾樹，各有區別。金剛輪山內所有大地，一切皆以金剛所成，諸摩尼寶以為間錯，普現如來所有境界，如天帝網，於中布列。此大地中，有十不可說佛刹微塵數香水海，一一妙寶充滿其中，一一香水海各有四天下微塵數香水河，右旋圍繞，一一河各有世界海微塵數莊嚴，此十不可說佛刹微塵數香水海中，有不

可說佛刹微塵數世界種安住，一一世界種，復有不可說佛刹微塵數世界，各各依住，各各形狀，各各莊嚴等。一一世界種，或作須彌山形，或作江河形，或作諸莊嚴等形，悉在此世界海中，分布而住。

其最中央香水海，名無邊妙華光。以現一切菩薩形，摩尼王幢為底，出大蓮華，名一切香摩尼王莊嚴。有世界種，名普照十方熾然寶光明，其二十重莊嚴世界，皆從此出。其最下重世界，名最勝光。徧照此上，過佛刹微塵數世界，有世界名種種香蓮華妙莊嚴。如是乃至最上第二十重世界，名妙寶焰。此第二十重世界，自下而上，各有佛刹微塵數世界，周匝圍繞。各有佛出現，教化

眾生。娑婆世界，正當第十三重，即是毘盧遮那如來所出現之處。

此二十重世界，皆在無邊妙華光香水海中，此世界海，乃是毘盧遮那如來，往昔於世界微塵數劫，修菩薩行時，親近微塵數佛之所嚴淨，故稱所修實因，感報此莊嚴重重無盡世界也。（梵語須彌，華言妙高。梵語摩尼，華言如意。天帝網者，謂帝釋殿有千珠寶網，交光相映也。刹，梵語具云刹摩，華言土田。四天下者，東弗于逮、南閻浮提、西瞿耶尼、北鬱單越也。梵語娑婆，華言能忍。梵語毘盧遮那，華言徧一切處。劫，梵語具云劫波，華言分別時節。）

一、最勝光徧照華藏世界：此第一重世

界，依眾寶摩尼華而住，其狀猶如摩尼寶形，一佛刹微塵數世界圍繞，佛號離垢燈。（如摩尼寶形者，謂摩尼狀有八楞，似方不方，似圓不圓，世界如彼故也。離垢燈者，謂離煩惱、所知二障，智眼清淨，照世如燈故也。）

二、種種香蓮華妙莊嚴華藏世界：此第二重世界，依寶蓮華網而住，其狀猶如師子之座，二佛刹微塵數世界圍繞，佛號師子光勝照。

三、一切寶莊嚴普照光華藏世界：此第三重世界，依種種寶瓔珞住，其形八隅（音余，角也）；三佛刹微塵數世界圍繞，佛號淨光智勝幢。

四、種種光明華莊嚴華藏世界：此第四重世界，依眾色金剛尸羅幢海住，其狀猶如摩尼蓮華，四佛刹微塵數世界圍繞，佛號金剛光明無量精進力善出現。

五、普放妙華光華藏世界：此第五重世界，依一切樹莊嚴寶輪網海住，其形普方，而多有隅角。五佛刹微塵數世界圍繞，佛號香光喜力海。

六、淨妙光明華藏世界：此第六重世界，依金剛宮殿海住，其形四方。六佛刹微塵數世界圍繞，佛號普光自在幢。

七、眾華焰莊嚴華藏世界：此第七重世界，依一切寶色焰海住，七佛刹微塵數世界圍繞，佛號歡喜海功德名稱自在光。

八、出生威力地華藏世界：此第八重世界，依種種寶色蓮華座虛空海住，其狀猶如因陀羅網。八佛刹微塵數世界圍繞，佛號廣大名稱智海幢。（因陀羅網，即天帝網也。）

九、出妙音聲華藏世界：此第九重世界，依恒出一切妙音聲莊嚴雲摩尼王海住，其狀猶如梵天身形。九佛刹微塵數世界圍繞，佛號清淨月光相無能摧伏。

十、金剛幢華藏世界：此第十重世界，依一切莊嚴寶師子座摩尼海住，其狀周圍。十佛刹微塵數世界圍繞，佛號一切法海最勝王。

十一、恒出現帝青寶光明華藏世界：此第十一重世界，依種種殊異華海住，其狀猶如

半月之形。十一佛刹微塵數世界圍繞，佛號無量功德海。

十二、光明照耀華藏世界：此第十二重世界，依華旋香水海住，狀如華旋。十二佛刹微塵數世界圍繞，佛號超釋梵。

十三、娑婆華藏世界：此第十三重世界，依種種色風輪所持蓮華網而住，其狀猶如虛空。十三佛刹微塵數世界圍繞，其佛即毘盧遮那如來世尊也。

十四、寂靜離塵光華藏世界：此第十四重世界，依種種寶衣海住，其狀猶如執金剛形。十四佛刹微塵數世界圍繞，佛號徧法界勝音。

十五、眾妙光明燈華藏世界：此第十五重

世界，依淨華網海住，其狀猶如卍字之形。十五佛刹微塵數世界圍繞，佛號不可摧伏力普照幢。

十六、清淨光徧照華藏世界：此第十六重世界，依種種香焰蓮華海住，其狀猶如龜甲之形。十六佛刹微塵數世界圍繞，佛號清淨日功德眼。

十七、寶莊嚴華藏世界：此第十七重世界，依光明藏摩尼藏海住，其形八隅。十七佛刹微塵數世界圍繞，佛號無礙智光明徧照十方。

十八、離塵華藏世界：此第十八重世界，依眾妙華師子座海住，狀如珠瓔。十八佛刹微塵數世界圍繞，佛號無量方便最勝幢。

十九、清淨光普照華藏世界：此第十九重世界，依無量色香焰須彌山海住，其狀猶如寶華旋布。十九佛刹微塵數世界圍繞，佛號普照法界虛空光。

二十、妙寶焰華藏世界：此第二十重世界，依一切諸天形摩尼王海住，其狀猶如寶莊嚴具。二十佛刹微塵數世界圍繞，佛號福德相光明。

1070. 【玄一】（科註第四二〇頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（人名）唐代人。鄉貫未詳。通法相學，以著述為事。著無量壽經記二卷，觀無量壽經記一卷，法華經疏八卷，阿彌陀經疏一卷，涅槃經料簡二卷，瑜伽論疏十七卷，中邊論料簡一卷，梵網經疏

三卷，唯識<sup>shū</sup>樞（音疏）要私記一卷等，多散佚不傳。惟無量壽經記上卷一卷，收入日本續藏經。觀其處處引用窺基、元曉、法位等，可知其出於諸師之後。

1071. 【唯識】（科註第四二二頁第七行）指唯識宗。

《佛學大辭典》「唯識宗」條：（流派）法相宗之異名，彼宗以萬法唯識之法門為主也。（參見「法相」338）

1072. 【見分】（科註第四二二頁第七行）《三藏法數》：謂眼等六識，各能了別諸塵境界，是名見分。

《唯識名詞白話辭典》：唯識宗所立識體四分之一。見分即指諸識的能緣作用，為認

識事物的主體；亦即能照知所緣對境（即相分，為認識的對象）之主體作用。

「見」即見照、心性明了之義，謂能照燭一切諸法及解了諸法義理，如鏡中之明，能照萬象。換個方式說見分即心識的緣慮作用，亦即主觀的認識主體。心識生起，自其自體變現相、見二分，相分是色法，概括世間的一切物質現象；見分是心法，有緣慮作用，是認識的主體。不過此見分與相分，都是識體之所變現，攝物歸心，所以成其唯識。

1073. 【《法集經》】（科註第四二二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（經名）六卷，元魏菩提留支譯。佛在虛空界法界差別住處，最上

樓閣妙寶臺上，諸菩薩諸聲聞各說勝妙之法集，佛悉讚印。

1074. 【菩薩摩訶薩】（科註第四二二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）具名菩提薩埵摩訶薩埵。（*Bohdhisatva Mahāsātva*），菩提薩埵作道眾生，新譯曰覺有情。摩訶薩埵作大眾生，新譯曰大有情。求道果之眾生，故云道眾生，求道果者通於聲聞緣覺，故為簡別於彼，更曰大眾生也。又菩薩有中高下之諸位，但為示地上之菩薩，更曰摩訶薩。

佛地論二曰：「菩薩摩訶薩者，謂諸薩埵求菩提故。此通三乘。為簡取大故。須復說摩訶薩言。」中略」此通諸位。今取地上諸大菩薩。是故復說摩訶薩言。」

法華嘉祥疏二曰：「摩訶薩埵者。摩訶云大。十地論云：大有三種。願大行大度眾生大。薩埵云眾生，即大眾生也。〔中略〕摩訶薩者簡異二乘，亦求小道。今明求於大道，故名大眾生。」

1075. 【オウ撮要】（科註第四二二頁第八行）

《漢語大詞典》：摘要要點。

1076. 【《菩薩瓔珞經》】（科註第四二二頁倒數第四行）

此指《菩薩瓔珞本業經》。（《科註》所引內容，出自該經下卷之《大眾受學品第七》。）

1077. 【真諦】（科註第四二二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）二諦之

一。真謂真實無妄。諦猶義也。對俗諦言，

如謂世間法為俗諦。出世間法為真諦是也。

1078. 【聖諦】（科註第四二二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）聖者所見之諦理也。諦者言其理之真實不虛也。

俱舍論二十二曰：「何義經中說為聖諦？是聖者諦，故得聖名。於非聖者此豈成妄，於一切是諦性無顛倒故。然唯聖者實見非餘，是故經中但名聖諦，非非聖諦，顛倒見故。如有頌言：聖者說是樂，非聖說為苦，聖者說為苦，非聖說是樂。」

勝鬘寶窟下本曰：「聖諦者苦集滅道，審實不虛，故名為諦。又能生不顛倒實解，故名為諦。聖謂諸佛，就聖辨諦，故云聖諦。又此能生無漏聖解，目之為聖，故云聖諦。」

碧巖第一則曰：「如何是聖諦第一義？」

1079. 【勝義諦】（科註第四二二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）法相宗所立二諦之一。對於世俗諦而謂之勝義諦。即真諦也。（參見「真諦」1077）

1080. 【不善】（科註第四二三頁第四行）

《佛學大辭典》：（雜語）違理而損害現世及未來世者，名為不善。五逆十惡是也。是在現在損害自他，在未來感苦果而損害己心身，故為不善；如三途之苦果，彼雖在現在損害身心，然更無為之招未來世之損害者，故非不善。

唯識論五曰：「能為此世他世違損，故名不善。惡趣苦果，雖於此世能為違損。非於

他世，故非不善。」

大乘義章七曰：「惡法違損，稱曰不善。」勝鬘寶窟上末曰：「十惡破戒違理，名為不善。」

1081. 【空性】（科註第四二三頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）真如之異名。梵語舜若多 *Sunyata*，譯曰空性。真如為離我法二執之實體，故修空觀而離我法二執之處，真如之實體躍然而顯，即依空而顯之實性，謂為空性。非謂真如之體是空也。

唯識述記一本曰：「梵言舜若，可說如空，名舜若多。如是空性，即是二空所顯實性。故言空者，從能顯說。二空之性，依士釋名。言真如空，未善理故。」同序曰：

「空性了義，幾乎息矣！」

1082. 【緣修】（科註第四二三頁倒數第二行）

《天台教學辭典》：「一修之一。為「真修」之對稱。在修觀時，有所藉緣而修行者，稱為緣修；若非藉緣而修行，即無修而修，稱為真修。在天台別教之修行階位中，前者係指初地以前之菩薩所修，后者則為初地以上之菩薩所修。〔摩訶止觀卷六下、法華經玄義卷三下〕

《佛學大辭典》「二修」條：一、緣修，緣真如而xié<sup>十一世</sup>叶（音鞋。合也）於理，有心有作之修行也。如地前之菩薩是。二、真修。證真如無修之行法，自合於理無心無作之修行也。如地上之菩薩是。

法華玄義一上曰：「先藉緣修，生後真修。」

1083. 【自受用或他受用之實報土】（科註第四二四頁倒數第四行）

《三藏法數》「三佛土」：〔出華嚴經疏〕一法性土，法性土者，即法身如來所依之土，乃理土也。謂以本識如來藏身為所依持，恒頓變現外諸器界，則法性土通為諸土之體也。（器界者，世界如器故也。）

二受用土，受用土者，即報身如來受用之土也。受用有二：一者，若以相應淨識所修，自利行滿，從初成佛，盡未來際，相續變為純淨佛土，周圍無際，眾寶莊嚴，是名

自受用土。二者，若以大慈悲力所修，化他行滿，隨十地菩薩所宜，變成淨土，或大或小，或勝或劣等是也。

三變化土，變化土者，即應身如來變化之土也。謂佛以不思議神力，隨諸眾生善惡之業，變現淨穢之土，方便設化是也。

1084. 【十法界】（科註第四二五頁倒數第四行）

《三藏法數》：〔出佛祖統紀〕法界者，諸佛眾生之本體也。然四聖六凡，感報界分不同，故有十法界焉。（四聖者，佛、菩薩、緣覺、聲聞也。六凡者，天、人、阿脩羅、餓鬼、畜生、地獄也。）

一、佛法界：佛，梵語具云佛陀，華言

覺。覺具三義：一者自覺，謂悟性真常，了惑虛妄；二者覺他，謂運無緣慈，度有情眾；三者覺行圓滿，謂萬行具足，為三界師，是名佛法界。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

二、菩薩法界：菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。謂自行成就，而能覺悟一切眾生，是名菩薩法界。

三、緣覺法界：緣覺者，謂稟佛教法，觀十二因緣，覺悟真空之理，是名緣覺法界。（十二因緣者，一無明、二行、三識、四名色、五六入、六觸、七受、八愛、九取、十有、十一生、十二老死也。）

四、聲聞法界：聲聞者，謂聞佛聲教，依

四諦法而修證真空，是名聲聞法界。（四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。）

五、天法界：天者，天然自然，樂勝身勝，清淨光明，世間無比。三界共有二十八天。因修上品十善，兼修禪定，感報而生，是名天法界。（二十八天者，欲界有六天：四天王天、忉利天、夜摩天、兜率天、化樂天、他化自在天也。色界有十八天：初禪有三天，梵眾天、梵輔天、大梵天；二禪有三天，少光天、無量光天、光音天；三禪有三天，少淨天、無量淨天、徧淨天；四禪有九天，無雲天、福生天、廣果天、無想天、無煩天、無熱天、善見天、善現天、色究竟天也。無色界有四天：空處天、識處天、無所

有處天、非非想處天也。十善者，不殺、不盜、不邪淫、不妄語、不兩舌、不惡口、不綺語、不貪、不瞋、不邪見也。謂之上品者，以作善時，於欲作正作，作已三時之中，心俱不悔也。）

六、人法界：人者，忍也。於世違順之境，皆能安忍也。謂人生於四洲之中，能行仁義禮智信之五常，能持不殺、不盜、不邪淫、不妄語、不飲酒之五戒，具修中品十善，感報而生，是名人法界。（四洲者，東弗于逮、南閻浮提、西瞿<sup>hā</sup>（音玉）單越也。中品者，謂於作善已後，起少悔之心也。）

七、阿脩羅法界：梵語阿脩羅，華言非

天。淨名疏云：此神果報最勝，鄰次諸天，而非天也。在因之時，懷猜忌心，雖行五常，欲勝他故，作下品十善，感報而生，是名阿脩羅法界。（下品者，謂於作善之時，即生悔心也。）

八、鬼法界：謂此鬼類，徧於諸趣。有福德者作山林塚zhōng wū zǔ（音種。墳墓也）廟神，無福德者居不淨處，不得飲食，受苦無量。在因之時，諂誑心意，作下品五逆十惡，感報而生，是名鬼法界。（下品者，謂作惡之時，即能悔也。五逆者，弑父、弑母、弑阿羅漢、破和合僧、出佛身血也。十惡者，一殺生、二偷盜、三邪淫、四妄語、五兩舌、六惡口、七綺語、八貪、九瞋、十邪見也。）

九、畜生法界：畜生者，亦云旁生。此類徧在諸處，披毛戴角，鱗甲羽毛，四足多足，有足無足，水陸空行，互相吞噉，受苦無窮。宿由愚癡貪欲，作中品五逆十惡，感報而生，是名畜生法界。（旁生者，謂其身形橫生也。中品者，謂作惡已後，起少悔心也。）

十、地獄法界：地獄者，在地之下也。謂八寒、八熱等獄，其中眾生，受苦無窮，經劫無量。因作上品五逆十惡重罪，感報而生，是名地獄法界。（八寒者，è頹è（音餓）浮陀獄、泥賴浮陀獄、阿訶吒ā hē zhā（音炸）吒獄、阿波波獄、ōu ōu（音歐）喉獄、鬱波羅獄、波頭摩獄、芬陀利獄也。八熱者，想獄、黑繩

獄、堆壓獄、叫喚獄、大叫喚獄、燒炙獄、大燒<sup>shāo</sup>炙<sup>shāo</sup>（音至）獄、無間獄也。劫，梵語具云劫波，華言分別時節。上品者，謂人作惡，於欲作、正作、作已，三時之中，俱不能悔也。）

1085. 【《教行信證文類》】（科註第四二五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「顯淨土真實教行證文類」條：（書名）六卷。建立教，行，信，證，真佛土，化身土之六科，廣明淨土真宗之教相，每科各一卷，但信卷與化身土卷並分兩卷，故總為八卷。日本親鸞撰。後世略曰教行證。教行信證，淨土文類，教行證文類，顯淨土教行證文類等。（參見「真實五願」

（六法五願）968）

○教行信證：（書名）教行證文類之外題，是日本真宗所立四法之名。於教行證三法之外，復立信之一法，示真宗之法門，獨以信心為最要者。教指無量壽經，行指南無阿彌陀佛，信為信南無阿彌陀佛之信心，證者往生極樂，得涅槃之證果也。彼書有六卷，初四卷明教行信證之四法。因之外題置教行信證之四字。日本見真（日本真宗之開祖親鸞，謚曰見真大師）著。

1086. 【《略箋》】（音堅）（科註第四二七頁第二行）

《無量壽經略箋》。八卷，（日）院溪作。

1087. 【<sup>niào</sup>遼（音繞）佛】（科註第四二九頁第二行）

《釋氏要覽》：又云旋遶，此方稱行道。

西域記云。西天隨所宗事禮後，皆須旋遶，蓋歸敬之至也，唯佛法右遶。法苑云：順天行也。若zā匝數則不定，若三匝表三業也，七匝表七支。如經云百千匝無數匝，但以多為數，表敬之極也。

賢者五戒經云：旋塔三匝，表敬三尊，為滅三毒故。

提謂經：問：散華、燒香、燃燈、禮拜，是為供養，旋遶得何等福？佛言有五福：一後世得端正好色，二好聲，三得生（天上），四生王侯家，五得泥洹道。

三千威儀經云：旋遶有五事：一低頭視地，二不得蹈虫，三不得左右視，四不得唾

地，五不得與人語話。

1088. 【會三歸一】（科註第四三〇頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）佛於法華經，說爾前所說三乘法，為一佛乘之方便，所歸者，一佛乘耳。一佛乘之外，無二乘三乘，是為會三歸一。

法華玄義七曰：「華合未開，譬隱一乘，分別說三。華葉正開，譬會三歸一，但說一乘。華落蓮存，譬絕教冥理。」

四教儀曰：「開前頓漸，會人非頓非漸。故言開權顯實。又言廢權立實。又言會三歸一。」

《天台教學辭典》：又稱會三入一。開三乘方便，歸入一乘真實。台宗就『法華經』

教義所立之名目。台宗謂佛于法華以前諸經，說聲聞、緣覺、菩薩等三乘，此係應根機未熟而方便施設，故未開顯真實以前為權法；待根機圓熟，則為之開顯一乘，若隔歷之情執脫落時，則權即實，三即一是為唯一佛乘。如此開三乘會歸入一乘，稱為會三歸一。與開權顯實、廢權立實其事相同，然開權顯實乃以教體而立，廢權立實以教用而立，會三歸一則以所修之行而立為旨趣。

又台宗、華嚴宗，以羊、鹿、牛等三車比喻三乘，三車外別立大白牛車以為一乘，故倡必會三歸一之旨。然嘉祥大師、慈恩大師等三車家，則以三乘中之菩薩乘為佛乘，否認四車說，而謂『法華經』乃會聲聞緣覺等

二乘，而歸入菩薩乘，稱為「會二歸一」。〔法華經藥草喻品、法華經義記卷一（法雲）、法華玄義卷九下〕

### ◎ 發大誓願第六

1089. 【《行卷》】（科註第四三二頁第六行）

日本親鸞大師所著之《教行信證文類》共六卷，分「教、行、信、證、真佛土、化身土」六部分。《行卷》即指其中第二部分之內容。

1090. 【方便藏】（科註第四三二頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）佛之方便，包藏一切功德，故稱曰方便藏。

教行信證二曰：「乘一切知船，浮諸群生海，圓滿福智藏，開顯方便藏。」

1091. 【頂戴】（科註第四三三頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：敬禮、感恩。

1092. 【闕<sup>quē</sup>（音缺）如】（科註第四三三頁第七行）

《漢語大詞典》：缺少；沒有。

1093. 【諷誦】（科註第四三三頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（儀式）揚誦經文，或偈頌謂之諷誦。

無量壽經上曰：「受讀經法，諷誦持說。」

1094. 【丹誠】（科註第四三五頁第七行）

《漢語大詞典》：赤誠的心。

1095. 【攝大乘論音義】（科註第四三七頁第八行）

指《玄應音義》中《攝大乘論》部分。

（《科註》所引內容，出自《玄應音義卷第十·攝大乘論第一卷》。）

1096. 【由旬】（科註第四三七頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（雜語）Yojana，又作

俞旬，yú<sup>lv</sup>掄（音魚）旬，由延，或踰闍那。新

稱踰繕那。為計里程之數目。帝王一日行軍之里程也。或云四十里，或云三十里。

西域記二曰：「夫數量之稱，謂踰繕那，舊曰由旬，又曰踰闍那，又曰由延，皆訛略也。踰繕那者，自古聖王一日軍行也。舊傳一踰繕那四十里矣，印度國俗乃三十里。聖教所載惟十六里，窮微之數，分一踰繕那為八拘盧舍。拘盧舍者，謂大牛鳴聲所極聞稱拘盧舍，分一拘盧舍為五百弓，分一弓為

四肘，分一肘為二十四指，分一指節為七宿麥。」

玄應音義二曰：「俞旬，又作由旬，或作由延，又作踰闍那，皆訛也。此言踰繕那，此譯云：合也，應也。計合應爾許度量，同此方驛luó 攷之邏（音羅）也。」

有部百一jié 攷之羯（音結）磨三曰：「言踰繕那者，既無正翻義，當東夏一驛可三十餘里，舊云由旬者訛略。若准西國俗法，四俱盧舍為一踰繕那，計一俱盧舍可有八里，即是當其三十二里。若准內教，八俱盧舍為一踰繕那，一俱盧舍有五百弓，弓有一步數，准其步數cái 攷之纚（音材）一里半餘，將八倍之當十二里，此乃不充一驛。親驗當今西方踰繕

那可有一驛，故今皆作一驛翻之，遮無遠滯。」

註維摩經六：「肇曰：由旬，天竺里數名也。上由旬六十里，中由旬五十里，下由旬四十里也。」

一指節者，橫大母指而取其厚量也。又一zhǒu 攷之肘者，自肘之本端至中指之末也。

惠運之俱舍記曰：「一肘者，自肘本端至中指末也，一尺八寸。」

智證之雜記曰：「橫大母指而取其厚，以為一指也。」

俱舍論十一曰：「瞻部洲人身，多長三肘半，於中少分有長四肘。」積算此指節之量可知由旬之度。

1097. 【八熱地獄】（科註第四三八頁第二行）

《三藏法數》〔出顯宗論〕條：在地之下，故名地獄。婆沙論云：南瞻部洲，下過五百踰繕那，乃有其獄。然此地獄，有大有小。大則八寒、八熱，小則一一大獄四門，各有四小獄，共為十六；小獄名為遊增獄，謂受罪眾生，遊彼獄時，其苦轉增故也。（梵語瞻部洲，又云閻浮提，華言勝金洲。梵語踰繕那，又云由旬，華言限量。）

一、想地獄，此獄，俱舍論中亦名等活地獄。顯宗論云：其中眾生，手生鐵爪，其爪長利，互相瞋忿，懷毒害想，以爪相攫jué（音覺。抓也），肉即墮落；或被zhuó斫shé（音濁。斫削）刺磨擣，想為已死，冷風吹之，皮肉

還生，尋復活起，故名想地獄。

二、黑繩地獄，謂此獄中，獄卒以熱鐵繩bēng餅zǐ（音崩。捆綁）牽罪人，然後斬鋸；復有惡風吹熱鐵繩，籠絡其身，燒皮徹肉，焦骨沸髓，苦毒萬端，故名黑繩地獄。

三、堆壓地獄，此獄，亦名眾合地獄，獄中有大石山，罪人人至其中，山自然合，堆壓其身，骨肉糜碎，故名堆壓地獄。

四、叫喚地獄，謂受罪眾生，既至此獄，獄卒以其罪人擲大鑊中，沸湯烹煮，受諸痛苦，號hào吽hū（音桃。大哭）叫喚，故名叫喚地獄。

五、大叫喚地獄，謂獄卒既將罪人沸湯烹煮已，業風吹活；又捉向熱鐵áo鑿zāo（音熬。平

底鍋）中煎熬，痛苦極切，發聲大叫，故名大叫喚地獄。

六、燒炙地獄，謂此獄以鐵為城，烈火猛燄，內外燒炙，皮肉糜爛，痛苦萬端，故名燒炙地獄。

七、大燒炙地獄，謂獄卒將彼罪人，置鐵城中，烈火燒城，內外俱赤，燒炙罪人；又有火坑，火燄熾盛，其坑兩岸，復有火山，捉彼罪人，貫鐵叉上，著於火中，皮肉糜爛，痛苦萬端，故名大燒炙地獄。

八、無間地獄，謂有罪眾生，至彼受苦，無有間歇，故名無間。此於八熱中又為最重之獄也。成實論明五種無間：一者，趣果無間。謂有極重罪者，即向彼獄受其果報，無

有間歇。二者，受苦無間，謂至彼獄受諸痛苦，無有間歇。三者，時無間。謂至彼獄受苦，時節無有間歇。四者，命無間。謂彼地獄，壽命一中劫，無有間歇。五者，形無間。謂彼地獄受罪眾生，生而復死，死已還生，身形無有間歇也。（一中劫者，二十小劫為一中劫也。）

1098. 【八寒冰獄】（科註第四三八頁倒數第五行）

《三藏法數》「八寒地獄」條：〔出翻譯名義〕

一、頰浮陀地獄：梵語頰えつ（音厄）浮陀，或云頰部陀，華言ào炮えん（音炮）。謂受罪眾生，因寒苦所逼，皮肉炮起也。

二、泥賴浮陀地獄：梵語泥賴浮陀，或云

泥刺部陀，華言炮裂。謂受罪眾生，因寒苦所逼，炮即拆裂也。

三、阿吒吒地獄：梵語阿吒吒，或云嚅嚅（皆無翻）。謂受罪眾生，由寒苦增極，唇不能動，唯於舌中作此聲也。

四、阿波波地獄：梵語阿波波，或云唬唬婆（無翻），謂受罪眾生，寒苦增極，舌不能動，唯於唇間作此聲也。

五、嘔喉地獄：ou嘔x（音歐）喉地獄者，謂受罪眾生，由寒苦增極，唇舌俱不能動，但於咽喉內振氣而作此聲也。

六、鬱波羅地獄：梵語yù鬱lā（音玉）波羅，或云wà嗚鉢羅，華言青蓮華。謂受罪眾生，由寒苦增極，皮肉開拆，似此華也。

七、波頭摩地獄：梵語波頭摩，或云鉢特摩，華言紅蓮華。謂受罪眾生，由寒苦增極，肉色大拆，似此華也。

八、芬陀利地獄：梵語芬陀利，華言白蓮華。謂受罪眾生，由寒苦增極，皮肉脫落，其骨之色，似此華故。或云摩訶鉢特摩地獄，梵語摩訶鉢特摩，華言大紅蓮華，皮肉凍拆，似此華也。

1099. 【pào炮ào】（音炮）（科註第四三八頁倒數第五行）  
《漢語大詞典》：皮膚上長的像水泡的小疙瘩。

1100. 【十六遊增地獄】（科註第四三九頁第二行）  
《法相辭典》「大地獄有十六增」條（節錄）：大毘婆沙論一百七十二卷七頁云：又一

一大地獄，有十六增。謂各有四門。一一門外，各有四增。

一、糖煨增。謂此增內，糖煨（音唐微。熱灰也）沒膝。

二、尸糞增。謂此增內，尸糞泥滿。

三、鋒刃增。謂此增內，復有三種。（一）刀刃路。謂於此中，仰布刀刃，以為道路。（二）

劍葉林。謂此林上，純以xiān<sup>ㄒㄩㄢ</sup>銛ㄊㄩˋ（音先。鋒利）

利劍刃為葉。（三）鐵刺林。謂此林上，有利鐵刺，長十六指。刀刃路等，三種雖殊；而鐵杖同，故一增攝。

四、烈河增。謂此增內，有熱鹹水。

并本地獄，以為十七。如是八大地獄，并諸眷屬，便有一百三十六所。是故經說有一

百三十六nà<sup>ㄋㄚˋ</sup>捺（音那）落迦（捺落迦，即地獄）。

問：何故眷屬地獄，說名為增？有說：本地獄中，一種苦具，治諸有情。此眷屬中，種種苦具，治諸有情。故名為增。是故天使經說：眷屬地獄中，以種種苦具，治諸罪者。有說：此是增受苦處，故說名增。謂本地獄中，被逼切已；復於此處，重遭苦故。非謂多種苦具名增。本地獄中，亦多苦具故。

《三藏法數》：〔出經律異相并諸經要集〕謂八寒、八熱大獄，每獄有四門，門各有四獄，受苦眾生，於此諸獄，次第遊歷，其苦轉增，故名十六遊增地獄也。

一、黑沙地獄：謂熱風吹熱黑沙，沙著於身，皮骨焦爛，久受苦已，方出此獄，復到沸尿地獄。

二、沸尿地獄：謂沸尿鐵丸，自然滿前，驅逼罪人，使抱鐵丸，燒其身手；復使cuō撮（抓取也）著口中，從咽至腹，通徹下過，無不焦爛。有鐵瘡蟲，shà咬ㄅ（音煞。咬、食也）肉達髓，苦毒無量，久受苦已，方出此獄，復到鐵釘地獄。

三、鐵釘地獄：謂獄卒捉罪人，yǎn偃ㄙ（音演。臥也）熱鐵上，舒展其身，以釘釘其手足。周徧身體，盡五百釘，苦毒無量，久受苦已，方出此獄，復到饑餓地獄。

四、饑餓地獄：謂獄卒將熱鐵丸，著罪人

口中，燒其唇舌，通徹下過，無不焦爛，久受苦已，方出此獄，復到渴地獄。

五、渴地獄：謂獄卒捉罪人，pū撲ㄨ（音鋪。臥，伏也）熱鐵上，鎔銅灌口，從咽至腹，通徹下過，無不焦爛，久受苦已，方出此獄，復到一銅鑊地獄。

六、一銅鑊地獄：謂獄卒捉罪人，倒投huò鑊ㄏ（音或。無足鼎）中，隨湯涌沸，上下迴旋，身已壞爛，久受苦已，方出此獄，復到多銅鑊地獄。

七、多銅鑊地獄：謂獄卒捉罪人，倒投鑊中，舉身爛壞，以鐵鉤取置餘鑊中，苦毒無量，久受苦已，方出此獄，復到石磨地獄。

八、石磨地獄：謂獄卒捉彼罪人，撲熱石

上，舒展手足，以大熱石，壓其身上，迴轉揩磨，骨肉糜碎，苦毒無量，久受苦已，方出此獄，復到膿血地獄。

九、膿血地獄：謂膿血沸涌，罪人於中，東西馳走，湯其身體，頭面爛壞；又取膿血食之，通徹下過，苦毒難忍，久受苦已，方出此獄，復到量火地獄。

十、量火地獄：謂有大火聚（聚集之猛火），其火燄然，獄卒驅逼罪人，手執鐵升，以量火聚，徧燒身體，苦毒熱痛，呻吟號哭，久受苦已，方出此獄，復到灰河地獄。

十一、灰河地獄：謂縱廣各五百由旬，灰河沸涌，惡氣蓬<sup>ぼつ</sup>焯<sup>ちやう</sup>（音搏。煙起貌），洄波

（回旋的流水。洄，音回）相搏，聲響可畏。從底至上，鐵刺縱橫，岸有劍林，枝葉華實皆是刀劍，罪人入河，隨波上下，洄復（湍急回旋的流水。復，音浮）沉沒，鐵刺刺身，內外通徹，苦痛萬端。乃出灰河，至彼岸上，利劍割刺，身體傷壞，復有豺狼，來<sup>にせ</sup>噬<sup>せ</sup>（音涅。咬，啃）罪人，生食其肉，走上劍樹，劍刃下向，下劍樹時，劍刃上向，手攀手絕，足踏足斷，皮肉墮落，筋脈相連，有鐵嘴鳥，啄頭食腦，罪人復入灰河，隨波沉沒，鐵刺刺身，皮肉爛壞，膿血流出，惟有白骨，漂浮於外，冷風來吹，尋便起立，宿對所牽，不覺忽至鐵丸地獄。

十二、鐵丸地獄：謂有執鐵丸獄卒，驅其

罪人，撮之手足爛壞，舉身火然，久受苦已，方出此獄，復到斫斧地獄。

十三、斫斧地獄（斫音斤，劑斷也）：謂獄卒捉彼罪人，撲熱鐵上，以熱鐵斫斧，斫其手足及耳鼻身體，苦毒無量，久受罪已，方出此獄，復到豺狼地獄。

十四、豺狼地獄：謂豺狼競來齧（音劑）噬罪人，肉墮骨傷，膿血流出，苦痛萬端，久受苦已，乃出此獄，復到劍樹地獄。

十五、劍樹地獄：謂諸罪人，入彼劍林，有暴風起，吹劍樹葉，墮其身上，頭面身體，無不傷壞，有鐵嘴鳥，啄其兩目，苦痛無量，久受苦已，乃出此獄，復到寒冰地獄。

十六、寒冰地獄：謂有大寒風，吹罪人身，舉體凍傷，皮肉墮落，苦毒叫喚，然後命終。皆因眾生造極惡業，故墮此等諸地獄也。

1101. 【táng 糖（音唐）wēi 煨（音微）】（科註第四三九頁第三行）

《漢語大詞典》：熱灰。

1102. 【孤獨地獄】（科註第四三九頁第五行）

《佛學大辭典》：（界名）又曰孤地獄。非如八寒八熱地獄之有定處，各人別業所感，獨在虛空或山野等之地獄也。

俱舍頌疏十曰：「如上所論十六地獄，一切有情業增上力感，餘孤地獄各別業招。或多或少，或二或一，所止差別多種，處處不

定。或近江河山邊曠野，或在地下空及餘處。」

1103. 【《輔宏記》】（科註第四三九頁第六行）

即《天台四教儀註彙補輔宏記》。十卷。

高麗沙門諦觀錄，元南天竺沙門蒙潤集註，清比丘性權彙補輔宏記。

1104. 【餓鬼】（科註第四三九頁第八行）

《佛學大辭典》：（異類）梵語，薛荔哆

（音必利多）Preta，譯曰餓鬼。三塗之一。法

華經云：受地獄餓鬼畜生之苦是也。又為六

趣之一。餓鬼趣常苦飢餓，由其所受果報不

同，而有勝劣。有福德者，則為山林塚

（音種。墳墓）廟之神。下者居不淨處，不得

飲食，常受刀杖之苦。

雜心論八曰：「從他希求，故說餓鬼。」

婆沙論百七十二曰：「有說飢渴增故名

鬼，由彼積集感飢渴業，經百千歲，不得聞

水名，豈能得見，況復得觸。有說被驅役故

名鬼，恒為諸天處處驅役馳走故。有說多希

望故名鬼，謂五趣中，從他有情。多希望

者，無過此故。」

大乘義章八末曰：「言餓鬼者，如雜心

釋，以從他求故名餓鬼。又常飢虛，故名為

餓。恐怯多畏，故名為鬼。」

此鬼類中。有藥叉羅刹之大威德者，故新

譯曰鬼，不曰餓。然舊譯之經論，名曰餓

鬼，以鬼類中餓鬼最多故也。

1105. 【《新婆沙論》】（科註第四四〇頁第一行）

即《阿毗達磨大毗婆沙論》，二百卷，唐玄奘法師譯。相對於北涼浮陀跋摩、道泰等合譯之阿毘曇毘婆沙論，而稱新婆沙論。

（參見「《婆沙論》」761）

1106. 【平等王】（科註第四四〇頁倒數第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（異類）閻魔王之別稱。以其公平司罪福之業也。

慧琳音義五曰：「梵音 yán 爛ㄌㄢˋ（音驗）魔，義翻為平等王，此司典生死罪福之業。」

演密鈔曰：「炎魔王此云平等王。」

五會法事讚本曰：「若得念佛深三昧，不怕三途平等王。」

1107. 【五趣】（科註第四四〇頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（名數）又曰五惡趣，

五道等。一地獄，二餓鬼，三畜生，四人，五天。

文句十二曰：「從一至一，故名為趣。」無量壽經曰：「開示五趣，度未度者。」

1108. 【三啟經】（科註第四四〇頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（經名）佛說無常經之異名。一卷，唐義淨譯。馬鳴菩薩於經前與經後讚嘆三寶之德，論迴向發願，添述意及宣明經意無常之偈頌，開一部為三段，故名為三啟經。佛制使以此經於葬亡時諷詠之。又印度僧徒，於日暮禮塔必諷詠此經。

寄歸傳四曰：「所誦之經多誦三啟，乃是尊者馬鳴之所集置，初可十頌許取經意讚嘆三尊。次述正經，是佛親說，讀誦既了，更

陳十餘頌論迴向發願。節段三開，故云三啟。」

毘奈耶雜事四曰：「然有二事作吟詠聲：一謂讚大師德，二謂誦三啟經，餘皆不合。」同十八曰：「送喪 bi 苾 (音必) chú 芻 (音除)，可令能者誦三啟無常經并說伽陀為其咒願。」

1109. 【長阿含經地獄品】 (科註第四四一頁第三行)

《佛說長阿含經》卷第十九，為該經第四分《世記經》之第四品。

1110. 【閻浮提】 (科註第四四一頁第四行)

《佛學大辭典》：(界名) Jambudvīpa, 舊稱閻浮提, yán 琰 (音演) 浮洲, 閻浮提鞞

波。新稱瞻部洲。當須彌山之南方大洲名。即吾人之住處。閻浮者新稱瞻部。樹名。提為提鞞波之略，譯曰洲。此洲之中心，有閻浮樹之林，故以為洲名。又屬南方，故曰南閻浮提。

智度論三十五曰：「如閻浮提者，閻浮樹名，其林茂盛，此樹於林中最大，提名為洲。」

俱舍論十一曰：「大雪山北，有香醉山，雪北香南有大池水，名無熱池。〔中略〕於此池側，有瞻部林，樹形高大。其果甘美，依此林故，名瞻部洲。」

玄應音義十八曰：「yán 剡 (音演) 浮或云閻浮提，或作譚浮，又云瞻部，皆梵音訛轉

也。剡浮者從樹為名，提者略也，應言提鞞波，此云洲也。」

西域記一曰：「南瞻部洲，舊曰閻浮提洲訛也。」

1111. 【《法華經方便品》】（科註第四四一頁第六行）

《妙法蓮華經》之第二品。說三乘方便，一乘真實者，故名。

1112. 【《淨土論註》】（科註第四四二頁第二行）  
即《往生論註》。二卷，北魏曇鸞撰。

（參見「《往生論註》」213）

1113. 【紫磨真金】（科註第四四三頁第六行）

《佛學大辭典》「紫磨金」條：（物名）又曰紫磨黃金。紫者紫色也，磨者無垢濁

也。

涅槃論曰：「閻浮檀金有四種：一青二黃三赤四紫磨，紫磨金具有眾色。」

本是漢名。孔融聖人優劣論曰：「金之精者名為紫磨，猶人之有聖也。」

續博物志曰：「華俗謂上金為紫磨金，夷俗謂上金為陽邁（音賣）金。」

1114. 【三十二相】（科註第四四四頁第三行）

諸經論所述之「三十二相」，名稱次序各有不同，然皆大同小異。今依《三藏法數》中諸相名稱、順序，並集《佛學大辭典》、《佛光大辭典》、《優婆塞戒經·修三十二相業品第六》及《大通方廣懺悔滅罪莊嚴成佛經》之相關內容，綜合整理如下：

三十二相，具名三十二大人相。具此相者在家為輪王，出家則開無上覺。是為天竺國人相說。

智度論八十八曰：「隨此間閻浮提中天竺國人所好，則為現三十二相。天竺國中人，于今故治肩膊（即肩膀。膊，音博）令厚大，頭上皆有結為好，如人相中，說五處長為好：眼、耳、鼻、舌、臂、指、髀（音必。大腿）、手足相，若輪、若蓮華、若貝、若日月。是故佛手足有千輻輪、xiān<sup>T</sup><sub>一</sub><sub>分</sub>纖（音先）長指、鼻高好、舌廣長而薄，如是等皆勝於先所貴，故起恭敬心。」

佛感此相者，由於百劫之間，一一之相，積百種之福，法界次第下之下曰：「此三十

二通云相者，相名有所表，發攬而可別，名之為相。如來應化之體現此三十二相，以表法身眾德圓極，使見者愛敬，有勝德可崇，人天中尊眾聖之王，故現三十二相也。」

一、足安平相：又作足下安平立相、足下平滿相、兩足掌下皆悉平滿相。即足底平直柔軟，安住密著地面之相。係佛於因位行菩薩道時，修六波羅蜜所感得之妙相，此相表引導利益之德。於無量世，布施、持戒、修集道時，其心不動，得足下平相。如來至心護持淨戒得足下平相。

二、千輻輪相：又作足下二輪相。即足心現一千輻輪寶之肉紋相。此相能摧伏怨敵、惡魔，表照破愚癡與無明之德。或謂「足」

亦指手足，故又稱手足輪相、手掌輪相。於無量世，供養父母、師長、善友，如法擁護一切衆生，得手足輪相。修種種惠施得手足千輻輪相。

三、手指纖長相：又作長指相、指纖長相、指長好相、纖長指相。謂手指纖細圓長，端直臚（音容。均也）好，光潤可愛。係由恭敬禮拜諸師長，破除jiāo<sup>卍</sup>憍（音交）慢心所感得之相，表壽命長遠、令眾生愛樂歸依之德。至心受持第一、第四優婆塞戒，得纖長指相、足跟長相。護正法故得指纖長相。

四、手足柔軟相：又作手足如兜羅綿相、手足細軟相。謂手足極妙柔軟，勝餘身分

也。係以上妙飲食、衣具供養師長，或於父母師長病時，親手為其拭洗等奉事供養而感得之相，表佛以慈悲柔軟之手攝取親疏之德。於無量世以手摩洗師長、父母身，除去垢穢，香油塗之，得手足軟相。以妙衣服奉施得手足軟相。

五、手足縵網相：即手足一一指間，皆有縵網交互連絡之紋樣，如雁王張指則現，不張則不現。此相乃由修四攝法、攝持眾生而有。能出沒自在無礙，表離煩惱惡業、至無為彼岸之德。以四攝法，攝眾生故，得手足網縵相。不破壞他故，得指間網縵相。

六、足跟滿足相：又作足跟廣平相、足跟長相、腳跟長相。即足踵（腳後跟）圓滿廣

平。係由持戒、聞法、勤修行業而得之相，表化益盡未來際一切眾生之德。至心受持第一、第四優婆塞戒，得纖長指相、足跟長相。不欺一切諸眾生得足跟臄相。

七、足趺高好相：又作足趺隆起相、足趺端厚相、足趺高平相。即足背高起圓滿之相。乃佛於因位修福、勇猛精進感得之相，表利益眾生、大悲無上之內德。

八、臄如鹿王相：又作鹿王臄shuàn 尸又分（音瀾。即

小腿肚子）相。即股骨如鹿王之纖圓。係往昔專心聞法、演說所感得之相，表一切罪障消滅之德。菩薩至心聽法、至心說法，壞生死諸過咎，得鹿王臄相。喜聞法故得鹿王臄pò 忒（後脛骨。音破）相。

九、手過膝相：又作手摩膝相、垂手過膝相、手過膝相、平住手過膝相。即立正時，兩手垂下，長可越膝。此相係由離我慢、好惠施、不貪著所感得，表降伏一切惡魔、哀愍摩頂眾生之德。菩薩不欺誑一切聖賢、父母、師長、善友、知識，得手過膝相。見他造三寶業樂佐助得手摩膝相。

十、馬陰藏相：又作陰馬藏相、象馬藏相。謂陰相藏密，猶如馬陰，不可見也。此相係由斷除邪淫、救護怖畏之眾生等而感得，表壽命長遠，得多弟子之德。於無量世，見怖畏者，能為救護，心生慚愧，不說他過，善覆人罪，得象馬藏相。覆藏他罪過得馬陰藏相。

十一、身縱廣相：又作身縱廣等如尼拘樹相、圓身相、尼俱盧陀身相。謂身儀端正，豎縱橫廣，無不相稱也。以其常勸眾生行三昧，作無畏施而感此妙相，表無上法王尊貴自在之德。於無量世，常施一切眾生病藥，得身方圓相。常勸眾生修三昧故得圓滿如尼拘陀相。

十二、毛孔生青色相：又作毛孔一毛相、孔生一毛相、一一毛相、一孔一毛不相雜亂相。即一孔各生一毛，其毛青琉璃色，一一毛孔皆出微妙香氣。乃由尊重、供養一切有情、教人不倦、親近智者、掃治<sub>じ</sub>棘<sub>し</sub>（音吉）刺道路所感之妙相，蒙其光者，悉能消滅二十劫罪障。於無量世，親近智者，樂聞、樂

論，聞已樂修，樂治道路，除去棘刺，得皮膚柔軟，一一孔中，一毛生相。遠離聚說世間故得一一孔毛生相。

十三、身毛上<sub>じ</sub>靡<sub>し</sub>（音米）相：又作毛上旋相、身毛右旋相。謂身諸毫毛，皆右旋向上，而偃伏也。此相由行一切善法而有，能令瞻仰之眾生，心生歡喜，獲益無量。於無量世，常化眾生，令修施、戒、一切善法，得毛上靡相。樂受善友師長教敕故得身毛上靡相。

十四、身金色相：又作真妙金色相、金色身相。謂身皆金色，光明晃曜，如紫金聚，眾相莊嚴，微妙第一。此相係以離諸忿恚，慈眼顧視眾生而感得。此德相能令瞻仰之眾

生厭捨愛樂，滅罪生善。於無量世，常施衆生房舍、臥具、飲食、燈明，得金色身相。喜施敷具（袈裟之異名。敷，音夫）房屋得金光明相。

十五、身光面各一丈相：又作常光一尋相、圓光一尋相。謂身放光明，四面各一丈也。此相以發大菩提心，修無量行願而有，能除惑破障，表一切志願皆能滿足之德。

十六、皮膚細滑相：謂皮膚細膩滑澤，不受塵水，不停蚊蚋。又作皮膚細軟相、身皮細滑塵垢不著相。即皮膚細薄、潤澤，一切塵垢不染。係以清淨之衣具、房舍、樓閣等施與衆生，遠離惡人，親近智者所感得之相，表佛之平等無垢，以大慈悲化益眾生之

德。

十七、七處平滿相：謂兩足下、兩手、兩肩、項中，七處皆平滿端正也。此相係由不惜捨己所愛之物施予眾生而感得，表一切眾生得以滅罪生善之德。於無量世，可瞋之處，不生瞋心；樂施衆生，隨意所須，得七處滿相。以淨食施得七處滿相。

十八、兩腋滿相：即佛兩腋下之骨肉圓滿不虛。係佛予眾生醫藥、飯食，又自能看病所感之妙相。

十九、身如師子相：又作上身相、師子身相。謂身體平正，威儀嚴肅，如師子王也。係佛於無量世界中，未曾兩舌，教人善法、行仁和，遠離我慢而感得此相，表威容高

貴、慈悲滿足之德。於無量世，自無兩舌，教他不為。得上身、jiá頰hǔ頰（音夾）車二相。修十善法故得上身如師子王相。

二十、身端直相：又作身廣洪直相、廣洪直相、大人直身相。謂於一切人中，佛身最大而直。乃以施藥看病，持殺、盜戒，遠離憍慢所感；能令見聞之眾生止苦、得正念、修十善行。

二十一、肩圓滿相：又作肩圓大相、兩肩平整相。即兩肩圓滿豐腴（即豐滿。腴，音魚），殊勝微妙之相。係由造像修塔，施無畏所感得，表滅惑除業等無量功德。

二十二、四十齒相：謂常人但有三十六齒，唯佛具足四十齒也。此相係由遠離兩

舌、惡口、恚心，修習平等慈悲而感得，常出清淨妙香；此一妙相能制止眾生之惡口業，滅無量罪、受無量樂。於無量世，以十善法，教化眾生，眾生受已，心生歡喜，常樂稱揚他人功德，得四十齒、白淨相、齊密相三相。於諸眾生心平等故得四十齒相。

二十三、齒白齊密相：謂四十齒皆白淨齊密，根復深固也。係以十善法化益眾生，復常稱揚他人功德所感之相，表能得清淨和順、同心眷屬之德。於無量世，以十善法，教化眾生，眾生受已，心生歡喜，常樂稱揚他人功德，得四十齒、白淨相、齊密相三相。喜和合諍訟得齒密相。以珍寶施得齒齊相。

二十四、四牙白淨相：謂四牙最白而大，瑩潔鮮淨也。係以常思惟善法，修慈而感得此相。此妙相能摧破一切眾生強盛堅固之三毒。於無量世，修欲界慈，樂思善法，得四牙白相。身口意淨得二牙白相。

二十五、頰車如師子相：謂兩頰車（牙下骨，即齶骨也）隆滿如師子王也。見此相者，得除滅百劫生死之罪，面見諸佛。於無量世，自無兩舌，教他不為。得上身、頰車二相。按時說善法得師子頰相。

二十六、咽中津液得上味相：謂咽喉中常有津液，上妙美味，如甘露流注也。此係由見眾生如一子，復以諸善法回向菩提感得之相，表佛之妙法能滿足眾生志願之德。於無

量世，不待求己，然後方施，得味中上味相。成就無量功德得味中上味相。常施病者藥得所食之物至味悉現相。

二十七、廣長舌相：謂舌廣而長，柔軟紅薄，能覆面而至于髮際也。係發弘誓心，以大悲行回向法界而感之相；觀此相，則滅百億八萬四千劫生死罪，而得值遇八十億之諸佛菩薩受記。於無量世，至心受持十善法教，兼化衆生，得肉髻ムス（音計）、廣長舌二相。護四口過得廣長舌相。

二十八、梵音深遠相：謂音聲和雅，近遠皆到，無處不聞也。乃由說實語、美語，制守一切惡言所得之相；聞者隨其根器而得益生善，大小權實亦得惑斷疑消。於無量世，

自不惡口，教他不為，得梵音聲相。於無量世，恒以軟語、先語、實語，教化衆生，得八梵音相。於諸衆生常以軟語得梵音相。

二十九、眼色如金精相：謂眼目清淨明瑩，如金色精也。又作目紺紺gōn（音贛）青色相、目紺青相、紺眼相、紺青眼相、蓮目相。即佛眼紺青，如青蓮花。係由生生世世以慈心慈眼及歡喜心施予乞者所感得之相。

三十、眼睫如牛王相：指睫毛整齊而不雜亂。此相係由觀一切衆生如父母，以思一子之心憐愍愛護而感得。為菩薩時，於無量世，樂以善眼，和視衆生，得牛王眼相。於無量世，等以慈善，視怨親故，得牛王目

相。至心求於無上菩提得牛王睫（同睫。眼睫毛）相。

三十一、眉間白毫相：又作白毫相、眉間毫相。即兩眉之間有白毫，柔軟如兜羅綿，長一丈五尺，右旋而捲收，以其常放光，故稱毫光、眉間光。因見衆生修三學而稱揚讚歎遂感此妙相。於無量世，宣說正法，實法不虛，得白毫光相。於無量世，不誑一切諸衆生故，得眉間毫相。讚歎他人所有功德得白毫相。

三十二、頂肉髻成相：又作頂上肉髻相、肉髻相。謂頂上有肉，高起如髻，亦名無見頂相，謂一切人天二乘菩薩，皆不能見故也。係由教人受持十善法，自亦受持而感得

之相。於無量世，頭頂禮拜一切聖賢、師長、父母，尊重讚歎，恭敬供養，得無見頂相。於無量世，供養師長、諸佛菩薩，頂頭禮拜，破驕慢故，得無見頂相。於無量世，至心受持十善法教，兼化衆生，得肉髻、廣長舌二相。恭敬供養父母、和上、阿闍梨師得肉髻相。

1115. 【法界次第】（科註第四四四頁第六行）

《佛學大辭典》：（書名）具名法界次第初門，六卷（開三卷上下為六），隋智者撰。隨義理之次第而解釋法數者。

《閱藏知津》「法界次第初門」條：三卷（合每卷上下為三）。隋天台智者大師撰。天台山修禪寺沙門釋智顛，輒依經附論，撰法界

次第初門三百科，裁為七卷，流傳新學，略為三意：一為讀誦尋論隨見法門，脫有迷於名數者。二為未解聖教所制法門淺深之次第。三為學三觀之者，當以此諸法名相義理，一一歷心而轉作，則觀解無礙，觸境不迷，若於一念心中，通達一切佛法者，則三觀自然了了分明也。故出此三百科，名教仍當，名下略辯體相，始得三卷。（僅六十科）

1116. 【shuàn ㄕㄨㄢˋ 蹠】（音澗）（科註第四四四頁倒數第三行）

《康熙字典》：俗曰腳肚（即小腿肚子）。

1117. 【常光一丈】（科註第四四五頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）又云常光一尋。化身佛之常光明，其徑一丈也，是為常光，故不別言放光。

智度論八曰：「問云：如來何故常光一丈？答曰：今眾生薄福鈍根，目不堪其光故，若放多光則失眼根，若眾生利根福重，佛則放無量光明。」

1118. 【**𩑦**】（音羽）（科註第四四五頁第五行）

《漢語大詞典》：曲背；彎腰。

1119. 【**頰**】（音夾）**車**（科註第四四五頁第六行）

《漢語大詞典》：牙下骨，載齒的。𩑦（音

厄）骨。《醫宗金鑒·刺灸心法要訣·周身名位骨度》「頰車」注：「頰車者，下牙床骨也。總載諸齒，能咀食物，故名頰車。」

1120. 【**紺**】（音贛）**青**（科註第四四五頁倒數第五行）

《藏傳佛教辭典》「眼色紺青相」條：如

來看待眾生皆如獨子，故感得眼珠黑裡透紅之相。三十二大丈夫相之一。

《佛學大辭典》：（雜語）青而含赤之色。為佛之毛髮之色。又云紺琉璃。

大般若三百八十一曰：「世尊首髮脩長，紺青稠密不白。」又曰：「世尊眼睫猶如牛王，紺青齊整，不相雜亂。」

玄應音義三曰：「紺古闇反，青赤色也。釋名云：紺含也，謂青而含赤色也。」

1121. 【**白毫**】（科註第四四五頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）如來三十二相之一。世尊眉間有白色之毫相，右旋宛轉，如日正中，放之則有光明，初生時長五尺，成道時有一丈五尺。名白毫相。

大般若三十一曰：「世尊眉間有白毫相，右旋柔軟，如覩羅綿，鮮白光淨踰珂雪（猶白雪。珂，音科）等，是三十一。」

嘉祥法華義疏三曰：「智度論出小乘人解白毫相云：舒之即長五尺，卷之即如旋螺。觀佛三昧經云：為太子時長五尺，樹下時長一丈四尺五寸，成道時一丈五尺。舒之表裏有清徹白淨光明，置之便失淨光而卷縮在兩眉之間。經或言：右旋宛轉如日正中。或言：如天白寶。」

佛說實經，放白毫之光者，表理之顯明與白淨。且表其法為諸教之源也。

法華經序品曰：「爾時佛放眉間白毫相光。」

嘉祥法華義疏二曰：「白毫者表理顯明稱白，教無xiān<sup>T-1</sup>纖zi（音先）隱為毫。」

探玄記三曰：「眉間表中道一乘法也，白毫表無流證道白淨法也。又白為眾色本，故表此一乘為諸教源也。」

1122. 【無見頂相】（科註第四四五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）佛三十二相中烏瑟膩ni膩（音逆）沙相中之好也（相為大相，好為小相）。佛頂上有肉塊隆起為髻髻（音計）形，謂為烏瑟膩沙相，頂上肉髻相等，於此相中有一切人天不能見之頂點，故名無見頂相。

觀佛經三曰：「佛頂肉髻生萬億光，光光相次乃至上方無量世界，諸天世人十地菩薩

亦不能見。」

觀無量壽經曰：「唯頂上肉髻及無見頂相不及世尊。」同天台疏曰：「肉髻是相，無見頂是好，此相好表於極果。今作因人，故不及佛。」

楞嚴經七曰：「若有宿習不能滅除，汝教是人一心誦我佛頂光明摩訶薩<sup>多</sup>怛<sup>多</sup>（音答）多般怛羅無上神咒，斯是如來無見頂相無為心，佛從頂發輝，坐寶蓮華所說心咒。」

1123. 【四根本定】（科註第四四七頁第七行）

《佛學次第統編》「根本四禪」條：四禪、四無量心、四無色定，共名十二門禪，亦名世間淨禪。今先明四禪也。此四禪法，各有方便中間，今但論色界正定，不取方便

中間，故名根本四禪。

1124. 【未至】（科註第四四七頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）又云未到定。上界八地各有根本定與近分定，斷欲界修惑所發之禪定，為初禪之根本定，乃至斷無所有處修惑所得之禪定，為非想處之根本定。又伏欲界煩惱，發近似初禪根本定之禪定，為初禪之近分定，乃至伏無所有處煩惱，發近似非想處根本定之禪定，為非想處之近分定，如此八根本定八近分定中，初禪之近分定有與他之近分定相異之點，故立別名，謂之未至定。言未至根本定之義也。近分之義亦同此。

1125. 【中間】（科註第四四七頁第八行）

《佛學大辭典》「中間定」條：（術語）

又名中間三昧，中間靜慮，中間禪。大梵天王所得之禪定也。色界、無色界通有八地，每一地各有近分定與根本定。其中初禪地之近分定與根本定尋與伺（粗心思惟曰尋，細心思惟曰伺。兩者均為心所之名）之心所相應，第二禪以上，七地之近分定與根本定，則尋與伺皆不相應，而至極寂靜。然其中間，唯有伺之心所相應而尋之心所不相應之禪定，是名中間定，修之者在初禪天頂上為大梵天王，彼常住此禪定。

俱舍論二十八曰：「初本近分尋伺相應，上七定中皆無尋伺，唯中靜慮有伺無尋，故彼勝初未及第二，依此義故立中間名。」中

略」此定能招大梵處果，多修習者為大梵故。」

1126. 【八定】（科註第四四七頁倒數第六行）

《三藏法數》：「出禪波羅蜜」定即攝散歸靜之義。色界、無色界各有四定，故云八定也。

一、初禪天定：謂人於欲界中修習禪定之時，忽覺身心凝然，運運而動，如雲如影；又覺徧身毛孔氣息，悉皆出入，入無積聚，出無分散，是名初禪天定。

二、二禪天定：謂既得初禪天定已，心厭初禪覺觀動散，因攝心在定，澹然澄靜；覺觀即滅，乃發勝定之喜，如人從暗室中出見日月光明，朗然洞徹，是名二禪天定。（覺

觀者，初心在緣曰覺；細心分別禪味曰觀。）

三、三禪天定：謂既得二禪天定已，而又厭二禪喜心湧動，定不堅固；因攝心諦觀，喜心即謝，於是泯然入定，綿綿之樂，從內心發；樂法增長，徧滿身中，於世間樂最為第一，是名三禪天定。

四、四禪天定：謂既得三禪天定已，又覺三禪樂法擾心，令不清淨，一心厭離，加功不止，即得安隱，出入息斷，空明寂靜，如明鏡離垢，淨水無波，湛然而照，萬像皆現；絕諸妄想，正念堅固，是名四禪天定。

五、空處天定：空即虛空也。謂既得四禪天定已，猶厭身色繫縛，不得自在，乃轉加功力，觀察己身，猶如羅縠（疏細之絲織品）。

縠，音胡），內外通徹，一心念空，惟見虛空，無諸色相，其心明淨，無礙自在，如鳥出籠，飛騰自若，是名空處天定。

六、識處天定：識，即心也。謂既得空處天定已，即以識心徧緣虛空，而虛空無邊；以無邊故，定心復散。於是即捨虛空，轉心緣識；與識相應，心定不動，現在過去未來之識，悉現定中，與定相應，心不散。此定安隱，清淨寂靜，是名識處天定。

七、無所有處天定：謂離上空處、識處，故名無所有處。得識處天定已，以心緣現在過去未來之識，無量無邊，能壞於定。惟有無心識處，心無依倚，乃為安隱。於是即捨識處，專繫心於無所有處，精勤不懈，一心

內淨，怡然寂靜，諸想不起，是名無所有處天定。

八、非想非非想處天定：謂前識處是有想；無所有處是無想。至此則捨前有想，名非想；捨前無想，名非非想。蓋此天既得無所有處天定已，又知此處如癡如醉、如眠如暗，以無明覆蔽，無所覺了，無可愛樂。於是一心專精，即於非有非無，常念不捨，則無所有處定便自謝滅，加功不已，忽然真實定發，不見有無相貌，泯然寂絕，清淨無為，三界定相無有過者，是名非想非非想處天定。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

《佛學大辭典》：（術語）色界之四禪定與無色界之四空定也。

四禪定者：第一、初禪定（新譯云初靜慮次下同），得生於初禪天之禪定也，此定具尋與伺（粗心在緣曰尋，細心分別曰伺）之二心所，喜與樂之二受。第二、第二禪定，得第二禪天生果之禪定也，此定無尋伺，但有喜樂之二受。第三、第三禪定，得第三禪天生果之禪定也，此定但有樂受。第四、第四禪定，得第四禪天生果之禪定也。此定離尋伺喜樂，最為寂靜。

四空定者：第一空無邊處定，可生無色界空無邊處之禪定也。此乃作空為無邊解，破一切色相之禪定，故名無邊。第二識無邊處定，可生無色界識無邊處之禪定也。此乃作識為無邊解，破第一空無邊能觀心相之禪

定，故名識無邊。第三無所有處定，可生無色界無所有處之禪定也。此乃作所觀能觀皆為無所有解之禪定，故名無所有。第四非想非非想處定，可生無色界有頂天即非想非非想處之禪定也，此禪定極為寂靜，心想雖有如無，故名非想非非想。見俱舍論二十八。

1127. 【四禪】（科註第四四七頁倒數第六行）

《佛學大辭典》「四禪定」條：（名數）

略云四禪，新云四靜慮。修此四禪定生於色界之四禪天也。此四禪內道外道共修之，在因者超欲界之惑網，在果者生於色界，且為生諸功德之依地根本，故曰本禪。

一、初禪：初禪之前行，有粗住、細住、欲界定、未到定。其正禪具八觸十功德。其

先行者安坐端身攝心，故氣息調和，覺此心路泯泯澄淨，<sup>去二七</sup>恬恬（音貼。安靜也）恬安穩，其心在緣，居然不馳散，是名曰<sup>去八</sup>麤（音粗）住。由此心後怙怙勝前，名為細住。其後一兩日或兩月，豁爾心地作一分開明，我身如雲如影爽爽空淨，雖空淨猶見身心之相，未有定內之功德，是名欲界定（成實立欲界定，俱舍不立之，攝於未到定中），從是心後泯然一轉，不見欲界定中之身首、衣服、床鋪，猶如虛空是名未到定（成實不立之，俱舍立之，名未至定），此時性障猶在，未入初禪也。在此未到定，身心豁虛空寂，內不見身，外不見物，如此或經一日乃至一月一歲，定心不壞，則於此定中即覺自心之微

微動搖，或感微痒，即發動痒輕重冷煖（音色）滑，是名八觸。此為色界之四大極微與欲界之四大極微轉換，而發此觸相也，此乃正入初禪之相。此時有十功德，又謂之十眷屬。如空、明、定、智、善心、柔軟、喜、樂、解脫、境界相應是也（是就八觸中之動觸而論餘七觸功德准之）。此八觸十功德，唯在初禪，二禪已上則無，是為初禪之特相。就四禪總體言之，則以十八支分別，十八支者初禪五支，二禪四支，三禪五支，四禪四支也。以此等之功德法支持禪，故名為支。初禪五支者覺支（新曰尋支）、觀支（新曰伺支）、喜支（新同名）、樂支（新同名）（經部為眼耳身三識之樂受，有部不許定

中三識，僅有意識故為輕安樂非樂受也）、一心支（新定支也）。

二、二禪：呵棄初禪之覺觀而得此禪，於初禪已了色界四大轉換。故二禪已上無八觸十功德也。二禪之四支者，內淨支（俱舍以為五根中之信根，深信受勝實之功德也，淨為信相，故曰淨，屬心故云內）、喜支、樂支（輕安樂也，非樂受）、一心支（新定支）也。

三、三禪：呵棄第二禪之喜受而得三禪也。此禪具五支，捨支（是行捨，非捨受）、念支（三禪之樂極勝，為不染著，故要正念）、慧支（同上）、樂支（意識之樂）、一心支（新曰定支，寂然在定是也）。

四、四禪：呵棄三禪之樂受。四支者不苦不樂支（新曰中受支，五受中之捨受也）、捨支（捨第三禪之樂受也，非憂悔）、念支（念下地之過，自己之功德長養之）、一心支（猶如鐘、猶如清水）也。

初禪之五支乃至四禪之四支為何？即行體是也，依俱舍之意，初禪之付五支者，以此時二十二心數發於一時（大地十與大善地法十及覺與觀也），於中取強者為五支，五支皆定體也，成論明五支前後相次而起，取四支為方便，一心支為實體。天台止觀，法界次第之所明，大要據成實論。見止觀九之一，法界次第上，俱舍論二十八。

智度論十七曰：「若能呵五欲、五蓋、行

五法，欲、精進、念、功慧、一心，行此五得五支，成就初禪。」梵 Catur-dhyāna。

（參見「八定」1126）

1128. 【四無色定】（科註第四四七頁倒數第六行）

《佛學大辭典》「四空定」條：（名數）又云四無色定（梵名四空處之各名加 Dhyāna），十二門禪（四禪定、四無量、四空定）中之四禪也。

一、空無邊處定，行人厭患色籠如牢如獄，心欲出離之，捨色想而緣無邊之虛空心，與空無邊相應，故名空無邊定。

二、識無邊處定，行人更厭前外之空，捨其虛空緣內識為心識無邊之解，心與識無邊相應，故名識無邊處定。

三、無所有處定，行人更厭其識，而觀心識無所有，心與無所有相應，故名無所有處定。

四、非想非非想處定，前之識處是有想，無所有處是無想，至此捨前之有想故名非想，捨前之無想，故名非非想。又無麤想，故曰非想，非無細想，故曰非非想。行者於此如痴如醉如眠如暗，無所愛樂，泯然寂絕，清淨無為，謂之非想非非想定。見法界次第上，俱舍頌疏世品一。是乃內法之修法也。

若於外道則以六行觀而修得之。於此四定復加四定為八定，於此加中間定與未至定（有部義），或加欲界定（成實義）為十定。

凡禪定有味定、淨定、無漏定三種，此十種禪定中為非想非非想定之心想微細，故無無漏定，有味定、淨定也。未至、中間之二定及四禪之六定，有見道之無漏定（有部），欲界中間之二定及四禪之六定與前相同，有見道之無漏（成實），下三無色有修道無學道之無漏定，味淨之二定，通於十定，二宗相同。見俱舍論十八，輔行九之一。（參見「八定」1126）

1129. 【增上緣】（科註第四四七頁倒數第五行）

《三藏法數》：謂六根能照境發識，有增上力用，諸法生時，不生障礙，名增上緣。（諸法生者，謂根塵相對，則有一念心起，名諸法生。不生障礙者，根塵相對之時，隨對

隨起，悉無所障也。」

《佛學大辭典》：（術語）四緣之一。謂起他法與以強力者。如眼根之能生眼識，田土之能生米麥。大乘義章三本曰：「增上緣者，起法強，故曰增上。」觀經玄義分曰：「凡夫得生者，莫不皆乘阿彌陀佛大願業力為增上緣也。」

1130. 【事贊】（科註第四四七頁倒數第四行）

《中華佛教百科全書》「法事讚」條：二卷。唐·善導集記。收在大正藏第四十七冊。係記述淨土轉經行道儀則之著作。上卷卷首題為〈轉經行道願往生淨土法事讚〉，卷末題為〈西方淨土法事讚〉，下卷首尾都以〈安樂行道轉經願生淨土法事讚〉為標

目。上卷首先列舉奉請偈、啟白、召請、三禮、表白、讚文等，其次說明行道讚梵偈、讚文、七周行道、披心（披露真心）懺悔，乃至發願等行事之次第，下卷將阿彌陀經全文分成十七段，每段各加讚文，其次記載十惡懺悔、後讚、七周行道、歎佛呪願、七敬禮及隨意等軌式。

本書是依般舟三昧法而說明轉經行道之儀則，書中引用賢愚經、舊譯華嚴經、觀佛三昧經、地獄經等所敘述的地獄相，以啟發行者的厭離穢土之心，又轉讀讚揚阿彌陀經以期鼓舞行者欣羨淨土之心。關於本書上、下二卷標題之所以不同，日僧良忠法事讚私記卷上說，上卷意在闡明前方便的行道，故題為

「轉經行道」，下卷專明其行體的轉經，故稱為「行道轉經」，且認為轉經是正法，相對於行因而將所求的國度冠上「安樂」之字。

1131. 【有漏禪】（科註第四四七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）對於無漏禪而言。即不依四真諦（苦集滅道）等，但依厭下欣上有漏之六行觀而修之禪定也。四禪，四無色定，四無量心定是也。

《佛學常見辭彙》：有漏的禪定，也就是不究竟的禪定，如四禪、四無色定、四梵行等是。

1132. 【要集】（科註第四四七頁倒數第二行）

見「《往生要集》」1150。

1133. 【四靜慮】（科註第四四七頁倒數第一行）

見「四禪」1127。

1134. 【如意通】（科註第四四八頁第七行）

《三藏法數》「如意通有三種」條：〔出大智度論〕謂菩薩智慧具足，神變莫測，凡所作為，舉念即成，無有障礙，故名如意通。

一、能到如意：謂具此通者，雖長江大海，重關複嶺，千萬里之遠，俱無間隔，意欲到處，身即隨到，故名能到如意。

二、轉變如意：謂具此通者，能令世間所有諸物，大者作小，小者作大；一變為多，多變為一，故名轉變如意。

三、聖如意：謂具此通者，化現無方，應變不測，雖無生滅，而有機則生，無機則滅；雖無去來，而有感則現，無感則寂。如

意自在，不可思議，故名聖如意。（參見《科註》第四五六頁第一至第五行）

1135. 【六根互用】（科註第四四八頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）斷六根之垢惑而使之清淨，則六根一一具他根之用也。

涅槃經曰：「如來一根則能見色聞聲嗅香別味知法，一根現爾，餘根亦然。」是真六根互用也。法華經法師功德品說菩薩在六根清淨之位，六根互用之德。

法華論曰：「又六根清淨者，於六根中悉能具足見色聞聲辨香別味覺觸知法等，諸根互用應知。」是相似之六根互用也。

又楞嚴經四說聲聞之六根互用。曰：「不由前塵所起知見，明不循根，寄根明發，由

是六根互相為用。阿難汝豈不知？今此會中，阿那律陀無目而見；跋難陀龍無耳而聽；菟河（菟河，即菟伽河，恒河也。菟，音敬）神女非鼻而聞香；驕梵鉢提異舌知味；舜若多神無身覺觸；摩訶迦葉，久滅意根，圓明了知，不因心念。」亦是相似之互用也。

1136. 【福增】（科註第四四九頁倒數第四行）

《菩薩本生鬘論卷四·出家功德緣起第十四》：佛在世時，王舍城中有一長者，名曰福增，年過百歲，齒衰力屈，家中大小，無不生厭。聞說出家，心生歡喜，功德無量，譬喻不及，出家之利，高於須彌，深於巨海，廣於虛空。所以然者？由出家故，方得

成佛，三世諸佛，未有不因捨家、出家成佛者也。是時長者，來詣佛所，欲求出家，值佛遊化，即便往至舍利弗所，見其熟老，不為攝受；如是遍至五百羅漢，悉不肯度。

時彼長者，即出寺外，發聲大哭，於是世尊，從後而至，種種誨喻，令其心悅。即語目連：「收其出家，與受其戒。」乃為新學小比丘輩，常生調戲之所嬉亂，便自溺水，欲喪身命。目連觀見，即以神力，接置岸上，因問其故，具如上說。「此人愚鈍，瞋恚若斯，不以三塗報應之怖而攝化之，無由得道。」

時彼目連，欲乘空行，乃令專意，執袈裟角，漸次遊歷，到大海邊，見有新h斃之（音

必，死亡也）端正婦人，便有一蟲，從其口出，而從鼻入；復從眼出，從耳而入。目連見已，捨之而去。弟子白言：「此是何人？」師曰：「此是舍衛城中大商之婦，自恃顏貌，不修福業，承夫寵念，損害一切，偕行至此，沒水而終，海不納屍，漂出在岸，猶愛故身，作此蟲耳，後入地獄，受諸苦報。」

漸次前行，見一女人，自泥大huò鑊「x（音或，無足鼎），水滿火然，脫衣入中，皮肉各離，吹骨在外，尋復成形，自取其肉而噉食之。福增白師：「此是何人？」師曰：「舍衛城中有優婆塞，崇重三寶，請僧供養，常造美膳，遣婢送之，每至屏處，選好先食。大家察問：『汝無竊食？』婢言：『比丘食訖，

有殘與我，我得食之；若我先食，願於後世，自食身肉。』以是因緣，先受華報，果在地獄。」

次復前行，見一骨山，其量高廣七百由旬，障其日光，使海陰黑。是時目連，登此山上，有大肋骨，往來經行。福增白師：「此何骨山？」「汝欲知者，即是汝之故身骨也。」福增聞已，身毛恐聳（音悚），惶怖流汗，白和尚言：「聞我今者，心未摧裂，願時為說，本末因緣！」目連告曰：「生死輪轉，無有邊際，善惡業報，影響無差。昔過去世，此閻浮提，有一聚落，民物富盛。時有長者，名曰法增，宗族已來，篤信三寶，好行仁惠，不傷生命，居人推之，

以為令長，數十年間，民物安泰，咸賴其德，如己之父。時彼令長，或因閒暇，習其博奕，惡友得便，而親輔之，授彼邪說，廢其政事。未久境內強惡恣橫，按訟交舉，刑罰不中。忽偶一時，吏呈款實（實情也），適值令長，博奕不勝，無暇顧覽，盡令處死。來日乃問諸軍吏曰：『罪人何所？』答以戮竟。令長聞已，悶絕（音必，仆倒也），地，水洒乃穌，垂淚而言：『親愛珍寶，悉皆住此，唯我一人，獨入地獄，而我今者，率易殺人，當知即是旃陀羅（屠夫也。旃，音沾）類。』作是念已尋便命終，生大海中作摩竭魚，其身長大七百由旬。」

佛言：「目連！若諸官屬自恃威勢，枉尅

民物殺戮無數，命終多墮摩竭大魚，為諸小

蟲匝食其軀，身痒指山蟲血污海，流將百里

水皆紅赤。彼魚一眠經於百歲，睡起吸水如

注大河。爾時適有眾商採寶，值魚張口，船

趣如飛，將入魚腹，賈人悲號，一時同聲稱

南無佛！魚聞佛名，閉口水止，由佛慈護，

眾商得活。時摩竭魚，忍渴而死，有諸夜叉

羅刹水神，競拽魚身，出置海岸。」

爾時尊者大目乾連，將其弟子福增比丘，

遊行畢已，還至佛所，頭面作禮，歡喜無

量，深悟生死無常、苦、空，盡諸有結，得

羅漢果。

1137. **【本緣】**（科註第四四九頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）有事之由來

也。

維摩經菩薩品曰：「諸菩薩各各向佛說其

本緣。」

1138. **【作意】**（科註第四五〇頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）心所名。相應

於一切之心而起者，具使心警覺而趣所緣之

境之作用。

俱舍論四曰：「作意，謂能令心警覺。」

成唯識論三曰：「作意，謂能警心為性，

於所緣境引心為業。」

1139. **【報謝】**（科註第四五一頁倒數第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）報恩謝

德也。

教行信證曰：「深知佛恩，為報謝至德。」

1140. 【《カ帝カ（音低）記》】（科註第四五一頁倒數第二行）

《無量壽經海滄記》，二十卷科二卷，（日）攝州小曾禰憲榮泰岩作。

1141. 【《願成就文》】（科註第四五二頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）法藏菩薩建四十八願中，以第十八願為王本願，其說十八願成就之文，謂之願成就文。

在無量壽經下卷之初（四十八願上卷），其文曰：「諸有眾生，聞其名號，信心歡喜。乃至一念，至心迴向，願生彼國，即得往生，住不退轉，唯除五逆誹謗正法。」

《實用淨土宗辭典》：指《無量壽經》中敘說阿彌陀佛成就其因位所發誓願之經文。

卷上為所發之願，一一願皆有對應之成就之相。

如卷上敘十七願之文：「設我得佛，十方世界無量諸佛，不悉諮嗟稱我名者，不取正覺。」卷下則敘十七願所感的果報，其文為：「無量壽佛，光明顯赫，照耀十方。諸佛國土，莫不聞焉。不但我今稱其光明，一切諸佛聲聞緣覺諸菩薩眾，咸共歎譽，亦復如是。」此二段經文就是佛發四十八願中之第十七願，則感得一切諸佛及三乘聖賢，都讚歎阿彌陀佛的光明，稱譽阿彌陀佛之名。

再卷下之「又聲聞菩薩，其數難量，不可稱說。」及《阿彌陀經》中：「彼佛有無量無邊聲聞弟子，皆阿羅漢，非是算數之所能

知，諸菩薩眾，亦復如是。」此為十四願功德所成就之文。

又如第十八願，稱王本願，其卷上之願文為：「設我得佛，十方眾生，至心信樂，欲生我國，乃至十念，若不生者，不取正覺。

唯除五逆，誹謗正法。」卷下之初三輩往生之文，皆是此願成就文。（《科註》此處所引之

願成就文為《魏譯》本之原文。）

1142. 【qián乾ㄑㄧㄢˊ（音前）tà闍ㄊㄚˋ（音踏）緊那】（科註第

四五三頁倒數第三行）

指乾闥婆與緊那羅。

《佛學大辭典》「乾闥婆」條（節錄）：

（天名）Gandharva，又作健達婆、犍達縛、健闥婆、乾tà沓沓（音踏）和、乾沓婆、彥達

縛、犍陀羅等。譯曰香神、嗅香、香陰、尋香行。樂人之稱。又八部眾之一。樂神名。不食酒肉，唯求香以資陰身，又自其陰身出香，故有香神乃至尋香行之稱。與緊那羅同，奉侍帝釋而司奏伎樂。緊那羅者法樂，乾闥婆者修（疑作「俗」）樂。

注維摩經一曰：「什曰：乾闥婆，天樂神也。處地十寶山中，天欲作樂時，此神體上有相出，然後上天也。」

天台淨名疏二曰：「乾闥婆，此云香陰。此亦陵空之神，不噉酒肉唯香資陰。」

文句二下曰：「乾闥婆，此云嗅香，以香為食，亦云香陰，其身出香，此是天帝俗樂之神也。」

嘉祥法華義疏二曰：「犍撻婆，此云香陰，以其清虛食香。又身唯恒出香，故名香陰。」

玄應音義三曰：「犍沓和。又云犍陀羅，或作乾沓婆，或云犍達婆，或云乾闥婆。舊名也。今正言犍達縛，皆國音之不同也。此云嗅香，亦云樂神，一云食香，舊云香神，亦近也。經中亦作香音神也。」

《佛學大辭典》「緊那羅」條：（天名）

Kimara，又作緊捺羅，緊陀羅，甄陀羅，真陀羅，緊捺洛。舊譯曰人非人，疑神。新譯曰歌神。即樂神名。八部眾之一。

注維摩一曰：「什曰：秦言人非人。似人而頭上有角，人見之言：人耶非人耶？故因

以名之。亦天伎神也，小不及乾闥婆。」

文句二下曰：「緊那羅，亦云真陀羅，此云疑神。似人而有一角，故號人非人。天帝法樂神，居十寶山。」

玄贊二曰：「梵云緊捺洛，此云歌神。緊那羅，訛也。」

玄應音義三曰：「zhēn甄世（音真）陀羅，甄之人反，又作真陀羅，或作緊那羅，正言緊捺羅，此譯云是人非人也。」

慧琳音義十一曰：「真陀羅，古作緊那羅，音樂天也。有微妙音響，能作歌舞。男則馬首人身能歌，女則端正能舞。次此天女，多與乾達婆天為妻室也。」

1143. 【琉璃之琴】（科註第四五三頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「大樹緊那羅琉璃琴」

條：（物名）大樹緊那羅王所問經一曰：

「已所彈琉璃之琴，閻浮檀金，花葉莊嚴，善淨業報之所造作。在如來前，善自調琴。及餘八萬四千伎樂，〔中略〕時諸一切聲聞大眾，聞琴樂音，不能堪任，各從座起，放捨威儀，誕貌逸樂，如小兒舞戲，不能自持。」又見智度論十一。（大樹緊那羅王，為音樂天之天子，四緊那羅王之一。）

1144. 【六塵】（科註第四五六頁第四行）

《三藏法數》：「出涅槃經」塵，即染污之義。謂能染污情識，而使真性不能顯發，涅槃經中稱此六塵，名六大賊，以能劫奪一切善法故也。

一、色塵：謂青黃赤白之色，及男女形貌色等，是名色塵。

二、聲塵：謂絲竹環佩之聲，及男女歌詠聲等，是名聲塵。

三、香塵：謂旃檀沉水飲食之香，及男女身分所有香等，是名香塵。

四、味塵：謂種種飲食肴膳美味等，是名味塵。

五、觸塵：觸，即著也。謂男女身分柔軟細滑，及紗衣上服等，是名觸塵。

六、法塵：謂意根對前五塵分別好醜，而起善惡諸法，是名法塵。

《佛學次第統編》：依於六根所接之塵有六：謂色、聲、香、味、觸、法，是為六

塵。塵即染 wū 汙<sup>x</sup>（音屋）之義，以能染汙情識之故。

一、色：謂眼所見者，如明暗質礙（障礙也）等。以能染汙眼根，故謂色塵。

二、聲：謂耳所聞者，如動靜美惡等。以能染汙耳根，故謂聲塵。

三、香：謂鼻所嗅者，如通塞香臭等。以能染汙鼻根，故謂香塵。

四、味：謂舌所嘗者，如鹹淡甘辛等。以能染汙舌根，故謂味塵。

五、觸：謂身所感者，如離合冷暖等。以能染汙身根，故謂觸塵。

六、法：謂意所知者，如生滅善惡等。以能染汙意根，故謂法塵。

此之六塵，尚有其他六欲、六入、六處、六境、六賊等名義，茲不繁及。

1145. 【《翻譯名義集》】（科註第四五六頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（書名）宋姑蘇景德寺僧法雲編，共二十卷，六十四目。以經典所用之語，分類編列。如系梵語，則釋以華言，並詳得名之由及其沿革。誠讀內典者不可少之書也。

1146. 【《玄應音義》】（科註第四五七頁第三行）

《佛光大辭典》：凡二十五卷。唐代玄應撰。又稱一切經音義。大唐內典錄卷五作眾經音義十五卷，法苑珠林卷一〇〇作大唐眾經音義二十卷。收於中華大藏經第一輯第三

十冊。本書所錄，自華嚴經，至順正理論，共四五六部經論，而就其中難解之字句、名相及音譯，加以注釋。本書不僅為現存音義中之最古者，又以解釋正確，為學者所宗，且所引群籍多屬古逸書，如蒼頡篇、三蒼、通俗文、字苑、古文奇字、字略、聲類、韻略、切韻等諸書，為研究文字音韻學之珍貴資料。

1147. **【無分別智】**（科註第四五八頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）又云無分別心。正體會真如之智也。真如者，離一切之相而不可分別也。故以分別之心者，不能稱其體性，以離一切情念分別之無相真智方始冥符也。

攝大乘論釋十二曰：「若智與所取不異，平等平等起，是名無分別智。」

起信論曰：「無分別心與體相應。」

1148. **【心、心所法】**（科註第四五八頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「心心數」條：（術語）心與心所也。心為身識等之心王。心數者新曰心所。為心王所有貪瞋等多數之別作用也。

維摩經五曰：「徧知眾生心心數法。」

俱舍論四曰：「心心所皆名有所依，託所依根故，或名有所緣，取所緣境故。〔中略〕或名相應，等和合故。」

《唯識名詞白話辭典》「心王」條：唯識宗所立五位法（心法、心所法、色法、不相應

行法、無為法) 中的第一位法，又稱心王法，相對於心所有法而言。此為心的主要作用，是精神作用的主體。心王總了別所對之境，而心所則對之生起貪、瞋、癡、慢之情。

小乘說一切有部，以眼、耳、鼻、舌、身、意六識之識體為一，故列心王為一。

唯識宗於六識外立末那、阿賴耶識，共為八識，且各有識體，故列心王為八。

《三藏法數》「心所有法五十一」條：心所有法者，以對八識心王而言之也。此五十一合為六位。

徧行法有五：一作意，(能警覺者為性，心未起，能警令起；心已起，能引趣境也。) 二觸，(對境也。) 三受，(領納前境也。)

四想，(於境取像也。) 五思，(起心造諸業也。)

此五種法，起則同起，故云徧行也。

別境法有五：一欲，(希望樂境也。) 二勝解，(於理明了無礙也。) 三念，(於曾習境，記憶不忘也。) 四等持，(離昏沉掉舉曰等，令心專注不散曰持也。) 五慧，(揀擇善惡法也。)

此五種法，起時各起，故云別境也。

善法有十一：一信，(於諸善法，深樂不疑也。) 二慚，(恥己無德也。) 三愧，(羞為惡行也。) 四無貪，(於五欲境，心生厭離也。) 五無瞋，(於違情之境，不起怒心也。) 六無癡，(於事理明，解決了也。)

七精進，（於諸善法，精勤修習也。）八輕安，（遠離昏亂也。）九不放逸，（於不善法，心不染著也。）十捨，（遠離掉舉也。）十一不害，（於有情不加損惱也。）

此十一種法，皆是善法，故總云善也。

煩惱法有六：一貪，（引取無厭也。）二瞋，（忿怒不息也。）三慢，（自恃陵他也。）四無明，（於事理無所明了也。）五見，（即邪見也。）六疑，（猶豫不決也。）此六種法，能惱亂眾生，故總云煩惱也。

隨煩惱法有二十：一忿，（暴怒也。）二恨，（怨恨也。）三覆，（不令人知己過也。）四惱，（如境違情，不自安隱。）五嫉，（心懷妒忌也。）六慳，（於一切財不

能惠施也。）七誑，（詭詐不實也。）八諂，（媚悅人意也。）九害，（損惱有情也。）十憍，（矜己傲人也。）十一無慚，（不知羞恥也。）十二無愧，（陰為不善也。）十三掉舉，（內心搖動也。）十四昏沉，（心神迷惑也。）十五不信，（邪見多疑也。）十六懈怠，（身心不勤也。）十七放逸，（縱恣欲境也。）十八失念，（遺失正念也。）十九散亂，（心常放逸也。）二十不正如，（以妄為真也。）

此二十法，隨逐前六種煩惱而生，故云隨煩惱也。

不定法有四：一惡作，（或已作惡事，因循；或不作善事，心皆追悔也。）二睡眠，

（謂人睡眠，識神昏昧，夢中見境，或善或惡，或不善不惡也。）三尋，（尋即尋思，心中所起之念，或善或惡，或不善不惡也。）四伺，（伺即伺察，心中所起之念也。尋思之心，麤而浮；伺察之心，沉而細。二者皆是心念，但分麤細耳。亦通善惡與不善不惡也。）

此四種法，於善、惡、無記三性，不定而起，故云不定也。

如是諸法，從阿賴耶藏識種子所生，依心所起，與心俱轉相應，故皆名心所有法。（無記者，謂不善不惡，無所記錄故也。）

1149. 【《資持記》】（科註第四五九頁第二行）

《佛學大辭典》（書名）宋靈芝元照（一

○四八—一一一六），解釋南山之四分行事鈔者。

○行事鈔資持記：（書名）十六卷，宋元照著。解行事鈔者。本鈔之著述如下：行事鈔資持記序解並五例講義一卷，宋則安述。行事鈔諸家記標目一卷，宋懷顯集，日本戒月改錄。行事鈔資持立題拾義一卷，宋道標出。

1150. 【《往生要集》】（科註第四五九頁第三行）

《實用淨土宗辭典》：書名。凡三卷，日本源信撰，收於《大正藏》第八十四冊中。是書輯錄一六〇餘部經籍之往生要義，以問答體撰寫成書。共分厭離穢土、欣求淨土、極樂證據、正修念佛、助念方法、別時念

佛、念佛利益、念佛證據、往生諸業、問答料簡等十門。因觀世之無常，故說發願往生淨土，若欲往生淨土，則以念佛為最重要。念佛有觀念和稱念兩種方式，其中觀念較殊勝，稱念則易於大眾所實行。

1151. 【《仁王經合疏》】（科註第四五九頁第六行）

三卷，隋智顛（音乙）說，灌頂記，明道（音乙）霈（音佩）合。

1152. 【《理趣釋》】（科註第四五九頁第七行）

《佛學大辭典》：（書名）具名大樂金剛不空真實三昧耶經般若波羅蜜多理趣釋，二卷，唐不空譯。解釋密部（金剛頂宗）之理趣經。說本經字句一一理趣表法之義門。（本書於密教教理中，與相對於解釋胎藏法之大日經

疏，同為重要之著作）又有金剛智譯之理趣般若經。其異譯也。

1153. 【《灰身滅智》】（科註第四六〇頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）謂二乘之人，斷三界之煩惱後，入火光三昧，燒身滅心，歸入空寂無為之涅槃界也。是為二乘最終之目的。

輔行三之一曰：「灰身故無身，滅智故無智。獨一解脫，故云孤調。」

四教儀曰：「若灰身滅智，名無餘涅槃，又名孤調解脫。」

1154. 【《禮讚》】（科註第四六二頁倒數第一行）

《中華佛教百科全書》「往生禮讚偈」條：一卷。唐·善導著。全稱《勸一切眾生

願生西方極樂世界阿彌陀佛六時禮讚偈》，又稱《往生禮讚》、《六時禮讚》、《禮讚》。收在《大正藏》第四十七冊。本書內容述說於一日六時中，各時唱誦的讚文及其禮拜之法，乃解說淨土往生行儀的重要資料。

六時禮讚之偈及禮拜之法為：一、日沒時誦《無量壽經》之十二光佛名號，禮十九拜。二、初夜時誦錄自《無量壽經》之要文，禮二十四拜。三、中夜時誦龍樹之十二禮偈，禮十六拜。四、後夜時誦天親之往生禮讚偈，禮二十拜。五、晨朝時誦隋·彥琮之願往生禮讚偈，禮二十一拜。六、日中時誦善導依《觀經》所作之十六觀偈，禮二十

拜。

本書被編入唐·智昇的《開元釋教錄》中。在日本，也被採入法然以後的淨土宗之法式中，而廣被讀誦。

1155. 【山海慧如來】（科註第四六三頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「山海慧自在通王如來」條：（佛名）阿難當來成佛時之名。

法華經人記品曰：「佛告阿難：汝於來世當得作佛，號山海慧自在通王如來。」

《妙法蓮華經·授學無學人記品第九》：爾時佛告阿難。汝於來世當得作佛。號山海慧自在通王如來。應供正遍知。明行足。善逝。世間解。無上士。調御丈夫。天人師。佛世尊。當供養六十二億諸佛。護持法藏。然後得阿耨多羅三藐

三菩提。

教化二十千萬億恒河沙諸菩薩等。令成阿耨多羅三藐三菩提。國名常立勝幡。其土清淨琉璃為地。劫名妙音遍滿。其佛壽命。無量千萬億阿僧祇劫。若人於千萬億無量阿僧祇劫中。算數校計不能得知。正法住世倍於壽命。像法住世復倍正法。阿難。是山海慧自在通王佛。為十方無量千萬億恒河沙等諸佛如來。所共讚歎稱其功德。(中略)

爾時會中新發意菩薩八千人。咸作是念。我等尚不聞諸大菩薩得如是記。有何因緣。而諸聲聞得如是決。

爾時世尊。知諸菩薩心之所念。而告之曰。諸善男子。我與阿難等。於空王佛所。

同時發阿耨多羅三藐三菩提心。阿難常樂多聞。我常勤精進。是故我已得成阿耨多羅三藐三菩提。而阿難護持我法。亦護將來諸佛法藏。教化成就諸菩薩眾。其本願如是。故獲斯記。

1156. 【死魔】(科註第四六四頁第四行)

《三藏法數》：謂人壽盡命終為魔也。蓋業報已畢，捨離現生之處，障蔽修道，遂失智慧之命，是名死魔。

1157. 【群疑論】(科註第四六四頁第七行)

《佛學大辭典》：(書名)釋淨土群疑論之略稱。宋僧傳謂之決疑論。七卷，唐千福寺懷感撰。其註解有探要記十四卷，鈔二十卷。

1158. 【三千大千世界】（科註第四六六頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）須彌山為中心，七山八海交互繞之，更以鐵圍山為外郭，是曰一小世界，合此小世界一千為小千世界，合此小（千）世界一千為中千世界，合此中千世界一千為大千世界。大千世界之數量為一〇〇〇〇〇〇〇〇也。大千世界之上有三千者，示此大千世界，成自小千中千大千三種之千也。內容即一大千世界。以此一大千世界為一佛之化境。且此三千大千世界之廣，恰等於第四禪天，成壞必同時焉。見智度論七，佛地論六。

《三藏法數》「大千世界」條：謂以一千箇中千世界，則成大千世界。此大千世界

中，共有百億日月，百億須彌山，百億四天下，百億四天王天，百億三十三天，百億夜摩天，百億兜率天，百億樂變化天，百億他化自在天，百億梵世天（初禪天也）。百萬二禪天。一千三禪天，總為第四禪天所覆，是名大千世界。（億有四等，一以十萬為億，二以百萬為億，三以千萬為億，四以萬萬為億。今言百億者，則以千萬為億也。）

1159. 【小千世界】（科註第四六六頁第六行）

《三藏法數》：謂一日一月繞一須彌山照四天下，山腰是四天王天所居，山頂是三十三天所居，此天之上，有夜摩天、兜率天、樂變化天、他化自在天、梵世天，此名一世界。如此一千世界，一千日月，一千須彌

山，一千四天下，一千四天王天，一千三十三天，一千夜摩天，一千兜率天，一千樂變化天，一千他化自在天，一千梵世天，總為第二禪天所覆，是名小千世界。（梵語須彌，華言妙高。四天王者，東方持國天王，南方增長天王，西方廣目天王，北方多聞天王。三十三天，即忉利天也。梵語夜摩，華言善時。梵語兜率，華言知足。）

1160. 【中千世界】（科註第四六六頁第六行）

《三藏法數》：謂以一千箇小千世界，則成中千世界。此中千世界中，共有百萬日月，百萬須彌山，百萬四天下，百萬四天王天，百萬三十三天，百萬夜摩天，百萬兜率天，百萬樂變化天，百萬他化自在天，百萬

梵世天。一千二禪天，總為第三禪天所覆，是名中千世界。

1161. 【黑洞】（科註第四六六頁倒數第四行）

《中國大百科全書》（節錄）：廣義相對論所預言的一種特殊天體。它有非常強大的引力，以致使投射到這種天體上的物質只進不出，連光線也反射不出來，因此稱之為黑洞。

《漢語大詞典》：演變到最後階段的恆星。由中子星進一步收縮而成，有巨大的引力場，使得它所發射的任何電磁波都無法向外傳播，變成看不見的孤立天體，人們只能通過引力作用來確定它的存在，故名黑洞。

1162. 【咨<sup>p</sup> 嗟<sup>h12</sup>】（音資）（音皆）（科註第四六八

頁第六行)

《漢語大詞典》：贊嘆。

1163. 【《金光明經文句》】(科註第四六九頁第四行)

《佛光大辭典》(節錄)：凡六卷。隋代智

顛yī(音乙)口述，門人灌頂筆錄。略稱金光明

明文句、光明文句。收於大正藏第三十九

冊。為天台五小部之一。隨文解釋北涼曇無

讖chèn(音趁)所譯之金光明經。(中略)自

「如是我聞」至壽量品之「悉來聚集信相菩薩

摩訶薩室」為序分(一品半)，自「爾時四

佛」至空品為正宗分(三品半)，四王品以

後為流通分(十三品)。

注疏有知禮之金光明經文句記十二卷、從

義之金光明文句新記七卷、明得之金光明經

文句科一卷等。〔佛祖統紀卷二十五、閱藏  
知津卷三十五、卷三十九〕

1164. 【《華嚴大疏鈔》】(科註第四六九頁倒數第一行)

《佛光大辭典》「華嚴經隨疏演義鈔」

條：凡九十卷。唐代澄觀撰。全稱大方廣佛

華嚴經隨疏演義鈔。略稱隨疏演義鈔、華嚴

大疏鈔、演義鈔。收於大正藏第三十六冊。

澄觀曾撰有八十華嚴之注釋書，即華嚴經疏

六十卷(又稱大疏，收於大正藏第三十五

冊)，該書與法藏之探玄記同被稱為華嚴經

注釋之雙璧。其後，再將華嚴經疏詳為解

說，敷衍(鋪陳發揮也。敷，音夫)而成本

書。

本書前九卷係著者之華嚴思想綱要，即本

書之「玄談」部分，素來備受重視。華嚴經疏演義鈔三十卷，即由本書之玄談部分別出而成。

全書分為四部分：一、總序名意，釋大疏之自序。二、歸敬請加，釋大疏之歸敬序。三、開章釋文，廣逐疏之本文，次第釋之。四、謙讚回向，略解末尾之流通偈。先詳釋教起因緣、藏經所攝、義理分齊、教所被機、教體淺深、宗趣通局、部類品會、傳譯感通、總釋經題等九科玄談，後則依經文而作注解。〔大明三藏聖教北藏目錄卷四、閱藏知津卷三十五、華嚴宗章疏錄、佛典疏鈔目錄卷上、華嚴宗經論章疏目錄〕

1165. 【gǔ 鶻<sup>ㄍㄨˇ</sup>】 (音鼓) dǐ 的<sup>ㄉㄧˇ</sup> (音地) (科註第四七〇)

頁第三行)

《漢語大詞典》：目的；想要達到的結果。

1166. 【jiān<sup>ㄐㄧㄢ</sup>箋】 (音肩) 註 (科註第四七〇頁第五

行)

見「《無量壽經箋註》」527。

1167. 【彌勒發問經】 (科註第四七一頁第七行)

即《大寶積經》第二十五會，名《發勝志樂會》，卷九一至九二，唐菩提流志譯。

1168. 【隱密】 (科註第四七三頁第一行)

《佛學大辭典》：(術語) 如來說法有顯了隱密之二意。顯了為於文面分明顯然者。隱密為說者本意所存，密隱文內者。顯說為方便，密意為真實。與以了義教為真實，以

不了義教為方便者不同。

演密鈔二曰：「此宗多有隱密之語。」

教行證文類六本曰：「依釋家之意，按無量壽佛觀經者，有顯彰隱密義。」

1169. 【無間地獄】（科註第四七三頁第八行）

《三藏法數》：謂有罪眾生，至彼受苦，無有間歇，故名無間。此於八熱中又為最重之獄也。成實論明五種無間：

一者，趣果無間。謂有極重罪者，即向彼獄受其果報，無有間歇。

二者，受苦無間，謂至彼獄受諸痛苦，無有間歇。

三者，時無間。謂至彼獄受苦，時節無有間歇。

四者，命無間。謂彼地獄，壽命一中劫，無有間歇。

五者，形無間。謂彼地獄受罪眾生，生而復死，死已還生，身形無有間歇也。（一中劫者，二十小劫為一中劫也。）

1170. 【阿<sup>ア</sup>閻<sup>ゼ</sup>】（音舌）世王問五逆經》（科註第四七三頁倒數第六行）

《閱藏知津》：（一卷）西晉沙門釋法炬譯。預記王當一墮獄，即出，二十劫不墮三惡道，最後成辟支佛，名無穢。

1171. 【華嚴孔目章】（科註第四七三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「孔目章」條：（書名）具名華嚴孔目章。內題華嚴經內章門雜孔目。四卷，智儼著。解經內之名數法相者，

有一百四十一章。

《中華佛教百科全書》：四卷。唐智儼（六〇二—六六八）撰。又稱《華嚴經內章門等雜孔目章》、《華嚴經孔目章》、《孔目章》。收在《大正藏》第四十五冊。內容依舊譯《華嚴經》而設一四四章門，說明小乘、一乘、三乘之差別，確立同別二教判，以明無盡一乘義。

本書是智儼晚年的作品，文中除引用新譯（疑作「舊譯」）《華嚴經》之外，更引用數十部經論，如《法華經》、《起信論》等書。與《搜玄記》、《華嚴一乘十玄門》等，同為法藏《探玄記》之基礎。

本書所揭示的三乘一乘融合及同別教判，

是華嚴宗極重要的思想。文中較重要者為卷一之教分齊義、一乘三乘義章、因果章、唯識章、入佛境界章，卷二之發菩提心章、真如章、一乘法海章，卷三之十地章、轉依章、緣起章，卷四之往生義、性起章、迴心章、融合一乘義等。

註疏有《華嚴孔目章抄》（尊玄）、《華嚴孔目章發悟記》（凝然）、《融會章明宗記》（師會）、《唯識章辨義》（經歷）、《十地章略箋》（賢道）。

1172. 【破和合僧】（科註第四七三頁倒數第二行）  
《佛學大辭典》：（術語）略曰破僧。五逆罪之一。以邪方便使一味之聞法眾及一味之作法眾乖離，息止佛之轉法輪，阻害僧中

之法事也。五逆之中，其罪最重。

1173. 【一大劫】（科註第四七三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）一個之大劫也。

○大劫：（術語）謂成住壞空之四期為一週。為八十增減之時量。舊譯稱之為四中劫（十三億四千三百八十四萬年）。新譯稱之為八十中劫（二百六十八億七千六百八十萬年）。（參見「小劫」931）

《唯識名詞白話辭典》：古代印度的計時單位，一期世界之始末，總括成住壞空四劫，稱為一大劫。《瑜伽師地論》卷二載：「又此世間，二十中劫壞，二十中劫壞已空，二十中劫成，二十中劫成已住。」即八十中劫為一大劫，共計兩百六十八億八千萬年。

《三藏法數》「五喻——大劫五喻」條：

〔出大藏一覽〕

一、草木喻，謂大千世界草木，皆寸斬為籌；人間百年，但取一籌；取盡此籌，乃為一劫，是名草木喻。

二、沙細喻，謂 jing<sup>4</sup> 殞伽（音敬茄。即恒河）河，廣四十里，滿中沙細如麩（古同麵）；人間百年，但取一粒；取盡此沙，乃為一劫，是名沙細喻。（梵語殞伽，華言天堂來，謂其從高處流來也。）

三、芥子喻，謂有城四方而各百里，其中滿堆芥子；人間百年，但取一粒；取盡此芥，乃為一劫，是名芥子喻。

四、碎塵喻，謂以大千世界，碎為微塵；

人間百年，但取一塵；取盡此塵，乃為一劫，是名碎塵喻。

五、拂石喻，謂一石廣二由旬，厚半由旬；兜率天一百年，以六銖衣拂一徧；拂盡此石，乃為一劫，是名拂石喻。（梵語由旬，華言限量。梵語兜率，華言知足。六銖衣者，謂衣重六<sub>zhū</sub>銖<sub>音朱</sub>〔四分之一兩。銖，音朱，古重量單位，二十四銖為一兩〕也。）

1174. 【謗法闡提】（科註第四七四頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）二種闡提之一。又曰斷善闡提，闡提為梵語一闡提之略，不成佛之人也。以誹謗大乘而斷善巧，故不可成佛也。

○斷善闡提：（術語）亦為二種闡提中第

一種之稱。因誹諦（疑作「謗」）大乘法斷滅一切之善根者。

○二種一闡提：（名數）一為斷絕一切善根之極惡人不成佛者。一為濟度一切眾生之大悲菩薩不成佛者。皆名一闡提。

入楞伽經二曰：「一闡提者，無涅槃性。〔中略〕一闡提者，有二種，何等為二？一者焚燒一切善根，二者憐愍一切眾生，作盡一切眾生界願。大慧！云何焚燒一切善根？謂謗菩薩藏，作如是言，彼非隨順修多羅毘尼解脫說，捨諸善根，是故不得涅槃。大慧！憐愍眾生作盡眾生界願者，是為菩薩。大慧！菩薩方便作願，若諸眾生，不入涅槃者，我亦不入涅槃。是故菩薩摩訶薩，不入

涅槃。」

○大悲闡提：（術語）此為第二種之通名。以大悲誓願，欲度盡一切眾生而後成佛者。故已無成佛之期。何則，以眾生盡有成佛之期也。因之亦名一闡提。

1175. 【阿鼻】（科註第四七四頁第七行）

《佛學大辭典》（節錄）：（界名）Avīci，又作阿鼻旨。譯曰無間。無間地獄是也。

涅槃經十九曰：「阿者言無，鼻者名間，間無暫樂，故名無間。」

受苦無間斷之義。八大地獄之一。是最苦處。極惡之人墮之。

○阿鼻地獄：（界名）阿鼻為地下之牢獄，故曰地獄。在此地下之最底，餘大地獄

重疊其上。見俱舍論世間品。

止持音義曰：「阿鼻，此云無間。觀佛三昧經云：阿言無，鼻言救。成論明五無間：一、趣果無間，捨身生報故。二、受苦無間，中無樂故。三、時無間，定一劫故。四、命無間，中不絕故。五、形無間，如阿鼻縱廣八萬由旬，一人多人皆徧滿故。此五無間，乃造五逆業者報之。」

1176. 【善導大師《觀經疏》】（科註第四七四頁倒數第四行）

見「《四帖疏》」153。

1177. 【抑止門】（科註第四七四頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）為欲使眾生不放逸，方便隱攝取之慈悲，言惡者之不可

救，而垂誠也。對於攝取門而言。

○抑止攝取（節錄）：（術語）制遮與容受也。同於折伏慈悲。佛以慈悲智慧圓滿，於智慧門制遮逆惡眾罪，於慈悲門容受善惡一切而無漏也。

無量壽經之十八願說：「唯除五逆，誹謗正法。」觀無量壽經說：「五逆十惡具諸不善者，皆得往生。」

古來會解之者，如善導觀經疏四，謂壽經約於未造業，由抑止門故除逆謗。觀經約於既造業，由攝取門故取之。（中略）若約於彌陀大悲之本誓，則如法事讚所云：「以佛願力五逆十惡，罪滅得生，謗法闡提，迴念皆往。」有同一無別報土得往之益也。

1178. **【** zhāng 幃 張 **】**（音張）（科註第四七四頁倒數第二行）

《康熙字典》：幃惶，懼也。

1179. **【** zì 字 匯 **】**（科註第四七五頁第一行）

字書。十四卷。明代梅膺 yīng 膺 z（音英） zuò 祚 z（音坐）編。膺祚字誕生，宣城（今屬安徽）

人。此書依據楷體，將《說文解字》部首簡化為二一四部。按子、丑等地支分為十二集。部首和各部中字，又按筆畫多少順序排列。共收三三二七九字。除古書中常用字外，還收有許多俗字；收僻字不多。注音先列反切，後注直音。解釋字義通俗易懂。其編排體例，即偏旁分部檢字法，一直為後世《正字通》、《康熙字典》等所遵循，成為中國字典、詞典主要編排方式之一。此書為明

代至清初最為通行之字典，《康熙字典》出，遂隱沒不顯，《四庫全書總目》且不為著錄。

1180. 【二種菩提心】（科註第四七七頁第三行）

《佛學大辭典》：（名數）一緣事菩提心，是以四弘誓願為體。（一）眾生無邊誓願度，念一切眾生悉有佛性而願求度之，令人大般涅槃也。是饒益有情戒，亦是恩德之心，亦是緣因佛性，亦應身菩提之因也。（二）煩惱無邊誓願斷，願求自斷無邊之煩惱也，是攝律儀戒，亦是斷德之心，正因佛性，法身菩提之因也。（三）法門無盡誓願知，是願求覺知無盡之佛（疑作「法」）門也，是亦攝善法戒，智德之心，了因佛性，報身菩提之因

也。（四）無上菩提誓願證，是願求證得佛果菩提也。由前三行願具足成就而證得三身圓滿之菩提，還亦廣利益一切眾生也。

二緣理菩提心。一切諸法，本來寂滅，安住于此中道實相而成上求下化之願行，是最上之菩提心，謂為緣理之菩提心。見往生要集上末。

1181. 【行願菩提心】（科註第四七七頁第三行）

《佛學大辭典》「三種菩提心」條（節錄）：（名數）是乃密教真言行者之菩提心也。（中略）一行願菩提心，修行發願，故名行願，願者念一切眾生，悉含如來藏性（謂一切眾生之自性皆隱藏如來之功德），堪安住於無上菩提，願以大乘微妙之法悉度之也，行者，

為此修四弘（六）度之行也。

《佛學次第統編》「三種菩提心」條（節錄）：二、行願菩提心 行願菩提心者，發眾生無邊誓願度，福智無邊誓願集，法門無邊誓願覺，如來無邊誓願事，菩提無上誓願證之五大願，實行之，而期救度無盡無餘一切眾生界之心也。故為化他大悲之心，即行願之心也。

1182. 【勝義菩提心】（科註第四七七頁第六行）

《佛學大辭典》「三種菩提心」條（節錄）：二勝義菩提心，止息劣法，觀顯勝義，故云勝義，此有教觀之二門。凡觀夫外道、二乘、法相、三論、天台、華嚴之九種住心（即真言所判十住心之前九住也），次第捨劣取

勝，終安住於究竟之秘密莊嚴心（真言宗所立十住心之第十。即真言一乘之住心），是教門之勝義也。又觀諸法覺悟其無自性，則止除一切之妄惑自真起用，萬德斯具，是觀門之勝義也。如是一就所住之教而云勝義，一就所顯之理而云勝義也。

1183. 【三德（一）】（科註第四七七頁倒數第四行）

《中華佛教百科全書》（節錄）：指智德、斷德、恩德；即佛果功德的三分。出自《佛性論》卷二。即佛果滿足一切諸智、照了一切諸法，有無礙自在之德，名為智德。斷除一切染污無知、不染污無知無所餘，有二乘所斷不及之德，名為斷德。依利他攝化的誓願，而有救護眾生究竟解脫之德，名為恩德。

《華嚴經疏》卷八謂（大正35·562a）：

「修極有三：一、大悲極，入佛神通境。入佛神通境，但為益生，故此成恩德。二、大智極，入佛力境。如來力境，悲智超絕無能及，故成佛智德。三、自在極，入如來解脫門，盡一切障，心境自在，成佛斷德。」

若將三德與自利利他、自行化他、自覺覺他相擬配，則智斷二德是自利、自行、自覺，而恩德是利他、化他、覺他。亦即三德齊全，則能得二利圓滿、覺行窮滿之佛果。

1184. 【不定性】（科註第四七八頁第七行）

《三藏法數》：謂遇緣熏習，修行不定，若近聲聞而習聲聞法，若近緣覺而習緣覺法，若近菩薩而習菩薩法，各隨所習而成其

性，是名不定性也。

《佛學大辭典》：（術語）法相宗所立五性之一。聲聞，獨覺，菩薩三乘之種子皆具，或可為阿羅漢，或可為辟支佛，或可為佛，無有一定之向，故名不定性。此有四類：一具菩薩聲聞之二性，而開果不定也。二具菩薩獨覺之二性，而開果不定也。三具聲聞獨覺之二性，而開果不定也。四三乘皆具而開果不定也。此中第三者永無成佛之期，餘者時至而成佛者也。

菩提心論曰：「若不定性者，無論劫限，遇緣便迴心向大，從化城（喻指小乘之涅槃也）起以為超三界，謂宿信佛故乃蒙諸佛菩薩加持力，而以方便遂發大心。」

1185. 【菩薩性】（科註第四七八頁第七行）

《三藏法數》：菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。謂菩薩悲智雙運，冤親等觀，廣利眾生，證菩提果，是名菩薩性也。

《佛學大辭典》：（術語）五性之一。滿二利之行而當成佛之大乘菩薩種性也。

1186. 【勸發菩提心文】（科註第四七八頁倒數第五行）

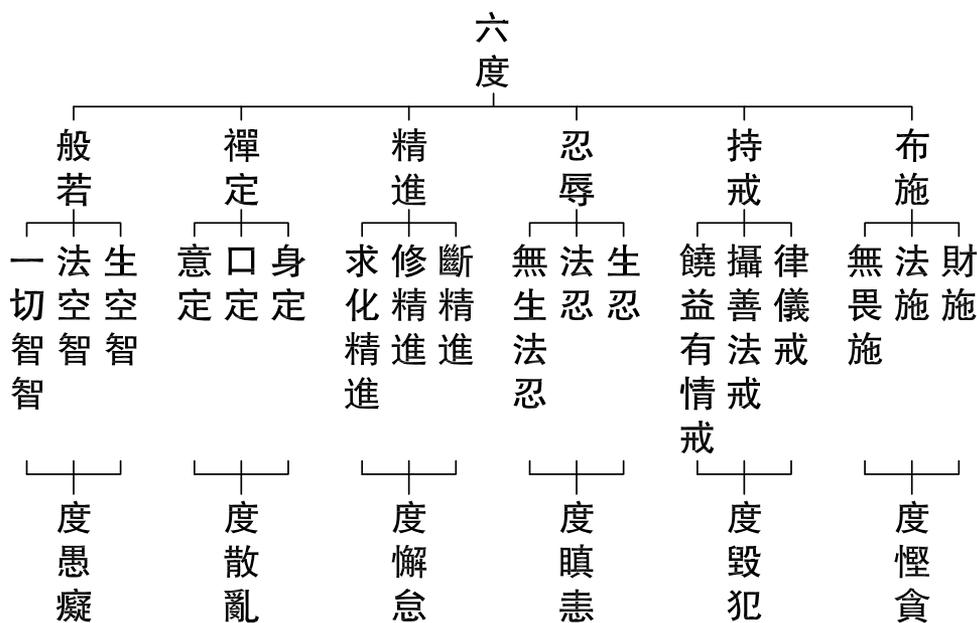
《實用淨土宗辭典》：書名。全一卷。清省庵大師著文。此文雖非經、律、論，而三藏無不攝在其中，勸人發得佛果之因心，是為顯法身續慧命之關鍵。此文以真性為體，以慈悲為宗，以與樂拔苦為用。

本論大分為三：一、緒論即是序分，總標

發心立願為修行之先決條件，別辨心願為立行之標準；二、本論，先總標發心因緣，再別釋發心正義為念佛重恩、念父母恩、念師長恩、念施主恩、念眾生恩、念生死苦、尊重己靈、懺悔業障、求生淨土、令正法久住；三、結論，也即是流通分。

1187. 【六度】（科註第四七九頁第三行）

《佛學大辭典》：（名數）六波羅蜜也。舊稱波羅蜜，譯言度。新稱波羅蜜多，譯言到彼岸。度為度生死海之義，到彼岸為到涅槃岸之義，其意一也。其波羅蜜之行法有六種：一布施，二持戒，三忍辱，四精進，五禪定，六智慧也。仁王經上曰：「六度四攝一切行。」（參見「六度」2168「十波羅蜜」1925）



（《三藏法數》「眾生忍」條：忍即忍耐，亦安忍也。謂菩薩於一切眾生不瞋不惱，如慈母愛子。又若一切眾生以種種惡而加於我，心不瞋恚；以種種恭敬供養於我，心亦不喜，是名眾生忍。）

《三藏法數》「羸提」條（節錄）：法忍，謂於寒熱風雨飢渴等法，惱害之時，能安能忍，不生嗔恚憂愁也。

《三藏法數》「無生法忍」條：理本不生不滅，今但言不生，故名無生。謂菩薩於無生之法，忍可忍樂，不動不退，是名無生法忍。

《佛學常見辭彙》「生空智」條：觀察一切眾生都無實在的我體的智慧。

《佛學常見辭彙》「法空智」條：觀一切法都是緣起性空的智慧。

「一切智智」：見「一切智智」2110。）



《表講四十學佛專大》出——解表度六

1188. 【論主】（科註第四七九頁倒數第一行）此指天親菩薩。

《佛學大辭典》：（術語）指論之作者而言。如天親菩薩稱為千部之論主。百論序疏曰：「天親本小乘學，造五百部小乘論。〔中略〕於是造大乘五百部論，時人呼為千部論主。」

淨土門特專稱天親菩薩，一為千部之論主，一為淨土論之作者。

1189. 【須臾】（科註第四八〇頁第七行）

《佛學大辭典》：（雜語）俱舍論十二曰：「百二十刹那為怛刹那量。臘縛此六十，此三十須臾，此三十晝夜。」（俱舍論十二曰：「刹那百二十為一怛刹那，六十怛刹那為一」

臘縛，三十臘縛為一牟呼栗多，三十年呼栗多為一晝夜。」即，須臾為一晝夜的三十分之一）又曰：「三十臘縛為一牟呼栗多。」瑜伽倫記四曰：「牟呼栗多，此云須臾。」

梵語雜名曰：「須臾，乞沙拏，Kṣāra 剎那也。」猶言暫時，時量也。

1190. 【識神】（科註第四八〇頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（雜語）識者識心，心法也，神者神魂也。

無量壽經下曰：「魂神精識。」  
三論玄義曰：「識神俱表。」

1191. 【四大】（科註第四八〇頁倒數第三行）

《三藏法數》：「〔出圓覺經〕四大者，謂人之身，攬外地水火風四大，而成內身四

大。因對色香味觸四微，故稱為四大也。

一、地大：地以堅礙為性。謂眼耳鼻舌身等名為地大，若不假水，則不和合。經云：髮毛爪齒、皮肉筋骨等，皆歸於地。是也。

二、水大：水以潤濕為性。謂唾涕津液等名為水大，若不假地，即便流散。經云：唾涕膿血津液xián 涎（音咸）沫痰淚精氣大小便利皆歸於水。是也。

三、火大：火以燥熱為性。謂身中nuǎn 煖（音暖）氣，名為火大。若不假風，則不增長。經云：煖氣歸火。是也。

四、風大：風以動轉為性。謂出入息及身動轉，名為風大。此身動作，皆由風轉。經云：動轉歸風。是也。（動轉歸風者，凡身

動轉皆屬風也。」

1192. 【阿<sup>ㄅ</sup>鞞<sup>ㄨㄛˋ</sup>】(音皮) bá<sup>ㄅㄚˊ</sup>跋<sup>ㄅㄚˊ</sup>致<sup>ㄓ</sup> (音拔) (科註第四八一頁倒數第二行)

《佛學大辭典》：(術語) Avaiṣṭ, 又作阿毘跋致，或作阿惟越致，譯曰不退轉。不退轉成佛進路之義。是菩薩階位之名。經一大阿僧祇<sup>ㄉㄨㄛˋ</sup> (音奇) 劫之修行，則至此位。

阿彌陀經曰：「極樂國土，眾生生者，皆是阿鞞跋致。」同慈恩疏曰：「阿鞞跋致者，阿之言無，鞞跋致之言退轉。故大品經云：不退轉故，名阿鞞跋致。〔中略〕是人為諸魔所動，更無退轉。」

1193. 【薩婆若】(科註第四八二頁第一行)

《佛學大辭典》(節錄)：圓覺大疏鈔一

曰：「薩婆若，此云一切種智，即諸佛究竟圓滿果位之智也。種謂種類，即無法不通之義也。謂世出世間種種品類無不了知故，云一切種智。故華嚴如來名號品中，列佛種種名。於中云：亦名一切義成。一切義成者，即翻梵語悉達多，為此言也。謂於一切義理悉皆通達成就，即是一切種智也。」

1194. 【發心住】(科註第四八二頁第三行)

《佛學大辭典》：(術語) 菩薩十住之第一位也。(參見「十住」1215)

1195. 【決定業】(科註第四八四頁第五行)

《佛學大辭典》：(術語) 對於不定業而言。略稱為定業。見定業條。

○定業：(術語) 定受生死苦果之定業因

也。此有善惡之二，善之定業，定受樂果，惡之定業，定受苦果。又善惡之定業，各有三種，於造善惡業之生，直感苦樂之果，為順現受業。隔一世而感其果，為順生受業。隔二世以上而感其果，為順後受業。已上皆為定業中之差別，此外善惡皆有不定業之一種，業力微弱，不必感果也。因而通為四業（即順現等三業加不定受業。）。

1196. 【道宣】（科註第四八五頁第七行）

《佛祖統紀》：法師道宣（五九六一—六六七）。京兆錢氏。母夢梵僧語之曰。仁者所懷梁僧祐律師也。處胎彌十二月而生。九歲遍覽群書。十二善習文墨。十五師日嚴yūn頹tū（音暈）公。十六誦法華。兩旬而徹。十七落

髮。二十依首師進具戒。三衣唯布。常坐一食。武德四年再依首師學律。性好禪那期修正定。頹曰。戒淨定明慧方有據。始聽未閑。持犯焉識。七年徙居終南zhōng紆yū麻ma（多年生草本植物。紆，音祝）蘭若。始製行事鈔。

正觀四年行般若三昧於清宮精舍。經九十日。龍化人形禮觀聽法。沙彌染心顧gù小xi盼xi（音細。看）其女。龍怒欲害之。念師教誡頓息惡心。攝毒吐井。白師勿飲此水。及往視之其井涌沸。又於雲際寺行此三昧。前後二十會。常感天童為之給侍。

十九年偕樊公翻經弘福。筆受潤文推為上首。永徽元年復居紆麻。心勞疾發。忽毘沙門天王授以補心之方（今和劑局方。有天王

補心丹）復告師曰。時當像末。不修禪誦。但起伽藍恐非比丘之正業。後在西明寺深夜行道。足跌前階聖者扶足。師問何人。答曰。北天王子那吒。奉命來衛。師曰。太子威力自在。天竺有可作佛事者。願為致之。太子即以所寶佛牙授之。師夜捧行道晝藏地穴。唯弟子文綱知之。師與天神往來。（中略）

乾封二年春。天人告師曰。師報緣將盡。當生彌勒內宮。十月三日。眾見空中旛華交列。異香天樂。天人同聲請師歸覲彌勒。（中略）懿宗朝諡澄照。

師所撰刪定僧戒本（一卷今所盛行）、刪定比丘尼戒本（一卷）、注僧戒本（三

卷）、戒疏（四卷）、注羯磨經（二卷）、羯磨疏（四卷）、行事鈔（三卷）、尼戒本（一卷）、比丘尼鈔（三卷）、拾毘尼義鈔（三卷）。亡物輕重儀。章服儀。歸敬儀。正行懺悔儀。新學教誡儀（各一卷）、法華義苑（三十卷亡本）、釋迦方誌（二卷）、佛道論衡（四卷）、續高僧傳（三十卷）、後續僧傳（十卷）、廣弘明集（三十卷）、三寶感通記（二卷）、天人感通傳（一卷）、大唐內典錄（十卷）。

1197. 【《觀念法門》】（科註第四八六頁第二行）

《實用淨土宗辭典》：書名。全一卷，唐代善導大師著，又稱《觀念阿彌陀佛相海三昧功德法門》、《觀念阿彌陀集》。收于

《大正藏》第四十七冊。本書敘述觀、念阿彌陀佛之行相作法及功德。其內容分為三段：先示三昧行相；次示五緣功德；後勸人修行。注釋書有證空大師之《觀念法門觀門要義鈔》三卷、良忠大師之《觀念法門私記》二卷、聖聰大師之《觀念法門見聞》二卷等。

1198. 【因地】（科註第四八六頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）修行佛道之位也。對於成佛之位為果地或果上而名。

圓覺經曰：「說於如來本起清淨因地法行。」

楞嚴經五曰：「我本因地，以念佛心入無生忍。」又因於地也。

1199. 【中陰】（科註第四八七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）又云中有。死此生彼，中間所受之陰形也。陰者五陰之陰（新譯云五蘊），俱舍宗以為有一定之中陰，成實宗以為無之，大乘宗以為有無不定。謂極善極惡之人，無中陰，直至所至。餘皆有之。

大乘義章八曰：「命報終謝，名為死有。生後死前，名為本有。兩身之間，所受陰形，名為中有。」

文句四曰：「中陰倒懸諸根皆毀壞。」

《佛學次第統編》：欲海回狂云：「識離此形軀，其名曰中陰。一人胞胎後，此相忽然隱。譬之暗中燈，燈滅還晦冥。六道十七

相（正法念處經所言「十七種中陰有法」），智者宜觀省。」

涅槃經云：「臨命終時，眷屬哭泣。其人惶怖，不能自持。一生善惡，俱現目前。煖nuǎn（音暖）氣盡後，過去五陰滅，現在中陰生。人胎之後，現在中陰滅，未來五陰生。譬如燈生暗滅，燈滅暗生，相續不斷。」

1200. 【慧命】（科註第四八七頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）法身以智慧為壽命。智慧之命夭傷，則法身之體亡失。蓋慧為法身之壽命，故曰慧命。四教儀曰：「未代凡夫於佛法中起斷滅見，夭傷慧命，亡失法身。」

1201. 【大悲胎藏】（科註第四八八頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）胎藏又曰華藏。為眾生本具之菩提心。言肉團心所具菩提之理性，依大悲之萬行，而生長發育，猶如母胎內之子。故曰大悲胎藏。又胎藏謂肉團心開hū敷（音夫）之八葉中臺之大日。此中臺之大日，以大悲出生無盡之諸尊，垂普門之化用。故曰大悲之胎藏。

1202. 【加持】（科註第四八八頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語地瑟wēi妮nī（音偉）曩 *Adhiṣṭhāna*，譯言加持。加附佛力於軟弱之眾生，而任持其眾生也。又佛所加之三密力，於眾生之三業任持也。又祈禱者，為加附佛力於信者，使信者受授其佛力，故祈禱直曰加持。

演密鈔一曰：「地瑟媿曩此云加持，通三義也。或云憶念，唯意密故。」同二曰：「言加持者，加謂加被，持謂任持。佛以上神力，加被任持現前大眾，得見如是不思議莊嚴境界。」

即身成佛義曰：「加持者，表如來大悲與眾生信心。佛日之影，現眾生心水曰加，行者心水能感佛日曰持。」

八十華嚴經六曰：「佛所加持無有邊。」

大日經題曰：「成佛神變加持。」

1203. 【大日如來】（科註第四八八頁第四行）

《佛學大辭典》：（佛名）密教之本尊，梵名謂之摩訶毗盧遮那 Mahāvairocana，摩訶者大之義，毘盧遮那為日之別名，故譯云大

日。又，毘盧遮那者光明遍照之義，謂之遍照如來。又，云最高顯廣眼藏如來。

大日經疏一曰：「梵音毘盧遮那者是日之別名，即除暗遍明之義也。然世間日則有方分，若照其外不能及內，明在一邊不至一邊，又唯在晝光不燭夜；如來智慧日光則不如是，遍一切處作大照明矣，無有內外方所晝夜之別。〔中略〕世間之日不可為喻，但取是少分相似，故加以大名曰摩訶毘盧遮那也。」

演密鈔二曰：「毘云徧，盧遮那云光明照，為順此方云光明徧照。」

金剛頂經義訣曰：「梵云毘盧遮那，此翻最高顯廣眼藏如來。毘者最高顯也，盧遮那

者廣眼也，先有翻為遍照王如來也，又有翻為大日如來，此蓋略而名義闕也。」金胎兩部之大日各異。

1204. 【婆羅門】（科註第四八九頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（雜名）Brahmana，天竺四姓之一。具云婆羅賀摩拏，又云沒囉憾摩。譯為外意、淨行、淨志、靜志等。奉事大梵天而修淨行之一族。

玄應音義十八曰：「婆羅門，此言訛略也。應云婆羅賀摩拏，此義云承習梵天法者。其人種類自云，從梵天口生，四姓中勝故，獨取梵名，唯五天竺有，諸國即無。經中梵志亦此名也。正言靜胤（音印），言是梵天之苗胤（後代子孫）也。」

慧琳音義二十六曰：「婆羅門，此俗人也。謂淨行高貴捨惡法之人，博學多聞者也。」

希麟音義八曰：「婆羅門，不正梵語也。應云沒囉憾摩，此云淨行，或云梵行。自相傳云：我從梵王口生，獨取梵名，世業相傳習四圍陀論。」

俱舍頌疏賢聖品三曰：「此云淨志，遠煩惱故，同勤息義。」

仁王經良賁疏中二曰：「婆羅門，此云靜志。」

俱舍光記一曰：「婆羅門法。七歲以上在家學問，十五已去，學婆羅門法，遊方學問。至年四十恐家嗣斷絕，歸家娶妻，生子

繼嗣，年至五十入山修道。」

智度論十曰：「在家中七世法淨，生滿六歲皆受戒，名婆羅門。」

寄歸傳四曰：「五天之地皆以婆羅門當貴勝，凡有座席，并不與餘三姓同行。」

註維摩二曰：「肇曰：婆羅門，秦言外意。」

毘奈耶雜事一曰：「見諸婆羅門。以自三指點取白土，或以白灰抹其額上，以為三畫。」

1205. 【《大品》】（科註第四九〇頁第八行）

《佛學大辭典》：（經名）大品般若經

也。

1206. 【《尊勝陀羅尼經》】（科註第四九一頁第三行）

《佛光大辭典》：全一卷。全名佛頂尊勝陀羅尼經。又稱尊勝經。唐代佛陀波利譯。收於大正藏第十九冊。本經之緣起，乃善住天子於命終之後，將受七度畜生惡道之苦，帝釋天愍其業因，遂詣佛所，乞求救濟，佛乃為之宣說尊勝陀羅尼及持誦之功德等。所謂「佛頂尊勝」，即為密教胎藏界曼荼羅（音徒）羅釋迦院五佛頂（自釋迦如來頂上現出之五體如來也。即白傘蓋佛頂、勝佛頂、最勝佛頂、光聚佛頂及除障佛頂）之一。五佛頂中，以釋迦如來之佛頂所顯現之輪王形佛頂尊為最殊勝，故密教以佛頂尊為本尊，而修持息災、除病之法，稱為尊勝法。佛頂尊勝陀羅尼即說佛頂尊勝之功德，由八十七句組成，

古來有諸多靈驗。禪宗亦用之。

本經之注疏有唐代法崇所著佛頂尊勝陀羅尼經疏二卷。此外，本經之異譯本甚多，如後周智稱譯之尊勝陀羅尼並念誦功能法（已失佚）、唐代杜行顛<sup>音乙</sup>譯之佛頂尊勝陀羅尼經一卷、唐代地婆訶羅譯之最勝佛頂陀羅尼淨除業障經一卷、唐代地婆訶羅重譯之佛頂最勝陀羅尼經一卷、唐代義淨譯之佛頂尊勝陀羅尼經一卷、宋代施護譯之尊勝大明王經一卷、宋代法天譯之最勝佛頂陀羅尼經一卷等。

1207. 【諸趣】（科註第四九二頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）人天等之五趣、六趣也。

楞伽經四曰：「墮生死海，諸趣曠野，如汲井輪。」

1208. 【惡知識】（科註第四九二頁第三行）

《中華佛教百科全書》（節錄）：（梵 *pitṛa-* *nīta*）即說惡法邪法，陷人於魔道之惡人。善知識之相反詞。又作惡友、惡師。

《大般涅槃經》卷二十云（大正 12·741b）：「菩薩摩訶薩於惡象等心無怖懼，於惡知識生畏懼心。何以故？是惡象等唯能壞身，不能壞心，惡知識者二俱壞故。」

《愚禿鈔》卷下云（大正 83·653a）：

「惡知識者，假善知識，偽善知識，邪善知識，虛善知識，非善知識，惡善知識，惡性人也。」

1209. 【二種譏嫌】（科註第四九二頁第四行）

《佛光大辭典》：指譏嫌之名與譏嫌之體。天親之淨土論謂體有三種，即二乘之人、女人及諸根不具之人，此三者乃修行佛道者之所厭，因其能生種種譏嫌，故其體為譏嫌體，其名為譏嫌名。

《佛學大辭典》「離譏嫌名願」條：（術語）彌陀之第十六願，使淨土無譏嫌惡名之願。又謂之無諸不善願。

○譏嫌：（雜語）又作機嫌。譏嫌者，謂他人之譏嫌也。不為他人譏嫌之事，謂之護機嫌。

起信論曰：「當護譏嫌，不令眾生妄起過

罪故。」

楞嚴經九曰：「誹謗比丘，罵詈徒眾，  
jié 訐（音節。攻擊他人的短處）露人事，不避譏嫌。」

涅槃經十一曰：「息世譏嫌戒。」

淨土論曰：「大乘善根界，等無譏嫌名。」

《漢語大詞典》「譏嫌」條：非議嫌惡。

1210. 【舍利（一）】（科註第四九二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（動物）Śarī, 鳥名。

1211. 【迦陵頻伽】（音茄）（科註第四九二頁倒數第一行）

《翻譯名義集》：此云妙聲鳥。

大論云：如迦羅頻伽鳥，在 qiào 殼（音俏。鳥

卯)中未出，發聲微妙，勝於餘鳥。

正法念經云：山谷曠野，其中多有迦陵頻伽，出妙音聲。如是美音，若天若人緊那羅等，無能及者，唯除如來音聲。

1212. 【共命之鳥】(科註第四九二頁倒數第一行)

《佛學大辭典》「共命鳥」條：(動物)

Jivajiva，又作命命鳥，生生鳥。梵曰 qī 者(音奇)婆耆婆。兩首一身，果報同，心識別也。

1213. 【三聚】(科註第四九四頁第三行)

《三藏法數》：〔出顯宗論〕

一、正性定聚：謂斷貪瞋癡等，煩惱皆盡，心無邪偽，此性決定，聚集不散，是名正性定聚。

二、邪性定聚：謂四惡趣及一切邊邪等見，不信正法，皆名邪性。此性決定，聚集不散，是名邪性定聚。(四惡趣者，修羅趣、餓鬼趣、畜生趣、地獄趣也。)

三、不定性聚：謂此性或可為邪，或可為正，定非一向，是名不定性聚。

《佛學大辭典》(節錄)：(名數)以三聚該收一切眾生也。一、正定聚，必定證悟者。二、邪定聚，畢竟不證悟者。三、不定聚，在二者中間有緣證悟，無緣不證悟也。

此三聚之義通於大小乘，小乘之俱舍論十曰：「正邪不定聚聖造無間餘。」預流向(趣向須陀洹果之因位也)已上之聖者為正定聚，造五無間業者為邪定聚，在此二者中間

修七方便（小乘見道以前之修行位也。即一五停心、二別相念住、三總相念住、四煖法、五頂法、六忍法、七世第一法）之行者為不定聚。

大乘之三聚有多義，智度論八十四曰：「能破顛倒者名正定，必不能破顛倒者是邪定，得因緣能破不得則不能破是名不定。」是通相說三聚，未判其位也。

依起信論之所說，則十信已前之凡夫不信因果，為邪定，十住已上為正定，十信之人為不定性。此為實大乘之義。

權大乘之相宗，則依智度論之說意，不因位而制之，依彼宗所立之五性而立之。即無種性之人為邪定，不定種性之人為不定性，菩薩定性之人為正定。

又依釋摩訶衍論之一說，則十聖為正定聚，三賢為不定聚，自餘之凡夫為邪定聚。是亦權大乘之意也。

1214. 【十信】（科註第四九四頁第八行）

《三藏法數》：「出楞嚴經」十信者，乃三賢之首，萬行之先也。然欲從凡人聖，必以信為先導，始自信心，終至願心，總為十信，以作菩薩真修之方便也。（三賢，即十住、十行、十迴向諸位菩薩也。）

一、信心：謂心與理冥，決了無疑，妙信純真，恒住中道。經云：妙信常住，一切妄想，滅盡無餘，中道純真，名曰信心。

二、念心：謂真信明了過去未來劫中，出生入死，憶念無忘。經云：無數劫中，捨身

受身，皆能憶念，得無遺忘，名曰念心。

（劫，梵語具云劫波，華言分別時節。）

三、精進心：不雜曰精，無間名進。謂唯以念心，精明進趣真淨之地。經云：唯以精明進趣真淨，名精進心。

四、慧心：善入佛法，造心分別為慧。謂精進之心，既已現前，則純真之慧，自然發顯。經云：心精現前，純以智慧，名曰慧心。

五、定心：謂念慮皆忘，寂用無心，則慧性明徹，湛然不動。經云：周徧寂湛，寂妙常凝，名曰定心。

六、不退心：謂定光顯發，慧心明徹，知道不遠，進修無懈。經云：定光發明，明性

深入，唯進無退，名不退心。

七、護法心：謂心進無退，則能保護任持一切佛法，而佛之氣分，與已相接。經云：心進安然，保持不失，十方如來氣分交接，名護法心。

八、迴向心：迴即迴轉，向即趣向，謂以護法心微妙之力，感佛之光來照，又復回光以向於佛，猶如雙鏡交照，光輝互現也。經云：覺明保持，能以妙力回佛慈光，向佛安住，名迴向心。

九、戒心：謂心迴向佛，則於淨戒，安住不失。經云：心光密迴，獲佛常凝，無上妙淨，安住無為，得無遺失，名曰戒心。

十、願心：謂由心住淨戒而得自在，故能

徧遊十方世界，化導眾生，隨其所願，悉皆滿足。經云：住戒自在，能遊十方，所去隨願，名曰願心。

1215. 【十住】（科註第四九四頁第八行）

《三藏法數》：〔出楞嚴經〕謂菩薩約位進修，以妙覺為本，此覺由信而入，人則能住，故自發心住至灌頂住，通為十種也。

一、發心住：謂由前十信，相<sup>三之世</sup>躡（音涅）（音涅。連續也）進修，作真方便，顯發十住之心，此心真精，發本明耀，令彼十信之用，於明耀中，徧互涉入，圓成一心之德。經云：以真方便，發此十心，心精發輝，十用涉入，圓成一心，名發心住。（十用，即十信之用也。）

二、治地住：謂由前所發之心，淨如琉璃；所證之理，顯若精金。因此妙心，契於理地。經云：心中發明，如淨琉璃，內現精金，以前妙心，履以成地，名治地住。（梵語琉璃，華言青色寶。履，即治也，亦造入之義。）

三、修行住：修行者，起行造心也。謂前發心、治地二住之智，俱已明了；由明了故，徧修諸行，皆無留礙。經云：心地涉知，俱得明了，遊履十方，得無留礙，名修行住。（十方者，四方四維上下也。）

四、生貴住：謂由前妙行，冥契妙理，將生佛家，為法王子。故曰生貴。經云：行與佛同，受佛氣分；如中陰身，自求父母，陰

信冥通，入如來種，名生貴住。（中陰者，謂現身已謝，後身未生，於此之中，識未託胎之時也。）

五、方便具足住：謂由前妙行，既與佛同，則自行利他，善巧方便，具足不缺。經云：既遊道胎，親奉覺胤，如胎已成，人相不缺，名方便具足住。（道胎者，謂道果之胎，以喻菩薩之人聖道也。覺胤者，覺即是佛，謂佛之胤嗣也。）

六、正心住：謂前行相，雖與佛同，心相有異，未名正心。至此，則心相不異，方名為正。經云：容貌如佛，心相亦同，名正心住。

七、不退住：謂前心行二相，既與佛同，

則佛身、佛心，二種合成，日以滋益，漸漸增長，唯進無退。經云：身心合成，日益增長，名不退住。

八、童真住：體微曰童，謂其體雖微，已具佛十身靈妙之真相矣。經云：十身靈相，一時具足，名童真住。（十身者，菩提身、願身、化身、力持身、相好莊嚴身、威勢身、意生身、福德身、法身、智身也。）

九、法王子住：謂自發心至生貴，名人聖胎；自方便具足至童真，名長養聖胎；至此長養功成，名出聖胎。既出胎已，則為佛之真子，而繼紹佛種也。經云：形成出胎，親為佛子，名法王子住。

十、灌頂住：謂表菩薩既成佛子，堪行佛

事。佛以智水而灌其頂，猶如刹利、轉輪王之子受職，而父王以大海水灌其頂也。經云：表以成人，如國大王，以諸國事，分委太子。彼刹利王世子長成，陳列灌頂，名灌頂住。（刹利，梵語具云刹帝利，華言田主。）

1216. 【起心立德】（科註第四九四頁倒數第三行）

《佛光大辭典》：發起菩提心而成立功德之意。

安樂集卷上（大四七·一二中）：「言易行道者，謂以信佛因緣，願生淨土，起心立德，修諸行業。」

1217. 【法華經信解品】（科註第四九五頁第五行）

《妙法蓮華經》之第四品。法華經之第二

品為方便品，第三品為譬喻品。因中根之人，初聞方便品之說，雖虛心信受，然未能領悟其意，故世尊便於譬喻品中廣引三車一車之譬，而說會三歸一之旨。於是須菩提、迦旃延、迦葉、目犍連等四大聲聞始領悟其旨。彼等欲述所悟之旨，乃於此品說長者窮子之譬，以慈悲之長者譬佛，以愚昧之窮子譬三乘，而以財產相續（付財）譬成佛之記別，以自彰其領悟之境界與法悅。

1218. 【漏】（科註第四九五頁倒數第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）梵語

Āsava 煩惱之異名也。漏為流注漏泄之義，三界之有情，由眼耳等六瘡門，日夜流注漏泄煩惱而不止，故名漏。又煩惱現行，使心

連注流散而不絕，故名漏。煩惱如漏器漏舍也。（中略）又漏失之義，煩惱漏失正道，故名。又煩惱使人漏落於生死，故名。

1219. 【我執】（科註第四九六頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）認有我身之執念為我執，亦云人執。

唯識述記一本曰：「煩惱障品類眾多，我執為根，生諸煩惱，若不執我無煩惱。」

俱舍論二十九曰：「由我執力，諸煩惱生。三有輪迴，無容解脫。」

俱舍光記二曰：「我執謂我見。」梵 *Ātma-grāha*。

《三藏法數》「二我執」條：〔出宗鏡錄〕

一、俱生我執，謂於五陰等法中，強立主

宰，妄執為我，與身俱生，是名俱生我執。（五陰者，色陰、受陰、想陰、行陰、識陰也。）

二、分別我執，謂於計我、法中，分別我能行善、行惡等事，而起執著，是名分別我執。

1220. 【大藏法數】（科註第四九七頁第八行）

《佛光大辭典》：凡七十卷（本文六十八卷，目錄兩卷）。明代寂照奉敕編集。全稱一代經律論法數。乃廣集散於大藏中之經律論釋而成。由增一法，自一開始，順序排列至八萬四千法門為止，每項皆錄出有關之出典。本書係以大明三藏法數為主要根據，兼採諸乘法數、藏乘法數、教乘法數等書，間

亦載錄外典名相。共收四六八五項項目，並附加略注。卷初題有「起教佛祖」，乃揭示教祖釋迦牟尼佛之系圖。

1221. 【金剛杵<sup>多x</sup> chū 杵<sup>多x</sup>】（音楚）（科註第四九七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（物名）梵語伐折羅 Vajra，原為印度之兵器。密宗假（借也）之，以標堅利之智，斷煩惱，伏惡魔。其兩頭單獨者，謂之獨股，分三枝者，謂之三股，分五枝者，謂之五股，分九枝者，謂之九股。以金石或木材作之，有大中小之三品。

大日經疏一曰：「伐折羅即是金剛杵。」又曰：「伐折羅如來金剛智印。」又曰：「譬如帝釋手持金剛破修羅軍，今此諸執金剛

亦復如是。各從一門持大空之戰具，能破眾生無相之煩惱。故以相況也。」

仁王經念誦儀軌上曰：「手持金剛杵者，表起正智猶如金剛。」

諸部要目曰：「杵，金，銀，銅，鐵，石，水精，佉陀羅木等，無量種各不同。杵，五股三股一股。長十六指為上，十二指為中，八指以為下，乃至一指節為下。此經中說：不持金剛杵念誦，無由得成就。金剛杵者，菩提心義。能壞斷常二邊，<sup>ㄉㄨㄛˋ</sup>契（音氣）中道。中有十六菩薩位，亦表十六空為中道。兩邊各有五股五佛五智義。亦表十波羅蜜，能摧十種煩惱，成十種真如，便證十地。」

1222. 【仁王經念誦儀軌】（科註第四九七頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「仁王護國般若波羅蜜多經道場念誦儀軌」條：（經名）不空譯。略名仁王儀軌，仁王般若儀軌等。說念誦仁王經之秘密作法。

《閱藏知津》「仁王護國般若波羅密多經道場念誦儀軌」條：一卷。唐北天竺沙門大廣智不空譯。第一明五菩薩現威德（分為五方）。第二建立曼荼羅軌儀。第三入道場軌儀（分為十科）。第四釋陀羅尼文字觀行法。第五明陀羅尼觀想布字輪。

1223. 【<sup>ㄑㄩˋ</sup>佉（音屈）陀羅】（科註第四九七頁倒數第一行）

《佛光大辭典》（節錄）：梵語 *Khadira*。又作法陀囉、佉達羅、劫陀羅、劫地羅、<sup>ㄑㄧㄝˋ</sup>揭迦（音妾）達羅、珂地羅、揭地洛迦、佉提羅陀。為木名。在密教修法中，作為護摩木、金剛<sup>ㄑㄩㄛˋ</sup>榘（音覺）之用，材質堅硬。意譯為紫檀（<sup>ㄐㄩㄥˋ</sup>薑置（音江））、檐（擔）木、堅硬木、<sup>ㄈㄢˊ</sup>鐮（音凡）樹、空破木。

1224. 【執金剛】（科註第四九八頁第一行）  
《佛學大辭典》「金剛力士」條：（天名）與金剛神，執金剛，持金剛，金剛夜叉，密迹金剛等皆同。執金剛杵護持佛法之天神也。

楞伽經四曰：「金剛力士，常隨侍衛。」

立於寺門兩脅之二王是也。大寶積經密迹金剛力士品記其宿世之事歷發願。

1225. 【《行宗記》】（科註第四九八頁第二行）

具名《四分律含注戒本疏行宗記》。三卷，大宋余杭沙門元照述。

1226. 【毘紐天】（科註第四九八頁第四行）

《佛學大辭典》「韋紐天」條：（天名）

Viṣṇu，又作違紐天，毘紐，韋<sub>rou</sub>糝<sub>粿</sub>（音柔），毘瑟紐，毘瑟笈，毘瑟怒，毘搜紐，毘瘦紐。譯曰遍淨等。自在在天之別名，生於劫初大水中，有一千頭二千手，從其臍中生大蓮華，蓮華上化生梵天王云。

智度論二曰：「如韋紐天，秦言遍聞。四臂，捉貝持輪，騎金翅鳥。」同八曰：「劫

盡燒時，一切皆空。眾生福德因緣力故，十方風來，相對相觸能持大水。水上有一千頭人二千手足，名為韋紐。是韋紐人臍中出千葉金色妙寶蓮華，其光大明如萬日俱照。華中有人結跏趺坐，此人復有無量光明，名曰梵天王。此梵天王心生八子，八子生天地人民，是梵天王於諸姪瞋已盡無餘。」

廣百論一曰：「違紐天，秦云遍勝天。」

三論檢幽鈔一曰：「韋紐者，此翻為遍淨。」

大日經疏十七曰：「韋紐天者，自在天別名。」

大日經疏五曰：「微瑟紐，舊譯謂之毘紐，此即那羅延天也。」

1227. 【迦樓羅鳥】（科註第四九八頁第六行）

《佛學大辭典》「迦樓羅」條：（動物）

Garuda，又云迦留羅，迦婁羅，揭路茶（音徒），迦<sup>カ</sup>樓<sup>カ</sup>（音樓）茶，伽樓羅，<sup>エ</sup>識（音額）嚙拏，<sup>ホ</sup>蘖嚙拏等。鳥名。舊譯曰金翅鳥。新譯曰妙翅鳥，頂<sup>頂</sup>瘦（音影）鳥，食吐悲苦聲等。居四天下之大樹，取龍為食。八部眾之一。

法華文句二下曰：「迦樓羅，此云金翅。翅翻金色，居四天下大樹上，兩翅相去三百三十六萬里。」

探玄記二曰：「迦留羅，新名揭路茶，此云妙翅鳥。鳥翅有種種寶色莊嚴，非但金。依海龍王經：其鳥兩翅相去三百三十六萬

里，閻浮提止容一足。依涅槃經，此鳥能食消龍魚七寶等。又依增一經：日別食一大龍王五百小龍，達四天下，周而復始，次第食之。命欲終時，諸龍吐毒，不能復食。飢火所燒，<sup>所</sup>聳（音竦）翅直下。至風輪際（風輪之際限，是一世界之最底下也），為風所吹，還復上來。往還七返，無處停足，遂至金剛輪山頂上命終。以食諸龍，身肉毒氣，發火自焚。難陀龍王，恐燒寶山，降雨滅火，<sup>雨</sup>沛（音低。指雨滴）如車軸，身肉消散。唯有心在，大如人髀，純青琉璃色。輪王得之，用為珠寶。帝釋得之，為<sup>髻</sup>髻（音計。髮髻也）中珠。」

慧苑音義上曰：「迦樓羅，或曰揭路茶，

此云食吐悲苦聲也。謂此鳥凡取得龍，先內すく唳女（音速。鳥類食道下部貯存食物之處）中，得吐食之，其龍猶活，此時楚痛出悲苦聲也。或曰：此云大唳頂鳥，謂此鳥常貯龍唳內，益其頂ちん麤女（音粗）也。舊云金翅妙翅者，且就狀而名，非敵對翻也。然其翅有種種質色，非唯金耳。」

1228. 【《涅槃經疏》】（科註第四九八頁第六行）

《佛光大辭典》「大般涅槃經疏」條：凡三十三卷。隋代灌頂撰。又作南本涅槃經疏、涅槃經疏。今收於大正藏第三十八冊。本書係以天台教旨解釋南本涅槃經，並隨處以南本涅槃經與方等般泥洹經、大般泥洹經、北本涅槃經等經辨其異同。

灌頂於大業十年（六一四）至十五年間撰著之，原書僅有釋文十二卷、玄義一卷，書中唯以科句節斷經文。其後荊溪湛然再治之，於諸文之下，冠上「私謂」或「私云」之語，以彰顯其義。荊溪再治本共有十五卷。南宋度宗咸淳八年（一二七二），師正以原疏之科句分別標示於經中，於元世祖至元十九年（一二八二）開版。至明朝萬曆年中，圓澄更將經文與注疏彙編成會疏三十六卷，並製條箇三卷，然後人對其所作會疏頗有「擅自筆削，混淆涇渭」之貶。日本守篤本純重行取十五卷疏會入經文，校合諸本，附上注解，共成三十六卷刊行之。此外，本書另有十八卷、二十卷、三十三卷等諸種版

本。

本書之注疏有私記十二卷（行滿）、私記

九卷（道xiān<sup>十一</sup>暹（音先））、治定疏科十卷（智

圓）、三德指歸二十卷（智圓）等。「大般

涅槃經玄義卷下末、涅槃玄義發源機要卷

四、宋高僧傳卷六、佛祖統紀卷七、新編諸

宗教藏總錄卷一」

1229. 【十九執金剛】（科註第四九八頁第七行）

《佛學大辭典》：（名數）此為大日如來

之內眷屬（諸佛眷屬中，在內常隨給侍者），列

於大日經之首，皆為菩提心之功德相。十

者，陰之滿數。九者，陽之滿數。此十九執

金剛，盡理智一切之諸尊矣。一說，對於顯

教瑜伽論之十九無知，而為十九差別智印。

或謂金剛手為總，十八金剛為九尊理智之數。

其名則虛空無垢、虛空遊步、虛空生、被

雜色衣、善行步、住一切法平等、哀愍無量

眾生界、那羅延力、大那羅延力、妙、勝

迅、無垢、刃迅、如來甲、如來句生、住無

戲論、如來十力生、無垢眼、金剛手秘密主

是也。

1230. 【那羅延】（科註第四九九頁第二行）

《佛光大辭典》「那羅延力執金剛」條：

為密教大日經說會曼荼羅之內眷屬，為十九

執金剛中之第八位。此金剛能發勇猛之大悲

以救濟眾生。那羅延，或謂乃帝釋天之力

士，或為毘紐天之異名；此金剛以其大悲心

之強盛，故以那羅延天之大力喻之，而稱為那羅延力。

大日經疏卷一：「第八那羅延力執金剛者，已發哀愍之心，若具大勢，則能救護。

〔中略〕那羅延力最勝，佛生身一一毛孔皆等那羅延力，故以喻法界身那羅延力。」

1231. 【《新譯仁王經》】（科註第四九九頁第七行）

《仁王護國般若波羅蜜多經》，二卷，唐不空譯。

《佛光大辭典》「仁王般若波羅蜜經」條（節錄）：唐代宗永泰元年（七六五），不空奉詔重譯，題為仁王護國般若波羅蜜多經，略稱仁王護國經、新譯仁王經。亦分二卷、八品，文詞與舊經（鳩摩羅什所譯之仁王經）

略同。羅什譯本之註疏有仁王護國般若經疏五卷（智顛說，灌頂記）、仁王般若經疏六卷（吉藏）、仁王經疏六卷（圓測）等。不空譯本則有仁王護國般若波羅蜜多經疏三卷（良賁）、仁王經疏四卷（淨源）等。

1232. 【《良<sup>び</sup>賁<sup>び</sup>疏》】（音必）疏（科註第四九九頁第七行）

《佛光大辭典》「仁王護國般若波羅蜜多經疏」條：凡三卷，或七卷。唐代良賁撰。又作新譯仁王般若經疏、新翻仁王經疏。為唐代不空所譯仁王護國般若波羅蜜多經二卷之注釋書。卷上一之冒頭略解經題，次立敘經起意、明經宗體、所攝所被、正解本文等四門，並解說經之大意及經文。

1233. 【《超日明三昧經》】（科註第五〇〇頁第四行）

《佛學大辭典》：（經名）二卷，西晉聶承遠譯。佛因普明菩薩之問說超日明定，又隨諸菩薩之問而說諸法，終受日天子供養。

1234. 【大慧】（科註第五〇〇頁第五行）

《佛光大辭典》「大慧宗gǎo杲gǎo」（音搞）條

（節錄）：（一〇八九—一一六三）宋代臨濟宗楊岐派僧，字曇晦，號妙喜，又號雲門。俗姓奚，宣州（安徽）寧國人。十七歲，出家於東山慧雲寺之慧齊門下，翌年受具足戒。先後參訪洞山微、湛堂文準、圜悟克勤等師。宣和年間，與圜悟克勤住東京（開封），大悟後，乃嗣圜悟之法，圜悟並以所

著「臨濟正宗記」付囑之。未幾，令師分座說法，由是叢林歸重，名振京師。靖康元年（一一二六），丞相呂舜徒奏賜紫衣，並得「佛日大師」之賜號。（中略）晚年，住徑山，四方道俗聞風而集，座下恒數千人。孝宗歸依之，並賜號「大慧禪師」。隆興元年八月微恙，十日親書遺奏，又書遺偈，擲筆委然而入寂，世壽七十五，法臘五十八。諡號「普覺禪師」。遺有大慧語錄、正法眼藏、大慧武庫等書。嗣法弟子九十餘人，較著名者有思岳、德光、悟本、道顏等。（明高僧傳卷五、大慧年譜、嘉泰普燈錄卷十五、聯燈會要卷十七、五燈會元卷十九）

1235. 【《法華經法師品》】（科註第五〇一頁第八行）

《妙法蓮華經》之第十品。為說五種法師功德及弘經方法之品，故謂之法師品。

1236. 【鍵椎ツヱ（音垂）】（科註第五〇一頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「鍵（音兼）稚」條（節錄）：（物名）Ghanta，又作犍槌，犍地，犍遲，犍稚。

譯曰鐘，磬，打木，聲鳴等。可打而作聲之物之通稱。大小無別。案稚稚二字，共為寫梵音者。故無論用何者，皆無妨。而辨其相違，（中略）。

名義集七曰：「應法師釋云：梵語臂吒，此云打。梵語犍槌，此云所打木。或檀或桐，此無正翻，彼無鐘磬故也。音義指歸斥云：祇如梵王鑄祇桓寺金鐘，又迦葉結集

zhuā 搥ツヱ（音抓。擊打、敲）銅犍槌，豈無鐘耶？但天竺未知有磬。五分律云：隨有瓦木銅鐵鳴者，皆名犍地。」

釋氏要覽下曰：「今詳律，但是鐘磬、石板、木板、木魚、zhēn 砧ツヱ（音真。物體的基墊）槌，有聲能集眾者，皆名犍稚也。」

祖庭事苑曰：「犍稚，此翻聲鳴。」

1237. 【增一阿含】（科註第五〇一頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「增一阿含經」條：（經名）五十卷，東晉瞿曇僧伽提婆譯。四阿含之第一。梵 Ekottara-āgama，E] Aṅguttara。

（參見「《四阿含經》」383）

1238. 【佛祖統紀】（科註第五〇二頁第一行）

《天台教學辭典》：略稱統紀，五十四

卷，南宋志磐大師著。收在大正藏第四十九冊。全書主要闡明天台教學之傳統，以南宋景遷大師《宗源錄》、宗鑑大師《釋門正統》為基礎，仿史書紀傳體、編年體增編而成。本紀八卷、世家二卷、列傳十二卷、表二卷、志三十卷。

「本紀」載釋迦成道、益物，與台宗所奉西土二十四祖、東土九祖、興道以下八祖傳。

「世家」收錄南岳、天台等大師一九八人之傳記。

「列傳」收錄慈雲至廣智、神照、南屏等大師三七八人之傳記（十九、二十兩卷五十人之傳已佚）。

「表」有二：一、列出梁武帝天監元年（五〇二）至宋仁宗明道二年（一〇三三），五百三十餘年間之歷代傳教表。二、圖示西土與東土之佛祖系譜。

「志」有九種：山家教典志一卷，錄台宗著作；淨土立教志三卷，記述淨土宗僧俗傳；諸家立教志一卷，記述禪、華嚴、法相、密教、律宗創教簡史；三世出興志一卷，略說過去、現在、未來諸佛大小三災；世界名體志二卷，記述世界八方諸天通論；法門光顯志一卷，列有關像塔、佛事諸錄；法運通塞志十五卷，篇幅最大，編年紀載，歷代佛教史蹟；歷代會要志四卷，輯歷代興廢佛教事例；名文光教志二卷，讚頌台宗之

志記碑文等。

本書奉台宗為正統，其編述雖偏重天台宗，但因採擇史料豐富，編選精審，不失為研究中國佛教史之重要參考資料！其中第九、二十兩卷，僅存目錄而缺傳文。然在卍續藏「法運通塞志」，末段有補錄，此或為后人所增補？此外，繼本書後，另有「續佛祖統紀」一書刊行，計二卷。收于卍續藏第七五冊。其內僅增補列傳部分，所增補者為三十人傳記，然編者編時不詳。〔閱藏知津卷四三〕

1239. 【種子字】（科註第五〇二頁第三行）

《藏傳佛教辭典》：每一佛部聖尊，不論其為部尊抑或為明王，都有種子字以及標幟。

種子字是生起一位聖尊的種子，因為用梵文字母來表示，故稱為種子字。

修習密宗于修本尊時，通常都先觀空性，然後在空性中出現地基、蓮座，再在蓮座上觀種子字生起，於是放光，變為本尊，此即種子字生起本尊之意。

作此種種觀想，其理論根據即在唯識，因一切外境皆由心識變幻而成，是故便能通過這些修習來清淨內識的污染。但與此同時，卻必須瞭解一切現象的空性，種子字以及本尊，亦不例外，若執為實有，便陷入法執的泥沼，徒然在內識中又加上一重污染。這個理解非常之重要，正見與邪見之別，即在於有沒有空性這一個概念。

或問：若謂種子字空性，何以能生起本尊？若謂本尊空性，則修之何益？

答曰：佛家說為空性的事物或現象，只否定其本質，說為非實，卻沒有否定他的功能。因此飯的本質空（自性空），卻依然可以飽肚。同理，種子字本質雖空，內識依之則依然可以生起本尊；本尊本質雖空，內識依之則依然可以啟發我們的智慧，或得種種殊勝利益。

是故修密法若不知種子字空性，可謂一無是處。

1240. 【一生補處】（科註第五〇二頁第八行）

《三藏法數》「一生」條：〔出法華經〕

一生者，謂等覺菩薩，無明之惑未盡，尚有

一番變易生死。過此一生，即登妙覺果佛之位。所以等覺菩薩稱為一生補處。經云：一生當得阿耨多羅三藐三菩提。是也。（等覺者，望後妙覺，猶有一等。超前諸位，得稱為覺。無明者，無所明了，即障理之惑也。變易者，即實報土生死也。因移果易，故名變易生死。妙覺者，自覺、覺他、覺行圓滿，不可思議也。）

《佛學大辭典》「補處」條：（術語）前佛既滅後，成佛而補其處是名補處。即嗣前佛而成佛之菩薩也，隔一生而成佛，則謂之一生補處。又此位名等覺，彌勒即為釋迦如來之補處菩薩也。

維摩經曰：「彌勒在一生補處。」

智度論七曰：「彌勒菩薩應稱補處。」

觀音玄義中曰：「補處者，前佛既滅，而此菩薩即補其處，故云補處。」

四教儀集註下曰：「一生補處者，猶有一品無明，故有一生。過其一生，即補妙覺之處。」

無量壽經上曰：「諸菩薩眾來生我國，究竟必至一生補處。」

1241. 【一切智】（科註第五〇二頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）佛智之名。三智之一。知了一切之法。此一切智對於一切種智，有總別二義。若依總義，則總名佛智，與一切種智同。若依別義，則一切種智為視差別界事相之智。一切智為視平等界空

性之智也。

先示總義，則法華經譬喻品曰：「勤修精進，求一切智、佛智、自然智、無師智。」同化城喻品曰：「為佛一切智，當發大精進。」

仁王經下曰：「滿足無漏界，常淨解脫身，寂滅不思議，名為一切智。」

中論疏九末曰：「知一切法，名一切智。」華嚴經大疏十六下曰：「智度論云：如函大蓋亦大，還以無盡之智，知無盡法，是故如來名一切智。」

次示別義，則為知一切平等空理之智。

嘉祥之法華經義疏二曰：「般若三慧品云：知一切法一相，故名一切智，又云知種

種相，故名一切種智。」同六曰：「一切智者，謂空智也。」

智度論二十七曰：「論一切種智之差別，有人言無差別，或時言一切智，或時言一切種智。有人言：總相是一切智，別相是一切種智；因是一切智，果是一切種智；略說一切智，廣說一切種智；一切智總破一切法中無明闇，一切種智觀種種法門破諸無明。」

大乘義章十曰：「舉六種之差別，又以名聲聞緣覺之智。」

智度論二十七曰：「後品中佛說一切智，是聲聞闍支佛事，道智是菩薩事，一切種智是佛事。聲聞闍支佛但有總一切智，無有一切種智。」（參見「一切智智」2110）

○三智（節錄）：（術語）智度論所說：一、一切智，聲聞緣覺之智也。知一切法之總相者。總相即空相也。二、道種智，菩薩之智也。知一切種種差別之道法者。三、一切種智，佛智也。佛智圓明，通達總相別相化道斷惑一切種之法者。

天台以之配於空假中三諦之觀智。然三智就人分別，雖如上各別，而就法之勝劣分別之，則以上兼下，於一切種智中容餘二智，猶如五眼中之佛眼容餘四眼也。

1242. 【金剛智（二）】（科註第五〇二頁倒數第二行）  
《佛學大辭典》：（術語）言智之堅利如金剛也。即佛智是。仁王經上曰：「金剛智釋迦牟尼佛。」

1243. 【密宗初地】（科註第五〇二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「淨菩提心地」條：（術語）初地之異名，是為真言行者初心之位次，三句義之菩提心為因配於此地。見秘藏記末。（三句，為大日經所說。第一句菩提心為因，是因。第二句大悲為根，是行。第三句方便為究竟，是果。此三者，攝一切大小顯密之諸宗也。）

1244. 【淨菩提心】（科註第五〇二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）真言行者初入初地，見法明道，得無蓋障三昧，名曰淨菩提心。

大疏三曰：「初入淨菩提心門，見法明道，如識種子迦羅羅時。」

1245. 【總持門】（科註第五〇三頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）總持之法門。總有法義咒忍四種。然密教所稱者，別就第三之咒總持而言。指咒之一，而謂為總持門。總即別名也。因而亦指密教總體曰總持門，或曰陀羅尼藏。

1246. 【密十地】（科註第五〇三頁第一行）

《佛學大辭典》「真言十地」條（節錄）：（名數）兩部大經（胎藏界之大日經與金剛界之金剛頂經）不說十地，惟大日經說第八、第十二地，金剛頂經說初地、第十地之二地。故準於華嚴仁王等之說而釋其名字也。然其意與顯教異，以十地為十六大菩薩之位，約其漸修之位而言十六生（真言行者成就十六大菩薩之十六三昧，以證圓滿之大覺也）

究竟也。

故即身義云：「歡喜地者，非顯教所言初地，是即自家佛乘之初地。云云」（中略）然是尚借別教之名而明超。大日經云十地此生滿足。尊勝瑜伽云身證十地住如實際是也。

1247. 【第十一地】（科註第五〇三頁第二行）

《佛學大辭典》「大智灌頂地」條：（術語）稱佛地也。

義釋（大日經義釋）十三曰：「大智灌頂地者，即是如來第十一地也。由住第十一地入大智灌頂，乃能作如來事。」

1248. 【《大疏》（二）】（科註第五〇三頁第二行）

真言宗謂一行所著之《大日經疏》為

《大疏》。

1249. 【shì 矢<sup>フ</sup>（音史）石】（科註第五〇四頁第六行）

《漢語大詞典》：箭和石壘<sup>イ</sup>（音磊）石，古時守城的武器。

1250. 【應法妙服】（科註第五〇六頁第四行）

《佛學大辭典》：（雜名）如法之三衣，即袈裟也。無量壽經上曰：「如佛所讚應法妙服，自然在身。」

1251. 【dǎo 擣<sup>カク</sup>（音倒）】（科註第五〇六頁第四行）

《漢語大詞典》：捶擊；舂<sup>チウ</sup>（音充）搗。

○擣衣：古時衣服常由<sup>wán 紈<sup>カク</sup></sup>（音完）素一類織物製作，質地較為硬挺，須先置石上以杵反覆舂搗，使之柔軟，稱為「擣衣」。後亦泛指捶洗。

1252. 【浣濯】(音酌) (科註第五〇六頁第四行)

《漢語大詞典》：洗滌。唐司空圖《華師

許國公德政碑》：王恭勤備至，浣濯必親。

1253. 【鑊】(音或) (科註第五〇六頁第七行)

《漢語大詞典》：無足鼎。鍋子。

1254. 【幢】(音床) (科註第五〇六頁第八行)

《佛學大辭典》：(物名) 幢幡皆為旌旗

之屬。梵語 tuó 馱 (音陀) 縛若 Dhvaja, 譯曰

幢，梵語波吒吒 (音扎) 迦 Paṭṭaka, 譯曰幡。

竿柱高秀，頭安寶珠，以種種之綵帛莊嚴之

者曰幢。長帛下垂者曰幡。又自幢竿垂幢

(「垂幢」疑作「垂幡」) 曰幢幡。

觀無量壽經曰：「幢幡無量寶蓋。」

瑜祇經拾古鈔上曰：「幡者懸於龍頭之幢

也，旗竿頭安寶珠云幢旗，幡竿頭置龍頭云金剛幡也。」

1255. 【寶蓋】(科註第五〇六頁倒數第五行)

《佛學大辭典》：(物名) 飾以寶玉之天

蓋，佛菩薩及講師讀師之高座上所懸者。

維摩經佛國品曰：「毘耶離城有長者，子

名曰寶積，與五百長者子，持七寶蓋，來詣

佛所。」

1256. 【瓔珞】(音英) 珞 (音落) (科註第五〇六頁

倒數第五行)

《佛學大辭典》：(物名) 梵語枳由羅

Keyūra, 編玉而懸於身者。印度邦俗貴人男

女皆作之。

法華經普門品曰：「解頸眾寶珠瓔珞，價

直百千兩金而以與之。」同信解品曰：「即脫瓔珞細軟上服嚴飾之具，更著麤弊垢膩之衣。」

觀無量壽經曰：「諸瓔珞中盛蒲桃漿。」

玄應音義一曰：「吉由羅應云枳由邏，此云瓔珞。」

1257. 【臥具】（科註第五〇六頁倒數第五行）

《三藏法數》：臥具即床褥枕席之類，此可以調攝身心，將養勞苦，以進道行，是以供養佛僧也。

1258. 【正】（科註第五〇八頁第六行）

《漢語大詞典》「正色」條：指青、赤、黃、白、黑五種純正的顏色。對間色而言。《禮記·玉藻》：「衣正色，裳間色。」孔穎

達疏引皇侃曰：「正謂青、赤、黃、白、黑五方正色也。」

1259. 【顯密圓通】（科註第五〇八頁倒數第二行）

具名《顯密圓通成佛心要集》。二卷。遼道殿集。該書係依據一行之大日經義釋、覺苑之演密鈔，而主張顯教與密教一致。

1260. 【前正覺山】（科註第五一〇頁第二行）

《中華佛教百科全書》：（梵 Prāghoḍhi）位於中印度摩揭陀國。音譯鉢羅笈<sub>下</sub>（音及）菩提山。以如來將證正覺前，嘗登此山，故名。按佛勤修苦行六年而未成正覺，乃捨苦行，受牧女乳糜供養。後至此山，愛其幽寂，遂止於此。當將證正覺時，大地震動，未能入金剛定，乃至菩提樹下，證得正覺。

山之西南崖臨澗，有大石室。佛曾留影於此。及無憂王興，乃建窣堵波（塔也。窣，音酥）以表彰其事。

1261. 【畢鉢羅樹】（科註第五一〇頁第二行）

《佛學大辭典》「畢鉢羅」條：（植物）Pippala，又作必鉢羅，bi 庖（音必）鉢羅，樹名。即菩提樹。佛於此樹下證菩提，故稱菩提樹。

西域記八曰：「金剛座上菩提樹者，即畢鉢羅之樹也。昔佛在世高數百尺，屢經殘伐，猶高四五丈，佛坐其下成等正覺。因而謂之菩提樹焉。莖幹黃白，枝葉青翠，冬夏不凋，光鮮無變。每至如來涅槃之日，葉皆凋落，頃之復故。」

探玄記二十曰：「畢鉢羅樹，此云榕樹，在嶺南亦有此類。」

慧琳音義八曰：「庖鉢羅，樹名也，或云畢鉢羅。」

1262. 【《維摩經菩薩行品肇註》】（科註第五一〇頁第三行）

僧zhào 照肇（音照）所作《注維摩經》之《菩薩行品》（第十一品）部分。

1263. 【秘密莊嚴心】（科註第五一〇頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）真言宗所立十住心之第十。如來以秘密之三業，開顯眾生本具之無盡功德，莊嚴之住心也。是即為真言一乘之住心。

1264. 【第十住心】（科註第五一〇頁第八行）

即秘密莊嚴心。

《佛學大辭典》「十住心」條：（名數）

此真言宗之教相判釋也。其名目雖本於大日經十心品並大日經疏（亦本於菩提心論，釋摩訶衍論），至其本質，實可稱為日本弘法大師之獨創。故其本據在弘法之十住心論及秘藏寶鑰（音耀。鑰匙）：

一、異生羝羊心：異生為凡夫，六趣，四生等各異之生，即如所謂群生也。羝（音低）羊為牡羊（公羊也），其性下劣，除求水草念姪欲外，他非所知，以譬凡夫愚痴闇昧不解世理，醉生夢死，非道惡人，無信，無德者。屬於此部者。本不可列於教判之內，以皆為可進第二心之階段，故列於此處也。

二、愚童持齋心：愚童者，愚昧之童子也。持齋者，持八關齋也。惡者非始終為惡，為內薰與外緣所誘，亦修五戒十戒等作善，忠孝仁義禮智等德者是也。人乘之教，如儒教等皆攝於其中。

三、嬰童無畏心：嬰童為母所抱則安，願生於天得神佛擁護則滿足。如弘法註：「外道生天，暫得蘇息。」（秘藏寶鑰）乃修四禪六行之生天教也。以上為世間三個之住心，攝於胎藏界曼荼羅（音徒）羅第三大院外金剛部之眾，以下為出世間。

四、唯蘊無我心：入佛之法門最初之住心也。畏生死，厭苦，願寂滅後涅槃者，觀四諦之理。執三世實有法體恒有，得唯我空

者，即聲聞乘之佛法也。如小乘二十部，俱舍、成實是也。

五、拔業因種心：較前者更進。處於無佛世界，修無言等業，見飛華落葉，觀十二因緣之法者，即煩惱所作之因雖拔而其習氣未薰在者，如緣覺乘是也。以上二乘小乘教之類，攝於胎曼釋迦院之眷屬。

六、他緣大乘心：他緣與無緣同，住於自他怨親平等之觀，悟真如平等，度眾生界使歸入佛界也。正與法相宗所教相當。彌勒菩薩之內證法門也。

七、覺心不生心：從前心之賴耶緣起（阿賴耶識中所藏之種子，遇緣生起現行）進一步，入於心境俱空之證，覺悟心性之不生不滅。

說三論宗所謂八不中道，起信論所說當之。此文殊菩薩之內證也。以上二心為三乘教，以下三心為一乘教。

八、一道無為心：又名如實一道心。如實知自心，空性無性心。法華所說，以心即境無為無相為極意，大日經謂為「如實知自心」，配於天台宗。觀音菩薩之內證也。

九、極無自性心：有淺深之二釋。淺釋者，華嚴法界諸法即真如實相，真如無自性，隨變不守自性，染淨真妄交轍，事事無礙重重無盡之義也。深釋者，是由毘盧遮那之教覺而無自性。華嚴之法門當之，以為普賢菩薩之內證。以上九心是為顯教之攝也。

十、秘密莊嚴心：秘密者金胎兩部六大三

密五相五智等之無盡法門也。等覺十地亦不能見聞，其法門之德謂之莊嚴。即真言宗教之心地也。

此十住心有橫豎二者，橫十住心者於一十住心又有十住心，委如十住論。橫十住心為胎藏界之十住心，豎十住心為金剛界之十住心，胎金不二之處謂為不二之十住心。出決義鈔直牒十。

1265. 【寶樹觀】（科註第五二一頁第二行）

《三藏法數》：謂作七重行樹想，一一樹，高八千由旬，七寶映飾，珠網覆上。行行相當，葉葉相次，生諸妙華，成七寶果。其葉千色，有大光明，照映三千世界，十方國土，悉於中現，是名樹觀。（梵語由旬，

華言限量。有八十、六十、四十里三等之不同。七寶者，金、銀、琉璃、玻璃、硨磲、碼瑙、赤真珠也。三千者，大千、中千、小千也。十方者，四方四維上下也。）

1266. 【天冠】（科註第五二二頁第四行）

《佛學大辭典》：（物名）殊妙之寶冠，非人中所有，故云天。

觀無量壽經曰：「頂上毘楞伽摩尼寶以為天冠。」

1267. 【ちん沈しん（音臣）しやう麝じや（音社）】（科註第五一三頁第四行）

《漢語大詞典》：沉香和麝香兩種香料。

○麝：獸名。俗稱香g獐shang（音張）。形似鹿而小，無角，前腿短，後腿長。善跳躍，尾

短，毛黑褐色或灰褐色。雄麝<sup>qí</sup>臍<sup>qí</sup>（音奇）與生殖器之間有腺囊，能分泌麝香。

1268. 【芬<sup>hū</sup>馥<sup>hū</sup>】（音富）（科註第五一三頁第五行）

《漢語大詞典》：香氣濃郁。

1269. 【<sup>hū</sup>鬻<sup>hū</sup>】（音玉）香長者（科註第五一三頁第六行）

《三藏法數》「二十一參」條：善財承教，至廣大國，參鬻（音育，賣也）香長者，名優鉢羅華。為說調和一切香法已，乃云：如諸菩薩遠離一切諸惡習氣，不染世欲，斷煩惱等，而我何能知其妙行，說其功德。復令參婆施羅船師。（梵語優鉢羅，華言青蓮華。梵語婆施羅，華言自在。）

1270. 【阿那婆達多池】（科註第五一三頁第六行）

見「阿耨達池」1629。

1271. 【<sup>chén</sup>沈<sup>chén</sup>】（音臣）水香（科註第五一三頁第六行）

《佛學大辭典》：（物名）略云沈香。

本草註曰：「時珍曰：木之心節，置水則沈，故名沈水，亦曰水沈。半沈者為棧香，不沈者為黃熟香。南越志言：交州人稱為蜜香，謂其氣如蜜脾也。梵書名阿迦<sup>hū</sup>噓<sup>hū</sup>（音盧）香。」

名義集三曰：「阿伽噓，或云惡揭<sup>hū</sup>噓<sup>hū</sup>，此云沈香。」梵 Agaru。

1272. 【戒品】（科註第五一三頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）戒之品類。五戒，十善戒等。

梵網經下曰：「常作如是信，戒品已具

足。」

1273. **【四軍】**（科註第五一三頁倒數第五行）

《三藏法數》「四兵」條：〔出長阿含經〕

謂轉輪王出遊之時，即集此四兵，隨從而衛護也。

一、象兵：謂轉輪王出遊之時，其軍士皆乘象也。

二、馬兵：謂轉輪王出遊之時，其軍士皆乘馬也。

三、車兵：謂轉輪王出遊之時，其軍士皆乘車也。

四、步兵：謂轉輪王出遊之時，其軍士皆帶甲冑，隨從步行也。

1274. **【善法堂】**（科註第五一三頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（堂塔）帝釋天講堂名。

在須彌山頂喜見城外之西南角。於此論人中之善惡。

俱舍論十一曰：「外西南角有善法堂，三十三天時集於彼，詳論如法不如法事。」

涅槃經十二曰：「是善法堂忉利諸天常集其中，論人天事。」

西域記四曰：「昔如來起自勝林上升天宮，居善法堂為母說法。」

1275. **【須夜摩】**（科註第五一三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（界名）又作須炎，須炎摩。天名。譯曰妙善，妙時分。

智度論五十四曰：「須夜摩，夜摩天王名也。秦言妙善。」

玄應音義三曰：「須炎或作須夜摩天，此云妙善天。又炎摩，此云時分。須炎摩，此言善時分。」

慧苑音義上曰：「須夜摩。須，善也。夜摩，時也。言彼諸天，光明赫奕，晝夜不別。依看花開合以分其時，既非明闇之時，故曰善時也。」su-yāma。（參見「夜摩」1564）

1276. 【一生所繫ト】su-yāma（音細）菩薩】（科註第五二三頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）與一生補處菩薩同。

1277. 【妙變化天】（科註第五二三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「樂變化天」條：（界名）梵名須涅蜜陀。舊譯化自樂天，或化樂天。

新譯樂變化天，或妙變化天。欲界六天中第五重之天也。自以通力自在變作妙樂而娛樂，故名。

智度論九曰：「化自樂者，自化五塵而自娛樂，故言化自樂。」

佛地論五曰：「樂變化天，樂自變化，作諸樂具以自娛樂。」

俱舍頌疏世品一曰：「樂變化天，於五欲境自變化故。」

可洪音義一曰：「妙變化天，樂變化天王也。大智度論云：須涅蜜陀，秦言化樂天，唐言樂變化天。」

然玄應師有別釋。玄應音義二十三曰：「樂變化天，五孝切。但此天雖有寶女，於變

化者心多愛著，於男亦爾，故以名焉。舊言化樂天，音洛，失之久矣。」即愛樂變化男女之意。（參見「化樂」1455）

1278. 【《維摩經香積佛品》】（科註第五一四頁第二行）

《維摩詰經》之第十品。

1279. 【維摩詰】（科註第五一四頁第二行）

《佛學大辭典》「維摩」條：（人名）

Vimalakīrti，維摩羅<sup>ヒセ</sup>詰（音結），毘摩羅詰，略稱維摩或維摩詰。舊譯曰淨名。新譯曰無垢稱。佛在世毘耶離城之居士也。自妙喜國化生於此。委身在俗。輔釋迦之教化，法身大士也。佛在毘耶離城菴摩羅園，城中五百長者子詣佛所請說法時，彼故現病不

往，為欲令佛遣諸比丘菩薩問其病床，以成方等時彈訶之法，故其經名為維摩經。

維摩經方便品曰：「爾時毘耶離大城中有長者名維摩詰，已曾供養無量諸佛。」同見阿閼佛品曰：「佛告舍利弗：有國名妙喜，佛號無動，是維摩詰於彼國沒而來生此。」

註維摩經一曰：「什曰：維摩詰，秦言淨名。生曰：維摩詰，此云無垢稱也。其晦迹五欲超然無染，清名遐布，故致斯號。」

西域記七曰：「毘摩羅詰，唐言無垢稱，舊曰淨名。然淨則無垢，名則是稱，義雖取同，名乃有異，舊曰維摩詰訛略也。」

1280. 【香積如來】（科註第五一四頁第二行）

《佛學大辭典》「香積」條：（佛名）眾

香世界之佛名。

玄應音義三曰：「香積，梵言乾陀羅耶。」

維摩經香積佛品曰：「上方界分，過四十二恆河沙佛土，有國名眾香，佛號香積，今現在。其國香氣，比於十方諸佛世界人天之香，最為第一。〔中略〕其界一切皆以香作樓閣，經行香地，苑園皆香，二云。」

《維摩經略疏卷第十》：香是離穢之名。

而有宣芬散馥馨香之用。故無量義經道風德香熏一切。理中無上戒定慧香芬芳<sup>多</sup>叵（不也）竭。故名為香。積是聚集為義。積諸功德集成法身無所積集乃名為藏。

1281. 【律行】（科註第五一四頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）戒律之行也。

維摩經方便品曰：「雖為白衣，奉持沙門清淨律行。」

1282. 【《易<sup>上</sup>繫（音細）辭》】（科註第五一五頁第二行）

《漢語大詞典》「易繫」條：即《易·繫辭》。又名《繫辭傳》。相傳文王、周公作辭，繫於卦爻之下，後孔子作《繫辭傳》，通論一經的大體。

1283. 【繫縛】（科註第五一五頁第六行）

《佛學大辭典》：（雜語）煩惱纏綿身心而不使自由，故以名煩惱。

1284. 【《芬陀利經》】（科註第五一五頁倒數第六行）  
具名《大乘大悲芬陀利經》。

《閱藏知津》「大乘大悲芬陀利經」條：

八卷。附三秦錄，與《悲華經》同，而分作三十品。

1285. 【選擇本願】（科註第五一五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）法藏菩薩在自在王佛所，自二百一十億佛土中能選擇而立之本願也。總為四十八願（大阿彌陀為二十四願），別為第十八念佛往生之願。

1286. 【菩薩念佛三昧經】（科註第五一五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（經名）六卷，劉宋功德直譯。念佛三昧即觀佛三昧，經中正觀品，正說之。（《科註》所引內容，出自《菩薩念佛三昧經卷第四·微密王品第十一》。）

1287. 【《文殊般若經》】（科註第五一六頁第二行）

《佛光大辭典》：凡二卷。扶南人曼陀羅仙譯，書成於梁天監二年（五〇三）。全稱文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經。又稱文殊說摩訶般若經、文殊師利般若波羅蜜經。收於大正藏第八冊。曼陀羅仙示寂後，扶南人僧伽婆羅復譯文殊師利所說般若波羅蜜經一卷；唐玄奘譯大般若波羅蜜多經，其中第七會曼殊室利分，亦為本經之同本異譯。內容敘述文殊室利、佛如來及有情界之一相不可得、福田相之不可思議，及一相莊嚴三摩地等之說法。「開元釋教錄卷八」（《科註》所引內容，出自《文殊師利所說摩訶般若波羅蜜經》下卷。）

1288. 【無功用】（科註第五一七頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）不加造作自然之作用也。觀經玄義分曰：「功用無功用，證智未證智。」

《中華佛教百科全書》（節錄）：（梵 an-

ābhoga，藏 lhun kgis-grub-pa）任運自然、不刻意造作、不加上意志的決定，謂之「無功用」。略稱無功。為「有功用」之對稱。

（中略）

《佛性論》卷四舉出八地無功用之說，謂八地以前之菩薩，於真如之境未得自在；但八地以上之菩薩則完全無漏、任運續起，故名為「無功用道」。

1289. 【一行三昧】（科註第五一七頁倒數第四行）

《三藏法數》：「出文殊師利所說摩訶般

若波羅蜜經」梵語三昧，華言調直定，又云正定。一行三昧者，惟專一行，修習正定也。謂修行之人，應處空閑，捨諸亂意，繫心實理，想念一佛，專稱名字，隨佛方所，端身正向，能於一佛念念相續而不懈怠，於一念中即能得見十方諸佛，獲大辯才也。

1290. 【見道】（科註第五一八頁第五行）

《三藏法數》：謂聲聞因斷三界見惑，見真諦理，故名見道。即初果，須陀洹〔又作〕（音還）也。（三界者，欲界、色界、無色界也。見惑者，意根對法塵起諸分別，曰見惑。梵語須陀洹，華言預流。謂預入聖道法流也。）

1291. 【正性離生】（科註第五一八頁第六行）

《佛學大辭典》「聖性離生」條：（術語）

唯識作聖性，俱舍作正性，其意一也。生無漏智而斷煩惱，謂為聖性。聲聞緣覺之二乘，入於見道之位，生一分之無漏智，斷分別起之煩惱障。菩薩生一分之無漏智，斷煩惱所知之二障，因而得一分之聖性。永離異性（凡夫）之生，謂為聖性離生。

唯識論九曰：「二乘見道現在前時，唯斷一種名得聖性。菩薩見道現在前時，具斷二種名得聖性。」

俱舍論二十三曰：「得世第一法，雖住異性生而能趣入正性離生。」

四教儀六曰：「聖以正為義，捨凡性入正性。」

1292. 【如來家】（科註第五一九頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）真如法界為如來之所住，故稱如來家。

唯識論九曰：「菩薩得此二見道（真見道與相見道）時生如來家。」同述記九末曰：「無性云：謂佛法界名如來家，於是證會，故名為生。」

1293. 【果號】（科註第五二〇頁第八行）

《佛學大辭典》：（佛名）成正覺後之佛名。是為於因位積功德之結果名號，故曰果。

彌陀經元照疏曰：「萬行圓修，最勝獨推於果號。」

1294. 【五忍】（科註第五二〇頁倒數第三行）

《三藏法數》：〔出仁王護國經〕

一、伏忍：伏即隱伏，忍即忍可，又安忍也。謂地前三賢之人，未得無漏。未能證果，但有智故，能伏煩惱而不能斷，故名伏忍。（三賢者，十住、十行、十回向諸菩薩也。無漏者，不漏落生死也。）

二、信忍：信者，隨順不疑也。謂初地、二地、三地菩薩，得無漏信，故名信忍。（初地即十地中初歡喜地，二地即離垢地，三地即發光地。）

三、順忍：順即隨順，亦從也。謂四地、五地、六地菩薩順菩提道，趣向無生之果，故名順忍。（四地即 yàn àn 一 分 音驗）慧地，五地即難勝地，六地即現前地。）

四、無生忍：謂七地、八地、九地菩薩，妄惑已盡，了知諸法悉皆不生，故名無生忍。（七地即遠行地，八地即不動地，九地即善慧地。）

五、寂滅忍：謂第十法雲地，等覺菩薩，妙覺果佛，諸惑斷盡，清淨無為，湛然寂滅，故名寂滅忍。（等覺者，以去後佛位，猶有一等，勝前諸位，得稱為覺也。妙覺者，智照圓明，不可思議也。若論四十二位，則開十住、十行、十回向、十地、等覺、妙覺，各為一位，今但論四十位，則以等覺、妙覺攝於法雲地也。）

1295. 【《仁王經私記》】（科註第五二〇頁倒數第二行）

三卷。隋·章安灌頂大師撰。

1296. 【論註】（科註第五二一頁第七行）

《佛學大辭典》：（書名）無量壽經優婆提舍願生偈註之異名。天親之無量壽經優婆提舍願生偈。一名淨土往生論，亦曰淨土論，往生論。故曇鸞之註解，曰往生論註，淨土論註，單曰論註或註論。（參見「《往生論註》」213）

1297. 【平等法身】（科註第五二一頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）八地以上之菩薩，證平等寂滅之真如，則雖任其自然，不加功用，亦能一時遍於十方世界，示現種種之教化，作種種之佛事，而無往來之想無作無作之想，是曰平等法身。七地以下之菩

薩，則雖證真如，尚要功用始然。

往生論曰：「未證淨心菩薩得證平等法身。」同論註下曰：「平等法身者，八地已上法性生身菩薩也。寂滅平等者，即此法身菩薩所證寂滅平等之法也。以得此寂滅平等法，故名為平等法身。以平等法身菩薩所得故，名為寂滅平等法也。」

1298. 【法性生身】（科註第五二一頁第八行）

《三藏法數》：謂此法性，體本圓常，該通萬有，如來之身，由此出生，故名法性生身。

《佛學大辭典》「二種菩薩身」條：（名數）一生死肉身，三賢位之菩薩，未證法性，為惑業受三界生死分段身之菩薩也。二

法性生身，既證得無生法性捨三界生死肉身受不生不死不思議變易身之菩薩也。此法性生身，經論之說，多謂是初地以上，或以為八地以上，如往生論註。

智度論七十四曰：「菩薩有二種：一者生死肉身，二者法性生身，得無生忍法。斷諸煩惱，捨是身後得法性生身。」

往生論註下曰：「平等法身者，八地已上，法性生身菩薩也。」

1299. 【《楞嚴經長水疏》】（科註第五二三頁第一行）

《佛光大辭典》「首楞嚴義疏注經」條：

凡二十卷。北宋子xuán璿ト（音玄）集。又作首

楞嚴經疏。係大佛頂首楞嚴經之注疏。收於大正藏第三十九冊。本書總分十門，一教起

因緣，二藏乘分攝，三教義分齊，四所被機宜，五能詮體性，六所詮宗趣，七教迹前後，八傳譯時年，九通釋名題，十別解文義。

1300. 【加行】（科註第五二三頁第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）入於正位之準備，加一段之力而修行也。

1301. 【阿nòu耨ト菩提】（科註第五二三頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）阿耨多羅三藐三菩提之略。

涅槃經三十五曰：「阿耨菩提，信心為因。」

智度論三十四曰：「眾生聞我名者，必得阿耨菩提。」

教行信證二曰：「阿耨菩提者，即是涅槃界。」

1302. 【《十住論》】（科註第五二二頁第七行）

《佛學大辭典》：（書名）十住毘婆沙論之略名。

1303. 【海德】（科註第五二二頁第八行）

《佛光大辭典》（節錄）：乃出現於過去無數劫前之佛名。於諸佛最初出世時，海德佛曾為其師。龍樹之十住毘婆沙論卷五易行品載，過去無數劫有佛號海德，現在諸佛皆從彼發願，壽命無量，光明照無極，國土甚清淨，聞名定作佛；所具之佛德皆與彌陀佛之德相類。

1304. 【《涅槃疏》】（科註第五二二頁倒數第五行）

即《大般涅槃經疏》，凡三十三卷。隋代灌頂撰。（參見「《涅槃經疏》」1228）

1305. 【常住二字】（科註第五二二頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）明涅槃之常住為涅槃經一部所詮，故經如來性品四曰：「或聞常住二字音聲，若一經耳即生天上，後解脫時乃能證知如來常住無有變易。」

《三藏法數》「常住」條：謂此涅槃之理，徹三際以常存，亘十方而常在。故曰常住。（三際者，即過去、未來、現在三世也。十方者，四方、四維、上、下也。）

1306. 【《無量壽經鈔》】（科註第五二二頁倒數第一行）  
《佛光大辭典》：凡七卷。日僧了慧道光撰。又稱大經鈔、望西鈔、道抄。為無量壽

經之注釋書。內容分為大意、釋題、解文等三門。初闡明大意，立有教起所因、所說大猷、宗體定判、藏教所攝等四科，次辨明經題及譯人，復次解釋經文，概採用慧遠之分科方法，又廣泛引用我國及日本諸家之疏記，而主要以日僧良忠相傳之義旨抉擇。現收入淨土宗全書第十四卷。

1307. 【不退轉】（科註第五二三頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）所修之功德善根愈增愈進，不更退失轉變也。略云不退，即梵語之阿毘跋致也。

無量壽經上曰：「聞我名字不即得至不退轉者，不取正覺。」

十住毘婆娑論曰：「若人疾欲至不退轉地

者，應以恭敬心執持稱名號。」

法華經序品曰：「此於阿耨多羅三藐三菩提不退轉。」

1308. 【信位菩薩】（科註第五二三頁第七行）

《佛學常見辭彙》：證到了十種信位的菩薩。

1309. 【輕毛】（科註第五二三頁第七行）

《佛學大辭典》：（譬喻）在十信位之菩薩，譬如輕毛。以其於佛道一進一退不定故也。

舊譯之仁王經受持品曰：「習忍以前行十善菩薩，有退有進，譬如輕毛隨風東西。」

法華文句二上曰：「六心已前輕毛菩薩，信根未立，其位猶退。」

名義集二曰：「婆羅，隋言毛道。謂行心不定，猶如輕毛隨風東西。魏金剛云毛道凡夫。」

然唐善導師所謂信外輕毛者，自謙而云。

觀經玄義分曰：「況我信外輕毛，敢知旨趣。」

1310. 【南本《涅槃》】（科註第五二三頁第八行）

《佛學大辭典》「南本涅槃經」條：（經

名）初北涼曇無讖chèn（音趁），譯大乘之大般

涅槃經有四十卷，後南朝劉宋沙門慧觀與謝靈運等，再治為三十六卷，所謂南本涅槃經也，部文精練，天台章安尊者依此本作疏，但流通於世者甚少，舊本則久行於世也。

1311. 【違緣】（科註第五二三頁第八行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）違於吾心之事緣。如盜賊水火之難等。

往生要集上本曰：「遇諸違緣，數被殘害。」

1312. 【菴ān庵ān羅ān】（科註第五二三頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「菴羅」條：（植物）果

名。又作菴婆羅，菴羅（波利），菴沒羅等。

維摩經佛國品什註曰：「菴羅樹，其果似桃非桃也。」同肇註曰：「先言柰。」

西域記四曰：「菴沒羅果，雖同一名，而有兩種：小者生青熟黃，大者始終青色。」

玄應音義八曰：「菴羅或言菴婆羅，果名

也。案此花多，而結子甚少矣。果形似梨。舊譯云柰，應誤也，正言菴沒羅。」

起世經一曰：「ṛṣṭya鬱ṛ（音玉）多羅究留洲，有一大樹，名菴婆羅。其木縱廣七由旬，下入于地，二十一由旬，出高百由旬，枝葉垂覆五十由旬。」

名義集三曰：「庵羅，正言庵沒羅，或庵羅（波利）。」梵 *Amra*，巴 *Amba*。

1313. 【《十住菩薩斷結經》】（科註第五二三頁倒數第二行）

即《最勝問菩薩十住除垢斷結經》。十卷。姚秦涼州沙門竺佛念譯。（《科註》所引內容，出自該經第二卷，《廣受品第七》。）

1314. 【《寶雨經》】（科註第五二四頁第一行）

《佛學大辭典》：（經名）十卷，唐達摩流支譯，一名顯授不退轉菩薩記。佛於伽耶山頂放光明，遍照十方，攝入面門，授記於月光天子，當於支那國作女王。東方蓮華眼佛世界止一切蓋菩薩來問一百一事，佛以十法答之。

1315. 【五百大願】（科註第五二四頁第三行）

《佛學大辭典》：（本生）釋迦如來往昔為寶海梵志時，於寶藏佛所起五百誓願。

悲華經七曰：「爾時寶海梵志，在寶藏佛所諸天大眾人非人前，尋得成就大悲之心廣大無量，作五百誓願已。」經文漫說（別說）五百分別為難。

1316. 【一路】（科註第五二四頁第四行）

《佛學大辭典》(節錄)：(術語) 到涅槃之一道路也。

首楞嚴經五曰：「此阿毘達磨，十方薄伽梵，一路涅槃門。」長水之義疏曰：「唯此一路，能通至彼。」

1317. 【涅槃門】(科註第五二四頁第四行)

《佛學大辭典》(節錄)：(譬喻) 入涅槃城之門戶也。

無量義經曰：「開涅槃門，扇解脫風。」

般舟讚曰：「念佛即是涅槃門。」

1318. 【十住毘婆沙論】(科註第五二四頁第八行)

《佛光大辭典》(節錄)：梵名 *Daśabhūm*

*ika-vibhāṣā-sūtra*。凡十七卷。龍樹菩薩造，後秦鳩摩羅什譯。略稱十住論。收於大

正藏第二十六冊。

本論係要約華嚴經十地品(十地經)經文之大意所作之詮釋。(中略)本文計分三十五章(品)，自第一章至二十七章略行品為初地之注釋，第二十八章以下始論第二地。初地部份首先說明歡喜地之內容，再說明菩薩之理想(願)、實踐(行)、果報(果)。至第二地力陳十方方便心之重要性，並詳說大乘菩薩之十善業道。本書第三十五品第九篇之易行品為淨土門之重要典籍。

1319. 【名義不離】(科註第五二四頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(術語) 世間一切之事

法，雖皆名義乖離，而諸佛菩薩之名號及陀羅尼等，則皆名義不離。又謂之名體不二。

如阿彌陀佛，以阿彌陀為名，以光明為義，為體為法，此名與義，相即不二，故稱阿彌陀之名即已攝取光明矣。

往生論註下曰：「問曰：名為法指，如指指月。若稱佛名號便得滿願者，指月之指應能破闇。若指月之指不能破闇，稱佛名號亦何能滿願耶？答曰：諸法萬差不可一概，有名即法，有名異法。名即法者諸佛菩薩名號、般若波羅蜜、及陀羅尼章句、梵咒音辭等是也。如禁腫辭云：日出東方，乍赤乍黃等句，假令酉亥（酉時與亥時也。即午後五時至七時，晚九時至十一時，皆非日出之時也）行禁，不關日出而腫得ちあひ差（病除也）。〔中略〕有名異法者，如指指月等名也。」

定善義傳通記二曰：「光之與名即是名義，名義具足，有不捨益。」

◎ 必成正覺第七

1320. 【yu雨yu】音玉花】（科註第五二五頁第五行）

諸天降眾花，滿空而下。

《漢語大詞典》「雨」條：像下雨一樣降

落。

1321. 【shu蜀shu】音屬錦】（科註第五二六頁第五行）

《中國大百科全書》（節錄）：中國著名

織錦之一。因主要產於四川蜀郡（今成都）而得名。

《漢語大詞典》：原指四川生產的彩錦。

後亦為織法似蜀的各地所產之錦的通稱。多用染色熟絲織成，色彩鮮艷，質地堅韌。

1322. 【《法事贊》】（科註第五二六頁倒數第六行）

又作《淨土法事讚》，二卷，唐·善導撰。

（參見「《事贊》」1130）

1323. 【性修二德】（科註第五二六頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「二德」條（節錄）：

一、性德，本來性具之德也。三因中之正因佛性，三德中之法身是也。二、修德，修成之德也，三因中了因緣（因）之二佛性，三德中般若解脫之二德是也。小乘不知此性修，大乘之權教，使二德隔歷，大乘之實教使二德相即。見四教儀集註下。

1324. 【六種性】（科註第五二七頁第七行）

《三藏法數》：「〔出瓔珞本業經〕種性

者，種別性分也。種即種子，有發生之義。性即性分，乃自分不改之義。瓔珞經對別教十住、十行、十回向、十地、等覺、妙覺而論，故有六種性。然性通六位種局在因，故前之四位名種；等覺雖在因，然勝前，得稱為覺，故不言種也。（局在因者，謂十住、十行、十回向、十地皆屬於因位故也。）

一、習種性：謂十住菩薩研習空觀，破見、思惑，故名習種性。（十住者，發心住、治地住、修行住、生貴住、方便具足住、正心住、不退住、童真住、法王子住、灌頂住也。）

二、性種性：謂十行菩薩雖證本性真空之

理，不住於空，而能分別一切諸法，化諸眾生，故名性種性。（十行者，歡喜行、饒益行、無嗔恨行、無盡行、離癡亂行、善現行、無著行、尊重行、善法行、真實行也。）

三、道種性：謂十回向菩薩因修中道妙觀，通達一切佛法，故名道種性。（十回向者，救一切眾生離眾生相回向、不壞回向、等一切佛回向、至一切處回向、無盡功德藏回向、隨順平等善根回向、隨順等觀一切眾生回向、真如相回向、無縛解脫回向、法界無量回向也。）

四、聖種性：謂前諸位皆名賢位，十地菩薩由修中道妙觀，破無明惑，證入聖地，故名聖種性。（十地者，歡喜地、離垢地、發

光地、焰慧地、難勝地、現前地、遠行地、不動地、善慧地、法雲地也。）

五、等覺性：謂望後妙覺，猶有一等，勝前諸位，得稱為覺，是名等覺性。

六、妙覺性：謂自覺覺他，覺行圓滿，不可思議，故名妙覺性。（自覺覺他者，謂既能覺悟自己，而又覺悟他人也。）

1325. 【《後出偈經》】（科註第五二七頁倒數第六行）

見「《後出阿彌陀佛偈經》」471。

1326. 【《法華勸持品》】（科註第五二八頁第七行）

《妙法蓮華經》之第十三品。本品之前半說諸菩薩比丘等，奉佛命受持法華而弘通之；後半，佛更說諸菩薩勸人受持弘通，故云勸持品。前半為持，後半為勸持也。

1327. 【法施】（科註第五一九頁第二行）

《三藏法數》：法施者，謂從諸佛及善知識，或從經卷，聞說世間、出世間善法，以清淨心，為人演說也。金光明最勝王經云：法施兼利自他，能令眾生，出於三界，斷諸煩惱，成就慧身，譬如日光徧照大千世界。是也。（世間法者，即五戒、十善，及治世之法也。出世間法者，即三乘所修四諦、六度等法也。）

《佛學大辭典》：（術語）三施之一。說法使人聞之也。又云法供養。法施為對下之語，法供養為對上之語。

無量壽經上曰：「演法施，常以法音，覺諸世間。」

維摩經菩薩品曰：「夫大施會不當如汝所設，當為法施之會。」

智度論十一曰：「以諸佛語妙善之法，為人演說，是為法施。」

1328. 【財施】（科註第五一九頁第三行）

《三藏法數》：財施者，謂以飲食、衣服、田宅、珍寶等，一切自己所有資身之具，悉能施與他人也。金光明最勝王經云：財施之福，不出三界，唯伏貪愛，但濟一世之貧，而不能令其得道，譬如燈光止明一室。是也。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

1329. 【生死長夜】（科註第五一九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（譬喻）生死如夢。故

譬之於長夜。

唯識論七曰：「未得真覺，常處夢中，故佛說為生死長夜。」

1330. 【究竟樂】（科註第五二九頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）涅槃之妙樂也。

起信論曰：「離一切苦，得究竟樂。」

1331. 【寶筏<sub>フ</sub>】（音乏）（科註第五三〇頁第四行）

《佛學大辭典》：（譬喻）喻以佛之妙法渡生死也。

1332. 【八聖道】（科註第五三一頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（名數）與八正道同。

阿彌陀經曰：「七菩提分，八聖道分。」

俱舍論二十五曰：「七等覺支，八聖道

支。」（參見「八正道」1883）

1333. 【實性】（科註第五三一頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）真如之異名也。

仁王經中曰：「諸法實性，清淨平等，非有非無。」同良<sub>リ</sub>實<sub>ク</sub>（音必）疏曰：「諸法實性者，諸法性也。」

1334. 【五行】（科註第五三二頁第一行）

《三藏法數》：〔出涅槃經〕

一、聖行：聖即正也，謂菩薩依戒定慧所修之行，故名聖行。（菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。）

二、梵行：梵即淨也。謂菩薩無空有二邊愛著之染，名之為淨；以此淨心，運於慈

悲，與眾生樂，拔眾生苦，故名梵行。

三、天行：天即是第一義天（譬第一義空之妙理為天，四天中之義天是也）。謂菩薩由天然之理而成妙行，故名天行。

四、嬰兒行：嬰兒，以喻人天小乘也。謂菩薩以慈悲之心，示同人天、聲聞、緣覺、小善之行，故名嬰兒行。

五、病行：謂菩薩以平等心，運無緣大悲，示同眾生，同有煩惱，同有病苦，故名病行。

1335. 【定善義】（科註第五三二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（書名）唐善導撰。四帖疏之第三。釋觀無量壽經正宗分十六觀中之定善十三觀者。

1336. 【實義】（科註第五三三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：（雜語）真實之義理也。

1337. 【盲冥】（音明）（科註第五三四頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）盲昧闇冥，無見理之明也。

智度論四十曰：「舍利弗說：我師不出者，我等永為盲冥。」

1338. 【集諦】（科註第五三四頁第七行）

《三藏法數》：集即招集之義。謂聲聞之人，諦審煩惱惑業，實能招集生死之苦，故名集諦。（參見「四諦」839）

1339. 【華嚴離世間品】（科註第五三五頁第四行）  
六十華嚴第三十三品，卷三六至四三。八

十華嚴第三十八品，卷五三至五九。

1340. 【十眼】（科註第五三五頁第四行）

《佛學大辭典》：（名數）一肉眼，見一切之色故。二天眼，見一切眾生之心故。三慧眼，見一切眾生之諸根境界故。四法眼，見一切法之實相故。五佛眼，見如來之十力故。六智眼，見諸法故。七光明眼，見佛之光明故。八出生死眼，見涅槃故。九無礙眼，所見無礙故。十一切智眼，又曰普眼，見普門之法界故。出於華嚴經離世間品。是由前五眼中法眼開出智眼，慧眼開出出生死眼，自佛眼開出光明眼無礙眼一切智眼而成爲十眼也。

1341. 【慧眼】（科註第五三五頁第六行）

十眼之一。見上條。

1342. 【佛眼】（科註第五三五頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）五眼之一。佛名覺者，覺者之眼云佛眼，照了諸法實相之眼也。又別於前之四眼，四眼至佛則總名爲佛眼。無量壽經下曰：「佛眼具足覺了法性。」同慧遠疏曰：「前四是別，佛眼是總。」法華文句四曰：「佛眼圓通，本勝兼劣，四眼入佛眼，皆名佛眼。」

毘尼止持音義曰：「謂具肉天慧法四眼之用，無不見知。如人見極遠處，佛見則爲至近。人見幽暗處，佛見則爲明顯。乃至無事不見，無事不知，無事不聞。聞見互用，無所思惟，一切皆見也。」（參見「五眼」924）

1343. 【**幻翳**】（音義）（科註第五三五頁第八行）

《漢語大詞典》：佛教語。謂假象的障蔽。

1344. 【**三種光明**】（科註第五三五頁倒數第二行）

《三藏法數》：〔出瑜伽師地論〕

一、外光明：謂日月星光及火珠燈炬等光，皆能破除昏暗，是名外光明。

二、法光明：謂隨其所聞之法，觀察修習，皆依法則；因此明心見性，破除愚癡之暗，顯發本覺妙明，是名法光明。

三、身光明：謂諸佛、菩薩、二乘及諸天等，身皆有光，亦能破暗，是名身光明。（二乘者，聲聞乘、緣覺乘也。）

1345. 【**千手陀羅尼經**】（科註第五三六頁第二行）  
見「《千手經》」2088。

1346. 【**光明藏**】（科註第五三六頁第二行）

《佛學大辭典》：（雜語）光明之府庫也。

思益經一曰：「如來身者，即是無量光明之藏。」

千手陀羅尼經曰：「當知其人即是光明藏，一切如來光明所照故。」

1347. 【**修羅**】（科註第五三六頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（異類）阿修羅之略。

常與帝釋天戰鬥之鬼神也。（參見「阿修羅」557）

1348. 【**四教義**】（科註第五三七頁第五行）

《天台教學辭典》：六卷或十二卷。智者大師撰。收于大正藏第四十六冊。為別「天台四教儀」而稱「大本四教義」。在「淨名（維摩）玄義」前半部分為四教義六卷、四悉

檀義二卷、三觀義二卷等三部分。四教義即其中之一，而另別刊行。

內容包括：釋四教名、辨所詮、明四門入理、明判位不同、明權實、約觀心、通經論等七科，分別闡釋藏、通、別、圓等四教與教義，且從各種觀點而解說四教之異同。亦即依四教以論述佛陀一代教化之大綱。

註釋書有：「四教義私記」一卷（證真）、「四教義資持記」十二卷（皎空）、「四教義箋錄」一卷（本純）等。「法華文句記卷一中、維摩經玄疏卷三、大唐內典錄卷十」

1349. 【正四句法】（科註第五三七頁第五行）

即，有而非空，空而非有，亦有亦空，非

有非空。（參見「四句門」2199）

《四教義》：若佛法四門。即是正因緣四句法。能通行人同人第一義涅槃也。……一有門。二空門。三亦有亦空門。四非有非空門。（此《四教義》原文之「正因緣」乃對原文前段所論之外道「邪因緣無因緣」而言。）

1350. 【法華經寶塔品】（科註第五三八頁第八行）

《妙法蓮華經》第十一品之《見寶塔品》。為證明法華所說，多寶如來之寶塔，忽自地湧出。一會大眾悉見之。品中敘此事，故名。

1351. 【八萬四千法藏】（科註第五三八頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）眾生有八萬四千煩惱之病，佛為退治之，說八萬四千之經典。

法華經見寶塔品曰：「持八萬四千法藏十二部經，為人演說。」

1352. 【八萬煩惱】（科註第五三八頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「八萬四千煩惱」條：

（術語）同於八萬四千塵勞。

《三藏法數》「八萬四千塵勞」條：〔出

華嚴孔目〕八萬四千塵勞者，塵即染污之義，謂種種邪見煩惱，能染污真性也。勞即勞役也，謂眾生被邪見煩惱，勞役不息，輪轉生死，無有盡時。論其塵勞，根本不出十使。於十使中，隨以一使為頭，則九使為助，遂成一百；約三世各有一百，共成三百；而現在世一百時促，不論相助，於過去、未來二世二百，又各各以一使為頭，九

使為助，共成二千；合前現在世一百，共成二千一百；又約多貪、多瞋、多癡、等分，四種眾生，各有二千一百，共成八千四百；又約四大、六衰，各有八千四百，總成八萬四千塵勞也。（十使者，使即驅役之義，一、貪，二、瞋，三、癡，四、慢，五、疑，六、身見，七、邊見，八、邪見，九、見取，十、戒取也。多貪者，謂於五欲可意之境，而多貪愛也。多瞋者，謂於逆情之境而多忿怒也。多癡者，謂無所覺了，而於貪瞋之境，溺而不已也。等分者，謂貪瞋癡三心，一齊而起也。四大者，地大、水大、火大、風大也。六衰者，謂色聲香味觸法六塵，能衰損善法故也。）

1353. 【八萬法蘊】yùn ㄩㄣˋ（音運）（科註第五三八頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）與八萬法藏同。蘊者積聚之義。藏者包藏之義，包藏即積集也。（參見「八萬四千法門」124）

1354. 【印契】qì ㄑㄧˋ（音氣）（科註第五三九頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）印相（手印也）者，標示法界之性德，而非偽者，故云契。契者契約。不改之義也。

即身成佛義曰：「手作印契，口誦真言，心住三摩地，三密相應加持故，早得大悉地。」

1355. 【摩尼珠】（科註第五三九頁第八行）

《祖庭事苑》：此云「無垢光」，又云

「離垢」，又云「增長」。論云「摩尼珠多在龍腦中，有福眾生自然得之，亦名如意珠。常出一切寶物、衣服、飲食，隨意皆得。得此珠者毒不能害，火不能燒。或是帝釋所執金剛與修羅鬪du ㄉㄨˋ（音豆）時碎落閻浮提，變成此珠。」又云「過去久遠佛舍利，法既滅盡，變成此珠，以為利益。」

1356. 【觀佛三昧經觀佛密行品】（科註第五三九頁倒數第二行）

《佛說觀佛三昧海經》之第十二品。

1357. 【寶印】（科註第五三九頁倒數第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：（譬喻）念佛之心印，堅固不壞，譬之國王之寶印也。

1358. 【嚙】niè ㄋㄧㄝˋ（音涅）（科註第五四〇頁第二行）

《漢語大詞典》：咬；啃。

1359. **【莛鬱】** wēng yù (音玉) (科註第五四〇頁第二行)

《漢語大詞典》：草木茂盛貌。

1360. **【《宗鏡錄》九十五卷中有註釋】** (科註第五四〇頁第五行)

《宗鏡錄第九十五卷》：釋曰：夫觀佛三昧者，則諦了自心，名為觀佛。既識心已，不為境亂，湛然常定，名為三昧。「有人貧窮薄福」者，「有人」者，「有」即二十五有（由業因而有果報生，故果亦名「有」，三界的果法，分為二十五類，名二十五有。其中欲界十四有，色界七有，無色界四有），「人」即一切眾生；以無法財，名為「貧窮」；不悟心佛，故稱「薄福」。「依諸豪貴」者，即是諸佛

菩薩；「以存性命」者，即是依觀佛三昧門，得見自性，以成慧命；乃至「貧人落地」者，即是於凡夫身，達人法二空，證會一心，住真如地；「身體散壞」者，既洞唯識之性，身見自亡；「唯金印在」者，即是悟心常住。所以一鉢和尚云：「塵勞滅盡真如在，一顆圓明無價珠」。「寶瓶現光」者，即般若智照；「諸蛇見光四散馳走」者，即四大之身蛇；三毒之煩惱，智了即空，名為馳走。「住念佛者，心印不壞，亦復如是」者，以無念智，見真覺性，故云「住念佛者」；諸塵不動，一體不移，名為「心印」；恒住法位，究竟寂滅，名為「不壞」。況如唯金印在，故稱「亦復如是」。

所以起信論云：「得見心性，名究竟覺。」  
即斯旨矣。

1361. 【師子吼】（科註第五四二頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（雜語）佛在大眾中為  
決定之說而無所畏，謂為師子吼。

涅槃經二十七曰：「師子吼者，名決定  
說。」

維摩經佛國品曰：「演法無畏，猶如師子  
吼。」同註曰：「肇曰：師子吼，無畏音  
也。凡所言說不畏群邪異學，喻師子吼眾獸  
下之。」

勝鬘寶窟中末曰：「所言不怯名師子吼。」  
臨濟錄曰：「師子一吼，野干腦裂。」

1362. 【維摩經佛國品】（科註第五四二頁倒數第

三行）

《維摩詰所說經》之第一品。

1363. 【器世間清淨】（科註第五四三頁倒數第四行）

《三藏法數》：謂世界如器，隔別名世，  
間差名間，故名器世間。謂彼安養國土，廣  
大無邊，如太虛空，清淨光明，如日月輪，  
具足珍寶莊嚴，是名器世間清淨。

○器世間：謂一切無情世界，皆假山河大  
地而成，有側有仰，名之為器，又復各各差  
別不同，故名器世間。

1364. 【眾生世間清淨】（科註第五四三頁倒數第四行）

《三藏法數》：謂所化眾生，隔別間差，  
故名眾生世間。謂彼阿彌陀佛，於一佛土，  
身不動搖，於一切時，放大光明，悉能徧至

十方世界，教化眾生，令其如實修行，離諸染著，皆願往生我國，是名眾生世間清淨。

○眾生世間：謂一切有情眾生，皆假五陰和合眾共而生，名為眾生；又復各各差別不同，故名眾生世間。（五陰者，色陰、受陰、想陰、行陰、識陰也。）

1365. 【一千七百公案】（科註第五四四頁第六行）

《佛學大辭典》「一千七百則公案」條：

（名數）五燈錄中公案之數凡一千七百則。

《中華佛教百科全書》「公案」條（節錄）：

禪宗用語。原意指官府用以判斷是非的案牘。所謂「案牘」即指文書而言。官府之文書成例及訟獄論定者謂之「案」或「公案」。由此轉而為禪宗用語，即指祖師、大

德在接引參禪學徒時所作的禪宗式的問答，或某些具有特殊啟迪作用的動作。此類接引禪徒的過程，往往可資後人作為判定迷悟之準繩，猶如古代官府之文書成例，故亦謂之為公案。

1366. 【大圓勝慧】（科註第五四四頁第六行）

即「大圓滿」之別譯。

1367. 【大圓滿】（科註第五四四頁第六行）

《中國佛教》（節錄）：大圓滿是西藏寧瑪派所特有的密教法門，和新派密教（如噶當、薩迦、噶舉派等。即後弘期依據新譯經典之派別）在理論上和實踐上有很多地方不同。寧瑪派總判世出世法為異生人天乘、顛倒外道乘，和真實內道（佛法）乘。在內道中更分為九

乘，通常稱為九乘次第。初三乘為因乘，即聲聞、獨覺、菩薩三乘。後六乘為果乘，即事乘、近乘、瑜伽乘，這三乘合為外牟尼續乘；摩訶瑜伽乘、阿努瑜伽乘、阿底瑜伽乘，這三乘合為內大密呪乘。

後三乘中，尤以阿底瑜伽一乘和新派最不相同，而大圓滿法門就是在這一乘中建立的。因此，阿底瑜伽也稱無二大圓滿。它的意義是：一切染淨法統統在現前離垢明空豁朗的內證智（本覺）中完全具足，所以叫做圓滿；解脫生死的方便途徑莫勝於此，所以叫做大。這內證智另有菩提心、心性、如來藏、自然智、自然光明智等異名。從果證來說，這自然智的本體空分即法身，本性顯了

分即報身，大悲明證分即化身，三身原來在本分上具足，不必另有精勤修作即已圓滿，所以叫做大圓滿。

1368. 【末後句】（科註第五四四頁第七行）

《佛學大辭典》：（雜語）樂普元安禪師之語曰：「末後一句，始到牢關，鎖斷要津，不通凡聖。」（傳燈十六安禪師章）。浮山圓鑑<sup>四</sup>（音見）禪師之語曰：「末後一句始到牢關，指南之旨不在言詮。」（會元十二有師傳不載此語，碧巖<sup>一</sup>（音言）第九則評唱舉此說）。

到大悟徹底之極處，吐至極之語，謂之末後之句。此處鎖斷凡聖，不容通過，故曰牢關。碧巖種電鈔一坤曰：「到徹悟極處吐至極

語，更無語句過之者，謂末後一句。於至極一句不通凡聖，故云牢關也，便堅牢關鎖也。」

無盡燈論上曰：「茲有向上出身一路，是謂之祖師不傳一著，是故槃山曰：向上一路，千聖不傳。學者弄形，如猿捉影。或又是謂之末後句。浮山曰：末後一句，始到牢關。指南之旨，不在言詮。」

1369. 【情世間】（科註第五四五頁第七行）

即有情世間，又稱眾生世間、假名世間。

《佛學大辭典》「二世間」條（節錄）：有情世間，五蘊假和合而有情識，以為鬼畜人天等之差別者。

○假名世間：（界名）又曰眾生世間、有情世間。三世間之一。於世間法中一切之有

情云假名世間。以有情者是於五蘊上假設之名字，無有情之實體也。即十界之有情是。

止觀五上曰：「眾生世間，既是假名無體，分別攬實法假施設耳。」

1370. 【《大品般若經》】（科註第五四五頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（經名）羅什譯之摩訶般若波羅蜜經有二十七卷本與十卷本二經：一曰大品般若經，一曰小品般若經。嘉祥法師吉藏有大品經義疏十卷，缺卷二，又有大品經遊意一卷。

1371. 【師子座】（科註第五四五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）佛為人之師子，故佛之所坐，總名師子座。如帝王之座謂為龍座也。

智度論七曰：「是號名師子，非實師子也，佛為人中師子。佛所坐處或床或地皆名師子座，如今者國王坐處亦名師子座。」

探玄記三曰：「總依智度論佛為人中師子，佛所坐處，或床或地皆名師子座，又坐此座說無為師子吼法，是故亦名師子座。」又文殊菩薩以乘獅子為通例，其意亦如上所述。梵 *Simhāsana*。

1372. 【師子遊戲三昧】（科註第五四五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）八三昧之一。譬如師子之搏鹿，自在戲樂，佛亦入此三昧，迴轉此地，使六反震動，故名師子遊戲三昧。又佛名人師子，師子遊戲三昧者，佛

遊戲三昧也，佛入此三昧時，使此大地有六種震動，使一切地獄惡道之眾生，皆蒙解脫，得生於天上。見智度論八。

1373. 【六動】（科註第五四六頁第一行）

《三藏法數》「六種震動」條：〔出華嚴經疏〕六種震動者，動、起、涌三種，是形；震、吼、擊三種，是聲。於形聲中，各舉一種，故言震動。六種中復各有三相，遂成十八種震動之相也。

一、動：動者，搖颺（晃蕩，搖動也。颺，音陽）不安之謂。動有三相：一方獨動名動，四方俱動名徧動，八方齊動名普徧動。  
二、起：起者，自下漸高之謂。起有三相：一方獨起名起，四方俱起名徧起，八方

齊起名普徧起。

三、涌：涌者，忽然騰舉之謂。涌有三相：一方獨涌名涌，四方俱涌名徧涌，八方齊涌名普徧涌。

四、震：震者，隱隱出聲之謂。震有三相：一方獨震名震，四方俱震名徧震，八方齊震名普徧震。

五、吼：吼者，雄聲猛烈之謂。吼有三相：一方獨吼名吼，四方俱吼名徧吼，八方齊吼名普徧吼。

六、擊：擊者，pēng<sup>ㄆㄥ</sup>砰ㄉㄨ（音烹）kē<sup>ㄎㄜ</sup>磕ㄉㄨ（音科）發響之謂。擊有三相：一方獨擊名擊，四方俱擊名徧擊，八方齊擊名普徧擊。（水激石曰砰，石相築（築，擊也）曰磕。）

## ◎ 積功累德第八

1374. 【觀達】（科註第五四九頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）智慧之用。觀理而達其源底也。

大乘義章十二曰：「於法觀達，故稱為慧。」

天台戒疏上曰：「觀達無始無明源底。」

1375. 【自性清淨心】（科註第五四九頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）吾人本有之心，自性清淨，離一切之妄染，故云自性清淨心。又曰如來藏心，真心。即吾人之菩提心也。

起信論義記中本曰：「自性清淨心，名如

來藏。」

大日經疏一曰：「本不生際者即是自性清淨心，自性清淨心即是阿字門。」

1376. 【大乘止觀】（科註第五四九頁第五行）

《佛學大辭典》：（書名）具名大乘止觀法門，四卷，南嶽慧思說。說止觀二門之深義。唐末經典，流散海外，咸平三年日本國寂照持此本至四明。慈雲得之為作序。見佛祖統紀二十五。明智旭釋之曰止觀釋要。

1377. 【一如】（科註第五四九頁第八行）

《三藏法數》：〔出首楞嚴三昧經〕不二不異，名曰一如，即真如之理也。所謂真如界內絕生佛之假名，平等性中無自他之形相。故經云：魔界如，佛界如，一如無二

如。是也。（魔，梵語具云魔羅，華言殺者，謂能奪人功德之財，殺人智慧之命也。佛，梵語具云佛陀，華言覺者。謂能自覺、覺他、覺行圓滿也。魔、佛皆言如者，魔為修惡之極，佛為修善之極，善惡雖分，其性本一。故云一如，無二如也。）

1378. 【如如】（科註第五四九頁倒數第五行）

《三藏法數》：如如者，不變不異，真如之理也。謂由前正智，觀察名相，皆悉如幻，非有非無，名相本空，即真如理。理因智明，智因理發；以智如理，以理如智；是為如如也。

《佛學大辭典》：（術語）楞伽經所說五法之一。法性之理體，不二平等，故云如，

彼此之諸法皆如，故云如如，是正智所契之理體也。

智度論一曰：「人等世界故有，第一義故無。如如法性實際世界故無，第一義故有。」

大乘義章三曰：「言如如者是前正智所契之理，諸法體同，故名為如。就一如中體備法界恒沙佛法，隨法辨如，如義非一，彼此皆如，故曰如如。如非虛妄，故復經中亦名真如。」

玄應音義二十三曰：「如如歷法非一，故曰如如。」

無量壽經下曰：「從如來生，解法如如。」

同淨影疏曰：「空同故曰如，解知一切萬法皆如，名解如如。」

佛性論二曰：「如者有二義：一如如智，二如如境。並不倒故名如如。」

1379. 【伊字三點】（科註第五四九頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）梵書（伊字）

之形，從三點成，謂之伊字之三點。是不縱不橫，而有三角之關係，故以譬物之不一不異，或非前非後。涅槃經譬之於法身般若解脫之三德。烈火「𤇀」之形為橫，譬物在一時為體之別，如牛之兩角。又點水「𤇁」之形為縱，譬物在異時為體之別。如花與實。

涅槃經二曰：「何等名為秘密之藏，猶如伊字三點：若並則不成伊，縱亦不成。如摩醯<sup>ṣi</sup>（音西）首羅面上三目，乃得成伊三點。

若別亦不得成。我亦如是：解脫之法亦非涅槃，如來之身亦非涅槃，摩訶般若亦非涅槃，三法各異亦非涅槃。」

1380. 【《法華遊意》】（科註第五五一頁倒數第一行）

二卷（一說一卷）。隋·吉藏著。

1381. 【根缺】（科註第五五二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（雜語）即五根（眼耳鼻

舌身也）中一或二二三等缺減不具者。見往生

論。

1382. 【jin<sup>ㄐㄧㄣ</sup>浸】（音近）（科註第五五三頁第七行）

《漢語大詞典》：逐漸。

1383. 【壞劫】（科註第五五三頁倒數第六行）

《三藏法數》：壞劫者，謂世界壞滅也。

有二十小劫。如火災起時，壞至初禪天。始

從地獄，終至梵天，有情眾生，經十九增減劫，次第壞盡。唯器世間空曠而住，乃至一切有情都盡，最後一增減劫，方壞器世間。有七日從海底出，大海盡竭，須彌崩壞，風吹猛<sup>ㄩㄢˋ</sup>燄（音驗），燒上梵天，悉成灰燼；乃至三千世界一時燒盡，名為壞劫。（器世間者，世界如器故也。梵天，即初禪天也。三千世界者，小千、中千、大千也。）

1384. 【三災】（科註第五五三頁倒數第四行）

《三藏法數》「大三災」條：〔出法苑珠林〕

一、火災：謂於壞劫時，有七日出現大火，須彌山漸漸崩壞，四海水展轉消盡，大千世界及初禪天皆悉洞然，無有遺餘，是

名火災。（梵語須彌，華言妙高。四大海者，即東西南北四海也。）

二、水災：謂初禪天已下，七番火災，壞於世間之後，世界復成，又於壞劫之時，漸降大雨，滴如車軸；更兼地下水輪湧沸，上騰大千世界，乃至二禪天，水皆彌滿，一切壞滅，如水消鹽，是名水災。

三、風災：謂二禪天已下，七番水災已後，又經七番火災，壞於世間，至世界復成，又於壞劫之時，從下風輪，有猛風起；兼以眾生業力盡故，處處生風，大千世界乃至三禪天，悉皆飄擊，蕩盡無餘，是名風災。

《佛學大辭典》「大三災」條：（術語）

過住劫，則入壞劫，壞劫有二十增減劫。前十九增減劫，壞有情世間。最後一增減劫。壞器世間。壞此器世間有火災水災風災之三者。是曰大三災。此三災非起於同時，各自輪次而起。以壞世界也。

第一火災，七個日輪，同時並出，焚燒此世界，下自無間地獄，上至色界之初禪天者。

第二水災，下自無間地獄上至色界之第二禪天，為水所浸瀾者。

第三風災，下自無間地獄上至色界之第三禪天，一切物質。為風飄散者。

其次第，先有火災七度。後有一度水災，更有七度火災，復有一度水災。如此每七火

有一水，七度水災後，更經七度火災，有一風災，然則三災為一周，有八七火災與一七水災與一風災，故總經六十四度之大災。即六十四大劫也（一大劫中有成住壞空之四（中）劫，壞劫之終有一度之大災也）。

俱舍論十二曰：「初火災興，由七日現。

次水災起，由雨霖淫。後風災生，由風相擊。此三災力，壞器世間。乃至極微，亦無餘在。〔中略〕第二靜慮（二禪）為火災頂，此下為火所焚燒故。第三靜慮（三禪）為水災頂，此下為水所浸潤故。第四靜慮（四禪）為風災頂，此下為風所飄散故。〔中略〕先無間起七火災，其次宜應一水災起，此後無間後七火災還有一水，如是乃至滿七

水災，復七火災後風災起，如是總有八七火災一七水災一風災起。」

1385. 【《華嚴演義鈔》】（科註第五五四頁第二行）

具名《大方廣佛華嚴經隨疏演義鈔》。九十卷，唐·澄觀撰。（參見「《華嚴大疏鈔》」1164）

1386. 【凝然常】（科註第五五四頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）凝然常住之意。對於不斷常、相續常而言。又云自性常或本性常，即自性常住之真如法性也。見群疑論二。

1387. 【釋大<sub>yán</sub>衍<sub>一</sub>論】（音演）論】（科註第五五四頁第七行）

見「《釋摩訶衍論》」1680。

1388. 【本有】（科註第五五四頁第八行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）對於修成或修生（由修行而得，與修證同）之稱。謂本來固有之性德也。依性宗之談，則不論有情非情，其本性萬德圓滿，在聖不增，在凡亦不減（「不減」疑作「不減」），譬如礦中之金，暗中之寶，是為本有。

法華玄義七曰：「本有四德，隱名如來藏。修成四德，顯名為法身。」

涅槃經十曰：「本有今無，本無今有。三世有法，無有是處。」

1389. 【《大乘密嚴經》】（科註第五五四頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「密嚴經」條：（經名）具名大乘密嚴經。前後有兩譯，前譯為唐之

地婆訶羅譯，三卷；後譯為唐之不空譯，三卷。佛住出過三界密嚴國，有金剛藏菩薩，問佛第一義法性，佛答以如來藏不生不滅。次對金剛藏菩薩諸士，開說如來藏阿賴耶識等大乘法相。一經始終，皆係此說。

1390. 【密嚴淨土】（科註第五五四頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（界名）與密嚴國同。

○密嚴國：（界名）大日如來之淨土也。密嚴經及金剛頂一切瑜祇經說之，為金胎兩部法身之依處。華嚴經所說之華藏世界，淨土門所談之極樂世界，皆為此異名。

密嚴者，以三密莊嚴之大曼陀羅道場也。

不空譯之密嚴經上曰：「今此世界名曰密嚴，是中菩薩。悉於欲、色、無色、無想、

有情之處，以三摩地力生智慧火，焚燒色貪及以無明，轉所依止得意成身，神足力通以為嚴飾。」又曰：「欲色無色界無想天等天宮，如來迴已出，而往密嚴住。〔中略〕依自難思定，現於眾妙色。色相無有邊，非餘所能見。極樂莊嚴國，世尊無量壽。」

金剛頂一切瑜祇經曰：「唯此佛刹，盡以金剛自性清淨所成密嚴華嚴。」

二教論曰：「密者金剛三密，華者開敷覺華，嚴者具種種德，言以恆沙佛德塵數三密莊嚴身土，是名曼荼羅。」

瑜祇經拾古鈔上曰：「是說兩部法身所依土，密嚴華嚴華藏也。」

菩提心論曰：「此菩提心能包藏一切菩薩

功德法故，若修證出現則為一切導師，若歸本則是密嚴國土，不起於座能成一切佛事。」密嚴諸秘釋九，有密嚴淨土略觀。

1391. 【密嚴經疏】（科註第五五四頁倒數第二行）

《佛光大辭典》（節錄）：凡四卷。唐代法藏（六四三—七一二）撰。又作大乘密嚴經疏。收於卍續藏第三十四冊。第一卷已散失。本書為地婆訶羅所譯大乘密嚴經之注釋書，約撰於唐武后則天天授元年（六九〇）。法藏之著作可分為兩類，一為闡釋華嚴五教判之作，另一為如來藏經論之四宗判注釋。本書即屬後者，對密嚴經各品細分科段，並詳加注解。

1392. 【他受用土】（科註第五五四頁倒數第二行）

《三藏法數》：他受用者，他機感見而受用也。謂如來他受用身所依之土，以利他後得智為體。此由修德成就，隨住十地菩薩所宜變現，以大慈悲力而現大小勝劣種種淨土，是名他受用土。（十地者，歡喜地、離垢地、發光地、燄慧地、難勝地、現前地、遠行地、不動地、善慧地、法雲地也。菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。）

1393. 【法性土】（科註第五五四頁倒數第一行）

《三藏法數》：謂如來清淨法身所依之土，以真如為體。然此身、土，體無差別，不變不遷，離相寂滅，是名法性土。

（又）法性土者，即法身如來所依之土，乃理土也。謂以本識如來藏身為所依持，恒

頓變現外諸器界，則法性土通為諸土之體也。（器界者，世界如器故也。）

1394. 【如來藏心】（科註第五五五頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）真如心之異名也。

1395. 【微塵】（科註第五五五頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）色體之極少為極微，七倍極微，為微塵。七倍微塵，為金塵。金塵者，得遊履金中之間隙也。

俱舍論十二曰：「七極微為一微量，積微至七為一金塵。」（參見「極微」2202）

1396. 【一合相】（科註第五五五頁第二行）

《三藏法數》：〔出金剛經〕一合相者，蓋言眾塵和合而為一世界也。世界本空，微

塵不有，但眾生不了，妄執為實。若是實有，即應世界不可分為微塵，若是實無，不應微塵合為世界。是知執有執無，皆不當理。經云：如來說一合相，即非一合相，是名一合相。是也。

1397. 【電子】（科註第五五頁第三行）

《漢語大詞典》：構成各種原子的一種基本粒子，質量極小，帶負電，在原子中圍繞原子核旋轉。

《中國大百科全書》「基本粒子」條：基本粒子 elementary particle 構成物質的最基本的組分。這是一個歷史性的名詞。隨著物理學的進展，在近一世紀內基本粒子的概念經歷了幾次重大的改變。在二〇世紀初，隨著

實驗上對原子論的證實，人們認為原子是物質的基本的組分。但隨著原子核在一九一一年的發現及其後中子在一九三二年的發現，人們認識到原子是由質子、中子和電子構成的，原子不再是物質的基本的組分。在這以後，把光子、電子、中微子、質子、中子和陸續大量發現的介子和共振態粒子稱為基本粒子。基本粒子數目的大增加，使人們認識到它們也不可能是最基本的組分。對其中的強子，強子結構模型能很好地統一予以描述。目前認為它們是由夸克構成的。

近來，物理學界傾向於把以前稱作基本粒子的物質，統稱為粒子（或亞原子粒子）。越來越多的物理學家認為，基本粒子的提法

是不正確的，物質結構在不同的能量尺度上有不同的層次，最終的層次很可能不存在。

1398. 【微中子】（科註第五五頁第五行）

中微子，又譯作微中子，是一種基本粒子。不帶電，質量極小，以接近光速運動。太陽、宇宙射線、核電站等都能產生大量中微子，在自然界中廣泛存在。它幾乎不與其他物質作用，在一百億個中微子中，只有一個會與物質發生反應，因此中微子的檢測非常困難。

中微子具有最強的穿透力，可以輕鬆地穿過人體、建築，甚至地球，不帶來任何影響。每秒鐘通過我們眼睛的中微子數以十億計。

1399. 【行業】（科註第五五六頁第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）身口意之所作。

法華經提婆品曰：「善知眾生諸根行業。」

1400. 【郁<sub>yu</sub>郁<sub>yu</sub>】（音玉）迦羅越問經】（科註第五五六頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「郁迦羅越問菩薩行經」條：（經名）西晉竺法護譯，一卷。

1401. 【二諦義】（科註第五五九頁倒數第三行）

《中華佛教百科全書》：書名。三卷。隋·吉藏撰。又稱《二諦章》。收於《大正藏》第四十五冊。係就三論宗教義中之<sub>shū</sub>樞<sub>hū</sub>（音疏）要二諦義，分大意（上卷）、釋名（中卷）、相即義、體、絕名、攝法、同異（下

卷)等七科加以論述，與《大乘玄論》、《四論玄義》所立之十科不同。

1402. 【四相】(科註第五六〇頁第六行)

《三藏法數》「識境四相」條：〔出金剛經論〕謂眾生於此四法，不了虛假，而於心識之境，妄生邪見，執著取相，故名識境四相。

一、我相：謂眾生於五陰法中，若即若離，計我、我所之實，是名我相。(五陰者，色陰、受陰、想陰、行陰、識陰也。若即若離者，謂計即陰是我，離陰是我也。我、我所者，我即假名，我所即五陰也。)

二、人相：謂眾生於五陰法中，妄計我是人，我生人道，異於餘道，是名人相。

三、眾生相：謂眾生於五陰法中，妄計色受想行識眾共而生此身，是名眾生相。

四、壽者相：謂眾生於五陰法中，妄計我受一期壽命，或長或短，是名壽者相。(一期者，謂從生至死也。)

1403. 【二苦】(科註第五六一頁第六行)

《佛學大辭典》：(名數)一內苦，此有二種：四百四病為身苦，憂愁嫉妒等為心苦，合此二者，謂之內苦。(四百四病：總括病全部之稱。智度論六十五曰：「四百四病者，四大為身，常相侵害。一一大中百一為起，冷病有二百二，水風起故。熱病有二百二，地火起故。」)

二外苦，此亦有二種：一惡賊虎狼等之害，二風雨寒熱等之災，合此二者，謂之外

苦。見智度論十九。

1404. 【四苦】（科註第五六一頁第七行）

《佛學大辭典》：（名數）一生苦，果報始起為生，生時有苦，故名生苦。

二老苦，身體衰變為老，老時有苦，故名老苦。

三病苦，四大增損為病，病時有苦，故名病苦。

四死苦，五蘊壞離為死，死時有苦，故名死苦。見大乘義章三本。

1405. 【八苦】（科註第五六一頁第七行）

《三藏法數》：〔出涅槃經〕

一、生苦：生苦有五種：一者，受胎。謂

識託母胎之時，在母腹中，窄隘不淨。二

者，種子。謂識托父母遺體，其識種子，隨

母氣息出入，不得自在。三者，增長。謂在

母腹中，經十月日，內熱煎煮，身形漸成，

住在生臟之下，熟臟之上，間夾如獄。四

者，出胎。謂初生下，有冷風、熱風吹身，

及衣服等物觸體，肌膚柔嫩，如被物刺。五

者，種類。謂人品有貴富貧賤，相貌有殘缺

妍醜（美與醜也。妍，音言），是名生苦。

二、老苦：老苦有二種：一者，增長。謂

從少至壯，從壯至衰，氣力<sup>lei</sup>羸（音雷，衰

弱）少，動止不寧。二者，滅壞。謂盛去衰

來，精神耗滅，其命日促，漸至朽壞，是名

老苦。

三、病苦：病苦有二種：一者，身病。謂

四大不調，眾病交攻。若地大不調，舉身沉重。水大不調，舉身胖腫。火大不調，舉身蒸熱。風大不調，舉身倔強。二者，心病。謂心懷苦惱，憂切悲哀，是名病苦。

四、死苦：死苦有二種：一者，病死。謂因疾病，壽盡而死。二者，外緣。謂或遇惡緣，或遭水火等難而死，是名死苦。

五、愛別離苦：謂常所親愛之人，乖違離散，不得共處，是名愛別離苦。

六、怨憎會苦：謂常所怨chóu讎讎（音仇）憎惡之人，本求遠離，而反集聚，是名怨憎會苦。

七、求不得苦：謂世間一切事物，心所愛樂者，求之而不能得，是名求不得苦。

八、五陰盛苦：五陰者，色受想行識也。陰即蓋覆之義，謂能蓋覆真性，不令顯發也。盛即盛大之義，謂前生、老、病、死等眾苦聚集，故名五陰盛苦。

1406. 【《遺教經》】（科註第五六一頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「佛遺教經」條：（經名）佛垂般涅槃略說教誡經之略名。真西山氏謂遺教經為瞿曇氏最後教弟子之語，以端心正念為首，而深言持戒，為禪定智慧之本。

本經各家之論註如下：佛遺教經論疏節要一卷，天親菩薩論，宋智圓疏，宋淨源節要，明株宏補註。遺教經論住法記一卷，宋元照述。遺教經論記三卷，宋觀復述。佛遺教經補註一卷，明守遂註，了童補註。佛遺

教經解一卷，明智旭述。遺教經指南一卷，明道需述。佛遺教經箋註，丁福保註。

《閱藏知津》「佛垂般涅槃略說教誡經」

條：姚秦天竺沙門鳩摩羅什譯。囑諸比丘，以戒為師，離諸惡法，對治諸苦，及諸煩惱，勤修出世大人功德，所謂無求，知足，遠離，精進，不忘，禪定，智慧，及不戲論。蓋是最後丁寧（囑咐、告誡），不<sub>chi</sub>啻（音赤。止也，僅也）一字一血，宜深玩而力行之。

1407. 【《法華經勸發品》】（科註第五六二頁第二行）

《妙法蓮華經》第二十八品之《普賢菩薩勸發品》。法華之終，說普賢菩薩自東方來，以種種勝事獎勸發起持經人之心。

1408. 【《般若經》】（科註第五六二頁第三行）

此指《大品般若經》（又稱《摩訶般若波羅蜜經》）。二十七卷，鳩摩羅什大師譯。《科註》所引內容，出自該經第六卷，《發趣品第二十》。）

1409. 【現量】（科註第五六二頁第五行）

《三藏法數》：現即顯現，量即量度，是楷定之義也。謂眼識乃至身識，對於顯現五塵之境，而能度量楷定法之自相，不錯謬故，是名現量。（五塵者，色塵、聲塵、香塵、味塵、觸塵也。）

1410. 【體露】（科註第五六二頁第六行）

《佛學大辭典》：（雜語）物全然顯出也。

傳燈錄雲門章曰：「問：樹凋葉落時如何？師曰：體露金風。」

傳燈錄古靈章曰：「師登座舉唱百丈門風。乃曰：靈光獨耀，迥（音炯。遠也）脫根塵。體露真常，不拘文字。心性無染，本自圓成。但離妄緣，即如如佛。」

1411. 【真常】（科註第五六二頁第六行）

《佛學次第統編》：世間之相，虛妄不實，皆是因緣相續之假。若夫聖人所得之法，則是真常。真者真實，離迷情、絕虛妄，是曰真實。常者常住，法無生滅變遷，是曰常住。真實常住，故曰真常。

《佛學常見辭彙》：真實、常在的境界，即涅槃。

1412. 【寂滅為樂】（科註第五六二頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）寂滅者涅槃也。對於生死之苦而涅槃為樂。

涅槃經曰：「諸行無常，是生滅法，生滅滅已，寂滅為樂。」

1413. 【眾生界盡】（科註第五六二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（雜語）令一切眾生界盡成佛也。

華嚴經十地品曰：「佛子！此大願以十盡句而得成就。所謂眾生界盡、世界盡、虛空界盡、法界盡、涅槃界盡、佛出現界盡、如來智界盡、心所緣界盡、佛智所入境界盡、世間轉法轉智轉界盡，若眾生界盡我願乃盡，〔中略〕若世間轉法轉智轉界盡我願乃盡。」

盡。」

1414. 【法住】（科註第五六三頁第三行）

《佛光大辭典》（節錄）：（一七二三—一八〇〇）日本新義真言宗大和長谷寺之第三十二世。大和石上郡人。字智幢。十六歲隨快範上人剃髮。於法隆寺學律儀，後登豐山，師事無等、親快等諸師。復遊歷諸國。著作頗多，有大日經玉振鈔十卷、攝八轉義五卷、補八轉zhuan 出文（音撰）義一卷、略八轉義一卷、十句義記二卷等三十餘卷。〔法住僧正傳〕

1415. 【和尚】（科註第五六三頁倒數第四行）

《翻譯名義集》：或和闍jie 出羯ke 出（音結）磨。疏云：自古翻譯，多雜蕃胡，胡傳天語，不

得聲實，故有訛僻。傳云：和尚，梵本正名wu 鄔<sup>x</sup>（音汚）波遮迦。傳至于tian 去闐an 去（音田），翻為和尚，傳到此土，什師翻名力生。

舍利弗問經云：夫出家者，捨其父母生死之家，入法門中，受微妙法。蓋師之力，生長法身，出功德財，養智慧命，功莫大焉。又和尚亦翻近誦，以弟子年少，不離於師，常逐常近，受經而誦。

善見云：和尚外國語，漢言知有罪知無罪也。

明了論本云：優波陀訶，翻為依學，依此人學戒定慧故，即和尚也。

義淨云：鄔波陀耶，此云親教師（親受教之師也），由能教離出世業故。故和尚有二

種：一依教，即受業也；二依止，即稟學也。

毗奈耶云：弟子門人，cái纔（音才）見師時，即須起立；若見親教，即捨依止。

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）Uṣṭhīyā，又曰和上。律家用上字，其餘多用尚字。本為印度之俗語，呼吾師云烏社，至于闐國等則稱和社，和闍（Khosha）等，和尚者其轉訛也。羅什三藏翻為力生，以依師而弟子之道力得生故也。（中略）玄應音義十四曰：「和尚，菩薩內戒經作和闍，皆于闐國等訛也。應言郁波弟耶，此云近誦。以弟子年少不離於師，常逐近受經而誦也。又言鄔波陀耶，此云親教，舊譯云知罪知無罪名為和尚

也。」

1416. 【毀zǐ訾pv（音子）】（科註第五六三頁倒數第三行）

《漢語大詞典》：毀謗；非議。

1417. 【旃zhān（音沾）陀羅】（科註第五六四頁第八行）

《三藏法數》：（又作旃zhān荼tu（音徒）羅），

梵語旃陀羅，華言屠者。謂屠者之家，殺心盛大，惱害眾生，見者傷慈，壞善根本。比丘若行乞食，此處不可往也。（旃荼羅者，華言嚴幟。謂此屠者，惡業自嚴，行時搖鈴持竹為biāo標zhāo（音標）幟，以使人知其為惡者也。）

《佛學大辭典》：（雜名）Carṇḍā，又作旃荼羅。譯曰屠者、嚴幟、執暴惡人、下姓

等。在四姓之外。以屠殺為業者。男曰旃陀羅。女曰旃陀利。

玄贊九曰：「旃陀羅，云屠者不律儀也，正言旃荼羅，此云嚴熾。惡業自嚴，行持標幟，搖鈴持竹為自標故。」

玄應音義三曰：「旃陀羅，或云旃荼羅，此云嚴熾，謂屠殺者種類之名也，一云主殺人獄卒也。案西域記云：其人若行則搖鈴自標，或拄破頭之竹，若不然王即與其罪也。」

法顯傳曰：「旃荼羅，名為惡人，與人別居，若入城市則擊木以自異，人則識而避之不相搪揆（同「唐突」，冒犯也）。」同二十三曰：「旃荼羅，此云執暴惡人，亦言惡殺。」

阿育王經三曰：「旃陀利女，翻下姓。」

1418. 【愧nǎn報zào】（科註第五六四頁倒數第六行）

《漢語大詞典》：因羞慚而面紅耳赤。

1419. 【cù蹴zhuàn（音促）踏】（科註第五六四頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：踩；踏。

1420. 【獅子吼】（科註第五六五頁第二行）

《佛學大辭典》：（譬喻）喻佛教威神，

發大音聲，震動世界也。

傳燈錄曰：釋迦佛生時，一手指天，一手

指地。作獅子吼，云：天上天下，惟吾獨尊。

1421. 【勝天王般若經】（科註第五六五頁倒數第四行）

《三藏法數》「勝天王般若」條：勝天王問佛云：菩薩摩訶薩云何修學一法，通達一切法？佛即答云：菩薩摩訶薩修學般若波羅蜜經，則能通達檀波羅蜜乃至智波羅蜜等。此經由勝天王發問而說，是名勝天王般若。（菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。梵語摩訶，華言大。梵語檀，華言施。）

《佛學大辭典》「勝天王般若波羅蜜多經」條：（經名）七卷，陳月婆首那（陳優禪尼國王子月婆首那）譯，五部般若之一。大般若第六會之別譯。

1422. 【pín 唸】（音頻）ピン 蹙（音促）ソク（科註第五六五頁倒數第三行）

《漢語大詞典》：皺眉蹙額。

1423. 【四攝法】（科註第五六五頁倒數第二行）  
《三藏法數》：〔出法界次第〕此四通言攝者，攝即攝受也。謂菩薩欲化導眾生，必須以此四法攝受，使其依附，然後導以大乘正道。故維摩經云：先以欲鉤牽，後令入佛智。是也。（菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。）

一、布施攝：謂菩薩以財、法二種布施攝眾生也。若眾生樂財，即以財施攝之；若眾生樂法，即以法施攝之。眾生既蒙二施利益，因是生親愛心，依附受道，得住真理，故名布施攝。

二、愛語攝：謂菩薩隨順眾生根性，善言慰喻，則一切眾生樂聞善言，因是生親愛

心，依附受道，得住真理，故名愛語攝。

三、利行攝：謂菩薩起身口意善行，利益一切眾生，因是生親愛心，依附受道，得住真理，故名利行攝。

四、同事攝：謂菩薩以法眼明見眾生根性，隨其所樂，即分形示現，同其所作，使其各霑利益，因是生親愛心，依附受道，得住真理，故名同事攝。

1424. 【三寶】（科註第五六六頁第六行）

《佛學大辭典》（節錄）：（名數）觀無量壽經曰：「恭敬三寶，奉事師長。」

一切之佛陀 Buddha，佛寶也，佛陀所說之教法，法寶 Dharma 也。隨其教法而修業者，僧寶 Sangha 也。佛者覺知之義，法者法

軌之義，僧者和合之義也。

○自性三寶：（術語）三寶，佛法僧也。佛者自性之覺。法者自性之正。僧者自性之淨。故云自性三寶。

六祖壇經曰：「勸善知識，歸依自性三寶。佛者，覺也。法者，正也。僧者，淨也。自心歸依覺，邪迷不生，少欲知足，能離財色，名兩足尊。自心歸依正，念念無邪見，以無邪見故，即無人我貢高貪愛執著，名離欲尊。自心歸依淨，一切塵勞愛欲境界，自性皆不染著，名眾中尊。若修此行，是自歸依。」

《三藏法數》「三寶有六義」條：「出諸經要集」三寶者，佛、法、僧也，乃四生之

導首，六趣之舟航，為世所貴，故名為寶。

（四生者，胎生、卵生、濕生、化生也。六趣者，天趣、人趣、阿修羅趣、餓鬼趣、畜生趣、地獄趣也。）

一、希有義：謂如世珍寶，貧窮之人所不能得。三寶亦爾，薄福眾生，百千萬世，不能值遇，故名希有。

二、離垢義：謂如世珍寶，內外瑩徹，體無瑕穢。三寶亦爾，諸漏淨盡，無有垢染，故名離垢。（諸漏淨盡者，謂一切惑業斷盡無遺，不漏落生死也。）

三、勢力義：謂如世珍寶，除貧去毒，有大勢力。三寶亦爾，具六神通，拔濟眾生出離苦趣，故名勢力。（六神通者，天耳通、

天眼通、宿命通、他心通、神足通、漏盡通也。）

四、莊嚴義：謂如世珍寶，嚴飾身首，令人殊好。三寶亦爾，能以正法嚴飾行人，令得身心清淨，故名莊嚴。

五、最勝義：謂如世珍寶，諸物中勝。三寶亦爾，一切世間最為殊勝，故名最勝。

六、不改義：謂如世真金，燒打磨鍊，不能變改。三寶亦爾，不為世間八法之所變易，故名不改。（八法者，一利、二衰、三毀、四譽、五稱、六譏、七苦、八樂也。）

1425. 【住持三寶】（科註第五六六頁第八行）

《三藏法數》：「出華嚴經隨疏演義鈔并三寶章」

一、泥龕塑像為佛寶：泥<sup>kān</sup>龕<sup>ㄎㄢˊ</sup>（音刊，供奉神佛或神主的石室或小閣子）塑像者，佛滅度後，以泥木雕塑為像，住世不絕，是為佛寶也。

二、黃卷赤軸為法寶：黃卷赤軸者，即今大藏經卷是也。以其住世不滅，是為法寶也。

三、剃髮染衣為僧寶：剃髮染衣者，謂剃除鬚髮，著染色衣，即世間之僧，以能流通佛法，是為僧寶也。

1426. 【文句】（科註第五六六頁第八行）

《三藏法數》：文即字也。依類象形為字，形聲相稱曰文。謂一切契經，皆以文為身，文成語為句，詮顯其義，必藉於文，是

為文句。

1427. 【染衣】（科註第五六六頁第八行）

《佛學大辭典》：（雜名）僧衣也以木蘭色等之壞色染衣故也。

名義集七曰：「大論云：釋子受禁戒是其性，剃髮割截染衣是其相。」

1428. 【寶性論】（科註第五六六頁倒數第四行）

《閱藏知津》「究竟一乘寶性論」條：五卷。元魏中天竺沙門勒那摩提譯。教化品第一。佛寶品第二。法寶品第三。僧寶品第四。一切眾生有如來藏品第五。無量煩惱所纏品第六。為何義說法品第七。身轉清淨成菩提品第八。如來功德品第九。自然不休息佛業品第十。較量信功德品第十一。初一

卷，是論本偈經，次四卷，如次論釋。

1429. 【上師】（科註第五六七頁第二行）

《藏傳佛教辭典》：總攝法、報、化三身為一體的根本上師。

（又）受法於金剛上師，此上師即是自己  
的「上師」。最親近的上師，能傳予法要  
者，即「根本上師」。

○喇嘛上師：「上師」就是善知識。善知  
識的意思有兩種，一是外善知識（外在上  
師），一是內善知識（內在上師）。

所謂外善知識，佛在《總集經》中說：  
（外善知識是指）所有的佛以及進入菩提之道  
的菩薩行者們。必須依靠善知識。

彌胖仁波切說：佛、薄伽梵、進入菩提道

的菩薩行者們，以及將佛、菩薩傳下的六度  
等法宣揚給別人的高僧大德等，都是我們的  
善知識。外善知識把大乘的法門如法地傳  
授，又將善巧的法門告訴我們，讓我們心中  
產生內善知識，了解善巧與般若雙運的道理  
和方法。所有讓我們進入究竟解脫之道的諸  
上師，就是外在善知識。

而內善知識是真正由我們心中發出，包括  
正知、正念、不放逸及六度等，依靠它們，  
才可以得到短暫的人天福報和永久的佛果。

（嘎瑪仁波切開示）

1430. 【chán諛多（音產）曲】（科註第五六七頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）為欺他而作嬌  
態，曲順人情也。

無量壽經上曰：「無有虛偽諂曲之心，和顏愛語，先意承問。」

法華經曰：「我慢自矜高，諂曲心不實。」

1431. 【質直】（科註第五六七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）質者正也，正直之心，無諂曲也。佛道在悟達眾生本有之天真，故示其意曰質直是淨土。

法華經壽量品曰：「眾生既信伏，質直意柔軟。一心欲見佛，不自惜身命。時我及眾僧，俱出靈鷲<sup>ハニ</sup>鷲（音就）山。」又曰：「諸有修功德，柔和質直者。則皆見我身，在此而說法。」

維摩經佛道品曰：「直心是菩薩淨土，菩薩成佛時，不諂眾生來生其國。」註曰：

「直心者謂質直無諂，此心乃是萬行之本。」同菩薩品曰：「於六和敬起質直心。」

1432. 【《游心法界記》】（科註第五六九頁第四行）

《佛學大辭典》「華嚴遊心法界記」條：（書名）一卷，唐法藏撰。明華嚴五教之觀者。

《中華佛教百科全書》「華嚴遊心法界記」條：一卷。唐法藏撰。收在《大正藏》第四十五冊。內容根據杜順《五教止觀》，闡明華嚴宗之觀門。但所釋與《五教止觀》略異其趣。

即本書雖亦分別法是我非門、緣生無性門、事理混融門、語盡理顯門、法界無礙門等五門，以闡明觀法，揭示五教各門之教判。但於其次之隨門廣釋段中，則改前四門

之稱為：一人三科法門方便，二人諸法皆空相無不盡方便，三人事理兩門圓融一際方便，四人語言道斷心行處滅方便。並以前四門為第五門之方便門。依此意，乃可見同別無礙之一圓教觀。又，雖謂四門為方便，但各門在當位時，為能人之方便，即亦有五教為各自觀門之義，並謂除直入者之外，當用前方便。

總言之，本書雖承襲自《五教止觀》，然而亦有其個別的特色。此書於唐末五代兵亂時即散佚不傳，後由日本雅山以其師白老人之正本校訂本，於享保六年（一七二一）刊行，此即今之流傳本，附有雅山、鳳潭之序文。註疏有《錄》三卷（芳英）、《義翼》

三卷（真徹）、《講辨》三卷（律藏）、《講錄》一卷（熱田靈知）、《備講》一卷（實道）。

1433. 【三諦】（科註第五六九頁第五行）

《三藏法數》：「〔出法華玄義〕諦者，諦審也。謂諦審一切法即空、即假、即中；即空是真諦，即假是俗諦，即中是中諦。此三隔歷，即是次第三諦；三一無礙，即是圓融三諦。（隔歷者，三諦不互融也。次第者，前真、次俗、後中，即別教三諦也。圓融者，舉一即三，全三是一，即圓教三諦也。）

一、真諦：真即真空，泯一切法之謂也。蓋諸法本空，眾生不了，執之為實，而生妄見。若以空觀蕩之，則謂實之情自忘；情忘

即能離於諸相，諸相若離，則真空之理自然諦了，故名真諦。

二、俗諦：俗即世俗立一切法之謂也。諸法雖即本空，皆不可得，若以假觀照之，則能諦了性具諸法，歷歷宛然，故名俗諦。

三、中諦：中即中正，統一切法之謂也。諸法本來不離二邊，不即二邊；若以中觀觀之，則能諦了諸法非真非俗，即真即俗，清淨洞徹，圓融無礙；即一而三，即三而一，不可思議，故名中諦。

1434. 【三觀】（科註第五六九頁第五行）

《三藏法數》「天台三觀」條：「出金光明經玄義」謂天台智者大師所立也。觀即照了之義。觀達一念之心，即具三諦之法也。

若觀心空，則一切法皆空，即是真諦；若觀心假，則一切法皆假，即是俗諦；若觀心中，則一切法皆中，即是中諦。此之三觀，全由性發，實匪修成。故於一心，宛有三用，所謂一心三觀也。

一、空觀：空者，離性離相之謂也。謂觀一念之心，不在內，不在外，不在中間，名之為空。由觀一念空故，一空一切空，無假、無中而不空，以三觀皆能蕩相故也。蓋空蕩見、思之相，假蕩塵沙之相，中蕩無明之相，三相皆蕩，即畢竟空，是名空觀。（見思、塵沙、無明，即三惑也。）

二、假觀：假者，無法不備之謂也。謂觀一念之心具足一切諸法，名之為假。由觀一

念假故，一假一切假，無空無中而不假，以三觀皆能立法故也。蓋空立真諦之法，假立俗諦之法，中立中諦之法；三法皆立，即為妙假，是名假觀。

三、中觀：中即中正，絕二邊對待之謂也。謂觀一念之心，非空非假，即空即假，名之為中。由觀一念中故，一中一切中，無空無假而不中；以三觀當處皆能絕待故也。蓋言空則空外無法，言假則假外無法，言中則中外無法，三皆絕待，即為圓中，是名中觀。

《佛學大辭典》：（名數）諸家說三觀，以天台之三觀為最普通：一、空觀，觀諸法之空諦也。二、假觀，觀諸法之假諦也。

三、中觀，此有二。觀諸法亦非空，亦非假，即是中，謂為雙非之中觀，觀諸法亦空亦假，即是中，謂為雙照之觀。又就性德之理而謂為三諦，就修德之智而謂為三觀，以吾人凡常之一心為所觀之境而觀之，則謂為一心三觀。而三諦三觀有別圓二教相違。

參見《佛學常見辭彙》表：



1435. 【行事鈔資持記】（科註第五七一頁第六行）

具名《四分律行事鈔資持記》，十六卷，

宋元照著。（參見「《資持記》」1149）

1436. 【律儀戒】（科註第五七一頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）三聚戒之第

一。守諸律儀離過非之戒行也。

1437. 【三聚淨戒】（科註第五七一頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）三聚之戒法，

無垢清淨，故云淨。

1438. 【三聚戒】（科註第五七一頁第八行）

《三藏法數》：〔出菩薩戒義疏并法苑珠

林〕聚，集也。戒，禁戒也。此三種戒，能

攝一切大乘諸戒，故名三聚戒。法苑珠林

云：大聖度人，功唯在戒。莊嚴論云：初律

儀戒以禁防為體，後攝善、攝生二戒，以勤  
勇為體。

一、攝律儀戒：攝律儀戒者，謂一切律  
儀，無不聚攝也。律即法律，是禁止之義；  
儀即儀式，是軌範之義。法苑珠林云：攝律  
儀者，要唯有四：一者不得為利養故，自讚  
毀他。二者不得故慳，不施前人（即外人  
也）。三者不得瞋心打罵眾生。四者不得  
謗大乘經典。持此四法，無惡不離，故名攝  
律儀戒。

二、攝善法戒：攝善法戒者，所行之行，  
能攝一切善法也。謂身口意所作善法及聞思  
修三慧，布施等六度之法，無不聚攝，故名  
攝善法戒。（三慧者，一聞慧，謂聞法而生

智慧也；二思慧，謂思惟而生智慧也；三修慧，謂修習而生智慧也。六度者，一布施、二持戒、三忍辱、四精進、五禪定、六智慧也。）

三、攝眾生戒：攝眾生戒者，謂能攝受一切眾生也。能攝之行，即是慈悲喜捨。慈名愛念，能與眾生樂故；悲名憐愍，能拔眾生苦故；喜名喜慶，慶一切眾生離苦得樂故；捨名無憎無愛，常念眾生，同得無憎無愛故。以此等法，攝諸眾生也。

1439. 【五戒】（科註第五七一頁倒數第五行）

《三藏法數》：〔出增壹阿含經〕

一、不殺戒：謂人若於彼眾生，妄加殺害，而奪其命，死墮惡道；或生人中，亦壽

命短促。若不作是事，名不殺戒。

二、不偷盜戒：謂人若於有主物不與而竊取之，死墮惡道；或生人中，亦受貧乏報。若不作是事，名不偷盜戒。

三、不邪淫戒：謂人若姪洩無度，好犯他人妻妾，死墮惡道；或生人中，妻妾亦不貞良。若不作是事，名不邪淫戒。

四、不妄語戒：謂人若妄造虛言，隱覆實事，誑惑眾聽，死墮惡道；或生人中，亦口氣臭惡，為人所憎。若不作是事，名不妄語戒。

五、不飲酒戒：謂人若飲酒則縱逸狂悖，昏亂愚癡，無有智慧。若不飲者，是名不飲酒戒。

1440. 【八戒】（科註第五七一頁倒數第五行）

《三藏法數》：謂五戒之後，更加不坐高廣大床、不著花鬘mán mǎo（音瞞）纓絡、不習歌舞戲樂，此八戒亦是在家之人所持，故名在家八戒。（參見「八齋戒」1112）

1441. 【十戒】（科註第五七一頁倒數第四行）

《三藏法數》「沙彌十戒」條：〔出翻譯名義并沙彌十戒法〕梵語沙彌，華言息慈。初受十戒，名為沙彌；後受具足戒，名為比丘也。（具足戒者，即二百五十戒也。梵語比丘，華言乞士。）

一、不殺戒：謂常念有情，皆惜身命，應當憐愍，慎勿傷害，是名不殺戒。

二、不盜戒：謂物各有主，雖一針一草，

亦不當rǎng攘mǎo（竊取也）竊，是名不盜戒。

三、不婬戒：謂清淨自守，不犯色欲，是名不婬戒。

四、不妄語戒：謂言說誠實，不以虛言誑他，是名不妄語戒。

五、不飲酒戒：謂酒能昏神亂性，增長愚癡，應當絕飲，是名不飲酒戒。

六、離高廣大床戒：謂所坐之床，高不過尺六，廣不過四尺，若過此量者，名高廣大床，則不當坐，是名離高廣大床戒。

七、離花鬘等戒：謂不著花鬘mán mǎo（音瞞）纓絡，不用香油塗身，是名離花鬘等戒。

八、離歌舞等戒：謂不自歌舞，亦不輒往觀聽歌舞，是名離歌舞等戒。

九、離金寶物戒：謂金銀錢寶，不當蓄積，亦不許手執，是名離金寶物戒。

十、離非時食戒：謂佛制午時為食時，若過午，則不當食，是名離非時食戒。

1442. 【具足戒】（科註第五七一頁倒數第四行）

《三藏法數》：具足戒者，即二百五十戒也。

謂波羅夷法，凡四條。（梵語波羅夷，華言極惡。）

僧伽婆尸沙法，凡一十三條。（梵語僧伽婆尸沙，華言僧殘。謂犯此戒，如人被他所殘，命雖未盡，形已殘廢故也。）

不定法，凡二條。（謂比丘犯非法語，或以波羅夷法治之，或以僧伽婆尸法治之，或

以波逸提法治之，故名不定也。）

尼薩耆波逸提法，凡三十條。（梵語尼薩耆，華言捨。謂因財物等犯貪慢心，令捨人僧眾故。梵語波逸提，華言墮。謂不捨，當墮地獄也。）

波逸提法，凡九十條。

波羅提提舍尼法，凡四條。（梵語波羅提提舍尼，華言向彼悔。僧祇律云：此罪應對眾發露，故名向彼悔。）

眾學戒法，凡一百條。（此等戒法，令比丘眾皆學，故名眾學也。）

滅諍法，凡七條。（謂有諍事起，即應除滅，故名滅諍法。）

此二百五十戒，是出家比丘所持，是名出

家具足戒。(梵語比丘，華言乞士。)

《佛學次第統編》：具足戒有二：一、比丘戒，二、比丘尼戒(三百四十八條)，共稱為二部律。此二部律，未受戒者，不許先知。佛有明制。

1443. 【瓔珞本業經】(科註第五七二頁倒數第三行)

即《菩薩瓔珞本業經》。(參見「《瓔珞經》」984)

1444. 【五燈會元】(科註第五七一頁倒數第二行)

《佛學大辭典》：(書名)二十卷。宋釋普濟撰。其書取釋道原景德傳燈錄，駙馬都尉李遵<sub>ト</sub>勛<sub>ト</sub>(音旭)天聖廣燈錄，釋維白建中靖國續燈錄，釋道明聯燈會要，釋正受嘉泰普燈錄，<sub>cuō</sub>撮<sub>チ</sub>其要旨，彙為一書，故曰五燈

會元。刪薙(刪除也。薙，音替) <sub>rǒng</sub>冗<sub>ト</sub>(繁雜也)雜，頗為簡要。其考論宗系，亦最詳明。見四庫提要。

1445. 【戒德】(科註第五七一頁倒數第一行)

《佛學大辭典》：(術語)戒律之功德也。

普超三昧經一曰：「被戒德<sub>kai</sub>鎧<sub>ト</sub>(音楷)，化度眾生。」

行事鈔標宗顯德篇，廣引諸經論而顯戒德。

1446. 【普超三昧經】(科註第五七一頁倒數第一行)

《佛學大辭典》：(經名)三卷，西晉竺法護譯。文殊師利普超三昧經之略名。

1447. 【<sub>chi</sub>侈<sub>ト</sub>(音尺)談】(科註第五七二頁倒數第三行)

《漢語大詞典》：大談；縱論。

1448. 【《涅槃無名論》】（科註第五七四頁第七行）

肇公所作四論之第四。

《佛學大辭典》「肇論」條：（書名）三

卷，僧肇作。以作者之名為題。物不遷論第一，不真空論第二，般若無知論第三（附劉遺民問答書），涅槃無名論第四（奏秦王表九折十演）。首有宗本義之一章，冠於四論。

疏註如下：肇論疏三卷，晉惠達撰，缺下卷。肇論疏三卷，唐元康撰。肇論疏科一卷，宋遵式排定。夾科肇論序注一卷，宋曉月注。注肇論疏六卷，宋遵式述。肇論新疏三卷，宋文才述。肇論新疏遊刃三卷，宋文才述。肇論略注六卷，明德清述。

《中國大百科全書》「《肇論》」條（節

錄）：後秦·僧肇著。僧肇在世時曾撰佛教論文數篇，闡述般若義旨。南朝梁、陳之間，經人彙編成集，名曰《肇論》。《肇論》取老莊之語命意遣詞，文筆優美，結構嚴整。（中略）

《涅槃無名論》前為《表上秦主姚興》（亦稱《上秦王表》）後為本論。本論是為姚興而作，有九折十演。

九折託為「有名曰」，包括核體、徵出、搜玄、難差、責異、詰漸、譏動、窮原、考得。十演託為「無名曰」，包括開宗、位體、超境、妙存、辨差、會異、明漸、動寂、通古、考得。開宗為第一，核體為第

一，「無名曰」一章與「有名曰」一章穿插排列，一問一答，鋪成全論。

主要是說，涅槃之道，寂寥虛曠、微妙無相，既不可能通過言象表達，也不可能由心感知。所以，「有餘涅槃」和「無餘涅槃」的稱謂和區別，「良是出處之異號，應物之假名耳」。近人對本論的真偽頗有爭議。有的從體裁、文筆、史實和思想諸方面分析，認為此篇非僧肇之作。有的則提出相反的論據，肯定它為僧肇真作。

1449. 【敦（一）】（科註第五七五頁倒數第一行）

《漢語大詞典》：篤實（純厚樸實；忠誠老

實。篤，音睹）。

1450. 【恬tián ㄊㄧㄢˊ】（音田）（科註第五七六頁第一行）

《漢語大詞典》：安靜。（又）淡泊。

1451. 【年nián ㄋㄧㄢˊ耆】（音奇）（科註第五七六頁第二行）

《漢語大詞典》：年老。古代年六十曰耆。

1452. 【四姓】（科註第五七六頁第四行）

《三藏法數》「西域四姓」條：「亦名梵生四姓，出翻譯名義」

謂四種人，妄計我從梵天而生，故稱梵生。婆羅門自計從梵天口生，刹帝利自計從梵天臍qí 臍（音其。肚臍也）生，毘舍自計從梵天脅生，首陀自計從梵天腳生，以此貢高，自謂第一，實非第一也。

一、婆羅門：梵語婆羅門，華言淨行。或在家，或出家，世世相承，以道學為業，自

稱是梵天苗裔（子孫後代。裔，音易），守道居貞，潔白其操，故謂之淨行。

二、刹帝利：梵語刹帝利，華言田主。為世間大地之主，即王種也。

三、毘舍：梵語毘舍，亦云吠吠フイ（音沸）奢アセ，即商賈種也。

四、首陀：梵語首陀，亦云戌陀羅，即農人種也。

1453. 【金輪王】（科註第五七六頁第七行）

《三藏法數》：謂人壽增至八萬四千歲時，有金輪王出，統領北ユキ鬱ム（音玉）單越等四洲。以十五日沐浴昇殿，有金輪寶忽現於前，輪有千輻，光色具足。若王欲往東方，輪則東轉，王乃將諸兵眾隨其後行。金輪寶

前，又有四神引導。輪所住處，王即止駕。南西北方，隨輪所至，亦復如是。於四天下，普勸人民修十善道，是名金輪王。（梵語鬱單越，華言勝處。）

1454. 【欲界六天】（科註第五七六頁倒數第四行）

《三藏法數》：一、四天王天，東方持國天王、南方增長天王、西方廣目天王、北方多聞天王。

二、忉利天，梵語タウリ忉タウ利リ天，華言三十三。往世三十三人，同修勝業，同生此天。

三、須夜摩天，梵語須夜摩，華言善時分。謂此天時時唱快樂，故又云受五欲境，知時分故。

四、兜率陀天，梵語兜率陀，華言知足。謂此天於五欲境知止足故。

五、化樂天，謂此天自化五塵而娛樂故。

六、他化自在天，謂此天假他所化樂事，以成己樂，即欲界天主。（五欲者，色欲、聲欲、香欲、味欲、觸欲也。五塵者，色塵、聲塵、香塵、味塵、觸塵也。）

1455. 【化樂】（科註第五七六頁倒數第四行）

《三藏法數》「化樂天」條：化樂天者，謂欲得五欲樂時，皆自變化，以相娛樂故也。此天由修施、戒二種福業，勝兜率天，是以感報得生其中也。

《佛學大辭典》「化樂天」條：（界名）

Nirmanarajaya，六欲天之第五。在兜率天之

上，他化自在天之下。以人間八百歲為一日一夜。身長八由旬，身有常光。相向而笑，即成交媾。兒自男女膝上化生。其初生者，如人間十二歲之童。梵名尼摩羅，須涅蜜陀。

智度論九曰：「化自樂天。」

仁王經上曰：「化樂天。」

俱舍論十一曰：「樂變化天。」

智度論九曰：「化自樂者，自化五塵而自娛樂故，言化自樂。」

仁王經上曰：「若菩薩住十億佛國中，作化樂天王修千億法門。」

1456. 【大梵天王】（科註第五七六頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（天名）大梵天為初禪

天之王，故曰大梵天王，略曰大梵王，亦曰梵王。色界十八天之通名，然以就初禪梵天之王而言，為常。

1457. 【慧苑音義】（科註第五七七頁第八行）

《佛光大辭典》：凡二卷。唐代慧苑撰。本書就新譯大方廣佛華嚴經八十卷中之難字加以注音釋義。為新譯大方廣佛華嚴經音義之略稱。又作新譯華嚴經音義、華嚴經音義、一切經音義。收於大正藏第五十四冊慧琳音義卷二十一至卷二十三。

慧苑為賢首大師法藏之弟子，深究華嚴宗義，故有音義之作，此書附有華嚴經中梵語之正譯及略解，其中，為說明譯語之字音、字義，引用之書目甚多，除內典外，尚採用

教外典籍，如論語、孟子、易經、尚書、老子等，及諸家之注本、歷來各類形音義辭書，凡百餘種，為研究考證、訓詁（音古）、聲韻等學者所欽奉之書。後慧琳撰一切經音義，亦採取其法。（宋高僧傳卷六、貞元新定釋教目錄卷十四、諸宗章疏錄卷一）

1458. 【白檀】（科註第五七七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（植物）香木名。白色之旃<sup>zhān</sup>旃<sup>ㄓㄢ</sup>（音沾）檀也。旃檀有赤白黑紫等之別。

大日經疏七曰：「白檀香西方名為摩羅度，是山名，即智論所云，除摩梨山，更無出旃檀處是也。」

1459. 【熱病】（科註第五七七頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：中醫病症名。指冬天受寒，到了夏季因時令之熱而發的疾病。《難經·五十八難》：「傷寒有五：有中風，有傷寒，有濕溫，有熱病，有溫病……熱病之脈，陰陽俱浮，浮之滑，沉之散濇。」

1460. 【風腫】（科註第五七七頁倒數第四行）

《醫學百科》（節錄）：病名。一、腫病之一。出《靈樞·五變》。又名痛風腫、痛風身腫。《丹溪心法·水腫》：「風腫者，皮粗，麻木不仁，走注疼痛。」

二、外科病證之一。《諸病源候論·風腫候》：「凡人忽發腫，或著四肢，或在胸背，或著頭項。病久不瘥chài 多（病除也），則氣結盛生熱，化為膿血，並皆爛敗。」

1461. 【優鉢羅】（科註第五七七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（植物）Upala，又作烏鉢羅，ou 漚（音歐）鉢羅，優鉢刺。花名。譯曰青蓮花，黛花，紅蓮花。

慧苑音義上曰：「優鉢羅，具正云尼羅烏鉢羅，尼羅（Nila）者此云青。烏鉢羅者花號也，其葉狹長，近下小圓，向上漸尖，佛眼似之經多為喻，其花莖似藕稍有刺也。」

玄應音義三曰：「優鉢刺，又作漚鉢羅，此譯云黛花也。」

法華玄贊一曰：「優鉢羅者，此云紅蓮花。」

大日經疏十五曰：「優鉢羅花，有赤白二色，又有不赤不白者，形如泥盧鉢羅花。」

1462. 【觀佛經】（科註第五七七頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（經名）佛說觀佛三昧

海經之略名。（參見《觀佛三昧海經》1984）

1463. 【戒香】（科註第五七七頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）戒德熏於四

方，譬之以香。

觀無量壽經曰：「戒香熏修。」

觀佛經三曰：「常以戒香，為身瓔珞。」

戒香經曰：「世間所有諸華香，乃至沈檀

龍麝shè（音社）香，如是等香非遍聞，唯聞戒

香遍一切。」

1464. 【戒香經】（科註第五七七頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（經名）佛說戒香經，

一卷，宋法賢譯。與上經（佛說戒德香經）同

本。

1465. 【沈chén檀chén】（音臣）檀（科註第五七七頁倒數第一

行）

《佛學大辭典》：（物名）沈香與zhān旃

（音沾）檀香。

1466. 【龍麝】（科註第五七七頁倒數第一行）

《漢語大詞典》：龍涎xián（音咸）香與shè麝

（音社）香的並稱。（龍涎香：抹香鯨病胃的分

泌物。類似結石，從鯨體內排出，漂浮海面或沖上

海岸。為黃、灰乃至黑色的là蠟（音辣）狀物質，

香氣持久，是極名貴的香料。）

1467. 【丈六】（科註第五七八頁第六行）

《三藏法數》「小化身丈六」條：小化身

丈六者，謂如來為應二乘、凡夫之人，說於

四諦等法，令其捨妄歸真，而得開悟，故化

現丈六之身也。(二乘者，聲聞乘、緣覺乘也。四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。)

《佛學大辭典》：(術語)身長一丈六尺，是通常化身佛之身量也。

佛說十二遊經曰：「調達身長丈五四寸，佛身長丈六尺，難陀身長丈五四寸，阿難身長丈五三寸，其貴姓舍夷一丈四尺，其餘國皆長丈三尺。」

行事鈔下曰：「明了論云：人長八尺，佛則倍之丈六。」

業疏四上曰：「佛在人倍，人長八尺，佛則丈六，並依周尺以定律呂(標準)也。」

觀無量壽經曰：「阿彌陀佛，神通如意，於十方國變現自在。或現大身滿虛空中，或

現小身丈六、八尺，所現之形皆真金色。」

1468. 【八十隨形好】(科註第五七八頁第七行)

《三藏法數》：〔出華嚴經隨疏演義鈔〕

一、指爪狹長，薄潤光潔。二、手足指圓，纖長柔軟。三、節骨不現，手足各等無差，指間充密。四、手足圓滿，軟淨光澤。五、筋脈盤結，深隱不現。六、兩踝深隱，骨不顯露。(踝，胡瓦切。今音懷，腳腕兩旁凸起的部分)七、行步正直，端莊嚴肅。八、行步威容，齊整如師子王。九、行步安平，穩如象王。十、行步有儀，進止詳緩。十一、回身顧視，必皆右旋。十二、支節漸次，安布殊勝。十三、骨節交結，宛如龍盤。十四、膝輪圓滿，妙善安布。十五、隱

處妙好，圓滿清淨。十六、身支潤滑，柔軟鮮潔。十七、身容敦肅，自在無畏。十八、身支堅固，稠密相屬。十九、身支安定，厚重不動。二十、身相端嚴，光明離垢。二十一、身有圓光，隨處照耀。二十二、腹形方正，柔軟不現。二十三、臍深右旋，圓妙光澤。二十四、臍厚妙好，不窵不凸。（窵，鳥爪切。今音哇，低洼也）二十五、肌膚勻淨，鮮明離垢。二十六、手掌充滿，柔軟方平。二十七、手文深長，明直潤澤。二十八、唇色紅潤，如頻婆果。（梵語頻婆，華言相思。）二十九、面門圓滿，妙好端嚴。三十、舌相長廣，彌覆難量。三十一、發聲威震，如雷普聞。三十二、音韻美妙，和暢清

遠。三十三、鼻高修直，兩竅不現。三十四、諸齒方整，堅密鮮白。三十五、諸牙明潔，漸次鋒利。三十六、目廣清淨，洞徹分明。三十七、眼相修廣，如青蓮華。三十八、眼睫上下，齊整稠密。三十九、雙眉修長，黑澤細軟。四十、雙眉綺靡，紺琉璃色。四十一、雙眉高朗，猶如半月。四十二、耳厚修長，輪埵成就。四十三、兩耳相好，綺麗齊平。四十四、容儀端麗，見者無厭。四十五、額廣圓滿，平正殊特。四十六、身分殊勝，上下勻等。四十七、首髮修長，紺青稠密。四十八、首髮香潔，柔潤光澤。四十九、首髮齊整，不亂不雜。五十、首髮堅固，永無斷落。五十一、首髮光滑，

塵垢不著。五十二、身分堅實，逾那羅延。  
（梵語那羅延，華言金剛，謂堅固也。）五十  
三、身體莊嚴，長大端直。五十四、諸竅清  
淨，塵垢不染。五十五、身力充美，無與等  
者。五十六、身相嚴好，眾所樂觀。五十  
七、面輪修廣，淨如滿月。五十八、顏貌舒  
泰，光顯含笑。五十九、面顏光澤，遠離塵  
垢。六十、身支嚴淨，恒無垢穢。六十一、  
諸毛孔中，常出妙香。六十二、面門常出微  
妙之香。六十三、首相妙好，周圍平等。六  
十四、身毛纖柔，紺青光澤。六十五、法音  
圓辯，隨機普應。六十六、頂相高妙，無能  
見者。六十七、手足指網，分明嚴整。六十  
八、行不履地，去地四指，而地現印文。六

十九、神力自持，不待他衛。七十、威德遠  
震，善類悅聞，魔外慴伏。（慴，質一切。  
今音攝，恐懼也）七十一、音聲和雅，悅可眾  
心。七十二、觀機淺深，隨類說法。七十  
三、一音深說，隨類得解。七十四、次第說  
法，各隨機緣。七十五、等觀有情，冤親平  
等。七十六、所為先觀後作，各赴機宜。七  
十七、相好具足，瞻視無盡。七十八、頂骨  
堅實，窮劫不壞。七十九、顏容奇妙，常若  
少年。八十、手足胸臆，吉祥德相，妙好具  
足。（文中序號為後補入）

1469. 【隨形好】（科註第五七八頁第七行）  
《佛學大辭典》：（術語）佛身先具幾多  
大人之相，隨其相一一復有幾許之好形，名

之為相好。因而好為隨逐於相之形容，故曰隨形好，或單曰好。

觀無量壽經曰：「無量壽佛有八萬四千相，一一相各有八萬四千隨形好。」

1470. 【寶手】（科註第五七九頁第六行）

《佛光大辭典》「寶手菩薩」條：寶手，

梵名 *Rama - pāni*，音譯囉怛怛（音答）（音答）nāng 曩播

拈。又稱寶掌菩薩。位列密教現圖胎藏界曼荼羅地藏院九尊中之第六位。此菩薩以淨菩提心之如意寶珠成滿世間及出世間之悉地，猶如意珠在手，能滿足一切所願，故稱寶手菩薩。密號滿足金剛，種子為 **𑖀** (*pari*)，三昧耶形為三股杵。其形像乃左手按腰持蓮花，花上有三股金剛杵，杵上並有寶珠焰鬘，右

手舒掌托寶珠當胸，半跏趺坐於赤蓮花上。〔大日經卷二具緣品、大日經疏卷五、卷十、卷十三、攝大儀軌卷二〕

1471. 【妙臂】（科註第五七九頁第六行）

《佛學大辭典》「妙臂菩薩」條：（菩薩）

又曰蘇婆呼童子。蘇婆呼，譯妙臂。

1472. 【五河】（科註第五七九頁第七行）

《中華佛教百科全書》：一指印度恆河及其四條支流：見於阿含經等經論。此五河即：（一）恆伽，即現今之恆河。（二）閻牟那，即今朱木納河，在阿拉哈巴遍入主流。（三）薩羅由，即今之嘎哥拉河，南流至闍普拉附近遍入恆河。（四）阿夷羅跋（音拔）提，即今之拉布提河，與哥格拉河匯合後再注入恆河。（五）

莫<sup>工</sup>醯<sup>工</sup>（音西），即今之庫西河，發源於尼泊爾，南流至巴加鋪的東方而遍入主流。

二指印度河及其四條支流：此五河即：（一）信度河，即今之印度河。又作新頭、辛頭、私頭或信陀。發源於西藏西南隅開拉沙山之陽，與kā喀布爾、潘基那等河遍合後注入阿拉伯海。（二）毗鉢奢<sup>アセ</sup>（音賒），即今之比阿斯河。（三）ū<sup>ウ</sup>藹<sup>ウ</sup>（音矮）羅筏底，即今之拉維河。（四）設咀<sup>ウ</sup>茶<sup>ウ</sup>（音徒）盧，即今之薩特日河。（五）毗咀娑多，即今之傑納布河。後四河即阿毗曇<sup>去</sup>（音談）毗婆沙論所揭之毗婆奢、伊羅跋提、奢多頭、毗德多。

1473. 【<sup>zēng</sup>增<sup>ア</sup>】（音增）蓋】（科註第五七九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：以絹布所作之大蓋。

○蓋：笠（音力。可遮陽遮雨）蓋，比丘所用者。

釋氏要覽中曰：「律云：跋難陀比丘，持大蓋行（似今涼傘也）。諸居士遙見謂是官人，皆避道。及近元是比丘，乃譏嫌之。佛乃制戒：不應持大蓋，若天雨即聽。」同卷曰：「蓋有二種：一竹蓋，二葉蓋。寄歸傳云：西域僧，有持竹蓋，或持傘者。」

（又）佛之供具。寶蓋天蓋等。

增一阿含經曰：「是時梵天王在如來右，釋提桓因在如來左，手執拂。密跡金剛力士，在如來後，手執金剛杵。毘沙門天王，手執七寶之蓋，處虛空中，在如來上，恐有

塵土空如來身。」蓋之用，有防塵埃者。

觀無量壽經曰：「其光如蓋，七寶合成，遍覆地上。」

### ◎ 圓滿成就第九

1474. 【金剛王寶劍】（科註第五八三頁第三行）

《佛學大辭典》：（譬喻）臨濟四喝之一。謂臨濟有時一喝，為切斷一切情解葛藤之利劍也。

臨濟錄曰：「師問僧：有時一喝如金剛王寶劍，有時一喝如踞地金毛獅子，有時一喝如探竿影草（探竿、影草，都是漁民使魚聚集後下網捕撈之法。以喻善知識隨宜施教之善巧），有

時一喝不作一喝用，汝作麼生會！僧擬議，師便喝。」

人天眼目曰：「金剛王寶劍者，一刀揮斷一切情解。」

1475. 【南泉】（科註第五八四頁第一行）

《佛學大辭典》：（人名）唐池州南泉山普願禪師，馬祖之法嗣也。初習律，於教觀究精要，後入馬祖之門，頓忘筌蹄（筌，音全，捕魚竹器；蹄，音提，捕兔之網。比喻達到目的的手段或工具），心地悟明。德宗貞元十一年留錫池州不下南泉者三十餘年。文宗太和初，宣城陸亘，請師下山，伸弟子禮，令說法要。太和八年十一月寂，壽八十七。見傳燈錄八。

1476. 【法華論疏】（科註第五八四頁倒數第五行）

《天台教學辭典》：三卷（或二卷）。隋代吉藏（五四九—六二三）大師述。為世親大士所造「法華論」之注疏。收于大正藏第四十冊。吉藏大師著，諸多有關「法華經」注釋書，其立場深受「法華論」之影響。

全書旨在指南北朝時代四宗、五時等教判之歪曲法華經意，例如貶低「法華經」為無常教，或覆相常住教，謂「法華經」無有根本一乘佛乘之真實義，「涅槃經」無佛性常住義等。故吉藏大師基（「基」疑為贅字）依三論宗之立場，力說倡「法華一乘」妙旨，以闡明法華之殊勝，此書對教理史之影響極大！〔新編諸宗教藏總錄卷三、諸宗章疏錄

卷一、東域傳燈目錄卷下〕

1477. 【法華經普賢勸發品】（科註第五八四頁倒數第二行）

即《普賢菩薩勸發品》。見「法華經勸發

品》1407。

1478. 【毘首羯磨】（科註第五八六頁第一行）

《佛學大辭典》：（天名）*visvakarmān*，又作毘守羯磨。新云毘濕縛羯磨。帝釋之臣，化作種種工巧物，又司建築之天神也。毘首羯磨，譯種種工業。因之西土之工巧者祭此天云。

智度論四曰：「巧變化師毘首羯磨天。」

順正理論十二曰：「毘濕縛羯磨天。」

玄應音義二十五曰：「毘濕縛羯磨天，此

譯種種工業，案西國工巧者多祭此天也。」

起世因本經七曰：「時帝釋天王欲得瓔珞，即念毘守羯磨天子，時彼天子即便化作眾寶瓔珞奉上天王。若三十三天眷屬等須瓔珞者，毘守羯磨悉皆化作而供給之。」

止觀五曰：「譬如毘首羯磨造得勝堂。」

同輔行曰：「毘首，是天家巧匠也。」

1479. **【折伏為威，攝受為德】**（科註第五八六頁第五行）

《佛學大辭典》「攝折」條：（術語）攝受折伏之二門也。

止觀十曰：「夫佛有兩說：一攝二折，如安樂行不稱長短是攝義，大經執持刀杖乃至斬首是折義。雖與奪殊途，俱令利益。」

○二門（節錄）：一、折伏門，折惡伏非而不假借，是佛大智之德也。二、攝受門，不與物逆，善惡皆攝取之，是佛大悲之德也。

1480. **【廣大會】**（科註第五八六頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）阿彌陀佛也。具廣大集會之德，故有此名。十方眾生往生集於極樂，其法會盛大，全為彌陀之德故也。

《簡明淨土宗辭典》：阿彌陀佛三十七號之一。謂十方眾生得以往生極樂，皆因彌陀具足廣大集會之德，故稱阿彌陀佛為廣大會。此會甚大，自彼佛初會乃至未來，無量無邊不可勝計之眾生，願參與此盛大法會，

皆是彌陀在座之故。

《讚阿彌陀佛偈》故有：「稽首廣大會」一語。

1481. 【密嚴世界】（科註第五八六頁倒數第四行）

見「密嚴淨土」1390。

1482. 【密嚴法藏疏】（科註第五八六頁倒數第一行）

唐·法藏所撰之《密嚴經疏》。見「密嚴經疏」1391。

1483. 【蓮華藏世界】（科註第五八七頁第二行）

《佛學大辭典》：（界名）諸佛報身之淨土也。為寶蓮華所成之土，故名。略曰華藏世界。釋迦之華藏，華嚴經所說是也，彌陀之華藏，觀經所說之極樂是也，大日之華藏，大日經胎藏界密嚴經之密嚴國是也。

（參見「華藏世界」1401）

1484. 【金剛頂經】（科註第五八七頁第二行）

《佛學大辭典》：（經名）真言教三部經（大日經、金剛頂經、蘇悉地經）之一。是為梵本十萬偈十八會之總名，故通於現行流布金剛界之諸經，然特以三本為主：一為不空所譯三卷之教王經，具名金剛頂一切如來真實攝大乘現證大教王經，十八會之第一會四品中譯其第一品者。二為施護所譯三十卷之教王經，具名佛說一切如來真實攝大乘現證三昧教王經。盡譯第一會之四品者。三為金剛智所譯四卷之略出經，具名金剛頂瑜伽中略出念誦經。已上三本皆稱金剛頂經，但尋常所指之金剛頂經為第一本。

1485. 【《金剛破空論》】（科註第五八八頁第六行）

全稱《金剛般若波羅蜜經破空論》。一卷。姚秦三藏法師鳩摩羅什譯經，皇明菩薩沙彌智旭際明造論。收於《卍新纂續藏經》第二十五冊。

1486. 【《首楞嚴觀音圓通章》】（科註第五八八頁倒數第一行）

即《觀世音菩薩耳根圓通章》，出《大佛頂首楞嚴經》卷六。

1487. 【《信心銘》】（科註第五八九頁第四行）

《佛學大辭典》：（書名）（禪宗）三祖僧璨作。見傳燈錄二十（疑作「三十」）。

《中華佛教百科全書》：一卷。相傳為隋僧璨（？—六〇六）所作。收於《大正藏》

第四十八冊〈景德傳燈錄〉卷三十、《禪宗全書》第九十四冊。全文由四言韻文所成，計一四六句、五八四字。始自「至道無難，唯嫌揀擇」，終於「言語道斷，非去來今」。內容主要在歌咏超越一切對立與差別、平等一味之絕對世界，並闡明信心不二的禪思想。由文中包含有受老莊思想及僧肇思想影響的萬物一體觀，及受華嚴學影響的一多相即思想，因此被視為以中國化思想解說禪法真髓的重要著作，與牛頭法融《心銘》之思想相近，對後世禪思想之形成極具影響力。

關於作者，《百丈廣錄》謂傳說三祖僧璨所作。然僧璨之事迹不詳，且《歷代法寶記》與《寶林傳》中亦未述及僧璨造《信心

銘》；五代之永明延壽（九〇四—九七五）則依當時江東所傳，謂此書作者為牛頭法融。如《宗鏡錄》云：「融大師信心銘云：欲得心淨，無心用功。」

本書自古廣受禪家重視。註疏有宋清了《信心銘拈古》、元明本《信心銘闡義解》、明道霈《信心銘看話》，日本有瑩山紹瑾《信心銘拈提》、茂本無文《信心銘講義》、堀口周道《信心銘夜塘水講義》、近重真澄《信心銘評》等。

1488. 【法報化三身】（科註第五八九頁倒數第一行）  
《佛學大辭典》「法報應三身」（節錄）：

臺家所立之三身也。一、法身，中道之理體也，本有之三千也。二、報身，報因行功德

而顯佛之實智也。三、應身，又曰應化身。自理智不二之妙體，為化度眾生應現種種之身也。

○三身三德：（名數）三身者法報應。三德者法般解。二者配對，則法身即法身之德。報身為般若之德。應身為解脫之德。

1489. 【bào 瀑ウヅ（音抱）】（科註第五九〇頁第六行）  
《說文解字》：疾雨也。

1490. 【太清】（科註第五九二頁第六行）  
《漢語大詞典》：天空。

1491. 【淨妙】（科註第五九二頁第一行）  
《佛學大辭典》：（雜語）清淨微妙也。

法華譬喻品曰：「是皆一相一種，能生淨妙第一之樂。」

1492. 【五塵】（科註第五九二頁第一行）

《三藏法數》：「〔出法界次第〕塵，即垢染之義。謂此五塵能染污真性故也。」

一、色塵：謂眼所見青黃赤白及男女形貌等色，是名色塵。

二、聲塵：謂耳所聞絲竹環珮之聲，及男女歌詠等聲，是名聲塵。

三、香塵：謂鼻所嗅梅檀沉水飲食，及男女身分所有香等，是名香塵。

四、味塵：謂舌所嘗種種飲食肴膳美味等，是名味塵。

五、觸塵：謂身所觸男女身分柔軟細滑，及上妙衣服等，是名觸塵。

1493. 【四住惑】（科註第五九二頁第二行）

《佛學大辭典》「四住地」條：（名數）常略名四住。三界見思之煩惱也。

一見一切住地，三界之一切見惑也。

二欲愛住地，欲界之一切思惑也，思惑之中以貪愛為重過，故舉重而攝他。

三色愛住地，色界之一切思惑也。

四有愛住地，無色界之一切思惑也。

於此加入無明住地，稱為五住地，皆言住地者，以此五法為生一切之過，恒沙之煩惱之根本依處故也。是勝鬘經之法門。

止觀輔行六曰：「同四住塵，處處結緣。」

四教儀曰：「見思惑，又云見修，又云四住。」

1494. 【四聖六凡】（科註第五九二頁第三行）

《中華佛教百科全書》「四聖」條（節

錄)：出世間的四種聖者：即聲聞、緣覺、菩薩、佛。如《釋摩訶衍論》卷二云：「眾有四種，云何為四？一者一切如來眾，二者一切菩薩眾，三者一切聲聞眾，四者一切緣覺眾。」〔中略〕以四種眾攝諸聖盡。」

又，《法華經玄義》卷二(上)云(大正33·693c)：「以十如是約十法界，謂六道四聖。」即謂天趣已下的六趣有情迷於生死苦

海，聲聞已上四者離煩惱，斷輪迴之苦。前者稱之為六凡，後者稱為四聖。二者構成十界，又稱六凡四聖。(參見「十法界」1084)

1495. 【應迹】(科註第五九二頁第四行)

《佛學大辭典》「應迹」條：(術語)應化垂跡。應於機緣而化現垂跡之身也。

觀音玄義上曰：「上地為真為本，下地為應為跡。」

勝鬘寶窟中本曰：「應跡為論，應感既彰。」

1496. 【《像法決疑經》】(科註第五九二頁倒數第六行)

《佛學大辭典》：(經名)一卷，大周刊定眾經目錄列之於偽經目錄中。然天台以之為涅槃經之結經，往往引用之。

法華文句九下曰：「像法決疑經結成涅槃。」釋籤十曰：「彼像法決疑結涅槃。」

《中華佛教百科全書》：一卷。譯者不詳。收於《大正藏》第八十五冊。內容敘述佛滅一千年後佛法衰變之相，並勸導修布施大悲行。書中首述佛於跋提河邊將入涅槃時，因常施菩薩之問而作開示。謂於未來世

像法中，比丘、比丘尼、國王、大臣等多輕賤佛法，雖作眾善，卻以名利為重，無一念出世之心。時人見舊寺塔廟形像及經典之破落毀壞者，不肯修治，然仍競建新寺等，佛謂此乃顛倒之作善。

此外，亦述及施佛法僧三寶之敬田，以至施貧窮孤老乃至蟻子等之悲田、食肉為反大悲之行、諸弟子禁食眾生之肉等教示。

其次，佛謂如來所說總攝萬法，一音所唱，能令一切眾生隨其根性，所解不同；然像法中之惡比丘，不解佛意，執己所見宣說十二部經，又作決定之說，且自稱我是法師、我是律師、我是禪師等而破滅佛法。如是比丘，佛滅千年後漸興，千一百年後充滿

閻浮提，不修道德，專求財物，自營商賈、畫業、占相、呪術、針灸等事，因之，俗人皆輕賤三寶。其次，佛勸勉在如是諸惡起時，一切道俗應當修學大慈大悲，念一切眾生皆是我父母兄弟姊妹眷屬，隨力愍念救濟；若見苦厄眾生，即作種種方便，不惜身命；又行布施時，觀受者施者及財物之三者俱空；最後言此經亦名濟孤獨云云。

本經之傳譯事實不明。《歷代三寶紀》卷十三以之為大乘失譯經而入藏；《法經錄》卷二編於疑惑錄中；《彥琮錄》卷四亦置於疑偽錄；《開元釋教錄》卷十八亦置於偽妄亂真錄，且依同錄《瑜伽法鏡經》之下所述，謂本經即彼經之《常施菩薩所問品》，

既為偽妄，故不入藏云云。又，宋元明及高麗等諸藏皆不收此經。

然亦有持異說者，近世日本比叡山安樂律院本純，曾撰《像法決疑經記懸談》，辯本經為真典。享保（一七一六—一七三六）初年，該山徒眾且集議，將此經納於中堂院藏經函中。〔《法華文句》卷九（下）；《三階佛法》卷三；《法華玄論》卷八〕

1497. 【勝應】（科註第五九三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「勝應身」條：（術語）

又名尊時身。天台立法報應之三身，其報身分為自受用，他受用之一、其他受用之報身，對於自受用而名為應身，對於第三應身之劣而名為勝，蓋勝應身為他受用之報身

也。

法華文句記九之一曰：「故他受用亦得名報，亦得名應。若勝若劣，俱名應故。」

止觀一之二說見相發心，四教之人見佛之相好而發菩提心。依此則藏教之人，觀劣應之相好，通教之人，觀勝應之相好，別教之人，觀報佛之相好，圓教之人，觀法佛之相好。是為就三身中之應身，而分勝劣者，與從前報身中分開勝應異。蓋此為對於丈六之佛身而配觀想之淺深於四教者，與自佛身上分判法報應三身異其義門也。是乃天台一家之法義，不可與其他通途之二身門相和會。

《天台教學辭典》「勝應身」條：又稱尊特身。乃劣應身之對稱。台宗將佛應身分為

勝、劣二種，其勝者稱為勝應身。此係對於初地以上菩薩，而應現尊特舍那身。此身為藏、通、別、圓四教中之通教利根者（已徹見「不但空」理）所見之佛身，亦即于丈六佛身上，所現周遍法界相好身。「摩訶止觀」卷一之二闡釋「見相發心」之理時，謂四教人依根機不同，見佛之不同相好而發菩提心！依此則藏教人觀劣應相好；通教人觀勝應相好；別教人觀報佛相好；圓教人觀法佛相好。此係以三身中之應身而分勝劣，乃對于丈六佛身而配觀想淺深于四教。

蓋四教中，藏教人所見佛身即劣應身，劣應身亦顯現丈六相于四土中居凡聖同居土，而通教人所見勝應身，雖亦同為丈六身相佛

身，然能變現神通，隨意自在示現十里乃至百億里之相，于四土中居于方便有餘土，由此可知兩者具有明顯勝劣之別。

此外，勝應身又指報身中之「他受用身」。台宗自佛身分判為法、報、應三身，其中報身又分為自受用身、他受用身。他受用身，乃諸如來由平等智，示現微妙淨功德身，轉正法妙之身。自受用身，乃諸如來修習無量福慧，恆自受用廣大法樂之身，故他受用對自受用而稱應身！又對於第三應身之劣而稱其為勝；蓋勝應身，為他受用之報身。「法華文句記」卷九下「故他受用亦得名報，亦得名應。若勝若劣，俱名應故。」〔法華文句卷九之一、金光明文句卷一、卷

二、四教儀集註半字談卷五（癡空）

1498. 【劣應】（科註第五九三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「劣應身」條：（術語）

台家分三身中之報身為自受用，他受用。他受用之報身名為勝應身。即對於初地以上之菩薩而應現之尊特舍那身也。又是真應二身中之應身也。又對於地前之凡夫二乘而應現之丈六佛身曰劣應身，為八相成道之佛身。法報應三身中之應身也。

四教儀曰：「示從兜率降下，託摩耶胎住胎、出胎、納妃、生子，出家苦行六年，已後於菩提樹下以草為座，成劣應身。」同集註上曰：「劣應對大乘勝應判為劣也。」

1499. 【智覺】（科註第五九四頁第五行）

永明大師之號也。（參見「永明」325）

1500. 【總持教】（科註第五九四頁第五行）

即指密教。

1501. 【三十七佛】（科註第五九四頁第六行）

《佛光大辭典》「金剛界三十七尊」條：謂密教金剛界曼荼羅成身會安置之三十七尊。又稱塔中三十七尊。包括：

一、五佛，即大日如來、阿閼如來、寶生如來、無量壽如來、不空成就如來。

二、四波羅蜜，乃大日如來之四親近，由大日如來所生，表四佛之定德。即金剛波羅蜜菩薩、寶波羅蜜菩薩、法波羅蜜菩薩、<sup>jié</sup>羯<sup>hī</sup>（音結）磨波羅蜜菩薩。此四波羅蜜菩薩分別為阿<sup>chū</sup>闍<sup>xi</sup>（音觸）、寶生、無量壽、不

空成就等四佛之能生養育之母。

三、十六大菩薩，即：(一)阿閼如來之四親近：金剛薩埵、金剛王菩薩、金剛愛菩薩、金剛喜菩薩，(二)寶生如來之四親近：金剛寶菩薩、金剛光菩薩、金剛幢菩薩、金剛笑菩薩，(三)無量壽如來之四親近：金剛法菩薩、金剛利菩薩、金剛因菩薩、金剛語菩薩，(四)不空成就如來之四親近：金剛業菩薩、金剛護菩薩、金剛牙菩薩、金剛拳菩薩。

四、八供養菩薩，有內外之分。內四供養乃大日如來為供養四佛而流出者，即嬉、鬘mán（音瞞）、歌、舞四菩薩。外四供養乃四佛為供養大日如來而流出者，即香、華、燈、塗香四菩薩。

五、四攝菩薩，乃從大日如來心中流出，將一切眾生引入曼荼羅，表授給果地之法的化他之德，即鉤、索、suǒ 鑊勺（音所，古同「鎖」）、鈴四菩薩。

有關三十七尊之出生，經說不一，理趣釋及祕藏記等，如上述，謂由大日如來生四波羅密，由四波羅蜜生出四佛。金剛頂經、金剛頂瑜伽三十七尊出生義、菩提心論等，謂由大日如來生四佛，由四佛生四波羅蜜。略述金剛頂瑜伽分別聖位修證法門則說三十六尊皆由大日如來生出。又依祕藏記所載，內四供養乃四佛為供養大日如來所流出者，外四供養乃大日如來為供養四佛所流出。又十六大菩薩主慧德，故稱慧門十六尊；四波羅

蜜、八供、四攝等十六尊主定德，故稱定門十六尊。〔大乘入楞伽經卷七、諸佛境界攝真實經卷下、金剛頂瑜伽中略出念誦經、瑜伽瑜祇經、金剛頂瑜伽經十八會指歸、金剛頂瑜伽略述三十七尊心要、金剛頂蓮華部心念誦儀軌、金剛頂大教王經疏卷一〕

1502. 【五智（一）】（科註第五九四頁第六行）

《佛學次第統編》：五智者，大圓鏡智、平等性智、妙觀察智、成所作智、法界體性智。

一、大圓鏡智：第八阿賴耶識，在於因位，含藏染淨之種子，以生一切法之現行，至於果位，轉而成照一切法而現其影像之智，故喻曰大圓鏡智。

二、平等性智：因位之第七末那識，與我癡、我見、我慢、我疑，四煩惱相應，而任運執我他彼此之差別，為此差別之執故，則第八識受染污，前六識亦受染污，及至果位，轉而為緣一切法平等性，即真如實相之智，故曰平等性智。

三、妙觀察智：第六意識，在於因位，緣有為無為之一切法而觀察之，故至果位，轉而成妙觀察智。

四、成所作智：前五識在於因位，緣取現量五塵之境界而成所作，故至果位轉而成化他事業之智，故曰成所作智。

五、法界體性智：第九識在因位，為八識之總體。八識者，第九識之別作用也，至果

位轉而為世間出世間等之一切法體性智，故名法界體性智。（第九識，又曰清淨識。乃一切眾生清淨本源心地，諸佛如來所證法身果德。）

《佛學大辭典》（節錄）：（名數）顯教轉八識而成就四智，以立為究竟之報身如來。密教於此加第九識所轉之法界體性智而為五智，以為金剛界智法身之大日如來：

一、法界體性智，是轉奄摩羅識（第九識也，又作清淨識）所得。法界有差別之義，諸法差別，其數過於塵沙，是為法界。法界體性即六大（地水火風空識）也。大日住於此六大法界之三昧，名為法界體性智，主方便究竟之德。

二、大圓鏡智，是轉阿賴耶識所得。顯現

法界之萬象，如大圓鏡之智也。

三、平等性智，是轉末那識所得。成諸法平等作用之智也。

四、妙觀察智，是轉意識所得。分別好妙諸法而觀察眾機，說法斷疑之智也。

五、成所作智，是轉眼等之五識所得。成就自利利他妙業之智也。

此五智雖為一身所具之智德，而為引攝眾生，自本體出生四方之四智四佛，此時法界體性智住於本位，而為中央之大日如來。

由大圓鏡智而成東方之阿<sub>多</sub>闍<sub>多</sub>（音觸）如來，主發菩提心之德。

由平等性智而成南方之寶生如來，主修行之德。

由妙觀察智而成西方之阿彌陀如來，主成菩提之德。

由成所作智而成北方之不空成就如來，主人涅槃之德。

1503. 【法界清淨智】（科註第五九四頁第六行）

《佛學大辭典》「法界體性智」條：（術語）密家所立五智之一。無盡之諸法名法界。其諸法所依之體性，名法界體性智者，對之決斷分明也。此智以之配於五如來中之大日如來。

菩提心論曰：「中方毘盧遮那佛，由成法界智為本。」

秘藏記本曰：「法界體性智三密差別，數過刹塵，名之法界，諸法所依故曰體也。法

然不壞，故名為性。決斷分明，得以為智。」

1504. 【妙觀察智】（科註第五九四頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）顯教所說四智之一。轉凡夫之第六識而得至於佛果，觀察諸法而說法之智也。

心地觀經二曰：「妙觀察智轉分別識得此智慧，能觀諸法自相共相，於眾會前說諸妙法，能令眾生成不退轉，以是名為妙觀察智。」

（又）密教所說五智之一。配於西方無量壽佛之智德。

菩提心論曰：「西方阿彌陀佛由妙觀察，亦名蓮華智，亦名轉法輪智也。」

1505. 【《阿彌陀秘釋》】（科註第五九四頁倒數第五行）

一卷。(日)覺鏤(興教大師也。鏤,音宗)撰。收於《大正藏》第七十九冊。

1506. 【法界宮】(科註第五九四頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(雜語)胎藏大日如來之宮殿也，依處在摩<sub>訶</sub>醯<sub>醯</sub>(音西)首羅天。是古佛成菩提之處，具云廣大金剛法界宮。金剛喻實相智，法界為智性(即理體)，即理智妙合之處也。

大日經一曰：「一時薄伽梵住如來加持廣大金剛法界宮。」同疏一曰：「金剛譬實相智，〔中略〕法界者金剛廣大智體也。〔中略〕妙住之境，心王所都，故曰宮。此宮是古佛成菩提處，所謂摩醯首羅天宮。」

1507. 【甘露王】(科註第五九四頁倒數第一行)

《佛學大辭典》：(佛名)阿彌陀之別號。阿彌陀之咒，謂之甘露咒，故阿彌陀謂之甘露王如來。彌陀化身說法，shù<sub>澍</sub>(音述，降也)甘露之雨，以是稱其德也。但此時之梵語曰阿彌利帝。

胎藏曼陀羅大鈔一曰：「阿娑縛抄云：阿彌陀、阿彌利帝，梵語也。此翻無量壽，無量光，又正云甘露。故大咒云十甘露明，依之甘露王如來云：服甘露不老不死故，名無量壽矣。」

菩提心集經上曰：「甘露王者，應身也，甘露者，說法之德也。以法名，甘露之時梵語阿密<sub>唎</sub>唎<sub>唎</sub>(音力)多也。」Amrita。

1508. 【空諦】(科註第五九五頁第二行)

《佛學大辭典》：(術語)天台所立三諦之一。一切世間之法，不論有情非情，總為因緣生者，因緣生之法，自體不實，故曰空，此理為真，故曰諦。依中論偈之「因緣所生法。我說即是空。」二句而立之。(參見「三諦」1433，「三觀」1434)

1509. 【假諦】(科註第五九五頁第三行)

《佛學大辭典》「三諦」條(節錄)：假諦，言體性雖空，而假相實存在之道理也。

《天台教學辭典》「三諦」條(節錄)：

假諦：又云俗諦、有諦。諸法本雖即空，然因緣和合，則歷歷宛然。于空中立一切法，故稱假諦。

《佛學次第統編》「三諦」條(節錄)：

二、俗諦，俗即世俗，立一切法之謂也。諸法雖即本空，皆不可得。若以假觀照之，則能諦了性具諸法，歷歷宛然，故名俗諦。(參見「三諦」1433，「三觀」1434)

1510. 【中諦】(科註第五九五頁第三行)

《佛學大辭典》：(術語)天台所立三諦之一。中觀所對之理也。中者中正絕待之稱。謂不離二邊不即二邊，中正絕待之理也。(參見「三諦」1433，「三觀」1434)

1511. 【本初不生】(科註第五九五頁第四行)

《佛學大辭典》「阿字本不生」條：(術語)是密教之根本義。本不生者，本來本有，非今始生之義，是為阿字之實義。何謂阿字有不生之義？凡物之為元初根本者，必

為不生之法。生法必為能生之因，有能生之因，即非是根本元初也，今阿字即字之根本，更無能生之因，最便於知此為不生之義，故託於阿字使知一切諸法不生之義也，觀是謂之阿字觀。

大日經二曰：「阿真言教法，謂阿字門，謂一切諸法本不生。」

1512. 【佛部】（科註第五九五頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）胎藏界三部之一，又金剛界五部之一。總該曼荼羅諸尊中為佛之形像之部屬而稱為佛部。

○金胎：（術語）真言教成佛之作法，有金剛界胎藏界二途，稱為金胎兩部。

金剛界者為顯大日如來智德之曼陀羅，摧

破煩惱之猛利智慧猶如金剛，故謂之金剛界，金剛頂經之所說是也。

胎藏界者為顯大日如來理德之曼陀羅，理之攝持諸法，如於腹中胎藏其子，故謂之胎藏界，大日經之所說是也。

概言之，金胎兩部為標幟大日如來理智二德之一雙大法門。配之於事理因果，則金剛界為事為果，胎藏界為理為因。日本東密次第為金胎，是事理之次第也。日本台密次第為胎金，是因果之次第也。

1513. 【蓮華部】（科註第五九五頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）胎藏界三部之一。又金剛界五部之一。為觀音虛空藏等諸菩薩，司佛大悲三昧之諸尊也。胎藏界曼荼

羅十三大院中右方之觀音院地藏院諸尊是也。

大日經疏五曰：「右方是如來大悲三昧，能滋養萬善，故名蓮華部。」

蘇悉地經一曰：「諸佛形像即是佛部，諸菩薩形即蓮華部，諸世天像為金剛部。」

1514. 【金剛部】（科註第五九五頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）胎藏界三部之一。又金剛五部之一。持金剛杵標幟如來智德之諸尊也。胎藏界曼陀羅十三大院中，位於中臺大日左方之金剛手院，除蓋障院之諸尊是也。

大日經疏五曰：「右方是如來大悲三昧，能滋榮萬善，故名蓮華部。左方是如來大慧

力用，能摧破三障，故名金剛部也。」

蘇悉地經一曰：「諸佛形像即是佛部，諸菩薩形即蓮華部，諸世天像為金剛部。」

1515. 【人法二我】（科註第五九五頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「二我」條：（名數）一人我，二法我。

○二我見：（名數）一、人我見，一切凡夫，不了人身為五蘊假和合，固執人有常一我體之惡見也。

二、法我見，一切凡夫，不了諸法之空性，固執法有真實體用之妄見也。

起信論下末曰：「人我見者，計有總相主宰，法我見者計一切法各有體性。」

1516. 【生法】（科註第五九五頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）又曰人法，我法。有情曰生。非情曰法。如云生法二空，生法二忍等。

1517. 【法華經化城喻品】（科註第五九六頁倒數第六行）

《妙法蓮華經》之第七品。品中佛自頌言昔為大通智勝如來第十六王子時，曾教與會之眾。又為說化城喻小法，以示方便，引入佛慧。

《佛學大辭典》「化城喻品」條：（經名）法華經第三之終說化城之喻之品名也。化城者，一時化作之城郭也。其喻意以一切眾生成佛之所為寶所，到此寶所，道途悠遠險惡，故恐行人疲倦退卻，於途中變作一城

郭，使之止息，於此處養精力，遂到寶所，佛欲使一切眾生到大乘之至極佛果，然以眾生怯弱之力，不能堪之，故先說小乘涅槃，使一旦得此涅槃，姑為止息，由此更使發心進趣真實之寶所也。然則小乘之涅槃，為一時止息而說，是佛之方便也。

文曰：「譬如五百由旬，險難惡道，曠絕無人，怖畏之處。若有多眾，欲過此道至珍寶處。有一導師，聰慧明達，善知險道通塞之相。將導眾人，欲過此難。所將人眾，中路懈退。白導師言：我等疲極，而復怖畏，不能復進。前路猶遠，今欲退還。導師多諸方便，（中略）於險道中，過三百由旬，化作一城。（中略）是時疲極之眾，心大歡

喜，歎未曾有。（中略）爾時導師，知此人眾既得止息無疲倦，即滅化城，語眾人言：汝等去來。寶處在近，向者大城，我所化作，為止息耳。」

1518. 【靈芝《彌陀經義疏》】（科註第五九七頁第七行）

一卷。宋·元照撰。見「《靈芝疏》」469。

1519. 【胎藏界】（科註第五九七頁倒數第三行）

《中華佛教百科全書》（節錄）：密教二界之一。與「金剛界」相對。音譯 bō 蘊婆な矩奢駄都、蘊喇婆駄睹。全稱大悲胎藏生。《大日經疏》卷三以胞胎、蓮花二喻解釋「胎藏」之義：

一、胞胎之喻：謂識種子為母胎所覆藏，

具足諸根，不久誕生發育，習諸技藝，爾後施行於事業。猶如眾生本有性中有一切智心，由發心學大悲萬行而顯現其淨心。後發起方便，自利利他，圓滿究竟，名為大悲胎藏生。

二、蓮花之喻：謂蓮花之種子在堅殼中，枝條花葉之性已宛然具足，猶若世間種子心。此種子發芽、成長，乃至生花苞時，蓮臺果實隱於葉藏內，不為風寒眾緣所傷害，淨色鬚蕊日夜滋榮，猶如大悲胎藏。於日光中，花正開敷（開放也。敷，音夫），如方便滿足。

故知胎藏有含藏覆護或攝持之義，指眾生所具之理性。而理平等之法門，即稱胎藏界。

又，胎藏界乃本覺下轉之化他門，故約大定、大智、大悲三德，其曼荼羅分為佛、金剛、蓮華三部。若以三部配三密，則佛部為身密，金剛部為意密，蓮華部為語密。

《佛學大辭典》「胎藏界三部」條：（名數）金剛界為始覺上轉之自利門，故約轉識所提之五智，統收其曼荼羅於五部，胎藏界為本覺下轉之化他門，故約大定智悲之三德，統收其曼荼羅於三部：

一佛部，是於果上理智具足，覺道圓滿者，胎藏界曼荼羅中臺八葉院之諸尊及上下之諸院是也，是為大定。

二蓮華部，此為如來之大悲三昧，能滋榮萬善，故喻之而名蓮華部，觀音院地藏院之

在右方者是也。

三金剛部，是為如來之慧之力用，能摧破惑業苦之三障，故喻之而名金剛部，在金剛手院除蓋障院之左方者是也，是為大智。

而就現圖之第四重即外部之諸尊言之，有二義，一通中胎上下，攝於佛部，南方攝於金剛部，北方攝於蓮華部。一通四方，攝於釋迦院，釋迦為三界六道能化之佛，故外部之尊通為其眷屬也。

大日經疏五曰：「大凡此第一重，上方是佛身眾德莊嚴，下方是佛持明侍者，皆名如來部門。右方是如來大悲三昧，能滋榮萬善故名蓮華部。左方是如來大慧力用，能摧破三障故名金剛部。」

呼三部之次第有二種，此經佛蓮金之次第，由勝而劣之次第也。又瞿醯經蘇悉地經等次第為佛金蓮，是佛部為解脫，金剛部為般若，蓮華部為法身，故自本有修出於生之次第也。見秘藏鈔三。

1520. 【金剛界】（科註第五九七頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）Vajradhātu，開示大日如來智德之部門也。如來內證之智德其體堅固，有摧破一切煩惱之勝用，故譬以金剛。

大日經疏十二曰：「金剛喻如來秘密慧也。金剛無有法能破壞之者，而破壞萬物，此智慧亦爾。」

秘藏記本曰：「金剛界金剛者，佛內證智

也。」同末曰：「金剛不壞義，智也。」

○金剛界五部：（名數）金剛界為始覺上轉之法門，轉在迷之九識，成五種之果智，故分類為五部。今為便於解釋，列之如次：

一蓮華部，眾生心中有本有淨菩提心清淨之理，在六道生死之泥中不染不垢，猶如蓮華之由泥中出生，不染不垢，故名蓮華部。

二金剛部，眾生自心之理所，又有本有之智。在生死之泥中經無數劫，不朽不壞，能破煩惱，如金剛之久埋沒泥中，不朽不壞，故名金剛部。

三佛部，此理智在凡位未顯，入果位則理智顯現，覺道圓滿，故名佛部。

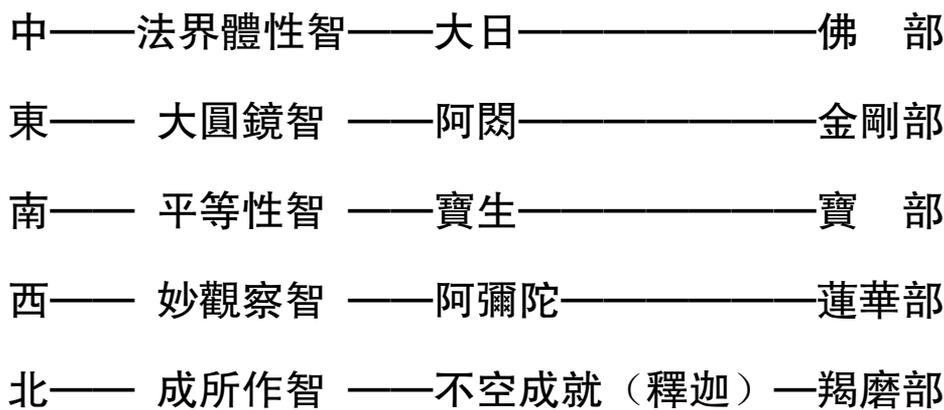
四寶部，佛之萬德圓滿中，福德無邊，故

名寶部。

五羯磨部，羯磨譯曰作業，佛為眾生而垂悲愍，成辦一切之事業，名羯磨部（秘藏記本）。

此中前二者，為在纏之因德，第三者為理智具足出纏之果位。是即胎藏界之三部也（其次第為佛蓮金）。後二者，於佛部中別開之。佛為二利圓滿之稱，其自證之邊云寶部，其化他之邊云羯磨部。如是於佛部中開二部，原為胎藏界曼荼羅之意，胎藏界曼荼羅，上中下中之通者，總曰佛部，此中下方有虛空藏院，是寶部也。上方有釋迦院，是羯磨部也。由此論之，胎金之三五，僅開合之異耳（秘藏記私鈔三）。今配之於五方五

智五佛則如圖。



## ◎ 皆願作佛第十

1521. 【阿闍王子】（科註第六〇〇頁第三行）

《無量壽經》漢譯本及吳譯本皆作：「時阿闍世王太子」。

窺基大師於所著《阿彌陀經疏》辨明，如此稱呼乃指阿闍世王之太子，而非指阿闍世王本人為太子之時：「人云：阿闍世王太子者，闍王身是。爾時由未篡位故為太子來至佛所。今釋不然，若爾應除王字，但言阿闍世太子，既標王及太子，明知即父子名殊。」

《佛學常見辭彙》「阿闍世」條：國王名，是佛住世時摩竭陀國的統治者，為太子時，聽惡友提婆達多的話，幽囚父王頻毗娑

婆。即位後，併吞小國，威震四鄰。但因害父罪，遍體生瘡，至佛所懺悔，痊癒後，即皈依釋尊，為佛門有力的護法。

由此可見，阿闍世王為太子時尚未皈依佛陀，故《無量壽經》中之「阿闍王子」並非指阿闍世王。

《大寶積經·阿闍世王子會第三十七》：「爾時阿闍世王所愛之子名為師子。與其同友五百人俱。皆已趣向阿耨多羅三藐三菩提。各持種種幢幡寶蓋。從王舍城往耆闍崛山。到如來所禮拜供養。」

由此可知，《無量壽經》中的「阿闍王子」或「阿闍世王太子」，指的應當是阿闍世王的兒子。

1522. 【法界身】（科註第六〇二頁第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）佛三身中之法身也。佛之法身為周徧法界眾生而感應之佛身，故名法界身。一身即現一切身也。

探玄記二曰：「現一身即一切身，名法界身。」

觀經定善義曰：「言法界者是所化境，即眾生界也。言身者是能化之身，即諸佛身也。」

觀無量壽經曰：「諸佛如來是法界身，人一切眾生心想中。」

天台觀經疏曰：「法界身者，報佛法性身也。眾生心淨法身自在，故言人眾生心想

中。」

1523. 【弘法大師】（科註第六〇五頁倒數第六行）

《佛學大辭典》「空海」條（節錄）：（人名）日本真言宗之開祖，弘法大師，名空海。入唐，就青龍寺慧果阿闍梨，悉傳受密法，歸國後，弘通密典，遂啟日本所謂東密之一派。

1524. 【法性身】（科註第六〇六頁第四行）

《三藏法數》：法性即法身也。謂此法性之身，徧滿十方，無量無邊，色像端正，相好莊嚴，以無量光明，無量音聲，能度十方法身菩薩，是名法性身。

1525. 【善財童子採藥】（科註第六〇六頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「善財採藥」條：（公案）

五燈會元（文殊章）曰：「文殊一日令善財採藥曰：不是藥者採將來，善財徧觀大地，無不是藥，卻來白云：無有不是藥者，文殊云：是藥者採將來，善財乃拈一枝草度於文殊，文殊拈起示眾云：此藥亦能殺人亦能治人。」（是禪門例之機語，經論無此事）。

### ◎ 國界嚴淨第十一

1526. 【碎身舍利】（科註第六〇七頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）如多寶塔中所現之多寶佛存全體者，謂為全身舍利。如釋迦佛之舍利，謂之碎身舍利。諸法從緣四句

之偈，謂之法身舍利。

1527. 【十七種莊嚴】（科註第六〇九頁第一行）

《往生論註》（節錄）：觀察彼佛國土功德莊嚴者，有十七種事應知。何者十七？一者莊嚴清淨功德成就。二者莊嚴量功德成就。三者莊嚴性功德成就。四者莊嚴形相功德成就。五者莊嚴種種事功德成就。六者莊嚴妙色功德成就。七者莊嚴觸功德成就。八者莊嚴三種功德成就。九者莊嚴雨功德成就。十者莊嚴光明功德成就。十一者莊嚴妙聲功德成就。十二者莊嚴主功德成就。十三者莊嚴眷屬功德成就。十四者莊嚴受用功德成就。十五者莊嚴無諸難功德成就。十六者莊嚴大義門功德成就。十七者莊嚴一切所求滿足功

德成就。

莊嚴清淨功德成就者。偈言：觀彼世界相，勝過三界道故。

莊嚴量功德成就者。偈言：究竟如虛空，廣大無邊際故。

莊嚴性功德成就者。偈言：正道大慈悲，出世善根生故。

莊嚴形相功德成就者。偈言：淨光明滿足，如鏡日月輪故。

莊嚴種種事功德成就者。偈言：備諸珍寶性，具足妙莊嚴故。

莊嚴妙色功德成就者。偈言：無垢光炎熾，明淨曜世間故。

莊嚴觸功德成就者。偈言：寶性功德草，

柔軟左右旋，觸者生勝樂，過迦旃隣陀故。

（迦旃隣陀，意譯實可愛鳥。水鳥之一種。其羽毛可製成柔軟之衣。據慧琳音義卷十九載，迦旃鄰提乃瑞鳥之名，其毛細軟，輕好如綿，緝績為衣或為絮，轉輪王方御此服。旃，音沾。）

莊嚴三種功德成就者。有三種事應知。何等三種？一者水，二者地，三者虛空。莊嚴水功德成就者。偈言：寶華千萬種，彌覆池流泉，微風動華葉，交錯光亂轉故。莊嚴地功德成就者。偈言：宮殿諸樓閣，觀十方無礙，雜樹異光色，寶欄遍圍繞故。莊嚴虛空功德成就者。偈言：無量寶交絡，羅網遍虛空，種種鈴發響，宣吐妙法音故。

莊嚴雨功德成就者。偈言：雨華衣莊嚴，

無量香普熏故。

莊嚴光明功德成就者。偈言：佛慧明淨日，除世癡闇冥故。

莊嚴妙聲功德成就者。偈言：梵聲悟深遠，微妙聞十方故。

莊嚴主功德成就者。偈言：正覺阿彌陀，法王善住持故。

莊嚴眷屬功德成就者。偈言：如來淨華眾，正覺華化生故。

莊嚴受用功德成就者。偈言：愛樂佛法味，禪三昧為食故。

莊嚴無諸難功德成就者。偈言：永離身心惱，受樂常無間故。

莊嚴大義門功德成就者。偈言：大乘善根

界，等無譏嫌名，女人及根缺，二乘種不生故。淨土果報，離二種譏嫌過，應知。一者體，二者名。體有三種：一者二乘人，二者女人，三者諸根不具人。無此三過故，名離體譏嫌。名亦有三種，非但無三體，乃至不聞二乘、女人、諸根不具三種名故，名離名譏嫌。等者，平等一相故。

莊嚴一切所求功德滿足成就者。偈言：眾生所願樂，一切能滿足故。（參見「二十九種

莊嚴」1858）

1528. 【尺尺蠖尺】（音或）（科註第六〇九頁第五行）

《漢語大詞典》：尺蠖蛾的幼蟲，體柔軟細長，屈伸而行。（蠖：蟲名。尺蠖。北方稱步

曲，南方稱造橋蟲。體細長，生長於樹，爬行時一

屈一伸。）

1529. 【胎獄】（科註第六一〇頁第五行）

《佛學大辭典》：（譬喻）四生中之胎生者，在母胎內之苦，譬如獄也。又云胎宮。

天台觀經疏序曰：「金寶之與泥沙，胎獄之與華池。」

1530. 【五陰】（科註第六一〇頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（術語）新譯曰蘊。舊譯曰陰。

淨影之說，如大乘義章八本所謂「積集名陰。陰積多法故。」是與新譯蘊之義同。

天台之說，如止觀五上所謂「陰者，陰蓋善法，此就因得名。又，陰是積集，生死重沓，此就果得名。」是陰有蔭覆與陰積之二

義。色，受，想，行，識，五法之名義，新舊皆同。（參見「五蘊」1040）

1531. 【八難】（科註第六一一頁第一行）

《三藏法數》：〔出維摩所說經〕

八難者，八處障難也。此之八處，雖感報苦樂有異，而皆不得見佛，不聞正法，故總稱為難也。

一、在地獄難：謂南瞻部洲之下，過五百由旬，有八寒、八熱等獄，皆名地獄。眾生因惡業所感，墮於彼處，長夜冥冥，受苦無間，障於見佛聞法，故名地獄難。（梵語瞻部洲，即閻浮提，華言勝金洲。八寒獄者，è頹è（音餓）浮陀獄、泥賴浮陀獄、阿zhà吒zhà（音炸）吒獄、阿波波獄、嘔喉獄、yù鬱yù

(音玉) 波羅獄、波頭摩獄、芬陀利獄也。八熱獄者，想獄、黑繩獄、堆壓獄、叫喚獄、大叫喚獄、燒炙獄、大燒炙獄、無間獄也。)

二、在畜生難：謂畜生種類不一，亦各隨因受報；或為人畜養，或居山海等處。常受鞭打殺害，又或互相吞噉，受苦無窮，障於見佛、聞法，故名畜生難。

三、在餓鬼難：謂餓鬼有三種：一其業最重者，長劫不聞漿水之名；二其業次重者，唯在人間伺求蕩滌膿血糞穢；三其業輕者，時或一飽，加以刀杖驅逼，填河塞海，受苦無量，障於見佛、聞法，故名餓鬼難。(劫，梵語具云劫波，華言分別時節。)

四、在長壽天難：謂此天以五百劫為壽，

即色界第四禪中無想天也。言無想者，以其心想不行，如冰魚蟄蟲(藏在泥土中過冬的小蟲。蟄，音哲)。外道修行，多生其處，障於見佛、聞法，故名長壽天難。

五、在北鬱單越難(亦作邊地難也。鬱單，音玉丹)：梵語鬱單越，華言勝處。謂此處感報勝東西南三洲也。其人壽一千歲，命無中天。為著樂故，不受教化，是以聖人不出其中，不得見佛、聞法，故名北鬱單越難。(東西南三洲者，東弗于逮，西瞿<sub>𑖀</sub>𑖀(音具)耶尼，南閻浮提也。)

六、盲聾瘖啞難：謂此等人雖生中國，而業障深重，盲聾瘖啞(不能言。瘖，音因)，諸根不具，值佛出世而不能見，佛雖說法亦不

能聞，故名盲聾瘖啞難。

七、世智辯聰難：謂世間之人，邪智聰利者，唯務耽習外道經書，不信出世正法，故名世智辯聰難。

八、生在佛前佛後難：謂佛出現於世，為大導師，令諸眾生，離生死苦，得涅槃樂。人有緣者，乃得值遇。其生在佛前、佛後者，由業重緣薄，既不見佛，亦不聞法，故名生在佛前佛後難。（梵語涅槃，華言滅度）（滅煩惱，度生死）。

1532. 【無想天】（科註第六一二頁第五行）

《佛學大辭典》：（界名）無想有情之天處也。有部與經部攝之於第四禪之廣果天，不立別處。上座部於廣果天之上，立無想天

之一處。

俱舍論五曰：「無想有情居在何處？居在廣果。廣果天中有高勝處，如中間靜慮，名無想天。」

1533. 【北鬱單越】（音玉）單越】（科註第六一二頁第六行）

《佛學大辭典》：（雜名）Uttarakuru，又曰北鬱單怛（音答）越，四大洲之一。鬱單越洲在須彌山之北方，故曰北。（參見「四大洲」961）

1534. 【音暗】（音因）啞】（科註第六一二頁倒數第六行）

《漢語大詞典》：啞巴，口不能言。  
1535. 【xiá 黯】（音霞）慧】（科註第六一二頁第三行）

《漢語大詞典》：機敏聰慧。

1536. 【正定聚】（科註第六一二頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）三聚之一（正定聚：必定證悟者）。（參見「三聚」1213）

1537. 【普光功德山王佛】（科註第六一二頁第四行）

《觀世音菩薩授記經》：善男子，阿彌陀佛正法滅後，過中夜分，明相出時，觀世音菩薩，於七寶菩提樹下，結加趺坐，成等正覺，號普光功德山王如來，應供、正遍知、明行足、善逝、世間解、無上士、調御丈夫、天人師、佛、世尊。其佛國土自然七寶，眾妙合成莊嚴之事，諸佛世尊，於恒沙劫說不能盡。（中略）其佛國土，無有聲聞

緣覺之名，純諸菩薩充滿其國。華德藏菩薩白佛言：世尊，彼佛國土名安樂耶？佛言：善男子，其佛國土，號曰眾寶普集莊嚴。

1538. 【義林章】（科註第六一二頁倒數第四行）

《唯識名詞白話辭典》「大乘法苑義林章」條：略稱法苑義林章，唐代窺基著，凡七卷，二十九章。書中對於唯識教義的組織及基本內容，如判教、唯識義理、修行理論、果位等，均有詳細的闡釋，係古來研究唯識的重要典籍。相傳另有八卷三十三章的異本，在原有二十九章外，另加得非得、諸空、十二觀、三根等四章。

1539. 【慧琳音義】（科註第六一二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（書名）本名一

切經音義。西明寺慧琳法師撰，故稱為慧琳音義。一百卷。

《中國佛教》「佛典音義」條(節錄)：慧琳撰《一切經音義》一百卷。慧琳為不空三藏的弟子，於顯密教及印度聲明、中華音韻訓詁之學都相當通達。唐德宗貞元四年(七八八)，他年五十一，開始撰《一切經音義》，至唐憲宗元和五年(八一〇)，歷二十三年撰成，書中所釋，悉為《開元釋教錄》入藏之籍。始於《大般若經》，終於《護命法》，總一千三百部，五千七百餘卷。有玄應舊音可用者用舊音，餘則自撰。其釋音多據《韻英》、《考聲》、《切韻》等書，釋義多據《說文》、《字林》、《玉篇》、《字

統》、《古今正字》、《文字典說》、《開元文字音義》等書。其有諸書所不備者，則兼採儒經雜史百家之說。所引書籍，達二百四十餘種之多。

本書音義精核詳審，前後諸家所作均不能出其右。除有助於讀經註經之外，凡研究儒經諸史疑義，求之於註疏而不得者，也往往可於本書採獲佐證。而且所引書傳皆隋末唐初之本，文字審正，可以校正今本偽脫之失。

1540. 【他化自在天】(科註第六二二頁倒數第二行)

《佛學大辭典》：(天名)略名他化天，欲界六天之第六，故稱為第六天。此天為快樂，不要自己樂具變現，下天化作，假他之

樂事，自在遊戲，故曰他化自在。梵名娑舍跋提 Parānirmitāvāsavartina，此天為欲界之主

與色界之主摩醯首羅天，皆為害正法之魔王。即四魔中之天魔也。佛成道時，來試障害者，亦此天魔也。或言第六天上別有魔之宮殿，魔王住之，非他化天王也。

智度論九曰：「此天奪他所化而自娛樂故言他化自在。」

俱舍頌疏世間品一曰：「他化自在天，於他化中得自在故。」

智度論五曰：「魔有四種，〔中略〕四者他化自在天子魔。」

佛祖統紀二曰：「諸經云：魔波旬在六欲頂，別有宮殿。今因果經乃為自在天王，如

此則當第六天。有此兩異，蓋是譯者用義之不同也。」

1541. 【波旬】（科註第六一二頁倒數第一行）

《翻譯名義集》：訛也，正言波卑夜，此云惡。釋迦出世，魔王名也。

什曰：秦言殺者，常欲斷人慧命故，亦名惡中惡。

惡有三種：一曰惡，若以惡加己，還以惡報，是名為惡。二曰大惡，若人不侵己，無故加害，是名大惡。三曰惡中惡，若人來供養恭敬，不念報恩，而反害之，是名惡中惡。魔王最甚也。諸佛常欲令眾生安隱，而反壞亂，故言甚也。

肇曰：秦言或名殺者，或云極惡。斷人善

因，名殺者。違佛亂僧，罪莫之大，故名極惡也。涅槃疏云：依於佛法而得善利，不念報恩，反欲加毀，故云極惡。亦名波旬踰，此云惡也，常有惡意，成惡法故。

1542. 【留難】（科註第六二二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）邪魔來留止人之善事，為修行之障礙也。

涅槃經三曰：「云何知天魔為眾作留難？」往生論註上曰：「第六天魔，常於佛所作諸留難。」

1543. 【四魔】（科註第六二三頁第一行）

《三藏法數》：「出瑜伽師地論」魔，梵語具云魔羅，華言能奪命；又云殺者，謂能奪智慧之命，而殺害出世善根故也。

一、蘊魔：蘊猶積聚也。謂色受想行識等積聚而成生死苦果，此生死法，能奪智慧之命，故云蘊魔。

二、煩惱魔：謂三界中一切煩惱，妄惑也。修行之人，為此妄惑，惱亂心神，不能成就菩提，是名煩惱魔。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

三、死魔：死者，謂四大分散，夭喪殞沒也。修行之人，為此夭喪，不能續延慧命，是名死魔。（四大者，地大、水大、火大、風大也。）

四、天魔：此魔即欲界第六天也。若人勤修勝善，欲超越三界生死，而此天魔為作障礙，發起種種擾亂之事，令修行人不得成就

出世善根，是名天魔。（第六天，即他化自在天也。）

1544.【《淨土修證儀》】（科註第六二三頁倒數第二行）

二卷。北宋·擇瑛法師撰。

1545.【十乘之理觀】（科註第六一三頁倒數第二行）

《三藏法數》「十乘」條：〔出摩訶止觀〕

十乘者，十乘觀法也。此十通名乘者，乘即運載之義。如世車乘，堪能運載也。蓋言修行之人，依此十法修之，則能運出生死之苦海，到於涅槃彼岸也。數至十者，由修觀之人，上中下根不等。上根者，唯觀初不思議境，即得破惑顯理；其次者，於初種觀法修之不入，須用第二發心，乃至第八（應為「七」）對治助開，方能破惑顯理；又其次者，

於前七種觀之不入，須用第八知位次乃至第十離法愛，方能破惑顯理。故止觀大意云：上根唯一法，中根二或七，下根方具十。又為知妙境為九乘之本，稱本修九，方堪入於初住，是故備論此十乘也。（梵語涅槃，華言滅度。初住者，即十住中初發心住也。）

一、觀不思議境：觀即能觀，境即所觀。所觀者何？不出色、心。色從心造，全體是心。故經云：三界無別法，唯是一心作。即眾生日用現前，以根對塵，所起一念之妄心也。此心既全真成妄，今達妄即真，即此妄心，具足諸法，無有缺減。即心是一切法，一切法是心，非一非異，不前不後，玄妙寂絕，非識所識，非言所言，故指此心為不思

議境也。於此一心，念念以即空、即假、即中三觀觀之。若觀一法即一切法，假觀也；觀一切法即一法，空觀也；非一非一切，而一而一切，中觀也。空觀破見、思惑，證般若德；假觀破塵沙惑，證解脫德；中觀破無明惑，證法身德。三觀既即一而三，三惑豈前後而破，三德非次第而證。說之次第，理非次第。由證三德，即入初住。所謂上根之人，唯用一法，即指此初觀也。（三界者，欲界、色界、無色界也。以根對塵者，謂以眼耳鼻舌身意之六根，對色聲香味觸法之六塵也。不前不後者，一心不在前，諸法不在後也。空假中者，離性離相謂之空，無法不備謂之假，非空非假謂之中也。非一非一切

者，中觀雙遮空假也；而一而一切者，中觀雙照空假也。見、思惑者，謂意根對法塵而起分別曰見惑，眼等五根對色等五塵起諸貪染曰思惑。塵沙惑者，謂眾生之惑，種類數多如塵若沙也。無明惑者，謂於中道之理，無所明了也。三德者，法身德、般若德、解脫德也。）

二、發真正菩提心：梵語菩提，華言道。初起大志，造趣所期，名之為發。不依偏權之教，而依圓實中道妙境，名曰真正。菩提即所期之果，妙境即所行之路，心即能行能趣之心也。蓋由中根之人，觀上妙境不悟，須再加發心，於靜心中思惟彼我，痛憫自己無量劫來沉淪生死，縱發小志，迷菩提心。

我今雖知，行猶未備，故依前妙境，發四弘誓。謂眾生無邊誓願度，煩惱無數誓願斷，此二誓，下化眾生也；法門無盡誓願知，佛道無上誓願成，此二誓，上求佛道也。發此誓願，如理思惟，豁然悟理，入凡、聖位，是為發真正菩提心也。（偏權圓實者，謂藏

通別三教為偏、為權，圓教為圓、為實也。弘誓者，弘，廣也；誓，制也。謂發願廣制其心也。凡聖位者，凡即五品十信之位，聖即十住等位也。）

三、善巧安心：善巧安心者，善以法性自安其心也。以法性為所安，以寂照為能安。寂即是止，照即是觀。若信此心但是法性，則起是法性起，滅是法性滅；了其實不起

滅，妄謂起滅，如是體達功成，法界俱寂，是名為止。若觀察此心體是無明，無明癡惑，即是法性；無明、法性，本來皆空，空亦不可得。法界洞朗，名之為觀。若離法性無安心處，若離止觀無安心法。由上發心不悟，故用此方便善巧，令心得安也。

四、破法徧：破法徧者，謂以三觀能破之法，徧破諸惑也。藏通二教但用空觀，破見、思惑，不得言徧。別教先以空觀破見、思惑，次以假觀破塵沙惑，後以中觀破無明惑。無明未盡，亦不得言徧。今圓頓教三觀，祇在一心，心空故一空一切空，即諸法皆空，空則三惑俱破也。心假故一假一切假，即諸法皆假，假則三諦皆立也。心中故

一中一切中，即諸法皆中，中則無惑不破，無理不顯，故名徧也。若上善巧安心，惑破理顯，不俟更破。由未安故，故須此破法徧也。（三諦皆立者，謂真諦、俗諦、中諦之法，皆建立也。）

五、識通塞：通即通達，謂菩提、涅槃、六度等法，其性虛通，而能顯發實相之理，皆名為通。塞即蔽塞，謂生死、煩惱、六蔽等法，其性昏暗，以能蔽塞實相之理，不能顯發，皆名為塞。若一槩（同「概」）言之，如前破法徧中所破諸惑為塞，能破之法為通。若別途言之，於能破觀法復起愛著，亦名為塞。所謂於通起塞。此塞須破，於塞得通，此通須護，但破塞存通。如除膜養珠，

破賊護將。由上破法徧中，修之未悟，復恐於通起塞，於塞無通，所以立此通塞一門，檢彼破法徧，令於塞得通，於通無塞，故名識通塞也。（六度者，一布施、二持戒、三忍辱、四精進、五禪定、六智慧也。煩惱者，謂昏煩之法惱亂心神也。六蔽者，一慳貪、二破戒、三瞋恚、四懈怠、五散亂、六愚癡也。除膜養珠者，膜謂眼中所翳（音易，遮蔽也）之膜，珠即眼中之睛也。）

六、道品調適：道即能通之義。品類不同，故名道品。謂三十七道品，而能通至涅槃也。調適者，調謂調停，亦調試也。適，當也、宜也。從別言之，故有三十七品；若從總而言，此三十七品，不出戒定慧。即是

以戒定慧而調適也。若修四念處，能生正勤，正勤發如意足，如意足生五根，五根生五力，五力生七覺，七覺入八正道，是為調停適當也。若隨人根性，於諸道品，何者相應，可以入理，是為調試適宜也。當知道品即四諦之道諦也。今依圓教，無作四諦，三十七品成於一心三觀也。於上破法徧及識通塞，若不以道品調適，何能疾與真法相應。

故大論云：三十七品是行道法，修道之人，若欲破惑入理，必須此道品調適也。（三十七道品者，觀身不淨、觀受是苦、觀心無常、觀法無我，是四念處。已生惡，令永斷；未生惡，令不生；已生善，令增長；未生善，令得生，是四正勤。欲如意足、念如

意足、精進如意足、思惟如意足，是四如意足。信根、精進根、念根、定根、慧根，是五根。信力、精進力、念力、定力、慧力，是為五力。念覺分、擇法覺分、精進覺分、喜覺分、除覺分、定覺分、捨覺分，是七覺分。正見、正思惟、正語、正業、正命、正精進、正念、正定，是八正道。已上諸法總為三十七道品也。）

七、對治助開：對即對待，治即攻治。謂行人正修觀時，忽或邪倒心起，障於正行，不能前進。隨所著心，須以相應之法而對破之。著心既息，則正行可進，實理可顯。如世醫治病之術，藥必對病而用。其患冷病者，必以熱藥治之；患熱病者，必以冷藥治

之；患不冷不熱者，必以溫和之藥治之。藥力若效，其病即愈。病既愈已，身即安康。今論對治之法，亦猶是也。而言助開者，蓋

由邪倒之心，障蔽正行，而使解脫之門不開。今修此對治助道之法，助於正觀之行，開彼解脫之門，故名對治助開。試就六蔽六度言之：若人修上道品調適，解脫不開，而慳貪忽起，激動觀心，於身命財守護保著，當用捨施之法而對治之。若破戒心起，乖違淨禁，當確持戒律而對治之。若瞋恚暴怒，常生忿恨，當用忍辱而對治之。若放逸懈怠，恣縱閑蕩，當用精進而對治之。若浮掉馳騁，散亂不定，當用禪定而對治之。若沉昏闇塞，愚癡迷惑，當用智慧而對治之。前

之六種觀法，皆名正行；六度等法，名為助道。涅槃經云：眾生煩惱非一種，佛說無量對治門。是也。

八、知位次：位即行行所歷之地位，次即次第。謂所歷之位，高下淺深不相混雜也。若修行者不知位次，下根障重，非惟正助不明，卻生上慢。謂已均佛，未得謂得，未證謂證。故小乘經中，四禪比丘，謂得四果。大乘經中，魔為菩薩授記。若知位次，則無如是之失。故須知位次也。（正助者，正即所修止觀之行，助即六度等道之行以助，助於正也。四禪者，即色界第四禪也。梵語比丘，華言乞士。四果者，即聲聞所證，須陀洹果、斯陀含果、阿那含果、阿羅漢果也。

授記者，聖言說與曰授，果與心期日記也。）

九、安忍：安即不動，忍即忍耐。謂修觀之人，初觀不思議境，至第八知位次，或入五品，障轉慧開，神智爽利，本不聽學，能解經論，欲釋一義。辯不可盡，或說一兩句法，或說一兩則禪，初對一人，傳誦漸廣，則外招名利，內動宿障；宿障縱少，名利彌至，為眾圍繞，廢損自行。非惟正行不進，障道還興。惟當自勉，於名利心，安然不動；復須忍耐內外榮辱，策勵其心，故名安忍。（五品者，隨喜、讀誦、說法、兼行六度、正行六度也。障轉者，謂惑業之障，轉成解脫也。慧開者，謂觀理之智開明也。一兩則，猶一兩段也。宿障者，謂宿世過去之

業也。內外榮辱者，謂內心外身之榮辱也。）

十、離法愛：離法愛者，謂於中道之法，遠離愛著之心也。蓋言修行之人，修前九種觀法，已過內外二障，應入初住；而不入者，由住六根清淨之位，愛著中道相似之法，所以不能進入也。此相似位，無內外障，唯有法愛。法愛若斷，即得發真中道，入於初住，故名離法愛也。第八、第九、第十，三種，皆為下根之人，修前七種觀法，不能入理，故須明之。所謂下根，方具十也。（內外障者，內即惑業，外即名利等，皆能障蔽正行故也。六根清淨者，謂眼耳鼻舌身意，已離惑業染污之法，而獲清淨功德也。相似法者，謂於中道之理，未能真證，

而發相似之解也。）

1546. 【九境之魔事】（科註第六二三頁倒數第二行）

應指除第一境陰境外的其他九境。

《三藏法數》「十境」條：〔出摩訶止觀〕

十境，一一皆前十乘觀法所觀之境。若論十境生起，由觀陰入，發下九境，能所相扶，次第出生，故成於十。若論下之九境，互發不定，則無復次第。當知陰境常自現前，若發不發，恒得為觀。下之九境發，則皆用十乘觀法觀之，不發不觀也。（陰入者，謂五陰十二人也。能所相扶者，如初陰境能生煩惱，陰為能生，煩惱為所生，餘境展轉相生亦然。互發者，更互發起也。如正觀病境，或發煩惱，或發餘境，餘境互發亦然。）

一、陰境：陰，覆蓋之義。即色受想行識五陰也，亦名五蘊，蘊即積聚之義。若言覆蓋一切善法，此就因得名；若言積聚無量生死，此就果得名。十境以陰居初者，有二義：一現前，二依經。現前者，謂人受一期果報之身，即是五陰，五陰重擔，常自現前，是故初觀。依經者，小品般若云：聲聞依四念處行道，五陰即四念處所觀之境。又經中凡列法門，無不以五陰為首，是故初觀，此且就五陰通總而言。若專論所觀之境，必須於五陰中，除卻前四，的取第五識陰，為所觀之境也。（一期者，謂人從生至死也。重擔者，生死重沓名重，人所荷負名擔。四念處者，觀身不淨，觀受是苦，觀心

無常，觀法無我。故云五陰即四念處所觀之境。除卻前四者，謂除色受想行也。）

二、煩惱境：昏煩之法，惱亂心神；又貪瞋等法，與心作煩，令心得惱，故云煩惱。謂無始以來，積集重惑，今因用觀觀察陰境，煩惱即發。譬如流水，尋常不覺其急，若槩（通「概」，阻止也）之以木，流即奔迸，莫能止遏。是時應捨陰境而觀煩惱境也。

三、病患境：病起之因雖多，不出四大增損，致有患生。又由觀陰、惑，激動四大，致有患生。身若染病，廢修聖道。若能觀察，彌益用心；復須識其病之原由，宜以何法治之。或內觀力，或術或醫。其病若愈，聖道可修。為是須觀病患境也。（四大者，

地大、水大、火大、風大也。謂人攬外四大，而成內身四大。皮肉筋骨等屬地，涕唾涎沫等屬水，煖氣屬火，轉動及出入息屬風。言增損者，水增則火損，火增則水損；風增則地損，地增則風損。四大不調，病即生也。陰惑者，陰即陰境，惑即煩惱境也。）

四、業相境：業即身口所作之業。謂修行之人，無量劫來，所作善惡諸業，或已受報，不復更發。或未受報，於靜心中，忽然俱發。蓋善業將受報，故發；惡業來責報，故發。於此善惡業相現時，勿喜勿怖，彌須用觀，令業謝行，成一心取道。為是須觀業相境也。（劫，梵語具云劫波，華言分別時節。）

五、魔事境：魔，梵語具云魔羅，華言殺者。謂能奪人智慧之命故也。言魔事者，大論云：魔以破人善法為事。又天魔正以順生死，貪五欲，退菩提為事，故名魔事。此由觀前諸境，惑雖未破。天魔猶恐出其境界，而復化度於他，失我民屬，空我宮殿；又慮夫得大神通，得大智慧，必當調伏控制於我；我今應預破之，壞彼善根。故有魔事發也。治魔之法有三：初、觀察訶棄，如守門人遮惡不進。二、當從頭至足，一一諦觀，身心了不可得，魔從何來？欲惱何等？如惡人入舍，處處照檢，不令得住。三、觀之不去，即當強心抵捍，以死為期，一心用觀，令道行成就。為是須觀魔事境也。（天魔

者，即欲界第六他化自在天也。五欲者，色欲、聲欲、香欲、味欲、觸欲也。梵語菩提，華言道。）

六、禪定境：禪，梵語具云禪那，華言靜慮。謂魔事已過，而且真明未顯。以修觀故，發過去習，諸禪紛現，當置魔事，用觀觀之，良以禪樂美妙，喜生耽味，雖免魔害，更為定縛，如避火墮水，無益正行。為是須觀禪定境也。（過去習，即宿習也。諸禪者，即色界中，初禪、二禪、三禪、四禪等禪也。）

七、諸見境：非一曰諸，邪解曰見。謂推理不當，而偏見分明，作決定解，名為見也。此之諸見，或因禪發，或因聞發。因禪

發者，謂初因心靜，後觀轉明，見解通徹，有如妙悟。因聞發者，謂聽本不多，廣能曉悟，見解分明，問答聰辯。雖因禪因聞而發，既推理不當，皆屬邪見，實非辯悟。此等見發，即須用觀觀之，令達正道，不為所障。為是須用觀諸見境也。

八、慢境：自恃輕他之心，名慢。謂既伏諸見，妄執之心則息。無智者謂為涅槃，濫叨（音掏。貪也）高位，起大輕慢；慢心既發，廢於正行。為是須觀慢境也。（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

九、二乘境：謂聲聞、緣覺，以四諦之法而修，則能運出生死之苦，名之為乘。謂見慢之心，既因修觀而息；則先世所習小志，

因靜而生。蓋小志溺於空寂，不能至于大乘究竟之地，所謂寧起疥癩（惡疾也）野干心，勿學聲聞、緣覺行。故二乘境界若發，亦須用觀觀察，毋令生著。為是須觀二乘境也。（四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。野干似狐而小，形色青黃，如狗群行，夜鳴如狼。）

十、菩薩境：菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。天台大師解云：用諸佛道，成就眾生。謂由上見慢之心既息，或發先世所習，若憶本願，則不墮二乘之境，而發三教菩薩境界之心。今修觀者，既依大乘圓頓妙教，開解立行，故藏等三教菩薩境界若發，亦須觀察，毋令生著。為是須觀菩薩境也。

(三教者，藏教、通教、別教也。)

1547. 【法本】(科註第六一四頁倒數第五行)

《佛學大辭典》：(術語) 法性之異名，法性為萬法之本，故名法本。

往生論上曰：「隨順法性不乖法本。」

1548. 【法海】(科註第六一四頁倒數第二行)

《佛學大辭典》：(譬喻) 佛法廣大難測，譬之以海。

維摩經佛國品曰：「當禮法海德無邊。」

無量壽經上曰：「深諦善念諸佛法海。」

大集經五十六曰：「法山欲崩頽，法海當復竭。」

1549. 【須彌】(科註第六一五頁第五行)

《佛學大辭典》：(雜名) Sumeru，又作

修迷樓，蘇彌樓，須彌樓，彌樓。新作蘇迷盧，蘇迷盧。山名。一小世界之中心也。譯言妙高，妙光，安明，善積，善高等。凡器世界之最下為風輪，其上為水輪，其上為金輪即地輪，其上有九山八海，即持雙、持軸、擔木、善見、馬耳、象鼻、持邊、須彌之八山八海與鐵圍山也，其中心之山，即為須彌山。入水八萬由旬，出水八萬由旬，其頂上為帝釋天所居，其半腹為四王天所居，其周圍有七香海七金山，其第七金山外有鹹海，其外圍曰鐵圍山，故云九山八海。瞻部洲等四大洲在此鹹海之四方。

注維摩經一曰：「肇曰：須彌山，天帝釋所住金剛山也。秦言妙高，處大海之中，水

上方高三百三十六萬里。」

勝鬘寶窟中本曰：「須彌，此言妙高，亦名安明，亦言善積。林公須彌留，此言善高，三百三十六萬里。」

西域記一曰：「蘇迷盧山，唐言妙高山，舊曰須彌，又曰須彌婁，皆訛略也。四寶合成，在大海中。」

慧琳音義一曰：「或云須彌山，彌樓山，皆梵音聲轉不正也。正云蘇迷嚧，唐云妙高山。四寶所成，故曰妙。出過眾山曰高，或云妙光山，以四色寶光明各異照世故，名妙光也。」

玄應音義六曰：「須彌山亦言修迷樓山，正言蘇彌盧，此譯言妙光，亦云妙高山也。」

俱舍論曰：「妙高山王四寶為體，謂如次四面北東南西，金，銀，吠琉璃，頗胝迦寶。」

1550. 【四寶】（科註第六一五頁第五行）

《俱舍論卷第十一》：「妙高山王四寶為體，謂如次四面北東南西，金銀吠琉璃頗胝迦寶。隨寶威德色顯於空。故瞻部洲空似吠琉璃色。」

《佛學大辭典》「吠琉璃」條：（物名）舊作毘琉璃，琉璃，鞞頭梨，鞞稠梨夜等。寶珠之名。（參見「琉璃」1554）

《佛學大辭典》「頗胝迦」條：（物名）與頗黎同。梵 Sphatika。（參見「玻璃」1557）

1551. 【九山八海】（科註第六一五頁第六行）

《佛學大辭典》：（名數）謂須彌山等九山與周於各山間之八海也。是蓋印度世界建立說所表之山海總數，以須彌山為中心，其周圍有遊乾陀羅等八大山，成列迴繞，而山與山之間，各有一海水，故總為九山八海。

據起世經一長阿含經十八等，所謂九山者：

- 一、須彌 Sumeru，一、佉提羅 Khadiraka，
- 二、伊沙陀羅 Iśādhara，四、遊乾陀羅 Yuga  
ndhara，五、蘇達梨那 Sudarśana，六、安濕  
縛竭拏 Aśvakaṇa，七、尼民陀羅 Nimi  
dhara，八、毘那多迦 Vinataka，九、斫迦羅  
Cakravāda 是也。

須彌又作蘇迷盧，須彌樓，修迷樓，須彌盧，或作彌樓。譯為妙高或好光。屹立世界

之中央，高八萬四千由旬，頂上闕亦八萬四千由旬，中有帝釋之宮殿。

佉提羅又作<sup>qiè</sup>揭（音妾）地洛迦，佉提羅迦，佉得羅柯，羯那里<sup>gū</sup>酷（音姑），軻梨羅，羯達洛迦，羯地羅，佉陀羅，軻犁羅，可梨羅。譯為擔木或空破。高四萬二千由旬，頂上闕亦四萬二千由旬，以七寶合成，在須彌山之外圍而繞之。二山之中間有大海。闊八萬四千由旬。無量之優鉢羅華，鉢摩華，拘牟陀華，奔荼利迦華等諸妙香物，徧覆水上。此海中又有東弗婆提，南閻浮提，西瞿陀尼，北鬱單越之四洲。

伊沙陀羅又作伊沙馱羅，伊沙多。譯為持軸或自在持。高二萬一千由旬，頂上闕亦同

之。以七寶合成，在佉陀羅山之外圍而繞之。二山之中間有大海，闊四萬二千由旬，優鉢羅華鉢頭摩華等妙香物，徧覆水上。

遊乾陀羅又作遊犍陀羅，踰健達羅，由犍陀羅，踰乾陀羅，由乾陀，喻漢多。譯為雙持。高一萬二千由旬，頂上闊亦同之，圍繞伊沙陀羅山。二山中間之海水，闊二萬一千由旬。

蘇達梨舍那又作修騰娑羅。譯為善見。高六千由旬，頂上闊亦同之。圍繞遊乾陀羅山。二山中間之海水，闊一萬二千由旬。

安濕縛羯拏又作阿輪割那。譯為馬半頭或馬耳。高三千由旬，頂上闊亦同之。圍繞蘇達梨舍那山。二山中間之海水，闊六千由

旬。

尼民陀羅又作尼民達羅，尼民馱羅。譯為持邊或持地。高一千二百由旬，頂上闊亦如之。圍繞安濕縛羯拏山。二山中間之海水，闊二千四百由旬。

毘那多迦又作毘那耶迦，毘泥怛迦那，吠那野怛迦，毘那怛迦，尾那怛酷，毘那砒迦，維那兜。譯為障礙或犍與，又曰象鼻。亦周匝在尼民陀羅山之外。高六百由旬。頂上闊亦如之。圍繞尼民陀羅山。二山中間之海水，闊一千二百由旬。其水上並皆徧覆四種之雜華，諸妙香物。

斫迦羅又作斫羯羅，遮迦和，斫訖羅，斫迦婆羅。譯為輪圍或鐵圍。高三百由旬，頂

上闊亦如之。圍繞毗那多迦山。是為世界之外廓，出之即為太虛。二山中間之海水，闊六百由旬。

但據俱舍論十一等，其所傳稍有不同者。

其頌云：「蘇迷盧處中，次踰健達羅，伊沙馱羅山，竭地洛迦山，蘇達梨舍那，頰濕縛羯拏，毘那怛迦山，尼民達羅山。於大洲等外，有鐵輪圍山。前七金所成，蘇迷盧四寶。入水皆八萬，妙高出亦然，餘八半半下，廣皆等高量。山間有八海，前七名為內，最初廣八萬，四邊各三倍。餘六半半陁，第八名為外。三洛叉二萬，二千踰繕那。」

此說以遊乾陀羅為第二山，伊沙馱羅為第

三山，乃至尼民達羅為第七山，列次少與前異。且前起世經等，謂九山皆為七寶所成，八大海水，皆各徧覆優鉢羅華等諸妙香物，而俱舍論等謂須彌山為四寶所成，中間七大山，悉為金所成，八大海水，內七海名之內海，八功德水湛於其中，第八海其量為三億二萬二千由旬。名之為外海，鹹水盈滿云。諸經說此者甚多，茲不一一揭出。

1552. 【南瞻部洲】（科註第六一五頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「南洲」條：（地名）閻浮提也。是在須彌山南方鹹海中之大洲，吾人所住之處也。（參見「四大洲」196）

1553. 【七寶】（科註第六一六頁第六行）

《三藏法數》：「出翻譯名義」七寶諸經

所載不同，舊出二種，其間名同而華梵不一，今依翻譯名義，亦列二種，皆以梵語為名，而用華言，各釋其下也。

一、蘇伐羅：梵語蘇伐羅，華言金。大智度論云：金出山石沙赤銅中，而有四義：一者色無變，二者體無染，三者轉作無礙，四者令人富。以是等義，故名為寶。

二、阿路巴：梵語阿路巴，華言銀。大智度論云：銀出燒石中，世名白金，亦有四義，與前金同，故名為寶。

三、琉璃：梵語琉璃，華言青色寶。觀經疏又云：吠琉璃耶，華言不遠。謂西域有山，去波羅奈城不遠，山出此寶，故以名之。此寶青色，一切眾寶，皆不能壞，色體

堅瑩，世所希有，故名為寶。（梵語波羅奈，華言鹿苑。）

四、頗黎：梵語頗黎，或云塞頗<sub>zh</sub>胝<sub>sh</sub>（音知）迦，華言水玉，即蒼玉也。或云水精，體色瑩潤，世所希有，故名為寶。

五、牟婆洛揭拉婆：梵語牟婆洛揭拉婆，華言青白色寶，即碑磔也。其狀如車之渠（古代指車輪的外圈），車之牙輞（音往。車輪的外框）也，因以名焉。以其體堅色明，世所希有，故名為寶。

六、摩羅伽隸：梵語摩羅伽隸，華言碼瑙。其色赤白如馬之腦，因以名焉。以其可琢成器，世所希有，故名為寶。

七、鉢摩羅伽：梵語鉢摩羅伽，華言赤真

珠。佛地論云：赤蟲所出。大智度論云：此寶出魚腹、蛇腦中，其色明瑩，最為殊勝，故名為寶。

1554. 【琉璃】（科註第六一六頁第七行）

《佛學大辭典》：（物名）*Vaidurya*，新譯曰吠琉璃，吠琉璃耶，毘頭梨，吠努璃耶等。七寶之一。譯言遠山寶，不遠山寶等，青色之寶石也。就產出之山名之，遠山為須彌山之異名，不遠山者去波羅奈城不遠之山也。

玄應音義二十三曰：「琉璃，吠琉璃也，亦云毘琉璃，又言<sup>皮</sup>鞞（音皮）頭梨。從山為名，謂遠山寶也，遠山即須彌山也。此寶青色，一切寶皆不可壞。」

慧琳音義一曰：「吠琉璃寶名也，或云毘琉璃，或但云琉璃。須彌南是此寶也。其寶青色瑩徹有光，凡物近之皆同一色。帝釋髻珠云是此寶。」

慧苑音義上曰：「琉璃梵言，具云吠琉璃耶，此為不遠山。謂西域有山，去波羅奈城不遠。此寶出彼，故以名之。」

梵語雜名曰：「琉璃，吠努離耶。」

1555. 【琥珀】（科註第六一六頁第七行）

《佛學大辭典》：（物名）梵語阿濕摩揭婆 *Asmagarbha*，其色紅黃，而有瑩光。七寶之一也。

1556. 【瑪瑙】（科註第六一六頁第七行）

《實用淨土宗辭典》：梵文 *asmagarbha* 的

音譯。為七寶之一。此寶與後世所謂之瑪瑙有異，為翠綠玉，係帶有深綠色光澤之寶玉。又此寶常被混同為馬腦（指車渠），於《慧苑音義》卷上舉有二者之別。因《阿彌陀經》載有極樂國土有七寶莊嚴之事，故七寶亦隨淨土宗之流傳，廣為人知。

1557. 【玻璃】（科註第六一六頁第八行）

《佛學大辭典》（節錄）：（物名）又作頗梨，頗黎。新譯曰頗胝迦，頗置迦，娑波致迦，塞頗致迦，sà 颯（音薩）破zhì 檄（音至）迦，sū 窞（音酥）坡致迦 Sphatika，當於此方之水精，有紫白紅碧四色。

1558. 【chē 碑<sub>ㄉㄞˊ</sub>】（音車） qú 磔<sub>ㄓㄜˊ</sub>】（音渠）（科註第六一六頁第八行）

《佛學大辭典》：（物名）慧苑音義曰：「梵音正云牟娑羅揭婆 Musāragaiya，牟娑羅，此云勝。揭婆，藏也。舊名車渠。所未詳也。」

本草綱目四十六曰：「時珍曰：案韻會云：車渠海中大貝，背上壘文，如車輪之渠。」後人於字偏加石。

1559. 【赤珠】（科註第六一六頁第八行）

《實用淨土宗辭典》：七寶之一。梵文 Lohitamuktikā，又稱赤真珠、赤寶。據《佛地經論》卷一說，此珠由赤蟲而出，故稱赤真珠；又說此珠之體為赤色，故稱赤真珠。《大智度論》卷十說，此珠極為珍貴，因一般之真珠多為淺灰色、灰色，而赤真珠則稍帶

赤色，若為純赤色之真珠，則甚難求得。此珠與珊瑚有異，故甚為珍貴。

1560. 【頗黎】（科註第六一六頁倒數第五行）

見「七寶」1553。

1561. 【珊瑚】（科註第六一六頁倒數第一行）

《翻譯名義集》：梵語鉢羅娑福羅。外國

傳曰：大秦西南漲海中，可七八百里，到珊瑚洲。洲底盤石，珊瑚生其上，人以鐵網取之。任昉述異記曰：珊瑚樹碧色，生海底。

一株數十枝，枝間無葉，大者高五六尺，小者尺餘。應法師云：初一年青色，次年黃色，三年蟲食敗也。大論云：珊瑚出海中石樹。

1562. 【藕<sup>xv</sup>】（音偶）（科註第六一八頁第二行）

《漢語大詞典》：雙數。與單數「奇」相對。

1563. 【<sup>ㄉㄠ</sup>叨<sup>ㄉㄠ</sup>利天】（科註第六一九頁第三行）

《三藏法數》：梵語叨利，華言三十三。

大智度論云：昔有婆羅門，姓憍尸迦，與知友三十二人，共修福德，命終皆生須彌山頂，憍尸迦為天主，名帝釋天，三十二人為輔臣，周圍列居，而帝釋獨處其中。又淨名疏云：昔迦葉佛滅後，有一女人，發心修塔，報為天主；有三十二人助修，報為輔臣。君臣合之，為三十三也。（梵語婆羅門，華言淨行。梵語憍尸迦，又云釋提桓因，華言能天主。言帝釋者，華梵雙舉也。三十二人名字，經論不載。據正法念處經所

載，三十三天各有住處，謂善法堂天、山峰天、山頂天、善見城天、鉢私他天、俱吒天、雜殿天、歡喜園天、光明天、波利耶多天、離險岸天、谷崖岸天、摩尼藏天、旋行天、金殿天、鬘影天、柔軟天、雜莊嚴天、如意天、微細行天、歌音喜樂天、威德輪天、月行天、閻摩那娑羅天、速行天、影照天、智慧行天、眾分天、曼陀羅天、上行天、威德顏天、威德燄輪光天、清淨天也。

《佛學大辭典》(節錄)：(界名) *Tṛyāśati*

*nśa*，作<sup>多</sup>怛<sup>多</sup> (音答) 唎耶怛唎奢天，多羅夜

登陵舍天。譯言三十三天。欲界六天中之第二，在須彌山之頂，閻浮提之上，八萬由旬之處。此天之有情身長一由旬，衣重六銖、

壽一千歲(以世間百年為一日一夜)，城廓八萬由旬，名喜見城，帝釋居之。巔之四方有峰，各廣五百由旬。每峰有八天。

1564. 【夜摩】(科註第六一九頁倒數第二行)

《佛學次第統編》「六欲天」條(節錄)：

梵語夜摩，此翻時分，但以蓮花開合，分晝夜故。此是上品十善，兼學坐禪所感，或是不殺、不盜、不邪淫、三戒增上功德所感，或亦八戒、十戒等功德所感。身長二百二十五丈，以人間二百年為一晝夜，壽二千歲，以身相近為陰陽。

《佛學大辭典》(節錄)：(界名) *Yāma*，

具曰須夜摩 *Suyāma*，蘇夜摩。欲界六天中第三天名。舊曰燄天。譯言時分，善分。以善

知時分受五欲之樂故也。

智度論九曰：「夜摩名善分天。」

探玄記六曰：「夜摩者，若具云蘇夜摩。

蘇者，此云善也。夜摩者，此云時也。」

佛地論五曰：「夜摩天者，謂此天中隨時受樂，故名時分。」

俱舍光記八曰：「夜摩天，此云時分，謂彼天處時時多分稱快樂。」

1565. 【地居天】（科註第六一九頁倒數第二行）

《佛學常見辭彙》：依地面而居的天。在  
三界二十八天中，祇有欲界的四王天和忉利  
天是依著須彌山的地界而居，稱為「地居  
天」，夜摩天以上，都是凌空而處，故名  
「空居天」。

1566. 【空居天】（科註第六一九頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（界名）居於空之天  
也。對於地居天（居止於須彌山稱為地居天）而  
言。謂欲界之夜摩，兜率，化樂，他化自在  
四天及色界之諸天也。

1567. 【色界諸天】（科註第六二〇頁第四行）

《三藏法數》「色界十八天」條：

初禪三天：

一、梵眾天。梵，淨也，以無染欲故。  
眾，猶民也。謂此天是初禪天主之民眾也。

二、梵輔天，輔，佐也。謂此天是初禪  
天主之輔佐臣僚也。

三、大梵天，謂此天是初禪天主之主也。  
名尸棄，劫初先生，劫盡後滅，主領三千大

千世界也。（梵語尸棄，華言火。三千者，大千、中千、小千也。言三千大千者，總別雙舉也。）

二禪三天：

一、少光天，謂此天光明少故。

二、無量光天，謂此天光明增勝無限量

故。

三、光音天，謂此天以光明為語音故。

三禪三天：

一、少淨天，謂此天意識樂受清淨故。

二、無量淨天，謂此天淨勝於前不可量

故。

三、遍淨天，謂此天樂受最勝，淨周遍

故。

四禪九天：

一、無雲天，以前諸天空居，依雲而

住。此天在雲之上，居無雲之首，故號無

雲。

二、福生天，謂此天修勝福力而生其

中，從因得名故。

三、廣果天，謂此天果報廣大，無能勝

故。

四、無想天，謂此天一期果報，心想不

行故。（一期者，謂從生至死也。）

五、無煩天，謂此天離欲界苦，及色界

樂，苦樂兩滅，無煩惱故。

六、無熱天，謂此天研究心境，無依無

處，清涼自在，無熱惱故。

七、善見天，謂此天妙見十方世界圓澄無塵垢故。

八、善現天，謂此天空無障礙，精見現前故。

九、色究竟天，謂此天於諸塵幾微之處，研究究竟故。

1568. 【無色界諸天】（科註第六二〇頁第四行）

《三藏法數》「無色界四天」條：

一、空處天，謂此天厭於色身繫縛，不得自在，心緣虛空，與無色相應，住空處定故。

二、識處天，謂此天厭虛空無邊，於是即捨虛空，轉心緣識，以識為處故。

三、無所有處天，謂此天厭於識處無邊，

於是捨識入無所有處，亦名不用處，謂不用前空處識處故。

四、非想非非想處天，謂此天居無色界之極頂，非無所有處之無想，非識處之有想故。

1569. 【俱舍光記】（科註第六二〇頁第七行）

《佛學大辭典》「光記」條：（書名）唐

普光法師著，有俱舍論記三十卷，性相學者單稱光記。

1570. 【有部毘奈耶】（科註第六二〇頁倒數第四行）

《佛光大辭典》「根本說一切有部毘奈耶」

條：梵名 Mūla-sarvāstivāda-vinaya。凡五十

卷。屬小乘律部經典。唐朝武后長安三年

(七〇三) 義淨譯。收於大正藏第二十三冊。佛陀入滅後三百年初期，由小乘佛教上座部系統分出之（根本）說一切有部所整編而成，係規定戒律之典籍。

其內分四波羅夷法、十三僧伽伐尸沙法、二不定法、三十泥薩祇波逸底迦法、九十波逸底迦法、四波羅底提舍尼法、眾多學法、七滅諍法等八科，大多備載各戒法之制戒因緣。於漢譯諸律本中，本律與十誦律最近似。其戒本為根本說一切有部戒經，一卷（收於大正藏第二十四冊）。此外，其餘與說一切有部有關之律本律文甚多。〔開元釋教錄卷十三、貞元新定釋教目錄卷二十三、卷三十〕

1571. 【果報】（科註第六二二頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）新曰異熟。舊曰果報。果報者，吾人今日之境界。為對於過去世業因（不善不惡也）之結果，故曰果。又為應於其業因而報者，故曰報。然則曰果，曰報，其體為一，總括一切眾生自生至死之間，自己所感受之吉凶事而謂為果報。

但分別果報二字，則法華方便品明十如是中，有因緣果報之四，對於因而言果，對於緣而言報也。正可生果之物曰因，助其因而使取果者曰緣。譬如米麥之種，因也。農夫之力或雨露之潤等，緣也。然則當年米麥之成熟時，對於去年之米麥而言，則是果，對

於去年之農夫雨露而言。則為報也。

如是吾等原具可生夫夫（疑作「夫夫原具可生」。夫夫，人人也）三界之果之種。是曰因。然為惡業，則助地獄界之因，使感地獄之果；為善業，則助人間天上界之因，使招人間天上界之果。蓋善惡之業，對於三界之果，則非為因，而為緣。因而望此緣於三界之果更與以報之名也。但此分因緣果報，而詳論義理，果報之物體，二者非異。果報之狀態，雖有苦樂好醜等差別，而其性質則非善性，亦非惡性。無記性（善不可記，惡亦不可記者也）。

法華經方便品曰：「如是因，如是緣，如是果，如是報。」

無量壽經上曰：「行業果報。」

1572. 【遮抑】（科註第六二二頁第六行）

《漢語大詞典》：攔阻；抑止。

1573. 【臨濟】（科註第六二二頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「義玄」條：（人名）唐真定府臨濟院義玄，曹州南華人。見黃檗山運禪師，了然通徹，後趙人請住子城之南臨濟，示人心要，頗類德山（宣鑑。唐代禪僧）。以咸通七年丙戌寂，敕諡慧照大師。言教頗行於世，稱曰臨濟宗。見宋高僧傳十一。

《釋氏稽古略》：臨濟禪師。名義玄。生曹州南華刑氏。自幼剃落。初到黃檗。時睦州陳尊宿為首座。問師在此幾時。師曰。在此三年。州指其問佛法的的大意。槩便打。

三度問三度打。師乃辭陸州曰。自恨障緣不領深旨。今且辭去。州曰須辭和尚。陸州語槩曰。問話上座若來辭方便接伊。已後為一株陰涼大樹覆蔭天下人去在。師辭槩。槩曰往高安參大愚去。師至高安。愚曰。甚處來。師曰黃槩。愚曰。黃槩有何言句。師曰某甲三度問佛法的的大意。三度被打。不知有過無過。愚曰。黃槩與麼老婆心切。師於言下大悟。乃曰。元來黃槩佛法無多子。愚zǒu搗搗（音走。抓也，揪也）住曰。這尿床鬼子。適來道有過無過。如今卻道佛法無多子。爾見箇甚麼道理。速道速道。師於大愚肋下築三拳。愚拓開曰。汝師黃槩。非干我事。卻回黃槩。槩曰來來去去有甚了期。師

曰。祇為老婆心切。便人事了。侍立。槩曰。大愚有何言句。師舉前話。槩曰。大愚老漢饒舌。待來痛與一頓。師曰。說甚待來。即今便打。遂掌黃槩。槩曰。這風顛漢來這裏捋虎鬚。師便喝。槩云。侍者引之參堂去。師後住鎮州臨濟。學侶雲集。乃曰。大凡演暢宗乘。一句中須具三玄門。一玄門須具三要。有權有實有照有用。汝等諸人作麼生會。後居大名府興化寺東堂。至是咸通八年四月十日說偈曰。沿流不止問如何。真照無邊說似他。離相離名人不稟。吹毛用了急須磨。端坐而逝。塔全身於府西北隅。敕諡慧照禪師。塔曰澄靈。嗣黃槩運。運嗣百丈海。緇林尊仰曰臨濟宗。

1574. 【六道神光】（科註第六二二頁倒數第四行）

《鎮州臨濟慧照禪師語錄》：今日多般用處，欠少什麼？六道神光未曾間歇。若能如是見得，祇是一生無事人……心法無形，通貫十方。在眼曰見，在耳曰聞，在鼻嗅香，在口談論，在手執捉，在足運奔。本是一精明，分為六和合。一心既無，隨處解脫。

《佛學大辭典》「一道神光」條：（雜語）謂自己本具之光明，即虛靈不昧之心光也。

從容錄第三十一則頌曰：「一道神光，初不覆藏。」

又隱山和尚頌曰：「三間茅屋從來住，一道神光萬境閑，莫把是非來辨我，浮世穿鑿

不相關。」即其例也。

1575. 【五種力】（科註第六二三頁第一行）

《三藏法數》「五力難判」條：「出宗鏡錄」五難判者，謂定等五種之力，唯識論中，不能判攝也。然三界唯心，萬法唯識，而不能判此五力者，由斯五種乃聖人不思議境界，不與心識相應，此所以為難判。宗鏡錄云：有五力，唯識不判。是也。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

一、定力：定力者，即如來大寂定力也。謂此定力，無染無淨，非空非有，生死不能拘，結業不能縛；不起此定，而能普應十方，不與識法相應，是故唯識難判也。

二、通力：通力者，即如來神通之力也。

謂此通力變化無窮，隨感而應，不謀而知，徹照萬法，非思議之可及，豈識法之相應，是故唯識難判也。

三、借識力：借識力者，謂如二禪以上，無有尋伺（粗心在緣曰尋，細心分別曰伺）語言，若欲說法應用，則借初禪眼耳身三識，以成己用。由此假他之用，非因本起，不屬唯識，是故唯識難判也。（借初禪三識者，由初禪不著香味二塵，已無鼻、舌二識，惟有眼、耳、身三識。二禪已上，不著五塵，故五識俱無。若欲應用，則借初禪三識也。）

四、願力：願力者，即如來大願之力也。而此願力，非因愛見，不假思惟，乃是聖人曠劫度生功用而成，非思議之可及，豈識法

之相應，是故唯識難判也。（劫，梵語具云劫波，華言分別時節。）

五、法威德力：法威德力者，即如來應化威德之力也。謂此威德之力，乃是聖人思議境界。如演一音，則普應群機。施一法，則眾魔皆伏。利生無盡，功德難量，不與識法相應，是故唯識難判也。

## ◎ 光明遍照第十二

1576. 【內證】（科註第六二七頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）謂自己心內所證之真理也。

唯識論十曰：「唯真證者自內所證，其性本寂，故名涅槃。」

文句三曰：「內證甚深。」同記曰：「內證，謂自行契境。」

大日經疏一曰：「毘盧遮那內證之德以加持故，從一一智印各現執金剛身。」

1577. 【《九品往生阿彌陀三摩地集陀羅尼經》】

(科註第六三〇頁第二行)

《佛學大辭典》：(經名)一卷。唐不空譯。說九品往生之差別且教陀羅尼。

1578. 【有量諸相】(科註第六三〇頁第七行)

《佛學大辭典》：(術語)凡實體為絕待，故為無彼此之限量者，然有為之事相，則必不得無彼此之限量，此謂之有量諸相。即世間一切之事物，盡有限量，故是一事相，而非實體，體者，一味平等無限絕待

也。

讚阿彌陀偈曰：「智慧光明不可量，故佛又號無量覺。有量諸相蒙光曉，是故稽首真實明。」

智度論八十二曰：「有相有量為麤，無相無量為細。」

1579. 【真實明】(科註第六三〇頁第七行)

《佛學大辭典》：(術語)稱佛之智慧光，云真實明。是三德中般若之德也。

讚阿彌陀偈曰：「智慧光明不可量，故佛又號無量覺。有量諸相蒙光曉，是故稽首真實明。」

《實用淨土宗辭典》：阿彌陀佛三十七號之一。真實者，即如理契入。明即慧明。斷

無明而起如理之智慧為真實明，此明即為佛智，表如來三德中之般若德，故取之為彌陀之別號。

1580. 【光輪】（科註第六三二頁第三行）

《佛學大辭典》：（雜名）輪者圓滿之義。又佛之光明有碾摧眾生煩惱之用，故譬之曰輪。

讚阿彌陀佛偈曰：「解脫光輪無限齊。」

1581. 【光雲】（科註第六三二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（譬喻）佛光被於一切，譬之垂天之雲。

讚阿彌陀佛偈曰：「光雲無礙。」

《實用淨土宗辭典》：喻佛光似雲廣被，又雲可潤益萬物，佛之光明可助益眾生，故

有此比喻。《讚阿彌陀佛偈》有：「光雲無礙如虛空，故佛又號無礙光，一切有礙蒙光澤。」

1582. 【道光】（科註第六三三頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）道之光明也。道體清淨，離一切過垢，照破無明之闇，故曰道光。

讚阿彌陀佛偈曰：「道光明朗色超絕，故

佛又號清淨光。」

1583. 【密號】（科註第六三三頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）又云金剛名，灌頂號。密部所唱之金剛名也。如大日如來曰徧照金剛，阿彌陀如來云清淨金剛。

1584. 【<sup>レ</sup>q感】（音七）（科註第六三三頁第八行）

《漢語大詞典》：憂傷。

1585. 【遐】（科註第六三三頁第八行）

《康熙字典》：遠也。

1586. 【二曜】（科註第六三四頁倒數第六行）

《漢語大詞典》「兩曜」條：指日、月。

1587. 【鼓音聲王陀羅尼經】（科註第六三五頁倒數第五行）

見「《阿彌陀鼓音聲王陀羅尼經》」470。

1588. 【道品】（科註第六三五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）道法之品類，

有三十七科。為至涅槃之道法，故曰道，品類差別，故曰品。

無量義經曰：「三明六通道品發。」台家立四種（按：即分別依生滅四諦、無生四諦、無量

四諦、無作四諦而開展）。（參見「三十七道品」1889）

1589. 【慚愧】（科註第六三八頁第一行）

《釋氏要覽》：大雲經云：慚愧者，眾善之衣服。

唯識論云：慚者，依自法力，崇重賢善，羞恥過惡為性。愧者，依世間力，輕拒暴惡，羞恥過惡為性。

阿毘達磨論云：慚者謂於諸過惡，自羞為體，惡行止息所依為業。愧者，謂於諸過惡，羞他為體，惡行止息為業。

增一阿含經云：佛告諸比丘，世有二妙法，擁護世間。所謂有慚，有愧也。諸比丘，若無此二法，世間則不別父母、兄弟、

妻子、知識、尊長、大小，即與畜類同等也。是故，比丘當習有慚有愧。

《佛學常見辭彙》：慚與愧。慚是對自己德學淺陋，常懷慚念而生善；愧是怕自己作惡受人譏評，生愧心而止惡。

1590. 【信伏】（科註第六三八頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）信其法或其人而伏從之也。

楞嚴經四曰：「恐汝誠心未信伏。」

梁僧傳法曰：「與安公相值，忽然信伏。」

1591. 【三途】（科註第六三八頁第八行）

《三藏法數》「三途對三毒」條：「出慈悲水懺」

一、火途對瞋忿：火途即地獄道也。謂其

處受苦眾生，常為鑊湯爐炭等熱苦所逼，故四解脫經稱為火途。蓋由眾生無慈悲心，常懷瞋忿，致感斯報。故云火途對瞋忿。

二、刀途對慳貪：刀途即餓鬼道也。謂其處受苦眾生常受刀杖驅逼等苦，故四解脫經稱為刀途，蓋由眾生無惠施心，常懷qiān ㄑㄧㄢ慳ㄍㄨㄛˋ（音謙，吝嗇）貪，致感斯報。故云刀途對慳貪。

三、血途對愚癡：血途即畜生道也。謂其處受苦眾生，強者伏弱，互相吞噉，飲血食肉。故四解脫經稱為血途，蓋因眾生無智慧心，愚癡不了，致感斯報。故云血途對愚癡。

1592. 【般舟讚】（科註第六三九頁第四行）

《佛學大辭典》：（書名）一卷，唐善導

作。讚歎般舟三昧樂之偈頌也。

《實用淨土宗辭典》「般舟三昧讚」條：書名。全稱《依觀經等明般舟三昧行道往生讚》，又稱《般舟三昧往生讚》。全一卷，唐代善導大師撰。收於《大正藏》第四十七冊中。

本書依《觀無量壽佛經》、《彌陀經》、《無量壽經》、《般舟三昧經》等所作之淨土讚文，明示般舟三昧行道往生之法。分序文、正讚、結勸三科。《序文》以自勸勸他為往生淨土之正因，並廣讚淨土之種種莊嚴；《正讚》有七言偈讚三十七篇，計二八一行半，各上句附「願往生」，下句附「無量樂」等相唱和，乃廣讚歎極樂淨土之依正

二報莊嚴，及三輩九品往生等相；《結勸》之終偈為：「行者等努力、努力，勤而行之，常懷慚愧，仰謝佛恩，應知。」於偈中，屢屢揭示報釋迦、彌陀兩佛之慈恩，此即本書撰著之意。

1593. 【追善】（科註第六三九頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「追薦」條：（儀式）又曰追善。追薦者為死者追薦福之義，追善者為死者追修善事之義，追薦為典語，追善為俗字。又曰追福，追修，追嚴等。

孟蘭盆經宗密疏上曰：「逐搜索聖賢之教，虔求追薦之方。」

梵網經下曰：「若父母兄弟死亡之日，應請法師講菩薩戒經律，福資亡者，得見諸佛

生人天上。」又曰：「父母兄弟和上阿闍梨亡滅之日，及三七日四五七日，乃至七七日，亦應讀誦講說大乘經律。」

灌頂隨願往生十方淨土經曰：「命終之人在中陰中，身如小兒罪福未定，應為修福。願亡者神使生十方無量刹土，承此功德必得往生。」

### ◎ 壽眾無量第十三

1594. 【陶家輪】（科註第六四二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（物名）製陶器所用之車輪，又製造陶器之人也。

維摩經不思議品曰：「菩薩斷取三千大千世界，如陶家輪。」

資持記中一之下曰：「陶家謂土作家，輪即範土為杯器之車，運之則轉，故以喻焉。」行宗記三上曰：「陶家即土作者，輪盤一發，餘力自轉。」

1595. 【淨華眾】（科註第六四六頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）往生極樂者，化生於清淨之蓮華，具七種淨法，是曰淨華眾。

願生偈曰：「如來淨華眾，正覺華化生。」

1596. 【正覺華】（科註第六四六頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）極樂淨土之蓮華，為依彌陀如來正覺所成之華，故曰正覺華。

淨土論曰：「如來淨華眾，正覺華化生。」

◎ 寶樹徧國第十四

1597. 【無漏】（科註第六四九頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）Andśrava，漏者煩惱之異名，漏泄之義，貪瞋等之煩惱，日夜由眼耳等六根門漏泄流注而不止，謂之漏。又漏為漏落之義，煩惱能令人漏落於三惡道謂之漏。因之謂有煩惱之法云有漏，離煩惱之法云無漏。

俱舍論二十曰：「諸境界中，流注相續，泄過不絕，故名為漏。」

大乘義章五本曰：「流注不絕，其猶瘡漏，故名為漏。」

法華文句一曰：「毘曇云：漏落生死。」

《佛學次第統編》「有漏無漏」條（節錄）：離煩惱之清淨法，及不為增長他煩惱緣之法，謂之無漏。諸漏永盡，非漏隨增，性淨圓明，故名無漏。若在佛果，乃為究竟無漏矣。

1598. 【五音聲】（科註第六五〇頁第四行）

《佛學大辭典》「五音」條：（名數）又曰五聲，或五調子，即宮商角徵羽也。

無量壽經上曰：「清風時發，出五音聲，微妙宮商，自然相和。」

宮者土聲，最濁，為君，為壹越調，配於中央。商者金聲，次濁，為臣，為平調，配於西方。角者木聲，半清半濁，為民，為雙調整，配於東方。徵者火聲。徵清，為人

事，為黃鍾調，配於南方。羽者水聲。最清，為萬物，為槃涉調，配於北方。即阿於字伊衣之五音也。密宗亦配之於五智。

《實用淨土宗辭典》「五音」條：又稱五聲或五調子，即宮商角徵羽。《無量壽經》卷上說極樂世界「清風時發，出五音聲，微妙宮商，自然相和」。即說極樂淨土之七寶諸樹，清風吹時，出五音之聲。五音為我國自古相傳用以表示音律高低之法，五音之中以宮調最低，依商、角、徵、羽次第增高，梵唄音譜亦由此音階變化而成。法照大師作五會念佛，亦據此樂理譜成。

1599. 【變宮】（科註第六五〇頁第五行）

《漢語大詞典》：古代七聲音階中的第七

音級，比「宮」低半音。

1600. 【變<sup>sh</sup>徵<sup>sh</sup>】（音止）（科註第六五〇頁第六行）

《漢語大詞典》：我國古代七聲音階中的第四個音級。比徵低半音。

### ◎ 菩提道場第十五

1601. 【道場】（科註第六五一頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語菩提曼拏羅 Bodhimāṇḍala，謂佛成聖道之處。中印度摩竭陀國尼連禪（河）側，菩提樹下之金剛座是也。

西域記八曰：「菩提樹垣正中有金剛座。〔中略〕賢劫千佛坐之而入金剛定，故曰金剛座焉。證聖道所，亦曰道場。」

又得道之行法，謂為道場。維摩經菩薩品曰：「直心是道場。」〔中略〕三十七品是道場。」

又供養佛之處，謂為道場。輔行二曰：「嚴道場者，場者俗中亦以為祭神處也。今以供佛之處名為道場。」

又學道之處，謂為道場。註維摩經四曰：「肇曰：閑宴修道之處，謂之道場也。」

隋煬帝時以為寺院之名。佛祖統紀三十九曰：「隋大業九年，詔改天下寺曰道場。」

又為法座之異名。慈悲道場，水陸道場等是也。

1602. 【菩提樹】（科註第六五二頁第三行）

《翻譯名義集》：西域記云：即畢鉢羅樹

也。昔佛在世，高數百尺，屢經殘伐，猶高四五丈。佛坐其下，成等正覺，因而謂之菩提樹焉。莖幹黃白，枝葉青翠，冬夏不凋，光鮮無變。每至涅槃之日，葉皆凋落，頃之復故。法苑云：釋迦道樹，名阿沛多羅。

1603. 【廣狹自在之玄門】（科註第六五二頁第七行）

《三藏法數》「廣狹自在無礙門」條：謂大而無外，名廣；小而無內，名狹。然大非定大，置毛端而不窄；小非定小，含太虛而有餘。所謂事得理融，自在無礙。經云：能以小世界作大世界，大世界作小世界。等是也。（參見「十玄門」439）

1604. 【鸞】（科註第六五五頁倒數第一行）

《漢語大詞典》：傳說中鳳凰一類的鳥。

1605. 【小煩惱地法】（科註第六五六頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）小乘七十五法中五種心所法之一種。忿、覆、慳、嫉、惱、害、恨、諂、誑、憍之十心所也。此十者唯修惑而起於意識，且各各與無明相應而起，非如大煩惱地法之心所，一切染心俱起者，故名小煩惱地法。

俱舍論四曰：「唯修所斷，意識地起，無明相應，各別現行，故名為小煩惱地法。」

1606. 【大煩惱地法】（科註第六五六頁倒數第一行）

小乘七十五法中，五種心所法之一種。

《佛學大辭典》：（術語）與一切煩惱心相伴之心所也。有六。一痴，二放逸，三懈怠，四不信，五昏沈，六掉舉。見俱舍論

四。  
1607. 【二十隨煩惱】（科註第六五七頁第一行）

大乘百法中，六種心所法之一。

《三藏法數》「二十種隨煩惱」條：〔出華嚴經隨疏演義鈔〕謂諸昏煩惱亂心神之法，隨逐眾生，造無量業，故名隨煩惱也。

一、忿隨煩惱：暴怒之心名忿，謂對現前一切違情之境，即發暴怒，惱亂其心，是名忿隨煩惱。

二、恨隨煩惱：恨即怨恨，謂由忿怒不捨，結諸怨恨，惱亂其心，是名恨隨煩惱。

三、覆隨煩惱：覆即隱覆，謂自作罪惡，不能懺悔，故意隱覆，惟恐人知，惱亂其心，是名覆隨煩惱。

四、惱隨煩惱：惱即熱惱，謂外遇違情之境，熱惱於心，不自安隱，是名惱隨煩惱。

五、嫉隨煩惱：嫉即嫉妒，謂持心不平，常懷嫉妒，惱亂於心，是名嫉隨煩惱。

六、慳隨煩惱：吝惜曰慳，謂於一切財法，貪求積蓄，不能惠施，恒恐散失，惱亂於心，是名慳隨煩惱。

七、誑隨煩惱：詭詐不實曰誑，謂與世交接，語言虛誑，巧慮多謀，心不自安，而生惱亂，是名誑隨煩惱。

八、諂隨煩惱：謂諂佞阿諛，媚悅人意，心恒愧nān赧zān（慚愧也），而不自安，是名諂隨煩惱。

九、害隨煩惱：謂銜恨蓄怨，常欲損害於

人，求快己意，恒恐不遂，惱亂其心，是名害隨煩惱。

十、憍隨煩惱：矜己傲（同「傲」）他曰憍，謂心不謙下，常欲勝人，傲彼有德，惱亂其心，是名憍隨煩惱。

十一、無慚隨煩惱：謂屏處為非，不知慚天以自悔改，惱亂其心，是名無慚隨煩惱。

十二、無愧隨煩惱：謂陰為不善，不知愧人以自悔改，惱亂其心，是名無愧隨煩惱。

十三、掉舉隨煩惱：謂外境紛擾，身心動搖，不能攝伏，因而惱亂，是名掉舉隨煩惱。

十四、昏沉隨煩惱：謂心神昏闇沉迷，而於諸法無所明了，惱亂其心，是名昏沉隨煩

惱。

十五、不信隨煩惱：謂邪見多疑，於諸正法，不生信心，因而惱亂，是名不信隨煩惱。

十六、懈怠隨煩惱：謂身心懶惰，於諸道業不能精進修習，因而惱亂，是名懈怠隨煩惱。

十七、放逸隨煩惱：謂縱恣自逸，耽著欲境，不能檢束，因而惱亂，是名放逸隨煩惱。

十八、失念隨煩惱：謂心逐邪妄，正念遺失，遂致淪墜，惱亂其心，是名失念隨煩惱。

十九、散亂隨煩惱：心常放逸名曰散亂，

謂著諸緣境，令心流逸，恒不寂靜，因而惱亂，是名散亂隨煩惱。

二十、不正知隨煩惱：謂於法邪解，遠離正知，背覺合塵，以妄為真，惱亂其心，是名不正知隨煩惱。

1608. 【根本煩惱】（科註第六五七頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）又曰本惑，本煩惱。謂大乘百法中貪、瞋、痴、慢、疑、惡見之六大煩惱也。惡見以外，謂為五鈍使。開惡見之一，則有身、邊、邪、取、戒之五見，此謂為五利使。合而為十。謂之十隨眠或十使。共為根本煩惱。其他為隨煩惱。又五住地（謂三界見惑為一住，三界思惑分為三住，根本無明為一住，共成五住也。由此五

惑，能令眾生住著生死，故名住地也）之中，第五之無明住地為根本煩惱。其他之四住地為枝末。

1609. 【隨煩惱】（科註第六五七頁第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）

於大乘百法中，對於六大惑（同六隨眠）之根本煩惱而名其餘二十為隨煩惱。忿、恨、惱、覆、誑、諂、僞、害、嫉、慳之十，為小隨惑。無慚、無愧之二，為中隨惑。不信、懈怠、放逸、昏沈、掉舉、失念、不正知、散亂之八，為大隨惑。此三種二十之煩惱，盡隨他之根本煩惱而起，故名隨煩惱。

（大乘百法：

一切法者，略有五種：

第一心法，略有八種：一眼識，二耳識，三鼻識，四舌識，五身識，六意識，七末那識，八阿賴耶識。

第二心所有法，略有五十一種，分為六位：一、遍行有五；二、別境有五；三、善有十一；四、煩惱有六；五、隨煩惱有二十；六、不定有四。

第三色法，略有十一種：一眼，二耳，三鼻，四舌，五身，六色，七聲，八香，九味，十觸，十一法處所攝色。

第四心不相應行法，略有二十四種。

第五無為法者，略有六種：一、虛空無為，二、擇滅無為，三、非擇滅無為，四、不動無為，五、想受滅無為，六、真如無為。

1610. 【三種忍】（科註第六五八頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「三忍」條（節錄）：無量

壽經云往生極樂之人聞七寶樹林之音聲，而得三種之忍：

一音響忍，由音響而悟解真理者。

二柔順忍，慧心柔軟，能隨順真理者。

三無生法忍，證無生之實性而離諸相者，是悟道之至極也。見無量壽經鈔五。

1611. 【言詮】（科註第六五九頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）言語為詮義理者也。

《實用淨土宗辭典》「廢詮談旨」條：

（術語）法相宗之語。彼宗所立真俗四重之二諦中，第四重之真諦，即一真法界，不能以言語詮顯，須廢言詮，但以正智於內心證會其理旨也。起信論所謂離言真如也。旨者指

所證之真理。

義林章二末曰：「勝義勝義諦，亦名廢詮談旨諦。」

1612. 【うん淳じゆん（音停）】（科註第六五九頁第五行）

《漢語大詞典》：深。

1613. 【賢劫經】（科註第六五九頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（經名）又名毘陀劫三昧經。譯曰賢劫定意經。八卷或十卷，西晉竺法護譯。初說諸三昧，諸度無極，佛之神通功德事。末說賢劫千佛事。

1614. 【華嚴十忍品】（科註第六五九頁倒數第六行）

六十華嚴之第二十四品。八十華嚴之第二十九品。

1615. 【如來興顯經】（科註第六五九頁倒數第五行）

《佛光大辭典》：凡四卷。西晉竺法護

譯。又稱興顯如幻經、興顯經。收於大正藏第十冊。本經譯自華嚴經之如來出現品。異譯本有西晉帛法祖所譯之如來興顯經一卷。

〔出三藏記集卷二、歷代三寶紀卷六、大唐內典錄卷二、古今譯經圖紀卷二、開元釋教錄卷二、貞元新定釋教目錄卷三、卷四〕

1616. 【十忍】（科註第六五九頁倒數第五行）

《三藏法數》「十種忍」條：〔出華嚴指掌〕

忍，即安忍，亦忍可也。謂菩薩既斷無明之惑，證無生理，了達諸法本來寂滅，是故見色聞聲，如幻如化，不起妄念而分別也。然此忍體雖一，而隨事立名則有十種也。

一、音聲忍：音聲忍者，謂聞佛深教，即

能曉了，忍可不驚怖也。

二、順忍：順忍者，謂於理於事，悉能隨順，諦審忍可，而無違逆也。

三、無生忍：無生忍者，謂了達諸法本來無生，亦無有滅，諦審忍可，而妄念不起也。

四、如幻忍：如幻忍者，謂了達諸法皆從因緣和合而生，猶如幻化，性本空寂，諦審忍可，而無執著也。

五、如焰忍：如焰忍者，謂了知一切境界悉如陽燄（浮塵為日光所照時呈現的一種遠望似水如霧的自然景象），無有真實，諦審忍可，而不執著也。

六、如夢忍：如夢忍者，謂了諸妄心，皆

如夢境，無有真實，諦審忍可，而不執著也。

七、如響忍：如響忍者，謂世間一切語言音聲，皆由因緣和合而成，猶如谷響，無有真實，諦審忍可，而不執著也。

八、如影忍：如影忍者，謂了達色身，由五蘊積聚而成，本無實體，諦審忍可，而不執著也。（五蘊者，色蘊、受蘊、想蘊、行蘊、識蘊也。）

九、如化忍：如化忍者，謂世間諸法，無而忽有，有即還無，體非真實，諦審忍可，而不執著也。

十、如空忍：如空忍者，謂了達世間、出世間種種諸法，悉如虛空，無有色相，諦審

忍可，而不執著也。

1617. 【大寶海】（科註第六六一頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）生無量珍寶之海。

淨土論曰：「觀佛本願力，遇無空過者，能令速滿足，功德大寶海。」

教行信證二曰：「歸入功德大寶海，必獲人大會眾數。」

### ◎ 堂舍樓觀第十六

1618. 【新譯華嚴經音義】（科註第六六三頁第三行）

《閱藏知津》「新譯大方廣佛華嚴經音義」條：二卷或作四卷，唐京兆靜法寺沙門慧苑

述。(參見「《慧苑音義》」1457)

1619.【明月珠】(科註第六六三頁第八行)

《佛學大辭典》：(物名)經云明月摩尼。摩尼珠之光，如明月也。

○明月摩尼：(物名)摩尼者寶珠之總名，明月者其別名也，其光如明月故名。

無量壽經上曰：「復以真珠明月摩尼眾寶以為交露。」

六要鈔六本曰：「明月珠者摩尼也，摩尼之中有明月珠，明月珠者即上所言月光摩尼。千手經說日精摩尼月精摩尼，其月精者此珠也。」

1620.【經行】(科註第六六四頁倒數第一行)

《佛學大辭典》：(術語)於一定之地旋

繞往來也。即坐禪而欲睡眠時，為此防之，又為養身療病。

寄歸傳三曰：「五天之地，道俗多作經行。直去直來，唯遵一路。隨時適性，勿居鬧處。一則痊痾(使病痊癒。痾，音同「阿膠」之「阿」)，一能銷食。「中略」若其右繞佛殿，旋遊制底，別為生福，本欲虔恭。經行乃是銷散之儀，意在養身療病。舊云行道，或曰經行。二事總包，無分涇渭。遂使調適之事久闕東川。」

玄贊二曰：「西域地濕，疊磚(同「磚」)為道。於中往來，消食誦經。如經布絹之來去，故言經行。」

釋氏要覽下曰：「十誦律云：經行有五

利：一勤健（勤音巢，輕捷也），二有力，三不病，四消食，五意堅固。三千威儀經，有五處可經行：一閑處，二戶前，三講堂前，四塔下，五閣下。」

法華經序品曰：「未嘗睡眠經行林中。」  
同方便品曰：「我始坐道場，觀樹亦經行。」  
十誦律五十七曰：「經行法者，比丘應直經行，不遲不疾。若不能直，當畫地作相，隨相直行，是名經行法。」

摩得勒伽六曰：「比丘經行時，不得搖身行，不得大駛駛，不得大低頭，縮攝諸根，心不外緣，當正直行。行不能直者安繩。」

1621. 【jīng<sub>1</sub> 經】（音敬）（科註第六六五頁第一行）

《漢語大詞典》：謂織布前，於機杼上繃

齊並梳整紗縷，使成為經線。（按：「經布」的意思，就是將縱向的經線掛上織布機的這個工序。）

1622. 【xiāo<sub>1</sub> 綃】（音肖）（科註第六六五頁第一行）

《漢語大詞典》：薄的生絲織品；輕紗。

1623. 【禪那】（科註第六六五頁第五行）

《三藏法數》：梵語禪那，華言靜慮。專心斂念，守一不散之謂也。禪有二種：

一者世間禪，謂色界、無色界凡夫所修禪也。

二者出世間禪，謂聲聞、緣覺、菩薩所修禪也。

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）譯曰思惟修。新譯曰靜慮。與禪定同。心定一境而審為思慮者。是為色界所屬之心德，不具欲

界之心，離欲界之煩惱，乃可得之。

思惟修者，為寄於因之名，一心思惟研修為因，乃得此定心，故名為思惟修。

靜慮者就當體而名之，其禪那之體為寂靜而亦具審慮之用，故曰靜慮。

靜即定，慮即慧也。定慧均等之妙體曰禪那。

次第禪門一上曰：「思惟修者，此可對因。何以故？思惟是籌量之念，修是專心研習之名，故以對修因。」

大乘義章十二曰：「上界靜法審觀方成，名思惟修。」

俱舍論二十八曰：「依何義故立靜慮名？由是寂靜能審慮故。審慮即是實了知義，如

說心在定能如實了知。」同光記十八曰：「由定寂靜慧能審慮。」〔中略〕馱南，此云靜慮，舊云禪。或云禪那，或云持阿那，皆訛也。〔中略〕婆沙八十三云：靜謂等引，慮謂遍觀，故名靜慮。」（等引為定之異名）。修得此禪那，則死後必生於色界之四禪天。外道為生天而修之。佛者為依此發無漏智而修之。欲成就之。必脫離欲界生得之散心妄念，外道佛法，其 kuí 揆 クイ 揆（音魁。道理，準則）一也。梵 *Dhyāna*。

1624. 【瀑流】（科註第六六六頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）三界之煩惱。能漂流善品。故名瀑流。

俱舍論二十曰：「極漂善品，故名瀑流。」

瀑或作暴誤。

1625. 【欲界九品思惑】（科註第六六頁第八行）

《三藏法數》「八十一品思惑」條：〔出

天台四教儀集註〕思惑者，謂眼等五根，對色等五塵，而起貪瞋癡慢四惑也。言八十一品者，以欲界為一地，色界初禪、二禪、三禪、四禪為四地，無色界空處、識處、無所有處、非想非非想處為四地，共為九地。

欲界一地具九品，貪瞋癡慢四惑，所謂上上、上中、上下，中上、中中、中下，下上、下中、下下也。

色界四地，無色界四地，亦各有九品，貪癡慢三惑，但除瞋恚，以上二界，不行瞋故。是則九地各有九品思惑，共成八十一品

也。（三界思惑分九品者，以此惑難斷，故細分之，令二果斯陀含、三果阿那含、四果阿羅漢，次第斷除也。）

1626. 【小本《慈恩疏》】（科註第六六七頁第三行）

《實用淨土宗辭典》「阿彌陀經疏」條（節錄）：書名。同名之書有三種，均為注釋鳩摩羅什大師譯之《佛說阿彌陀經》，各為一卷，同收於《大正藏》第三十七冊，作者分別是：唐窺基大師、新羅元曉大師、宋智圓大師。

一窺基本，計分七門：一明示彌陀佛身通於報化二身，登地菩薩見佛之受用身，地前菩薩及凡夫唯見應化身；二就佛土說法性土、自受用土、他受用土、變化土等四種；

三論不退轉義；四敘偏讚之心，引用《隨願往生經》之說，謂若十方皆有淨土，眾生之心則便慢緩。若唯顯示一處，心即殷重，故獨讚西方淨土；五略述體性，淨土以佛及菩薩之唯識智為體；六敘述部類多少，宗趣所明；七判釋本經文義。

### ◎ 泉池功德第十七

1627. 【八功德水】（科註第六七〇頁第三行）

《三藏法數》：「〔出稱讚淨土經〕八功德水，謂阿彌陀佛極樂淨土池中之水，有八種功德也。」

一、澄淨：謂其水澄渟（水清而靜。渟，音停）潔淨，是為澄淨功德。

二、清冷：謂其水清澄涼冷，是為清冷功德。

三、甘美：謂其水甘甜嘉美，是為甘美功德。

四、輕軟：謂其水輕浮柔軟，是為輕軟功德。

五、潤澤：謂其水滋潤澤物，是為潤澤功德。

六、安和：謂其水人若飲時，身心即得安隱調和，是為安和功德。

七、除患：謂其水人若飲時，能除飢渴等患，是為除患功德。

八、增益：謂其水人若飲時，即能長養善根，增益四大，是為增益功德。（四大者，

即人身中地、水、火、風也。

1628. 【瓜瓠瓜】(音樓) (科註第六七〇頁倒數第一行)

《漢語大詞典》：guā 𦉳瓜 (音瓜) 樓的別名。

(栝樓，亦作「栝萋」。多年生草本植物，莖上有卷鬚，以攀緣他物。果實卵圓形，橙黃色。中醫用來做鎮咳祛痰藥。其果實亦稱「栝樓」。)

1629. 【阿耨耨多達池】(科註第六七二頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(地名) Anavatapta，舊

稱阿耨達，阿那陀答多，阿那阿達多，阿那婆達多。新稱阿那婆答多。譯曰無熱。在瞻部洲之中心，香山之南，大雪山之北。周八百里，金銀琉璃。頗黎飾其岸，金沙彌漫，清波皎鏡，八地菩薩以願力之故，化為龍王，中有潛宅，出清泠水供給瞻部洲。見西

域記一。

按喜馬拉亞山之佛母嶺，高出海岸一萬五千五百尺處，有一湖名瑪那薩羅華，即阿耨達池也。𦉳(𦉳，音敬)伽，信度，縛芻(今之阿姆河。芻，音除)，徙多，四河出焉。佛典載，此湖之水。自山谷間曲折流出，分為四大河，一河中有黃金，一河中有金剛石，一河中有紅寶石，一河中有琉璃是也。並謂湖中蓮花甚多，實則並非蓮花，乃是一種小草。近時瑞典人海丁，遊歷西藏。言喀拉山之東南。有瑪拉薩羅瓦湖。即阿耨達池。其湖為淡水湖。無出口。潛流地中。為恒河之源。恒河。即𦉳伽河也。

1630. 【大行】(科註第六七六頁第四行)

《實用淨土宗辭典》：行業廣大之意，菩薩修行為求佛果菩提，乃發大誓願，歷經三祇百劫，修波羅蜜等諸善萬行，積大功德，故稱大行。

淨土真宗《教行信證》中之行卷，指稱念南無阿彌陀佛之名號為大行。因此名號攝諸善法，具諸德本，是眾生往生之行業，以顯眾生之口業，故稱大行。若此稱名屬報恩之行業，則稱報恩大行。

1631. 【《止觀輔行》】（科註第六七六頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（書名）止觀輔行傳弘決之略稱。

○止觀輔行傳弘決：（書名）本為十卷，開為四十卷。唐湛然撰。釋天台之摩訶止觀。

《天台教學辭典》「摩訶止觀輔行傳弘決」條（節錄）：唐代荆溪湛然大師撰。又稱「止觀輔行」、「輔行」、「弘決」。

本書係注釋「摩訶止觀」，書題「止觀輔行傳弘決」即已揭出全書旨趣！以佛一代諸教「輔」翼止觀之妙「行」，復依止觀妙行以「傳弘」一代教旨。故于全書二（疑作「四」）十卷中，試圖以咨稟口決、審理要決等，來彰顯此教行相資之旨。古來凡講「摩訶止觀」，皆以此書為依憑。書中引用外典之處甚多，由此可見作者博覽群典且甚精。

本書自古來皆單行，至北宋天聖二年（一〇二四）始入藏。本書之注釋書，有湛然大師另著「摩訶止觀輔行搜要記」十卷、有嚴

大師「摩訶止觀輔行傳弘決助覽」四卷、道邃大師「摩訶止觀論弘決纂義」八卷等。  
〔佛祖統記卷十、卷十一、卷二五、佛祖歷代通載卷二七〕

1632. 【清涼】（科註第六七六頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「清涼國師」條：（人名）

華嚴四祖。清涼國師，諱澄觀，字大休，山陰人，姓夏侯氏。身長九尺四寸，垂手過膝，口四十齒，目光夜發。晝乃不眴，日記萬言，七行俱下，才供二筆。年十一，出家。嘗以十事自勵，嘗問徑山欽西來宗旨，默受印記。住五臺山，疏華嚴經。後居京師，德宗迎入內，賜號清涼國師。生歷九朝（唐玄宗、肅宗、代宗、德宗、順宗、憲宗、穆宗、

敬宗、文宗也），為七帝（唐代宗以下七帝也）門師。開成三年，坐逝。壽百二十歲。塔於終南，名曰妙覺。後有僧至闕，言在葱嶺見金神取華嚴菩薩大牙歸供養耳。有旨啟塔，貌如生，而失二牙。

佛祖統紀二十九曰：「初德宗誕節，召講經內殿，以妙法清涼帝心，遂賜號清涼法師。」

釋氏稽古略三曰：「帝顧謂群臣曰：朕之師，言雅而簡，辭典而富，能以聖法清涼朕心，仍以清涼賜為國師之號。」

1633. 【十力】（科註第六七七頁第一行）

《三藏法數》「如來十力」條：（出圓覺略鈔并大智度論。）如來證得實相之智，了

達一切，無能壞、無能勝，故名力也。

一、知是處非處智力：謂如來於一切因緣果報，審實能知。如作善業，即知定得樂報，名知是處；若作惡業，得受樂報，無有是處，名知非處。如是種種皆悉徧知，故名知是處非處智力。

二、知過現未來業報智力：謂如來於一切眾生，過去未來現在三世業緣、果報、生處，皆悉徧知，故名知過現未來業報智力。

三、知諸禪解脫三昧智力：梵語三昧，華言正定。謂如來於諸禪定，自在無礙，其淺深次第，如實徧知，故名知諸禪解脫三昧智力。

四、知諸根勝劣智力：謂如來於諸眾生，

根性勝劣，得果大小，皆實徧知，故名知諸根勝劣智力。

五、知種種解智力：謂如來於諸眾生，種種欲樂，善惡不同，如實徧知，故名知種種解智力。

六、知種種界智力：謂如來於世間眾生，種種界分不同，如實徧知，故名知種種界智力。

七、知一切至處道智力：謂如來於六道有漏行所至處，涅槃無漏行所至處，如實徧知，故名知一切至處道智力。（六道者，天道、人道、修羅道、餓鬼道、畜生道、地獄道也。有漏行者，謂六道眾生，由身口意所作業行，而漏落生死也。梵語涅槃，華言滅

度。無漏行者，謂一乘修戒定慧道品之行，而不漏落生死也。）

八、知天眼無礙智力：謂如來證知天眼睛淨，見諸眾生時生時，端正醜陋，善惡業緣，皆悉無礙，故名知天眼無礙智力。

九、知宿命無漏智力：謂如來於種種宿命，一世乃至百千萬世，一劫乃至百千萬劫，死此生彼，死彼生此，姓名、飲食、苦樂、壽命，如實徧知，故名知宿命無漏智力。（劫，梵語具云劫波，華言分別時節。）

十、知永斷習氣智力：謂如來於一切惑餘習氣分，永斷不生，如實徧知，故名知永斷習氣智力。（參見《科註》第一〇七九至一〇八〇）

1634. 【無所畏】（科註第六七七頁第四行）

《三藏法數》「四無所畏」條：「出大智度論」此四通言無畏者，由佛十力之智內充，明了決定，故於大眾中凡有所說，則無恐懼之相，故名無所畏。（十力者，知是處非處智力、知過去現在未來業報智力、知諸禪解脫三昧智力、知諸根勝劣智力、知種種智力、知種種界智力、知一切至處道智力、知天眼無礙智力、知宿命無漏智力、知永斷習氣智力也。）

一、一切智無所畏：一切智者，於世間、出世間一切諸法盡知盡見也。無所畏者，如佛言，我是一切正智人，故得安隱，得無所畏；在大眾中作師子吼，能轉法輪；諸沙

門、婆羅門、若天魔梵、若復餘眾，實不能轉。是一切智無所畏。（梵語沙門，華言勤息，謂勤行眾善，止息諸惡也。梵語婆羅門，華言淨行。天魔梵者，天魔即他化自在天，梵即梵天魔。）

二、漏盡無所畏：漏盡者，惑業生死俱盡也。無所畏者，如佛言，我一切漏盡，故得安隱，得無所畏；在大眾中作師子吼，能轉法輪；諸沙門、婆羅門、若天魔梵、若復餘眾，實不能轉，是為漏盡無所畏。

三、說障道無所畏：說障道者，說彼魔、外障蔽聖道之法也。無所畏者，如佛言，我說障法，故得安隱，得無所畏，在大眾中，作師子吼，能轉法輪；諸沙門、婆羅門、若

天魔梵、若復餘眾，實不能轉，是為說障道無所畏。

四、說盡苦道無所畏：說盡苦道者，說能盡諸苦之道法也。無所畏者，如佛言，我所說聖道，能出世間，能盡諸苦，故得安隱，得無所畏，在大眾中作師子吼，能轉法輪；諸沙門、婆羅門、若天魔梵、若復餘眾，實不能轉，是為說盡苦道無所畏。

1635. 【三種無性】（科註第六七七頁倒數第五行）

《三藏法數》「三無性」條：〔出成唯識論〕

一、相無性：謂一切眾生，於世間之相，處處計著，執為實有。佛為除此妄執，說一切法皆無自性，故名相無性。

二、生無性：謂一切諸法，皆託因緣和合而生，本無自性，故名生無性。

三、勝義無性：謂前相無性、生無性，因破眾生妄執之情，假說無性；非性全無，是故佛說勝義無性者，謂真如勝義之性，遠離遍計妄執之性，故名勝義無性。

1636. 【遍計所執性】（科註第六七七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「遍依圓三性」條：（術語）

一、遍計所執性，由凡夫之妄執認為實物者。凡夫之妄情，遍計度一切法，故曰遍計。為此遍計之妄情所迷執者，謂之所執性，例如見繩而誤以為蛇。非有蛇之實體。但妄情迷執為蛇耳。是曰遍計所執性，吾人

於內外認實我執實法亦如此。有為之萬法，為因緣假和合之法，無一實我，無一實法，但自妄情計度而迷執為我為法，因而指實我實法，謂之遍計所執性。是但由妄情而存，不能離妄情而有者。

二、依他起性，依因緣而生之一切萬法是也。他指因緣，以阿賴耶識之種子為第一之因。藉其他種種之助緣而生者。是離妄情而自存也。例如繩自麻等之因緣而生者。

三、圓成實性，圓滿成就之真實性也。亦曰法性，亦曰真如。是一切有為法體性也，恰如繩之實性為麻。此有二義。謂此法性隨緣，為依他起性者，為實大乘之義。謂此法性為所依，而依他起性成立者，為權大乘之

義。

然而此三性中遍計所執性為妄有，依他起性為假有，圓成實性為實有。

又遍計所執性為實無，依他起性為似有，圓成實性為真有。此三性於別事上亦在，於一事上亦具。龜毛兔角（有名無實之事物）及過未（過去與未來）之法，認為實者，為遍計所執性。如於百法之中差別前九十四法為依他起性，後六無為為圓成實性，是別事上之三性也。

又舉一花以妄情迷執為實之花，花之相，是遍計所執性也。自因緣而生，假現花之相，是依他起性也。花之實體，是圓成實性也。如此分別之。則諸法各各於一事上具三

性。說見唯識論八，百法問答抄四。

1637. 【依他起性】（科註第六七七頁倒數第二行）

見上條「遍計所執性」1636。

1638. 【圓成實性】（科註第六七八頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）三性之一。空煩惱所知二障而顯之真理。諸法真實之體性也。曰真如、曰實相、曰法界、曰法性、曰涅槃、皆同體異名也。為圓滿成就諸法功德之實性，故名圓成實性。從其具德也。

唯識論八曰：「二空所顯圓滿成就諸法實性，名圓成實。」（參見「遍計所執性」1636）

1639. 【原人論】（科註第六七八頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（書名）具名華嚴原人論，一卷，唐圭峰宗密著。以華嚴之宗意，

窮考人趣之生起者。

1640. 【《十地經論》】（科註第六七九頁第二行）

《佛學大辭典》：（書名）十二卷，天親著，後魏菩提留支等譯。釋華嚴之十地品。

1641. 【無我智】（科註第六七九頁第二行）

《佛學大辭典》「二無我智」條：（名數）知人無我法無我理之智也。

楞伽經一曰：「如河流、如種子、如燈、如風、〔中略〕如汲水輪，生死趣有輪，種種身色，如幻術神咒機發像起，善彼相知，是名人無我智。云何法無我智？謂覺陰界人妄想相自性。」

○二無我：（名數）一、人無我，自主自在之我為我。凡夫不了五蘊假和合之義，固

執實有自主自在之人體，曰人我，今了五蘊假和合之義，達實無人體，曰人無我，是為小乘之觀道，以斷煩惱障，而得涅槃者也。

二、法無我，固執諸法有實體，有實用，曰法我，今了諸法因緣生之義，達實無自性，曰法無我，是為大乘菩薩之觀道，以斷所知障，而得菩薩者也。小乘唯悟人無我，菩薩則二無我皆悟。

楞伽經一曰：「大慧菩薩摩訶薩善觀二種無我相，云何二種無我相？謂人無我，及法無我。」

《三藏法數》「二無我」條：〔出楞伽經〕無，即空也。人法之中，本無有我，但凡夫不了，於無我中計我極盛。所謂我身、我

名、我衣物、我田宅、我行、我住坐臥，語言不離於我，乃至我能布施、持戒等。因此顛倒，備起一切煩惱生死行業。聲聞之人，修四真諦，即了人法本空，我亦無有，故名二無我。（四真諦者，即苦集滅道也。）

一、人無我，謂由攬五陰實法而成假名之人，凡夫不了，復於假名之中，妄執為我。若了五陰之法本空，假名之人，豈得定有。假名既不定有，則所執之我，亦不可得。故金光明經云：何處有人及以眾生，是名人無我。（攬者，撮持也。五陰者，色陰、受陰、想陰、行陰、識陰也。五陰之身實有，故名實法；名字本來虛假，故名假名。）

二、法無我，謂由攬父母之遺體，四大假

合而成五陰之身。若一一分別推求，皆悉空無所有。凡夫不了，妄執此身為我，餘身非我。若了四大本空，五陰非有，則所執之我亦不可得。故金光明經云：五陰舍宅，觀悉空寂，是名法無我。（四大者，地大、水大、火大、風大也。）

1642. 【四無量心】（科註第六七九頁第四行）

《三藏法數》：「〔出法界次第〕四無量心者，慈悲喜捨也。通名無量者，謂菩薩利他之心廣大也。所緣眾生既無量，而能緣之心亦無量也。（菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。）

一、慈無量心：慈名愛念，即與樂之心也。謂菩薩愛念一切眾生，常求樂事，隨彼

所求而饒益之，故名慈無量心。

二、悲無量心：悲名愍傷，即拔苦之心也。謂菩薩愍念一切眾生受種種苦，常懷悲心，拯救濟拔，令其得脫，故名悲無量心。

三、喜無量心：謂菩薩慶他眾生離苦得樂，其心悅豫，欣慶無量，故名喜無量心。

四、捨無量心：謂菩薩於所緣眾生，無憎愛心，名之為捨；復念一切眾生，同得無憎、無愛、無瞋、無恨、無怨、無惱，故名捨無量心。

1643. 【《光明文句》】（科註第六七九頁第八行）

《佛學大辭典》：（書名）金光明經文句之略名。智者大師說。（參見「《金光明經文

句》」1163）

1644. 【《法華科註》】（科註第六八一頁第四行）

《妙法蓮華經科註》之略名。七卷，明一如集註。收於《卍新纂續藏經》第三十一冊。

1645. 【《華嚴論》】（科註第六八一頁倒數第一行）

《佛光大辭典》「新華嚴經論」條：凡四十卷。唐代李通玄撰。收於大正藏第三十六冊。

本書係就實叉難陀所譯之新華嚴經明其玄旨，並隨釋經文而成。初於文前立依教分宗、依宗教別、教義差別、成佛同別、見佛差別、說教時分、淨土權實、攝化境界、因果延促、會教始終等十門。次釋經文，先總敘經意，二明經宗趣，三明其教體，四總陳

會數，後釋其文義。本論與法藏等論相比，頗多特殊之處。如法藏等謂華嚴經之說處說會及品數為七處九會三十九品，本書則為十處十會四十品。法藏之主旨在成就事事無礙，本書則闡發凡夫一生感得心內理智不二之佛等。

撰者歿後，唐大曆九年（七七四）二月，僧廣超於逝多寺合寫本論與十二緣生解迷顯智成悲十明論，流通於并汾之地。大中年間，開元寺僧志寧合經與論，題為大方廣佛新華嚴經合論，共一二〇卷。宋乾德五年（九六七）以其義類尚嫌繁衍，慧研奉帝旨，整其漏略，重新開印。〔新華嚴經合論序、福州溫州台州求得經律論疏記外書等目錄、

新編諸宗教藏總錄卷一〕

◎ 超世希有第十八

1646. 【天人不動眾】（科註第六八五頁第七行）

《實用淨土宗辭典》：指極樂淨土之大眾。極樂淨土實無天人之存在，然以順應他方世界之故，存天人之名。其大眾實乃一生補處菩薩，為證得涅槃之妙理者，成就大乘根性，絕無傾動退轉，故稱不動。

◎ 受用具足第十九

1647. 【鉢多羅】（科註第六九三頁第五行）

《三藏法數》：梵語鉢多羅，華言應器。

發zhèn 軫 (音診) 鈔云：應法之器也。謂體、色、量，三者皆須與法相應。體有二，泥及鐵也。色者，熏作黑赤色，或孔雀咽色，鴿色。量者，大受三斗，小受一斗半，故名應器。

《佛學大辭典》「鉢多羅」條 (節錄)：

(物名) *Paṭṭa*，又作波多羅，波da 咄 (音答) 囉，鉢咄囉，播怛囉，鉢和羅，鉢和蘭。略云鉢。比丘六物之一，飯器也。有泥鐵之二種，譯曰應器，又曰應量器，以體色量三者皆應法故也，又以賢聖應受人之供養者用之也。

1648. 【歡喜丸】 (科註第六九三頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(飲食) 又曰歡喜團。

餅名。梵語曰摩呼茶迦。

涅槃經三十九曰：「酥面蜜薑胡椒菴bá 菴 (音拔。香草名) 蒲萄胡桃石榴椶子，如是和合，名歡喜丸。」

大日經疏七曰：「歡喜丸，應以蘇煮諸餅，糝以眾味及三種辛藥等，令種種莊嚴。」

智度論十七曰：「佛告諸比丘：此耶輸多羅，非但今世以歡喜丸惑我，乃往過去世時，亦以歡喜丸惑我。」

谷響集三曰：「歡喜名，相應於歡喜天，故修供必用。梵語摩呼茶迦 *Maṇḍika*，隋言歡喜丸。見於法苑。」

1649. 【日月燈明佛】 (科註第六九四頁第六行)

《佛學大辭典》：(佛名) 此佛光明，在

天如日月，在地如燈，故名。過去世有二萬日月燈明佛，同名相繼出世，而說法華經。見法華經序品。

### ◎ 德風華雨第二十

1650. 【八種清風】（科註第六九九頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（名數）四方四維八方之清風也。

觀無量壽經曰：「八種清風從光明出。」同傳通記曰：「八種清風者，今家無判。天台云：八種清風者，彼處實無時節，若寄此八謂除上下餘四方四維，故云八，亦可以對八卦也。」

1651. 【莊子齊物論】（科註第七〇〇頁第四行）

《莊子·內篇》之第二篇。

1652. 【人籟あそび籟】（科註第七〇〇頁第四行）

《漢語大詞典》：人吹簫所發出的音響。古代管樂器。一說即排簫。

1653. 【比竹】（科註第七〇〇頁第五行）

《漢語大詞典》：指竹製編管樂器，如笙簫（音月。古管樂器像編管之形，似為排簫之前身。有吹簫、舞簫兩種）之類。

1654. 【地籟あそび籟】（科註第七〇〇頁第五行）

《漢語大詞典》：風吹大地的孔穴而發出的聲響。《莊子·齊物論》：「地籟則眾竅是已，人籟則比竹是已。」成玄英疏：「地籟則竅穴之徒，人籟則簫管之類。」

1655. 【眾あそび竅あそび】（音俏）（科註第七〇〇頁第五行）

《漢語大詞典》：眾多的孔穴。

1656. 【天籟たうい籟】（科註第七〇〇頁第五行）

《漢語大詞典》：自然界的聲響，如風聲、鳥聲、流水聲等。

1657. 【非常、苦、空、非我】（科註第七〇〇頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）十六行相中之四行相。觀苦諦之境，而起四種之觀解。即苦諦為三界迷妄之果報，而一切世間之法也。此世間之法，為由眾緣和合而存在者，因緣散亦隨而忽滅，故為非常，又逼迫惱害有情之心身，故為苦，又諸法自我心身至於妻子眷族，無一可定為我有者，故為空，又諸法無常住之義，亦無常一主宰之義，無可執而為我者，故觀為非我也。（參見「四諦十

六行相」2158）

1658. 【我所見】（科註第七〇〇頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（術語）執我所有之偏見，即不知一切之事物本為假有，無自他所屬，而誤固執為我所有之偏見也。

1659. 【我見】（科註第七〇〇頁倒數第五行）

《三藏法數》：謂不知此身五蘊所成，虛假不實，妄計為身，強立主宰，恒執為我，是為我見。（五蘊者，色蘊、受蘊、想蘊、行蘊、識蘊，為五也。）

《佛學大辭典》：（術語）指五蘊假和合之心身，視為常一之義，謂之我見，又云身見。梵語曰沒曳達利瑟致，譯曰我見。

唯識論四曰：「我見者，謂我執。於非我

法妄計為我，故名我見。」同述記九末曰：「梵云沒曳達利瑟致，此云我見。」

大乘義章六曰：「言身見者，亦名我見。五陰名身，身中見我，取執分別，從其所迷故，名身見。以見我故，從其所立，亦名我見。」

起信論曰：「一切邪執，皆依我見。若離於我，則無邪執。」

1660. 【四句】（科註第七〇二頁第三行）

《三藏法數》「四句——有無四句」條：

〔華嚴經疏〕

一、有句，謂外道或計：我與五蘊之身皆有，是名有句，即著常見。

二、無句，謂外道或計：我與五蘊之身皆無，是名無句，即著斷見。

三、亦有亦無句，謂外道欲離上二過，故計：我與五蘊亦有、亦無，即墮有無相違之見。

四、非有非無句，謂外道欲避上有無相違，立俱非句，故計我與五蘊非有非無，則又成戲論之見。

1661. 【五法】（科註第七〇二頁第四行）

《三藏法數》：〔出楞伽經〕

一、名：名即假名也。謂一切聖凡，情與無情，若根若塵，各有自相，逐體稱呼，是為名也。（根者，眼耳鼻舌身意六根也。塵者，色聲香味觸法六塵也。）

二、相：相即色相也。謂三界一切品類，洪纖（大小，巨細）妍醜（美和醜。妍，音

言），情與無情，及根塵諸法，各有形狀，是為相也。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

三、妄想：妄想者，分別虛妄之念也。謂由前名、相二法，起分別心；認假名為自己，執幻相為本身，則有心、心數法，種種攀緣，是為妄想也。（心即心王，心數法即受想行等法也。）

四、正智：正智者，如來明了正見之智也。謂了前諸法如幻如化，非斷非常，超過一切凡夫小乘偏邪異見，是為正智也。

五、如如：如如者，不變不異，真如之理也。謂由前正智，觀察名相，皆悉如幻，非有非無，名相本空，即真如理。理因智明，

智因理發；以智如理，以理如智；是為如如也。

1662. 【名句】（科註第七〇一頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）顯體為名，詮義為句。如諸行二字，名也，而諸行無常四字則句也。以是詮諸行為無常之義理故也。唯識論曰：「名詮自性，句詮差別。」

1663. 【愛染】（科註第七〇一頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）貪愛染著之情也。煩惱之名。

智度論一曰：「自法愛染故，毀訾他人法。」同三十四曰：「愛染無門。」

淨住子曰：「洗除心垢，六塵愛染。」

王維詩曰：「愛染日以薄，禪寂日以固。」

1664. 【滅盡定】（科註第七〇二頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）梵語 Nirodhasa

māpatti，又名滅受想定。二無心定（無想定、

滅盡定）之一。滅盡六識心心所而不使起之禪定也。不還果已上之聖者，為假人涅槃之想而入於此定，極長者為七日，屬於非想天；外道所人之無心定，名為無想定。屬於第四禪。

俱舍論五曰：「如說復有別法，能令心心所滅，名無想定。如是復有別法，能令心心所滅，名滅盡定。」

大乘義章二曰：「滅盡定者，謂諸聖人患心勞慮，暫滅心識。得一有為非色心法，領補心處，名滅盡定。」同九曰：「滅受想

者，偏對受想二陰彰名。想絕受亡，名滅受想。滅盡定者，通對一切心心數法以彰名也。心及心法一切俱亡，名為滅盡。」

《三藏法數》「滅盡定與無想定四義不同」

條：「[出宗鏡錄]滅盡定者，謂受想心滅，出入息盡，身證此定，能斷見、思煩惱，而證聖果。無想定者，謂能於定中心想不起，如冰魚蟄蟲（藏在泥土中過冬的小蟲。蟄，音哲），不能斷惑，證入聖果。故此二定，有四種勝劣之義也。（見、思即見、思二惑也。謂意根對法塵起諸分別，名見惑；眼等五根對色等五塵起諸貪愛，名思惑也。）

一、約得人異：謂羅漢聖人，由受想心滅而證滅盡之定；外道凡夫由妄計無想以為至

道，而證無想之定。此之二定，有世間、出世間之不同，故云約得人異也。（受想者，受謂領受；想謂想像，即五陰中之二也。）

二、祈願異：謂入滅盡定者，則息諸想念，斷除貪愛之心，唯求出世功德；人無想定者，則妄計心無想慮，以為解脫，唯求世間樂果，故云祈願異也。

三、感果不感果異：謂無想定，是有漏業，能感無想天果報；滅盡定，是無漏業，不感三界生死果報。故云感果不感果異也。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

四、滅識多少：謂滅盡定既滅第六識已，兼能滅第七識染分；無想定但滅第六識分別之見，而諸邪見則未能盡斷，故云滅識多少

也。（第六識即意識，第七識即傳送識，又云執我識。染分者，我癡、我見、我慢、我愛之四惑也。）

1665. 【六識】（科註第七〇二頁第六行）

《三藏法數》：「出法界次第」六識者，眼、耳、鼻、舌、身、意各有識也。謂依五根能見五塵，而為五識，於五塵境，而起分別，為第六識。

一、眼識：謂眼根若對色塵，即生眼識。眼識生時，但能見色，而未起分別也。

二、耳識：謂耳根若對聲塵，即生耳識。耳識生時，但能聞聲，而未起分別也。

三、鼻識：謂鼻根若對香塵，即生鼻識。鼻識生時，但能嗅香，而未起分別也。

四、舌識：謂舌根若對味塵，即生舌識。舌識生時，但能嘗味，而未起分別也。

五、身識：謂身根若對觸塵，即生身識。身識生時，但能覺觸，而未起分別也。

六、意識：謂意根若對法塵，即生意識。意識生時，即能於五塵之境，分別善惡好醜也。

1666. 【不還果】（科註第七〇二頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）聲聞乘四果之一。梵名阿那含 Anāgamin，斷盡欲界九品之修惑，不再還生於欲界之聖者之位也。此不還果之聖者，有五種七種九種之差別。（參見《科註》第六六六頁）

1667. 【兜羅絃】（科註第七〇三頁倒數第三行）

《翻譯名義集》：兜羅，此云細香。苑音義翻冰。或云兜沙，此云霜。斯皆從色為名。或名妒羅絃，兜羅樹名，絃從樹生，因而立稱，如柳絮也。亦翻楊華，或稱兜羅毘（而吏切）者，毛毳（此芮切）也。熏聞云：謂佛手柔軟，加以合縵，似此絃也。

《佛學大辭典》「兜羅」條：（物名）

Tūla，又作妒羅、堵羅、du<sup>久</sup>蠹（音杜）羅。譯曰楊華、絮、野蠶繭、綿。常曰兜羅綿、兜羅毘<sup>儿</sup>（音二）。又樹名。

慧琳音義三曰：「堵羅綿，細綿絮也。沙門道宣注四分戒經云：草木花絮也。蒲臺花，柳花，白楊，白疊花等絮是也。取細莢（同軟）義。」同六十四曰：「兜羅貯，草木

花絮，木綿也。」

飾宗記六末曰：「兜羅者，草木花絮之總名也。」

俱舍光記十一曰：「妒羅，是樹名。綿從樹果中出，名妒羅綿，如言柳絮。」

瑜伽倫記八上曰：「野蠶繭，名妒羅綿。」

1668. 【白<sup>之セ</sup>dié疊(音碟)】(科註第七〇三頁倒數第二行)

《漢語大詞典》：棉花。《新唐書·西域傳上·高昌》：「有草名白疊，擷花可織為布。」

1669. 【曼陀羅華】(科註第七〇四頁倒數第五行)

《佛學大辭典》「曼陀羅」條：(植物) Mandarava，又曰漫陀羅。花名。譯作圓華、白團華、適意華、悅意華等。

阿育王經七曰：「漫陀羅，翻圓華。」

法華光宅疏一曰：「曼陀羅華者，譯為小白團華。摩訶曼陀羅華者，譯為大白團華。」

法華玄贊二曰：「曼陀羅華者，此云適意，見者心悅故。」

慧苑音義上曰：「曼陀羅華，此云悅意華，又曰雜色華，亦云柔軟華，亦云天妙華。」

案曼陀羅為一年生草，莖直上，高四五尺，葉作卵形，常有缺刻。夏日開大紫花，有漏斗形之合瓣花冠，邊緣五裂，實為裂果，面生多刺，性有毒，以其葉雜煙草中同吸。能止咳嗽，過量則能致死。本草，曼陀羅花，一名風茄兒，一名山茄子，生北土。

法華經佛說法，天雨曼陀羅花。翻譯名義：曼陀羅，此云適意，又云白華。

1670. 【六時】（科註第七〇四頁倒數第五行）

《佛學常見辭彙》：晝三時和夜三時，合稱為六時。晝三時是晨朝、日中、日沒；夜三時是初夜、中夜、後夜。印度的一時，等於現代的四個小時，六時即二十四小時。

1671. 【後夜】（科註第七〇四頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（雜語）晝夜六時之一。夜間區分初中後三時，此為其後分故有此稱。即寅刻，近日出之時也。

佛遺教經曰：「初夜後夜，亦勿有廢。」

彌勒所問經論三曰：「初夜後夜，精勤修行。」即其例也。

1672. 【《沙彌十戒儀則經》】（科註第七〇四頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（經名）一卷，趙宋施護譯。攝頌沙彌戒品之威儀。

1673. 【慈恩】（科註第七〇五頁第五行）

《佛學大辭典》「窺基」條：（人名）唐京兆大慈恩寺窺基，事玄奘，學天竺語，傳唯識因明之旨，造疏百本，稱為百本疏主，法相宗之開祖也。永淳元年，壽五十一寂。嘗書彌勒上生經之疏，感舍利二七粒。又造彌勒像，於像前日誦菩薩戒一遍，以願兜率之往生。世稱慈恩大師。見宋高僧傳四。

《宋高僧傳卷第四》：釋窺基。字洪道。姓尉遲（音玉池。複姓也）氏。京兆長安人

也。基母裴氏。夢掌月輪吞之。寤而有孕。及乎盈月誕。彌與群兒弗類。數方誦習神晤精爽。奘師始因陌上（路上）見其眉秀目朗、舉措疏略，曰將家之種不謬也哉。脫或因緣。相扣度為弟子。則吾法有寄矣。復念在印度時計迴程次。就尼犍子邊。占得卦甚吉。師但東歸哲資生矣。

遂造北門將軍微諷之出家。父曰。伊類羸悍那勝教詔。奘曰。此之器度非將軍不生。非某不識。父雖然諾。基亦強拒。激勉再三。拜以從命。奮然抗聲曰。聽我三事方誓出家。不斷情欲葷血過中食也。奘先以欲勾牽。後令人佛智。yāng佯元（音陽。假裝）而肯焉。行駕累載前之所欲。故關輔語曰三車和

尚。即貞觀二十二年也。

一基自序云。九歲丁艱漸疏浮俗。若然者三車之說。乃厚誣也。至年十七遂預緇林。及乎人法。奉敕為奘師弟子。始住廣福寺。尋奉別敕選聰慧穎脫者。入大慈恩寺躬事奘師學五竺語。解紛開結統綜條然。聞見者無不歎伏。凡百犍度跋渠。一覽無差。寧勞再憶。年二十五應詔譯經。講通大小乘教三十餘本。創意留心勤勤著述。蓋切問而近思。其則不遠矣。造疏計可百本。奘所譯唯識論。初與昉尚光（玄奘門下上座弟子神昉、嘉尚、普光、窺基，人稱奘門四哲）四人同受潤色執筆檢文纂義。數朝之後基求退焉。奘問之。對曰。夕夢金容晨趨白馬。雖得法門之

糟粕。然失玄源之醇粹。某不願立功於參糴。若意成一本。受責則有所歸。奘遂許之。以理遣三賢獨委於基。此乃量材授任也。時隨受撰錄所聞。講周疏畢。(中略)東行博陵有請講法華經。遂造大疏焉。及歸本寺恒與翻譯舊人往還。屢謁宣律師。宣每有諸天王使者執事。或冥告雜務。爾日基去方來。宣怪其遲暮。對曰。適者大乘菩薩在此。善神翼從者多。我曹神通為他所制。故爾。

以永淳元年壬午示疾。至十一月十三日。長往(死亡的婉詞)于慈恩寺翻經院。春秋五十一。法臘無聞。葬于樊村北渠。祔(合葬)三藏奘師yíng líng塋líng隴líng(音羸籠。墳墓)焉。餘外

執紼。會葬(送葬)黑白之眾盈于山谷。

1674. 【《彌陀通贊》】(科註第七〇五頁第五行)

《阿彌陀經通贊疏》之略名。三卷，唐·窺基撰。

1675. 【shù曙shù】(音蜀)(科註第七〇五頁第六行)

《漢語大詞典》：天亮；破曉。

### ◎ 寶蓮佛光第二十一

1676. 【安立】(科註第七〇六頁第二行)

《佛學大辭典》：(術語)安置建立之義。

無量壽經上曰：「教化安立，無數眾生。」

俱舍論十一曰：「安立器世間。」

唯識論八曰：「安立真如。」

勝鬘寶窟上末曰：「安立者，始建曰安，終成為立。」

### ◎ 決證極果第二十二

1677. 【極果】（科註第七一二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）至極之證果。

謂佛之正覺也。是為因位修行之結果。

光明文句七曰：「菩提極果積行方剋。」

大乘義章八曰：「無漏極果，所謂盡智及無生智。」

法華文句四上曰：「妙因斯滿，極果頓圓。」

1678. 【精光】（科註第七一三頁第一行）

《漢語大詞典》：光輝。

1679. 【五無間業】（科註第七一五頁第七行）

《佛學大辭典》：（名數）感無間地獄苦果之五種惡業，即五逆罪也。（參見「五逆」2188）

1680. 【《釋摩訶衍論》】（科註第七一五頁倒數第五行）

《佛學大辭典》（節錄）：（書名）十卷，龍樹菩薩造，筏提摩多譯。釋起信論者。常略云釋論。

1681. 【三賢】（科註第七一五頁倒數第四行）

《三藏法數》：「出仁王護國經疏」十住、十行、十回向諸位菩薩皆稱賢者，此就別教而論，蓋諸位菩薩，但斷見、思惑盡，尚有無明惑在，未入聖位，故名賢也。

一、十住：會理之心，安住不動，名之為住。一發心住、二治地住、三修行住、四生貴住、五具足方便住、六正心住、七不退住、八童真住、九法王子住、十灌頂住。

二、十行：行即進趣之義。謂行此行，則能進向於果，名之為行。一歡喜行、二饒益行、三無違逆行、四無屈撓行、五無癡亂行、六善現行、七無著行、八難得行、九善法行、十真實行。

三、十回向：回因向果，名為回向。一救諸眾生離眾生相回向、二不壞回向、三等一切諸佛回向、四至一切處回向、五無盡功德藏回向、六人一切平等善根回向、七等隨順一切眾生回向、八真如相回向、九無縛無著

解脫回向、十人法界無量回向。

1682. 【十聖】（科註第七一五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）十地之聖者也。地前之三十位，謂之三賢，地上之十位，謂之十聖。

1683. 【大覺】（科註第七一五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）佛之覺悟也。凡夫無覺悟，聲聞菩薩有覺悟而不大，佛獨覺悟實相，徹底盡源，故稱大覺。又聲聞雖自覺，而不使他覺，菩薩雖自覺亦使他覺，而覺事未滿。佛自覺覺他皆圓滿，故獨稱之為大覺。

仁王經上曰：「四無所畏，十八不共法五眼法身大覺世尊。」

心地觀經一曰：「敬禮天人大覺尊。」

止觀一曰：「大覺世尊，積功行滿。涉六年以伏見，舉一指而降魔。」

1684. 【涅槃界】（科註第七一六頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）界者藏之義，涅槃能藏無為之萬德，故曰界。

又為因之義，涅槃能生一切世間出世間之利樂事，故曰界。

又界為界畔。涅槃雖無界畔，然對於生死界，則謂為涅槃界。

唯識論十曰：「界是藏義，此中含容無邊希有大功德故。或是因義，能生五乘，世出世間利樂事故。」

增一阿含經十二曰：「亦獲智慧海，漸至

涅槃界。」

### ◎ 十方佛讚第二十三

1685. 【廣長舌相】（科註第七一九頁第七行）

《佛學大辭典》「廣長舌」條：（術語）三十二相之一。舌廣而長，柔軟紅薄，能覆面至髮際。

智度論八曰：「問曰：如佛世尊，大德尊重，何以故？出廣長舌似如輕相。答曰：舌相如是，語必真實。如昔佛出廣長舌，覆面上，至髮際。語婆羅門言：汝見經書，頗有如此舌人而作妄語不？婆羅門言：若人舌能覆鼻無虛妄，何況至髮際？我心信佛必不妄語。」

法華經神力品曰：「現大神力，出廣長舌，上至梵世。」

阿彌陀經曰：「恒河沙數諸佛各於其國，出廣長舌相，遍覆三千大千世界，說誠實言。」（參見「三十二相」二二下）

1686. 【《阿彌陀經略解》】（科註第七一九頁倒數第四行）

一卷。明·大佑述。

1687. 【四過】（科註第七一九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「口四」條：（名數）謂十惡中屬於口業之四業。即妄語、兩舌、惡口、綺語是也。

1688. 【梵世】（科註第七二〇頁第六行）

《佛學大辭典》「梵世界」條：（界名）

色界諸天，總云梵世界。離婬欲之梵天住處也。

智度論十曰：「梵名離欲清淨，今言梵世界已總說色界諸天。」

1689. 【敦（二）】（科註第七二〇頁第七行）

《漢語大詞典》：勸勉；勉勵。

1690. 【佛願生起本末】（科註第七二二頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）彌陀本願之謂也。生起者，生即起，謂佛願之因之起源。彌陀於因位之昔，見苦惱之眾生以大悲心起願行，故佛願之生起，為眾生流轉之苦相也。本者，因位之本願修行；末者，果上之名號也。

或云本者，第十八願；末者，餘四十七願也。

又云本者，真實之第十八願；末者，方便之十九、二十願也。

1691. 【高齊】（科註第七二三頁第三行）

《漢語大詞典》「北齊」條：朝代名。北朝之一。公元五五〇年，高歡子高洋取代東魏，自立為帝，國號齊，都鄴（今河北臨漳西）。為與南朝齊相別，史稱北齊。據有今河北、山東、山西、河南及遼寧省西部。公元五七七年為北周所滅。歷六帝，二十八年。

1692. 【教詔】（科註第七二三頁第三行）

《漢語大詞典》：教誨；教訓。

1693. 【現生十種益】（科註第七二三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（名數）日本真宗所

立。文類三末曰：「獲得金剛信心者，橫超三塗八難道，必獲現生十種益。」

一冥眾護持益，梵天，帝釋，四天王，龍神八部等護持行者也。

二至德具足益，信之一念發揮名號之至德，盡其功德，圓滿具足於我身也。無量壽經下曰：「其有得聞彼佛名號歡喜踊躍乃至一念，當知此人為得大利，則是具足無上功德。」淨土論曰：「觀佛本願力，遇無空過者，能令速滿足，功德大寶海。」

三轉惡成善益，獲一念信心之時，既具足至德，則轉三世之重惡，而使盡為菩提之善

也。

四諸佛護念益，十方恒沙之諸佛護念行者也。選擇集末曰：「十方諸佛，護念念佛行者。」

五諸佛稱讚益，諸佛稱讚行者也。無量壽經下曰：「聞法能不忘，見敬得大慶，則我善親友。」觀無量壽經曰：「若念佛者，當知此人是人中芬陀利華。」如來會下曰：「廣大勝解者。」

六心光照護益，由佛之大慈悲心照觸念佛行者之光明，謂之心光。念佛之行者，為此心光所照護也。觀念法門曰：「彼佛心光常照是人攝護不捨。」

七心多歡喜益，念佛之行者，如初歡喜地

菩薩於未來成佛，決定無間違，心常歡喜也。

八知具報德益，念佛之行者，即具足至德，獲得大利，今可為報謝佛恩之身也。

九常行大悲益，他力信心之行者，以自信者勸人，為自行佛之大悲之身也。安樂集曰：「大悲經云：云何名為大悲？」〔中略〕若能展轉相勸行念佛者，此等悉名行大悲人。」

十入正定聚益，定成佛之位謂之正定聚，又云不退位。念佛之行者，以信之一念人於此位，而未來必成佛也。淨土論註上曰：「易行道者，謂但以信佛因緣願生淨土，乘佛願力便得往生彼清淨土，佛力住持即入大乘

正定之聚。」

1694. 【《成唯識論》】（科註第七二三頁倒數第二行）

《唯識名詞白話辭典》：這是詮釋唯識三十頌的論著，凡十卷，護法等十大論師各造釋論，唐代玄奘三藏奉詔譯，翻經沙門窺基筆受，這是學習唯識學必讀的重要論書。世親晚年造《唯識三十頌》，本頌造出，未造釋文而入寂，未幾十大論師繼起，各造釋論，斯時法海波瀾，至為壯闊。唐代玄奘三藏由印度回國，攜回十家釋論百卷，奘師譯此論時，本主張十家釋論各別全譯，後以弟子窺基之請，糅集十家之義成為一部，其中異義紛紜之處，悉折中於護法之說，故《成

唯識論》十卷，雖說是糅集十師之作，而實以護法一家為宗，名為傳譯，不啻新造。基師亦嘗述其傳譯參糅之績云：十家別譯之初，神昉、嘉尚、普光、窺基四人同受師命，共同翻譯。數日之後，基請退出，奘師固問其故，基對曰：「群聖製作，各馳譽於五天，雖文具傳於貝葉，而義不備於一本，情見各異，稟者無依。請錯綜群言，以為一本，楷定真謬，權衡盛則。」久之奘師乃許，故得此論行世。

1695. 【樂欲】（科註第七二三頁倒數第二行）  
《佛學大辭典》：（術語）樂者，願也，好也。樂欲者，願求欲望也。

最勝王經一曰：「一切煩惱，以樂欲為本

從樂欲生。諸佛世尊斷樂欲故，名為涅槃。」  
孟蘭盆經宗密疏曰：「願者，心之樂欲也。」

1696. 【染法】（科註第七二三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）謂與無明相應之法，由無明而起之法。即三界所有之事故是也。染者染污之義，染污真性使不清淨，故名。

1697. 【禪宗三祖】（科註第七二四頁倒數第四行）

《中華佛教百科全書》「僧璨」條：（？）——六〇六）我國禪宗第三祖。又作僧càn璨璨。生年、籍貫不詳。或謂徐州人。初以居士身參謁二祖慧可；二祖識器，收受為徒；遂隨侍慧可二年，得受衣法，後入司空山。北周武

帝破佛滅法，師隱居皖公山十餘年，其後，出世行化。隋·開皇十二年（五九二），沙彌道信來投，年僅十四，從學九年，傳之以衣法，旋往羅浮山，優遊二載，復歸皖公山。大業二年（六〇六）十月十五日，為四眾廣宣心要訖，合掌立化於樹下。唐玄宗賜諡「鏡（鑑）智禪師」。著有《信心銘》，後人視為禪宗要典之一。

1698. 【迴向】（科註第七二五頁第四行）

《佛學大辭典》「回向」條：（術語）或作迴向。回者回轉也，向者趣向也，回轉自己所修之功德而趣向於所期，謂之迴向。期施自己之善根功德與於他者，迴向於眾生也。以己之功德而期自他皆成佛果者，迴向

於佛道也。

大乘義章九曰：「言迴向者，回己善法有所趣向，故名迴向。」

往生論註下曰：「迴向者，回己功德普施眾生，共見阿彌陀如來，生安樂國。」

止觀七曰：「眾生無善我以善施，施眾生已，正向菩提，如回聲入角，響聞則遠，迴向為大利。」

1699. 【他力迴向】（科註第七二五頁第七行）

《佛學大辭典》「願力迴向」條：（術語）

亦曰他力迴向。謂彌陀以本願力收因位之萬行，果地之萬德於名號內，與之於眾生也。行信、因果、往相、還相，皆自如來清淨之願心，迴施於眾生也。

1700. 【不迴向】（科註第七二五頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「不迴向」條：（術語）

淨土門立二種之回向：一、往相回向，願所修之功德回向而往生淨土也。二、還相回向，願成佛後回入生死，教化一切眾生也。此二種回向，為菩提心所具之通相，行者自力勤修，為佛教通途之義。故淨土一門，皆欲依自力成就此回向。

獨淨土真宗一派謂此二種回向。於信之一念，自彌陀之方回向行者，不須自行者之方更成回向，故名之為不迴向。不迴向之言，顯他力之極致也。

教行信證二曰：「明知，是非凡聖自力之行，故名不回向之行也。」

1701. 【想顛倒、見顛倒、心顛倒】（科註第七二五頁倒數第四行）

《三藏法數》「三顛倒」條：〔出宗鏡錄〕

一、心顛倒：心即根塵相對所起一念之心。謂心為群妄之原，起惑之始。因迷自性清淨之心，種種分別，起諸顛倒，是名心顛倒。（根者，眼耳鼻舌身意六根也。塵者，色聲香味觸法六塵也。）

二、見顛倒：謂眼是諸見之本，由不了外塵之境皆悉虛幻，是以妄生執取，起諸顛倒，是名見顛倒。

三、想顛倒：謂想取六塵之想也。由不了六塵過患，傷失善根，以妄生緣想，起諸顛倒，是名想顛倒。（六塵者，色塵、聲塵、

香塵、味塵、觸塵、法塵也。）

◎ 三輩往生第二十四

1702. 【宿根】（科註第七二八頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）宿世之根性也。

1703. 【明鑒<sup>ひん</sup>】（音見）（科註第七二八頁第八行）

《漢語大詞典》：明亮的鏡子。

1704. 【略論】（科註第七二八頁倒數第一行）

《實用淨土宗辭典》「略論安樂淨土義」條：書名。全一卷，後魏曇鸞大師撰，收於《大正藏》第四十七冊、《卍續藏》第一〇七冊中。是書以問答體辯釋安樂淨土義，總有六番問答：一安樂國于三界中何界所攝？答

非三界所攝；二有幾種莊嚴？答據《經》，「四十八願」即是其事。據《論》，以二種清淨攝「二十九種莊嚴」；三生者有幾輩？答三輩、九品。又有一種不入三輩，謂生邊地，亦名胎生；四胎生受快樂否？答據《無量壽經》，以轉輪王子得罪于王喻；五以疑惑心受胎生者，云何起疑？答以不能信佛智等故。疑有四種，即為疑但念彌陀未必得生安樂，疑佛智於人不為懸絕，疑佛不能實度一切眾生，疑佛不得一切種智。書中於此四疑俱有釋文，並明對治之法；六云何名為十念？

1705. 【《無量壽觀經》】（科註第七二八頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（經名）觀無量壽經之

異名。（參見「觀經」29）

1706. 【嘉祥《觀經疏》】（科註第七二九頁第二行）

即《觀無量壽經義疏》。全一卷。隋代吉藏撰。

1707. 【天臺《觀經疏》】（科註第七二九頁第六行）

《天台教學辭典》「觀無量壽佛經疏」條（節錄）：一卷。智者大師述。又稱「觀經疏」、「觀無量壽經疏」、「觀經天台疏」收在大正藏第三十七冊（一八六）。為「觀無量壽佛經」注釋書。

內容初立五重玄義，以闡釋經名。次判「觀無量壽佛經」係以心觀為宗旨，以實相為體，以生善滅惡為用，為菩薩藏之頓教所攝！復次隨文作釋，且以十六觀悉為定善。

知禮大師著「觀無量壽佛經疏妙宗鈔」舉揚其旨趣以來，本書成為天台五小部之一，亦被視為天台教學之要典。（中略）

本書之注釋書有：「觀無量壽佛經記」一卷，唐代法聰大師述；「觀無量壽佛經融心解」一卷，知禮大師述。「新編諸宗教藏總錄卷一、佛祖統紀卷二五」

1708. 【孤山】（科註第七二九頁第八行）

《佛光大辭典》「智圓」條（節錄）：（九七六一—一〇二二）宋代僧。為天台宗山外派大師。錢塘（杭州）人，俗姓徐。字無外，號潛夫，又號中庸子。八歲於錢塘龍興寺出家，初習儒學，能詩文，後依奉先寺源清習天台教觀。源清示寂後，師離群索居（獨

居），研考經論，探索義觀，並與同門慶昭、晤恩等闡述山外派學說，與山家派代表四明知禮展開論辯，然一般以知禮之說為天台正統，貶抑山外派。後隱居於西湖孤山瑯琊坡養疾，從學者眾。自此遂勤加著述，撰閑居編六十卷（現存五十一卷）、金光明經玄義表徵記一卷等。（中略）師又通周、孔、荀、孟、揚雄、王通之書，常謂以儒修身，以釋治心，欲調合儒、釋、道三教。乾興元年二月作祭文挽詩，泊然示寂，世壽四十七。遺命以陶器斂遺骸，藏於所居之巖。

因師撰文殊般若經疏、遺教經疏、般若心經疏、瑞應經疏、四十二章經注、不思議法門經疏、無量義經疏、觀普賢行法經疏、阿

彌陀經疏、首楞嚴經疏等十種，以教徒眾，世人乃美稱師為「十本疏主」。又以師隱居

孤山，世稱孤山智圓。徽宗崇寧三年（一一〇四），敕諡「法慧大師」。除上記外，另

撰有涅槃經疏三德指歸二十卷、維摩經略疏垂裕記十卷、首楞嚴經疏谷響鈔五卷、金光明經文句索隱記一卷、涅槃玄義發源機要一卷、十不二門正義一卷等等，凡一百七十餘卷。〔閑居編序、閑居編卷十二至卷十六、卷十九、卷三十四、佛祖統紀卷十、卷二十五、佛祖歷代通載卷二十六、釋氏稽古略卷四、往生集卷上〕

1709. 【會通】（科註第七二九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）又曰和會。和

會疏通彼此相違，乖角之義，使歸於一意也。

肇論曰：「同我則非復有無，異我則乖會通。」

五教章中曰：「應以六相方便而會通之。」

1710. 【草庵】（科註第七二九頁倒數第三行）

《淨土聖賢錄》：宋道因（一〇九〇—一一六七），字草庵，姓薛，明州人。十七，受具戒。從學於明智立法師。已而遍歷講壇，屢參禪室。讀四明十不二門指要鈔，有省，遂遙禮法智為師。歷主永明、寶雲、廣受、治平。晚主延慶。乾道三年四月十七日，別徒眾曰，華嚴世界，洞徹湛明，甚適我懷，今將行矣。乃令舉所述彌陀讚曰，無邊剎海

海涵空，海空全是蓮華宮。蓮宮周徧遍空海，空海獨露彌陀容。阿彌陀佛不生滅，難覓難拈水中月。絕非離句如是身，如是感通如是說。我與彌陀本不二，妄覺潛生忽成異。從今掃盡空有塵，父子天然兩相值。誓修三福勤六念，身口意業無瑕玷。我今以此念彌陀，不見彌陀終不厭。讚畢，隨眾唱佛數百。諷觀經至上品上生，即斂念坐脫。越三日，頂足皆暖。

1711. 【《輔正解》】（科註第七二九頁倒數第三行）

即《觀經輔正解》。一卷。北宋·草庵道因撰。

1712. 【玄yùn憚h（音運）師】（科註第七三三頁倒數第一行）

《宋高僧傳卷第四》：唐京師西明寺。釋道世（？—六八三）。字玄憚。姓韓氏。厥先伊闕人也。祖代因官為京兆人焉。生且渥潤（潤澤）漸而聰敏。俄厭眾沙思參救蟻。二親鍾愛遏絕其請。久而遂心。

時年十二。於青龍寺出家。從執德瓶止臨欣鑑。律宗研覈書籍鑽尋。特慕上乘融明實性。于時籍甚三輔欽歸。顯慶年中。大帝以玄奘師所翻經論。未幾詔入內。及慈恩寺大德。更代行道不替於時。世亦預其選。及為皇太子造西明寺。爰以英博召入斯寺。時道宣律師當塗行律。世且旁敷。同驅五部（佛滅後百年間，付法藏第五祖優婆耄多之下有五弟子，於戒律上各持異見，一大律藏便生五部之派

別，即曇無德部、薩婆多部、彌沙塞部、迦葉遺部、婆粗富羅部）之車。共導三乘之軌。人莫我及。道望芬然。復因講貫之餘。仍覽甚深之藏。以為古今綿代製作多人。雖雅趣佳辭無足於傳記。由是<sup>qian</sup>拏（音謙。取也）文<sup>yòu</sup>囿（文囿：文學文章。囿，音又）之菁華。嗅大義之瞻蔔（梔子花）。以類編錄號法苑珠林。總一百篇。勒成十帙。始從劫量終乎雜記。部類之前各序別論。令學覽之人就門隨部檢括所知。如提綱焉。如舉領焉。世之用心周乎十稔。至總章元年畢軸。蘭臺郎李儼為之都序。此文行于天下。又著善惡業報及信福論。共二十三卷。大小乘禪門觀及大乘觀。共十一卷。受戒儀式禮佛儀式共六卷。四分

律討要五卷。四分律尼鈔五卷。金剛經集注三卷。十部都一百五十三卷。世頗多著述。未測其終。名避太宗廟諱多行字耳。故時稱玄憚焉。

1713. 【愛渴】（科註第七三四頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）又曰渴愛。言愛欲之心，其貪如渴者之求水。

圓覺經曰：「眾生欲脫生死免諸輪迴，先斷貪欲，及除愛渴。」

1714. 【沙彌戒】（科註第七三四頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）俱舍謂之勤策律儀。十戒也。

○勤策律儀：（術語）梵語室羅摩拏洛迦三跋羅Sāmaneraka-samvara，正翻勤策擁

護。室羅摩拏洛迦（舊曰沙彌）者勤策。三跋羅者擁護之義，律儀乃意譯也。別解脫律儀之一。為苾芻勤加策勵，故云勤策，能防身語，故云律儀。

俱舍論十四曰：「若受離十所應遠離，安立第三勤策律儀。何等名為十所應離？謂於前八，塗飾香鬘舞歌觀聽，開為二種；復加受畜金銀等寶，以為第十」即是也。

前八者：殺生，不與取，非梵行，虛誑語，飲諸酒，塗飾香鬘舞歌觀聽，眠坐高廣嚴麗床座，食非時食也。此為沙彌之十戒，出家沙彌所受持。若女人受之，則稱為勤策女律儀。然實體是一，非勸策律儀之外，別有勤策女律儀也。（參見「十戒」一一一）

1715. 【韋提希夫人】（科註第七三五頁第五行）

《淨土聖賢錄》：韋提希，摩竭提國王頻婆娑羅夫人也。有太子，名阿闍世，隨順調達（提婆達多也）惡友之教，收執父王，置七重室內。制諸群臣，一不得往。時韋提希，恭敬大王，澡浴清淨，以酥蜜和麩（炒的米粉或麵粉。音炒），用塗其身，諸瓔珞中，盛葡萄漿，密以上王，王得不死。阿闍世聞之，即執利劍，欲害其母。為二大臣諫止，遂閉母深宮，不令復出。

時韋提希，被幽閉已，愁憂憔悴，遙向耆闍崛山，為佛作禮，而作是言。如來世尊，在昔之時，恒遣阿難來慰問我。我今愁憂，世尊威重，無由得見。願遣目連尊者阿難與

我相見。作是語已，悲泣雨淚，遙向佛禮。爾時世尊，在耆闍崛山，知韋提希心之所念。即敕大目犍連，及以阿難，從空而來。佛從耆闍崛山沒，於王宮出。時韋提希禮已，舉頭見世尊釋迦牟尼佛，身紫金色，坐百寶蓮華。目連侍左，阿難侍右，釋梵護世諸天，在虛空中，普雨天華。

時韋提希，號泣向佛，白言，世尊，我宿何罪，生此惡子。唯願世尊，為我廣說無憂惱處，我當往生，不樂閻浮提濁惡世也。此濁惡處，地獄餓鬼畜生盈滿，多不善聚。願我未來，不聞惡聲，不見惡人。今向世尊，求哀懺悔。唯願佛日，教我觀於清淨業處。爾時世尊，放眉間光，其光金色，徧照十方

無量世界，還住佛頂，化為金臺，十方諸佛淨妙國土，皆於中現。時韋提希見已，白佛言，是諸佛土雖復嚴淨，皆有光明，我今樂生極樂世界阿彌陀佛所。唯願世尊，教我思惟，教我正受。佛告韋提希，阿彌陀佛去此不遠，汝當繫念，諦觀彼國。我今廣為汝說，亦令未來凡夫修淨業者，得生西方極樂國土。欲生彼國者，當修三福。一者，孝養父母，奉事師長，慈心不殺，修十善業。二者，受持三歸，具足眾戒，不犯威儀。三者，發菩提心，深信因果，讀誦大乘，勸進行者。如是三事，名為淨業正因。

佛又為韋提希說十六觀法已，韋提希與五百侍女，聞佛所說，應時即見極樂世界廣長

之相，得見佛身，及二菩薩。心生歡喜，嘆未曾有。豁然大悟，逮無生忍。五百侍女，發阿耨多羅三藐三菩提心，願生彼國。世尊悉記，皆當往生。生彼國已，獲得諸佛現前三昧。（觀無量壽佛經）

1716. 【劉遺民】（科註第七三六頁第一行）

《人天寶鑒》：劉遺民，名程之，彭城人，漢楚元王之後。祖考為晉顯官，事母以孝聞。丞相桓玄太尉謝安，嘉其賢，欲薦於朝。公辭之。謁廬山遠公，厥後雷次宗周續之，同來栖遠。遠曰：「諸公之來，盍為淨土之遊乎？」遂命公作誓辭，以識盛事。社賢百餘人，十八人為最，公又拔乎其萃者。

公凡念佛時，見彌陀佛身紫金色以臨其

室，公愧幸悲泣曰：「安得如來為我，手摩其頭，衣覆其體乎？」俄而佛為摩頂，且引袈裟以覆之。他日又見，身入七寶大池，其池蓮華青白相間，其水澄澈無有畔岸。中有一人，指池水曰：「八功德水，汝可飲之。」公飲水甘美，及寤猶覺異香，發於毛孔。公曰：「此吾淨土之緣至矣，誰為六和之眾與我證邪？」少頃緇徒（僧侶也。緇，音資。黑色也，引申作染黑）咸集。公對尊像日叉（音若，燒也）香再拜，祝曰：「我以釋迦遺教，故能知有阿彌陀佛。此香先當供養釋迦如來，次供阿彌陀佛，至於十方佛菩薩眾。願令一切有情俱生淨土。」願畢乃三扣齒，長跪而卒。（《廬山集》）

1717. 【zi緇<sup>ㄗ</sup>（音資）素】（科註第七三六頁第二行）

《佛學大辭典》：（雜語）緇為緇衣，支那之禪僧多服之。素為白衣，印度之俗人多服之。因為僧俗之別稱。

1718. 【廬山遠公】（科註第七三六頁第二行）

我國淨土宗初祖。

《淨土聖賢錄》「晉慧遠」條（節錄）：慧遠，姓賈，雁門樓煩人。幼而好學，博綜六經，尤善莊老。時釋道安，建刹於太行恒山，遠往歸之。聞安講般若經，豁然開悟，因投簪受業。精思諷誦，以夜繼晝。安嘆曰：「使道流東國者，其在遠乎！」

晉太元六年，過潯陽，見廬山閑曠，可以棲止，乃立精舍，號龍泉寺。時遠同門慧

永，先居廬山西林，欲邀同止。而遠學侶浸眾，西林隘不可處。刺史桓伊，為遠更立寺於山東，遂號東林。遠於是率眾行道，鑿池種蓮。於水上立十二葉蓮華，因波隨轉，分刻晝夜，以為行道之節。既而四方清信之士，聞風而至者，百二十三人。（中略）居山三十年，跡不入俗。專志淨土，澄心觀想。三見聖相，而沈厚不言。

義熙十二年七月晦夕，於般若臺之東kān龕ㄍㄨㄥ（音刊），方從定起，見阿彌陀佛，身滿虛空，圓光之中，有諸化佛，觀音勢至，左右侍立。又見水流光明，分十四支，迴注上下，演說苦空無常無我之音。佛告遠曰，我以本願力故，來安慰汝。汝後七日，當生我

國。又見社中先化者，佛陀耶舍、慧持、慧永、劉遺民等，皆在側。前揖曰：「師早發心，何來之晚？」

遠謂弟子法淨、惠寶曰：「吾始居此，十一年中，三睹聖相。今復再見，吾生淨土必矣。」即自制遺戒。至八月六日，端坐入寂，年八十三。

1719. 【佛陀耶舍】（科註第七三六頁第六行）

《東林十八高賢傳》：尊者佛馱耶舍（晉云「覺明」），いん 厨いん（音記）賓國婆羅門種。有沙門至其家乞食，父本外道，怒毆之，遂手足攣蹙（音蠻必，手腳屈曲不能行動）。巫師謂曰：「坐犯賢聖。」即請此沙門悔過，旬日乃瘳ちゆう（音抽，病愈也）。因令耶舍出家，

時年十三。

隨師行曠野，與虎遇。耶舍曰：「虎已飽，必不傷人。」前行中道，果見餘骸。年十五，誦經日至萬言，以分衛廢業為憂（梵語「分衛」，晉言「乞食」），一羅漢來代乞食。年十九，誦經滿數百萬言。性度簡傲，不為諸人重，至三十猶為沙彌。復從舅氏學五明論、世間法術（內眾、外道，皆有五明。內五明者：一聲明、二醫方明、三咒術明、四工巧明、五因明。外五明者：前四並同，後一是符印明）。

至沙勒國，待遇隆厚。既而羅什至，乃從學《阿毗曇論》、《十誦律》。什隨母反龜茲（音秋慈），師遂留止行化。符堅遣呂光

伐龜茲，執羅什。師聞歎曰：「我與羅什未盡懷抱，今忽羈虜，相見何期？」後十年，師東至龜茲，盛弘法化。

羅什在姑臧，遣信要之。師恐國人止其行，取清水，以藥投之，咒數十言，與弟子洗足，即夜便發。比旦，行數百里，追之不及。問弟子：「何所覺耶？」答曰：「唯聞疾風流響，兩目有淚。」師又咒水洗足，乃止。既達姑臧，什已入長安，聞姚主逼以妾媵，歎曰：「羅什如好綿繡，何可使人棘林！」羅什勸姚主遣使迎師，既至，別立省寺於逍遙園。四事供養，一無所受。時至分衛，一食而已。時羅什譯出《十住經》，師更相征決，辭理方定。

師髭（音資。泛指鬚鬚）赤，善解《毗婆沙論》，時人號「赤髭論主」。秦弘始中，譯出《四分律》（四十四卷）、《長阿含經》（二十二卷）。義熙八年，來廬山入社。後辭還本國，自罽賓以《虛空藏經》一卷，寄商客至涼州。

1720. 【慧持】（科註第七三六頁第六行）

《佛祖統紀》：法師慧持（三三七—四一二）。遠公同母弟也。幼讀書。一日所記常敵十日。年十八與兄同事安公。遍學眾經遊刃三藏。及安公在襄陽。遣遠公與師。東下遂止廬山。師形長八尺衲衣垂膝徒屬三百師為上首。豫章太守范甯請師講法華經阿毘曇論。四方雲聚。瑯邪王珣與范甯書問遠持二

公孰愈。甯曰。誠謂賢兄賢弟。珣復書曰。但令如弟誠未之有。況復賢邪。羅什在關中遙相欽敬。每致書通好。隆安三年辭兄入蜀。遠公留之曰。人生愛聚汝獨樂離。師曰。滯情愛聚者本不應出家。今既割欲求道。正以西方為期耳。即悵然而別。至成都

郫音皮縣。居龍淵寺大弘佛法。升其堂者號登龍門。義熙八年（四一二）順寂。春秋七十六。臨終遺命務嚴律儀專心淨業。以東間經籍付道泓。西間法典付曇蘭。以泓行業清敏。蘭神悟天發。並能係軌師蹤焉。

1721. 【慧永】（科註第七三六頁第六行）

《佛祖統紀》：西林法師慧永（三三二—四一四）。河內（今河南沁陽）潘氏。年十二出

家事沙門竺曇現。初習禪於恒山。與遠師同依安法師。期結宇羅浮。及遠師為安公所留。師乃欲先度五嶺。太元初（三七六—三九六）至尋陽。刺史陶範素挹道風。乃留憩廬山。舍宅為西林以奉師。布衣蔬食精心克己。容嘗含笑語不傷物。峰頂別立茅室。時往禪思。至其室者常聞異香。因號香谷。一虎同居人至輒驅去。遠師來之龍泉。桓伊為立東林。三十年影不出山。師居西林亦如之。嘗因法事至近邑。還山薄暮。烏橋營主醉騎馬當道遮師不聽去。師以杖指馬。馬驚走。榮主仆地。師捧慰之遂還。營主病往寺悔罪。師曰。非貧道意。為禱之尋愈。鎮南將軍何無忌鎮尋陽。至虎溪請遠公及師。遠

公持名望。從徒百餘。高言華論。舉止可觀。師衲衣半脛（形定切膝骨）荷錫捉鉢。松下飄然而至。無忌謂眾曰。永公清散之風。乃多於遠師也。師標誠植願動在安養。義熙十年在疾忽斂衣求屣欲起。眾驚問。師曰。佛來也。言終而化。異香七日方歇。葬於寺之西南。春秋八十三。唐玄宗朝詔。重建塔亭。追諡覺寂大師實智之塔。

1722.【善財參五十三善知識】（科註第七三六頁第八行）

《三藏法數》「善財五十三參」條：〔出華嚴經〕經云：善財童子，初入胎時，於其宅內，自然而出七寶樓閣；其樓閣下，有七伏藏。地自開裂，生七寶牙。童子處胎十

月，然後誕生。形體支分端正具足，一切眾寶自然出現，一切庫藏悉皆充滿。以此事故，父母親屬及善相師，共呼此兒，名曰善財。後因文殊師利菩薩，至福城東，住莊嚴幢娑羅林中，為眾說法。善財與五百童子，詣文殊所，頂禮其足，白言：惟願聖者廣為我說，菩薩應云何學菩薩道，乃至應云何令普賢行，速得圓滿。文殊告言：善男子，汝已發阿耨多羅三藐三菩提心，若欲成就一切智智，應決定求真善知識，勿生疲懈。見善知識，勿生厭足。於善知識所有教誨，皆應隨順。於善知識善巧方便，勿見過失。文殊遂令善財往於南方，先參德雲比丘，次第展轉，指示終參普賢菩薩，即得一切佛刹微塵

數三昧門。善財如是歷一百十城，參五十三善知識，是為五十三參也。（七寶者，金、

銀、琉璃、玻黎、碑磔、碼瑙、赤真珠也。

梵語文殊師利，華言妙德。梵語娑羅，華言堅固。梵語阿耨多羅三藐三菩提，華言無上正等正覺。梵語比丘，華言乞士。梵語三昧，華言正定。）

一參：善財最初受文殊教，往勝樂國妙峰山，參德雲比丘。至彼求覓，經于七日，見彼比丘在別山上徐步經行。於是善財往詣頂禮，白言：我已先發菩提心，而未知菩薩云何學菩薩行，乃至應云何於普賢行疾得圓滿。時德雲比丘為說憶念一切諸佛境界，智慧光明普見法門已。乃云：如諸菩薩無邊智

慧，清淨行門，而我云何能知能說。復令參海雲比丘。（梵語菩提，華言道。）

二參：善財承教，向海門國，參海雲比丘。為說諸佛菩薩行光明普眼法門已。乃云：如諸菩薩，深入一切菩薩行海等，而我云何能知能說。復令參善住比丘。

三參：善財承教，至楞伽道邊海岸聚落，參善住比丘。見此比丘於虛空中，來往經行。為說普速疾供養諸佛、成就眾生無礙解脫門已。乃云：如諸菩薩持大悲戒，乃至離垢戒等，如是功德，而我云何能知能說。復令參彌伽大士。（梵語楞伽，華言不可往。）

四參：善財承教，至達里鼻荼國自在城，參彌伽大士。為說妙音陀羅尼光明法門已。

乃云：如諸菩薩普入一切眾生種種想海等功德，我今云何能知能說。復令參解脫長者。（梵語達里鼻茶，華言消融。梵語陀羅尼，華言總持。）

五參：善財承教，漸次遊行，十有二年，至住林城，參解脫長者。為說如來無礙莊嚴解脫門已。乃云：如諸菩薩得無礙智，乃至而於己身及諸世界，不生二想。如是妙行，而我云何能知能說。復令參海幢比丘。

六參：善財承教，至閻浮提毗伽羅國，參海幢比丘。為說般若波羅蜜三昧光明已。乃云：如諸菩薩入智慧海，淨法境界等，而我云何能知其妙行，辯其功德。復令參休捨優婆夷。（梵語閻浮提，華言勝金洲。梵語

般若，華言智慧。梵語波羅蜜，華言到彼岸。梵語優婆夷，華言清淨女。）

七參：善財承教，至海潮處，普莊嚴國，參休捨優婆夷。為說離憂安隱幢解脫門已。乃云：如諸菩薩，其心如海，悉能容受一切佛法等，而我云何能知能說。復令參毘目瞿沙仙人。（毘目瞿沙，梵語具云毘多羅涅瞿沙，華言最上無恐怖聲。）

八參：善財承教，向那羅素國，參毘目瞿沙仙人。為說菩薩無勝幢解脫已。乃云：如諸菩薩，成就一切殊勝三昧等法，而我云何能知能說。復令參勝熱婆羅門。（梵語那羅素，華言不懶惰。梵語婆羅門，華言淨行。）

九參：善財承教，至伊沙那聚落，參勝熱

婆羅門。見彼勝熱，修諸苦行，求一切智；四面火聚，猶如大山，中有刀山，高峻無極，登彼山上，投身入火。語善財言：汝今若能上此刀山，投身火聚，諸菩薩行，悉得清淨。爾時善財即登刀山，自投火聚。未至中間，即得菩薩善住三昧；纔觸火燄，又得菩薩寂靜樂神通三昧。時勝熱婆羅門告善財言：我唯得此菩薩無盡輪解脫，如諸菩薩大功德燄等法，而我云何能知能說，復令參慈行童女。（梵語伊沙那，華言長直。）

十參：善財承教，至師子奮迅城，參慈行童女。為說般若波羅蜜普莊嚴門已。乃云：如諸菩薩，其心廣大，等虛空界，入於法界，福德成滿等法，而我云何能知能說。復

令參善見比丘。

十一參：善財承教，至三眼國，參善見比丘。為說菩薩隨順燈解脫門已。乃云：如諸菩薩，於如來家，真正受生等法，而我云何能知能說。復令參自在主童子。

十二參：善財承教，至名聞國河渚<sub>音</sub>（音主，小洲）中，參自在主童子，為說一切工巧大神通智光明法門已。乃云：如諸菩薩能知一切眾生數及能知一切諸法差別等，而我何能說其功德，示其所行。復令參具足優婆夷。

十三參：善財承教，至海住大城，參具足優婆夷。為說菩薩無盡福德藏解脫門已。乃云：如諸菩薩一切功德，猶如大海，甚深無

盡等，而我云何能知能說。復令參明智居士。

十四參：善財承教，至大興城，參明智居士。為說隨意出生福德藏解脫門已。乃云：如諸菩薩，成就寶手，徧覆一切十方國土，以自在力，普雨一切資生之具，而我云何能知能說。復令參法寶髻長者。

十五參：善財承教，至師子大城，參法寶髻長者，為說菩薩無量福德寶藏解脫門已。乃云：如諸菩薩，得不思議功德寶藏等法，而我云何能知能說。復令參普眼長者。

十六參：善財承教，至藤根國普門城，參普眼長者。為說令一切眾生普見諸佛歡喜法門已。乃云：如諸菩薩如大藥王，若見若

聞，乃至安住平等寂滅之樂，而我云何能知能說。復令參無厭足王。

十七參：善財承教，至多羅幢城，參無厭足王，至彼城已，問無厭足王所在之處。諸人答言：此王今者在於正殿，坐師子座，宣布法化，調御眾生。可治者治，可攝者攝，罰其罪惡，決其諍訟，撫其孤弱，皆令永斷殺盜邪淫。時善財依眾人語，尋即往詣。乃見其王，將諸罪人，或斷手足，乃至或以湯煮，或以火焚。善財念言：我為利益一切眾生，求菩薩行；今者此王，滅諸善法，作諸惡業。云何於此而欲求法，救護眾生？作是念時，空中有天告言：善男子！汝莫厭離。善財即禮其足，王令人於宮中，徧觀所住宮

殿，廣大無比，皆以妙寶之所合成。王復告言：我若實作如是惡業，云何而得如是果報、如是色身、如是眷屬、如是富贍（資財豐足。贍，音善）、如是自在？遂為善財說菩薩如幻解脫已。乃云：如諸菩薩，得無生忍，乃至普人一切平等三昧，而我云何能知能說。復令參大光王。（無生忍者，謂一切法本來不生。於此法中，而能忍可，即證也。）

十八參：善財承教，至妙光城，參大光王，為說菩薩大慈為首，隨順世間三昧門已。乃云：如諸菩薩慈心普蔭諸眾生等法，而我云何能知其行，能說其德。復令參不動優婆夷。

十九參：善財承教，至安住國，參不動優婆夷，為說求一切法無厭足三昧光明已。乃云：如諸菩薩，如金翅鳥，遊行虛空，無所障礙，能入一切眾生大海，見有善根已成熟者，即便執取，置菩提岸等法，而我云何能知能說。復令參徧行外道。

二十參：善財承教，至都薩羅城，參徧行外道。為說至一切處菩薩行已。乃云：如諸菩薩，身與一切眾生數等，乃至以無我智，周徧照耀，而我云何能知能說。復令參鬻香長者。

二十一參：善財承教，至廣大國，參鬻（音育，賣也）香長者，名優鉢羅華。為說調和一切香法已，乃云：如諸菩薩遠離一切諸

惡習氣，不染世欲，斷煩惱等，而我何能知其妙行，說其功德。復令參婆施羅船師。（梵語優鉢羅，華言青蓮華。梵語婆施羅，華言自在。）

二十二參：善財承教，至樓閣大城，參婆施羅船師。為說大悲幢行已。乃云：如諸菩薩，善能遊涉生死大海，乃至能以神通度眾生海，而我云何能知能說。復令參無上勝長者。

二十三參：善財承教，至可樂城，參無上勝長者。為說一切處修菩薩行清淨法門已。乃云：如諸菩薩，具足一切自在神通，悉能徧往一切佛刹等，而我云何能知能說。復令參師子頻申比丘尼。（刹，梵語具云刹摩，

華言土田。）

二十四參：善財承教，至輸那國，迦陵迦林城，參師子頻申比丘尼。為說成就一切智解脫已。乃云：如諸菩薩，心無分別，普知諸法等，而我云何能知能說。復令參婆須蜜多女。（梵語輸那，華言勇猛。梵語迦陵迦，華言相鬥戰。）

二十五參：善財承教，至險難國，寶莊嚴城，參婆須蜜多女，為說菩薩離貪際解脫已。乃云：如諸菩薩成就無邊巧方便智，而我云何能知能說。復令參鞞瑟迦<sub>𑖀</sub>（音知）羅居士。（梵語鞞瑟胝羅，華言纏裹。）

二十六參：善財承教，至善度城，參鞞瑟胝羅居士，為說菩薩所得不般涅槃際解脫

已。乃云：如諸菩薩，以一念智普知三世，一念徧入一切三昧等，而我云何能知能說。復令參觀自在菩薩。（梵語涅槃，華言滅度。三世者，過去、現在、未來也。）

二十七參：善財承教，至補怛<sup>怛</sup>怛<sup>怛</sup>（音答）洛迦山，參觀自在菩薩。既至彼山，處處求覓，見其西面崑（同「岩」）谷之中，泉流瑩映，樹林蓊鬱（草木茂盛。鬱，音玉），香草柔軟，右旋布地。時觀自在菩薩於金剛寶石上，結加趺坐。無量菩薩，恭敬圍繞，為說大悲行門已。乃云：如諸菩薩，已淨普賢一切願，已住普賢一切行等，而我云何能知能說。復令參正趣菩薩。（梵語補怛洛迦，華言海島，文云小白華。）

二十八參：善財承教已，爾時東方有一菩薩，名曰正趣，從空中來，放身光明，映蔽一切日月星電。觀自在菩薩遂令善財參禮，時正趣菩薩，為說菩薩普疾行解脫已。乃云：如諸菩薩，普於十方無所不至，智慧境界等無差別，而我云何能知能說。復令參大天神。

二十九參：善財承教，至墮（同「墮」）羅鉢底城，參大天神，為說菩薩雲網解脫已。乃云：如諸菩薩，猶如帝釋，已能摧伏一切煩惱、阿修羅軍等，而我云何能知能說。復令參安住地神。（梵語墮羅鉢底，華言有門。梵語釋提桓因，華言能天主。言帝釋者，華梵雙舉也。梵語阿修羅，華言無端

正。）

三十參：善財承教，至摩竭提國，菩提場中，參安住地神。為說不可壞智慧藏法門已。乃云：如諸菩薩，常隨諸佛，能持一切諸佛所說等，而我云何能知能說。復令參婆珊婆演底主夜神。（梵語摩竭提，華言善勝。梵語婆珊婆演底，華言春主。）

三十一參：善財承教，至摩竭提國，迦毘羅城，參婆珊婆演底主夜神。為說菩薩破一切眾生暗法光明解脫門已。乃云：如諸菩薩，成就普賢無邊行願等，而我何能知其妙行，說其功德。復令參普德淨光主夜神。（梵語迦毘羅，華言黃色。）

三十二參：善財承教，至摩竭提國，菩提

場內，參普德淨光主夜神。為說菩薩寂靜禪定樂普遊步解脫門已。乃云：如諸菩薩，具足菩薩所有行願，了達一切無邊法界等，而我云何能知能說。復令參喜目觀察眾生主夜神。

三十三參：善財承教，即於菩提場右邊，參喜目觀察眾生主夜神，為說大勢力普喜幢解脫門已。乃云：如諸菩薩於念念中，普詣一切諸如來所，疾能趣入一切智海等，而我云何能知能說。復令參普救眾生妙德夜神。

三十四參：善財承教，即於會中，參普救眾生妙德夜神。為說普現一切世間調伏眾生解脫門已。乃云：如諸菩薩，集無邊行，生種種解等，而我云何能知能說。復令參寂靜

音海主夜神。

三十五參：善財承教，參寂靜音海主夜神。為說念念出生廣大喜莊嚴解脫門已。乃云：如諸菩薩，深入一切法界海等，而我云何能知能說。復令參守護一切眾生主夜神。

三十六參：善財承教，即於菩提場如來會中，參守護一切眾生主夜神。為說甚深自在妙音解脫門已。乃云：如諸菩薩，能知能說一切語言自性，於念念中自在開悟一切眾生等，而我云何能知能說。復令參開敷（開放。敷，音夫）一切樹花主夜神。

三十七參：善財承教，即於此佛會中，參開敷一切樹花主夜神。為說出生廣大光明解脫門已。乃云：如諸菩薩，親近供養一切諸

佛，入一切智大願海等。而我云何能知能說。復令參大願精進力救護一切眾生夜神。

三十八參：善財承教，即於會中，參大願精進力救護眾生夜神。為說教化眾生令生善根解脫門已。乃云：如諸菩薩，超諸世間，現諸趣身等，我今云何能知能說。復令參妙德圓滿神。（諸趣身，即六道等趣之身也。）

三十九參：善財承教，至<sup>崑</sup>崑崙（音藍）毘尼園，參妙德圓滿神。為說菩薩於無量劫，徧一切處，示現受生自在解脫門已。乃云：如諸菩薩，能以一念為諸劫藏等，而我云何能知能說。復令參釋迦瞿波女。（梵語崑尼，華言樂勝圓光。劫，梵語具云劫波，華言分別時節。梵語釋迦，華言能仁。梵語瞿

波，華言女。）

四十參：善財承教，至迦毘羅城，參釋迦瞿波女。為說觀察菩薩三昧海解脫門已。乃云：如諸菩薩，究竟無量諸方便海等，而我云何能知能說。復令參摩耶夫人。（摩耶，梵語具云摩訶摩耶，華言大術。）

四十一參：善財承教，一心欲詣摩耶夫人所，作如是念，此善知識，遠離世間，住無所住，如是之人，我今云何而得親近。時有寶眼神及蓮華法德等神，住虛空中，種種讚歎摩耶夫人。復有羅刹鬼王語善財言：汝應普禮十方求善知識。時善財受行其教。即時現見大寶蓮華從地湧出，摩耶夫人在於座上，於一切眾生前，現淨色身。遂為善財說

菩薩大願智幻解脫門已。乃云：如諸菩薩，具大悲藏，教化眾生等，我今云何能知能說。復令參王女天主光。（梵語羅刹，華言速疾鬼。）

四十二參：善財承教，遂往天宮，參王女天主光。為說無礙念清淨莊嚴解脫已。乃云：如諸菩薩，出生死夜，朗然明徹等，而我云何能知能說。復令參徧友童子師。

四十三參：善財承教，從天宮下，至迦毘羅城，參徧友童子師。別無指示，但言可問善知眾藝童子，當為汝說。

四十四參：善財承教，即於會中，參善知眾藝童子，為說四十二字母法門已。乃云：如諸菩薩，能於一切世、出世間善巧之法，

以智通達到於彼岸等，而我云何能知能說。

復令參賢勝優婆夷。（四十二字母者，一阿字、二多字、三波字、四者字、五那字、六邏字、七柁字、八婆字、九茶字、十沙字、十一嚙字、十二哆字、十三也字、十四瑟吒字、十五迦字、十六娑字、十七麼字、十八伽字、十九他字、二十社字、二十一鎖字、二十二馱字、二十三奢字、二十四佉字、二十五叉字、二十六婆多字、二十七壤字、二十八曷攞多字、二十九婆字、三十車字、三十一娑麼字、三十二訶婆字、三十三縵字、三十四伽字、三十五吒字、三十六拏字、三十七娑頗字、三十八娑迦字、三十九也娑字、四十室者字、四十一佻字、四十二陀字

也。）

四十五參：善財承教，至摩竭提國，婆怛那城，參賢勝優婆夷。為說無依處道場解脫門已。乃云：如諸菩薩，一切無著功德行，而我云何盡能知說。復令參堅固解脫長者。

四十六參：善財承教，至沃田城，參堅固解脫長者，為說無著念清淨莊嚴解脫已。乃云：如諸菩薩，獲無畏大師子吼，安住廣大福智之聚，而我云何能知能說。復令參妙月長者。

四十七參：善財承教，即於本城參妙月長者，為說淨智光明解脫門已。乃云：如諸菩薩，證得無量解脫法門，而我云何能知能說。復令參無勝軍長者。

四十八參：善財承教，至出生城，參無勝軍長者。為說菩薩無盡相解脫已。乃云：如諸菩薩，得無限智，無礙辯才，而我云何能知能說。復令參最寂靜婆羅門。

四十九參：善財承教，至城南法聚落，參最寂靜婆羅門。為說菩薩誠願語解脫已。乃云：如諸菩薩，與誠願語，行止無違等，而我云何能知能說。復令參德生童子及有德童女。

五十參：善財承教，至妙意華門城，參德生童子及有德童女二人，為說菩薩幻住解脫已。乃云：如諸菩薩，善入無邊諸事幻網，彼功德行，我等云何能知能說。復令參彌勒菩薩。（梵語彌勒，華言慈氏。）

五十一參：善財承教，至海岸國，大莊嚴園，其中有一廣大樓閣，名毘盧遮那莊嚴藏。善財於樓閣前，恭敬頂禮，讚歎稱揚，一心願見彌勒菩薩。時彌勒菩薩從別處來，為說種種法要。善財白言：唯願大聖，開樓閣門，令我得入。彌勒彈指出聲，其門即開，命善財入，見其樓閣，廣博無量，同於虛空，聞不可思議微妙法音，善財即得無量諸總持門，住菩薩不可思議自在解脫。復令參文殊師利菩薩。（梵語毘盧遮那，華言徧一切處。）

五十二參：善財承教，到普門國，蘇摩那城，思惟觀察，希欲奉觀文殊師利。是時文殊師利遙伸右手，過一百一十由旬，按善財

頂，為說妙法，令得成就阿僧祇法門，具足無量大光明，乃至令人普賢行道場，及置善財自所住處。文殊師利還攝不現。於是善財渴仰欲見普賢菩薩。（梵語蘇摩那，華言悅意。梵語由旬，華言限量。梵語阿僧祇，華言無數。）

五十三參：善財於文殊師利所，得三昧已，普攝諸根，一心求見普賢菩薩，起大精進，心無退轉。即見普賢菩薩在如來前眾會之中，坐寶蓮華師子之座，身諸毛孔，出光明雲，令諸眾生，生大歡喜。善財見已，踊躍無量。普賢菩薩即伸右手，摩觸其頂，為說諸法。善財即得一切佛刹微塵數三昧門。

1723. 【噶居派】（科註第七三六頁第八行）

《中華佛教百科全書》「噶舉派」條（節錄）：（藏 Dkar-brgyud、Bkaḥ-brgyud）西藏地區的主要佛教宗派之一。又譯迦舉派。俗稱白教。噶舉派的派名有兩種寫法，一種是噶爾舉（Dkar-brgyud），一種是噶舉（Bkaḥ-brgyud）。噶爾舉，譯為「白傳」；噶舉，譯為「口傳」。由於這一派的祖師瑪爾巴、密勒日巴等人在修法時都著白布僧裙（當時，凡是修這種法的人，都依照印度習慣穿著白僧裙，因此，遂有白教的稱呼。後來也有人把這一教派的傳承，叫為白傳（見土觀：《宗派源流》，漢譯本第52頁）。但是，更通用的是「噶舉」。由於這一派特別著重密法的修習，而這些密法的修習又全靠

師長口授。因此他們就特別重視師徒口耳相傳的那些密訣，因此，這一派名為噶舉派。

這一派從最初起就有兩個傳承。一個開始於瓊波南交 (Khyung-po mal-byor·，一〇八六—?)，名為香巴噶舉 (Shangs-pa kka'-bryud)；另一個是由瑪爾巴傳下來的，名為塔波噶舉 (Dvags-po kka'-bryud)。這兩派的密法，都來自印度，他們在印度的傳承是同源的。傳到西藏以後，他們傳播的地區不同，規模勢力也有懸殊。香巴噶舉到十四、十五世紀，已成尾聲；而塔波噶舉則有一些支派一直流傳到現在。因此，現在一提到噶舉派，就是指的塔波噶舉。

1724. 【金粟如來】(科註第七三六頁倒數第六行)

《佛學大辭典》：(雜名)維摩居士之前身為金粟如來。古來盛傳此說，然不見經文之本據，或謂發跡經，思惟三昧經說之，然二經皆不載於經錄。

維摩經會疏三曰：「今淨名，或云金粟如來，已得上寂滅忍。」谷響集一曰：「李善所著頭陀寺碑，註引發跡經云：淨名大士，是往古金粟如來。予(寂照)嘗檢藏中，不得此經。又按復禮法師十門辨惑論，稽疑曰：窮見維摩神力，掌運如來。但十地之觀如來，尚隔羅縠。若維摩是如來助佛揚化，未知何名何號何論何經？請煩上智示下愚。辨惑曰：金粟之名，傳而有據者也。自註云：吉藏師云：金粟事出思惟三昧經。自

云：（復禮）未見其本。今檢諸經錄目（寂照）無此經名。窮謂西國有經，東方未譯矣。」

祖庭事苑三曰：「十門辨惑論云：維摩是金粟如來。吉藏師云：事出思惟三昧經。自云：未見其本。」

李白答湖州司馬問詩曰：「湖州司馬何須問，金粟如來是後身。」是李白自比淨名居士也。

1725. 【諸有】（科註第七三九頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）眾生之果報，有因有果，故謂之有。有三有、四有、七有、九有、二十五有等之別，故總謂之諸有。

法華經序品曰：「盡諸有結，心得自在。」仁王經中曰：「永無分段超諸有。」

大乘義章八曰：「生死果報，是有不無，故名為有。」

1726. 【菩提有三種】（科註第七三九頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「三佛菩提」條：（術語）法報化三身之佛果也。菩提以佛果而名。

法華論曰：「示現三種佛菩提：一者應化佛菩提，隨所應見而為示現故。〔中略〕二者報佛菩提，下地行滿足得常涅槃證故。〔中略〕三者法佛菩提，謂如來藏性涅槃常恒清涼不變故。」

安樂集上曰：「菩提有三種：一者法身菩提。二者報身菩提。三者化身菩提。」

1727. 【天真】（科註第七三九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）天然之真理，非人之造作者。

止觀一曰：「法門清妙，為天真獨朗，為從藍而青。」同輔行曰：「理非造作故曰天真，證智圓明故云獨朗。」

寶鏡三昧歌曰：「天真而妙，不屬迷悟。」安樂集上曰：「理出天真，不假修成，名為法身。」

1728. 【五祖】（科註第七四〇頁第四行）

《佛學大辭典》「弘忍」條（節錄）：

（人名）唐蘄州黃梅縣人，遇四祖道信禪師得心印。咸亨二年，傳法於六祖慧能，後四年寂。時上元二年，壽七十四。建塔於黃梅之

東山。代宗賜謚大滿禪師。見宋僧傳八，傳燈錄三。

《宋高僧傳卷第八》：唐吳蘄（音琦）州東山。釋弘忍（六〇一—六七四）。姓周氏。家寓淮左潯陽。一云黃梅人也。王父暨考。皆干名（求取名位）不利。賁于丘園（指隱逸）。其母始娠。移月而光照庭室。終夕若晝。其生也灼爍如初異香襲人。舉家欣駭。既乃迨（音帶。到也）能言辭氣與鄰兒弗類。既乃成童貫（音慣。古時兒童束髮成兩角的樣子，指幼年時期）絕其遊弄。厥父偏愛因令誦書。無記應阻其宿熏。真心早萌其成現。一旦出明徙倚間如有所待。時東山信禪師邂逅至焉。問之曰。何姓名乎。對問朗暢區別有歸。理

逐言分。聲隨響答。信師熟視之。歎曰。此非凡童也。具體占之。止闕七大人之相不及佛矣。苟預法流二十年。後必大作佛事勝任荷寄。乃遣人隨其歸舍。具告所親喻之出家。父母欣然乃曰。禪師佛法大龍光被遠邇。緇門俊秀歸者如雲。豈伊小騃那堪擊訓。若垂虛受因無留吝。時年七歲也。至雙峰習乎僧業不<sup>huàn</sup>遑<sup>ㄊㄨㄢˋ</sup>（音換。逃避）艱辛。夜則歛容而坐。恬澹自居。<sup>jì</sup>泊<sup>ㄓㄝˋ</sup>（音記。至也）受形俱戒檢精厲。信每以頓漸之旨日省月試之。忍聞言察理觸事忘情。啞正受塵渴方飲水如也。信知其可教。悉以其道授之。復命建浮圖。功畢密付法衣以為質要。將知<sup>hé</sup>齷<sup>ㄉㄠˋ</sup>（音何。咬嚼）雪山之肥膩構作醍醐餐海底之

金剛棲傾巨樹。擁納之侶<sup>qún</sup>麋<sup>ㄇㄧˊ</sup>（音群。聚集）至蟬聯。商人不入於化城。貧女大開於寶藏。人其趣者號東山法門歟。以高宗上元二年十月二十三日告滅。報齡七十有四。是日氛霧冥暗山石崩<sup>yí</sup>圮<sup>ㄩˇ</sup>（音匹。坍塌也）。門弟子神秀等奉<sup>yì</sup>瘞<sup>ㄩˋ</sup>（音義。埋葬）全身于東山之岡也。（中略）開元中太子文學（官名）間丘均為塔碑焉。代宗敕諡大滿禪師。塔曰法雨也。

1729. 【<sup>jiǒng</sup>迥<sup>ㄩㄥˇ</sup>】（科註第七四〇頁第七行）

《說文解字》：遠也。

1730. 【運度】（科註第七四〇頁倒數第一行）

運載群生渡生死河，置涅槃岸也。

《無量義經·德行品第一》（蕭齊天竺三藏曇摩伽陀耶舍譯）：如是等菩薩摩訶薩八

萬人俱。是諸菩薩。莫不皆是法身大士。  
(中略) 運載群生渡生死河。置涅槃岸。醫王大醫王。分別病相曉了藥性。隨病授藥令眾樂服。

1731. 【析】(科註第七四一頁倒數第六行)

《漢語大詞典》：劈，剖。

1732. 【《心王銘》】(科註第七四一頁倒數第四行)

《中華佛教百科全書》：一卷。梁·傅

<sup>T1</sup>翕(音西)撰。全稱《傅大士心王銘》，亦

稱《心王論》。收在《大正藏》第五十一冊

《景德傳燈錄》卷三十。係詠心性之根本的宗

教哲理詩。全書由四言八十六句三四四字的

韻文構成，內容述說「心即是佛」之玄理，

以明「心外無佛」之義，為禪宗「韻體書」

之hāo嚆矢(先聲也)。又因風韻高雅、文義幽妙，古來即受珍視。

文中「是心是佛，是佛是心」或「即心即佛，即佛即心」之要旨，乃出自舊譯《華嚴經》卷十「心、佛及眾生，是三無差別」之經句。又，「心王亦爾，身內居停，面門出入」之句，可視為《鎮州臨濟慧照禪師語錄》中「赤肉團上，有一無位真人，常從汝等諸人面門出入」之原形。而「水中鹽味，色裡膠清」之句，為禪家之常用語。

本書之註釋有智見《心王銘記》、宜然《雙林傅大士心王銘玄譚》、辯和《心王銘夜話》、本光瞎道《心王銘參註》及《心王銘鑽燧》各一卷。

又，本書除收於《景德傳燈錄》卷三十外，亦見於《五燈會元》卷二、《佛祖歷代通載》卷九、《釋氏稽古略》卷二等，而《宗鏡錄》卷二十二標為「心王論云」之文，係引用最初的二十二句。

1733. 【膠清】（科註第七四一頁倒數第三行）

《漢語大詞典》：亦作「膠青」。指已製成顏料或染料、色澤比較純淨的膠質。（具有將顏料黏附於紙上之功能。人看畫時，只見顏料，不見顏料裡的膠青，但又不能說它沒有）《朱

子語類》卷四：「伊川言氣質之性，正猶佛書所謂水中鹽味，色裏膠清。」明李贄《觀音問·答自信》：「又謂之色裏膠青。蓋謂之曰膠青，則又是色；謂之曰色，則又是膠

青。膠青與色，合而為一，不可取也。」

1734. 【心王】（科註第七四一頁倒數第三行）

《佛學常見辭彙》：宇宙萬有都是由心而生而起的，心就是萬法之王，故稱「心王」。（參見「心性」181）

1735. 【《心燈錄》】（科註第七四二頁第一行）

六卷。清·湛愚老人著。

1736. 【《諸法無行經》】（科註第七四三頁第一行）

《佛學大辭典》：（經名）二卷，秦羅什譯。說諸法實相，無善惡之行。

1737. 【法執】（科註第七四三頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）二執之一。固執心外有有為、無為之實法之妄念也。二乘之人，雖斷我執而不能絕此法執，大乘之菩

薩則漸斷之。

唯識論一曰：「由我法執，二障具生。」

菩提心論曰：「二乘之人雖破人執，猶有法執。」

1738. 【參究】（科註第七四五頁第四行）

《佛光大辭典》：即參學究辦。在禪宗，即指參訪師家，致力體得佛法。禪家排斥單方面之知解，以親至師父處參學，求其開示之參禪為一生之大事，亦即強調在正師之處參禪學道。散見於碧巖錄中之參尋、參問、參叩、參玄、參學、參詳等語，皆與參究為同義語。〔碧巖錄第七則〕

1739. 【伊蘭】（科註第七四五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（植物）*Eravana*，又作

伊羅，*yī* 鷲（音依）羅，*yīn* 堙（音因）羅那等。樹名。花可愛，氣味甚惡，其惡臭及四十里。經論中多以伊蘭喻煩惱，以旃檀之妙香比菩提。

1740. 【牛頭梅檀】（科註第七四五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（植物）又稱赤梅檀。梅檀為香樹名，出自牛頭山，故曰牛頭梅檀。

名義集三曰：「正法會經云：此洲有山名曰高山，高山之峰多有牛頭梅檀，以此山峰狀如牛頭於此峰中生梅檀樹，故名牛頭。華嚴云：摩羅耶山出梅檀香名曰牛頭，若以塗身，設入火坑火不能燒。大論云：除摩梨山無出梅檀香。」

智度論十八曰：「除摩黎山一切無出梅檀木。」

西域記十曰：「國南海濱有木秣木（音末）刺耶山，崇崖峻嶺洞谷深澗，其中則有白檀樹。梅檀儻婆樹，樹類白檀，不可以別。唯於盛夏登高遠瞻，其有大蛇縈者，於是知之。猶其木性涼冷，故蛇盤也。既見已射箭為記，冬蟄之後，方乃採伐。」

觀佛三昧海經一謂：「牛頭梅檀，生伊蘭叢中，牙莖枝葉，如閩浮提竹筍。仲秋月滿，卒從地生，成梅檀樹。眾人皆聞牛頭梅檀上妙之香。」梵 *Gośīṣaka-Candana*。

1741. 【三障】（科註第七四六頁第四行）

《三藏法數》：「出涅槃經」障，蔽也。

謂諸眾生被惑業障蔽，不見正道，善心不能生起，故名障也。

一、煩惱障：昏煩之法，惱亂心神，故名煩惱。謂貪欲、瞋恚、愚癡等惑，障蔽正道，是名煩惱障。

二、業障：業即業行，謂由貪瞋癡起身口意，造作五無間重惡之業，障蔽正道，是名業障。（五無間業者，一殺父、二殺母、三殺阿羅漢、四出佛身血、五破和合僧也。）

三、報障：報即果報。謂由煩惱惑業，生在地獄、畜生、餓鬼諸趣，因此障蔽正道，是名報障。

1742. 【大悲經】（科註第七四六頁第六行）

五卷。北齊那連提耶舍譯。

1743. 【稱揚諸佛功德經】(科註第七四六頁第六行)

《佛學大辭典》：(經名)三卷，元魏吉迦夜等譯。佛在靈山為舍利弗及彌勒、迦葉，說東方五十三佛、南方三十八佛、西方三佛、北方六佛、上方二十七佛之名號功德。

1744. 【禮拜、作願、迴向等念門】(科註第七四八頁第一行)

見「五念門」1833。

1745. 【往生】(科註第七四八頁第三行)

《中華佛教百科全書》「往生呪」條：一卷。劉宋·求那跋陀羅譯。全名為《拔一切業障根本得生淨土神呪》。收在《大正藏》第十二冊。係陳述歸依阿彌陀佛的簡短陀羅

尼，舉行葬儀時，為祈願亡者往生而誦之呪。如《小叢林略清規》卷中〈亡僧津送〉(大正81·709b)：「維那及出門，轉身向裏合掌，舉往生呪：南無阿彌多婆耶云云。大眾同和。」

全呪計五十九字，誦持時作十四句，茲列呪語之羅馬注音、附注及意譯如下：

(一)南無阿彌多婆夜(namo'mitābhāya)：

「夜」是呼喚語，相當於「啊！」。此句意譯為「歸命無量光」。

(二)哆他伽哆夜(tathāgatāya)：意譯為「如來」。

(三)哆地夜哆(tadyathā)：意譯為「即說呪曰」。

(四) 阿彌利都 (甘露) 婆毗 (源頭) (amrtoḍhave) : 全句譯為「甘露主」。

(五) 阿彌利哆、(六) 悉耽 (成就) 婆毗 (amrtaśiddhamhave) : 全句譯為「甘露成就者」。

(七) 阿彌利哆、(八) 毗迦蘭諦 (普及者) (amrtaḥkṛmte) : 全句譯為「甘露播灑者」。

(九) 阿彌利哆、(十) 毗迦蘭哆、(十一) 伽彌膩 (周遍者) (amrtaḥkṛmṭa-gamine) : 全句譯為「甘露遍灑者」。

(十二) 伽伽那 (虛空)、(十三) 枳多 (名聞)、迦棣 (造作者) (gaganakṛtikare) : 全句譯為「遍虛空宣揚 (甘露) 者」。

(十四) 娑婆訶 (svāhā) : 譯為「成就圓滿」。

此求那跋陀羅譯本，為現今往生呪之通行本，其異譯本另有同樣收在《大正藏》第十二冊的《阿彌陀佛說呪》，以及唐·實叉難陀所譯的《甘露陀羅尼呪》。後者即「彌陀大呪」，收在《大正藏》第二十一冊。

1746. 【大悲 (二)】 (科註第七四八頁第三行)

《實用淨土宗辭典》「大悲咒」條：咒名，其梵文名為 Mahākṛmṇikacitta - dhāraṇī。又稱《千手千眼觀世音大悲心陀羅尼》、《千手千眼觀世音菩薩大身呪》、《廣大圓滿無礙大悲心大陀羅尼》、《大悲心陀羅尼》等。

據唐代伽梵達磨所譯之《千手千眼觀世音

菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經》所載，此咒全文計有八十四句，誦此咒能得十五種善生，不受十五種惡死。

十五種善生為：一所生之處常逢善王；二常生善國；三常值好時；四常逢善友；五身根常得具足；六道心純熟；七不犯禁戒；八所有眷屬恩義和順；九資具財食常得豐足；十恒得他人恭敬扶接；十一所有財寶不受他人劫奪；十二意欲所求皆悉稱遂；十三龍天善神恒常護衛；十四所生之處得以見佛聞法；十五所聞正法悟甚深義。

十五種惡死為：一饑餓困苦死；二枷禁杖楚死；三怨家仇對死；四軍陣相殺死；五虎狼惡獸殘害死；六毒蛇yuán 蝮（音圓。蜥蜴一類

的動物）xiē 蜈蚣（同蝸。蝎子）所中死；七水火焚漂死；八毒藥所中死；九蟲毒所害死；十狂亂失念死；十一山樹崖岸墜落死；十二惡人厭魅死；十三邪神惡鬼得便死；十四惡病纏身死；十五非分自害死。

此外，《千眼千臂觀世音菩薩陀羅尼神咒經》卷上說：「若誦此咒一〇八遍者，則一切煩惱罪障，乃至五逆等重罪，悉皆消弭，而得身口意之清淨」。《大悲咒經》又說：大悲咒為過去九十九億恒河沙諸佛所說，觀世音菩薩受之于千光王靜住佛，菩薩受時一聞此咒，即于初地立超第八地，心生歡喜，發誓弘布，安樂眾生。如眾生誦持《大悲神咒》即能如願往生任何佛國，能得無量三昧

辯才，於現在生中一切所求，皆當果遂。但持誦時必須發善心，至誠懇切地念誦。直至於今，律、教、禪、密、淨各宗，均極重視誦持此咒。

本咒文有多種翻譯，其章句亦依各譯有異；如智通譯《千手千臂觀世音菩薩陀羅尼神咒經》、菩提流支譯《千手千眼觀世音菩薩姥陀羅尼身經》所載為九十四句；金剛智譯《千手千眼觀自在菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼》咒本為一一三句；不空譯《金剛頂瑜伽千手千眼觀自在菩薩修行儀軌經》卷下為四十句，並謂誦此咒可得息災、增益、降伏、敬愛鉤召等四種成就；不空譯《千手千眼觀世音菩薩大悲心陀羅尼》所載，則有

八十二句；現在通行的念誦本，是根據唐代天竺沙門伽梵達摩法師所譯的《千手千眼觀世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經》所載，全咒為八十四句。

1747. 【準提】（科註第七四八頁第三行）

《佛教大辭典》：「準提陀羅尼」條：密教陀羅尼。全稱「七俱胝佛母心大準提陀羅尼」、「尊那菩薩根本大明」，亦稱「準提咒」。原出《七俱胝佛母準提陀羅尼經》，由過去七俱胝（千萬）佛所說。闍那崛多初譯，題《七俱胝佛神咒》，玄奘譯，題《七俱胝佛咒》，其後地婆訶羅、金剛智、不空、法賢分別譯出經本。另見天息災譯《大乘莊嚴寶王經》卷四、法賢譯《佛說瑜伽大

教王經·真言變化品》、金剛幢譯《密咒圓因往生集》，明末清初又有藏譯《番準提咒》。

其文為：娜麼颯哆喃三藐三勃陀俱胝南 (namo saptaṅgaṃ samyaksaṃbuddha koṭiṅgaṃ, 歸命七千萬正等覺)，怛姪他 (tadyata, 即說) 唵 (om)，折隸主隸 (cale cule, 覺動起升)，準提 (cundhe, 美妙或清淨)，娑縛賀 (svāhā)。後世流傳很廣，更以為此陀羅尼總攝二十五部真言，為諸陀羅尼之母，龍樹菩薩親自持誦攝集，遼夏元明間引入懺法。

1748. 【百為】(科註第七四八頁第六行)

《漢語大詞典》：多種作為。

1749. 【梵室偶談】(科註第七四八頁倒數第四行) 一卷。明·蕩益智旭撰。收於《靈峰宗論》卷四之三。

1750. 【法華》、《大悲》、《光明》、《彌陀》、《楞嚴》等懺】(科註第七四九頁第一行)

如下依次分別釋「法華懺法」、「大悲懺」、「金光明懺法」、「阿彌陀懺法」、「楞嚴懺」、「懺法」。

《佛學大辭典》「法華懺法」條：(修法) 天台大師依法華經、普賢觀經及諸大乘經之意，而定六根懺悔之儀式方法，著法華三昧行法(又名法華三昧懺儀)一卷，由此中抄出流行於世者，法華懺法是也。但行其法者，傳自南嶽大師起。

《天台教學辭典》「法華懺法」條：誦讀「法華經」，行懺悔罪障之修法，為台宗重要

法儀。行此懺法，須先潔淨道場與身體，其次禮拜誠請諸佛，懺悔眼耳鼻舌身意等六根罪，行道、誦法華經、行觀法等，為期二十一日。據「佛祖統紀」卷三十七載：早在南朝天嘉四年（五六三）時，陳文帝曾在宮中太極殿行此懺法。至隋代智者大師根據「觀普賢經」、「法華經」等，特著「法華三昧懺儀」一卷，從此遂有自該書摘要抄出，而別行于世之「法華懺法」又稱「法華三昧」、「法華懺」。

《佛學大辭典》「大悲懺」條：（書名）出像大悲懺法之略名，千手千眼大悲心咒行

法之異名也。四明大師知禮著。依伽梵達磨譯之千手經而說千手觀音之懺法。

《閱藏知津》「千手千眼大悲心咒行法」：宋四明沙門知禮集。一嚴道場。二淨三業。三結界。四修供養。五請三寶諸天。六讚歎申誠。七作禮。八發願持咒。九懺悔。十修觀行。

《佛學大辭典》「金光明懺法」：（修法）或單名金光明懺。指金光明經所說之懺悔法，又指記其法文而言。天台大師依金光明經而創之，宋遵式完成之，撰金光明懺法補助儀一卷，名金光明懺。常為國家修之，亦名吉祥懺法。又，明智旭，著有金光明懺一卷。各說其修法。

《閱藏知津》「金光明懺法補助儀」：一

卷。宋天台東掖山沙門遵式集。緣起第一。

按文開章以定quán銓lì（音全。衡量鑒別）次第

二。別明禮請灑散二法第三。略明能請及所求離過第四。總示事理觀慧所依第五。補助正修十科事儀第六：一嚴淨道場、二清淨三業、三香華供養、四召請誦咒、五讚歎述意、六稱名散灑、七禮敬三寶、八修行五悔、九旋遶自歸、十唱誦金光明典。

《佛學大辭典》「阿彌陀懺法」條：（修

法）又云無量壽懺法。忍辱雜記上曰：無量壽懺法者，即罪障懺悔，神超淨域之勝法也。又慈雲懺主遵式法師有往生淨土懺願儀一卷，在明藏中。

「楞嚴懺」：宋·仁岳有楞嚴懺儀。明·

禪修有《依楞嚴究竟事懺》略稱《楞嚴懺法》。

《天台教學辭典》「懺法」條（節錄）：

依諸經說而懺悔罪過之儀則，又云懺儀。依準類儀而修稱為修懺。

蓋懺悔原是將自己生活上所犯過失，于特定時日在僧團眾僧前告白，表示懺悔。後漸包含人類精神之六根懺悔，與身、口、意三業懺悔兩類。（中略）

我國佛教中之懺法，起源于晉代，漸盛南北朝。自南朝梁代以來採用大乘經典中，懺悔與禮讚內容而成懺法，以種種形式流行，從而產生許多禮讚文及懺悔文。（中略）

諸懺法所依據之經典，有「涅槃經」、

「般若經」、「法華經」、「金光明經」等，因所供奉之本尊亦因之而異。復有根據「圓

覺經」、「藥師經」、「地藏經」等而修之懺儀。（中略）隋、唐之間，佛教宗派漸起，各派依所宗經典，撰成種種懺悔行法，如台宗有「法華三昧懺儀」、「請觀世音懺法」、「金光明懺法」、「方等懺法」、「方等三昧行法」；淨土宗有善導大師撰「淨土法事贊」、法照大師撰「五會念佛略法事儀贊」；華嚴宗有宗密大師撰「圓覺經道場修證儀」、一行大師撰「華嚴懺法」；密宗有不空三藏譯「佛說三十五佛名禮懺文」。此外，知玄大師抄錄「圓覺經道場修證儀」，述作「慈悲水懺法」，至今猶流行甚

盛！智昇大師更集「集諸經禮懺儀」為各種懺法儀之綜合刊本。

宋代為懺法之全盛時代，當時四明知禮、慈雲遵式、東湖志磐等大師，皆繼承智者大師之遺法，以禮懺為修習止觀之重要行法，故專務懺儀。其中知禮大師嘗修「法華懺法」、「光明懺法」、「彌陀懺法」、「請觀音懺法」、「大悲懺法」等數十遍不等，著有「金光明最勝懺儀」、「大悲懺儀」、「修懺要旨」；遵式大師又稱慈雲懺主，撰「金光明懺法補助儀」，志磐大師撰「水陸道場儀軌」盛行于世！又元照大師撰「蘭盆獻供儀」，亦為懺法之一。

金代之王子成，彙集淨土因緣，編成禮念

「彌陀道場懺法」，略稱「彌陀懺法」，刊行于元代至順三年（一二三二），遂廣行于世。明太祖屢建法會于南京蔣山，超度元代末年死于戰亂之亡靈等，懺法廣為流行！

1751. 【六念】（科註第七五二頁第八行）

《三藏法數》「六念法」條：〔出別譯雜阿含經〕

一、念佛：謂念佛具足十號，大慈大悲，智慧光明，神通無量，能拔眾苦。我以清淨質直之心，得親近佛，心生歡喜。以歡喜故身得快樂，以快樂故其心得定，以得定故其心平等。修念佛觀，必趣涅槃，是名念佛。（十號者，一如來、二應供、三正徧知、四明行足、五善逝、六世間解無上士、七調御丈

夫、八天人師、九佛、十世尊也。梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

二、念法：謂法是如來所有功德，即十力、四無所畏等，我以清淨質直之心，得親近法，心生歡喜，以歡喜故身得快樂，得快樂故其心得定，以得定故其心平等。修念法觀，必趣涅槃，是名念法。（十力者，知是處非處智力、知過現未來業報智力、知諸禪解脫三昧智力、知諸根勝劣智力、知種種解智力、知種種界智力、知一切至處道智力、知天眼無礙智力、知宿命無漏智力、知永斷習氣智力也。四無所畏者，一切智無所畏、漏盡無所畏、說障道無所畏、說盡苦道無所畏也。）

三、念僧：謂僧是如來弟子，得無漏法，具戒定慧，能為世間眾生作良福田，應當恭敬。我以清淨質直之心，得親近僧，心生歡喜，以歡喜故身得快樂，得快樂故其心得定，以得定故其心平等。修念僧觀，必趣涅槃，是名念僧。（無漏法者，謂修戒定慧之法，則不漏落生死也。）

四、念戒：謂念諸禁戒，能遮諸惡煩惱。我以清淨質直之心，得親近戒，心生歡喜，以歡喜故身得快樂，以快樂故其心得定，以得定故其心平等。修念戒想，必趣涅槃，是名念戒。

五、念施：謂念己所施，獲得善利。一切世間為慳嫉所覆，我於今者，得離如是慳貪

之垢，住捨心中，於一切物心無吝惜，持用布施，既布施已，我心應喜，以喜心故身得快樂，以快樂故其心得定，以得定故其心平等。修念施想，必趣涅槃，是名念施。

六、念天：謂念欲界天等，悉因往昔戒施善根，得生彼處，受天快樂。我亦見有如是戒施功德，捨命之時，必生彼天，以念天故，離於惡法，心生歡喜，心歡喜故身得快樂，得快樂故其心得定，以得定故其心平等。修念天想，必趣天道，是名念天。

《佛學大辭典》（節錄）：（名數）

一、念佛，念佛具足十號，有大慈大悲大光明，神通無量，能拔濟眾生之苦，我欲與佛同也。

二、念法，念如來所說之三藏十二部經，有大功德，為諸眾生大妙藥，我欲證之而施與眾生也。

三、念僧，念僧是如來弟子，得無漏法，具足戒定慧，能為世間良福田，我欲修僧行也。

四、念戒，念戒行有大勢力，能除眾生之惡、不善之法，我欲精進護持也。

五、念施，念施行有大功德，能除眾生慳貪之重病，我欲以善施攝取眾生也。

六、念天，念天為欲界之六天乃至色界、無色界之諸天，彼處受自然之快樂，皆由往昔修戒施之善根，我亦欲具如是功德，生於彼天處也。

問佛弟子應念三寶，何故念彼之生天？曰：是以為自己善業之果故也。

問生天是凡夫之法，何故念之？曰：有人不堪入於涅槃，故念彼之生天而起行趣求也。此六念法為大小乘之通說，但念天之解釋，大小乘不同。大乘依涅槃經，則天有三種：一生天，三界之諸天也。二淨天，一切三乘之賢聖也。三第一義天，涅槃也。二乘之人念前二天，菩薩但念第一義天。見別譯雜阿含經九，涅槃經十八，智度論二十二，大乘義章十二。

1752. 【《胎經》】（科註第七五三頁第四行）

見「《菩薩處胎經》」2078。

1753. 【庵羅樹女】（科註第七五三頁第五行）

《佛學大辭典》「菴羅女」條：（人名）

又作菴婆女，菴樹女，nai 柰（音耐）女等。皆為菴羅婆樹女之略。彼女由菴羅婆樹而生，因呼曰菴羅女。為摩竭陀國頻婆娑羅王之妃，生乎者（音奇）婆，後歸佛奉園於佛。佛受之以為住所。

慧琳音義二十六曰：「菴羅女，亦云菴樹女。此依傳云依樹花中而生。」同卷曰：「溫室經云柰女者，即其人也。即頻婆娑羅王之貴妃，良醫耆婆之母也。」長阿含經二、遊行經，記獻菴羅園於佛。梵 *Amrapali*。

1754. 【智慧箭】（科註第七五三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（譬喻）智慧能害煩惱之賊，故譬以箭。

增一阿含經三十九曰：「仁鎧三昧弓，手執智慧箭，福業為兵眾，今當壞汝軍。」

智度論十曰：「忍鎧心堅固，精進弓力強，智慧箭勁利，破憍慢諸賊。」

1755. 【智慧劍】（科註第七五三頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（譬喻）智慧能斷煩惱絕生死之絆，譬如利劍。

維摩經菩薩行品曰：「以智慧劍破煩惱賊。」

心地觀經八曰：「法寶猶如智慧利劍，割斷生死離繫縛故。」

1756. 【嘉祥《義疏》】（科註第七五四頁第三行）

隋·吉藏所著之《觀無量壽經義疏》，全一卷。

1757. 【百法明門】（科註第七五四頁第八行）

《佛學大辭典》：（名數）菩薩於初地所得之智慧門也。明者慧也，門者入也，又差別也。慧能通入百法之真性，故曰明門，又百法之慧各有差別，故曰明門。其百法有二解，一菩薩瓔珞經所說十信之百法，一百法明門論所說五位之百法。十信之百法，菩薩於初住之位，修互具之十信，是名百法明門。五位之百法，心心所等之百法也。

瓔珞經上曰：「未上住前，有十順名字。菩薩常行十心，所謂信心、念心、精進心、慧心、定心、不退心、迴向心、護心、戒心、願心。佛子修行是心，若經一劫、二劫、三劫乃得入初住位中，住是位中增修百

法明門。所謂十信心，心心各有十，故修行百法明門。」

觀經妙宗鈔下曰：「三劫遊歷十方，供佛聞法，進入道種。登於初地，此地即得百法明門，言百法者如百法論所出名數。」

洞空之觀經會疏曰：「入初地心，明了五位百法明門。〔中略〕若依瓔珞，初住所得百法明門，別有名數。」

瓔珞經所說之初住，為圓位，即別教之初地也。

1758. 【授手】（科註第七五五頁第五行）

《實用淨土宗辭典》：指佛伸手接引眾生至西方淨土。《觀無量壽佛經》上品上生之文有：「阿彌陀佛放大光明照行者身，與諸菩薩

授手迎接。」同經上品中生之文亦有：「汝行大乘，解第一義，是故我今來迎接汝，與千化佛一時授手。」皆為伸手接引往生淨土之意。

1759. 【第一義】（科註第七五頁第八行）

《三藏法數》：「〔出大集經〕第一義者，即無上甚深之妙理也。其體湛寂，其性虛融，無名無相，絕議絕思。經云：甚深之理不可說，第一義諦無聲字。是也。（無聲字者，謂離語言、文字之相也。）」

《佛學大辭典》：（術語）以名究竟之真理，是為最上，故云第一。深有理由，故云義，聖智之自覺也。

大乘義章一曰：「第一是其顯勝之目，所以名義。」

中論疏三本曰：「以其最上莫過，故稱第一。深有所以，目之為義。」

勝mán鬘nú（音瞞）寶窟上末曰：「理極莫過，名為第一。深有所以，目此為義。」

法華義疏四曰：「第一義者，一實之道，理極無過為第一。深有所以，稱為義也。」

注維摩經一曰：「肇曰：第一義，謂諸法一相義也。」

楞伽經二曰：「第一義者，聖智自覺所得，非言說妄想覺境界。」

碧yán巖ḥ（音言）第一則曰：「如何是聖諦第一義？」

1760. 【合掌叉手】（科註第七五頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）合掌而交叉手

指也。密教所謂金剛合掌。

觀無量壽經曰：「合掌叉手，讚嘆諸佛。」

《佛學大辭典》「叉手」條：（雜語）叉手乃吾國之古法，即拱手也。

洪武正韻曰：「叉手相錯也，今俗呼拱手曰叉手。」

然竺土之法，叉手之禮，合掌交叉中指者，單曰叉手，亦曰合掌叉手。

方等般泥洹經上記阿難禮空無菩薩曰：

「又十指說是偈言：其離根為寂定，空無出大光明，我為勇猛叉手，為師子大吼禮。〔中略〕佛告阿難：汝用是叉手功德，我般泥洹後，六月中當獨作佛，天上天下人皆當稽首向汝作禮。」

觀無量壽經曰：「合掌叉手稱南無阿彌陀佛。」此合掌有深意。

1761. 【法子】（科註第七五五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（雜語）凡隨順佛道，為法所資養者，謂之法子。

觀無量壽經曰：「法子汝乘大乘，解第一義。」

1762. 【心宗】（科註第七五七頁第四行）

《佛學大辭典》：（流派）佛心宗之略，禪宗也。

禪源諸詮下曰：「所傳心宗，實貫三尊。」

（參見「佛心」425）

1763. 【悉檀】（科註第七五七頁第七行）

《翻譯名義集》：南岳師（慧思尊者）以悉

檀，例大涅槃，華梵兼稱。悉是華言，檀是梵語。悉之言遍，檀翻為施，佛以四法，遍施眾生，故名悉檀。

妙玄云：世界悉檀歡喜益，為人悉檀生善益，對治悉檀破惡益，第一義悉檀入理益。

妙樂云：則前二教，及別地前，但屬三悉。引入今經，第一義悉。

《佛學大辭典》：（術語）Siddhānta，又作悉談。智度論說四悉曇，悉曇者同於悉談。悉檀，成就之義也。然古師或譯曰宗或譯曰理，又有譯為成者。獨南岳以悉為漢語，檀為梵語，施之義。（參見「四悉檀」2069）

1764. 【世智辯聰】（科註第七五七頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「世智聰辯」條：（術語）

八難之一。世間之人，邪智聰利者，唯耽習外道經書，不能信出世之正法。是為佛道之障難。人天眼目曰：「世智辯聰不要拈出。」

1765. 【通儒】（科註第七五七頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：指通曉古今、學識淵博的儒者。

1766. 【禪客】（科註第七五七頁倒數第四行）

《佛光大辭典》：一、指參禪者，並不限於禪僧，亦包括俗家參禪修行者。臨濟錄（大四七·五〇六上）：「師云：『老和尚瞌睡作麼？』嚴云：『作家禪客，宛爾不同。』」

二、禪寺中住持上堂說法時，由僧眾中選一辯才出眾者與住持問答，此開問者，稱為

禪客。敕修百丈清規卷二上堂條（大四八·一一一九中）：「古之學者，蓋為決疑，故有問答。初不滯於語言，近日號名禪客，多昧因果，增長惡習，以為戲劇。」宋代以後，各禪刹皆置禪客一職，大刹置二人，小刹置一人。「禪林象器箋職位門」

1767. 【**毘**部<sup>ウ</sup>】（音部）（科註第七五八頁第三行）

《漢語大詞典》：覆蓋於棚架上以遮蔽陽光  
光的草席。

1768. 【**稚**部<sup>ト</sup>】（音至）（科註第七五八頁第五行）

《漢語大字典》：幼。後作「稚」。《集韻·脂韻》：「穉，幼也。」《楚辭·大招》：「容則秀雅，穉朱顏只。」王逸注：「穉，幼也。」

1769. 【**齋戒**】（科註第七五九頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）清心之不淨謂之齋。禁身之過非，謂之戒。

大乘義章十二曰：「防禁故名為戒，潔清故名為齋。」

周易韓康伯注曰：「洗心曰齋，防患曰戒。」

1770. 【**四分律音義**】（科註第七五九頁倒數第一行）

即慧琳所撰《一切經音義》之「四分律」部分。（《科註》所引內容，出自《一切經音義卷第五十九·四分律第一卷》）

1771. 【**南山業疏**】（科註第七六〇頁第三行）  
《佛光大辭典》「四分律刪補隨機羯磨疏」

條：凡八卷。唐代道宣撰。略稱四分律羯磨疏、四分律業疏、業疏。收於卍續藏第六十四冊。本疏乃作者廣釋其自著之四分律刪補隨機羯磨二卷，辨釋持戒之要諦，內容細分為十篇。初於疏前闡明能辨之教（羯磨）、所被之事（緣務）、弘法之人（僧伽）、設教之所（結界）。其次詳釋集法緣成、諸界結解、諸界受法、衣藥受淨、諸說戒法、諸眾安居、諸眾自恣法、諸衣分法、懺六聚法、雜法住持十篇。集法緣成篇為序分，諸界結解至懺六聚法篇為正宗分，雜法住持篇為流通分。

有關本疏製述之由來，貞觀九年（六三五）春，道宣於泌部綿上縣鸞巢村僧坊刪補隨機

羯磨，貞觀二十二年應舊知之請，於終南山豐德寺作本疏。本疏之注書有：宋代允堪之四分律隨機羯磨疏正源記八卷、四分律羯磨疏科四卷、元照之四分律羯磨疏濟緣記排科二十二卷、清代讀體之毘尼作持續釋十五卷、照遠之四分律羯磨疏顯緣抄二十卷，其中以濟緣記較盛行。「新編諸宗教藏總錄卷二、律宗瓊鑑章、諸宗章疏錄卷一」

1772. 【八齋戒】（科註第七六〇頁第四行）

《三藏法數》「八關齋戒」條：「出毘婆沙論并雜阿含經」關者，禁也。謂禁閉殺盜婬等八罪，使之不犯故也。論云：夫齋者，過中不食也。以八戒助成齋法，共相支持，故又名八支齋法。每月初八日、十四日、十

五日、二十三日、二十九日、三十日，是為六齋日。於此六日，能修行此八齋戒者，諸天相慶，即為註（記載）福祿，增壽算（即年壽）也。

一、不殺生：不殺生者，謂不斷一切眾生之命也。自不殺生，亦不教人殺生。

二、不偷盜：不偷盜者，謂不竊取他人財物也。自不偷盜，亦不教人偷盜。

三、不邪淫：不邪淫者，謂於非己妻妾，不行姪欲之事也。（按：《菩薩善戒經》於此條曰「不姪」；又，《佛說八關齋經》曰「不習不淨行」，《中阿含卷五十五·持齋經》曰「離非梵行」，皆是不姪之意。蓋以八關齋戒意在使在家二眾於一日一夜受持出家之戒也。）

四、不妄語：不妄語者，謂自不妄言，亦不可以虛妄之言而誑於他也。

五、不飲酒：不飲酒者，謂酒是亂性之本，起過之門，故不可酣（音慙，沉湎於酒也）飲也。

六、不坐高廣大床：高廣大床者，阿含經云：床高一尺六寸，非高也；闊四尺，非廣也；長八尺，非大也。但過此量者，名高廣大床，不宜坐也。

七、不著花鬘瓔珞：不著花鬘瓔珞者，謂不以花為鬘（音瞞，印度風俗，男女多取花朵相貫，以飾身或首），珠璣（珠寶，珠玉也。璣，音基）為瓔珞，而作身首之飾也。

八、不習歌舞戲樂：不歌舞戲樂者，謂自

不習歌舞戲樂，及不得輒往他處觀聽，亦不教人歌舞戲樂也。

《十善戒經》：「八戒齋者：是過去現在諸佛如來，為在家人制出家法：一者不殺，二者不盜，三者不婬，四者不妄語，五者不飲酒，六者不坐高廣大床，七者不作倡伎樂故往觀聽、不著香熏衣，八者不過中食。」

1773. 【抱渴而死，弗飲水蟲】（科註第七六〇頁第六行）

《摩訶僧祇律卷十八》：時南方波羅脂國有二比丘，共伴來詣舍衛，問訊世尊。中路渴乏無水，前到一井，一比丘汲水便飲，一比丘看水見蟲不飲。飲水比丘問伴比丘言：「汝何不飲？」答言：「世尊制戒，不得飲蟲

水。此水有蟲，是故不飲。」飲水比丘復重勸言：「長老，汝但飲水，勿令渴死，不得見佛。」答言：「我寧喪身，不毀佛戒。」作是語已，遂便渴死。

飲水比丘漸漸往到佛所，頭面禮足，卻住一面，佛知而故問：「比丘，汝從何來？」答言：「我從波羅脂國來。」佛言：「比丘汝有伴不？」答言：「有二人為伴，道中渴乏無水，到一井，井水有蟲，我即飲之，因水氣力，得奉覲世尊；彼守戒不飲，即便渴死。」佛言：「癡人！汝不見我，謂得見我；彼死比丘，已先見我。若比丘放逸懈怠，不攝諸根，如是比丘，雖共我一處，彼離我遠，彼雖見我，我不見彼；若有比丘，

在海彼岸，能不放逸，精進不懈，撿攝諸根，雖去我遠，我常見彼，彼常近我。」佛告比丘：「此是惡事，非法非律，非如佛教，不可以是長養善法，從今日後，知水有蟲，不得飲。」

1774. 【被繫而終，無傷草葉】（科註第七六〇頁第六行）

《佛學大辭典》「草繫比丘」條：（人名）

佛在世時，有比丘，為賊以生草繫之。比丘恐壞其生草，而不解縛，自待餓死。

一切有部目得迦六曰：「佛在室羅伐城，時諸苾芻（音必除，即比丘），在跋蹉國，遊行人間，為賊所執。賊相告曰：仁等今可淨諸苾芻。是時賊中，有一先是苾芻相近住

人。告諸伴曰：何勞殺此，應以連根茅草可急縛之，令其饑渴自餓而死。時彼群賊即以茅草縛諸苾芻，棄之而去。時跋蹉國王，名烏陀延，為獵所出，遇到其所，告從臣曰：此是鹿熊耶？走騎觀察，乃見苾芻。問言：仁是何類？苾芻答曰：是出家者。於何類中？是釋迦子。何為住此？答：我被賊縛。以何物縛？曰：生草。王曰：何不拔起？報曰：世尊為我制其學處，若復苾芻壞生草木，得波逸提迦。王即下乘，自手解放，各施三衣。」賢愚經四，莊嚴論三亦引之。

梵網經下曰：「若佛子，護持禁戒。行住坐臥，日夜六時，讀誦是戒。猶如金剛，如帶持浮囊，欲渡大海，如草繫比丘。」

涅槃經二十六曰：「寧捨身命，不毀禁戒，如草繫比丘。」

1775. 【窣<sup>女</sup>窣<sup>女</sup>（音酥）堵波】（科註第七六〇頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「率都婆」條（節錄）：  
（術語）Stūpa，又作窣堵波、窣堵波、素睹波、藪斗婆，舊稱藪偷婆、私偷簸、數斗波、鎗婆、塔婆、兜婆、塔、浮圖等。奉安佛物或經文，又為標幟死者生存者之德，埋舍利、牙、髮等，以金石土木築造，使瞻仰者。譯曰大聚、方墳、圓塚、靈廟、高顯處、功德聚等。（中略）

釋迦法中佛成道時，二商來得世尊之爪髮而起塔，是起塔之hāo<sup>ㄏㄠ</sup>嚆<sup>ㄏㄠ</sup>矢（響箭。因發射時聲

先於箭而到，故常用以比喻事物的開端。猶言先聲），又波斯匿乞佛之長髮而起塔，是亦為最初。佛滅後有十大塔，阿輪迦王時有八萬四千舍利塔，此等為佛塔也。據十二因緣經，則許凡僧已上造塔。依位之高下而塔之級層有限制，在家不許之。密教別設五輪形之塔，以為大日如來之標幟，許僧俗一般立於墓所，由是而謂之塔者，乃佛塔，謂之塔婆者乃五輪，兩者有區別焉。

1776. 【安塔有其三義】（科註第七六〇頁倒數第四行）  
《三藏法數》「起塔有六意」條：「出華嚴經疏」

一、為表人勝：謂如來三界至尊，最勝無比，故建塔以表之，令人瞻禮，而歸敬也。

(三界者，欲界、色界、無色界也。)

二、令生淨信：謂建造佛塔，蓋令一切眾生，瞻仰頂禮，而生崇重正信之心也。

三、令標心有在：謂建造佛塔，蓋令一切眾生，心有所向，而敬慕歸依也。

四、令供養生福：謂建造佛塔，蓋令一切眾生，至心恭敬供養，則能生諸福利也。

五、為報恩行畢：謂建造佛塔，非惟利益於己身，蓋將答報四恩，而畢無邊之行願也。(四恩者，國王、父母、師友、檀越也。)

六、生福滅罪：謂建造佛塔，非惟生自己之福，滅自己之罪，蓋令一切眾生，凡瞻睹頂禮者，無不生一切福，滅一切罪也。

1777. 【舍利(二)】(科註第七六〇頁倒數第三行)

《釋氏要覽》：此物乃是戒定慧，忍行功德熏成也。梵語設利羅，今訛略稱舍利，華言骨身。所以不譯者，恐濫凡夫骨身故也。又云馱都，此目不壞義，有二種舍利：一全身，二碎身。碎身有三：一骨舍利，白色；二肉舍利，紅色；三髮舍利，黑色。惟佛舍利五色，有神變，一切物不能壞焉。

1778. 【沉水】(科註第七六〇頁倒數第三行)

見「沈水香」1271。

1779. 【木<sub>mi</sub>櫛<sub>tsu</sub>(音密)】(科註第七六〇頁倒數第三行)

《法華義疏卷四》：木櫛者。形似白檀，微有香氣。

《康熙字典》「櫛」條：香木。

1780. 【優填王】（科註第七六〇頁倒數第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：（人名）Udayana，舊稱優填，于闐。新稱優陀延，鄔陀衍那，暹陀演那伐蹉。拘睒彌國王名。譯曰出愛。

○優填王造佛像：（傳說）釋尊，一夏九旬（九十日），昇忉利天為母說法，不遠閻浮。時拘睒彌國優填王思慕之。以牛頭栴檀造如來像高五尺，如來自天宮還，刻檀之像，立而迎之。故世尊於彼像囑末世之教化。見增一阿含經二十八，西域記五，經律異相六。又佛上天時，優填王鑄金作像云。見觀佛三昧經六。

1781. 【造像功德經】（科註第七六一頁第二行）

《佛學大辭典》：（經名）具名大乘造像

功德經。二卷，唐提雲般若譯。佛在忉利天上，優填王初造佛像。佛自天而下，王問功德，佛深讚之。彌勒因問滅業障之事。佛一一細答。

1782. 【𪔐kuàng ㄎㄨㄤˋ】（音況）（科註第七六一頁第三行）

《漢語大字典》：𪔐麥，大麥的一種，芒長，成熟時自然脫粒，粒外有皮。《廣韻·梗韻》：「𪔐，𪔐麥。」《正字通·麥部》：「𪔐，與穰同。𪔐麥，西川人種食之。山東河北人，正月種，名春𪔐，形似大麥，味甘微寒，無毒，久服令人力健。」

1783. 【六波羅蜜多經】（科註第七六一頁第四行）

《佛光大辭典》「大乘理趣六波羅蜜多經」

條：凡十卷。唐代般若譯。今收於大正藏第八冊。略稱六波羅蜜經、六度經。內容講述護持國界及菩薩所修六波羅蜜之法。計分十品：一、歸依三寶品，二、陀羅尼護持國界品，三、發菩提心品，四、不退轉品，五、布施波羅蜜多品，六、淨戒波羅蜜多品，七、安忍波羅蜜多品，八、精進波羅蜜多品，九、靜慮波羅蜜多品，十、般若波羅蜜多品。

據貞元新定釋教目錄卷十七載，初時，有大秦寺之波斯僧景淨，依據胡本，將本經譯為七卷本。然因景淨不識梵文，又未諳佛教義理，故所譯與原經出入甚鉅，般若三藏遂於貞元四年（七八八）十一月依據梵本，重

譯本經。注疏本經者，有智通之六度經疏十卷、六度經義例訣、六度經義目各一卷、超悟之六度經疏四卷等。〔大唐貞元續開元釋教錄卷中、新編諸宗教藏總錄卷一〕

1784. 【以食施者，當施五事】（科註第七六一頁第四行）

《三藏法數》「施食獲五福報」條：〔出施食獲五福報經〕

一、施命：謂人七日不得食則死，若能以食施之，即為施命。其施命者，得世世長壽、財富無量報。

二、施色：謂人不得食，顏色憔悴，若能以食施之，即為施色。其施色者，得世世端正、人見歡喜報。

三、施力：謂人不得食，身<sub>lei</sub>羸<sub>ㄌㄟ</sub>（音雷，瘦弱）力弱，若能以食施之，即為施力。其施力者，得世世多力、終無耗減報。

四、施安：謂人不得食，心愁身危，不能自安，若人以食施之，即為施安。其施安者，得世世安隱、不遇災患報。

五、施辯：謂人不得食，困不能言，若能以食施之，即為施辯。其施辯者，得辯慧通達、聞者喜悅報。

1785. 【**減**書<sub>ㄐㄧㄢˋ ㄕㄨ</sub>（音減）**訥**<sub>ㄣㄝˋ ㄣㄛˋ</sub>】（科註第七六一頁第七行）

《漢語大詞典》：不善言辭。

1786. 【**百緣經**】（科註第七六一頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（經名）撰集百緣經之略名。

《閱藏知津》「撰集百緣經」條：十卷。吳月支國優婆塞支謙譯。菩薩授記品第一，報應受供養品第二，授記辟支佛品第三，出生菩薩品第四，餓鬼品第五，諸天來下供養品第六，現化品第七，比丘尼品第八，聲聞品第九，諸緣品第十。每品十緣，故有百緣。

1787. 【**施燈功德經**】（科註第七六一頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（經名）一卷，高齊那連提耶舍譯。說施燈之功德。

1788. 【**陀羅尼集經**】（科註第七六二頁第四行）

《佛學大辭典》：（經名）十二卷，唐阿地瞿多譯。說諸佛菩薩諸天之印咒。

1789. 【**中國**】（科註第七六二頁第七行）

《中華佛教百科全書》（節錄）：（梵 ma dhya-desa, [B] majjhima-desa）印度佛典所謂的「中國」，是由梵文或巴利文譯出之地理區域之名詞，並不是指我國而言。（中略）

至於佛教所稱之中國，則大抵指以摩揭陀、憍薩羅為中心的區域。相傳佛之出世，唯生於「中國」（當地人類之文化中心），不生「邊地」（指文化落後之區域），故值遇佛者亦以生於中國者為限。因此，不得生於中國，是為佛教所謂的「八難」之一。

1790. 【邊地】（科註第七六二頁第八行）  
前 1789 「中國」之對稱。

《佛學大辭典》（節錄）：（雜名）閻浮提洲之邊隅，謂之邊地。

○蜜利車：（雜名）Mleccha，又作彌離車，彌戾車。胡種之稱。譯曰垢濁種。

續高僧傳四（玄奘傳）曰：「迦果斯地北，民雜胡戎，制服威儀，不參大夏，名為邊國蜜利車類。唐言譯之垢濁種也。」

玄應音義十八曰：「彌離車或作彌戾車，皆訛，正言蔑戾車也。」

華嚴疏鈔十四曰：「蔑戾車者，三藏云惡中惡，亦云奴中奴，皆義翻耳」。

1791. 【天樹王】（科註第七六二頁倒數第一行）  
《佛學大辭典》：（雜名）忉利天上之波利質多樹也。此樹為樹中之王，故名曰樹

王。猶言牛王、鵝王等。

法華經序品曰：「國界自然殊特妙好，如

天樹王其華開敷。」

○波利質多羅：（植物）Paricita，又曰波利質羅，波疑質妬。具名波利耶怛羅拘陀羅，忉利天上之樹名。譯言香遍樹，又稱曰天樹王。

慧苑音義下曰：「波利質多羅，具云波利耶怛羅拘陀羅，此云香遍樹。謂此樹根莖枝葉華實皆能遍熏忉利天宮。」又曰：「波利，此曰遍也，亦曰周匝。質多羅，云間錯莊嚴也。言此樹眾雜色花周匝嚴飾，或云圓妙莊嚴也。」

華嚴探玄記二十曰：「波利質多樹，正云波喇耶怛羅拘毘陀羅，此云香遍樹。謂此樹枝華實一切皆香，故立此名。」

《翻譯名義集》「波利質多羅」條：此云

圓生。大經云：三十三天有波利質多羅樹，其根入地深五由旬，高百由旬，枝葉四布五十由旬。其華開敷，香氣周遍五十由旬。又翻間錯莊嚴，眾雜色華，周匝莊嚴。法華文句指此為天樹王也。

1792. 【慈照宗主】（科註第七六三頁第四行）

《實用淨土宗辭典》「子元」條：（？）——  
一一六六）宋代僧人，俗姓茅，平江昆山（今上海昆山）人。母柴氏，夜夢一佛入門，次日生元，因名佛來。幼喪父母，師事本州延祥寺志通法師，習誦《法華經》。十九歲落髮，習止觀禪法，定中聞鶉聲大悟，作頌說：「二十餘年紙上尋，尋來尋去轉沈吟，

忽然聽得慈鴉叫，始信從前錯用心。」爾後，於順逆境中未嘗動念。慕廬山遠公蓮社遺風，勸人歸依三寶，受持五戒。念阿彌陀佛五聲，以證五戒，普結淨緣。欲令世人淨五根，得五力，出五濁。乃集大藏要言，編成晨朝懺儀，代為法界眾生禮佛懺悔，期生安養。其後，於澱山湖創立蓮宗懺堂，同修淨業。述《圓融四土三觀選佛圖》，開示蓮宗眼目。又作《勸人發願偈》，勸人念佛同生淨土，遂創白蓮宗。乾道二年（一一六六），帝詔至德壽殿，演說淨土法門，賜號「慈照宗主」。三月二十三日，於鐸城倪普建宅，告諸徒說：「吾化緣已畢，時當行矣。」合掌辭眾，奄然示寂。二十七日荼毗，得舍

利無數。曾集《彌陀節要》行於世。

1793. 【《覺經》】（科註第七六七頁第二行）

指《無量清淨平等覺經》。四卷，後漢支婁迦chèn識4,7（音趁）譯。為《無量壽經》五種原譯之一。

1794. 【《鼓音王經》】（科註第七六九頁第四行）

《佛學大辭典》：（經名）阿彌陀鼓音聲王陀羅尼經之略名。

1795. 【如來有十種佛事】（科註第七六九頁第六行）

《八十華嚴卷四六·佛不思議法品第三十三之一》：佛子，諸佛世尊，於一切世界一切時，有十種佛事。何等為十？

一者若有眾生，專心憶念，則現其前。  
二者若有眾生，心不調順，則為說法。

三者若有眾生，能生淨信，必令獲得無量善根。

四者若有眾生，能入法位，悉皆現證，無不了知。

五者教化眾生，無有疲厭。

六者遊諸佛刹，往來無礙。

七者大悲不捨一切眾生。

八者現變化身，恆不斷絕。

九者神通自在，未嘗休息。

十者安住法界，能遍觀察。是為十。

1796. 【掃蕩】（科註第七七〇頁第三行）

《佛光大辭典》「掃蕩門」條：為「扶起門」之對稱。又作推倒門。即師家接引學人時，否定一切差別相，拂去所有執著之方

法。反之，所謂扶起門，則指肯定迷悟、生佛、善惡、長短等一切義法分別之方法；禪林中，師家接化學人時，採取此類立之、扶之、起之的方法，亦稱建立門，乃屬「放行」之機法，而與否定、拂除執著之掃蕩門（乃屬「把住」之機法）相對。

1797. 【大圓鏡智】（科註第七七〇頁倒數第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）顯教四智之一。諸大乘教說如來之四智。凡夫之第八識至於如來，為大圓鏡智。大圓鏡者。喻也，其智體清淨，離有漏雜染之法，自眾生善惡之業報，顯現萬德之境界，如大圓鏡。故名大圓鏡智。

心地觀經二曰：「轉異熟識（阿賴耶識也）」

得此智慧，如大圓鏡，現諸色像。如是如來鏡智之中，能現眾生諸善惡業。以是因緣名為大圓鏡智。「中略」常能執持無漏根身，一切功德為所依止。」

唯識論十曰：「一切境相，性相清淨，離諸雜染，純淨圓德現種依持，能現能生身土智影，無間無斷窮未來際，如大圓鏡現眾色像。」

1798. 【破參】（科註第七七三頁第六行）

即「破本參」。

《雍正御選語錄》御製總序云：如來正法眼藏，教外別傳，實有透三關之理，（中略）有志於道之人，則須勤參力究，由一而三，步步皆有著落，非可顛頂（音瞞愁，糊塗而馬

虎）函胡（同「含糊」），自欺欺人。（中略）夫學人初登解脫之門，乍釋業繫之苦，覺山河大地十方虛空，並皆消殞，不為從上古錐舌頭之所瞞，識得現在七尺之軀，不過地水火風，自然徹底清淨，不挂一絲，是則名為初步破參，前後際斷者。

破本參後，乃知山者山，河者河，大地者大地，十方虛空者十方虛空，地水火風者地水火風，乃至無明者無明，煩惱者煩惱，色聲香味觸法者色聲香味觸法，盡是本分，皆是菩提，無一物非我身，無一物是我己，境智融通，色空無礙，獲大自在，常住不動，是則名為透重關，名為大死大活者。

透重關後，家舍即在途中，途中不離家

舍，明頭也合，暗頭也合，寂即是照，照即是寂，行斯住斯，體斯用斯，空斯有斯，古斯今斯，無生故長生，無滅故不滅，如斯惺惺行履，無明執著，自然消落，方能踏末後一關。雖云透三關，而實無透者，不過如來如是，我亦如是。從茲方修無修，證無證，妙覺普明，圓照法界，一為無量，無量為一，大中現小，小中現大，坐微塵裏，轉大法輪，於一毫端，現寶王刹，救拔眾生，利用無盡。

1799. 【中峰】(科註第七七三頁倒數第五行)

《佛學大辭典》：(人名) 元天目山之普應國師。名明本，號中峰，錢塘人。自幼切求佛法，晝夜勵精。後參天目山高峰妙和

尚，大悟徹底。說法無礙，著書若干。仁宗聞而聘之，不至。製金文之伽梨衣贈之，并賜號佛日廣慧普應國師。至元三年寂，壽六十一。有廣錄三十卷行于世。見中峰和尚行錄。

1800. 【じゆ鞠 (音居)】(科註第七七五頁第六行)

《康熙字典》：究，窮也。

1801. 【《那先經》】(科註第七七五頁倒數第四行)

《佛學大辭典》「那先比丘經」條：(經名) 二卷，失譯。記那先比丘之生緣及與國王彌蘭陀之問答。巴 *Milinda-panha*。

1802. 【達摩】(科註第七七五頁倒數第二行)

《佛學大辭典》「達磨」條(節錄)：(人名) *Bodhidharma*，具名菩提達磨，譯曰道

法。南天竺之刹帝利種也。父王曰香至。磨為其第三子。本名菩提多羅。後遇二十七祖般若多羅，嗣法。改多羅曰達磨。

梁普通元年泛海至廣州。帝迎之到建業。

問曰：朕即位以來，造寺寫經有何功德？磨曰：無功德。帝曰：云何真功德？磨曰：淨智妙圓，體自空寂，如是功德不可以世求。帝曰：如何是聖諦第一義？磨曰：廓然無聖。帝曰：對朕者誰？磨曰：不識。帝不悟。遂渡江之魏。乃後魏孝明正元元年也。

止嵩山少林寺，終日壁觀。號壁觀婆羅門。孝明帝聞之，三召不起。後得慧可，付法並衣。付法偈曰：「吾本來茲土，傳法救迷情。一華開五葉，結果自然成。」又曰：

此有楞伽經四卷，為如來極談法要，今並付汝。梁大通二年寂，其年葬熊耳山，梁武帝製碑讚德，唐代宗諡曰圓覺大師。見傳法正宗記五。

1803. 【幸西】（科註第七七五頁倒數第一行）

《佛光大辭典》：（一一六三——二四七）日本淨土宗僧。籍貫不詳。號成覺房，世稱成覺房幸西。初時於比叡山西塔修行，後以法然上人為師。承元法難時，被流放至阿波，遂於關東大行教化，闡論一念往生之義，被尊為一念義派之祖。寶治元年示寂，年八十五，或謂生卒年不詳。（淨土法門源流章、法然上人傳記卷六下、淨土宗派承繼譜）

1804. 【yóu繇<sup>ㄩˊ</sup>】（音由）（科註第七七六頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：通「由」。表原因。

1805. 【懺摩】（科註第七七六頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）Kṣā-maya, 譯曰忍恕請忍恕於人之辭。

寄歸傳二曰：「懺摩乃是西音，身當忍義，〔中略〕口云懺摩，意是請恕。」

然舊譯家翻為悔。資持記中之三曰：「梵云懺摩，此翻悔往。」

《三藏法數》「懺悔」條：懺，梵語具云懺摩，華言悔過。華梵兼舉，故稱懺悔。懺名修來，悔名改往。謂修將來之善果，改已往之惡因，是為懺悔。

1806. 【《無量壽經宗要》】（科註第七七七頁第八行）

《實用淨土宗辭典》：書名。全一卷，新羅國黃龍寺沙門元曉撰，世稱海東疏。此疏將《無量壽經》的要點稱性發揮，主張以菩提心為正因，詮釋十念的顯了隱密之意。收於《大正藏》第三十七冊中。

1807. 【《念佛三昧寶王論》】（科註第七七七頁倒數第二行）

《實用淨土宗辭典》：書名。凡三卷，唐代僧飛錫大師撰，成書于天寶元年（七四二）。收于《大正藏》第四十七冊。飛錫大師以念佛三昧為諸三昧中之寶王，遂倡導萬善同歸，三世通修之念佛。是書分三大門，然後再細分二十門進行闡述。

上卷七門，念未來佛：一念未來佛速成三

昧門；二<sup>ひ</sup>嬖（音必。寵愛）女群盜皆不可輕門；三持戒破戒但生佛想門；四現處湯獄不妨受記門；五現空無我擇善而從門；六無善可擇無惡可棄門；七一切眾生肉不可食門。

中卷六門，念現在佛：一念現在佛專注一境門；二此生他生一念十念門；三是心是佛是心作佛門；四高聲念佛面向西方門；五夢覺一心以明三昧門；六念三身佛破三種障門。

下卷七門，通念三世無不是佛：一念過去佛因果相同門；二無心念佛理事雙修門；三了心境界妄想不生門；四諸佛解脫心行中求門；五三業供養真實表敬門；六無相獻華信毀交報門；七萬善同歸皆成三昧門。

大師撰本書時，廣為援引之經論有：《觀無量壽佛經》、《大寶積經》、《大集經》、《小品般若經》、《法華經》、《十住毗婆沙論》、《大乘起信論》及《安樂集》等。明萬曆三十六年（一六〇八），蕩益大師將本書收入《淨土十要》中，為淨宗要典之一。是論歷有疏釋，近人諦閑大師曾講此論，有《念佛三昧寶王論義疏》流通於世。

1808. 【一形】（科註第七七八頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）謂人之形骸存續之期間也。又名一期、一生涯。

1809. 【遺日摩尼寶經】（科註第七七八頁倒數第六行）

《閱藏知津》「佛遺日摩尼寶經」條：一

卷。後漢月支國沙門支婁迦chèn ㄔㄣˋ識多（音趁）譯。

即《大寶積經》第四十三普明菩薩會異譯。

1810. 【滅除藥鼓】（科註第七七八頁倒數第二行）

《佛說首楞嚴三昧經》：菩薩住首楞嚴三昧。眾生見者。貪恚癡病皆得除愈。如大藥王名曰滅除。若鬪戰時用以塗鼓。諸被箭射刀矛所傷。得聞鼓聲箭出毒除。如是堅意。菩薩住首楞嚴三昧。有聞名者。貪恚癡箭自然拔出。

1811. 【有間】（科註第七七九頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）對於無間而言。問者問雜，又間隔之義。即餘心互相間雜。或有時間及空間之間隔也。往生論註上所謂有問心，選擇集上所謂修雜行者，於阿

彌陀佛，憶念常間斷，故名有間，皆有時間間隔之意者也。

1812. 【刀風】（科註第七七九頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）人命欲終時，有風氣，解支節如刀，名為刀風，所謂斷末魔（末魔，亦作「末摩」，意譯死穴、支節、死節。身中有百餘處之末摩。水火風三大之一（除地大），增盛而觸其末摩時，則生極苦，終斷命根，而使無知覺。故云斷末摩）之苦也。

正法念經六十六曰：「見命終時，刀風皆動，皮肉筋骨脂髓精血，一切解截。」

五王經曰：「欲死時刀風解形，無處不痛。」

安樂集上曰：「若刀風一至，百苦轉身。」

行事鈔資持記上一之下曰：「能解支節故喻如刀。」

1813. 【臘印】（科註第七七九頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「臘印」條：（譬喻）印蠟印於泥，蠟印溶解，同時泥中成字形。以譬現在之五陰滅，中有之五陰生也。

涅槃經二十九曰：「如蠟印印泥，印與泥合，印滅文成。而是蠟印不變在泥，文非出泥不餘處來，以印因緣而生是文。現在陰滅，中陰陰生。是現在陰終不變為中陰五陰，中陰五陰亦非自生，不從餘來。因現陰故，生中陰陰，如印印泥，印壞文成。」

1814. 【印壞文成】（科註第七七九頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（雜語）謂鎔蠟作印，

置之泥土上，蠟印自然壞，而其跡則顯成印文也。

安樂集上曰：「如蠟印印泥，印壞文成，此命斷時，即是生安樂國時。」是以印壞喻死，文成譬生，顯死生同時也。

又摩訶止觀九曰：「過去無明業是蠟，現在父母精血是泥。過去業不住，故名印壞。現在託識，名色具足。故名文成。」是譬十二因緣相續循環之理也。

1815. 【誑語】（科註第七八〇頁第三行）

《佛學大辭典》「虛誑語」條：（術語）十惡業之一。以惡心故欺他人之言語也。

俱舍論十六曰：「於所說義異想發言，及所誑者解所說義，染心不誤成虛誑語。若所

誑者未解言義，此言是何？是雜穢語。」

1816. 【佛智】（科註第七八一頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）佛陀之智慧也。梵云阿耨多羅三藐三菩提 *Anantara-samyak-sambodhi*，舊翻無上正等覺，又云薩般若 *Sarvajñā*，舊譯一切種智，是佛智之別號也。其真智正而無有過之者，故云無上正智。於法無有不知，故云一切種智。

智度論四十六曰：「佛智慧有二種：一者無上正智，名阿耨多羅三藐三菩提。二者一切種智，名薩般若。」同八十五曰：「唯佛一人智慧名阿耨多羅三藐三菩提。」

宗鏡錄三十三曰：「佛智者即無障礙解脫智，此是果智，約圓明決斷為智。」十住毘

婆沙論十五曰：「佛智是一切功德住處。」

法華經方便品曰：「諸佛智慧甚深無量，其智慧門難解難入。」

1817. 【自然智】（科註第七八一頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）不借功用，自然而生之佛之一切種智也。

法華經譬喻品曰：「自然智，無師智。」同義疏六曰：「自然智者，無功用智也。」

大日經疏五曰：「自然智者，是如來自覺自證之智。昔所未聞未知之法，現前無所罣礙，故以為名。」同六曰：「若法依師智得，從於眾因緣而生，即是戲論生滅之相，非法性佛自然之慧。若是自然之慧，則非修學可得，亦不可授人。」

1818. 【無師智】（科註第七八一頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）謂無師獨悟之佛智也。

法華經譬喻品曰：「一切智，佛智，自然智，無師智。」同嘉祥疏六曰：「無師智者，前之三智並不從師得，故云無師智。」

大日經疏一曰：「如是自證之境，說者無言，觀者無見。不同手中菴摩勒果，可轉授他人也。若可以言語授人者，釋迦菩薩蒙定光之授決之時，即可成佛。何故具修方便，要待無師自覺方名佛耶？」

1819. 【如來知見】（科註第七八一頁第五行）  
見「佛知見」105。

1820. 【《中阿含經》】（科註第七八一頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（經名）四阿含經之一。六十卷，東晉<sup>qu</sup>瞿（音渠）曇僧伽提婆譯。

1821. 【慈雲懺主】（科註第七八二頁第六行）

《佛學大辭典》：（人名）宋遵式法師，慈雲，治定往生淨土懺儀。請觀音消伏毒害懺儀，金光明懺法。因而後世稱為慈雲懺主。

○慈雲：（人名）宋杭州天竺靈山寺靈應尊者，名遵式，字知白，真宗賜號慈雲。天台寧海人，宋太宗乾德元年癸亥生。於國清寺普賢像前燒一指，誓傳天台之道。明道元年壬申十月八日入寂，壽六十九。見佛祖統紀十一。

《佛祖歷代通載》：慈雲法師遵式。字知白。葉氏。台州寧海人。母王氏夢嚙明珠而生。稍長不樂隨兄為賈。潛往東掖山出家。年二十往禪林受具。明年習律學于守初。式繼入國清普賢像前。燼一指誓傳天台之教。雍熙初來謁四明。北面受業。未幾智解秀出。智者諱日。然頂終朝誓力。行四三昧。淳化初。眾請居寶雲。講未嘗歇。靈異之跡具於本傳。明道元年十月十八日示疾。不用醫藥。唯說法勉徒十日令請彌陀像以證其終。至夜奄然坐逝。生壽六十九。夏五十年仲春四日。徒眾奉遐榻葬于寺東月桂峰下。

1822. 【《法鼓經》】（科註第七八六頁第二行）

《佛學大辭典》「大法鼓經」條：（經名）二卷，劉宋求那跋陀羅譯。佛在祇洹（祇園精舍。祇，音奇）說有非有之法門，波斯匿王擊鼓吹貝而來。佛言我當說大法鼓經，使迦葉令不堪聞大法者盡去座，說如來之常樂我淨，不般涅槃及一切眾生皆有佛性，一切空經皆為方便。

### ◎ 往生正因第二十五

1823. 【十善業】（科註第七八七頁第二行）

《佛學大辭典》：（名數）十善之業行也。（參見「十善」1829）

1824. 【三歸】（科註第七八七頁第三行）

《三藏法數》「三歸依」條：〔出法界次

第〕謂如來初成正覺，因為提謂長者開受三歸之戒，翻邪歸正，以為入道根本。是故三乘行者，修因證果，皆以此為道也。華嚴經疏云：三寶吉祥，最勝良緣，有歸依者，能辦大事，生諸善根，離生死苦，得涅槃樂，是名三歸依。（三乘者，菩薩乘、緣覺乘、聲聞乘也。）

一、歸依佛：梵語佛陀，華言覺。自覺、覺他，故名佛也。歸者，反還之義。謂反邪師，還事正師也。依者，憑也。憑佛大覺，得出三途及三界生死。故經云：歸依於佛，終不更歸依其餘外道、天神也。（三途者，刀途、血途、火途也。三界者，欲界、色界、無色界也。）

二、歸依法：法即軌則之義。謂佛所說，若教若理，可為眾生修行軌則，故言法也。歸者，反邪法，還修正法也。依者，憑佛所說教法，得出三塗及三界生死。故經云：歸依於法者，永離於殺害也。

三、歸依僧：梵語僧伽，華言和合眾，謂出家三乘之人，其心與佛所說事理之法和合，故名僧也。歸者，反外道邪行之侶，歸心出家三乘正行之伴也；依者，憑信出家正行之伴，得出三塗及三界生死。故經云：歸依於僧者，永不復更歸依其餘外道也。

1825. 【威儀】（科註第七八七頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）坐作進退有威德有儀則者。

法華經序品曰：「又見具戒，威儀無缺。」

觀無量壽經曰：「具足眾戒，不犯威儀。」

戒疏一下曰：「行善所及，各有憲章，名威儀也。威謂容儀可觀，儀謂軌度格物。」

左傳曰：「有威可畏謂之威，有儀可則謂之儀。」

○三千威儀：（術語）對於具足戒二百五十而該稱其他細行曰威儀三千。三千者顯數之多，如三千威儀經。法數者強鑿成三千之數量。

《佛學次第統編》「四威儀具足」：威儀者，威謂容儀可觀，儀謂軌度格物。坐作進退，有威德，有儀則。有威可畏，有儀可則，是為威儀。

具足者，具備滿足也。

四威儀者：一行、二住、三坐、四臥。此四者各有儀則，不損威德，謂之四威儀。如有人言：行如風、立如松、坐如鐘、臥如弓。表威儀之狀略如是也。

1826. 【大乘方等經典】（科註第七八七頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）謂諸大乘經也。方等為大乘經方正之通名。言其所說之理方正平等也。

觀無量壽經曰：「讀誦大乘方等經典。」

1827. 【觀經約論】（科註第七八八頁第三行）

具名《觀無量壽佛經約論》。一卷，清·彭際清述。

1828. 【津濟】（科註第七八八頁第七行）

《漢語大詞典》：渡口。

1829. 【十善】（科註第七九二頁第六行）

《三藏法數》：〔出法界次第〕善即順理之義。謂行此十法，皆順理故。然有二種：一者止，二者行。止，則止息已惡，不惱於他；行，則修行勝德，利安一切也。

一、不殺生：不殺生者，謂不害一切物命，即是止殺之善。既不殺已，當行放生之善也。

二、不偷盜：不偷盜者，謂不竊取他人財物，即是止盜之善。既不盜已，當行布施之善也。

三、不邪淫：不邪淫者，謂不行邪淫欲事，即是止淫之善。既不邪淫，當行清淨梵

行之善也。

四、不妄語：不妄語者，謂不起虛言，誑惑他人，即是止妄語之善。既不妄語，當行實語之善也。

五、不兩舌：不兩舌者，謂不向兩邊，說是談非，令他鬥爭，即是止兩舌之善。既不兩舌，當行和合利益之善也。

六、不惡口：不惡口者，謂不發麤獷惡言，罵辱他人，即是止惡口之善。既不惡口，當行柔和軟語之善也。

七、不綺語：不綺語者，謂不莊飾華麗之言，令人樂聞，即是止綺語之善。既不綺語，當行質直正言之善也。

八、不貪欲：不貪欲者，謂不貪著情欲塵

境，即是止貪之善。既不貪欲，當行清淨梵行之善也。

九、不瞋恚：不瞋恚者，謂不生忿怒之心，瞋恨於人，即是止瞋之善。既不瞋恚，當行慈忍之善也。

十、不邪見：不邪見者，謂不偏邪異見，執非為是，即是止邪見之善。既不邪見，當行正信正見之善也。（參見「十善因果」2159、

「十惡十善之增上果」2161）

1830. 【gòu搆ㄍㄡˋ】（音夠）（科註第七九二頁倒數第三行）

《漢語大詞典》：離間。

1831. 【不淨觀】（科註第七九二頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）五停心觀（能使五種過失停止於心的觀法）之一。為治貪心，觀

身之不淨也。此中有二：一者觀自身之不淨，二者觀他身之不淨。

觀自身不淨，有九相（當作「想」）：一死想，二脹想，三青瘀想，四膿爛想，五壞想，六血塗想，七蟲噉想，八骨鎖想，九分散想。智度論中加燒想，而缺死想。

觀他身不淨有五不淨：一種子不淨，是身以過去之結業為種，現以父母之精血為種。二住處不淨，在母胎不淨之處。三自相不淨，是身具有九孔，常流出唾涕大小便等不淨。四自體不淨，由三十六種之不淨物所合成。五終竟不淨，此身死竟，埋則成土，蟲噉成糞，火燒則為灰，究竟推求，無一淨相。出於智度論十九，俱舍論二十二，大乘

義章十二。

1832. 【十善戒經】（科註第七九三頁第二行）

《佛學大辭典》「受十善戒經」條：（經名）一卷，失譯。說十惡業之名，授十善戒之法，及殺生偷盜邪淫之十報十過。

《閱藏知津》「佛說受十善戒經」條：一卷。開元錄拾遺單本。十惡業品第一。佛為舍利弗說十惡業名，并示以授十善戒法，身三、口四、意三、三番歸依而受，次授八戒齋法。十施報品第二。頌歎不殺功德，次說殺生十報，略歎不盜功德，次說偷盜十報，讚歎不姪有五功德，次說姪有十過，頌歎不妄語等功德，次說口四過惡業。

1833. 【五念門】（科註第七九三頁第七行）

《三藏法數》：〔出無量壽經論〕

一、禮拜門：謂修淨土之人，清淨身業，面對阿彌陀如來，一心翹勤恭敬禮拜，願生彼國，是名禮拜門。（梵語阿彌陀，華言無量壽。）

二、讚歎門：謂修淨土之人，清淨口業，稱歎如來名號功德，光明智相，如實修行，求生彼國，是名讚歎門。

三、作願門：謂修淨土之人，清淨意業，發大誓願，如實修行奢摩他，求生彼國，是名作願門。（梵語奢摩他，華言止，謂止息散亂之心也。）

四、觀察門：謂修淨土之人，用觀觀察則有三種：一觀察彼佛國土功德莊嚴，二觀察阿彌陀佛功德莊嚴，三觀察彼諸菩薩功德莊

嚴，如實修行毘婆舍那，求生彼國，是名觀察門。（梵語毘婆舍那，華言觀，謂觀破昏暗之心也。）

五、回向門：謂修淨土之人，觀察一切世間苦惱眾生，願同生彼國土，所有自己功德善根，悉以回向一切眾生，共證無上覺，是名回向門。

《佛學大辭典》：（名數）淨土論所說，念阿彌陀佛五種之門：

一、禮拜門，以身業而向阿彌陀佛之形像禮拜也。

二、讚嘆門，以口業而稱阿彌陀佛之名也。

三、作願門，一心願生於彼國土也。

四、觀察門，以智慧而觀察土之十七功德，佛之八種功德，菩薩之四種功德也。

五、迴向門，願以己之功德迴施於一切眾生，彼此皆成佛也。

門為入出之義，前四門為人於安樂淨土之門，後一門為出於利他教化之門，故通名為門。

淨土論曰：「若善男子善女人，修五念門行成就，畢竟得生安樂國土，見彼阿彌陀佛。何等五念門？一者禮拜門，二者讚嘆門，三者作願門，四者觀察門，五者迴向門。」

1834. 【志心】（科註第七九四頁第三行）

《漢語大詞典》：專心；誠心。

1835. 【歸命】（科註第七九四頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）*Namas Namō*

*Namō*，梵語曰南無。譯曰歸命。有三義：

一，身命歸趣於佛之義。二，歸順佛之教命之義。三，命根還歸於一心本元之義。zǒng 總 惣

（音總，古同「總」）為表信心至極之詞。

起信論淨影疏上曰：「內正報中，命根為要，故舉要命。屬彼三寶，名之為歸。」

起信論義記上曰：「歸者趣向義，命謂己身性命。生靈所重，莫此為先。〔中略〕二歸是敬順義，命謂諸佛教命。」同海東疏上曰：「敬順義是歸義，趣向義是歸義。命謂命根，總御諸根，一身之要，唯命為主。萬生所重，莫是為先。舉此無二之命，以奉無

上之尊，表信心極，故言歸命。又復歸命者還源義，所以者眾生六根，從一心起。而背自源，馳散六塵。今舉命總攝六情，還歸其一心源，故曰歸命。所歸一心即是三寶故也。」

法華嘉祥疏四曰：「歸命者，以命歸投十方諸佛也。」

1836. 【輔行】（科註第七九六頁第六行）

《摩訶止觀輔行傳弘決》之略名。（參見

「《止觀輔行》」1631）

1837. 【貪餽】六十一（科註第七九七頁第二行）

《漢語大詞典》：貪得無厭。

◎ 禮供聽法第二十六

1838. 【通力】（科註第八〇五頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）神通或業通之  
力用也。佛菩薩及外道仙人所得為神通，有  
五通六通之別，鬼神狐狸等所得為業通，以  
彼依業力所得故也。

《三藏法數》「三通力」條：〔出華嚴經  
疏〕

一、報得通力：謂三界諸天，皆有五種神  
通，乃至鬼神亦有小通。雖則勝劣不同，俱  
能變現無礙，此之神通，乃由果報自然感  
得，是名報得通力。（三界者，欲界、色  
界、無色界也。五通者，天眼通、天耳通、

他心通、宿命通、如意通也。）

二、修得通力：謂聲聞、緣覺、菩薩等，  
由修戒定慧，功行成就之時，發得六種神  
通，變現自在，隱顯莫測。此之神通，由修  
而得，是名修得通力。（六通者，於前五通  
加漏盡一通也。）

三、變化通力：謂佛、菩薩以神通力，則  
能種種變現，乃至現諸身相，或勝或劣；現  
諸國土，或淨或穢等，是名變化通力。

1839. 【取著】（科註第八〇五頁第一行）

《佛學大辭典》：（術語）取所對之法貪  
著而不離也。

涅槃經十七曰：「取著名為凡夫，一切凡  
夫取著於色乃至著識。以著色故，則生貪

心。生貪心故，為色繫縛。乃至為識之所繫縛。以繫縛故，則不得免生老病死憂悲大苦一切煩惱。是故取著名為凡夫。」

1840. 【勝義空】（科註第八〇五頁第五行）

《三藏法數》：謂第一義之理，假立名言，悉同真性，本來空寂，故名勝義空。

1841. 【二種供養】（科註第八〇六頁第七行）

《三藏法數》：〔出普賢行願品〕

一、財供養：經云：所有十方一切佛刹，極微塵數中，一一各有一切世界極微塵數佛。一一佛所，各有菩薩海會圍繞。我以普賢行願力故，悉以上妙諸供養具而為供養，所謂華鬘（即以絲綴花，以飾身首。亦為莊嚴佛前之具。鬘，音瞞）、音樂、傘蓋、衣服及燒

種種香，然種種燈，一如須彌山。以如是等諸供養具，常為供養，是名財供養。（梵語須彌，華言妙高。）

二、法供養：經云：諸供養中，法供養最。所謂如說修行供養，利益眾生供養，攝受眾生供養，代眾生苦供養，勤修善根供養，不捨菩薩業供養，不離菩提心供養。以前財供養無量功德，比今供養一念功德，百分不及一，是名法供養。（利益眾生、攝受眾生，名法供養者，必因說法方能利益、攝受，即是以法供養如來也。代眾生苦，名法供養者，因發大悲之心，方能代眾生苦，亦是以法供養如來也。勤修善根，即是勤修善法也。菩薩業者，即菩薩所修之法也。）

1842. 【清辯】（科註第八〇七頁第三行）

《漢語大詞典》：清晰明辯。

1843. 【赤銅】（科註第八〇八頁第八行）

《漢語大詞典》：指純銅。也稱紅銅、紫

銅。

1844. 【望西疏】（科註第八〇九頁第一行）

即《無量壽經鈔》。七卷，（日）望西樓

了慧作。

1845. 【駭動】（科註第八一〇頁第五行）

《漢語大詞典》：驚動。

1846. 【法雷】（科註第八一〇頁第六行）

《佛學大辭典》：（譬喻）佛之說法，能發動無明之識，如震雷之駭動物情也。

又眾生法芽，如春雷一動，草木生芽

也。

又法音之雄猛，如震雷也。

無量壽經上曰：「震法雷，曜法電。」同嘉祥疏曰：「震雷能駭動物情，譬說法皆動無明之識也。」同慧遠疏曰：「法無礙智化眾生也。天雷一動，hui卉「水」（音慧。草之總稱）藝生芽；法音一聞，闡道快成。」

1847. 【法無礙智】（科註第八一〇頁第六行）

《三藏法數》：謂菩薩通達一切諸法名字分別無滯，故名法無礙智。（參見「四無礙智」889）

1848. 【八音】（科註第八一〇頁第八行）

《三藏法數》：「[出法界次第]八音者，謂如來所出音聲言辭清雅，令諸眾生聞即解

悟，而有此八種也。

一、極好音：謂一切諸天、二乘、菩薩，雖各有好音，未足為極；唯佛音聲，聞者無厭，得人妙道，好中之最，故名極好音。

（二乘者，聲聞乘、緣覺乘也。）

二、柔軟音：謂佛以慈善為心，所出音聲巧順物情，能令聞者喜悅，皆捨剛強之心，故名柔軟音。

三、和適音：謂佛常居中道，妙解從容，所出音聲和雅調適，能令聞者心皆融釋，因聲會理，故名和適音。

四、尊慧音：謂佛德位尊高，慧心明徹，所出音聲，能令聞者尊重，慧解開明，故名尊慧音。

五、不女音：謂佛住首楞嚴定，有大雄之德，所出音聲，能令一切聞者敬畏，天魔外道，莫不歸伏，故名不女音。（梵語首楞嚴，華言健相分別，謂能降伏一切魔也。）

六、不誤音：謂佛智圓明，照了無礙，所出音聲，諦審真實，無有差謬，能令聞者各獲正見，故名不誤音。

七、深遠音：謂佛智幽深，行位高極，所出音聲，自近而遠，徹至十方；令近聞非大，遠聞不小，皆悟甚深幽遠之理，故名深遠音。

八、不竭音：謂如來願行無盡，住於無盡法藏，所出音聲，聞者尋其語義，無盡無窮，故名不竭音。

1849. 【《梵摩喻經》】（科註第八一〇頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「梵摩喻經」條：（經名）

一卷，吳支謙譯。中阿含之梵摩經也。梵摩渝為婆羅門名。觀佛之三十二相信心歸依，證那含果。

1850. 【入律】（科註第八一〇頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「八音」條（節錄）：柔

軟音，佛德慈善之故，使之喜悅，皆捨剛強之心而自然人於律行。

1851. 【九十五種外道】（科註第八一〇頁倒數第三行）

《中華佛教百科全書》（節錄）：五大外

道（數論、勝論、離繫、獸出、遍出）各有十八支派，總計九十種，加上根本的五派，則成九十五種。（參見「九十六種外道」610）

1852. 【絕澗】（科註第八一二頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：高山陡壁之下的溪澗。

1853. 【園觀】（科註第八一三頁第七行）

《佛學大辭典》：「生死園」條：（譬喻）生死界為凡夫好遊之所，又為菩薩遊化之所，猶如園觀。故名為園。

往生論註下曰：「示應化身，迴入生死園煩惱林中，遊戲神通。」

法華經譬喻品曰：「常處地獄，如遊園觀。」

1854. 【裴休】（科註第八一四頁第八行）

《佛祖綱目》「裴休」條：字公美。聞喜人。父肅。字中明。任越州觀察使。應三百年讖記。重建龍興寺大佛殿。自撰碑銘。休

遂篤志內典。深入法會。有發願文。傳於世。作相六年。次歷諸鎮節度。既通徹祖意。復博綜教相。著釋氏書數萬言。又親書大藏經五百函號。

《釋氏稽古略》「相國裴休」條：相國裴公（七九七—八七〇）。壽七十四歲。執弟子禮事黃檗運禪師。悟明心要。公諱休。字公美。河東孟州閭喜人。兒時與兄弟偕隱。晝講經夜著書。有饋鹿者。休不食曰。蔬食猶不足。今一旦啗嗔（音但。食也吃也）肉。後何以繼。zhuó擢山文（音濁。舉拔、提升）進士第。累遷職任刺洪州日。入龍興寺觀畫壁曰。容儀可觀。高僧何在。眾無對者。公曰。此間有禪僧否。屬運禪師於嶺南黃檗山捨眾。來

大安精舍混跡灑掃。人莫之識。或曰有一禪者。公延之至。理前語問之。運朗聲曰。裴休。公曰諾。運曰。在甚麼處。公豁然契會。遂迎之入府。朝夕問道。公移鎮宛陵（宣州也）請運與俱。公於宣宗時執政。

1855. 【《法華玄義》】（科註第八一四頁倒數第六行）

《佛學大辭典》「妙法蓮華經玄義」條：（書名）二十卷，隋智者說，灌頂記，釋法華之經題。所謂法華三大部之一。略曰法華玄義。

1856. 【二智】（科註第八一六頁第七行）

《佛學大辭典》（節錄）：一、真智，根本智之異名，照了真諦理性之智也。二、俗智，後得智之異名，照了俗諦事相之智也。

真諦譯攝大乘論下曰：「真俗二智，更互

相違。」

佛性論二曰：「般若有二：一無分別真智，二有分別俗智。」

1857. 【三空】（科註第八一六頁倒數第三行）

《三藏法數》：「〔出金剛經判定記〕

一、我空：謂於五蘊之法，強立主宰，名為我執。若推求色受想行識之五法，皆無自性，不見我體，是名我空。（五蘊者，色蘊、受蘊、想蘊、行蘊、識蘊也。）

二、法空：謂於五蘊之法，計為實有，名為法執。若推求五蘊之法，如幻如化，皆從緣生，無有自性，是名法空。

三、俱空：謂我、法二執既遣，能空之空亦除，空、執兩亡，方契本性，是名俱空。

1858. 【二十九種莊嚴】（科註第八一六頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（名數）天親之淨土論，觀察彌陀之淨土，明二十九種之莊嚴。其中淨土之依報，即器世間清淨，有十七種，淨土之正報，即眾生世間清淨，有十二種。

依報十七種者：

一清淨莊嚴，勝過三界有漏之穢土而無漏清淨也。

二量莊嚴，究竟如虛空無邊際也。

三性莊嚴，依正道之大慈悲無漏之善根，隨順法性而生起之淨土也。

四形相莊嚴，淨土清淨，光明滿足，如明

鏡日月輪也。

五種種事莊嚴，備諸珍寶，具足妙莊嚴也。

六妙色莊嚴，無垢光燄熾盛，明淨曜世間也。

七觸莊嚴，莊嚴淨土之種種珍寶柔軟，觸之者生勝樂也。

八三種莊嚴，水上與地上及虛空之三處莊嚴也。

九雨莊嚴，雨寶衣寶華，無量之妙香普薰也。

十光明莊嚴，佛慧明淨之日，除世之痴冥也。

十一妙聲莊嚴，淨土妙聲深遠，善聞於十

方也。

十二主莊嚴，正覺之阿彌陀，為法王善住持也。

十三眷屬莊嚴，諸菩薩眾由如來正覺之華化生也。

十四受用莊嚴，受用大乘之法味、禪味、三昧味也。

十五無諸難莊嚴，永離身心苦惱，受樂無間斷也。

十六大義門莊嚴，淨土是大乘善根界，一切平等清淨，無譏嫌之名言，又無女人與六根不具者及二乘與一譏嫌實體，眾生普為大乘之薩埵，一味平等也。大義門者謂淨土為通大乘義利之門戶也。

十七一切所求滿足莊嚴。眾生之所願樂一切能滿足也。

正報之十二分為二種，佛有八種，菩薩有四種。

佛之八種者：

一座莊嚴，無量之大寶王，微妙之淨華臺也。

二身業莊嚴，相好之光一尋，超於色像群生也。

三口業莊嚴，如來微妙之梵響聞於十方也。

四心業莊嚴，同地水火風空於無分別也。

五大眾莊嚴，彼土之人天聖眾，皆成就大乘善根，由如來清淨之智海而生也。

六上首莊嚴，阿彌陀佛，於淨土為上首，如須彌山王勝妙，無有超過者也。

七主莊嚴，阿彌陀佛，為彼土之教主，天人丈夫之眾，恭敬瞻仰也。

八不虛作莊嚴，佛之本願力非虛設，遇之無空過者，必能令速滿足功德之大寶海也。

菩薩之四種莊嚴者：

一不動本處徧至十方供養化生莊嚴。

二一念一時徧至佛會利益群生莊嚴。

三一切世界讚嘆諸佛莊嚴。

四無三寶處示法莊嚴也。

此二十九種皆由彌陀之願心而莊嚴者。見淨土論。

1859. 【妙心】（科註第八一七頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）心體不可思議，稱之曰妙。

圓覺經曰：「如來圓覺妙心。」

五燈會元一曰：「世尊曰：吾有正法眼藏涅槃妙心，實相無相，微妙法門，不立文字，教外別傳。」

四教儀曰：「妙心體具，如如意珠。」

依台宗之判，則別教以如來之真心名為妙心。圓教直以凡夫之妄心稱為妙心。

1860. 【顯加】（科註第八一八頁第四行）

《三藏法數》：顯加者，謂佛以平等大慈，常 jian ㄐㄧㄢˋ 鑑 ㄉㄧㄢˋ（音見，照也）眾生，若有宿世善根成熟者，即以神力加被菩薩，為其說法，如身業摩頂，以增其威；口業勸說，以益其

辯。顯然可見，故曰顯加。（身業摩頂者，本以手摩，手屬於身故也。）

1861. 【冥應】（科註第八一八頁第四行）

《佛學大辭典》「感應妙」條：（術語）十妙之一。眾生感佛菩薩靈應之善根發動曰機，應此機而垂佛菩薩之利益曰應。是有四句：

一冥機冥應。於過去善修三業，於現在未運身口，籍於往昔之善根，是為冥機。雖不現見靈應而密為法身所益，不見不聞而覺知，是為冥應。

二冥機顯應。於過去植善，冥機已成，得值佛聞法，於現前得利益者。佛初出世最初得度之人，現在何嘗修行，諸佛照其宿機而

自往度之也。

三顯機顯應。現在之身口意，精勤不惰，能感降臨。如須達長跪，佛往祇洹，月蓋曲躬，聖臨門闥。又如今之行人，禮懺道場，能感靈應者是也。

四顯機冥應。人於一世勤苦，現善濃積，而不顯感，冥有其利，即顯機冥益也。

法華玄義六上曰：「眾生根性百千，諸佛巧應無量。」〔中略〕今略言有四：一者冥機冥應，二者冥機顯應，三者顯機顯應，四者顯機冥應。」

### ◎ 歌嘆佛德第二十七

1862. 【如來三種圓德】（科註第八二四頁倒數第三

行）

《法相辭典》：俱舍論二十七卷五頁云：諸有智者，思惟如來三種圓德，深生愛敬。其三者何？一、因圓德，二、果圓德，三、恩圓德。

初因圓德、復有四種：一、無餘修。福德智慧，二種資糧，修無遺故。二、長時修。經三大劫阿僧企耶，修無倦故。三、無間修。精勤勇猛，剎那剎那。修無廢故。四、尊重修。恭敬所學，無所顧惜，修無慢故。

次果圓德，亦有四種：一、智圓德，二、斷圓德，三、威勢圓德，四、色身圓德。

智圓德有四種：(一)無師智，(二)一切智，(三)一切種智，(四)無功用智（菩薩於八地已上，

不借加用之功，自然契於真性之智也。

斷圓德有四種：(一)一切煩惱斷，(二)一切定障斷，(三)畢竟斷，(四)并習斷。

威勢圓德有四種：(一)於外境化變住持自在威勢，(二)於壽量若促若延自在威勢，(三)於空障極遠速行大小相入自在威勢，(四)令世間種種本性法爾轉勝希奇威勢。

威勢圓德復有四種：(一)難化必能化，(二)答難必決疑，(三)立教必出離，(四)惡黨必能伏。

色身圓德有四種：(一)具眾相，(二)具隨好，(三)具大力，(四)內身骨，堅越金剛，外發神光，踰百千日。

後恩圓德，亦有四種。謂令永解脫三惡趣

生死，或能安置善趣三乘。

總說如來圓德如是。若別分析；則有無邊。唯佛世尊能知能說。要留命行經多大劫阿僧企耶，說乃可盡。如是則顯佛世尊身，具有無邊殊勝奇特因果恩德，如大寶山。有諸愚夫、自乏眾德。雖聞如是佛功德山，及所說法；不能信重。諸有智者，聞說如斯；生信重心；徹於骨髓。彼由一念極信重心，轉滅無邊不定惡業，攝受殊勝人天涅槃。故說如來出現於世，為諸智者無上福田；依之引生不空可愛殊勝速疾究竟果故。如薄伽梵自說頌言：若於佛福田，能植少分善。初獲勝善趣，後必得涅槃。

1863. 【四果】(科註第八二六頁第一行)

《三藏法數》「聲聞四果」條：〔出金剛經疏〕

一、須陀洹果：梵語須陀洹，華言人流，又名預流，即初果也。謂此人斷三界見惑盡，預入聖道法流，故名人流。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

二、斯陀含果：梵語斯陀含，華言一來，即第二果也。謂此人於欲界九品思惑中斷前六品盡，後三品猶在，須更來欲界一番受生，故名一來。（思惑者，謂眼等五根對色等五塵，心起貪愛，迷惑不了也。九品者，於上中下三品中，又各分三品也。）

三、阿那含果：梵語阿那含，華言不來，即第三果也。謂此人斷欲界後三品思惑盡，

更不來欲界受生，故名不來。

四、阿羅漢果：梵語阿羅漢，華言無學，即第四果也。謂此人斷色界、無色界思惑盡，四智已圓，已出三界，已證涅槃，無法可學，故名無學。（四智者，我生已盡，梵行已立，所作已辦，不受後有也。梵語涅槃，華言滅度。）（參見《科註》第六六頁）

1864. 【有餘涅槃】（科註第八二六頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）有餘涅槃者，對無餘涅槃而言。有餘無餘其解有二種：

一、唯就小乘說。斷一切之煩惱而絕未來生死之因者，尚餘今生之果報身體，謂之有餘涅槃，其人今生之果報盡而歸於寂滅，謂之無餘涅槃。即證得阿羅漢其身存生之間，

為有餘涅槃，其身死時，乃無餘涅槃也。故有餘涅槃者無生死之因，唯有生死之果（此生前所招之果報），無餘涅槃者，無生死之因，亦無果也。又云有餘依涅槃 *Sopādhisesanirvāna*，無餘依涅槃 *Nirupādhisesanirvāna*，依者依身，身為人之所依，故名依身。

法華經信解品曰：「我等長夜，修習空法，得脫三界苦惱之患，住最後身有餘涅槃。」

寶窟下本曰：「因亡名有餘，果盡名無餘。」唯識述記十末曰：「其因盡苦依未盡，異熟猶在，名有餘依。依者身也，〔中略〕此中有餘，約二乘說，以言唯有微苦依故，依謂依身。」

二、唯就大乘說。變易生死之因盡，謂之有餘涅槃，變易生死之果盡，而得佛之常身，謂之無餘涅槃（凡夫之生死謂之分段，菩薩之生死謂之變易）。

寶窟下本曰：「金剛心斷變易因盡，而變易果猶存，有餘累故曰有餘。佛果為解脫道起，則無復因累，變易生死果亦亡，則無復果累，故名無餘也。」

三、就大小相對說。小乘之無餘涅槃，尚有惑業苦三道之殘餘，故云有餘，大乘之無餘涅槃，究竟而無殘餘，故云無餘。

勝鬘（音瞞）經曰：「有有為生死，有無為生死。涅槃亦如是，有餘及無餘。」又曰：「以成就有餘解脫有餘清淨有餘功德

故，知有餘苦，斷有餘集，證有餘滅，修有餘道，是名得少分涅槃。」

法華經譬喻品曰：「我本著邪見，為諸梵志師。世尊知我心，拔邪說涅槃。我悉除邪見，於空法得證。爾時心自謂，得至於滅度。而今乃自覺，非是實滅度。若得作佛時，具三十二相。天人夜叉眾，龍神等恭敬。是時乃可謂，永盡滅無餘。」

寶窟下本曰：「小乘中因果盡名有餘，大乘因果盡名無餘。」

佛性論云：二乘有三種餘：一煩惱餘，謂無明住地。二業餘，謂無漏業。三果報餘，謂意生身陰。」

## ◎ 大士神光第二十八

1865. 【簡】（科註第八三〇頁第一行）

《漢語大詞典》：分別；辨別。

1866. 【法藏（二）】（科註第八三二頁第二行）

《佛學大辭典》：（人名）華嚴之祖賢首法藏法師，諱法藏。康居國人，姓康氏。來居長安，往侍智儼（華嚴二祖），盡得其教。以巾幘說法。

武后度之為僧。乙未，詔師開示華嚴宗旨。方序經題，口出白光，須臾成蓋。后大悅，賜號賢首。詔佐實叉難陀譯華嚴經。既畢，詔講新經，大地震動。即日指殿隅金獅子為曉譬之因，其說著金師子章。睿宗受內

禪，請師授菩薩大戒。師講華嚴三十餘遍，楞伽、密嚴、梵網、起信、心經皆有義疏。先天元年，終於大薦福寺，贈鴻臚卿。是為華嚴三祖。

1867. 【如幻聞熏聞修金剛三昧】（科註第八三二頁倒數第六行）

《楞嚴經文句卷第六》：全性起修，修即無修，故云如幻。以本覺聞性，熏於始覺，以聞性中所起始覺，修於本覺，故云聞熏聞修。以其頓破無明結根，頓顯常住藏性，故云金剛三昧也。

《楞嚴經講義第十五卷》：如幻聞熏聞修，金剛三昧者。如幻是喻，聞熏聞修是法，金剛三昧亦然。上聞字，指本覺聞性內

熏，熏起始覺之智。下聞修，即始覺反聞修習，人流照性之功。此種修法，無修而修，修即無修，喻如幻事，從無而有，有即非有。修成而得三昧，名曰金剛三昧。修即人流照性，照破五陰，解除六結（佛陀以一寶花中比喻真性，花中繫六結，而以六結比喻眼、耳、鼻、舌、身、意等六根，表示根本雖一，然由妄相乃分別生起六根），返窮流根（生死欲流之根），至不生滅。澈法底源，無動無壞，究竟堅固，喻如金剛堅固不壞。三昧是梵語，此云正定。即首楞嚴大定。

1868. 【聞思修】（科註第八三二頁倒數第六行）

《楞嚴經正脈疏卷二十五》：此之三慧，惟聞慧，不同常途故，思修亦別。約常途，

聞即多聞，謂聞經解意功夫。其體即耳識，及耳家俱意識所發勝解分別。今此聞字，即指耳根中聞性，體即無分別如如智理而已。

思，即不著空有，一味反聞，外脫聲塵，內冥智理，且約靜習在禪功夫也。

修，謂達於萬行，與此禪觀不相違背，所謂咳唾掉背，無不定時。何況一切善行，此約初心修進便應具足。

《楞嚴經講義第十五卷》：此之三慧，不同常途。常途則以聞經解義為聞慧。其體即耳識，與耳家同時意識所發之勝解。思、修亦即獨頭意識，將所聞之聲教，思惟修習。此皆不離生滅識心，識心為圓通之障礙。本經以捨識、用根為要旨，故三慧不同常途。

今此聞慧，即從耳根聞性妙理，所起始覺妙智。不聞所聞之聲塵，但聞能聞之聞性。智慧，即正智觀察，能聞者是誰？不著空有二邊，一味反聞聞自性。修慧，即如幻聞熏聞修，念念旋元自歸，伏歸元真，發本明耀，解六結，越三空，破五陰，超五濁，全憑無分別智，反聞之功。

1869. 【《法華經普門品》】（科註第八三三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「普門品」條：（經名）觀世音菩薩普門品之略名。法華經二十八品中第二十五品也。為觀音菩薩說普門圓通之德者，故名普門品。示現三十三身普使一切眾生圓通於佛道也。

法華科註八曰：「普門即圓通之門也。」  
嘉祥法華義疏十二曰：「普門者，普以周  
普為義，門是開通無滯之名，能通道令物悟  
人，故稱為門。」

### ◎ 願力宏深第二十九

1870. 【一法】（科註第八三七頁倒數第二行）

《佛光大辭典》：指唯一無二之絕對法。  
即人人本具之真如法性。

六十華嚴卷五（大九—四二九中）：「文

殊法常爾，法王唯一法；一切無礙人，一道  
出生死。」

### ◎ 菩薩修持第三十

1871. 【二教論】（科註第八四二頁第七行）

《中華佛教百科全書》「辨顯密二教論」  
條（節錄）：二卷。日僧空海著。撰述年代  
不詳。略稱《顯密二教論》或《二教論》。  
收在《大正藏》第七十七冊。為真言宗判教  
的根本聖典之一。

1872. 【僧史略】（科註第八四二頁第八行）

《佛教大辭典》「大宋僧史略」條：佛教史書。北宋咸平二年（九九九）贊寧奉敕撰。三卷。書前有法道序及贊寧自序，書末有法道集錄的《紹興朝旨改正僧道班文字一集》。此書記敘并考證了東漢明帝至北宋初年，中國佛教史上的五十九門（項）重要事件和制度的起源及沿革。其中卷上二十三門，始自「佛降生年代」至「傳密藏」（外論附）；卷中十七門，始自「道俗立制」至「僧籍弛張」；卷下十八門，始自「誕辰談論」至「上元放燈」；最後的「總論」門，總述撰作緣起。見載於明《嘉興藏》及日本《大正藏》。另有民國二十二年（一九三三）支那內學院刊本。

1873. 【舍利弗瞋恚餘習】（科註第八四四頁第四行）

《佛學大辭典》「舍利弗瞋恚氣分」條：（雜語）智度論二謂「如舍利弗有瞋恚餘習，佛由禪定起經行，羅睺羅從佛，佛問羅睺羅：何故羸瘦（瘦弱。羸，音雷）？羅睺羅以偈答佛：若人食油則得力，若食蘇者得好色，食麻滓菜無色力，大德世尊當自知。佛問羅睺羅眾中誰為上座？羅睺羅答和上舍利弗。佛言舍利弗食不淨食。爾時舍利弗轉聞是語，即時吐食，自作誓言：從今日不復受人請。」

是時波斯匿王與長者須達多等來詣舍利弗所，告舍利弗，佛不以無事受人請，大德舍利弗復不受請，我等白衣，云何當得大信清

淨？舍利弗言：我大師佛言，舍利弗食不淨食，今不得受人請。於是波斯匿王等至佛所，白佛言：佛不常受人請，舍利弗復不受請，我等云何心得大信，願佛敕舍利弗還受人請。佛言：此人心堅，不可移轉。

佛爾時引本生因緣。昔有一國王，為毒蛇所嚙（音聶，咬也），王時欲死，呼諸良醫令治蛇毒。時諸醫多言還令蛇shǔ嚙（音蜀，吸也），毒氣乃盡。是時諸醫各說咒術。齧王之蛇，即來王所。諸醫積薪燃火，敕蛇還嚙汝毒，若不然，當入此火。毒蛇思惟，我既吐毒，云何還嚙？寧此劇死。思惟定心，即時入火。爾時毒蛇，舍利弗是，世世心堅不可動。」

1874. 【難陀淫欲餘習】（科註第八四四頁第四行）

《雜寶藏經卷八》：佛在迦比羅衛國，入城乞食，到難陀舍。會值難陀與婦作妝香塗眉間，聞佛門中，欲出外看，婦共要言：「出看如來，使我額上妝未乾頃，便還入來。」難陀即出，見佛作禮，取鉢向舍，盛食奉佛。佛不為取，過與阿難，阿難亦不為取。阿難語言：「汝從誰得鉢，還與本處。」於是持鉢，逐佛至尼拘屢精舍。佛即敕剃師，與難陀剃髮（中略），難陀畏故，不敢不剃。雖得剃髮，恒欲還家，佛常將行，不能得去。

後於一日，次守房舍，而自歡喜，今真得便，可還家去。待佛眾僧都去之後，我當還家。佛入城後，作是念言：「當為汲水令滿

澡瓶，然後還歸。」尋時汲水，一瓶適滿，一瓶復翻，如是經時，不能滿瓶。便作是言：「俱不可滿，使諸比丘來還自汲，我今但著瓶屋中，而棄之去。」即閉房門，適閉一扇，一扇復開，適閉一戶，一戶復開。更作是念：「俱不可閉，且置而去，縱使失諸比丘衣物，我饒財寶，足有可償。」即出僧房，而自思惟：佛必從此來，我則從彼異道而去。佛知其意，亦異道來，遙見佛來，大樹後藏，樹神舉樹，在虛空中，露地而立。

佛見難陀，將還精舍，而問之言：「汝念婦耶？」答言：「實念。」即將難陀，向阿那波那山上。又問難陀：「汝婦端政不？」答言：「端政。」山中有一老瞎獼猴，又復

問言：「汝婦孫陀利，面首端政，何如此獼猴也？」難陀懊惱，便作念言：「我婦端政，人中少雙，佛今何故，以我之婦，比此獼猴。」

佛復將至忉利天上，遍諸天宮，而共觀看，見諸天子，與諸天女，共相娛樂。見一宮中，有五百天女，無有天子，來還問佛，佛言：「汝自往問。」難陀往問言：「諸宮殿中，盡有天子，此中何以獨無天子？」天女答言：「閻浮提內，佛弟難陀，佛逼使出家，以出家因緣，命終當生於此天宮，為我天子。」難陀答言：「即我身是。」便欲即住。天女語言：「我等是天，汝今是人，還捨人壽，更生此間，便可得住。」便還佛

所，以如上事具白世尊，佛語難陀：「汝婦端政，何如天女？」難陀答言：「比彼天女，如瞎獼猴比於我婦。」佛將難陀，還閻浮提。難陀為生天故，懃加持戒。（中略）

佛將難陀，復至地獄，見諸鑊湯，悉皆煮人，唯見一鑊，炊沸空停，怪其所以，而來問佛。佛告之言：「汝自往問。」難陀即往，問獄卒言：「諸鑊盡皆煮治罪人，此鑊何故空無所煮？」答言：「閻浮提內，有如來弟，名為難陀，以出家功德，當得生天，以欲罷道因緣之故，天壽命終，墮此地獄，是故我今炊鑊而待。」難陀恐怖，畏獄卒留，即作是言：「南無佛陀，唯願擁護，將我還至閻浮提內。」佛語難陀：「汝懃持

戒，修汝天福。」難陀答言：「不用生天，唯願我不墮此地獄。」佛為說法，一七日中，成阿羅漢。

《佛學大辭典》「難陀」條（節錄）：孫陀羅難陀，略曰難陀。與牧牛難陀有別，是佛之親弟也。身長一丈五尺二寸，具三十相。孫陀羅，譯曰艷。是其妻之號，以彼有艷妻故，稱為孫陀羅難陀，以別於牧牛難陀。彼溺於其妻，不樂出家，佛方便化之，得阿羅漢。

增一阿含經二曰：「大體端正，與世殊異，所謂難陀比丘是。諸根寂靜，心不變易，亦是難陀比丘。」

1875. 【畢陵伽婆蹉慢餘習】（科註第八四四頁第四行）

《大智度論卷二》：復次，長老畢陵伽婆cuō ㄘㄨㄛˊ磋常患眼痛，是人乞食，常渡恆水，到恆水邊彈指言：「小婢住莫流！」水即兩斷，得過乞食。是恆神到佛所白佛：「佛弟子畢陵伽婆磋，常罵我言：『小婢住莫流！』」佛言：「畢陵伽婆磋，懺謝恆神！」畢陵伽婆磋即時合手，語恆神言：「小婢莫瞋，今懺謝汝。」是時，大眾笑之，云何懺謝而復罵耶？佛語恆神：「汝見畢陵伽婆磋合手懺謝不？懺謝無慢而有此言，當知非惡。此人五百世來，常生婆羅門家，常自憍貴，輕賤餘人，本來所習，口言而已，心無憍也。」如是諸阿羅漢雖斷結使，猶如餘氣。

1876. 【七覺分】（科註第八四四頁倒數第四行）

《三藏法數》：「〔出法界次第〕覺，即覺了。謂覺了所修之法是真是偽也。分即支分，謂此七種法，各有支派分齊，不相雜亂，故名七覺分，亦名七覺支。擇、進、喜三覺分，屬慧；除、捨、定三覺分，屬定；念覺分兼屬定、慧。故摩訶止觀云：修此七覺，即得入道。是也。」

一、擇法覺分：擇，即揀擇。謂用智慧觀察諸法之時，善能簡別真偽，而不謬取虛偽之法，故名擇法覺分。

二、精進覺分：不雜名精，無間名進。謂修諸道法之時，善能覺了不行無益苦行，而於真正法中，常能用心專一，無有間歇，故名精進覺分。

三、喜覺分：喜，即歡喜。謂心契悟真法，得歡喜時，善能覺了此喜不從顛倒法生，住真法喜，故名喜覺分。

四、除覺分：除，即斷除。謂斷除諸見煩惱之時，善能覺了，除去虛偽之法，增長真正善根，故名除覺分。

五、捨覺分：捨，即捨離。謂捨離所見念著之境，善能覺了虛偽不實，永不追憶，故名捨覺分。

六、定覺分：定，即禪定。謂發禪定之時，善能覺了諸禪，不生煩惱妄想，是名定覺分。

七、念覺分：念，即思念。謂修諸道法之時，善能覺了，常使定慧均平。若心昏沉之

時，當念用擇法精進喜三覺分，觀察諸法，令不昏沉；若心浮動之時，當念用除覺分除身口之過非，用捨覺分捨於觀智；用定覺分入正禪定，攝其散心，令不浮動，是名念覺分。

1877. 【簡擇】（科註第八四四頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：選擇。

《法相辭典》（節錄）：簡擇者：謂審定解了。

1878. 【粗重】（科註第八四四頁倒數第一行）

《佛教大辭典》：教義名詞。「粗」指不細滑、不光潔，聚集、強直等；「重」指負擔沉重、笨拙等。

一、意謂身心無堪任性，難以接受正法。

《法蘊足論》卷八：「謂身重性、心重性；身無堪任性、心無堪任性；身剛強性、心剛強性；身不調柔性、心不調柔性，總名粗重。」

二、指煩惱障和所知障之阿賴耶識種子。

《成唯識論》卷九：「二障種子，立粗重名；性無堪任，違細輕故。」

又《瑜伽師地論》卷二指所有煩惱品種子：「於諸自體中所有種子，若煩惱品所攝，名為粗重，亦名隨眠。若異熟品所攝及餘無記品所攝，唯名粗重，不名隨眠。若信等善法品所攝種子，不名粗重，亦非隨眠。」

1879. 【法喜】（科註第八四五頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）聞法或味法而生喜，是曰法喜。

法華經寶塔品曰：「聞塔中所出音聲，皆得法喜。」

讚阿彌陀佛偈曰：「光所至處得法喜。」

案維摩詰菩薩，以法喜為妻，慈悲為女。法喜者，亦謂見法生歡喜也。蘇軾詩曰：「雖無孔方兄，幸有法喜妻。」

1880. 【諸見】（科註第八四五頁第六行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）諸邪見也。總有六十二見。

《三藏法數》「六十二見」條：「出大涅槃經」謂外道之人，於色受想行識五陰法中，每一陰起四種見，則成二十見。約過去、現在、未來三世論之，成六十見。此六十見，以斷、常二見，而為根本，則總成六

十二見也。（四種見者，謂於五陰中，如計色大我小，我在色中，為一見。我即神我，謂識神也。又計我大色小，色在我中，為二見。又計離色是我，為三見。又計即色是我，為四見也。色陰既爾，受想行識亦然。）

1881. 【念著】（科註第八四五頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）念妄念之心境而執著也。

占察經下曰：「但以眾生無明痴闇，熏習因緣，現妄境界，令生念著。」

1882. 【兩楹】（音迎）（科註第八四五頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：房屋正廳當中的兩根柱子。

1883. 【八正道】（科註第八四五頁倒數第二行）

《三藏法數》：〔出法界次第〕謂此八法不依偏邪而行，故名為正。復能通至涅槃，故名為道。（梵語涅槃，華言滅度。）

一、正見：謂人修無漏道，見四諦分明，破外道有無等種種邪見，是為正見。（無漏道者即戒定慧。修此道者，能斷三界有漏生死也。四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。）

二、正思惟：謂人見四諦時，正念思惟，觀察籌量，令觀增長，是為正思惟。

三、正語：謂人以無漏智慧，常攝口業，遠離一切虛妄不實之語，是為正語。

四、正業：謂人以無漏智慧，修攝其心，

住於清淨正業，斷除一切邪妄之行，是為正業。（清淨正業者，謂戒定慧等出世之善業也。）

五、正命：謂出家之人，當離五種邪命利養，常以乞食自活其命，是為正命。（五種邪命者，一詐現異相，二自說功能，三占相吉凶，四高聲現威，五說所得利以動人心也。）

六、正精進：不雜名精，無間名進。謂人勤修戒定慧之道，一心專精，無有間歇，是名正精進。

七、正念：謂人思念戒定慧正道及五停心助道之法，堪能進至涅槃，是名正念。（五停心者，多散眾生數息觀、多貪眾生不淨

觀、多瞋眾生慈悲觀、愚癡眾生因緣觀、多障眾生念佛觀也。）

八、正定：謂人攝諸散亂，身心寂靜，正住真空之理，決定不移，是名正定。

1884. 【《雜集》】（科註第八四五頁倒數第一行）

《唯識名詞白話辭典》「大乘阿毘達磨雜集論」條：安慧菩薩雜糅，唐玄奘譯，凡十六卷。又稱雜集論、對法論。乃隨文注釋無著菩薩的《大乘阿毘達磨集論》而成。本書原是無著弟子覺師子所作，安慧加以合糅集論而成，為唯識宗所依的重要論典之一，為瑜伽十支論之一。稱為廣陳體義集。

1885. 【無漏智】（科註第八四六頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）謂三乘之人，

離煩惱無染之清淨智也。斷惑證理，即此智之用。

法華經方便品曰：「度脫諸眾生，入佛無漏智。」

1886. 【五種邪命】（科註第八四六頁第四行）

《三藏法數》：「〔出大智度論〕謂以此五種邪法，用求利養，而自活命。為比丘者，當深戒之。（梵語比丘，華言乞士。）」

一、詐現異相：謂諸比丘違佛正教，於世俗人前，詐現奇特之相，令其心生敬仰，而求利養，是為邪命。

二、自說功能：謂諸比丘，以辯口利詞，抑人揚己，自逞功能，令所見者，心生信敬，而求利養，是為邪命。

三、占相吉凶：謂諸比丘，攻學異術，卜命相形，講談吉凶，而求利養，是為邪命。

四、高聲現威：謂諸比丘，大語高聲，詐現威儀，令人畏敬，而求利養，是為邪命。

五、說所得利，以動人心：謂諸比丘，於彼得利，於此稱說；於此得利，於彼稱說，令人動心，而求利養，是為邪命。

1887. 【不思議解脫門】（科註第八四六頁第八行）

《佛學大辭典》「不可思議解脫法門」條：（術語）解脫者三昧之異名也，三昧之神用，巨細相容，隨變化於法，自在無礙，離一切之繫縛故云解脫，維摩經不思議品所明之一端也。又華嚴一部所明一多無礙之法相總是也。

維摩經不思議品曰：「維摩詰言：唯舍利弗，諸佛菩薩有解脫名不可思議。若菩薩住此解脫者，以須彌之高廣內芥子中，無所增減，須彌山本相如故，而四天王忉利諸天不覺不知己之所入，唯應度者乃見須彌入芥子中，是名不可思議解脫法門。又以四大海水入一毛孔，不ráo擾ráo（音擾。擾亂）魚鱉yuán鼉tuó（音圓。大鱉）tuó鼉（音陀。揚子鱔）水性之屬，而彼大海本性如故。」

註一云：「什曰：解脫亦名三昧，亦名神足。或令修短改度，或巨細相容，變化隨意，於法自在，解脫無礙，故名解脫。能者能然，物不知所以，故曰不思議。」

1888. 【文證】（科註第八四六頁倒數第六行）

《佛學大辭典》：（雜語）經文之證據也。

大乘義章三曰：「先定其名次引文證。」

1889. 【卅七道品】（科註第八四六頁倒數第六行）

《三藏法數》「三十七道品」條：「出法界次第」道即能通之義，品猶類也。合四念處等法門為三十七，皆是入道淺深之氣類，故云道品也。

〔一、四念處〕：念即想念，處即身受心法也。

一、身念處，謂觀此色身，皆是不淨也。

二、受念處，謂觀領受好惡等事，悉皆是苦也。

三、心念處，謂觀此識心生滅無常也。

四、法念處，謂觀諸法從因緣生，皆無有我。

〔二、四正勤〕：正謂不邪，勤謂不怠。

一、已生惡，令永斷。謂一切惡法，若已生者，當精勤一心決剔，令其永斷除也。

二、未生惡，令不生。謂一切惡法，若未生時，當精勤一心遮止，令其不復萌生也。

三、未生善，令生。謂諸善法，若未生時，當精勤一心勇猛，令其發生也。

四、已生善，令增長。謂諸善法，若已生者，當精勤一心修習，令其增長也。

〔三、四如意足〕：謂所修之法，如願滿

足也。

一、欲如意足，謂希慕所修之法，如願滿足也。

二、精進如意足，謂於所修之法，專注一心，無有間雜，如願滿足也。

三、念如意足，謂於所修之法，記憶不忘，如願滿足也。

四、思惟如意足，謂心思所修之法，不令忘失，如願滿足也。

〔四、五根〕：根即能生之義，謂此五根，能生一切善法也。

一、信根，謂信於正道也。

二、精進根，謂修正法無間無雜也。

三、念根，謂於正法記憶不忘也。

四、定根，謂攝心不散也。

五、慧根，謂於諸法觀照明了也。

〔五、五力〕：力即力用，謂能破惡成善也。

一、信力，謂信根增長，能破諸疑惑也。

二、精進力，謂精進根增長，能破身心

懈怠，成辦出世之事也。

三、念力，謂念根增長，能破諸邪念，

成就出世正念功德也。

四、定力，謂定根增長，能破諸亂想，

發諸禪定也。

五、慧力，謂慧根增長，能遮止三界見、思之惑，發真無漏也。（三界者，欲界、色界、無色界也。見、思惑者，分別曰

見惑，貪愛曰思惑也。真無漏者，謂阿羅漢斷見、思惑盡，不漏落三界生死，異於初果等，故名真也。）

〔六、七覺分〕：覺即覺了，分即支分。謂此七法，各有支派分齊也。

一、擇覺分，謂揀擇諸法之真偽也。

二、精進覺分，謂修諸道法，無有間雜

也。

三、喜覺分，謂契悟真法，得歡喜也。

四、除覺分，謂斷除諸見煩惱也。

五、捨覺分，謂捨離所見念著之境也。

六、定覺分，謂覺了所發之禪定也。

七、念覺分，謂思惟所修之道法也。

〔七、八正道〕：不邪曰正，能通曰道。

一、正見，謂能見真理也。

二、正思惟，謂心無邪念也。

三、正語，謂言無虛妄也。

四、正業，謂白淨善業也。

五、正命，謂依法乞食活命也。

六、正精進，謂修諸道行無間雜也。

七、正念，謂專心憶念善法也。

八、正定，謂一心住於真空之理也。

1890. 【《淨名》】（科註第八四六頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「淨名經」條：（經名）

維摩詰經之異名。（參見「維摩經」764）

1891. 【觀智】（科註第八四六頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）觀見法之正智

也。

遊心法界記曰：「觀者觀智。」

1892. 【真空】（科註第八四七頁第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：對於非有之有為

妙有，謂非空之空曰真空。是大乘至極之真

空也。

1893. 【天住】（科註第八四七頁倒數第一行）

《法相辭典》（節錄）：集異門論六卷一

頁云：是世間四靜慮中，隨於一靜慮，親近

數習，殷重無間，勤修不捨；是名天住。

1894. 【欲性】（科註第八四八頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）眾生種種之欲

望為其本性。佛說法必隨此欲性也。

法華經方便品曰：「種種所行道，若干諸

欲性。」

1895. 【一異】（科註第八四九頁第四行）

《佛學常見辭彙》：一與異。彼此相同叫做「一」，彼此各異叫做「異」。一與異，都是偏於一邊的思想。

中論說：「不生亦不滅，不常亦不斷，不一亦不異，不來亦不去。」

1896. 【了了見】（科註第八四九頁第八行）

《三藏法數》：謂人眼根清淨不壞，自觀掌中阿摩勒果，了了分明。菩薩見於菩提涅槃之果，亦復如是，是名了了見。（梵語阿摩勒，翻譯名義不翻，言其樹葉似棗，花白而小，果如胡桃，味酸甜，可入藥。梵語菩提，華言道。梵語涅槃，華言滅度。）

1897. 【了因佛性】（科註第八四九頁倒數第六行）

《三藏法數》「三因佛性」條：〔出金光明經玄義〕梵語佛陀，華言覺。覺即三智圓明，徧一切處，無不照了，名大圓覺；性，即不改之義。以大覺性不增不減，非變非遷，一切眾生，無不具此三因佛性，此因若顯，即成三德妙果也。（三智者，一切智、道種智、一切種智也。三德者，法身德、般若德、解脫德也。）

一、正因佛性：正謂中正，謂中必雙照三諦具足，名正因佛性。（中正者，離於邊邪也。雙照者，照空照假也。空謂蕩一切相，即是真諦；假謂立一切法，即是俗諦。非空非假，即是中諦。故云三諦具足。）

二、了因佛性：了謂照了。謂由前正因發

此照了之智，智與理相應，故名了因佛性。

三、緣因佛性：緣即緣助，謂一切功德善根資助了因，開發正因之性，故名緣因佛性。

《佛學大辭典》「三因佛性」條：（名數）涅槃經所說：

一、正因佛性，離一切邪非之中正真如也。依之成就法身之果德，故名正因佛性。

二、了因佛性，照了真如之理之智慧也，依之成就般若之果德，故名了因佛性。

三、緣因佛性，緣助了因，開發正因之一切善根功德也。依之成就解脫之德，故名緣因佛性。

金光明玄義曰：「云何三佛性？佛名為

覺，性名不改，不改即是非常非無常，如土內金藏，天魔外道不能壞，名正因佛性。了因佛性者，覺智非常非無常，智與理相應，如人能知金藏，此智不可破壞，名了因佛性。緣因佛性者，一切非常非無常功德善根資助覺智開顯正性，如耘除草穢掘出金藏，名緣因佛性。」同記上曰：「正謂中正，了謂照了，緣謂助緣。緣資了，了顯正，正起勝緣。亦是正發於了，了導於緣，緣嚴於正。正起勝緣，相由既然非橫義也，一心頓具非縱義也，此妙因能剋妙果，俱名因者其義在茲。」

此三佛性，又為空假中之三諦。（了）因為空諦，緣因為假諦，正因為中諦也。

輔行二曰：「三千即空性了因也，三千即假性緣因也，三千即中性正因也。」

1898. 【導源】（科註第八五一頁第七行）

《漢語大詞典》：發源。引申為物的起源。

1899. 【《金剛三昧經》】（科註第八五五頁第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（經名）二卷，失譯人名。佛於靈山人金剛三昧說一乘真實之法。攝法華部中。註述有二種，金剛三昧經解四卷，明圓澄註。金剛三昧經通宗記十卷，誅震述。

1900. 【理入、行入】（科註第八五五頁第三行）

《三藏法數》「二種入」條：〔出金剛三昧經〕

一、理入：謂眾生深信本有真性，不一不異，不有不無，無己無他，凡聖不二，寂靜無為，無有分別，因此深信能入於理，是名理入。

二、行入：行即依理起修之行，謂行此行時，心不傾倚，無念無求，安住不動，猶如大地；因行人理，是名行人。

1901. 【行入則有四者】（科註第八五五頁第三行）

《三藏法數》「入道四行」條：〔出正宗記并稽古略〕達磨大師謂二祖可大師曰：夫入道多途，要而言之，不出理、行而已。謂理入者，則藉教悟宗，深信含生同一真性，但為客塵妄想所覆，不能顯了，若捨妄歸真，則聖凡一等，無有分別。若以行人者，

乃有四焉。

一、報冤行：凡修道之人，若受苦時，當念我從往昔劫中，棄本逐末，流浪諸有，多起冤憎，違害無限；今雖無犯，是我宿殃惡業果熟，所以甘心忍受，都無怨恨。作是觀時，與理相應，體冤進道，故名報冤行。

（劫，梵語具云劫波，華言分別時節。）

二、隨緣行：謂眾生無我，皆由業轉；苦樂齊受，皆從緣生。若得勝報榮譽等事，皆是過去宿因所感，緣盡還無，何喜之有。得失從緣，心無增減，喜風不動，冥順於道，故名隨緣行。

三、無所求行：謂愚人長迷，處處貪著；智者悟真，安心無為。萬有皆空，無所希

冀。三界久居，猶如火宅，有身皆苦，誰得所安。若了達者，息念無求。經云：有求皆苦，無求乃樂。是則無求，真為道行，故名無所求行。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

四、稱法行：謂性淨之理，因之為法。此理眾相皆空，無染無著，無此無彼。故經云：法無有我，離我垢故。智者信解此理，應當稱法而行。法體無慳，於身命財，行檀捨施，心無慳惜，達解三空，自利利他，莊嚴菩提之道，為除妄想，修行六度而無所行，故名稱法行。（三空者，施者、受者及所施之物，三相皆空也。六度者，一布施、二持戒、三忍辱、四精進、五禪定、六智慧

也。)

1902. 【無所求行】(科註第八五五頁第四行)

見上條。

1903. 【違怨】(科註第八五五頁倒數第三行)

《漢語大詞典》：怨恨。

1904. 【無礙智】(科註第八五七頁第一行)

《佛學大辭典》：(術語) 謂佛智之通達

自在也。

法華經化城喻品曰：「如來無礙智。知彼佛滅度。及聲聞菩薩。如見今滅度。」

涅槃經八曰：「如來不爾。悉知自地及以他地。是故如來名無礙智。」

大集經一曰：「無礙智慧無有邊，善解眾生三世事。」

無量壽經下曰：「佛眼具足，覺了法性，以無礙智為人演說。」

勝鬘寶窟上末曰：「無礙智者，於世諦法知之自在也。」

1905. 【《維摩經弟子品》】(科註第八五八頁倒數第一行)

《佛學大辭典》「弟子品」條：(經名) 維摩經之品名，第三品也。如來聞維摩居士病於毘耶離城，遣五百弟子順次問疾，諸人各陳昔日為居士受屈，不堪問疾而辭，因此名為弟子品。

1906. 【正使】(科註第八五九頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(術語) 對於習氣之稱。正現起之煩惱正體曰正使。其煩惱之餘

習曰習氣。阿羅漢雖斷正使，而習氣不能亡也。

觀經玄義分偈曰：「正使盡未盡，習氣亡未亡。」

四教儀曰：「但斷正使不能侵習。」

1907. 【果縛】（科註第八五九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）生死之苦果，縛我而不使解脫，曰果縛。招此苦果之業因縛我，曰子縛。即因果之二縛也。

觀音義疏上曰：「惡業即招果縛。」

法華玄論二曰：「三界內外一切果縛。」

四教儀曰：「子縛已斷，果縛猶在，名有餘涅槃。」

1908. 【生死輪】（科註第八六一頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（譬喻）三界六道之生死，為載人運轉之車輪，故曰生死輪。

智度論五曰：「生死輪載人，諸煩惱浩業。大力自在轉，無人能禁止。」

止觀輔行曰：「業相是能運，生死是所運，載生死之輪名生死輪。」

毘奈耶雜事三十四曰：「於寺門屋下畫生死輪。」

1909. 【仁王良賁疏】（科註第八六二頁第二行）

見「《良賁疏》」1232。

1910. 【維摩慧遠疏】（科註第八六二頁第三行）

《佛光大辭典》「維摩經義記」條：凡四卷或八卷。隋代慧遠（五二三—五九二）撰。又稱維摩義記、維摩詰所說經注、維摩

義疏。收於大正藏第三十八冊。本書係對於維摩經之文義作解釋。初闡明聲聞、菩薩二藏，並舉出漸、頓二教之別，而判維摩經為菩薩藏頓教之法輪；次釋維摩經之經題，以下次第闡釋文義。

本書字句精練，而釋義高妙，頗能發揮維摩經之奧旨。因著者屬地論宗，故書中處處顯現該宗「阿賴耶真識說」之特色。又書中遇有須詳釋之處，屢出現「義如別章」之詞；「別章」乃指大乘義章，故知此書撰於大乘義章之後。「續高僧傳卷八、新編諸宗教藏總錄卷一」

1911. 【方便智】（科註第八六二頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）又云權智，對

實智之稱，達於方便法之智也。又行方便之智也。

大乘義章十九曰：「知一乘真實之法，名為實智。了知三乘權化之法，名方便智。」

1912. 【權化】（科註第八六二頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）佛菩薩以通力權現種種之身，種種之物也。

法華經化城喻品曰：「權化作此城。」

義林章七末曰：「權示化形。」

教行信證文類序曰：「權化仁齊救濟苦惱群萌。」

1913. 【胎藏鬘茶羅】（科註第八六二頁倒數第五行）

《佛光大辭典》「胎藏界曼荼羅」條：全稱大悲胎藏生曼荼羅。密教兩界曼荼羅之

一。略稱胎藏曼荼羅、大悲曼荼羅。對金剛界曼荼羅而言，又稱因曼荼羅、東曼荼羅、理曼荼羅。胎藏，梵語 *garbha*，大悲之意。曼荼羅，梵語 *maṇḍala*，含有發生諸佛、極無比味、輪圓具足等義。胎藏界曼荼羅即是自毘盧遮那如來之大悲胎藏平等心地上所生出之大曼荼羅。蓋胎藏界曼荼羅原係根據大日經具緣品之說所建立，大日經疏復更加以補充，故古來即稱此為經疏曼荼羅。以圖之上端為東方而分：

一、中臺八葉院，大日如來住中臺。無量壽、寶幢、開敷華、天鼓等四佛，及文殊、觀音、彌勒、普賢等四菩薩，住八葉。合有九尊。八葉蓮華，表眾生八瓣肉團心，示阿

字本不生，顯一切眾生悉有佛性之理趣。此院為胎藏曼荼羅之總體，其他院為其別德。

二、遍知院，又稱佛母院。位於中臺八葉院之上方，有佛眼佛母等七尊。此院表諸佛遍知之德與諸佛能生之德。

三、觀音院，位於中臺八葉院之北方，有大勢至等三十七尊。此院表如來大悲下化之德。

四、金剛手院，又稱薩埵院。位於中臺八葉院之南方，有虛空無垢輪持金剛等三十三尊。此院表大智上求之德。

五、持明院，又稱五大院、忿怒院。位於中臺八葉院之下方，有般若菩薩等五尊。此院表折伏攝受二德。

六、釋迦院，位於遍知院之上方，有釋迦牟尼佛等三十九尊。此院表方便攝化之德。以智悲二德，變現為釋迦如來，濟度眾生。

七、除蓋障院，位於金剛手院之南方，有悲愍菩薩等九尊。此院表由金剛之智門除眾神之蓋障。

八、地藏院，位於觀音院之北方，有地藏等九尊。此院表由觀音之悲門救九界之迷情。

九、虛空藏院，位於持明院之下方，有虛空藏等二十八尊。此院表悲智合一，包藏萬德，能從眾生願授一切寶，兼具智德，而以福德為本。

十、文殊院，位於釋迦院上方，有文殊菩

薩等二十五尊。此院表大日之智慧能斷一切戲論，兼福德而以智德為本。

十一、蘇悉地院，位於虛空藏院之下方。蘇悉地，意譯妙成就。有十一面觀音等八尊。此院表自他二利成就之德。

十二、外金剛部院，圍繞於胎藏界曼荼羅東西南北四方外層，合四方共有二〇五尊。此院表隨類應化之德與聖凡不二之理。

十三、四大護院。現圖略第十三院，而於十二院中，中臺為佛部，觀音院為蓮華部，金剛手院為金剛部，遍、釋、文、持、虛、蘇等六院屬佛部，地藏院屬蓮華部，除蓋障院屬金剛部，外金剛屬三部。（圖略）〔大日經卷一、卷二、卷四、卷五、尊勝佛頂修

瑜伽法軌儀卷下、大日經疏卷一、卷三、卷四、卷五、卷六、胎藏圖像、現圖曼荼羅、陀羅尼門諸部要目」

1914. 【八葉】（科註第八六二頁倒數第五行）

《佛學大辭典》「八葉蓮華」條（節錄）：

（術語）胎藏界曼陀羅之第一院中臺也。中央為大日，四方之八葉，為寶生，開敷華王，無量壽，天鼓雷音之四佛，普賢，文殊，觀音，彌勒之四菩薩，合為九尊，是三密相應之時，吾人肉團心（心臟）開敷之相也。

（參見上條「胎藏曼荼羅」1913之「一、中臺八葉院」）

1915. 【開<sub>反</sub>敷<sub>反</sub>（音夫）】（科註第八六二頁倒數第五行）

《漢語大詞典》：（花朵）開放。

1916. 【心蓮】（科註第八六二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）顯教譬自性心之清淨，曰心蓮。密教謂肉團心之實形為心蓮。

大日經疏四曰：「凡人汗栗馱心（肉團心）狀，猶如蓮華合而未敷之像，有筋脈約之，以成八分。」

1917. 【從門入者，不是家珍】（科註第八六四頁第二行）

《佛光大辭典》：禪林用語。原指真正之珍寶即在自家之中；禪林中，轉指開悟之大事最重要關鍵乃在於本具之佛性，若不明此理，反而向外尋求，終必無所獲得。

碧巖錄第五則（大四八·一四五上）：

「崑(同「岩」)頭喝云：『爾不見道，從門入者，不是家珍，須是自己胸中流出，蓋天蓋地，方有多少分相應。』」

### ◎ 真實功德第三十一

1918. 【《罪福報應經》】(科註第八六八頁第四行)

具名《佛說輪轉五道罪福報應經》。一卷，

劉宋三藏法師求那跋陀羅譯。攝於《乾隆大藏經》之「小乘單譯經」。

1919. 【《阿惟越致遮經》】(科註第八六八頁第五行)

《佛學大辭典》：(經名)四卷，西晉竺法護譯，與不退轉法輪經同本異譯，攝於法華部。

1920. 【《諸部要目》】(科註第八六八頁倒數第六行)

《佛學大辭典》「陀羅尼門諸部要目」條：(書名)一卷，唐不空譯。略名諸部要目。就真言諸部而列其要義。

1921. 【斷常】(科註第八六八頁倒數第五行)

《佛學大辭典》「斷常二見」條：(術語)五惡見中第二謂之邊見，邊見有二：一為斷見，二為常見也。

《佛學次第統編》「斷常二見」條：斷常二見者：

一、斷見，執身心斷滅之見，屬於無見。  
二、常見，執身心常住之見，屬於有見。  
智度論曰：「見有二種：一者常，二者斷。常見者，見五眾(五蘊也)常心忍樂，

斷見者見五眾滅心忍樂。一切眾生，多墮此二見中。」

1922. 【十六菩薩】（科註第八六八頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「密教十六菩薩」條：（名數）有二種：一者金剛界四方四佛各各之四親近也。一者表賢劫千佛因位千菩薩之十六菩薩也。金剛界九會曼荼羅中，第一成身會舉果上之千佛，第二三昧（疑作「昧」）耶會以下，舉因位之千佛也。

今選取千菩薩中主要之菩薩十六尊，代表千菩薩耳。但千菩薩中前四菩薩已成道。其餘者第五彌勒以下九百九十六尊也（第四即釋迦也），故自今以後以第五彌勒為首，故此十六菩薩亦以彌勒為第一也（實際賢劫之

菩薩為九百九十六人，千菩薩云者從大數也）。

諸部要目曰：「又有四方賢劫中十六大菩薩，表賢劫中一千菩薩。」其十六菩薩之名字，出於六卷之略出經第四，四卷之略出經第三，教王經第一，賢劫十六尊軌。今依賢劫十六尊軌示之如圖。

自東北角右邊

	一 彌勒 —— 軍 持		一 無量光 —— 蓮 華
東	二 不空 —— 蓮華眼	西	二 賢 護 —— 寶 瓶
方	三 除憂 —— 梵 夾	方	三 網 明 —— 網傘蓋
	四 除惡 —— 三股杵		四 月 光 —— 半月幢
	一 香 象 —— 蓮華		一 無量意 (文殊) —— 梵夾
南	二 大精進 —— 鏘戟	北	二 辨 積 —— 華雲
方	三 虛空藏 —— 寶珠	方	三 金剛藏 —— 獨股
	四 智 幢 —— 寶幢		四 普 賢 —— 五智印

1923. 【十六空】 (科註第八六八頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(名數) 一、內空；

二、外空；三、內外空；四、空空；五、大空；六、勝義空；七、有為空；八、無為空；九、畢竟空；十、無際空；十一、散空；十二、本性空；十三、自性空；十四、一切法空；十五、無性空；十六、無性自性空。見般若經四百八十三。

《三藏法數》「二十空」條：〔出般若經〕

一、內空：謂內之眼耳鼻舌身意六根，皆無自性，故名內空。

二、外空：謂外之色聲香味觸法六塵，皆無自相，故名外空。

三、內外空：謂六根、六塵、六識，都無

自性，故名內外空。（六識者，眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識也。）

四、空空：謂一切法皆空，此空亦空，故名空空。

五、大空：謂小乘四諦十二因緣諸法，皆空無有，故名大空。（四諦者，苦諦、集諦、滅諦、道諦也。十二因緣者，一無明、二行、三識、四名色、五六入、六觸、七受、八愛、九取、十有、十一生、十二老死也。）

六、小空（亦名無性自性空）：謂須陀洹、斯陀含、阿那含、阿羅漢四果之相，皆空無有，故名小空。（梵語須陀洹，華言人流。梵語斯陀含，華言一來。梵語阿那含，

華言不來。梵語阿羅漢，華言無學。）

七、勝義空：謂第一義之理，假立名言，悉同真性，本來空寂，故名勝義空。

八、有為空：謂欲界、色界、無色界、煩惱惑業，本無有為之相，故名有為空。

九、無為空：謂生、住、滅三相皆空，無為寂靜，不墮諸數，故名無為空。（生、住、滅者，謂一切萬物皆有生長、住於世間、終歸壞滅也。）

十、畢竟空：謂有為、無為諸法，一切之相，悉皆空寂，而不可得，故名畢竟空。

十一、無際空：謂一切諸法，滅無有終，起無有始，起滅之際，無從可得，故名無際空。

十二、散空：謂一切諸法，因緣假合而成，皆無和合之相，故名散空。

十三、無變異空：謂一切法，非常非滅，不變不異，法性如如，了不可得，故名無變異空。

十四、本性空：謂一切諸法，非常非滅，本性清淨，離性離相，故名本性空。

十五、自相空：謂五蘊之法，虛幻不實，了無自相，故名自相空。（五蘊者，色蘊、受蘊、想蘊、行蘊、識蘊也。）

十六、共相空：謂一切諸法，彼此之相，非常非滅，本來空寂，故名共相空。

十七、一切法空：謂一切諸法，本性皆空，非常非滅，了不可得，故名一切法空。

十八、不可得空：謂過去、現在、未來三世一切諸法，皆無所有，了無可求之相，故名不可得空。

十九、無性空：謂一切諸法，悉皆虛假，皆無實性，故名無性空。

二十、自性空：謂一切諸法，非常非滅，性本自空，故名自性空。

1924. 【五佛】（科註第八六八頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「五智如來」條：（名數）金剛界五智所成之五如來也。

一、大日如來，法界體性智所成。

二、阿<sub>多</sub>闍<sub>闍</sub>（音觸）如來，大圓鏡智所成。

三、寶生如來，平等性智所成。

四、無量壽如來，妙觀察智所成。

五、不空成就如來，成所作智所成。

菩提心論曰：「東方阿閼佛因成大圓鏡智，亦名金剛智也。南方寶生佛由成平等性智，亦名灌頂智也。西方阿彌陀佛由成妙觀察智，亦名蓮華智，亦名轉法輪智也。北方不空成就佛，由成所作智，亦名羯磨智也。中方毗盧遮那佛，由成法界智。」（參見「五智（一）」1502）

1925. 【十波羅蜜】（科註第八六八頁倒數第四行）

《三藏法數》：「〔出華嚴經〕梵語波羅蜜，華言到彼岸。謂菩薩修此十法，化度眾生，超生死海，到涅槃岸也。（菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。梵語涅槃，華

言滅度（滅煩惱，度生死）。）

一、檀那波羅蜜：梵語檀那，華言布施。運心普周曰布，輟己惠人名施。經云：菩薩為令眾生心滿足故，內外悉捨，而無所著，是名檀那波羅蜜。（內即內身，謂頭目身命等；外即外財，謂金銀財物等也。）

二、尸羅波羅蜜：梵語尸羅，華言清涼。謂離熱惱，得清涼故。亦云防止，謂調練三業，止過防非，好行善道，不自放逸也。又戒經云：菩薩具持眾戒，而無所著，是名尸羅波羅蜜。（三業者，身業、口業、意業也。）

三、羼提波羅蜜：梵語羼提chàn tí（音讖）提，華言忍辱。他人加惱為辱，於辱安受曰忍。謂

內心能安忍外所辱也。經云：菩薩悉能忍受一切諸惡，於諸眾生其心平等，無有搖動，是名麁提波羅蜜。

四、毘梨耶波羅蜜：梵語毘梨耶，華言精進。練心於法曰精，精心務達名進。謂勤修善法，心無懈怠也。經云：菩薩普發眾業，常修靡懈，諸有所作，恒不退轉，是名毘梨耶波羅蜜。

五、禪那波羅蜜：梵語禪那，華言靜慮。謂念慮皆忘，安心理境。又名智生，謂依定生智也。經云：菩薩於五欲境，無所貪著，諸次第定，悉能成就，是名禪那波羅蜜。

（五欲者，色欲、聲欲、香欲、味欲、觸欲也。諸次第定者，謂於初禪定、二禪定、三

禪定、四禪定等次第而入也。）

六、般若波羅蜜：梵語般若，華言智慧。決定審理名智，造心分別名慧。謂照了一切諸法，皆不可得，故能通達無礙也。經云：菩薩於諸佛所，善觀諸法，得實相印，普入一切智門，是名般若波羅蜜。（實相，即一實相也，無相之相名為實相。印即印定一切法皆無相故。）

七、方便波羅蜜：方即方法，便即便宜。謂善巧方便，隨機利物，稱適緣宜也。經云：菩薩教化眾生而不厭倦，隨其心樂，而為現身說法，是名方便波羅蜜。

八、願波羅蜜：願即誓願，志求滿足也。謂上求佛道，下化眾生，盡未來際，成就行

願也。經云：菩薩成就一切眾生，供養一切諸佛，盡未來劫，證得如來智慧，是名願波羅蜜。（劫，梵語具云劫波，華言分別時節。）

九、力波羅蜜：力即力用，謂行滿功成，萬境無動，能善辦眾事也。經云：菩薩具深心力，無有雜染，乃至具加持力，令信解領受，是名力波羅蜜。

十、智波羅蜜：智即智慧，謂決斷無惑，證法怡神，善入佛慧，明了無礙也。經云：菩薩知一切法真實，知一切如來力，普覺悟法界門，是名智波羅蜜。

《三藏法數》「十度各三行」條：〔出成唯識論〕度者，超度也。謂此十度各有三種

殊勝行門，菩薩修行此法，則能自利利他，度諸眾生；離生死此岸，越煩惱中流，到涅槃彼岸，同證無上菩提。（梵語涅槃，華言滅度〔滅煩惱，度生死〕。梵語菩提，華言道。）

一、施度三行：此施度有三種：

一、財施，謂以己所有財物，施與他人，令其安樂；

二、法施，謂以佛法，為諸眾生演說，令其開悟；

三、無畏施，謂於諸眾生，無殺害心，令其無所怖懼，是為施度三行。

二、尸度三行：尸，梵語具云尸羅，華言清涼，又翻為戒。此戒度有三種：

一、攝律儀戒，謂持佛戒律，具眾威

儀；

二、攝善法戒，謂身口意所作善法，皆悉攝持；

三、饒益有情戒，謂以慈悲喜捨之心，與眾生樂，拔眾生苦，平等利益，是為尸度三行。

三、忍度三行：此忍度有三種：

一、耐怨害忍，謂若遇怨憎毒害，安然忍耐，無返報心；

二、安受苦忍，謂若遇水火刀杖眾苦所逼，恬然忍受；

三、諦察法忍，謂諦審諸法，體性虛幻，而本無生滅，安然忍可，是為忍度三行。

四、進度三行：此進度有三種：

一、被甲精進，謂起大誓願心，修諸勝行；

二、攝善精進，謂修方便行，進趣無上菩提；

三、利樂精進，謂勤化眾生，咸修於道，是為進度三行。

五、禪度三行：禪，梵語具云禪那，華言靜慮。此禪度有三種：

一、安住靜慮，謂亂想不起，深入禪定；

二、引發靜慮，謂智慧現前，生諸功德；

三、辦事靜慮，謂功行圓成，利益眾

生，是為禪度三行。

六、慧度三行：此慧度有三種：

一、生空無分別慧，謂平等照了俗諦之法，無生滅相；

二、法空無分別慧，謂平等照了真諦之法，悟性本空；

三、俱空無分別慧，謂全照中道，超前二空，悉皆平等，是為慧度三行。（俗諦者，謂建立一切法也；真諦者，謂泯絕一切法也。）

七、方便度三行：此方便度有三種：

一、進趣果向方便，謂修諸功德，迴向佛果；

二、巧會有無方便，謂能善巧融會真俗

二諦之理；

三、不捨不受方便，謂拔濟眾生，了達能所皆空，而不捨離，是為方便度三行。

八、願度三行：此願度有三種：

一、求菩提願，謂自求佛果；

二、利樂他願，謂救度一切眾生；

三、外化願，謂外化有情，亦起自利利他之願，是為願度三行。

九、力度三行：力即力用。謂此力度有三種：

一、思擇力，謂思惟揀擇一切善法，而得其力；

二、修習力，謂修行數習殊勝妙行，證得其力；

三、變化力，謂神通力用，化度眾生，是為力度三行。

十、智度三行：此智度有三種：

一、無相智，謂觀達一切諸法性本自空；

二、受用法樂智，謂修行證得一切種智，恒自受用，得大自在；

三、成熟有情智，謂教化饒益一切眾生，成就道果，是為智度三行。（一切種智，謂知一切道，知一切種，即佛智也。）

1926. 【十種煩惱】（科註第八六八頁倒數第三行）

見「十煩惱」783。

1927. 【十種真如】（科註第八六八頁倒數第三行）

《佛學次第統編》：圓成實性，即諸法勝

義。所謂一真法界，亦即名為真如。言真如者，真實而不虛妄，如常而無變易也。十真如者，雖真如性實無差別，而隨勝德假立十種：

一、遍行真如：謂此真如二空所顯，無有一法而不在故。

二、最勝真如：謂此真如具無邊德，於一切法最為勝故。

三、勝流真如：謂此真如所流教法，於餘教法極為勝故。

四、無攝受真如：謂此真如，無所繫屬，非我執等所依取故。

五、類無別真如：謂此真如，類無差別，非如眼等類有異故。

六、無染淨真如：謂此真如，本性無染，亦不可說後方淨故。

七、法無別真如：謂此真如，雖多教法，種種安立，而無異故。

八、不增減真如：謂此真如，離增減執，不隨淨染有增減故，即此亦名相土自在所依真如，謂若證得此真如已，現相現土俱自在故。

九、智自在所依真如：謂若得此真如已，於無礙解得自在故。

十、業自在等所依真如：謂若證得此真如已，普於一切神通作業總持定門皆自在故。

1928. 【十地】（科註第八六八頁倒數第三行）

《三藏法數》：〔出楞嚴經〕十地者，謂

菩薩所證之地位，一切佛法依此發生也。然地位有淺深，故始自歡喜，終於法雲，分為十也。

一、歡喜地：謂菩薩智同佛智，理齊佛理，徹見大道，盡佛境界，而得法喜，登於初地。經云：於大菩提，善得通達，覺通如來，盡佛境界，名歡喜地。（得法喜者，謂於證得之法而生喜樂也。梵語菩提，華言道。）

二、離垢地：謂由盡佛境界，明了諸法異性而入於同，若見有同，即非離垢；同性亦滅，斯為離垢。經云：異性入同，同性亦滅，名離垢地。

三、發光地：謂同異情見之垢既淨，則本

覺之慧光明開發。經云：淨極明生，名發光地。（情見者，謂依情分別之見也。）

四、焰慧地：謂慧明既極，則佛覺圓滿；覺滿則慧光發焰，如大火聚（大火聚於一處者），shuò 燄（照也）破一切情見。經云：明極覺滿，名焰慧地。

五、難勝地：謂由前焰慧燄破一切情見，其同異之相，皆不可得，即是諸佛境界，無有能勝。經云：一切同異所不能至，名難勝地。

六、現前地：謂由前同異之相既不可得，則真如淨性明顯現前。經云：無為真如，性淨明露，名現前地。

七、遠行地：謂真如之境，廣無邊際。雖

真如現前，分證則局，若盡其際，方為極到。經云：盡真如際，名遠行地。（分證者，謂菩薩於真如之理，分次第而證也。）

八、不動地：謂真如之理既盡其際，全得其體，則真常凝靜，無能動搖。經云：一真如心，名不動地。

九、善慧地：謂既得真如之體，即發妙用，凡所照了，悉是真如。經云：發真如用，名善慧地。

十、法雲地：謂菩薩至此第十地，修行功滿，唯務化利眾生，大慈如雲，普能陰覆，雖施作利潤，而本寂不動。經云：慈陰妙雲，覆涅槃海，名法雲地。（梵語涅槃，華言滅度；謂之海者，以其深廣，無法而不容

也。」

1929. 【金剛般若】（科註第八六八頁倒數第二行）

《三藏法數》：金剛，喻也。般若，法也。以金剛之貞，至堅至利、能斷難斷，能碎萬物。譬喻般若空慧，能斷諸眾生難斷之惑，是名金剛般若。

1930. 【《天臺淨名疏》】（科註第八六九頁第四行）

《天台教學辭典》「維摩經疏」條：二十八卷。智者大師撰。又稱「淨名廣疏」、「維摩經大疏」、「維摩經文疏」、「維摩經廣疏」、「維摩羅詰經文疏」。編于卍續藏第十八冊。（本經玄疏六卷，編于大正三十八卷）

本書係鳩摩羅什三藏譯「維摩經」之注釋

書。智者大師應隋煬帝之請而撰述，但至二十五卷佛道品止而圓寂，其餘由其弟子灌頂（五六一—六三二）大師補作完成。本書對於「維摩經」三卷，凡十四品之注釋，首皆敘該品由來，及各品間關係，其次詳解品題，並對品文加以適度分科，復予縱橫無礙之注釋。

本書內容賅博，立論適切，基于台宗之立場，闡釋淨佛國土之真義，論釋甚為精闢。由本書「維摩經玄疏」可窺得「維摩經」之特殊！又唐代湛然大師刪略本書，作「維摩經略疏」十卷。此廣、略二本並行于唐末五代。湛然復注釋本書，作「維摩經疏記」三卷（或六卷）。至宋代，智圓（九七六一—

○二二) 大師更作略疏「維摩經略疏垂裕記」十卷，以宣揚台宗之殊勝。

1931. 【《圓覺經集註》】(科註第八六九頁第五行)

二卷，南宋·元粹述。

1932. 【《大莊嚴法門經》】(科註第八六九頁第六行)

《佛學大辭典》：(經名) 二卷，隋那連

提黎耶舍譯。佛在耆闍崛山，文殊化現殊勝之身色衣服，度婬女勝金色光明德。使得順忍之悟。此女化現死壞惡相。使長威德長者恐怖。詣佛聞法亦得順忍。佛為二人次第授記。

1933. 【《百論》】(科註第八六九頁倒數第四行)

《佛學大辭典》：(書名) 二卷。提婆菩

薩造，天親菩薩釋，鳩摩羅什譯，三論之

一。依提婆之梵本，原有二十三品(應為「二十品」)，每一品有五偈(三十二字為一偈)，合有百偈。故稱百論。然譯者略後十品，現本只存前十品。且依天親之註解，羅什之翻譯，句數稍為增減。現品之偈數無定矣。

百論僧肇序曰：「論凡二十品，品各五偈。後十品，其人以為無益此土，故闕不傳。」

百論嘉祥疏一曰：「依提婆梵本，品皆五偈，無多少也。而有多少者三義：一註人釋有廣略，二翻論人復重增減，三方言不同。故多少者不定也。」

1934. 【《梵網經》】(科註第八七一頁倒數第二行)

《佛學大辭典》(節錄)：(經名) 梵網

經盧舍那佛說菩薩心地戒品第十之略稱。梵網經本與華嚴經同部，悉翻之，則有百二十卷六十一品，羅什三藏於長安譯諸經論，於最後譯出經中專明菩薩行地之菩薩心地戒品第十之一品，此時道融、道顥（音浩）等三百餘人即受菩薩戒，各誦此，且寫此品八十一部流通於世（僧肇梵網經序）。名之曰梵網者，從譬也。

大梵天王之因陀羅網，重重交徹，無相障闔（音合，阻礙也），諸佛之教門，亦重重無盡，莊嚴法身，無所障闔，一部所詮之法門，重重無盡，譬如梵王之網也。

菩薩戒經疏上曰：「此經題名梵網，上卷文言：佛觀大梵天王因陀羅網，千重文綵，

不相障闔，為說無量界，猶如網目，一一世間不同，法佛教門亦復如是，莊嚴梵身無所障闔，從譬立名，總喻一部所詮，參差不同，如梵王網也。」

佛在第四禪說法時，大梵天王供網羅幢，因取以譬所說之法。見順正記二。一品分上下，上品為釋迦佛於第四禪天普接大眾使歸蓮華藏世界之紫金剛光明宮中，臺上盧舍那佛以請問菩薩之行因，佛對千百之釋迦廣說十住等三十心及十地之法門。下品為釋迦佛由蓮華藏世界沒，於十處示現成佛說法後，在娑婆世界閻浮提之菩提樹下結示十重四十八輕之戒法。因而指此下品稱曰菩薩戒經。

梵 Brahmajāla。

1935. 【勝幢】（科註第八七二頁第三行）

《佛學大辭典》：（物名）勝戰之幢旗也。

涅槃經二十六曰：「能與魔王波旬戰，能摧波旬所立勝幢。」

○勝幡：（物名）印度之風，與敵戰而破之，則立勝幡。故道場降魔亦立勝幡，表其勝利。

維摩經佛道品曰：「勝幡建道場。」注曰：「外國破敵則豎勝幡，道場降魔亦表其勝相也。」

法華經授學無學人記品曰：「佛有大威德，名常立勝幡。」

1936. 【杲<sup>ㄍㄠˇ</sup>杲<sup>ㄍㄠˇ</sup>】（音搞）（科註第八七二頁第三行）

《漢語大詞典》：日出明亮；光明。

1937. 【三慧】（科註第八七二頁第五行）

《三藏法數》：〔出成實論〕

一、聞慧：聞慧者，由於聽聞而生智慧也。謂從經論中聞，或從善知識處聞，以因聞故，能生無漏聖慧也。

二、思慧：思慧者，由於思惟而生智慧也。謂若能思惟經論中及善知識處所聞法義，皆能生於無漏聖慧也。

三、修慧：修慧者，由於修習而生智慧也。謂既已聞法，思惟義趣，即當隨順修習，因此修習，能生無漏聖慧也。

1938. 【<sup>ㄕㄜˋ</sup>懼<sup>ㄕㄜˋ</sup>怖<sup>ㄅㄨˋ</sup>】（音社）（科註第八七五頁第二行）

《漢語大詞典》：恐懼。

1939. 【親因】（科註第八七五頁倒數第三行）

見「親因緣」2106。

1940. 【優婆塞戒經】（科註第八七六頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（經名）七卷，北涼曇無讖chèn（音趁）譯。說在家菩薩人道修行之法。大乘律之攝。

1941. 【三福田】（科註第八七六頁倒數第三行）

《三藏法數》：〔出優婆塞戒經〕

一、報恩福田：謂父母有養育之恩，師長有教誨之恩，若能供養恭敬，非惟報答其恩，抑且自然獲福，是名報恩福田。

二、功德福田：謂若能恭敬供養佛法僧三寶，非但成就無量功德，亦能獲其福報，是名功德福田。（佛，梵語具云佛陀，華言覺。僧，梵語具云僧伽，華言和合眾。）

三、貧窮福田：謂若見貧窮困苦之人，當起慈悲之心，以己所有資生等物而給施之，雖不求報，則亦自然獲福，是名貧窮福田。

1942. 【法華經授記品】（科註第八七七頁倒數第三行）

《妙法蓮華經》之第六品。屬於法華三周說法（法說周、譬說周、因緣周）之譬說周。以中根之迦葉、須菩提、迦旃旃zhān旃（音沾）延、目犍連四大聲聞迴小向大，佛對此四人說當來作佛現前授記之品也。

◎ 壽樂無極第三十二

1943. 【後漢《左雄傳》】（科註第八八五頁第六行）

即《後漢書卷六十一·左雄傳》。

1944. 【客塵】（科註第八八六頁倒數第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）形容煩惱者。煩惱非心性固有之物，為迷理而起者，故名之為客。為污心性者，故名之為塵。

1945. 【聖言量】（科註第八八七頁倒數第一行）

《中華佛教百科全書》「聖教量」條（節錄）：又作正教量、至教量（*āpta-āgama*，意指從可信仰者所受之傳統之教）、聲量（*śabda*，又譯聖言量）。佛教一般用 *āgama* 一詞，意謂一切可信仰者之教示（*āpta-nirdeśa*）。「可信仰者」即指佛、菩薩、諸聖賢；以聖者所說之教示正確無誤，依之可以量知種種義趣，故稱聖教量。

1946. 【靈光】（科註第八八八頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）人人固有之佛性，靈靈照照，而放光明者。

百丈禪師上堂曰：「靈光獨耀，jiǒng hūi迥（音炯，遠也）脫根塵。體露真常，不拘文字。心性無染，本自圓成。但離妄緣，即如如佛。」見五燈會元三百文章。

1947. 【三業】（科註第八九〇頁第五行）

《佛光大辭典》（節錄）：又作三時業、三報業。就現、次、後等三生之報，分業為順現法受業、順次生受業、順後次受業。又作現報業、生報業、後報業。

（一）順現法受業（梵 *dr̥śya-dharma-vedanīya-karma*），即此生所造，於此生成熟之業。

(二) 順次生受業 (梵 upapadya - vedānya - karma )，即此生所造，於第二生成熟之業。

(三) 順後次受業 (梵 apara - paryāya - vedānya - karma )，即此生所造，於第三生以後次第成熟之業。〔俱舍論卷十五、瑜伽師地論卷九十〕

1948. 【百丈】(科註第八九二頁第四行)

《佛學大辭典》：(人名)唐洪州百丈山之大智禪師懷海，馬祖道一禪師之法嗣也。師始創禪門之規式，所謂百丈清規是也。見傳燈錄六，會元三。

《釋氏稽古略》：百丈山懷海禪師 (七二〇—八一四)。百丈山。江西隆興路 (古洪州也) 禪師名懷海。福州長樂王氏子 guàn 貫 卅 (音

慣。古時兒童束髮成兩角的樣子，指幼年時期) 歲離塵。三學該練。屬馬祖闡化江西。乃傾心依附。與西堂智藏、南泉普願同號入室。時三大士化門為角立焉。師上堂曰。靈光獨耀迴脫根塵。體露真常不拘文字。心性無染本自圓成。但離妄緣即如如佛。師 chuàng 創 勸 (同創。開創) 立叢林儀軌。名曰清規。至是元和九年正月十三日歸寂。壽九十五歲。敕諡大智禪師。塔曰大寶勝輪。師嗣馬祖 (傳燈)。

清規。百丈山大智海禪師創立也。猶佛之律條。動靜云為折旋俯仰莫可犯也。叢林尊行之。又有日用小清規。永明壽禪師所作也。

1949. 【寶鏡三昧】(科註第八九二頁第六行)

《中華佛教百科全書》：書名。又稱《寶

鏡三昧歌》、《洞山良价禪師寶鏡三昧》。曹洞宗祖洞山良价撰。收在《大正藏》第四十七冊《筠州洞山悟本禪師語錄》中。全篇由四言九十四句三七六字所成，敘述曹洞宗「偏正回互」之宗旨。此「偏正回互說」淵源於石頭希遷之《參同契》。經藥山、雲巖，至洞山而大成之。

本書古來即為曹洞宗所重視，為該宗祖堂朝課諷經之課誦本。註釋書甚多，以指月慧印《參同契寶鏡三昧不能語》、面山瑞方《參同契寶鏡三昧吹唱》較為有名。

1950. 【主中主】（科註第八九一頁第七行）

《佛學大辭典》「四賓主」條（節錄）：

（名數）曹洞之賓主為體用之異名。一主中

賓，體中之用也。二賓中主，用中之體也。三賓中賓，用中之用，於頭上安頭也。四主中主，體中之體，物我雙亡，人法俱泯也。

1951. 【無心三昧】（科註第八九一頁倒數第五行）

《三藏法數》：謂菩薩住是三昧，則心、心數法，悉皆不行，是名無心三昧。（心即心王，心數法即受想行法也。不行者，謂此諸法皆不起也。）

1952. 【高峰】（科註第八九一頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（人名）禪師之號。諱原妙。宋嘉熙戊戌生。參雲巖欽於北jiàn磻

（音見，古同「澗」）而得法。元世祖至元己

卯，上天目西峰，入張公洞，題曰死關，不出戶者十五年。學徒參請，無虛日。成宗元

貞元年寂，壽五十七。有高峰錄盛行於世。見續稽古略。

1953. 【關<sup>カニセ</sup>lie<sup>セ</sup>揅<sup>セ</sup>（音列）子】（科註第八九一頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：能轉動的機械裝置。比喻事物的緊要處。

《佛學大辭典》：（物名）喻物之緊要處。

傳燈九黃<sup>カク</sup>檠草曰：「如四祖下牛頭大師，橫說豎說，未知向上關揅子。」

碧巖第一則評唱曰：「撥轉關揅子，出自已見解。」

1954. 【狂人迷失本頭】（科註第八九一頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「演若多之頭」條：（故

事）室羅城有一狂人，曰演若達多。某日朝，以鏡照面，於鏡中得見頭中眉目而喜。還觀己，不得見己頭中眉目，因大瞋恨，謂是魑魅（音吃昧，鬼怪也）所作而狂走。

此以自己之本頭譬真性，鏡中之頭譬妄相。喜見鏡內之頭有眉目者，以比認妄相為真，堅執不捨。不見自己之本頭有眉目者，以比真性無一切之諸相。

楞嚴經四曰：「汝豈不聞：室羅城中演若達多，忽於晨朝，以鏡照面，愛鏡中頭，眉目可見，嗔責己頭，不見面目，以為魑魅，無狀狂走。於意云何？此人何因無故狂走？富樓那言：是人心狂，更無他故。」同十曰：「乃至虛空，皆因妄想之所生起。斯元

本覺妙明真精，妄以發生諸器世間，如演若多，迷頭認影。」

1955. 【曹山】（科註第八九二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（人名）曹洞宗，洞山良价禪師法嗣本寂禪師之別號。由住處而稱也。

大明一統志撫州府曰：「曹山在宜興縣北三十里，舊名荷玉山。山巔曰羅漢峰，昔本寂禪師因禮曹溪六祖回此，遂易名曹山。」

《釋氏稽古略》：曹山本寂禪師。江西撫州路曹山禪師。名本寂。生泉州莆田黃氏。少業儒。年十九歲往福州靈石出家。二十五登戒謁洞山。山問。閣梨名甚麼。師曰本寂。山曰。那箇<sub>ni</sub>漚<sub>zou</sub>（音你。句末語氣詞，相當

於「呢」）。師曰不名本寂。山深器之。自此入室。盤桓數載乃辭去。山遂密授洞上宗旨。直趨曹溪禮六祖塔回吉水。眾嚮師名請開法。師志慕六祖。遂名山曰曹。尋值賊亂乃之宜黃。有信士王若一。捨何王觀請師住持。師更何王為荷玉。由是法席大興。學者雲萃。洞山之宗至師為盛。

昭宗天復元年六月十五日謂眾白。曹山明日辰時行腳去。及時焚香宴坐而化壽六十二。臘三十七。葬全身於山之西阿。敕諡元證禪師。塔曰福圓。寂嗣洞山良价禪師。价嗣雲巖晟。晟嗣藥山儼。儼嗣石頭遷。遷嗣青原思。思嗣六祖大鑿禪師（傳燈錄）。

1956. 【湛愚老人】（科註第八九三頁第五行）

清朝雍正時人，著《心燈錄》六卷。

1957. 【**à** 櫛ち】**柄**】（科註第八九三頁第六行）

《辭海》「把柄」條：亦作「櫛柄」。刀劍之類的把手。比喻可以用來要挾他人的憑證。

1958. 【**起世因本經**】（科註第八九四頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（經名）十卷，隋達摩じだつ（音及）多等譯。與長阿含經中起世經，佛說樓炭經，起世經同本。品次稍異。說世界之形狀者。

1959. 【**修惑**】（科註第八九九頁第八行）

《佛學大辭典》：（術語）舊曰思惑。新曰修惑。於修道而斷之貪瞋痴等迷事之惑也。其惑有八十一品。（參見「見思二惑」）

257)

1960. 【**xián**閑 𦉳】（音險）】（科註第九〇〇頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：同「鮮」。少。

1961. 【**蓋纏**】（科註第九〇一頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）五蓋與十纏。皆煩惱之數。

維摩經佛國品曰：「悉已清淨，永離蓋纏。」

《三藏法數》「五蓋」條：「〔出法界次第〕蓋即蓋覆之義。謂諸眾生，由此貪等五惑，蓋覆心識，而於正道不能明了，沉滯三界，不能出離也。（三界者，欲界、色界、無色界也。）

一、貪欲蓋：貪欲者，引取無厭曰貪，希

須樂慕為欲。謂諸眾生貪愛世間男女色聲香味觸法，及財寶等物，無有厭足，以此貪欲蓋覆心識，禪定、善法不能發生，沉滯三界，不得出離，故名蓋也。

二、瞋恚蓋：瞋恚者，即忿怒之心也。謂諸眾生，或於違情境上，或追憶他人惱我，及惱我親，而生忿怒。以此瞋恚，蓋覆心識，禪定、善法不能發生，沉滯三界，不得出離，故名蓋也。

三、睡眠蓋：睡眠者，意識昏熟曰睡，五情闇冥曰眠。謂諸眾生，以此睡眠蓋覆心識，禪定、善法不能發生，沉滯三界，無有出期，故名蓋也。（五情者，即眼、耳、鼻、舌、身，五根也。）

四、掉悔蓋：掉悔者，掉動也，身無故遊行為掉；掉已思惟，心中憂惱為悔。謂諸眾生，以此掉悔蓋覆心識，禪定、善法不能發生，沉滯三界，無有出期，故名蓋也。

五、疑蓋：疑者，猶豫不決之義。即癡惑也。謂諸眾生，無明暗鈍，不別真偽，猶豫之心常無決斷，以此疑惑蓋覆心識，禪定、善法不能發生，沉滯三界，無有出期，故名蓋也。

《佛學大辭典》「十纏」條：（名數）有十種之妄惑，纏縛眾生，不使出生死，不使證涅槃，故名十纏：一無慚、二無愧、三嫉、四慳、五悔、六睡眠、七掉舉、八昏沈、九瞋忿、十覆也。見智度論七，俱舍論

二十一。(參見「十纏」837)

◎ 勸諭策進第三十三

1962. 【安下】(科註第九〇四頁第二行)

《漢語大詞典》：住下；安歇。

1963. 【抵】(科註第九〇四頁第三行)

《漢語大詞典》：至。

1964. 【炎炎】(科註第九〇四頁倒數第五行)

《漢語大詞典》：灼熱貌。火光猛烈貌。

1965. 【饒足】(科註第九〇四頁倒數第三行)

《漢語大詞典》：富足。

1966. 【陽炎】(科註第九〇五頁倒數第二行)

《佛學大辭典》「陽燄」條：(譬喻)大

乘十喻之一，又作yáng颺元(音羊)燄，或單曰

燄，又曰陽光。

莊子所謂「野馬塵埃」是也。謂春初之原野日光映浮塵而四散者也。渴鹿見之以為水，走而趣之。

維摩經方便品曰：「是身如燄，從渴愛生。」同註曰：「渴見陽燄，惑以為水。」

楞伽經二曰：「譬如群鹿，為渴所逼，見春時燄，而作水想。迷亂馳趣，不知非水。」

智度論六曰：「如燄者，以日光風動塵故，曠野中如野馬，無智人初見謂為水。」

維摩經慧遠疏曰：「陽燄浮動，相似野馬。」

止觀一上曰：「集既即空，不應如彼渴鹿，馳逐颺燄。」

《三藏法數》「大乘十喻」條：〔出法界次第〕

一、如幻喻：謂如幻師，幻作種種諸物及男女等相，體雖無實，然有幻色可見。一切諸法，亦復如是。無明幻作，迷心不了，妄執為實。修空觀者，於諸幻法，心無所著，皆悉空寂，故說如幻。（空觀者，謂觀一切法皆空也。）

二、如焰喻：謂無智之人，初見陽焰，妄以為水。諸煩惱法，亦復如是，無智不了，於結使中，妄計我相；智者了知虛誑不實，皆是妄想，故說如焰。（結使者，即煩惱也。謂因煩惱纏縛，驅使眾生入於生死也。）

三、如水中月喻：謂月在虛空，影現於

水，諸愚小兒，見水中月，歡喜欲取；智人見之則笑，以喻無智之人，於五陰中，妄起我、我所見，執為實有；於苦法中，而生歡喜。然得道智人，愍之而笑。故說如水中月。（五陰者，色陰、受陰、想陰、行陰、識陰也。我者，謂於五陰中強立主宰，妄執為我也。我所者，即五陰之身等也。）

四、如虛空喻：謂虛空但有其名，而無實體。愚人不了，執之為實。一切諸法亦復如是，空無所有。若無智之人，於虛妄中，計為實有，起彼我執。修空觀者，了一切法皆無所有，故說如虛空。

五、如響喻：謂深山幽谷，及空舍中，若語聲，若擊物聲，隨聲相應，而有響生。愚

人不了，以為實有。一切音聲語言，亦復如是。若有智之人，了知語音無實，心不生著，故說如響。

六、如乾城喻：乾城，即乾闥婆城（猶言海市蜃樓。闥，音踏）。梵語乾闥婆，華言香陰。謂日初出時，見城門樓櫓（用以瞭望、攻守的無頂蓋的高臺。櫓，音魯）宮殿，行人出入，日高漸滅。但可眼見，而無實有。一切諸法，亦復如是。若智者則能了知諸法，悉皆虛假，不生執著，故說如乾城。

七、如夢喻：謂人夢中，本無實事，妄執為實，覺還自笑。一切諸法，亦復如是。一切結使煩惱，皆是虛妄，而人不了，執之為實。若得道覺悟，乃知虛妄，亦復自笑。故

說如夢。

八、如影喻：謂影，但可見而不可捉。一切諸法，亦復如是。如眼耳等諸根，雖有見聞覺知，求其實體，即不可得。故說如影。

九、如鏡中像喻：謂鏡中之像，非鏡作，非面作，非鏡面和合而作，亦非無因緣作。雖非實有，然亦可見。故無智不了，執之為實，而生分別。一切諸法，亦復如是。從因緣生，無有實體，但有名字而起分別，誑惑凡夫，生諸煩惱。若有智之人，雖復見聞，了知無實，而不執著，故說如鏡中像。

十、如化喻：謂若諸天仙，得神通者，變化諸物，雖有男女等相，而無生老病死苦樂之實。一切諸法，亦復如是，無有生滅，如

化而成；亦無有實，如人之生，但從先世之因而有今世之身，悉皆虛假，何實之有。故說如化。

1967. 【yi翳<sup>一</sup>（音易）】（科註第九〇五頁倒數第一行）

《漢語大詞典》：目疾引起的障膜。

1968. 【和敬】（科註第九〇九頁第四行）

《漢語大詞典》：和順恭敬。《禮記·樂記》：「樂在宗廟之中，君臣上下同聽之，則莫不和敬。」

《中華佛教百科全書》「六和敬」條：菩薩度化眾生的六種態度。這六種即：同戒、同見、同行、身慈、口慈、意慈。又作六和、六慰勞法、六可喜法。菩薩為攝眾生，須與眾生久處，若不和合愛敬，則兩不相

合，不得成就般若，故須善用此六和。《法界次第》卷下云（大正46.693a）：「外同他善，謂之為和；內自謙卑，名之為敬。菩薩與物共事，外則同物行善，內則常自謙卑，故名和敬。」

一、同戒和敬：謂菩薩通達實相，知罪不可得，為欲安立眾生於實相正理，以方便善巧，同持戒品，無有乖諍。又知眾生以此戒善，未來必得菩提大果，是以敬之如佛，故名同戒和敬。

二、同見和敬：謂菩薩通達實相正理，能了知諸法本無所得，亦無所知見，為欲安立眾生於實相正見，以方便善巧，同一切知見，無有乖諍。又知眾生以此知見，必得種

智（一切種智也）圓明，是以敬之如佛，故名同見和敬。

三、同行和敬：謂菩薩通達實相正行，能了知無作無行，為欲安立眾生於實相正行，以方便善巧，同修諸行，無有乖諍。又知眾生以此諸行，漸積功德，當成佛道，是以敬之如佛，故名同行和敬。

四、身慈和敬：謂菩薩住無緣平等大慈以修其身，慈善根力能不起滅定，現諸威儀，與一切樂，故身與九道和合。又知前得樂眾生，悉有佛性，未來必定當得金剛之身，是以敬之如佛，故名身慈和敬。（金剛者，言法性之身不可壞。）

五、口慈和敬：謂菩薩住無緣平等大慈以

修其口，慈善根力能不起滅定，普出一切音聲語言，與一切樂，故口與九道和合。又知前所得樂之眾生，悉有佛性，未來必定當得無上清淨口業，是以敬之如佛，故名口慈和敬。

六、意慈和敬：謂菩薩常住無緣大慈三昧以修其意，慈善根力能不起慈定，現諸心意，與眾生樂，故意與九道和合。又知前所得樂眾生，悉有佛性，未來必定當得心如佛心，是以敬之如佛，故名意慈和敬。

此外，《大乘義章》卷十二云（大正卅一712c）：「六和敬者，同止安樂不惱行也。起行不乖，名之為和；以行和故，情相親重，目之為敬。」然所舉之名略異，即身業

同、口業同、意業同、同戒、同施、同見。其中，前三者就身顯同，後三者就行說同。

一、身業同：略有二者，一者離過同，謂同離殺盜邪淫等事。二者作善同，謂同為一切禮拜等善。

二、口業同：亦有二種，一者離過同，謂同皆遠離妄語、兩舌、惡口、綺語。二者作善同，謂同為讚誦等善。

三、意業同：亦有二種，一者離過同，謂同離一切煩惱業思。二者作善同，謂同修信、進、念、定、慧等一切善法。

四、同戒：略有二種，一者受戒同。二者持戒同。或分三種，一者律儀戒同，二者攝善戒同，三者攝眾生戒同。

五、同施：略有二種，一者內施同，謂自捨己身，奉給尊事。二者外施同，謂捨餘資具。又分三種，一者財施同，二者法施同，三者無畏施同。

六、同見：見謂見解，略有二種，一者世諦中見解無別，二者真諦中見解無別。

此外，《祖庭事苑》亦列有六和之名，即身和共住（謂生活上互相照顧）、口和無諍（謂言語上互相勸善止過）、意和同事（謂思想上彼此友愛敬重）、戒和同修（謂遵守共同的戒律）、見和同解（謂見解一致地共同修學）、利和同均（平等受用合法的財物）。

1969. 【pín 𠵼<sub>平</sub>】（音頻）【cù 𠵼<sub>促</sub>】（音促）【科註第九〇九

頁第七行)

《漢語大詞典》：皺眉蹙額。形容憂愁不樂。

1970. 【琉璃王為報宿怨，欲盡殺釋種】（科註第九一〇頁第六行）

《三藏法數》「流離王殺釋種」條：佛在世時，波斯匿王新紹王位，使臣求親於迦毘羅國釋種之家，時摩訶男婢生一女，顏貌端正，送與波斯匿王。後生一子，名曰流離。及年八歲，與梵志子好苦，詣摩訶男家。時迦毘羅國新起一講堂，欲請如來於中供養。爾時流離太子往至講堂，即陞師子之座。時諸釋種見之，罵言：此婢生物，敢入中坐。於是出語梵志子好苦曰：此諸釋種，捉我毀

辱，乃至於此。我後紹王位時，汝當告我此事。流離太子後紹王位，好苦以前事告之。流離集兵往伐釋種。

佛告比丘，往昔之時，此羅閱城有捕魚村。時世饑饉，彼村有池多魚。時城中人，向於池中捕魚食之。池中有二種魚，一名丘𩺰丘（音夫），二名多舌，各懷報怨。時有一小兒在岸，見魚跳而喜，以杖打彼魚頭。爾時羅閱人者，今釋種是。𩺰魚者，今流離王是。多舌魚者，今梵志好苦是。小兒者，即我身是。以是因緣，故流離王殺釋種也。（梵語波斯匿，華言勝軍。梵語迦毘羅，華言黃色。）

《佛學大辭典》「毘琉璃」條：（人名）

Virūdhaka，國王名。又稱流離王，琉璃王，婁勒王，維樓黎王，樓黎王，毘婁勒王等。新作毘盧釋迦王，毘盧宅迦王。生時與琉璃寶俱，故號毘琉璃，又由大夫人之讖，而名惡生王。舍衛國（新曰室羅伐悉地國），波斯匿王（新譯勝軍王）之子，末利夫人所生。弑父王而嗣位，又以舊怨滅迦毘羅城之釋種。

西域記六曰：「毘盧釋迦王，舊云毘流離王，訛也。」

玄應音義二十三曰：「毘盧宅迦王，舊言毘流離，一也。」

琉璃王經曰：「舍衛國王，時有太子，名維樓黎。產育之初與琉璃寶俱，因以為號。」

毘奈耶雜事七曰：「勝鬘夫人至九月滿，便誕一男，容貌端嚴，人所樂見。經三七日聚會宗親欲為其兒施立名字，〔中略〕時大夫人謂群臣曰：我豈先時不作是語。觀斯婢女（指勝鬘即末利夫人），身形美觸，必當喪我憍薩羅城。大臣白言：誠有斯語。此子未生，國大夫人已為作不祥之記。應與此兒名為惡生。」

1971. 【zì滓<sup>pv</sup>】（音子）（科註第九一二頁第七行）

《漢語大詞典》：渣子。

1972. 【méng矇<sup>2</sup>】（音盟）（科註第九一四頁第七行）

《漢語大詞典》：盲；目失明。矇昧無

1973. 知。  
【dié迭<sup>カゼ</sup>】（音碟）相】（科註第九一六頁第五行）

《漢語大詞典》：相繼；輪番。

1974. 【窵yào窵zǔ】（音咬）冥【科註第九一八頁第四行】

《漢語大詞典》：陰暗貌。

1975. 【心師】（科註第九二〇頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）為我心之師，故曰心師。

涅槃經二十八曰：「願作心師，不師於心。」

通真軌上曰：「薩婆多云：我教謂心師也，他教謂師心也。」

1976. 【師心自用】（科註第九二〇頁第七行）

《漢語大詞典》：謂只憑主觀，自以為是。（師心，以心為師也）

## ◎ 心得開明第三十四

1977. 【韻會】（科註第九二二頁第七行）

《古今韻會舉要》。三十卷，元·黃公紹編，熊忠舉要。本書是將漢字按字音分韻編排的辭書。

1978. 【俱舍界品頌疏】（科註第九二二頁第八行）即《俱舍論頌疏》之《分別界品》部分。

《佛學大辭典》「頌疏」條：（書名）圓暉法師之俱舍論頌疏。略稱頌疏。（凡二十九或三十卷，全稱阿毘達磨俱舍論頌疏論本。）

○界品：（術語）俱舍論一部九品之第一。此品明諸法之體性，故名界品。界者性

之義也。

俱舍光記一曰：「界者性也，性之言體

也。此品明諸法體，以界標名。」

1979. 【誠<sup>トク</sup>勗<sup>トク</sup>（音旭）】（科註第九二二頁第八行）

《漢語大詞典》：告誡勉勵。

1980. 【要津】（科註第九二二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（術語）渡生死海主要

之津路也。

傳燈十六，藥山章曰：「末後一句，始到

牢關（迷悟之境界，堅牢之關門也），鎖斷要

津，不通凡眾。」

臨濟錄序曰：「把定要津，壁立萬仞（音

任，古代計量單位：周尺八尺或七尺。周尺一尺約

合二十三釐米。）。

1981. 【從文字般若而起觀照，入於實相】（科註第九二四頁第六行）

《法門名義集》「三種般若」條：一者實

相般若，二者觀照般若，三者文字般若。

實相般若，以理為體。體絕虛假，目（稱

也）之為實；印體表彰，名之為相。亦可以

其無相為相也。

觀照般若，以智慧為體。體是般若，觀照

是用，體用合說，故名觀照般若。

文字般若，以音聲言教詮提為體。文字非

般若，何以名般若？一能生般若，二能詮般

若。因中說過果，故立般若也。

《三藏法數》「三般若」條：〔出金光明

經玄義〕梵語般若，華言智慧。此三般若體

是圓常大覺也。即此一覺，有三種德，故名三般若。

一、實相般若：謂本覺之體，非寂非照，離虛妄相，名為實相，即一切種智也。（非寂非照者，寂謂寂靜，照謂照明，寂照皆言非者，用遮二邊，以顯中道實相之德也。一切種智者，謂知一切諸佛之道，知一切眾生之因種也。）

二、觀照般若：謂觀照之德，非照而照，了法無相，名為觀照，即一切智也。（非照而照者，照謂照明，謂理本非照，因觀而照，以顯觀照之德也。一切智者，謂能知一切內法內名，一切外法外名也。）

三、方便般若：方便，猶善巧也。謂方便

之德，非寂而寂，善巧分別諸法，名為方便，即道種智也。（非寂而寂者，寂謂寂

靜，以寂靜故，了一切法皆從因緣而生，性本空寂，以顯方便之德也。道種智者，謂能用諸佛一切道法，發起一切眾生善種故也。）

《三藏法數》「五種般若」條：〔出金剛經纂要疏刊定記〕

一、實相般若：實相即般若體也。謂明了  
一切諸法皆空，離一切虛妄之相，故名實相般若。（梵語般若，華言智慧。）

二、觀照般若：觀照即般若之智用也。謂  
因觀照明了法無相，悉皆空寂，以顯即體之用，故名觀照般若。

三、文字般若：文字是能詮之文，般若是

所詮之法。能所合成，以語言文字，性本空寂，故名文字般若。

四、境界般若：境界即諸法之境界也。謂境無自相，由智顯發，以根本、後得二智，照了一切諸法境界，悉本空寂，從境得名，故名境界般若。（根本智者，即菩薩親證本有之智也。後得智者，謂證根本智後，所起化他之智也。）

五、眷屬般若：眷屬者，即煖、頂、忍、世第一，及戒、定、慧、解脫、解脫知見也。謂此諸法，皆是觀照慧性之屬，故名眷屬般若。（煖者，如木鑽火，未見火出，先得煖相。以喻加行位人，未得智火，燒煩惱薪，已見煖相。頂者，觀行轉明，如登山

頂，皆悉明了。忍者，即忍可之義。於苦集滅道之法，忍可而樂修也。世第一者，於理雖未能證，而於世間最勝也。戒即戒律；定即禪定；慧即智慧；解脫，解縛得脫，自在之謂也；解脫知見者，知謂智也，見謂眼也，智眼照了諸法皆空，無有障礙，得其在也。）

1982. 【三門】（科註第九二四頁倒數第二行）

《藏傳佛教辭典》：指身、語、意。即表現在身體上，語言上，意識上三方面。《土觀宗派源流》

1983. 【善見藥】（科註第九二四頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（譬喻）譬如有藥，名為善見。眾生見者，眾毒悉除。

○善現藥王：（飲食）妙藥之名。

晉華嚴經三十七曰：「譬如雪山有大藥王名曰善現，若有見者眼得清淨，若有聞者耳得清淨，若聞香者鼻得清淨，若嘗味者舌得清淨，若有觸者身得清淨。若取彼地土，悉能除滅無量眾病，安穩快樂。」

往生要集上末曰：「善見藥王滅一切病。」

1984. 【《觀佛三昧海經》】（科註第九二八頁第五行）

《佛學大辭典》：（經名）佛說觀佛三昧海經，十卷，東晉佛陀跋陀譯。以觀佛之相好及其功德為教者。海者譬三昧之功德深廣也。

1985. 【三十六物】（科註第九二八頁第六行）

《三藏法數》：〔出華嚴經隨疏演義鈔〕

一、外相十二：謂髮、毛、爪、齒、眵（音吃，眼屎）、淚、涎（音賢）、唾、屎、尿、垢、汗也。

二、身器十二：謂皮、膚、血、肉、筋、脈、骨、髓、肪（音方，厚的脂膏）、膏、腦、膜也。

三、內含十二：含即含藏，謂肝、膽、腸、胃、脾、腎、心、肺、生藏（胃）、熟藏（直腸）、赤痰、白痰也。

1986. 【惡露】（科註第九二八頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）謂身上不淨之津液也，如膿血屎尿等，惡者憎厭之義，露者津液也。

心地觀經曰：「自見己身，三十六物惡露不淨。」

本起經曰：「惡露自出，坐臥其上。」

無量壽經下曰：「生老病死痛苦，惡露不淨，無可樂者。」

無量壽經鈔六曰：「醫心方云：惡露者血也。」

1987. 【五種不淨】（科註第九二八頁第六行）

《三藏法數》：〔出析玄記〕

一、種子不淨：種子不淨有二：一者內種，謂觀此身，從昔煩惱業生。二者外種，謂攬父母遺體而成此身。以是觀之，此身內外因種，實為不淨。大智度論云：是身種不淨，非餘妙寶物，不從白淨生，但從穢中

出。是也。

二、住處不淨：住處不淨者，謂觀此身，十月在於母胎，生藏之下，熟藏之上，臭穢中住，實為不淨。大智度論云：是身如臭穢，不從華間生，不因瞻蔔（音沾播）有，又不出寶山。是也。（梵語瞻蔔，華言黃華。）

三、自體不淨：自體不淨者，謂觀此身，以四大不淨所成，猶如世間飲食，不可久停，終成不淨。設以四大海水，傾洗此身，終無香潔。大智度論云：地、水、火、風質，能變成不淨，傾海洗此身，不能令香潔。是也。（四大者，地大、水大、火大、風大也。）

四、外相不淨：外相不淨者，謂觀此身，現見外相，皆是不淨，九孔常流種種穢惡，如眼出眵（音吃。眼屎）淚，耳出結聾（音寧。耳屎），鼻出膿涕，口出涎唾，大小便道，不淨常流，如破皮囊，滿盛不淨。大智度論云：種種不淨物，充滿於身中，常流出不止，如漏囊盛物。是也。

五、究竟不淨：究竟不淨者，謂觀此身，非唯現在不淨，審實思惟，至於死後，捐棄塚（音種。墳墓也）間，爛壞臭穢，尤極不淨。大智度論云：審諦觀此身，必歸於死處。是也。

1988. 【十疑論】（科註第九二八頁第八行）

《實用淨土宗辭典》：論名。全一卷，隋

代智顛撰述，又名《淨土十疑論》、《阿彌陀十疑論》、《天台十疑論》、《西方十疑》。本書係就彌陀淨土往生之法門，舉出十項疑難，再一一加以解答。其十疑為：一因何求生淨土？二諸法體空，為何捨此求生西方？三十方皆有淨土，為何偏求一佛淨土？四何須偏念西方阿彌陀佛？五西方淨土出過三界，具縛凡夫云何得生？六云何得生彼國，即得不退，超過三界？七上品十善者得生兜率，隨從下生，三會之中自然而得聖果，何須求生西方淨土？八云何臨終十念成就即得往生？九西方去此十萬億佛刹云何可到？女人、根缺、二乘種為何得生？十欲決定求生西方，當作何行業？凡夫有妻子，未

知不斷淫欲得生彼否？注釋有宋澄yù或h（音玉。茂盛貌）《十疑論注》，宋元照《十疑論科》，僧樸《升量錄》等。

1989. 【七種不淨】（科註第九二八頁第八行）

《三藏法數》：「出天台四教儀集註」謂修行之人，恐於自他身分，而起貪著，妨於正道，故令假作此不淨之想，破其著心。故有七種也。

一、種子不淨：種子有二：一內種，謂人之身，從昔煩惱業因而生。二外種，謂此身受父母遺體而生，故名種子不淨。

二、受生不淨：謂人之生，父母交邁（音夠。相遇也），赤白和合，以成其身，故名受生不淨。

三、住處不淨：謂女人之體，是不淨聚，處胎十月，居生熟二臟之間，故名住處不淨。（生熟二臟者，謂初受飲食為生，飲食變壞為熟也。）

四、食噉（音旦，吃也）不淨：謂處於胎中，唯食母血以資其身，故名食噉不淨。

五、初生不淨：謂十月滿足，頭向產門，流血淋漓，腥穢狼籍，故名初生不淨。

六、舉體不淨：謂此身薄皮所覆，從頭至足，純是穢物，故名舉體不淨。

七、究竟不淨：謂業盡報終，捐棄塚間，如朽敗木；大小不淨，流溢於外，胖脹爛壞，骨肉縱橫，故名究竟不淨。（大小者，如以身為大，四肢為小之類也。）

1990. 【一期】（科註第九三二頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）人之一生也。

唯識論五曰：「無想有情，一期生中，心所滅。」

四念處三曰：「佛一期諸大經，門門不同。」

妙玄義一上曰：「一期化導，事理俱圓。」

1991. 【葇ロウ蕒ロウ】（科註第九三二頁第五行）

《漢語大字典》：同「蕒」。《篇海類編·

花木類·艸部》：「蕒，俗蕒（音蕊）字。」

○蕒：後作「蕊」。指花；花苞。《廣雅·

釋草》：「蕒，華也。」《楚辭·離騷》：「攀

木根以結茝兮，貫薜荔之落蕒。」

1992. 【懈慢國】（科註第九三二頁第五行）

《佛學大辭典》：（界名）在閻浮提西方

十二億那由陀，至極樂國之中途。生於此國者，染著其國土之快樂，而起懈怠憍慢之心，不更進而生於極樂，故謂為懈慢國。疑佛智不思議，雜修自力之善根，而願生於極樂者生之。

菩薩處胎經三曰：「西方去此閻浮提十二億那由陀，有懈慢界。國土快樂，作倡伎樂，衣被服飾，香花莊嚴，七寶轉關床，舉目東視寶床隨轉，北視西視南視亦如是轉。前後發意眾生，欲生阿彌陀佛國者，皆深染著懈慢國土，不能前進生阿彌陀佛國。億千萬眾，時有一人，能生阿彌陀佛國，何以故？皆由懈慢執心不牢固。」

1993. 【惡作】（科註第九三二頁倒數第六行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）作惡事後之追悔，懺悔之心也。

俱舍論四曰：「惡作者，謂緣惡作心追悔性。」

唯識論七曰：「悔謂惡作，惡所作事，追悔為性。」

◎ 濁世惡苦第三十五

1994. 【太賢】（科註第九三七頁第三行）

《佛光大辭典》：唐代法相宗學僧，朝鮮新羅人。號青丘沙門，亦作大賢。壯歲來唐，依西明寺道證學唯識。著作甚多，撰有

古迹記等四十餘種，不拘門戶，力持平允，為世崇敬。後歸國傳慈恩之學，時人譽之為海東瑜伽祖。嘗於其國景德王十二年（七五三）在大內誦經祈雨，後不知所終，寂年與世壽均不詳。〔三國遺事卷四、義天錄〕

1995. 【《經音義》】（科註第九三八頁第六行）

即《一切經音義》。（《科註》所引內容，出自《慧琳音義卷第二十·華嚴經第五卷》。參見《慧琳音義》1539）

1996. 【易】（科註第九四〇頁五行）

《漢語大詞典》：改變，更改。清陳夢雷《西郊雜詠》之五：貞心耐寒歲，造化不能易。

1997. 【chǒu 丑 醜 械】（科註第九四〇頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：腳鐐手铐。泛指刑具。

（杻，手铐。械，鐐铐）

1998. 【阿賴耶】（科註第九四一頁第四行）

《三藏法數》「阿賴耶識」條：梵語阿賴

耶，華言藏識。此識染淨同源，生滅和合，而具有四分。如摩尼珠，體本清淨；又如明鏡，能含萬像。若以染分言之，無明依之而起，結業由此而生，具足煩惱塵勞，變現根身世界，即前七種識境皆是也。若以淨體言之，即本覺心源，離念清淨，等虛空界，即後之菴摩羅識是也。無法不含，無事不攝，是名藏識。若轉此識，即成佛果。（四分者，一相分，相即形相，謂此識能變現根身世界及諸法名義相狀，皆由第八識此分而

生；如鏡中所現之影像也。

二見分，見即照了之義。謂此識能照燭一切諸法，及解了諸法義理；如鏡中之明，能照萬像也。

三自證分，自證取具之法，謂此識能持見分相分，親證無礙，如鏡之圓體，能持其明，能含眾像也。

四證自證分，證即能證之體，自證即所具之法。能持前自證分，見分相分皆不離此分，是第八識本體，如鏡之背也。（梵語摩尼，華言離垢。根身者，眼等諸根色身也。）

○阿賴耶二義：〔出宗鏡錄〕梵語阿賴耶，華言藏。謂第八識能含藏諸法種故。

一、能攝一切法：攝謂攝持，即含藏之

義。蓋此識攝持一切善惡之法，猶如庫藏，含藏寶貝而不遺失也。

二、能生一切法：生即發生也。謂此識既含藏善惡種子，則一切善惡諸法，從此出生，猶如大地，能發生草木萬物也。

1999. 【八大地獄】（科註第九四一頁第七行）

《佛學大辭典》：（名數）八寒地獄及十六小地獄之外，有八熱地獄，即八大地獄也。

（參見「八熱地獄」1097）

2000. 【蝻フナ】（音服）yóu 蝻フナ（音由）（科註第九四一頁第八行）

《漢語大詞典》：蟲名。幼蟲生活在水中，成蟲褐綠色，有四翅，生存期極短。

2001. 【等不等觀雜錄】（科註第九四三頁第八行）

八卷。清末·楊仁山居士著。

2002. 【賄フセ】（音慧）（科註第九四四頁第四行）

《漢語大詞典》：財物。《詩·衛風·氓》：「以爾車來，以我賄遷。」毛傳：

「賄，財。」

2003. 【巧フナ佞フナ】（科註第九四四頁第七行）

《漢語大詞典》：奸詐機巧，阿諛奉承。佞，用花言巧語諂媚人；奸邪。

2004. 【巧言令色】（科註第九四四頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：指用花言巧語和媚態偽情來迷惑、取悅他人。《論語·學而》：「巧言令色，鮮矣仁。」

何晏集解引包咸曰：「巧言，好其言語；令色，善其顏色。皆欲令人悅之。」

2005. 【明哲】（科註第九四五頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：指明智睿哲的人。

2006. 【命根】（科註第九四六頁第八行）

《佛學大辭典》（節錄）：據大乘唯識之義，則第八識之種子有住識之功能，因而一期之間使色心相續，是假名為命根，非別有命之實體也。（中略）

唯識述記二本曰：「命謂色心不斷，是命之根也。」

2007. 【晉譯華嚴經】（科註第九四七頁倒數第二行）

東晉·佛陀跋陀羅所譯之《大方廣佛華嚴經》，六十卷。（參見「《六十華嚴》」875，

「華嚴經」72）

2008. 【俱生神】（科註第九四八頁第一行）

《佛學大辭典》：（神名）與一切人之出生俱生而記人之善惡者。

玄奘譯之藥師本願經曰：「諸有情有俱生神，隨其所作，若罪若福，皆具書之。盡持授與yán<sup>ㄧㄢˊ</sup>琰（音演）魔法王。爾時彼王，推問其人，算計所作，隨其罪福，而處斷之。」

青丘之藥師經古迹下曰：「傳說：本識與身生，故名俱生神。能熏習故，言具書持。表法王故言授與，由業威力，似神相現。」

善珠之藥師經鈔下曰：「言俱生神者，若約實而言：神即識，俱生神者，即阿賴耶識，以阿賴耶識是受生之主，與身俱時而

生，故名俱生。隨諸有情所作罪福皆熏在阿賴耶識中，故言隨其所作乃至皆具書之。」

（又）一說藥師經之俱生神，指華嚴經之同生同名二神。

六十華嚴經四十五曰：「如人從生有二種天常隨侍衛：一曰同生，二曰同名。天常見人，人不見天。如來神變，亦復如是。非諸聲聞所能知見，唯諸菩薩，乃能睹見。」

藥師經鈔下曰：「倫法師云：俱生神者，即如淨土三昧經說，同生同名二神，及華嚴等有文也。」

2009. 【《藥師經》】（科註第九四八頁第一行）

《佛光大辭典》（節錄）：（經名）有五

譯：一、題曰佛說灌頂拔除過罪生死得脫

經，佛說灌頂經十二所載，東晉帛尸梨蜜多羅譯，一卷。二、宋慧簡譯，一卷，藥師琉璃光經（不入藏經）。三、隋達摩訶笈訶（音及）多譯，一卷，佛說藥師如來本願經。四、唐玄奘譯，一卷，藥師琉璃光如來本願功德經。五、唐義淨譯，二卷，藥師琉璃光七佛本願功德經。

此中前四譯，單譯出藥師如來之部，第五義淨譯，於前卷譯出六佛，於後卷譯出藥師佛，故單言藥師經，則為前四譯，特指玄奘譯。言義淨譯者，則稱七佛藥師經。

2010. 【《五戒經》】（科註第九四八頁第三行）

《佛光大辭典》「提謂波利經」條（節錄）：凡二卷。北魏曇靖撰。又稱提謂五戒

錄）：凡二卷。北魏曇靖撰。又稱提謂五戒

經、提謂經。記述佛陀成道後至鹿野苑，於途中為提謂、波利等五百商賈說人天之五戒、十善法，提謂得不起法忍，二百商人得柔順忍，三百商人得須陀洹果。本經佚（音

意，散失）失不傳，然諸書引用頗多，可窺其大意。本世紀初敦煌發現抄本，其內容為勸人信仰佛法，持戒行齋，並於夏曆（即陰曆）正月、五月、九月之初一至十五奉行三長齋，八王日（立春、春分、立夏、夏至、立秋、秋分、立冬、冬至）持戒念佛，即能延年益壽，往生天上。

2011. 【三覆八校】（科註第九四八頁第三行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）五戒經之說。三覆者，正、五、九月各月之一日，

四天王之善神覆奏人中善惡於天王，而校格是非。八校者，歲之八王日。立春，春分，立夏，夏至，立秋，秋分，立冬，冬至也。於此日復覆奏而校格之。

嘉祥之無量壽經疏曰：「一切眾生皆有二神：一名同生，二名同名。同生女在右肩上書其作惡，同名男在左肩上書其作善。四天善神一月六反錄其名籍奏上天王，地獄亦然。一月六齋，一歲三覆，一載八校，便不差錯。」

《法苑珠林》卷八十八引《提謂經》云：「佛言四時交代，陰陽易位。歲終三覆八校，一月六奏。三界皓皓，五處錄籍，眾生行異，五官典領，校定罪福，行之高下，品格

萬途。諸天帝釋、太子使者、日月鬼神、地獄閻羅、百萬神眾等，俱用正月一日、五月一日、九月一日，四布案行帝王、臣民、八夷、飛鳥、走獸、鬼龍行之善惡。知與四天王月八日、十五日盡三十日所奏同無不均。天下使無枉錯，覆校三界眾生罪福多少所屬。福多者即升天上，即勅四鎮五羅大王司命增壽益算，下閻羅王攝五官、除罪名、定福祿。故使持是三長齋。是故三覆八校者，八王日是也。」

2012. 【八日】（科註第九四八頁第五行）

《三藏法數》「春秋八王日」條：「出法苑珠林引提謂經」

春秋八王日者，是天地陰陽交代之日也。

此之八日，帝釋輔臣案行天下，比較善惡，定生注死，增減罪福。樂善者若能避禁持齋，致生善處也。

一、立春：立春，則三陽交泰（三陽，指春天。交泰，指天地之氣和祥，萬物通泰），天氣下降，地氣上升，萬物萌生。是日持齋修道，即能致福也。

二、春分：春分，則天地和氣音旭（音旭，溫暖），萬物長茂。是日持齋修道，即能致福也。

三、立夏：立夏，則草木盛長，百物懷孕。是日持齋修道，即能致福也。

四、夏至：夏至，則日長之極，生物繁盛。是日持齋修道，即能致福也。

五、立秋：立秋，則秋令之始，生物將遂。是日持齋修道，即能致福也。

六、秋分：秋分，則秋律平分，萬物成遂。是日持齋修道，即能致福也。

七、立冬：立冬，則天氣始肅，萬物斂藏。是日持齋修道，即能致福也。

八、冬至：冬至，則一陽初生，履長之始。是日持齋修道，即能致福也。（一陽：冬至後白天漸長，古代認為是陽氣初動，故冬至又稱

「一陽生」。履長：指冬至。白晝從此漸長，婦女們在這天獻履襪給舅姑，以示女紅開始。為古代之習

俗）

2013. 【六齋日】（科註第九四八頁第五行）

《三藏法數》：〔出四天王經并增一阿含

經〕六齋日者，據毗婆沙論所說，凡遇持齋之日，則過中不食。

一、每月初八日：帝釋敕四天王，各治一方。至此日，四王遣輔臣，觀察世間人民善惡。（帝釋，梵語釋提桓因，華言能天主。

言帝釋者，華梵雙舉也。四天王者，東方持國天王、南方增長天王、西方廣目天王、北方多聞天王也。）

二、每月十四日：此日四天王遣太子，按行天下，伺察人民善惡。

三、每月十五日：此日四天王親自按行天下，有慈孝父母，恭敬三寶，及尊長者，并修六度，持八戒齋者，諸天相慶，則降善福，注祿增算；如不修善持齋，唯造惡業，

諸天憂感，降以不祥，減祿除算。（六度者，一布施、二持戒、三忍辱、四精進、五禪定、六智慧也。八戒者，不殺生、不偷盜、不婬欲、不妄語、不飲酒、不坐臥高廣大床、不著華鬘瓔珞、不習歌舞戲樂也。齋者，過日中不食也。）

四、每月二十三日：此日四天王遣輔臣觀察，與初八日同。

五、每月二十九日：此日四天王遣太子觀察，與十四日同。

六、每月三十日：此日四天王躬自按行觀察，與十五日同。

2014. 【種子識】（科註第九四八頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）阿賴耶識之異

名。以其生一切有漏、無漏之諸法故也。

《三藏法數》「種子識六義」條：〔出成唯識論〕種即能生之義也。謂於八識之中，隨一識起時，能生一切善惡之法，故名種子識。（八識者，眼識、耳識、鼻識、舌識、身識、意識、末那識、阿賴耶識也。）

一、剎那滅義：梵語剎那，華言一念。謂眼等諸識種子，一念纔生，生則隨滅，念念不停，剎那變異；耳鼻舌身意等諸識種子，各各亦復如是，是為剎那滅義。

二、果俱有義：果即識與根也。謂識與根同時俱起，以成力用也。如眼根照色境時，眼識隨即同緣。耳根照聲境時，耳識隨即同緣，於諸實境分明顯了。鼻舌身意亦復如

是，是為果俱有義。

三、恒隨轉義：謂諸識起時，種子隨轉。如眼根照境時，眼識種子隨即相續，無有間隔。耳鼻舌身意等諸識，各各起時，亦復如是，恒隨相續，是為恒隨轉義。

四、性決定義：謂諸識各各所緣善惡無記三性，無有間雜也。如眼識緣惡境則成惡法，不能成善法。如緣善境，則成善法，不能成惡法。若緣無記，則不能成善惡二法。諸識起時，亦復如是，是為性決定義。（無記性，不善不惡之性也。）

五、待眾緣義：謂識非一因而生，必假眾緣而後成就。如眼識種子，須得空明根境等緣，方得顯發。耳鼻舌身意等諸識種子，亦

待眾緣而得成就，是為待眾緣義。（空即無壅，明即光明。）

六、引自果義：謂諸識各引自體果用，非是色心交互而成也。如眼根照時，眼識即緣所對實境，而不混於聲香之別體。耳鼻舌身意等諸識，亦復如是，是為引自果義。

2015. 【共業】（科註第九四九頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（術語）二業之一。各人共同之善惡之業，隨而各人感共同之苦樂果者。山河等之依報是也。

2016. 【別業】（科註第九四九頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「不共業」條：（術語）二業之一。人人各別之業因，而感各自之果者，如各自之五根是也。

2017. 【**劫**】<sup>一</sup>（音易）（科註第九五〇頁第三行）

《漢語大詞典》：同「逸」。逸樂。

2018. 【**蕩**】<sup>ㄉㄨㄥˋ</sup>（音蕩）（科註第九五〇頁第三行）

《漢語大詞典》：淫逸。放蕩。

2019. 【**沙彌律**】（科註第九五〇頁第六行）

具名《沙彌律儀要略》。一卷。明·蓮池

大師輯。

2020. 【**《瑜伽論》**】（科註第九五〇頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（書名）瑜伽師地論之略名。

○**瑜伽師地論**：（書名）梵名 Yogācāryabh

ūmi-śāstra，百卷，彌勒菩薩說（無著記），

唐玄奘譯。三乘之行人，謂為瑜伽師。瑜伽師所依所行之境界有十七聚，謂為瑜伽師

地，瑜伽師之地也。此論明瑜伽師所行之十七地，故名瑜伽師地論。十七地者，第一五識身相應地乃至第十七無餘依地也。

玄應音義二十二曰：「瑜伽，此譯云相應。一切乘境行果等所有諸法，皆名相應。境謂一切所緣境，此境與心相應，故名境相應。行謂一切行，此行與理相應，故名行相應。果謂三乘聖果，此果位中諸功德更相符順，故名果相應。師地，師謂三乘行者。由聞思等次第習行。如是瑜伽隨分滿足，展轉調化諸眾生，故名瑜伽師。師謂教人以道者之稱也。舊經中言觀行人者也。地謂境界所依所行。或所攝義，是瑜伽師所行境界，故名為地。即十七地也。」

佛去世後一千年中，無著菩薩自阿踰陀國講堂昇夜摩天（疑作「兜率天」）受於彌勒菩薩，晝日為大眾宣說者。本論之著述如下：瑜伽論略纂十六卷，唐窺基撰。瑜伽論劫章頌一卷，唐窺基撰。瑜伽倫記四十八卷（或作二十四卷），唐遁倫集撰。

2021. 【《訶欲經》】（科註第九五〇頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「菩薩訶色欲法經」條：（經名）一卷，秦羅什譯。誡女色。謂女人言蜜心毒，如龍淵師（同獅）窟不可近也。

《閱藏知津》「菩薩訶色欲法經」條：姚秦天竺沙門鳩摩羅什譯。謂是世間枷鎖重患衰禍，捨之復念，如出獄囚人等，凡夫為色

僕，棄之如破枷脫鎖等，女人言蜜心毒，如龍淵師窟，不可近，敗國亂家，滅人慧明，如高羅密網等，智者知而遠，惡而穢之。

2022. 【《應法》】（科註第九五三頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）與法相應，不背於理也。猶言如法。

2023. 【《四分律》】（科註第九五三頁倒數第五行）

《佛學大辭典》（節錄）：（經名）四律之一，六十卷。五部（曇無德部、薩婆多部、彌沙塞部、迦葉遺部、摩訶僧祇部）中 tan曇（音談）無德部之律藏也。姚秦佛陀耶舍、竺佛念共譯。

佛滅後百年，法正尊者（又曰法護尊者，梵名曇無德）於上座部之律藏中，契同己見

者，采集成文，隨說所止，而為一分，四度完結，故稱為四分律。蓋四分之名，非依義而判段章之名，乃四度結集之，分之為四夾，故名四分也。初分二十卷，二分十五卷，三分十四卷，四分十一卷。

2024. 【gòu 窳ㄍㄡˋ】（音夠）扇】（科註第九五三頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：猶構扇。挑撥煽動。窳，通「構」。

2025. 【南山（二）】（科註第九五四頁第八行）

《佛學大辭典》：（地名）唐道宣，四分律宗之祖也，住終南山之<sup>巖</sup>紆（音住）麻蘭若（蘭若，阿蘭若略。空淨閑靜之處），故號南山大師。（參見「道宣」1196）

2026. 【行基】（科註第九五四頁倒數第六行）

《佛光大辭典》：（六六八—七四九）日本奈良時代僧。號行基菩薩。和泉（大阪府）人。十五歲至藥師寺學唯識、瑜伽。後遊化諸國，弘揚觀想法門與淨土之說，道俗從之者多達千人，常率弟子掘池築堤，開闢道路，架設橋樑，因違反僧尼令而遭禁。日本聖武天皇崇其盛德而歸依之，並協助其建立東大寺、國分寺。乃日本最早受封為大僧正（日本最高僧階）者。天平感寶元年示寂，世壽八十二。世稱其為文殊菩薩之化身。〔續日本紀卷七、卷十一、卷十七、行基年譜、行基大菩薩行狀記〕

2027. 【非人】（科註第九五四頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（雜名）對於人而謂天龍八部及夜叉、惡鬼之冥眾，總為非人。

2028. 【大妄語】（科註第九五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「妄語戒」條（節錄）：

大妄語者，不得聖道，言我得聖道，或受天龍鬼神之供養等，總說過人之法也。

《大佛頂首楞嚴經·清淨明誨章》：阿難，如是世界，六道眾生，雖則身心，無殺盜婬，三行已圓，若大妄語，即三摩提，不得清淨。成愛見魔，失如來種。所謂未得謂得，未證言證；為求世間尊勝第一，謂前人言：我今已得須陀洹果，斯陀含果，阿那含果，阿羅漢道，辟支佛乘，十地地前，諸位菩薩。求彼禮懺，貪其供養，是一顛迦（一

闍提），消滅佛種，如人以刀斷多羅木（譯曰高疎樹），佛記是人，永<sup>hū</sup>殞（音允，死也）善根，無復知見，沉三苦海，不成三昧。

《沙彌十戒威儀錄要》：若未證四果，妄言已證。未得四禪，妄言已得。未悟道，妄言已悟。及妄言天來，龍來，鬼神來等，虛而不實，誑惑世人，名大妄語。犯重罪，失沙彌戒，不通懺悔。若功夫稍稍得力，不知法相，謂證果等，名增上慢。

《沙彌律儀要略增注》：或言得禪、得定、得三昧正受，天龍鬼神來歸依我，以此誑惑世間，而邀名利供養，罪不可悔，墮大地獄，長劫受苦。

佛言：「寧<sup>dan</sup>啖（音但，吃也）灰炭，吞食

糞土，利刀破腹，不以虛妄稱得聖法，而得供養。」是最大賊，以盜人飲食故，故言其罪極重。

未曾有經云：「妄語有二：一重，二輕。

為供養故，外現精進，內行邪濁，向人妄說得禪境界，或言見佛，見龍鬼等，名大妄語，墮阿鼻獄；復有妄語，能令殺人，破壞人家，或違失期契，令他瞋恨，名下妄語，墮小地獄。」

2029. 【簡<sup>ㄉㄩ</sup>牘<sup>ㄉㄨˊ</sup>】（音讀）（科註第九五七頁第四行）

《漢語大詞典》：古代書寫用的竹木片。

指文書；書籍；書簡。

2030. 【顯揚大戒論】（科註第九六〇頁倒數第一行）

八卷。（日）慈覺大師撰。凡十三篇，皆在顯揚菩薩大乘戒。

2031. 【法華疏記】（科註第九六二頁第三行）

見「《法華文句記》」945。

2032. 【器界】（科註第九六四頁第五行）

《佛學大辭典》：（譬喻）國土為人眾生之器物世界，故曰器界。與器世界、器世間等同。

三藏法數二十曰：「器界者，世界如器，即國土也。」

2033. 【三德（一一）】（科註第九六七頁第五行）

見「涅槃三德」268。

2034. 【廣額屠兒】（科註第九六七頁倒數第一行）

《祖庭事苑》「廣額」條：《涅槃經》

云：「（卷十九）波羅奈國有屠兒，名曰廣額，於日日中殺無量羊，見舍利弗即受八戒，經一日夜，以是因緣，命終得（為）北方天王毗沙門子。」

（卷十）又迦葉言：「拘尸那城有旃陀羅（即屠夫。旃，音沾）名曰歡喜，佛記此人由一發心，當於此界千佛數中速成無上正真之道。以何等故？如來不記舍利弗、目犍連等速成佛道？」佛言：「善男子，或有聲聞、緣覺、菩薩作誓願言，我當久久護持正法，然後乃成無上佛道。以發願速故，與速記。」

2035. 【鳥窠ヲノ】（音科）禪師】（科註第九六八頁第三行）

《五燈會元卷二》（節錄）：杭州鳥窠道林禪師，本郡富陽人也。姓潘氏。母朱氏夢日光入口，因而有娠shēn（音身。懷孕）。及誕異香滿室，遂名香光。九歲出家，二十一於荊州果願寺受戒。後詣長安西明寺復禮法師，學華嚴經、起信論。（中略）

有侍者會通，忽一日欲辭去，師問曰：「汝今何往？」對曰：「會通為法出家，以和尚不垂慈誨，今往諸方學佛法去。」師曰：「若是佛法，吾此間亦有少許。」曰：「如何是和尚佛法。」師於身上拈起布毛吹之，會通遂領悟玄旨。

元和中，白居易侍郎出守茲郡，因入山謁師，問曰：「禪師住處甚危險。」師曰：

「太守危險尤甚。」曰：「弟子位鎮江山，何險之有？」師曰：「薪火相交，識性不停，得非險乎？」又問：「如何是佛法大意？」師曰：「諸惡莫作，眾善奉行。」白曰：「三歲孩兒也解恁麼（這樣，如此。恁，音認）道。」師曰：「三歲孩兒雖道得，八十老人行不得。」白作禮而退。

師於長慶四年二月十日，告侍者曰：「吾今報盡。」言訖坐亡。（壽八十有四，臘六十。）（有云師名圓修者，恐是諡號）

2036. 【何<sup>合</sup>啻<sup>赤</sup>】（音赤）（科註第九六八頁第六行）

《漢語大詞典》：猶何止，豈只。

2037. 【妙宗鈔】（科註第九六八頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（書名）宋四明尊者，

釋天台之觀經疏題為妙宗鈔。自序曰：「上順妙宗，略消此疏。」

《閱藏知津》「佛說觀無量壽佛經疏妙宗鈔」條：六卷。宋四明沙門知禮述。先略明大意云：果佛圓明之體即我凡夫本具性德，故一切教所談行法，無不為顯此之覺體，故四三昧，通名念佛，但其觀法，為門不同，今此觀門，及般舟三昧，託彼安養依正之境，用微妙觀，專就彌陀，顯真佛體，雖託彼境，須知依正同居一心，心性遍周，無法不造，無法不具，據乎心性觀彼依正，依正可彰，託彼依正觀於心性，心性易發。所言心性具一切法者，實無能具所具，能造所造，即心是法，即法是心，能造因緣，及所

造法，皆悉當處全是心性，是故今觀若依若正，乃法界心，觀法境界，生於法界依正色心，故釋觀字，用一心三觀，釋無量壽，用一體三身，體、宗、力用，義並從圓，判教屬頓。

### ◎ 重重誨勉第三十六

2038. 【業病】（科註第九七〇頁倒數第一行）

《佛學大辭典》：（雜語）依前世惡業而感之病，必不可免者。

《三藏法數》「二種病」條：〔出大智度論〕

一、先世行業病，謂因先世好行鞭杖、拷掠、閉繫種種惡法，惱害眾生，故感今世多

病，是名先世行業病。

二、現世失調病，謂因冷熱風雨不知將養其身，及飲食不節，臥起無常，以是事故，得種種病，是名現世失調病。

《天台教學辭典》「病起六緣」條：「摩訶止觀」卷八之上所言，眾生病皆因六緣而起：一四大不順。二飲食不節。三坐禪不調。

四鬼神得便。（鬼魅著人而為病者。《摩訶止觀》曰：若入四大五藏（即五臟），是名鬼病。（中略）良由人邪念種種事，或望知吉凶，兜醢（音西）羅鬼作種種變，青黃等色從五根入，則意地邪解，能知吉凶，或知一身、一家、一村、一國吉凶事，此非聖知也；若不治之，久久則殺人。）

五魔神相擾。(《魔訶止觀》曰：鬼但病身殺身，魔則破觀心，破法身慧命，起邪念想奪人功德，與鬼為異。亦由行者於坐禪中，邪念利養，魔現種種衣服、飲食、七珍雜物，即領受歡喜，入心成病。)

六惡業所起。(《魔訶止觀》曰：或專是先世業，或今世破戒動先世業，業力成病，還約五根，知有所犯。若殺罪之業，是肝眼病；飲酒罪業，是心口病；婬罪業，是腎耳病；妄語罪業，是脾舌病；若盜罪業，是肺鼻病。毀五戒業，則有五藏、五根病起，業謝乃差(病除)。若今生持戒亦動業成病，故云：若有重罪，頭痛得除；應地獄重受，人中輕償。此是業欲謝，故病也。夫業病多種，腫滿黃虛。凡諸病患，須細心尋檢，知病根源，然後用治也。)

2039. 【斷割】(科註第九七四頁第五行)

《漢語大詞典》：裁決。

2040. 【心忤<sup>ト</sup>】(音記) (科註第九七四頁第六行)

《漢語大詞典》：心中害怕。

2041. 【耳根圓通】(科註第九七六頁第六行)

《三藏法數》「耳根」條：耳根者，謂觀世音菩薩，往昔劫中，於觀世音佛所，發菩提心。彼佛教其從聞思修入三摩提，於是菩薩即於聞中，入流亡所，所入既寂，動靜二相，了然不生，一念頓空聞性而入圓通矣。經中所謂，生滅既滅，寂滅現前者，即圓通之體也。上合諸佛妙心，下同眾生悲仰，而現乎三十二應，施以十四無畏等者，乃圓通之用也。故云我從耳門，圓照三昧，緣心自

在，成就菩提，斯為第一。（聞、思、修，即三慧也。梵語三摩提，即三摩地也。

人流亡所者，不隨聲塵，頓入法流，而亡其所入也。

三十二應者，佛應、獨覺應、緣覺應、聲聞應、梵王應、帝釋應、自在天應、大自在天應、天大將軍應、天王應、四天王太子應、人王應、長者應、居士應、宰官應、婆羅門應、比丘應、比丘尼應、優婆塞應、優婆夷應、女主應、童男應、童女應、諸天應、龍應、藥叉應、乾闥婆應、阿修羅應、緊那羅應、摩呼羅伽應、人應、非人應也。

十四無畏者，一、不自觀音以觀觀者；二、知見旋復；三、觀聽旋復；四、斷滅妄

想，心無殺害；五、熏聞成聞，六根消復，同於聲聽；六、聞熏精明，明徧法界；七、音性圓消，觀聽返入；八、滅音圓聞，徧生慈力；九、熏聞離塵，色不能劫；十、純音無塵，根境圓融；十一、消塵旋明；十二、融形復聞；十三、六根圓通，明照無二；十四、我一名與六十二恒河沙名，等無有異也。（參見「聞思修」1888）

2042. 【五欲（二）】（科註第九七七頁第七行）

《三藏法數》：「出天台四教儀集註」止觀云：五塵非欲，而其中有味，能起行人須欲之心，故言五欲常能牽人，人諸魔境故也。（五塵者，色塵、聲塵、香塵、味塵、觸塵也。）

一、色欲：謂男女形貌端莊，及世間寶物玄黃朱紫種種妙色，能令眾生樂著無厭，故名色欲。

二、聲欲：謂絲竹環珮之聲，及男女歌詠等聲，能令眾生樂著無厭，故名聲欲。

三、香欲：謂男女身香，及世間一切諸香，能令眾生樂著無厭，故名香欲。

四、味欲：謂種種飲食肴膳（飯菜也。肴，音搖）等美味，能令眾生樂著無厭，故名味欲。

五、觸欲：謂男女身分柔軟細滑，寒時體溫，熱時體涼，及衣服等種種好觸，能令眾生樂著無厭，是名觸欲。

2043. 【五箭】（科註第九七七頁第七行）

《佛學大辭典》：（譬喻）譬五欲之害身。

俱舍論一曰：「趣求諸欲人，常起於希望。諸欲若不遂，惱壞如箭中。」

◎ 如貧得寶第三十七

2044. 【文殊師利授記會】（科註第九八〇頁第一行）

《大寶積經》第十五會，卷五八至六〇。

2045. 【善生經】（科註第九八〇頁第八行）

係善生長者為大乘在家信者說三皈五戒等。又稱優婆塞戒本。（參見「《優婆塞戒經》1940）

2046. 【五滓<sup>tv</sup>（音子）】（科註第九八〇頁倒數第四行）

《佛學大辭典》：（雜語）與五濁同。

行事鈔資持記上一之三曰：「滓，沮史反，濁也。」（參見「五濁」）

2047. 【半字教、滿字教】（科註第九八二頁倒數第一行）

《佛學大辭典》「半滿教」條：（術語）涅槃經以梵書之悉曇章阿、阿（引）（「引」字表發長音）等半體字譬小乘經，毘伽羅論之成字譬大乘之經典（悉曇章，列次梵字之元始及其生字，為兒童最初之科本，以母音、子音各別，未成全字，義未具足，故稱半字；毘伽羅論即文法書，母音子音相合而成全字，義理具足，故稱滿字）。曇無讖三藏依之判一代教立半滿之二教。謂小乘為半字教，大乘為滿字教也。

大乘義章一曰：「此二亦名大乘小乘半滿

教也。聲聞藏法狹劣名小，未窮名半。菩薩藏法寬廣名大，圓極名滿。」

華嚴玄談四曰：「曇無讖三藏立半滿教，隋遠法師亦同此立。」

止觀三曰：「明半滿，半者明九部法也，滿者明十二部法也。〔中略〕半滿之語直是扶成大小。」同輔行曰：「半唯在小，永隔於大。方等則具存半滿，般若法華涅槃華嚴唯滿不半，鹿苑唯半不滿。」

《三藏法數》「曇讖二教」條：〔出華嚴經疏〕曇<sup>chèn</sup>讖<sup>chèn</sup>（音趁）二教者，西秦曇牟讖三藏立此二教也。（西秦，東晉十六國之一。曇牟讖，又作曇無讖，中印度人，翻北本《涅槃經》者。）

一、半字教：半字教者，謂聲聞藏，談理未徧，若字之有半也。

二、滿字教：滿字教者，謂菩薩藏，談理滿足，若字之圓滿也。

2048. 【丘】（科註第九八六頁第二行）

《漢語大詞典》：古代區劃田地、政區的單位名。《周禮·地官·小司徒》：「九夫為井，四井為邑，四邑為丘。」鄭玄注：「四井為邑，方二里；四邑為丘，方四里。」

2049. 【風雹】（科註第九八六頁第五行）

指冰雹、雷雨大風和龍捲風等強對流性天氣造成的一種自然災害。

2050. 【厲】（科註第九八六頁第六行）

《漢語大詞典》：病災；瘟疫（流行性急性傳染病的總稱）。

2051. 【陸沉】（科註第九八六頁第六行）

《漢語大詞典》：謂陸地沉入海底。

2052. 【偃武修文】（科註第九八六頁倒數第六行）

《漢語大詞典》：停息武備，修明文教。

2053. 【厚往薄來】（科註第九八七頁第二行）

《漢語大詞典》：在交往中施予豐厚而納受微薄。《禮記·中庸》：「厚往而薄來，所以懷諸侯也。」孔穎達疏：「厚往，謂諸侯還國，王者以其材賄厚重往報之。薄來，謂諸侯貢獻使輕薄而來。如此，則諸侯歸服。」

2054. 【五善】（科註第九八七頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（名數）五戒也。

2055. 【正法五百年，像法千歲，末法萬歲】  
（科註第九八八頁第五行）

《三藏法數》「三時」條（節錄）：〔出南嶽祖師發願文〕謂釋迦如來入滅之後，其教法住世，有此三時不同也。

一、正法時：正猶證也。謂如來滅後，教法住世，人有稟教者，即能修行；有修行者，即能證果，是名正法。據法住記云：佛告阿難：我滅度後，正法一千年，由女人出家，減五百年。又據善見論云：後為比丘尼說八敬法，還得一千年。（中略）（八敬法者，一、尼百歲，禮初夏比丘〔初受戒比丘才

經一夏也〕足；二、不得罵謗比丘；三、不得舉比丘過；四、從僧受具戒；五、有過從僧懺；六、半月從僧教誡；七、依僧三月安居；八、夏訖從僧自恣法〔自者即自陳己過，恣者即恣他舉罪〕也。）

二、像法時：像者似也；有教有行，似正法時故也。謂如來滅後，教法住世，人有稟教，即能修行，多不能證果，是名像法。據法住記云：佛告阿難：我滅度後，像法一千年。

三、末法時：謂如來滅後，教法垂世，人雖有稟教，而不能修行、證果，是名末法。據法住記云：佛告阿難：我滅度後，末法一萬年。（參見《科註》第一〇五九頁）

2056. 【塗毒鼓】（科註第九八九頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（雜語）以毒料塗於鼓上，使人聞聲而即死者也。

傳燈錄曰：「全豁禪師上堂，一僧出禮拜請。師曰：吾教意猶如塗毒鼓。擊一聲，遠近聞者皆喪。」

○毒鼓（節錄）：（譬喻）毒鼓之聲能殺人，以譬涅槃經所說佛性常住之聲，能殺害眾生之五逆十惡，使人於佛道也。

### ◎ 禮佛現光第三十八

2057. 【烏托邦】（科註第九九一頁第一行）

《漢語大詞典》：理想中最美好的國家。

本為英國空想社會主義者莫爾 (Thomas More) 所著書名。書裡描寫了他所想象的沒有階級的幸福社會。後泛指不能實現的空想境界。

2058. 【足指按地】（科註第九九二頁倒數第一行）

《維摩詰經·佛國品第一》：爾時舍利弗，承佛威神作是念：若菩薩心淨則佛土淨者，我世尊本為菩薩時，意豈不淨？而是佛土不淨若此。佛知其念即告之言：「於意云何？日月豈不淨耶？而盲者不見。」對曰：「不也，世尊。是盲者過，非日月咎。」舍利弗，眾生罪故，不見如來佛土嚴淨，非如來咎。舍利弗，我此土淨而汝不見。」爾時螺髻梵王語舍利弗：「勿作是意，謂此佛土以為不淨。所以者何？我見釋迦牟尼佛土清

淨，譬如自在天宮。」舍利弗言：「我見此土，丘陵坑坎，荊棘沙礫，土石諸山，穢惡充滿。」螺髻梵王：「仁者心有高下，不依佛慧，故見此土為不淨耳。」「舍利弗，菩薩於一切眾生，悉皆平等，深心清淨，依佛智慧則能見此佛土清淨。」

於是佛以足指按地，即時三千大千世界，若干百千珍寶嚴飾，譬如寶莊嚴佛無量功德寶莊嚴土，一切大眾歎未曾有，而皆自見坐寶蓮華。佛告舍利弗：「汝且觀是佛土嚴淨。」舍利弗言：「唯然世尊，本所不見，本所不聞。今佛國土嚴淨悉現。」佛語舍利弗：「我佛國土，常淨若此，為欲度斯下劣人故，示是眾惡不淨土耳。譬如諸天共寶器

食，隨其福德，飯色有異。如是舍利弗，若人心淨，便見此土功德莊嚴。」

當佛現此國土嚴淨之時，寶積所將五百長者子皆得無生法忍，八萬四千人皆發阿耨多羅三藐三菩提心。佛攝神足，於是世界還復如故。求聲聞乘三萬二千人及人，知有為法皆悉無常，遠塵離垢，得法眼淨，八千比丘，不受諸法，漏盡意解。

2059. 【閻浮檀金】（科註第九九三頁倒數第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（雜名）Jambunad asuvarīa，又作炎浮檀金，閻浮那提金，閻浮那陀金，yán lì<sup>ㄢˋ ㄌㄧˋ</sup>（音演）浮那他金。金名。其色赤黃，帶紫焰氣。閻浮為樹名。檀或那提，譯曰河。閻浮樹下有河，曰閻浮檀。此河中

出金曰閻浮檀金。即閻浮河金也。

智度論三十五曰：「此洲上有樹林，林中有河，底有金沙，名為閻浮檀金。」

2060. 【七佛神咒經】（科註第九九七頁倒數第二行）

《閱藏知津》「七佛所說神咒經」條：四卷。一名廣濟眾生神咒。開元附東晉錄。七佛各說咒，菩薩各說咒，諸天仙星等各說咒。菩薩各說誓願，各說偈，金剛藏菩薩說五疑，五信，二十五王三昧，護戒歸神，護伽藍十八神，并四天王所說大神咒經。

《佛學大辭典》「七佛所說神咒經」條：（經名）七佛八菩薩所說大陀羅尼神咒經之略名。四卷，晉代失譯。說七佛八菩薩各神

咒。

2061. 【水輪】（科註第九九八頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）成立世界四輪之一。空輪上有風輪，此風輪上，光音天之雨，生深十一億二萬（按《俱舍論》，此數目之單位為「由旬」）之水層，是名水輪。此水輪之上層凝結，即金輪際也。九山八海，安立於此金輪上。見俱舍論十一。

2062. 【第二禪天】（科註第九九八頁第七行）

《佛學大辭典》「二禪天」條：（界名）修成二禪者，所生之天處也，為色界天之第二重，新譯謂之二靜慮。此中更別為三天，一少光天、二無量光天、三光音天也。二禪之天人，既離尋伺（麤心在緣日尋，細心分別日

伺)之羸(同「粗」)動，雖免劫末之大火災，然以其猶有喜樂之念，故不得免劫末之大水災，何則？以喜樂之潤身，與水大之潤身相似故也。

俱舍論十二曰：「第二靜慮喜受為內災，與輕安潤身如水故。」

2063. 【潘岳】(科註第九九八頁第八行)

字安仁，河南中牟人，西晉文學家，與陸

機齊名。

2064. 【湯】(音商)湯】(科註第九九八頁倒數第三行)

《漢語大詞典》：水流盛大貌。

2065. 【藥叉】(科註第一〇〇〇頁第七行)

即夜叉，天龍八部之一。(參見「夜叉」)

(88)

2066. 【人非人】(科註第一〇〇〇頁第八行)

《佛學大辭典》(節錄)：天龍等八部眾之總稱，以彼等本非人而詣佛所皆現人體也。

舍利弗問經曰：「八部皆曰人非人。」

法華經義疏二曰：「人非人者，八部鬼神本悉非人，而變作人形來聽說法，故云人非人也。」

2067. 【十神王】(科註第一〇〇一頁第六行)

《三藏法數》：「出華嚴經疏」十山皆稱王者，謂依海而住，高出一切諸餘小山，以喻十地菩薩修行，同人如來智海，高出一切二乘諸行也。(二乘者，聲聞乘、緣覺乘也。)

一、雪山王：謂此山中，具諸藥草，能療眾病，取不可盡；以喻歡喜地菩薩，聖智法藥，用之無竭，以破無明，超前行位，如雪山王也。

二、香山王：謂此山中，一切諸香，皆悉充滿；以喻離垢地菩薩，戒行威儀，功德妙香，徧熏一切，如香山王也。

三、鞞陀梨山王：梵語鞞陀梨，華言種種持。謂此山純寶所成，持種種寶；以喻發光地菩薩，禪定神通，解脫三昧諸法，可貴可寶，如<sup>多</sup>鞞（音皮）陀梨山王也。（梵語三昧，華言正定。）

四、神仙山王：謂此山中，多神仙所居；以喻焰慧地菩薩，超出世間，得大自在，如

神仙山王也。

五、由乾陀山王：梵語由乾陀，華言持雙。謂此山純寶所成，諸夜叉王，咸住其中；以喻難勝地菩薩，如意神通，善巧自在，如由乾陀山王也。（梵語夜叉，華言勇健。）

六、馬耳山王：謂此山純寶所成，一切諸果，咸產其中；以喻現前地菩薩，從於理體，起諸妙用，化導眾生，以證聲聞之果，如馬耳山王也。

七、尼民陀羅山王：梵語尼民陀羅，華言持邊。謂此山純寶所成，大力龍神，咸在其中；以喻遠行地菩薩，方便智慧，化諸有情，證緣覺果，如尼民陀羅山王也。

八、斫迦羅山王：梵語 zhuó 斫 迦（音濁）迦羅，華言輪圍。謂此山金剛輪圍，純寶所成，諸自在仙，咸在其中；以喻不動地菩薩，無功用道，得心自在，化菩薩眾，如斫迦羅山王也。（無功用道，即無功用行也，謂菩薩順性而修，雖加功用行，而能離於行相也。）

九、計都末底山王：梵語計都末底，華言幢慧。謂此山純寶所成，大威德阿修羅王，咸在其中；以喻善慧地菩薩，善巧攝生，大力智行，如計都末底山王也。（梵語阿修羅，華言無端正。）

十、須彌盧山王：梵語須彌盧，華言妙高。謂此山純寶所成，大威德天，咸在其

中；以喻法雲地菩薩，具如來力，成就無畏，以不共法，為眾宣說，問答無盡，如須彌盧山王也。（不共法者，謂如來法，而與三乘之法迥別也。）

2068. 【kōng 箜 篥】（音空）hóu 篥（音侯）（科註第一〇〇三頁倒數第二行）

《中國大百科全書》（節錄）：撥奏弦鳴樂器。中國古老的撥絃（音咸）樂器，有臥式和豎式兩種。

2069. 【四悉檀】（科註第一〇〇五頁倒數第一行）

《三藏法數》：〔出法華文句〕悉，徧也。檀，梵語具云檀那，華言施。華梵兼稱，故名悉檀。佛以此四說法，徧施一切眾生，故名四悉檀也。

一、世界悉檀：世即隔別之義，界即界分也。蓋由眾生根器淺薄，故佛隨其所欲樂聞，為之次第分別而說，令生歡喜，是名世界悉檀。

二、為人悉檀：謂佛欲說法，必先觀眾生機器（機宜根器）之大小，宿種之淺深，然後稱其機宜而為說之，令生正信，增長善根，故名為人悉檀。

三、對治悉檀：謂如眾生貪欲多者，教觀不淨；瞋恚多者，教修慈心；愚癡多者，教觀因緣。為對此等諸病，說此法藥，徧施眾生，故名對治悉檀。

四、第一義悉檀：第一義，即理也。謂佛知眾生善根已熟，即為說法，令其得悟聖

道，是名第一義悉檀。

2070. 【諸佛現前三昧】（科註第一〇〇六頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）見十方世界諸佛，現顯自己前說法之三昧。

2071. 【佛說如幻三摩地無量印法門經】（科註第一〇〇六頁第四行）

《閱藏知津》：（二卷）宋北印土沙門施護等譯。與《觀世音菩薩得大勢菩薩受記經》同本。末後有一女人發心，使得轉為男子，授菩提記。

2072. 【目瞽】（音省）（科註第一〇〇七頁第五行）

《漢語大詞典》：眼病之一。目生翳（音易，目疾引起的障膜）。

◎ 慈氏述見第三十九

2073. 【淨居有五天】（科註第一〇〇九頁第三行）

《三藏法數》「五淨居天」條：〔出楞嚴經〕五淨居天者，謂聲聞之人，斷欲界九品思惑盡，證第三阿那含果，而居其中，亦名五不還天。若據俱舍圖（疑作「俱舍論」）言，此五天次第而上。若據楞嚴經言，此五天，皆橫在第四禪天中，彼四禪天，但能聞此五天之名，而不能知見。如世間聖地道場，多有羅漢所居，而人不能見也。（九品者，欲界思惑三品中，每品又各分上中下三品，故言九品也。梵語阿那含，華言不來，不來即不還，謂不還來欲界受生也。）

一、無煩天：謂此天苦樂兩滅，心境不交，則無煩惱，故名無煩天也。（苦樂兩滅者，離欲界苦及色界樂也。心境不交者，心與境不交接也。）

二、無熱天：熱即熱惱。謂此天機括獨行，研交無地，故名無熱天也。（機括獨行者，機謂弩牙（弩機鉤弦的部件），括與箏同（箏，音擴。箭的尾端，射時搭在弓弦上的部分），謂箭所受絃（音賢。弓上的弦）之處，皆取可發之義，以喻於心也。前苦樂之境雖滅，猶存能滅之念，故云機箏獨行。至此天中，研究此心與境交接之念，無依無處，則無熱惱，故云研交無地也。）

三、善見天：謂此天於十方世界，妙見圓

澄，更無塵象及一切沉垢，故名善見天也。

（十方世界等者，謂一心在定，定能發慧，於慧心中見十方界，圓徧澄凝，更無世界內外塵象，及無心地昏沉之垢也。）

四、善現天：謂此天精見現前，陶鑄無礙，故名善現天也。（精見現前，陶鑄無礙者，範（指用模子澆鑄）土曰陶，鎔金曰鑄。以妙精明見，陶鑄一切像，空無障礙故也。）

五、色究竟天：謂此天究竟群幾，窮色性，人無邊際，故名色究竟天也。（究竟群幾者，幾謂幾微，言究盡諸色幾微之處也。窮色性性，人無邊際者，色性所依之性，故云性性，性本無邊，若研窮之，則人於無邊際矣。）

2074. 【俱舍頌】（科註第一〇〇九頁第四行）

《佛學大辭典》：（書名）阿毘達磨俱舍論本頌，一卷，唐玄奘譯。是俱舍論之本頌也。有六百頌。

世親最初造此頌文，宣布之於世。以文義幽深，淺智之人不可解，後作論文解之，即俱舍論也。論中本人本頌。

2075. 【異生】（科註第一〇〇九頁第四行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）凡夫之異名，凡夫輪迴六道，受種種別異之果報；又凡夫種種變異而生邪見造惡，故曰異生。

大日經疏一曰：「凡夫者，正譯應云異生，謂由無明故。隨業受報，不得自在。墮於種種趣中，色心像類，各各差別，故曰異

生也。」

唯識述記二本曰：「異有二義：一別異名異，謂聖唯生人天趣。此通五趣故。又變異名異，此轉變為邪見等故，生謂生類。」

探玄記十曰：「異生者，執異見而生，故曰異生。即舊名凡夫也。」

2076. 【五智（二）】（科註第一〇一三頁第一行）

本經《邊地疑城第四十》曰：若有眾生，以疑惑心，修諸功德，願生彼國。不了佛智、不思議智、不可稱智、大乘廣智、無等無倫最上勝智，於此諸智，疑惑不信。

### ◎ 邊地疑城第四十

2077. 【《守護國界主經》】（科註第一〇一五頁第六行）

《佛學大辭典》「守護國界主陀羅尼經」條：（經名）十卷，唐般若、牟尼室利同譯，有十一品。陀羅尼功德儀軌品，金剛手問：諸佛等視眾生，云何但言守護國主？佛言，譬如醫治嬰孩病，使母服藥。

智旭師云：按此經所談之法相義理，與大集經第二陀羅尼自在王菩薩品全同，但次第稍異耳，文理兼暢，最宜流通。

2078. 【《菩薩處胎經》】（科註第一〇一五頁倒數第三行）

《中華佛教百科全書》：七卷。後秦·竺

佛念譯。又稱《菩薩從兜術天降神母胎說廣普經》、《處胎經》、《胎經》。收在《大正藏》第十二冊。

全經分三十八品，卷一敘述佛為阿難，以神通顯現處於母胎中之相狀，令知胎中如天宮，菩薩身不蒙微塵。時十方諸菩薩來集，在胎宮中從佛聞法。此下至第三十四品為胎中說法，弘闡空之思想。第三十五品以後，述及佛將本經付囑彌勒，記載八大國王、諸天等分配舍利及建塔，又說以大迦葉為上首而結集遺法，凡有胎化藏、中陰藏等八藏。

2079. 【四智】（科註第一〇一六頁倒數第二行）

《三藏法數》：〔出成唯識論〕

一、大圓鏡智：謂如來真智，本性清淨，

離諸塵染，洞徹內外，無幽不燭。如大圓鏡，洞照萬物，無不明了，是名大圓鏡智。

二、平等性智：謂如來觀一切法與諸眾生皆悉平等，以大慈悲心，隨其根機，示現開導，令其證入，是名平等性智。

三、妙觀察智：謂如來善能觀察諸法，圓融次第；復知眾生根性樂欲，以無礙辯才，說諸妙法，令其開悟，獲大安樂，是名妙觀察智。

四、成所作智：謂如來為欲利樂諸眾生故，普於十方世界，示現種種神通變化，引諸眾生，令人聖道，成本願力所應作事，是名成所作智。

《佛學大辭典》（節錄）：（名數）法相宗

所立如來之四智。凡夫有八識，至如來轉為四智。

一、大圓鏡智，轉第八識者。如有漏之第八識變依正二報而持有情之身。此智變如來之身土而持一切之功德，猶如大圓鏡中，現一切之色像，故名大圓鏡智。緣境無邊，照法界之事理，故又名一切種智。即如來萬德之總本也。

二、平等性智，是轉第七識者。反於第七識之我見而達無我平等之理，於一切眾生起無緣大悲之智也。

三、妙觀察智，轉第六識者。妙觀察諸法之相，而施說法斷疑之用之智也。

四、成所作智，轉眼等五識者。為利一切

凡夫二乘類，成種種變化事之智也。如來之現化身、化土及諸神通所作，皆智之作用也。見唯識論十、百法問答鈔八。

2080. 【本識】（科註第一〇一七頁第六行）

《佛學大辭典》：（術語）阿賴耶識十八名之一。是為有為無為一切法之根本，故名本識。見了義燈四本。

2081. 【比量】（科註第一〇一九頁倒數第二行）

《三藏法數》：比，即比類。謂以第六意識比類量度，知有諸境。如遠見煙，知彼有火，是名比量。

《佛學大辭典》：（術語）因明（古代印度五明之一。即關於邏輯推理的學說，隨佛教傳入中國）三量之一。又心識上三量之一。比者比

類也，以分別之心，比類已知之事，量知未知之事也。如見煙比知於彼有火是也。因而因明法者，以因與喻比知主義之軌式也。總稱為比量者，是人識中唯意識之用也。

因明入正理論曰：「言比量者，謂藉眾相而觀義。」

2082. 【六信】（科註第一〇二二頁第八行）

《阿彌陀經要解》：信自者：信我現前一念之心，本非肉團，亦非緣影。豎無初後，橫絕邊涯，終日隨緣，終日不變。十方虛空微塵國土，元我一念心中所現物。我雖昏迷倒惑，苟一念回心，決定得生自心本具極樂，更無疑慮。是名信自。

信他者：信釋迦如來決無誑語，彌陀世尊

決無虛願，六方諸佛廣長舌決無二言。隨順諸佛真實教誨，決志求生，更無疑惑。是名信他。

信因者：深信散亂稱名，猶為成佛種子，況一心不亂，安得不生淨土。是名信因。

信果者：深信淨土，諸善聚會，皆從念佛三昧得生，如種瓜得瓜，種豆得豆，亦如影必隨形，響必應聲，決無虛棄。是名信果。

信事者：深信只今現前一念不可盡故，依心所現十方世界亦不可盡，實有極樂國，在十萬億土外，最極清淨莊嚴，不同莊生寓言。是名信事。

信理者：深信十萬億土，實不出我今現前介爾一念心外，以吾現前一念心性實無外

故。又深信西方依正主伴，皆吾現前一念心中所現影。全事即理，全妄即真，全修即性，全他即自。我心徧故，佛心亦徧，一切眾生心性亦徧，譬如一室千燈，光光互徧，重重交攝，不相妨礙。是名信理。

2083. 【無我我所】（科註第一〇二二頁第八行）

《佛學常見辭彙》「無我我所」條：我者自身，我所者身外的事物，即我所有的簡稱。無我我所是說沒有真實的自我，也沒有真實的身外之物，一切都是緣生的，似有非實。

《三藏法數》「我」條：謂於五陰等法中，無明不了，妄計有我、我所之實，故名為我。

《佛學大辭典》「我我所」條：（術語）

我者，謂自身；我所者，為身外之事物。是為我所有，故名我所。

智度論三十一曰：「我是一切諸煩惱根本，先著五眾（五蘊之身）為我，然後著外物為我所。」

註維摩經二：「肇曰：我身之妙主，我所自我之外，身及國財妻子萬物盡我所也。什曰：離我眾生空，離我所法空也。」

慧遠維摩經疏一末曰：「約報名我，外境是其我家所有，名為我所。」

圓覺經鈔九曰：「我謂正報，我所謂依報。」

2084. 【袁中郎宏道居士】（科註第一〇二六頁第六行）

《淨土聖賢錄》（節錄）：袁宏道，字中

郎，號石頭居士，湖北公安人也。兄宗道，字伯修。弟中道，字小修。三人先後舉進士，皆好禪宗。萬曆中，宏道為吳江知縣。後為禮部主事。謝病歸，初學禪於李卓吾，信解通利，喜辯論。已而自驗曰：「此空談，非實際也。」遂迴向淨土，晨夕禮誦，兼持禁戒。因博采經教，作西方合論，圓融性相，人不二門。其論五種行門（信心行、止觀行、六度行、悲願行、稱法行），尤為切要。

（中略）

中道，官南禮部郎中。乞休，老於家，居常勤於禮誦。萬曆四十二年望夕，課畢跌坐，形神靜爽。忽入定，神出屋上，飄然乘雲。（中略）至一樓下，一人下迎，其顏如

玉，衣如雲霞，長丈餘，見中道，喜曰：「弟至矣。」諦視之，則宏道也。上樓交拜，有四五人來共坐。

宏道曰：「此西方邊地也。信解未成，戒寶未全者，多生此。（中略）上方有化佛樓臺。前有大池，可百由旬。中有妙蓮，眾生處。既生，則散處樓臺，與有緣淨友相聚。以無婬聲美色，勝解易成，不久，進為淨土中人。」中道問：「兄生何處？」宏道曰：「我淨願雖深，情染未除，初生此少時，今居淨土矣。終以戒緩，僅地居，不得與大士昇虛空寶閣，尚需進修耳。幸宿生智慧猛利，又曾作西方論，讚歎如來不可思議度生之力，感得飛行自在，游諸刹土，諸佛

說法，皆得往聽，此實為勝。」

2085. 【《西方合論》】（科註第一〇二六頁第六行）

《佛學大辭典》：（書名）十卷。明袁宏道撰。集古德之要語，述西方淨土之教義者。

### ◎ 惑盡見佛第四十一

2086. 【粗苦】（科註第一〇三二頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「下地麤苦障」條：（術語）外道於三界九地離下地而生上地時，觀下地 cū 麤〔音粗〕苦障，上地靜妙離，以斷下地之煩惱。是名六行觀。觀下地為麤、為苦、為障而厭之，觀上地為靜、為妙、為離

而願之。

《三藏法數》「六行觀」條：〔出禪波羅蜜次第法門〕謂厭下苦麤障，欣上勝妙利，各有因果，依此六法修行，是名六行觀。

一、厭苦觀：謂思惟身中所起心數，緣於貪欲，不能出離，是為因苦。復思欲界報身，饑渴寒熱，病痛刀杖等種種所逼，是為果苦。苦因、苦果，皆須厭惡也。（心數者，受、想、行也。）

二、厭麤觀：謂思惟欲界五塵，能起眾惡，是為因麤，復思此身為三十六物屎尿臭穢之所成就，是為果麤。麤因、麤果，皆須厭惡也。（五塵者，色塵、聲塵、香塵、味塵、觸塵也。三十六物者，外相十二，謂

髮、毛、爪、齒、眇（音吃。眼屎也）、淚、涎、唾、尿、屎、垢、汗也。身器十二，謂皮、膚、血、肉、筋、脈、骨、髓、肪、膏、腦、膜也。內含十二，謂肝、膽、腸、胃、脾、腎、心、肺、生藏、熟藏、赤痰、白痰也。）

三、厭障觀：謂思惟煩惱障覆真性，不能顯發，是為因障。復思此身質礙，不得自在，是為果障。因障、果障，皆須厭惡也。

四、忻勝觀：謂既厭欲界下劣貪欲之苦，即<sup>T<sub>1</sub></sup>忻（音心。心喜也）初禪上勝禪定之樂，是為因勝。復厭欲界饑渴等苦，即忻初禪禪味之樂，是為果勝。得樂勝苦，皆須忻喜也。

五、忻妙觀：謂既厭欲界貪欲五塵之樂，心亂馳動為羸，即忻初禪禪定之樂，心定不動，是為因妙。復厭欲界臭穢之身為羸，即忻受得初禪之身，如鏡中像，雖有形色，無有質礙，是為果妙。得妙勝羸，皆須忻喜也。

六、忻出觀：謂既厭欲界煩惱蓋障，即忻初禪心得出離，是為因出。復厭欲界之身質礙不得自在，即忻初禪獲得五通之身自在無礙，是為果出。得出勝障，皆須忻喜也。（五通者，天眼通、天耳通、他心通、宿命通、神足通也。）

2087. 【婆伽梵】（科註第一〇三五頁第四行）

又作薄伽梵，譯曰世尊。（參見「薄伽梵」

546)

2088. 【千手經】（科註第一〇三五頁第八行）

《佛學大辭典》：（經名）具名千手千眼

觀世音菩薩廣大圓滿無礙大悲心陀羅尼經。

一卷，唐伽梵達磨譯，略云千手經，千手陀

羅尼經。是即流通本之大悲咒也。宋四明尊

者依經設立行法，至今如說修之。應驗非

一。

不空譯之千手千眼觀世音菩薩大悲心陀羅

尼為此本之異譯。其他別本之千手經有二

部：一為唐智通譯之千眼千臂觀世音菩薩陀

羅尼神咒經二卷，一為唐菩提流志譯之千手

千眼觀世音菩薩姥陀羅尼身經。此二者同本

異譯也。

2089. 【後有】（科註第一〇三七頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）未來之果報

也。後世之心身也。

勝mán鬘nǚ（音瞞）經曰：「阿羅漢闍支佛所斷

煩惱，更不能受後有。」

智度論一曰：「後有愛種永已盡。」

2090. 【須菩提】（科註第一〇四〇頁第八行）

《翻譯名義集》：淨名疏云：此云善吉，

亦云善業，亦云空生。其生之日，家室皆

空，父母驚異，請問相師。相師占云：此是

吉相。因名善吉。

稟性慈善，不與物諍。及其出家，見空得

道，兼修慈心，得無諍三昧。是以常能將護

物心，故名善業。以生時家宅皆空，因名空

生。家宅皆空，即表其長成解空之相。

生（竺道生）曰：無諍三昧者，解空無致論處為諍也。

西域記云：蘇部底，唐言善現，舊曰須菩提。或云須菩提，譯曰善吉，皆訛。

熏聞云：應知善相，不唯空物，亦能感物。故譬喻經云：舍衛國長者名鳩留，產子小字須菩提。有自然福報，食器皆空，所欲皆滿。然則空非斷無，表妙有之不亡也。真諦云：是東方青龍陀佛。

又增一阿含云：喜著好衣，行本清淨，所謂天須菩提。是知釋門，有二須菩提。

2091. 【《破空論》】（科註第一〇四〇頁倒數第五行）

見「《金剛破空論》」1485。

2092. 【十相】（科註第一〇四一頁第六行）

《涅槃經卷三十》：涅槃名為無相，以何因緣，名為無相？善男子，無十相故。何等為十？所謂色相、聲相、香相、味相、觸相、生、住、壞相、男相、女相。是名十相。無如是相故名無相。

2093. 【《演密鈔》】（科註第一〇四一頁第七行）

《佛光大辭典》「大日經義釋演密鈔」條：凡十卷。略稱演密鈔。遼·覺苑撰。今收於卍續藏第三十七冊。為大日經義釋之注書，乃歷代密教行者重要參考書之一，迄今猶受重視。覺苑為燕京圓福寺沙門，於遼道宗太康年間（即宋神宗熙寧年間），奉道宗之敕而著成此書。

內容分為二大門：一、文前聊簡，包括起教因緣、藏教收攝、說經會處、辨教淺深、明經宗趣、翻譯傳通等六項。二、依文正釋，即大日經義釋文句之注釋。

### ◎ 菩薩往生第四十二

2094. 【婆sōu藪分】（音叟）槃頭】（科註第一〇四八頁第一行）

又作婆藪槃豆、筏蘇槃豆、筏蘇畔徒、婆修槃頭等。譯曰世親，即天親。（參見「天

親」215）

2095. 【此難】（科註第一〇四八頁第四行）

《佛學大辭典》「七地沈空難」條：（雜

語）在十地中之第七地遠行地，以深入無相觀，無菩提可求。無眾生可度。沈於無相空寂之理，而不能修行，此沈空之難也。菩薩故意起菩提有情實有之執入八地不動地。而證佛果也。

2096. 【火車】（科註第一〇四九頁第二行）

《佛學大辭典》：（雜名）載罪人運於地獄之車。自車發火者。

智度論十四記提婆達多欲傷佛，而生入地獄事曰：「復以惡毒，著指爪中，欲因禮佛以中傷佛。欲去未到，於王舍城中，地自然破裂，火車來迎，生入地獄。」

觀佛三昧經五曰：「佛告阿難，若有眾生，殺父害母，罵辱六親。作是罪者，命終

之時，銅狗張口，化十八車，狀如金車，寶蓋在上，一切火焰，化為玉女。罪人遙見，心生歡喜，我欲往中，我欲往中。風刀（命終之時，體中風大動搖，支解身體，其苦如以利刀刺之，故云風刀）解時，寒急失聲，寧得好火，在車上坐。然火自爆，作是念已，即便命終。揮擢（迅疾也。擢，音或）之間，已坐金車，顧瞻玉女，皆捉鐵斧，斬截其身，身下火起。如旋火輪。」

2097. 【法照】（科註第一〇四九頁第三行）

《佛學大辭典》：（人名）蓮社七祖之第四祖，唐大歷二年止於衡州之靈峰寺，慈忍戒定，當時之宗師也。嘗於僧堂之食鉢中現一寺題曰大聖竹林寺。四年，於郡之湖東寺

開五會念佛（五百為一會），因製五會法事讚，以定其法式。後詣五台山建竹林寺，代宗時以為國師。大歷七年寂。見佛祖統紀二十六。

《淨土聖賢錄》：唐法照。蓮宗四祖。不知何許人也。大歷二年，居衡州雲峰寺，勤修不懈。一日，於僧堂粥鉢中，睹五色祥雲，雲內現山寺，寺東北有山，山下有澗，澗北有石門，門內復有一寺，榜曰，大聖竹林寺。他日，復於鉢中見雲中數寺，池臺樓觀，萬菩薩眾，雜處其中。以所見問知識。有一僧曰，聖神變化，不可情測。若論山川勢面，乃五臺也。四年，照於郡之湖東寺，開五會念佛道場。感祥雲彌覆，雲中現樓

閣，阿彌陀佛，及二菩薩，身滿虛空。衡州舉郭，咸焚香瞻禮，良久方滅。照復遇一老人，謂曰，汝曾發願往金色世界，禮覲大聖，今何輒止。言訖，不見。照遂與同志數人，遠詣五臺。五年四月六日，至五臺縣佛光寺。其夕四更，遙見異光照身。即之，行五十里，得一山。山下有澗，澗北有一石門。見二童子，自稱善財難陀。引至一寺，榜曰，大聖竹林寺，如鉢中所見。金地寶樹，以為莊嚴。入寺，登講堂，見文殊在西，普賢在東，各據師子座，萬眾圍繞，而為說法。照作禮，問曰，末代凡夫，去聖時遠，知識隘劣，障垢尤深，佛性無由顯現。佛法浩瀚，未審修何法門，最為其要。文殊

告曰，汝今念佛，今正是時。諸修行門，無過念佛，供養三寶，福慧雙修。此之二門，最為善要。我於過去劫中，因觀佛故，因念佛故，因供養故，得一切種智。是故一切諸法，般若波羅蜜，甚深禪定，乃至諸佛，皆從念佛而生。故知念佛，諸法之王。照問，當云何念。文殊言，此世界西，有阿彌陀佛，彼佛願力不可思議。汝當繼念，令無間斷。命終，決定往生，永不退轉。語已，二大聖同舒金臂，摩照頂曰，汝以念佛故，不久證無上正等菩提。若善男女等，願疾成佛者，無過念佛，則能速證無上菩提。照歡喜作禮，辭而退。二童子送出寺門。舉頭，忽失所在，乃立石標記其處。至四月十三日，

照與五十餘僧，同往金剛窟，虔心禮三十五佛名。照禮才十遍，忽見其處，廣大嚴淨，琉璃宮殿，文殊普賢，俱在一處。復獨詣金剛窟所，願見大聖，以身撲地。見梵僧佛陀波利，引入一院，額曰金剛般若寺，異寶莊嚴，光明閃爍。照雖歷睹靈異，而未語人也。是年十二月，於華嚴寺，入念佛道場。絕粒要期，誓生淨土。至七月初夜，正念佛時，見一梵僧入，謂曰，汝所見臺山境界，胡不傳示世人，言畢不見。照心異之。翌日，又見梵僧語如前。照曰，非敢秘密聖道，恐生疑謗耳。僧曰，大聖文殊，現在此山，尚招人謗，汝何惜焉。但以所見境界，普告眾生，使見聞者，發菩提心，作毒鼓緣

耳。照遂憶所見，錄以傳世。明年，江東釋慧從，與華嚴寺諸僧，隨照至金剛窟，及立石標記處，瞻仰舊跡。大眾悲喜未已，忽聞鐘聲，其音雅亮，節解分明。眾愈驚異，知照所見不虛。因書於屋壁，願見聞者，共發勝心。後於化竹林寺題額處，建寺一區，仍號竹林焉。照於是篤志念佛，日夜無曠。忽見佛陀波利謂曰，汝華已就，後三年華開矣。至期，謂眾曰，吾行矣，端坐而逝。或言，照嘗於並州五會念佛。德宗時，詔入京師，教宮人念佛，亦及五會，號五會法師。

（宋高僧傳，樂邦文類。）

2098. 【正遍知海】（科註第一〇四九頁第五行）

《佛學大辭典》：（譬喻）佛之正遍知，

深廣而不可測量，故譬之於海。

觀無量壽經曰：「諸佛正遍知海，從心想生。」

往生論註上曰：「正遍知者，真正如法界而知也。法界無相，故諸佛無知也，以無知故無不知也，無知而知者是正遍知也。是知深廣，不可測量，故譬海也。」

觀經妙宗鈔上曰：「三智融妙名正遍知，無量甚深故喻如海。」

2099. 【慧日（二）】（科註第一〇四九頁第八行）

《淨土聖賢錄》「唐慧日」條：慧日，姓辛，東萊人。唐中宗時，得度。見義淨三藏，詣西域求法，心慕之。於是泛ぼつ舶せふ（音博。航海的大船）渡海，經三年，得達天竺，

禮如來聖跡，尋求梵本。日既閱歷艱苦，深厭閻浮。思何國何方，有樂無苦，何法何行，能速見佛，遍問天竺三藏，皆勸修淨土法門，日聞已頂受。

漸至北印度健馱羅國，王城東北有大山，山有觀世音像，有至誠祈請者，每見大士現身。日至山叩頭七日，又斷食，畢命為期。至七日夜，觀音於空中現紫金身，長一丈餘，坐寶蓮華。垂右手摩日頂曰，汝欲傳法，自利利他，唯念西方極樂世界阿彌陀佛，發願往生。到彼國已，見佛及我，得大利益。汝當知淨土法門，勝過諸行。說已忽滅。日既暈憊，聞已，精神頓壯。及登嶺東歸，計行七十餘國，閱一十八年。

開元七年，達長安，詣闕，獻佛真容、梵夾等。賜號曰慈愍三藏。日勤修淨業，唱導一時。著往生淨土集，行於世。天寶七年，卒。將終，見蓮華在前，狀如日輪。（宋高僧傳，佛祖統紀。）

2100. 【健馱羅國】（科註第一〇四九頁倒數第六行）

《佛教哲學大辭典》：健馱羅是梵語 Gandhara 的譯音。又作「犍陀羅」。公元前後至六世紀間，崛起於印度西北部、白夏瓦地區的國名。大乘佛教興盛。《大慈恩寺三藏法師傳》第二卷有云：「其國東臨信度河（印度河），都城號布路沙布羅。國多賢聖，古來作論諸師，那羅延天、無著菩薩、世親菩薩、法救、如意、尊者等，皆此所出也」

（大正第五十卷第二三〇頁）。

公元二世紀中期，在貴霜王朝第三代迦膩色迦（Kaniska）王的時代，曾以馬鳴為中心，進行第四次的佛典結集。又建造許多佛教寺院，其優異的佛教美術，顯示出西方的希臘文明與印度文明的融合，此稱健馱羅美術。御書顯謗法抄（第四七三頁）

2101. 【《無量壽論》】（科註第一〇四九頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「無量壽經論」條：（書名）無量壽經優婆提舍願生偈之異名。

○無量壽經優婆提舍願生偈：（書名）一卷，婆藪槃豆菩薩（天親菩薩）造，元魏菩提流支譯。論經義者為優婆提舍，是論無量壽經經義而造之願生偈也。願生偈者，願生於

安樂國之偈文也。又無量壽經論亦名往生論、淨土論。

2102. 【天如】（科註第一〇四九頁倒數第三行）

《實用淨土宗辭典》：（一二九八—一三六八）元代僧人。名惟則，吉州廬陵（今江西吉安）人。俗姓譚。幼於禾山剃髮，後游天目山，得法於中峰明本禪師，為其法嗣。元順帝至正元年（一三四一），住蘇州師子林。翌年，門人等合力斥資，建造菩提正宗寺，請師登堂說法，大宏臨濟宗風。敕賜「佛心普濟文慧大辯禪師」及金襴あはら衣（金縷織成之袈裟。襴音藍）。注《楞嚴》集唐宋以來之九解，附以補注，此即《楞嚴經會解》二十卷。又造《楞嚴經圓通疏》十卷。復窮

究天台、永明的教旨，兼弘淨土教，著《淨土或問》，破除對淨土教的疑惑，策進修行，以期一生了辦。師自修極為精篤，明洪武元年（一三六八）入寂，終年七十一歲。

2103. 【楚石】（科註第一〇四九頁倒數第三行）

《實用淨土宗辭典》「梵琦」條：（一二九六—一三七〇）元代僧人。字楚石，小字曇曜，俗姓朱，明州象山（今屬浙江寧波）人。九歲出家，十六歲受具足戒于杭州昭慶寺。二十二歲時，為道場寺侍者，又典藏鑰。一日，閱《首楞嚴經》有省，惟但通文意，猶膠礙於名相。後能（「能」疑作「參」）究徑山之元叟行端，初仍群疑塞胸，時逢莫（「莫」疑作「英」）宗招善書者，師應召書經。

一日，聞西城樓上鼓鳴，始徹悟。遂嗣元叟禪師之法，時師年二十九歲。其後歷住海鹽福臻寺、天寧永祚寺，杭州鳳山報國寺、嘉興本覺寺。至正七年（一三四七），帝賜號「佛日普照慧辯禪師」。十七年住報恩光孝寺。十九年退隱永祚寺，於寺西側築居，自號西齋老人。二十三年，再住永祚寺，未久即退隱，專修淨業。定中見大蓮華充滿世界，彌陀在中，眾聖圍繞。作懷淨土詩傳於世，名《西齋淨土詩》，蕩益大師收詩于《淨土十要》中，並作《西齋淨土詩讚》云：「稽首楚石大導師，即是阿彌陀正覺。以茲微妙勝伽陀，令我讀誦當參學。一讀二讀塵念消，三讀四讀染情薄，讀至十百千萬遍，此

身已向蓮華託。亦願後來讀誦者，同予畢竟生極樂。還攝無邊念佛人，永破事理分張惡。同居淨故四俱淨，圓融直捷超方略。」洪武元年（一三六八），師被詔入京，說法蔣山。尋復應詔者再。三年秋，詔向（「向」疑作「問」）鬼神情狀。師館天界寺，集經論成書。將入奏，示微疾。越四日，具浴更衣，書偈曰：「真性圓明，本無生滅。木馬夜鳴，西方日出。」謂同召僧夢堂曰：「吾行矣。」問：「何往？」答曰：「西方。」噩曰：「西方有佛，東方無佛耶？」師即厲聲一喝而化。世壽七十五歲。闍維，齒、舌、數珠不壞。著有《楚石梵琦語錄》二十卷、《西齋淨土詩》三卷、《北遊鳳山西齋》

三集、《和天台三聖詩》、《上生偈》等傳世。

2104. 【初善，中善，後善】（科註第一〇五一頁第二行）

《三藏法數》「三善」條：〔出法華文句〕法華經云：初中後善，蓋言圓頓教中，序、正、流通三分，理致圓備，故皆稱善。（三分者，一序分，謂序述一經之由；二正宗分，謂正說一經之旨；三流通分，謂流傳此經，使後世通行也。）一、初善：初善者，序分居初，故名初善。如經（此指法華經，下同）序品，為序分是也。二、中善：中善者，正說分居，故名中善。如經方便品至分別功德品十九行偈，為正說分是也。三、

後善：後善者，流通分居後，故名後善。如經分別功德品十九行偈後至經盡，為流通分是也。

### ◎ 非是小乘第四十三

2105. 【選擇集】（科註第一〇五三頁第七行）

《中華佛教百科全書》「選擇本願念佛集」條（節錄）：日本淨土宗之根本聖典。一卷。日僧法然源空著。略稱《選擇集》。收在《大正藏》第八十三冊。係建久九年（一一九八），法然源空應關白九條兼實之請而撰。全書敘述他力本願之深旨，並彰顯念佛法門為末代相應之法門。內容由十六章組成，

每章均揭示引文，再以問答體方式，加上作者的解釋。書中所揭舉的引文，以淨土三部經及善導《觀經疏》為主，並延引道綽《安樂集》、法照《淨土五會法事讚》、慈恩《西方要決》等書。

2106. 【親因緣】（科註第一〇五四頁第七行）

《唯識名詞白話辭典》「因緣」條：為因與緣的並稱，唯識宗所立四緣之一。因、為引生結果的直接內在原因；緣、指由外來相助的間接原因。依此，因緣又有內因外緣、親因疏緣之稱。

廣義而言，因即意謂因與緣，包含內因與外緣。一切萬有，皆由因緣之聚散而生滅，稱為因緣生、緣生、緣起。因此，由因緣生

滅的一切法，稱為因緣生滅法；而由因與緣和合所產生的結果，稱為因緣和合。

一切萬有皆由因緣和合而假生，無有自性，此即「緣起性空」之理。若以煩惱為因，以業為緣，能招感迷界之果；以智為因，以定為緣，則能招感悟界之果。

因緣，又名親因緣，是一切法生起的主要條件，事實上就是第八阿賴耶識中，能生起現行果法的種子。《成唯識論》卷七曰：「因緣，謂有為法親辦自果，此體有二，一、種子，二、現行。」

《三藏法數》「四緣」條：〔出大智度論〕

一、因緣：謂六根為因，六塵為緣也。如眼根對於色塵時，識即隨生；餘根亦然，是

名因緣。(六根者，眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根也。六塵者，色塵、聲塵、香塵、味塵、觸塵、法塵也。)

二、次第緣：謂心、心所法，次第無間，相續而起，名次第緣。(心、心所法者，心即心王，心所即受想行也。此心王心所對於諸塵念念不停，是名次第相續也。)

三、緣緣：謂心、心所法由託緣而生，還是自心之所緣慮，名為緣緣。(託緣者，謂依託色聲香味觸法之緣也。)

四、增上緣：謂六根能照境發識，有增上力用，諸法生時，不生障礙，名增上緣。(諸法生者，謂根塵相對，則有一念心起，名諸法生。不生障礙者，根塵相對之時，隨對

隨起，悉無所障也。)

2107. 【等無間緣】(科註第一〇五四頁第八行)

《佛學大辭典》：(術語) 四緣之一。此乃於心心所相續上而立之緣，滅於前念之心法，已逃避而開導彼，以引起後念心法之作也。猶如渡野中獨木橋，前人避開以渡後人也。

等等等同之義，前念後念其心心所之數，雖有增減，而各自之體，皆為一個，無一法而二體並起者，前念後念各為一個而相等者，謂之等。如色法不然，前剎那雖為屬一極微者，然後剎那則同體之極微有增而為三者，又有反之而較前剎那減少者，前後不等也。

無間緣者，於前心與後心之間，無他間隔之物體，縱經若干時前念之心法，直與後念之心法為生緣也。此緣唯局於心法，於餘法不通。

又羅漢臨涅槃最後心之心心所外，一切之心法，盡有此緣用。蓋羅漢入於涅槃，畢竟不再起心法，故彼之最後心，失此緣用也。

俱舍論七曰：「等無間緣，除阿羅漢臨涅槃時最後心心所法，諸餘已生心心所法，是等無間緣性。此緣生法，等而無間，依是義立等無間名。由此色等皆不可立等無間緣，不等生故。」

唯識論七曰：「等無間緣，謂八現識及彼心所，前聚於後。自類無間，等而開導，令

彼定生。」

2108. 【所緣緣】（科註第一〇五四頁第八行）

《佛學大辭典》「緣緣」條：（術語）舊曰緣緣。新曰所緣緣。所緣之緣也。四緣之一。

心識對於境界時（如眼之於色），心識謂之能緣，境界謂之所緣。緣為攀緣，心識各自攀緣境界之義也。因而境界於心識為所緣之緣，即心識緣其所緣而起者，稱之為緣之緣或所緣之緣，與他之諸緣別異。見大乘義章三本，三藏法數十五。

## ◎ 受菩提記第四十四

2109. 【青龍《仁王經疏》】（科註第一〇五九頁第六行）

《佛學大辭典》「青龍疏」條（節錄）：  
（書名）唐青龍寺翻經沙門良<sub>レ</sub>賁<sub>レ</sub>（音必），  
奉敕作新譯仁王經疏三卷，稱為青龍疏。

（參見「《良賁疏》」1232）

2110. 【一切智智】（科註第一〇六一頁第五行）

《佛學大辭典》：（術語）三智中之一切智，混聲聞緣覺之智，故為分別彼一切智，而名佛智為一切智智。

大日經疏一曰：「梵云薩婆若那 Sarvajñāna，即是一切智，今謂一切智智，即是智中

之智也。」又「一切智智，如實了知，名為一切智者。」

又謂一切智智，譬如虛空界，離一切分別，又如大地，為一切眾生所依，又如火界，燒一切無智之薪，又如風界，除去一切諸煩惱之塵，又如水界，一切眾生依之歡樂。

又謂此智，菩提心為因，大悲為根，方便為究竟。菩提心為因者，謂行者如實知自心也。大悲為根者，謂行者發悲願，拔眾生之苦，與以樂也。方便為究竟者，為一切智智之果，即以利他之行而名之也。

仁王經中曰：「自性清淨，名本覺性，即是諸佛一切智智。」

2111. 【劫火】（科註第一〇六七頁第五行）

《佛學大辭典》「大火災」條：（術語）

大三災之一，住劫終而入壞劫，壞劫之末有七日輪出，上自色界之初禪天，下至無間地獄，盡被焚燒。

俱舍論十二曰：「唯器世間，空曠而住。

〔中略〕於是漸有七日輪現，諸海乾渴，眾山洞然，洲渚三輪，並從焚燎，風吹猛焰燒上天宮，乃至梵宮無遺灰盡。」（參見「三災」

1384）

2112. 【成劫】（科註第一〇六七頁第五行）

《三藏法數》：成劫者，謂世界初成立也。有二十小劫。

第一小劫，因過去劫壞空之後，第二禪光

音天空中布金色雲，注大洪雨，積風輪上，結為水輪；有大風起，吹水生沫，而成須彌等山。時一切有情皆集光音天中。天眾既多，居處迫窄。其福減者，下生世間。最初有一天子，從光音天沒，來生大梵天中，是為梵王，其壽六十小劫。

第二小劫，光音諸天來生初禪梵世天中，為梵輔天，其壽四十小劫。

第三小劫，光音諸天復有來生梵世天中，為梵眾天，其壽二十小劫。如是漸漸下生欲界天中。時光音諸天，有福盡者，化生為人，飛行自在，無有男女之相；地涌甘泉，味如酥蜜，因試嘗之，遂生味著，失其神通，及以身光。世間大暗，黑風吹海，漂出

日月，置須彌山腹，照四天下，乃有晝夜。彼時眾生由耽地味，顏色羸悴（粗糙憔悴也。羸，同「粗」）；復食自然粳稻（水稻之一種。粳，音京），殘穢在身，為欲蠲除（清除也。蠲，音捐），便生二道，成男女根。宿習力故，便生淫欲，夫妻共住。光音諸天後來生者，入母胎中，遂有胎生。時自然粳稻，朝<sup>yi</sup>刈<sup>一</sup>（音易。割取也）暮熟，刈復隨生，米長四寸。後因人多貪取，漸生糠粃（穀皮也。粃，音快），刈已不生。

第四小劫，乃至第二十小劫，皆悉一增一減，名為成劫。（梵語須彌，華言妙高。）

2113. 【梵宮】（科註第一〇六七頁第七行）

《佛學大辭典》（節錄）：（雜名）梵天之宮

殿也。

### ◎ 獨留此經第四十五

2114. 【法住記】（科註第一〇七〇頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（書名）大阿羅漢難提蜜多羅所說法住記之略名。

《中華佛教百科全書》：（梵 Nandimitra

vadāna·藏 Dgaḥ-baḥiḥses-gñen-gyi rtogs-pa-briḥod-pa）全名《大阿羅漢難提蜜多羅所說法住記》一卷。唐·玄奘譯，大乘光受。又稱《記法住傳》、《大阿羅漢說法住記》。收於《大正藏》第四十九冊。

內容敘述佛滅後八百年，在執師子國（即錫蘭）勝軍王都有阿羅漢難提蜜多羅

(Nandimitra) 出世，為諸比丘說住世護法的十六大阿羅漢及其眷屬、住處，並回答正法住世的時限。書中列有《般若波羅蜜多經》等五十部（藏譯則列八十七部）大乘經名，是瞭解大乘興起及其經典成立時代的資料，同時也是有關錫蘭佛教的史料。

本書自唐永徽五年（六五四）譯出後，十六羅漢普受崇信，成為禪宗寺院主要的造像，或畫或雕，著名者有法願、法鏡、僧繇、貫休等人之作品。本書另有西藏譯本，但內容與本書頗有出入；又有法譯本《Les Seize Archats》，為一九一六年時由烈維 (S. Lévi) 及沙畹 (E. chavannes) 合譯。

2115. 【增劫】（科註第一〇七〇頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）於住劫中，人壽自十歲每百年增一年，至人壽八萬四千歲之間，謂之增劫。

2116. 【十六大阿羅漢】（科註第一〇七〇頁倒數第一行）

《三藏法數》：「〔出法住記〕梵語阿羅漢，華言無學，謂其生死已盡，無法可學；又云無生，謂其斷見、思惑盡，無復三界受生；又云應供，謂其應受人天供養；又云殺賊，謂其能殺煩惱之賊。以其皆具三明六通，無量功德，故稱為大。此阿羅漢，承佛敕故，以神通力，延自壽量，住於世間，守護正法，至今猶未入滅。若遇世間設大施無遮會時，即同諸眷屬，蔽隱聖儀，同於凡

流，密受供養，令施者得勝果報，饒益有情，是為十六大阿羅漢也。（三明者，天眼明、宿命明、漏盡明也。六通者，天耳通、天眼通、宿命通、他心通、神足通、漏盡通也。）

一、賓度羅跋囉惰闍shé 閣（音舌）尊者：梵語賓度羅，華言不動，字也；梵語跋囉惰闍，華言捷疾，姓也。此尊者與千阿羅漢，多分住在西瞿耶尼洲。（梵語瞿耶尼，華言牛貨。）

二、迦諾迦伐cuō 嗟尊者：梵語迦諾迦伐cuō 嗟（無翻），此尊者與五百阿羅漢，多分住在北方迦濕彌羅國。

三、迦諾迦跋h 釐（音離）惰闍尊者：梵語

迦諾迦跋釐惰闍（無翻），此尊者與六百阿羅漢，多分住在東勝身洲。

四、蘇頻tuó 陀（同陀）尊者：梵語蘇頻tuó 陀（無翻），此尊者與七百阿羅漢，多分住在北俱盧洲。

五、諾詎羅尊者：梵語諾詎羅，華言鼠狼山，此尊者與八百阿羅漢，多分住在南瞻部洲。（梵語瞻部，亦云閻浮提，華言勝金洲。）

六、跋陀羅尊者：梵語跋陀羅，華言好賢，此尊者與九百阿羅漢，多分住在dan 耽（音丹）沒羅洲。

七、迦哩迦尊者：梵語迦哩迦（無翻），此尊者與千阿羅漢，多分住在僧伽h 荼（音

途)洲。

八、伐闍羅弗多羅尊者：梵語伐闍羅弗多羅(無翻)，此尊者與一千一百阿羅漢，多分住在鉢刺拏洲。

九、戍博迦尊者：梵語戍博迦(無翻)，此尊者與九百阿羅漢，多分住在香醉山中。

十、半托迦尊者：梵語半托迦(無翻)，此尊者與一千三百阿羅漢，多分住在三十三天。(三十三天即忉利天也。)

十一、囉訶怙フク(音戶)羅尊者：梵語囉訶羅，華言執日，此尊者與一千一百阿羅漢，多分住在畢利ヤング颺尤(音陽)瞿洲。

十二、那伽犀那尊者：梵語那伽犀那(無翻)，此尊者與一千二百阿羅漢，多分住在

半度波山。

十三、因揭陀尊者：梵語因揭陀(無翻)，此尊者與一千三百阿羅漢，多分住在廣脅山中。

十四、伐那婆斯尊者：梵語伐那婆斯(無翻)，此尊者與一千四百阿羅漢，多分住在可住山中。

十五、阿氏多尊者：梵語阿氏多(無翻)，此尊者與一千五百阿羅漢，多分住在鷲峰山(即靈鷲山。鷲，音救)中。

十六、注荼半托迦尊者：梵語注荼半托迦(無翻)，此尊者與一千六百阿羅漢，多分住在持軸山中。

2117. 【寶頭盧】(科註第一〇七一頁第二行)

《佛學大辭典》「賓頭盧頗羅墮」條：

(人名) Piṇḍolabharadvāja，具曰賓頭盧頗羅墮誓。略曰賓頭盧或賓頭。十六羅漢中之第一賓頭盧尊者也。永住於世，現白頭長眉之相。名賓頭盧，姓頗羅墮，又曰賓頭盧突羅闍，賓度羅跋羅惰闍。

賓頭盧翻言不動，頗羅墮譯言捷疾，利根，重瞳等。婆羅門十八姓名之一。此人原為拘舍彌城優陀延王（又云優填王）之臣，王以其精勤，使之出家，證阿羅漢果。而對於白衣，妄弄神通，為佛呵責，不得住於閻浮提，使往化西瞿耶尼洲，後閻浮四眾，思見之，白佛。佛聽還，而不聽入於涅槃。使永住於南天之摩梨山，度滅後之眾生。

元照彌陀經疏曰：「賓頭盧此翻不動，頗羅墮真諦翻捷疾，或利根，或廣語。婆羅門中一姓也。」

名義集一曰：「賓頭盧翻不動，字也，頗羅墮姓也。本行集經翻重瞳。」

法住記曰：「第一尊者賓度羅跋囉墮闍，〔中略〕與自眷屬千阿羅漢，多分住西瞿陀尼洲。」

雜阿含經二十三曰：「時王（阿育王也）見尊者賓頭盧，頭髮皓白，辟支佛體，〔中略〕尊者賓頭盧以手舉眉毛視王言：我見如來於世無譬類。」

○賓頭盧住世因緣：（本生）法苑珠林四十二曰：「昔有樹提伽長者，造旃檀鉢著絡

(粗絮)囊中，懸高象牙<sup>yi</sup>杵<sup>一</sup>(音憶。一頭尖的短木)上作是言：若沙門婆羅門不以梯杖能得者即與之。諸外道知欲現神通，挑頭而去。賓頭盧聞是事白目連言：實爾不？答言實爾。汝師子吼中第一，便往取之。其目連懼佛教不肯取。賓頭盧即往其舍入禪定，申手取之。依四分律，當時坐於方石縱廣極大，逐身飛空，得鉢已還去。佛聞呵責：云何比丘為外道鉢(旃檀鉢非比丘宜持之物)，而於未受戒人前現神通力？從今盡形擯汝，不得住閻浮提。於是賓頭盧如佛教教往西瞿耶尼，教化四眾，廣宣佛法。

閻浮提四部弟子思見賓頭盧白佛，佛聽還坐，現神足故不聽涅槃。敕令為末世四部眾

作福田。其亦自誓三天下有請悉赴。」(依十誦律三十七，四分律五十一)。

雜阿含經二十三賓頭盧自說曰：「世壽住舍衛國，五百阿羅漢俱。時給孤獨長者女，適在富樓那跋陀那國。時彼女請佛及比丘僧，時諸比丘各乘空而往彼，我爾時以神力合大山往受彼請。時世尊責我：汝那得現神足如是？我今罰汝，常在於世不得取涅槃，護持我正法，勿令滅也。」

請賓頭盧經曰：「賓頭盧者字也，頗羅墮誓者姓也。其人為樹提長者現神足故，佛擯之不聽入涅槃，敕令為末法四部眾作福田。」

2118. 【《圓覺經大疏》】(科註第一〇七三頁倒數第五行)

《佛光大辭典》「大方廣圓覺經大疏」條：凡三卷（或十二卷）。略稱圓覺經大疏。唐代宗密述。今收於卍續藏第十四冊。隨文解釋大方廣圓覺修多羅了義經。

卷初揭出「歸命妙色身」等五言十六句之歸敬頌，次將圓覺經分為：教起因緣、藏乘分攝、權實對辯、分齊幽深、所被機宜、能詮體性、宗趣通別、修證階差、敘昔翻傳、別解文義等十門，並解說其文義。

撰者宗密係由圓覺經而得悟者，故平生特別推重此經。除本疏之外，另有圓覺經大疏釋義鈔十八卷、大方廣圓覺修多羅了義經略疏注四卷、大方廣圓覺經略疏鈔十二卷等，以細解其文義；其中，釋義鈔為本書之注釋

。其他注書有宋代觀復之圓覺鈔辨疑誤二卷、元代清遠之圓覺經疏鈔隨文要解十二卷等。〔新編諸宗教藏總錄卷一、增補諸宗章疏錄〕

2119. 【《法句經》】（科註第一〇七三頁倒數第三行）

《中華佛教百科全書》「法句經」條（節錄）：《佛說法句經》一卷，全書記分十四品，收在《大正藏》第八十五冊。內容敘述為證得諸法性空、究竟金剛句（即甚深法句）及其法，而親近善知識之法。

2120. 【<sup>gēng</sup>繩<sup>z</sup>】（音耕）（科註第一〇七四頁第二行）

《漢語大字典》：古同「縲」，大繩索。

2121. 【《法華經妙莊嚴王品》】（科註第一〇七四頁第三行）

具名《妙莊嚴王本事品》。《妙法蓮華經》之第二十七品。說妙莊嚴王之本事來歷。

2122. 【梵行】（科註第一〇七四頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）梵者清淨之義，斷婬欲之法為梵行，即梵天之行法也。修梵行則生梵天。

智度論曰：「斷婬欲天皆名為梵天，說梵皆攝色界，以是故斷婬行法名為梵行，離欲亦名梵，若說梵則攝四禪四無色定。」同八曰：「有人行十善業道不斷婬，今更讚此行梵天行斷除婬欲，故言淨修梵行。」

維摩經方便品曰：「示有妻子常修梵行。」

註曰：「肇（音照。即僧肇）曰：梵行，清淨無欲行也。」

法華嘉祥疏七曰：「有人言：通取一切戒為梵行，別名斷婬為梵行。故小品云：婬欲障生梵天，何況菩提。」

（又）涅槃名梵，證涅槃之萬行，云梵行。

法華經序品曰：「具足清白梵行之相。」

法華嘉祥疏三曰：「梵行之相者，梵名涅槃，即根本法輪大涅槃也。行即萬行，到大涅槃也。」

大日經疏十七曰：「梵謂涅槃。〔中略〕梵行謂修梵行者名。〔中略〕具大涅槃名為梵。」

（又）涅槃五行之一。梵者清淨之義，菩薩利他之行，能為一切不善之對治，離過清

淨，故名梵行。

2123. 【覺性】（科註第一〇七四頁倒數第六行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）離一切迷妄之覺悟自性也。

圓覺經曰：「若諸菩薩，以圓覺慧。圓合一切，於諸性相。無離覺性，此菩薩者，名為圓修三種自性清淨隨順。」

2124. 【稱讚大乘經】（科註第一〇七四頁倒數第一行）

見「《稱讚大乘功德經》」892。

2125. 【道眼】（科註第一〇七五頁第二行）

《佛學大辭典》（術語）修道而得之眼也。

又，觀道之眼也。

佛開解梵志阿颯經曰：「道眼觀知可度者。」

圓覺經曰：「分別邪正能施末世一切眾生無畏道眼。」

楞嚴經曰：「發妙明心，開我道眼。」注曰：「真妄顯現，決擇分明，曰道眼。」

蘇軾詩曰：「道眼已入不二門。」

《佛學常見辭彙》：能見正道之眼。楞嚴經說：「發妙明心，開我道眼。」

2126. 【破見】（科註第一〇七五頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）破正見也，即六十二見等。

行事鈔上之二曰：「破見者，謂六十二見。」（參見「諸見」1880）

2127. 【疑結】（科註第一〇七五頁第四行）

《佛學大辭典》：（術語）由疑真諦之理，作種種之妄業，為三界所繫縛，不能出離，名之為疑結。九結之一。結為結縛不出之義。

大乘義章五末曰：「煩惱闇惑，結縛行人，故名為結。亦能縛心，亦名為結。亦能結集一切生死，故稱為結。」

三藏法數三十五曰：「疑結，謂諸眾生，於佛法僧寶，妄生疑惑，不修正行，廣行不善，由此遂招未來生死苦，流轉三界，不能出離，是名疑結。」

2128. 【德雲比丘】（科註第一〇七五頁倒數第六行）

善財童子五十三參第一參之善知識也。

《四十華嚴》作「吉祥雲比丘」。（參見「善財參五十三善知識」1722）

2129. 【二十一喻】（科註第一〇七五頁倒數第五行）

《佛說法句經·二十一種譬喻善知識品第六》（依《法句經疏》校訂用字）：

善男子，善知識者是汝父母，養育汝等菩提身故；

善知識者是汝眼目，示導汝等菩提路故；

善知識者是汝脚足，荷負汝等離生死故；

善知識者是汝梯橙，扶恃汝等至彼岸故；

善知識者是汝飲食，能使汝等增長法身故；

故；

善知識者是汝寶衣，覆蓋汝等功德身故；

故；

善知識者是汝橋梁，運載汝等度有海（指三界之生死。海者，譬生死之無邊）故；

善知識者是汝財寶，救攝汝等離貧苦故；

善知識者是汝日月，照耀汝等離黑闇故；

善知識者是汝身命，護惜汝等無有時故；

善知識者是汝鎧仗，降伏諸魔得無畏故；

善知識者是汝纏繩（粗繩索。纏，音耕），

挽拔（《佛說法句經》作「梲機」。梲，音豪）

汝等離地獄故；

善知識者是汝妙藥，療治汝等煩惱病

故；

善知識者是汝利刀，割斷汝等諸愛網

故；

善知識者是汝時雨，潤清汝等菩提牙故

（《藥師經疏》作「潤漬汝等菩提牙故」。「漬」音自，濕潤也。「牙」通「芽」，萌芽也。）；

善知識者是汝明燈，能破汝等五蓋闇故；

善知識者是汝善標，教示汝等趣正道故；

善知識者是汝薪火，成熟汝等涅槃食故；

善知識者是汝弓箭，射殺汝等煩惱賊故；

善知識者是汝勇將，能破汝等生死軍故；

善知識者是汝如來，破汝煩惱至涅槃故。

善男子，善知識者有如是無量功德，是故

我今教汝親近。

2130. 【曠劫】（科註第一〇七五頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）曠者，久也，懸也；劫者，梵語劫波之略，謂長時期。極

言過去時之長，謂之曠劫；未來時之長，謂之永劫。

止觀五下曰：「彌生曠劫，不睹界內一隅，況復界外邊表。」

觀經玄義分曰：「我等愚痴身，曠劫來流轉。」

2131. 【後五百歲】（科註第一〇七七頁倒數第三行）

《三藏法數》「五五百年」條：〔出華嚴經隨疏演義鈔〕

五五百年者，乃如來出世正、像、末法之年數也。謂正法一千年，像法一千年，末法一萬年。今以二千五百年，分為五者。其初二五百年，為正法之時，有修證解脫禪定之

人。次二五百年，為像法之時，人雖有修行，而無證果，唯有多聞布施之者。後五百年，乃末法一萬年之初五百年也，此時之人，無修無證，但以鬥諍而為正修，以法有盛衰不同，故分此五五百年也。

第一五百年，解脫堅固，解脫即自在之義。謂諸比丘，於正法五百年中，不攻異學，唯務大乘，利益眾生，解脫自在，堅固不變也。（梵語比丘，華言乞士。）

第二五百年，禪定堅固，謂諸比丘於正法五百年中，厭居生死，求證涅槃，頓息攀緣，深修禪定，堅固不變也。（梵語涅槃，華言滅度（滅煩惱，度生死）。）

第三五百年，多聞堅固，謂諸比丘於像法

五百年中，少持戒律，怠習禪定，唯尚多聞，依語生解，堅固不變也。

第四五百年，塔寺堅固，謂諸比丘於像法五百年中，少習禪定，喜種福田，廣結善緣，多修塔寺，堅固不變也。

第五五百年，鬥諍堅固，謂諸比丘於末法五百年中，不修戒律，唯尚鬥諍，增長邪見，堅固不變也。

### ◎ 勤修堅持第四十六

2132. 【《大明法數》】（科註第一〇八一頁第一行）

即《大明三藏法數》。（參見「《三藏法數》」1042）

2133. 【囑累】（科註第一〇八三頁第七行）

《佛學大辭典》：（術語）囑託以事而累彼也。

法華文句中曰：「囑是佛所付囑，累是煩爾宣傳。」

天台維摩經疏十曰：「囑是付囑為義，累是煩勞荷負之義矣。」

（又）以累付囑於彼之義。

淨影維摩經疏曰：「累是擔累，法是宣傳者之重擔，故名為擔累。以此囑付令人傳通，故名囑累。」

2134. 【機樞<sup>マキ</sup>】（音疏）（科註第一〇八九頁倒數第三行）

《漢語大詞典》：比喻事物的關鍵部分。機，門限；樞，戶樞。

2135. 【教觀】（科註第一〇八九頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）教相與觀心也。教相者釋迦一代之教法由自己之宗義而分別判斷也，觀心者觀念自宗所立之真理也。如天台宗以五時八教為教相，以一心三觀為觀心，乃至如真言宗以顯密二教十住心為教相門，以阿字不生為觀心。此二門雖通諸宗，而天台一家之發揮，冠於諸宗。

止觀大意曰：「略述教觀門戶大概，今家教門，以龍樹為始祖，慧文但列內觀視聽而已。洎乎（等到）南岳天台，復用法華三昧，發陀羅尼，開拓義門（教門），觀法周遍。」  
教觀綱宗曰：「佛祖之要教觀而已矣。觀非教不正，教非觀不傳。有教無觀則罔，有

觀無教則殆。」

玄義十下曰：「今釋此三教，各作二解：一約教門解。二約觀門解。教門為信行人，又成聞義。觀門為法行人，又成慧義。聞慧具足，如人有目，日光明照見種種色。」

### ◎ 福慧始聞第四十七

2136. 【無漏最後身】（科註第一〇九四頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「無漏後身」條：（術語）二乘無學果（阿羅漢果）之身也。既斷煩惱曰無漏，生死之最後身曰後身。

法華經授記品曰：「諸聲聞眾，無漏後身，法王之子。」

2137. 【信慧】（科註第一〇九六頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）五根中之信根與

慧根也。信以破邪見，慧以斷無明。

無量壽經下曰：「壽命甚難得，佛世復難值，人有信慧難。」

教行信證行卷曰：「佛在世甚難值，有信慧不可致，若聞見精進求。」

2138. 【喜忍、悟忍與信忍】（科註第一〇九九頁第八行）

《佛學大辭典》「三忍」條（節錄）：善導所說之三忍：

一喜忍，念彌陀佛而生歡喜心者。

二悟忍，念彌陀佛而悟解真理者。

三信忍，念彌陀佛而住於正信者。

善導解觀經中，韋提希夫人所得之無生法

忍為此三忍。

觀經序分義二曰：「因此喜故即得無生之忍，亦名喜忍，亦名悟忍，亦名信忍。」

淨土文類行卷曰：「慶喜一念相應後，與韋提等獲三忍。」

○喜忍：（術語）淨土門所說三忍之一。

現見阿彌陀佛而心生歡喜之時，得無生法忍，是名喜忍。

觀無量壽經曰：「見彼國土，極妙樂事，心歡喜故。應時即得無生法忍。」

觀經序分義曰：「阿彌陀佛國清淨光明忽現眼前，何勝踊躍。因茲喜故，即得無生之忍。亦名喜忍、亦名悟忍、亦名信忍。」

○悟忍：（術語）韋提希夫人以現見阿彌

陀佛。廓然大悟，得無生之忍。是為悟忍。又曰喜忍，亦名信忍。十信位之忍也。

觀經定善義曰：「阿彌陀佛國清淨光明忽現眼前，何勝踊躍，因茲喜故，即得無生之忍，亦名喜忍，亦名悟忍，亦名信忍。〔中略〕是多是十信中忍，非解行已上忍也。」

### ○信忍

《三藏法數》：信者，隨順不疑也。謂初地、二地、三地菩薩，得無漏信，故名信忍。（初地即十地中初歡喜地，二地即離垢地，三地即發光地。）

## ◎ 聞經獲益第四十八

2139. 【法眼淨】（科註第一一〇一頁倒數第二行）

《佛學大辭典》：（術語）分明見真諦謂之法眼淨。通於大小乘言之。小乘為於初果見四真諦之理，大乘為於初地得無生法忍。增一阿含經一曰：「三萬天人得法眼淨。」無量壽經下曰：「得清淨法眼。」維摩經佛國品曰：「遠塵離垢，得法眼淨。」

大經慧遠疏曰：「見四真諦，名淨法眼。」註維摩經一：「肇曰法眼道，須陀洹道也。始見道迹，故得法眼名。」同嘉祥疏曰：「云法眼淨者，小乘亦法眼，大乘亦法眼。小乘法眼即初果見四諦法名法眼，大乘法眼初地得真無生法，故云法眼。」

2140. 【維摩經嘉祥疏】（科註第一一〇一頁倒數

第二行)

《佛光大辭典》「維摩經略疏」條(節錄)：

凡五卷。隋代吉藏(五四九—六二三)撰。又稱維摩詰所說經疏、不可思議解脫經疏、淨名經略疏、維摩經疏。收於卍續藏第二十九冊。本書為維摩經之注釋書。書名「略疏」，係相對於吉藏之另一著作六卷本維摩經義疏而稱，因義疏又作廣疏，故本疏乃有此稱。二疏皆為維摩經之注疏，然各異其趣。義疏係逐次注釋經文之語句，本書則闡釋經文之含意。(《科註》所引內容，出自該疏第四卷)

2141. 【四真諦】(科註第一一〇二頁第一行)

《佛學大辭典》：(術語)又云四聖諦。苦

集滅道之四諦也。其理真正，故云真諦，為聖者之所見，故云聖諦。

涅槃經十五曰：「我昔與汝等，不見四真諦，是故又流轉生死大苦海。若能見四諦，則得斷生死。」

智度論二曰：「佛為五比丘初開甘露門，說四真諦法苦集滅道諦。」(參見「四諦」

839、「四諦十六行相」2158)

2142. 【九十八結漏】(科註第一一〇二頁第六行)

《中華佛教百科全書》「九十八隨眠」條(節錄)：「隨眠」為梵語 *anusāya* 的意譯。

又譯為「使」，是煩惱的異名。因此，「九十八隨眠」即指九十八種煩惱。又稱九十八使、九十八結。也就是將貪、瞋、癡、慢、

疑、身、邊、邪、取、戒等十種隨眠，配屬於三界五部（五部，謂見道苦集滅道之四諦及修道也），而成九十八之數。

其中，欲界「見苦」所斷有十種，「見集」及「見滅」所斷有七種（除身、邊、戒），「見道」所斷有八種（除身、邊），以及欲界修惑所斷有四種（貪、瞋、癡、慢），故欲界煩惱總共有三十六種。色界、無色界（無瞋）於五部各有三十一種。

因此，三界總計有九十八種。此即在見惑八十八使之外，另加修惑十種隨眠，乃成九十八隨眠。（參見「見惑品數」2198）

《佛學大辭典》「結漏」條：（術語）結與漏皆煩惱之異名。煩惱繫縛心身，故云結，煩惱從眼耳等六根日夜漏泄，故云漏。

撰集三藏傳曰：「阿難爾時，坐一樹下，滅結漏盡。」

2143. 《觀經妙宗鈔》（科註第一一〇四頁第五行）見「妙宗鈔」2037。

2144. 【四種（授記）】（科註第一一〇五頁倒數第四行）《佛學大辭典》「四種授記」條：（名數）一未發心而與授記，或有眾生往來五道，諸根猛利，好樂大法，佛知是人自此過若干阿僧祇劫，發無上菩提心，又過若干阿僧祇劫修菩薩行，度無量眾生令住於菩提，又過若干阿僧祇劫成無上菩提，號字如是，國土如是，乃至滅後法住歲數如是等，是名未發心而與授記，是十位已前之種性地也。

二適發心已得授記，或有人久植德本，修習善行，勤心精進，諸根明利，是人發心，

即住阿惟越地，入菩薩位，墮畢竟數，出過八難，如是等人適發心，諸佛即授當得作佛之記，是名適發心已得授記。是住行以上也。

三密授記，有菩薩求無上菩提，行種種之施，勤行精進，求諸善法，如是人固當授記，然自志滿足，恐不復更發精進之心，如不授記，復恐眾人生疑，謂此人精進修行，不蒙授記，是故佛以威神力密作當得作佛之授記，令他人聞，不令當人知，是曰隱覆授記或云密授記。

四現前授記，有菩薩久集善根，無不具足，常修梵行，觀無我空，於一切法得無生忍，佛知是人功德智慧已悉具足，則於一切大眾前現前記其成佛名號國土等，是名現前授記。見首楞嚴三昧經下。

2145. 【クセ愜クセ（音切）】（科註第一一〇九頁倒數第二行）

《漢語大詞典》：快心，滿足。

2146. 【《伽耶山頂經論》】（科註第一一〇九頁倒數第二行）

《閱藏知津》「文殊師利菩薩問菩提經論」條：二卷，一名伽耶山頂經論。天親菩薩造，元魏北天竺沙門菩提留支譯。有經有論。

### ◎ 詞條拾遺

2147. 【六事明經意】（科註第一一九頁倒數第一行）

《三藏法數》：〔出五苦章句經〕

經云：佛有三達之智，來今往古，靡不通焉。佛經眾多，以虛空為量；佛智弘深，以無造為原。經中所演，不可思議，或有反覆，難了難明，粗以六事可知其意。（三達

即三明，宿命明、天眼明、漏盡明也。）

一、正道。謂佛所說之經，旨意深奧，無作無為，無行無得，自然合道，是為正道。

二、善權。謂佛說經，善權變化，無有方所，或出或處，皆順機宜，隨類開演，令人悟解，悉得證入，是為善權。

三、至教。謂如來說經，為諸眾生指示罪福，令知作如是因，得如是果。未有作善得罪，作惡得福，其事明白，至為易曉，是為至教。

四、誘導。謂如來說經，蓋為蒙昧愚癡之人，難便開化，故以現世可獲福報因緣等，勸誘引導，令其歡喜順從，而生正信，是為誘導。

五、福德。謂佛說經，為令眾生修習布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧等行，調伏諸根，無所放逸，則得天人果報，長樂無窮，是為福德。

六、禁戒。謂佛說經，制諸禁戒。令一切眾生，攝持身口意業，清淨不犯，即能超脫三惡趣苦，是為禁戒。

2148. 【六事成就】（科註第二一九頁倒數第一行）

《三藏法數》：〔出莊嚴論〕

論云：菩薩為成就六度，故決定應行六事也。（菩薩，梵語具云菩提薩埵，華言覺有情。六度者，一布施、二持戒、三忍辱、四精進、五禪定、六智慧也。）

一、供養。供養者，謂因成就檀度，故興

供養。若不長時供養三寶，則檀度不得圓滿也。（梵語檀，華言施。）

二、學戒。學戒者，謂因成就戒度，故學習持戒。若不長時學戒，則戒度不得圓滿也。

三、修悲。修悲者，謂因成就忍度，故修習大悲心，饒益眾生。若不長時忍受，及不饒益眾生，則忍度不得圓滿也。

四、勤善。勤善者，謂因成就進度，故勤修眾善。若心放逸，不修諸善，則進度不得圓滿也。

五、離誼。離誼者，謂因成就禪定，故離誼鬧。若在聚落，鬥諍雜亂，則禪定不得圓滿也。

六、樂法。樂法者，謂因成就智度，故愛樂佛法。若不徧歷十方，承事諸佛，聽法無厭，如海納流，無時盈溢，則智度不得圓滿也。

2149. 【玄門無礙十因】（科註第三二九頁倒數第四行）

《三藏法數》「十因——玄門無礙十因」

條：〔出華嚴經疏〕玄門者，即十玄門也。以此十法性德為因，起大業用。令彼玄門諸法，混融無礙，重重無盡。故云玄門無礙十因也。（玄者，妙也。）

一、唯心所現。謂世間出世間一切諸法，唯是真心所現。然法唯心現，全法是心。心既圓融，法亦無礙。經云：知一切法，即心自性。是也。

二、法無定性。謂一切諸法，既唯心現，從緣而起，無定性也。所謂小非定小，於一微塵能含太虛。大非定大，輪圍無數入毛端中。經云：金剛圍山數無量，悉能安置一毛端。是也。

三、緣起相由。謂緣起之法，遞相由藉。然法界緣起，義門無量。略舉十義，緣起方成。故云緣起相由也。

四、法性融通。謂法界之性，圓融通達無礙。然一切事法，依性建立，不異真性。性既融通，事亦如之。故一一微塵，各含法界。經云：華藏世界所有塵，一一塵中見法界。是也。

五、如幻夢。幻者，猶如幻師，能以一物

為種種物，幻種種物而為一物。夢者，如一夢中所見廣大事業，自謂歷時久遠。經云：如人睡夢中，造作種種事，雖經億千歲，一夜未終盡。是也。

六、如影像。謂一切法從心所現，而能含明了性，猶如明鏡，各各互現諸法影像也。經云：遠物近物，雖皆影現，影不隨物，而有遠近。是也。

七、因無限。謂往昔因中，稱法界性，修無量殊勝之因；故今得果，妙用無邊。經云：往修勝行無有邊，今獲神通亦無量。是也。

八、佛證窮。佛證窮者，謂佛證果窮極也。故三覺圓明，六通自在，稱法界性，說

圓滿經。經云：佛住甚深真法性，所流圓滿修多羅。是也。

九、深定用。深定用者，謂入甚深大定，而起妙用也。蓋以海印等諸三昧力，令一切法，炳然齊現，無礙圓融。經云：入微塵數諸三昧，一一出生塵等定。是也。

十、神通解脫。解脫，即自在之義。謂佛以神通不思議解脫之力，令一切法於一法中建立，顯現圓融自在。經云：於一塵中建立三世一切佛法。是也。

2150. 【緣起十義】（科註第三二九頁倒數第三行）

《三藏法數》「十義——緣起十義」條：

〔出華嚴經疏〕緣起者，謂諸法所起因緣，遞相攝持，涉入無礙，分為十種，以釋

前十玄門之義也。

一、諸緣各異義，諸緣各異者，謂諸法緣起各不同也。蓋諸法遞互相望，要須體用各別，不相雜亂，方成緣起。經云：多中無一性，一亦無有多。是也。

二、互遍相資義，互遍相資者，謂諸法所起，更互周遍相應資助，方成緣起也。如一緣遍應多緣，此一則具多一，若不多一，則應不遍，不成緣起。當知此法界中，一緣具多，法法皆爾，無不互遍相資。經云：知以一故眾，知以眾故一。是也。

三、俱存無礙義，俱存無礙者，謂凡是一緣，要具前之二義，方成緣起無礙也。然必由各異方得待緣，必由遍應方自具德。是故

自一多一，自在無礙。經云：諸法無所依，但從和合起。是也。（自一多一者，謂如十數中，以一為自一，以自一應餘九，為多一也。）

四、異體相入義，異體相入者，謂諸法異體，遞相涉入也。蓋諸法力用，遞相依持，方成緣起。如一持多，則多人一內；如多持一，則一人多內也。

五、異體相即義，異體相即者，謂諸法異體，更互相望，全體形奪也。然具有體無體，方成緣起。若一緣有體，能起諸緣，即是一緣；若一緣無體，所起之緣，即是諸緣。一緣有體無體既爾，諸緣有體無體亦然。經云：一即是多，多即一。是也。（全

體形奪者，謂有無之體，更互形比與奪也。一緣者，即一法之因緣也。）

六、體用雙融義，體用雙融者，謂會前異體相入相即，二種皆融通也。蓋諸法體用，交涉無礙，方成緣起。以體無不用故，舉體全是用；以用無不體故，舉用全是體。互不相礙，交徹圓融也。

七、同體相入義，同體相入者，謂一緣多緣無別體，故名為同體。若一緣有力，則能持多一，若多一無力，則依彼一緣。是故一能攝多，多便入一；多能攝一，一便入多也。

八、同體相即義，同體相即者，謂本一多一同是一體，故相即也。蓋本一有體，能作

多一；多一無體，由本一成多一，即本一也。故本一有體，則多一無體，多一有體，則本一無體也。（本一者，謂多數中隨其所用之一即為本也。）

九、俱融無礙義，俱融無礙者，謂融前同體相人相即，二種皆無礙也。蓋體無不用，則有同體相人，而無相即之義；用無不體，則有同體相即，而無相人之義。今既全體全用，則亦人亦即也。

十、同異圓滿義，同異圓滿者，謂前九義有同有異，總合為一，成大緣起。令多義門，同時具足，皆悉圓滿也。

2151. 【太上老君說百病崇百藥】（科註第三三五頁）

### 說百病：

喜怒無常是一病。忘義取利是一病。好色壞德是一病。專心繫愛是一病。憎欲令死是一病。縱貪蔽過是一病。毀人自譽是一病。擅變自可是一病。輕口喜言是一病。快意逐非是一病。以智輕人是一病。乘權縱橫是一病。非人自是是一病。侮易孤弱是一病。以力勝人是一病。貸不念償是一病。威勢自脅是一病。語欲勝人是一病。曲人自直是一病。以直傷人是一病。惡人自喜是一病。喜怒自伐是一病。愚人自賢是一病。以功自與是一病。名人有非是一病。以勞自怨是一病。以虛為實是一病。喜說人過是一病。

以富驕人是一病。以貴輕人是一病。  
以貧妒富是一病。以賤訕貴是一病。  
讒人求媚是一病。以德自顯是一病。  
敗人成功是一病。以私亂公是一病。  
好自掩意是一病。危人自安是一病。  
陰陽嫉妒是一病。激勵旁悖是一病。  
多憎少愛是一病。評論是非是一病。  
推負著人是一病。文拒鉤錫是一病。  
持人長短是一病。假人自信是一病。  
施人望報是一病。無施責人是一病。  
與人追悔是一病。好自怨諍是一病。  
罵詈蟲畜是一病。蠱道厭人是一病。  
毀訾高才是一病。憎人勝己是一病。  
毒藥鳩引是一病。心不平等是一病。  
以賢噴xiāo<sup>ㄒ一ㄠ</sup>（音消。大聲號呼）是一病。

追念舊惡是一病。  
不受諫喻是一病。內疏外親是一病。  
投書敗人是一病。談愚痴人是一病。  
煩苛輕躁是一病。摘捶無理是一病。  
好自作正是一病。多疑少信是一病。  
笑顛狂人是一病。蹲踞無禮是一病。  
醜言惡語是一病。輕易老少是一病。  
惡態醜對是一病。了戾自用是一病。  
好喜嗜笑是一病。喜禁固人是一病。  
詭jué<sup>ㄐ一ㄨㄛˊ</sup>譎（音覺。欺誑）諛諂是一病。  
嗜得懷詐是一病。  
兩舌無信是一病。乘酒歌橫是一病。  
罵詈風雨是一病。惡言好殺是一病。  
教人墮胎是一病。干預人事是一病。  
孔穴窺視是一病。借不念還是一病。

負債逃竊是一病。背向異辭是一病。  
喜抵捍戾是一病。調戲必固是一病。  
故迷誤人是一病。探巢破卵是一病。  
剝<sup>ㄅㄛˊ</sup>（音枯。挖、剖）胎剖形是一病。  
水火敗傷是一病。  
笑盲聾暗是一病。教人嫁娶是一病。  
教人<sup>ㄓ</sup>擲（音志。投擲、抵觸）捶是一病。  
教人作惡是一病。  
含禍離愛是一病。唱禍道非是一病。  
見便欲得是一病。強奪人物是一病。  
崇百藥：  
體弱性柔是一藥。行寬心和是一藥。  
動靜有禮是一藥。起居有度是一藥。  
近德遠色是一藥。除去欲心是一藥。  
推分引義是一藥。不取非分是一藥。

雖憎猶愛是一藥。好相申用是一藥。  
為人願福是一藥。救禍濟難是一藥。  
教化愚蔽是一藥。諫正邪亂是一藥。  
戒敕童蒙是一藥。開導迷誤是一藥。  
扶接老弱是一藥。以力助人是一藥。  
與窮恤寡是一藥。矜貧救厄是一藥。  
位高下士是一藥。語言謙遜是一藥。  
恭敬卑微是一藥。不負宿債是一藥。  
<sup>ㄇㄧㄣˊ</sup>湣（音敏。憐恤）慰篤信是一藥。  
質言端<sup>ㄑㄨㄝˋ</sup>愨（音確。恭謹）是一藥。  
推直引曲是一藥。不爭是非是一藥。  
逢侵不鄙是一藥。受辱不怨是一藥。  
推善隱惡是一藥。推好取醜是一藥。  
推多取少是一藥。稱歎賢良是一藥。  
見賢自省是一藥。不自彰顯是一藥。

推功引苦是一藥。不自伐善是一藥。  
不掩人功是一藥。勞苦不恨是一藥。  
懷實信厚是一藥。覆蔽陰惡是一藥。  
富有假乞是一藥。崇進勝己是一藥。  
安貧不怨是一藥。不自尊大是一藥。  
好成人功是一藥。不好陰私是一藥。  
得失自觀是一藥。陰德樹恩是一藥。  
生不罵詈是一藥。不評論人是一藥。  
好言善語是一藥。災病自咎是一藥。  
苦不假推是一藥。施不望報是一藥。  
不罵畜生是一藥。為人祝願是一藥。  
心平意等是一藥。心靜意定是一藥。  
不念舊惡是一藥。  
匡邪<sub>之</sub>弼<sub>之</sub>（音必。糾正）惡是一藥。  
聽諫受化是一藥。不干預人是一藥。

忿怒自制是一藥。解散思慮是一藥。  
尊奉老者是一藥。閉門恭肅是一藥。  
內修孝悌是一藥。蔽惡揚善是一藥。  
清廉守分是一藥。好飲食人是一藥。  
助人執忠是一藥。救日月蝕是一藥。  
遠嫌疑是一藥。  
恬<sub>之</sub>淡<sub>之</sub>（音淡。淡泊）寬舒是一藥。  
尊奉聖文是一藥。思神念道是一藥。  
宣揚聖化是一藥。立功不倦是一藥。  
尊天敬地是一藥。拜謁三光是一藥。  
恬淡無欲是一藥。仁順謙讓是一藥。  
好生惡殺是一藥。不多聚財是一藥。  
不犯禁忌是一藥。廉潔忠信是一藥。  
不多貪財是一藥。不燒山木是一藥。  
空車助載是一藥。直諫忠信是一藥。

喜人有德是一藥。赴與窮乏是一藥。

代老負擔是一藥。除情去愛是一藥。

慈心潛念是一藥。好稱人善是一藥。

因富而施是一藥。因貴爲惠是一藥。

2152. 【三種三諦】（科註第五七三頁第五行）

《佛學大辭典》：（名數）不思議之三

諦，雖以無決定性之故，不可說之，然為機緣說之則不出三意：

一、隨情說，此為大悲方便，或約於有門，或約於空門，而明之。此三諦在圓教十行（疑作「十信」）已前也。

二、隨情智說，即隨自他意語也。就情而說有空之二，就智而說中之一，此三諦當於圓教十信位。

三、隨智說，即隨自意語也。是初住已

去，非徒中絕視聽，真假亦然。三諦玄微，

唯智所照，不可示，不可思，聞者驚怪。唯

佛與佛乃能窮盡，言語道斷，心行處滅，不

可以凡情圖想也。

2153. 【海印三昧有十義】（科註第三三八頁第三

行）

《三藏法數》「十義——海印三昧有十

義」：「出宗鏡錄」海印是喻。梵語三昧，

華言正定。從喻立稱，故名海印三昧。謂大

海澄滄，湛然不動，萬象皆現，如印印物。

如來智海，清淨湛然，一切眾生心念根欲，

悉在如來三昧智中，猶海現像也。

一、無心能現，謂如來三昧法性平等，離

諸名相，不加功用，而能顯現一切諸相，是名無心能現。

二、現無所現，謂如來三昧，隨眾生心，現種種相，如光如影，了不可得，是名現無所現。

三、能現所現非一，謂如來三昧能現之智，與所現之境，一念圓融，十方普應，是名能現所現非一。

四、能現所現非異，謂如來三昧能現之智，所現之境，雖十方普應不同，莫不本乎一念，是名能現所現非異。

五、無去來，謂如來三昧，萬法現於自心，彼亦不來；身相遍於法界，我亦不去，是名無去來。

六、廣大，謂如來三昧普遍包容，無法不備，眾生世界，不離一心，是名廣大。

七、普現，謂如來三昧，一切世界於一中，不簡巨細，皆悉能現，是名普現。

八、頓現，謂如來三昧，一切世界當念即現，無前無後，色相宛然，是名頓現。

九、常現，謂如來三昧，於諸法相，無有不現之時。非如明鏡，像對則現，不對則不能現，是名常現。

十、非現現，謂如來三昧，寂然不動，為眾生故，於非應中隨感而應。猶如明鏡，無心現物，而像對即現，是名非現現。

2154. 【三千實相】（科註第一〇九四頁倒數第五行）

法華云：「諸法實相，即性相等十如是之

法也。」謂十法界中一界具足十界，界界互具，則成百界。一界具十如是（性如是，相如是，體如是，力如是，作如是，因如是，緣如是，果如是，報如是，本末究竟如是）百界則成千如，是故云百界千如。五陰一千，正報（眾生）一千，依報（國土）一千，則成三千世間。此三千法，不離現前一念妄心。即此為能觀，即此為所觀。寂而常照，照而常寂。境觀俱妙，斯為實相。

2155. 【壞見壞行】（科註第一〇七五頁第二行）

《佛學大辭典》「壞見」條：（術語）如提婆雖犯五逆，然有天王如來之別記。是為壞行之人，非為壞見之人也。如善星比丘無惡行，然依撥無（因果）之邪見，墮獄無出

期。是為壞見之人，非為壞行之人也。

大集地藏十輪經五曰：「有戒壞見不壞，有見壞戒不壞，有戒見共壞。」

2156. 【一乘】（科註第一三八頁第二行）

《佛學大辭典》：（術語）成佛唯一之教也。乘為車乘，以譬佛之教法。教法能載人運於涅槃岸，故謂之乘。法華經專說此一乘之理。

法華經方便品曰：「十方佛土中，唯有一乘法，無二亦無三，除佛方便說。」同品曰：「諸佛如來，以方便力，於一佛乘，分別說三。」同品曰：「唯此一事實，餘二則非真。」

文句四上曰：「圓頓之教，為一佛乘。」

勝鬘經曰：「一乘即是第一義乘。」勝鬘寶窟上本曰：「一乘者，至道無二，故稱爲一。運用自在，目之爲乘。」

依法華論，此大乘修多羅，有十七種名，第十四名一乘經。

起信論義記上曰：「乘者就喻爲稱，運載爲功。」

案方便品所說，即開會三乘之別執，悉歸趣於平等大會，等使一切眾生成佛道也。

蓋大乘佛教中，所謂權大乘家，立一切有情爲法爾，五性各別之說。故其中定性二乘及無性，畢竟無由成佛。是故諸佛之法，自不可無三乘之別。定性二乘，必由聲聞緣覺之二乘而般涅槃，菩薩種性，必由大乘而般

涅槃。

然法華等經，或說唯有一乘者，是引攝不定性者，不使墮於二乘地，進而使由大乘般涅槃也，即如來密意之說也。又以所趣之真如無差別，三乘解脫等相等，故說爲一乘耳。實則非無二三之別也。如大乘莊嚴經論第五，攝大乘論釋第十，廣列十義或八義意趣而論之。是爲所謂三乘真實一乘方便之教旨，以深密等經爲所依之法相家所主張也。

至於實大乘則不然。蓋其所立之說，一切眾生，本無五性之別，悉有佛性，一性平等，故皆得由佛乘而成佛。昔曾說三乘各別之法者，不過爲對於權機假說之方便耳。此爲所謂一乘真實三乘方便之教旨，天台華嚴

等宗家所主張也。其中天台所依之法華經，主對於三乘之人，說其教之所以方便，開會之，使歸於一佛乘。華嚴經主對於十地之大菩薩，廣說其所入之一乘法，故至智儼賢首，分一乘而更論同教別教之二種。

五十要問答上，謂「一乘教有二種：一、共教，二、不共教。」

孔目章一，謂「一乘之義，分別有二，一正乘，二方便乘，正乘如華嚴經所說，方便乘有十義」二云云。

又五教章上，謂「一乘教義之分齊，開為二門。一別教，二同教。」並廣釋述之。今擇要言之，則在同於三乘而說一乘為同教，於三乘全不共而別說一乘為別教。彼法華譬

喻品所謂宅內所指之門外三車，三乘教也。界外露地所授之大白牛車，是別教一乘教也。同教者，如是三一不為別說。或謂一同於三，或謂三同於一，互相交參，是欲使成根欲性，進而入於華嚴別教一乘也。由是而概括之，一乘凡有三種：

一、為存三之一乘，所謂不破三乘之疑執，亦不會二乘之行果，唯就空理之平等而說為一乘。如攝大乘論之十義意趣是也。

二、為遮三之一乘，會二乘之行果，遮三乘之別執，而說為一乘。如法華之同教一乘是也。

三、為直顯之一乘，不對於二乘，故無可破，唯為大菩薩，直示法界成佛之儀。如華

嚴之別教一乘是也。

若經五教而論之，則總有五種之一乘。

一別教一乘，如華嚴是。

二同教一乘，如法華是。

三絕想一乘，如楞伽是。是為頓教。所謂

絕想亡言之邊，名為一乘。

四佛性平等一乘，是為終教。一性皆成之

邊，名為一乘。

五密意一乘，即為始教。如攝論之十義意

趣是。

《法相辭典》：顯揚二十卷十一頁云：

問：何故如來宣說一乘？答：由六因故。

一、即彼諸法，約無差別相說故。

二、約無分別行相說故。

三、眾生無我及法無我，平等故。

四、解脫平等故。謂差別求者，有事、虛

妄分別煩惱，對治所緣法性不相違故。（事

煩惱即思惑；虛妄分別煩惱即見惑。）

五、善能變化住故。六、行究竟故。

2157. 【中品上生是小乘三果】（科註第二〇三頁

第一行）

《觀無量壽經義疏》（隋淨影寺釋慧遠

撰）：「小乘人中前三果人說為中上。生彼

即得阿羅漢故。」

《觀無量壽佛經》：「未舉頭頃即得往生

極樂世界。蓮花尋開。當華敷時。聞眾音聲

讚歎四諦。應時即得阿羅漢道。三明六通具

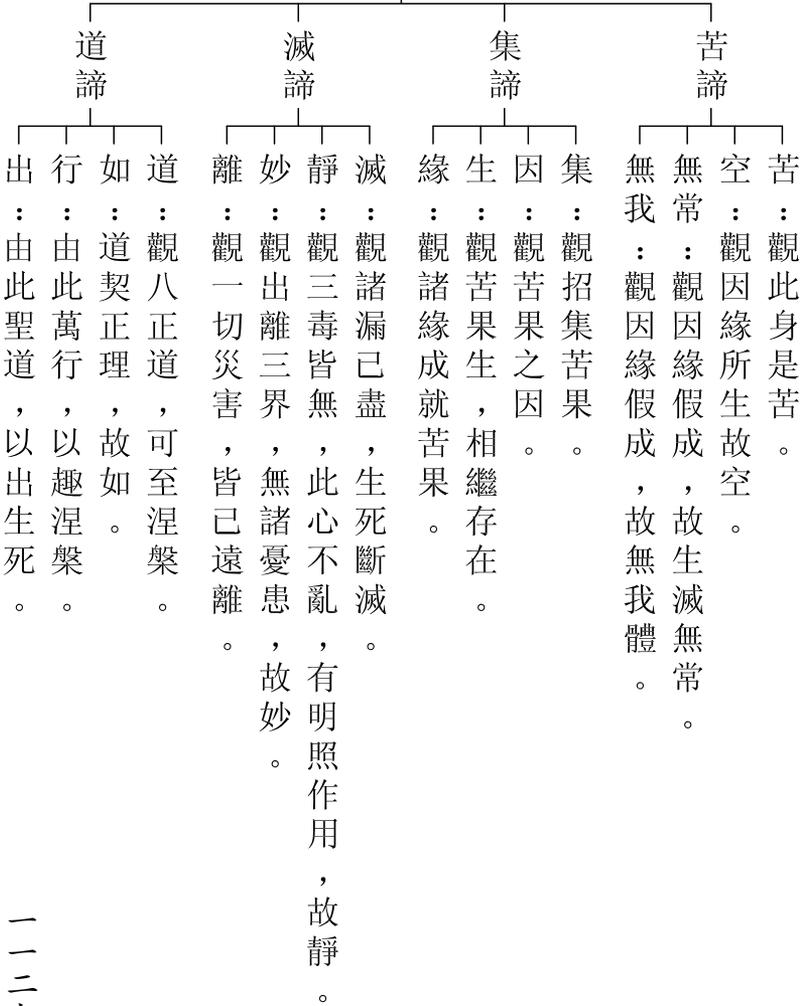
八解脫。是名中品上生者。」

【四諦十六行相】

(科註第七〇〇頁第八行)

《佛學常見辭彙》：小乘行者修三賢至四善根的煖位，已徹見四諦真理，更進而達頂位，須觀四諦十六行相，每一諦皆有四種行相，要一一觀之分明方可。

四諦十六行相



2159. 【十善因果】（科註第七九二頁第六行）

《佛學次第統編》：等流果，由善因生善果，惡因生惡果，無記因生無記果也。例如由前念之不善心，起後念之不善心，又生不善業，果性似因性而流出，是曰等流果。

循等流之果略解十善之因果如下：

第一、不殺生之因果。十善業道經曰：佛曰：若離殺生，即得成就，十離惱法。

- 一者、於諸眾生，普施無畏。
- 二者、常於眾生，起大慈心。
- 三者、永斷一切，瞋恚習氣。
- 四者、身常無病。
- 五者、壽命長遠。
- 六者、恒為非人之所守護。
- 七者、常無惡夢，寢覺快樂。

八者、滅除怨結，眾怨自解。

九者、無惡道怖。

十者、命終生天。

（若能迴向阿耨多羅三藐三菩提者。後成佛時。得佛隨心自在壽命。）

第二、不偷盜之因果。若離偷盜，即得十種可保信法：

一者、資財盈積，王賊水火，及非愛子，不能散滅。

二者、多人愛念。

三者、人不欺負。

四者、十方讚美。

五者、不憂損害。

六者、善名流布。

七者、處眾無畏。

八者、財命色力，安樂辯才，具足無缺。

九者、常懷施意。

十者、命終生天。

（若能迴向阿耨多羅三藐三菩提者。後成佛

時。得證清淨大菩提智。）

第三、不邪淫之因果。若離邪淫，即得四種智所讚法：

一者、諸根調順。二者、永離喧掉。

三者、為世稱歎。四者、妻莫能侵。

（若能迴向阿耨多羅三藐三菩提者。後成佛

時。得佛丈夫隱密藏相。）

第四、不妄語之因果。若離妄語，即得八

種天所讚法：

一者、口常清淨，如優鉢華香。

二者、為諸世間之所信服。

三者、發言成證，人天敬愛。

四者、常以愛語，安慰眾生。

五者、得勝意樂，三業清淨。

六者、言無誤失，心常歡喜。

七者、發言尊重，人天奉行。

八者、智慧殊勝，無能制伏。

（若能迴向阿耨多羅三藐三菩提者。後成佛

時。即得如來真實語。）

第五、不綺語之因果。若離綺語，即得成

就三種決定：

一者、定為智人所愛。

二者、定能以智，如實答問。

三者、定於人天，威德最勝，無有虛妄。

（若能迴向阿耨多羅三藐三菩提者。後成佛

時。即得如來諸所授記。皆不唐捐。）

第六、不惡口之因果。若離惡口，即得成

就八種淨業：

- 一者、言不乖度。 二者、言皆利益。  
三者、言必契理。 四者、言詞美妙。  
五者、言可承領。 六者、言則信用。  
七者、言無可譏。 八者、言盡愛樂。

（若能迴向阿耨多羅三藐三菩提者。後成佛時。具足如來梵音聲相。）

第七、不兩舌之因果。若離兩舌，即得五種不可壞法：

- 一者、得不壞身，無能害故。  
二者、得不壞眷屬，無能破故。  
三者、得不壞信，順本業故。  
四者、得不壞法行，所修堅固故。  
五者、得不壞善知識，不誑惑故。

（若能迴向阿耨多羅三藐三菩提者。後成佛

時。得正眷屬。諸魔外道不能沮壞。）  
第八、不貪欲之因果。若離貪欲，即得成就五種自在：

- 一者、三業自在，諸根具足故。  
二者、財物自在，一切怨賊，不能奪故。  
三者、福德自在，隨心所欲，物皆備故。  
四者、王位自在，珍奇妙物，皆奉獻故。  
五者、所獲之物，過本所求，百倍殊勝，由於昔時，不慳嫉故。

（若能迴向阿耨多羅三藐三菩提者。後成佛時。三界特尊皆共敬養。）

第九、不瞋恚之因果。若離瞋恚，即得八種喜悅心法：

- 一者、無損害心。 二者、無瞋恚心。

三者、無諍訟心。 四者、柔和質直心。

五者、得聖者慈心。

六者、常作利益，安眾生心。

七者、身相端嚴，眾共尊敬。

八者、以和忍故，速生梵世。

（若能迴向阿耨多羅三藐三菩提者。後成佛

時。得無礙心。觀者無厭。）

第十、不邪見之因果。若離邪見，即得成

就十功德法：

一者、得真善意樂，及真善等侶。

二者、深信因果，寧殞身命，終不作惡。

三者、唯歸依佛，非餘天等。

四者、直心正見，永離一切之吉凶疑網。

五者、常生人天，更不在於惡道。

六者、無量福慧，轉更增勝。

七者、永離邪道，行於正道。

八者、不起身見，捨諸惡業。

九者、住無礙見。 十者、不墮諸難。

（若能迴向阿耨多羅三藐三菩提者。後成佛

時。速證一切佛法。成就自在神通。）

2160. 【十惡因果】（科註第一四六頁第七行）

（蕩益大師於《十善業道經》後所附之十

惡果報，乃前十善果報逐一之反面，依前可

知，此不詳列。）

《佛學次第統編》：循等流之果略解十惡

之因果如下：

第一、殺生之因果。地持論曰：殺生之

罪，能令眾生墮三惡道。若生人中，得二種

果報：一者短命，二者多病。

一、何故殺生受地獄苦？答：殺生使眾生受苦，故身壞命終，地獄之眾苦皆來。

二、何故復受畜生報？答：殺生無慈惻心，乖於正理故，故地獄罪畢，受畜生身。

三、何故復受餓鬼報？答：以殺生者必緣於慳心及貪著故，故復為餓鬼。

四、何故後生人中得短壽報？答：以殺生殘害物命之故，故得短命報。

五、何故兼得多病報？答：以殺生違逆順適，眾患競集故，故得多病報。

當知殺生是大苦惱。

第二、偷盜之因果。劫盜之罪，亦使眾生墮三惡道。若生人中，得二種果報：一者貧

窮，二者共財不得自在。

一、何故劫盜墮於地獄？答：以劫盜剝奪人財，偷竊人財，苦於眾生故，即身死人寒冰地獄，備受諸苦。

二、何故復受畜生報？答：以其不行人道故，故受畜生報，身常負重，以肉供人，償其宿債。

三、何故復墮餓鬼？答：以行劫盜，必緣慳故，故畜生罪畢，復為餓鬼。

四、何故後生人中貧窮？答：以劫奪者，使人之物空乏故，故受貧窮。

五、何故復共財不得自在？答：緣劫盜偷奪，出於共為故，故不得自在。

當知偷盜是大苦惱。

第三、邪淫之因果。邪淫之罪，亦令眾生墮三惡道。若生人中，得二種果報：一者妻子不貞潔，二者不得隨意眷屬。

- 一、何故邪淫墮於地獄？答：以邪淫干犯非分，侵占苦人故，命終受地獄之苦。
- 二、何故復受畜生報？答：以邪淫不順人理故，故地獄出，受畜生身。
- 三、何故復為餓鬼？答：以姪佚皆因慳愛故，故由慳愛罪，復為餓鬼。
- 四、何故復生人中妻不貞潔？答：以犯他人妻故，所得之婦，常不貞正。
- 五、何故復不得隨意眷屬？答：以邪淫奪人愛寵故，其眷屬不得隨意，故復為人所奪。

當知姪佚是大苦惱。

第四、妄語之因果。妄語之罪，亦令眾生墮三惡道。若生人中，得二種果報：一者多被誹謗，二者為他所誑。

- 一、何故妄語墮於地獄？答：以妄語不實，使人虛爾生苦，以是身死，受地獄苦。
- 二、何故復為畜生？答：以妄語欺妄，乖於誠信，故出地獄，復受畜生身。
- 三、何故復為餓鬼？答：以妄語皆緣於貪欺，慳欺罪故，復為餓鬼。
- 四、何故妄語生於人中多被誹謗？答：以妄語不誠實故。
- 五、何故妄語為人所誑？答：以其欺誑人之故。

當知妄語是大苦惱。

第五、綺語之因果。綺語之罪，亦令眾生墮三惡道。若生人中，得二種果報：一者言無人信，二者語不明瞭。

一、何故綺語即墮地獄？答：所語非義，事能損人，是故命終，受地獄苦。

二、何故復為畜生？答：以語無義，乖背正理，故出地獄，復受畜生身。

三、何故復為餓鬼？答：以語無義故，被慳惑障，因慳惑故，復為餓鬼。

四、何故後生人中言無人信？答：以語無義，不可承受故。

五、何故復語不明瞭？答：以語無義，皆緣暗昧，暗昧報故，故不明瞭。

當知綺語是大苦惱。

第六、惡口之因果。惡口之罪，亦令眾生墮三惡道。若生人中，得二種果報：一者常聞惡聲，二者言多諍訟。

一、何故惡口能墮地獄？答：以惡口皆欲害人，使人聞之生苦故，故命終受地獄之苦。

二、何故復為畜生？答：以惡口罵人故，故為畜生。

三、何故復為餓鬼？答：緣慳吝故，干觸則罵，以是畜生苦畢，復為餓鬼。

四、何故生於人中常聞惡聲？答：以其發言麤鄙故，所聞常為惡聲也。

五、何故生於人中言多諍訟？答：以惡

口違逆眾德故，所言常致諍訟也。

當知惡口是大苦惱。

第七、兩舌之因果。兩舌之罪，亦令眾生墮三惡道。若生人中，得二種果報：一者眷屬乖離，二者親族弊惡。

一、何故兩舌墮於地獄？答：以兩舌離人親愛，使人受愛離苦故，故命終受地獄苦。

二、何故兩舌復為畜生？答：緣兩舌鬥亂，事同野干，故復受於畜生身。

三、何故兩舌復為餓鬼？答：以兩舌亦緣慳嫉，慳嫉罪故，復為餓鬼。

四、何故生於人中眷屬乖離？答：緣兩舌使人良儔，皆生惡故。

五、何故復親族弊惡？答：以兩舌離人

親好，使人不和合故。

當知兩舌是大苦惱。

第八、貪欲之因果。貪欲之罪，亦令眾生墮三惡道。若生人中，得二種果報：一者心不足，二者多欲無厭。

一、何故貪欲墮於地獄？答：緣其欲，作動身口，使人受苦，以是身死，受地獄苦。

二、何故復墮畜生？答：緣貪欲行動，乖背正理，故出地獄，還受畜生。

三、何故復為餓鬼？答：緣此貪欲，必成貪惜，役於貪惜之罪，故為餓鬼。

四、何故後生人中心不知足？答：以緣於貪欲故，所欲彌多。

五、何故復致多欲無厭？答：以緣於貪欲故，貪求無厭。

當知貪欲是大苦惱。

第九、瞋恚之因果。瞋恚之罪，亦令眾生墮三惡道。若生人中。得二種果報：一者常被他人求其長短。二者常被於他之所惱害。

一、何故瞋恚墮於地獄？答：緣瞋惱恚害，能使人苦故，受地獄之苦。

二、何故復為畜生？答：緣此瞋惱，不能仁恕。故出地獄，復作畜生。

三、何故復為餓鬼？答：緣此瞋惱，由慳心起。慳心之罪，故為餓鬼。

四、何故後生人中常為他人求其長短？答：緣此瞋惱，不能含容。故後生人

中，為人求其長短。

五、何故常被於他之所惱害？答：以瞋惱害於人，故亦為人惱害。

當知瞋恚是大苦惱。

第十、邪見之因果。邪見之罪，亦令眾生墮三惡道。若生人中，得二種果報：一者生邪見家，二者其心諂曲。

一、何故邪見墮於地獄？答：以邪見唯向邪道及神屬。謗佛法僧，不崇三寶，既不崇信，則能斷人正路，致令遭苦，命終即入阿鼻地獄。

二、何故復為畜生？答：緣邪見不識正理，故出地獄，受畜生報。

三、何故邪見復為餓鬼？答：邪見令慳心

堅著，復令乖僻，使堅著不捨，故為餓鬼。

四、何故後生人中復生邪見之家？答：緣此邪見，纏僻習心，以是為人，復生邪見之家。

五、何故其心諂曲？答：緣此邪見，不入中正，所以為人，心常諂曲。

當知邪見是大苦惱，如是十惡，悉是大苦。

#### 2161. 【十惡十善之增上果】

《佛學次第統編》：增上果，總稱勢力之強者曰增上，令果報益加增上者，曰增上果。天地世界，皆為一切有情之業力所感。異熟果、等流果為一切有情直接所感受身心之內界，而有情生息所居之器世界，亦能顯其果報於外，所謂依正二報也。各界有情，

依報各異，即是增上不同。

就論人界相應之依報，當十善之世，則現十善相應之果報；十惡之世，則現十惡相應之果報。其十善十惡之因果，顯於人之外相。例如有福力者，庭園家宅，皆是壯麗，此即名為增上之果。按諸經論旨趣，略言其義。

一、略說十惡十善之增上果：

一殺生業之增上果。能令田林生殖，皆失其力，穀果欠收，貴物不現。反之不殺者，一切資產，得好結果。

二偷盜業之增上果。能使草樹穀果生惡害蟲，霜雹為害，飢饉現災。同類之眾，或在一家，或在一郡，或在一國，無不被害。反之不偷盜者，一家一村，

一郡一國，俱由其福力，感召利潤。

三邪淫業之增上果。能使國土招暴風雨之害，塵埃穢惡之毒。反之不邪淫者，不致感召天變。

四妄語業之增上果。因其以卑劣之意，欺於他人故。此業種增上，能使外物感召污穢不淨，所有目的，恆致失望。言語失其信用，命令違背不行。反之不妄語者，萬事能通，無諸絕望。

五綺語業之增上果。由此雜穢語業增上力，能致官失其位，商失其利，一切草木叢林，滿生荊棘毒草。反之不綺語者，官商恒榮，山河宜適。

六惡口業之增上果。能致居住世界，

瓦石沙礫，塵芥荊棘之惡物，充滿觸近，諸不自由。反之若不惡口者，諸得自由。

七兩舌業之增上果。由此離間語之增上力，能致大地高下不平，山陵丘墟突兀，道路嶮岨，穀果不茂。反之不兩舌者，處處平坦。

八貪欲業之增上果。能使五穀欠減，財富短虧。

九瞋恚業之增上果。能使戰爭劇烈，兵甲不息，荊棘遍地，果木苦澀。

十邪見業之增上果。由斷常二見，不信善惡報應，因果道理。由此邪見及邪教，令人失其善心。此增上力，能致器世界，上妙色香美味皆失，五穀欠收。

二、小三災為增上果。總此末法之世，飢、刀、疾之三災，即為眾生心中貪、瞋、癡之三毒。

一 飢饉，即為貪欲之增上果。

二 刀兵，即為瞋恚之增上果。

三 疾疫，即為愚癡之增上果。

三、大三災為增上果。即在水、火、風之大三災。亦不外貪、瞋、癡三毒之增上。

一 水災緣貪。二 火災緣瞋。三 風災緣癡。

四、五濁為增上果。復次五濁惡世，亦復增上果之所致。

一 眾生濁，人弊惡多，不識義理。

二 見濁，六十二見，邪見強盛，不受正教。

三 煩惱濁，人愛欲多，塵勞隆興，不知去就。

四 命濁，人壽愈趨愈短，且夭折不齊。  
五 劫濁，三災皆起，無不為害。

2162. 【十如是】

《佛光大辭典》「通解十如是」條：又作總釋十如是。法華經卷一方便品舉出十項「如是」之語，稱為十如是，然經中並無進一步之解說，歷代諸師遂就此「十如是」廣作闡釋，較著名者有劉宋之法瑤、蕭齊之玄暢、梁代之法雲等。天台大師智顛綜合諸師之說，於所著摩訶止觀卷五詳述十如是一一般解說，稱為通解；智顛又創立新說，另從十法界、佛界、離合、位次等四方面，分別解釋十如是，稱為別解四類。

通解之十如是，即：

(一) 相如是，又作如是相，指外在可見之形相，如顯現之善惡行為。

(二) 性如是，又作如是性，指內在不可見之本性，諸法本性各不相同，無可改變，如木有火性，遇緣即發；此性亦指理性、佛性。

(三) 體如是，又作如是體，指眾生之質體，如五蘊、十二處皆以色、心為其體。

(四) 力如是，又作如是力，指諸法所具有之功能，如甄(同磚)、泥可為砌牆之材料。

(五) 作如是，又作如是作，指身、口、意三業之作為。

(六) 因如是，又作如是因，指招致果報之業因(玄奘之後新譯作等流因)，即前時所習染者成為後時之善惡業種。

(七) 緣如是，又作如是緣，「緣」指助因，如以五穀之種為因，雨露水土為其緣，所謂因緣和合，種子即藉雨露等助力而成長(新譯作異熟因)。

(八) 果如是，又作如是果，指從過去所習染之因得其相應之果(新譯作等流果)。此習因、習果相隔之時限有三：一、二者相隔過去、現在二世，二、二者相隔現在、未來二世，三、於現在世中因果皆有。

(九) 報如是，又作如是報，指由善惡業因所招感之未來苦樂果報(新譯作異熟果)。此報因、報果間，必相隔一世上。

(十) 本末究竟等如是，又作如是本末究竟等，即以上述各項「如是」中之「相」為

本，「報」為末，本末皆由因緣和合所產生，故本末皆空，此空即為諸法平等之極致。又前九種如是皆屬於「事」，本末究竟等如是則為「理」。若以天台宗之空假中三諦闡釋之，則自空諦觀之，本末皆為真空；

自假諦觀之，本末皆為妙假；自中諦觀之，本末皆為中道法界。是知此本末究竟平等之三諦即為「實相」，而前九種如是則為「諸法」；兩者合之，即天台宗以十如是闡釋諸法實相「性空真如」之要理。

〔法華玄義卷二上、卷三上、法華文句卷三下、法華義疏卷四、授決集卷下、十如是義私記〕（參見一一四四頁之「十法界十如是表」）

○三轉讀文：又作十如三轉。智顛大師將此「十如是」之文分為三種讀法，據法華玄義卷二上載，由三種不同讀法，可顯現空、假、中之三諦法，即指：

（一）空轉，若讀為「是相如」，乃至「是本末究竟等如」，則作「諸法皆空」之解，用以彰顯「空」諦。

（二）假轉，若讀為「如是相」，乃至「如是本末究竟等」，則作「空即假、現象即差別」之解，用以彰顯「假」諦。

（三）中轉，若讀為「相如是」，乃至「本末究竟等如是」，則作「諸法即諸法實相」之解，用以彰顯「中」諦。〔法華玄義講述卷二上〕

台宗後裔靜修謹述 十法界如十是表

佛界	緣因善心	了因慧性	正因理心	初發菩提	四弘誓願	智慧莊嚴	福德莊嚴	助發智慧	一念相應	朗然大覺	圓成四德	本末究竟等	初相為本，後報為末，此之本末，皆同實相，一理平等無二，是名
	恒沙佛法	定入生死	界外變易	無量四弘	自行化他	真無漏慧	前教道品	助成真慧	假觀成就	證入行向	變易未盡		
苦	別教	理度相生	無漏智慧	無生四弘	幻化六度	無漏習因	生滅道品	助發無漏	斷餘殘習	克證佛果	佛亦無報	性以據內自不改習性內蘊遇緣即發	力以功能為義指未來力能堪
		表二涅槃	性是自法	誓願進取	自行化物	習續不斷	見思二惑	助成善種	三十四心	斷結為果	佛同二乘		
薩	通教	事度相現	不異人天	生滅四諦	行事六度	善業種子	生生不息	助發勝智	得證無漏	有餘涅槃	是以無報	因以宿習諸種子為義指種現	力以功能為義指未來力能堪
		遠表涅槃	性樂寂靜	依發四弘	不運三業	無漏習種	勤觀因緣	續生勝智	外稟因緣	證入無漏	四沙門果		
聲聞	緣覺	厭苦相生	性非黑白	使山苦海	不動三業	勤策精進	無漏種子	行行道品	證入無漏	四沙門果	自爾無報	體以主質為義通指現未色心	性以據內自不改習性內蘊遇緣即發
		五分法身	寂靜輕安	力能出苦	力能動出	永謝輪迴	五分法身	寂靜輕安	五分法身	寂靜輕安	性非黑白		

天界	禪善相起	遠表清升	索性好善	終難易轍	安樂色心	諸多輕快	力任上善	力任上善	運動三業	止行二善	白業習種	相續無已	具度助善	如水潤種	酬因自成	天上善果	安處天宮	快受勝樂								
人界	戒善相萌	遠表輕安	性善綱常	無可更易	身心安快	行動康寧	樂從有益	運動身口	運動身口	創諸善業	善因種子	習續不斷	所有具度	助成善因	助成善因	男醜女美	苦樂相雜	住處華宮	受諸快樂	享用自在	差比天樂	火聚逼身	遇食即變	依正粗濁	逼迫難堪	
餓鬼	貪取相彰	遠表饑虛	性分多貪	難可改變	形山腹海	粗惡可畏	堪任噉穢	運動三業	運動三業	攬取無厭	食習宿種	相生連續	相應具度	助成貪種	千載不聞	漿水之名	披毛戴角	以苦為樂	著我我所	所有具度	具度助種	惡我我所	地獄相現	謂為樂境	鐵床銅柱	備嘗眾苦
畜生	癡著相發	遠表橫行	性多愛著	不可改易	粗惡色心	互相吞噉	力任刀礮	運動三業	運動三業	誘物歸已	癡習宿因	發現不絕	著我我所	所有具度	以苦為樂	地獄相現	謂為樂境	鐵床銅柱	備嘗眾苦							
地獄	惡逆相起	遠表泥犁	上品黑惡	自分不改	摧折色心	體無完膚	堪任受苦	運動三業	運動三業	創業惡逆	惡習種子	相生不斷	惡我我所	具度助種	地獄相現	謂為樂境	鐵床銅柱	備嘗眾苦								
任苦樂	緣以疏助為義指助緣器具能成習業	果指習成享受為果如習善惡諸業現感諸果	報指未來所招感為報如富貴貧賤苦樂天壤悉是酬因																							

「本末究竟等也。」

2163. 【方便】（科註第二六五頁倒數第一行）

《佛學大辭典》（節錄）：（術語）有二

釋：一對般若而釋。二對真實而釋。

一、對般若而釋，則謂達於真如之智為般若，謂通於權道之智為方便。權道乃利益他之手段方法，依此釋則大小乘一切之佛教，概稱為方便。方者方法，便者使用，使用契於一切眾生之機之方法也。又方為方正之理，便為巧妙之言辭。對種種之機，用方正之理與巧妙之言也，又方者眾生之方域，便者教化之便法，應諸機之方域，而用適化之便法，謂之方便。是皆通一大佛教而名之也。（中略）

二、對真實而釋，則謂究竟之旨歸為真

實，假設暫廢為方便。故又名善巧，或曰善權。即入於真實能通之法也。利物有則云方，隨時而施曰便。依此釋，則為小乘入大乘之門，故謂之方便教。三乘為通于一乘而設者，故亦名方便教。因斯判一切法為方便真實之二也。

2164. 【陀羅尼】（科註第二七三頁第三行）

《法相辭典》（節錄）：佛地經論五卷十

五頁云：陀羅尼者：增上念慧，能總任持無量佛法，令不忘失。於一法中，持一切法；於一文中，持一切文；於一義中，持一切義。攝藏無量諸功德故；名無盡藏。此陀羅尼，略有四種。一、法陀羅尼，二、義陀羅尼，三、咒陀羅尼，四、能得菩薩忍陀羅

尼。(參見「陀羅尼」238)

2165. 【波羅密多種性】 (科註第二七八頁第二行)

《佛地經論卷第二》：一切皆是最極利根波羅密多種性聲聞故名為大。(波羅密多種性，菩薩種性也。波羅密多：譯言究竟、到彼岸、度無極，又單譯曰度。以名菩薩之大行者，菩薩之大行，能究竟一切自行化他之事，故名事究竟，乘此大行能由生死之此岸到涅槃之彼岸，故名到彼岸。因此大行能度諸法之廣遠，故名度無極。)

2166. 【諸波羅蜜】 (科註第二九六頁倒數第一行)

《法相辭典》：「波羅密多唯有六數」

條：攝論(攝大乘論)二卷二十三頁云：何因緣故，波羅密多，唯有六數？成立對治所治障故；證諸佛法所依處故；隨順成熟諸有

情故。

為欲對治不發趣因，故立施、戒波羅密多。不發趣因，謂著財位及著室家。

為欲對治雖已發趣復退還因，故立忍、進波羅密多。退還因者：謂處生死、有情違犯、所生眾苦，及於長時善品加行所生疲怠。

為欲對治雖已發趣不復退還，而失壞因，故立定、慧波羅密多。失壞因者：謂諸散動、及邪惡慧。如是成立對治所治障故，唯立六數。

又前四波羅密多是不散動因。次一波羅密多不散動成就。此不散動為依止故，如實等覺諸法真義，便能證得一切佛法。如是證諸

佛法所依處故，唯立六數。

由施波羅蜜多故，於諸有情，能正攝受。由戒波羅蜜多故，於諸有情，能不毀害。由忍波羅蜜多故，雖遭毀害，而能忍受。由精進波羅蜜多故，能助經營彼所應作。即由如是攝利因緣，令諸有情，於成熟事，有所堪任。從此已後，心未定者，令其得定；心已定者，令得解脫。於開悟時，彼得成熟。如是隨順成熟一切有情，唯立六數。應如是知。

《法相辭典》「波羅蜜多」條：瑜伽七八卷九頁云：世尊！何因緣故，波羅蜜多，說名波羅蜜多？善男子！五因緣故。一者無染著故，二者無顧戀故，三者無罪過故，四者無分別故，五者正迴向故。

無染著者：謂不染著波羅蜜多諸相違事。

無無顧戀者：謂於一切波羅蜜多，諸果異熟，及報恩中，心無繫縛。

無罪過者：謂於如是波羅蜜多無間雜染法，離非方便行。

無分別者：謂於如是波羅蜜多，不如言辭執著自相。

正迴向者：謂以如是所作所集波羅蜜多，迴求無上大菩提果。

又云：世尊！如是五相、各有何業？

善男子！當知彼相，有五種業。

謂諸菩薩。無染著故，於現法中，於所修習波羅蜜多，恆常慳重，勤修加行。無有放逸無顧戀故，攝受當來不放逸因。無罪過

故，能正修習極善圓滿、極善清淨、極善鮮白波羅蜜多。無分別故，方便善巧波羅蜜多，速得圓滿。正迴向故，一切生處波羅蜜多及彼可愛諸果異熟，皆得無盡，乃至無上正等菩提。

2167. 【二邊】（科註第二九七頁第八行）

《佛學次第統編》：二邊者，執有之邊際，執無之邊際，皆為邪見，故云邊見。肇論曰：「有無之境，邊見所存，豈是處中莫二之道乎？」又謂之增益減損二邊。

一、增益邊，因緣所生之法，若分別推求，本無自性，眾生不了，執之為有，是名增益也。

二、損減邊，因緣所生之法，若分別定

無，即是損減實有成就之性，是名損減也。

2168. 【六度】（科註第三〇〇頁倒數第五行）

《三藏法數》：〔出六度集經〕

一、檀那，梵語檀那，華言布施。施有二種：一者財施，謂以飲食、衣服、田宅、珍寶及一切資身之具，悉能施之。二者法施，謂從諸佛及善知識，聞說世間、出世間善法，以清淨心轉為他說也。

二、尸羅，梵語尸羅，華言性善。謂好行善道，不自放逸，此據義而譯也。正翻止得，謂止惡得善也。又翻為戒，謂戒能防止身口所作之惡也。

三、羼提，梵語羼提，華言忍辱。忍辱有二種：一者生忍，謂於恭敬供養中，不生憍

逸，於嗔罵打害中，不生怨恨也。二者法忍，謂於寒熱風雨飢渴等法，惱害之時，能安能忍，不生嗔恚憂愁也。

四、毗梨耶，梵語毗梨耶，華言精進。精進有二種：一者身精進，謂若勤修善法，行道禮誦，與夫講說，不自放逸也。二者心精進，謂若勤行善道，心心相續，不自放逸也。

五、禪那，梵語禪那，華言靜慮。專心斂念，守一不散之謂也。禪有二種：一者世間禪，謂色界、無色界凡夫所修禪也。二者出世間禪，謂聲聞、緣覺、菩薩所修禪也。

六、般若，梵語般若，華言智慧。謂照了一切諸法皆不可得，而能通達一切無礙，為諸眾生種種演說也。

《三藏法數》「六度行—廣六度行」條：〔出成具光明定意經，亦名六德行〕

一、廣施，曠大曰廣，捨財曰施。謂行施者，既懷廣大之心，應當知身非常，四大不淨，會歸敗壞；知身既不我有，財物亦是虛幻，乃至世間萬物皆悉無常，由是觀身非身，觀物非物，縱心恣施，了無罣礙；復能廣弘法施，開化愚蒙，故曰廣施。

二、廣戒，戒，律也。戒品雖多，不出身口意之三業，謂或見眾寶珍琦，凡諸可意之物，身雖貧乏，不妄貪取；或見細妙之色，內觀朽爛，生厭離心，乃至不殺、不盜、不婬等，皆身戒也。或以惡言加己，乃以善言和語至誠而答，乃至不妄言、不綺語、不兩

舌，皆口戒也。復能思惟生死，常懷解脫，又能修習道品之要，深入無為之理，乃至不貪、不瞋、不癡等，皆意戒也。修行之人，於此三業之戒，自既堅持不犯，復能展轉化他，廣弘戒法，故曰廣戒。

三、廣忍，忍者，耐也。謂菩薩修行之時，若人罵詈，知其從聲，而出於此，觀了言語性空，意亦如是，視諸慚辱，空無所有，如此則瞋恚不生，忍行可進。身既能爾，復能展轉化他，令行忍耐，故曰廣忍。

四、廣精進，謂菩薩修行道品，當勤精進，節其飲食，除於睡臥，晨夜惺惺，莫令怠惰，乃至為人，廣說法要，不以為煩；開教愚頑，不辭勞倦。自既能爾，復能展轉化

他，令其精進。故曰廣精進。

五、廣一心，一心者，心不雜亂也。謂菩薩修行禪定之時，一心寂靜，離諸散亂。於孝事父母，尊敬師友，斷愛遠俗，空閑寂寞，皆當專一其心；乃至多欲、多諍、多作、多惱，或譽或毀，或利或失，於是等處，並當專一其心，不撓不動。自既能爾，復能展轉化他，於一切時處，皆一其心。故曰廣一心。

六、廣智慧，智慧者，照了萬法，通達無礙也。謂菩薩修行之時，若墮見聞，則有一切塵境所蔽，當以智慧一一照了，觀其所起，察其所滅；處愛欲中，心在道品之藏；寄濁惡界，心遊清淨之鄉；入險隘路，心思

方便之道。故能絕三界之妄想，證涅槃之真空。自既能爾，復能展轉化他，令修智慧。故曰廣智慧。（參見「六度」1187）

2169. **【大慈定】**（科註第三一〇頁第七行）

《法相辭典》「住慈定者刀毒水火皆不能害」條：

大毗婆沙論八十三卷二頁云：如契經說。住慈定者。刀毒水火皆不能害。必無災橫而致命終。問何故爾耶？

尊者世友（菩薩名。佛滅後四百年出世，婆沙四評家之一）作如是說。以慈三摩地是不害法故。復作是說。慈三摩地威勢大故。復作是說。慈三摩地為饒益他。諸天善神皆擁衛故。復作是說。修靜慮者靜慮境界。具神通

者神通境界。所有威德不思議故。復作是說。住慈定者起勝分心。非勝分心有死生故。大德說曰。若住慈定。色界大種遍身生。令所依身堅密如石。故不可害。

2170. **【根本教】**（科註第三三九頁倒數第三行）

《法華遊意上》曰：根本法輪者，謂佛初成道，華嚴之會純為菩薩，開一因一果法門，謂根本之教也。

2171. **【一字】**（科註第三三九頁倒數第三行）

《三藏法數》：〔出大方廣師子吼經〕一字者，一理之名字也。理本無名無字，超心意識，離性離相，無作無示，非諸眾生所能思議，惟佛如來究盡明了。經云：法惟一字，所謂無字。是也。

2172. 【隨他教】（科註第三五九頁第七行）

《三藏法數》「隨他意語」條：謂佛一向隨順他機之意，說於方便之法，導引眾生，故名隨他意語。

2173. 【隨自】（科註第三五九頁第八行）

《佛學大辭典》「隨自意語」條：（術語）如來三語之一。佛隨順自意自說所證之一實等法者。

涅槃經三十五曰：「如我所說十二部經，或隨自意說，或隨他意說，或隨自他意說。」《天台教學辭典》「隨自意隨他意」條：隨自意與隨他意之並稱。略云隨自隨他。又云隨智隨情。

佛說法時，依其自內證而說者，稱為隨自

意、隨智；其所說者，稱為隨自意語、隨智說。反之，順應對方之想法而說，稱為隨他意、隨情；其所說者，稱為隨他意語、隨情說。復次：不違佛之自內證而順應對方想法，與其同一說法，稱為隨自他意、隨情智；其所說者，稱隨自他意語、隨情智說。

此中，隨自意、隨他意、隨自他意之說，均見于『南本涅槃經』卷三二迦葉菩薩品。智者大師復就真俗二諦說，分別稱之為隨智、隨情、隨情智。

又台宗在教相分判上，以佛自顯之真實祕意為隨自意，隨順眾生之機情，而施各種方便為隨他意，而判法華為隨自意之教，其他諸經則隨他意之說。此外，諸宗間亦廣用

「隨自隨他」語，以判經之權實深淺，如『大日經疏』卷七及『金剛頂大教王經疏』卷一，均謂真言密教，為隨自意說，顯教為隨他意方便說。

日僧源空大師『選擇本願念佛集』以念佛為佛之隨自意，定散諸行之法為隨他意。

2174. 【證滅相應】（科註第三八〇第八行）

《佛學大辭典》：

○證：（術語）無漏之正智，能契合於所緣之真理，謂之證。勝鬘寶窟中末曰：「緣起相應，名之為證。」大乘義章一曰：「已情契實，名之為證。」同九曰：「證者是知得之別名也。」俱舍論二十五曰：「如實覺知四聖諦理，故名為證。」

○滅（節錄）：（術語）有三種：一涅槃，

譯為滅。涅槃之體，無為寂滅。故名滅。二尼彌留陀，譯為滅。四諦中之滅諦也。三毘尼，譯為滅，是戒行也。戒行能滅諸惡，故曰滅。前二者體是滅，毘尼之滅，有所滅也。

○相應（節錄）：（術語）即契合之義。

淨土論註上曰：「相應者，譬如函蓋相稱也。」演秘鈔七曰：「相應字，汎指契合義。」

2175. 【世間者，名為五陰】（科註第三八二頁第六行）

《三藏法數》「三種世間」條：「出大智度論」隔別名世，間差名間。謂十界假名、五陰、國土三種，一一差別不同，故名三種世間。（十界者，佛界、菩薩界、緣覺界、聲聞界、天界、人界、阿脩羅界、餓鬼界、

畜生界、地獄界也。五陰即眾生身，以此身是色受想行識五陰所成故也。）

一、假名世間，亦名眾生世間。假名者，於十界五陰實法上，假立名字，各各不同，是為假名世間。（實法者，謂十界五陰皆實有也。假立名字者，謂十界名字，非實有也。既有十界五陰實法，即有十界眾生假名。且如人界中，各各有身，即各各有名字也。餘界亦然。）

二、五陰世間，亦名五眾世間。五陰者，色受想行識也。十界五陰各各差別，故名五陰世間。（色即質礙之色，受即領納諸塵，想即思想，行即造作，識即分別善惡。以此五者，陰覆真性，皆名為陰。）

三、國土世間，國土者，即眾生所依之境

界也。既有能依之身，即有所依之土。十界所依，各各差別，故名國土世間。

2176. 【有常】（科註第三八四頁第三行）

《佛學次第統編》「常」條：常者，無盡期故。清淨法界，無生無滅，性無變易，故說為常。四智心品所依常故，無斷盡故，亦說為常。（四智：一大圓鏡智，二平等性智，三妙觀察智，四成所作智。）

2177. 【無常】（科註第三八四頁第三行）

《佛學大辭典》：（術語）世間一切之法，生滅遷流，剎那不住，謂之無常。無常有二：一剎那無常，謂剎那剎那有生住異滅之變化也。二相續無常，謂一期相續之上有生住異滅之四相也。

涅槃經一曰：「是身無常，念念不住，猶如電光暴水幻炎。」

智度論二十三曰：「一切有為法無常者。

新新生滅故。屬因緣故。」

2178. 【盡不盡】（科註第三八四頁第四行）

《法相辭典》「盡法」條：瑜伽八十七卷二十五頁云：謂彼諸行、於未來世，衰老法故；說名盡法。

### ○不盡法

《佛學大辭典》「無盡」條：（術語）無為法離生滅之相，故為無盡，又有為法之緣起，一多相即，故為無盡。無為法之無盡，權教所談，有為法之無盡，實教所談，華嚴宗盛談此義。

維摩經菩薩行品曰：「何謂無盡？謂無為法。」註曰：「肇曰：有為法有三相，故有盡。無為法無三相，故無盡。」

大日經疏十四曰：「無盡者，即是無相別名。」

2179. 【動不動】（科註第三八四頁第四行）

《佛學大辭典》「動不動法」條：（術語）欲界之法，無常迅速，故為動法，上二界之法長久，故名不動法。（上二界：色界、無色界。）

遺教經曰：「一切世間動不動法，皆是敗壞不安之相。」

維摩經五曰：「什云：欲界六天為動法。上二界壽命劫數長久，外道以為常，名不動法。」

2180. 【從果向因】（科註第三八九頁第一行）

《佛光大辭典》：即從三身圓明之果位返向發心修行之因地。乃「從因向果」之對稱。例如果位上之佛為化導眾生之故，乃方便示現菩薩身、聲聞身；另如念佛行者已往生淨土後，再返回娑婆之苦界，行還相迴向之攝化，皆是從果向因。（還相迴向：迴向有二種相：一者往相，二者還相。「往相迴向」：謂以己功德迴施一切眾生，願共往生安樂淨土。「還相迴向」：自淨土還來穢土，濟度一切眾生使向佛道也。）

2181. 【事持理持】（科註第四一七頁第八行）

《阿彌陀經要解》：事持者。信有西方阿彌陀佛。而猶未達是心作佛。是心是佛。但

以決志願求生故。如子憶母。無時暫忘。名為事持。

理持者。信彼西方阿彌陀佛。是我心具。是我心造。即以自心所具所造洪名。而為繫心之境。令不暫忘。名為理持。

2182. 【如來天眼】（科註第四二一頁倒數第三行）

《三藏法數》「如來十力」條（節錄）：八知天眼無礙智力，謂如來證知天眼清淨，見諸眾生死時生時，端正醜陋，善惡業緣，皆悉無礙，故名知天眼無礙智力。

《法相辭典》「如來天眼遍行一切有情義境」條：瑜伽七十卷十二頁云：復次有四種相，當知如來所得天眼，遍行一切有情義境。一、現見住造能感一切趣業有情故。

二、現見住種種無量生處有情故。三、現見有中死生有情故。（「中有」即中陰也。謂已死之後，未生之前，於其中間識未托胎，是名中有。）四、現見無中有死生有情故。

2183. 【小乘菩薩：未斷一毫之煩惱】（科註第四二四頁第二行）

《佛學大辭典》「伏惑行因」條：（術語）謂藏教之菩薩雖伏見思之惑，然修行三祇之因，惑未斷盡也。以斷此三界之惑，即不能再生於三界，化益眾生也。

○「愛見大悲」條：小乘之菩薩，於三大阿僧祇劫間，發四弘誓願，修六度萬行，濟度眾生。然未斷見思之煩惱，為伏惑行因，故認能愛所愛二相，其大悲亦虛妄不淨，故

令人為疲厭之想，當捨離之也。

2184. 【隔歷之中道】（科註第四二四頁第四行）

《佛學大辭典》「隔歷三諦」條：（術語）空為但空，破見思之惑。假為但假，破塵沙之惑。中為但中，破無明之惑。又自空觀而入於假觀，自假觀而入於中觀，如此空假中三者，次第各別。名為隔歷之三諦，別教之分際也。

玄義一上曰：「隔歷三諦，麤法也。圓融三諦，妙法也。」

四教儀集註下，明別教之理智曰：「理則隔歷三諦，智則三智次第。」

2185. 【一心具十法界】（科註第四二五頁倒數第四行）

《中國大百科全書》「天台宗」條：摩訶止觀中說：「夫一心具十法界，一法界又具十法界、百法界。一界具三十種世間，百法界即具三千種世間，此三千在一念心。若無心而已，介爾有心，即具三千。」（介爾，形容極微弱之心也）

一法界即有十法界，十法界互具而顯現為百法界。一界又有「十如是」，還有「眾生」、「國土」、「五陰」三種世間，「十如是」和三種「世間」互具，而為三十種世間。百法界和三十種世間互具，而有三千世界。此三千世界紛然雜陳，仍在一念心中。三千世界是由一心的活動而發生的，所以《止觀輔行記弘決》中說：「三界無別法，唯

是一心所作」。〔十如是：如是相〔相貌〕、如是性〔性分〕、如是體〔體質〕、如是力〔力用〕、如是作〔造作〕、如是因〔習因〕、如是緣〔緣助〕、如是果〔習果〕、如是報〔報果〕、如是本末究竟等〔此之本末，皆同實相，一理平等〕〕

2186. **【大聲聞】**（科註第四五一頁第一行）

《佛地經論卷第二》：無量大聲聞眾者。其數甚多難可算計。故名無量。

聞佛言音。而入聖道故名聲聞。並出家僧故名為眾。

一切皆是最極利根波羅蜜多種性聲聞故名為大。（波羅蜜多種性，菩薩種性也。波羅蜜多：譯言究竟、到彼岸、度無極，又單譯曰度。以名菩薩之大行者，菩薩之大行，能究竟一切自行化他之

事，故名事究竟，乘此大行能由生死之此岸到涅槃之彼岸，故名到彼岸。因此大行能度諸法之廣遠，故名度無極。）

有義皆住無學果位故名為大。

如實義者。皆是不定種性聲聞。得小果已趣大菩提故名為大。（回轉聲聞緣覺之小乘根性而趣向大乘之佛道。）

2187. 【方便法身】（科註第四六〇頁倒數第三行）

《佛學大辭典》（術語）二種法身之一。

是應身化身之總名也。（二種法身：一法性法身，謂證得法性理體之佛之真身，攝於三身中之法身、報身中。二方便法身，由法性法身示現眾生化益方便之佛之應化身。）

2188. 【五逆】（科註第四七三頁倒數第五行）

《佛學大辭典》：（術語）又曰五無間業。

罪惡極逆於理，故謂之逆。是為感無間地獄苦果之惡業，故謂之無間業。此有三乘通相之五逆，大乘別途之五逆，同類之五逆，提婆之五逆等。

○三乘通相五逆：（名數）通於三乘所立之五逆。又曰小乘之五逆。常言之五逆是也：一殺父，二殺母，三殺阿羅漢，四由佛身出血，五破和合僧（由罪之輕重次第）。

破和合僧者，多數僧眾，和合而行法事；修佛道，以手段離間之，使之鬥亂，使之廢法事。五逆之中，此罪最重。

○大乘別途五逆：（名數）大薩遮尼犍子所說經四曰：有五種罪名為根本。何等為

五？

一者破壞塔寺焚燒經像，或取佛物法僧物，若教人作，見作助喜，是名第一根本重罪。

若謗聲聞闍支佛法及大乘法，毀<sub>zi</sub>些<sub>py</sub>（音紫，通訾。詆毀）、留難、隱蔽、覆藏，是名第二根本重罪。

若有沙門信心出家，剃除鬚髮身著染衣，或有持戒或不持戒，繫閉牢獄枷鎖打縛，策役驅使責諸發調，或脫袈裟逼令還俗，或斷其命，是為第三根本重罪。

於五逆中若作一業是為第四根本重罪。

謗無一切善惡業報，長夜常行十不善業，不畏後世，自作教人堅住不捨，是為第五根

本重罪。

小乘之五逆，與此中第四一逆相當。

○同類五逆：（名數）

一、犯母與無學之比丘尼，是殺母罪之同類。

二、殺人定中之菩薩，是殺父罪之同類。

三、殺有學之聖者，是殺羅漢罪之同類。

羅漢者，無學之聖者也。

四、奪僧眾成和合之緣，不使和合之事成就，是破僧罪之同類。

五、破佛之<sub>su</sub>宰<sub>ax</sub>（音蘇）堵波（窣堵波，塔也），是出佛身血之同類。

俱舍論十八曰：「同類者何？頌曰：汙母無學尼，殺住定菩薩，及有學聖者，奪僧和

合緣，破壞窳堵波，是無間同類。」

○提婆五逆：（故事）法華文句八下曰：「誘拐五百比丘，而破和合僧（是一）。擲大石而自佛身出血（是二）。教阿闍世王放醉象使之踐佛（是三）。以拳殺華色比丘尼（是四）。置毒於手之十爪，欲由禮佛足而傷佛（是五）。」

是非五種各別之五逆，乃重同類而成五數，蓋自佛身出血與教阿闍世王及置毒於爪中，為同一之逆罪。配之於別種之五逆，則但為三逆罪也（破和合僧、惡意出佛身血、殺阿羅漢）。

同次文曰：「若作三逆，教王毒爪並害佛攝。」

○五逆輕重：（雜語）大乘義章七曰：「殺父最輕，殺母次重，殺阿羅漢次重，出佛身血次重，破和合僧最重。故成實云破僧最重，何故如是？離三寶故。〔中略〕可入聖者，不得入聖。坐禪學問，讀誦禮拜，如是等事，一切不得，所以最重。」

2189. 【聲字皆實相】（科註第四七六頁第五行）

《佛光大辭典》「聲字實相」條：為日本真言宗教義之一。謂聲字即實相之體；亦即一切音聲文字之自體不外是實相。自如來之三密而言，身、語、意三業原本平等，遍滿宇宙全體，即森羅萬象悉具如來之三密，此乃本有之佛，唯因眾生不自覺，故如來以音聲說教，以文字悟教。故知聲字為如來之語

密，與如來之身密（實相，即事物本來之面目）全然平等，故聲字即其本來實相。又五大（大日經所說，地水火風空也）悉具一切音響，十界皆具言語，六塵悉有文字，法身即是實相，故聲字實相乃表「法佛平等」之三密，亦為眾生本具之曼荼羅。「《聲字實相義（空海）》：本書自真言密教之立場闡明聲字實相之義（一切音聲文字與實相相即），為教相學上重要之典籍。係依據大日經卷二具緣品之「等正覺真言」一頌而展開；謂「聲字即實相」乃三密中之語密，故進一步說明語密之實相，並藉此開示三密平等之最高旨趣。」

2190. 【大曼陀羅】（科註第六三〇頁第三行）

《佛學次第統編》「四曼」條（節錄）：

曼荼羅，新舊之譯，有種種：舊譯多曰壇，

又云道場；新譯多曰輪圓具足，又云聚集。此中就體而言，以壇或道場為正意。就意而言，以輪圓具足或聚集為本意。

大曼荼羅，總集諸尊之壇場，及其諸尊之形體，并圖畫其壇場之全體，及諸尊一一者是也。是為曼荼羅之總體，故云大。大者五大之義，又廣大之義，他三種（三昧耶曼荼羅、法曼荼羅、羯磨曼荼羅）雖亦係五大所成，而此為總體，且最廣大，故獨名為大。（中略）前一為總體，後三為別德。大曼荼羅，是諸尊之人體。此諸尊所說之法門，是法曼。此諸尊所持之器械，是三昧耶曼。此諸尊之所作，是羯磨曼。密教分別萬有，常用六大、四曼、三密之言。

2191. 【三寶】（科註第六三五頁倒數第二行）

《佛學大辭典》「六種三寶」條：（名數）

一、同體三寶，即一體三寶也。（一體三

寶：三寶一一之體有三寶之義，佛之體上有覺照之義者，佛寶也，有軌則之義者法寶也，無違諍之過者僧寶也，乃至僧有觀智者為佛寶，有軌則者為法寶，和合者為僧寶。）

二、別相三寶，即化相三寶也。（謂小乘之三寶也。如佛為丈六之化身，法為四諦十二因緣，僧為羅漢及緣覺。先以此三寶教化眾生，故謂之化相三寶。）

三、一乘三寶，究竟之法身為佛寶，一乘之法為法寶，一乘之菩薩眾為僧寶。勝鬘經，法華經等之意也。

四、三乘三寶，為三乘者所現之佛之三身

為佛寶，三乘法為法寶，三乘之眾為僧寶。勝鬘經，攝論等之意也。

五、真實三寶，三身為佛寶，一切無漏之教理行果為法寶，見諦已上之三乘聖眾為僧寶。

六、住持三寶，同於四種三寶之中。見義林章六本。（久住於世保持佛法之三寶也。木佛畫像，住持之佛寶也；三藏經典，住持之法寶也；剃髮染衣之比丘僧，住持之僧寶也。）

2192. 【三善根】（科註第六三七頁倒數第一行）

《三藏法數》：〔出阿毘達磨集異門足論〕

一、無貪善根，謂於五欲之境，不貪、不著、不愛、不樂，此無貪法，是善種性，能為無量善法根本，故名無貪善根。

二、無瞋善根，謂於一切眾生，不生憤恚，不欲損惱，此無瞋法，是善種性，能為無量善法根本，故名無瞋善根。

三、無癡善根，謂於一切諸法，皆悉明了通達，知是善法，知是不善法，知有罪法，知無罪法，知應修法，知不應修法，此無癡法，是善種性，能為無量善法根本，故名無癡善根。

2193. 【不動】（科註第六四二頁第四行）

《三藏法數》「不動義」條：不動者，謂真如性體，圓常凝靜，不遷不變也。

2194. 【一切妙寶皆彌陀性德所本具】（科註第六四八頁第七行）

《阿彌陀經要解》：

「又舍利弗。極樂國土。七重欄楯。七重羅網。七重行樹。皆是四寶。周匝圍繞。是故彼國名為極樂。」

各言七重者，表七科道品。皆是四寶者，表常樂我淨四德。周匝圍繞者，彼土佛及菩薩，並諸聲聞，其數無量，則有無量住處，亦有無量七重欄楯、羅網、行樹遍滿彼國，處處莊嚴不可窮盡。

2195. 【圓明具德】（科註第六四八頁倒數第四行）

《佛學大辭典》「賢首十宗」條（節錄）：圓明真性，具足法界萬德，更無一法欠缺，一真法界無盡無極之義。

2196. 【無生】（科註第六四九頁倒數第三行）

《佛學大辭典》：（術語）涅槃之真理，

無生滅，故云無生。因而觀無生之理以破生滅之煩惱也。圓覺經曰：「一切眾生於無生中。妄見生滅。是故說名轉輪生死。」最勝王經一曰：「無生是實，生是虛妄。愚痴之人，漂溺生死；如來體實，無有虛妄，名為涅槃。」仁王經中曰：「一切法性真實空，不來不去，無生無滅，同真際，等法性。」梵網經上曰：「伏空假，會法性，登無生山。」止觀大意曰：「眾教諸門，大各有四，乃至八萬四千不同，莫不並以無生為首。今且從初於無生門遍破諸惑。」肇論新疏遊刃中曰：「清涼云：若聞無生者，便知一切諸法皆悉空寂，無生無滅。但於嚴土利他不生喜樂，而趣於寂故，成聲聞乘也。若

聞無生，便知從緣，故無生等，成緣覺乘。若聞無生，便知諸法本自不生。今則無滅，即生滅而無生滅，無生滅不礙於生滅。以此滅惡生善，利自利他，成菩薩乘。」垂裕記二曰：「無生寂滅，一體異名。」

2197. 【依正二報四種莊嚴】（科註第六六五頁第五行）

《觀無量壽佛經疏》：又言人法者是所觀之境。即有其二：一者依報，二者正報。

就依報中即有其三：一者地下莊嚴，即一切寶幢光明互相映發等是。二者地上莊嚴，即一切寶地池林寶樓宮閣等是。三者虛空莊嚴，即一切變化寶宮華網寶雲、化鳥風光動發聲樂等是。如前雖有三種差別，皆是彌陀

淨國無漏真實之勝相。此即總結成依報莊嚴也。又言依報者，從日觀下至華座觀已來總明依報。就此依報中即有通有別。言別者，華座一觀是其別依，唯屬彌陀佛也。餘上六觀是其通依，即屬法界之凡聖，但使得生者共同受用故言通也。又就此六中即有真有假。言假者，即日想、水想、冰想等是其假依，由是此界中相似可見境相故。言真依者，即從琉璃地下至寶樓觀已來是其真依。由是彼國真實無漏可見境相故。

二就正報中亦有其二：一者主莊嚴，即阿彌陀佛是。二者聖眾莊嚴，即現在彼眾及十方方法界同生者是。又就此正報中亦有通有別。言別者，即阿彌陀佛是也，即此別中亦

有真有假。言假正報者，即第八像觀是也。觀音勢至等亦如是，此由眾生障重染惑處深，佛恐乍想真容無由顯現，故使假立真像以住心想，同彼佛以證境故言假正報也。言真正報者，即第九真身觀是也。此由前假正，漸以息於亂想、心眼得開，粗見彼方清淨二報種種莊嚴以除昏惑，由除障故得見彼真實之境相也。言通正報者，即觀音聖眾等已下是也。向來所言通別真假者，正明依正二報也。（按：或可理解為，依正二報之莊嚴各有通有別，故曰四種莊嚴。）

2198. 【斷三界之見惑】（科註第六六頁第七行）

《佛學大辭典》「見惑品數」（節錄）：  
（雜語）小乘俱舍立八十八。八十八者於一切

煩惱中貪、瞋、痴、慢、疑、身見、邊見、邪見、見取見、禁戒取見之十惑，名為本惑，餘悉名隨惑。此中貪瞋痴慢之四，通於見修二斷，疑與五見者，唯見斷也。此見斷之十惑，就所迷之諦理而差別為八十八使也。即苦集滅道之四諦為所迷之真理，迷其真理而起，於欲界為三十二，於色界為二十八，於無色界為二十八，通三界而為八十八也。

欲界之三十二者，先迷於苦諦之理而起十惑：

一身見，以五蘊假和合之苦果迷執為常一之我見也。

二邊見，以為此我體死後常住，或以為死

後斷絕，各執一邊也。

三邪見，此現在之身對於過去業因之果報撥無道理也。

四見取見，迷執前三見為正見也。

五戒禁取見，迷執現在苦身作種種邪戒苦行，為此身生於人天樂處之因也。

六貪，愛以前五見為可者。

七瞋，瞋以前五見為非者。

八痴，不知五見之理非也。

九慢，以五見為是而生慢心也。

十疑，疑苦諦之理也。

以上十惑中五見與疑，直以諦理為所迷，故謂為親迷之惑。他之貪瞋痴慢四者，以其五見為所迷，故謂為疏迷之惑。此親疏之十

惑為迷於欲界苦諦真理而起之煩惱，故人於見道，觀欲界苦諦時，一時斷之。

次，迷於集諦之理而起七惑。前十惑中除身邊戒之三見。集諦者業因也，無以業因而迷執我體者，故無身見，無身見故無邊見。戒禁取見，為非人天之業因而謬為人天之業因者，雖有迷於集諦之理而起之道理，然實際外道修種種戒禁時，迷執其現於吾身上，自以其苦行之身為人天之生因，故攝之於苦諦，而不入於集諦。其七惑中第一邪見，撥無惑為生死之因之道理也。第二見取見，迷執其邪見為正見也。第三疑，疑集諦之理也。其他貪瞋痴慢四者以前三惑為所迷而起，如前之苦諦下。

次迷於滅諦之理而起有七惑，如集諦下。滅諦者，涅槃也。撥無無涅槃者，邪見也。以此邪見為正見者見取見也。疑涅槃而無決定之信者，疑也。以此三見為緣而起者，貪瞋痴慢之四也。

次迷於道諦之理而起，有八惑。於前之七惑加戒禁取之一。有一類外道，修無想定誤為人涅槃之正道，是由迷於道諦之理而起之非道計道之戒禁取見也。餘七惑如集諦例。已上總為欲界之三十二惑。

然色界與無色界各有二十八者，於四諦下之惑各除瞋之一故也。上二界為定地，非如欲界之為散地，故不起如瞋恚之麤動煩惱。

於已上三界通計四諦下之惑而為八十八

也。於見道十五心（觀四諦，而生無漏之忍、智，各有八種，名曰十六心。俱舍宗謂前十五心為見道，後一心為修道）之間斷之，故云八十八使之見惑。

2199. 【四句門】（科註第五三七頁第五行）

《佛學大辭典》「四句分別」條：（術語）

以有空分別諸法，謂為有而非空，是第一句有門也。

反之而謂為空而非有，是第二句，空門也。

反之而謂為亦有亦空，是第三句，亦有亦空門也。

反之而謂為非有非空，是第四句，非有非空門也。

有無之法門盡於此，更無第五句。就一異

有無等義而分別之，亦如是，謂之四句門。又云四句分別。此中初二句云兩單，後二句為俱是俱非，亦曰雙照雙非。

2200. 【世間（二）】（科註第三八二頁第八行）

《佛學次第統編》「三世間」條：前言世間，但就眾生而說世間。茲合凡聖而說，亦分之為三世間：

一、器世間，即國土世間，舉如來所化之境。

二、眾生世間，舉如來所化之機類。

三、智正覺世間，如來具大智慧，覺了世間出世間之法，是如來教化一切眾生，為種種差別之智身也。（參見「三世間」904附、

「三種世間」2175）

2201. 【《觀經》十則】（科註第七三二頁第三行）

《觀經四帖疏·玄義分卷第一》：若作此見，自失誤他。為害茲甚……今者一一悉取

佛說以為明證。就此證中即有其十句。何者：

第一如觀經云。佛告韋提。我今為汝廣說眾譬。亦令未來世一切凡夫欲修淨業者得生西方極樂國土者。是其一證也。

二言如來今者為未來世一切眾生為煩惱賊之所害者說清淨業者。是其二證也。

三言如來今者教韋提希及未來世一切眾生觀於西方極樂世界者。是其三證也。

四言韋提白佛。我今因佛力故見彼國土。若佛滅後諸眾生等濁惡不善五苦所逼。云何當見彼佛國土者。是其四證也。

五如日觀初云。佛告韋提汝及眾生專念已

下乃至一切眾生自非生盲有目之徒見日已來者。是其五證也。

六如地觀中說言。佛告阿難。汝持佛語。為未來世一切眾生欲脫苦者說是觀地法者。是其六證也。

七如華座觀中說言。韋提白佛。我因佛力得見阿彌陀佛及二菩薩。未來眾生云何得見者。是其七證也。

八次下答請中說言。佛告韋提。汝及眾生欲觀彼佛者當起想念者。是其八證也。

九如像觀中說言。佛告韋提。諸佛如來人一切眾生心想中。是故汝等心想佛時者。是其九證也。

十如九品之中一一說言為諸眾生者。是其

十證也。

上來雖有十句不同。證明如來說此十六觀法但為常沒眾生。不干大小聖也。以斯文證。豈是謬哉。

2202. 【極微】（科註第八〇五頁第一行）

《唯識名詞白話辭典》：又作極微塵，舊譯鄰虛塵。物質分析至極小不可再分之單位，稱極微。依《俱舍論》卷十二謂：以一極微為中心，集合上、下及四方等六方之極微而成一團，稱作「微」，又稱「微塵」，亦即合七極微為一微塵，始為天眼等之所見。

集合七微塵謂一金塵，集合七金塵謂一水塵，集合七水塵謂一兔毛塵，集合七兔毛塵謂一羊毛塵，集合七羊毛塵謂一牛毛塵，集

合七牛毛塵謂一隙遊塵。

金塵、水塵能通過金中、水中之空隙，故塵有極微細之意。兔毛塵、羊毛塵、牛毛塵，乃表示塵如兔、羊、牛的毛端之微細。隙遊塵則指如窗隙間，吾人肉眼可視之光中浮遊細塵而言。

極微集合形成具體物質之時，至少須具足地、水、火、風四大，與色、香、味、觸四塵始能形成。因不能缺少其一，故稱「八事俱生，隨一不減」。見《成唯識論述記》卷二。

2203. 【三者不可說法】（科註第八一二頁第七行）

《大智度論初品總說如是我聞釋論第三》：問曰。佛自說佛法不說餘經，若藥方

星宿算經世典。如是等法，若是一切智人，何以不說？以是故知非一切智人。

答曰。雖知一切法。用故說。不用故不說。有人問故說。不問故不說。復次一切法略說有三種。一者有為法。二者無為法。三者不可說法。此已攝一切法。

問曰。十四難不答，故知非一切智人。何等十四難：世界及我常，世界及我無常，世界及我亦有常亦無常，世界及我亦非有常亦非無常；世界及我有邊，無邊，亦有邊亦無邊，亦非有邊亦非無邊；死後有神去後世，無神去後世，亦有神去亦無神去，死後亦非有神去亦非無神去後世；是身是神，身異神異。若佛一切智人。此十四難何以不答？

答曰。此事無實，故不答。諸法有常無此理，諸法斷亦無此理。以是故，佛不答。譬如人問搆牛角得幾升乳，是為非問，不應答。復次世界無窮如車輪，無初無後，復次答此，無利有失墮惡邪中。佛知十四難常覆四諦諸法實相，如渡處有惡虫水不應將人渡，安隱無患處，可示人令渡。復次有人言，是事非一切智人不能解。以人不能知故佛不答。

2204. 【出家味】（科註第九一二頁倒數第三行）

《大乘義章卷第十一》：信家非家。出家學道。解脫種種在家之難。受離欲戒。得戒愛味。名出家味。地持說此為出家樂。

2205. 【純情】（科註第九一七第三行）

《首楞嚴義疏卷第八》（長水疏）：阿難，一切世間生死相續，生從順習，死從變流，臨命終時未捨煖觸，一生善惡俱時頓現。死逆生順，二習相交。順逆有二。一約情。一切眾生好生惡死。生即順情。死即逆情。（中略）二約業。業能感果。

別明情想昇沈五：

一明純想。純想即飛，必生天上。若飛心中兼福兼慧及與淨願。自然心開見十方佛。一切淨土隨願往生。此有二類。若唯有想不兼福慧。即但持戒而厭此身。必生天上。若於持戒兼修福慧。發見佛願。深厭三界。必生淨土。見十方佛即獲法忍。故云心開。如觀經說。

二情少想多。情少想多。輕舉非遠。即為飛仙大力鬼王飛行夜叉地行羅刹。遊於四天。所去無礙。想多故飛行自在。情少故受仙鬼形。此之等類。多因邪想不正修行。即是不修戒慧但修邪定。不持戒故墮鬼神道。以修定故有大神通。（中略）

三情想均等。情想均等。不飛不墜。生於人間想明斯聰。情幽斯鈍。不昇為天仙。不墜落三塗。仍於均等之中。想或稍強。根必聰慧。情或稍重。根必暗鈍。雖同人類。亦由情想有此差異。即別報也。

四情多想少。情多想少。流入橫生。重為毛群。輕為羽族若望下文。此當六情四想也。橫生旁生也。然有輕重。若情稍重。報

為走獸。故曰毛群。若想稍強。身為飛禽。故云羽族。

五純情。純情即沈阿鼻獄。若沈心中。有謗大乘。毀佛禁戒。誑妄說法。虛貪信施。濫膺恭敬。五逆十重。更生十方阿鼻地獄。阿鼻此云無間。即第八獄也。

2206. 【吹毛示弟子】（科註第九六八頁第六行）

《圓悟佛果禪師語錄卷第十四》：鳥窠吹布毛尋有人省悟。得非此段大因緣。時至根苗自生也。亦機感相投有地也。亦當人密運無間借師門發揮。

2207. 【如我按指，海印發光】（科註第九九二頁倒數第一行）

《楞嚴經》：譬如琴瑟箏篴琵琶雖有妙

音，若無妙指終不能發，汝與眾生亦復如是，寶覺真心各各圓滿，如我按指海印發光。

《長水疏》：琴等，眾生也。妙音，藏性也。妙指，實智也，發起用也。按指，約喻指法，即無生智，合無相理，大用現前。言海印者。大集經云，閻浮所有色像，大海皆有印文，喻佛如來法身性海普現一切妙用之光也。

2208. 【六朝】（科註第九九五頁倒數第四行）

《漢語大詞典》：指魏、晉、後魏、北齊、北周和隋。這些朝代皆建都北方，稱為北朝六朝。三國至隋統一前後三百餘年的歷史時期亦統稱為六朝，如：六朝建築、六朝

書法，皆兼舉南北朝而言。

2209. 【昆明池】（科註第九九八頁第九行）

《漢語大詞典》：湖沼名。漢武帝元狩三年於長安西南郊所鑿，以習水戰。池周圍四十里，廣三百三十二頃。宋以後湮沒。

2210. 【當情】（科註第一〇七四頁倒數第三行）

《佛學大辭典》「當情現相」條：（術語）亦名中門存境。由迷情妄想而現無體之實我實法相分也。

## 夏蓮居老居士簡介：

夏蓮居，號一翁，原名夏繼泉，字溥齋，號渠園，山東鄆城人，清朝雲南提督夏辛酉之長子。一八八四年三月二十日（甲申二月二十三日）生於新疆于闐，一九六五年十二月十四日（乙巳十一月二十二日）於北京西逝，享年八十二歲。清末曾任直隸知州、江蘇知府、山東團練副大臣等職。辛亥革命中被公推為山東省各界聯合會會長，宣告山東獨立。民國紀元被聘為山東督都府最高顧問，兼秘書長、參謀長等職，此後又歷任多種軍政職務。一九二一年辭職，傾心宗教事業。佛法方面追蹤古德，繼佛光明，德風廣被，大眾同欽，號為南梅（梅光義）北夏（夏蓮居）。蓋由弱冠學儒，廣研程朱陸王之學，甫壯學佛，受戒於宗說俱徹之慧明老法師，廣參內典，深遊佛法，從顯入密，攝禪歸淨，圓解圓修，融通無礙。乙丑年因山東軍閥張宗昌加害，避居日本，備受朝野尊重，各宗耆宿無不親晤，傾談心要。賢俊之士多來問學，甚至恭執弟子之禮，終身不渝。歸國後掩關津門，會集《無量壽經》，誓為此經會成完善之本，以滿先賢兩千餘年未償之願，乃謝絕賓客，冥心孤詣，三年不下樓，稿經數易，方慶告成。普海同欣，稱為善本。九一八後，悲洗劫將臨，乃來京弘法，應廣濟寺方丈現明老和尚之請，宣講淨土法門，現老與京中各寺之方丈均搭衣列座，為影響眾。蓮翁老人在京大宏淨宗，廣育英才，數十年如一日，沾法益者不可勝數。當代尊宿諦閑、慧明、省元諸大長老對其均甚推重。一九四六年紅白教大德貢噶活佛曰：「此間堪任無上密法金剛阿闍黎位者，唯夏公一人而已」。宗門耆宿虛雲老法師讚其曰：「不意為北方能會晤如是之大善知識。」一九六五年冬稍感不適，夜間於念佛聲中安詳西逝。

## 黃念祖老居士簡介：

黃念祖，法號蓮華龍尊，又字樂生、心示，別號老念、不退翁。祖籍湖北省江陵縣，一九一三年三月初六生於上海。祖上五代單傳代代信佛，至念公一代同胞四人，念公居長，自幼異于常，幾不喜嬉戲玩耍而願跟從舅父（舅父梅光羲老居士為著名佛教宿德，與夏蓮居老居士同被尊為「南梅北夏」）聞薰佛法聆聽眾多禪宗公案。一九三一年，考入北京大學工學院（專攻無線電信工程）。性格開朗活躍，學業成績優異，名列全系榜首。大三暑假中，偶讀《金剛經》，至「應無所住而生其心」句，受大震動，自思以凡夫心欲臻此境，除念佛或持咒別無它途，從此深信佛法。一九三六年就職開灤煤礦期間，於夢中覓「家」不可得，與空中問答之際而初悟。抗戰期間，學佛益加精誠。曾皈依禪宗大德虛雲老和尚，又依西藏紅教諾那上師嫡傳弟子蓮花正覺王上師、白教大德貢噶活佛學密（後於一九五九年受蓮花精舍金剛阿闍黎位）。抗戰勝利後回到北京，任北京廣播電台台長。蓮宗大德夏蓮居老居士在北京宣揚淨土法門，念祖以舅父梅光羲居士函介，拜謁夏老居士，深蒙獎掖，成為老居士入室弟子。自此隨侍老居士二十年，深得法要。一九五三年，任教於天津大學，課餘讀經修法日有進益。一日觸機成偈，呈夏老居士鑒定，老居士肯定其開悟，許為「唯一心許弟子」。復呈王上師及貢噶上師，獲得二位的印可。文革磨難後，於一九七九年，屏除俗務，廣集中外經論，苦心參研構思醞釀，帶病突擊，時經六載，註成《佛說大乘無量壽莊嚴清淨平等覺經解》以償師囑。一九九二年三月二十七日凌晨示疾往生。另有《淨土資糧》、《谷響集》、《華嚴念佛三昧論講記》、《心聲錄》及未完成之《大乘無量壽經白話解》等著作通行於世。

# 附錄一、念公大經解常引經論

## 目錄之索引

### 甲 經典

一、無量清淨平等覺經 (488) ……………	一五六	九、阿彌陀經 (44) ……………	二四
二、阿彌陀過度人道經 (489) ……………	二五六	十、稱讚淨土佛攝受經 (107) ……………	六四
三、無量壽經 (492) ……………	二五八	十一、阿彌陀經秦唐兩譯會本 (現代菩薩戒居 士夏蓮居會集)	
四、無量壽如來會 (58) ……………	三三	十二、觀佛三昧經 (288) ……………	一五三
五、大乘無量壽莊嚴經 (496) ……………	一五九	十三、後出阿彌陀佛偈經 (471) ……………	一五一
六、觀無量壽經 (29) ……………	一七	十四、阿彌陀鼓音聲王陀羅尼經 (470) ……………	一五一
七、大阿彌陀經 (王會本) (48) ……………	二七	十五、往生經 (疑指「《十往生經》」，見 142， 七九)	
八、摩訶阿彌陀經 (魏會本) (清菩薩戒弟子 承貫邵陽魏源會譯)		十六、文殊說般若經 (482) ……………	一五四
		十七、般舟三昧經 (472) ……………	一五一
		十八、大寶積經 (59) ……………	三三
		十九、隨願往生經 (481) ……………	一五四

廿、佛說如幻三摩地無量印法門經 (2071)	卅二、大集經 (724)
..... 一〇六八	卅三、梵網經 (1934)
廿一、大般若經 (731)	..... 一〇一〇
..... 三八一	卅四、藥師經 (2009)
廿一、晉譯華嚴經 (2007)	..... 一〇四二
..... 一〇四一	卅五、淨名經 (1890)
廿二、唐譯華嚴經 (即《八十華嚴》，見 874)	..... 九八五
..... 四六二	卅六、大梵天王問佛決疑經 (635)
廿四、法華經 (98)	..... 三四一
..... 五九	卅七、密跡金剛力士經 (645)
廿五、首楞嚴經 (733)	..... 三四五
..... 三八三	卅八、心地觀經 (667)
廿六、金剛經 (157)	..... 三五四
..... 八六	卅九、悲華經 (480)
廿七、圓覺經 (179)	..... 二五四
..... 九九	四十、仁王般若經 (887)
廿八、大毘盧遮那經 (286)	..... 四六九
..... 一五二	四一、占察經 (738)
廿九、楞伽經 (335)	..... 三八八
..... 一八四	四二、瓔珞經 (984)
卅、涅槃經 (379)	..... 五一二
..... 一〇三	四三、稱讚大乘經 (2124)
卅一、思益經 (404)	..... 一〇三
..... 一一六	四四、心經 (1039)
	..... 五三九
	四五、大悲心陀羅尼經 (略稱《千手經》，見

2088) .....	1079	五九、大法炬陀羅尼經 (925) .....	四八八
四六、勝天王般若經 (1421) .....	七二五	六十、九品往生阿彌陀三摩地陀羅尼經 (1577) .....	八一八
四七、罪福報應經 (1918) .....	九九六	六一、尊勝陀羅尼經 (1206) .....	六四二
四八、優婆塞戒經 (1940) .....	1013	六二、蓮花生大士應化因緣經 (942) .....	四九四
四九、訶欲經 (2021) .....	1049	六三、佛地經 (547) .....	二八四
五十、遺教經 (1406) .....	七10	六四、守護國界主經 (2077) .....	1071
五一、四十一章經 (520) .....	二六九	六五、如來不思議境界經 (349) .....	191
五二、大乘密嚴經 (1389) .....	七13	六六、入佛境界經 (556) .....	190
五三、普超三昧經 (1446) .....	七39	六七、報恩經 (576) .....	1103
五四、金剛頂經 (1484) .....	七五五	六八、四阿含、增1阿含、長阿含經 (383、 1237、765)...	107、1660、401
五五、聖無動尊大威怒王陀羅尼經		六九、金剛華經	
五六、七佛神咒經 (2060) .....	1064		
五七、陀羅尼集經 (1788) .....	九31		
五八、法滅盡經 (165) .....	九1		

七十、勝思維梵王經 (699) ……………	三七〇	八一、目連所問經 (483) ……………	二五四
七一、佛名經 (709) ……………	三七三	八二、六波羅蜜多經 (1783) ……………	九三〇
七二、月燈三昧經 (710) ……………	三七四	八三、施燈功德經 (1787) ……………	九三二
七三、入如來智德不思議經 (742) ……	三九〇	等等	
七四、菩薩本生經			
七五、寶雲經 (918) ……………	四八五		
七六、華首經 (956) ……………	五〇二		
七七、正法念經 (《正法念處經》之略名。七十卷，元魏瞿曇般若流支譯。詳說十善業道及生死之過患，地獄等六道之業果，最後說身念處之法。)			
七八、菩薩處胎經 (2078) ……………	一〇七一		
七九、法華三昧觀經			
八十、造像功德經 (1781) ……………	九三〇		
		<b>乙 論著</b>	
		一、往生論 (194) ……………	一〇五
		二、大乘起信論 (330) ……………	一八一
		三、大智度論 (487) ……………	二五六
		四、大日經疏 (658) ……………	三四九
		五、法華嘉祥疏 (669) ……………	三五五
		六、法華科註 (1644) ……………	八四九
		七、法華文句 (619) ……………	三二九

八、法華遊意 (1380) .....	七一〇	廿、彌陀圓中鈔 (55) .....	三二一
九、法華論 (570) .....	一九八	廿一、往生論註 (213) .....	一一一
十、無量壽經義疏 (淨影疏) (371) .....	三七一 一九九	廿二、龍舒淨土文 (47) .....	二六
十一、無量壽經義疏 (嘉祥疏) (205) .....	二〇五 一〇八	廿三、觀經四帖疏 (153) .....	八五
十二、法華玄贊 (725) .....	二七九	廿四、安樂集 (214) .....	一一一
十三、法華義疏 (849) .....	四五〇	廿五、宗鏡錄 (344) .....	一九〇
十四、摩訶阿彌陀經衷論 (清末正定王耕心作)		廿六、心賦注 (345) .....	一九一
十五、報恩論 (518) .....	一六八	廿七、萬善同歸集 (346) .....	一九一
十六、無量壽經起信論 (524) .....	一七一	廿八、彌陀通贊 (1674) .....	八六一
十七、無量壽經箋註 (527) .....	一七二	廿九、梵室偶談 (1749) .....	九一一
十八、彌陀疏鈔 (53) .....	三二一	卅、觀經約論 (1827) .....	九四八
十九、彌陀要解 (19) .....	一一一	卅一、十疑論 (1988) .....	一〇三五
		卅二、行卷偈	
		卅三、成唯識論 (1694) .....	八六九

卅四、唯識述記 (823) .....	四三二	四六、金剛經破空論 (1485) .....	七五六
卅五、成實論 (549) .....	二八六	四七、圓覺經大疏 (2118) .....	一〇〇〇
卅六、俱舍論 (794) .....	四一四	四八、圓覺經集注 (1931) .....	一〇一〇
卅七、俱舍玄義		四九、圓覺經略疏 (204) .....	一〇〇八
卅八、俱舍光記 (1569) .....	八一	五十、菩提心論 (227) .....	一一八
卅九、起信論義記 (822) .....	四三一	五一、菩提心義 (226) .....	一一七
四十、華嚴探玄記 (440) .....	三三五	五二、大乘義章 (359) .....	一九四
四一、華嚴大疏鈔 (1164) .....	六一〇	五三、五教章 (410) .....	一一八
四二、華嚴合論 (一一〇卷。唐李通玄撰論，即 《新華嚴經論》四十卷，志寧釐經合論，即 成本書。參見「《華嚴論》」1645，八四九)		五四、四教儀 (745) .....	三九一
四三、華嚴演義鈔 (1385) .....	七一	五五、佛地論 (586) .....	三〇五
四四、華嚴玄談 (455) .....	三三九	五六、仁王經疏 (721) .....	三七七
四五、涅槃經疏 (1228) .....	六五六	五七、仁王良賁疏 (1909) .....	九九一
		五八、仁王經青龍疏 (2109) .....	一〇九三
		五九、仁王經合疏 (1151) .....	六一五

六十、十一門論 (550) ……………	二八七	七四、教行信證 (1085) ……………	五六五
六一、金光明經文句 (1163) ……………	六二〇	七五、心經略疏 (一卷，唐賢首著。參見「香 象心經疏」202)	
六二、維摩經天台疏 (1930) ……	一〇〇九	七六、香象心經疏 (202) ……………	一〇七
六三、維摩經肇註 (992) ……………	五一三	七七、賢首心經略疏 (860) ……………	四五七
六四、維摩經慧遠疏 (1910) ……………	九九一	七八、楞嚴長水疏 (1299) ……………	六八四
六五、百論 (1933) ……………	一〇一〇	七九、心王銘 (1732) ……………	九〇三
六六、毘婆沙論 (486) ……………	二五五	八十、心燈錄 (1735) ……………	九〇四
六七、阿彌陀秘釋 (1505) ……………	七六七	八一、信心銘 (1487) ……………	七五六
六八、東密阿字觀		八二、上生經慈恩疏 (1023) ……………	五三一
六九、秘藏記 (810) ……………	四二六	八三、法住記 (2114) ……………	一〇九五
七十、五秘薩訣		八四、止觀輔行決 (1631) ……………	八四〇
七一、胎藏界鬘陀羅鈔		八五、攝大乘論釋 (720) ……………	三七七
七十二、秘藏記鈔		八六、法事贊 (1322) ……………	六九一
七三、勝鬘寶窟 (940) ……………	四九三		

八七、事贊 (1130) .....	六〇〇
八八、禮讚 (1154) .....	六一五
八九、曇鸞讚阿彌陀佛偈 (1008) .....	五二四
九十、曇鸞略論 (1704) .....	八七二
九一、勸心往生論	
九二、瑜伽論 (2020) .....	一〇四八
九三、大寶積經論 (598) .....	三一二
九四、西域記 (600) .....	三二四
九五、淨修捷要 (146) .....	八一
九六、佛祖統記 (687) .....	三六五
九七、釋迦譜 (752) .....	三九四
九八、原人論 (1639) .....	八四六
九九、往生要集 (1150) .....	六一四
一〇〇、本源清淨大圓鏡	

一〇一、大明三藏法數 (1042) .....	五四三
等等	

### 丙 外國淨宗大德註疏

一、無量壽經甄解 (日本道隱師) (115)	
.....	六八
二、無量壽經會疏 (日本峻諦師) (516)	
.....	一六八
三、無量壽經合贊 (日本觀徹師) (211)	
.....	一一〇
四、日本黑谷《大經釋》 (163) .....	九〇
五、日《禿鈔》 (423) .....	一一六
六、無量壽經鈔 (日本望西師) (1306)	

---

.....	六八五
七、無量壽經宗要 (新羅元曉師) (1806)	
.....	九四〇
八、遊心安樂道 (新羅元曉師) (540)	
.....	二七六
九、無量壽經義述文贊 (新羅憬興師)	
(539) .....	二七六
等等	

---

## 附錄二、本書所引典籍目錄

### 佛教辭書

- 一、《法界次第初門》  
隋·智者大師 撰
- 二、《法門名義集》  
唐·李師政 撰
- 三、《祖庭事苑》  
北宋·陸庵善卿 編
- 四、《翻譯名義集》  
南宋·法雲 編
- 五、《三藏法數》  
明·一如等 撰
- 六、《教乘法數》  
明·圓滂 集
- 七、《佛學次第統編》  
明·楊卓 編 (推薦有願系統了解法義者閱讀。現代出版名《佛學基礎》北京圖書館出版社。)
- 八、《佛學大辭典》  
民國·丁福保 編
- 九、《法相辭典》  
民國·朱芾煌 編
- 十、《中國佛教》  
現代·中國佛教協會 編

- 
- 十一、 《佛光大辭典》 現代·星雲大師監修、慈怡法師 主編
- 十二、 《中華佛教百科全書》 現代·藍吉富 主編
- 十三、 《佛教大辭典》 現代·任繼愈 主編
- 十四、 《佛教哲學大辭典》 現代·創價學會 原著
- 十五、 《佛學常見辭彙》 現代·陳義孝 編
- 十六、 《唯識名詞白話辭典》 現代·于凌波 編著
- 十七、 《實用淨土宗辭典》 現代·林克智 編著
- 十八、 《藏傳佛教辭典》 現代·中華佛典寶庫 編
- 十九、 《天台教學辭典》 現代·釋慧岳監修、釋會旻 主編

### 漢語言辭書

- 廿、 《說文解字》 東漢·許慎 撰
- 廿一、 《康熙字典》 清·張玉書等 纂修

廿二、 《辭海》（第六版）

現代夏征農、陳至立 主編

廿三、 《漢語大詞典》

現代·羅竹風 主編

廿四、 《漢語大字典》

現代·徐中舒 主編

## 經類

廿五、 《法句譬喻經》

西晉·法炬 譯

廿六、 《涅槃經》

北涼·曇無讖 譯

廿七、 《雜寶藏經》

北魏·吉迦夜與曇曜 共譯

廿八、 《優婆塞戒經》

北涼·曇無讖 譯

廿九、 《長阿含經》

姚秦·佛陀耶舍與竺佛念 共譯

卅、 《妙法蓮華經》

姚秦·鳩摩羅什 譯

卅一、 《佛說忠心經》

東晉·竺曇無蘭 譯

卅二、 《觀世音菩薩授記經》

劉宋·曇無竭 譯

- |     |                 |                 |
|-----|-----------------|-----------------|
| 卅三、 | 《觀無量壽經》         | 劉宋·曇良耶舍 譯       |
| 卅四、 | 《無量義經》          | 蕭齊·天竺三藏曇摩伽陀耶舍 譯 |
| 卅五、 | 《大佛頂首楞嚴經》       | 唐·般刺密帝 譯        |
| 卅六、 | 《六祖大師法寶壇經》      | 唐·法海集 元·宗寶 編    |
| 卅七、 | 《大方便佛報恩經》       | 譯者不詳            |
| 卅八、 | 《大通方廣懺悔滅罪莊嚴成佛經》 | 譯者不詳（見《大正藏》）    |
| 卅九、 | 《佛說法句經》         | 譯者不詳（見《大正藏》）    |
| 四十、 | 《法華義疏》          | 隋·吉藏 撰          |
| 四一、 | 《維摩經略疏》         | 隋·吉藏 撰          |
| 四二、 | 《阿彌陀經疏鈔事義》      | 明·株宏 述          |
| 四三、 | 《阿彌陀經要解》        | 明·智旭 解          |
| 四四、 | 《楞嚴經正脈疏》        | 明·交光真鑒 述        |
| 四五、 | 《楞嚴經文句》         | 明·智旭 撰述         |
| 四六、 | 《楞嚴經講義》         | 近代·圓瑛法師 著述      |

律類

四七、 《摩訶僧祇律》

東晉·佛陀跋陀羅與法顯 共譯

四八、 《沙彌十戒威儀錄要》

明·智旭 重輯

四九、 《沙彌律儀要略增註》

清·弘贊 註

論類

五十、 《大智度論》

龍樹菩薩造 姚秦·鳩摩羅什 譯

五一、 《俱舍論》

世親菩薩作 唐·玄奘 譯

五二、 《往生論註》

北魏·曇鸞 撰

五三、 《菩薩本生鬘論》

宋·慧綯等 譯

法義薈萃

五四、 《法苑珠林》

唐·道世 著

五五、 《宗鏡錄》

宋·永明延壽 述

五六、 《釋氏要覽》

北宋·道誠 輯

五七、 《人天寶鑑》

南宋·曇秀 撰

## 專 著

五八、 《摩訶止觀》

隋·智者大師說 門人灌頂記

五九、 《止觀輔行傳弘決》

唐·湛然 撰

六十、 《龍舒增廣淨土文》

南宋·王日休 撰

六一、 《印光法師文鈔》

民國·印光大師 著

六二、 《印光大師永思集》

現代·陳海量居士 編

## 語 錄

六三、 《鎮州臨濟慧照禪師語錄》

唐·慧然集

六四、 《雍正御選語錄》

清世宗（雍正）編

## 傳記

六五、 《高僧傳》

梁·慧皎撰

六六、 《宋高僧傳》

北宋·贊寧撰

六七、 《五燈會元》

南宋·普濟撰

六八、 《佛祖統紀》

南宋·志磐撰

六九、 《續佛祖統紀》

編者編時不詳

七十、 《東林十八高賢傳》

佚名（見《卍續藏經》）

七一、 《淨土聖賢錄》

清·彭希涑撰

七二、 《淨土聖賢錄續編》

清·胡珽撰

七三、 《名僧錄》

現代·全國政協文史資料委員會宗教組 編

### 目錄類

七四、 《貞元釋教錄》

唐·圓照 撰

七五、 《閱藏知津》

明·智旭 編撰

### 遊記

七六、 《大唐西域記》

唐·玄奘 述

### 史書

七七、 《舊唐書·經籍志》

五代·劉昫 著

七八、 《釋氏通鑑》

南宋·本覺 撰

七九、 《釋氏稽古略》

元·覺岸 撰

八十、 《三國遺事》

高麗僧一然 撰

八一、 《佛祖歷代通載》

元·念常 編集

## 百 科

八二、 《中國大百科全書》

現代·中國大百科全書總編輯委員會

## 附錄三、收註詞目順序列表

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 36 顯密 二一       | ◎前言             |
| 37 饒益 二二       | 1 一乘 一          |
| 38 結界 二二       | 2 了義 一          |
| 39 冥心孤詣 二二     | 3 三根 二          |
| 40 慧明 二二       | 4 橫出 三          |
| 41 慈舟 二二       | 5 四土 四          |
| 42 科判 二三       | 6 究竟 五          |
| 43 冗蔓 二三       | 7 一超直入 五        |
| 44 《阿彌陀經》 二四   | 8 圓頓 五          |
| 45 王日休 二五      | 9 彌陀 六          |
| 46 魏承貫 二五      | 10 六字洪名 六       |
| 47 《龍舒淨土文》 二六  | 11 彭紹升 六        |
| 48 《大阿彌陀經》 二七  | 12 如來 八         |
| 49 叢林 二七       | 13 稱性 九         |
| 50 龍藏 二七       | 14 圓教 九         |
| 51 大正藏 二八      | 15 化儀 一〇        |
| 52 蓮池大師 二九     | 16 釋道隱 一一       |
| 53 《彌陀疏鈔》 三一   | 17 梅光羲 一一       |
| 54 幽溪大師 三一     | 18 一大藏教 一二      |
| 55 《彌陀圓中鈔》 三二  | 19 彌陀要解 一二      |
| 56 印光大師 三二     | 20 釋迦 一三        |
| 57 舛誤 三三       | 21 本師 一三        |
| 58 《無量壽如來會》 三三 | 22 五濁 一三        |
| 59 《大寶積經》 三三   | 23 阿耨多羅三藐三菩提 一五 |
| 60 菩提流志 三四     | 24 濁惡 一五        |
| 61 王耕心 三五      | 25 九界 一六        |
| 62 宗教 三五       | 26 本覺 一六        |
| 63 律宗 三六       | 27 理性 一七        |
| 64 尊宿 三六       | 28 秘藏 一七        |
| 65 具縛 三六       | 29 觀經 一七        |
| 66 玄義 三六       | 30 是心是佛 一八      |
| 67 契理 三七       | 31 介爾 一九        |
| 68 契機 三七       | 32 三輩 一九        |
| 69 實際 三七       | 33 歸元 二〇        |
| 70 理體 三八       | 34 闡揚 二〇        |
| 71 真如 三八       | 35 宗說俱通 二〇      |

- 107 《稱讚淨土佛攝受經》 六四  
 108 三乘 六五  
 109 菩提 六六  
 110 絕待 六六  
 111 心要 六六  
 112 萬行 六七  
 113 蕩益大師 六七  
 114 十大願王 六八  
 115 《無量壽經甄解》 六八  
 116 楞嚴 六八  
 117 聖教 六九  
 118 旃檀 六九  
 119 易行道 六九  
 120 《大勢至圓通章》 七〇  
 121 根器 七〇  
 122 悟入無生 七一  
 123 含靈 七一  
 124 八萬四千法門 七一  
 125 舍利弗 七二  
 126 目犍連 七三  
 127 聲聞 七四  
 128 小始諸教 七四  
 129 阿伽陀藥 七四  
 130 儕 七四  
 131 火聚 七五  
 132 清涼池 七五  
 133 無念 七五  
 134 元曉師 七六  
 135 凡夫 七六  
 136 末世 七七  
 137 陰魔 七七  
 138 泥犁 七七  
 139 禪觀 七七  
 140 五十種陰魔 七八  
 141 難行道 七九  
 142 十往生經 七九  
 143 二十五菩薩 八〇  
 144 他力 八一  
 145 果教 八一
- 72 華嚴經 三九  
 73 事理無礙 四二  
 74 事事無礙 四二  
 75 一真法界 四二  
 76 本際 四三  
 77 五逆 四三  
 78 十惡 四四  
 79 觀音 四五  
 80 勢至 四六  
 81 文殊 四七  
 82 普賢 四八  
 83 法身大士 五〇  
 84 太虛 五〇  
 85 真俗二諦 五〇  
 86 宴坐 五二  
 87 法要 五三  
 88 本尊 五三  
 89 金剛 五三  
 90 聖心 五四
- ◎概要  
 91 華嚴宗 五四  
 92 天臺宗 五五  
 93 五重玄義 五六  
 94 綱舉目張 五八
- (一) 教起因緣  
 95 大教 五八  
 96 一大事因緣 五八  
 97 世尊 五八  
 98 《法華經》 五九  
 99 示悟 六〇  
 100 《華嚴經性起品》 六〇  
 101 應供 六一  
 102 等正覺 六一  
 103 性起 六一  
 104 阿僧祇 六二  
 105 佛知見 六二  
 106 開示悟入 六三

- 183 二祖 一〇一  
184 覓心不可得 一〇一  
185 六祖 一〇一  
186 離四句，絕百非 一〇二  
187 歷歷 一〇三  
188 一法句 一〇三  
189 無為法身 一〇四  
190 即事而真 一〇四  
191 當相即道 一〇四  
192 依正 一〇四  
193 世親 一〇五  
194 《往生論》 一〇五  
195 蘧庵 一〇五  
196 瓊林 一〇五  
197 心源 一〇五  
198 三際 一〇六  
199 十方 一〇六  
200 實相正印 一〇六  
201 圓圖 一〇七

(三) 一經宗趣

- 202 《香象心經疏》 一〇七  
203 圭峰大師 (宗密) 一〇七  
204 《圓覺略疏》 一〇八  
205 《嘉祥疏》 一〇八  
206 宗致 一〇八  
207 《宗要》 一〇九  
208 宗體 一〇九  
209 曇鸞 一〇九  
210 念佛三昧 一一〇  
211 《合贊》 一一〇  
212 發菩提心 一一〇  
213 《往生論註》 一一一  
214 《安樂集》 一一二  
215 天親 一一二  
216 四弘願 一一三  
217 華報 一一四  
218 無願三昧 一一五  
219 空無相 一一五

- 146 《淨修捷要》 八一  
147 大勢至 八二  
148 八地 八二  
149 心意識 八二  
150 無生法忍 八二  
151 立相住心 八三  
152 善導大師 八三  
153 《四帖疏》 八五  
154 指方立相 八五  
155 無住生心 八六  
156 無緣之慈 八六  
157 《金剛般若經》 八六  
158 別教 八八  
159 地上 八八  
160 地前 八八  
161 三祇 八九  
162 四種念佛 八九  
163 《黑谷大經釋》 九〇  
164 妙高 九〇  
165 法滅盡經 九一  
166 慈航 九一  
167 沈疴 九一  
168 甘露 九一

(二) 本經體性

- 169 大乘經典 九一  
170 實相 九二  
171 頑空 九三  
172 斷滅 九三  
173 龜毛兔角 九四  
174 法身如來 九四  
175 法身 九五  
176 大乘 九七  
177 釧 九八  
178 南嶽懷讓 九八  
179 《圓覺經》 九九  
180 覺心 九九  
181 心性 九九  
182 百界千如 一〇〇

- 259 豎出 一三七  
 260 一心 一三七  
 261 分證 一三八  
 262 初地 一三八  
 263 初住 一三八  
 264 寶王 一三九  
 265 等覺菩薩 一三九  
 266 四十一位 一四〇  
 267 塵勞 一四〇  
 268 涅槃三德 一四〇  
 269 生相無明 一四一  
 270 佛性 一四四  
 271 覺海 一四四  
 272 阿惟越致 一四四  
 273 伏斷 一四四  
 274 塵沙 一四五  
 275 小乘 一四五  
 276 果海 一四六  
 277 三種不退 一四七  
 278 藏教 一四八  
 279 初果 一四八  
 280 通教 一四九  
 281 見地 一五〇  
 282 別教十向 一五〇  
 283 一佛乘 一五一  
 284 因位 一五二
- (四) 方便力用
- 285 方便 一五二  
 286 《大毘盧遮那經》 一五二  
 287 大悲 (一) 一五二  
 288 《觀佛三昧經》 一五三  
 289 十二部經 一五三  
 290 總相別相 一五五  
 291 四重 一五五  
 292 第一義空 一五六  
 293 徑路 一五七  
 294 能所 一五七  
 295 心緣 一五七
- 220 靈芝 一一五  
 221 徹悟 一一五  
 222 至誠心 一一六  
 223 深心 一一六  
 224 迴向發願心 一一七  
 225 三福 一一七  
 226 菩提心義 一一七  
 227 菩提心論 一一八  
 228 修證 一一八  
 229 導師 一一八  
 230 密巖土 一一八  
 231 佛事 一一九  
 232 盡形壽 一一九  
 233 未暇 一一九  
 234 十念法 一一九  
 235 始覺 一二〇  
 236 興教大師 一二一  
 237 阿 一二二  
 238 陀羅尼 一二二  
 239 毘盧舍那 一二三  
 240 三身 一二五  
 241 果德 一二六  
 242 二乘 一二六  
 243 大權 一二七  
 244 六道 一二七  
 245 無明 一二八  
 246 妙覺 一二九  
 247 冥加 一三〇  
 248 淨土 一三〇  
 249 娑婆世界 一三〇  
 250 五臺 一三一  
 251 阿羅漢 一三三  
 252 天目 一三四  
 253 雁蕩 一三五  
 254 穢土 一三五  
 255 有漏業 一三五  
 256 步趨 一三五  
 257 見思二惑 一三五  
 258 漏盡通 一三七

- 333 金剛薩埵 一八一  
334 密教 一八四  
335 《楞伽經》 一八四  
336 歡喜地 一八四  
337 南山 (一) 一八五  
338 法相 一八六  
339 三論 一八七  
340 法華三昧 一八八  
341 天臺山 一八九  
342 天臺韶國師 一八九  
343 法眼宗 一九〇  
344 《宗鏡錄》 一九〇  
345 《心賦注》 一九一  
346 《萬善同歸集》 一九一  
347 法炬 一九一  
348 初心 一九一  
349 《如來不思議境界經》 一九一  
350 心量 一九二  
351 妙喜世界 一九二  
352 《毘盧遮那經》 一九二  
353 闍 一九二  
354 臻 一九二  
355 螢光 一九二  
356 冶 一九三

(六) 藏教所攝

- 357 藏教所攝 一九三  
358 三藏 一九三  
359 《大乘義章》 一九四  
360 經藏 一九五  
361 修多羅 一九五  
362 契經 一九五  
363 律藏 一九五  
364 毘奈耶 一九六  
365 論藏 一九六  
366 阿毘達磨 一九七  
367 二藏 一九八  
368 聲聞藏 一九八  
369 菩薩藏 一九九

- 296 天真之佛 一五七  
297 圓覺 一五七  
298 輪迴 一五八  
299 太末蟲 一五八  
300 四明 一五八  
301 《大經》 一五九  
302 世諦 一五九  
303 第一義諦 一六〇  
304 慧日 (一) 一六〇  
305 罪瑕 一六〇  
306 塵劫 一六〇  
307 任運 一六一  
308 《大經合贊》 一六一

(五) 所被根機

- 309 根機 一六二  
310 當機 一六二  
311 五時說法 一六二  
312 四地至七地 一六四  
313 初地至四地 一六五  
314 九品 一六五  
315 小乘三果 一六五  
316 十六觀 一六五  
317 定善 一七三  
318 霑 一七四  
319 禮懺 一七四  
320 止觀 一七四  
321 戲論 一七五  
322 馬鳴 一七五  
323 龍樹 一七六  
324 智者 一七七  
325 永明 一七九  
326 驀直 一八〇  
327 計度分別 一八〇  
328 《起信因緣分疏》 一八〇  
329 東天竺 一八一  
330 《大乘起信論》 一八一  
331 南天竺 一八一  
332 鐵塔 一八一

- 409 頓漸二教 二一七  
 410 《五教章》 二一八  
 411 慧遠 二一八  
 412 大佑 二一九  
 413 彭二林 二二〇  
 414 《起信論》 二二〇  
 415 《大經釋》 二二〇  
 416 真言（一） 二二〇  
 417 聖道 二二三  
 418 圓解 二二三  
 419 圓行 二二四  
 420 三惑 二二四  
 421 圓果 二二五  
 422 醍醐 二二六  
 423 《禿鈔》 二二六  
 424 實教 二二七  
 425 佛心 二二七  
 426 《大無量壽經》 二二七  
 427 二超 二二七  
 428 普賢行願品 二二八  
 429 安養 二二八  
 430 華藏 二二八  
 431 剖心 二二八  
 432 瀝血 二二八  
 433 含識 二二八  
 434 純圓獨妙 二二九  
 435 別教一乘 二二九  
 436 四法界 二三一  
 437 狂禪 二三一  
 438 沈善登 二三一  
 439 十玄門 二三二  
 440 《探玄記》 二三五  
 441 《華嚴妙嚴品》 二三五  
 442 《大疏》（一） 二三五  
 443 徑尺 二三六  
 444 《華嚴盧舍那佛品》 二三六  
 445 《華嚴十住品》 二三六  
 446 《文選·郭璞賦》 二三六  
 447 汗汗 二三六  
 370 《智度論》 一九九  
 371 《淨影疏》 一九九  
 372 迦葉 一九九  
 373 阿難 二〇〇  
 374 結集 二〇一  
 375 鐵圍山 二〇二  
 376 摩訶衍 二〇二  
 377 《地持》 二〇三  
 378 天臺大師 二〇三  
 379 《涅槃經》 二〇三  
 380 華嚴時 二〇四  
 381 阿含時 二〇五  
 382 鹿野苑 二〇五  
 383 《四阿含經》 二〇七  
 384 方等時 二〇七  
 385 《維摩》 二〇八  
 386 《大集》 二〇八  
 387 彈偏斥小，歎大褒圓 二〇八  
 388 般若時 二〇九  
 389 《大般若》 二〇九  
 390 法華涅槃時 二〇九  
 391 授記 二〇九  
 392 判教 二一〇  
 393 四教 二一一  
 394 五教 二一一  
 395 教相 二一三  
 396 賢首宗 二一三  
 397 人空 二一三  
 398 法空 二一四  
 399 闡提 二一四  
 400 極則 二一五  
 401 中道 二一五  
 402 妙有 二一六  
 403 真性 二一六  
 404 《思益經》 二一六  
 405 性海 二一六  
 406 緣起 二一六  
 407 帝網 二一七  
 408 主伴無盡 二一七

- 484 《文殊發願經》 二五五  
485 《入楞伽經》 二五五  
486 《毘婆沙論》 二五五  
487 《大智度論》 二五六
- (八) 譯會校釋
- 488 無量清淨平等覺經 二五六  
489 佛說阿彌陀三耶三佛薩樓  
佛檀過度人道經 二五六  
490 優婆塞 二五七  
491 支謙 二五七  
492 無量壽經 二五八  
493 康僧鎧 二五八  
494 白馬寺 二五八  
495 永嘉四年 二五九  
496 佛說大乘無量壽莊嚴經 二五九  
497 法賢 二五九  
498 開元釋教錄 二六〇  
499 安世高 二六一  
500 桓靈 二六一  
501 帛延 二六一  
502 甘露三年 二六二  
503 竺曇摩羅察 二六二  
504 永嘉二年 二六三  
505 竺法力 二六三  
506 恭帝元熙元年 二六三  
507 佛陀跋陀羅 二六三  
508 道場寺 二六四  
509 劉宋永初二年 二六五  
510 寶雲 二六五  
511 罽賓 二六六  
512 曇摩羅密多 二六六  
513 元嘉 二六七  
514 安息 二六七  
515 迦毗羅衛 二六七  
516 《會疏》 二六八  
517 梵策 二六八  
518 《報恩論》 二六八  
519 依義不依語 二六八

- 448 芥子 二三七  
449 因陀羅網 二三七  
450 延促 二三八  
451 隔歷 二三八  
452 《華嚴初發心功德品》 二三八  
453 北辰 二三八  
454 東密 二三九  
455 《華嚴玄談》 二三九  
456 唯心所現 二三九  
457 如來藏心緣起 二四〇  
458 《華嚴金獅子章》 二四〇  
459 唯心迴轉善成門 二四〇  
460 三種莊嚴 二四一  
461 華藏世界 二四一  
462 毘盧遮那 二四二

(七) 部類差別

- 463 姚秦 二四五  
464 三藏法師 二四五  
465 鳩摩羅什 二四六  
466 玄奘 二四六  
467 襄陽石經 二四九  
468 元照 二五〇  
469 《靈芝疏》 二五〇  
470 《阿彌陀鼓音聲王陀羅尼  
經》 二五一  
471 《後出阿彌陀佛偈經》 二五一  
472 《般舟三昧經》 二五一  
473 月支 二五一  
474 支婁迦讖 二五二  
475 《大方等大集賢護經》 二五二  
476 佛立三昧 二五三  
477 常行三昧 二五三  
478 《遊心安樂集》 二五三  
479 道綽 二五三  
480 《悲華經》 二五四  
481 《隨願往生經》 二五四  
482 《文殊說般若經》 二五四  
483 《目連所問經》 二五四

- 557 不二法門 二九一  
 558 貫攝常法 二九一  
 559 七種立題 二九二  
 560 果人 二九二  
 561 寶所 二九二  
 562 大白牛車 二九三  
 563 教行理 二九三  
 564 三覺 (二) 二九四  
 565 三大 二九四  
 566 《金光明》 二九五

(十) 正釋經文

- 567 序分，正宗分，流通分  
 二九六  
 568 偏圓 二九七  
 569 證信序 二九八  
 570 《法華論》 二九八  
 571 六成就 二九九  
 572 發起序 三〇〇

◎法會聖眾第一

- 573 般涅槃 三〇〇  
 574 阿泥樓陀 三〇〇  
 575 四事 三〇一  
 576 《報恩經》 三〇三  
 577 三願 三〇三  
 578 《觀經疏》 三〇三  
 579 化道 三〇三  
 580 信順 三〇四  
 581 師承 三〇四  
 582 臆造 三〇四  
 583 一剎那 三〇四  
 584 師資 三〇五  
 585 機感 三〇五  
 586 《佛地論》 三〇五  
 587 四天王天 三〇六  
 588 一切種智 三〇六  
 589 釋迦牟尼佛 三〇七  
 590 上茅城 三〇八

- 520 《四十二章》 二六九  
 521 《法苑珠林》 二六九  
 522 《一切經音義》 二七〇  
 523 本懷 二七〇  
 524 《無量壽經起信論》 二七一  
 525 雲棲 二七一  
 526 丁福保 二七一  
 527 《無量壽經箋註》 二七二  
 528 校讎 二七二  
 529 犖犖 二七二  
 530 未冠 二七二  
 531 程朱 二七二  
 532 陸王 二七三  
 533 淨影 二七三  
 534 嘉祥 二七三  
 535 淨影寺 二七三  
 536 嘉祥寺 二七四  
 537 吉藏 二七四  
 538 憬興 二七五  
 539 《無量壽經義述文贊》 二七六  
 540 《遊心安樂道》 二七六  
 541 李炳南 二七七

(九) 總釋名題

- 542 體相用 二七八  
 543 鱗爪 二七八  
 544 三覺 (一) 二七八  
 545 十號 二七九  
 546 薄伽梵 二八一  
 547 《佛地經》 二八四  
 548 法界 (一) 二八四  
 549 《成實論》 二八六  
 550 《十二門論》 二八七  
 551 得大勢 二八八  
 552 傅大士 二八八  
 553 寂寥 二八九  
 554 如如智 二八九  
 555 三無差別 二八九  
 556 《入佛境界經》 二九〇

- 630 阿蘭若 三三八  
 631 糞掃衣 三三九  
 632 三衣 三四〇  
 633 塵累 三四〇  
 634 佛心印 三四一  
 635 《大梵天王問佛決疑經》  
 三四一  
 636 梵王 三四一  
 637 金色鉢羅華 三四一  
 638 金色頭陀 三四二  
 639 正法眼藏 三四二  
 640 白飯王 三四三  
 641 佛成道日 三四三  
 642 淨飯王 三四三  
 643 苾芻 三四四  
 644 阿泥律陀 三四五  
 645 《密迹金剛力士經》 三四五  
 646 垂迹 三四六  
 647 影響眾 三四六  
 648 本地 三四七  
 649 身子 三四七  
 650 大飲光 三四八  
 651 慶喜 三四八  
 652 本來面目 三四八  
 653 唐捐 三四八  
 654 《清涼疏》 三四八  
 655 二利 三四八  
 656 位後普賢 三四九  
 657 翼讚 三四九  
 658 《大日經疏》 三四九  
 659 脇士 三五〇  
 660 四十華嚴經 三五〇  
 661 金剛手菩薩 三五〇  
 662 金剛智 (一) 三五一  
 663 紅教 三五一  
 664 蓮花生 三五二  
 665 《放鉢經》 三五三  
 666 無央 三五四  
 667 《心地觀經》 三五四  
 591 寒林城 三〇八  
 592 阿闍世王 三〇九  
 593 《慈恩傳》 三一〇  
 594 摩揭陀國 三一—  
 595 香茅 三一—  
 596 望西師 三一—  
 597 五天竺 三一—  
 598 《大寶積經論》 三一—  
 599 耆闍崛 三一—  
 600 《西域記》 三一—  
 601 耆山 三一—  
 602 精舍 三一—  
 603 乞食 三一—  
 604 八部大力眾神 三一—  
 605 天龍八部 三一—  
 606 四眾 三一—  
 607 羯磨 三一—  
 608 夜叉 三二〇  
 609 內典 三二—  
 610 九十六種外道 三二—  
 611 無學 三二—  
 612 迴小向大 三二—  
 613 身通 三二—  
 614 六通 三二—  
 615 三明 三二—  
 616 阿若憍陳如 三二—  
 617 初轉法輪 三二—  
 618 五比丘 三二—  
 619 《法華文句》 三二—  
 620 《增一阿含經弟子品》 三三〇  
 621 俱絺羅 三三〇  
 622 舉一城釋種，上升梵天 三三一  
 623 外道移山，制之不動 三三二  
 624 降服毒龍 三三四  
 625 十力迦葉 三三四  
 626 童子迦葉 三三四  
 627 童女迦葉 三三五  
 628 毘婆尸佛 三三五  
 629 十二行 三三六

- 703 《名義集》 三七一  
 704 《四童子經現生品》 三七一  
 705 俱胝 三七一  
 706 波羅奈 三七一  
 707 毘耶離 三七二  
 708 娑羅雙樹 三七二  
 709 《佛名經》 三七三  
 710 《月燈三昧經》 三七四  
 711 香象菩薩 三七四  
 712 阿閼佛 三七五  
 713 那由多 三七五  
 714 寶幢 三七六  
 715 境智 三七六  
 716 同聞眾 三七六  
 717 結縛 三七六  
 718 那由他 三七七  
 719 拔濟 三七七  
 720 《攝大乘論釋》 三七七  
 721 《仁王經疏》 三七七  
 722 《唯識論》 三七八  
 723 軌持 三七八  
 724 《大集經》 三七八  
 725 《法華玄贊》 三七九  
 726 逗機 三八〇  
 727 機宜 三八〇  
 728 宗源 三八〇  
 729 佛法藏 三八一  
 730 性德 三八一  
 731 《大般若經》 三八一  
 732 般若波羅蜜多 三八二  
 733 《首楞嚴經》 三八三  
 734 遷流 三八三  
 735 示現 三八三  
 736 八相成道 三八三  
 737 《華嚴賢首品》 三八七  
 738 《占察經》 三八八  
 739 四種作佛 三八八  
 740 灌頂住 三八九  
 741 《仁王經菩薩教化品》 三九〇
- 668 三世覺母 三五四  
 669 《法華嘉祥疏》 三五五  
 670 三德秘藏 三五五  
 671 惑業苦 三五五  
 672 龍種尊王如來 三五五  
 673 彌勒 三五六  
 674 慈心三昧 三五七  
 675 弗沙 三五八  
 676 刀兵劫 三五九  
 677 兜率內院 三五九  
 678 三會龍華 三六〇  
 679 逝多林 三六一  
 680 伏藏 三六一  
 681 眾生界 三六一  
 682 《大寶積經發勝志樂會》  
 三六二  
 683 十種心 三六二  
 684 襄贊 三六三  
 685 賢劫 三六三  
 686 住劫 三六四  
 687 《佛祖統記》 三六五  
 688 拘留孫佛 三六五  
 689 拘那含牟尼佛 三六五  
 690 迦葉佛 三六六
- ◎德遵普賢第二  
 691 《度世經》 三六七  
 692 開士 三六七  
 693 大士 三六七  
 694 正士 三六八  
 695 《文殊師利嚴淨經》 三六八  
 696 葆光 三六八  
 697 《出生義》 三六八  
 698 賢護 三六九  
 699 《勝思惟梵天經》 三七〇  
 700 三菩提 三七〇  
 701 《大寶積經賢護長者會》  
 三七〇  
 702 帝釋天王 三七〇

- 780 塵說 四〇九  
 781 剎說 四〇九  
 782 身見、邊見、邪見、見取、戒取 四〇九  
 783 十煩惱 四一〇  
 784 愛欲 四一〇  
 785 《字苑》 四一一  
 786 見愛 四一一  
 787 空慧 四一一  
 788 法城 四一二  
 789 清白 四一二  
 790 智斷 四一二  
 791 垢汙 四一三  
 792 福田 四一三  
 793 《菩薩本行經》 四一四  
 794 《俱舍論》 四一四  
 795 三苦 四一五  
 796 三有 四一六  
 797 灌頂 四一七  
 798 結緣灌頂 四一九  
 799 灌頂壇 四一九  
 800 真言(二) 四二〇  
 801 受職灌頂 四二一  
 802 秘法 四二二  
 803 瓶灌 四二二  
 804 生起次第 四二三  
 805 氣脈 四二四  
 806 明點 四二四  
 807 大手印 四二五  
 808 經軌 四二五  
 809 剎利 四二五  
 810 《秘藏記》 四二六  
 811 阿闍黎 四二六  
 812 真言阿闍黎 四二七  
 813 傳法灌頂 四二七  
 814 三密相應 四二七  
 815 如來三密 四二七  
 816 即身成佛 四二八  
 817 一際 四二八  
 742 《入如來智德不思議經》 三九〇  
 743 《華嚴不思議品》 三九〇  
 744 後得智 三九〇  
 745 《四教儀》 三九一  
 746 兜率天 三九一  
 747 《普曜經說法門品》 三九二  
 748 後身菩薩 三九二  
 749 《因果經》 三九二  
 750 摩耶夫人 三九三  
 751 六牙白象 三九三  
 752 《釋迦譜》 三九四  
 753 法服 三九五  
 754 《普曜經》 三九五  
 755 結跏趺坐 三九五  
 756 《法華壽量品》 三九六  
 757 阿修羅 三九六  
 758 伽耶城 三九七  
 759 魔羅 三九八  
 760 天魔 三九八  
 761 《婆沙論》 三九八  
 762 初夜 三九九  
 763 中夜 四〇〇  
 764 《維摩經》 四〇〇  
 765 《長阿含經》 四〇一  
 766 最正覺 四〇一  
 767 釋迦文佛 四〇一  
 768 釋提桓因 四〇二  
 769 鹿林 四〇三  
 770 轉法輪 四〇三  
 771 護世四天王 四〇四  
 772 大自在天 四〇五  
 773 法輪 四〇六  
 774 轉輪聖王 四〇七  
 775 輪寶 四〇八  
 776 四天下 四〇八  
 777 轂 四〇八  
 778 輻 四〇九  
 779 輞 四〇九

- 856 磧砂藏 四五二  
857 高麗藏 四五四  
858 涅槃 四五五  
859 滅度 四五六  
860 《賢首心經略疏》 四五七  
861 五欲 (一) 四五七  
862 妄見 四五八  
863 憍恣 四五八  
864 《法華藥王品》 四五八  
865 靈山一會 四五八  
866 三摩地 四五八  
867 三昧 四五九  
868 正受 四六〇  
869 調直定 四六〇  
870 正心行處 四六一  
871 等持 四六一  
872 華嚴三昧 四六一  
873 無盡緣起 四六二  
874 《八十華嚴》 四六二  
875 《六十華嚴》 四六二  
876 《法界記》 四六三  
877 法界唯心 四六三  
878 總持 四六三  
879 陀羅尼有四種 四六三  
880 明 四六四  
881 結使 四六四  
882 首楞嚴三昧 四六七  
883 師子頻呻 四六八  
884 普等三昧 四六八  
885 《般舟經》 四六九  
886 寶王三昧 四六九  
887 《仁王般若經》 四六九  
888 海印三昧 四七〇  
889 四無礙智 四七二  
890 《密迹經》 四七三  
891 垓 四七三  
892 《稱讚大乘功德經》 四七三  
893 傍生 四七三  
894 如 四七三  
818 普門示現 四二八  
819 權實二德 四二九  
820 法性 四三〇  
821 法界 (二) 四三一  
822 《起信論義記》 四三一  
823 《唯識述記》 四三二  
824 有情數 四三二  
825 無情數 四三二  
826 《嘉祥法華疏》 四三三  
827 《止觀》 四三三  
828 如理智 四三四  
829 如量智 四三四  
830 根本智 四三四  
831 差別智 四三五  
832 供養雲 四三五  
833 朕迹 四三五  
834 纏縛 四三五  
835 八纏 四三六  
836 三縛 四三六  
837 十纏 四三六  
838 四縛 四三七  
839 四諦 四三八  
840 分段生死 四四〇  
841 辟支佛 四四〇  
842 十二因緣 四四二  
843 緣覺 四四五  
844 獨覺 四四七  
845 三空門 四四八  
846 偏空 四四八  
847 《大寶積經·善德天子會》  
四四八  
848 空無相無願 四四八  
849 《法華義疏》 四五〇  
850 善巧 四五〇  
851 智度 四五一  
852 《四教儀集註》 四五一  
853 三車 四五一  
854 《法華譬喻品》 四五二  
855 方便力 四五二

934 清信士 四九一  
935 清信女 四九一  
936 優婆夷 四九二  
937 諸天 四九二

◎大教緣起第三

938 稽首 四九二  
939 至真 四九三  
940 《勝鬘寶窟》 四九三  
941 空王佛 四九四  
942 《蓮華生大士應化因緣經》  
四九四  
943 行德 四九五  
944 寶刹 四九五  
945 《法華文句記》 四九五  
946 刹 四九六  
947 佛土 四九六  
948 佛國 四九七  
949 袈裟 四九七  
950 偏袒右肩 四九八  
951 長跪 四九九  
952 大寂定 四九九  
953 《法華提婆品》 五〇〇  
954 龍女成佛 五〇〇  
955 《十住斷結經》 五〇二  
956 《華首經》 五〇二  
957 《佛報恩經》 五〇二  
958 倫匹 五〇二  
959 光瑞 五〇二  
960 善哉 五〇三  
961 四大洲 五〇三  
962 蜎飛蠕動 五〇四  
963 劫 五〇四  
964 矜哀 五〇四  
965 三界 五〇五  
966 正道 五〇五  
967 《六要》 五〇六  
968 真實五願 五〇六  
969 教行信證 五〇六

895 十界 四七四  
896 偏真 四七四  
897 真實際 四七五  
898 權方便 四七五  
899 一實 四七五  
900 布袋和尚 四七五  
901 二死 四七六  
902 二空 四七七  
903 智斷二德 四七八  
904 世間 (一) 四七八  
905 臧否 四七九  
906 有為 四七九  
907 無為 四八〇  
908 無住處涅槃 四八一  
909 棲神 四八一  
910 《法華經序品》 四八一  
911 宗門 四八一  
912 隨逐 四八二  
913 肇公 四八二  
914 法藏 (一) 四八二  
915 如來藏性 四八三  
916 如來藏 四八三  
917 《華手經》 四八四  
918 《寶雲經》 四八五  
919 《大論》 四八五  
920 同體大悲 四八五  
921 無緣大慈 四八六  
922 愛見之悲 四八六  
923 《大日經》 四八六  
924 五眼 四八七  
925 《大法炬陀羅尼經》 四八八  
926 無餘涅槃 四八八  
927 福智二嚴 四八九  
928 果位 四八九  
929 權智 四八九  
930 實智 四九〇  
931 小劫 四九〇  
932 食頃 四九一  
933 比丘尼 四九一

- 1007 《華嚴大疏》 五二三  
 1008 《讚阿彌陀佛偈》 五二四  
 1009 義寂 五二四  
 1010 聖智 五二四  
 1011 沙門 五二五  
 1012 外道 五二六  
 1013 逸群 五二六  
 1014 登地 五二六  
 1015 大通智勝 五二七  
 1016 五力 五二七  
 1017 五根 五二九  
 1018 沮壞 五二九  
 1019 靈峰大師 五二九  
 1020 通惑 五二九  
 1021 別惑 五三〇  
 1022 教理行果四法 五三〇  
 1023 《慈恩上生經疏》 五三一  
 1024 伽他 五三一  
 1025 偈頌 五三二  
 1026 報土 五三二  
 1027 摩尼 五三二  
 1028 如意寶珠 五三三  
 1029 六趣 五三四  
 1030 四生 五三五  
 1031 語密 五三六  
 1032 身密 五三六  
 1033 自性身 五三六  
 1034 密教所立四身 五三七  
 1035 三資糧 五三七  
 1036 省庵 五三七  
 1037 檀施 五三九  
 1038 五度 五三九  
 1039 《心經》 五三九  
 1040 五蘊 五四〇  
 1041 究竟覺 五四二  
 1042 《三藏法數》 五四三  
 1043 三毒 五四三  
 1044 火宅 五四三  
 1045 沙磧 五四三  
 970 權大乘 五〇六  
 971 實大乘 五〇七  
 972 優曇花 五〇七  
 973 《般涅槃經》 五〇七  
 974 《文殊現寶藏經》 五〇八  
 975 《出曜經》 五〇八  
 976 本地身 五〇八  
 977 《最勝王經壽量品》 五〇八  
 978 三無漏學 五〇九  
 979 遊戲神通 五〇九  
 980 嚴飾 五一〇  
 981 淨土三經 五一〇
- ◎法藏因地第四  
 982 無央數劫 五一〇  
 983 常樂我淨 五一〇  
 984 《瓔珞經》 五一二  
 985 《涅槃梵行品》 五一二  
 986 報身 五一二  
 987 應身 五一二  
 988 《轉法輪論》 五一三  
 989 《天臺壽量品疏》 五一三  
 990 如如境 五一三  
 991 因行 五一三  
 992 《維摩經肇註》 五一三  
 993 明行足 五一四  
 994 信解行證 五一四  
 995 善逝 五一六  
 996 三摩提 五一七  
 997 大般涅槃 五一七  
 998 劫盡火 五一八  
 999 世間解 五一八  
 1000 無上士 五一八  
 1001 調御丈夫 五一九  
 1002 丈夫 五一九  
 1003 天人師 五二〇  
 1004 佛 五二一  
 1005 《成實論十號品》 五二二  
 1006 涅槃城 五二二

- 1081 空性 五六〇  
1082 緣修 五六一  
1083 自受用或他受用之實報土 五六一  
1084 十法界 五六二  
1085 《教行信證文類》 五六五  
1086 《略箋》 五六五  
1087 遶佛 五六五  
1088 會三歸一 五六六

◎發大誓願第六

- 1089 《行卷》 五六七  
1090 方便藏 五六七  
1091 頂戴 五六八  
1092 闕如 五六八  
1093 諷誦 五六八  
1094 丹誠 五六八  
1095 《攝大乘論音義》 五六八  
1096 由旬 五六八  
1097 八熱地獄 五七〇  
1098 八寒冰獄 五七一  
1099 匏 五七二  
1100 十六遊增地獄 五七二  
1101 塘煨 五七六  
1102 孤獨地獄 五七六  
1103 《輔宏記》 五七七  
1104 餓鬼 五七七  
1105 《新婆沙論》 五七七  
1106 平等王 五七八  
1107 五趣 五七八  
1108 《三啟經》 五七八  
1109 《長阿含經地獄品》 五七九  
1110 閻浮提 五七九  
1111 《法華經方便品》 五八〇  
1112 《淨土論註》 五八〇  
1113 紫磨真金 五八〇  
1114 三十二相 五八〇  
1115 《法界次第》 五八九  
1116 臙 五八九

- 1046 六波羅蜜 五四四  
1047 恆河沙 五四四  
1048 迦羅分 五四五  
1049 優婆尼沙陀分 五四五  
1050 寂照 五四六  
1051 《稱讚淨土經》 五四六

◎至心精進第五

- 1052 長行 五四六  
1053 拳拳服膺 五四七  
1054 善知識 五四七  
1055 教授善知識 五四八  
1056 聖果 五四八  
1057 老婆 五四九  
1058 法華三止說 五四九  
1059 止止不須說 五四九  
1060 密在汝邊 五四九  
1061 宿殖 五五〇  
1062 法報 五五〇  
1063 攀緣 五五〇  
1064 常途 五五〇  
1065 五乘 五五一  
1066 因源 五五二  
1067 攝取 五五二  
1068 《華嚴經華藏世界品》 五五二  
1069 佛刹無量，總有二十重 五五二  
1070 玄一 五五七  
1071 唯識 五五七  
1072 見分 五五七  
1073 《法集經》 五五八  
1074 菩薩摩訶薩 五五八  
1075 撮要 五五九  
1076 《菩薩瓔珞經》 五五九  
1077 真諦 五五九  
1078 聖諦 五五九  
1079 勝義諦 五六〇  
1080 不善 五六〇

- 1156 死魔 六一七  
 1157 《群疑論》 六一七  
 1158 三千大千世界 六一八  
 1159 小千世界 六一八  
 1160 中千世界 六一九  
 1161 黑洞 六一九  
 1162 咨嗟 六一九  
 1163 《金光明經文句》 六二〇  
 1164 《華嚴大疏鈔》 六二〇  
 1165 鵠的 六二一  
 1166 《箋註》 六二一  
 1167 《彌勒發問經》 六二一  
 1168 隱密 六二一  
 1169 無間地獄 六二二  
 1170 《阿闍世王問五逆經》  
 六二二  
 1171 《華嚴孔目章》 六二二  
 1172 破和合僧 六二三  
 1173 一大劫 六二四  
 1174 謗法闡提 六二五  
 1175 阿鼻 六二六  
 1176 善導大師《觀經疏》  
 六二六  
 1177 抑止門 六二六  
 1178 悼 六二七  
 1179 《字匯》 六二七  
 1180 二種菩提心 六二八  
 1181 行願菩提心 六二八  
 1182 勝義菩提心 六二九  
 1183 三德（一） 六二九  
 1184 不定性 六三〇  
 1185 菩薩性 六三一  
 1186 《勸發菩提心文》 六三一  
 1187 六度 六三一  
 1188 論主 六三三  
 1189 須臾 六三三  
 1190 識神 六三四  
 1191 四大 六三四  
 1192 阿鞞跋致 六三五  
 1117 常光一丈 五八九  
 1118 偃 五九〇  
 1119 頰車 五九〇  
 1120 紺青 五九〇  
 1121 白毫 五九〇  
 1122 無見頂相 五九一  
 1123 四根本定 五九二  
 1124 未至 五九二  
 1125 中間 五九二  
 1126 八定 五九三  
 1127 四禪 五九六  
 1128 四無色定 五九八  
 1129 增上緣 五九九  
 1130 《事贊》 六〇〇  
 1131 有漏禪 六〇一  
 1132 《要集》 六〇一  
 1133 四靜慮 六〇一  
 1134 如意通 六〇一  
 1135 六根互用 六〇二  
 1136 福增 六〇二  
 1137 本緣 六〇五  
 1138 作意 六〇五  
 1139 報謝 六〇五  
 1140 《滄記》 六〇六  
 1141 願成就文 六〇六  
 1142 乾闥緊那 六〇七  
 1143 琉璃之琴 六〇八  
 1144 六塵 六〇九  
 1145 《翻譯名義集》 六一〇  
 1146 《玄應音義》 六一〇  
 1147 無分別智 六一一  
 1148 心、心所法 六一一  
 1149 《資持記》 六一四  
 1150 《往生要集》 六一四  
 1151 《仁王經合疏》 六一五  
 1152 《理趣釋》 六一五  
 1153 灰身滅智 六一五  
 1154 《禮讚》 六一五  
 1155 山海慧如來 六一六

- 1231 《新譯仁王經》 六五八  
 1232 《良賁疏》 六五八  
 1233 《超日明三昧經》 六五九  
 1234 大慧 六五九  
 1235 《法華經法師品》 六五九  
 1236 鍵椎 六六〇  
 1237 《增一阿含》 六六〇  
 1238 《佛祖統紀》 六六〇  
 1239 種子字 六六二  
 1240 一生補處 六六三  
 1241 一切智 六六四  
 1242 金剛智 (二) 六六五  
 1243 密宗初地 六六六  
 1244 淨菩提心 六六六  
 1245 總持門 六六六  
 1246 密十地 六六六  
 1247 第十一地 六六七  
 1248 《大疏》 (二) 六六七  
 1249 矢石 六六七  
 1250 應法妙服 六六七  
 1251 擣 六六七  
 1252 浣濯 六六八  
 1253 鑊 六六八  
 1254 幢幡 六六八  
 1255 寶蓋 六六八  
 1256 瓔珞 六六八  
 1257 臥具 六六九  
 1258 正 六六九  
 1259 《顯密圓通》 六六九  
 1260 前正覺山 六六九  
 1261 畢鉢羅樹 六七〇  
 1262 《維摩經菩薩行品肇註》  
 六七〇  
 1263 秘密莊嚴心 六七〇  
 1264 第十住心 六七〇  
 1265 寶樹觀 六七三  
 1266 天冠 六七三  
 1267 沈麝 六七三  
 1268 芬馥 六七四  
 1193 薩婆若 六三五  
 1194 發心住 六三五  
 1195 決定業 六三五  
 1196 道宣 六三六  
 1197 《觀念法門》 六三七  
 1198 因地 六三八  
 1199 中陰 六三八  
 1200 慧命 六三九  
 1201 大悲胎藏 六三九  
 1202 加持 六三九  
 1203 大日如來 六四〇  
 1204 婆羅門 六四一  
 1205 《大品》 六四二  
 1206 《尊勝陀羅尼經》 六四二  
 1207 諸趣 六四三  
 1208 惡知識 六四三  
 1209 二種譏嫌 六四四  
 1210 舍利 (一) 六四四  
 1211 迦陵頻伽 六四四  
 1212 共命之鳥 六四五  
 1213 三聚 六四五  
 1214 十信 六四六  
 1215 十住 六四八  
 1216 起心立德 六五〇  
 1217 《法華經信解品》 六五〇  
 1218 漏 六五〇  
 1219 我執 六五一  
 1220 《大藏法數》 六五一  
 1221 金剛杵 六五二  
 1222 《仁王經念誦儀軌》  
 六五三  
 1223 佉陀羅 六五三  
 1224 執金剛 六五三  
 1225 《行宗記》 六五四  
 1226 毘紐天 六五四  
 1227 迦樓羅鳥 六五五  
 1228 《涅槃經疏》 六五六  
 1229 十九執金剛 六五七  
 1230 那羅延 六五七

- 1308 信位菩薩 六八六  
 1309 輕毛 六八六  
 1310 南本《涅槃》 六八七  
 1311 違緣 六八七  
 1312 庵羅 六八七  
 1313 《十住菩薩斷結經》 六八八  
 1314 《寶雨經》 六八八  
 1315 五百大願 六八八  
 1316 一路 六八八  
 1317 涅槃門 六八九  
 1318 《十住毘婆沙論》 六八九  
 1319 名義不離 六八九
- ◎必成正覺第七
- 1320 雨花 六九〇  
 1321 蜀錦 六九〇  
 1322 《法事贊》 六九一  
 1323 性修二德 六九一  
 1324 六種性 六九一  
 1325 《後出偈經》 六九二  
 1326 《法華勸持品》 六九二  
 1327 法施 六九三  
 1328 財施 六九三  
 1329 生死長夜 六九三  
 1330 究竟樂 六九四  
 1331 寶筏 六九四  
 1332 八聖道 六九四  
 1333 實性 六九四  
 1334 五行 六九四  
 1335 《定善義》 六九五  
 1336 實義 六九五  
 1337 盲冥 六九五  
 1338 集諦 六九五  
 1339 《華嚴離世間品》 六九五  
 1340 十眼 六九六  
 1341 慧眼 六九六  
 1342 佛眼 六九六  
 1343 幻翳 六九七  
 1344 三種光明 六九七
- 1269 鬻香長者 六七四  
 1270 阿那婆達多池 六七四  
 1271 沈水香 六七四  
 1272 戒品 六七四  
 1273 四軍 六七五  
 1274 善法堂 六七五  
 1275 須夜摩 六七五  
 1276 一生所繫菩薩 六七六  
 1277 妙變化天 六七六  
 1278 《維摩經香積佛品》 六七七  
 1279 維摩詰 六七七  
 1280 香積如來 六七七  
 1281 律行 六七八  
 1282 《易繫辭》 六七八  
 1283 繫縛 六七八  
 1284 《芬陀利經》 六七八  
 1285 選擇本願 六七九  
 1286 《菩薩念佛三昧經》 六七九  
 1287 《文殊般若經》 六七九  
 1288 無功用 六七九  
 1289 一行三昧 六八〇  
 1290 見道 六八〇  
 1291 正性離生 六八〇  
 1292 如來家 六八一  
 1293 果號 六八一  
 1294 五忍 六八一  
 1295 《仁王經私記》 六八二  
 1296 《論註》 六八三  
 1297 平等法身 六八三  
 1298 法性生身 六八三  
 1299 《楞嚴經長水疏》 六八四  
 1300 加行 六八四  
 1301 阿耨菩提 六八四  
 1302 《十住論》 六八五  
 1303 海德 六八五  
 1304 《涅槃疏》 六八五  
 1305 常住二字 六八五  
 1306 《無量壽經鈔》 六八五  
 1307 不退轉 六八六

- 1380 《法華遊意》 七一〇  
1381 根缺 七一〇  
1382 浸 七一〇  
1383 壞劫 七一〇  
1384 三災 七一〇  
1385 《華嚴演義鈔》 七一二  
1386 凝然常 七一二  
1387 《釋大衍論》 七一二  
1388 本有 七一三  
1389 《大乘密嚴經》 七一三  
1390 密嚴淨土 七一三  
1391 《密嚴經疏》 七一四  
1392 他受用土 七一四  
1393 法性土 七一五  
1394 如來藏心 七一五  
1395 微塵 七一五  
1396 一合相 七一五  
1397 電子 七一六  
1398 微中子 七一七  
1399 行業 七一七  
1400 《郁迦羅越問經》 七一一  
1401 《二諦義》 七一一  
1402 四相 七一八  
1403 二苦 七一八  
1404 四苦 七一九  
1405 八苦 七一九  
1406 《遺教經》 七二〇  
1407 《法華經勸發品》 七二一  
1408 《般若經》 七二一  
1409 現量 七二一  
1410 體露 七二一  
1411 真常 七二二  
1412 寂滅為樂 七二二  
1413 眾生界盡 七二二  
1414 法住 七二三  
1415 和尚 七二三  
1416 毀訾 七二四  
1417 旃陀羅 七二四  
1418 愧赧 七二五  
1345 《千手陀羅尼經》 六九七  
1346 光明藏 六九七  
1347 修羅 六九七  
1348 《四教義》 六九七  
1349 正四句法 六九八  
1350 《法華經寶塔品》 六九八  
1351 八萬四千法藏 六九八  
1352 八萬煩惱 六九九  
1353 八萬法蘊 七〇〇  
1354 印契 七〇〇  
1355 摩尼珠 七〇〇  
1356 《觀佛三昧經觀佛密行  
品》 七〇〇  
1357 寶印 七〇〇  
1358 嚙 七〇〇  
1359 蓊鬱 七〇一  
1360 《宗鏡錄》九十五卷中有  
註釋 七〇一  
1361 師子吼 七〇二  
1362 《維摩經佛國品》 七〇二  
1363 器世間清淨 七〇二  
1364 眾生世間清淨 七〇二  
1365 一千七百公案 七〇三  
1366 大圓勝慧 七〇三  
1367 大圓滿 七〇三  
1368 末後句 七〇四  
1369 情世間 七〇五  
1370 《大品般若經》 七〇五  
1371 師子座 七〇五  
1372 師子遊戲三昧 七〇六  
1373 六動 七〇六
- ◎積功累德第八  
1374 觀達 七〇七  
1375 自性清淨心 七〇七  
1376 《大乘止觀》 七〇八  
1377 一如 七〇八  
1378 如如 七〇八  
1379 伊字三點 七〇九

- 1458 白檀 七四四  
 1459 熱病 七四四  
 1460 風腫 七四五  
 1461 優鉢羅 七四五  
 1462 《觀佛經》 七四六  
 1463 戒香 七四六  
 1464 《戒香經》 七四六  
 1465 沈檀 七四六  
 1466 龍麝 七四六  
 1467 丈六 七四六  
 1468 八十隨形好 七四七  
 1469 隨形好 七四九  
 1470 寶手 七五〇  
 1471 妙臂 七五〇  
 1472 五河 七五〇  
 1473 繒蓋 七五一
- ◎圓滿成就第九
- 1474 金剛王寶劍 七五二  
 1475 南泉 七五二  
 1476 《法華論疏》 七五三  
 1477 《法華經普賢勸發品》  
 七五三  
 1478 毘首羯磨 七五三  
 1479 折伏為威，攝受為德  
 七五四  
 1480 廣大會 七五四  
 1481 密嚴世界 七五五  
 1482 《密嚴法藏疏》 七五五  
 1483 蓮華藏世界 七五五  
 1484 《金剛頂經》 七五五  
 1485 《金剛破空論》 七五六  
 1486 《首楞嚴觀音圓通章》  
 七五六  
 1487 《信心銘》 七五六  
 1488 法報化三身 七五七  
 1489 瀑 七五七  
 1490 太清 七五七  
 1491 淨妙 七五七
- 1419 蹴踏 七二五  
 1420 獅子吼 七二五  
 1421 《勝天王般若經》 七二五  
 1422 嚙蹙 七二六  
 1423 四攝法 七二六  
 1424 三寶 七二七  
 1425 住持三寶 七二八  
 1426 文句 七二九  
 1427 染衣 七二九  
 1428 《寶性論》 七二九  
 1429 上師 七三〇  
 1430 諂曲 七三〇  
 1431 質直 七三一  
 1432 《游心法界記》 七三一  
 1433 三諦 七三二  
 1434 三觀 七三三  
 1435 《行事鈔資持記》 七三五  
 1436 律儀戒 七三五  
 1437 三聚淨戒 七三五  
 1438 三聚戒 七三五  
 1439 五戒 七三六  
 1440 八戒 七三七  
 1441 十戒 七三七  
 1442 具足戒 七三八  
 1443 《瓔珞本業經》 七三九  
 1444 《五燈會元》 七三九  
 1445 戒德 七三九  
 1446 《普超三昧經》 七三九  
 1447 侈談 七三九  
 1448 《涅槃無名論》 七四〇  
 1449 敦（一） 七四一  
 1450 恬 七四一  
 1451 年耆 七四一  
 1452 四姓 七四一  
 1453 金輪王 七四二  
 1454 欲界六天 七四二  
 1455 化樂 七四三  
 1456 大梵天王 七四三  
 1457 《慧苑音義》 七四四

◎國界嚴淨第十一

- 1526 碎身舍利 七七九  
 1527 十七種莊嚴 七七九  
 1528 尺蠖 七八一  
 1529 胎獄 七八二  
 1530 五陰 七八二  
 1531 八難 七八二  
 1532 無想天 七八四  
 1533 北鬱單越 七八四  
 1534 喑啞 七八四  
 1535 黠慧 七八四  
 1536 正定聚 七八五  
 1537 普光功德山王佛 七八五  
 1538 《義林章》 七八五  
 1539 《慧琳音義》 七八五  
 1540 他化自在天 七八六  
 1541 波旬 七八七  
 1542 留難 七八八  
 1543 四魔 七八八  
 1544 《淨土修證儀》 七八九  
 1545 十乘之理觀 七八九  
 1546 九境之魔事 七九六  
 1547 法本 八〇〇  
 1548 法海 八〇〇  
 1549 須彌 八〇〇  
 1550 四寶 八〇一  
 1551 九山八海 八〇一  
 1552 南瞻部洲 八〇四  
 1553 七寶 八〇四  
 1554 琉璃 八〇六  
 1555 琥珀 八〇六  
 1556 瑪瑙 八〇六  
 1557 玻璃 八〇七  
 1558 磲磔 八〇七  
 1559 赤珠 八〇七  
 1560 頗黎 八〇八  
 1561 珊瑚 八〇八  
 1562 耦 八〇八  
 1563 忉利天 八〇八

- 1492 五塵 七五八  
 1493 四住惑 七五八  
 1494 四聖六凡 七五八  
 1495 應迹 七五九  
 1496 《像法決疑經》 七五九  
 1497 勝應 七六一  
 1498 劣應 七六三  
 1499 智覺 七六三  
 1500 總持教 七六三  
 1501 三十七佛 七六三  
 1502 五智 (一) 七六五  
 1503 法界清淨智 七六七  
 1504 妙觀察智 七六七  
 1505 《阿彌陀秘釋》 七六七  
 1506 法界宮 七六八  
 1507 甘露王 七六八  
 1508 空諦 七六八  
 1509 假諦 七六九  
 1510 中諦 七六九  
 1511 本初不生 七六九  
 1512 佛部 七七〇  
 1513 蓮華部 七七〇  
 1514 金剛部 七七一  
 1515 人法二我 七七一  
 1516 生法 七七一  
 1517 《法華經化城喻品》 七七二  
 1518 靈芝《彌陀經義疏》  
           七七三  
 1519 胎藏界 七七三  
 1520 金剛界 七七五

◎皆願作佛第十

- 1521 阿闍王子 七七七  
 1522 法界身 七七八  
 1523 弘法大師 七七八  
 1524 法性身 七七八  
 1525 善財童子採藥 七七八

## ◎寶樹遍國第十四

- 1597 無漏 八二四  
1598 五音聲 八二四  
1599 變宮 八二五  
1600 變徵 八二五

## ◎菩提道場第十五

- 1601 道場 八二五  
1602 菩提樹 八二六  
1603 廣狹自在之玄門 八二六  
1604 鸞 八二六  
1605 小煩惱地法 八二七  
1606 大煩惱地法 八二七  
1607 二十隨煩惱 八二七  
1608 根本煩惱 八二九  
1609 隨煩惱 八三〇  
1610 三種忍 八三〇  
1611 言詮 八三一  
1612 淳 八三一  
1613 《賢劫經》 八三一  
1614 《華嚴十忍品》 八三一  
1615 《如來興顯經》 八三一  
1616 十忍 八三二  
1617 大寶海 八三三

## ◎堂舍樓觀第十六

- 1618 《新譯華嚴經音義》 八三三  
1619 明月珠 八三四  
1620 經行 八三四  
1621 經 八三五  
1622 綃 八三五  
1623 禪那 八三五  
1624 瀑流 八三六  
1625 欲界九品思惑 八三七  
1626 小本《慈恩疏》 八三七

## ◎泉池功德第十七

- 1627 八功德水 八三八  
1628 瓜蔓 八三九

- 1564 夜摩 八〇九  
1565 地居天 八一〇  
1566 空居天 八一〇  
1567 色界諸天 八一〇  
1568 無色界諸天 八一二  
1569 《俱舍光記》 八一二  
1570 《有部毘奈耶》 八一二  
1571 果報 八一三  
1572 遮抑 八一四  
1573 臨濟 八一四  
1574 六道神光 八一六  
1575 五種力 八一六

## ◎光明遍照第十二

- 1576 內證 八一七  
1577 《九品往生阿彌陀三摩地  
集陀羅尼經》 八一八  
1578 有量諸相 八一八  
1579 真實明 八一八  
1580 光輪 八一九  
1581 光雲 八一九  
1582 道光 八一九  
1583 密號 八一九  
1584 感 八一九  
1585 遐 八二〇  
1586 二曜 八二〇  
1587 《鼓音聲王陀羅尼經》  
八二〇  
1588 道品 八二〇  
1589 慚愧 八二〇  
1590 信伏 八二一  
1591 三途 八二一  
1592 《般舟讚》 八二一  
1593 追善 八二二

## ◎壽眾無量第十三

- 1594 陶家輪 八二三  
1595 淨華眾 八二三  
1596 正覺華 八二三

- 1661 五法 八五四  
1662 名句 八五五  
1663 愛染 八五五  
1664 滅盡定 八五六  
1665 六識 八五七  
1666 不還果 八五八  
1667 兜羅縣 八五八  
1668 白疊 八五九  
1669 曼陀羅華 八五九  
1670 六時 八六〇  
1671 後夜 八六〇  
1672 《沙彌十戒儀則經》 八六〇  
1673 慈恩 八六〇  
1674 《彌陀通贊》 八六二  
1675 曙 八六二

◎寶蓮佛光第二十一

- 1676 安立 八六二

◎決證極果第二十二

- 1677 極果 八六三  
1678 精光 八六三  
1679 五無間業 八六三  
1680 《釋摩訶衍論》 八六三  
1681 三賢 八六三  
1682 十聖 八六四  
1683 大覺 八六四  
1684 涅槃界 八六五

◎十方佛讚第二十三

- 1685 廣長舌相 八六五  
1686 《阿彌陀經略解》 八六六  
1687 四過 八六六  
1688 梵世 八六六  
1689 敦(二) 八六六  
1690 佛願生起本末 八六六  
1691 高齊 八六七  
1692 教詔 八六七  
1693 現生十種益 八六七

- 1629 阿耨達池 八三九  
1630 大行 八三九  
1631 《止觀輔行》 八四〇  
1632 清涼 八四一  
1633 十力 八四一  
1634 無所畏 八四三  
1635 三種無性 八四四  
1636 遍計所執性 八四五  
1637 依他起性 八四六  
1638 圓成實性 八四六  
1639 《原人論》 八四六  
1640 《十地經論》 八四七  
1641 無我智 八四七  
1642 四無量心 八四八  
1643 《光明文句》 八四九  
1644 《法華科註》 八四九  
1645 《華嚴論》 八四九

◎超世希有第十八

- 1646 天人不動眾 八五〇

◎受用具足第十九

- 1647 鉢多羅 八五〇  
1648 歡喜丸 八五一  
1649 日月燈明佛 八五一

◎德風華雨第二十

- 1650 八種清風 八五二  
1651 《莊子齊物論》 八五二  
1652 人籟 八五二  
1653 比竹 八五二  
1654 地籟 八五二  
1655 眾竅 八五二  
1656 天籟 八五三  
1657 非常、苦、空、非我  
八五三  
1658 我所見 八五三  
1659 我見 八五三  
1660 四句 八五四

- 1729 迴 九〇二  
 1730 運度 九〇二  
 1731 析 九〇三  
 1732 《心王銘》 九〇三  
 1733 膠清 九〇四  
 1734 心王 九〇四  
 1735 《心燈錄》 九〇四  
 1736 《諸法無行經》 九〇四  
 1737 法執 九〇四  
 1738 參究 九〇五  
 1739 伊蘭 九〇五  
 1740 牛頭栴檀 九〇五  
 1741 三障 九〇六  
 1742 《大悲經》 九〇六  
 1743 《稱揚諸佛功德經》 九〇七  
 1744 禮拜、作願、迴向等念門 九〇七  
 1745 往生 九〇七  
 1746 大悲 (二) 九〇八  
 1747 準提 九一〇  
 1748 百為 九一一  
 1749 《梵室偶談》 九一一  
 1750 《法華》、《大悲》、《光明》、《彌陀》、《楞嚴》等懺 九一一  
 1751 六念 九一五  
 1752 《胎經》 九一七  
 1753 庵羅樹女 九一七  
 1754 智慧箭 九一八  
 1755 智慧劍 九一八  
 1756 嘉祥《義疏》 九一八  
 1757 百法明門 九一九  
 1758 授手 九一九  
 1759 第一義 九二〇  
 1760 合掌叉手 九二〇  
 1761 法子 九二一  
 1762 心宗 九二一  
 1763 悉檀 九二一  
 1764 世智辯聰 九二二
- 1694 《成唯識論》 八六九  
 1695 樂欲 八六九  
 1696 染法 八七〇  
 1697 禪宗三祖 八七〇  
 1698 迴向 八七〇  
 1699 他力迴向 八七一  
 1700 不迴向 八七一  
 1701 想顛倒、見顛倒、心顛倒 八七二
- ◎三輩往生第二十四
- 1702 宿根 八七二  
 1703 明鑒 八七二  
 1704 《略論》 八七二  
 1705 《無量壽觀經》 八七三  
 1706 嘉祥《觀經疏》 八七三  
 1707 天臺《觀經疏》 八七三  
 1708 孤山 八七四  
 1709 會通 八七五  
 1710 草庵 八七五  
 1711 《輔正解》 八七六  
 1712 玄暉師 八七六  
 1713 愛渴 八七七  
 1714 沙彌戒 八七七  
 1715 韋提希夫人 八七八  
 1716 劉遺民 八八〇  
 1717 緇素 八八一  
 1718 廬山遠公 八八一  
 1719 佛陀耶舍 八八二  
 1720 慧持 八八三  
 1721 慧永 八八四  
 1722 善財參五十三善知識 八八五  
 1723 噶居派 八九八  
 1724 金粟如來 八九九  
 1725 諸有 九〇〇  
 1726 菩提有三種 九〇〇  
 1727 天真 九〇一  
 1728 五祖 九〇一

- 1801 《那先經》 九三八  
 1802 達摩 九三八  
 1803 幸西 九三九  
 1804 繇 九四〇  
 1805 懺摩 九四〇  
 1806 《無量壽經宗要》 九四〇  
 1807 《念佛三昧寶王論》 九四〇  
 1808 一形 九四一  
 1809 《遺日摩尼寶經》 九四一  
 1810 滅除藥鼓 九四二  
 1811 有間 九四二  
 1812 刀風 九四二  
 1813 臘印 九四三  
 1814 印壞文成 九四三  
 1815 誑語 九四三  
 1816 佛智 九四四  
 1817 自然智 九四四  
 1818 無師智 九四五  
 1819 如來知見 九四五  
 1820 《中阿含經》 九四五  
 1821 慈雲懺主 九四五  
 1822 《法鼓經》 九四六

◎往生正因第二十五

- 1823 十善業 九四六  
 1824 三歸 九四六  
 1825 威儀 九四七  
 1826 大乘方等經典 九四八  
 1827 《觀經約論》 九四八  
 1828 津濟 九四八  
 1829 十善 九四九  
 1830 搆 九五〇  
 1831 不淨觀 九五〇  
 1832 《十善戒經》 九五一  
 1833 五念門 九五一  
 1834 志心 九五二  
 1835 歸命 九五三  
 1836 《輔行》 九五三  
 1837 貪饕 九五三

- 1765 通儒 九二二  
 1766 禪客 九二二  
 1767 薜 九二三  
 1768 穉 九二三  
 1769 齋戒 九二三  
 1770 《四分律音義》 九二三  
 1771 《南山業疏》 九二三  
 1772 八齋戒 九二四  
 1773 抱渴而死，弗飲水蟲  
         九二六  
 1774 被繫而終，無傷草葉  
         九二七  
 1775 窳堵波 九二八  
 1776 安塔有其三義 九二八  
 1777 舍利（二） 九二九  
 1778 沉水 九二九  
 1779 木檣 九二九  
 1780 優填王 九三〇  
 1781 《造像功德經》 九三〇  
 1782 糞 九三〇  
 1783 《六波羅蜜多經》 九三〇  
 1784 以食施者，當施五事  
         九三一  
 1785 審訥 九三二  
 1786 《百緣經》 九三二  
 1787 《施燈功德經》 九三二  
 1788 《陀羅尼集經》 九三二  
 1789 中國 九三二  
 1790 邊地 九三三  
 1791 天樹王 九三三  
 1792 慈照宗主 九三四  
 1793 《覺經》 九三五  
 1794 《鼓音王經》 九三五  
 1795 如來有十種佛事 九三五  
 1796 掃蕩 九三六  
 1797 大圓鏡智 九三六  
 1798 破參 九三七  
 1799 中峰 九三八  
 1800 鞫 九三八

## ◎願力宏深第二十九

1870 一法 九七一

## ◎菩薩修持第三十

1871 《二教論》 九七一

1872 《僧史略》 九七一

1873 舍利弗瞋恚餘習 九七二

1874 難陀淫欲餘習 九七三

1875 畢陵伽婆蹉慢餘習 九七五

1876 七覺分 九七六

1877 簡擇 九七七

1878 粗重 九七七

1879 法喜 九七八

1880 諸見 九七八

1881 念著 九七九

1882 兩楹 九七九

1883 八正道 九七九

1884 《雜集》 九八〇

1885 無漏智 九八〇

1886 五種邪命 九八一

1887 不思議解脫門 九八一

1888 文證 九八二

1889 卅七道品 九八二

1890 《淨名》 九八五

1891 觀智 九八五

1892 真空 九八五

1893 天住 九八五

1894 欲性 九八五

1895 一異 九八六

1896 了了見 九八六

1897 了因佛性 九八六

1898 導源 九八八

1899 《金剛三昧經》 九八八

1900 理入、行入 九八八

1901 行入則有四者 九八八

1902 無所求行 九九〇

1903 違怨 九九〇

1904 無礙智 九九〇

1905 《維摩經弟子品》 九九〇

## ◎禮供聽法第二十六

1838 通力 九五四

1839 取著 九五四

1840 勝義空 九五五

1841 二種供養 九五五

1842 清辯 九五六

1843 赤銅 九五六

1844 《望西疏》 九五六

1845 駭動 九五六

1846 法雷 九五六

1847 法無礙智 九五六

1848 八音 九五六

1849 《梵摩喻經》 九五八

1850 入律 九五八

1851 九十五種外道 九五八

1852 絕澗 九五八

1853 園觀 九五八

1854 裴休 九五八

1855 《法華玄義》 九五九

1856 二智 九五九

1857 三空 九六〇

1858 二十九種莊嚴 九六〇

1859 妙心 九六二

1860 顯加 九六三

1861 冥應 九六三

## ◎歌嘆佛德第二十七

1862 如來三種圓德 九六四

1863 四果 九六五

1864 有餘涅槃 九六六

## ◎大士神光第二十八

1865 簡 九六八

1866 法藏 (二) 九六八

1867 如幻聞熏聞修金剛三昧  
九六九

1868 聞思修 九六九

1869 《法華經普門品》 九七〇

1941 三福田 一〇一三  
1942 《法華經授記品》 一〇一三

◎壽樂無極第三十二

1943 後漢《左雄傳》 一〇一三  
1944 客塵 一〇一四  
1945 聖言量 一〇一四  
1946 靈光 一〇一四  
1947 三業 一〇一四  
1948 百丈 一〇一五  
1949 《寶鏡三昧》 一〇一五  
1950 主中主 一〇一六  
1951 無心三昧 一〇一六  
1952 高峰 一〇一六  
1953 關捩子 一〇一七  
1954 狂人迷失本頭 一〇一七  
1955 曹山 一〇一八  
1956 湛愚老人 一〇一八  
1957 橛柄 一〇一九  
1958 《起世因本經》 一〇一九  
1959 修惑 一〇一九  
1960 眇 一〇一九  
1961 蓋纏 一〇一九

◎勸諭策進第三十三

1962 安下 一〇二一  
1963 抵 一〇二一  
1964 炎炎 一〇二一  
1965 饒足 一〇二一  
1966 陽炎 一〇二一  
1967 翳 一〇二四  
1968 和敬 一〇二四  
1969 鬻蹙 一〇二六  
1970 琉璃王為報宿怨，欲盡  
殺釋種 一〇二七  
1971 滓 一〇二八  
1972 矇 一〇二八  
1973 迭相 一〇二八  
1974 窈冥 一〇二九

1906 正使 九九〇  
1907 果縛 九九一  
1908 生死輪 九九一  
1909 《仁王良賁疏》 九九一  
1910 《維摩慧遠疏》 九九一  
1911 方便智 九九二  
1912 權化 九九二  
1913 胎藏鬘荼羅 九九二  
1914 八葉 九九五  
1915 開敷 九九五  
1916 心蓮 九九五  
1917 從門入者，不是家珍  
九九五

◎真實功德第三十一

1918 《罪福報應經》 九九六  
1919 《阿惟越致遮經》 九九六  
1920 《諸部要目》 九九六  
1921 斷常 九九六  
1922 十六菩薩 九九七  
1923 十六空 九九八  
1924 五佛 一〇〇〇  
1925 十波羅蜜 一〇〇一  
1926 十種煩惱 一〇〇六  
1927 十種真如 一〇〇六  
1928 十地 一〇〇七  
1929 金剛般若 一〇〇九  
1930 《天臺淨名疏》 一〇〇九  
1931 《圓覺經集註》 一〇一〇  
1932 《大莊嚴法門經》 一〇一〇  
1933 《百論》 一〇一〇  
1934 《梵網經》 一〇一〇  
1935 勝幢 一〇一二  
1936 杲 一〇一二  
1937 三慧 一〇一二  
1938 惛怖 一〇一二  
1939 親因 一〇一二  
1940 《優婆塞戒經》 一〇一三

- 2009 《藥師經》 一〇四二  
 2010 《五戒經》 一〇四二  
 2011 三覆八校 一〇四三  
 2012 八日 一〇四四  
 2013 六齋日 一〇四五  
 2014 種子識 一〇四六  
 2015 共業 一〇四七  
 2016 別業 一〇四七  
 2017 勅 一〇四八  
 2018 場 一〇四八  
 2019 《沙彌律》 一〇四八  
 2020 《瑜伽論》 一〇四八  
 2021 《訶欲經》 一〇四九  
 2022 應法 一〇四九  
 2023 《四分律》 一〇四九  
 2024 遺扇 一〇五〇  
 2025 南山 (二) 一〇五〇  
 2026 行基 一〇五〇  
 2027 非人 一〇五〇  
 2028 大妄語 一〇五一  
 2029 簡牘 一〇五二  
 2030 《顯揚大戒論》 一〇五二  
 2031 《法華疏記》 一〇五二  
 2032 器界 一〇五二  
 2033 三德 (二) 一〇五二  
 2034 廣額屠兒 一〇五二  
 2035 鳥窠禪師 一〇五三  
 2036 何啻 一〇五四  
 2037 妙宗鈔 一〇五四

## ◎重重誨勉第三十六

- 2038 業病 一〇五五  
 2039 斷割 一〇五六  
 2040 心悸 一〇五六  
 2041 耳根圓通 一〇五六  
 2042 五欲 (二) 一〇五七  
 2043 五箭 一〇五八

## ◎如貧得寶第三十七

- 1975 心師 一〇二九  
 1976 師心自用 一〇二九

## ◎心得開明第三十四

- 1977 《韻會》 一〇二九  
 1978 《俱舍界品頌疏》 一〇二九  
 1979 誠勗 一〇三〇  
 1980 要津 一〇三〇  
 1981 從文字般若而起觀照，  
     入於實相 一〇三〇  
 1982 三門 一〇三二  
 1983 善見藥 一〇三二  
 1984 《觀佛三昧海經》 一〇三三  
 1985 三十六物 一〇三三  
 1986 惡露 一〇三三  
 1987 五種不淨 一〇三四  
 1988 《十疑論》 一〇三五  
 1989 七種不淨 一〇三六  
 1990 一期 一〇三七  
 1991 藁 一〇三七  
 1992 懈怠國 一〇三七  
 1993 惡作 一〇三八

## ◎濁世惡苦第三十五

- 1994 太賢 一〇三八  
 1995 《經音義》 一〇三八  
 1996 易 一〇三八  
 1997 杻械 一〇三八  
 1998 阿賴耶 一〇三九  
 1999 八大地獄 一〇四〇  
 2000 蜉蝣 一〇四〇  
 2001 《等不等觀雜錄》 一〇四〇  
 2002 賄 一〇四〇  
 2003 巧佞 一〇四〇  
 2004 巧言令色 一〇四〇  
 2005 明哲 一〇四一  
 2006 命根 一〇四一  
 2007 《晉譯華嚴經》 一〇四一  
 2008 俱生神 一〇四一

◎邊地疑城第四十

- 2077 《守護國界主經》 一〇七一  
2078 《菩薩處胎經》 一〇七一  
2079 四智 一〇七二  
2080 本識 一〇七三  
2081 比量 一〇七三  
2082 六信 一〇七四  
2083 無我我所 一〇七五  
2084 袁中郎宏道居士 一〇七五  
2085 《西方合論》 一〇七七

◎惑盡見佛第四十一

- 2086 粗苦 一〇七七  
2087 婆伽梵 一〇七八  
2088 《千手經》 一〇七九  
2089 後有 一〇七九  
2090 須菩提 一〇七九  
2091 《破空論》 一〇八〇  
2092 十相 一〇八〇  
2093 《演密鈔》 一〇八〇

◎菩薩往生第四十二

- 2094 婆藪槃頭 一〇八一  
2095 此難 一〇八一  
2096 火車 一〇八一  
2097 法照 一〇八二  
2098 正遍知海 一〇八四  
2099 慧日 (二) 一〇八五  
2100 健馱羅國 一〇八六  
2101 《無量壽論》 一〇八六  
2102 天如 一〇八七  
2103 楚石 一〇八七  
2104 初善，中善，後善  
一〇八九

◎非是小乘第四十三

- 2105 《選擇集》 一〇八九  
2106 親因緣 一〇九〇  
2107 等無間緣 一〇九一

- 2044 文殊師利授記會 一〇五八  
2045 《善生經》 一〇五八  
2046 五滓 一〇五八  
2047 半字教、滿字教 一〇五九  
2048 丘 一〇六〇  
2049 風雹 一〇六〇  
2050 厲 一〇六〇  
2051 陸沉 一〇六〇  
2052 優武修文 一〇六〇  
2053 厚往薄來 一〇六〇  
2054 五善 一〇六一  
2055 正法五百年，像法千歲，  
末法萬歲 一〇六一  
2056 塗毒鼓 一〇六二

◎禮佛現光第三十八

- 2057 烏托邦 一〇六二  
2058 足指按地 一〇六二  
2059 閻浮檀金 一〇六三  
2060 《七佛神咒經》 一〇六四  
2061 水輪 一〇六四  
2062 第二禪天 一〇六四  
2063 潘岳 一〇六五  
2064 湯湯 一〇六五  
2065 藥叉 一〇六五  
2066 人非人 一〇六五  
2067 十山王 一〇六五  
2068 筌篲 一〇六七  
2069 四悉檀 一〇六七  
2070 諸佛現前三昧 一〇六八  
2071 《佛說如幻三摩地無量印  
法門經》 一〇六八  
2072 目眚 一〇六八

◎慈氏述見第三十九

- 2073 淨居有五天 一〇六九  
2074 《俱舍頌》 一〇七〇  
2075 異生 一〇七〇  
2076 五智 (二) 一〇七一

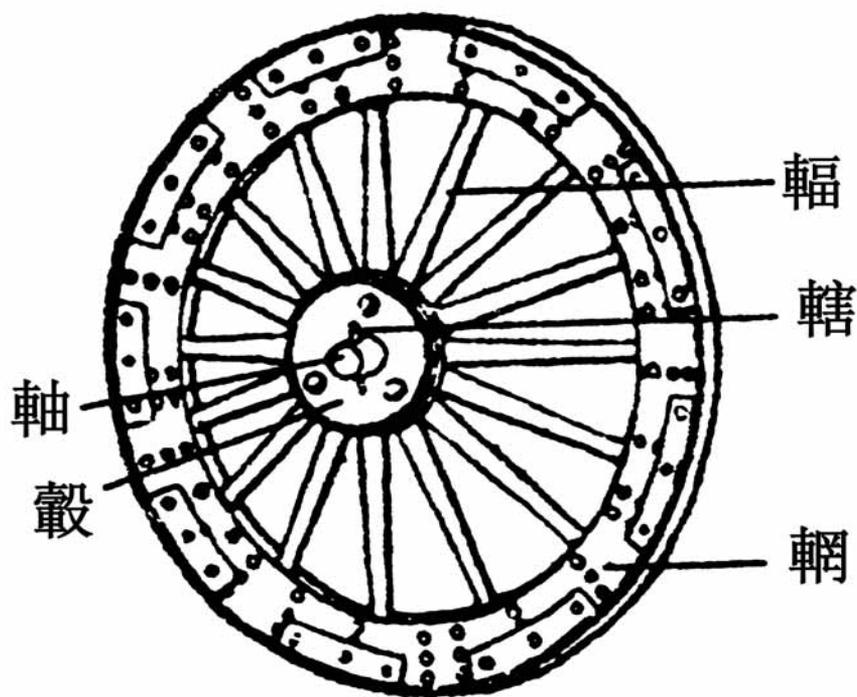
- 2137 信慧 一一〇八  
2138 喜忍、悟忍與信忍  
一一〇九
- ◎聞經獲益第四十八  
2139 法眼淨 一一一〇  
2140 《維摩經嘉祥疏》  
一一一〇  
2141 四真諦 一一一一  
2142 九十八結漏 一一一一  
2143 《觀經妙宗鈔》 一一一二  
2144 四種（授記） 一一一二  
2145 愜 一一一三  
2146 《伽耶山頂經論》 一一一三
- ◎詞條拾遺  
2147 六事明經意 一一一三  
2148 六事成就 一一一四  
2149 玄門無礙十因 一一一五  
2150 緣起十義 一一一七  
2151 太上老君說百病崇百藥  
一一一九  
2152 三種三諦 一一二三  
2153 海印三昧有十義  
一一二三  
2154 三千實相 一一二四  
2155 壞見/壞行 一一二五  
2156 一乘 一一二五  
2157 中品上生是小乘三果  
一一二八  
2158 四諦十六行相 一一二九  
2159 十善因果 一一三〇  
2160 十惡因果 一一三三  
2161 十惡十善之增上果  
一一三九  
2162 十如是 一一四一  
2163 方便 一一四六
- 2108 所緣緣 一〇九二
- ◎受菩提記第四十四  
2109 青龍《仁王經疏》  
一〇九三  
2110 一切智智 一〇九三  
2111 劫火 一〇九四  
2112 成劫 一〇九四  
2113 梵宮 一〇九五
- ◎獨留此經第四十五  
2114 《法住記》 一〇九五  
2115 增劫 一〇九六  
2116 十六大阿羅漢 一〇九六  
2117 賓頭盧 一〇九八  
2118 《圓覺經大疏》 一一〇〇  
2119 《法句經》 一一〇一  
2120 絙 一一〇一  
2121 《法華經妙莊嚴王品》  
一一〇一  
2122 梵行 一一〇二  
2123 覺性 一一〇三  
2124 《稱讚大乘經》 一一〇三  
2125 道眼 一一〇三  
2126 破見 一一〇三  
2127 疑結 一一〇四  
2128 德雲比丘 一一〇四  
2129 二十一喻 一一〇四  
2130 曠劫 一一〇五  
2131 後五百歲 一一〇六
- ◎勤修堅持第四十六  
2132 《大明法數》 一一〇七  
2133 囑累 一一〇七  
2134 機樞 一一〇七  
2135 教觀 一一〇八
- ◎福慧始聞第四十七  
2136 無漏最後身 一一〇八

- 
- |  |   |
|--|---|
| <p>2194 一切妙寶皆彌陀性德所<br/>    本具 一一六五</p> <p>2195 圓明具德 一一六五</p> <p>2196 無生 一一六五</p> <p>2197 依正二報四種莊嚴<br/>    一一六六</p> <p>2198 斷三界之見惑 一一六七</p> <p>2199 四句門 一一七〇</p> <p>2200 世間（二） 一一七〇</p> <p>2201 《觀經》十則 一一七〇</p> <p>2202 極微 一一七二</p> <p>2203 三者不可說法 一一七二</p> <p>2204 出家味 一一七三</p> <p>2205 純情 一一七三</p> <p>2206 吹毛示弟子 一一七五</p> <p>2207 如我按指，海印發光<br/>    一一七五</p> <p>2208 六朝 一一七五</p> <p>2209 昆明池 一一七六</p> <p>2210 當情 一一七六</p> | <p>2164 陀羅尼 一一四六</p> <p>2165 波羅密多種性 一一四七</p> <p>2166 諸波羅蜜 一一四七</p> <p>2167 二邊 一一四九</p> <p>2168 六度 一一四九</p> <p>2169 大慈定 一一五二</p> <p>2170 根本教 一一五二</p> <p>2171 一字 一一五二</p> <p>2172 隨他教 一一五三</p> <p>2173 隨自 一一五三</p> <p>2174 證滅相應 一一五四</p> <p>2175 世間者，名為五陰<br/>    一一五四</p> <p>2176 有常 一一五五</p> <p>2177 無常 一一五五</p> <p>2178 盡不盡 一一五六</p> <p>2179 動不動 一一五六</p> <p>2180 從果向因 一一五七</p> <p>2181 事持/理持 一一五七</p> <p>2182 如來天眼 一一五七</p> <p>2183 小乘菩薩…未斷一毫之<br/>    煩惱 一一五八</p> <p>2184 隔歷之中道 一一五八</p> <p>2185 一心具十法界 一一五八</p> <p>2186 大聲聞 一一五九</p> <p>2187 方便法身 一一六〇</p> <p>2188 五逆 一一六〇</p> <p>2189 聲字皆實相 一一六二</p> <p>2190 大曼陀羅 一一六三</p> <p>2191 三寶 一一六三</p> <p>2192 三善根 一一六四</p> <p>2193 不動 一一六五</p> |
|--|---|
-



## 附錄四、圖表目錄

離四句絕百非表	一〇三頁	(186 【離四句，絕百非】)
經典結集表	二〇二頁	(374 【結集】)
十二因緣與三世因果表	四四五頁	(842 【十二因緣】)
六度表	六三二頁	(1187 【六度】)
六度表解	六三三頁	(1187 【六度】)
天台三觀修證表	七三四頁	(1434 【三觀】)
五方五智五佛表	七七六頁	(1520 【金剛界】)
金剛界四方十六菩薩表	九九八頁	(1922 【十六菩薩】)
四諦十六行相表	一一一九頁	(2158 【四諦十六行相】)
十法界十如是表	一一四四頁	
舊式輪子圖	五四頁 (本頁後)	(777 【轂】 ~ 778 【輻】 ~ 779 【輞】)
化法四教階位對比圖	書後折頁	



舊式輪子圖

## 依原典校正記錄

各辭書羅列援引經論時，偶爾會出現錯字。遇到此種情況，本書會依據所引原經論之正確用字直接加以更正。為避免將來繼續編輯本書者重蹈覆轍，或再校時，因依辭書校對而改回辭書的用字，使辭書的錯字得不到更正而影響讀者的理解，現將依原典校正的記錄整理列出，以作提示。盼此記錄能得到重視留意，避免錯誤的重生。

頁碼	行數	原辭書錯字	本書更正後
一〇	上三	輔行二之一	輔行一之二
一〇	上十四	輔行二之一	輔行一之二
一〇	下二	體非漸教	體非漸成
六八	上十四	隨喜功能	隨喜功德
八〇	下七	佛藏菩薩	德藏菩薩
		菩藏菩薩	寶藏菩薩
	下十一	定自在王菩薩	自在王菩薩
八六	上四	總不明相離念	總不明無相離念
九三	上十一	非遍今也	非適今也
一一八	下八	示涅槃經	示涅槃徑
一二三	下六	意越	意趣

一四三	上四	眾生無始	眾生無頭
一五一	上十一	如相迴向	真如相迴向
一六七	下十	由旬	恒河沙由旬
一七一	下九	不邪婬	不婬
二四八	上九	耆闍崛出	耆闍崛山
二七〇	下十三	無蓋大悲	無盡大悲
三四二	下四	罔攝	罔措
三八〇	下十一	如來設機， 隨教所宜。	如來設教， 隨機所宜。
四〇七	下三	在滅劫	在滅劫
	下十三	勝上中下逆次能 王，領一二三四洲。	勝上中下。逆次能 王領一二三四洲。
四二〇	上五	巳未	己未
四六四	下十二	擊縛心身	繫縛心身
五〇二	上八	三千大世界	三千大千世界
五一七	下八	入義有之	入義有三
五六九	下十二	俱舍論十二 十三肘半	俱舍論十一 三肘半
六〇五	下六	驚覺	警覺
	下八	驚覺	警覺

	下九	驚心	警心
六〇六	下七	不便我今	不但我今
六〇八	上十三	人作人	人非人
六一五	下九	獨一解說	獨一解脫
六二七	上十三	法謗闡提	謗法闡提
六三八	下八	名為無有	名為死有
六四〇	下四	日則別方分	日則有方分
六四一	下二	傳學多聞	博學多聞
六七一	上五	摩伽衍論	摩訶衍論
六七五	下八	起自勝利	起自勝林
六八〇	上二	功周無功用	功用無功用
六八三	下四	法性法身	法性生身
六八九	上三	十萬薄伽梵	十方薄伽梵
六九六	上十一	法眼開出智眼， 自佛眼開出光明眼	法眼開出智眼，慧 眼開出出生死眼， 自佛眼開出光明眼
七三八	上三 上四	離非食時 離非食時	離非時食 離非時食
八四七	上四	譯華嚴	釋華嚴
八六〇	上十二	亦廢勿有	亦勿有廢

九一九	上十二	定慧心、戒心、 迴向心、護法捨 心、願心。	慧心、定心、不退 心、迴向心、護心、 戒心、願心。
九二一	上十	其雄根為寂定	其離根為寂定
九三四	上十四	枝葉實一切皆香	枝華實一切皆香
九七一	上三	門覺開通無滯	門是開通無滯
一〇三七	下七 下九	菩薩處胎經二曰 七寶轉圍床	菩薩處胎經三曰 七寶轉關床
一〇八二	上九	如火旋輪	如旋火輪
一〇九〇	下十	親自辨果	親辦自果
一一〇三	下三	能於末世	能施末世
一一六一	下十三	俱舍論	俱舍論

普為出資及讀誦受持  
輒轉流通者迴向偈曰

願以此功德

消除宿現業

增長諸福慧

圓成勝善根

所有刀兵劫

及與饑饉等

悉皆盡滅除

人各習禮讓

讀誦受持人

展轉流通者

現眷咸安樂

先亡獲超昇

風雨常調順

人民悉康寧

法界諸含識

同證無上道

*This book is for free distribution. It is not for sale.*

# 淨土大經科註參考資料

若發現本書有錯、漏、不足處，

敬請反映至：[amb@amb.tw](mailto:amb@amb.tw)

出版者：香港佛陀教育協會

地址：香港九龍尖沙咀漢口道39-41號

麥仕維中心7樓、9樓。

電話：(852) 2314-7099

傳真：(852) 2314-1929

E-mail：[ambhk1@budaedu.org.hk](mailto:ambhk1@budaedu.org.hk)

[www.amb.tw](http://www.amb.tw)

[www.amb.cn](http://www.amb.cn)

淨空法師 [www.hwadzan.tw](http://www.hwadzan.tw)

影音網址 [www.chinkung.org](http://www.chinkung.org)